

日本医科大学研究業績年報

第 56 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 56

平成 21 (2009) 年度

April 2009—March 2010

まえがき

学長 田 尻 孝

2009年度研究業績年報が出来上がりました。これは研究実績を世に発信するもので、本学の研究機関としての評価はこの内容に懸かっていると言っても過言ではありません。2009年度は総論文数1766編と前年度に比較して多少増加したものの、欧文論文が674編と前年度より100編以上減少し、学会発表も4261件と前年度より400件以上減少しております。前年度の欧文論文数、学会発表数がここ数年の中で突出していたこともあり、また数だけで研究機関の質を評価することはできないともいえますが、少々activityが落ちたことは否めません。次年度の巻き返しを期待いたします。

昨今のわが国の経済停滞と新興国の台頭、また他国との外交問題などにより日本人としての誇りや自信を失いかけている人は少なくないかもしれません。このような中で、今年の日本人のノーベル化学賞受賞はわれわれを元気づけてくれました。資源のないわが国においては国民の頭脳と勤勉さが財産であり、明治維新後の急速な発展や敗戦後の驚異的な復興はこのような高い資質を持った日本人だからこそ成し遂げることが出来たのではないかと思います。今回の快挙でまだまだ日本は世界一を目指せるポジションにいるということを再認識すると同時に、研究機関に身を置く者として、その責務は重大であることを実感いたしました。

残念ながら医育機関にとって現在の環境は必ずしも良好であるとは言えません。事業仕分けは、一部政治家の科学研究に対する認識の欠如の表れであり、数年前に導入された新臨床研修医制度も基礎の研究を志す医師に対しての配慮を欠いています。このように厳しい状況ではありますが、質の高い業績を出すと同時に、研究の素晴らしさを若い医師たちに教え、次代の担い手を育てていくことを本学研究者に期待します。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました鈴木秀典研究委員会委員長ならびに関係各位に謝意を表します。

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文学・社会科学	1
[心理学]	1
[文化人類学]	2
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	3
[化 学]	5
[生物学]	6
3. 外国語	9
[英語・ドイツ語]	9
4. スポーツ科学	11
[スポーツ科学]	11

〔2〕基礎医学

1. 解剖学講座（分子解剖学）	17
2. 解剖学講座（生体構造学）	22
3. 生理学講座（システム生理学）	25
4. 生理学講座（生体統御学）	27
5. 生化学・分子生物学講座（構造生物学・代謝学）	31
6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学・栄養学）	35
7. 薬理学講座	39
8. 病理学講座（解析人体病理学）	42
9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）	47
10. 微生物学・免疫学講座	54
11. 衛生学・公衆衛生学講座	59
12. 法医学講座	65
13. 医療管理学講座	68
14. 基礎医学共同研究利用施設	71
[実験動物管理室]	71
[形態解析共同研究施設]	72
[情報科学センター]	74

〔3〕臨床医学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）	79
[付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科]	79
[付属病院老年内科]	101
[武蔵小杉病院内科（内科，循環器科，神経内科）]	105
[多摩永山病院内科，循環器内科]	108
[千葉北総病院循環器内科]	116

2.	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）	126
	[付属病院神経内科，腎臓内科]	126
	[付属病院リウマチ科]	141
	[千葉北総病院腎臓内科]	142
	[千葉北総病院神経内科]	143
3.	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）	147
	[付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科]	147
	[千葉北総病院血液内科]	165
	[千葉北総病院消化器内科]	168
	[千葉北総病院内分泌内科]	170
4.	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）	171
	[付属病院呼吸器内科]	171
	[千葉北総病院呼吸器内科]	180
5.	精神医学講座	183
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	183
6.	小児科学講座	190
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	190
7.	放射線医学講座	200
	[付属病院放射線科，放射線治療科]	200
	[武蔵小杉病院放射線科]	209
	[多摩永山病院放射線科]	212
	[多摩永山病院放射線治療科]	213
	[千葉北総病院放射線科]	214
8.	皮膚科学講座	216
	[付属病院皮膚科]	216
	[武蔵小杉病院皮膚科]	224
	[多摩永山病院皮膚科]	226
	[千葉北総病院皮膚科]	228
9.	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）	229
	[付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科]	229
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]	258
	[千葉北総病院外科]	263
10.	外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）	269
	[付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・ 心臓血管・呼吸器外科・内分泌外科]	269
	[武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科]	282
	[多摩永山病院呼吸器外科]	283
11.	脳神経外科学講座	285
	[付属病院脳神経外科]	285
	[武蔵小杉病院脳神経外科]	296
	[多摩永山病院脳神経外科]	302

	[千葉北総病院脳神経外科]	303
12.	整形外科学講座	311
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科]	311
13.	産婦人科学講座	320
	[付属病院女性診療科・産科]	320
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	329
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	332
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	337
14.	耳鼻咽喉科学講座	340
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]	340
15.	泌尿器科学講座	353
	[付属病院泌尿器科]	353
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	356
	[多摩永山病院泌尿器科]	357
	[千葉北総病院泌尿器科]	358
16.	眼科学講座	360
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	360
	[千葉北総病院眼科]	364
17.	麻酔科学講座	365
	[付属病院麻酔科]	365
	[武蔵小杉病院麻酔科]	371
	[多摩永山病院麻酔科]	372
	[千葉北総病院麻酔科]	373
18.	救急医学講座	375
	[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・ 多摩永山病院救命救急センター]	375
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	390
	[多摩永山病院救命救急センター]	391
	[千葉北総病院救命救急センター]	394
19.	形成外科学講座	407
	[付属病院形成外科・美容外科]	407
	[武蔵小杉病院形成外科]	422
	[千葉北総病院形成外科]	426
20.	付属病院付置施設等	428
	[付属病院遺伝診療科]	428
	[付属病院集中治療室]	430
	[付属病院病理部]	434
	[付属病院中央検査部]	438
	[付属病院薬剤部]	440

	[付属病院生理機能センター]	444
	[付属病院看護部]	447
	[付属病院放射線科技師室]	451
	[付属病院ME部]	452
	[ワクチン療法研究施設]	454
	[付属病院東洋医学科]	454
	[ゲノム先端医療部]	458
	[付属病院総合診療センター]	459
21.	武蔵小杉病院付置施設等	464
	[武蔵小杉病院消化器病センター]	464
	[武蔵小杉病院病理部]	472
	[武蔵小杉病院中央検査室]	473
	[武蔵小杉病院薬剤部]	474
	[武蔵小杉病院看護部]	475
	[武蔵小杉病院放射線科技師室]	477
22.	多摩永山病院付置施設等	478
	[多摩永山病院病理部]	478
	[多摩永山病院中央検査室]	481
	[多摩永山病院薬剤部]	483
	[多摩永山病院看護部]	483
	[多摩永山病院消化器科]	485
23.	千葉北総病院付置施設等	493
	[千葉北総病院集中治療室]	493
	[千葉北総病院リハビリテーション科]	497
	[千葉北総病院病理部]	499
	[千葉北総病院中央検査室]	500
	[千葉北総病院薬剤部]	501
	[千葉北総病院放射線センター]	503
	[千葉北総病院歯科]	505
	[千葉北総病院看護部]	505

[4] 付置研究施設

1.	老人病研究所	511
	[病理部門]	511
	[生化学部門]	513
	[免疫部門]	515
	[疫学部門]	517
	[生体応答学部門]	518
2.	呼吸ケアクリニック	520
3.	健診医療センター	523
4.	成田国際空港クリニック	525

〔5〕 その他

1. 教育推進室	529
付表：1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況	535
1) 平成21年度科学研究費補助金交付決定一覧	535
2) 平成21年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況	541
3) 平成21年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕	542
4) 平成21年度補助・委託一覧	543
5) 平成21年度学術賞受賞一覧	560
6) 平成21年度知的財産一覧（特許権）	563
2. 動物実験実施状況	564
1) 平成21年教室別動物実験実施予定者数，動物実験講習会受講者数および動物実験計画書数	564
2) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率（ケージ数を基に算出（％））	566
3) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数	567
4) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数	568
5) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数	569

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[心理学]

研究概要

- (1) 社会精神医学と臨床心理学が主たる研究領域である。
- (2) 法と精神医学の隣接領域に関心をもち鑑定や判定の実務を行っている。
- (3) 刑事施設での精神科治療のあり方や精神科で治療を受けていた受刑者のフォローアップのあり方について法務省や東京都に勤務する精神科医と共同研究を行っている。
- (4) 本学精神科と大学生のメンタルヘルスやメンタルヘルス教育に関し共同研究を行っている。
- (5) 老人病研究所認知症相談センターと認知症の早期発見や早期対応のための地域連携システムに関する共同研究を行っている。
- (6) 東京大学やお茶の水女子大学と連携し医療における臨床心理士のあり方について検討している。

研究業績

論文

- (1) 原著：
 - 1) 松本聡子¹⁾, 野村俊明²⁾, 奥村雄介³⁾, 土屋悠華⁴⁾ (1) 東京大学, 2) 日本医科大学, 3) 府中刑務所, 4) 八王子医療刑務所)：精神障害を有する受刑者の社会復帰. 死生学研究 2009；(11)：103-118.
 - 2) 鋤柄のぞみ¹⁾, 増子あゆみ²⁾, 金子佳世³⁾, 奥水 学³⁾, 武藤三千代⁴⁾, 南 史郎³⁾, 野村俊明 (1) 日本医科大学学生相談室, 2) 東京大学学生相談室, 3) 武蔵小杉病院, 4) 日本医科大学スポーツ科学)：女性糖尿病患者を対象にした減量プログラム介入の試み. 日本医科大学基礎科学紀要 2009；(39)：15-31.
- (2) 総説：
 - 1) Nomura T：Current Situation and Future Tasks for Psychiatric Services in Japanese Prisons. J Nippon Med Sch 2009；76 (4)：182-187.
 - 2) 野村俊明：司法精神医学と衝動性. こころの科学 2009；(148)：90-93.
- (3) 研究報告書：
 - 1) 奥村雄介¹⁾, 野村俊明²⁾, 吉永千恵子³⁾ (1) 府中刑務所, 2) 日本医科大学, 3) 東京少年鑑別所)：思春期ひきこもりと反社会的問題行動. 厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期のひきこもりをもたらず精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」 2009；103-118.

著書

- 1) 野村俊明¹⁾ (1) 日本医科大学)：〔分担〕刑事施設での臨床から見た家族. 親のメンタルヘルス (青木紀久代), 2009；pp192-202, ぎょうせい.

学会発表

- (1) 一般講演：
 - 1) 小山田静枝¹⁾, 野村俊明²⁾, 吉田一朗¹⁾, 黒田 治³⁾, 菊本弘次¹⁾ (1) 東京都福祉保健局, 2) 日本医科大学, 3) 都立松沢病院)：東京都における26条通報の実態調査. 日本司法精神医学会学芸大会 (第5回) (前橋), 2009. 5.
 - 2) 石井知香¹⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹¹⁾, 野村俊明, 北村 伸²⁾, 宗像一雄²⁾, 川並汪一¹⁾ (1) 日本医科大学認知

症相談センター，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：街ぐるみ認知症相談センターにおけるタッチパネル式スクリーニング機器による認知症早期発見の試み．日本老年精神医学会（第24回），2009．6．

- 3) 小泉公平¹⁾，西條朋行¹⁾，館野 周¹⁾，野村俊明，大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学)：精神科外来統計からみた大学生のメンタルヘルス．日本精神神経学会（第105回），2009．8．
- 4) 石井知香¹⁾，根本留美¹⁾，若松直樹¹⁾，宗像一雄²⁾，川並汪一¹⁾，野村俊明，北村 伸²⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所認知症相談センター，²⁾ 武蔵小杉病院内科)：福祉専門職における認知症ケア実践の意識調査．認知症ケア学会（第10回），2009．10．
- 5) 伊藤滋朗¹⁾，館野 周¹⁾，野村俊明，大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学)：医学生を対象とする精神障害に関するチュートリアル教育の試み．日本社会精神医学会（第26回）（松江），2010．2．
- 6) 小泉公平¹⁾，大久保善朗¹⁾，野村俊明，館野 周¹⁾，西條朋行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学)：大学生のメンタルヘルスの特徴．日本社会精神医学会（第26回）（松江），2010．2．

[文化人類学]

研究概要

日本文化の根幹，日本の国柄について究明している．また，これらの究明を通して，現代日本および日本人の活力減退の要因を把握するとともに，日本再生のための方策を模索している．

研究業績

論文

(1) 研究ノート：

- 1) 伊藤末博：洗脳からの脱却：日本国民に求められる基本精神．日本医科大学基礎科学紀要 2009；(39)：55-65．

2. 自然科学

[数学]

研究概要

平坦トーラス上のカイラルアノマリーに関して, regular lattice に微小な擾乱を加えた場合を軸に計算を進める道筋を検討している。(渡辺)

レーヴナーの理論における積分表示の利用を試みて, 作用素単調関数の強さの考察を続けている. 作用素平均との関係も調べている。(儀我)

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 渡辺 浩: 無限次元系と繰り込み群. 数理科学 2010 ; 559 : 7-12.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 渡辺 浩: 数理科学と数学教育. 「社会に数理科学を発信する次世代型人材創発」ラウンドアップフォーラム「新時代の数学教育像の形成を目指して」- 数学+哲学+歴史+教育 -, 2010. 3.

(2) 一般講演:

- 1) 儀我真理子: 素朴な感覚から入る数学教育. 数学教育の会 (東京), 2009. 9.

[物理学]

研究概要

物理学教室は, 現在, 教授, 准教授, 講師の3名で構成されており, 連携しながら生物物理の理論的な側面に関して研究を行っている. 今年度の研究内容は以下の通りである.

1. 分子軌道法を用いて, ミオシンの ATP 加水分解に伴う構造変化, リン脂質リボソームの相転移, 酸化チタンの触媒作用について理論研究を行っている. [香川]

2. 昨年度に引き続き, タンパク質の動的構造に着目しながら, 哺乳類とバクテリア由来のキサンチン脱水素酵素の研究を行っている. また, 香川教授とともに, ミオシンの ATP 加水分解機構の解明をするために, 新しい半経験的分子軌道法を用いてその電子状態の計算を行い, 従来の結果と比較検討した. [菊地]

3. 菊地准教授とともに, キサンチン脱水素酵素の分子動力学法を用いた理論研究を行っている. 今年度はあらわに基質 (フェブキソスタット) を入れた計算を行い, タンパク質の動的な構造が基質のダイナミクスに与える影響を明らかにした. また, 生体分子内のエネルギー移動ダイナミクス, 構造変化ダイナミクスの理論計算も行っている.

[藤崎]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kagawa H, Kikuchi H, Gao Q¹, Ogihara T² (1) Mitsubishi Chemical Group Science and Technology Re-

- search Center, Inc., ²⁾ Azabu University) : Molecular Orbital Study of the Interaction between MgATP and the Myosin Motor Domain Using the PM6 Method. *J Comput Chem Jpn* 2010 ; 9 : 37-42.
- 2) Ogihara T¹⁾, Kagawa H²⁾, Gao Q, Mori K³⁾ (¹⁾ Azabu University, ²⁾ Mitsubishi Chemical Group Science and Technology Research Center, Inc., ³⁾ WCSC) : A Study of the Molecular Structure of Phospholipids and the Aggregation of Liposomes Using the Molecular Orbital Method. *J Comput Chem Jpn* 2010 ; 9 : 43-46.
- 3) 森 和英¹⁾, 中野 隆²⁾, 松林雄一³⁾, 香川 浩 (¹⁾ WCSC, ²⁾ 東京工業大学大学院, ³⁾ 流通開発システム) : 酸化チタン表面の触媒活性中心モデル. *J Comput Chem Jpn* 2010 ; 9 : 29-36.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Hasebe N¹⁾, Yamashita N¹⁾, Karouji Y¹⁾, Hareyama M¹⁾, Hayatsu K¹⁾, Nemoto S¹⁾, Iwabuchi K¹⁾, Takeda Y¹⁾, Nagaoka H¹⁾, Tsukada K¹⁾, Okudaira O¹⁾, Sakurai S¹⁾, Komatsu S¹⁾, Shibamura E²⁾, Kobayashi M, et al. (¹⁾ Research Institute for Science and Engineering, Waseda University, ²⁾ Saitama Prefectural University) : Overview of Elemental Distributions on the Moon Observed by SELENE GRS. The 27th International Symposium on Space Technology and Science (Tsukuba), 2009. 7.
- 2) Karouji Y¹⁾, Hasebe N¹⁾, Yamashita N¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Hareyama M¹⁾, Shibamura E²⁾, Kobayashi M, Okudaira O¹⁾, Ebihara M³⁾, Arai T⁴⁾, Sugihara T⁵⁾, Takeda H¹⁾, D'uston C⁶⁾, Gasnault O⁶⁾, Diez B⁶⁾, et al. (¹⁾ Research Institute for Science and Engineering, Waseda University, ²⁾ Saitama Prefectural University, ³⁾ Tokyo Metropolitan University, ⁴⁾ NIPR, Japan, ⁵⁾ JAMSTEC, Japan, ⁶⁾ Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, France) : Elemental Distribution in the Lunar Subsurface by the SELENE GRS Observation. The 72nd Annual Meeting of the Meteoritical Society (Nancy, France), 2009. 7.
- 3) Hasebe N¹⁾, Shibamura E²⁾, Kobayashi M, Yamashita N¹⁾, Karouji Y¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Hareyama M¹⁾, Komatsu S¹⁾, Hayatsu K¹⁾, Nemoto K¹⁾, Iwabuchi K¹⁾, Takeda Y¹⁾, Nagaoka H¹⁾, Tsukada K¹⁾, Machida J¹⁾, et al. (¹⁾ Research Institute for Science and Engineering, Waseda University, ²⁾ Saitama Prefectural University) : Lunar Gamma-Ray Observation by Kaguya GRS. The 6th Annual Meeting of the Asia Oceania Geosciences Society (Singapore), 2009. 10.
- 4) Karouji Y¹⁾, Hasebe N¹⁾, Yamashita N¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Hareyama M¹⁾, Shibamura E²⁾, Kobayashi M, D'uston C³⁾, Mourice S³⁾, Gasnault O³⁾, Forni O³⁾, Diez B³⁾, Reddy R⁴⁾, Kim K⁵⁾, Ebihara M⁶⁾, et al. (¹⁾ Research Institute for Science and Engineering, Waseda University, ²⁾ Saitama Prefectural University, ³⁾ Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, France, ⁴⁾ Planetary Science Institute, USA, ⁵⁾ Korea Institute of Geoscience and Mineral Resources, Korea, ⁶⁾ Tokyo Metropolitan University) : Possible Diversity of Elemental Composition in the Lunar Farside Highland Observed by SELENE GRS. The 6th Annual Meeting of Asia Oceania Geosciences Society (Singapore), 2009. 10.
- 5) 香川 浩, 永井喜則¹⁾, 輪湖 博²⁾ (¹⁾ 国士舘大・情科センター, ²⁾ 早大・社会) : Relative Changes of Distances between Each Pair of Amino Acid Residues in Myosin Motor Domain during ATP Hydrolysis. 日本生物物理学会年会 (第47回) (徳島), 2009. 11.
- 6) 菊地浩人, 藤崎弘士, 古田忠臣¹⁾, 岡本 研²⁾, Leimkuler S³⁾, 西野武士²⁾ (¹⁾ 理研・次世代計算科学研究開発プログラム・分子スケール研究開発チーム, ²⁾ 日医大・生化学第一, ³⁾ ボツダム大・生化学) : Significance of enzyme fluctuation in the lock-key mechanism between xanthine oxidoreductase and Febuxostat. 日本生物物理学会年会 (第47回) (徳島), 2009. 11.
- 7) 藤崎弘士, 志賀基之¹⁾, 木寺詔紀²⁾ (¹⁾ 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, ²⁾ 横浜市大・生命ナノ・生体) : Transition path sampling using the Onsager-Machlup action with replica ex-

change : Model calculations. 日本生物物理学会年会 (第47回) (徳島), 2009. 11.

- 8) 藤崎弘士, 菊地浩人, 古田忠臣¹⁾, 岡本 研²⁾, 西野武士²⁾ (1) 理研・次世代計算科学研究開発プログラム・分子スケール研究開発チーム, ²⁾ 日医大・生化学第一) : Significance of enzyme fluctuation in the lock-key mechanism between xanthine oxidoreductase and Febuxostat. The 3rd International Symposium on Molecular Science of Fluctuations toward Biological Functions (Toyoda Auditorium, Nagoya University, Japan), 2009. 12.
- 9) 藤崎弘士, 志賀基之¹⁾, 木寺詔紀²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, ²⁾ 横浜市大・生命ナノ・生体) : Onsager-Machlup action-based path sampling and its combination with the replica exchange method. Workshop on dynamical systems theory and reaction (京都), 2010. 1.
- 10) 藤崎弘士, 志賀基之¹⁾, 木寺詔紀²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, ²⁾ 横浜市大・生命ナノ・生体) : Onsager-Machlup action-based path sampling and its combination with the replica exchange method. The 3rd International Symposium on Molecular Theory for Real Systems (京都), 2010. 1.
- 11) 藤崎弘士, 志賀基之¹⁾, 木寺詔紀²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, ²⁾ 横浜市大・生命ナノ・生体) : Sampling path ensembles using the Onsager-Machlup action with replica exchange : Model Calculations. アメリカ生物物理学会年会 (第54回) (San Francisco), 2010. 2.
- 12) 藤崎弘士, 志賀基之¹⁾, 木寺詔紀²⁾ (1) 原研・システム計算科学センター・マテリアルシミュレーション, ²⁾ 横浜市大・生命ナノ・生体) : Sampling path ensembles using the Onsager-Machlup action with replica exchange : Model Calculations. バイオスーパーコンピューティングシンポジウム (第2回) (東京), 2010. 3.
- 13) 松永康佑¹⁾, 藤崎弘士, 木寺詔紀²⁾ (1) 理研・次世代計算科学研究開発プログラム・分子スケール研究開発チーム, ²⁾ 横浜市大・生命ナノ・生体) : パスサンプリングによるタンパク質構造変化解析. 次世代スーパーコンピューティング・シンポジウム2009 (東京), 2009. 10.
- 14) 高見利也¹⁾, 藤崎弘士 (1) 九大箱崎・情報基盤研究開発センター) : 量子状態制御問題とカオス. 古典および量子ダイナミクス・非平衡統計力学に関するワークショップ (東大弥生講堂, 東京), 2010. 2.

[化学]

研究概要

菅原：アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成。(1) 生理活性を有するラクトン類の合成。(2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成。

田中：質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究。(1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン、電子移動反応中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究。(1) 生体内微量元素等と疾患、環境等との関連。

永井：2, 2' -ビピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学。(1) 錯体の合成。(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構。(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究。(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究。

武田：弱酸性陽イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究。(1) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動と分離。(2) イットリウムの特異的分離とその機構の解明。(3) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離貴金属元素の分離および定量に関する研究。(1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構。(2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量。

[生物学]

研究概要

本教室では、脊椎動物共通の器官形成および再生機構の分子レベルでの解明を目指し、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエル消化管を実験モデルとして研究を進めている。この他に、微生物生理学、植物生態学の各分野でも継続した研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。

1) GFP遺伝子を導入したトランスジェニックカエルの小腸を用いて、変態期に出現する幹細胞が、幼生型分化上皮に由来することを *in vitro* の実験により明らかにした (FASEB J 2009)。このことは、甲状腺ホルモンが上皮の脱分化を誘導して幹細胞の出現に至ることを示唆しており、この脱分化機構の解明に焦点をあてて現在研究を進めている。さらに *in vivo* での細胞系譜の追跡を可能にするため、Cre/Lox システムを利用したトランスジェニックカエルを作製した (Cincinnati大との共同研究)。この他、発生初期の器官形成への関与が注目されているSUMO化に関与する SENP 遺伝子を単離し、初期胚における SENP の発現変動及び機能を明らかにした (NIHとの共同研究)。(長谷部, 岡)

2) ゲノム塩基配列が決められたシアノバクテリアや好気性細菌のカロテノイド生合成遺伝子のアノテーションや酵素の性質を研究している。多数の新規紅色光合成細菌を記載しているインドのグループと、その色素分析とカロテノイドの生理学的性質などを共同研究している。藻類や植物の α -カロテン類の異性体の分布を調べたしたが、生合成酵素よりも結合タンパクに依存するようである。他にも国内外の数グループと共同研究を進めている。(高市)

3) 冬緑性草本であるヒガンバナを用いて生理生態学的な研究を行っている (国内共同研究)。本種では、葉のない夏季にも栄養塩の吸収を行うことが明らかになっている。このことが厳冬の葉の光合成特性や、耐凍性、成長などに与える効果を、栽培実験によって検討している。(西谷)

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Rankin S¹, Hasebe T, Zorn A¹, Buchholz D² (1) Div Developmental Biology, Univ Cincinnati, (2) Dept Biological Sciences, Univ Cincinnati) : Improved Cre reporter transgenic *Xenopus*. Dev Dyn 2009 ; 238 (9) : 2401-2408.
- 2) Anil Kumar P¹, Srinivas T¹, Takaichi S, Maoka T², Sasikala C², Ramana C³ (1) Inst Science Technology, J. N. T. Univ, (2) Inst Production Develop, (3) School Life Sciences, Univ Hyderabad) : *Phaeospirillum chandramohanii* sp. nov. , a phototrophic alphaproteobacterium with carotenoid glycosides. Int J Syst Evol Microbiol 2009 ; 59 (8) : 2089-2093.
- 3) Kusaba M¹, Maoka T², Morita R³, Takaichi S (1) Graduate School Science, Hiroshima Univ, (2) Res Inst Production Develop, (3) Inst Radiation Breeding, Natl Inst Agrobiological Sciences) : A novel carotenoid derivative, lutein 3-acetate, accumulates in senescent leaves of rice. Plant Cell Physiol 2009 ; 50 (8) : 1573-1577.
- 4) Ishizuya-Oka A, Hasebe T, Buchholz D¹, Kajita M², Fu L³, Shi Y³ (1) Dept Biological Sciences, Univ Cincinnati, (2) Dept Molecular Biology, Inst Develop Aging Sciences, Nippon Medical School , (3) LGRD/NICHD/NIH) : The origin of the adult intestinal stem cells induced by thyroid hormone in *Xenopus laevis*. FASEB J 2009 ; 23 (8) : 2568-2575.
- 5) Takaichi S, Maoka T¹, Akimoto N², Takasaki K³, Hanada S³ (1) Res Inst Production Develop, (2) National Inst Advanced Industrial Science Technology (AIST)) : Carotenoids of *Gemmatimonas aurantiaca* (*Gemmatimonadetes*) : identification of a novel carotenoid, deoxyoscillo 2-rhamnoside, and proposed biosyn-

thetic pathway of oscillol 2, 2' -dirhamnoside. *Microbiology* 2009 ; 156 (3) : 757-763.

- 6) Takaichi S, Maoka T¹⁾, Mochimaru M²⁾ (¹⁾ Res Inst Production Develop, ²⁾ Dept Natural Sciences, Komazawa Univ) : Unique carotenoids in the terrestrial cyanobacterium *Nostoc commune* NIES-24 : 2-hydroxymyxol 2' -fucoside, nostoxanthin and canthaxanthin. *Curr Microbiol* 2009 ; 59 (4) : 413-419.
- 7) Wang Y¹⁾, Mukhopadhyay D¹⁾, Mathew S¹⁾, Hasebe T, Heimeier R¹⁾, Azuma Y²⁾, Kolli N³⁾, Shi Y¹⁾, Wilkinson K³⁾, Dasso M¹⁾ (¹⁾ LGRD/NICHD/NIH, ²⁾ Dept Molecular Biosciences, Univ Kansas, ³⁾ Dept Biochemistry, Emory Univ) : Identification and developmental expression of *Xenopus laevis* SUMO proteases. *PLoS One* 2009 ; 4 (12) : e8462.

(2) 総説 :

- 1) Ishizuya-Oka A, Hasebe T, Shi Y¹⁾ (¹⁾ LGRD/NICHD/NIH) : Apoptosis in amphibian organs during metamorphosis. *Apoptosis* 2010 ; 15 (3) : 350-364.
- 2) Mathew S¹⁾, Fu L¹⁾, Hasebe T, Ishizuya-Oka A, Shi Y¹⁾ (¹⁾ LGRD/NICHD/NIH) : Tissue-dependent induction of apoptosis by matrix metalloproteinase stromelysin-3 during amphibian metamorphosis. *Birth Defects Res C Embryo Today* 2010 ; 90 (1) : 55-66.

著 書

- 1) 西谷里美, 増沢武弘¹⁾ (¹⁾ 静岡大・理) : [分担] 周極要素の植物「ムカゴトラノオ・ムカゴユキノシタ」. 高山植物学 - 高山環境と植物の総合科学 - (増沢武弘), 2009 ; pp266-272, 共立出版.
- 2) Takaichi S, Mochimaru M¹⁾ (¹⁾ Natural Sciences, Komazawa Univ) : [分担] Carotenoids, their diversity and carotenogenesis in cyanobacteria. *Handbook on Cyanobacteria : Biochemistry, Biotechnology and Applications* (Percy MG, Harris JM), 2009 ; pp399-428, Nova Science Publishers (New York, USA).

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Gardiner A¹⁾, Brotosudarmo T¹⁾, Roszak A¹⁾, Moulisova V¹⁾, Gall A²⁾, Koyama Y³⁾, Takaichi S, Cogdell R¹⁾ (¹⁾ Univ Glasgow, ²⁾ CEA, CNRS, ³⁾ Kwansai Gakuin Univ) : Adaptation of the purple bacterial PSU to growth at different light-intensities with particular emphasis on the carotenoid composition. カロテノイド研究談話会 (第23回), 2009. 9.
- 2) 長谷部孝, 岡 敦子 : トランスジェニックカエルは光り輝く (第2回両生類はワンダーランド). 日本動物学会大会 (第80回), 2009. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) Hasebe T, Kajita M¹⁾, Ishizuya-Oka A (¹⁾ Dept Molecular Biology, Inst Develop Aging Sciences, Nippon Medical School) : Hedgehog interacting protein regulates Sonic hedgehog signaling essential for the intestinal remodeling during amphibian metamorphosis. *International Symposium on Amphibian and Reptilian Endocrinology and Neurobiology* (6th) (Berlin), 2009. 9.
- 2) 高市真一 : 光合成細菌のカロテノイド : 同定と生合成. 「光合成細菌 : 色素タンパク質からの広がり」に関するシンポジウム, 2010. 3.

(3) 一般講演 :

- 1) Wang Y¹⁾, Mukhopadhyay D¹⁾, Mathew S²⁾, Hasebe T, Kolli N³⁾, Azuma Y⁴⁾, Shi T²⁾, Wilkinson K³⁾, Dasso M¹⁾ (¹⁾ LGRD/NICHD/NIH, ²⁾ Dept Biochemistry, Emory Univ, ⁴⁾ Dept Molecular Biosciences, Univ Kansas) : Cloning and characterization of Ulp/SENp family proteases from *Xenopus laevis*. *Cold Spring Harbor Laboratory Meeting* (New York), 2009. 4.

- 2) Takaichi S, Mochimaru M¹⁾ (¹⁾ Komazawa Univ) : Carotenoids and carotenogenesis in cyanobacteria. International Symposium on Phototrophic Prokaryote (ISPP2009) (13th) (Montreal), 2009. 8.
- 3) Takaichi S, Sasikala C¹⁾, Ramana C²⁾ (¹⁾ Inst Science Technology, J. N. T. Univ, ²⁾ School Life Sciences, Univ Hyderabad) : Unusual carotenoids from some newly described purple bacteria. International Symposium on Phototrophic Prokaryote (ISPP2009) (13th) (Montreal), 2009. 8.
- 4) 高市真一, Sasikala C¹⁾, Ramana C²⁾ (¹⁾ Inst Science Technology, J. N. T. Univ, ²⁾ School Life Sciences, Univ Hyderabad) : 最近発見された数種の新規紅色光合成細菌の独特なカロテノイド. カロテノイド研究談話会 (第23回), 2009. 9.
- 5) 高市真一 : シアノバクテリアなどによるカロテノイドのミクソール構造の生合成と酵素・遺伝子. 日本光合成研究会公開シンポジウム (第9回), 2009. 5.
- 6) 高市真一, Sasikala C¹⁾, Ramana C²⁾ (¹⁾ Inst Science Technology, J. N. T. Univ, ²⁾ School Life Sciences, Univ Hyderabad) : 最近発見された数種の新規紅色光合成細菌の独特なカロテノイド. 光合成の色素系と反応中心に関するセミナー (第17回), 2009. 7.
- 7) 長谷部孝, 梶田満子¹⁾, 岡 敦子 (¹⁾ 日本医大・老研) : 両生類の消化管再構築において Shh シグナルに応答して促進される Patched-1 の発現解析. 日本動物学会大会 (第80回), 2009. 9.
- 8) 方波見彰仁¹⁾, 生悦住茉友¹⁾, 古林真衣子¹⁾, 古澤文章¹⁾, 斎藤恭一¹⁾, 高市真一, 梅野太輔¹⁾ (¹⁾ 千葉大院・工) : スクアレン合成酵素のカロテノイド経路における機能進化. カロテノイド研究談話会 (第23回), 2009. 9.
- 9) 高市真一 : シアノバクテリアと他の細菌における, ミクソールと類似カロテノイドの, 生合成と酵素・遺伝子. 日本植物学会大会 (第73回), 2009. 9.
- 10) 草場 信¹⁾, 眞岡孝至²⁾, 森田竜平³⁾, 高市真一 (¹⁾ 広島大院理, ²⁾ 生産開発研, ³⁾ 生物研放育場) : イネ老化葉に現れる新規ルテイン誘導体・ルテイン 3-アセテートの生成調節. 日本育種学会講演会 (第116回), 2009. 9.
- 11) 西谷里美, 中村敏枝¹⁾, 可知直毅¹⁾ (¹⁾ 首都大・生命科学) : 冬緑性草本ヒガンバナの光合成特性. 日本生態学会 (第57回), 2010. 3.
- 12) 高市真一, 村上明男¹⁾, 持丸真里²⁾ (¹⁾ 神戸大・内海域センター, ²⁾ 駒澤大・自然) : α カロテンとその誘導体は全て同一の立体異性か?. 日本植物生理学会年会 (第51回), 2010. 3.
- 13) 成川 礼¹⁾, 藤澤貴智²⁾, 岡本 忍³⁾, 得平茂樹⁴⁾, 吉村英尚¹⁾, 鈴木石根⁵⁾, 増田 建¹⁾, 持丸真里⁶⁾, 高市真一, 粟井光一郎⁷⁾, 関根光雄²⁾, 矢代 勲²⁾, 小俣せいはい²⁾, 宝田裕美²⁾, 片野葉子²⁾, その他7名 (¹⁾ 東大・院・総合文化, ²⁾ 製品評価技術基盤機構, ³⁾ ライフサイエンス統合データベースセンター, ⁴⁾ 中央大・理工・生命科学, ⁵⁾ 筑波大・生命環境, ⁶⁾ 駒澤大・文・自然, ⁷⁾ 静岡大・GRL, ⁸⁾ 昭和女子大・院・生活機構) : 有用シアノバクテリア *Arthrospira (Spirulina) platensis* NIES-39 のゲノム解析. 日本植物生理学会年会 (第51回), 2010. 3.
- 14) 方波見彰仁¹⁾, 高市真一, 古林真衣子¹⁾, 斎藤恭一¹⁾, 梅野太輔¹⁾ (¹⁾ 千葉大院工学) : ヒトスクアレン合成酵素の実験室内進化と非天然スクアレン合成. 日本農芸化学会2010年度大会, 2010. 3.

3. 外国語

[英語・ドイツ語]

研究概要

外国語教室（英語・ドイツ語）では、4名の専任教員が言語・言語教育、ならびに文化・文学に関わる研究活動を展開している。平成21年度の研究状況は次のとおり。

<言語・言語教育> 日本人による医学英語論文執筆に関わる問題を検証・考察する研究を行い、その成果を講演や書評などで公にした。昨今、医学英語論文執筆の指導・教育の必要性が叫ばれており、今後、系統的な教育法構築が求められる。また、文学作品を活用した英語教育について数年にわたり研究してきた成果が、大学生向け教科書として発刊された。この延長線上にある研究活動が、日本英文学会および同学会関東支部大会での英語教育シンポジウムにおける研究発表である。英語教育における英語文学研究者の役割について論じ、その一部を論文にまとめた。なお、本学でのTOEFL-ITP実施3年目を迎え、本学学生のスコアと英語学習への意識について前年に引き続き調査した。実施効果についてスコアの経年変化を視野に入れ分析・考察し、『日本医科大学基礎科学紀要』に教育報告として発表した。

第二外国語を教える中で、文法教育と講読をとおして、いかに「聞く」「話す」「読む」「書く」学習活動を総合的に扱うかを中心に、初級ドイツ語教育における諸問題を検討・考察した。また、ドイツ語側から日本語を見るという逆の作業の試みをも始めている。

<文化・文学> アイルランド文学に関する研究を中心に展開した。科学研究費基盤研究の2年目にあたり、当該研究の19世紀半ばと20世紀末の諸作品に焦点を合わせ、現地での取材や資料収集の機会も得て研究を進めた。その成果は論文や研究発表で公にした。日独文化交流関連の研究も継続している。

なお、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会と東京大学杯争奪英語弁論大会での審査、『日本医学英語教育学会誌』のレビュー、日本英文学会関東支部の学会誌編集にも関わった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yokouchi K : Alter und Geschlecht in der japanischen und deutschen Sprache : Ein Hinweis für deutschsprachige Lehrer, die Japaner Anfänger-Deutsch lehren und auch selbst Japanisch lernen. 高等学校ドイツ語教育研究会会報 2009 ; (21) : 29-35.
- 2) 中村哲子 : 英語教育における訳読活動をめぐって : その歴史的意義と大学での授業実践への提言. 日本医科大学紀要 2009 ; (39) : 33-54.
- 3) 中村哲子 : The Princess of Connemaraをめぐると言説のラビリンス. エール 2009 ; (29) : 3-19.

(2) 教育報告：

- 1) 西川純恵, Minton T : TOEFL ITP 導入とその効果. 日本医科大学基礎科学紀要 2009 ; (39) : 67-79.

(3) 書評：

- 1) Minton T : How to Write, Publish, & Present in the Health Sciences, by Thomas A. Lang (American College of Physicians). Journal of Medical English Education 2010 ; 9 (1) : 53-53.

著書

- 1) 中村哲子 : [分担] ビッグ・ハウス小説の伝統. アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために (風呂本武敏),

2009；pp40-52, 世界思想社.

- 2) 中村哲子：〔分担〕理系の学生も視野に入れた英語の教え方：英語文学研究者にとっての英語教育．第81回大会Proceedings (The 81st General Meeting of the English Literary Society of Japan), 2009；pp248-250, 日本英文学会.
- 3) 斎藤兆史¹⁾, 中村哲子⁽¹⁾ 東京大学)：〔編集〕English through Literature (文学で学ぶ英語リーディング) (斎藤兆史・中村哲子), 2009；ppi-93, 研究社.
- 4) 斎藤兆史¹⁾, 中村哲子⁽¹⁾ 東京大学)：〔編集〕English through Literature (文学で学ぶ英語リーディング) Teachers' Manual (斎藤兆史・中村哲子), 2009；pp1-71, 研究社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 中村哲子：理系の学生も視野に入れた英語の教え方 (英語・英米文学研究を英語教育にどう活かすか)．日本英文学会 (東京大学駒場キャンパス), 2009. 5.
- 2) 中村哲子：訳読のすすめ (訳読再考)．日本英文学会関東支部大会 (成蹊大学), 2009. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 中村哲子：ビッグ・ハウス小説における病のナラティブ．身体医文化論研究会 (慶應義塾大学日吉キャンパス), 2010. 3.

4. スポーツ科学

[スポーツ科学]

研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) メロンより注出したSuperoxide dismutaseを大量に含むオキシカインが、ストレス由来の記憶学習能力の低下に対して抑制効果を持つことを明らかにし、その成果を論文として発表した(コンビ社及び日本体育大学との共同研究)。2) 熱帯植物のノニの持つストレス耐性効果を調べるために、ノニエキスが精神的ストレスによる記憶学習能力の低下抑制をもたらすか否かについて検討した(タヒチアン・ノニ社との共同研究)。3) ストレス由来の記憶力低下に対する身体運動(高強度および中強度運動)の抑制効果には、脳での海馬での神経新生の増加と血管新生が関係することを明らかにした。4) ストレス由来のうつ様行動の発症を身体運動(高強度および中強度運動)が抑制する効果には脳内セロトニンの変化が関与しないことを明らかにした(日本体育大学との共同研究)。

武藤：1) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操を定期的を実施することが、高齢者の身体機能へどのような影響を及ぼすかを調査し報告した((財)簡易保険加入者協会より助成)。毎日ラジオ体操を実施している高齢者は、歩行能力と筋力に優れており、身体の筋機能の維持・増進に貢献できると示唆された。2) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に、体格・生活活動力等を縦断的に調査している。加齢に伴う生活活動力の低下は否めないものの、運動習慣は生活活動力の維持または低下の遅延に役立つことが示唆された。3) 発展途上の国にこそ次世代を担う青少年に対する健全な体育・健康教育が必要と考え、カンボジア・シェムリアップにおいて体格・体力、生活習慣、生活環境等の調査研究を継続的に行っている。発育発達の傾向を把握するためと体格の向上を目指し、定期的に体格測定を継続することと、生活環境の改善や栄養指導を含めた健康教育の必要性を提案した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakajima S¹, Ohsawa I¹, Nagata K¹, Ohta S¹, Ohno M², Ijichic T³, Mikami T (¹ Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ² Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University, ³ Combi Corporation) : Oral supplementation with melon superoxide dismutase extract promotes antioxidant defences in the brain and prevents stress-induced impairment of spatial memory. Behav Brain Res 2009 ; 200 (1) : 15-21.

(2) 研究報告書：

- 1) 武藤三千代, 若山葉子¹, 渡部鎌二² (¹ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, ² 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者における形態計測・生活活動力測定結果について. 平成21年度高齢者における健康維持増進のための総合追跡研究報告書 2009 ; 3-8.
- 2) 勝又聖夫¹, 若山葉子¹, 伊藤博子¹, 川田智之¹, 武藤三千代, 眞木 舞², 森谷豊子², 渡部鎌二² (¹ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, ² 神奈川県立保健福祉大学) : 健康体操教室参加者の体操実施前後のATMT算出脳機能年齢の変化. 平成21年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究報告書 2009 ; 23-26.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 三上俊夫：運動と神経新生：運動による神経新生の増加とその機序，および運動強度の関係について．第17回日本運動生理学会大会，2009．7．
- 2) 三上俊夫：運動のもたらす抗うつ効果と血管内皮細胞増殖因子との関係．第147回日本体力医学会関東地方会，2009．12．

(2) 一般講演：

- 1) Mikami T, Nakajima S¹⁾, Nagata K¹⁾, Ohsawa I¹⁾, Ohta S¹⁾ (¹⁾ Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Exercise enhances expression of IGF-1 in liver and skeletal muscle and protects stress-induced impairment of cognitive memory. 36th International Congress of Physiological Science (Kyoto), 2009. 7.
- 2) Nakajima S¹⁾, Mikami T (¹⁾ Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A bout of intense exercise stimulates neurogenesis in hippocampus. 36th International Congress of Physiological Science (Kyoto), 2009. 7.
- 3) Muto J¹⁾, Lee H¹⁾, Uwaya A²⁾, Isami F²⁾, Ohno M¹⁾, Mikami T (¹⁾ Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University, ²⁾ Tahitian Noni Inc.) : Morinda citrifolia fruit reduces stress-induced impairment of cognitive function accompanied by vasculature improvement in mice. 36th International Congress of Physiological Science (Kyoto), 2009. 7.
- 4) Kawamorita C¹⁾, Watanabe R¹⁾, Watanabe T¹⁾, Muto M (¹⁾ Kanagawa University of Human Services) : Physique of 12years olds in the State of Siem Reap, Cambodia Comparison of students living in the city/ the suburbs/ a rural area. The 13th scientific meeting of Korea-Japan Health Education symposium/The 57th scientific meeting of Japanese Society of Education and Health Science (Suwon), 2009. 8.
- 5) 武藤三千代，勝又聖夫¹⁾，若山葉子¹⁾，渡部鎌二²⁾，渡部月子²⁾，川守田千秋²⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学，²⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者における生活活動力と脳の機能年齢について．日本運動・スポーツ科学学会第16回大会，2009．6．
- 6) 渡部鎌二¹⁾，渡部月子¹⁾，川守田千秋¹⁾，武藤三千代，中島克典²⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本工業大学) : 高齢者の健康教室終了後における運動群と非運動群の比較．日本運動・スポーツ科学学会第16回大会，2009．6．
- 7) 渡部月子¹⁾，川守田千秋¹⁾，渡部鎌二¹⁾，武藤三千代 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : シェムリアップ州における小・中学生のライフスタイルに関する実態調査：都市部・郊外・農村部の比較．日本運動・スポーツ科学学会第16回大会，2009．6．
- 8) 三上俊夫：運動と活性酸素．第17回日本運動生理学会大会（ランチョンセミナー），2009．7．
- 9) 武藤三千代，渡部鎌二¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学) : カンボジアにおける青少年の体格・体力と生活習慣について (3)．日本体育学会第60回記念大会，2009．8．
- 10) 李ヒョンジン¹⁾，中島早苗²⁾，大野 誠³⁾，三上俊夫 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野，²⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学部門，³⁾ 日本体育大学大学院体育研究科) : 継続的な運動（高強度および中強度運動）はストレス由来の神経新生の低下を抑制し，学習記憶能力を改善する．第75回日本体力医学会総会，2009．9．
- 11) 中島早苗¹⁾，李ホーソン²⁾，三上俊夫 (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学部門，²⁾ 日本体育大学大学院体育研究科) : 一過性の高強度の運動による神経新生の変化について．第75回日本体力医学会総会，2009．9．
- 12) 武藤三千代，渡部鎌二¹⁾，渡部月子¹⁾，若山葉子²⁾ (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : カンボジア・シェムリアップにおける小・中学生の生活環境と体格・体力について．第68回日本公

衆衛生学会総会，2009. 10.

- 13) 若山葉子¹⁾，伊藤博子¹⁾，勝又聖夫¹⁾，川田智之¹⁾，武藤三千代，渡部鎌二²⁾，渡部月子²⁾ (1) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学，²⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査：肥満指標による比較検討 (3)．第68回日本公衆衛生学会総会，2009. 10.
- 14) 若山葉子¹⁾，川田智之¹⁾，武藤三千代，渡部鎌二²⁾ (1) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学，²⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：カンボジア・シェムリアップにおける児童・生徒の生活調査と形態・体力測定成績．第74回日本民族衛生学会総会，2009. 11.

〔2〕 基 礎 医 学

1. 解剖学講座（分子解剖学）

研究概要

(1) MicroRNAの分子解剖学的研究：a) 生殖腺，胎盤，消化器系臓器・疾患におけるmicroRNAプロファイリングと機能解析（石橋講師，菊池助教，石川助教，瀧澤^{敬美}助教，院生・神田，院生・軸園，院生・重原，院生・間瀬，院生・倉品，院生・竹内，院生・篠塚），b) P-body，exosomeについての分子解剖学的解析（石橋，アリ），c) 卵巣におけるmicroRNAの機能解析（石橋，間瀬，瀧澤^敬）を行った。（当大学外科学講座，産婦人科学講座，東京大学・程久美子准教授との共同研究）

(2) 胎盤の分子解剖学：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内のIIb型Fc受容体-小胞の解析，b) 栄養膜細胞層の解析を進めた．形態学的解析（研究生・倉澤，研究生・岩崎，後藤准教授）と共に，分子生物学的解析（石川，石橋）を行った．（当大学産婦人科学講座，生化学・分子生物学講座，米国オハイオ州立大学・John M. Robinson教授，自治医科大学・松原茂樹教授，屋代隆教授，宮崎大学・片岡寛章教授との共同研究）

(3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：石橋が中心となり，GFP融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った．

(4) 生殖細胞特異的分子TEX101の解析：石川，瀧澤^敬，技術員・小管がエレクトロポレーションによるGFP融合shRNAベクターのマウス精巣導入実験および組織化学的解析を行った．（順天堂大学・荒木慶彦准教授，長崎大学・小路武彦教授との共同研究）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kikuchi K^{1,2)}, Fukuda M³⁾, Ito T³⁾, Inoue M⁴⁾, Yokoi T⁵⁾, Chiku S⁶⁾, Mitsuyama T⁶⁾, Asai K^{6,7)}, Hirose T⁸⁾, Aizawa Y²⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, Yokohama 226-8501, Japan, (3) Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, Yokohama 226-8501, Japan, (4) Hitachi Software Engineering Co., Ltd., Yokohama 230-0045, Japan, (5) Science Solutions Division, Mizuho Information and Research Institute, Inc., Tokyo 101-8443, Japan, (6) Computational Biology Research Center (CBRC), National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tokyo 135-0064, Japan, (7) Department of Computational Biology, Graduate School of Frontier Sciences, the University of Tokyo, Chiba 277-8561, Japan, (8) Biomedical Information Research Center, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tokyo 135-0064, Japan) : Transcripts of unknown function in multiple-signaling pathways involved in human stem cell differentiation. *Nucleic Acids Res* 2009 ; 37 (15) : 4987-5000.
- 2) Kikuchi K^{1,2)}, Umehara T^{2,3)}, Nishikawa F²⁾, Fukuda K⁴⁾, Hasegawa T⁴⁾, Nishikawa S²⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, (2) Age Dimension Research Center, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Ibaraki 305-8566, Japan, (3) Department of Molecular Biophysics and Biochemistry, Yale University, CT 06520-8114, USA, (4) Faculty of Science, Yamagata University, Yamagata 990-8560, Japan) : Increased inhibitory ability of conjugated RNA aptamers against the HCV IRES. *Biochem Biophys Res Commun* 2009 ; 386 (1) : 118-123.
- 3) Kawahigashi Y^{1,2)}, Mishima T¹⁾, Mizuguchi Y^{1,2)}, Arima Y²⁾, Yokomuro S²⁾, Kanda T^{1,2)}, Ishibashi O¹⁾,

Yoshida H²⁾, Tajiri T²⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Division of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 113-8602, Japan, 2) Division of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 113-8602, Japan) : MicroRNA profiling of human intrahepatic cholangiocarcinoma cell lines reveals biliary epithelial cell-specific microRNAs. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (4) : 188-197.

- 4) Luo S^{1, 2)}, Ishibashi O¹⁾, Ishikawa G³⁾, Ishikawa T¹⁾, Katayama A⁴⁾, Mishima T¹⁾, Takizawa T¹⁾, Shigihara T⁵⁾, Goto T¹⁾, Izumi A⁶⁾, Ohkuchi A⁶⁾, Matsubara S⁶⁾, Takeshita T³⁾, Takizawa T¹⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 2) Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, Heilongjiang 150001, China, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 4) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 5) Division of Molecular and Biochemical Research, Biomedical Center, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, 113-8421, Japan, 6) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi 329-0498, Japan) : Human villous trophoblasts express and secrete placenta-specific microRNAs into maternal circulation via exosomes. *Biol Reprod* 2009 ; 81 (4) : 717-729.
- 5) Matsubara S¹⁾, Ueda Y²⁾, Takahashi H¹⁾, Nagai T¹⁾, Kuwata T¹⁾, Muto S³⁾, Yamaguchi T⁴⁾, Takizawa T⁵⁾, Suzuki M¹⁾ (1) Departments of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical School, Tochigi 329-0498, Japan, 2) Division of Nephrology of Internal Medicine, Jichi Medical School, Tochigi 329-0498, Japan, 3) Departments of Pathology, Jichi Medical School, Tochigi 329-0498, Japan, 4) Koshigaya Hospital, Dokkyo Medical University, Minamikoshigaya, Saitama 343-8555, Japan, 5) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan) : Pregnancy complicated with Alport syndrome : A good obstetric outcome and failure to diagnose an infant born to a mother with Alport syndrome by umbilical cord immunofluorescence staining. *J Obstet Gynaecol Res* 2009 ; 35 (6) : 1109-1114.
- 6) Ishibashi O¹⁾, Ikegame M²⁾, Takizawa F³⁾, Yoshizawa T³⁾, Ali MM³⁾, Iizawa F^{3, 4)}, Mera H^{3, 5)}, Matsuda A^{3, 6)}, Kawashima H³⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 2) Department of Oral Morphology, Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University, Okayama 700-8558, Japan, 3) Division of Cell Biology and Molecular Pharmacology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata 951-8514, Japan, 4) Division of Pediatric Dentistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata 951-8514, Japan, 5) Division of Orthopedic Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata 951-8510, Japan, 6) Department of Allergy and Immunology, National Research Institute for Child Health and Development, Tokyo 157-8535, Japan) : Endoglin is involved in BMP-2-induced osteogenic differentiation of periodontal ligament cells through a pathway independent of Smad-1/5/8 phosphorylation. *J Cell Physiol* 2010 ; 222 (2) : 465-473.

(2) 総説 :

- 1) 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科分子解剖学) : 基礎研究から学ぶ : 2. 組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒント) 光学免疫組織化学の基礎 : 固定と凍結切片を用いた蛍光免疫組織化学 (1). *日医大医学会誌* 2009 ; 5 (2) : 136-140.
- 2) 三嶋拓也¹⁾, 羅 善順^{1, 2)}, 竹下俊行³⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科分子解剖学, 2) ハルビン医科大学附属第一病院・循環器内科学, 中国, 3) 日本医科大学大学院医学研究科女性生殖発達病態学) : 基礎研究から学ぶ : 2. 組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒント) 非放射性同位元素標識プローブを用いた *in situ* hybridization 法 (4). *日医大医学会誌* 2010 ; 6 (1) : 23-29.

(3) グラビア：

- 1) 石橋 宰¹⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科分子解剖学, 2) 日本医科大学大学院医学研究科女性生殖発達病態学)：マイクロRNAの細胞外放出の鍵を握る小胞：エクソゾーム. 日医大医会誌 2010；6 (1)：2-3.

(4) 序言：

- 1) 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科分子解剖学)：基礎研究から学ぶ：新シリーズ「組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒント)」に向けての序言. 日医大医会誌 2009；5 (2)：135-135.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 瀧澤俊広¹⁾, Robinson MJ²⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), 2) 米国オハイオ州立大学医学部生理細胞生物学講座)：凍結技術による微細構造の解明：組織化学法の有用性, とくに凍結超薄切片作製の発展過程と今後の展望 (記念シンポジウム 組織細胞化学50年の歩みのなかで, 過去を振り返り, 現在を見つめ, 今後を展望する；記念シンポジウム4/9月27日). 第50回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (滋賀 (大津)), 2009. 9.

(2) ワークショップ：

- 1) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 石川 源²⁾, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 松原茂樹³⁾, 間瀬 (吉田) 有里²⁾, 朝倉啓文²⁾, 米山剛一²⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学産婦人科学講座, 3) 自治医科大学産婦人科学講座)：正常および妊娠高血圧症候群の胎盤において発現するマイクロRNAの大規模プロファイリング解析 (WS-6/10月17日). 第17回日本胎盤学会学術集会 (東京), 2009. 10.

(3) 一般講演：

- 1) Takizawa T¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Ishikawa G²⁾, Katayama A³⁾, Takeshita T²⁾ (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 3) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan)：MicroRNA *hsa-miR-517a* is possibly involved in tumor necrosis factor (TNF)-mediated signaling in human placenta (P02.10/Oct 6-9). International Federation of Placenta Association (IFPA) Meeting 2009 (Adelaide, Australia), 2009. 10.
- 2) Ishikawa G¹⁾, Luo S²⁾, Ishibashi O²⁾, Mishima T²⁾, Izumi A³⁾, Ohkuchi A³⁾, Matsubara S³⁾, Takizawa T²⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo 113-8602, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi 329-0498, Japan)：Novel microRNAs cloned from normal and preeclampsia placentas (Nov 14). 3rd SGI (Society for Gynecologic Investigation) International Summit 2009 "Preeclampsia" (Sendai, Japan), 2009. 11.
- 3) 瀧澤俊広¹⁾, 石川 源²⁾, 間瀬有里²⁾, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 松原茂樹³⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), 2) 日本医科大学産婦人科学講座, 3) 自治医科大学産婦人科学講座)：胎盤絨毛栄養膜はエクソゾームを介してmicroRNA (miRNA)を母体血液中に放出している：新しい診断ツールとしてのmiRNA (K1-48/4月3日発表). 第61回日本産科婦人科学会総会・学術講演会 (京都), 2009. 4.
- 4) 間瀬有里¹⁾, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学産婦人科学講座, 2) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：Argonaute2 (Ago2) 免疫沈降法によるヒト卵巣顆粒膜細胞株 (KGN) に発現するmicroRNAのプロファイリング (P2-310/4月4日). 第61回日本産科婦人科学会総会・学術講演会 (京都), 2009. 4.
- 5) 後藤 忠¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 石川朋子¹⁾, 羅 善順¹⁾, 森 美貴¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解

- 剖学講座 (分子解剖学))：解剖学教育におけるミニ臨床講義の導入とその学習に与える影響 (P3-10/7月25日)。第41回日本医学教育学会大会 (大阪), 2009. 7.
- 6) 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：短鎖2本鎖RNAはPKR, RIG-Iおよびp38を介し塩基数依存的にヒト卵巣顆粒膜細胞のアポトーシスを誘導する (P-104/7月28日)。第11回日本RNA学会年会 (新潟), 2009. 7.
- 7) 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：胎盤血管内皮細胞におけるIIb型Fc受容体の動態解析：エレクトロポレーション法によるヒト臍帯静脈内皮細胞への遺伝子導入条件検討 (PI-01/9月26日)。第50回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (滋賀 (大津)), 2009. 9.
- 8) 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：マイクロRNAとその関連蛋白質分子のバイオイメージング動態解析の試み (OI-02/9月26日)。第50回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (滋賀 (大津)), 2009. 9.
- 9) 瀧澤敬美¹⁾, 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 後藤 忠¹⁾, 佐藤陽子²⁾, 小路武彦²⁾, 荒木慶彦³⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 長崎大学大学院組織細胞生物学分野, ³⁾ 順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所)：生殖細胞に発現している*Tex101*に関するin vivoノックダウン解析の試み (PII-14/9月27日)。第50回日本組織細胞化学会総会・学術集会 (滋賀 (大津)), 2009. 9.
- 10) 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：ヒト臍帯静脈内皮細胞をモデルとしたIIb型Fc gamma受容体のバイオイメージング解析 (26/11月27日)。第24回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (東京), 2009. 11.
- 11) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 倉品隆平²⁾, 軸園智雄¹⁾, 石川 源²⁾, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 松原茂樹³⁾, 間瀬 (吉田) 有里²⁾, 朝倉啓文²⁾, 米山剛一²⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 日本医科大学産婦人科学講座, ³⁾ 自治医科大学産婦人科学講座)：妊娠高血圧症候群で発現が変動する胎盤由来マイクロRNAの大規模プロファイリングによる同定の試み (29/11月27日)。第24回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (東京), 2009. 11.
- 12) 瀧澤敬美¹⁾, 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 後藤 忠¹⁾, 佐藤陽子²⁾, 小路武彦²⁾, 荒木慶彦³⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 長崎大学大学院組織細胞生物学分野, ³⁾ 順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所)：Short hairpin RNA発現ベクターを用いた生殖細胞に特異的なGPI蛋白分子, TEX101のノックダウン解析 (04/11月27日)。第24回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (東京), 2009. 11.
- 13) 間瀬 (吉田) 有里¹⁾, 石橋 宰²⁾, 石川 源¹⁾, 石塚文平³⁾, 木口一成³⁾, 片瀬秀隆⁴⁾, 大場 隆⁴⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学産婦人科学講座, ²⁾ 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ³⁾ 聖マリアンナ医科大学産婦人科学講座, ⁴⁾ 熊本大学医学部産科婦人科学講座)：ヒト卵巣顆粒膜細胞株に発現するmicroRNAの大規模プロファイリング解析 (07/11月27日)。第24回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (東京), 2009. 11.
- 14) 倉品隆平¹⁾, 軸園智雄^{2,3)}, 石川朋子²⁾, 間瀬 (吉田) 有里¹⁾, 菊池邦生²⁾, 石橋 宰²⁾, 石川 源¹⁾, 後藤 忠²⁾, 竹下俊行¹⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学産婦人科学講座, ²⁾ 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ³⁾ 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門))：レーザーマイクロダイセクション法を用いた胎盤特異的miRNAの局在解析 (30/11月27日)。第24回日本生殖免疫学会総会・学術集会 (東京), 2009. 11.
- 15) 福田牧葉¹⁾, 菊池邦生^{2,3)}, 伊藤智哉¹⁾, 井上充子¹⁾, 相澤康則²⁾ (1) 東京工業大学生命理工学研究科, ²⁾ 東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター, ³⁾ 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：ノンコーディングRNA研究から発見された新規タンパク質遺伝子AGD3の機能解析 (12月12日/4P-0002)。第32回日本分子生物学会年会 (神奈川 (横浜)), 2009. 12.
- 16) 石川朋子¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学))：ヒト胎盤血管内皮細胞におけるIIb型Fc受容体 (FcRIIb) 解析のためのin vitroモデル作製：ヒト臍帯静脈内皮細胞へのFcRIIb発現遺伝子の導入 (2P-051/3月29日)。第115回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岩手 (盛岡)), 2010. 3.

- 17) 後藤 忠¹⁾, 石川朋子¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 菊池邦生¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学): 解剖学学習に与えるミニ臨床講義の効果 (2P-124 / 3月29日). 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岩手 (盛岡)), 2010. 3.
- 18) 石橋 宰¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学): マイクロRNA およびその関連蛋白質分子のリアルタイム動態解析の試み (3O4-AM1-07/3月30日). 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岩手 (盛岡)), 2010. 3.
- 19) 菊池邦生¹⁾, 川東 豊²⁾, 石川朋子¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 水口義昭²⁾, 石橋 宰¹⁾, 吉田 寛²⁾, 内田英二²⁾, 田尻孝²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 日本医科大学臓器病態制御外科学: 胆管上皮細胞に発現している miRNA の機能解析 (1P-080 / 3月28日). 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岩手 (盛岡)), 2010. 3.
- 20) 瀧澤俊広¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 羅 善順²⁾, 石川 源³⁾, 石川朋子¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 後藤 忠¹⁾, 泉 章夫⁴⁾, 大口昭英⁴⁾, 松原茂樹⁴⁾, 竹下俊行³⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 哈爾濱医科大学附属第一病院循環器内科, ³⁾ 日本医科大学産婦人科学講座, ⁴⁾ 自治医科大学産婦人科学講座: 胎盤特異的 miRNA は絨毛栄養膜由来でありエクソゾームを介して母体血液中に放出される (1O5-AM1-01 / 3月28日). 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岩手 (盛岡)), 2010. 3.
- 21) 瀧澤敬美¹⁾, 後藤 忠¹⁾, 小管拓治¹⁾, 小泉智恵子²⁾, 加嶋はる代²⁾, 平 節子²⁾, 山下富子²⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学解剖学講座 (分子解剖学), ²⁾ 日本医科大学看護専門学校: 看護学生のバーチャルスライドを用いた組織学標本観察の試み (2P-135 / 3月29日). 第115回日本解剖学会総会・全国学術集会 (岩手 (盛岡)), 2010. 3.

2. 解剖学講座（生体構造学）

研究概要

思春期「puberty」は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的にも、精神的にも成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築されると定義される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、思春期前には下垂体の性腺刺激ホルモンであるFSH, LHの分泌は強く抑制されており、GnRHの負荷によっても低反応である。この視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構では説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。そしてGABA系ニューロンの抑制とGlutamate系ニューロンの活性化が思春期発現には重要なことが指摘されてきた。これに加えて、近年、オーファン受容体GPR54のリガンドとして、新規生理活性物質kisspeptinが同定され、kisspeptinによるGnRHニューロンの活性誘導に注目が集まりつつある。医学領域における思春期を対象とした研究では、末梢性機能の変動、身体発達の変化、精神症状の問題などが中心であり、「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々はこれまでに「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」といった課題を中心に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞の機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系の制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンの役割が大きな意味を持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関わる「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、ネットワークの乱れと思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsuzaki T, Hata H¹, Ozawa H, Takata K² (¹ Institute of Experimental Animal Research, Graduate School of Medicine, Gunma University, ⁴ Department of Anatomy and Cell Biology, Graduate School of Medicine, Gunma University) : Immunohistochemical localization of the aquaporins AQP1, AQP3, AQP4 and AQP5 in the mouse respiratory system. *Acta Histochem Cytochem* 2009 ; 42 (6) : 159-169.
- 2) Okabe T, Sato C, Matsumoto K, Ozawa H, Sakamoto A : Electroconvulsive stimulation (ECS) increases the expression of neuropeptide Y (NPY) in rat brain in a model of neuropathic pain : A quantitative real-time polymerase chain reaction (RT-PCR) study. *Pain Medicine* 2009 ; 10 (8) : 1460-1467.
- 3) Sawai N, Ueta Y¹, Nakasato M², Ozawa H (¹ Department of Physiology, University of Occupation and Environmental Health, ² Department of Neurology, Respiratory, Endocrinology and Metabolism, Faculty of Medicine, University of Miyazaki) : Developmental and aging change of orexin-A and -B immunoreactive neurons in the male rat hypothalamus. *Neurosci Lett* 2010 ; 468 (1) : 51-55.
- 4) Tobari Y, Iijima N, Tsunekawa K¹, Ohsugi T², Okanoya K³, Tsutsui K⁴, Ozawa H (¹ Laboratory for Integrative Brain Science, Department of Biology, Waseda University, ² Laboratory for Integrative Brain Science, Department of Biology, Waseda University, ³ Laboratory for Biolinguistics, RIKEN Brain Institute, ⁴ Laboratory for Integrative Brain Science, Department of Biology, Waseda University) : Identification of gonadotropin-inhibitory hormone in the zebra finch (*Taeniopygia guttata*) : Peptide isolation, cDNA cloning and brain distribution. *Peptides* 2010 ; 31 (5) : 816-826.

- 5) Ishikawa Y¹⁾, Yamamoto N²⁾, Yasuda T¹⁾, Yoshimoto M, Ito H (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, Chiba, ²⁾ Laboratory of Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, ³⁾ National Institute of Radiological Sciences, Chiba) : Morphogenesis of the medaka cerebellum, with special reference to the mesencephalic sheet, a structure homologous to the rostralateral part of mammalian anterior medullary velum. *Brain Behav Evol* 2010 ; 75 : 88-103.

(2) 総説 :

- 1) 松崎利行, 高田邦昭, 小澤一史 (¹⁾ 群馬大学大学院医学系研究科生体構造学分野) : 腎臓と唾液腺における細胞膜水チャネル, アクアポリン. *顕微鏡* 2009 ; 44 (2) : 111-116.
- 2) 松崎利行 : 細胞膜水チャネル, アクアポリン : 腎臓を中心として. *日医大医学会誌* 2009 ; 5 (2) : 118-124.
- 3) 小澤一史, 松崎利行 : 免疫電子顕微鏡法の基礎 (組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒント)). *日医大医学会誌* 2009 ; 5 (4) : 215-220.

著 書

- 1) 小澤一史 : [分担] 神経系. みえる人体 : 構造, 機能, 病態 (佐藤達夫, 松尾 理), 2009 ; pp67-101, 南江堂.
- 2) 小澤一史 : [分担] 視床下部・下垂体の正常構造. 下垂体腫瘍のすべて (寺本 明・長村義之), 2009 ; 医学書院.
- 3) 小澤一史 : [分担] 第28章生殖器系の項. (トートラ) 人体の構造と機能 第3版 (桑木共之, 黒澤美枝子, 高橋研一, 細谷保彦), 2010 ; pp1119-1172, 丸善出版.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Takumi K, Iijima N, Ozawa H : Developmental changes in the expression of kisspeptin neurons in rat hypothalamus. *Neuroendocrine Functions of GPCRs* (Kyoto), 2010. 3.
- 2) Iijima N, Takumi K, Tobari Y, Ozawa H : Morphological interaction of kisspeptin fibers and GnRH neurons. *Neuroendocrine Functions of GPCRs* (Kyoto), 2010. 3.
- 3) Ozawa H, Tobari Y, Matsumoto K, Sawai N, Iijima N : Morphofunctional approaches for the investigating the role of kisspeptin neurons by using the newly developed antibody against the synthesized kisspeptin. *Neuroendocrine Functions of GPCRs* (Kyoto), 2010. 3.
- 4) 大江裕美子, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史 : 吸入麻酔薬セボフルランによる時計遺伝子mPer2の発現抑制. 日本時間生物学会学術大会 (第16回) (大阪), 2009. 10.
- 5) 大江裕美子, 飯島典生, 小澤一史, 坂本篤裕 : 吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子mPer2の発現を抑制する. 日本麻酔科学会学術集会 (第56回) (神戸), 2009. 8.
- 6) 飯島典生, 戸張靖子, 松本恵介, 小澤一史 : KisspeptinニューロンとGnRHニューロンの相関に関する免疫組織化学的解析. 日本神経内分泌学会 (第36回) (北九州), 2009. 9.
- 7) 戸張靖子, 飯島典生, 恒川賢太¹⁾, 大杉知裕²⁾, 筒井和義³⁾, 小澤一史 (¹⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学, ²⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学, ³⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学) : 鳴禽類キンカチョウの脳におけるGnRHの同定と脳内発現部位の解析. 日本神経内分泌学会 (第36回) (北九州), 2009. 9.
- 8) 大江裕美子, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史 : 吸入麻酔薬 sevoflurane による時計遺伝子mPer2の発現抑制. 日本神経内分泌学会 (第36回) (北九州), 2009. 9.
- 9) 飯島典生, 戸張靖子, 松本恵介, 小澤一史 : Kisspeptin 神経系に関する免疫組織化学による検討とGnRHニュー

- ーロンとの相関解析. 日本組織細胞化学会総会・学術総会 (50周年記念大会) (大津), 2009. 9.
- 10) 大江裕美子, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史: 吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子mPer2の発現を可逆的に抑制する. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第50回) (大津), 2009. 9.
 - 11) 戸張靖子, 飯島典生, 恒川賢太¹⁾, 大杉知裕²⁾, 筒井和義³⁾, 小澤一史 (¹⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学, ²⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学, ³⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学): 鳴禽類脳における性腺刺激ホルモン放出抑制ホルモンの同定と発現部位の解析. 日本動物学会 (第80回) 大会 (静岡), 2009. 9.
 - 12) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: ラット視床下部における Kisspeptin ニューロンの生後発生に関する分子細胞化学的研究. 日本解剖学会関東支部学術集会 (第97回) (所沢), 2009. 10.
 - 13) 石川裕二¹⁾, 山本直之²⁾, 保田隆子¹⁾, 吉本正美, 伊藤博信 (¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾ 名古屋大学・生命農学研究科): 小脳と中脳の境界, 上髄帆は真骨魚ではどこにあるか?. シンポジウム「水生動物の行動と神経系」(第9回) (名古屋), 2010. 1.
 - 14) 大江裕美子, 飯島典生, 門田佳奈, 坂本篤裕, 小澤一史: 全身麻酔薬 sevoflurane による NAD⁺ 上昇を伴う時計遺伝子 mPer2 の発現抑制. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 15) 澤井信彦, 飯島典生, 松本恵介, 小澤一史: キスペプチンによる背側弓状核ドーパミン神経細胞制御に関する検討. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 16) 飯島典生, 戸張靖子, 澤井信彦, 松本恵介, 小澤一史: Kisspeptin ニューロンと GnRH ニューロンとの機能形態相関に関する免疫組織化学的解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 17) 楊 春英, 松崎利行, 飯島典生, 小澤一史: 性成熟過程におけるラット視床下部正中隆起周囲のグリア細胞の発達について. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 18) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: ラット視床下部における Kisspeptin ニューロンの生後発達にともなう発現変化. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 19) 戸張靖子, 飯島典生, 恒川賢太¹⁾, 大杉知裕¹⁾, 浮穴和義²⁾, 筒井和義¹⁾, 小澤一史 (¹⁾ 早稲田大学大学院理工学研究科生命理工学専攻統合脳科学, ²⁾ 広島大学総合科学部人間科学部門): 鳴禽類 26Rfa/QRFP ペプチドの同定と脳内発現部位の解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 20) 門田佳奈, 飯島典生, 大江裕美子, 坂本篤裕, 小澤一史: 異なる時間帯における全身麻酔 sevoflurane の時計遺伝子 mPer2 およびサーカディアンリズムへの影響. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 21) 稲島有規, 松崎利行, 小林牧人, 小澤一史 (¹⁾ 国際基督教大学・教養学部・理学科, ³⁾ 国際基督教大学・教養学部・理学科): ラット下垂体における水チャネル, アクアポリン4の局在. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 22) 小澤一史: 超高压電子顕微鏡を用いた神経細胞, 神経膠細胞の3次元観察. 日本解剖学会総会・全国学術集会, シンポジウム (第115回) (盛岡), 2010. 3.
 - 23) 小澤一史: 新規生理活性物質「Kisspeptin」が関わる新しい生殖系神経制御機構の可能性. 日本解剖学会総会・全国学術集会, シンポジウム (第115回) (盛岡), 2010. 3.

3. 生理学講座（システム生理学）

研究概要

平成21年度も昨年同様多くの行事があった。7月末の第36回国際生理学会議（京都）では神経内分泌学の泰斗B. S. McEwen教授を招いた。また、国外から12名、国内から3名の演者を得て、GnRHニューロンの細胞生理学についての全日シンポジウムを開催した。京都の学会に先だって4名の海外からのGnRHニューロン研究者を招き、第441-444回日本医科大学医学会特別講演会としてシンポジウム形式で開いた。医学会の異例のご後援に感謝している。生理学会議に引き続き、第2回国際神経内分泌学教室（湯布院）が開かれ、アジア諸国の若手研究者が最新の科学的知見に触れ、実りある3日間を過ごした。9月には第32回日本神経科学会（名古屋）において、京都に招けなかった3名の海外研究者を中心に視床下部の形態形成についてのシンポジウムを組織した。年度末近く京都で開かれた国際内分泌学会では、脳の性分化のシンポジウムを組織した。研究面では脳の性分化の機序の検討を進めた。引き続きGnRHニューロンを用いて、GABAによる興奮と分泌を成熟ラットで確認した。これらの成果は計7編の英文原著で発表した。昨年に引き続き日本生理学会英文誌*J Physiol Sci*に発表した論文が学会の入澤賞を授与された。文部科学省・学術振興会の科学研究費補助金は合計12件を申請したが、継続3件、計560万円の助成に留まった（他に間接経費168万円）。戦略的研究基盤整備事業は2年目を迎え研究は順調に進んでいる。生理学教育では、試験時期の年度末への変更に伴い、病態を強調した講義を開設し好評を得た。かねてから力を傾注している生理学実習でも学生の意識の変化に対応できるよう工夫を加えた。国内外との交流も盛んで、有為の若手をポスドクとして採用、大きな成果が上がっている。平成18年度から編集委員長を務めている*J Physiol Sci*は学術振興会からの刊行助成を得て、順調に刊行が進んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe M, Sakuma Y, Kato M : GABA_A receptors mediate excitation in adult rat GnRH neurons. *Biology of Reproduction* 2009 ; 81 (2) : 327-332.
- 2) Ishii H, Sato S, Yin C, Sakuma Y, Kato M : Cetrorelix, a gonadotropin-releasing hormone antagonist, induces the expression of melatonin receptor 1a in the gonadotropin-releasing hormone neuronal cell line GT1-7. *Neuroendocrinology* 2009 ; 90 (3) : 251-259.
- 3) Kawaguchi M¹⁾, Irie K¹⁾, Morohoshi K²⁾, Watanabe G³⁾, Taya K³⁾, Morita M⁴⁾, Kondo Y, Imai H⁵⁾, Himi T¹⁾ (¹⁾ Dept Pharm Sci, Musashino Univ, ²⁾ Bio Risk Assess Sec, Natl Env Stud, ³⁾ Dept Vet Med, Tokyo Univ Agr Tech, ⁴⁾ Dept Bioresources, Ehime Univ, ⁵⁾ Dept Soc Med, Univ Miyazaki) : Maternal isobutyl-paraben exposure alters anxiety and passive avoidance test performance in adult male rats. *Neuroscience Research* 2009 ; 65 (2) : 136-140.
- 4) Ishii H, Kobayashi M, Sakuma Y : Alternative promoter usage and alternative splicing of the rat estrogen receptor α gene generate numerous mRNA variants with distinct 5'-ends. *Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology* 2010 ; 118 (1/2) : 59-69.

(2) 総説：

- 1) Sakuma Y : Gonadal steroid action and brain sex differentiation in the rat. *Journal of Neuroendocrinology* 2009 ; 21 (4) : 410-414.
- 2) Kato M, Tanaka N, Ishii H, Yin C, Sakuma Y : Ca²⁺ channels and Ca²⁺-activated K⁺ channels in adult rat

gonadotropin-releasing hormone neurones. *Journal of Neuroendocrinology* 2009 ; 21 (4) : 312-315.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Kato M : Slow afterhyperpolarization currents in rat GnRH neurons. The 36 the Congress of the International Union of Physiological Sciences (Kyoto), 2009. 8.
- 2) Kondo Y : Gonadal steroid action on sexual preference in adult rat brain. 国際内分泌学会 (第14回) (京都府), 2010. 3.
- 3) Orikasa C, Sakuma Y : 性ホルモン作用のもとでの内側視索前野性的二型核の成立 Sex steroids and the establishment of the sexually dimorphic nucleus of the preoptic area. 日本神経科学大会 (第32回) (名古屋市), 2009. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Orikasa C, Kondo Y, Usui S, Sakuma Y : Sex steroids and the establishment of the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area. Annual Meeting of the Society for Behavioral Neuroendocrinology (13th) (Lansing, MI), 2009. 6.
- 2) Ishii H, Kobayashi M, Sakuma Y : Genomic organization and structure of the 5'-flanking region of the rat estrogen receptor alpha gene. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 3) Hamada T, Sakuma Y : Visualization of nucleogenesis of the sexually dimorphic nucleus of the preoptic area. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 4) Orikasa C, Kondo Y, Usui S, Sakuma Y : Ontogeny of somatostatin neurons in the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 5) Nobuyuki T, Ishii H, Yin C, Sakuma Y, Kato M : T-type Ca^{2+} channels in adult rat gonadotropin-releasing hormone (GnRH) neurons. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 6) Yin C, Ishii H, Tanaka N, Sakuma Y, Kato M : Neurosteroids augment A type γ -aminobutyric acid receptor ($GABA_A$) currents in rat GnRH neurons. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 7) Dhungel S, Urakawa S, Kondo Y, Sakuma Y : Olfactory preference of male rats after destruction of the medial amygdala or the medial preoptic area. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 8) Kondo Y, Kromkhun P¹⁾, Tanaka M²⁾, Nishimori K³⁾, Saito T¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ Dept Vet Sci, Nippon Vet Life Sci Univ, ²⁾ Dept Ani Sci, Nippon Vet Life Sci Univ, ³⁾ Dept Mol Cell Biol, Tohoku Univ) : The necessity of oxytocin in development of male mouse ultrasonic vocalization in response to female odor. Congress of the International Union of Physiological Sciences (36th) (京都), 2009. 7.
- 9) Orikasa C, Kondo Y, Usui S, Sakuma Y : Sex steroids and the establishment of the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area. Neuroscience 2009 (Chicago IL), 2009. 10.
- 10) Dhungel S, Kondo Y, Masaoka M, Sakuma Y : The medial preoptic area, but not the vomeronasal pathway, is essential for olfactory preference in male rats. Neuroscience 2009 (Chicago IL), 2009. 10.
- 11) Suzuki C, Hamada T, Kakinuma N¹⁾, Kiyama R¹⁾, Sakuma Y, Kiyama-Wada Y (¹⁾ Neuroscience Research Institute) : Estrogen-regulated genes involved in the sexual differentiation of the rat preoptic area. 日本分子生物学会年会 (第32回) (横浜市), 2009. 12.

4. 生理学講座（生体統御学）

研究概要

生理学講座（生体統御学）では、ストレス反応機構、エネルギー代謝調節機構、神経情報伝達機構の解明、中枢性摂食異常症、てんかんおよび神経変性疾患の発症機序の解明に向けて研究を進めている。今年度は以下のような研究成果が得られ、それらの一部は論文として発表された。

1. ストレス反応機構の研究では、ストレス誘発不安行動発現機序における内側前頭前野の役割、ストレスによる摂食抑制における視床下部室傍核の役割についての解析を進めている。下垂体細胞からCorticotropin releasing factor（CRF）ファミリーペプチドに属するUrocortin 2がストレス下でCRFにより分泌され、黄体形成ホルモンの合成、分泌を抑制することを明らかにし、この視床下部CRF-下垂体Urocortin 2-下垂体ゴナドトロピン軸がストレスによる性腺系の抑制に関与する可能性を示した。

2. 摂食、エネルギー代謝調節機構の研究では、グレリンが褐色脂肪組織の熱産生機能を抑制してエネルギー蓄積を促進すること、グレリン受容体発現抑制トランスジェニックラットではこのグレリンの作用が阻害されているために痩せの表現型を呈すること、ニコチンはCRFの1型受容体を介して褐色脂肪組織でのエネルギー消費を促進することを明らかにした。

3. てんかん発症機構の研究では、キンドリングてんかん焦点の形成に伴う海馬興奮性シナプス伝達の異常増強と、この異常シナプス伝達増強に対する新規抗てんかん薬レベチラセタムの抑制効果を電気生理学的に明らかにした。

4. 神経情報伝達機構の研究では、GABA、グリシン両抑制性伝達物質の働きの除去下で脊髄前根および後根に同期して記録される周期性を持った活動電位の出現が、脊髄後角におけるIh電流の働きに依存していることをラット幼若摘出脊髄標本を用いて明かにした。

5. 神経変性発症機序の研究では、同機序に関与するミクログリアの活性化メカニズムを動物モデルおよびミクログリア培養細胞を用いて解析している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nemoto T, Yamauchi N, Shibasaki T : Novel action of pituitary urocortin 2 in the regulation of expression and secretion of gonadotropins. *J Endocrinol* 2009 ; 201 (1) : 105-114.
- 2) Wei J¹⁾, Fujita M¹⁾, Nakai M¹⁾, Waragai M¹⁾, Sekigawa A¹⁾, Sugama S, Takenouchi T²⁾, Masliah E³⁾, Hashimoto M¹⁾ (1) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, 2) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, 3) Department of Neurosciences, University of California, San Diego) : Protective role of endogenous gangliosides for lysosomal pathology in a cellular model of synucleinopathies. *Am J Pathol* 2009 ; 174 (5) : 1891-1909.
- 3) Mano-Otagiri A, Iwasaki-Sekino A, Ohata H, Shibasaki T : Nicotine suppresses energy storage through activation of sympathetic outflow to brown adipose tissue via corticotropin-releasing factor type 1 receptor. *Neurosci Lett* 2009 ; 455 (1) : 26-29.
- 4) Sugama S : Stress-induced microglial activation may facilitate the progression of neurodegenerative disorders. *Med Hypotheses* 2009 ; 73 (6) : 1031-1034.
- 5) Mano-Otagiri A, Ohata H, Iwasaki-Sekino A, Nemoto T, Shibasaki T : Ghrelin suppresses noradrenaline release in the brown adipose tissue of rats. *J Endocrinol* 2009 ; 201 (3) : 341-349.

- 6) Takenouchi T¹⁾, Fujita M¹⁾, Sugama S, Kitani H²⁾, Hashimoto M²⁾ (¹⁾ Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, ²⁾ Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences) : The role of the P2X7 receptor signaling pathway for the release of autolysosomes in microglial cells. *Autophagy* 2009 ; 5 (5) : 723-724.
- 7) Alboni S¹⁾, Cervia D²⁾, Ross B³⁾, Montanari C¹⁾, Gonzalez A³⁾, Sanchez-Alavez M³⁾, Marcondes M³⁾, De Vries D³⁾, Sugama S, Brunello N⁴⁾, Blom J⁴⁾, Tascedda F¹⁾, Conti B³⁾ (¹⁾ Department of Biomedical Sciences, University of Modena and Reggio Emilia, ²⁾ Department of Environmental Sciences, University of Tuscia, ³⁾ Harold L. Dorris Neurological Research Center, Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute, ⁴⁾ Department of Paediatrics, University of Modena and Reggio Emilia) : Mapping of the full length and the truncated interleukin-18 receptor alpha in the mouse brain. *J Neuroimmunol* 2009 ; 214 (1-2) : 43-54.
- 8) Hotta M¹⁾, Ohwada R²⁾, Akamizu T³⁾, Shibasaki T, Takano K²⁾, Kangawa K⁴⁾ (¹⁾ Health Service Center, National Graduate Institute, ²⁾ Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Ghrelin Research Project, Kyoto University School of Medicine, ⁴⁾ National Cardiovascular Center Research Institute) : Ghrelin increases hunger and food intake in patients with restricting-type anorexia nervosa : a pilot study. *Endocrin J* 2009 ; 56 (9) : 1119-1128.
- 9) Sugaya Y^{1, 2)}, Jinde S¹⁾, Kato N^{3, 4)}, Maru E (¹⁾ Department of Psychiatry, University of Tokyo, ²⁾ Department of Physiology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Psychiatry, Showa University School of Medicine, ⁴⁾ JST, CREST, Showa University School of Medicine) : Levetiracetam inhibits kindling-induced synaptic potentiation in the dentate gyrus of freely moving rats. *Neuroscience Research* 2010 ; 66 (2) : 228-231.
- 10) Mano-Otagiri A, Iwasaki-Sekino A, Nemoto T, Ohata H, Shuto Y¹⁾, Nakabayashi H²⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾, Shibasaki T (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Life Science, Graduate School of Natural Science and Technology and Health Science Service Center, Kanazawa University) : Genetic suppression of ghrelin receptors activates brown adipocyte function and decreases fat storage in rats. *Regul Pept* 2010 ; 160 (1-3) : 81-90.
- 11) 根本崇宏, 大島久幸, 芝崎 保 : ストレスによるゴナドトロピン分泌および発現低下への下垂体中葉ウロコリン2の関与の解明. *Acth Related Peptides* 2010 ; 20 : 29-30.
- (2) 総説 :
- 1) Fujita M¹⁾, Sekigawa A¹⁾, Sekiyama K¹⁾, Sugama S, Hashimoto M¹⁾ (¹⁾ Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Neurotoxic conversion of beta-synuclein : a novel approach to generate a transgenic mouse model of synucleinopathies?. *J Neurol* 2009 ; 256 (Suppl 3) : 286-292.
- 2) Takenouchi T¹⁾, Sugama S, Iwamaru Y¹⁾, Hashimoto M²⁾, Kitani H¹⁾ (¹⁾ Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, ²⁾ Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Modulation of the ATP-induced release and processing of IL-1b in microglial cells. *Crit Rev Immunol* 2009 ; 29 (4) : 335-345.
- 3) Sugama S, Takenouchi T¹⁾, Cho B²⁾, Joh T³⁾, Hashimoto M⁴⁾, Kitani H¹⁾ (¹⁾ Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, ²⁾ Department of Anatomy and Institute of Basic Medical Science, Yonsei University Wonju College of Medicine, ³⁾ Department of Neurology and Neuroscience, Weil Medical College of Cornell University, ⁴⁾ Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Possible roles of microglial cells for neurotoxicity in clinical neurodegenera-

- tive diseases and experimental animal models. *Inflamm Allergy Drug Targets* 2009 ; 8 (4) : 277-284.
- 4) Alboni S¹⁾, Cervia D²⁾, Sugama S, Conti B³⁾ (¹⁾ Department of Biomedical Sciences, University of Modena and Reggio, ²⁾ Department of Environmental Sciences, University of Tuscia, ³⁾ Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute) : Interleukin-18 in the CNS. *J Neuroinflammation* 2010 ; 9 (214) : 43-54.
- 5) 新井桂子, 芝崎 保 : やせとストレス反応. *Pharma Medica* 2009 ; 27 (10) : 13-17.

著 書

- 1) 芝崎 保 : [翻訳] ウロコルチン Urocortins. ストレス百科事典 (ストレス百科事典翻訳刊行委員会), 2010 ; pp190-196, Maruzen.
- 2) 芝崎 保 : [翻訳] バソプレッシン Vasopressin. ストレス百科辞典 (ストレス百科事典翻訳刊行委員会), 2010 ; pp2212-2217, Maruzen.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 芝崎 保 : CRFを中心としたストレス反応機構と神経性食欲不振症の病態. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第24回) (横浜), 2009. 11.

(2) セミナー :

- 1) 丸 栄一 : 側頭葉てんかん基礎研究の展望. 日本てんかん学会 (第43回) (弘前), 2009. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Nemoto T, Ohata H, Shibasaki T : Possible role of Urocortin 2 secreted by the intermediate lobe of the pituitary in stress-induced suppression of expression and secretion of gonadotropins in rats. The Endocrine Society' s Annual Meeting (92th) (Washington, DC, USA), 2009. 6.
- 2) Sugama S : Differential microglial activation between acute stress and lipopolysaccharide treatment. International Congress of Physiological Sciences (XXXVI ; IUPS2009) (Kyoto, Japan), 2009. 7.
- 3) Harada Y : ZD7288-sensitive oscillation in immature rat spinal cord. International Congress of Physiological Sciences (XXXVI ; IUPS2009) (Kyoto, Japan), 2009. 7.
- 4) Nemoto T, Kano T¹⁾, Tamura H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾, Shibasaki T (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Mechanisms of action of ghrelin/GHRP on the hypothalamic-pituitary-adrenal axis in rats. 2009 International Symposium on Ghrelin (Tokyo, Japan), 2009. 11.
- 5) Mano-Otagiri A, Nemoto T, Shibasaki T : Role of ghrelin in age-related body fat accumulation in rats. 2009 International Symposium on Ghrelin (Tokyo, Japan), 2009. 11.
- 6) Nemoto T, Shibasaki T : Analysis of GHRH-GH-IGF-1 axis in intrauterine growth retardation rats which did not show catch-up growth. International Congress of Endocrinology (14th) (Kyoto, Japan), 2010. 3.
- 7) 根本崇宏, 大島久幸, 山内直子, 芝崎 保 : ストレス性の性周期異常への下垂体中葉ウロコルチン2の関与の解明. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 8) 大島久幸, 芝崎 保 : 内側前頭前野への corticotropin-releasing factor 局所投与によるラットの高架式十字迷路上の不安行動に及ぼす効果. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 9) 眞野あすか, 岩崎あずさ, 芝崎 保 : グレリンによるエネルギー蓄積作用の加齢に伴う変化についての解析. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 10) 根本崇宏, 芝崎 保 : 雌ラットにおける視床下部-下垂体-性腺系でのウロコルチン2の発現量の変化. 内分泌代謝学サマーセミナー (第27回) (坂井), 2009. 7.

- 11) 根本崇宏, 大畠久幸, 芝崎 保: 雌雄ラットにおけるストレス負荷による下垂体ウロコルチン2 mRNA 発現の変化. 日本神経内分泌学会 (第36回) (北九州), 2009. 9.
- 12) 眞野あすか, 岩寄あずさ, 芝崎 保: ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用におけるCRFの役割. 日本神経内分泌学会 (第36回) (北九州), 2009. 9.
- 13) 菅谷佑樹¹⁾, 丸 栄一, 芝崎 保, 加藤進昌²⁾ (¹⁾ 東京大学医学部精神医学教室, ²⁾ 昭和大学医学部精神医学教室): 新規抗てんかん薬レベチラセタムはカイニン酸重積発作後の異所性顆粒細胞新生を抑制する. 日本てんかん学会 (第43回) (弘前), 2009. 10.
- 14) 根本崇宏, 大畠久幸, 芝崎 保: 妊娠中に摂餌制限した母ラットからの出生仔におけるHPA軸の解析. 間脳・下垂体・副腎系研究会 (第21回) (東京), 2010. 3.
- 15) 根本崇宏, 大畠久幸, 芝崎 保: 子宮内発育遅延ラットにおける食行動異常の解析. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.
- 16) 眞野あすか, 岩寄あずさ, 芝崎 保: グレリンによるエネルギー調節機構の解析. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.

5. 生化学・分子生物学講座（構造生物学・代謝学）

研究概要

平成21年度より講座主任が交代し、新たな研究テーマを開始した。以前より行ってきたテーマも進展している。

1. 石灰化のメカニズムとアルカリフォスファターゼ 石灰化における組織非特異型アルカリフォスファターゼ (TNAP) の役割を検討している。(1) TNAPの自然基質である無機ピロリン酸は、TNAPを欠損する低フォスファターゼ症で上昇するが、測定法が複雑である。非RI測定法の改良を行い、マウスで測定できたので今後ヒトの正常値を決定する。(2) 低フォスファターゼ症をきたす変異TNAPを細胞で発現させ、石灰化能を評価する方法を開発し、高頻度の変異につき検討中である。(3) 島田研究室との共同研究によりモデルマウスを用いた低フォスファターゼ症の遺伝子治療実験を行い、長期生存と正常石灰化を認めた。

2. ヒト細胞のメタボローム解析 沖縄科学技術研究基盤整備機構との共同研究により、各種ヒト細胞の低グルコース条件下培養時のメタボローム解析を開始した。

3. スーパーオキシドの産生と分解に関する酵素 (1) 過酸化水素、スーパーオキシドを生産するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素のX線結晶解析による3次元構造に基き、変異体ノックインマウスを作成、解析中である。またALSモデルマウスを用いて成因との関係などの解析を進めている。(2) ヘムペルオキシダーゼのノックアウトマウスを作成し過酸化水素の生体への影響を解析している。(3) 酸化的ストレス抵抗性蛋白質と予想されるペルオキシレドキシン (HBP23) の3次元構造を決定し反応速度論的解析を進めている。

4. 好熱菌等の鉄硫黄酵素 好熱菌等の鉄硫黄酵素の構造機能進化に関する国内外共同研究を進めている。

5. プロテオーム解析 女性診療科や東大との共同研究により、卵巣内や真菌分泌蛋白質の2次元電気泳動とMSによる蛋白質の同定を進めている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Iwasaki T, Kounosu A, Ohmori D¹⁾, Hayashi-Iwasaki Y²⁾, Oshima T²⁾, Dikanov AS³⁾, Cowart MD⁴⁾, Koppolu MU⁴⁾, Scott AR⁴⁾, Kumasaka T⁵⁾ (1) Juntendo Univ., 2) Kyowa Kako Co., 3) Univ. Illinois, 4) Univ. Georgia, 5) SPring-8/JASRI/RIKEN) : Thermophile “NEET” : structure toward functional understanding. *J Biol Inorg Chem* 2009 ; 14 (Suppl 1) : S212-S212.

(1) 原著：

- 1) Iwasaki T, Samoilova IR¹⁾, Kounosu A, Ohmori D²⁾, Dikanov AS³⁾ (1) Russian Acad. Sci., 2) Juntendo Univ., 3) Univ. Illinois) : Continuous-wave and pulsed EPR characterization of the [2Fe - 2S] (Cys)₃ (His)₁ cluster in rat mitoNEET. *J Am Chem Soc* 2009 ; 131 (38) : 13659-13667.
- 2) Hager S¹⁾, Lampert MF¹⁾, Orimo H, Stark BG¹⁾, Finkenzeller G¹⁾ (1) Department of Plastic and Hand Surgery, University of Freiburg Medical Center) : Up-regulation of alkaline phosphatase expression in human primary osteoblasts by cocultivation with primary endothelial cells is mediated by p38 mitogen-activated protein kinase-dependent mRNA stabilization. *Tissue Eng* 2009 ; 15 (11) : 3437-3447.
- 3) Iwasaki T, Samoilova IR¹⁾, Kounosu A, Dikanov AS²⁾ (1) Russian Acad. Sci., 2) Univ. Illinois) : Two-dimensional pulsed electron spin resonance characterization of ¹⁵N-labeled archaeal Rieske-type ferredoxin.

FEBS Lett 2009 ; 583 (21) : 3467-3472.

(2) 総説 :

- 1) Nagahara N¹⁾, Matsumura T, Okamoto R²⁾, Kajihara Y²⁾ (¹⁾ Dept. Environmental Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. Chemistry, Graduate School of Science, Osaka Univ.) : Protein Cysteine Modifications : (1) Medicinal Chemistry for Proteomics. Current Medicinal Chemistry 2009 ; 16 (33) : 4419-4444.
- 2) Nagahara N¹⁾, Matsumura T, Okamoto R²⁾, Kajihara Y²⁾ (¹⁾ Dept. Environmental Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. Chemistry, Graduate school of Science, Osaka Univ.) : Protein Cysteine Modifications : (2) Reactivity Specificity and Topics of Medicinal Chemistry and Protein Engineering. Current Medicinal Chemistry 2009 ; 16 (34) : 4490-4501.
- 3) Orimo H : The mechanism of mineralization and the role of alkaline phosphatase in health and disease. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 4-12.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 折茂英生 : 硬い組織はどうしてできるのか? : 石灰化のメカニズムとアルカリホスファターゼ. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Yamamoto S¹⁾, Orimo H, Matsumoto T¹⁾, Narisawa S²⁾, Millán LJ²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Burnham Institute) : Long term phenotypic correction of severe infantile hypophosphatasia in a mouse model by neonatal injection of lentiviral vector. Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (12th) (San Diego, CA, USA), 2009. 5.
- 2) Iwasaki T, Kounosu A, Ohmori D¹⁾, Hayashi-Iwasaki Y²⁾, Oshima T²⁾, Dikanov AS³⁾, Cowart MD⁴⁾, Koppolu MU⁴⁾, Scott AR⁵⁾, Kumasaka T (¹⁾ Juntendo Univ. , ²⁾ Kyowa Kako Co. , ³⁾ Univ. Illinois, ⁴⁾ Univ. Georgia, ⁵⁾ SPring-8/JASRI/RIKEN) : Thermophile "NEET" : structure toward functional understanding. International Conference on Biological Inorganic Chemistry (14th) (Nagoya, Japan), 2009. 7.
- 3) Okamoto K, Kawaguchi Y, Nishino T, Nishino T : Mechanism of Transition from Xanthine Dehydrogenase to Xanthine Oxidase : Structural Asymmetry of Subunits. Gordon Research Conference (Lucca, Italy), 2009. 7.
- 4) Kusano T, Okamoto K, Nishino T : Substrates and Product Binding Modes and Hydroxylation Mechanism of Xanthine Oxidoreductase : Crystal Structures of the Enzyme-Substrates/Product Complexes. Gordon Research Conference on Molybdenum & Tungsten Enzymes (Lucca (Barga) Italy), 2009. 7.
- 5) Yamamoto S¹⁾, Orimo H, Matsumoto T¹⁾, Narisawa S²⁾, Millán LJ²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Burnham Institute) : Lentivirus mediated neonatal gene therapy for severe infantile hypophosphatasia. International Congress of Inborn Errors of Metabolism (11th) (San Diego, CA, USA), 2009. 8.
- 6) Matsumoto T¹⁾, Yamamoto S¹⁾, Miyake K¹⁾, Miyake N¹⁾, Odagaki Y¹⁾, Orimo H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School) : Adeno-associated virus (AAV) type8 mediated systemic neonatal gene therapy for hypophosphatasia. Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (59th) (Honolulu, Hawaii), 2009. 10.
- 7) Watanabe A¹⁾, Banyar NT¹⁾, Sawai H²⁾, Karasugi T³⁾, Kondo H¹⁾, Ikegawa S³⁾, Orimo H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School,

- ²⁾ Genetic Counseling and Clinical Research Unit, Kyoto University, ³⁾ Laboratory for Bone and Joint Diseases, Center for Genomic Medicine, RIKEN) : Genotype frequency of 1559T deletion (1559delT) in the TNSALP gene and clinical significance of hypophosphatasia in Japan. ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (17th) (Albuquerque, New Mexico, USA), 2010. 3.
- 8) Matsumoto T¹⁾, Yamamoto S¹⁾, Miyake K¹⁾, Miyake N¹⁾, Orimo H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School) : Adeno-associated virus (AAV) type-8 mediated systemic neonatal gene therapy for hypophosphatasia. 日本遺伝子治療学会 (第15回) (大阪), 2009. 7.
- 9) Watanabe A¹⁾, Orimo H, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School) : Genotype frequency and clinical significance of 1559T deletion in the TNSALP gene in Japan. ALPS研究会 (第8回) (新潟), 2009. 7.
- 10) Yamamoto S¹⁾, Orimo H, Matsumoto T¹⁾, Narisawa S²⁾, Millán LJ²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Molecular Genetics, Department of Biochemistry & Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Burnham Institute) : Lentivirus mediated neonatal gene therapy for severe infantile hypophosphatasia. ALPS研究会 (第8回) (新潟), 2009. 7.
- 11) 鴻巣麻子, 大森大二郎¹⁾, 漆山秋雄²⁾, 岩崎俊雄 (¹⁾ 順天大, ²⁾ 立教大) : Toward heterologous overexpression of hyperthermophilic archaeal iron-sulfur metalloenzyme complexes in *Escherichia coli* : a case study with the archaeal recombinant SdhC subunit. 日本分子生物学会年会 (第32回) (横浜), 2009. 12.
- 12) 西野朋子, 岡本 研, 川口裕子, 辻井厚子, 松村智裕, 堀 弘幸¹⁾, 西野武士 (¹⁾ 愛媛大・応用化) : キサンチン脱水素酵素から酸化酵素に変換する際の遷移状態における二量体サブユニット構造の非対称性. 日本蛋白質科学会年会 (9) (熊本), 2009. 5.
- 13) 川口裕子, 西野朋子, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : ラットキサンチン脱水素酵素における機能的CH...O水素結合の存在. 日本蛋白質科学会年会 (9) (熊本), 2009. 5.
- 14) 渡邊 淳¹⁾, 折茂英生, 島田 隆¹⁾, 南 史朗²⁾, 宮田広樹³⁾, 片山志郎³⁾, 宮下正夫⁴⁾, 松本智司⁴⁾, 内田英二⁴⁾, 峰岸裕司⁵⁾, 弦間昭彦⁵⁾, 米山剛一⁶⁾, 山口博樹⁷⁾, 猪口孝一⁷⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学), ²⁾ 老人病研究所 (疫学部門), ³⁾ 付属病院薬剤部, ⁴⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ⁵⁾ 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門), ⁶⁾ 産婦人科学, ⁷⁾ 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : 日本医科大学付属病院におけるオーダーメイド医療への取り組み : イリノテカン投与に向けたUGT1A1遺伝子多型検査を院内で開始して. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
- 15) 松本多絵¹⁾, 山本晴子¹⁾, 三宅弘一¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 小田垣祐子¹⁾, 折茂英生, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)) : AAVベクターによる低ホスファターゼ血症の遺伝子治療. 日本人類遺伝学会大会 (第54回) (東京), 2009. 9.
- 16) 渡邊 淳¹⁾, 澤井英明²⁾, 近藤仁美¹⁾, Banyar NT¹⁾, 菅野華子¹⁾, 唐杉 樹³⁾, 池川志郎³⁾, 折茂英生, 島田隆¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学), ²⁾ 京大大学院・医・社会健康医学系・遺伝カウンセラー・コーディネータユニット, ³⁾ 理化学研究所・ゲノム医学センター) : 周産期型低ホスファターゼ症の課題 : 変異スクリーニング法の開発とTNSALP 1559T del保因者頻度の同定. 日本人類遺伝学会大会 (第54回) (東京), 2009. 9.
- 17) 草野輝男, 松田陽子¹⁾, 西野朋子, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 西野武士 (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : Knock-out マウスを用いたラクトペルオキシダーゼの組織局在の網羅的解析. 日本生化学会大会 (第82回) (神戸), 2009. 10.
- 18) 堀 千明¹⁾, 五十嵐圭日子¹⁾, 片山 映, 鮫島正浩¹⁾ (¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科) : トランスクリプトーム配列データベースを用いた *Phanerochaete chrysosporium* の全分泌タンパク質 (セクレトーム) 解析.

糸状菌分子生物学会（第9回）（東京），2009. 11.

- 19) 桑原慶充¹⁾，片山 映，峯 克也¹⁾，阿部 崇¹⁾，富山僚子¹⁾，明楽重夫¹⁾，竹下俊行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学産婦人科学）：ゴナドトロピンサージによるマウス卵巣におけるケモカインCCL11 (Eotaxin I) の発現調節および解析. 日本生殖免疫学会総会・学術集会（第24回）（東京），2009. 11.
- 20) 西野朋子，李 穎，岡本 研，草野輝男，川口裕子，松村智裕，青木直人¹⁾，松田 幹²⁾，西野武士（¹⁾ 三重大・生命資源・生物圏生命科学，²⁾ 名古屋大・生命農学・応用分子生命科学）：プチロフィリンが有す多機能B30. 2/SPRYドメインとミルクキサンチン酸化還元酵素との結合様式について. 日本生化学会大会（82）（神戸），2009. 12.
- 21) 川口裕子，西野朋子，松村智裕，岡本 研，西野武士：ラットキサンチン脱水素酵素におけるCH...O結合がFADの酸化還元電位に与える影響について. 日本生化学会大会（82）（神戸），2009. 12.
- 22) 松本浩二，岡本 研，松村智裕，草野輝男，西野武士：新規キサンチン酸化還元酵素阻害剤FYX-051の酵素学的，構造生物学的解析. 日本生化学会大会（82）（神戸），2009. 12.
- 23) 岡本 研，松村智裕，草野輝男，松本浩二，西野武士：キサンチン酸化還元酵素の基質結合様式と基質活性化機構. 日本生化学会大会（82）（神戸），2009. 12.
- 24) 牧内正男，辻田和宏，草野輝男，西野朋子，柿沼カツ子：近赤外極微光検出装置を用いたヘムペルオキシダーゼ由来の1重項酸素の定量的測定法. 日本生化学会大会（82）（神戸），2009. 12.
- 25) 辻田和宏，草野輝男，牧内正男，西野朋子，柿沼カツ子：哺乳類ヘムペルオキシダーゼによる1重項酸素の生成. 日本生化学会大会（82）（神戸），2009. 12.
- 26) 松本浩二，岡本 研，芦澤直樹，松村智裕，西野武士：新規キサンチン酸化還元酵素阻害剤FYX-051の作用機序に関する酵素学的，構造生物学的解析. 第43回日本痛風・核酸代謝学会総会（大阪），2010. 2.
- 27) 堀 千明¹⁾，五十嵐圭日子¹⁾，鮫島正浩¹⁾，片山 映（¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科）：担子菌Postia placentaがグルコマンナン分解過程で生産する菌体外タンパク質の網羅的解析. 日本木材学会（第60回）（宮崎），2010. 3.

6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学・栄養学）

研究概要

分子遺伝学部門では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝子診療も含めた、包括的なゲノム医学に取り組んでいる。遺伝病グループでは治療法のない重篤な遺伝病である。異染性白質ジストロフィー：MLDや低フォスファターゼ症：HPPの遺伝子治療法の開発を進めている。神経変性を伴うMLDモデルマウスの治療では、脳血液関門：BBBの存在と、免疫反応による遺伝子発現の抑制が大きな障害になっている。BBBを通過して中枢神経組織に遺伝子を導入する方法として、これまでに脳実質や髄腔内にベクターを注入する方法を開発してきた。新たに、造血幹細胞を増殖させるHOXB4遺伝子をレトロウイルスベクターで導入した骨髓細胞を使った細胞遺伝子治療法の有用性を示した。造血幹細胞がBBBを通過して、中枢神経系に侵入しミクログリアに分化して、周囲に欠損酵素を分泌したための治療効果と考えられる。癌治療グループでは、マウスのリンパ腫モデルや白血病モデルに対する遺伝子治療実験で、AAVベクターを使って全身にIL24を供給することによる治療効果を確認した。遺伝子解析グループでは新たに開発した高感度融解温度曲線解析法を利用して、血管型エーラス・ダンロス症候群の新規遺伝子変異を同定した。又、ハイテクリサーチ・ゲノム解析室及び付属病院ゲノム先端医療部と連携してオーダーメイド医療のための薬剤感受性遺伝子解析を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ogawa K, Hirai Y, Ishizaki M¹⁾, Takahashi H, Hanawa H, Fukunaga Y²⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Long-term inhibition of glycosphingolipid accumulation in Fabry model mice by a single systemic injection of AAV1 vector in the neonatal period. *Molecular Genetics and Metabolism* 2009 ; 96 (1) : 91-96.
- 2) Ikezono T¹⁾, Shindo S¹⁾, Sekiguchi S²⁾, Hanprasertpong C¹⁾, Li L¹⁾, Pawankar R¹⁾, Morizane T³⁾, Baba S¹⁾, Koizumi Y¹⁾, Sekine K¹⁾, Watanabe A, Komatsuzaki A⁴⁾, Murakami S⁵⁾, Kobayashi T⁶⁾, Miura M⁷⁾, et al. (¹⁾ 耳鼻咽喉科学, ²⁾ 三菱化学生命科学研究所, ³⁾ 神奈川歯科大学, ⁴⁾ 神経耳科診療所, ⁵⁾ 名古屋市立大学, ⁶⁾ 東北大学, ⁷⁾ 北陸大学薬学部) : Cochlin-Tomoprotein : A Novel Perilymph-Specific Protein and a Potential Marker for the Diagnosis of Perilymphatic Fistula. *Audiol Neurootol* 2009 ; 14 (5) : 338-344.
- 3) Hanawa H, Yamamoto M, Zhao H¹⁾, Shimada T, Persons D¹⁾ (¹⁾ Dept Hematology, St. Jude Children's Research Hospital) : Optimized lentiviral vector design improves titer and transgene expression of vectors containing the chicken beta-globin locus HS4 insulator element. *Mol Ther* 2009 ; 17 (4) : 667-674.
- 4) Iwamoto N¹⁾, Watanabe A, Yamamoto M, Miyake N, Kurai T, Teramoto A¹⁾, Shimada T (¹⁾ 脳神経外科学) : Global diffuse distribution in the brain and efficient gene delivery to the dorsal root ganglia by intrathecal injection of adeno-associated viral vector serotype 1. *J Gene Med* 2009 ; 11 (6) : 498-505.
- 5) Uchida N, Hanawa H, Dan K¹⁾, Inokuchi, K¹⁾, Shimada T (¹⁾ 血液内科) : Leukemogenesis of b2a2-type p210 BCR/ABL in a bone marrow transplantation mouse model using a lentiviral vector. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (3) : 134-147.
- 6) Sekine K¹⁾, Ikezono T¹⁾, Matsumura T²⁾, Shindo S¹⁾, Watanabe A, Li L¹⁾, Pawankar R¹⁾, Nishino T²⁾, Yagi T¹⁾ (¹⁾ 耳鼻咽喉科学, ²⁾ 生化学・分子生物学) : Expression of cochlin mRNA splice variants in the inner ear. *Audiol Neurootol* 2009 ; 15 (2) : 88-96.

- 7) Hayakawa J¹⁾, Migita M¹⁾, Ueda T¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Adachi K¹⁾, Ooue Y, Hayakawa M¹⁾, Shimada T, Fukunaga Y¹⁾ (1) 小児科学) : Dextran sulfate and stromal cell derived factor-1 promote CXCR4 expression and improve bone marrow homing efficiency of infused hematopoietic stem cells. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (4) : 198-208.
- 8) Nakajima M¹⁾, Ueda T¹⁾, Migita M¹⁾, Oue Y, Shima Y¹⁾, Shimada T, Fukunaga Y¹⁾ (1) 小児科学) : Hematopoietic capacity of preterm cord blood hematopoietic stem/progenitor cells. Biochem Biophys Res Commun 2009 ; 389 (2) : 290-294.

(2) 総説 :

- 1) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院ゲノム先端医療部) : 「オーダーメイド遺伝子医療の現状・課題と展望」医療の現場では 問題提起 オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題. 日本遺伝カウンセリング学会雑誌 2009 ; 30 (2) : 69-77.

(3) 症例報告 :

- 1) Ohkuchi A¹⁾, Matsubara S¹⁾, Takahashi K¹⁾, Inoue S²⁾, Saito T³⁾, Mitsuhashi T⁴⁾, Yamagata T⁵⁾, Takahashi N⁵⁾, Watanabe A⁶⁾, Shimada T⁶⁾, Suzuki M¹⁾ (1) 自治医科大学産婦人科教室, 2) 自治医科大学麻酔科, 3) 自治医科大学心臓血管外科, 4) 自治医科大学循環器内科, 5) 自治医科大学小児科, 6) 付属病院遺伝診療科) : Ehlers-Danlos type IV in pregnancy with a history of myocardial infarction. J Obstet Gynaecol Res 2009 ; 35 (4) : 797-800.

著 書

- 1) 渡邊 淳 : [翻訳] 第3章 ヒトゲノム : 遺伝子の構造と機能. トンプソン&トンプソン遺伝医学 (福嶋義光), 2009 ; pp27-44, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Shimada T : Neonatal gene therapy of metachromatic leukodystrophy. 12th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (San Diego), 2009. 5.
- 2) Watanabe A¹⁾, Tang B, Shimada T¹⁾ (1) 付属病院遺伝診療科) : A new categorized COL3A1 mutation detected by genome scanning with vascular Ehlers-Danlos syndrome (vEDS). 8th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium (PPCTSS), 41st Annual Meeting of the Japanese Society of Connective Tissue Research (JSCTR), 56th Annual Meeting of the Japan Matrix Club (JMC) (Hayama, Kanagawa), 2009. 6.
- 3) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T : Adeno-associated virus (AAV) mediated neonatal gene therapy of metachromatic leukodystrophy. The 3rd International Symposium of Lysosomal Storage Diseases (Nagoya), 2009. 9.
- 4) 渡辺 淳^{1,2)}, 島田 隆^{1,2)} (1) 付属病院遺伝診療科, 2) 付属病院ゲノム先端医療部) : 「オーダーメイド遺伝子医療の現状・課題と展望」1) 医療の現場では 問題提起 オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題. 第33回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (兵庫医科大学 (兵庫県 西宮市)), 2009. 7.
- 5) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院ゲノム先端医療部) : 薬物治療において遺伝情報を適切に利用するための課題 : 今, 臨床の現場で起こりつつあること. 日本緩和医療薬学会第3回年会 (横浜), 2009. 10.
- 6) 渡邊 淳¹⁾ (1) 付属病院ゲノム先端医療部) : 薬・遺伝・倫理 — 重なり合う未来に D5-1 薬理遺伝学検査 : 研究から臨床へ・今, 臨床の現場で起こりつつあること. 第21回日本生命倫理学会年次大会 (横浜), 2009. 11.

(2) 一般講演 :

- 1) Miyake N, Miyake K, Odagaki Y, Yamamoto M, Shimada T : Direct comparison of adeno-associated virus

- serotypes for global gene transfer into the CNS across the BBB after neonatal systemic delivery. 12th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy (San Diego), 2009. 5.
- 2) Yamamoto S, Orimo H, Matsumoto T, Narisawa S, Millan J, Shimada T : Long term phenotypic correction of severe infantile hypophosphatasia in a mouse model by neonatal injection of lentiviral vector. 12th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy. (San Diego), 2009. 5.
 - 3) Watanabe A¹⁾, Yamamoto M, Naing B, Kondo H, Sugano H, Oue Y, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科) : Problems in genetic testing for metachromatic leukodystrophy. 3rd International Lysosomal Disease Symposium (Nagoya), 2009. 9.
 - 4) Yamamoto S, Orimo H, Matsumoto T, Narisawa S, Millan J, Shimada T : Lentivirus mediated neonatal gene therapy for severe infantile hypophosphatasia. 11th International Congress of Inborn Error of Metabolism. (San Diego), 2009. 9.
 - 5) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T : Adeno associated virus (AAV) -mediated neonatal gene therapy of metachromatic leukodystrophy. 59th Annual Meeting of the American Society of Human genetics (Hawaii), 2009. 10.
 - 6) Matsumoto T, Yamamoto S, Miyake K, Miyake N, Odagaki Y, Orimo H, Shimada T : AAdeno-associated virus (AAV) type8 mediated systemic neonatal gene therapy for hypophosphatasia. 59th Annual Meeting of the American Society of Human genetics (Hawaii), 2009. 10.
 - 7) Watanabe A¹⁾, Naing B, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科) : Mutation screening for vascular type of Ehlers-Danlos Syndrome using high resolution melting curve analysis (hrMCA). 59th Annual meeting of American Society of Human Genetics (Hawaii), 2009. 10.
 - 8) Tamai H, Miyake K, Miyake N, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾, Shimada T, Inokuchi K¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology) : Establishment and characterization of a new mouse leukemia model induced by MLL/AF4 fusion protein . 51th American Society of Hematology Annual Meeting (New Orleans), 2009. 12.
 - 9) Watanabe A¹⁾, Naing B, Sawai H²⁾, Karasugi T³⁾, Kondo H, Ikegawa S³⁾, Orimo H⁴⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科, ²⁾ 京都大学, ³⁾ 理化学研究所, ⁴⁾ 生化学・分子生物学) : Genotype frequency of 1559T deletion (1559delT) in the TNSALP gene and clinical significance of hypophosphatasia in Japan. 2010 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (Albuquerque), 2010. 3.
 - 10) Miyake N, Miyake K, Odagaki Y, Yamamoto M, Shimada T : Direct comparison of adeno-associated virus serotypes for global gene transfer into the CNS across the BBB after neonatal systemic delivery. The 15th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (Osaka), 2009. 7.
 - 11) Miyake K, Miyake N, Yamamoto M¹⁾, Kamiya M¹⁾, Asai K, Shimada T (¹⁾ The First Department of Medicine) : Efficient correction of cardiac abnormalities in Fabry mice by AAV type8 mediated systemic gene transfer. The 15th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (Osaka), 2009. 7.
 - 12) Igarashi T¹⁾, Miyake K, Masuda I²⁾, Shimada T, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Ophthalmology, ²⁾ Department of Ophthalmology, Osaka University) : Adeno-associated vector (type 8) mediated expression of flt-1 efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. The 15th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (Osaka), 2009. 7.
 - 13) Matsumoto T, Tamamoto S, Miyake K, Miyake N, Orimo H, Shimada T : Adeno-associated virus (AAV) type-8 mediated systemic neonatal gene therapy for hypophosphatasia. The 15th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (Osaka), 2009. 7.
 - 14) Tamai H¹⁾, Miyake K, Shimada T, Inokuchi K¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology) : Establishment of a mouse model for MLL-AF4 fusion protein induced leukemia. The 15th Annual Meeting of Japan Society of

Gene Therapy (Osaka), 2009. 7.

- 15) Watanabe A¹⁾, Orimo H²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科, ²⁾ 生化学・分子生物学) : Genotype frequency and clinical significance of 1559T deletion in the TNSALP gene in Japan. 第8回 ALPS 研究会 (新潟), 2009. 7.
- 16) Kubodera T¹⁾, Ohira S¹⁾, Katakai Y²⁾, Akari H²⁾, Hirai Y, Mizukami H³⁾, Ozawa K³⁾, Shimada T, Mizusawa H¹⁾, Yokota T¹⁾ (¹⁾ Department of Neurology and Neurological Science, Tokyo Medical and Dental University, ²⁾ Laboratory of Disease Control, Tsukuba Primate Research Center, National Institute of Biomedical Innovation, ³⁾ Division of Genetic Therapeutics, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University) : shRNA-mediated gene silencing in non-human primates with AAV8. The 15th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy (Suita, Osaka 565-0871, Japan), 2009. 7.
- 17) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院ゲノム先端医療部) : オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題 : 日本医科大学付属病院での経験から. 第16回日本遺伝子診療学会大会 (札幌), 2009. 7.
- 18) 島田 隆, 渡邊 淳 : ゲノム情報を医療現場で適切に利用するための課題 : オーダーメイド医療 (個別化医療) をいかに実現するか? . ゲノム創薬フォーラム (東京), 2009. 7.
- 19) 渡邊 淳¹⁾, 南 史朗²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院ゲノム先端医療部, ²⁾ 老人病研究所) : 大学病院内においてオーダーメイド医療に関する遺伝情報を適切に利用するための課題. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (東京), 2009. 9.
- 20) 渡邊 淳¹⁾, 南 史朗²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院ゲノム先端医療部, ²⁾ 老人病研究所) : 大学病院内においてオーダーメイド医療に関する遺伝情報を適切に利用するための課題. 第9回 日本臨床遺伝研究会 (東京), 2009. 9.
- 21) 渡邊 淳^{1,2)}, 折茂英生³⁾, 南 史朗⁴⁾, 宮田広樹⁵⁾, 宮下正夫⁶⁾, 峯岸裕司^{7,8)}, 松本智司⁶⁾, 米山剛一⁹⁾, 山口博樹¹⁰⁾, 猪口孝一¹⁰⁾, 弦岡昭彦^{7,8)}, 内田英二⁶⁾, 片山志郎⁵⁾, 島田 隆^{1,2)} (¹⁾ 付属病院ゲノム先端医療部, ²⁾ ハイテクリサーチセンター, ³⁾ 生化学・分子生物学, ⁴⁾ 老人病研究所, ⁵⁾ 付属病院薬剤部, ⁶⁾ 付属病院消化器外科, ⁷⁾ 付属病院呼吸器内科, ⁸⁾ 付属病院化学療法科, ⁹⁾ 付属病院女性診療科, ¹⁰⁾ 付属病院血液内科) : 日本医科大学付属病院におけるオーダーメイド医療への取り組み イリノテカン投与に向けたUGT1A1 遺伝子多型検査を院内で開始して. 第77回日本医科大学医学会総会 (東京), 2009. 9.
- 22) 渡辺 淳¹⁾, 澤井英明²⁾, 近藤仁美, Banyar T, 菅野華子, 唐杉 樹³⁾, 池川志郎³⁾, 折茂英生⁴⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科, ²⁾ 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻遺伝カウンセラー・コーディネータユニット, ³⁾ 理化学研究所ゲノム医科学研究センター骨関節疾患研究チーム, ⁴⁾ 生化学・分子生物学) : 周産期型低フォスファターゼ症の課題 : 変異スクリーニング法の開発と TNSALP 1559T del 保因者頻度の同定. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (東京), 2009. 9.
- 23) Naing B, 渡辺 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科) : 血管型 Ehlers-Danlos 症候群におけるゲノム DNA を用いた遺伝子変異同定システムの開発. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (東京), 2009. 9.
- 24) 玉井勇人, 三宅弘一, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 血液内科学) : MLL/AF4 遺伝子異常を伴う急性リンパ性白血病の MDA7/IL24 による遺伝子治療. 第71回日本血液学会総会 (京都), 2009. 10.
- 25) 島田 隆 : 遺伝子医療の進歩と課題. 日本整形外科学会基礎学術集会教育講演 (第24回) (横浜), 2009. 11.
- 26) 島田 隆 : 遺伝子医療の進歩と課題. 獣生化学会シンポジウム (東京), 2010. 3.

7. 薬理学講座

研究概要

精神神経疾患病態の解明や新規薬物開発に繋がる基礎研究を目標に掲げ、21年度は以下の成果を得た。

- 1) 局所麻酔薬ロピバカインの硬膜外投与による神経因性疼痛緩和作用に神経成長因子が関与することを明らかにした。またこの鎮痛作用に伴って脊髄後角に存在するグリア細胞の形態変化も抑制されることを見出した。
- 2) 深部小脳核におけるグルタミン酸作動性シナプスの5-HT_{1B}受容体を介した可逆的な抑制作用を見出した。このシナプスの頻回刺激は代謝調節型グルタミン酸受容体 (mGluR) を活性化して長期抑圧 (LTD) を引き起こすことを示した。しかし、セロトニン存在下では、頻回刺激によるLTDは有意に減弱した。これらのことから、セロトニンは深部小脳核において一時的なシナプス伝達効率の調節だけでなく、長期的な時間幅でのシナプス可塑性にも寄与している可能性を示した。
- 3) 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) の慢性投与によって、成体マウス海馬歯状回の成熟神経細胞が幼若化することを明らかにし、さらにこの神経幼若化においてセロトニン5-HT₄受容体が重要な役割を果たすことを明らかにした。
- 4) 妊娠期のデキサメタゾン投与によって、生まれた仔において、発達期では脳由来神経栄養因子 (BDNF) の減少が先行し、成長後、不安様行動が出現することを見出した。この動物において、生後3週間SSRIを処置すると、発達期における脳内BDNFの減少と成長後の不安様行動の出現が抑制されることが明らかになった。
- 5) p21の細胞質局在に関わるBrap2のノックアウトマウスを作製したところ、胎生致死であった。Brap2は神経系を含め発達生存に必須の情報伝達を担っていることが考えられ、責任分子を探索中である。
- 6) 脳機能画像を用いて、カフェインの注意機能に関わるヒト脳活動に対する効果を検討した。注意機能のうち、警告および定位反応に関わる各脳領域で脳活動の活性化が観察された。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ito H¹⁾, Nagano M, Suzuki H, Murakoshi T¹⁾ (1) The University of Tokyo) : Chronic stress enhances synaptic plasticity due to disinhibition in the anterior cingulate cortex and induces hyper-locomotion in mice. *Neuropharmacology* 2010 ; 58 : 746-757.

(2) 総説：

- 1) 齋藤文仁：小脳GABA作動性シナプス伝達の修飾作用。日医大医学会誌 2009；5 (3)：152-158.
- 2) 鈴木秀典：アンチ・ドーピングのためのTUE申請手続きの実際と注意点 2010年禁止表。臨床スポーツ医学 2010；27 (2)：203-209.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 鈴木秀典：難治性疼痛の緩和に向けた基礎研究からのアプローチ。第3回日本緩和医療薬学会年会 (神奈川県横浜市), 2009. 10.

(2) 教育講演：

- 1) 鈴木秀典：神経薬理学。第32回日本神経科学大会サテライトシンポジウム第9回生理学若手サマースクール (愛知県岡崎市), 2009. 9.

(3) シンポジウム：

- 1) Kobayashi K : Serotonergic antidepressants reverse granule cell maturation in the adult hippocampus. CREST 神経科学国際シンポジウム「海馬ニューロン新生：神経機能と精神疾患への関わり」(兵庫県淡路市), 2009. 6.
- 2) 小林克典：SSRIによる海馬神経細胞の幼若化. 第19回日本臨床精神神経薬理学会 第39回日本神経精神薬理学会 合同年会(京都府京都市), 2009. 11.
- 3) 永野昌俊：妊娠期ストレスと発達障害. 第3回日本医科大学-早稲田大学合同シンポジウム「生体ホメオスタシスの神経科学的, 神経内分泌学的制御機構のupdate」(東京都文京区), 2009. 11.
- 4) 永野昌俊：母体ストレスが児の神経発達に与える影響. 早稲田大学 応用脳科学研究所・人間総合研究センター共催シンポジウム「応用脳科学研究の展開」(東京都新宿区), 2010. 3.

(4) 一般講演：

- 1) Kobayashi K, Ikeda Y, Sakai A, Suzuki H : Reversal of hippocampal neuronal maturation by chronic inhibition of serotonin reuptake. 36th International Union of Physiological Sciences (京都府京都市), 2009. 7.
- 2) Takao K¹⁾, Kobayashi K, Hagihara H¹⁾, Ohira K¹⁾, Yamasaki N²⁾, Komada M³⁾, Toyama K¹⁾, Takagi T⁴⁾, Ishii S⁴⁾, Miyakawa T¹⁾ (1) 藤田保健衛生大学, (2) 京都大学, (3) 生理学研究所, (4) 理化学研究所) : Deletion of Schnurri-2 causes abnormal behaviors related to psychiatric disorders and failure in the maturation of the dentate granule cells in mice. 36th International Union of Physiological Sciences (京都府京都市), 2009. 7.
- 3) Saitow F, Suzuki H : Monoaminergic cross-talk and modulatory action of synaptic transmission in the deep cerebellar nuclei. 36th International Union of Physiological Sciences (京都府京都市), 2009. 7.
- 4) 八幡憲明¹⁾, 新貝慈利²⁾, 館野 周²⁾, 肥田道彦²⁾, 小川耕平²⁾, 田淵 隆³⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗²⁾ (1) 東京大学, (2) 日本医科大学精神医学, (3) メディカルサテライト八重洲クリニック) : 抗不安薬ならびにプラセボがヒト情動機構に及ぼす効果の検討：薬理的fMRI研究. 第31回日本生物学的精神医学会 (京都府京都市), 2009. 4.
- 5) 野上 毅^{1,2)}, 大久保善朗¹⁾, 八幡憲明³⁾, 福田 一^{1,2)}, 伊藤逸生¹⁾, 高橋英彦⁴⁾, 田井冶康友²⁾, 浅井邦彦²⁾, 鈴木秀典 (1) 日本医科大学精神医学, (2) 浅井病院, (3) 東京大学, (4) 放射線医学総合研究所) : 統合失調症の脳形態変化に関するMRI研究：統合失調症家族歴の影響. 第31回日本生物学的精神医学会 (京都府京都市), 2009. 4.
- 6) 福田 一¹⁾, 伊藤逸生¹⁾, 野上 毅^{1,2)}, 鈴木雅之^{1,2)}, 館野 周¹⁾, 八幡憲明³⁾, 高橋英彦²⁾, 田井冶康友²⁾, 鈴木秀典, 浅井邦彦²⁾, 大久保善朗¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学, (2) 浅井病院, (3) 東京大学) : 統合失調症の脳形態変化に及ぼす閉経の影響について. 第31回日本生物学的精神医学会 (京都府京都市), 2009. 4.
- 7) 八幡憲明¹⁾, 新貝慈利²⁾, 館野 周²⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗²⁾ (1) 東京大学, (2) 日本医科大学精神医学) : プラセボがヒト情動機構に及ぼす効果の検討：fMRI研究. 第32回日本神経科学大会 (愛知県名古屋市), 2009. 9.
- 8) 小林克典¹⁾, 池田裕美子, 坂井 敦, 羽田栄輔, 鈴木秀典 (1) 科学技術振興機構) : セロトニン作動性抗うつ薬による歯状回顆粒細胞の脱成熟. 第32回日本神経科学大会 (愛知県名古屋市), 2009. 9.
- 9) 坂井 敦, 埜 秀樹¹⁾, 島田 隆¹⁾, 鈴木秀典 (1) 日本医科大学学生化学) : 神経因性疼痛における機械的アロディニアに対する部位特異的GDNF過剰発現の効果. 第32回日本神経科学大会 (愛知県名古屋市), 2009. 9.
- 10) 池田裕美子, 八幡憲明¹⁾, 高橋英彦²⁾, 肥田道彦³⁾, 大久保善朗³⁾, 鈴木秀典 (1) 東京大学, (2) 放射線医学総合研究所, (3) 日本医科大学精神医学) : 両耳同音聴課題を用いた聴覚性選択的注意：fMRI研究. 第32回日本神経科学大会 (愛知県名古屋市), 2009. 9.
- 11) 伊藤浩志¹⁾, 永野昌俊, 鈴木秀典, 村越隆之¹⁾ (1) 東京大学) : 慢性ストレスによるマウスの多動化と帯状回シナプス可塑性の増大. 第32回日本神経科学大会 (愛知県名古屋市), 2009. 9.

- 12) 齋藤文仁, 鈴木秀典: 小脳核グルタミン酸作動性シナプスにおけるモノアミンを介した修飾作用. 第47回日本生物物理学会年会 (徳島県徳島市), 2009. 10.
- 13) 丸谷俊之^{1,2)}, 八幡憲明³⁾, 池田裕美子, 山本愛実^{2,3)}, 伊藤岳人, 松浦雅人¹⁾, 松島英介¹⁾, 鈴木秀典, 松田哲也²⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学, ²⁾ 玉川大学, ³⁾ 東京大学): SSRI プラセボが報酬予測に与える影響. 第39回日本臨床神経生理学会学術大会 (福岡県北九州市), 2009. 11.
- 14) 伊藤岳人¹⁾, 丸谷俊之^{1,2)}, 山本愛実^{1,3)}, 下條信輔⁴⁾, 鈴木秀典, 松田哲也¹⁾ (¹⁾ 玉川大学, ²⁾ 東京医科歯科大学, ³⁾ 東京大学, ⁴⁾ カリフォルニア工科大学): 顔の選好意思決定へ及ぼす影響の検討. 第39回日本臨床神経生理学会学術大会 (福岡県北九州市), 2009. 11.
- 15) 戸田 繁¹⁾, 坂井 敦, 池田裕美子, 坂本篤裕¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学麻酔科学): 神経成長因子は神経因性疼痛における局所麻酔薬ロピバカインの鎮痛作用を仲介する. 第83回日本薬理学会年会 (大阪府大阪市), 2010. 3.

8. 病理学講座（解析人体病理学）

研究概要

基礎的な研究としては肺，腎，移植，心の病理を中心に行なわれた。肺では，特発性肺線維症の急性増悪，急性呼吸窮迫症候群の臨床病理学的多様性，悪性中皮腫の電顕的研究，肺癌分類診断と間質線維化，びまん性肺胞傷害におけるリンパ管新生など，腎では，スタチン・アンギオテンシン受容体拮抗薬による腎糸球体障害の抑制，IgA腎症の電顕的研究，糖尿病性糸球体腎症モデル，糸球体病変における毛細血管障害，実験的腎盂腎炎の進展経路，腎内リンパ管の発生機序など，移植では，ロックアウトミニプタを用いた異種移植，シクロスポリン腎毒性，実験的腎移植におけるトレランス，大型動物での移植におけるCD59，CD40の関与，実験的肝移植など，心では，大動脈弁における弾性線維腫の形成機序などが報告された。また，共同研究としていくつかの移植関連などの研究が行われた。

診断病理学に関しては，喘息と慢性閉塞性肺疾患の病理，薬剤性肺障害の病理，線維芽細胞と筋線維芽細胞，急速進行性間質性肺炎の病理，バーチャル顕微鏡の応用，急性腎障害における生検診断の適応，糸球体微小変化群，メサンギウム増殖，電子顕微鏡の応用，腎生検の光顕的方法論などが報告された。各種学会のシンポジウム，ワークショップ，特別講演，教育講演では，各種肺疾患，各種腎疾患などのトピックスなどが発表された。また，厚生労働省主導の重篤副作用疾患別対応マニュアルが刊行されたが，肺水腫，胸膜炎，胸水に関して学会からの作成委員として参加した。学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も行われた。肝肺症候群のCPC，先天性のう胞性腺腫様奇形，膜性腎炎，腎アミロイドーシス，ANCA陰性血管炎の剖検例，造血幹細胞移植後腎症，特発性間質性肺炎，びまん性肺胞傷害，腎糸球体の電顕的研究などの報告が行われた。また，基礎配属学生が継続して研究し報告を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kang D, Kunugi S, Masuda Y, Ishizaki M, Koizumi K¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ Department of Surgery) : Ultrastructural and immunohistochemical analysis of fibrous long-spacing collagen fibrils in malignant mesothelioma. *Ultrastruct Pathol* 2009 ; 33 (2) : 52-60.
- 2) Griesemer A¹⁾, Okumi M¹⁾, Shimizu A, Moran S¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Iorio J¹⁾, Arn J¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Upregulation of CD59 : potential mechanism of accommodation in a large animal model. *Transplantation* 2009 ; 87 (9) : 1308-1317.
- 3) Nakajima Y¹⁾, Kawamoto M^{2, 4)}, Koizumi K¹⁾, Tajima H³⁾, Fukuda Y, Tsuchiya S⁴⁾, Shimizu K¹⁾ (¹⁾ Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery, ²⁾ Integrative Oncological Pathology, ³⁾ Radiology, ⁴⁾ Division of Diagnostic Pathology) : An accurate diagnosis of Noguchi classification is possible after the modification of preoperative biopsy-induced fibrosis. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2009 ; 15 (4) : 221-226.
- 4) Kang D, Nakayama T, Togashi M, Yamamoto M, Takahashi M, Kunugi S, Ishizaki M, Fukuda Y : Two forms of diffuse alveolar damage in the lungs of patients with acute respiratory distress syndrome. *Hum Pathol* 2009 ; 40 (11) : 1618-1627.
- 5) Aoyagi T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Uno M¹⁾, Goto R¹⁾, Taniguchi M¹⁾, Shimamura M¹⁾, Takahashi N²⁾, Miura T³⁾, Okimura K³⁾, Ito T⁴⁾, Shimizu A, Fukuhara H¹⁾, Todo S¹⁾ (¹⁾ First Department of Surgery, Hokkaido University School of Medicine, Sapporo, Hokkaido, ²⁾ Antibody Research Laboratories,

Kyowa Hakko Kirin Co., Ltd., Takasaki, Gunma, ³⁾ Pharmacological Research Laboratories, Kyowa Hakko Kirin Co., Ltd., Nagaizumi, Shizuoka, ⁴⁾ Department of Surgical Pathology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Hokkaido) : A human anti-CD40 monoclonal antibody, 4D11, for kidney transplantation in cynomolgus monkeys : induction and maintenance therapy. *Am J Transplant* 2009 ; 9 (8) : 1732-1741.

- 6) Sato S¹⁾, Yanagihara T²⁾, Ghazizadeh M^{1,3)}, Ishizaki M, Adachi A¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Igarashi T²⁾, Fukunaga Y²⁾ (¹⁾ Institute for Electron Microscopic Research, ²⁾ Pediatrics, ³⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences) : Correlation of autophagy type in podocytes with histopathological diagnosis of IgA nephropathy. *Pathobiol* 2009 ; 76 (5) : 221-226.
- 7) Griesemer A¹⁾, Hirakata A¹⁾, Shimizu A, Moran S¹⁾, Tena A¹⁾, Iwaki H¹⁾, Ishikawa H¹⁾, Schule P¹⁾, Arn J¹⁾, Robson S¹⁾, Sykes M¹⁾, Sachs D¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Results of Gal-knockout porcine thymokidney xenografts. *Am J Transplant* 2009 ; 9 (12) : 2669-2678.
- 8) Ishikawa Y¹⁾, Hirakata H¹⁾, Griesemer A¹⁾, Etter J¹⁾, Moran S¹⁾, Weiner J¹⁾, Shimizu A, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Tolerance and long-lasting peripheral chimerism after allogeneic intestinal transplantation in MGH miniature swine. *Transplantation* 2010 ; 89 (4) : 417-426.
- 9) 清水 章, 益田幸成 : シクロスポリン腎毒性 (シクロスポリン腎症) の進展過程における腎微小血管障害. *今日の移植* 2009 ; 22 (6) : 667-673.

(2) 総説 :

- 1) Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Fujita E, Aki K, Ishizaki M, Sato S¹⁾, Griesemer A²⁾, Fukuda Y (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, ²⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Current status and issues of C1q nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 2009 ; 13 (4) : 263-274.
- 2) 山元滋樹, 福田 悠 : 線維芽細胞および筋線維芽細胞, 臨床病態との関わり. *THE LUNG perspectives* 2009 ; 17 (4) : 153-157.
- 3) 清水 章 : 腎病理の進歩 : パーチャル顕微鏡の腎病理への応用. *日腎会誌* 2009 ; 51 (5) : 544-549.
- 4) 益田幸成, 石川吾利美, 清水 章 : Essential Pathology : 電子顕微鏡による腎生検組織の観察 : 特殊電子染色の有用性とその方法. *Nephrology Frontier* 2009 ; 8 (2) : 176-185.
- 5) 高橋美紀子, 福田 悠 : 薬剤性障害の病理 - その 1 - 薬剤性呼吸器障害 b) 病理. *病理と臨床* 2009 ; 27 (8) : 721-727.
- 6) 益田幸成, 石川吾利美, 清水 章 : Essential Pathology : 電子顕微鏡による腎生検組織の観察 : 正常構造. *Nephrology Frontier* 2009 ; 8 (3) : 302-309.
- 7) 新井孝司, 片岡光枝, 桑原尚美, 益田幸成, 清水 章 : Essential Pathology : 腎生検の光顕観察 : 光学顕微鏡組織標本の作製 . *Nephrology Frontier* 2009 ; 8 (4) : 375-380.
- 8) 清水 章, 三井亜希子 : AKI (急性腎障害) : 新しい疾患概念 : AKIの腎生検の適応と病理診断. *医学のあゆみ* 2009 ; 231 (2) : 142-149.
- 9) 新井孝司, 片岡光枝, 桑原尚美, 益田 幸, 清水 章 : Essential Pathology : 腎生検の光顕観察 : 光学顕微鏡の各種染色. *Nephrology Frontier* 2010 ; 9 (1) : 71-84.

(3) 研究報告書 :

- 1) 福田 悠, 康 徳東, 金子真由子, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘 : 特発性肺線維症急性増悪の病理学的解析. 厚生労働科学研究補助金. 難治性疾患克服研究事業. びまん性肺疾患に関する調査研究班. 平成21年度研究報告書 2010 ; 117-121.

(4) 症例報告：

- 1) 林 宏紀¹⁾, 阿部信二¹⁾, 蛸井浩行¹⁾, 小野 竜¹⁾, 森本泰介¹⁾, 服部久弥子¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 許田典男²⁾, 福田 悠^{(1) 呼吸器内科, 2) 統御機構 腫瘍病理学}：CPC 著明な低酸素血症をきたし死亡した肝肺症候群の1例. THE LUNG perspectives 2009；17 (3)：224-230.

著 書

- 1) 福田 悠：〔共著〕肺水腫. 重篤副作用疾患別対応マニュアル-第3集 (社団法人日本病院薬剤師会, 社団法人日本呼吸器学会マニュアル作成委員会), 2009；pp117-139, 財団法人日本医薬情報センター (JAPIC).
- 2) 福田 悠：〔共著〕胸膜炎, 胸水貯溜. 重篤副作用疾患別対応マニュアル-第3集 (社団法人日本病院薬剤師会, 社団法人日本呼吸器学会マニュアル作成委員会), 2009；pp101-111, 財団法人日本医薬情報センター (JAPIC).

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 清水 章：糸球体毛細血管の障害からみた糸球体腎炎の進展とその制御. 腎臨床病理検討会 (第21回), 2009. 7.
- 2) 福田 悠：臨床的に急速進行した間質性肺炎の病理. 南九州びまん性肺疾患研究会 (第2回), 2009. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 清水 章：腎病理実践編：微小変化群と巣状糸球体硬化症の重系と診断. 腎病理夏の学校 in 香川 (第8回), 2009. 7.
- 2) 清水 章：病変の定義：管内増殖とメサンギウム増殖. 日本腎病理協会研究会 (第8回), 2010. 1.

(3) シンポジウム：

- 1) 清水 章：腎臓病総合レジストリー構築と腎病理診断標準化への取り組み：2008：腎病理標準化としての巣状糸球体硬化症 (FSGS) の診断とコロンビア分類の問題点. 日本腎臓学会学術総会 (第52回), 2009. 6.

(4) ワークショップ：

- 1) 清水 章, 上田裕之¹⁾ (1) 東京都済生会中央病院)：MPGN I型様糸球体病変を合併したIgA-k型多発生骨髄腫 (MM) の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第39回), 2009. 10.
- 2) 福田 悠：喘息・COPDの病理と病態. テーマ：COPDと気管支喘息：その病態と治療の類似と相違. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第59回), 2009. 10.

(5) 一般講演：

- 1) Shimizu A, Ishii E, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Fukuda Y：The pathological characteristics of acute antibody-mediated rejection in DA to Lewis rat orthotopic liver transplantation. アメリカ移植学会 (Boston), 2009. 5.
- 2) Oura T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Fukumori D¹⁾, Watanabe M¹⁾, Hirokata G¹⁾, Wakayama K¹⁾, Miura T²⁾, Okimura K²⁾, Maeta K²⁾, Haga H³⁾, Kubota K³⁾, Shimizu A, Taguchi M¹⁾, Todo S¹⁾, et al. (1) 1st Department of Surgery, Hokkaido University School of Medicine, Sapporo, Japan, 2) Kyowa Hakkō Kirin Co., Ltd, Takasaki, Japan, 3) Department of Surgical Pathology, Hokkaido University School of Medicine, Sapporo, Japan)：Long-term graft acceptance by a novel human anti-CD40 monoclonal antibody, 4D11, after liver transplantation on non-human primates. アメリカ移植学会 (Boston), 2009. 5.
- 3) Shimizu A, Ishii Y¹⁾, Kudo S¹⁾, Arai T, Ishikawa A, Horita S¹⁾, Sekijima M¹⁾, Nakajima I¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾, Fukuda Y (1) Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan)：Glomerulopathy with capillary collapse is probably associated with chronic antibody-mediated rejection in kidney transplantation. アジア移植学会 (第11回) (Beirut, Lebanon), 2009. 10.

- 4) Kudo S¹⁾, Shimizu A, Ishii Y¹⁾, Sekishima M¹⁾, Horita S¹⁾, Nakajima I¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾ (1) Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan) : The pathological characteristics of chronic active antibody-mediated rejection in kidney transplantation. アジア移植学会 (第11回) (Beirut, Lebanon), 2009. 10.
- 5) Ishii Y¹⁾, Shimizu A, Kataoka M¹⁾, Ishikawa A¹⁾, Kudo S¹⁾, Miki K¹⁾, Horita S¹⁾, Nakajima I¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾ (1) Department of Surgery, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan) : The early antibody-mediated graft injuries in ABO incompatible human kidney transplantation. アジア移植学会 (第11回) (Beirut, Lebanon), 2009. 10.
- 6) Fukui M¹⁾, Mii A¹⁾, Shimizu A, Kaneko T¹⁾, Fujita E, Masuda Y, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Fukuda Y (1) Internal medicine, Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology) : Endothelial cell injuries in idiopathic membranous nephropathy with focal segmental glomerular sclerosis. American Society of Nephrology (SanDiego), 2009. 10.
- 7) Tanabe M, Shimizu A, Masuda Y, Kataoka M, Arai T, Fukuda Y : Development of lymphatic vessels and their pathologic characterizations in kidney. American Society of Nephrology (SanDiego), 2009. 10.
- 8) Takano H, Shimizu A, Wakamatsu K, Ishikawa A, Masuda Y, Ishizaki M, Fukuda Y : Impaired glomerular healing with persistent glomerular inflammation in streptozotocin induced diabetic nephropathy. American Society of Nephrology (SanDiego), 2009. 10.
- 9) Shimizu A, Masuda M, Ishikawa A, Kuwahara N, Arai T, Fujita E, Saito S, Mii A, Aki K, Fukuda Y : Microvascular injuries and alterations of angiogenic growth factors in chronic cyclosporine nephrotoxicity. American Society of Nephrology (SanDiego), 2009. 10.
- 10) Masuda Y, Shimizu A, Kataoka M, Arai T, Du X, Fujita E, Saito S, Aki K, Fukuda Y : Persistent inflammation and the progression of glomerular sclerosis after inhibition of glomerular capillary repair in experimental proliferative glomerulonephritis. American Society of Nephrology (SanDiego), 2009. 10.
- 11) 藤田恵美子, 清水 章, 三井亜希子¹⁾, 安藝 薫, 石川かほり, 益田幸成, 石崎正通, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 福田 悠 (1) 内科学 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 微小変化型ネフローゼ症候群での糸球体内泡沫細胞浸潤に関する臨床病理学的検討. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 12) 清水 章, 益田幸成, 桑原尚美, 新井孝司, 石川かほり, 功刀しのぶ, 福田 悠 : 腎虚血再灌流傷害の発症期と回復期におけるMMP-2の関与. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 13) 富樫真由子, 功刀しのぶ, 石川吾利美, 新井孝司, 田村浩一¹⁾, 福田 悠 (1) 東京通信病院病理科) : 大動脈弁に発生した乳頭状線維弾性腫の免疫組織学的, 電顕的検索. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 14) 益田幸成, 清水 章, 片岡光枝, 石川吾利美, 福田 悠 : 実験的上行性急性腎盂腎炎の進路経過. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 15) 康 徳東, 中山智子¹⁾, 富樫真由子, 山元滋樹, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 若松恭子, 石崎正通, 福田 悠 (1) 社会福祉法人浅草寺病院内科) : 急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) 症例の臨床病理学的検討. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 16) 山元滋樹, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 石川吾利美, 福田 悠 : 小葉中心性肺気腫の形成機序について. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 17) 安藝 薫, 清水 章, 藤田恵美子, 三井亜希子²⁾, 益田幸成, 石崎正通, 黒田奈緒¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾, 福田 悠 (1) 小児科, 2) 内科学 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : ガンマグロブリン低値が関与したと考えられる膜性増殖性糸球体腎炎の1例. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 18) 秋山 輝¹⁾, 田辺真樹¹⁾, 清水 章, 小野ゆり²⁾, 内藤善哉²⁾, 福田 悠 (1) 日本医科大学医学部, 2) 統御機構腫瘍病理学) : 腎間質を主体にALアミロイド沈着を認めた形質細胞性リンパ腫に合併した腎アミロイドーシス

の1例. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.

- 19) 田辺真樹¹⁾, 清水 章, 益田幸成, 新井孝司, 片岡光枝, 福田 悠 (¹⁾ 日本医科大学医学部): 腎発生過程におけるリンパ管形成と成体腎での分布. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
 - 20) 岸田由起子¹⁾, 原 哲²⁾, 久保田哲哉²⁾, 宮永茂樹³⁾, 中原和樹³⁾, 田村浩一¹⁾, 福田 悠 (¹⁾ 東京通信病院病理科, ²⁾ 東京通信病院呼吸器科, ³⁾ 東京通信病院外科): 胸部X線上の結節影で発見され, 術後にCCAMと診断された成人例1例. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
 - 21) 許田典男¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 小野ゆり¹⁾, 松田陽子¹⁾, 清水 章, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 統御機構 腫瘍病理学): 不明熱として生前に診断しえなかったANCA陰性血管炎の一剖検例. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
 - 22) 三井亜希子, 清水 章, 藤田恵美子, 安藝 薫, 益田幸成, 石崎正通, 藤野鉄平¹⁾, 金子朋広¹⁾, 田近賢二²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 福田 悠 (¹⁾ 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), ²⁾ 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)): 内皮細胞傷害を呈する造血幹細胞移植後腎症についての臨床病理学的検討. 日本腎臓学会学術総会 (第52回), 2009. 6.
 - 23) 益田幸成, 清水 章, 福田 悠: 実験的上行性急性腎盂腎炎の進路経過. 日本腎臓学会学術総会 (第52回), 2009. 6.
 - 24) 安藝 薫, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子, 藤田恵美子, 石崎正通, 福田 悠: 抗GBM腎炎におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬 (ARB) 抗炎症作用. 日本腎臓学会学術総会 (第52回), 2009. 6.
 - 25) 藤田恵美子, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子¹⁾, 安藝 薫, 石崎正通, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 福田 悠 (¹⁾ 内科学 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): スタチンの抗炎症性マクロファージを介した腎保護作用に関する検討. 日本腎臓学会学術総会 (第52回), 2009. 6.
 - 26) 高橋美紀子, 山元滋樹, 功刀しのぶ, 福田 悠: びまん性肺胞傷害におけるリンパ管新生. 日本呼吸器学会 (第49回), 2009. 6.
 - 27) 清水 章¹⁾: 微小血管傷害とサイクロスポリン慢性毒性 (サイクロスポリン腎症) の進展, および血管内増殖因子を用いた積極的な治療. Ciclosporin Pharmaco-Clinical Forum (CPCF 2009), 2009. 8.
- (6) 教育セミナー:
- 1) 清水 章: 腎移植の新しい治療戦略: 大動物からヒトへの臨床応用: α GalノックアウトMGHミニブタからヒトへの異種腎移植の病理像. 移植腎病理研究会 (第13回), 2009. 7.

9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）

研究概要

病理学講座（統御機構・腫瘍学）では消化器腫瘍を中心とした腫瘍性疾患につき、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発を目的とした研究を行なっている。

1) 消化器腫瘍の増殖、転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と大腸癌について培養癌細胞，実験動物モデル，ヒト病理組織標本などを用いて検討を行なっている。特に腫瘍細胞と間質細胞における細胞外基質，細胞増殖因子受容体の発現を免疫組織化学染色法やin situ hybridization法とreal-time PCR法，siRNA，遺伝子導入法などの分子病理学的手法を併せて総合的に研究している。増殖因子受容体ではFGFR2のアイソフォームであるFGFR2 IIIb (KGFR) とIIIc受容体の発現とその役割について検討している。細胞外基質では小型ロイシンリッチプロテオグリカンのファミリーのlumicanについて主に研究を行っている。これら細胞外基質や増殖因子受容体の発現を中和抗体投与やshort hairpin RNA (shRNA)，siRNAなどで抑制することにより，癌細胞の増殖制御を行い，その制御機構についての検討を行っている。また近年注目されている，前駆細胞や幹細胞で発現する中間径フィラメントのNestinについて，膵臓癌での発現と癌の遊走，浸潤への関与を研究し，癌転移の抑制による治療への応用を検討している。

2) 婦人科腫瘍の増殖機序の研究と治療への応用：子宮頸部の異形成組織の進展に伴って，FGFR2 IIIcの発現が増加し，子宮頸癌組織で高度にFGFR2 IIIcの発現がみられた。FGFR2 IIIc発現増加により培養頸癌細胞の増殖能が亢進したことから，ヒトパピローマウイルスとの関連や，FGFR2 IIIcの発現制御による子宮頸癌治療の可能性について検討している。

3) 腫瘍，炎症性疾患，変性疾患における血管，リンパ管の増殖機序の検討：腫瘍の増殖，転移や肉芽組織の形成における血管，リンパ管の増殖，分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており，その制御について研究を行っている。特に腫瘍新生血管マーカーとしてのNestinの有用性について研究している。本年度はFGFR2 IIIc抗体の投与により膵臓癌の増殖抑制が可能であること，Nestinの発現抑制により膵臓癌細胞の遊走，浸潤能が低下することを報告した。今後も腫瘍性疾患の有効な診断，分子標的治療法の開発をめざして，一層の努力を続けていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ono Y¹⁾, Terashima K^{6, 8)}, Liu A³⁾, Yokoyama M⁵⁾, Yokoshima K²⁾, Mizukami M⁷⁾, Watanabe K⁷⁾, Mochimaru Y^{6, 7)}, Furusaka T⁹⁾, Shimizu N⁷⁾, Yamamoto N⁸⁾, Ishiwata T¹⁾, Sugisaki Y⁴⁾, Yagi T²⁾, Naito Z¹⁾ (1) Integrative Oncological Pathology, NMS, 2) Oto-rhino-laryngology, Head and Neck Surgery, NMS, 3) Division of Morphological and Biomolecular Research, NMS, 4) Division of Surgical Pathology, NMS, 5) Division of Surgical Pathology, Tokyo Metropolitan Police Hospital, 6) Departments of Comprehensive Pathology, Tokyo Medical and Dental University, 7) Virology, Division of Medical Science, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, 8) National Institute Infectious Diseases, AIDS Research Center, 9) Department of Oto-rhino-laryngology, Nihon University Hospital) : Follicular dendritic cell sarcoma with microtubuloreticular structure and virus-like particle production in vitro. *Pathol Int* 2009 ; 59 (5) : 332-344.
- 2) Adachi A¹⁾, Sato S¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Naito Z (1) Division of Morphological and Biomolecular Research) : The

surface morphology of normal human leukocytes by chilled scanning electron microscopy. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (5) : 230-231.

- 3) Cho K¹⁾, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : New therapeutic strategy for intractable pancreatic cancer and its fundamental research. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 62-63.
- 4) Ishiwata T, Yamamoto T, Kawahara K, Kawamoto Y, Matsuda Y, Ishiwata S¹⁾, Naito Z (¹⁾ Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki University) : Enhanced expression of lumican inhibited the attachment and growth of human embryonic kidney 293 cells. Exp Mol Pathol 2010 ; 88 (3) : 363-370.
- 5) Kawase R^{1,2)}, Ishiwata T¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Onda M¹⁾, Kudo M¹⁾, Takeshita T²⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Integrative Oncological Pathology, ²⁾ Department of Gynecology) : Expression of fibroblast growth factor receptor 2 IIIc in human uterine cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. Int J Oncol 2010 ; 36 (2) : 331-340.
- 6) 河本陽子, 川原清子, 石渡俊行, 内藤善哉 : 抗原性保持に有用な薄切標本保存法. 検査と技術 2010 ; 38 (3) : 239-241.

(2) 症例報告 :

- 1) Fujita I¹⁾, Kiyama T¹⁾, Chou K¹⁾, Kanno H¹⁾, Naito Z, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : A case of metastatic hemangiopericytoma occurring 16 years after initial presentation : with special reference to the clinical behavior and treatment of metastatic hemangiopericytoma. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (4) : 221-225.
- 2) 鈴木香奈芽¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東 敬子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 腹膜悪性中皮腫の1例 細胞転写法およびセルブロック法の有用性. 日本臨床細胞学会雑誌 2009 ; 48 (4) : 181-186.
- 3) 川野陽一¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 掘田正啓¹⁾, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 上行結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術後に発症した腹腔内デスマイド腫瘍の1切除例. 日本消化器外科学会雑誌 2010 ; 43 (1) : 95-100.

(3) 解説 :

- 1) 内藤善哉 : 基礎研究から学ぶ 組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒント) 共焦点レーザー顕微鏡による形態, 機能解析 マルチモード顕微鏡による癌細胞の形態, 機能解析の実例 (2). 日医大医学会誌 2009 ; 5 (3) : 159-166.
- 2) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 丹野正隆, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 【病理迅速診断のすべて】 術中迅速細胞診断に用いられる特殊染色. Medical Technology 2009 ; 37 (7) : 712-718.
- 3) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 川野記代子¹⁾, 東 敬子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 三田俊二²⁾, 内藤善哉, 白田忠男²⁾, 長尾 緑²⁾, 藤田千歳²⁾, 猪狩優子²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 婦人科領域の細胞病理診断. 日本産科婦人科学会千葉地方部会雑誌 2009 ; 3 (1) : 5-7.
- 4) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 細根 勝¹⁾, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 【細胞診の進歩】 中皮腫の細胞学的判定と進歩 細胞診材料による中皮腫の確定診断方法. 病理と臨床 2009 ; 27 (12) : 1171-1182.

(4) 解説/特集 :

- 1) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 【造血器腫瘍とCD抗原】 免疫組織染色による悪性リンパ腫の診断 血液内科医のための実戦サバイバル・キット. 血液・腫瘍科 2009 ; 59 (6) : 652-667.

(5) 講演録 :

- 1) 内藤善哉 : 肝臓の基礎から病理. 都臨技会誌 2009 ; 37 (5) : 370-371.

(6) 追加解説：

- 1) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 内藤善哉, 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 【胃癌予防とリスクファクター】 残胃の発癌リスク 残胃癌の発生要因としての *H. pylori* 遺残感染および十二指腸液の逆流. 臨床消化器内科 2009 ; 24 (4) : 435-442.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 葉山綾子¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 原田 大¹⁾, 川本雅司¹⁾, 内藤善哉, 佐竹あかね¹⁾, 松原美幸¹⁾, 渡会泰彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院病理部) : 乳腺穿刺吸引細胞診精度向上のために 判定不能症例を減らす工夫 検体不適正率の解析とその重要性. 日本臨床細胞学会学術総会 (第50回), 2009. 6.
- 2) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 三田俊二²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科) : 子宮内膜病変の病理組織診断と細胞診断の相違について 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法併用の有用性について. 日本臨床細胞学会学術総会 (第50回), 2009. 6.

(2) ワークショップ：

- 1) 土屋眞一¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原田 大¹⁾, 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 付属病院病理部) : 医療の現場における細胞診の役割 日本医科大学付属病院での「乳腺病理外来」について 顔の見える病理医を目指して. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
- 2) 清水秀樹¹⁾, 谷山清己²⁾, 大秋美治¹⁾, 新井 悟¹⁾, 井内亜美¹⁾, 内藤善哉, 森 修¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター臨床研究部) : 病理検査室の環境と病理技術の継承 病理部門におけるホルムアルデヒドの有害性と法規制. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.

(3) 一般講演：

- 1) Yamamoto T, Ishiwata T, Matsuda Y, Onda M, Kawahara K, Kawamoto Y, Fujii T, Yamahatsu K, Ono Y, Uchida E¹⁾, Naito Z (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Lumican, a small leucine-rich proteoglycan family member has a potential to develop new medicine for the pancreatic cancer patients. Digestive Disease Week 2009 (DDW2009) (Chicago, IL, USA), 2009. 4.
- 2) Ishiwata T, Matsuda Y, Yamamoto T, Kawamoto M, Kawahara K, Teduka K, Fujii T, Nakazawa N, Naito Z : Down-regulation of Nestin inhibited the invasion and migration of pancreatic cancer cells. American association for cancer research (AACR 100th) (Denver, CO, USA), 2009. 4.
- 3) Matsuda Y, Onda M, Yamamoto T, Kawahara K, Kawamoto K, Suzuki T, Nakazawa N, Seya T¹⁾, Ohaki Y²⁾, Ishiwata T, Naito Z (¹⁾ Department of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Fibroblast growth factor receptor 2 IIIc and development of colorectal adenocarcinoma. American association for cancer research (AACR 100th) (Denver, CO, USA), 2009. 4.
- 4) Kawase R^{1, 2)}, Ishiwata T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Kawamoto Y¹⁾, Matsuda Y¹⁾, Onda M¹⁾, Kudo M¹⁾, Nakazawa N¹⁾, Takeshita T²⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Integrative Oncological Pathology, ²⁾ Department of Gynecology) : Fibroblast growth factor receptor 2 IIIc is expressed in human uterine cervical intraepithelial neoplasia (CIN) and invasive cervical cancer. American association for cancer research (AACR 100th) (Denver, CO, USA), 2009. 4.
- 5) Kudo M, Fujii T, Teduka K, Kawamoto Y, Suzuki T, Kawahara K, Ishiwata T, Naito Z : Efficient secretion of insulin from beta-cells requires cell-to-cell adhesion. American Pancreatic Association Annual Meeting (The 2009 APA) (Honolulu, Hawaii, USA), 2009. 11.
- 6) Yamamoto T, Ishiwata T, Motoda N, Kawahara K, Fujii T, Matsuda Y, Onda M, Naito Z : Signal transduction pathway analysis to induce cell growth and vascular endothelial growth factor-A release by ker-

- atinocyte growth factor in pancreatic cancer cells. American Pancreatic Association Annual Meeting (The 2009 APA) (Honolulu, Hawaii, USA), 2009. 11.
- 7) Katayama H¹⁾, Naito Z, Maeda S¹⁾, Kawamoto Y, Onda M, Peng W, Motoda N, Tsuchiya S (1) Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, NMS) : A case of cholangiocarcinoma with intraductal papillary mucinous tumor of the pancreas diagnosed using cytodiagnosis. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (the 17th) (Chiang Mai, Thailand), 2010. 1.
 - 8) Ishiwata T, Matsuda Y, Yamamoto T, Uchida E¹⁾, Korc M²⁾, Naito Z (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 2) Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, NH, USA) : Expression and roles of FGFR2 isoforms in pancreatic cancer cells. BIT Life Sciences' 3rd Annual Protein and Peptide Conference (PepCon 2010) (Beijing, China), 2010. 3.
 - 9) 川瀬里衣子^{1, 2)}, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 女性生殖発達病態学) : 子宮頸癌発生過程におけるFGFR2IIIcの発現と役割の検討. 日本産婦人科学会 (第61回) (京都), 2009. 4.
 - 10) 吉野雅則¹⁾, 石渡俊行, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内藤善哉, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 臓器病態制御外科学) : 消化管癌におけるkeratinocyte growth factor receptor (KGFR) の発現と局在の意義. 日本外科学会 (第109回), 2009. 4.
 - 11) 松下 晃¹⁾, 内田英二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 西 佳史¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 石渡俊行, 内藤善哉, 笹島耕二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, その他6名 (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : ヒト膵癌におけるSTAT5の発現, 活性化についての検討. 日本外科学会 (第109回), 2009. 4.
 - 12) 川野陽一¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 上行結腸癌術後に発症した腹腔内デスマイト腫瘍の1切除例. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
 - 13) 川瀬里衣子^{1, 2)}, 石渡俊行¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 河本陽子¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 統御機構病理学, 2) 女性生殖発達病態学) : 子宮頸部異形成と子宮頸癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2IIIc) の発現と役割の検討. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 14) 秋山 輝¹⁾, 田辺真樹²⁾, 清水 章³⁾, 小野ゆり, 内藤善哉, 福田 悠³⁾ (1) 医学部3学年, 2) 医学部4学年, 3) 解析人体病理学) : 腎間質を主体にALアミロイド沈着を認めた形質細胞性リンパ腫に合併した腎アミロイドーシスの1例. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 15) 山本哲志, 石渡俊行, 松田陽子, 川原清子, 河本陽子, 恩田宗彦, 内藤善哉 : 細胞増殖能へのlumicanの影響とシグナル伝達系の解析. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 16) 河本陽子, 石渡俊行, 川原清子, 藤井雄文, 手塚 潔, 鈴木妙子, 小野ゆり, 恩田宗彦, 内藤善哉 : 抗原性保持に有効な薄切標本保存法の比較検討. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 17) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部) : 中皮腫と反応性中皮細胞の鑑別のためのマトリックスメタロプロテアーゼ-9 (MMP-9) についての検討. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 18) 彭 為霞, 小野ゆり, 恩田宗彦, 石渡俊行, 松田陽子, 許田典男, 牛腸義宏¹⁾, 足立好司²⁾, 平戸純子³⁾, 内藤善哉 (1) 付属病院小児科, 2) 付属病院脳神経外科, 3) 群馬大学医学部付属病院病理部) : 乳児の側脳室に発生したChoroid plexus carcinomaの1例. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 19) 許田典男, 恩田宗彦, 小野ゆり, 松田陽子, 清水 章¹⁾, 石渡俊行, 内藤善哉 (1) 病理学講座 (解析人体病理学)) : 不明熱として生前に診断しえなかったANCA陰性血管炎の1剖検例. 日本病理学会学術総会 (第98回), 2009. 5.
 - 20) 内藤善哉, 松田陽子, 川本聖郎¹⁾, 山本哲志, 小野ゆり, 恩田宗彦, 内田英二¹⁾, 石渡俊行 (1) 臓器病態制御

- 外科学)：膵癌におけるNestinの発現と、その制御による膵癌治療の可能性の検討。日本病理学会学術総会(第98回), 2009. 5.
- 21) 石渡俊行, 松田陽子, 山本哲志, 手塚 潔, 藤井雄文, 川原清子, 中澤南堂, 恩田宗彦, 内田英二¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 臓器病態制御外科学)：Fibroblast growth factor receptor2 IIIc 過剰発現による膵臓癌増殖促進と、その制御による治療応用。日本病理学会学術総会(第98回), 2009. 5.
- 22) 松田陽子, 恩田宗彦, 川原清子, 河本陽子, 山本哲志, 工藤光洋, 中澤南堂, 瀬谷知子¹⁾, 大秋美治²⁾, 石渡俊行, 内藤善哉⁽¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 千葉北総病院病理部)：大腸癌における線維芽細胞増殖因子受容体 Fibroblast growth factor receptor 2IIIc (FGFR2IIIc) の発現と役割。日本病理学会学術総会(第98回), 2009. 5.
- 23) 清水秀樹¹⁾, 大秋美治¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 赤坂久美¹⁾, 三枝順子¹⁾, 京本晃典¹⁾, 笹谷昌司¹⁾, 島津純美¹⁾, 新井悟¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 千葉北総病院病理部)：VDT作業における労働衛生管理のためのガイドラインと細胞診業務の健康管理。日本臨床細胞学会学術総会(第50回), 2009. 6.
- 24) 中村祐司¹⁾, 斎藤良明¹⁾, 松原美幸²⁾, 川本雅司²⁾, 大塚俊司¹⁾, 石井英昭¹⁾, 原田 大²⁾, 内藤善哉, 土屋真一²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 付属病院病理部)：Metaplastic carcinomaの1例。日本臨床細胞学会学術総会(第50回), 2009. 6.
- 25) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 石渡俊行, 内藤善哉, 内田英二¹⁾, その他1名 (¹⁾ 外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)：膵癌におけるSTAT5発現についての検討。日本膵臓学会(第40回), 2009. 7.
- 26) 松田陽子, 石渡俊行, 川本聖郎¹⁾, 山本哲志, 許田典男, 山初和也, 彭 為霞, 恩田宗彦, 内田英二¹⁾, Korc M²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 臓器病態制御外科学, ²⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, Lebanon, NH, USA)：膵臓癌のNestin発現制御による浸潤・転移抑制の研究。日本膵臓学会(第40回), 2009. 7.
- 27) 石渡俊行, 山本哲志, 松田陽子, 恩田宗彦, 川本聖郎¹⁾, 内田英二¹⁾, Korc M²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 臓器病態制御外科学, ²⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, Lebanon, NH, USA)：線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2 IIIc) 発現制御による膵臓癌治療の研究。日本膵臓学会(第40回), 2009. 7.
- 28) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 横山 正¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部)：CISH法による乳癌細胞診標本でのHER2遺伝子検出の基礎的検討。日本乳癌学会総会(第17回), 2009. 7.
- 29) 川瀬里衣子^{1,2)}, 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行²⁾ (¹⁾ 統御機構病理学, ²⁾ 女性生殖発達病態学)：子宮頸癌治療における新たな分子標的としてのFGFR2 IIIcの可能性。日本婦人科腫瘍学会(第46回), 2009. 7.
- 30) 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 山初和也^{1,2)}, 許田典男¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 川原清子¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 瀬谷知子³⁾, 大秋美治⁴⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 統御機構病理学, ²⁾ 臓器病態制御外科学, ³⁾ 千葉北総病院外科, ⁴⁾ 千葉北総病院病理部)：大腸腫瘍における線維芽細胞増殖因子受容体 Fibroblast growth factor receptor 2IIIc の役割。日本病理学会カンファレンス(第6回), 2009. 7.
- 31) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 北川泰之²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院整形外科)：軟部腫瘍の病理診断における新展開 軟部腫瘍の細胞診。日本臨床検査医学会学術総会(第56回), 2009. 8.
- 32) 磯部宏昭¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東 敬子¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美恵子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部)：膵術中迅速細胞診2ポイント採取法。日本医科大学医学会総会(第77回), 2009. 9.

- 33) 鈴木美紀¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東 敬子¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 体腔液細胞診材料における原発巣確定のための免疫細胞化学的検索. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 34) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 東 敬子¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 子宮内膜細胞診断時におけるセルブロック法併用の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 35) 劉 愛民^{1, 2)}, 内藤善哉^{2, 3)}, 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 形態解析共同研究施設, ³⁾ 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 細胞診材料を用いた電顕検索の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 36) 秋山 輝¹⁾, 田代昌久¹⁾, 長柄泰孝¹⁾, 河本陽子, 許田典男, 彭 為霞, 松田陽子, 内藤善哉⁽¹⁾ 医学部3学年) : 閉塞性黄疸で発症した膵胆道疾患の1症例 細胞診の重要性と鑑別すべき疾患. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 37) 原真由美¹⁾, 戸田由美子¹⁾, 劉 愛民²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 医学部3学年, ²⁾ 形態解析共同研究施設) : 脳腫瘍における電顕的検索 (報告2) . 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 38) 戸田由美子¹⁾, 原真由美¹⁾, 劉 愛民²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 医学部3学年, ²⁾ 形態解析共同研究施設) : 脳腫瘍における電顕的検索 (報告1) . 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 39) 山本哲志, 石渡俊行, 許田典男, 松田陽子, 恩田宗彦, 内田英二¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 臓器病態制御外科学) : Enhanced expression of lumican correlated with pancreatic cancer cell growth. 日本癌学会学術総会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
- 40) 許田典男, 石渡俊行, 松田陽子, 恩田宗彦, 川原清子, 河本陽子, 内田英二¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 臓器病態制御外科学) : Enhanced expression of fibroblast growth factor receptor (FGFR) 4 and its ligand, FGF19 in human pancreatic cancer. 日本癌学会学術総会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
- 41) 石渡俊行, 松田陽子, 山本哲志, 川原清子, 河本陽子, 手塚 潔, 内田英二¹⁾, Korc M²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 臓器病態制御外科学, ²⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, Lebanon, NH, USA) : Enhanced expression of fibroblast growth factor receptor (FGFR) 2 IIIc correlates with pancreatic cancer cell growth. 日本癌学会学術総会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
- 42) 松田陽子, 石渡俊行, 山初和也, 許田典男, 恩田宗彦, 山本哲志, 中澤南堂, 瀬谷知子¹⁾, 大秋美治²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 千葉北総病院病理部) : Expression and role of fibroblast growth factor receptor 2IIIc in colorectal adenocarcinoma. 日本癌学会学術総会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
- 43) 亀山孝二, 町田 稔, 清水昭夫¹⁾, 手塚 潔, 内藤善哉⁽¹⁾ 創価大学工学部) : IV型コラーゲン分子凝集と機能発現の病理 triple-helix内の接着分子CD44関連領域の光感受性物質による検討. 日本脈管学会総会 (第50回), 2009. 10.
- 44) 磯部宏昭¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 劉 愛民¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 濾胞樹状細胞肉腫の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第48回), 2009. 10.
- 45) 清水秀樹¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 大秋美治¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 千葉北総病院病理部) : 誤判定, 検体管理 職場環境安全と対応 ホルムアルデヒド法改正に伴う医療機関の対応 労働衛生と医療安全. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第48回), 2009. 10.
- 46) 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 渡会泰彦²⁾, 土屋眞一²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 付属病院病理部) : 消化器細胞診 悪性疾患との鑑別が難しい良性疾患の細胞診 膵胆道領域における悪性疾患との鑑別が難しい細胞像の検討 精度改善ための試み. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第48回), 2009. 10.

47) 草野輝男¹⁾, 松田陽子, 西野朋子¹⁾, 石渡俊行, 内藤善哉, 西野武士¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学 (構造・代謝)) : Knock-out マウスを用いたラクトベルオキシダーゼの組織局在の網羅的解析. 日本生化学学会 (第82回), 2009. 10.

(4) lecture session :

- 1) Taniyama K¹⁾, Jhala-N D²⁾, Katayama H³⁾, Kuraoka K⁴⁾, Naito Z, Rangdaeng S⁵⁾, Gong G⁶⁾, Lai C⁷⁾, Chang A⁸⁾, Jhala-C N²⁾ (¹⁾ Institute for Clinical Research, National Hospital Organization, Kure Medical Center and Chugoku Cancer Center, Kure, Japan, ²⁾ Dept. of Cytopathology, University of Alabama at Birmingham, USA, ³⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, NMS, Japan, ⁴⁾ Dept. of Diagnostic Pathology, National Hospital Organization, Kure Medical Center and Chugoku Cancer Center, Kure, Japan, ⁵⁾ Dept. of Pathology, Faculty of Medicine Chiang Mai university, Chiang mai, Thailand, ⁶⁾ Dept. of Pathology, University of Ulsan College of Medicine, AsanMedical Center, Seoul, Korea, ⁷⁾ Dept. of Pathology, Taipei Veterans General Hospital, Taipei, Taiwan, ⁸⁾ Dept. of Pathology, Yong Loo School of Medicine, National University of Singapore, Singapore) : Multinational comparison of diagnostic clues for atypical squamous cells from the uterine cervix among cytotechnologists in Asian countries. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (the 17th) (Chiang Mai, Thailand), 2010. 1.
- 2) Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Naito Z (¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, NMS) : How to make definitive diagnosis of Mesothelioma by Effusion Cytology : Usefulness of celltransfer method and cell block method for immunocytochemical Staining. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (the 17th) (Chiang Mai, Thailand), 2010. 1.

10. 微生物学・免疫学講座

研究概要

当微生物学免疫学講座では“生体防御システムの解明ならびにその制御”を主目的とし、感染症学および感染免疫学、腫瘍免疫学あるいはアレルギー、膠原病学などに関連した研究を、特に近年その実態が明らかになって来た“自然免疫”システムの中樞を担う樹状細胞との関わりに着目し研究を展開している。

感染症学および感染免疫学：[A]HIV感染伝播機構の解明とその制御法の開発：(1) HIV母児感染の鍵を握る母乳中マクロファージ(BrMMφ)の表面には末梢血単核球には発現していないTLR3が発現しており、このTLR3をその特異的リガンドであるpoly(I:C)によって刺激すると、大量のIFN-α、βの放出が起こるとともに、HIVの捕捉因子であるDC-SIGNの発現が抑制され、その結果HIVの感染伝播が阻害されることを見いだした。(2) このBrMMφは同時に母乳を介して伝播するHTLV-Iの感染標的であることから、HTLV-IとBrMMφを長期培養したところ、HTLV-Iの持続感染細胞株の樹立に成功した。(3) 腸管などの粘膜組織内に棲息するCD4陽性NKT細胞が粘膜組織における強い感染伝播能を有することを見いだした。(4) また腸内細菌によるバイオフィルム形性能の実態を明らかにすることができた。

腫瘍免疫学：[B]粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：(1) 腫瘍抗原提示の鍵を握る樹状細胞誘導に必須の因子であるGM-CSFの大量産生システムを開発した。(2) また、樹状細胞によるCross-presentationの新たな機序明らかにした。(3) 膀胱癌に対する膀胱内BCGを注入療法の機序の一端を明らかにした。(4) 粘膜や皮膚に局在する樹状細胞亜群(DEC-205, 33D1)の分布の実態を明らかにし、抗33D1抗体による選択的な33D1陽性樹状細胞の体内除去法の開発に成功するとともに、残存したDEC-205陽性樹状細胞の選択的活性化により個体内の特異的抗腫瘍免疫が誘導可能であることを発見した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamashita T¹, Tamura H¹, Satoh C¹, Shinya E, Takahashi H, Chen L¹, Kondo A¹, Tsuji T¹, Dan K¹, Ogata K¹ (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Functional B7.2 and B7-H2 molecules on myeloma cells are associated with a growth advantage. Clin Cancer Res 2009 ; 15 (3) : 770-777.
- 2) Machida K¹, Tsukiyama-Kohara K², Sekiguch S², Seike E³, Tone S⁴, Hayashi Y⁵, Tobita Y², Kasama Y⁶, Shimizu M, Takahashi H, Taya C⁶, Yonekawa H⁶, Tanaka N², Kohara M² (1) Department of Immunology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Microbiology and Cell Biology, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, 3) Department of Internal Medicine, Self-Defense Forces Central Hospital, 4) Department of Biochemistry, Kawasaki Medical School, 5) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 6) Laboratory of Animal Science, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science) : Hepatitis C Virus and Disrupted Interferon Signaling Promote Lymphoproliferation via Type II CD95 and Interleukins. Gastroenterology 2009 ; 137 (1) : 285-296.
- 3) Higuchi T, Shimizu M, Owaki A, Takahashi M, Shinya E, Nishimura T¹, Takahashi H (1) Department of Urology, Nippon Medical School) : A possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma : involvement of innate effector cells for the inhibition of tumor growth. Cancer Immunol Im-

munother 2009 ; 58 (8) : 1245-1255.

- 4) Shinya E, Owaki A, Norose Y, Sato S¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School) : Quick method of multimeric protein production for biologically active substances such as human GM-CSF (hGM-CSF). *Biochem Biophys Res Commun* 2009 ; 386 (1) : 40-44.
- 5) Inaba K¹⁾, Fukazawa Y¹⁾, Matsuda K¹⁾, Himeno A¹⁾, Matsuyama M¹⁾, Ibuki K¹⁾, Miura Y¹⁾, Koyanagi Y¹⁾, Nakajima A¹⁾, Blumberg R¹⁾, Takahashi H, Hayamai M¹⁾, Igarashi T¹⁾, Miura T¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University) : Small intestine CD4⁺ cell reduction and enteropathy in simian/human immunodeficiency virus KS661-infected rhesus macaques in the presence of low viral load. *J Gen Virol* 2009 ; 91 (3) : 773-781.
- 6) Miyazaki Y¹⁾, Kamiya S²⁾, Hanawa T²⁾, Fukuda M³⁾, Kawakami H³⁾, Takahashi H, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, ³⁾ Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine) : Effect of probiotic bacterial strains of Lactobacillus, Bifidobacterium, and Enterococcus on enteroregative Escherichia coli. *J Infect Chemother* 2010 ; 16 (1) : 10-18.
- 7) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Takahashi H : Development of anti-tumor immunity by oral vaccination with tumor antigen and cholera toxin. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 50-52.
- 8) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T¹⁾, Fukunaga Y²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-1 : implications for HTLV-1 transmission via breastfeeding. *Biomedical Res* 2010 ; 31 (1) : 53-61.
- 9) Takahashi H : Species-specific CD1 -restricted innate immunity for the development of HIV vaccine. *Vaccine* 2010 ; 28 (S) : B3-B7.
- 10) Yagi Y, Watanabe E, Watari E, Shinya E, Satomi M, Takeshita T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. *Immunology* 2010 ; 130 (DOI : 10. 1111/j. 03264.).
- 11) Moriya K, Wakabayashi A, Shimizu M, Tamura H¹⁾, Dan K¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205+ dendritic cells. *Cancer Immunol. Immunother* 2010 ; 59 : 1083-1095.
- 12) 高橋秀実 : BCGによる自然免疫の活性化. *泌尿器外科* 2009 ; 22 (2) : 200-202.
- 13) 高橋秀実 : 自然免疫システムと生体防御. *炎症と免疫* 2009 ; 17 (3) : 247-249.
- 14) 高橋秀実 : アレルギー疾患における漢方薬の作用機序に関する1考察. *日本小児科学会雑誌* 2009 ; 113 (6) : 897-901.
- 15) 高橋秀実 : CD1分子群によって規定された自然免疫とMHC分子群によって拘束された獲得免疫 : エイズワクチン開発のための新たな指標. *日本エイズ学会誌* 2009 ; 11 (3) : 199-204.
- 16) 本田和美¹⁾, 中野美佳¹⁾, 加来清美¹⁾, 須藤 勉¹⁾, 熊谷拓也¹⁾, 市村恭子¹⁾, 大藪英一 (¹⁾ 越谷大袋クリニック) : カプラ清浄化対策で終わらない品質保証のためのカプラ標準手順書とは. *日本臨床工学会誌* 2009 ; 37 (2) : 354-356.
- 17) 大藪英一, 葉山修陽¹⁾, 野呂瀬嘉彦 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院) : 最適な透析液清浄化法選択のための基礎的検討. *日本透析医会雑誌* 2009 ; 24 (3) : 440-444.
- 18) 本田和美¹⁾, 大藪英一, 野呂瀬嘉彦, 葉山修陽²⁾ (¹⁾ 越谷大袋クリニック, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院) : 透析用水中汚染経路の推定から考えた水質基準0.1CFU/mlへの展望. *腎と透析* 2009 ; 62 (別冊) : 72-76.

- 19) 大藪英一, 野呂瀬嘉彦, 葉山修陽¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 無菌性保証に向けた従属栄養菌培養3フィルタ法の検出精度管理. 腎と透析 2009 ; 67 (別冊) : 102-104.
 - 20) 藤岡紀明¹⁾, 大森容子¹⁾, 大藪英一, 野呂瀬嘉彦, 葉山修陽²⁾ (1) 御徒町腎クリニック, 2) 日本医科大学千葉北総病院) : RO水タンク・ROモジュールの洗浄・交換に伴うRO水エンドトキシン値および生菌数の推移と一過性遅延発育コロニーの検討. 腎と透析 2009 ; 67 (別冊) : 77-78.
 - 21) 高橋秀実 : 漢方薬の解表作用 : 細胞膜上に局在化した脂質の融解と再分配の誘発. 漢方医学 2010 ; 33 (1) : 285-290.
 - 22) 新谷英滋 : エイズウイルスと樹状細胞 ; VIHによる免疫システムのハイジャック. 日仏医学 2010 ; 32 (1) : 19-29.
- (2) 総説 :
- 1) 大藪英一 : インフルエンザにかかったら, 透析してもらえないのでしょうか. 腎不全を生きる 2009 ; 41 (1) : 58-59.
 - 2) 大藪英一, 野呂瀬嘉彦, 葉山修陽¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 細菌汚染の現状と無菌性保証に向けたとりくみ. 日本血液浄化技術学会誌 2009 ; 17 (1) : 29-32.
 - 3) 大藪英一, 野呂瀬嘉彦, 葉山修陽¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 無菌透析液/補充液作製のための細菌学的検査 : 無菌試験法の落とし穴について. 腎と透析 2009 ; 67 (別冊) : 8-11.

著 書

- 1) 矢田純一, 高橋秀実 : [監修 (全部を監修)] リッピンコット・イラストレイテッド免疫学, 2009 ; pp1-352, 丸善出版.
- 2) 高橋昌巳¹⁾, 渡理英二 (1) 社会福祉法人桜雲会) : [共著] コメディカルのための微生物と感染予防, 2009 ; 社会福祉法人桜雲会.
- 3) 秋沢忠男¹⁾, 隈 博政²⁾, 大藪英一, 菊池 勘³⁾ (1) 昭和大学腎臓内科, 2) くま腎クリニック, 3) 東京女子医科大学血液浄化部) : [共著] 透析患者における感染症対策. 透析療法ネクストVIII, 2009 ; pp1-16, 医学図書出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Takahashi H : Mucosal Innate Immunity and HIV pathogenesis. US-Japan Joint AIDS-Hepatitis Meeting (Portland, Oregon, USA), 2009. 9.
- 2) Takahashi H : Selective activation of species-restricted innate immunity for the development of individually restricted acquired immunity. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 3) 高橋秀実 : 膀胱癌に対するBCG注入療法から見えてくる丸山ワクチンの作用機序. NPO丸山ワクチンと癌を考える会 (第6回), 2009. 5.
- 4) 高橋秀実 : 生体防御システムの2重構造と新たな腫瘍免疫の構築. 西多摩医師会学術講演会, 2009. 7.
- 5) 高橋秀実 : 様々な症候と自然免疫の応答. 平成21年度北区医師会夏の免疫・アレルギーセミナー, 2009. 8.
- 6) 高橋秀実 : 漢方療法入門 : 日常診療に役立つ漢方処方. 平成21年度日本医師会生涯教育講座, 2009. 10.
- 7) 高橋秀実 : 母乳細胞とレトロウイルス感染. 第24回日本生殖免疫学会総会・学術集会, 2009. 11.
- 8) 高橋秀実 : ヘリコバクター・ピロリ感染と生体応答. 日本小児ヘリコバクター・ピロリ研究会, 2010. 3.

(2) 一般講演 :

- 1) Mayumi N, Watanabe E, Yagi Y, Watari E, Kawana S¹⁾, Takahashi H (1) 日本医科大学皮膚科学) : Langerin Expression on breast milk macrophages in the presence of keratinocytes. 日本免疫学会総会 (第39回),

2009. 12.

- 2) Kumagai Y, Takahashi H : Epitope-grafting and construction of epitope libraries at the immunoglobulin hypervariable regions. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
- 3) Watari E, Watanabe E, Mayumi N, Date T, Takahashi H : Implications of low-responsiveness for secreting pro-inflammatory molecules to poly (I : C) /TLR3 signaling in monocyte-derived Langerhans cell-like cells. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
- 4) Wakabayashi A, Moriya K, Harimoto H, Tomita Y, Shimizu M, Takahashi H : Induction of acquired tumor-specific immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205+ dendritic cells with very low-dose of anti-cancer drugs in vivo. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
- 5) Takaku S, Takahashi M, Nakagawa Y, Owaki A, Shimizu M, Takaku C, Takahashi H : IL-15 inhibits the apoptosis of CTLs induced by brief exposure to antigenic peptide. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
- 6) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Watanabe E, Matsumura J, Yagi Y, Takaku C, Takahashi H : Molecular basis for down-regulation of ZCD1-molecules and their antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
- 7) Date T, Moriya K, Wakabayashi A, Takahashi H : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective activation of innate DEC-205+ dendritic cells. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 8) Mayumi N, Watanabe E, Yagi Y, Watari E, Takahashi H : Langerin expression on breast milk macrophages under the influence of keratinocytes. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 9) Yagi Y, Watanabe E, Takahashi M, Watari E, Satomi M¹⁾, Takeshita T¹⁾, Takahashi H ¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Suppression of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 10) Inagaki S, Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takahashi H : Characterization and functional analysis of HTLV-I-transformed breast milk macrophages (HTLV-BrMM ϕ). IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 11) Matsuhashi T, Higuchi T, Shimizu M, Owaki A, Takahashi M, Shinya E, Nishimura T¹⁾, Takahashi H ¹⁾ Department of Urology, Nippon Medical School) : Possible mechanisms for the inhibition of bladder tumor by intravesical BCG therapy. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 12) Ohmi K, Saito N¹⁾, Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Watanabe E, Takahashi M, Ibuki K¹⁾, Miura T¹⁾, Hayami M¹⁾, Takahashi H ¹⁾ Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University) : Invariant T-cell receptor-mediated functional cross-reactivity of natural killer T cells among primates and rodents. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 13) Harimoto T, Shimizu M, Nakatuka K¹⁾, Dan K¹⁾, Takahashi H ¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by un-controllable murine hepatoma cells. IVth World Immune Regulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 14) Negishi Y, Kumagai Y, Takeshita T¹⁾, Takahashi H ¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Profiling of decidual and splenic dendritic cells in pregnant mice. IVth World Immune Reg-

- ulation Meeting (Davos, Switzerland), 2010. 3.
- 15) 新谷英滋, 高橋秀実: HIV-1 Nef down-regulates CD1 lipid/glycolipid antigen presentation by immature dendritic cells. 日本感染症学会総会 (第83回), 2009. 4.
 - 16) 高橋めぐみ, 渡理英二, 新谷英滋, 高橋秀実: HIV-1持続感染細胞を傷害する細胞傷害性CD8陽性細胞. 日本ウイルス学会総会 (第57回), 2009. 10.
 - 17) 竹内穂高, 高橋めぐみ, 高橋秀実: HTLV-Iの母子感染における母乳マクロファージの関与. 日本ウイルス学会総会 (第57回), 2009. 10.
 - 18) 高久千鶴乃, 渡邊恵理, 大脇敦子, 清水真澄, 近江恭子, 渡理英二, 新谷英滋, 高橋秀実: HIV暴露樹状細胞が及ぼすCD4陽性NKT細胞のX4-type HIV-1感受性増強の可能性. 日本エイズ学会総会 (第23回), 2009. 11.
 - 19) 新谷英滋, 清水真澄, 大脇敦子, 渡邊恵理, 松村次郎, 八木幸恵, 高久千鶴乃, 高橋秀実: Molecular basis for down-regulation of ZCD1-molecules and their antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 日本エイズ学会総会 (第23回), 2009. 11.
 - 20) 松村次郎, 大脇敦子, 清水真澄, 本田元人, 秋山純一, 新谷英滋, 岡 慎一, 高橋秀実: HIV患者の腸管粘膜における感染細胞とプロウイルスDNA・ウイルスRNAの検索. 日本エイズ学会総会 (第23回), 2009. 11.
 - 21) 八木幸恵, 渡邊恵理, 渡理英二, 真弓暢子, 松村次郎, 新谷英滋, 高橋めぐみ, 里見操¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学): 母乳におけるDC-SIGNを介したHIV-1の母児感染はTLR3シグナルにより抑制される. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
 - 22) 根岸靖幸, 熊谷善博, 真弓暢子, 松橋智彦, 竹下俊行¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学): 妊娠マウスにおける脱落膜, 脾臓細胞のプロファイリング. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
 - 23) 小林史子, 渡邊恵理, 竹内穂高, 稲垣真一郎, 中川洋子, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実: ヘリコバクター・ピロリ表面上のウレアーゼにより誘発されたTLR2を介したB-1細胞による自己抗体の産生. 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.
 - 24) 中川洋子, 清水真澄, 大脇敦子, 近江恭子, 野呂瀬嘉彦, 高久 俊, 高橋秀実: CD8陽性ヒト免疫不全ウイルス外被糖蛋白特異的細胞傷害性T細胞の遊離ペプチド抗原によるアポトーシス誘導 (II). 日本免疫学会総会 (第39回), 2009. 12.

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

教室員は、衛生学・公衆衛生学（環境医学）諸領域から、社会医学に寄与する研究テーマを選択して調査研究を行っているが、ラボとフィールドの両面から、「人」を最終的な対象とした予防医学研究を志向している。共通研究テーマは、環境アメニティーと健康増進で、「森林浴」をキーワードとしている。本年度は成人男性を対象に、日帰りの森林浴が健康、とくに免疫能におよぼす影響をフィールドで行った。長期的な視点で「研究」をすすめるため、以前から外部研究資金の獲得を各教室員に求めてきたが、本年度は、所属教員6名が研究代表者として文科省科研費を獲得した。各スタッフの主な研究内容を以下に示す。

- ・交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究（平成21年度科研費基盤（C））、タバコ依存度質問紙調査法の心理測定上の特性（喫煙科学研究財団研究助成）（川田智之）
- ・メルカプトピルビン酸硫黄転移酵素の構造と機能の研究（永原則之）
- ・肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察（若山葉子）
- ・ヒト血漿中グランザイム3は炎症反応のマーカーとなるか（平成21年度科研費基盤（C））（稲垣弘文）
- ・森林環境要素および身近な森林浴が生体免疫機能へ及ぼす効果の解明（平成21年度森林総合研究所委託研究）、有機リン農薬による免疫毒性の新機序（平成21年度科研費基盤（C））（李卿）
- ・受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究（平成21年度科研費基盤（C））（勝又聖夫）
- ・生体の免疫系におけるグランザイム3の役割（平田幸代）・ポルフォビリノーゲン合成酵素の活性化機序に関する研究（澤田典里）
- ・ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究（平成21年度科研費基盤（C））（李英姫）
- ・職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討（平成21年度科研費若手（B））（大塚俊昭）

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) Nagahara N : A novel thioredoxin-dependent redox-sensing molecular switch of mercaptopyruvate sulfur-transferase : maintenance of cellular redox equilibrium. *Mini Rev Med Chem* 2008 ; 8 (6) : 585-589.

(1) 原著：

- 1) Kawada T, Wakayama Y, Katsumata M, Inagaki H, Otsuka T, Hirata Y, Li Y, Li Q : Patterns in self-rated health according to age and sex in a Japanese national survey, 1989-2004. *Gend Med* 2009 ; 6 (1) : 329-334.
- 2) Ueki N¹⁾, Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Shindo T¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T¹⁾, Inagaki H, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine) : Impact of quadruple regimen of clarithromycin added to metronidazole-containing triple therapy against *Helicobacter pylori* infection following clarithromycin-containing triple-therapy failure. *Helicobacter* 2009 ; 14 (2) : 91-99.
- 3) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C¹⁾, Kusama Y²⁾ (¹⁾ Cardiovascular center, Nippon Medical School Chiba-

- Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Obesity as an independent influential factor for reduced radial arterial wave reflection in a middle-aged Japanese male population. *Hypertens Res* 2009 ; 32 (5) : 387-391.
- 4) Li Y, Takizawa H¹⁾, Azuma A²⁾, Kohyama T⁴⁾, Yamauchi Y⁴⁾, Kawada T, Kudoh S²⁾, Sugawara I³⁾ (¹⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, Kawasaki, Japan, ²⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, Kiyose, Japan, ⁴⁾ Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine, Tokyo, Japan) : The effects of oxidative stress induced by prolonged low-dose diesel exhaust particle exposure on the generation of allergic airway inflammation differ between BALB/c and C57BL/6 mice. *Immunopharmacol Immunotoxicol* 2009 ; 31 (2) : 230-237.
- 5) Kawada T, Kuratomi Y, Kanai T : Lifestyle determinants of depressive feeling and a feeling of unhappiness among workers at a workplace : A study in Japan. *Work* 2009 ; 33 (3) : 255-260.
- 6) Otsuka T, Kawada T, Ibuki C¹⁾, Kusama Y²⁾ (¹⁾ Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Relationship between job strain and radial arterial wave reflection in middle-aged male workers. *Prev Med* 2009 ; 49 (2-3) : 260-264.
- 7) Kawada T, Kuratomi Y, Kanai T, Suto S, Nihsime A, Koizumi M, Nakano N : Anthropometric obesity indices and metabolic syndrome in Japanese working men. *Work* 2009 ; 34 (1) : 89-94.
- 8) Li Q, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Hirata K, Shimizu T, Kawada T, Park B¹⁾, Ohira T²⁾, Kagawa T²⁾, Miyazaki Y¹⁾ (¹⁾ 千葉大学, ²⁾ 森林総合研究所) : Effect of phytoncide from trees on human natural killer cell function. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2009 ; 22 (4) : 951-959.
- 9) Kawada T, Muto K, Kanai T, Kuratomi Y : Prostate-specific antigen screening of workers under the age of 40 in Japan. *Cancer Epidemiology* 2009 ; 33 (3-4) : 309-310.
- 10) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Katsumata M : Relationship Between Two Indicators of Coronary Risk Estimated by the Framingham Risk Score and the Number of Metabolic Syndrome Components in Japanese Male Manufacturing Workers. *Metab Syndr Relat Disord* 2009 ; 7 (5) : 435-440.
- 11) Shibuya N¹⁾, Mikami Y¹⁾, Kimura Y¹⁾, Nagahara N, Kimura H¹⁾ (¹⁾ National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry) : Vascular endothelium expresses 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase and produces hydrogen sulfide. *J Biochem* 2009 ; 146 (5) : 623-626.
- 12) Kawada T, Hirata K, Inagaki H, Otsuka T, Katsumata M : Significance of the 100-point scale to evaluate perceived tobacco dependence. *Work* 2010 ; 35 (2) : 183-189.
- 13) Hirata Y, Inagaki H, Kawada T : Recombinant human progranzyme 3 expressed in *Escherichia coli* for analysis of its activation mechanism. *Microbiol Immunol* 2010 ; 54 (2) : 98-104.
- 14) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M : Insulin resistance, as expressed by HOMA-R, is strongly determined by waist circumference or body mass index among Japanese working men. *Obes Res & Clin Practice* 2010 ; 4 (1) : e9-e14.
- 15) Nishiyama Y¹⁾, Ueda M¹⁾, Katsura K¹⁾, Otsuka T, Abe A^{1,2)}, Nagayama H¹⁾, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Divisions of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Stroke Center, Shioda Hospital) : Asymmetric dimethylarginine (ADMA) as a possible risk marker for ischemic stroke. *J Neurol Sci* 2010 ; 290 (1-2) : 12-15.
- 16) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 滝澤 始¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 川田智之, 菅原 勇³⁾, 工藤翔二⁴⁾, 砂塚敏明⁵⁾, 大村 智⁵⁾ (¹⁾ 帝京大学医学部第四内科, ²⁾ 日本医科大学呼吸器・感染・腫瘍内科, ³⁾ 結核研究

所抗酸菌レファレンスセンター, ⁴⁾ 財団法人結核予防会 複十字病院, ⁵⁾ 北里大学北里生命科学研究所): EM・EM703はディーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する. *Jpn J Antibiot* 2009; 62 (Suppl. A): 9-12.

17) 勝又聖夫, 平田紀美子, 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之: 新しい素材を用いた唾液採取器具による唾液中のコチニン, コルチゾール, デヒドロエピアンドロステロン及びテストステロンの測定. *日本衛生学雑誌* 2009; 64 (4): 811-816.

(2) 総説:

1) 李 英姫: 大気汚染と気管支喘息: 発症要因になるか?. *呼吸器科* 2009; 15: 474-478.

2) Nagahara N, Matsumura T¹⁾, Okamoto R²⁾, Kajihara Y²⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of chemistry, Graduate School of Science, Osaka University): Protein cysteine modifications: (1) Medical chemistry for proteomics. *Curr Med Chem* 2009; 16 (33): 4419-4444.

3) Nagahara N, Matsumura T¹⁾, Okamoto R²⁾, Kajihara Y²⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of chemistry, Graduate School of Science, Osaka University): Protein cysteine modifications: (2) Reactivity specificity and topics of medical chemistry and protein engineering. *Curr Med Chem* 2009; 16 (34): 4490-4501.

4) Li Q: Effect of forest bathing trips on human immune function. *Environ Health Prev Med* 2010; 15 (1): 9-17.

5) 李 卿: 森林浴の効果. *Anti-aging Medicine* 2009; 5 (3): 362-367.

6) 李 卿: 森林浴の免疫機能に及ぼす効果. *日本温泉気候物理医学会雑誌* 2009; 73 (1): 22-23.

7) 李 卿: 森がもたらす現代人の健康. *登山医学* 2009; 29 (1): 10-14.

(3) Letter:

1) Otsuka T, Kawada T: Validity of using body mass index as a surrogate measure of abdominal obesity. *Circ J* 2010; 74 (2): 383-383.

(4) レター:

1) Kawada T, Kuratomi Y: Depression among Japanese auto workers. *Int J Occup Environ Health* 2009; 15 (2): 238-239.

2) Kawada T, Suzuki S¹⁾ (¹⁾ 国際エコヘルス研究会): Relationship between self-rated health and depressive state of the old inhabitants. *Psychogeriatrics* 2009; 9 (3): 151-152.

3) Kawada T: Monitoring of activity by wrist accelerometer in patients with atopic dermatitis. *Clin Exp Dermatol* 2010; 35 (2): 193-194.

4) Kawada T, Wakayama Y, Watanabe R: Biological markers, lifestyle factors, and metabolic syndrome. *Metabolism* 2010; 59 (3): 454-455.

(5) 話題:

1) 川田智之: メタボを予防する: 生活習慣を見直そう. *日医大医会誌* 2009; 5 (3): 176-177.

著 書

1) Li Q: [分担] NK Cell Assays in Immunotoxicity Testing. *Immunotoxicity Testing-Methods and Protocols-Methods in Molecular Biology* (Dietert RR), 2010; pp207-219, Humana Press, NY, USA.

2) 川田智之: [分担] 医学大辞典第2版 (伊藤正男・井村裕夫・高久史磨), 2009; 医学書院.

3) 川田智之: [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学2010 (鈴木庄亮・久道 茂), 2010; pp277-287, 南江堂.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Nagahara N, Sawada N, Arisaka F¹⁾, Mitsuoka K²⁾, Minami M (¹⁾ Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, ²⁾ Biomedical Information Research Center, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : Zinc ion- and redox-regulated metamorphosis of oligomeric state for porphobilinogen synthase activation. The 8th International Porphyrin-Heme Symposium (松江), 2008. 10.

追加分一般講演：

- 1) Nagahara N : Redox of the persulfurated reaction intermediate of rat mercaptopyruvate sulfurtransferase. 日本生化学会大会 (第81回) ・日本分子生物学会年会 (第31回) ・合同大会 (神戸), 2008. 12.

(1) 特別講演：

- 1) 李 卿：森林浴と働く人の健康. 日本産業衛生学会関東地方会例会 (第245回) (東京), 2009. 5.

(2) 教育講演：

- 1) 李 卿：森がもたらす現代人の健康 (山岳環境の医療への貢献). 日本登山医学会学術集会 (第29回) (東京), 2009. 5.

(3) シンポジウム：

- 1) 李 卿：森林浴が免疫機能に及ぼす効果 (シンポジウム名：森林浴の科学-生理的リラックスならびに免疫機能向上効果-)。日本温泉気候物理医学会総会 (第74回) (つくば), 2009. 5.

(4) 一般講演：

- 1) Nagahara N, Sawada N, Arisaka F¹⁾, Mitsuoka K²⁾, Minami M (¹⁾ Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, ²⁾ Biomedical Information Research Center, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : Redox and metal-regulated spatial subunit arrangement of the oligomer for porphobilinogen synthase activation. 14th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (Nagoya, Japan), 2009. 7.
- 2) Sawada N, Nagahara N, Endo Y¹⁾, Nakajima Y¹⁾, Kawada T (¹⁾ Tokyo Rosai Hospital) : Does His¹³¹ at the orifice of the catalytic cavity transiently bind a zinc ion in human porphobilinogen synthase?. (14th) International conference on biological inorganic chemistry (Nagoya, Japan), 2009. 7.
- 3) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : Effect of ziram, a carbamate pesticide, on human NK activity. 日本免疫毒性学会 (第16回) (旭川), 2009. 8.
- 4) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Ishizaki M, Okamura A¹⁾, Wang D¹⁾, Nasu T¹⁾, Kamijima M¹⁾, Kawada T (¹⁾ Nagoya University) : Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on immune function in Wistar rats. 46th Congress of the European Societies of Toxicology (Dresden, Germany), 2009. 9.
- 5) Li Q, Kawada T : Beneficial effects of forest environment on human immune function. International Conference on Ecology and Forests for Public Health (Oslo, Norway), 2009. 9.
- 6) Kawada T, Suzuki S¹⁾, Tsukioka T²⁾, Iesaki S²⁾ (¹⁾ International Eco-Health Study Group, ²⁾ Gunma Medical Association) : Perceived health and other subjectively evaluated physical/mental health of relatively healthy inhabitants aged 85 or over in Japan. The 5th Congress of Asia Pacific Society for the Study of Aging Male (Osaka), 2009. 10.
- 7) Nagahara N, Nirasawa T¹⁾ (¹⁾ Bruker Daltonics K. K.) : Possible production of SO from reaction intermedi-

- ate formed in persulfuration of mercaptopyruvate sulfurtransferase. 日本生化学会大会 (第82回) (神戸), 2009. 10.
- 8) Otsuka T, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾ (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Smoking status and cardiac biomarkers in middle-aged men : a possibility of ameliorating unfavorable cardiac conditions by smoking cessation. 日本循環器学会学術集会 (第74回) (京都), 2010. 3.
 - 9) 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾, 渡部月子³⁾, 若山葉子 (1) 日本医科大学スポーツ科学教室, 2) 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎, 3) 神奈川県立保健福祉大学 看護学) : カンボジア・シムリアップにおける小・中学生の生活環境と体格・体力について. 日本公衆衛生学会総会 (第68回) (奈良), 2009. 10.
 - 10) 李 卿, 稲垣弘文, 平田幸代, 岡村 愛¹⁾, 王 棟¹⁾, 那須民江¹⁾, 上島通浩¹⁾, 川田智之 (1) 名古屋大学) : Fenitrothion (FNT) と3-methyl-4-nitrophenol (MNP) の経口曝露によるラット免疫機能への影響. 日本産業衛生学会 (第82回) (福岡), 2009. 5.
 - 11) 大塚俊昭, 川田智之, 雪吹周生¹⁾, 草間芳樹²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器科) : 高脂血症者における橈骨動脈 Augmentation Index とMEGA リスクスコアとの関連性. 臨床血圧脈波研究会 (第9回) (大阪), 2009. 5.
 - 12) 大塚俊昭, 川田智之, 矢内美雪¹⁾, 北川裕子¹⁾ (1) キヤノン株式会社矢向事業所 健康支援室) : 職域健診データを利用した高血圧発症の予測 : フラミンガム高血圧リスクスコアの有用性. 日本産業衛生学会 (第82回) (福岡), 2009. 5.
 - 13) 李 卿 : 森林浴 (森林環境) がヒトナチュラル・キラー (NK) 細胞活性を高める. 第8回国際バイオフィオーラム (東京), 2009. 7.
 - 14) 李 英姫 : Prostaglandin (PG) E2 の肺線維芽細胞の遊走, およびEpithelial-to-Mesenchymal Transition (EMT) における気道上皮細胞の遊走に対する作用. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 15) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之 : 禁煙支援などの場でPOCTとして用いられる唾液中コチニン測定の妥当性について. 日本公衆衛生学会総会 (第68回) (奈良), 2009. 10.
 - 16) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之 : 禁煙支援に用いる唾液中ニコチン, コチニン測定のために開発した唾液採取器具の応用. 日本公衆衛生学会総会 (第68回) (奈良), 2009. 10.
 - 17) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 小林麻衣子, 李 卿, 川田智之 : ヒト末梢血 Granzyme 3陽性細胞のFlow Cytometry解析. 日本生化学会大会 (第82回) (神戸), 2009. 10.
 - 18) 大塚俊昭, 清野精彦¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 小谷英太郎²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器科) : N末端 proBNP上昇を伴う未治療高血圧症例における潜在性微小心筋傷害の検討. 日本高血圧学会学術集会 (第32回) (大津), 2009. 10.
 - 19) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾ (1) 日本医科大学スポーツ科学教室, 2) 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎) : 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査 : 肥満指標による比較検討. 日本公衆衛生学会総会 (第68回) (奈良), 2009. 10.
 - 20) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之 : 活性型ヒト Granzyme 3 に対する高感度 sandwich ELISA. 日本生化学会大会 (第82回) (神戸), 2009. 10.
 - 21) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾ (1) 日本医科大学スポーツ科学教室, 2) 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎) : カンボジア・シムリアップ州における児童・生徒の生活調査と形態・体力測定. 日本民族衛生学会総会 (第74回) (京都), 2009. 11.
 - 22) 李 英姫, Rennard-I S¹⁾, 滝澤 始²⁾, 吾妻安良太³⁾, 川田智之, 工藤翔二⁴⁾ (1) Pulmonary and Critical Care Medicine, University of Nebraska Medical Center, 2) 帝京大学第4内科, 3) 日本医科大学呼吸器・感染・腫瘍内科, 4) 財団法人結核予防会複十字病院) : Epithelial-to-Mesenchymal Transition (EMT) におけるヒト気道上皮細胞遊走に対する Prostaglandin (PG) E2 の作用. アレルギー・気道上皮細胞研究会 (第13回) (東京),

2009. 12.

- 23) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 小林麻衣子, 川田智之: Lymphokine-activated killer (LAK) 細胞による Granzyme 3 の産生. 日本薬学会 (第 130 年会) (岡山), 2010. 3.
 - 24) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒト Granzyme 3 に特異的な sandwich ELISA の確立. 日本薬学会 (第 130 年会) (岡山), 2010. 3.
 - 25) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之: ニコチン, コチニン同時測定のために開発した新しい唾液採取器具を用いた唾液中ステロイドホルモン類の測定. 日本薬学会 (第 130 年会) (岡山), 2010. 3.
- (5) KEYNOTE LECTURE :
- 1) Nagahara N : A novel thioredoxin-dependent redox-sensing switch in mercaptopyruvate sulfurtransferase. 11th International Congress on Amino Acids, peptides and proteins (Vienna, Austria), 2009. 8.

12. 法医学講座

研究概要

1. 臨床法医中毒学

急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の剖検資料に対して、GC/MS, LC/MS等を用いた高精度の薬毒物分析システムの開発に取り組んでいる。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法を開発した。

2. トリカブト毒に関する研究

トリカブト毒について、急性中毒・長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等について実験的研究を行っている。またLC/MS, GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法の開発、フグ毒との複合作用の解明に取り組んでいる。

3. アルコール代謝

Alc脱水素酵素 (ADH1・ADH3) の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討し、Alc感受性の性差・個体差、Alc関連障害の機序を、培養細胞、ノックアウトマウス、人における飲酒実験で検討している。また培養心筋細胞を用いて、Alcの心臓への影響を、蛍光色素を利用して細胞内小器官および分子レベルで解析している。

4. NMRおよびMRIを用いた研究

共同利用のNMR装置を用いて死体の筋肉や脳の代謝物プロファイルと死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、死後経過時間推定への応用をめざしている。小動物用MRI装置を用いて、死亡時および死後画像診断への活用やMRIを用いた死体の温度マッピングに関する基礎的研究を行っている。美容医療後遺症と美容医療材料との関連について形成外科学と、また我々が開発中の臨床応用可能なNMRメタボロミクス的手法を用いて救急医学・小児医学と共同研究を進めている。

5. 法医実務的研究

2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している（日本大学医学部法医解剖室を借用）ので、剖検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。また、それ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Uekusa K, Ono T, Hayashida M, Nihira M, Ohno Y : GC/MS analysis of an herbal dietary supplement containing ephedrine. *Legal Medicine* 2009 ; 11 (Supplement 1) : S573-S575.
- 2) Hayashida M, Takino M¹⁾, Terada M²⁾, Kurisaki E³⁾, Kudo K⁴⁾, Ohno Y (¹⁾ Agilent Technologies, ²⁾ Department of Legal Medicine, Toho University, ³⁾ Department of Legal Medicine, School of Medicine, Fukushima Medical University, ⁴⁾ Graduate School of Medical Science, Kyushu University) : Time-of flight mass spectrometry (TOF-MS) exact mass database for benzodiazepine screening. *Legal Medicine* 2009 ; 11 (Supplement 1) : S423-S425.
- 3) Ono T, Hayashida M, Uekusa K, Cui F, Hayakawa H, Nihira M, Ohno Y : An accidental case of aconite poisoning due to Kampo herbal medicine ingestion . *Legal Medicine* 2009 ; 11 (3) : 132-135.
- 4) Ishida T¹⁾, Kudo K¹⁾, Hayashida M, Ikeda N¹⁾ (¹⁾ Department of Legal Medicine, Graduate School of Medi-

cine, Kyushu University) : Rapid and quantitative screening method for 43 benzodiazepines and their metabolites, zolpidem and zopiclone in human plasma by liquid chromatography/mass spectrometry with a small particle column. Journal of Chromatography B 2009 ; 877 (25) : 2652-2657.

- 5) 長谷場健 : アルコール代謝の新しい視点 : High Km ADH3 (Class III) のアルコール代謝およびその生体作用における意義. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2009 ; 44 (2) : 78-93.
- 6) 林田真喜子, 植草協子, 仁平 信, 大野曜吉 : 分析ラボ紹介 : 日本医科大学法医学教室. 中毒研究 2010 ; 23 (1) : 68-72.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Haseba T : Alcohol dehydrogenases : their biological and medical roles. Vietnam Academy Science and Technology, Institute of Tropical Biology (Hochiminn City, Vietnam), 2009. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Nakata K¹⁾, Sato N¹⁾, Asakura T¹⁾, Hirakawa K, Zhu R¹⁾, Masuno T¹⁾, Shiraishi S¹⁾, Ohno Y, Koike K²⁾, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Department of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ Kyoto University Department of Primary Care and Emergency Medicine) : 1H-NMR based metabolomics study of the intestinal epithelial cell (IEC-6) under the oxidative stress. 5th ASC (Academic Surgical Congress) (San Antonio, USA), 2010. 2.
- 2) 寺田 賢¹⁾, 佐々木千寿子²⁾, 林田真喜子, 栗原克由²⁾, 篠塚達雄³⁾, 田中榮之介⁴⁾, 長谷川智華¹⁾, 大野曜吉, 的場梁次⁵⁾, 黒崎久仁彦¹⁾ (¹⁾ 東邦大, ²⁾ 北里大, ³⁾ 横浜薬大, ⁴⁾ 筑波大, ⁵⁾ 阪大) : ベンゾジアゼピン系薬物の4検出事例について. 第93次日本法医学会学術全国集会, 2009. 5.
- 3) 林田真喜子, 植草協子, 工藤恵子¹⁾, 石田知己²⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 九大院, ²⁾ (株) エーザイ薬物動態室) : FOCUSカラムを用いたアコニチン系アルカロイドのLC/MS分析. 第93次日本法医学会学術全国集会, 2009. 5.
- 4) 林田真喜子, 滝埜昌彦¹⁾, 植草協子, 工藤恵子²⁾, 寺田 賢³⁾, 栗崎恵美子⁴⁾, 大野曜吉 (¹⁾ アジレント・テクノロジー, ²⁾ 九大院・法医, ³⁾ 東邦大・法医, ⁴⁾ 福島医大・法医) : ベンゾジアゼピン系薬物を含む多剤併用薬物中毒症例へのTOF-MS薬物スクリーニングの応用. 日本法中毒学会第28年会, 2009. 6.
- 5) 寺田 賢¹⁾, 篠塚達雄²⁾, 田中榮之介³⁾, 林田真喜子, 長谷川智華¹⁾, 大野曜吉, 黒崎久仁彦¹⁾ (¹⁾ 東邦大・法医, ²⁾ 横浜薬大, ³⁾ 筑波大・法医) : GC/MSによるクアゼパム及びその代謝物の分析. 日本法中毒学会第28年会, 2009. 6.
- 6) 林田真喜子, 植草協子, 工藤恵子¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 九大院・法医) : 剖検試料中セルトラリン, ニトラゼパム, アルプラゾラムのLC/MS分析. 日本法中毒学会第28年会, 2009. 6.
- 7) 工藤恵子¹⁾, 引地和歌子¹⁾, 林田真喜子, 植草協子, 池田典昭¹⁾ (¹⁾ 九大院・法医) : GC/MSによる標準品を必要としない薬毒物スクリーニング法のためのデータベースの構築. 日本法中毒学会第28年会, 2009. 6.
- 8) 平川慶子 : NMRメタボロミクスを用いた疾患説明システム : 臨床応用をめざして. 第8回国際バイオアカデミックフォーラム, 2009. 6.
- 9) 白川洋一¹⁾, 奈良女昭²⁾, 林田真喜子, 福本真理子³⁾, 福家千昭⁴⁾, 堀 寧⁵⁾, 波多野弥生⁶⁾, 野村奈央⁶⁾, 飯塚富士子⁶⁾, 黒木由美子⁶⁾, 遠藤容子⁶⁾, 吉岡敏治^{6,7)} (¹⁾ 大樹会総合病院回生病院, ²⁾ 広島大学, ³⁾ 北里大学, ⁴⁾ 琉球大学, ⁵⁾ 新潟市民病院, ⁶⁾ 財団法人日本中毒情報センター, ⁷⁾ 大阪府立急性期・総合医療センター) : 急性中毒症例の予後推定. 第31回日本中毒学会総会・学術集会, 2009. 7.
- 10) 久保田麻紗美¹⁾, 塩田沙織¹⁾, 富田ゆかり, 崔 范来, 大野曜吉 (¹⁾ 医学部第3学年) : 司法解剖で見出された病死 : 肺血栓塞栓症について. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.

- 11) 大野曜吉, 平川慶子: 高磁場MRI対応の高性能非磁性薬液注入装置の開発. イノベーションジャパン2009, 2009. 9.
- 12) 阿部裕子¹⁾, 大嶋俊二¹⁾, 神田智正¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (1) アサヒビール (株) 健康おいしさ研究所): アルコール摂取の血液生化学検査値に及ぼす影響: アルコール飲料の種類および食事の有無での比較. 第31回日本臨床栄養学会総会, 2009. 9.
- 13) 施 崢, 崔 范来, 叶 懿, 大野曜吉: 中国浙江警察学院における鑑識科学教育について. 第78回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10.
- 14) 杉之原崇¹⁾, 継松大河¹⁾, 富田ゆかり, 崔 范来, 施 崢, 大野曜吉 (1) 日医大学生): 路上での突然死が疑われた司法解剖の1例. 第78回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10.
- 15) 平川慶子, 森川秀行¹⁾, 村木秀樹¹⁾, 佐藤格夫²⁾, 増野智彦²⁾, 小池 薫³⁾, 大野曜吉 (1) 株式会社ユニフローズ, ²⁾ 日本医科大学救急医学, ³⁾ 京都大学医学部初期診療・救急医学): 高磁場環境対応の高性能非磁性薬液注入装置の開発. 第48回NMR討論会, 2009. 11.
- 16) 阿部裕子¹⁾, 大嶋俊二¹⁾, 神田智正¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉 (1) アサヒビール (株) 食の基盤技術研究所): 飲酒条件が細胞内酸化還元度およびアルコール代謝速度に及ぼす影響. 第29回アルコール医学生物学研究会学術集会, 2009. 11.
- 17) 鉄 堅¹⁾, 内ヶ崎西作¹⁾, 押田茂實¹⁾, 長谷場健, 大野曜吉, 堤 博文²⁾, 伊澤 光²⁾, 小室歳信²⁾ (1) 日本大学医学部法医学, ²⁾ 日本大学歯学部法医学): 直接PCR法による臓器からの植物プランクトンDNA検出について. 日本DNA多型学会第18回学術集会, 2009. 11.
- 18) 滝楚昌彦¹⁾, 林田真喜子, 工藤恵子²⁾, 寺田 賢³⁾, 栗崎恵美子⁴⁾, 大野曜吉 (1) アジレント・テクノロジー, ²⁾ 九大院・法医, ³⁾ 東邦大・法医, ⁴⁾ 福島医大・法医): LC/Q-TOF-MS及び保持時間: 精密質量データベースを用いた薬物スクリーニング法の検討. 日本法科学技術学会第15回学術集会, 2009. 11.

13. 医療管理学講座

研究概要

医療管理学は今日ではむしろ医療経営学「医療マネジメント」と捉える方が現状に適している。マネジメントとは、「目的理念に向けて限られた資源の活用をすること」を意味する。医療マネジメント学はそれを医療界へ応用すること研究する学問体系で「臨床レベル」即ち医療者と患者の関係、「病棟レベル」即ち職種間関係、「病院レベル」即ち各病院部門間のレベル、「地域レベル」即ち診療所病院等の施設のレベル、そして「国のレベル」では政策研究となりそれぞれのレベルに分類される。教室では各レベルでの研究を進めてきた。政策研究の集大成「超高齢社会の医療システムの設計」の研究と併行して進めてきた病院や病棟レベルでのマネジメント研究『質効率向上と職種間連携病棟マネジメント』が、2009年には3年間の研究の取りまとめの時期にあたった。その研究成果として、近年の医療崩壊の原因が日本の長い医療の文化に根ざしていることが判明した。「練度が高い匠と看護の心を持つ支援者」の有効なつながりにより支えられてきた日本の医療が政策や患者の意識の変容により突然崩壊し、新たな病院の組織が求められていること、その再構築原理には「信頼のコミュニケーション」が必要と判明した。『医師需給』をも再度検討し高齢社会で必要とされる医師や「医療安全」のあり方論に関する研究も同時に行なっている。また、秋山助教を中心に感染症パンデミックのシュミレーションを「医学教育に応用する研究」なども行なわれて新たな医学教育のあり方を模索しつつある。来年度は更に人類史初めて経験する超高齢社会の背後に迫る環境との関係の転換即ち「生存転換」の研究を始める予定である。それにより疾病と医療システムとの関係について研究を広げていくと同時に、「未来の医師を作るための新たな医学教育の研究」にも力点をおいていく計画である。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 藤田 茂¹⁾, 平尾智広²⁾, 池田俊也¹⁾, 兼児敏浩¹⁾, 長谷川敏彦, 長谷川友紀¹⁾ (1) 東邦大学, ²⁾ 香川大学): 診療記録のレビューにより有害事象を的確かつ効率的に把握するための研究. 日本医療マネジメント学会雑誌 2009; 10 (4): 563-569.

追加分総説：

- 1) 長谷川敏彦: 日本泌尿器科学会 医師の労働環境問題 総論. 日本泌尿器科学会 2009; 22: 270-270.

(1) 原著：

- 1) Hasegawa T: Dragon Net: secret society or a network of health policy researchers?. Innovating for the health of all 2009; 91-93.
- 2) 長谷川敏彦: 高血圧治療の費用対効果. The Bone 2009; 23 (2): 203-207.
- 3) 長谷川敏彦: 病院職員数と病院機能の国際比較. 病院 2009; 68 (8): 635-640.
- 4) 長谷川敏彦: 医療情勢を踏まえた手術部門運営の展望. メディア視覚教材+実践手術看護 2009; 3 (4): 79-84.
- 5) 長谷川敏彦: 医療安全の基盤, 信頼のコミュニケーション. 医療安全 2010; 7 (1): 10-13.
- 6) 北澤健文¹⁾, 松本邦愛¹⁾, 伊藤慎也¹⁾, 瀬戸加奈子¹⁾, 長谷川敏彦, 長谷川友紀¹⁾ (1) 東邦大学): 都道府県医療費適正化計画の実施状況及び評価に関する研究. 日本医療マネジメント学会雑誌 2010; 10 (4): 583-588.
- 7) 松本邦愛¹⁾, 北澤健文¹⁾, 伊藤慎也¹⁾, 瀬戸加奈子¹⁾, 長谷川敏彦, 長谷川友紀¹⁾ (1) 東邦大学): 日本の医師不

足問題に関する研究．日本マネジメント学会雑誌 2010；10（4）：575-582.

(2) 総説：

- 1) 秋山健一：経営戦略の立案と実行に向け必要となるバックアップ体制．最新医療経営フェーズ3 2009；（9）：56-56.
- 2) 長谷川敏彦：進化医学と疾病構造変化．成人病と生活習慣病 2009；39（12）：1275-1281.

(3) 研究報告書：

- 1) 長谷川敏彦，秋山昌範¹⁾，加藤尚子²⁾，中山茂樹³⁾，平尾智広⁴⁾，嶋森好子⁵⁾，坂本すが⁶⁾，小林美亜²⁾，秋山健一（¹⁾ 東京医科歯科大学，²⁾ 国際医療福祉大学，³⁾ 千葉大学，⁴⁾ 香川大学，⁵⁾ 慶應義塾大学，⁶⁾ 東京医療保健大学）：質効率向上と職業間連携を目指した病棟マネジメントの研究．2010.

著 書

- 1) 木村憲洋¹⁾，秋山健一（¹⁾ 高崎健康福祉大学）：〔共著〕病院の仕事としくみ，2009；ナツメ出版企画.
- 2) 長谷川敏彦：〔共著〕「世界人口の歴史的推移と予測」「地域別人口推移と予測による推計」「世界各国（欧州）の人口推移と予測」「高齢化の推移と予測」「世界各国の人口ピラミッド」「日本の人口推移と予測」「日本の人口ピラミッド」．統計データで見る高齢者医療（井藤英喜・大島伸一・鳥羽研二編），2009；pp1-7，文光堂.
- 3) 丸井英二¹⁾，横山英世²⁾，菊地正悟³⁾，千葉百子⁴⁾，町田和彦⁵⁾，松村康弘⁶⁾，堀口逸子¹⁾，後藤あや⁷⁾，李廷秀⁸⁾，安村誠司⁷⁾，横山和仁¹⁾，川上憲人⁸⁾，衛藤隆⁸⁾，松田正己⁹⁾，長谷川敏彦，その他5名（¹⁾ 順天堂大学，²⁾ 日本大学，³⁾ 愛知医科大学，⁴⁾ 国際医療福祉大学，⁵⁾ 早稲田大学，⁶⁾ 桐生大学，⁷⁾ 福島県立医科大学，⁸⁾ 東京大学，⁹⁾ 静岡県立大学）：〔共著〕第6章医療と衛生・公衆衛生．新簡明衛生公衆衛生（丸井英二編），2010；南山堂.
- 4) 葛西龍樹¹⁾，平尾智広²⁾，井原一成³⁾，城川美佳³⁾，藤田茂³⁾，北澤健文³⁾，瀬戸加奈子³⁾，伊藤慎也³⁾，高柳満喜子⁴⁾，大木秀一⁵⁾，藤城有美子⁶⁾，平部正樹⁷⁾，熊倉伸宏⁴⁾（¹⁾ 福島県立医科大学，²⁾ 香川大学，³⁾ 東邦大学，⁴⁾ 元東邦大学，⁵⁾ 石川県立看護大学，⁶⁾ 人間総合科学大学，⁷⁾ 日白大学）：〔編集〕医療職のための公衆衛生・社会医学（長谷川友紀・長谷川敏彦・松本邦愛編），2010；医学評論社.
- 5) 小峰隆夫¹⁾，長谷川敏彦，中川雅之²⁾，伊藤由希子³⁾，山本清⁴⁾，辻明子³⁾，豊田奈穂³⁾（¹⁾ 法政大学，²⁾ 日本大学，³⁾ 総合研究開発機構，⁴⁾ 東京大学）：〔共著〕第1章超高齢社会と医療システムの未来の姿．「まちなか集積医療」の提言：医療は地域が解決する，2010；pp19-33，総合研究開発機構.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 秋山健一，長谷川敏彦：地域中核病院における各診療科単位の医療連携に対する在り方について．日本衛生学会（第79回），2009. 3.

(1) シンポジウム：

- 1) 長谷川敏彦：現在の健康保険制度の問題点（混合診療を含む）日本の医療制度と医療制度改革の展望．日本美容皮膚科学会・学術大会（第27回），2009. 8.
- 2) 長谷川敏彦：医療資源と心臓救急．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009. 9.
- 3) 長谷川敏彦，兼島孝¹⁾，森光由樹²⁾（¹⁾ みずほ台動物病院，²⁾ 兵庫県森林動物研究センター）：「進化生態医学」から見たヒトと動物の「伝染症」．ヒトと動物の関係学会，2009. 10.
- 4) 長谷川敏彦：経済連携協会（EPA）による外国看護師受け入れの背景と将来への課題．日本医療・病院管理学会例会（第182回），2010. 2.

- 5) 長谷川敏彦：慢性期医療制度と高齢者の社会保障：各国事情を知る。アジア慢性期医療学会（第1回），2010. 3.
- (2) パネルディスカッション：
- 1) 松田晋哉¹⁾，長谷川敏彦，荒川宣親²⁾，堀越 勝³⁾（¹⁾ 産業医科大学，²⁾ 国立感染症研究所，³⁾ 駿河台大学）：武澤純先生から始まる日本の医療改革の制度。APARC JAPAN2010，2010. 2.
- (3) 一般講演：
- 1) 藤田 茂¹⁾，瀬戸加奈子¹⁾，平尾智広¹⁾，池田俊也²⁾，長谷川敏彦，長谷川友紀¹⁾（¹⁾ 東邦大学，²⁾ 国際医療福祉大学）：有害事象の診療記録調査における収集情報の絞り込みに関する研究。日本医療マネジメント学会学術総会（第11回），
- 2) 長谷川敏彦：健康転換と地域包括ケア：医療からのパースペクティブ。社会政策学会（2009年春季）大会（第118回），2009. 5.
- 3) 秋山健一，長谷川敏彦，中村房子：病院薬剤部門における経営的分析について。日本医療マネジメント学会学術総会（第11回），2009. 6.
- 4) 中村房子，鈴木修一，秋山健一，長谷川敏彦：医師中間管理職研修の試み。日本医療マネジメント学会学術総会（第11回），2009. 6.
- 5) 渡邊実佳¹⁾，三富亜希¹⁾，田村恵美子¹⁾，柿川房子¹⁾，長谷川敏彦（¹⁾ 東京慈恵会医科大学）：乳がん患者の治療過程における支援とクリティカルパス活用に関する検討。日本医療マネジメント学会学術総会（第11回），2009. 6.
- 6) 長谷川敏彦，鈴木修一，加藤尚子¹⁾（¹⁾ 国際医療福祉大学）：国際比較及び政策研究から見た日本の病院の経営パラダイムシフト：病院崩壊原因の分析。日本医療マネジメント学会学術総会（第11回），2009. 6.
- 7) 赤池 学，長谷川敏彦，山崎純一¹⁾（¹⁾ 東邦大学）：医師における勤務環境改善のための実態調査：勤務時間と職業性ストレスの相関分析を中心として。日本医療・病院管理学会総会（第47回），2009. 10.
- 8) 鈴木修一，長谷川敏彦：高齢化による病院ならびに介護施設におけるベッド数への影響。OECD諸国の比較。日本医療・病院管理学会総会（第47回），2009. 10.
- 9) 加藤尚子¹⁾，近藤正英²⁾，長谷川敏彦（¹⁾ 国際医療福祉大学，²⁾ 筑波大学）：在院日数の変化からみた病院機能の変遷。日本医療・病院管理学会総会（第47回），2009. 10.
- (4) 2009年卒後教育プログラム：
- 1) 長谷川友紀¹⁾，長谷川敏彦（¹⁾ 東邦大学）：医療制度・保険等 [14] 医療保険。日本泌尿器科学会総会（第97回），2009. 4.

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

疾患モデル動物の開発と病態検索を行っており、現在、糖尿病および皮膚炎の発症機構の解明、予防法および治療法の開発のために、下記の遺伝性疾患モデル動物について特性検索を行っている。肥満2型糖尿病ラット(WBN/Kob-fattyラット)：WBN/Kobラットの雄は、3ヶ月齢頃より自然発症する膵炎が加齢と共に膵臓全域に進展し、膵ラ氏島の機能障害を伴って糖尿病発症に至る自然発症「膵性糖尿病」のモデル動物である。このラットに肥満遺伝子を導入した肥満2型糖尿病モデルWBN/Kob-fattyラットは早期に糖尿病発症する。このラットの糖尿病および糖尿病性合併症の病態モデルとしての有用性について検討している。ヘアレスラット(WBN/Kob-Htラット)：正常なラット(ウイスター系)の交配中に発見された被毛異常で、温熱受容体Trpv3遺伝子の突然変異であることが明らかとなっている。このホモ個体はほぼ完全な無毛、ヘテロ個体は短い軟毛で被われている貧毛になる。更にヘテロ個体はブドウ球菌性の皮膚炎を発症するため、アトピー性皮膚炎のモデルとして有用である。その発症機序やブドウ球菌に対するホモ個体との感受性の差を検索している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Terada M¹⁾, Matsumura A²⁾, Kromkhun P^{2, 3)}, Taniguchi K⁴⁾, Sato F⁵⁾, Sakurai F⁶⁾, Yokosuka M²⁾, Nagy MG⁷⁾, Saito RT²⁾ (1) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, (2) Behavioral Neuroscience Laboratory, Nippon Veterinary and Life Science University, (3) Department of Physiology, Kasetsart University, (4) Department of Veterinary Anatomy, Kitasato University, (5) Japan Racing Association, Ritto Training Center, Racehorse Hospital, (6) Department of Human Morphology and Developmental Biology, Semmelweis University) : Time-dependent changes in cardiovascular function during copulation in male rats. *Reproductive Medicine and Biology* 2009 ; 8 (2) : 59-62.
- 2) Terada M¹⁾, Wato S²⁾, Kromkhun P^{2, 3)}, Hashimoto H⁴⁾, Taniguchi K⁵⁾, Sakurai F⁶⁾, Yokosuka M²⁾, Nagy MG⁷⁾, Saito RT²⁾ (1) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, (2) Behavioral Neuroscience Laboratory, Nippon Veterinary and Life Science University, (3) Department of Physiology, Kasetsart University, (4) Central Institute for Experimental Animals, (5) Department of Veterinary Anatomy, Kitasato University, (6) Department of Animal Science, Teikyo University of Science and Technology, (7) Department of Human Morphology and Developmental Biology, Semmelweis University) : Age-related changes in heart rate during copulatory behavior of male rats. *Experimental Animals* 2009 ; 58 (4) : 427-430.

(2) その他：

- 1) 秋元敏雄：肥満遺伝子導入による新規糖尿病モデル動物WBN/Kob-fattyラットの育成と特長について。アニマルックス 2010 ; 22 (2) : 39-45.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) Miyamoto A¹⁾, Ohsuga M¹⁾, Zhang X¹⁾, Akimoto T, Komeichi H¹⁾, Shimizu S¹⁾, Nomura A²⁾, Katsuta

Y¹), Mizuno K¹) (¹ First Department of Internal Medicine, ² Daiichi Hospital) : Effect of inhibiting nitric oxide biosynthesis on the systemic and splanchnic circulation in rats with advanced cirrhosis due to common bile duct ligation. Asian Pacific Association for the study of the liver meeting 2009 (Hong Kong), 2009. 2.

(1) 一般講演 :

- 1) 寺田 節¹), Olah M²), Nagy G²), 中田友明³), 横須賀誠³), 斎藤 徹³) (¹ 日本医科大学・実験動物管理室, ² Semmelweis University, ³ 日本獣医生命科学大学・比較動物医学教室) : Salsolinol投与後の血中 prolactin 濃度と交尾行動の関連性について. 日本アンドロロジー学会・第28回学術大会・第15回精子形成・精巣毒性研究会 (富山), 2009. 7.
- 2) 秋元敏雄, 寺田 節 : WBN/Kob - Lep^{rfa} コンジュニック系ラットにおける血液中の尿素窒素およびクレアチニン濃度の糖尿病発症後の推移について. 第150回日本獣医学会 (平成21年秋) (日本), 2009. 9.

[形態解析共同研究施設]

研究概要

本研究施設は平成21年4月より形態解析共同研究施設となり, 従来の電顕診断業務, 共同研究, 研究支援, ならびに電顕試料技術開発に加え新たに形態解析に関する種々の機器 (共焦点レーザー顕微鏡, ルミノイメージアナライザー, 蛍光イメージアナライザー等) の管理運営も業務の一つとなった。

1. 電子顕微鏡診断 : 平成21年度は付属四病院から180症例の検体を依頼されており, その対象は腎臓120症例, 心臓29症例, 肝臓9症例, 脳9症例, 腫瘍7症例, その他6症例であった。主に内科, 小児科, 脳神経外科, 整形外科, 耳鼻咽喉科などからである。これらの検体は電顕写真とし電顕所見を付けて依頼各科に返却している。

2. 独自の研究 : 臨床に役立つ電顕診断の発展を目指し, 生検材料を用いて診断の為の新しい電顕指標を見出す研究を継続して行っている。腎生検から潜血と密接に関係する thin basement membrane disease や糖尿病性腎疾患の指標としての基底膜肥厚を形態計測して標準化を試みている。

3. 共同研究, ならびに技術支援 : 平成21年度は101症例 (186検体) を依頼された。これらの検体は電顕写真とし, 電顕所見を付けて各研究者に返却している。これらのうち皮膚科, 微生物免疫, あるいは解析人体病理学などと共同論文として報告している。

4. 教育 (基礎配属) : 平成21年度の基礎配属では6名の学生を受け入れ, そのうち2名は日本医科大学医学会総会にてその成果を報告した。

5. 共同機器管理, 運営 : 平成21年度より発足された形態解析共同研究施設管理運営委員会により本研究施設は管理と運営がなされるシステムをとっている。定例の運営委員会で定義された議案は規則にそって教授会に報告され議事録として保管される。平成21年度において各共同機器では講習会や使用説明会が開催され, 学内から多くの機器使用希望者の参加を募った。各機器の利用頻度は高く, 全反射顕微鏡システム (35名), パーチャルスライド入力システム (51名), ライカ共焦点レーザー顕微鏡 (19名), Carl Zeiss 共焦点レーザー顕微鏡 (151名), ニコンマルチモード顕微鏡システム (187名), 透過型電子顕微鏡 (500名) と記録されている。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Yokota T¹), Nagashima M¹), Ghazizadeh M, Kawanami O¹) (¹ Department of Molecular Biology, Institute of Development and Aging Science, Graduate School of Medicine) : Increased effect of fucoidan on lipoprotein lipase secretion in adipocytes. Life Sci 2009 ; 84 (15-16) : 523-529.

- 2) Kawakami T¹⁾, Inagi R¹⁾, Takano H¹⁾, Sato S, Ingelfinger RJ²⁾, Fujita T¹⁾, Nangaku M¹⁾ (¹⁾ Division of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo School of Medicine, ²⁾ Division of Pediatric Nephrology, Massachusetts General Hospital, Boston, MA, USA) : Endoplasmic reticulum stress induces autophagy in renal proximal tubular cells. *Nephrology Dialysis Transplantation* 2009 ; 24 : 2672-2686.
 - 3) Eda H¹⁾, Sato S, Sasaki Y, Adachi A, Ghazizadeh M²⁾ (¹⁾ Kobuchisawa Research Laboratories, Fuji Biomedix Inc. Ltd. , Kobuchisawa, ²⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine) : Ischemic damage and subsequent proliferation of oligodendrocytes in hippocampal CA1 region following repeated brief cerebral ischemia. *Pathobiology* 2009 ; 76 (4) : 204-211.
 - 4) Shinya E¹⁾, Owaki A¹⁾, Norose Y¹⁾, Sato S, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology) : Quick method of multimeric protein production for biologically active substances such as human GM-CSF (hGM-CSF). *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2009 ; 386 (1) : 40-44.
 - 5) Sato S, Ghazizadeh M : Lamellar body formation and dark multivesicular body pockets in fetal and postnatal normal rat alveolar type ii cells : ultrastructural study. *Exp Lung Res* 2009 ; 35 (9) : 748-755.
 - 6) Omi T¹⁾, Sato S, Numano K¹⁾, Kawana S²⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Queen' s Square Medical Center, Yokohama, ²⁾ Department of Dermatology) : Ultrastructural observations of chemical peeling for skin rejuvenation (ultrastructural changes of the skin due to chemical peeling). *Journal of Cosmetic and Laser Therapy* 2010 ; 12 : 21-24.
 - 7) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 細根 勝¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 病理部, ²⁾ 病理学講座統御機構・腫瘍学) : 中皮腫の細胞学的判定と進歩：細胞診材料による中皮腫の確定診断方法. *病理と臨床* 2009 ; 27 (12) : 1171-1182.
- (2) 総説 :
- 1) Mii A¹⁾, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Fujita E¹⁾, Aki K¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sato S, Griesemer A²⁾, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, ²⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Current status and issues of C1q nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 2009 ; 13 : 263-274.
 - 2) 佐藤 茂 : 基礎編 肺サーファクタントの正常微細構造. *日本肺サーファクタント・界面医学会雑誌* 2009 ; 40 : 53-58.
- (3) 症例報告 :
- 1) 鈴木香奈芽¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 東 敬子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 病理部, ²⁾ 病理学講座統御機構・腫瘍学) : 腹膜悪性上皮腫の1例：細胞転写法およびセルブロック法の有用性. *日本臨床細胞学会雑誌* 2009 ; 48 (4) : 181-186.

学会発表

- (1) シンポジウム :
- 1) 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 安達彰子 : 毛髪や昆虫クチクルの軟化処理 (技術研究・試料作成法「電子顕微鏡観察のための一工夫」). *日本臨床分子形態学会総会 (第41回)*, 2009. 9.
- (2) 一般講演 :
- 1) 劉 愛民, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 東 敬子¹⁾, 片山博徳¹⁾, 内藤善哉 : Combination analysis of electron microscopy and cytology in tumor diagnosis. *日本臨床分子形態学会総会 (第41回)*, 2009. 9.
 - 2) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広, 内藤善哉 : 糸球体係蹄壁基底膜の厚さのエイジングによる変化：腎生検を用いて. *日本臨床分子形態学会総会 (第41回)*, 2009. 9.

- 3) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 内藤善哉: 正常腎皮質部における尿細管, 血管系および間質の定量分析の試み: 腎生検を用いて. 日本臨床分子形態学会総会 (第41回), 2009. 9.
- 4) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 安達彰子, 内藤善哉: 尿細管間質に出現している spiraled collagen について (腎生検を用いて). 日本臨床分子形態学会総会 (第41回), 2009. 9.
- 5) 戸田由美子¹⁾, 原真由美¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉 (1) 医学部第3学年): 脳腫瘍における電顕的検索 (報告1). 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 6) 原真由美¹⁾, 戸田由美子¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉 (1) 医学部第3学年): 脳腫瘍における電顕的検索 (報告2). 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 7) 劉 愛民, 内藤善哉, 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾ (1) 多摩永山病院 病理部): 細胞診材料を用いた電顕検索の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.

[情報科学センター]

研究概要

研究活動としては, 東海大との人間工学に関する共同研究と, ITの教育への活用の研究がある.

○東海大とは人間工学的な立場から人の情報処理過程が主な研究を行っている. 脳波解析を主要な道具としており, 本年は運動残存知覚中及び, 動的錯視知覚を対象に脳波解析を行い発表する機会が得られた. 東海大学との基礎的な研究として, 従来はあまり使われていないRATの脳に電極を埋め込む手技を完成させ, 現在ABR計測を行っている. RATへの電極埋め込み手技が確立したので, 24時間行動解析を行うビデオシステムと脳波解析システム相互を連携させるシステムの構築を目指している.

○ITの教育への活用研究としては, 学習マネジメントシステム (LMS) であるJenzabarの利用を進めている他, 本学における学生用情報環境の充実の為, 管理が容易なシンクライアント システムの先進導入を計り, CBTへの利用実績を医療情報学会, 情報処理教育研究集会へ報告する事が出来た.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 能 孝明¹⁾, 芹澤由洋¹⁾, 木村達洋²⁾, 山崎清之²⁾, 早坂明哲, 伊藤高司, 和泉周一³⁾, 佐々木敏昭³⁾ (1) 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, (2) 東海大学開発工学部医用生体工学科, (3) 株式会社 タニタ): 水封入マットにおける生体振動計測による簡易睡眠ステージ判定の検討. Journal of Advanced Science 2009; 21 (1, 2): 27-30.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 芹澤由洋¹⁾, 大塚光明²⁾, 木村達洋³⁾, 早坂明哲, 山崎清之²⁾ (1) 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, (2) 東海大学開発工学部医用生体工学科, (3) 東海大学開発工学部情報通信工学科): 運動残効知覚中の脳波の検討. 日本生体医工学会大会 (第47回) (兵庫県 神戸国際会議場), 2008. 5.
- 2) 大塚光明¹⁾, 津久井智彦¹⁾, 芹澤由洋²⁾, 早坂明哲, 木村達洋³⁾, 山崎清之¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, (2) 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, (3) 東海大学開発工学部情報通信工学科): 動的錯視知覚中の脳波の検討. 日本生体医工学会大会 (第47回) (兵庫県 神戸国際会議場), 2008. 5.
- 3) Zen N¹⁾, Ie M¹⁾, 芹澤由洋²⁾, 大塚光明²⁾, 早坂明哲, 木村達洋³⁾, 伊藤高司, 田所裕之¹⁾, 山崎清之¹⁾ (1) 東

海大学開発工学部医用生体工学科, ²⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ³⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科) : 携帯音楽プレイヤーが聴力に及ぼす影響. 生活支援工学系連合大会 (第6回) (山口大学工学部 (山口県)), 2008. 9.

- 4) 能 孝明¹⁾, 木村達洋²⁾, 早坂明哲, 芹澤由洋¹⁾, 和泉周一³⁾, 佐々木敏明³⁾, 山崎清之⁴⁾ (¹⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ²⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科, ³⁾ 株式会社タニタ, ⁴⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科) : 生体振動計測による睡眠ステージ評価法. 生活支援工学系連合大会 (第6回) (山口大学工学部 (山口県)), 2008. 9.
- 5) 芹澤由洋¹⁾, 大塚光明¹⁾, 早坂明哲, 木村達洋²⁾, 田所裕之³⁾, 岡本克郎³⁾, 山崎清之³⁾ (¹⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ²⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科, ³⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科) : 運動残効知覚中の脳波, および疲労との関連性の検討. 08SAS インテリジェントシンポジウム (東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市)), 2008. 11.
- 6) 大塚光明¹⁾, 芹澤由洋¹⁾, 早坂明哲, 木村達洋²⁾, 山崎清之³⁾, 田所裕之³⁾, 岡本克郎³⁾ (¹⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ²⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科, ³⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科) : 動的錯視知覚中の脳波の検討. 08SAS インテリジェントシンポジウム (東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市)), 2008. 11.
- 7) 能 孝明¹⁾, 木村達洋²⁾, 芹澤由洋¹⁾, 早坂明哲, 和泉周一⁴⁾, 佐々木俊昭⁴⁾, 山崎清之³⁾ (¹⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ²⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科, ³⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科, ⁴⁾ 株式会社タニタ) : 水封入マットにおける生体振動計測による簡易睡眠ステージ判定の検討. 08SAS インテリジェントシンポジウム (東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市)), 2008. 11.
- 8) Zen N³⁾, Ie M³⁾, 芹澤由洋¹⁾, 大塚光明¹⁾, 木村達洋²⁾, 早坂明哲, 山崎清之³⁾ (¹⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ²⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科, ³⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科) : 携帯音楽プレイヤーが聴覚特性に及ぼす影響. 08SAS インテリジェントシンポジウム (東海大学湘南校舎 (神奈川県平塚市)), 2008. 11.

(1) 一般講演 :

- 1) Tatsuhiko K¹⁾, Yoshihiro S²⁾, Yoshiaki H, Yuusuke K³⁾, Shuuto M³⁾, Yasushi T³⁾, Kosei O³⁾, Rika O³⁾, Haruna S³⁾, Takashi I, Hiroshi O³⁾, Kiyoyuki Y³⁾, Katsuro O³⁾, Hiroyuki T³⁾ (¹⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科, ²⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ³⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科) : Latency Prolongation of ABRs as Recovery from Anesthesia in Rats. International Congress of Physiological Sciences (36th) (Kyoto, Japan), 2009. 7.
- 2) 大塚光明¹⁾, 山崎清之²⁾, 岡本克郎²⁾, 木村達洋³⁾, 伊藤高司, 早坂明哲, 田所裕之²⁾ (¹⁾ 東海大学大学院開発工学研究科医用生体工学専攻, ²⁾ 東海大学開発工学部医用生体工学科, ³⁾ 東海大学開発工学部情報通信工学科) : 慢性埋め込み電極によるラット用 ABR 計測システムの開発. 日本生体医工学会東海支部大会 (愛知県名古屋市), 2009. 10.
- 3) 早坂明哲, 滋野恭子, 奥重秀彦, 大久保喜朗¹⁾, 志村俊郎²⁾, 伊藤高司 (¹⁾ 日本医科大学精神医学, ²⁾ 日本医科大学教育推進室) : 教育用情報環境の改善報告. 平成21年度情報教育研究集会 (東北大学 (宮城県仙台市)), 2009. 11.
- 4) 早坂明哲, 滋野恭子, 奥重秀彦, 大久保喜朗¹⁾, 志村俊郎²⁾, 伊藤高司 (¹⁾ 日本医科大学精神医学, ²⁾ 日本医科大学教育推進室) : シンクライアントシステムを利用したCBT実施報告. 医療情報学連合大会 (第29回) (広島県広島市), 2009. 11.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

〔付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科〕

研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学，再生医学，糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，(1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，(2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，(3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，(4) 失神患者における自律神経機能の評価，(5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，(1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，(2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，(3) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，(4) 虚血心筋保護法の検討，(5) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，(6) 睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患，(7) 血管内視鏡やOCTによる冠動脈内画像診断。

肝臓病学では，(1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，(2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，(3) SSM（丸山ワクチン）によるサイトカイン産生，(4) 慢性肝疾患における肺循環異常，(5) 2次性胆汁性肝硬変変動物モデルで動脈血酸素化とNOの関係。

糖尿病学では，(1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，(2) 糖尿病患者における自律神経機能，(3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している。

再生医学は骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患および重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法を行っている。2008年日本医科大学は医療特区に認められ，再生医療の分野において基礎研究の成果がこれまで以上のスピードで臨床研究されることが期待される。さらに日本獣医生命科学大学との共同研究で免疫抑制剤不要のバイオ人工臓の開発も研究中である。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Setsuta K¹⁾, Seino Y, Kitahara Y¹⁾, Arao M¹⁾, Oobayashi T¹⁾, Mizuno K (1) Komagome Hospital) : Elevated levels of both cardiomyocyte membrane and myofibril damage markers predict adverse outcomes in patients with chronic heart failure. *Circ J* 2008 ; 72 (4).
- 2) Yokoyama S, Takano M, Yamamoto M, Inami S, Sakai S, Okamatsu K, Okuni S, Seimiyi K, Murakami D, Ohba T, Uemura R, Seino Y, Hata N, Mizuno K : Extended follow-up by serial angioscopic observation for bare-metal stents in native coronary arteries. *Circ Cardiovasc intervent* 2009 ; 2 : 205-212.
- 3) Yamaguchi T¹⁾, Terashima M²⁾, Akasaka T³⁾, Hayashi T⁴⁾, Mizuno K, Muramatsu T⁵⁾, Nakamura M⁶⁾, Nakamura S⁷⁾, Saito S⁸⁾, Takano M, Takayama T⁹⁾, Yoshikawa J¹⁰⁾, Suzuki T²⁾ (1) Toranomon Hospital, 2) Toyohashi Heart Center, 3) Kawasaki Medical School Hospital, 4) Kinki Univ. School of Medicine, 5) Kawasaki Social Insurance Hospital, 6) Toho Univ. Ohashi Medical Center, 7) Kyoto Katsura Hospital, 8) Nihon Univ. School of Medicine, 9) Nihon Univ. Itabashi Hospital, 10) Osaka City Univ. Medical School Hospital) : Safety and feasibility of an intravascular optical coherence tomography image wire system in the clini-

cal setting. Am J of Cardiol 2009 ; 101 : 562-567.

- 4) Mizuno M¹⁾, Takano M¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : The effects of drug eluting stent polymer on measurement of strut thickness by optical coherence tomography : in vitro comparison with bare metal stent. Cardiology 2009.

追加分総説 :

- 1) 中込明裕, 清野精彦 : C-reactive proteinは急性冠症候群の発症に直接関与する. 呼吸と循環 2005 ; 53 (1) : 33-39.
- 2) 福岡長知, 土田貴也, 加藤和代, 及川恵子, 林 寛子, 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一 : 運動負荷試験から見た交感神経末端機能. 心臓 2008 ; 40 (2) : 37-39.
- 3) 塚田弥生, 水野杏一 : 女性循環器勤務医の就労継続のためには何が必要か? : 循環器医の仕事と生活における性差に関する調査結果より. 循環器専門医 2009 ; 17 (1) : 68-74.

(1) 原著 :

- 1) Ushijima A, Fukuma N, Kato Y, Aisu N, Mizuno K : Sympathetic excitation during exercise as a cause of attenuated heart rate recovery in patients with myocardial infarction. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (2) : 76-83.
- 2) Hirasawa Y, Nakagomi A, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Short-term amiodarone treatment attenuates the production of monocyte cytokines and chemokines by c-reactive protein and improves cardiac function in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy and ventricular tachycardia. Circ J 2009 ; 73 (4) : 639-646.
- 3) Inui K, Takahashi Y, Komeichi H, Katsuta Y, Shimizu S, Mizuno K : Successful transcatheter chemoembolization for acute jaundice in a patient with advanced hepatocellular carcinoma and portal vein tumor thrombosis : a case report. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (4) : 217-220.
- 4) Takano M¹⁾, Xie Y¹⁾, Murakami D¹⁾, Inami S¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Ohba T¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Various optical coherence tomographic findings in restenotic lesions after sirolimus-eluting stent implantation . Int J of Cardio 2009 ; 134 (2) : 263-265.
- 5) Tokita Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Kodani E¹⁾, Tadera T¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Utility of rapid D-dimer measurement for screening of acute cardiovascular disease in the emergency setting. J of Cardiol 2009 ; 53 : 334-340.
- 6) Yamashita T¹⁾, Ogawa S²⁾, Sato T²⁾, Aizawa Y³⁾, Atarashi H, Fujiki A⁴⁾, Inoue H⁴⁾, Ito M⁵⁾, Katoh T, Kobayashi Y⁶⁾, Koretsune Y⁷⁾, Kumagai K⁸⁾, Niwano S⁹⁾, Okazaki O¹⁰⁾, Okumura K, et al. (¹⁾ The Cardiovascular Institute, ²⁾ Cardio-Department of Medicine Keio University School of Medicine Tokyo, ³⁾ First Department of Internal Medicine Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences Niigata, ⁴⁾ Second Department of Internal Medicine University of Toyama, ⁵⁾ Department of Cardiovascular and Respiratory Medicine Shiga University of Medical Sciences Otsu, ⁶⁾ Third Department of Internal Medicine Showa University School of Medicine Tokyo, ⁷⁾ Cardiovascular Division Osaka National Hospital, ⁸⁾ International University of Health and Welfare Fukuoka, ⁹⁾ Department of Cardio-Angiology Kitasato University School of Medicine Sagami-hara, ¹⁰⁾ Division of Cardiology Internal Medical Center of Japan, Tokyo) : Dose-Response Effects of Bepridil in Patients with Persistent Atrial Fibrillation Monitored With Transtelephonic Electrocardiograms : A Multicenter, Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Study (J-BAF Study). Circ J 2009 ; 73 (6) : 1020-1027.
- 7) Morita N, Kobayashi Y, Horie T, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Atarashi H¹⁾, Kato T, Mizuno K

- (¹ Tama Nagayama Hospital) : The undetermined geometrical factors contributing to the transverse conduction block of the crista terminalis. *PACE* 2009 ; 32 (7) : 868-878.
- 8) Yamamoto M¹, Okamatsu K¹, Inami S, Takano M, Yokoyama S¹, Ohba T¹, Ibuki C¹, Hata N¹, Seino Y¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship between neointimal coverage of sirolimus-eluting stents and lesion characteristics : S study with serial coronary angiography. *Ame Heart J* 2009 ; 58 (1) : 99-104.
- 9) Kato K¹, Sato N¹, Takeda S¹, Yamamoto T¹, Murata R¹, Tsurumi M¹, Suzuki D¹, Yagi K¹, Tanaka K¹, Mizuno K (¹ Intensive and Cardiac Care Unit) : Marked improvement of extensive atelectasis by unilateral application of the RTX respirator in elderly patients. *Intern Med* 2009 ; 48 (16) : 1419-1423.
- 10) Murakami D¹, Takano M¹, Yamamoto M¹, Inami S, Ohba T¹, Seino Y¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Advances neointimal growth is not associated with a low risk of in-stent thrombus-optical coherence tomographic findings after first generation drug eluting stent implantation-. *Circ J* 2009 ; 73 (9) : 1627-1634.
- 11) Kawanaka H, Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Takagi I, Takano H, Yasutake M, Tabata Y, Mizuno K : Therapeutic angiogenesis by control-released fibroblast growth factor in a patient with Churg-Strauss syndrome complicating intractable ischemic ulcer. *Am J of Medical Sciences* 2009 ; 338 (4) : 341-342.
- 12) Tsukada Y, Tokita M, Kato K, Kato Y, Miyauchi M, Ono I, Tanabe H, Yokoshima T, Fukumoto H, Miyatake Y, Mizuno K : Solution for retention of female cardiologists-from the survey of gender differences in the work and life of cardiologists-. *Circ J* 2009 ; 73 (11) : 2076-2083.
- 13) Matsumoto S¹, Hirayama Y, Saitoh H¹, Ino T¹, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yasutake M, Seino Y², Atarashi H¹, Katoh T, Mizuno K (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Chiba Hokusoh Hospital) : Noninvasive diagnosis of cardiac sarcoidosis using microvolt T-wave alternans. *Int Heart J* 2009 ; 50 (6) : 731-739.
- 14) Yamamoto T¹, Murai K¹, Tokita Y¹, Kato K¹, Iwasaki Y¹, Sato N¹, Tajiam H¹, Mizuno K, Tanaka K¹ (¹ Intensive and Cardiac Care Unit) : Thrombolysis With a Novel Modified Tissue-Type Plasminogen Activator, Montelase, Combined With Catheter-Based Treatment for Major Pulmonary Embolism. *Circ J* 2009 ; 73 (1) : 106-110.
- 15) Ishikawa M, Sato N¹, Asai K, Takano T, Mizuno K (¹ CCU) : Effect of a purse α/β -adrenergic receptor blocker on monocrotaline-induced pulmonary arterial hypertension with right ventricular hypertrophy in rats. *Circ J* 2009 ; 73 (12) : 2337-2341.
- 16) Takano M, Yamamoto M¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Two cases of coronary stent thrombosis very late after bare-metal stenting . *JACC* 2009 ; 2 (12) : 1286-1287.
- 17) Murata H, Ohara T, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K : Detection of arrhythmogenic substrates in prior myocardial infarction patients with complete right bundle branch block QRS using wavelet-transformed ECG. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (6) : 291-299.
- 18) Matsumoto S¹, Hirayama Y, Saitoh H¹, Ino T¹, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yasutake M, Seino Y², Atarashi H¹, Katoh T, Mizuno K (¹ Tama Nagayama Hospital, ² Chiba Hokusoh Hospital) : Noninvasive diagnosis of cardiac sarcoidosis using microvolt T-wave alternans. *Int Heart J* 2009 ; 50 (6) : 731-739.
- 19) Yamamoto M¹, Takano M¹, Murakami D¹, Inami T¹, Kobayashi N¹, Shirakabe A¹, Inami S¹, Okamatsu K¹, Ohba T¹, Aoki S¹, Seino Y¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Impact of small thrombus formation in restenotic bare-metal stent lesions associated with acute coronary syndrome : Identification by optical coherence tomography. *Int J of Cardiol* 2009.
- 20) Murakami D, Takano M, Yamamoto M, Inami S, Ohba T, Seino Y, Mizuno K : Novel neointimal forma-

- tion over sirolimus-eluting stents identified by coronary angiography and optical coherence tomography. *J of Cardiol* 2009 ; (53) : 311-313.
- 21) Katoh T : Clinical Background and Evaluation of Drug-Induced Prolongation of QT Interval. *J Arrhythmia* 2009 ; 25 (2) : 56-62.
 - 22) Inui K, Takahashi Y, Komeichi H, Katsuta Y, Shimizu S, Mizuno K : Successful Transcatheter Chemoembolization for Acute Jaundice in a Patient with Advanced Hepatocellular Carcinoma and Portal Vein Tumor Thrombosis : A Case Report. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (4) : 217-220.
 - 23) Takano M, Yamamoto M¹, Inami S, Murakami D¹, Ohba T¹, Seino Y¹, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Appearance of lipid-laden intima and neovascularization after implantation of bare metal stents. *JACC* 2010 ; 55 (1) : 26-32.
 - 24) Miyachi H¹, Tanabe J¹, Kodani E², Hosokawa Y², Kitamura M¹, Sasaki A¹, Ogano M¹, Shibata K¹, Takagi H¹, Umemoto T¹, Kusama Y², Mizuno K (¹ Shizuoka Medical Center, ² Tama Nagayama Hospital) : Coronary artery revascularization before peripheral vascular surgery in patients with peripheral arterial disease. *CVIT* 2010 ; 25 (1) : 11-17.
 - 25) Yokoyama S¹, Takano M², Sakai S², Ohba T², Seimiya K², Okamoto K², Inami S², Hata N¹, Mizuno K (¹ ICU, Chiba Hokusoh Hospital, ² Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : Difference in neointimal proliferation between ruptured and non ruptured segments after bare metal stent implantation. *Int Heart J* 2010 ; 51 (1) : 7-12.
 - 26) Huang C¹, Liu W¹, Perry C¹, Yitzahki S¹, Lee Y¹, Yuan H¹, Tsukada Y, Hamacher-Brady A¹, Mentzer R¹, Gottlieb R¹ (¹ BioScience Center, San Diego State University, San Diego, California, USA) : Autophagy and protein kinase C are required for cardioprotection by sulfaphenazole. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 2010 ; 298 (2) : H570-H579.
 - 27) Nakagomi A¹, Sasaki M², Ishikawa Y², Morikawa M², Shibui T¹, Kusama Y¹, Atarashi H¹, Mizuno K (¹ Tama nagayama Hospital, ² Tokyo Univ.) : Upregulation of monocyte tissue factor activity is significantly associated with low grade chronic inflammation and insulin resistance in patients with metabolic syndrome. *Circ J* 2010 ; 74 (3) : 572-577.
 - 28) 八島正明, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一 : 心室細動中に認められたSpiral Wave. *日医大医会誌* 2009 ; 5 (2) : 74-74.
 - 29) 加藤浩司¹, 鶴見昌史¹, 川中秀和¹, 細川雄亮¹, 村井綱児¹, 時田祐吉¹, 宗像 亮¹, 上野 亮¹, 山本剛¹, 佐藤直樹¹, 田中啓治¹, 水野杏一 (¹ 集中治療室) : 中等度腎障害患者における造影剤腎症に対するシスタチンCの有用性. *日本血管内治療学会誌* 2009 ; 10 (1) : 4-9.
 - 30) 菅谷寿理¹, 福岡長知, 半島明子, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 高橋 啓, 岸田 浩, 水野杏一 (¹ 生理機能センター) : 軽症心筋梗塞例の抑うつと予後規定因子の関係. *冠疾患誌* 2009 ; 15 : 198-201.
 - 31) 大坂元久, 村田広茂, 加藤貴雄, 不和本義孝, 酒井一泰, 難波晋治 : 自動車ステアリングからの無拘束心電図記録の心拍変動解析への応用. *心電図* 2009 ; 29 (supple 1) : S-1-29.
 - 32) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 加藤貴雄, 中溝宗永, 小野真史, 石川 源, 森本泰介, 大野忠明, 高岡雅子, 竹原典子, 田尻 孝 : 臨床実習前準備教育におけるシミュレーターを使用した効率的な臨床技能教育. *医学教育* 2009 ; 40 : 185-189.
 - 33) Hirayama Y, Atarashi H, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Ohara T, Yashima M, Katoh T, Mizuno K : Long-term effects of upstream therapy on paroxysmal atrial fibrillation in patients without overt heart diseases. *Int' l Heart J* 2009 ; 50 (2) : 141-151.
 - 34) Katoh T, J-Rhythm Study : Optimal treatment strategy for patients with paroxysmal atrial fibrillation : J-

- RHYTHM study. *Circ J* 2009 ; 73 (2) : 229-230.
- 35) Okazaki R, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Hirayama Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K, Sekiguchi A, Yamashita T : Lipopolysaccharide induces atrial arrhythmogenesis via down-regulation of L-type Ca²⁺ channel genes in rats. *Int J Heart J* 2009 ; 50 (3) : 353-363.
- 36) Shiga T, Tanaka K, Kato R, Amino M, Matsudo Y, Honda T, Sagara K, Takahashi A, Katoh T, Urashima M, Ogawa S, Takano T, Kasanuki H : Nifekalant versus lidocaine for in-hospital shock-resistant ventricular fibrillation or tachycardia. *Resuscitation* 2010 ; 81 (1) : 47-52.
- 37) 淀川顕司¹⁾, 山本真功¹⁾, 清野精彦¹⁾, 大秋美治²⁾, 水野杏一¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 千葉北総病院病理部) : 完全房室ブロックにて発症し, 胃生検により確定診断に至った心サルコイドーシスの1例. *日医大医会誌* 2010 ; 6 (1) : 30-33.
- (2) 座談会 :
- 1) 池田隆徳¹⁾, 林 明聰, Denis R²⁾ ¹⁾ 杏林大学医学部 第二内科, ²⁾ Faculty of Medicine Department of Medicine Universite de Montreal) : 基礎心疾患に伴う心房細動に対する抗不整脈薬治療. *新薬と臨床* 2009 ; 58 (12) : 3-14.
- (3) 総説 :
- 1) Takano M, Mizuno K, Kim S¹⁾, Jang I¹⁾ ¹⁾ Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Optical Coherence Tomography. *Current Medical Group LLC* 2009 ; 2 (4) : 275-283.
- 2) Takano M, Mizuno K : Coronary angioscopic evaluation for serial changes of luminal appearance after pharmacological and catheter interventions. *Circ J* 2010 ; 74 (2) : 240-245.
- 3) 水野杏一 : 循環器医のための心肺蘇生・心血管救急に関するガイドライン. *Circ J* 2009 ; 73 (3) : 1361-1506.
- 4) 水野杏一 : 冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドライン. *Circ J* 2009 ; 73 (3) : 1019-1114.
- 5) 山本真功¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ 千葉北総病院) : 4. 冠動脈先端画像診断・冠動脈血管内超音波 (IVUS : intravascular ultrasoundとVirtual Histology-IVUS : VH-IVUSについて) (III). *日医大医会誌* 2009 ; 5 (2) : 75-77.
- 6) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 水野博司, 田畑泰彦, 水野杏一 : 皮膚真皮 : 皮膚真皮の再生誘導治療. *再生誘導治療* 2009 ; (13) : 232-236.
- 7) 加藤貴雄 : 心房細動の心電図所見. *診断と治療* 2009 ; 97 (5) : 950-958.
- 8) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 松本綾乃, 加藤貴雄, 水野杏一, 平澤泰宏, 堀江 格, 新 博次 : Electro-Anatomical Mapping により走行を詳細に検討しえた左側 Atrio-Ventricular Mahaim 束の1例. *臨床心臓電気生理* 2009 ; (32) : 141-149.
- 9) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 水野博司, 田畑泰彦, 水野杏一 : 【患者までとどいている再生誘導治療 バイオマテリアル, 生体シグナル因子, 細胞を利用した患者のための再生医療の実際】 第4章 : 組み合わせ 足場と細胞増殖因子 皮膚真皮 皮膚真皮の再生誘導治療. *遺伝子医学MOOK* 2009 ; 13 : 232-236.
- 10) 村上大介¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ 千葉北総病院) : 4. 冠動脈先端画像診断 : 光干渉断層法 : (Optical Coherence Tomography ; OCT) (IV). *日医大医会誌* 2009 ; 5 (3) : 150-151.
- 11) 岡崎大武, 高野雅充, 水野杏一 : 冠動脈内視鏡による直視診断. *The Lipid* 2009 ; 20 (3) : 96-101.
- 12) 福岡長知, 林 寛子, 水野杏一 : 非薬物療法 : 在宅酸素療法. *medicina* 2009 ; 46 (8) : 1304-1307.
- 13) 加藤貴雄 : 頸脈性不整脈. *救急医学* 2009 ; 33 (10) : 1208-1214.
- 14) 高野雅充¹⁾, 水野杏一¹⁾ 千葉北総病院) : 血管内視鏡による動脈硬化病変とステント留置部の評価. *日本冠疾患学会* 2009 ; 16 (1) : 80-86.
- 15) 高野仁司 : 卵円孔開存 : 片頭痛 その他. *循環器科* 2009 ; 66 (3) : 265-269.
- 16) 高野仁司, 山本英世, 水野杏一 : PCIによる造影剤腎症発生とその予防 : 最小限造影剤使用による冠動脈イン

ターベンション. 冠疾患誌 2009 ; 15 : 236-240.

- 17) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 松本綾乃, 林 洋史, 小原俊彦, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆¹⁾, 大森裕也¹⁾, 天野康雄²⁾, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学外科学 (心臓血管外科部門), ²⁾ 日本医科大学放射線科): 心内膜側ならびに術中心外膜側マッピング下アブレーションにより根治し得た経皮的中隔心筋焼灼術後心室頻拍の1例. 心臓 2009 ; 41 (4) : 173-179.
- 18) 高野照夫: 心疾患患者の非心臓手術の周術期管理 特集にあたって. ICUとCCU 2009 ; 33 (6) : 433-434.
- 19) 加藤貴雄: 医薬品開発臨床試験における心電図評価の意義と重要性. 心電図 2009 ; 29 (2) : 115-116.
- 20) 加藤貴雄: 日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview). 心電図 2009 ; 29 (1) : 3-9.
- 21) 加藤貴雄: 日本人におけるアミオダロン静注薬の有効性・安全性 - 国内第II相臨床試験成績を中心に -. Prog Med 2009 ; 28 (supple 1) : 671-673.
- 22) 平山悦之, 加藤貴雄: 心房細動に対するリズムコントロールとレートコントロールの選択基準は. 循環器科 2009 ; 64 : 143-147.
- 23) 村田広茂, 加藤貴雄: 心電図, 負荷心電図, 加算平均心電図. 臨床検査 2009 ; 51 : 697-702.
- 24) 渡部良夫, 加藤貴雄: 房室結節をめぐって. 渡部良夫先生に聞く. 心臓 2009 ; 39 : 925-936.
- 25) 八島正明, 加藤貴雄: 心房細動を発見する手がかりと次の一手. 内科 2009 ; 101 : 430-434.
- 26) 加藤貴雄: 佐々木論文に対する Editorial Comment. 心臓 2009 ; 40 : 298-299.
- 27) 加藤貴雄: 静注用III群抗不整脈薬の使い方を知る. 内科 2009 ; 102 : 508-512.
- 28) 加藤貴雄, 小川 聡: 実践的抗不整脈薬選択ツールの開発. 不整脈News & Views 2009 ; 27 : 14-15.
- 29) 加藤貴雄: 日本医科大学付属病院に新設された総合診療センターの紹介. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (3) : 1-2.
- 30) 林 明聡, 加藤貴雄: 致死性不整脈に対する抗不整脈薬選択. 循環器科 2009 ; 65 : 490-495.
- 31) 加藤貴雄: ドネベジルの使い方と留意すべき点. 循環器との関連を踏まえてどう治療を継続するか. クリニシアン 2009 ; 577 (2) : 107-112.
- 32) 加藤貴雄: 薬物性QT延長症候群の患者背景. 医薬品開発および臨床試験における留意点. 日薬理誌 2009 ; 133 : 19-21.
- 33) 加藤貴雄, 小川 聡: ガイドラインを実地診療に生かす. Web版実践的抗不整脈薬選択ツールの開発. 治療学 2009 ; 43 : 73-75.
- 34) 加藤貴雄: ペースメーカー, ICD, CRTを受けた患者の社会復帰・就学・就労に関するガイドライン. Circ J 2009 ; 72 (supple 4) : 1133-1192.
- 35) 岡崎大武¹⁾, 山本真功²⁾, 高野雅充²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 博慈会記念総合病院, ²⁾ 千葉北総病院): 冠動脈内視鏡でプラークはどうみえるか. レジデント 2010 ; 3 (2) : 56-60.
- 36) 水野杏一: 冠動脈硬化症と全身の動脈硬化—冠動脈硬化症と頸動脈硬化症や下肢末梢動脈硬化症 (PAD) との併存やその意義などについて. 心臓 2010 ; 42 (2) : 274-275.
- 37) 加藤貴雄: アミオダロン. ICUとCCU 2010 ; 34 (2) : 165-171.

(4) 症例報告:

- 1) Kawanaka H, Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Takagi I, Takano H, Yasutake M, Tanabe Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Department of biomaterials frontier medical sciences Kyoto Univ.) : Therapeutic angiogenesis by controlled-release fibroblast growth factor in patient with churg-strauss syndrome complicated by an intractable ischemic leg ulcer. The American J of the Medical Sciences 2009 ; 338 (4) : 341-342.
- 2) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 松本綾乃, 加藤貴雄, 水野杏一, 平澤泰宏¹⁾, 堀江 格¹⁾, 新 博次¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科): Electro-Anatomical Mappingにより走行を詳細に検討しえた左側 Atrio-Ventricular Mahaim 束の1例. 臨床心臓電気生理 2009 ; (32) : 141-149.
- 3) 坪井一平, 平山悦之, 村田広茂, 高野仁司, 高木 元, 水野杏一, 時田祐吉¹⁾, 田中啓治¹⁾, 汲田伸一郎²⁾ (¹⁾

集中治療室, ²⁾ 放射線医学)：偽腔開存型急性大動脈解離に伴う慢性消費性凝固障害に対し抗線溶療法が著効した1例. 日医大医学会誌 2009；5 (3)：167-171.

- 4) 説田浩一¹⁾, 北原康行²⁾, 荒尾正人²⁾, 大林民典³⁾, 清野精彦⁴⁾, 水野杏一¹⁾ (都立駒込病院循環器内科臨床検査科, ²⁾ 都立駒込病院循環器内科, ³⁾ 都立駒込病院臨床検査科, ⁴⁾ 千葉北総病院内科循環器センター)：慢性心不全患者におけるB型ナトリウム利尿ペプチド, 心筋トロポニンT, C反応性蛋白値を用いたまるちバイオマーカーによるリスク層別化. 心臓 2009；41 (7)：766-771.

著書

- 1) 高橋裕, 水野杏一：〔分担〕薬剤溶出性ステント治療後の抗血小板療法と遅発性血栓塞栓症. 循環器疾患最新の治療 (堀 正二, 永井良三), 2010；pp1-4, 南江堂.
- 2) 八島正明：〔分担〕ATP製剤. 循環器治療薬の選び方・使い方 (池田隆徳), 2009；pp119-122, 羊土社.
- 3) 八島正明：〔分担〕徐脈性不整脈. 循環器治療薬の選び方・使い方 (池田隆徳), 2009；pp222-225, 羊土社.
- 4) 八島正明：〔分担〕頻発性心室性期外収縮・非持続性心室頻拍. 循環器治療薬の選び方・使い方 (池田隆徳), 2009；pp249-252, 羊土社.
- 5) 八島正明：〔分担〕大動脈解離. 循環器治療薬の選び方・使い方 (池田隆徳), 2009；pp334-342, 羊土社.
- 6) 八島正明：〔分担〕大動脈瘤. 循環器治療薬の選び方・使い方 (池田隆徳), 2009；pp343-347, 羊土社.
- 7) 水野杏一：〔分担〕RIKS-HIA. DATA UPDATE CARDIOVASCULAR 4th EDITION (小川 聡, 倉林正彦, 小室一成, 楽木宏実), 2009；pp140-141, 先端医学社.
- 8) 水野杏一：〔分担〕急性冠症候群 (ACS) 6. 不安定プラーク破裂は画像診断, 血液検査で予測できるか?. EBM 循環器疾患の治療 (小室一成, 横井宏佳, 山下武志, 楽木宏実), 2009；pp52-55, 中外医学社.
- 9) 本間 博, 水野杏一：〔分担〕2. 心不全, BNPとNT-ProBNP：測定値解釈における落とし穴. 循環器検査のグノーティ・セアウトン - 過信せず, 謙虚で緻密な検査とは (山科 章), 2009；pp153-156, シナジー.
- 10) 大野忠明, 本間 博：〔分担〕3章 心エコーを読む 低流量・低圧較差の大動脈弁狭窄をみる. 心エコーパーフェクトガイド - 初心者からエキスパートまで (永井良三, 筒井裕之, 山田 聡), 2009；pp150-151, 中山書店.
- 11) 村田広茂, 加藤貴雄：〔分担〕Brugada症候群の診断は心電図で可能か. 循環器検査のグノーティ・セアウトン (山科 章), 2009；pp176-180, シナジー.
- 12) 水野杏一：〔分担〕血管内視鏡 NMRスペクトロスコピー. 内科学書 (小川 聡), 2009；pp59-61, 中山書店.
- 13) 加藤貴雄：〔共著〕Far-Distance Monitoring Electrical Cardiology (心電遠隔監視学), 2009；人民軍医出版社 (北京).
- 14) 山本 剛¹⁾, 水野杏一¹⁾ (集中治療室)：〔分担〕ショック. 内科学書 (改訂第7版 Vol. 3 循環器疾患, 腎・尿路疾患) (小川 聡, 藤田俊郎), 2009；pp86-88, 中山書店.
- 15) 福岡長知, 水野杏一：〔分担〕狭心症のない運動負荷心電図のST下降. 循環器検査のグノーティ・セアウトン (山科 章), 2009；pp19-24, シナジー.
- 16) 加藤貴雄：〔分担〕日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview). リドカイン, ニフェカラン, アミオダロン静注薬の使い方-重症心室不整脈への対策 (大江透, 萩原誠久, 小野克重, 平岡昌和), 2009；pp29-39, ライフメディコム.
- 17) 小原俊彦, 加藤貴雄：〔分担〕洞不全症候群. 心臓リズムマネージメントを究める (奥村謙), 2009；pp34-39, メジカルビュー社.
- 18) 加藤貴雄：〔分担〕心室頻拍. 重篤副作用疾患別対応マニュアル第3集. 285-301 (日本循環器学会マニュアル作成委員会), 2009；pp285-301, 日本医薬情報センター.

- 19) 加藤貴雄：〔分担〕薬物治療（頻脈と徐脈）. 新しい診断と治療のABC 心臓突然死（相澤義房），2009；pp201-211, 最新医学社.
- 20) 加藤貴雄：〔分担〕頻脈性不整脈. 内科エマージェンシー：病態生理の理解と診療の基本（黒川顕），2009；pp1208-1215, へるす出版.
- 21) 加藤貴雄：〔分担〕心電図. 内科学書. Vol. 3循環器疾患, 腎・尿路疾患（小川聡），2009；pp18-25, 中山書店.
- 22) 加藤貴雄：〔分担〕診断・検査の進め方. 新しい診断と治療のABC 心房細動（笠貫宏），2009；pp82-91, 最新医学社.
- 23) 加藤貴雄：〔自著〕不整脈が気になるときに読む本. 不整脈が気になるときに読む本，2009；小学館.
- 24) 高野雅充, 水野杏一：〔分担〕H. OCT. 脈管専門医のための臨床脈管学（日本脈管学会），2010；pp117-119, メディカルトリビューン.
- 25) 水野杏一：〔分担〕胸痛, 胸部の圧迫感. 循環器研修ノート（永井良三），2010；pp190-192, 診断と治療社.
- 26) 加藤貴雄：〔分担〕Holter心電図. 循環器研修ノート（永井良三），2010；pp100-103, 診断と治療社.

学会発表

〔追加分〕

追加分：

- 1) 本間 博：心疾患診断の基礎 心エコー診断の基礎：どんな病気や病態がわかるか？. 日本心臓病学会 教育セミナー（第30回），2009. 2.

追加分シンポジウム：

- 1) Yamamoto M¹, Seino Y¹, Okamatsu K¹, Inami T¹, Kimata N¹, Murakami D¹, Takano M¹, Ohba T¹, Ibuki C¹, Mizuno K¹ (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Detection of Silent Vulnerable Plaque, Silent Myocardial Stress/Injury in Stable CAD Patients and Dynamic Analysis during Procedural Plaque Disruption. 日本循環器学会学術集会（第74回），2010. 3.
- 2) 淀川顕司, 森田典成, 小林義典, 林 明聡, 高山英男, 大野則彦, 小原俊彦, 清野精彦, 加藤貴雄, 水野杏一：Brugada症候群におけるリスク層別化の試み：ウェーブレット解析を用いた検討. 体表心臓微小電位研究会（第19回），2009. 2.

追加分一般講演：

- 1) 説田浩一¹, 清野精彦², 水野杏一 (¹ 駒込病院, ² 千葉北総病院) : Multibiomarker risk stratification using B-type natriuretic peptide cardiac troponin t and c reactive protein in patients with chronic heart failure. 第72回日本循環器学会，2008. 3.
- 2) 村田広茂, 小原俊彦, 小林義典, 淀川顕司, 高山英男, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一：Wavelet 変換心電図を用いた不整脈基質の検出：完全右脚ブロックをともなう陳旧誠心筋梗塞患者における検討. 体表心臓微小電位研究会（第19回），2009. 2.
- 3) 村田広茂, 小原俊彦, 淀川顕司, 高山英男, 加藤貴雄, 水野杏一：心筋症患者における Wavelet 変換心電図の特徴. 体表心臓微小電位研究会（第18回），2009. 2.
- 4) 八島正明, 加藤貴雄：伝送式イベントレコーダー・カルディオフォンのJ-Rhythm 試験における認容性. 心電図伝送システム研究会（第6回），2009. 2.
- 5) 鎌田芳則¹, 北村光信¹, 森澤太郎¹, 佐伯和則¹ (¹ 北村山公立病院) : 急速進行性糸球体腎炎を発症した糖尿病性動脈硬化病変を合併した顕微鏡的多発性血管炎の1例. 内科学会東北地方会（第187回），2009. 2.
- 6) 鎌田芳則¹, 北村光信¹, 森澤太郎¹, 佐伯和則¹ (¹ 北村山公立病院) : 再発性偽膜性腸炎を発症した血液透析患者の1例. 内科学会東北地方会（第187回），2009. 2.

- 7) 佐藤直樹, 梶本克也¹⁾, 長嶋道貴²⁾, 浅井邦也, 水野雅之²⁾, 南雄一郎²⁾, 宗像 亮, 村井綱児, 田中啓治, 田中啓治 (1) 浅草寺病院, (2) 東京女子医科大学) : 本邦における急性心不全患者背景の実態 : ATTEND データベースからの中間報告. 日本集中治療医学会学術集会 (第36回), 2009. 2.

(1) 特別講演 :

- 1) Katoh T, Ueno A : Clinical implication of synthesized 18-lead electrocardiogram. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th), 2009. 6.
- 2) Osaka M, Watanabe E, Murata H, Fuwamoto Y, Nanba S, Sakai K, Katoh T : V-figure change of autonomic nervous activity was observed as a possible precursor of sudden cardiac death in heart rate variability analysis of thirty-three Holter recordings. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th), 2009. 6.
- 3) 加藤貴雄 : 不整脈心電図の診かた. 日本ホルター・ノンインバイシブ心電学研究会 (第29回), 2009. 6.
- 4) 加藤貴雄 : 心房細動治療におけるアミオダロンの位置付け. 日本心電学会 (第26回) ・日本不整脈学会合同学術集会 (第24回), 2009. 7.
- 5) 加藤貴雄 : ホルター心電図, 家庭用心電図, イベントレコーダーの基本と臨床. 日本心電学会 (第26回) ・日本不整脈学会合同学術集会 (第24回), 2009. 7.
- 6) 加藤貴雄 : 大学病院における総合診療の意義と役割. 日本医科大学医療連携推進会 (第10回), 2009. 10.
- 7) 加藤貴雄 : QT延長の臨床的意義と計測における問題点. 医薬品開発におけるQT評価セミナー, 2009. 11.
- 8) 加藤貴雄 : 心電図異常と突然死-続編. 足立区学校医会特別講演会, 2009. 11.
- 9) 加藤貴雄 : 最新ガイドラインに基づく心房細動薬物治療. アミオダロンの位置付け. 比企医師会学術講演会, 2009. 11.
- 10) 加藤貴雄 : ホルター心電図, 家庭用心電図, イベントレコーダーの基本と臨床. 日本心電学会心電図判読セミナー (第10回), 2009.
- 11) 加藤貴雄 : 重症不整脈治療における静注抗不整脈薬の位置付け. 「不整脈の診断と治療」渡部セミナー (第36回), 2009.
- 12) 加藤貴雄 : 伝送式イベントレコーダー・カルジオフォンのJ-RHYTHMII試験における認容性. 心電図伝送システム研究会 (第6回), 2009.

(2) シンポジウム :

- 1) Takayama M¹⁾, Yamamoto E, Inoue K¹⁾, Aikawa M¹⁾, Watanabe H¹⁾, Iguchi N¹⁾, Tobaru T¹⁾, Asano R¹⁾, Takano H, Mizuno K, Sumiyhoshi T¹⁾ (1) Department of cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Percutaneous alcohol septal ablation results in excellent hemodynamic and clinical outcome in medically refractory hypertrophic cardiomyopathy with left ventricular outflow or/and mid-cavitary obstruction. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 2) Takano M, Mizuno K : Detection and treatment of vulnerable coronary plaque identified by angioscopy. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 3) Takano M : Evaluation of neointimal stent coverage and thrombus by coronary angioscopy. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 4) Yoshida H¹⁾, Mizuno K, Nakamura H²⁾ (1) Jikei Univ., (2) Mitsukoshi Health and Welfare Foundation) : Management of dyslipidemia for old elderly population. 日本動脈硬化学会 (第41回), 2009. 7.
- 5) Mizuno K : Atherosclerotic changes after stent implantation evaluated by OCT. Massachusetts General Hospital OCT Registry Symposium (1st) (Boston, USA), 2010. 3.
- 6) Ohno T, Honma H, Fujimoto H, Higashi H, Matsuzaki T, Mizuno K, Nitta T : Treatment for ischemic

mitral regurgitation, cardiac resynchronization therapy alone or in combination with surgical correction . 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.

- 7) Takano H, Miyamoto M, Tara S, Takagi G, Katoh K, Kirinoki S, Yasutake M, Mizuno K : Long-term Clinical Outcome and Cost Effectiveness of Autologous Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation in Patients with Critical Limb Ischemia. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 8) 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 集中治療室) : The Impact of Taking in Intensive and Cardiac Care Unit Training in Internal Medicine Residency Program. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 9) Setsuta K¹⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K⁽¹⁾ 都立駒込病院循環器内科, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Warning against Ongoing Myocardial Damage (OMD) in Hypertension : Detection of OMD and Its Close Linkage to Cerebro-Cardiovascular Events. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 10) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K⁽¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Very Late Thrombosis Originating from Bare-Metal Stent Segment during Extended Long-Term Follow-Up insights from Optical Coherence Tomography and Angioscopic Observations. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 11) 水野杏一 : 虚血性心疾患の予防と治療 (増加する動脈硬化性疾患の予防と対策). 日本医科大学医学会 (第19回) 公開シンポジウム, 2009. 6.
- 12) 平山悦之, 小林義典, 小原俊彦, 八島正明, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一, 新 博次¹⁾ (多摩永山病院) : 発作性心房細動に対するアップストリーム治療の有効性に関する検討. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 13) 淀川顕司¹⁾, 清野精彦¹⁾, 大野則彦¹⁾, 林 明聡¹⁾, 小原俊彦, 高山英男, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院) : サルコイドーシスにおける心室頻拍に対する薬物治療 : β 遮断薬, III群薬, そしてステロイドは有効か : 高分解能心電図を用いた検討. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 14) 高野仁司, 山本英世, 太良修平, 高木 元, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ 榊原記念病院) : 超高齢者へのバルーン大動脈弁形成術によるQOL改善に対する対費用効果. 日本血管内治療学会 (第15回), 2009. 7.
- 15) 高野仁司, 山本英世, 太良修平, 高木 元, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一 : ここまで来た Non-Coronary Cardiac Intervention : 超高齢者へのバルーン大動脈弁形成術によるQOL改善に対する対費用効果. 日本血管内治療学会 (第15回), 2009. 7.
- 16) 淀川顕司¹⁾, 清野精彦¹⁾, 大野則彦¹⁾, 林 明聡¹⁾, 小原俊彦, 高山英男, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院) : サルコイドーシスにおける心室頻拍に対する薬物治療 : β 遮断薬, III群薬, そしてステロイドは有効か : 高分解能心電図を用いた検討. 日本不整脈学会 (第24回), 2009. 7.
- 17) 宮内靖史, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 村田広茂, 山本哲平, 松本綾乃, 加藤貴雄, 水野杏一, 上野 亮, 田中啓治, 岡崎怜子, 新 博次 : Electrical stormにおけるアミオダロンの寄与. アミオダロン研究会 (第14回), 2009. 9.
- 18) 大坂元久, 加藤貴雄 : 心拍変動と突然死. 比較心電図研究会 (第36回), 2009. 9.
- 19) 淀川顕司, 小原俊彦, 村田広茂, 高山英男, 加藤貴雄, 水野杏一 : 微小電位研究の新たな展開. 陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価. ウェーブレット解析を用いた検討. 体表心臓微小電位研究会 (第20回), 2010. 2.
- 20) 佐藤直樹¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (集中治療室) : 急性心不全症候群の急性期の酸素化の重要性. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回), 2010. 3.

(3) パネルディスカッション：

- 1) Takano M：Utilization of coronary angiography for stent follow-Up. 日本心血管インターベンション治療学会（第18回），2009. 6.
- 2) 淀川顕司¹⁾，林 明聡¹⁾，大野則彦¹⁾，高山英男¹⁾，清野精彦¹⁾，小原俊彦，村田広茂，小鹿野道雄，宮内靖史，小林義典，加藤貴雄，水野杏一（¹⁾ 千葉北総病院）：陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価：ウェーブレット解析を用いた検討. 日本不整脈学会学術大会（第24回）日本心電学会学術集会（第26回）合同学術集会，2009. 7.
- 3) 佐藤直樹¹⁾，梶本克也²⁾，田中啓治¹⁾，水野杏一，荻原誠久³⁾，笠貫 宏³⁾，高野照夫（¹⁾ 集中治療室，²⁾ 浅草寺病院循環器内科，³⁾ 東京女子医大循環器内科）：ATTEND registry：急性心不全の実像と展望. 日本心臓病学会学術集会（第57回），2009. 9.
- 4) 宮本正章，高木 元，高木郁代，加藤浩司，太良修平，桐木園子，高野仁司，安武正弘，水野杏一，水野博司，田畑泰彦，松田範子，黄川田信充，大石沙織，内田英二，その他1名：治療抵抗性末梢動脈疾患（PAD）に対する再生医療を応用した先進併用療法Limb salvageへ. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌，2009. 11.
- 5) 宮内靖史，加藤貴雄，水野杏一：虚血性心疾患に伴う心房細動の基礎. 日本冠疾患学会（第23回），2009. 12.
- 6) 山本真功¹⁾，高野雅充¹⁾，横山真也¹⁾，木股伸恒¹⁾，村上大介¹⁾，岡松健太郎¹⁾，大場崇芳¹⁾，稲見茂信，雪吹周生¹⁾，清野精彦¹⁾，水野杏一（¹⁾ 千葉北総病院）：ベアメタルステント留置後超遠隔期までの血管内視鏡による経時的観察：新生内膜治癒反応から動脈硬化性変化. 日本冠疾患学会（第23回），2009. 12.
- 7) 佐藤直樹¹⁾，水野杏一，田中啓治¹⁾（¹⁾ 集中治療室）：急性心不全急性期治療における酸素化の重要性. 日本集中治療医学会総会，2010. 3.

(4) セミナー：

- 1) 加藤貴雄：心房細動治療におけるアミオダロン[®]の位置付け. 日本不整脈学会学術大会（第24回）日本心電学会学術集会（第26回）合同学術集会，2009. 7.
- 2) 宮本正章：治療抵抗性末梢動脈疾患（PAD）に対する再生医療を応用した先進併用療法：Limb salvage. 日本救命医療学会総会・学術集会（第24回），2009. 9.

(5) 一般講演：

- 1) Katoh T, Ohara T, Murata H, Yamamoto T, Mizuno K, Nagata S：Evaluation of QT/QTc dynamics during sudden postural change using novel noise reduction ECG. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 2) Itakura S, Ono T, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K：Caffeine could worsen the orthostatic tolerance during head-up tilt test. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 3) Saito T, Katoh T, Matsuno N, Uchida N, Wake A, Taniguchi S, Mizuno K：Predictors of pericardial effusion as acute graft-versus-host disease of cord blood transplantation. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 4) Murata H, Miyauchi Y, Kobaashi Y, Ohara T, Iwasaki Y, Ueno A, Okazaki R, Yamamoto T, Matsumoto A, Katoh K, Mizuno K, Takayama M：Electroanatomical Mapping-Guided Endocardial and Epicardial Ablation of Sustained Ventricular Tachycardia Following Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation in a Patient with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Annual Scientific Sessions of the Heart Rhythm Society (30th) (Boston, MA, USA), 2009. 5.
- 5) Sato N, Kajimoto K¹⁾, Nagashima M²⁾, Asai K, Mizuno M²⁾, Minami Y²⁾, Murai K, Munakata R, Mizuno K, Tanaka K, Hagiwara N²⁾, Kasanuki H³⁾, Takano T（¹⁾ Sensoji Hosp, ²⁾ Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Waseda Univ.）：Comparison and contrast of findings among acute decompensated heart failure syndromes registries -Preliminary data from ATTEND registry-. Asian Pacific Congress of Cardiology (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.

- 6) Sato N, Kajimoto K¹⁾, Nagashim M²⁾, Asai K, Mizuno K, Hagiwara N²⁾, Takano T (¹⁾ Shonan Dai-ichi Hospital, ²⁾ Tokyo Women's Medical University) : Importance of comparison among acute decompensated heart failure syndromes registries including preliminary data from ATTEND registry. HF2009 (Nice, France), 2009. 5.
- 7) Mizuno M¹⁾, Kajimoto K²⁾, Sato N, Kasanuki H³⁾, Tanaka K, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Saiseikai Kurihashi Hospital, ²⁾ Shonan Dai-ichi Hospital, ³⁾ Waseda University) : Gender related differences in patients with acute heart failure syndromes : a preliminary report from the Acute Decompensated Heart Failure Syndromes (ATTEND) Registry. HF2009 (Nice, France), 2009. 5.
- 8) Yodogawa K¹⁾, Ohara T, Takayama H, Murata H, Seino Y¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Wavelet Transform Analysis of QRS Complex in Patients with Resuscitated Ventricular Fibrillation. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th) (Yokohama, Tokyo), 2009. 6.
- 9) Nakano H, Yamamoto E, Takano H, Inui K, Saito T, Tara S, Kato K, Inami S, Takano M, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Mizuno K, Maruyama Y¹⁾, Ochi M¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiovascular Surgery) : Post-operative nephropathy after coronary artery bypass graft surgery in patients with chronic kidney disease . 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 10) Akiya M, Takano H, Okazaki H, Komiyama H, Sato T, Hara C, Yanagida T, Tara S, Yamamoto E, Takahashi Y, Inami S, Takano M, Takagi G, Asai K, Yasutake M, et al. : Clinical characteristics of atrial fibrillation-related coronary embolism. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 11) Yamamoto E, Takano H, Nakano H, Akiya M, Kato K, Inami S, Takano M, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : The prevalence and influence of renal artery stenosis in patients with chronic kidney disease. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 12) Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Kimata N¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Inami S, Ohba T¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ibuki C¹⁾, Hata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Angioscopically intensive yellow color of target plaque predict serum troponin-t levels after elective percutaneous coronary intervention in comparison with thrombus. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 13) Takano H, Takagi G, Tara S, Yamamoto E, Kato K, Takahashi Y, Yasutake M, Miyamoto M, Mizuno K : Progressive deterioration of limb ischemia is associated with impaired coronary microcirculation in patients with thromboangiitis obliterans. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 14) Tokita Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Murai K¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Kato K¹⁾, Sato N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Ochi M²⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, ²⁾ Cardiovascular Surgery) : Successful coronary intervention using bypass-graft of distal aortic arch-external iliac artery in a patient with leriche syndrome and takayasu arteritis . 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 15) Ohara T, Murata H, Maruyama H, Yashima M, Hirayama Y, Katoh T, Mizuno K : Focal role of the atrium to maintain atrial fibrillation detected by time-frequency analysis. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th), 2009. 6.
- 16) Ono T, Yana K, Shichiku H, Itakura S, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K : Usfulness of T-wave vector alternans as new description of detecting the ventricular repolarisation abnormality. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th), 2009. 6.
- 17) Itakura S, Ono T, Yana K, Shichiku H, Ono I, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K : The characteristics of variance rate and amplitude variance as to T-wave morphology variability analysis in the highly arrhythmic patients assessed by T-wave vector alternans. Congress of the International So-

- ciety for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th), 2009. 6.
- 18) Murata H, Ohara T, Miyauchi Y, Uetake S, Yodogawa K, Takayama H, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Detection of Arrhythmogenic Substrates in Prior Myocardial Infarction Patients with Complete Right Bundle Branch Block QRS Using Wavelet-Transformed ECG. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th) , 2009. 6.
 - 19) Takano H, Takagi G, Tara S, Yamamoto E, Kato K, Takahashi Y, Yasutake M, Miyamoto M, Mizuno K : Progressive Deterioration of Limb Ischemia is Associated with Impaired Coronary Microcirculation in Patients with Thromboangitis Obliterans. 日本心血管カテーテル治療学会 2009, 2009. 6.
 - 20) Kobayashi Y, Shimizu A¹⁾, Nitta T¹⁾, Aonuma K²⁾ (¹⁾ the ICD committee of JHRS, ²⁾ the CRT committee of JHRS) : Current status of the implantable device therapy for cardiac arrhythmias in Japan. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
 - 21) Hirosaki S¹⁾, Nakamura H²⁾, Mizuno K, Group Mega Study³⁾ (¹⁾ MEGA Study Deta center EPS, ²⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, ³⁾ MEGA Study Group) : Better compliance of taking pravastatin provides better cardiovascular outcome : A post hoc analysis of the MEGA Study . 日本動脈硬化化学会 (第41回), 2009. 7.
 - 22) Kosugi M¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Satoh T¹⁾, Sasaki A¹⁾, Katoh K¹⁾, Shibui T¹⁾, Miyachi H¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Long-term use of nitrates increases the risk of cardiac events in coronary spastic angina patients treated with calcium channel blockers. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 23) Nakagomi A¹⁾, Shibui T¹⁾, Okazaki R¹⁾, Kodani E¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kusama Y¹⁾, Morikawa M²⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Tokyo Univ.) : Upregulation of monocyte tissue factor activity is significantly associated with carotid intima-media thickness in patients with metabolic syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 24) Takagi G, Miyamoto M, Takagi I, Tara S, Takano H, Yasutake M, Tabata Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Kyoto University) : The Effect of Therapeutic Angiogenesis to Endothelial Function. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 25) Murata H, Takayama M, Miyauchi Y, Kitamura M, Yamamoto E, Takano H, Asai K, Hirayama Y, Yasutake M, Nitta T, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : The Incidence and Characteristics of Ventricular Tachycardia Following PTSMA in Patients with HOCM : A 10 Year Experience in Japan. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (The 74th), 2010. 3.
 - 26) Murata H, Ohara T, Miyauchi Y, Uetake S, Yodogawa K, Takayama H, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Detection of Arrhythmogenic Substrates in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy Using Wavelet-transformed ECG. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (The 74th), 2010. 3.
 - 27) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murai K¹⁾, Murakami D¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Abe J¹⁾, Hayashi M¹⁾, Takano M¹⁾, Ohno N¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Does Sleep Apnea Syndrome Relate to the Vulnerability of Plaque in Stable Coronary Artery Disease Patients?. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 28) 村田広茂, 小原俊彦, 宮内靖史, 植竹俊介, 淀川顕司, 高山英男, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一 : Wavelet 変換心電図による閉塞性肥大型心筋症 (HOCM) の不整脈性の評価. カテーテル・アブレーション委員会公開研究会 (第21回), 2009. 4.
 - 29) 松崎つや子¹⁾, 高山守正²⁾, 三原裕嗣²⁾, 齋藤清美³⁾, 高木郁代⁴⁾, 手塚晶人⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 村松和美⁷⁾, 本間

- 博, 水野杏一¹⁾ 生理機能センター, ²⁾ 榊原記念病院循環器内科, ³⁾ 榊原記念病院検査科, ⁴⁾ 鶴見大学歯学部付属病院内科, ⁵⁾ 日本医科大付属病院臨床研修医, ⁶⁾ 病理部, ⁷⁾ 看護部): 富士山頂における心臓超音波検査の経験. 日本登山医学会 (第29回), 2009. 5.
- 30) 中田 淳¹⁾, 高山守正¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 松崎つや子³⁾, 高木郁代⁴⁾, 小林義典, 川本雅司⁵⁾, 水野杏一¹⁾ 榊原記念病院循環器内科, ²⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科, ³⁾ 生理機能センター, ⁴⁾ 鶴見大学歯学部付属病院内科, ⁵⁾ 病理部): 急性高山病患者の心循環特性. 日本登山医学会 (第29回), 2009. 5.
- 31) 鶴見昌史¹⁾, 中田 淳²⁾, 松崎つや子³⁾, 斎藤清美⁴⁾, 三原裕嗣²⁾, 高木郁代⁵⁾, 小林義典, 川本雅司⁶⁾, 高山守正²⁾, 水野杏一¹⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科, ²⁾ 榊原記念病院循環器内科, ³⁾ 生理機能センター, ⁴⁾ 榊原記念病院検査科, ⁵⁾ 鶴見大学歯学部付属病院内科, ⁶⁾ 病理部): 高度3,000mにおける高山病発症時の心循環メカニズム. 日本登山医学会 (第29回), 2009. 5.
- 32) 松崎つや子¹⁾, 高山守正²⁾, 中田 淳²⁾, 鶴見昌史³⁾, 三原裕嗣²⁾, 小林義典, 高木郁代⁴⁾, 手塚晶人⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 本間 博, 水野杏一¹⁾ 生理機能センター, ²⁾ 榊原記念病院循環器内科, ³⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科, ⁴⁾ 鶴見大学歯学部付属病院内科, ⁵⁾ 日本医科大付属病院臨床研修医, ⁶⁾ 病理部): 低圧低酸素環境における運動負荷エコーの心循環に及ぼす影響: 富士山頂にて. 日本登山医学会 (第29回), 2009. 5.
- 33) 手塚晶人¹⁾, 高木郁代²⁾, 高山守正³⁾, 鶴見昌史⁴⁾, 高山瑤子⁵⁾, 手塚沙帆⁶⁾, 川本雅司⁷⁾, 水野杏一¹⁾ 日本医科大付属病院臨床研修医, ²⁾ 鶴見大学歯学部付属病院内科, ³⁾ 榊原記念病院循環器内科, ⁴⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科, ⁵⁾ NGOピースボート, ⁶⁾ 順天堂医院看護部, ⁷⁾ 病理部): 伝統的風船膨らまし法による高山病防止のメカニズムの検討: 富士山測候所利用研究. 日本登山医学会 (第29回), 2009. 5.
- 34) 宮内靖史, 小林義典, 岩崎雄樹, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 松本綾乃, 上野 亮, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆¹⁾, 大森裕也¹⁾, 新 博次²⁾, 山内康熙³⁾ ¹⁾ 心臓血管外科, ²⁾ 多摩永山病院, ³⁾ 武蔵野赤十字病院): 複雑な3次元のリエンتریが推定された肥大型心筋症に伴う持続性心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第39回), 2009. 5.
- 35) 見友優子¹⁾, 高山守正, 松崎つや子¹⁾, 鶴見昌史, 中田 淳, 三原裕嗣¹⁾, 高木郁代, 川本雅司¹⁾, 本間 博, 水野杏一¹⁾ 生理機能センター): 富士山頂における低圧低酸素の心循環に及ぼす影響: 運動負荷エコーを用いて. 日本超音波医学会学術集会 (第82回), 2009. 5.
- 36) 横山大祐¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 粟屋俊輔¹⁾, 鈴木 完¹⁾, 高橋真弓¹⁾, 三宅直樹¹⁾, 杉山千紘¹⁾, 土屋直俊¹⁾, 坂本篤裕¹⁾, 太良修平, 山本英世, 高木 元, 高野仁司, 水野杏一¹⁾ ME部): 重症虚血肢に対する経皮血管形成術における術中皮膚組織灌流圧及び経皮酸素分圧モニタリング. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 37) 水野正之¹⁾, 高野雅充, 理崎貴博¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ 千葉北総病院): OCT画像における残存血液が与える影響. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
- 38) 稲見 徹¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 岡田 薫¹⁾, 村上大介¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 林 明聡¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 青木 聡¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一¹⁾ 千葉北総病院): 妊娠後に大動脈炎症候群と診断し, ステロイド投与にて無事出産し得た1症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第212回), 2009. 6.
- 39) 宮元亮子, 宮内靖史, 清水秀治, 浅井邦也, 水野杏一, 加藤浩司¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 福田 悠²⁾ ¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 病理学教室): シェーンゲレン症候群に伴う薬剤過敏を背景とした劇症型好酸球性心筋炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第212回), 2009. 6.
- 40) 田中貴久, 時田祐吉¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 上野 亮¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 野崎文華, 水野杏一¹⁾ 集中治療室): 高度徐脈, 偶発性低体温症を来した血液透析に伴う甲状腺機能低下症の1例. 日本内科学会関東地方会 (第563回), 2009. 6.
- 41) 加藤貴雄: ホルター心電図, 家庭用心電図, イベントレコーダーの基本と臨床. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.

- 42) 岩崎雄樹, 岡崎怜子, 宮内靖史, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一, 小林義典, 山下武志¹⁾, 関口昭子¹⁾, 伊達太郎²⁾, 山下省吾²⁾ (¹⁾ 心臓血管研究所循環器内科, ²⁾ 東京慈恵会医科大学循環器内科): フローサイトメトリーによる自然誘発型高血圧ラット心房筋の加齢に伴うマクロファージ浸潤の新たな解析法. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 43) 村田広茂, 小原俊彦, 宮内靖史, 植竹俊介, 淀川顕司, 高山英男, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一: Wavelet変換心電図による閉塞性肥大型心筋症 (HOCM) の不整脈性の評価. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 44) 板倉潮人¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 小野卓哉, 小林義典, 本間 博, 加藤貴雄, 水野杏一 (¹⁾ 武蔵小杉病院): Caffeine含有飲料はHead-up tilt test (HUT) 中の起立耐性を増悪させる. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 45) 森田典成¹⁾, 新 博次¹⁾, 堀江 格, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一, 淀川顕司²⁾, 林 明聡²⁾, 平澤泰宏³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院, ²⁾ 千葉北総病院, ³⁾ 博慈会記念病院): 心房粗動, 非心房粗動例における右房分解稜の横断伝導ブロックと構造的, 外形的因子の特徴. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 46) 宮内靖史: Purkinje fiber Marsshall ligamentと不整脈-臨床的立場から. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 47) 會田智弘¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 吉田由紀子¹⁾, 佐藤淳子¹⁾, 林 寛子, 加藤祐子, 愛須紀子, 本間 博, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞合併の睡眠時無呼吸による夜間就寝中の血圧・心拍・心拍変動の変化. 日本心臓リハビリテーション学会 (第15回), 2009. 7.
- 48) 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 林 寛子, 本間英恵, 牛島明子, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 高橋 啓, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞患者における睡眠時無呼吸症候群と精神神経因子. 日本心臓リハビリテーション学会 (第15回), 2009. 7.
- 49) 保坂純郎¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 高木郁代, 大森裕也¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 810nm diode レーザー血管内照射 (EVLT) による下肢静脈瘤治療の血管閉塞率と合併症. 日本静脈学会総会 (第29回), 2009. 7.
- 50) 堀江 格, 高木郁代, 子島 潤, 篠田暁与, 佐藤 越, 宮本新次郎, 松本 真, 緒方憲一, 田寺 長, 井野威, 新 博次: Atrial pacing preference アルゴリズムによるBahmann 東ペーシングが治療抵抗性心房細動予防に奏功した1例. 日本不整脈学会学術集会 (第24回), 2009. 7.
- 51) 淀川顕司¹⁾, 林 明聡¹⁾, 大野則彦¹⁾, 高山英男, 清野精彦¹⁾, 小原俊彦, 村田広茂, 小鹿野道雄, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院): 陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価: ウェーブレット解析を用いた検討. 日本不整脈学会 (第24回), 2009. 7.
- 52) 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 高橋 啓, 宮武佳子, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 心筋梗塞後患者における睡眠時無呼吸と精神神経因子. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 53) 太良修平, 宮本正章, 加藤浩司, 高木 元, 高野仁司, 高木郁代, 安武正弘, 水野杏一: 自己骨髄単核球細胞移植による血管新生療法後の下肢切断予測因子の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 54) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 加藤活人¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 多摩永山病院): 冠攣縮性狭心症患者において長時間作用型硝酸薬の継続的投与は心事故を増加させる. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 55) 稲見 徹¹⁾, 清野精彦¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股仲恒¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 青木 聡¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院): 安定冠動脈疾患における睡眠時無呼吸症候群と冠動脈病変形成および心筋バイオマーカーの関連性. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 56) 白壁章宏¹⁾, 畑 典武²⁾, 横山真也³⁾, 品田卓郎³⁾, 高橋保裕³⁾, 小林宣明³⁾, 富田和憲³⁾, 水野杏一 (¹⁾ 武蔵

- 小杉病院,²⁾ 千葉北総病院 集中治療室,³⁾ 千葉北総病院 集中治療部): 急性心不全における非侵襲的陽圧換気 (NPPV) 管理成功のための指標. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 57) 中込明裕¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 加藤活人¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): 慢性心不全患者におけるカルベジロール投与例の予後規定因子特に単球由来サイトカインの関与. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 58) 松崎つや子¹⁾, 高山守正²⁾, 中田 淳, 鶴見昌史, 三原裕嗣²⁾, 斉藤清美³⁾, 小林義典⁴⁾, 高木郁代⁵⁾, 手塚晶人, 大野忠明, 川本雅司⁶⁾, 本間 博, 水野杏一 (1) 生理機能センター, (2) 榊原記念病院 循環器内科, (3) 榊原記念病院 検査部, (4) 東海大学医学部付属八王子病院, (5) 鶴見大学歯学部附属病院, (6) 病理部): 低圧低酸素環境科運動負荷による心機能への影響: 組織ドプラを用いて. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 59) 洪井俊之¹⁾, 中込明裕¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): スタチン治療は慢性腎臓病を合併した急性冠症候群患者の心事故を減少させる. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 60) 根岸経太¹⁾, 林 明聡¹⁾, 大野則彦¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 阿部純子¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 青木 聡¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 富田和憲²⁾, 小林宣明²⁾, その他3名 (1) 千葉北総病院, (2) 千葉北総病院集中治療室): 心筋梗塞に伴う心室細動のelectrical stormに対しカテーテルアブレーションが奏功した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第213回), 2009. 9.
- 61) 松本綾乃, 宮内靖史, 小野卓哉, 岩崎雄樹, 高野仁司, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一: 縦隔悪性リンパ腫が発症に関与した神経調節性失神の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第213回), 2009. 9.
- 62) 上野 亮¹⁾, 橋本雅夫¹⁾, 村井綱児¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 小宮山英徳, 水野杏一 (1) 集中治療室): 甲状腺クリーゼ治療中早期再分極症候群に関連した心室細動を認めた1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第213回), 2009. 9.
- 63) 坏 宏一¹⁾, 村井綱児¹⁾, 田島廣之²⁾, 疋田伸一²⁾, 細川雄亮¹⁾, 上野 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室, (2) 放射線科): 緊急コイル塞栓術が仮性動脈瘤破裂に対して有効であった1例. 日本脈管学会総会 (第50回), 2009. 10.
- 64) 村田広茂, 宮内靖史, 林 明聡, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 岡崎怜子, 上野 亮, 堀江 格, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一: 検出感度以下の癒痕内伝導が原因であった心房細動手術後のmultiple ATの1例. カテーテル・アブレーション委員会公開研究会 (第21回), 2009. 10.
- 65) 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 上野 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 横堀将司, 横田裕行²⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室, (2) 救命救急センター): 急性心筋梗塞による心停止から蘇生した患者の予後について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第37回), 2009. 10.
- 66) 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 清野精彦¹⁾, 稲見茂信, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): ベアメタルステント留置後の超遠隔期までの血管内視鏡による経時的観察: 新生内膜の治癒反応から動脈硬化性変化. 日本心臓血管内視鏡学会 (第23回), 2009. 10.
- 67) 栗原 理¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 村上大介¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 畑 典武¹⁾, 清野精彦¹⁾, 稲見茂信, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): ベアメタルステント留置後遅発性血栓症を発症した興味深い2例. 日本心臓血管内視鏡学会 (第23回), 2009. 10.
- 68) 根岸経太¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 阿部純子¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 林 明聡¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 深部静脈血栓症で発症し心筋生検鉗子を用いた下大静脈内組織生検より診断された尿管癌の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第214回), 2009. 12.
- 69) 林 洋史, 宮内靖史, 小原俊彦, 三軒豪仁, 本間英恵, 植竹俊介, 小宮山英徳, 中村俊一, 藤本啓志, 青木亜佐子, 牛島明子, 青木 聡, 田中古登子, 水野杏一, 高木 元, その他3名: 急性冠症候群様の症候で発症し

たギランバレー症候群の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第214回), 2009. 12.

- 70) 丹羽直哉¹⁾, 村井綱児¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 鈴木 学¹⁾, 松田淳也¹⁾, 青景聡之¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 宗像亮¹⁾, 上野 亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 原田潤一郎, 大野忠明, その他2名 (1) 集中治療室): 大動脈解離と肺血栓塞栓症の発症時期に苦慮した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第214回), 2009. 12.
- 71) 小宮山英徳, 高野仁司, 水野杏一, 桐山智成¹⁾, 福嶋善光¹⁾, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 岡崎大武, 乾 恵輔, 柳田隆行, 福岡長知, 牛島明子, 三軒豪仁 (1) 放射線科): 負荷心筋シンチと冠動脈CTのFusion画像その有用性. 日本冠疾患学会 (第23回), 2009. 12.
- 72) 稲見 徹¹⁾, 清野精彦¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 村井綱児¹⁾, 村上大介¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 安定冠動脈疾患における睡眠時無呼吸症候群と慢性完全閉塞病変形成および心筋バイオマーカーの関連性. 日本冠疾患学会 (第23回), 2009. 12.
- 73) 王 佐岩, 稲見茂信, 桐木園子, 山本英世, 高木 元, 青木 聡, 加藤浩司, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 高野雅充¹⁾, 山本真功¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 安定虚血性心疾患における無症候性プラーク破綻の臨床特徴に関する検討. 外国人留学者研究会 (第20回), 2010. 1.
- 74) 村田広茂, 宮内靖史, 林 明聡, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 岡崎怜子, 上野 亮, 堀江 格, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一: CARTO MERGEを用いて乳頭筋が関与する頻拍回路を想定しえたペラバミル感受性左室特発性心室頻拍の1例. 臨床不整脈研究会 (第22回), 2010. 1.
- 75) 斎藤恒徳, 浅井邦也, 加藤浩司, 高木 元, 稲見茂信, 高橋 啓, 山本英世, 高野仁司, 新田 隆, 水野杏一: 心房ペーシングリードが惹起した重度三尖弁逆流症の1例. 日本内科学会関東地方会 (第569回), 2010. 2.
- 76) 遠藤康美¹⁾, 遠藤育子¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 松本 真¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): 発熱を契機としてTorsade de pointesを来した高齢者の1例. 日本老年医学会関東甲信越地方会 (第51回), 2010. 3.
- 77) 小杉宗範¹⁾, 中込明裕¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): 特発性冠動脈解離により急性心筋梗塞を発症した若年女性の1例. 日本老年医学会関東甲信越地方会 (第51回), 2010. 3.
- 78) 羽田朋人, 大野忠明, 高野仁司, 高木 元, 林 明聡, 山本英世, 細川雄亮, 鈴木浩臣, 水野杏一: Churg-Strauss症候群にVTを合併した1例. 日本内科学会関東地方会 (第570回), 2010. 3.
- 79) 高木 元, 宮本正章, 太良修平, 桐木園子, 水野杏一: 重症虚患者の治療方針”虚血症例からのメッセージ”. 日本フットケア学会年次学術集会 (第8回), 2010. 3.
- 80) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 桐木園子, 加藤浩司, 高木郁代, 安武正弘, 水野杏一: 重症虚血肢に対する血管新生療法. 日本フットケア学会年次学術集会 (第8回), 2010. 3.
- 81) 上野 亮, 青景聡之, 細川亮介, 時田祐吉, 宗像 亮, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一: 甲状腺機能亢進症治療中に心室細動を呈した3症例の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回), 2010. 3.
- 82) 根岸経太¹⁾, 大野則彦¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 大秋美治²⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院, 2) 微生物学・公衆衛生学): 敗血症ショックで死亡し病理解剖にてアミロイドーシスの関与が疑われた高齢者心不全の1例. 日本老年医学会関東甲信越地方会 (第51回), 2010. 3.
- 83) 宮地秀樹¹⁾, 山本 彰²⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 水野杏一 (1) 多摩永山病院, 2) 多摩永山病院放射線科): 心筋SPECTで評価した左室内収縮期および拡張期同期不全による左室容量, 収縮能, 血流および代謝の影響. 日本心血管画像動態学会 (第20回), 2010.

(6) 症例報告:

- 1) Sato N, Kajimoto K¹⁾, Nagashim M²⁾, Asai K, Minami Y²⁾, Murai K, Munakata R, Mizuno M³⁾, Tanaka

- K, Hagiwara N²⁾, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Shonan-Daiichi Hospital, ²⁾ Tokyo Women' s Medical University, ³⁾ Saiseikai Kurihashi Hospital) : Clinical profile in patients with acute heart failure syndromes : Preliminary report from ATTEND registry. Asian Pacific Congress of Cardiology (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 2) Munakata R, Sato N, Murai K, Minami Y, Kajimoto K, Tanaka K, Mizuno K, Takano T : Clinical characteristics of ischemic acute heart failure : A Report from ATTEND registry. 欧州心不全学会学術集会2009 (フランス : ニース), 2009. 6.
 - 3) Nakata J, Takayama M, Matsuzaki T, Takagi I, Tsurumi M, Kawamoto M, Kobayashi Y, Mihara H, Sumiyoshi T, Mizuno K : Left ventricular diastolic dysfunction as an early initiator of pulmonary hypertension relating to hypoxemia in acute mountain sickness syndrome (AMSS). European Society of Cardiology Congress 2009 (Barcelona, Spain), 2009. 8.
 - 4) Takagi G, Miyamaoto M, Yasutake M, Takagi I, Takano H, Kato K, Tara S, Ohtsubo H, Tabata Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Kyoto University) : Protein Therapy Using Control-Released b-FGF in Patients with Ischemic Limbs : A Possible Alternative to Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation. TERMIS (Seoul, Korea), 2009. 9.
 - 5) Murai K, Sato N, Kajimoto K¹⁾, Munakata R, Asai K, Nagashima M¹⁾, Mizuno M²⁾, Minami Y¹⁾, Tanaka K, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Shonan Dai-ichi Hospital, ²⁾ Tokyo Women' s Medical University) : Impact of "Warm & Wet" and "Cold & Wet" on Clinical Evaluation in the Real-World Acute Heart Failure Syndrome Patients : Data from Attend Registry. Heart Failure Society of America (the 13th) (Boston, USA), 2009. 9.
 - 6) 高野雅充¹⁾, 横山真也¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見茂信, 酒井俊太¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 大国真一¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 上村竜太¹⁾, 清野精彦¹⁾, 畑典武¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院) : Extended Follow-up by Serial Angioscopic Observation for Bare-Metal Stents in Native Coronary Arteries : From Healing Response to Atherosclerotic Transformation of Neointima. 日本心臓病学会 (第57回), 2009. 9.
 - 7) Inami T¹⁾, Seino Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Aoki S¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Link of Sleep Apnea Syndrome to Coronary Atherosclerotic Burden and Elevated Cardiac Biomarkers in Stable Coronary Artery Disease Patients. American Heart Association Scientific Meeting 2009 (Orlando, USA), 2009. 11.
 - 8) Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Inami T¹⁾, Murakami D¹⁾, Ohba T¹⁾, Aoki S¹⁾, Ibuki C¹⁾, Takano M¹⁾, Mizuno K, Hata M²⁾ (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Elevation of soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 Levels After Plaque Disruption. American Heart Association Scientific Meeting 2009 (Orlando, USA), 2009. 11.
 - 9) Saito T, Asai K, Takahashi H, Komiyama H, Kato K, Yamamoto E, Takano H, Ohara T, Fukuda Y, Mizuno K : New concept of secondary cardiomyopathy with unique ultrastructural features. ACC (59th) (Atlanta, USA), 2010. 3.
 - 10) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Kume N¹⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Measurement for the early diagnosis of ST elevation myocardial infarction : comparative study with myocardial necrosis markers. ACC (59th) (Atlanta, USA), 2010. 3.
 - 11) Shirakabe A¹⁾, Asai K, Hata N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Metalloproteinases in patients with acute heart failure. ACC (59th) (Atlanta, USA), 2010. 3.
 - 12) Takagi G, Miyamoto M, Takagi I, Tara S, Tabata Y, Mizuno K : Therapeutic angiogenesis and systemic

- endothelialtone. ACC (59th) (Atlanta, USA), 2010. 3.
- 13) Takano H, Yamamoto E, Tara S, Kato K, Inami S, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Low-Dose Aspirin May Ameriorate Long-Term Clinical Outcome in Patients with Coronary Spastic Angina. American College of Cardiology (the 59th) (Atlanta, USA), 2010. 3.
 - 14) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A²⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital) : Impact of left ventricular volume, systolic function, and myocardial perfusion and metabolism for intra-left ventricular systolic and diastolic dyssynchrony. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 15) Nakagomi A¹⁾, Kodani E¹⁾, Takano H, Satoh N, Uchida T²⁾, Ibuki C³⁾, Kusama Y¹⁾, Seino Y³⁾, Munakata K²⁾, Mizuno K, Takano T (¹⁾ Tama nagayama Hospital, ²⁾ Musashikosugi Hospital, ³⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Secondary protective effect of Ca-antagonist for ischemic heart attack. Randomized parallel comparison with beta-blocker trial (SPECIAL-NMS). 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 16) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A²⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atrashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Tama Nagayama Hospital) : Relationship among left ventricular mechanical and electrical dyssynchrony, volume, and systolic function in patients with or without heart failure/conduction disorder. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 17) Shibui T¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kosugi M¹⁾, Sasaki A¹⁾, Katoh K¹⁾, Miyachi H¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Differential effect of hydrophilic and lipophilic statins on lipid parameters, inflammation and long-term prognosis in acute coronary syndrome patients. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 18) Okazaki R¹⁾, Yamashita T²⁾, Sekiguchi A²⁾, Iwasaki Y, Hayami N³⁾, Murakawa Y³⁾, Sawada H²⁾, Aizawa T²⁾, Kato T, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ The Cardiovascular Institute, ³⁾ Mizonokuchi Hospital, Teikyo University School) : Promotion of macrophage infiltration and fibrosis in young diabetic rat atria. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 19) Satoh T¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Kosugi M¹⁾, Sasaki A¹⁾, Katoh K¹⁾, Shibui T¹⁾, Miiyachi H¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital) : Elevated systolic blood pressure at discharge predicts poor outcomes in patients with acute myocardial infarction underwent successful percutaneous coronary intervention. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 20) Ono T, Yana K¹⁾, Kaeriyama K¹⁾, Itakura S²⁾, Honma H, Atatarashi H³⁾, Munakata K²⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Faculty of Science and Engineering, Hosei University, ²⁾ Musashi Kosugi Hospital, ³⁾ Tama Nagayama Hospital) : The identifying most variable segment in T-wave morphology with variance evaluating by T-wave vector alternans. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 21) Itakura S¹⁾, Ono T, Honma H, Atrashi H²⁾, Munakata K¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospita, ²⁾ Tama Nagayama Hospital) : The frequency of T-wave variance has more powerful predictable descriptor for cardiac events than the amplitude of different T-wave variation. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 22) Itakura S¹⁾, Ono T, Yana K²⁾, Kaeriyama K²⁾, Honma H, Atarashi H, Munakata K¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospita, ²⁾ Faculty of Science and Engineering, Hosei University, ³⁾ Tama Nagayama Hospital) : The variance in first quarter segment of T-wave predicts cardiac events for patients with heart disease by T-wave vector alternans. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 23) Tara S, Takagi G, Kirinoki S, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Miyamoto M, Mizuno K : Non-invasive Prediction of Limb Salvage of Therapeutic Angiogenesis by Bone Marrow Cells Implantation to the Pa-

- tients with Critical Limb Ischemia. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 24) Honma H, Inami S, Yamamoto E, Katoh K, Takagi G, Takano H, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Rabeprazole Does not Decrease the Antiplatelet Effect of Clopidogrel. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 25) Nakano H, Takano H, Yamamoto E, Tara S, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : EuroSCORE Predicts the Renal Death after Developing Acute Kidney Injury in Patients Undergoing Coronary Artery Bypass Surgery. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 26) Nakamura S, Takano H, Inui K, Saito T, Nakano H, Nozaki F, Komiyama H, Tara S, Yamamoto E, Kato K, Inami S, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, et al. : Prognostic Value of the Syntax SCORE in Patients Undergoing Coronary Revascularization. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 27) Hayashi M, Denjoy I¹⁾, Miyauchi Y, Extramiana F¹⁾, Kobayashi Y²⁾, Katoh T, Leenhardt A¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Cardiology Department, Lariboisiere Hospital, Paris-Diderot University, Paris, France, ²⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Tokai University Hachioji-Hospital) : Efficient Diagnostic Method and Alarming Prognosis in Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 28) Tsurumi M, Nakata J, Takayama M, Takagi I, Matsuzaki T, Nitta M, Mihara H, Umemura J, Sumiyoshi T : Cardiopulmonary Performance of Acute Mountain Sickness : Result from Prospective Observational Study at Mt. Fuji. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 29) Abe J¹⁾, Seino Y¹⁾, Inami T¹⁾, Takano M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murai K¹⁾, Murakami D¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Ohba T¹⁾, Ohno N¹⁾, Ibuki C¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Does the Sympathetic Nerve Activity during Sleep Apnea Link to Plaque Vulnerability and Inflammatory Stress in Coronary Artery Disease Patients?. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 30) Kimata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Inami T¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Abe J¹⁾, Hayashi M¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ohno N¹⁾, Ibuki C¹⁾, Akutsu K¹⁾, Hata N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Type A versus Type B, and Patent versus Thrombosed Type. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 31) Kobayashi N¹⁾, Hata N¹⁾, Seino Y²⁾, Kume N³⁾, Inami T²⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Tomita K¹⁾, Kitamura M¹⁾, Kurihara O¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ School of Medicine, Kyoto University) : Solbe lectin-Like Oxidized LDL Receptor-1 Levels Measurement for the Early Diagnosis of STEMI : Comparative Study with Myocardial Necroses Markers. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 32) Yodogawa K¹⁾, Takayama H, Abe J¹⁾, Ohno N¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Detection of Arrhythmogenic Substrate in Patients with Previous Myocardial Infarction Using Wavelet Transform Analysis. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 33) Yodogawa K¹⁾, Ohara T, Takayama M²⁾, Takayama H, Seino Y¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Sakakibara Memorial Hospital) : Electrical instability of the Heart in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 34) Kamiya M, Asai K, Shirakabe A¹⁾, Murai K¹⁾, Satoh N²⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Intensive Care Unit, Nippon Medical School) : Angiotensin Receptor Blockade Prevented Myocyte Hypertrophy but did not Suppress Myocardial Fibrosis in Ovariectomized Mice with Chronic β -adrenergic Receptor Stimulation. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 35) Yodogawa K¹⁾, Seino Y¹⁾, Takayama H, Abe J¹⁾, Ohno N¹⁾, Ibuki C¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Chiba

- Hokusoh Hospital) : A New Approach for Detecting Corticosteroid Responder Patients in Cardiac Sarcoidosis- Application of High Resolution Electrocardiography. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 36) Tokita Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Munakata R¹⁾, Ueno A¹⁾, Akutsu K¹⁾, Sato N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (1 Intensive and Cardiac Care Unit) : Gender Differences in Clinical Characteristics and In-hospital Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction in the Last Decade. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 37) 大野忠明, 本間 博, 藤本啓志, 東 春香, 松崎つや子, 横島友子, 伊藤恵子 : 心臓腫瘍 fibroelastoma における 3D 経食道心エコーの有用性の検討. 日本心エコー図学会学術集会 (第20回), 2009. 4.
- 38) 本間 博 : 心疾患診断の基礎 心エコー診断の基礎 : どんな病気や病態がわかるか?. 日本心臓病学会 教育セミナー (第31回), 2009. 6.
- 39) 宮地秀樹¹⁾, 中込明裕¹⁾, 小杉宗範¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 加藤活人¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次, 水野杏一 (1 多摩永山病院) : スタチン投与は急性冠症候群患者の心事故を減らし退院6ヶ月後のLDL-C/HDL-C比は予後判定に有用である. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 40) 大野忠明, 本間 博, 藤本啓志, 東 春香, 横島友子, 伊藤恵子, 水野杏一, 松島つや子¹⁾ (1 生理機能センター) : fibroelastoma : 自件例8例の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 41) 小杉宗範¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 原千鶴子¹⁾, 佐藤太亮¹⁾, 加藤活人¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 久野将宗¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, その他1名 (1 多摩永山病院) : 腕動脈アプローチによる大動脈バルーンパンピングを長期に施行し, その安全性と有用性が確認された1例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第35回), 2009. 10.
- 42) 鎌田芳則¹⁾, 吉田明日香¹⁾, 原千鶴子¹⁾, 佐伯和則¹⁾ (1 北村山公立病院) : 再発性偽膜性腸炎を発症した血液透析患者の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第39回), 2009. 10.
- 43) 本間 博 : 心疾患診断の基礎 心エコー診断の基礎 : どんな病気や病態がわかるか?. 日本心臓病学会 教育セミナー (第32回), 2009. 10.
- 44) 浅井邦也, 佐藤直樹, 清野精彦, 水野杏一 : 急性冠症候群における1型心腎症候群. 日本心不全学会学術集会 (第13回), 2009. 10.
- 45) 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 藤本啓志, 東 春香, 大野忠明, 水野杏一 (1 生理機能センター) : 大動脈弁石灰化と上行大動脈近位部の distensibility との関係. 日本循環器学会学術集会コメディカルセッション (第74回), 2010. 3.
- (7) セッション :
- 1) 稲見 徹¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股伸恒¹⁾, 村井綱児¹⁾, 村上大介¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 阿部純子¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1 千葉北総病院) : 治療抵抗性心不全4例に対する adaptive servo-ventilation (ASV) 導入からの検討. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第215回), 2010. 2.
- 2) 桐木園子, 高木 元, 高野仁司, 太良修平, 宮本正章, 水野杏一 : クリオグロブリン血症による重症下肢虚血に対し血管再生治療が著効した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第215回), 2010. 2.
- (8) ポスター :
- 1) Takahashi H, Fukuma N, Ushijima A, Kato Y, Hayashi H, Kishida H, Mizuno K : Role of cardiac hormone in enhanced hypercapnic chemosensitivity in patients with old myocardial infarction (OMI). APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 2) Ono T¹⁾, Yana K²⁾, Itakura S³⁾, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K³⁾, Kato T, Mizuno K (1 Ono Heart Clinic, 2) Department of electronic informatics, Hosei Univ., 3) Musashikosugi Hospital) : Can new descriptors of ventricular repolarisation as T-wave vector alternans detect highly arrhythmic risk patients with heart diseases?. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 3) Takahashi Y, Takano H, Akiya M, Okazaki H, Komiyama H, Hara C, Sato T, Yanagida T, Tara S,

- Yamamoto E, Takano M, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Miyake K¹, et al. ⁽¹⁾ Department of Gastroenterology) : Nicorandil enhances the risk of aspirin-related hemorrhagic gastroduodenal mucosal injury in patients with cardiovascular disease. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
- 4) Saito T, Saito T¹, Sugiyama S¹, Mizuno K ⁽¹⁾ Good-sleep clinic) : Improvement of pulse wave velocity after long-term treatment with continuous positive airway pressure in obstructive sleep apnea. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
 - 5) Kobayashi N¹, Hata N¹, Yokoyama S¹, Akutsu K¹, Shinada T¹, Tomita K¹, Shirakabe A¹, Mizuno K ⁽¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Endothelin-1 produced by coronary artery endothelial cells causes no-reflow phenomenon. APCC (17th) (Kyoto, Japan), 2009. 5.
 - 6) Takano H, Yamamoto E, Takano M, Takagi G, Asai K, Yasutake M, Mizuno K : Economical benefit of the prevention of contrast-induced nephropathy in patients with chronic kidney disease. European Society of Cardiology, Congress 2009 (Barcelona, Spain), 2009. 8.
 - 7) Inami T¹, Yamamoto M¹, Kimata N¹, Murakami D¹, Ohba T¹, Aoki S¹, Ibuki C¹, Kobayashi N², Yokoyama S², Hata N², Seino Y¹, Mizuno K ⁽¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ⁽²⁾ Division of Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital) : Analysis of bi-edge late restenotic lesions in a sirolimus-eluting stent case by coronary angiography and OCT . 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
 - 8) Aoki S¹, Seino Y¹, Kimata N¹, Yamamoto M¹, Inami T¹, Murakami D¹, Ohba T¹, Ibuki C¹, Kobayashi N², Yokoyama S², Hata N², Mizuno K ⁽¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital, ⁽²⁾ CCU department Chiba Hokusoh Hospital) : Assessment of coronary atherosclerotic plaque burden by three characteristic biomarkers. 日本心血管インターベンション治療学会 (第18回), 2009. 6.
 - 9) 石川昌弘¹, 宗像一雄¹, 水野杏一 ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院) : 心電図同期SPECTを用いての高齢者における左室拡張・同期生障害の評価. 日本老年医学会 (第51回), 2009. 6.
 - 10) 八島正明, 平山悦之, 小原俊彦, 宮内靖史, 岩崎雄樹, 加藤貴雄, 水野杏一, 吉田朱美¹, 小杉山亜以¹ ⁽¹⁾ (株) ダイヤメディカルネット心電図解析センター) : 記録状況と有所見率からみたループ式イベントレコーダー検査の有用性. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
 - 11) 山本哲平, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 岡崎怜子, 村田広茂, 松本綾乃, 植竹俊介, 坪井一平, 小原俊彦, 八島正明, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆¹, その他1名 ⁽¹⁾ 心臓血管外科) : Wavelet変換心電図による閉塞性肥大型心筋症 (HOCM) の催不整脈性の評価. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
 - 12) 高野仁司, 山本英世, 太良修平, 高木 元, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正¹, 水野杏一 ⁽¹⁾ 榊原記念病院循環器内科) : 超高齢者へのバルーン大動脈弁形成術のQOL改善に対する対費用効果. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
 - 13) 会田智弘¹, 福岡長知, 菅谷寿理¹, 加藤政利¹, 齊藤公一¹, 林 寛子, 加藤祐子, 水野杏一 ⁽¹⁾ 生理機能センター) : 閉塞型睡眠時無呼吸における就寝中の経皮的炭酸ガス. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
 - 14) 加藤政利¹, 福岡長知, 菅谷寿理¹, 会田智弘¹, 齊藤公一¹, 牛島明子, 土田貴也, 高橋 啓, 水野杏一 ⁽¹⁾ 生理機能センター) : 心疾患患者における中枢性無呼吸症候群と運動負荷時周期性呼吸の連続性に関する検討. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
 - 15) 菅谷寿理¹, 福岡長知, 会田智弘¹, 加藤政利¹, 齊藤公一¹, 愛須紀子, 水野杏一 ⁽¹⁾ 生理機能センター) : 心筋梗塞後症例における精神神経因子の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
 - 16) 青木亜佐子, 尾崎浩一¹, 高野仁司, 安武正弘, 田中敏博², 水野杏一 ⁽¹⁾ 理化学研究所ゲノム医科学センタ

一循環器疾患チーム，²⁾ 理化学研究所ゲノム医科学センター循環器研究疾患チーム)：不安定狭心症の25万 SNPを用いた全ゲノム関連解析．日本心臓病学会学術集会(第57回)，2009. 9.

- 17) 村井綱見¹⁾，鈴木 学²⁾，細川雄亮²⁾，宗像 亮²⁾，山本 剛²⁾，梶本克也³⁾，佐藤直樹²⁾，水野杏一，田中啓治²⁾，清野精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院，²⁾ 集中治療室，³⁾ 浅草寺病院内科)：胸痛で発症し心電図にて急性心筋梗塞と鑑別に苦慮した糖尿病ケトアシドーシスの1例．日本集中治療医学会学術集会(第37回)，2010. 3.
- 18) 上野 亮¹⁾，細川雄亮¹⁾，宗像 亮¹⁾，時田祐吉¹⁾，坪 宏一¹⁾，山本 剛¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，水野杏一 (1) 集中治療室)：甲状腺機能亢進症治療中に心室細動を呈した3症例の検討．日本集中治療医学会学術集会(第37回)，2010. 3.
- 19) 細川雄亮¹⁾，山本 剛¹⁾，村井綱見¹⁾，宗像 亮¹⁾，時田祐吉¹⁾，坪 宏一¹⁾，佐藤直樹¹⁾，横田裕行²⁾，水野杏一，田中啓治¹⁾ (1) 集中治療室，²⁾ 救命救急センター)：沖ノ鳥島近海の船上で心肺停止となるも迅速な搬送とPCIを含めた集中治療により独歩退院したAMIの1例．日本集中治療医学会学術集会(第37回)，2010. 3.
- (9) ポスター，セッション：
 - 1) 乾 恵輔，山本英世，高野仁司，安武正弘，宮本正章，水野杏一：重症虚血肢に対して血管内治療が有効であった1例．日本老年医学会関東甲信越地方会(第51回)，2010. 3.
- (10) ポスター・セッション：
 - 1) Takano H, Yamamoto E, Tara S, Kato K, Inami S, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Mizuno K：Low-Dose Aspirin may Ameliorate Long-Term Clinical Outcome in Patients with Coronary Spastic Angina. American College of Cardiology, 59th Annual Scientific Session (Atlanta, GA, USA)，2010. 3.
- (11) 指定講演：
 - 1) 宮本正章：治療抵抗性末梢動脈疾患(PAD)に対する再生医療を応用した先進併用療法．日本創傷治癒学会(第59回)(東京都)，2009. 12.
- (12) 特別企画：
 - 1) 新 博次：抗不整脈薬併用療法研究会21年の足跡．抗不整脈薬併用療法研究会(第34)，2009. 12.

[付属病院老年内科]

研究概要

高齢者の糖尿病，動脈硬化，脂質代謝異常，高血圧症，腎機能および自律神経機能に関する臨床的研究を行った。糖尿病に関して，1) 2型糖尿病と酸化ストレスの関連を血清Reactive Oxygen Metabolites (ROMs)の面より検討した。2) 高齢者の軽度耐糖能異常における無症候性白血球尿の存在がインスリン抵抗性と関連する可能性を示唆する成績を得た。3) 血糖日内変動と上腕動脈血流依存性血管拡張反応(FMD)の関係を検討した。4) 食後高血糖の指標としての1.5AG値を加齢変化に伴う尿糖排泄閾値との関連より検討した。5) 食後高血糖が尿細管機能の障害をもたらす可能性を示唆する成績を得た。

動脈硬化に関して，1) 生活習慣病におけるFMDの経時的変動の検討を行った。2) FMDの性差と加齢の影響を断面調査により検討した。3) FMDが健常者の食後血糖値の影響を受けることを明らかにした。脂質異常症に関して，1) フルバスタチンがFMDを改善することを明らかにした。

高血圧症に関して，1) 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度，高血圧合併症との関連臨床コホート研究(J-CHEARS)を行った。

腎機能に関して，1) 動脈硬化と尿細管機能との関係を尿中NAG値の面より検討した。2) 無症候性白血球尿とFMDとの関係を検討した。3) 無症候性白血球尿の存在が自律神経機能，ことに副交感神経機能の低下と関連することを報告した。4) 高齢者のCKDにおける尿中アルブミン尿測定 of 臨床的意義を検討した。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾, 濱田真紀子²⁾, 木津純子²⁾, 中野博司, 大庭建三^(1) 薬剤部, ²⁾ 共立薬科大学実務薬学講座): 剤形の違いが服薬性に及ぼす影響: 口腔内崩壊錠に関する検討を中心とした患者アンケート調査. 東京都病院薬剤会雑誌 2008; 57 (1): 9-12.

追加分症例報告：

- 1) 橋本雅夫, 大内基司, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 中野博司, 大庭建三: 下肢脱力で発症し腱反射消失を伴った59歳男性. 日本未病システム学会雑誌 2008; 14 (2): 342-345.

(1) 原著：

- 1) Igari Y, Oba K, Yamamoto Y, Yasuoka H, Ouchi M, Watanabe K, Matsumura N, Suzuki T, Nakano H: Asymptomatic leukocyturia and the autonomic nervous system in women. Geriatr Gerontol Int 2009; 9 (2): 190-196.

(2) 総説：

- 1) Watanabe K, Oba K, Suzuki T, Ouchi M, Suzuki K, Futami-Suda S, Sekimizu K, Norose J, Tsunoda M, Ohara M, Nakano H: The importance of assessment of endothelial function according to the time course of flow-mediated dilation of the brachial artery. J Nippon Med Sch 2010; 77 (1): 59-61.
- 2) 大庭建三: 認知症のある糖尿病患者への対応. Diabetes in the NEWS 2009; (376): 8.
- 3) 大庭建三: 糖尿病を伴った高齢者の視点からの診療. Geriatr Med 2009; 47 (9): 1111-1112.
- 4) 中野博司: 高齢者糖尿病の経口血糖降下薬療法の原則と注意点. Geriatr Med 2009; 47 (9): 1119-1122.
- 5) 鈴木達也, 野呂瀬準, 大庭建三: 陰イオン交換樹脂の血糖降下作用. Geriatr Med 2009; 47 (9): 1165-1169.
- 6) 荒木 厚¹⁾, 中野博司, 永田正男²⁾, 井藤英喜³⁾ (¹⁾ 東京都健康長寿医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科, ²⁾ 神戸大学老年内科学, ³⁾ 東京都健康長寿医療センター): 最近の知見から考える高齢者糖尿病の総合的管理. Geriatr Med 2009; 47 (9): 1185-1198.
- 7) 大庭建三, 大内基司, 中野博司: 高齢者糖尿病の薬物療法. プラクティス 2009; 26 (5): 519-526.
- 8) 中野博司: 後期高齢者の臨床的特徴と高血圧治療. 日医大医会誌 2009; 5 (4): 207-210.
- 9) 大庭建三, 中野博司: 高齢者の身体的特徴. 日本医師会雑誌 2009; 138 (特別号2): S50-S53.
- 10) 大庭建三, 野呂瀬準: 血糖日内変動. 日本医事新報 2009; (4458): 76-77.
- 11) 大庭建三: 糖尿病の診断と治療. ドクターサロン 2010; 54: 206-212.
- 12) 大庭建三: 高齢者の糖尿病治療の実際. 東京都医師会雑誌 2010; 63 (3): 313-322.

(3) 研究報告書：

- 1) 山崎純一¹⁾, 門倉光隆²⁾, 五十嵐隆³⁾, 里宇明元⁴⁾, 徳留悟朗⁵⁾, 東條克能⁵⁾, 松本紘一⁶⁾, 大庭建三, 金澤眞雄⁷⁾, 野村 馨⁸⁾, 水澤英洋⁹⁾, 寺本民生^{1,0)}, 新井 一, 呉屋朝幸, 大島祥男, その他2名 (¹⁾ 東邦大学, ²⁾ 昭和大学, ³⁾ 東京大学, ⁴⁾ 慶應義塾大学, ⁵⁾ 東京慈恵会医科大学, ⁶⁾ 日本大学, ⁷⁾ 東京医科大学, ⁸⁾ 東京女子医科大学, ⁹⁾ 東京医科歯科大学, ¹⁰⁾ 帝京大学): 勤務医の労働環境の問題点と改善策: 勤務環境改善のための実態調査から. 東京都医師会雑誌 2009; 62 (8): 1010-1083.
- 2) 大内尉義¹⁾, 大橋靖雄²⁾, 小島太郎¹⁾, 桑島 巖³⁾, 島田和幸⁴⁾, 宗像正徳⁵⁾, 山科 章⁶⁾, Cheers Study グループ (¹⁾ 東京大学加齢医学講座, ²⁾ 東京大学疫学予防保健学, ³⁾ 東京都老人医療センター内科, ⁴⁾ 自治医科大学循環器内科, ⁵⁾ 東北労災病院勤労者予防医療センター, ⁶⁾ 東京医科大学第2内科): 高齢者高血圧コホート研究 (J-CHEARS Study). 公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成20年度研究報告集 2010; 73-79.

(4) 症例報告：

- 1) Suzuki K, Matsumura N, Suzuki T, Nakano H, Nagayama H¹⁾, Yokoo H²⁾, Tamura K³⁾, Katayama Y¹⁾, Sugisaki Y⁴⁾, Oba K (¹⁾ Division of Neurology, ²⁾ Division of Pathology, Gunma University, ³⁾ Division of Surgical Pathology, Tokyo Teisin Hospital, ⁴⁾ Division of Surgical Pathology) : Creutzfeldt-Jakob disease with V180I mutation and senile plaque. *Geriatr Gerontol Int* 2009 ; 9 (2) : 210-212.
- 2) 岡崎 優, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡邊健太郎, 中野博司, 大庭建三 : 胸部絞扼感で受診し心電図で陰性T波を認めた高齢2型糖尿病の1例. *日本未病システム学会雑誌* 2009 ; 15 (1) : 118-120.

著 書

- 1) 大庭建三 : [分担] 内分泌代謝疾患. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学第3版 (大内尉義), 2009 ; pp183-195, 医学書院.
- 2) 大庭建三, 中野博司 : [分担] 低血糖. 新老年学 (第3版) (大内尉康, 秋山弘子), 2010 ; pp1016-1024, 東京大学出版.
- 3) 中野博司, 大庭建三 : [分担] 脂質異常症. 新老年学 (第3版) (大内尉康, 秋山弘子), 2010 ; pp1024-1031, 東京大学出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大庭建三 : 日本老年医学会関東甲信越地方会の歩み. 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 9.

(2) 宿題講演：

- 1) 渡邊健太郎 : 血流依存性血管拡張反応 (FMD) の経時的評価法の確立. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.

(3) 教育講演：

- 1) 大庭建三 : 糖尿病と旅行医学 : 高齢者を中心に. 第8回日本旅行医学会大会 (東京), 2009. 4.

(4) セミナー：

- 1) 大庭建三 : 高齢者2型糖尿病の血糖管理 : 我々は今, 何をすべきか?. 第51回日本老年医学会学術集会, 2009. 6.

(5) 一般講演：

- 1) Watanabe K, Ouchi M, Suzuki K, Futami-Suda S, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Vascular endothelial function is closely related to glucose metabolism in healthy Japanese subjects. 2009 International Symposium on Atherosclerosis (Boston), 2009. 6.
- 2) Onodera N, Matsumura N, Nakano H, Oba K : The relationships of albuminuria and glomerular filtration rate in Japanese older people. 21th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (Paris), 2009. 7.
- 3) 宮脇佳世, 渡邊健太郎, 鈴木一成, 安岡比呂子, 関水憲一, 山下英俊, 山本直史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : フルバスタチンの血管内皮機能への影響の検討 : 血流依存性血管拡張反応 (flow-mediated dilation : FMD) を用いた検討. 第106回日本内科学会講演会, 2009. 4.
- 4) 二見章子, 林真理子, 渡邊健太郎, 大内基司, 大西哲郎, 岡崎 優, 矢野宏行, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 無症候性白血球尿 (Asymptomatic leukocyturia : ASL) と上腕動脈血流依存性血管拡張能 (Flow-mediated dilation : FMD). 第106回日本内科学会講演会, 2009. 4.
- 5) 大内基司, 野呂瀬準, 本山正幸, 角田美佐子, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : NGT・IGTにおける血糖値と腎尿細管機能との関係 : OGTTと尿中NAG値との関連よりの検討. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会, 2009. 5.

- 6) 渡邊健太郎, 関水憲一, 吉松寛臣, 山下英俊, 大西哲郎, 宮脇佳世, 山本直史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 経時的变化を加味した上腕動脈血流依存性血管拡張反応 (Flow-mediated dilation: FMD) と生活習慣病との関連性の検討. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会, 2009. 5.
- 7) 安岡比呂子, 渡邊健太郎, 二見章子, 橋本雅夫, 岡崎 優, 林真理子, 矢野宏行, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 女性2型糖尿病患者における無症候性白血球尿と血管内皮機能の関連性の検討. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会, 2009. 5.
- 8) 大内基司, 橋本雅夫, 宮脇佳世, 山本直史, 小原 信, 関水憲一, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 動脈硬化と腎尿細管機能との関係: 脈波伝播速度 (baPWV) と尿中NAG値との関連より検討. 第51回日本老年医学会学術集会, 2009. 6.
- 9) 鈴木一成, 山本直史, 本山正幸, 大西哲郎, 角田美佐子, 野呂瀬準, 二見章子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病患者における血糖コントロールと血管内皮機能: 血糖日内変動および上腕動脈血流依存性血管拡張反応を用いた検討. 第51回日本老年医学会学術集会, 2009. 6.
- 10) 岡崎 優, 大内基司, 矢野宏行, 林真理子, 山下英俊, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者の尿糖排泄閾値と1.5AG値との関係. 第51回日本老年医学会学術集会, 2009. 6.
- 11) 小野寺直子, 中野博司, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 松村典昭, 鈴木達也, 大庭建三: 高齢者の慢性腎臓病に関する臨床的研究: 尿中アルブミンの意義. 第51回日本老年医学会学術集会, 2009. 6.
- 12) 小原 信, 渡邊健太郎, 大内基司, 野呂瀬準, 角田美佐子, 本山正幸, 矢野宏行, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病と酸化ストレス: 血清Reactive Oxygen Metabolites (ROMs) を用いた検討. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 13) 澤井啓介, 渡邊健太郎, 鈴木一成, 二見章子, 関水憲一, 岡崎 優, 山本直史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応 (Flow-mediated dilation; FMD) の性差と加齢の影響: 断面調査による検討. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 14) 矢野宏行, 角田美佐子, 二見章子, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 要介護高齢認知症患者に合併した糞石イレウスの1例. 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 9.
- 15) 野呂瀬準, 岡崎 優, 大西哲郎, 渡邊健太郎, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 歩行困難, 浮腫, 貧血にて来院したりウマチ性多発筋痛症の1例. 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 9.
- 16) 本山正幸, 橋本雅夫, 山下英俊, 関水憲一, 吉松寛臣, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 入退院を繰り返す糖尿病高齢患者の在宅環境整備介入が有用であった1例. 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 9.
- 17) 澤井啓介, 鈴木一成, 大内基司, 小野寺直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: カテーテルインターベンションが熱傷治療に有効であった高齢2型糖尿病の1例. 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 9.
- 18) 山本直史, 小原 信, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: infliximabが著効した高齢腸管型パーचेット病の1例. 第50回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2009. 9.
- 19) 吉松寛臣, 渡邊健太郎, 大内基司, 関水憲一, 角田美佐子, 山本直史, 澤井啓介, 小原 信, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 典型的症状を認めず, 食後低血糖症状を契機に診断された甲状腺機能亢進症の1例. 第47回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2010. 1.
- 20) 澤井啓介, 渡邊健太郎, 鈴木一成, 二見章子, 関水憲一, 岡崎 優, 山本直史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 上腕動脈血流依存性血管拡張反応の性差と加齢の影響: 断面調査による検討. 第44回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2010. 1.
- 21) 小原 信, 渡邊健太郎, 大内基司, 野呂瀬準, 角田美佐子, 本山正幸, 矢野宏行, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2型糖尿病患者と酸化ストレス-血清Reactive Oxygen Metabolites (ROMs) を用いた検討. 第44回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2010. 1.
- 22) 角田美佐子, 大内基司, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 褥創の悪化, 食事量減少で再入院した虚弱高齢女性.

第15回未病症例検討会，2010. 2.

- 23) 小原 信，澤井啓介，野呂瀬準，二見章子，鈴木一成，渡邊健太郎，鈴木達也，中野博司，大庭建三：アカルボースが有効であったダンピング症候群合併認知症の1例. 第51回日本老年医学会関東甲信越地方会，2010. 3.
- 24) 関水憲一，大内基司，山本直史，猪狩吉雅，松村典昭，鈴木達也，中野博司，大庭建三：高齢者の軽度耐糖能異常における無症候性白血球尿の臨床的意義. 第51回日本老年医学会関東甲信越地方会，2010. 3.
- 25) 矢野宏行，角田美佐子，大西哲郎，水野重芳¹⁾，鯉淵 仁¹⁾，木川好章¹⁾，鈴木達也，中野博司，大庭建三⁽¹⁾ 飯能老年病センター)：高齢認知症患者に発症した後天性血友病の1例. 第51回日本老年医学会関東甲信越地方会，2010. 3.

[武蔵小杉病院内科 (内科，循環器科，神経内科)]

研究概要

循環器では，昨年に引き続きSPECTを用いての左室拡張・同期性障害の研究を行っている。また，心サルコイドーシスについてと成人Still病についても症例報告を行った。さらに，新規の研究としてアルドステロン症に対する副腎静脈サンプリングを行い，アルドステロン症の臨床的研究を始めた。

神経内科では，認知症早期発見と認知症の人を支えるネットワークづくりのための認知症についての都市型コホート研究を行っている。神経疾患のニューロイメージングと認知機能についての臨床的研究を行っている。

呼吸器内科では，川崎市は肺結核が多いこともあり，その早期発見と早期治療に関して総説を執筆した。びまん性肺疾患に関して積極的に気管支鏡を施行しており，気管支鏡により早期診断がついた症例を報告した。また，呼吸器疾患に合併した肺高血圧症の治療に関しての研究を右心カテーテル検査の結果を中心としておりその成果を発表した。

腎臓内科，血液浄化療法部門では慢性関節リウマチに対する白血球吸着療法や腹膜透析患者に関する臨床研究を論文にて発表した。また，血液透析に伴う不整脈や心事故に対する研究を継続して行い国内外にて発表した。血液透析用カテーテルや血液透析液の消毒効果に対する研究も継続し発表した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Takahashi N, Yamamoto A¹⁾, Tezuka S, Ishikawa M, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Iwahara S, Munakata K : Assessment of Left Ventricular Dyssynchrony During Development of Heart Failure by a Novel Program Using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT. *Circulation Journal* 2008 ; 72 (3) : 370-377.

(1) 原著：

- 1) Sakai Y, Sakai S, Otsuka T, Dai O, Murasawa T, Munakata K, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of High-Throughput Leukocytapheresis for Rheumatoid Arthritis with a Reduced Response to Infliximab. *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 2009 ; 13 (3) : 179-185.
- 2) Akizawa T¹⁾, Sakai Y, Cap-Kd Study Group (1) Department of Nephrology, Showa University School of Medicine) : Effect of a Carbonaceous Oral Adsorbent on the Progression of CKD : A Multicenter, Randomized, Controlled Trial. *American Journal of The Kidney* 2009 ; 54 (3) : 459-467.
- 3) 酒井行直，酒井紗織，大塚智之，大野 大，村澤恒男，宗像一雄，前田幸生¹⁾，松川由佳¹⁾ (1) 武蔵小杉病院

血液浄化療法室)：腹膜透析患者におけるエリスロポチエン製剤皮下投与時の疼痛比較. 臨床透析 2010；26 (1)：129-132.

- 4) 大塚智之, 酒井行直, 酒井紗織, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄：腹膜透析患者における経口ビタミンDパルス療法からcinacalcetへの変更による効果. 腹膜透析2009 腎と透析 2009；66：356-358.

(2) 症例報告：

- 1) 前田幸生¹⁾, 松川由佳¹⁾, 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄⁽¹⁾ 武蔵小杉病院血液浄化療法室)：家族の協力により安全に導入し得た軽度認知症超高齢者APDの1例. 腹膜透析2009 腎と透析 2009；66：455-456.

著 書

- 1) 白壁章宏：〔共著〕ノルアドレナリン. 「救急・集中治療」(佐藤直樹), 2010；pp134-142, 総合医学社.
- 2) 北村 伸：〔分担〕わかりやすい画像の話. 老年医学の基礎と臨床II (大内尉義 浦上克哉), 2009；pp205-228, ワールドプランニング.
- 3) 石渡明子, 北村 伸⁽¹⁾ 付属病院神経内科)：〔分担〕画像診断の進め方. 老年医学の基礎と臨床II (大内尉義 浦上克哉), 2009；pp229-244, ワールドプランニング.
- 4) 網谷賢一, 宗像一雄：〔分担〕高血圧. 救急医学 内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本, 2009；pp1224-1228, へるす出版.
- 5) 山口朋禎：〔分担〕結核. 救急医学 内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本, 2009；pp1307-1311, へるす出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 北村 伸：認知症診療の実際 問診と神経学的診察. 日本老年医学会学術集会 (第51回), 2009. 6.
- 2) 北村 伸：認知症の診断技術のスキルアップ “スクリーニングから鑑別まで”. デメンシアコンgres JAPAN 2009, 2009. 7.

(2) 一般講演：

- 1) Itakura S, Ono T¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Honma H¹⁾, Munakata K, Kato T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School)：Caffeine could Worsen the Orthostatic Tolerance during Head-up Tilt Test. Asian Pacific Congress of Cardiology (Kyoto), 2009. 5.
- 2) Itakura S, Ono T¹⁾, Ono I¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Honma H¹⁾, Munakata K, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School)：The Caffeine Could Increase Sympathetic Activity in Heart Rate Variability, However Decrease Cardiovascular Sympathetic Activity during Head-Up Tilt Test. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th) (Yokohama), 2009. 6.
- 3) Itakura S, Ono T¹⁾, Ono I¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Honma H¹⁾, Munakata K, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾, Yana K²⁾, Shichiku H²⁾ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School, 2) Hosei University Faculty of Science and Engineering)：The Characterisycs of Variance Rate and Amplitude Variance as to T-Wave Morphology Variability Analysis om the Hifhly Arrhythmic Patients Assessed by T-Wave Vector Althernans. Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (13th) (Yokohama), 2009. 6.
- 4) Murasawa T, Sakai Y, Ohtsuka T, Ohno D, Amitani K, Ono T¹⁾, Munakata K (1) First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital)：Changes in Myocardial Depolarization and Repolarization Processes Associated with Haemodialysis are Related to Changea in The “RA” System：a Selec-

tive Aldosterone Blocker Can be Effective for the Prevention of Ventricular Arrhythmia. World Congress of Nephrology (Milano), 2009. 5.

- 5) Shirakabe A, Ha N¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Tomita K¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院集中治療部, ²⁾ 付属病院循環器内科) : Acute efficacy of the intravenous administration of nicorandil in patients with acute heart failure. 日本心不全学会学術集会 (第13回), 2009. 10.
- 6) Itakura S, Ono T¹⁾, Kazuo Y²⁾, Kaoru K²⁾, Honma H¹⁾, Atarashi H³⁾, Munakata K, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School, ²⁾ Faculty of Science and Engineering, Hosei University, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : The Variance in First Quarter of T-wave Predicts Cardiac Events for Patients with Heart Disease by T-wave Vector Alternans. 日本循環器学会総会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 7) Itakura S, Ono T¹⁾, Honma H¹⁾, Atarashi H²⁾, Munakata K, Katoh T¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : The Frequency of T-wave Variance has more Powerful Predictable Descriptor for Cardiac Events than the Amplitude of Different T-wave Variation. 日本循環器学会総会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 8) 小川ゆかり, 山口朋禎, 宗像一雄, 一色彩子¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 石井英昭²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院病理部) : 急速に増悪する肺水腫様陰影を示した甲状腺機能低下症の1例. びまん性肺疾患研究会 (第123回), 2009. 4.
- 9) 望月 徹¹⁾, 野口周作²⁾, 鈴木憲康³⁾, 土金なおみ⁴⁾, 山口朋禎, 西澤善樹⁵⁾, 渡辺昌則⁶⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院救急救命センター, ²⁾ 武蔵小杉病院薬剤部, ³⁾ 武蔵小杉病院中央検査室, ⁴⁾ 武蔵小杉病院小児科, ⁵⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター) : 集中治療における特定抗菌薬届出制とICT介入の有用性. 日本感染症学会総会, 2009. 4.
- 10) 村澤恒男, 酒井行直, 大塚智之, 大野 大, 網谷賢一, 小野卓也¹⁾, 宗像一雄 (¹⁾ 付属病院第循環器内科) : 血液透析に伴う心筋脱分極過程, 再分極過程はRA系と関連する : 心室性不整脈に選択的アルドステロン阻害薬は有用か. (社)日本透析医学会学術集会・総会 (第54回), 2009. 6.
- 11) 網谷賢一, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 門松 豊¹⁾, 村澤恒男, 宗像一雄 (¹⁾ 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 維持透析患者の血液透析前後の細胞内外水分量変化, 体液液性因子と心室性不整脈, 心事故との関連について. (社)日本透析医学会学術集会・総会 (第54回), 2009. 6.
- 12) 磯野友昭¹⁾, 赤沼可菜子¹⁾, 窪田麻美¹⁾, 伊東健介¹⁾, 高木 基¹⁾, 加藤和久¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 門松 豊¹⁾, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (¹⁾ 武蔵小杉病院ME部) : 新規SMAコーティングカテーテルの有用性の検討. (社)日本透析医学会学術集会・総会 (第54回), 2009. 6.
- 13) 加藤和久¹⁾, 赤沼可菜子¹⁾, 窪田麻美¹⁾, 伊東健介¹⁾, 高木 基¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 磯野友昭¹⁾, 門松 豊¹⁾, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (¹⁾ 武蔵小杉病院ME部) : 血液透析装置の消毒行程の違いにおける生菌に対する消毒効果の検討. (社)日本透析医学会学術集会・総会 (第54回), 2009. 6.
- 14) 阿部純子, 石川昌弘, 網谷賢一, 川口直美, 内田高浩, 宗像一雄 : 心臓MRI Gd 遅延造影が心病態経過の把握に有用であった心サルコイドーシスの1症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (212回), 2009. 6.
- 15) 石川昌弘, 宗像一雄, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 付属病院循環器内科) : 心電図同期SPECTを用いての高齢者における左室拡張・同期性障害の評価. 日本老年医学会学術集会 (51回), 2009. 6.
- 16) 石井知香¹⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹²⁾, 野村俊明³⁾, 北村 伸, 宗像一雄, 川並汪一⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 桜美林大学加齢・発達研究所, ³⁾ 日本医科大学基礎科学・心理学, ⁴⁾ 日本医科大学老人病研究所) : タッチパネル式スクリーニング機器による認知症の早期発見. 日本老年精神医学会 (第24回), 2009. 6.

- 17) 板倉潮人, 宗像一雄, 小野卓也¹⁾, 小林義典¹⁾, 本間 博¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院循環器内科) : Caffeine 含有飲料は Head-up tilt test (HUT) 中の起立耐性を増悪させる. 日本心電学会学術集会 (第26回), 2009. 7.
- 18) 小川ゆかり, 山口朋禎, 一色彩子¹⁾, 原田英博, 石井英昭²⁾, 福田 悠³⁾, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院病理部, 3) 日本医科大学大学院解析人体病理学) : 急速に増悪する肺水腫様陰影を呈した IgG4 関連肺疾患の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (185回), 2009. 7.
- 19) 白壁章宏, 石川昌弘, 川口直美, 内田高浩, 宗像一雄, 黒川 顕¹⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター) : 運転中に心停止となり交通事故を起こすも適切な chain of survival で社会復帰した AMI の1例. 日本救命医療学会総会 (第24回), 2009. 9.
- 20) 石川昌弘, 宗像一雄 : 慢性腎臓病における左室同期生障害の負荷心筋 SPECT における評価. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 21) 白壁章宏, 畑 典武¹⁾, 横山真也¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 小林宣明¹⁾, 富田和憲¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 千葉北総病院集中治療室, 2) 付属病院循環器内科) : 急性心不全における非浸襲的陽圧換気 (NPPV) 管理成功のための指標. 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 22) 阿倍純子, 石川昌弘, 網谷賢一, 川口直美, 内田高浩, 宗像一雄 : 急性心筋炎発症により急激な経過をたどった血球貧食症候群併発成人 Still 病の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第213回), 2009. 9.
- 23) 磯野友昭¹⁾, 赤沼加奈子¹⁾, 窪田麻美¹⁾, 高木 基¹⁾, 伊東健介¹⁾, 加藤和久¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 門松 豊¹⁾, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 新規 SMA コーティングカテーテルの有用性の検討. 日本アクセス研究会学術集会・総会 (第13回), 2009. 9.
- 24) 一色彩子¹⁾, 橘和聡文¹⁾, 山口香織¹⁾, 安藤 順¹⁾, 清水康弘¹⁾, 市川太郎¹⁾, 阿倍純子, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院放射線科) : 心病変を心臓 MRI 遅延造影にて摘出しえた Churg-Strauss 症候群の1例. 神奈川県放射線医学総会 (第50回), 2009. 9.
- 25) 春原沙織, 山口朋禎, 板倉潮人, 本郷公英, 木下賀央里, 伊藤俊輔, 宗像一雄 : COPD に合併した肺高血圧症に対し, 経口プロスタサイクリン (PG12) 誘導体徐放性製剤を使用した1例. 日本内科学会関東地方会 (第567回), 2009. 11.
- 26) 木下賀央里, 山口朋禎, 板倉潮人, 本郷公英, 春原沙織, 伊藤俊輔, 宗像一雄 : 入院後に HIV 感染が判明し, 治療に難渋したニューモシスチス肺炎の1例. 川崎市医師会医学会 (第27回), 2010. 2.

[多摩永山病院内科, 循環器内科]

研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され, 虚血性心疾患, 不整脈を中心とした診療体制をとっているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧症, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている。

- 1) 経皮的カテーテルインターベンション
- 2) 心筋梗塞後の慢性期左室機能と薬物治療
- 3) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究
- 4) 不整脈の診断, 治療に関する臨床研究
- 5) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療
- 6) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療
- 7) 高血圧症, 糖尿病, メタボリックシンドローム例における左心機能障害と薬物治療
- 8) 日本循環器学会をはじめとする各種学会主導の多施設共同研究

9) 多摩地区, 南多摩地区における循環器疾患, 糖尿病例を対象とした共同研究

10) 心不全, 脚ブロックにおける左室収縮/拡張能同期不全の検討

以上の研究に従事し, 日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本心電学会, 日本生活習慣病学会, 日本糖尿病学会ならびに他の関連学会に報告するとともに, 内科総合診療部門として積極的に活動している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tokita Y, Kusama Y, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine): Utility of rapid D-dimer measurement for screening of acute cardiovascular disease in the emergency setting. *J Cardiol* 2009; 53 (3): 334-340.
- 2) Yamashita T¹⁾, Ogawa S¹⁾, Sato T¹⁾, Aizawa Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Fujiki A¹⁾, Inoue H¹⁾, Ito M¹⁾, Katoh T¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Koretsune Y¹⁾, Kumagai K¹⁾, Niwano S¹⁾, Okazaki O¹⁾, Okumura K¹⁾, et al. (¹⁾ The J-BAF Investigators): Dose-response effect of bepridil in patient atrial fibrillation monitored with transtelephonic electrocardiograms: a multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind study (J-BAF Study). *Circ J* 2009; 73 (6): 1020-1027.
- 3) Morita N¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Horie T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hayashi M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Atarashi H, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine): The undetermined geometrical factors contributing to the transverse conduction block of the crista terminalis. *PACE* 2009; 32 (7): 868-878.
- 4) Kamakura S¹⁾, Ohe T¹⁾, Nakazawa K¹⁾, Aizawa Y¹⁾, Shimizu A¹⁾, Horie M¹⁾, Ogawa S¹⁾, Okumura K¹⁾, Tsuchihashi K¹⁾, Sugi K¹⁾, Makita N¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Inoue H¹⁾, Atarashi H¹⁾, Aihara N¹⁾, et al. (¹⁾ The Brugada Syndrome Investigators): Long-Term Prognosis of Proband With Brugada-Pattern ST-Elevation in Leads V1-V3. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 2009; 2 (5): 495-503.
- 5) Inoue H¹⁾, Fujiki A¹⁾, Origasa H¹⁾, Ogawa S²⁾, Okumura K³⁾, Kubota I⁴⁾, Aizawa Y⁵⁾, Yamashita T⁶⁾, Atarashi H, Horie M⁷⁾, Ohe T⁸⁾, Doi Y⁹⁾, Shimizu A¹⁰⁾, Chishaki A¹⁰⁾, Saikawa T¹⁰⁾ (¹⁾ University of Toyama, ²⁾ Keio University, ³⁾ Hiroasaki University, ⁴⁾ Yamagata University, ⁵⁾ Niigata University, ⁶⁾ Cardiovascular Institute, ⁷⁾ Shiga University of Medical Science, ⁸⁾ Okayama University, ⁹⁾ Kochi University, ¹⁰⁾ et al.): Prevalence of atrial fibrillation in the general population of Japan: An analysis based on periodic health examination. *Int J Cardiol* 2009; 137 (2): 102-107.
- 6) Ito A^{1,2)}, Ishii R²⁾, Ibuki C³⁾, Atarashi H, Kataoka H¹⁾, Takeuchi K²⁾ (¹⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Clinical Pharmacology, Meiji Pharmaceutical University, ³⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital): Examination of questionnaire items regarding diabetic peripheral neuropathy in epalrestat-treated patients and their usefulness in the treatment of this disorder: influence on treatment course. *Yakugaku Zasshi* 2009; 129 (10): 1239-1247.
- 7) Matsumoto S, Hirayama Y¹⁾, Saitoh H, Ino T, Miyauchi Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Yasutake M¹⁾, Seino Y²⁾, Atarashi H, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, ²⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital): Noninvasive diagnosis of cardiac sarcoidosis using microvolt T-wave alternans. *Int Heart J* 2009; 50 (6): 731-739.
- 8) Miyachi H¹⁾, Tanabe J¹⁾, Kodani E, Hosokawa Y, Kitamura M¹⁾, Sasaki A¹⁾, Ogano M¹⁾, Shiiba K¹⁾, Takagi H²⁾, Umemoto T²⁾, Kusama Y, Mizuno K³⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, National Hospital Organiza-

tion Shizuoka Medical Center, ²⁾ Division of Cardiovascular Surgery, National Hospital Organization Shizuoka Medical Center, ³⁾ The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Coronary artery revascularization before peripheral vascular surgery in patients with peripheral arterial disease. Cardiovasc Interv and Ther 2010 ; 25 (1) : 11-17.

- 9) Nakagomi A, Sasaki M¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Morikawa M¹⁾, Shibui T, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Pharmaceutical, Tokyo University of Pharmacy and Life Science, ²⁾ Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Upregulation of monocyte tissue factor activity is significantly associated with low-grade chronic inflammation and insulin resistance in patients with metabolic syndrome. Circ J 2010 ; 74 (3) : 572-577.
- 10) Ishikawa Y¹⁾, Atarashi K¹⁾, Minami M¹⁾, Matsumoto Y¹⁾, Ozaki S¹⁾, Tohma M¹⁾, Shibosawa T¹⁾, Atarashi H (¹⁾ Tohma Health Evaluation and Promotion Center) : Changes in resting electrocardiogram in subjects 10 years after minor abnormal findings. Ningen Dock 2010 ; 24 (6) : 31-38.
- 11) 佐藤寛之¹⁾, 酒井貴史¹⁾, 水谷行伸¹⁾, 林綾子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 草間芳樹, 新博次 (¹⁾ 多摩永山病院中央検査室) : 2-D トラッキング法を用いた左室拡張能解析. 超音波検査技術 2009 ; 34 (3) : 297-305.
- 12) 栗田明¹⁾, 品川直介²⁾, 小谷英太郎, 高瀬凡平³⁾, 草間芳樹, 新博次 (¹⁾ 社会福祉法人特別養護老人ホーム福音会医務室, ²⁾ 品川クリニック, ³⁾ 防衛医科大学校) : 特別養護老人ホームにおける超高齢者の看取りケア : 殊に急性期病院における入院症例との比較について. 日老医誌 2010 ; 47 (1) : 63-69.
- 13) 小谷英太郎, 草間芳樹, 酒井貴史¹⁾, 水谷行伸¹⁾, 林綾子¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 新博次 (¹⁾ 多摩永山病院中央検査室) : 末梢循環障害に対するサルボグレラート塩酸塩の有効性 : サーモグラフィによる検討. Angiology Frontier 2010 ; 9 (1) : 62-69.

(2) 総説 :

- 1) 新博次 : 心房細動の治療 : 抗不整脈薬の使用法 (心房細動). 診断と治療 2009 ; 97 (5) : 1016-1021.
- 2) 新博次 : 心房細動の分類と基礎疾患 (心房細動の総合的マネジメント : 疫学・分類・病態生理・予後). 最新医学 2009 ; 64 (8) : 1645-1650.
- 3) 新博次 : 発作性心房細動の頓服療法 (心房細動治療の最前線 : 発生機序から治療の実際まで). Modern Physician 2009 ; 29 (9) : 1304-1306.
- 4) 新博次 : 心房細動に対する抗不整脈薬療法の現状と課題 (心房細動の臨床). MEDICO 2009 ; 40 (10) : 379-382.
- 5) 新博次 : 今後, 望まれる上室性不整脈への薬物療法 (今後, 望まれる不整脈薬物治療について). Prog Med 2009 ; 29 (11) : 2645-2648.

(3) 症例報告 :

- 1) 西城由之, 小谷英太郎, 上村竜太, 吉川雅智, 洪井俊之, 神谷仁孝, 細川雄亮, 宗像亮, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次 : マルチスライスCTが冠動脈瘤の形態の評価に有用であった川崎病罹患疑いの若年者狭心症例. 心臓 2009 ; 41 (5) : 558-564.

著書

- 1) 新博次 : [分担] IX章 大規模登録研究 1. これまでの外国と日本における研究. Brugada症候群 - 病態解明から診断・治療指針の決定 - (鎌倉史郎), 2009 ; pp244-251, メジカルビュー社.
- 2) 新博次 : [分担] 【心不全】 Rethin Q, SCD-HeFT. DATE UPDATE CARDIOVASCULAR 4th EDITION (循環系第4版) (小川聡監修・倉林正彦, 小室一成, 楽木宏実編), 2009 ; pp30-35, 先端医学社.
- 3) 新博次 : [分担] I. 心電図総論 1. 心電図の歴史, 2. 心臓の解剖と刺激伝導系, 3. 心筋細胞の活動電位. 認定心電技師のための心電図の読み方 (社団法人日本臨床衛生検査技師会編), 2009 ; pp2-4, 社団法人日本臨床

衛生検査技師会.

- 4) 新 博次：〔分担〕6. 不整脈と上手につきあう 患者さんと家族の疑問に答える. 別冊NHKきょうの健康 不整脈 突然死を防ぐために (小川 聡総監修), 2009 ; pp74-83, 日本放送出版協会 (NHK 出版).
- 5) 新 博次：〔分担〕B. 上室性不整脈 4. 心房細動患者に対する抗凝固療法：PT-INRはどの程度目標値内であればよいか?. EBM 循環器疾患の治療 2010-2011 (小室一成, 横井宏佳, 山下武志, 楽木宏実編), 2009 ; pp332-335, 中外医学社.
- 6) 新 博次：〔分担〕第4章管理・治療 薬物療法 1. 薬理的除細動の適応と実際. 最新医学・別冊 新しい診断と治療のABC 15/循環器2 心房細動 改訂第2版 (笠貫 宏編), 2009 ; pp154-158, 最新医学社.
- 7) 新 博次：〔分担〕IV. 冠動脈疾患 3. 梗塞後不整脈. 循環器疾患最新の治療 2010-2011 (堀 正二, 永井良三編), 2010 ; pp85-87, 南江堂.
- 8) 新 博次：〔分担〕第4章 各疾患のみかたと対応 B. 不整脈 6. 心房細動 (1) . 心房細動の概要と治療の考え方, (2) . 抗凝固療法. 循環器研修ノート (永井良三・総監修, 川名正敏, 許 俊鋭, 長谷川昭, 廣井透雄, 三田村秀雄, 山下武志・編), 2010 ; pp428-431, 診断と治療社.
- 9) 小谷英太郎, 新 博次：〔分担〕動悸. 診断と治療98巻増刊号 初診外来における初期診療 (診断と治療編集委員編), 2010 ; pp179-188, 診断と治療社.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 栗田 明¹⁾, 岡田 薫, 高瀬凡平²⁾, 大塚俊昭³⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 社会福祉法人福音会医療部門, ²⁾ 防衛医科大学校医療工学部門, ³⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : 後期高齢者に対する音楽療法は副交感神経を活性化し心不全の発症頻度とIL-6の産生を抑制する. 日本内科学会講演会 (第105回), 2008. 4.

(1) シンポジウム：

- 1) Kusama Y : Assessment of reversible ischemia after myocardial infarction (Novel parameters and exercise stress testing). 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ISHNE 2009) (Yokohama), 2009. 6.
- 2) 平山悦之¹⁾, 小林義典¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 八島正明¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 新 博次 (¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 発作性心房細動に対するアップストリーム治療の有用性に関する検討 (心房細動薬物治療のベストストラテジー). 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 3) Atarashi H¹⁾, Inoue H¹⁾, Okumura K¹⁾, Yamashita T¹⁾ (¹⁾ The J-RHYTHM Registry Investigators) : Contemporary anticoagulation management in patients with atrial fibrillation - a report from the J-RHYTHM Registry. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.

(2) セミナー：

- 1) 新 博次：今後、望まれる上室性不整脈への薬物療法 (今後、望まれる不整脈薬物治療について). 日本心臓病学会学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 2) 新 博次：循環器専門医から見た脳卒中予防のための不整脈治療：心原性脳梗塞の予防. 日本脳神経外科学会学術集会 (第68回), 2009. 10.

(3) 海外留学者講演：

- 1) 遠藤康実：New mechanisms of regulation of mast cell activation and modulation of S100A8 gene expression.

日本医科大学医学会総会（第77回），2009. 9.

(4) 一般講演：

- 1) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Okada K, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H (¹⁾ Fukuinkai Clinic, A Social Welfare Corporation, ²⁾ National Defense Medical College) : Music attenuates heart failure events, plasma IL-6 and E levels in elderly patients. 17th Asian Pacific Congress of Cardiology (Kyoto), 2009. 5.
- 2) Kodani E, Ishii K, Tokita Y, Kusama Y, Atarashi H : Efficacy and safety of nicorandil twice a day in patients with coronary spastic angina. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ISHNE 2009) (Yokohama), 2009. 6.
- 3) Okada K, Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Kodani E, Kusama Y, Saitou H³⁾, Atarashi H (¹⁾ Fukuinkai Clinic, ²⁾ National Defense Medical College, ³⁾ Saitou Clinic) : Parasympathetic stimulation by music attenuates heart failure events, plasma interleukin-6 (IL-6) and epinephrine levels in elderly patients. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ISHNE 2009) (Yokohama), 2009. 6.
- 4) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Okada K, Kusama Y, Saitou H³⁾, Atarashi H (¹⁾ Fukuinkai Clinic, ²⁾ National Defense Medical College, ³⁾ Saitou Clinic) : Assessment of chaplain liturgies on autonomic nerve activities by heart rate variability. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ISHNE 2009) (Yokohama), 2009. 6.
- 5) Kosugi M, Nakagomi A, Satoh T, Sasaki A, Katoh K, Shibui T, Miyachi H, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)) : Long-term use of nitrates increases the risk of cardiac events in coronary spastic angina patients treated with calcium channel blockers. 日本循環器学会学術集会（第74回），2010. 3.
- 6) Nakagomi A, Shibui T, Okazaki R, Kodani E, Endoh Y, Kusama Y, Morikawa M²⁾, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) , Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pharmaceutical, Tokyo University of Pharmacy and Life Science) : Upregulation of monocyte tissue factor activity is significantly associated with carotid intima-media thickness in patients with metabolic syndrome. 日本循環器学会学術集会（第74回），2010. 3.
- 7) Miyachi H, Yamamoto A¹⁾, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)) : Relationship among left ventricular mechanical and electrical dyssynchrony, volume, and systolic function in patients with or without heart failure/conduction disorder. 日本循環器学会学術集会（第74回），2010. 3.
- 8) Shibui T, Nakagomi A, Kosugi M, Sasaki A, Katoh K, Miyachi H, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)) : Differential effect of hydrophilic and lipophilic statins on lipid parameters, inflammation and long-term prognosis in acute coronary syndrome patients. 日本循環器学会学術集会（第74回），2010. 3.
- 9) Endo A¹⁾, Kohsaka S¹⁾, Suzuki S⁴⁾, Atarashi H⁴⁾, Kamakura S⁴⁾, Sakurai M⁴⁾, Nakaya H⁴⁾, Fukatani M⁴⁾, Mitamura H²⁾, Yamazaki T⁴⁾, Yamashita T³⁾, Ogawa S⁵⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, ²⁾ Saiseikai Central Hospital, ³⁾ The Cardiovascular Institute, ⁴⁾ J-RHYTHM Investigators, ⁵⁾ International University of Health and Welfare) : Impact of drug alteration to maintain rhythm control in paroxysmal atrial fibrillation ; subanalysis from J-RHYTHM study. 日本循環器学会学術集会（第74回），2010. 3.

- 10) Ono T¹⁾, Yana K²⁾, Kaeriyama K²⁾, Itakura S³⁾, Honma H¹⁾, Atarashi H, Munakata K³⁾, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Faculty of Science and Engineering, Hosei University, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital) : The identifying most variable segment in T-wave morphology with variance evaluating by T-wave vector alternans. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 11) Itakura S¹⁾, Ono T²⁾, Honma H²⁾, Atarashi H, Munakata K¹⁾, Katoh T²⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Department of Cardiology) : The frequency of T-wave variance has more powerful predictable descriptor for cardiac events than the amplitude of different T-wave variation. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 12) 山本 彰¹⁾, 阿部和也¹⁾, 小林由子¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 宮地秀樹 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科) : 左室心筋血流と代謝の収縮能と壁運動同期性に与える影響. 日本医学放射線学会総会 (第68回), 2009. 4.
- 13) 森澤太一郎, 中込明裕, 松本 真, 小谷英太郎, 遠藤康実, 佐野純子, 草間芳樹, 新 博次, 田中 周¹⁾, 中村恭子¹⁾ (¹⁾ 第三内科) : ダブルバルーン内視鏡が早期診断に有効であった小腸原発性リンパ腫の1例. 日本内科学会関東地方会 (第562回), 2009. 5.
- 14) 宮地秀樹, 小谷英太郎, 宗像 亮, 原千鶴子, 佐藤太亮, 小杉宗範, 加藤活人, 佐々木朝子, 洪井俊之, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 小規模カテーテル病院である当院における薬物溶出性ステントの安全性と臨床成績. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第30回), 2009. 5.
- 15) 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 村田広茂¹⁾, 山本哲平¹⁾, 松本綾乃¹⁾, 上野 亮¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 新田 隆²⁾, 大森裕也²⁾, 新 博次, 山内康熙³⁾ (¹⁾ 日本医科大学第一内科, ²⁾ 日本医科大学心臓血管外科, ³⁾ 武蔵野赤十字病院循環器科) : 複雑な3次元のリントリーが推定された肥大型心筋症に伴う持続性心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第39回), 2009. 5.
- 16) 中村健太郎¹⁾, 高野奈実¹⁾, 谷口由紀子¹⁾, 村田将光¹⁾, 笠岡祐二¹⁾, 瀬崎和典¹⁾, 鈴木文男²⁾, 野田 誠³⁾, 村川裕二⁴⁾, 速水紀幸⁴⁾, 新 博次 (¹⁾ 結核予防会新山手病院循環器病センター, ²⁾ 結核予防会複十字病院循環器科, ³⁾ 社会保険中央総合病院循環器内科, ⁴⁾ 帝京大学医学部附属溝口病院) : 粗動リントリーの開始直後に“echo-wave termination”と推定される停止様式を示した非持続性心房粗動の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第39回), 2009. 5.
- 17) 遠藤育子, 小谷英太郎, 吉川雅智, 遠藤康実, 佐野純子, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : オランザピンにより発症した糖尿病性ケトアシドーシスの1例. 日本内科学会関東地方会 (第563回), 2009. 6.
- 18) 岡田 薫¹⁾, 栗田 明²⁾, 高瀬凡平³⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器内科, ²⁾ 社会福祉法人福音会医療部門, ³⁾ 防衛医科大学病院集中治療部) : 後期高齢者に対する音楽療法の各種炎症性サイトカインと血漿カテコラミンに及ぼす影響 (第2報). 日本老年医学会学術集会 (第51回), 2009. 6.
- 19) 堀江 格¹⁾, 高木郁代¹⁾, 子島 潤¹⁾, 篠田暁与, 佐藤 越, 宮本新次郎, 松本 真, 緒方憲一, 田寺 長, 井野 威, 新 博次 (¹⁾ 鶴見大学歯学部附属病院内科・循環器科) : Atrial pacing preference アルゴリズムによるBahmann 束ペーシングが治療抵抗性心房細動予防に奏効した1例. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 20) 森田典成, 新 博次, 堀江 格¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 淀川顕司²⁾, 林 明聡²⁾, 平澤泰宏³⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学循環器・肝臓・老年・総合病態部門, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, ³⁾ 博慈会記念病院循環器科) : 心房粗動, 非心房粗動例における右房分解稜の横断伝導ブロックと構造的, 外形的因子の特徴. 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- 21) 洪井俊之, 中込明裕, 小杉宗範, 佐々木朝子, 加藤活人, 宮地秀樹, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 付属病院内科学第一) : スタチンは慢性腎臓病を合併した急性冠症候群患者の心事故を減

- 少させる．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009．9．
- 22) 中込明裕，小杉宗範，佐々木朝子，宮地秀樹，洪井俊之，加藤活人，吉川雅智，小谷英太郎，遠藤康実，草間芳樹，新 博次，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属病院内科学第一）：慢性心不全患者におけるカルベジロール投与例の予後規定因子 特に単球由来サイトカインの関与．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009．9．
- 23) 小杉宗範，中込明裕，洪井俊之，宮地秀樹，佐々木朝子，加藤活人，吉川雅智，小谷英太郎，草間芳樹，新博次，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属病院内科学第一）：冠攣縮性狭心症患者において長時間作用型硝酸薬の継続的投与は心事故を増加させる．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009．9．
- 24) 宮地秀樹，中込明裕，小杉宗範，佐々木朝子，洪井俊之，加藤活人，吉川雅智，小谷英太郎，草間芳樹，新博次，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属病院内科学第一）：スタチン投与は急性冠症候群患者の心事故を減らし退院6ヶ月後のLDL-C/HDL-C比は予後判定に有用である．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009．9．
- 25) 小谷英太郎，雪吹周生¹⁾，大塚俊昭²⁾，中込明裕，草間芳樹，新 博次（¹⁾ 千葉北総病院内科，²⁾ 衛生学・公衆衛生学）：メタボリックシンドローム患者に対するピオグリタゾンの持続的酸化ストレス抑制効果：MDA-LDLによる検討．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009．9．
- 26) 栗田 明¹⁾，岡田 薫²⁾，高瀬凡平³⁾，小谷英太郎，草間芳樹，新 博次（¹⁾ 社会福祉法人福音会医療統括部，²⁾ 同愛記念病院，³⁾ 防衛医科大学校）：認知症を有する後期高齢者の自律神経に及ぼす音楽療法や精神的説法の影響．日本心臓病学会学術集会（第57回），2009．9．
- 27) 大塚俊昭¹⁾，清野精彦²⁾，雪吹周生²⁾，小谷英太郎（¹⁾ 衛生学・公衆衛生学，²⁾ 千葉北総病院循環器センター）：N末端proBNP上昇を伴う未治療高血圧症例における潜在性微小心筋傷害の検討．日本高血圧学会総会（第32回），2009．10．
- 28) 小杉宗範，小谷英太郎，原千鶴子，佐藤太亮，加藤活人，佐々木朝子，宮地秀樹，洪井俊之，吉川雅智，中込明裕，草間芳樹，新 博次，久野将宗¹⁾，中野渡雄一¹⁾，二宮宣文¹⁾，その他1名（¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター）：上腕動脈アプローチによる大動脈バルーンパンピングを長期に施行し，その安全性と有用性が確認された1例．日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会（第35回），2009．10．
- 29) 佐藤太亮，小杉宗範，小谷英太郎，原千鶴子，加藤活人，佐々木朝子，宮地秀樹，洪井俊之，吉川雅智，中込明裕，草間芳樹，新 博次：発症時期不明の心原性塞栓と思われる下肢動脈閉塞症の1例．多摩地区虚血性心疾患研究会（第31回），2009．10．
- 30) 宮地秀樹，山本 彰¹⁾，小谷英太郎，草間芳樹，新 博次（¹⁾ 多摩永山病院放射線科）：心筋スペクトを用いた心不全，脚ブロックの有無による左室機械的および電気同期障害，左室容量，収縮機能の関係について．心世代核医学研究会（第12回），2009．11．
- 31) 岡崎怜子，小谷英太郎，松本 真，遠藤康実，佐野純子，中込明裕，草間芳樹，新 博次：非医療従事者によるAED解禁後に当院へ搬送された心肺蘇生例19症例の検討．心臓性急死研究会（第22回），2009．12．
- 32) 小谷英太郎，竹山聡美，飯田美佐子，草間芳樹，新 博次，長澤紘一：2型糖尿病に対するピオグリタゾン単独療法の有用性：1年後報告．日本成人病（生活習慣病）学会学術集会（第44回），2010．1．
- 33) 新 博次，濱本 紘¹⁾，住吉徹哉¹⁾，高田めぐみ²⁾（¹⁾ 榊原記念クリニック循環器内科，²⁾ 榊原記念クリニック薬剤科）：ベプリジル，アプリンジン併用による発作性心房細動再発予防効果の検討．臨床不整脈研究会（第22回），2010．1．
- 34) 宮地秀樹，山本 彰¹⁾，小谷英太郎，草間芳樹，新 博次，水野杏一²⁾（¹⁾ 多摩永山病院放射線科，²⁾ 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：心筋SPECTで評価した左室内収縮期および拡張期同期不全による左室容量，収縮能，血流および代謝の影響．日本心血管画像動態学会（第20回），2010．1．
- 35) 小谷英太郎，草間芳樹，酒井貴史¹⁾，水谷行伸¹⁾，林 綾子¹⁾，佐藤寛之¹⁾，池野廣幸¹⁾，新 博次（¹⁾ 多摩永山病院中央検査室）：冷水負荷サーモグラフィによる末梢循環障害の診断と薬物治療効果の検討．日本心血管画像動態学会（第20回），2010．1．

- 36) 佐藤太亮, 小杉宗範, 小谷英太郎, 原千鶴子, 加藤活人, 佐々木朝子, 宮地秀樹, 洪井俊之, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 心原性塞栓とアテローム性硬化の鑑別が困難な下肢動脈閉塞症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第215回), 2010. 2.
- 37) Okazaki R, Yamashita T¹), Sekiguchi A¹), Iwasaki Y²), Hayami N³), Murakawa Y³), Sawada H¹), Aizawa T¹), Katoh T²), Atarashi H, Mizuno K²) (¹ The Cardiovascular Institute, ² Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine), Nippon Medical School, ³ Department of Internal Medicine, Mizonokuchi Hospital, Teikyo University School of Medicine) : Promotion of macrophage infiltration and fibrosis in young diabetic rat atria. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 38) Satoh T, Nakagomi A, Kosugi M, Sasaki A, Katoh K, Shibui T, Miyachi H, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹) (¹ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)) : Elevated systolic blood pressure at discharge predicts poor outcomes in patients with acute myocardial infarction underwent successful percutaneous coronary intervention. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 39) Miyachi H, Yamamoto A¹), Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K²) (¹ Department of Radiology, Tama Nagayama Hospital, ² Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)) : Impact of left ventricular volume, systolic function, and myocardial perfusion and metabolism for intra-left ventricular systolic and diastolic dyssynchrony. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 40) Itakura S¹), Ono T²), Yana K³), Kaeriyama K³), Honma H²), Atarashi H, Munakata K¹), Katoh T²), Mizuno K²) (¹ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital, ² Department of Cardiology, Nippon Medical School, ³ Faculty of Science and Engineering, Hosei University) : The variance in first quarter segment of T-wave predicts cardiac events for patients with heart disease by T-wave vector alternans. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 41) 遠藤康実, 遠藤育子, 岡崎怜子, 松本 真, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹) (¹ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 発熱を契機として Torsade de pointes を来した高齢者の1例. 日本老年医学会関東甲信越地方会 (第51回), 2010. 3.
- 42) 小杉宗範, 中込明裕, 森澤太一郎, 洪井俊之, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一¹) (¹ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 特発性冠動脈解離により急性心筋梗塞を発症した若年女性の1例. 日本内科学会関東地方会例会 (第570回), 2010. 3.
- (5) 公開講座 :
- 1) 新 博次 : リズム管理を目的とした薬物療法の実際 (心房細動治療ガイドラインに基づく薬物療法の実際). 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
 - 2) 新 博次 : Up-stream 治療の概念と治療薬の展望 (心房細動治療ガイドラインに基づく薬物療法の実際). 日本不整脈学会学術大会 (第24回) 日本心電学会学術集会 (第26回) 合同学術集会, 2009. 7.
- (6) Keynote Lecture :
- 1) Kurita A¹), Takase B²), Kodani E, Kusama Y, Atarashi H (¹ Fukuinkai Clinic, ² National Defense Medical College) : Clinical use of holter ECG monitoring for assessment of autonomic nerve functions (Conventional ECG assessment/holter monitorings and arrhythmia management). 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ISHNE 2009) (Yokohama), 2009. 6.
- (7) Late Breaking Clinical Trials :
- 1) Nakagomi A, Kodani E, Takano H¹), Satoh N¹), Uchida T²), Ibuki C³), Kusama Y, Seino Y³), Munaka-

ta K²), Mizuno K¹), Takano T¹) (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine), (2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Musashi Kosugi Hospital, (3) Department of Cardiology, Chiba Hokuso Hospital) : Secondary protective effect of Ca-antagonist for ischemic heart attack. Randomized parallel comparison with beta-blocker trial (SPECIAL-NMS). 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.

2) Yamashita T¹), Ogawa S¹), Aizawa Y¹), Atarashi H¹), Inoue H¹), Ohe T¹), Okumura K¹), Ohtsu H¹), Kato T¹), Kamakura S¹), Kumagai K¹), Kurachi Y¹), Kodama I¹), Koretsune Y¹), Saikawa T¹) et al. (1) J-RHYTHM II Investigators) : J-RHYTHM II study : a randomized study of angiotensin II type 1 receptor blocker vs dihydropyridine Ca antagonist for treatment of paroxysmal atrial fibrillation in patients with hypertension. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.

[千葉北総病院循環器内科]

研究概要

[循環器内科] 循環器内科は、(1) 冠動脈疾患の最先端診療 (①外来対応の冠動脈マルチスライスCT検査, ②2泊3日冠動脈造影検査, 冠動脈カテーテル治療パス, ③血管内超音波, 血管内視鏡, 光干渉断層法などの冠動脈先端画像診断, ④血液生化学バイオマーカーの臨床開発) や、(2) 不整脈の最先端治療 (カテーテル焼灼術, 重症心不全心室再同期 (CRT) 治療, 植え込み型除細動器治療), (3) 心不全の先駆的研究と診療などを主軸に臨床, 研究, 教育を展開しております。診療実績は年々増加しており2009年度は冠動脈カテーテル治療は年間440例を不整脈カテーテル治療は年間80例を超えております。さらに (4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸, (5) 女性の心臓病などについても、地域医療との連携の中で効果的な診療の提供と臨床研究に努めております。平成20年度からは、全国に先駆けて「回復期心筋梗塞地域連携パス」「地域連携型高血圧治療研究 (INBA Study)」などを展開しております。また、大学医学部教育 (文部科学省特色GP選定), 研修医教育, 循環器専門医教育, 学位研究指導に精力的に取り組んでおり、特色ある研究成果をAHA, ESCなどの国際学会や、日本循環器学会などで発表しており、Circulationなどのトップジャーナルに多くの論文を発表しております。日本循環器学会各種ガイドライン (急性心不全GL, 性差医療GL, 睡眠時無呼吸GLなど) 作成にも参加しております。

研究業績

論文

{追加分}

追加分総説 :

1) 清野精彦 : ACE阻害薬とブラジキニン. Pharma Medica 2009 ; 27 (1) : 112.

(1) 原著 :

1) Yokoyama S¹), Takano M, Yamamoto M, Inami S²), Sakai S, Okamatsu K, Okuni S²), Seimiya K, Murakami D, Ohba T, Uemura R²), Seino Y, Hata N¹), Mizuno K²) (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Extended Follow-Up by Serial Angioscopic Observation for Bare-Metal Stents in Native Coronary Arteries : From Healing Response to Atherosclerotic Transformation of Neointima. Circulation Cardiovasc Intervent 2009 ; 2 : 205-212.

2) Otsuka T¹), Kawada T¹), Ibuki C, Kusama Y²) (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital) : Obesity as an independent influential factor for reduced radial arterial wave reflection

in a middle-aged Japanese male. *Hypertension Research* 2009 ; 32 (5) : 387-391.

- 3) Sasayama S¹, Izumi T², Matsuzaki M³, Matsumori A⁴, Asanoi H⁵, Momomura S⁶, Seino Y, Ueshima K⁷ (1) Dep. Life and Medical Science, Doshisha University, Kyotanabe & Daijukai Hospital, hirakata, (2) Dep. of Cardioangiology, Kitasato University School of Medicine, Sagamihara, (3) Dep. of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Ube, (4) Dep. of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, (5) Imizu City Hospital Imizu, (6) Saitama Medical Center, Jichi Medical University, Saitama, (7) Dep. of Internal Medicine, Cardiovascular Center, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, (8) EBM Research Center, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto) : Improvement of Quality of Life With Nocturnal Oxygen Therapy in Heart Failure Patients With Central Sleep Apnea. *Circulation Journal* 2009 ; 73 (3) : 1255-1262.
- 4) Yamamoto M, Okamatsu K¹, Inami S¹, Takano M, Yokoyama S², Ohba T, Ibuki C, Hata N², Seino Y, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship between neointimal coverage of sirolimus-eluting stents and lesion characteristics : S study with serial coronary angiography. *American Heart Journal* 2009 ; 58 (1) : 99-104.
- 5) Otsuka T¹, Kawada T¹, Ibuki C², Kusama Y³ (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital) : Relationship between job strain and radial arterial wave reflection in middle-aged male workers. *Preventive Medicine* 2009 ; 49 (2-3) : 260-264.
- 6) Murakami D, Takano M, Yamamoto M, Inami S¹, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo) : Advanced Neointimal Growth is Not Associated With a Low Risk of In-Stent Thrombus : Optical Coherence Tomographic Findings After First-Generation Drug-Eluting Stent Implantation. *Circulation Journal* 2009 ; 73 (3) : 1627-1634.
- 7) Matsumoto S¹, Hirayama Y², Saitoh H¹, Ino T¹, Miyauchi Y², Iwasaki Y², Yasutake M², Seino Y³, Atarashi H¹, Katoh T², Mizuno K² (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tama Nagayama, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, (3) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Noninvasive Diagnosis of Cardiac Sarcoidosis Using Microvolt T-Wave Alternans. *International Heart Journal* 2009 ; 50 (6) : 731-739.
- 8) Otsuka T¹, Kawada T¹, Katsumata M¹, Ibuki C, Kusama Y² (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital) : Independent determinants of second derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men. *Hypertension Research* 2009 ; 30 (12) : 1211-1218.
- 9) Kim J¹, Jang I², Kim J¹, Takano M, Kume T³, Hur N⁴, Ko Y¹, Choi D¹, Hong M¹, Jang Y¹ (1) Division of Cardiology, Yonsei Cardiovascular Center, Yonsei University College of Medicine, (2) Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, (3) Department of Cardiology, Kawasaki Medical School, Kurashiki, (4) Preventive Medicine, Yonsei University College of Medicine) : Optical coherence tomography evaluation of zotarolimus-eluting stents at 9-month follow-up : comparison with sirolimus-eluting stents. *Heart* 2009 ; 95 (23) : 1907-1912.
- 10) Takano M¹, Yamamoto M, Inami S¹, Murakami D, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Appearance of Lipid-Laden Intima

and Neovascularization After Implantation of Bare-Metal Stents. *Journal of American College of Cardiology* 2010 ; 55 (1) : 26-32.

- 11) Yokoyama S¹⁾, Takano M, Sakai S, Ohba T, Seimiya K, Okamatsu K, Inami S, Hata N¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Difference in Neointimal Proliferation Between Ruptured and Non-Ruptured Segments After Bare Metal Stent Implantation. *International Heart Journal* 2010 ; 51 (1) : 7-12.
- 12) 窪田達也¹⁾, 菱田 明²⁾, 清野精彦 (1) 特定医療法人社団同樹会 結城病院 (自治医科大学名誉教授), (2) 浜松医科大学附属病院第一内科) : カルペリチド (ヒト心房ナトリウム利尿ペプチド) の急性腎不全に対する有効性と安全性の検討 : 多施設共同前向き臨床試験. *薬理と治療 (JPT)* 2009 ; 37 (7) : 577-585.
- 13) 清野精彦 : 慢性心不全患者におけるB型ナトリウム利尿ペプチド, 心筋トロポニンT, C反応性蛋白値を用いたマルチバイオマーカーによるリスク層別化. *心臓* 2009 ; 41 (7) : 766-771.
- 14) Ito A¹⁾, Ishii-Nozawa R¹⁾, Ibuki C, Atarashi H²⁾, Kataoka H¹⁾, Takeuchi K¹⁾ (1) Department of Pharmacy, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Examination of questionnaires regarding diabetic peripheral neuropathy in epalrestat-treated patients and their usefulness in the treatment of the patients during the treatment course. *薬学雑誌* 2009 ; 129 (10) : 1239-1247.

(2) 総説 :

- 1) Takano M, Mizuno K¹⁾, Kim S¹⁾, Jang I²⁾ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine Nippon Medical School, Tokyo, (2) Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Optical Coherence Tomography. *Current Cardiovascular Imaging Reports* 2009 ; 2 (4) : 275-283.
- 2) Takano M, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tokyo) : Coronary Angioscopic Evaluation for Serial Changes of Luminal Appearance After Pharmacological and Catheter Intervention. *Circulation Journal* 2010 ; 74 (2) : 240-245.
- 3) 山本真功, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 4. 冠動脈先端画像診断・冠動脈血管内超音波 : (IVUS : intravascular ultrasoundとVirtual Histology-IVUS : VH-IVUSについて) (III). *日本医科大学医学会雑誌* 2009 ; 5 (2) : 75-78.
- 4) 清野精彦 : 薬剤による2次性心筋症 : 早期発見と治療. *日本医事新報* 2009 ; 4440 : 70-71.
- 5) 福田悦子¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦 (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター) : 慢性心不全患者の外来診療と家庭管理指導. *ハートナーシング* 2009 ; 22 (6) : 57-61.
- 6) 村上大介, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 4. 冠動脈先端画像診断 : 光干渉断層法 : (Optical Coherence Tomography ; OCT) (IV). *日医大医学会誌* 2009 ; 5 (3) : 150-151.
- 7) 清野精彦 : 高感度トロポニンT. *循環器科* 2009 ; 65 (6) : 581-584.
- 8) 清野精彦 : 冠動脈疾患 : 冠先端画像およびバイオマーカーで迫る. *循環器科* 2009 ; 65 (6) : 551-553.
- 9) 清野精彦 : 虚血性心疾患の再発予防 : ACE阻害薬のエビデンス. *動脈硬化予防* 2009 ; 8 (2) : 24-31.
- 10) 清野精彦 : 急性心不全の治療ストラテジー : 治療目標と基本的治療. *Medicina* 2009 ; 46 (8) : 1250-1253.
- 11) 清野精彦 : 急性心不全. *内科エマージェンシー* 2009 ; 33 (10) : 1190-1194.
- 12) 清野精彦 : 急性冠症候群 : 冠先端画像とバイオマーカーによる検討. *進歩する心臓研究* 2009 ; 29 (2) : 35-40.
- 13) 岡松健太郎, 山本真功, 清野精彦 : ACSを診断する : バイオマーカーで診る. *Heart View* 2009 ; 13 (11) : 32-39.

- 14) 雪吹周生, 清野精彦: 心不全の診断 血中マーカーの進歩: 実地診療への活用. Medical Practice 2009; 26 (11): 1829-1835.
- 15) 清野精彦: 急性冠症候群におけるバイオマーカーの意義. Heart View 2009; 13 (6): 15-21.
- 16) 清野精彦: トロポニンT. Mebio 2009; 26 (12): 50-58.
- 17) 清野精彦: マルチバイオマーカーを用いた急性冠症候群治療. 分子心血管病 2009; 10 (6): 46-50.
- 18) 清野精彦: 心筋トロポニンTによる潜在性心筋傷害の検出. 医学のあゆみ 2010; 232 (5): 466-471.
- 19) 清野精彦: 診断: 新しい心筋マーカーの意義. 心臓 2010; 42 (3): 411-413.
- 20) 葉山修陽, 清野精彦: CKDと心血管疾患との関連. 最新医学: 慢性腎臓病 (CKD) 2010; 65 (3): 26-35.

(3) 症例報告:

- 1) Murakami D, Takano M, Yamamoto M, Inami S¹⁾, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo): Novel neointimal formation over sirolimus-eluting stents identified by coronary angiography and optical coherence tomography. Journal of Cardiology 2009; 53 (2): 311-313.
- 2) 淀川顕司, 山本真功, 清野精彦, 大秋美治¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 2) 日本医科大学大学院医学研究科器官機能病態内科学): 完全房室ブロックにて発症し, 胃生検により確定診断に至った心サルコイドーシスの1例. 日医大医学会誌 2010; 6 (1): 30-33.

著 書

- 1) 清野精彦: [分担] 冠動脈トロポニン・冠先端画像およびバイオマーカーで迫る. 循環器科 (清野精彦), 2009; pp581-583, 科学評論社.
- 2) 清野精彦: [分担] 慢性心不全 (総論)・急性心不全・慢性心不全の急性増悪. "ガイドラインに基づくCCU実践マニュアル" (田中啓治), 2009; pp99-99, 羊土社.
- 3) 青木 聡: [分担] 弁膜症・急性心不全・慢性心不全の急性増悪. "ガイドラインに基づくCCU実践マニュアル" (田中啓治), 2009; pp114-114, 羊土社.
- 4) 清野精彦: [分担] 高血圧性心疾患・急性心不全・慢性心不全の急性増悪. ガイドラインに基づくCCU実践マニュアル (田中啓治), 2009; pp131-131, 羊土社.
- 5) 清野精彦: [共著] ACSの診断にはどの検査法が最も早く, 確実か? バイオマーカーの重要性・急性冠症候群 (ACS). EBM循環器疾患の治療 (小室一成 横井宏佳 山下武志 柴木宏実), 2009; pp2-6, 中外医学社.
- 6) 清野精彦: [分担] 急性心不全の分類と診断・重症心不全を診断する. 重症心不全の予防と治療 (北風政史), 2009; pp196-205, 中外医学社.
- 7) 清野精彦: [分担] 生化学診断・急性冠症候群を見逃さない. 循環器臨床サピア2 最新アプローチ 急性冠症候群 (小川久雄), 2009; pp62-73, 中山書店.
- 8) 清野精彦: [分担] 7. 冠危険因子, 凝固, 血栓, マーカー, その他・心筋マーカー全血迅速テスト: 陽性の重要性, 陰性の意義. 循環器検査のグノーティ・セアウトン (山科 章), 2009; pp347-351, シナジー.
- 9) 清野精彦: [分担] 循環器医のための心肺蘇生・心血管救急に関するガイドライン. 循環器病の診断と治療に関するガイドライン, 2009; pp1361-1457, 日本循環器学会.
- 10) 清野精彦: [分担] 無症候性心筋虚血・循環器疾患. 今日の治療指針2010版 (山口 徹 北原光夫 福井次矢), 2010; pp317-319, 医学書院.
- 11) 雪吹周生, 清野精彦: [分担] 血管拡張薬 (末梢循環拡張薬)・循環器系. 治療薬ハンドブック2010 (高久史磨 堀正二 菅野健太郎 門脇孝 乾賢一 林昌洋), 2010; pp369-373, じほう.
- 12) 清野精彦: [共著] 安定狭心症・冠動脈疾患. 循環器疾患最新の治療2010-2011 (堀正二 永井良三), 2010; pp91-95, 南江堂.

- 13) 佐藤直樹¹⁾, 清野精彦⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : [分担] ミルリノン オルプリノン ドブタミン ドパミン・強心薬, 循環器治療薬ハンドブック (北風政史 朝倉正紀), 2010 ; pp321-332, 中外医学社.
- 14) 清野精彦 : [分担] 心血管生化学マーカー・研修で学ぶべき知識と技術, 循環器研修ノート (永井良三 川名正敏 許俊鋭 長谷川昭 廣井透雄 三田村秀雄 山下武志), 2010 ; pp114-119, 診断と治療社.
- 15) 清野精彦 : [自著] 急性心不全の治療方針・心不全, 循環器研修ノート (永井良三 川名正敏 許俊鋭 長谷川昭 廣井透雄 三田村秀雄 山下武志), 2010 ; pp482-486, 診断と治療社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 高野雅充 : Oct findings of DES follow-Up : Comparison with coronary angiography. Complex Cardiovascular Therapeutics 2010 (神戸), 2010. 1.

(2) 教育講演 :

- 1) 清野精彦 : 加齢に伴う微小心筋傷害の検出とその対策. 第9回日本抗加齢医学会総会 (東京), 2009. 5.
- 2) 清野精彦 : 心不全の病態生理と治療の進歩. 第208回日本内科学会北陸地方会生涯教育講演会 (富山), 2009. 6.
- 3) 清野精彦 : 冠動脈疾患に対する先端画像とマルチバイオマーカー・ストラテジー. 第20回日本臨床化学学会 東海・北陸支部総会 (名古屋), 2009. 8.
- 4) 清野精彦 : Reduction in the risk of heart failure with preventive cardiac resynchronization therapy : MADIT-CRT Trial. 第13回日本心不全学会 (福岡), 2009. 10.
- 5) 清野精彦 : 急性心不全治療ガイドライン : paradigm shift. 第13回日本心不全学会 (福岡), 2009. 10.

(3) シンポジウム :

- 1) Takano M¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Detection and treatment of vulnerable plaque detected by coronary angiography. 17th Asian Pacific Congress of Cardiology 2009 (京都), 2009. 5.
- 2) Takano M : Serial Changes in Angiographic Coronary Plaque Morphology and Serum C-Reactive Protein Level by Statin Therapy. 第41回日本動脈硬化学会 (下関), 2009. 7.
- 3) Yamamoto M, Seino Y, Okamatsu K, Inami T, Kimata N, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K¹⁾, Hata N²⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Intensive Care Unit, Nippon Medical School) : Detection of Silent Vulnerable Plaque, Silent Myocardial Stress/Injury in Stable CAD Patients and Dynamic Analysis during Procedural Plaque Disruption. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 4) Takano M, Yamamoto M, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of First Internal Medicine Nippon Medical School) : Very Late Thrombosis Originating from Bare-Metal Stent Segment during Extended Long-Term Follow-Up insights from Optical Coherence Tomography and Angiographic Observations. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 5) Setsuta K¹⁾, Seino Y, Mizuno K²⁾ (¹⁾ 都立駒込病院循環器内科, ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Warning against Ongoing Myocardial Damage (OMD) in Hypertension : Detection of OMD and Its Close Linkage to Cerebro-Cardiovascular Events. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 6) 淀川顕司, 清野精彦, 大野則彦, 林 明聡, 小原俊彦²⁾, 高山英男²⁾, 宮内靖史²⁾, 小林義典²⁾, 加藤貴雄²⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態門) : サルコイドーシスにおける心室頻拍に対する薬物治療 : β 遮断薬, III群薬, そしてステロイドは有効か : 高分解能心電図を用いた検討. 第24回日本不整脈学会 (京都), 2009. 7.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 山本真功, 高野雅充, 横山真也, 木股伸恒, 村上大介, 岡松健太郎, 大場崇芳, 稲見茂信¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : ペアメタルステント留置後超遠隔期までの血管内視鏡による経時的観察：新生内膜治癒反応から動脈硬化性変化. 第23回日本冠疾患学会 (大阪), 2009. 12.

(5) 一般講演：

- 1) Hayashi M : Exercise Stress Tests for Predicting Genetic Mutation and Future Cardiac Events in Family Members of Catecholaminergic Polymorphic Ventricular Tachycardia Proband. Heart Rhythm 30th annual Scientific Session (Boston, USA), 2009. 5.
- 2) Yodogawa K, Ohara T¹⁾, Hideo T¹⁾, Murata H¹⁾, Seino Y, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Wavelet Transform Analysis of QRS Complex in Patients with Resuscitated Ventricular Fibrillation. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ISHNE2009) (横浜), 2009. 6.
- 3) Takano M, Yamamoto M, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine Nippon Medical School) : Role of angiogram in complex ACS intervention. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference 2009 (Tokyo), 2009. 7.
- 4) Murai K, Kajimoto K¹⁾, Munakata R²⁾, Asai K²⁾, Nagashima M¹⁾, Mizuno M³⁾, Minami Y¹⁾, Tanaka K²⁾, Mizuno K²⁾, Takano T²⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Shonan Dai-ichi Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University) : Impact of "Warm & Wet" and "Cold & Wet" on Clinical Evaluation in the Real-World Acute Heart Failure Syndrome Patients : Data from Attend Registry. Heart Failure Society of America The 13th Annual Scientific Meeting (Boston, USA), 2009. 9.
- 5) Inami T, Seino Y, Yamamoto M, Kimata N, Murakami D, Takano M, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Mizuno K (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Link of Sleep Apnea Syndrome to Coronary Atherosclerotic Burden and Elevated Cardiac Biomarkers in Stable Coronary Artery Disease Patients. American Heart Association Scientific Meeting 2009 (Orland, USA), 2009. 11.
- 6) 稲見 徹, 山本真功, 木股伸恒, 岡田 薫, 村上大介, 淀川顕司, 林 明聡, 大野則彦, 大場崇芳, 青木 聡, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 妊娠後に大動脈炎症候群と診断し, ステロイド投与にて無事出産し得た1症例. 第212回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2009. 6.
- 7) Kobayashi N¹⁾, Shirakabe A¹⁾, Tomita K¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Shinada T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Hata N¹⁾, Yamamoto M, Murakami D, Seino Y (¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Relationship between Endothelin-1 at Coronary Culprit Lesion and No-reflow Phenomenon. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (北海道 札幌), 2009. 6.
- 8) Murakami D, Takano M, Kimata N, Yamamoto M, Inami T, Kobayashi N¹⁾, Inami S²⁾, Ohba T, Yokoyama S¹⁾, Ibuki C, Hata N¹⁾, Seino Y, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Angioscopically intensive yellow color of target plaque predict serum troponin-T levels after elective percutaneous coronary intervention comparison with thrombus. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (北海道 札幌), 2009. 6.
- 9) Inami T, Seino Y, Yamamoto M, Kimata N, Murai K, Murakami D, Yodogawa K, Abe J, Hayashi M¹⁾,

- Takano M, Ohno N, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Does Sleep Apnea Syndrome Relate to the Vulnerability of Plaque in Stable Coronary Artery Disease Patients?. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 10) Nakagomi A¹, Kodani E¹, Takano H², Satoh N², Uchida T³, Ibuki C, Kusama Y¹, Seino Y, Munakata K³, Mizuno K², Takano T² (1) Department of Internal Medicine and Cardiology Tama Nagayama Hospital Nippon Medical School, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Internal Medicine), Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine and Cardiology Musashi Kosugi Hospital Nippon Medical School) : Secondary Protective Effect of Ca-antagonist for Ischemic Heart Attack, Randomized Parallel Comparison with Beta-blocker Trial (SPECIAL-NMS). 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 11) Setsuta K¹, Kitahara Y¹, Arao M¹, Seino Y, Mizuno K² (1) Department of Cardiology and Clinical Laboratory, 2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Risk Stratification using B-type Natriuretic Peptide, Cardiac Troponin T, Estimated Glomerular Filtration Rate and C-creative Protein in Chronic Heart Failure. 第74回日本循環器学会, 2010. 3.
- 12) 高野雅充, 水野杏一¹ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 血管内視鏡による Vulnerable plaque の検出. Beyond Angiography Japan XV (神戸), 2010. 3.
- 13) 水野正之¹, 高野雅充, 理崎貴博¹, 清野精彦, 水野杏一² (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学) : OCT画像における残存血液が与える影響. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (北海道 札幌), 2009. 6.
- 14) 淀川顕司¹, 林 明聡¹, 大野則彦¹, 高山英男², 清野精彦², 小原俊彦², 村田広茂², 小鹿野道雄², 宮内靖史², 小林義典¹, 加藤貴雄², 水野杏一² (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, 2) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価 : ウエーブレット解析を用いた検討. 第24回日本不整脈学会 (京都), 2009. 7.
- 15) 根岸経太, 林 明聡, 大野則彦, 淀川顕司, 阿部純子, 木股伸恒, 山本真功, 稲見 徹, 村上大介, 大場崇芳, 青木 聡, 雪吹周生, 清野精彦, 富田和憲¹, 小林宣明¹, その他2名 (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 2) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心筋梗塞に伴う心室細動の electrical storm に対しカテーテルアブレーションが奏功した1例. 第213回日本循環器学会関東甲信越支部地方会 (東京), 2009. 9.
- 16) 稲見 徹, 清野精彦, 木股伸恒, 村上大介, 大場崇芳, 青木 聡, 雪吹周生, 水野杏一¹ (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 安定冠動脈疾患における睡眠時無呼吸症候群と冠動脈病変形成および心筋バイオマーカーの関連性. 第57回日本心臓病学会 (北海道 札幌), 2009. 9.
- 17) 藤本進一郎¹, 山科昌平¹, 中西理子¹, 井上有知¹, 清野精彦, 山科 章², 山崎純一¹ (1) 東邦大学医療センター大森病院循環器内科, 2) 東京医科大学循環器内科 (第二内科) : I-123-MIBG心筋シンチグラフィの多施設共同研究 (K-MIC) における散乱線補正の意義に関する検討. 第57回日本心臓病学会 (北海道 札幌), 2009. 9.
- 18) 栗原 理¹, 山本真功¹, 木股伸恒¹, 稲見 徹¹, 村上大介¹, 岡松健太郎¹, 高野雅充¹, 大場崇芳¹, 畑典武¹, 清野精彦¹, 稲見茂信², 水野杏一² (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学) : ペアメタルステント留置後遅発性血栓症を発症した興味深い2例. 第23回日本心臓血管内視鏡学会 (奈良), 2009. 10.
- 19) 山本真功¹, 木股伸恒¹, 稲見 徹¹, 村上大介¹, 岡松健太郎¹, 高野雅充¹, 横山真也¹, 大場崇芳¹, 稲見茂信², 水野杏一² (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学) : ペアメタルステント留置後の超遠隔期までの血管内視鏡による経時的観察 : 新生内膜の治癒反応から動脈硬化性変化. 第23回日本心臓血管内視鏡学会 (奈良), 2009. 10.

- 20) 稲見 徹, 清野精彦, 山本真功, 木股伸恒, 村井綱兄, 村上大介, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一¹⁾
(¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 安定冠動脈疾患における睡眠時喘ご球症候群と慢性完全閉塞病変形成および心筋バイオマーカーの関連性. 第23回日本冠疾患学会 (大阪), 2009. 12.
- 21) 山本真功, 木股伸恒, 稲見 徹, 村上大介, 阿部純子, 淀川顕司, 林 明聡, 高野雅充, 大場崇芳, 大野則彦, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 深部静脈血栓症で発症し, 心筋生検により診断された尿管癌の1例. 第214回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2009. 12.
- 22) 根岸経太, 大野則彦, 稲見 徹, 雪吹周生, 清野精彦, 大秋美治¹⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 敗血症ショックで死亡し病理解剖にてアミロイドーシスの関与が疑われた高齢者心不全の1例. 老年医学会第51回関東甲信越地方会 (東京), 2010. 3.
- 23) 栗原 理¹⁾, 小林宣明¹⁾, 北村光信¹⁾, 富田和憲¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦, 畑 典武¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室) : 急性肺血栓栓症初療時における予後推定因子. 第37回日本集中治療医学会 (広島), 2010. 3.
- 24) 下村直樹¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦 (¹⁾ 東邦大学薬学部) : チェノピリジン系抗血小板薬による肝障害発言の背景因子 : 年齢, 性別, 併用薬による検討. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 1) 高野雅充 : 血管内視鏡による評価 : BMS留置後. 第23回日本心臓血管内視鏡学会 (奈良), 2009. 10.
- (6) Intra-Coronary Imaging Competition :
- 1) Yamamoto M : Recurrent Restenosis of Sirolimus-Eluting Stent Implantation for Paclitaxel-Eluting Stent Restenosis : different Abnormal Findings of Optical Coherence Tomography. Complex Cardiovascular Therapeutics 2010 (神戸), 2010. 1.
- 2) Inami T : Two cases of Coronary Stent Thrombosis Very Late After Bare-Metal Stenting : Identification by Coronary Angioscopy. Complex Cardiovascular Therapeutics 2010 (神戸), 2010. 1.
- (7) YIA :
- 1) 高野雅充¹⁾, 横山真也¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見茂信²⁾, 酒井俊太¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 大国真一¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 上村竜太¹⁾, 清野精彦¹⁾, 畑 典武²⁾, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学循環器内科, ²⁾ 日本医科大学循環器センター) : Extended Follow-up by Serial Angioscopic Observation for Bare-Metal Stents in Native Coronary Arteries : From Healing Response to Atherosclerotic Transformation of Neointima. 第57回日本心臓病学会 (北海道 札幌), 2009. 9.
- (8) ポスター :
- 1) Yamamoto M, Seino Y, Okamatsu K, Inami T, Murakami D, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Takano M, Mizuno K¹⁾, Hata N²⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, ²⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Elevation of soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 Levels After Plaque Disruption. American Heart Association Scientific Meeting 2009 (Orlando, USA), 2009. 11.
- 2) Yodogawa K, Seino Y, Takayama H¹⁾, Abe J, Ohno N, Ibuki C, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : A New Approach for Detecting Corticosteroid Responder Patients in Cardiac Sarcoidosis-Application of High Resolution Electrocardiography. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 3) 大塚俊昭¹⁾, 清野精彦, 雪吹周生, 小谷栄太郎²⁾ (¹⁾ 衛生学・公衆衛生学, ²⁾ 多摩永山病院内科・循環器内科) : N末端 proBNP 上昇を伴う未治療高血圧症例における潜在性微小心筋傷害の検討. 第32回に本稿血圧学

会 (大津), 2009. 10.

- 4) Aoki S, Seino Y, Kimata N, Yamamoto M, Inami T, Murakami D, Ohba T, Kobayashi N¹, Yokoyama S¹, Hata N¹, Mizuno K² (1) Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Assessment of Coronary Atherosclerotic Plaque Burden by Three Characteristic Biomarkers. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (北海道 札幌), 2009. 6.
- 5) Inami T, Yamamoto M, Kimata N, Murakami D, Ohba T, Aoki S, Ibuki C, Kobayashi N¹, Yokoyama S¹, Hata N¹, Seino Y, Mizuno K² (1) Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Analysis of bi-edge late restenotic lesions in a sirolimus-eluting stent case by coronary angioscopy and OCT. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (北海道 札幌), 2009. 6.
- 6) 下村直樹¹, 佐藤光利¹, 岸 大輔², 濱田康次², 福田恵子², 雪吹周生, 清野精彦 (1) 東邦大学薬学部, (2) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部) : チクロピジンとクロビドグレルによる肝障害発現パターン性の性差. 第30回日本臨床薬理学会 (横浜), 2009. 12.
- 7) Kamiya M¹, Kuniya A¹, Akihiro S², Murai K, Satoh N², Seino Y, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Intensive Care Unit, Nippon Medical School) : Angiotensin Receptor Blockade Prevented Myocyte Hypertrophy but did not Suppress Myocardial Fibrosis in Ovariectomized Mice with Chronic β -adrenergic Receptor Stimulation. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 8) Yodogawa K, Ohara T¹, Takayama M², Takayama H¹, Seino Y, Katoh T¹, Mizuno K¹ (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, (2) Department of Cardiology, Sakakibara Memorial Hospital) : Electrical instability of the Heart in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 9) Yodogawa K, Takayama H¹, Abe J, Ohno N, Ibuki C, Seino Y, Katoh T¹, Mizuno K (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Detection of Arrhythmogenic Substrate in Patients with Previous Myocardial Infarction Using Wavelet Transform Analysis. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 10) Kobayashi N¹, Hata N¹, Seino Y, Kume N², Inami T, Shnada T¹, Takahashi Y¹, Tomita K¹, Kitamura M¹, Kurihara O¹, Mizuno K³ (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School, (2) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, (3) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Soluble lectin-Like Oxidized LDL Receptor-1 Levels Measurement for the Early Diagnosis of STEMI : Comparative Study with Myocardial Necrosis Markers. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 11) Kimata N, Seino Y, Inami T, Yamamoto M, Murakami D, Yodogawa K, Abe J, Hayashi M¹, Takano M, Ohba T, Ohno N, Ibuki C, Akutsu K², Hata N², Mizuno K¹ (1) Intensive and Cardiac Care Unit Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Cardiology Nippon Medical School) : Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Type A versus Type B, and Patent versus Thrombosed Type. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 12) Abe J, Seino Y, Inami T, Takano M, Kimata N, Murai K, Murakami D, Yodogawa K, Takano M, Ohba T, Ohno N, Ibuki C, Mizuno K¹ (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Does the Sympathetic Nerve Activity during Sleep Apnea Link to Plaque Vulnerability and Inflammatory Stress in Coronary Artery Disease Patients?. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.

- 13) Otsuka T¹⁾, Ibuki C, Seino Y (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health Nippon Medical School) : Smoking Status and Cardiac Biomarkers in Middle-Aged Men : A Possibility of Ameliorating Un-favorable Cardiac Conditions by Smoking Cessation. 第74回日本循環器学会 (京都), 2010. 3.
- 14) Fujimoto S¹⁾, Yamashita S¹⁾, Nakanishi R¹⁾, Inoue A²⁾, Kuwabara Y²⁾, Seino Y, Kumita S³⁾, Yamashita A⁴⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Toho university Omori Medical Center, ²⁾ Department of Cardiovascular Science and Medicine Chiba University Graduate school of Medicine, ³⁾ department of Clinical Cardiology Nippon Medical School Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Department of Cardiology Tokyo Medical University) : The Importance of Correction of Scattered Radiation in a Multicenter Study (K-MIC) of I-123-metaiodobenzylguanidine Myocardial Scintigraphy. 第74回日本循環器学会, 2010. 3.
- 15) 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹⁾, 北総高血圧研究会²⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院内科 (循環器内科)) : Losartan/hydrochlorothiazide 合剤が24時間血圧変動に与える影響: 地域連携研究 “Investigation of Normalized Blood Pressure control with Appropriate medication (INBA) Study中間報告”. 第32回に本稿血圧学会 (大津), 2009. 10.
- 16) 村井綱見, 鈴木 学¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 梶本克也²⁾, 佐藤直樹¹⁾, 水野杏一³⁾, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学医学部集中治療室, ²⁾ 浅草寺病院内科, ³⁾ 日本医科大学医学部循環器内科) : 胸痛で発症し, 心電図にて急性心筋梗塞と鑑別に苦慮した糖尿病ケトアシドーシスの1例. 第37回日本集中治療医学会 (広島), 2010. 3.
- 17) 品田卓郎¹⁾, 栗原 理¹⁾, 北村光信¹⁾, 富田和憲¹⁾, 小林宣明¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 横山真也¹⁾, 畑 典武¹⁾, 雪吹周生, 清野精彦 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療部) : 低温療法により社会復帰しえた Post-Cardiac Arrest Myocardial Dysfunction の2例. 第37回日本集中治療医学会 (広島), 2010. 3.

2. 内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）

[付属病院神経内科，腎臓内科]

研究概要

当内科学講座は，神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としている。

神経内科では脳卒中，特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでいる。

基礎研究では，脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生をメインテーマとして研究を行っているが，骨髄単球細胞や骨髄間葉系細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経徴候に及ぼす影響およびそのメカニズムについて検討を行っている。骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており，当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている。また，免疫抑制薬を始め抗酸化薬やスタチン，最近ではエイコサペンタエン酸（EPA）等の脳の保護効果について検討を行っている。さらに，近年，脂質異常症治療薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが，我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている。臨床研究では，SCU（Stroke Care Unit）が設立され，脳卒中急性期の超早期診断・治療が行われている。MRIや超音波検査を用いて診断精度や治療成績の向上に取り組んでいる。その他，脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症等の認知症やパーキンソン病に対し，PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。

腎臓内科では，従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え，糸球体腎炎に対するサイトカインの役割やARBおよびスタチンの投与の影響についても研究を進めている。

また，腎クリニック，千葉北総病院の内科や脳神経センターおよび武蔵小杉病院内科に教室員の派遣を行い，各施設での診療・研究に貢献している。

以上，当教室では神経および腎臓内科学領域において，国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い，多くの優れた論文を発表している。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 井田正博¹⁾，吉廣昭子¹⁾，長尾毅彦，福田国彦²⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科，²⁾ 東京慈恵医科大学 放射線科)：マルチライスCTとMRIの臨床応用 頭部・頭頸部 脳出血，くも膜下出血，脳梗塞のMR，CT診断 超急性期を中心として．診断と治療 2004；92 (9)：1499-1510.
- 2) 井田正博¹⁾，吉廣昭子¹⁾，大垣光太郎²⁾，長尾毅彦 (1) 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科，²⁾ 順天堂大学医学部 脳神経内科)：脳血管障害の画像診断2006 MR拡散画像と造影灌流画像 脳虚血超急性期の血栓溶解療法を前提として．臨床画像 2006；22 (4 増刊)：52-67.
- 3) 土居 浩¹⁾，朝本俊司¹⁾，三須恭典¹⁾，福井康二¹⁾，長尾毅彦，井田正博¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 脳神経外科)：髄膜炎の原因としての脊椎椎体炎の検討．日本神経救急学会誌 2006；19 (1)：34-36.
- 4) 土井永史¹⁾，鮫島達夫²⁾，諏訪 浩³⁾，米良仁志⁴⁾，長尾毅彦，横地正之⁵⁾，中村 満²⁾，一瀬邦弘⁶⁾ (1) 茨城県立友部病院 神経内科，²⁾ 東京都保健医療公社豊島病院 精神科，³⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 精神科，⁴⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 麻酔科，⁵⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科，⁶⁾ 元都立大塚病院 精神科)：最近注目される脳神経疾患治療の研究 神経疾患に対するECTの応用．BRAIN and NERVE：神経研究の進歩 2007；59 (4)：313-320.

- 5) 金澤恭子¹⁾, 長尾毅彦, 井田正博²⁾, 日野圭子²⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科, 2) 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科): 脳血管障害の画像診断 Update MRI. *Journal of Clinical Rehabilitation* 2007; 16 (1): 1097-1102.
- 6) 長尾毅彦, 植田敏浩¹⁾, 高田達郎¹⁾, 山上 宏²⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学東横病院 脳卒中センター, 2) 神戸市立医療センター中央市民病院 神経内科): 血栓溶解療法: 現状と未来 血栓溶解療法: 承認後2年間の総括. *脳と循環* 2008; 13 (2): 103-112.
- 7) 長尾毅彦, 野原千洋子¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 脳血管障害最前線 Time is brainの時代を迎えて 超急性期脳梗塞治療への取り組み 早期診断・早期治療に必要なこと. *内科* 2008; 101 (5): 949-960.
- 8) 長尾毅彦, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都医療保健公社荏原病院 神経内科): 脳血管障害最前線 Time is brainの時代を迎えて 急性期脳血管障害の治療 急性期内科治療. *内科* 2008; 101 (5): 876-881.
- 9) 長尾毅彦, 井田正博¹⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター 神経内科): 今日から役立つ認知症診療 塩酸ドネペジルによる認知症治療の実践 塩酸ドネペジルの維持効果についてどう考えるか. *CLINICIAN* 2008; 55 (6): 635-638.
- 10) 長尾毅彦: 脳梗塞急性期治療 t-PA 静注療法 CT・MRIによる虚血領域の評価. *最新医学* 2008; 63 (7): 1427-1434.
- 11) 峰松一夫¹⁾, 中川原譲二²⁾, 平野照之³⁾, 長尾毅彦 (1) 国立循環器病センター 脳血管内科部門, 2) 中村記念病院 脳神経外科, 3) 熊本大学大学院 医学薬学研究部 先端生命医療科学部門 脳神経科学講座 神経内科学分野): 脳卒中 1次予防と2次予防の薬物管理 閉塞する脳卒中(脳梗塞)と抗血栓療法 抗血小板療法. *薬局* 2008; 59 (8): 20-24.
- 12) 長尾毅彦: 脳卒中急性期管理Q&A チーム医療実践のために rt-PA (アルテプラゼ) 静注療法 rt-PA投与後の管理. 救急・集中治療 2008; 20 (7-8): 990-993.
- 13) 長尾毅彦, 片山泰朗: 中枢性視野障害に対する脳機能画像検査法 fMRIと拡散テンソル画像法を中心に. *日本視能訓練士協会誌* 2008; 37: 37-46.
- 14) 山口武典¹⁾, Easton J D²⁾, 長尾毅彦 (1) 国立循環器病センター, 2) Brown University): シーン別画像診断のいま 求められる画像と応える技術 rt-PA時代における急性期脳梗塞の画像診断 標準化に向けて 最先端施設における急性期脳梗塞診療の実践 Stroke MRI 撮像プロトコールと読影の実践. *INNERVISION* 2008; 24 (1): 32-35.
- 15) 吉田正樹¹⁾, 井田正博²⁾, 長尾毅彦, Boucard C¹⁾, 原 崇彰¹⁾, Nguyen T³⁾, Stuevenart J³⁾, Istoc A³⁾, Bellinger L¹⁾, 柴 琢也¹⁾, Iba-Zizen M³⁾, 野田 徹⁴⁾, 北原健二¹⁾, Cabanis E³⁾, 常岡 寛¹⁾ (1) 東京慈恵会医科大学 眼科, 2) 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科, 3) Service de Neuro-Imaging CHNO des XV-XX, 4) 国立病院機構 東京医療センター 眼科): 脳梗塞再発抑制における抗血小板療法のエビデンス. *新薬と臨床* 2008; 57 (12): 1945-1953.
- 16) 長尾毅彦: 認知症医療のインテグレーション かかりつけ医から福祉へつなぐまで 神経内科における認知症専門外来の役割と問題点. *Cognition and Dementia* 2009; 8 (1): 16-19.
- 17) 長尾毅彦: アルツハイマー病診療のスキルアップを考える 進行した認知症の診療スキルアップを考える 中核症状の治療とBPSDへの対応 高度ADの治療になにを期待するか ドネペジル増量に伴う消化器症状などの考え方を含めて. *老年精神医学雑誌* 2009; 20 (増刊): 119-122.
- 18) 長尾毅彦, 日吉康長¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 循環器科): ディペート tPAの意味 有用である. *Clinical Neuroscience* 2009; 27 (2): 230-230.
- 19) 井田正博¹⁾, 長尾毅彦 (1) 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター 神経内科): 脳卒中のすべて 脳卒中の予防 修正可能な危険因子 心房細動. *からだの科学* 2009; (260): 151-154.

追加分訳：

- 1) 熊谷智昭, 濱本 真：連載：What's New in Top Journal 話題の論文：病理学的に前頭側頭型認知症と診断された患者の特徴的な生前プロフィール．Cognition and Dementia 2008；7 (2)：73-74.

(1) 原著：

- 1) Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Fujita E, Aki M, Ishizaki M, Seto S, Griesemer A, Fukuda Y：Current status and issues of Clq nephropathy. Clin Exp Nephrol 2009；13 (4)：263-274.
- 2) Usuda K, Katayama Y：The Effect of Doxazosin Mesilate on Cerebral Blood Flow in Patients with Hypertension and Chronic Cerebral Infarction. J Nippon Med Sch 2009；76 (3)：148-154.
- 3) Amemiya S, Hamamoto M, Kumagai T, Ueda M, Katayama Y, Tanaka K：Neuromyelitis optica preceded by brain demyelinating episode. J Neuroimaging 2009；19 (7)：263-265.
- 4) Utsumi K, Ueda M, Watanabe M, Sakamaki M, Ariei K, Yamazaki M, Komaba Y, Katsura K, Iino Y, Katayama Y：Thrombosis in Japanese patients with Fabry disease. J Neurol Sci 2009；283 (7)：83-85.
- 5) Suzuki K¹⁾, Matsumura N¹⁾, Suzuki T¹⁾, Nakano H¹⁾, Nagayama H, Yokoo H²⁾, Tamura K³⁾, Katayama Y, Sugisaki Y⁴⁾, Oba K¹⁾ (1) Division of Geriatric Medicine, Nippon Medical School, (2) Division of pathology, Gunma University, (3) Division of Surgical Pathology, Tokyo Teisin Hospital, (4) Division of Surgical Pathology Nippon Medical School Hospital)：Creutzfeldt-Jakob disease with V180I mutation and senile plaque. Geriatr Gerontol Int 2009；9 (2)：210-212.
- 6) Nishiyama Y, Abe A, Ueda M, Katsura K, Katayama Y：Nicergoline Increases Serum Substance P Levels in Patients with an Ischemic Stroke. Cerebrovasc Dis 2009；29 (12)：194-198.
- 7) Mori E, Minematsu K, Yamaguchi T, Sasaki M, Hirano T, The J-Act II Group：Effects of 0.6mg/kg intravenous alteplase on vascular and clinical outcome in middle cerebral artery occlusion. Stroke 2010；41 (3)：461-465.
- 8) Nishiyama Y, Ueda M, Katsura K, Otsuka T, Abe A, Nagayama H, Katayama Y：Asymmetric dimethylarginine (ADMA) as a possible risk factor for ischemic stroke. J Neurol Sci 2010；15 (290 (1-2))：12-15.
- 9) 近藤国嗣, 坂田祥子, 小田柿誠二, 横山明正, 佐々みさき, 小沢義典, 古口国雄, 三品雅洋, 篠遠 仁：脳卒中回復期における回復期リハビリテーション病棟の役割：その強みと弱み, 地域連携を通して. Monthly Book Medical Rehabilitation 2009；112 (11)：9-17.

(2) 総説：

- 1) Harada M, Nishiyama Y, Otori T, Okubo S, Sunami E, Abe A, Saito T, Suzuki K, Takayama Y, Toda Y, Katayama Y：Detection of right-to-left shunt by transthoracic echocardiography. J Nippon Med Sch 2009；76 (6)：323-335.
- 2) Ueda M, Katayama Y：Brain protection and regeneration therapy for delayed neuronal injury in neurological disorder. J Nippon Med Sch 2010；77 (2)：56-58.
- 3) 上田雅之, 神谷信雄, 須田 智, 片山泰朗：脳梗塞モデルに対する骨髄細胞移植. 日医大医学会誌 2009；5 (1)：47-52.
- 4) 北村 伸, 川並汪一¹⁾：アルツハイマー病臨床の最前線. Medical Science Digest 2009；35 (4)：138-141.
- 5) 大久保誠二, 片山泰朗：特集 透析診療合併症Q&A -こんなときどうしますか？：〔症候編〕頭痛がみられる場合には何を考え, どのように対応すればよいのでしょうか？. 腎と透析 増大号 2009；66 (4)：413-416.
- 6) 長尾毅彦：プライマリ・ケアに必要な画像診断のコツ 頭部 脳出血の鑑別のための画像診断. 診断と治療 2009；97 (4)：83-92.

- 7) 長尾毅彦, 井田正博¹⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹²⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科, ²⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 頭痛・めまいの診療 確実な診断・治療をするために今必要なこと 見逃してはいけない危険なめまいを診断・治療する 脳血管障害とめまい. 内科 2009; 103 (5): 905-907.
- 8) 石渡明子: 認知症の経過・予後 合併疾患の管理と経過・予後. 老年精神医学雑誌 2009; 20 (6): 651-659.
- 9) 長尾毅彦, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 認知症の経過・予後 血管性認知症の経過・予後. 老年精神医学雑誌 2009; 20 (6): 611-617.
- 10) 長尾毅彦, 野原千洋子¹⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 虚血性脳卒中 診断と治療の進歩 診断 血液・凝血学的診断. 日本内科学会雑誌 2009; 98 (6): 1249-1254.
- 11) 片山泰朗: 脳虚血急性期の脳保護療法を求めて. 脳循環代謝 2009; 20 (2): 8-15.
- 12) 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 桜澤 誠, 麻生定光¹⁾, 大澤郁朗¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (1) 日本医科大学大学院加齢科学細胞生物学): 2. 脳保護療法の新しい試み. 脳循環代謝 2009; 20 (2): 24-30.
- 13) 須田 智, 島崎久仁子¹⁾, 上田雅之, 神谷信雄, 稲葉俊東, 桂研一郎, 片山泰朗 (1) 自治医科大学 脳神経生理学教室): 骨髄細胞移植の基礎研究: ラット脳梗塞モデルにおける急性期骨髄間葉系幹細胞移植, FK506併用による脳保護増強効果の検討. 脳循環代謝 2009; 20 (7): 36-43.
- 14) 福井めぐみ, 飯野靖彦: 集中治療に役立つ腎機能障害の指標. ICUとCCU 2009; 33 (7): 561-567.
- 15) 長尾毅彦: 血栓溶解療法の夢は3時間を超えて: ECASS IIIのインパクト. 内科 2009; 104 (1): 155-155.
- 16) 長尾毅彦, 横地正之¹⁾, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): Monthly View 脳梗塞は“Common Disease”ですから……. 脳神経外科速報 2009; 19 (7): 715-715.
- 17) 服部信孝¹⁾, Lemke M²⁾, 永山 寛, 鈴木正彦³⁾ (1) 順天堂大学医学部 脳神経内科, ²⁾ University of Kiel; Medical Director, Kliniken Alsterdorf, Hamburg, Germany, ³⁾ 東京慈恵会医科大学 神経内科): パーキンソン病治療の最新の話: ドパミンアゴニストの気分障害への効果を中心に. Frontiers in Parkinson Disease 2009; 2 (3): 125-131.
- 18) 桂研一郎, 片山泰朗: 脳保護薬: 今後の展望. 成人病と生活習慣病 2009; 39 (8): 892-896.
- 19) 三井亜希子, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学): 急性腎障害 (acute kidney injury: AKI) の組織診断. Nephrology Frontier 2009; 1 (8): 43-50.
- 20) 内山真一郎¹⁾, 井林雪郎²⁾, 矢坂正弘³⁾, 豊田一則⁴⁾, 長尾毅彦 (1) 東京女子医科大学 神経内科, ²⁾ 誠愛リハビリテーション病院, ³⁾ 九州医療センター 脳血管神経内科, ⁴⁾ 国立循環器病センター 内科脳血管部門): 心原性脳塞栓症予防に対する抗凝固療法の現状と今後の展望. Pharma Medica 2009; 27 (8): 127-132.
- 21) 井田正博¹⁾, 長尾毅彦, 土居 浩²⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 放射線科, ²⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 脳神経外科): 知っておきたい虚血性脳血管障害の知識 基本から最新の知識まで 拡散強調像, 灌流強調像, 磁化率強調像, 頸動脈, プラーク画像. 画像診断 2009; 29 (10): 1140-1153.
- 22) 田久保秀樹¹⁾, 長尾毅彦, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 目でみる症例 パーキンソン病. 内科 2009; 104 (2): 359-363.
- 23) 片山泰朗, 寶金清博¹⁾, 宇野昌明²⁾, 田中耕太郎³⁾, 篠原幸人⁴⁾, 棚橋紀夫⁵⁾ (1) 札幌医科大学 脳神経外科学, ²⁾ 川崎医科大学 脳神経外科学, ³⁾ 富山大学付属病院 神経内科, ⁴⁾ 国家公務員共済組合連合会 立川病院, ⁵⁾ 埼玉医科大学国際医療センター 神経内科): ラジカット発売8周年記念講演会 ラジカルスカベンジャーは脳梗塞急性期治療に貢献しているか? 積み重ねられた8年間のエビデンス. 日経CME 別冊 2009; (9): 1-4.
- 24) 金子朋広, 飯野靖彦: CKDの重要性. 臨床栄養 2009; 115 (4): 338-342.
- 25) 三品雅洋: 印旛脳卒中地域連携パス概論. 印旛市郡医師会報 2009; 49 (1): 38-57.
- 26) 三品雅洋, 近藤国嗣: 脳卒中地域連携パスの現状と今後の課題. 医学のあゆみ 2009; 231 (5): 570-575.
- 27) 三品雅洋, 松本 尚: 脳卒中医療連携の現状と問題点・ドクターヘリを駆使した印旛脳卒中地域連携パス. 日本医師会雑誌 2009; 138 (7): 1353-1357.

- 28) 金子朋広, 飯野靖彦: CKD その臨床的重要性. *Medical Practice* 2009; 26 (10): 1604-1613.
- 29) 大久保誠二, 片山泰朗: 血栓溶解療法の併用薬物療法と therapeutic time window. *医学のあゆみ 新・脳血管疾患 Update 研究と診療の最前線* 2009; 231 (5): 480-484.
- 30) 神谷信雄, 片山泰朗: 脳卒中中の再発予防: 高血圧性脳出血. *治療* 2009; 91 (11): 2677-2680.
- 31) 原 行弘¹⁾, 三品雅洋, 小林士郎²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター): 地域連携バスとリハビリテーションのかかわり: 都市近郊の場合. *脳卒中* 2009; 31 (6): 515-520.
- 32) 三品雅洋, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター): 印旛脳卒中地域連携バス (InCliPS): 手作りデータベースとウェブサイト. *IT Medical* 2009; 2 (3): 45-48.
- 33) 野村浩一, 北村 伸: 老年期の意識障害・けいれん発作: 神経内科医の立場から. *老年精神医学雑誌* 2009; 20 (11): 1265-1269.
- 34) 長尾毅彦: 脳卒中中の征圧をめざして 急性期治療と再発予防 7つの焦点 抗血栓療法. *Medicina* 2009; 46 (11): 1808-1811.
- 35) 長尾毅彦: Monthly View 患者さんを「失う」?. *脳神経外科速報* 2010; 20 (1): 112-112.
- 36) 片山泰朗, 鈴木明文¹⁾ (¹⁾ 秋田県立脳血管研究センター): 脳卒中予防戦略における脂質管理の意義: 脳卒中治療ガイドライン2009改訂の背景とポイントをめぐって. *THERAPEUTIC RESEARCH* 2010; 31 (1): 9-16.
- 37) 永山 寛: プラミベキソール単剤投与で比較的長期に良好な日常生活を維持し得たパーキンソン病の1例. *Frontiers in Parkinson Disease* 2010; 3 (1): 50-52.
- 38) 内海甲一, 平間章郎, 上田佳恵, 三井亜希子, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性腎臓病合併例の高血圧治療. *日医大医学会誌* 2010; 6 (1): 17-22.
- 39) 桂研一郎, 片山泰朗: フリーラジカル. *BRAIN MEDICAL* 特集: 脳組織虚血性傷害のメカニズム: 最新情報と臨床へのトランスレーション 2010; 22 (1): 19-23.

(3) 症例報告:

- 1) Abe A, Nishiyama Y, Kamiyama H¹⁾, Kitahara I²⁾, Katsura K, Katayama Y (¹⁾ Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, ²⁾ Department of Neurology, Shioda Hospital): Symptomatic middle cerebral artery dissection in a young tennis player. *J Nippon Med Sch* 2009; 76 (4): 209-211.
- 2) Suda S, Ueda M, Sakurazawa M, Nishiyama Y, Komaba Y, Katsura K, Kanekawa T¹⁾, Katayama Y (¹⁾ 田尻ヶ丘病院): Clinical and neuroradiological progression in diffuse neurofibrillary tangles with calcification. *J Clin Neurosci* 2009; 16 (8): 1112-1114.

(4) 翻訳:

- 1) 上田雅之, 片山泰朗: 連載「海外論文紹介, Top Journal Up To Date」虚血性ペナンプラ同定における T2^{*}強調画像MRIと組み合わせることによる代謝性バイオセンサーとしての酸素の有望な使用 (Santosh C, et al. Potential use of oxygen as a metabolic biosensor in combination with T2^{*}-weighted MRI to define the ischemic penumbra. *J cereb Blood Flow Metab.* 28: 1742-1753, 2008). *分子脳血管病* 2009; 8 (4): 451-453.

著 書

(1) 総説:

- 1) Utsumi K, Ueda K, Katayama Y: Selective LDL Apheresis reduced on plasma concentrations of adhesion molecules, HDL and LDL Cholesterol: Physical and Clinical Significance 2009 3rd Quarter. *HDL and LDL Cholesterol: Physiology and Clinical Significans*, 2009; pp45-48, Nova Science publishers NY. USA.
- 1) 北村 伸: [共著] わかりやすい画像の話. *老年医学の基礎と臨床II* (大内尉義監修・浦上克哉編), 2009; pp205-228, ワールドプランニング.

- 2) 石渡明子, 北村 伸: [分担] 第III章 臨床診断の進め方. 老年医学の基礎と臨床II 認知症学とマネジメント (大内尉義監修・浦上克哉編), 2009; pp229-244, ワールドプランニング.
- 3) 永山 寛: [分担] 1. 診断, 症候, 鑑別診断 Q17 多系統萎縮症の画像診断で, 進行例では線条体や橋の特有な変化がみられますが初期はどうなのでしょう? 最初に現れる変化は何でしょうか? また途中で画像が変化することはありますか?. パーキンソン病診療Q&A110 (水野美邦編), 2009; pp44-45, 中外医学社.
- 4) 長尾毅彦: [分担] 再発防止 . インフォームドコンセントのための図説シリーズ 脳梗塞の予防と再発防止 (山口 武典編), 2009; pp54-59, 医薬ジャーナル社.
- 5) 永山 寛: [分担] 第2章 パーキンソン病の症状と診断: 症状を知ってしっかり診断に結びつける! Q8 パーキンソン病って運動障害だけなの?. jmedmook いきなり名医! パーキンソン病Q&A: 押さえておきたいポイント33: (服部 信孝編), 2009; pp34-37, 日本医事新報社.
- 6) 上田雅之, 赫 彰郎, 片山泰朗: [共著] 脳梗塞. 内科学症例集図説 (杉本恒明, 小俣政男編), 2009; pp533-535, 朝倉書店.
- 7) 西山康裕, 片山泰朗: [共著] CKDと脳血管障害. 腎と透析2009 増刊号 CKDのすべて, 2009; pp122-125, 東京医学社.
- 8) 飯野靖彦: [共著] CKDの2つのエンドポイントと実態: 日本のCKDの実態. 腎と透析2009 増刊号 CKDのすべて, 2009; pp87-91, 東京医学社.
- 9) 勝又俊弥, 片山泰朗: [分担] 27. イサコペント酸 (EPA), ドコサヘキサエン酸 (DHA). 広範囲 血液・尿化学検査, 免疫学的検査 (第7版) 2: その数値をどう読むか, 2010; pp117-119, 日本臨床社.
- 10) 大鳥達雄, 片山泰朗: [共著] 脳画像による脳梗塞の急性期診断. 研修医のための神経内科診療, 2010; pp16-22, 新興医学出版社.
- 11) 三井亜希子, 飯野靖彦: [分担] 輸液剤の調整・輸液の考え方. ポケット輸液マニュアル 改訂版 (北岡建樹編), 2010; pp85-100, 羊土社.
- 12) 片山泰朗: [分担] 高血圧脳症 Hypertensive Encephatopathy. 今日の診断指針 第6版, 2010; pp560-562, 医学書院.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 長尾毅彦, 角田隆文¹⁾, 野原千洋子²⁾, 横地正之²⁾, 田久保秀樹²⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 感染症内科, 2) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 原因不明の肝機能障害を合併した辺縁系脳炎の疑われる72歳女性例. 第186回日本神経学会関東地方会, 2008. 9.
- 2) 長尾毅彦: PMAによる血栓溶解療法適応判定の試み. MRP-CTP研究会, 2009. 2.
- 3) 野上 茜, 長尾毅彦, 井上 学¹⁾, 梅里尚行¹⁾, 岡村正哉, 横地正之¹⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 総合脳卒中センター 神経内科): 急性期脳梗塞における悪性腫瘍合併例の臨床的特徴. 第34回日本脳卒中学会総会, 2009. 3.

追加分特別講演:

- 1) 長尾毅彦: 心原性脳塞栓症の理想と現実. 第2回アテローム血栓症Update, 2009. 3.
- 2) 長尾毅彦: 心房細動と脳梗塞予防 病診連携における抗凝固療法. Stroke Network Kick-off Meeting, 2009. 3.
- 3) 長尾毅彦: 臨床現場での脳梗塞再発予防療法の実際: 薬剤選択の疑問に答える. 第431回小田原医師会学術講演会, 2009. 3.

(1) 座談会：

- 1) J. Donald E¹⁾, 長尾毅彦²⁾, 平野照之³⁾, 本田省二³⁾, 河野浩之⁴⁾, 上田雅之, 大久保誠二, 伊藤義彰⁵⁾ (1) Brown University, 2) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科, 3) 熊本大学大学院医学薬学研究部 先端生命医療科学部門 脳神経科学講座 神経内科学分野, 4) 済生会熊本病院 脳卒中センター 神経内科, 5) 慶応義塾大学 医学部内科学講座 (神経内科))：脳梗塞2次予防における抗血小板薬の現状：日米を比較して。座談会新薬と臨床 特集/Stroke2009より 抗血小板薬をめぐる話題 クロピドグレルを中心に, 2009. 8.

(2) 会長講演：

- 1) 片山泰朗：当科関連施設の脳ドック・病院における無症候性脳病変の有病率およびその危険因子の解析。第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.

(3) 特別講演：

- 1) 長尾毅彦：最新の脳梗塞治療指針：最近の大規模試験の結果をふまえて。脳梗塞治療の最前線in Miyagi, 2009. 4.
- 2) 長尾毅彦：当院における脳卒中救急の現状：めまい、頭痛からtPAまで。奥州市医師会第606回医学学術講演会, 2009. 4.
- 3) 長尾毅彦：パーキンソン病における3T-MR Neuromelanin Imaging。第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
- 4) 長尾毅彦：私の心原性脳塞栓症再発予防両方のレシピ。Neurosurgery Research, 2009. 5.
- 5) 片山泰朗：脳梗塞の再発予防：JELIS・EPA基礎研究を含めて。第2回熊本脳梗塞再発予防研究会：これからの脳梗塞治療戦略, 2009. 5.
- 6) 長尾毅彦：いかに速く正確にNIHSSを評価するか？。第27回日本神経治療学会総会 共同企画プログラム rt-PA静注療法適正治療講習会, 2009. 6.
- 7) 飯野靖彦：わかりやすい講座13 我が国の腎移植の最近の現状。第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
- 8) 長尾毅彦：東京都大田区における認知症病診連携の試み。第8回呉脳疾患懇話会, 2009. 6.
- 9) 大久保誠二：脳梗塞急性期におけるエダラボン＋tPA併用療法。第13回脳梗塞フォーラム研究集会, 2009. 7.
- 10) 桂研一郎：脳梗塞急性期の脳保護療法。第13回脳梗塞フォーラム研究集会, 2009. 7.
- 11) 駒場祐一：高血圧症を合併した脳血管障害に対する治療戦略。第11回日本医科大学医療連携推進会, 2009. 7.
- 12) 永山 寛：Parkinson病について：診断を中心に。第11回日本医科大学医療連携推進会, 2009. 7.
- 13) 北村 伸：認知症の診断技術のスキルアップ“スクリーニングから鑑別まで”。デメンシアコンgres JAPAN 2009, 2009. 7.
- 14) 長尾毅彦：非弁膜症心房細動に伴う心原性脳塞栓症。Stroke Network 講演会, 2009. 7.
- 15) 長尾毅彦：Diffusion-Perfusion Mismatchは無用の長物か？。第11回福岡脳と循環カンファレンス, 2009. 7.
- 16) 上田雅之：脳卒中の診断と治療：急性期から慢性期。第1回文京区医師会病診連携ミーティング, 2009. 8.
- 17) 三品雅洋：印旛脳卒中地域連携パスと全県共用パス。第4回脳卒中診療ネットワークフォーラム, 2009. 9.
- 18) 山崎峰雄：動脈硬化と認知症。第6回Brain Protection Forum, 2009. 10.
- 19) 上田雅之：脳梗塞治療における病診連携。第2回FTF Meeting, 2009. 10.
- 20) 長尾毅彦：当院におけるstroke MRの実際：diffusion-perfusion mismatchは生き残るのか？。Fighting Vascular Events in 盛岡, 2009. 10.
- 21) 長尾毅彦：脳梗塞の抗血小板療法：動脈硬化ハイリスク症例への対応。第266回練馬区医師会学術部内科医会臨床研究会, 2009. 10.
- 22) 片山泰朗：脳梗塞慢性期治療：危険因子管理・再発予防・PSD。第12回横浜セミナー脳とこころを考える, 2009. 10.
- 23) 神谷信雄, 上田雅之, 片山泰朗：脳梗塞モデルに対する骨髄単核球細胞移植の効果。第9回オザグレル学術講

演会，2009. 12.

- 24) 勝又俊弥：脂肪酸としてのEPAとその作用機序について．東京n-3脂肪酸カンファレンス，2009. 12.
- 25) 上田雅之，稲葉俊東，大久保誠二，勝又俊弥，西山康裕，須田 智，神谷信雄，永田智香子，片山泰朗：基礎研究からみたEPAの脳梗塞に対する効果．EPA脳卒中研究会，2010. 1.
- 26) 上田雅之，稲葉俊東，大久保誠二，勝又俊弥，片山泰朗：基礎研究からみたEPAの脳梗塞に対する効果．高脂血症と脳卒中を考える会，2010. 1.
- 27) 白田和弘：この頭痛をどう診るか／頭痛以外の症状を訴える患者 うつ，身体化障害．頭痛フォーラム2010，2010. 2.
- 28) 片山泰朗：脳梗塞の再発予防：脳卒中ガイドライン2009の改訂点を含めて．第18回北信脳疾患カンファレンス，2010. 2.
- 29) 片山泰朗：脳梗塞再発予防：JELIS・EPA基礎研究を含めて．仙台EPAクリニカルセミナー，2010. 2.
- 30) 永山 寛：Parkinson病で認められる気分障害．3rd Academic Conference in Tokyo，2010. 3.
- 31) 長尾毅彦：虚血性脳血管障害の慢性期治療指針：新ガイドラインと私のプロトコール．第3回郡山脳梗塞フォーラム，2010. 3.
- 32) 片山泰朗：脳卒中再発予防戦略：脳卒中治療GL2009を踏まえて．徳島脳卒中学術講演会，2010. 3.
- 33) 永山 寛：診断と発症早期の治療について．パーキンソン病市民フォーラム，2010. 3.

(4) 教育講演：

- 1) 三品雅洋：パーキンソン症候群におけるPET．城東PDセミナー，2009. 4.
- 2) 三品雅洋：千葉県共用の脳卒中地域連携パス．第103回東葉臨床医学セミナー，2009. 9.
- 3) 長尾毅彦：プロが教える抗血栓療法．第25回日本脳神経血管内治療学会総会，2009. 11.
- 4) 山崎峰雄：アルツハイマー型認知症への対応 高度の認知症例への対応．日本医師会生涯教育講座（第3回医学講座プログラム），2010. 2.
- 5) 片山泰朗：脳梗塞の危険因子とその対策．第51回日本老年医学会関東甲信越地方会，2010. 3.

(5) 基調講演：

- 1) 飯野靖彦：CKDを考慮したCa拮抗薬処方の基本知識と最新情報．N型カルシウムチャンネル研究会：心腎脳連関を考える，2009. 9.

(6) シンポジウム：

- 1) 西山康裕，片山泰朗：無症候性脳出血．第18回日本脳ドック学会総会，2009. 6.
- 2) 桂研一郎：脳梗塞の予防と治療．日本医科大学医学会第19回公開シンポジウム，2009. 6.
- 3) 金子朋広：慢性腎臓病（CKD）の予防と治療．日本医科大学医学会第19回公開シンポジウム，2009. 6.
- 4) 片山泰朗：日本脳卒中学会合同シンポジウム「脳卒中と高血圧」：関連施設の脳ドック病院における無症候性脳病変の有病率およびその危険因子の解析．第32回日本高血圧学会総会，2009. 10.
- 5) 片山泰朗：脳血管障害の危険因子とその対策．第30回メディコピア教育講演シンポジウム 動脈硬化をめぐって，2010. 1.

(7) パネルディスカッション：

- 1) 永山 寛：衝動制御障害とdopamine調節障害症候群と強迫性障害の関係について，dopamine agonistについて．日本イーライリリーWEBパネルディスカッション，2009. 4.
- 2) 大鳥達雄，大平洋司¹⁾，蔵田英明²⁾，西村英樹³⁾（¹⁾ 江戸川病院 循環器科，²⁾ 東京慈恵会医科大学附属青戸病院 糖尿病・代謝・内分泌内科，³⁾ 東京女子医科大学東医療センター 腎臓内科）：Ca拮抗薬の可能性：心腎脳連関の立場から．N型カルシウムチャンネル研究会：心腎脳連関を考える，2009. 9.

(8) セミナー：

- 1) 山崎峰雄：認知症の最近の話題：アルツハイマー型認知症の早期診断と新規治療．Cardio-Cerebral Conference

- (第4回), 2009. 8.
- 2) 北村 伸: 認知症診療に実際 問診と神経学的診察. 第51回日本老年医学会学術集会 認知症診療の実践セミナー, 2009. 6.
 - 3) 長尾毅彦: 最新の脳卒中診療: 脳卒中にならないために. 第7回日本脳卒中協会東京都支部市民公開セミナー, 2009. 10.
 - 4) 山崎峰雄: アルツハイマー型認知症の診断 (早期例~高度例) と治療の展望. 城北クリニカル・カンファレンス・セミナー, 2009. 11.
 - 5) 長尾毅彦: これからの血栓溶解療法適応判定の拠りどころ: 私の意見. 第12回京都脳卒中セミナー, 2009. 11.
- (9) ランチョンセミナー:
- 1) 飯野靖彦: CKD 治療における Ca 拮抗薬の位置づけ: 最近の知見. 第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
 - 2) 桂研一郎: 脳保護療法の進歩. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
 - 3) 石渡明子: 認知症の画像診断. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
 - 4) 長尾毅彦: TIA から始める抗血栓療法. 第12回日本栓子検出と治療学会, 2009. 10.
 - 5) 長尾毅彦: 脳動脈解離における頭痛, 頸部痛の意義. 第68回日本脳神経外科学会, 2009. 10.
- (10) 一般講演:
- 1) Kuribayashi H¹⁾, Minowa T²⁾, Maitani Y²⁾, Sekino M³⁾, Ohsaki H³⁾, Ueda M, Katayama Y (¹⁾ Varian, Inc, ²⁾ Institute of Medical Chemistry, Hoshi University, ³⁾ Department of Advanced Energy, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo): Accuracy of T₁ and M₀ maps using a SPGR sequence with variable flip angles at 4.7 T, 7T, and 9.4 T : A Gd-doped gel phantom study. The 17th Scientific Meeting and Exhibition of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Honolulu, USA), 2009. 4.
 - 2) Ueda M, Inaba T, Nishiyama Y, Okubo S, Suda S, Kamiya N, Nagata C, Nagayama H, Katayama Y : Pretreatment with ethyl eicosapentaenoic acid ameliorates ischemic brain damage in a rat transient focal ischemia model. The 24th International Symposium on CBFM and Function & IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Chicago, USA), 2009. 6.
 - 3) Nomura K, Kastumata T, Tanaka N, M G¹⁾, E J¹⁾, Fujiwara M¹⁾, Egawa S¹⁾, Shimizu H¹⁾, Nishiyama Y, Otori T, Kawanami O¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School) : Effects of long-term administration of HMG-CoA reductase inhibitor atorvastatin, on microvessels in the brain of stroke-prone spontaneously hypertensive rats. The 24th International Symposium on CBFM and Function & IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Chicago, USA), 2009. 6.
 - 4) Nito C, Ueda M, Chan P¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Stanford School of Medicine Neurosurgery) : Involvement of mitogen-activated protein kinase pathways in expression of aquaporin-4 in rat cortical astrocytes after oxygen glucose deprivation. The 24th International Symposium on CBFM and Function & IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Chicago, USA), 2009. 6.
 - 5) Kamiya N, Ueda M, Igarashi H¹⁾, Nishiyama Y, Suda S, Katayama Y (¹⁾ Brain Research Institute. University of Niigata) : Monitoring of intra-arterially administered bone marrow mononuclear cells in rat transient focal ischemia model using MRI. The 24th International Symposium on CBFM and Function & IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Chicago, USA), 2009. 6.
 - 6) Nagao T, Nogami A, Okamura M, Umesato N, Inoue M, Komine-Kobayashi M, Nohara C, Yoshimura N, Ohtake T, Hirabayashi K, Yokochi M, Katayama Y, Takubo H : Clinical background of acute ischemic

- stroke patients with extremely high levels of serum D-dimer. 22nd Congress of the International Society of Thrombosis and haemostasis (Boston MA, USA), 2009. 7.
- 7) Fukui M, Mii A, Shimizu A¹⁾, Kaneko T, Fujita E, Masuda Y¹⁾, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y¹⁾ : Endothelial cell injuries in idiopathic membranous nephropathy with focal segmental glomerular sclerosis. 42nd Annual Meeting & Scientific Exposition : ASN (San Diego, USA), 2009. 10.
 - 8) Shimizu H¹⁾, Nomura K, Yamagishi S¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School) : Methionine aminopeptidase 2 (MetAP2) as a potential therapeutic target for human non-small cell lung cancers. The 1st International Forum of Regional and Targeting Therapies for Cancer (Shanghai, China), 2009. 11.
 - 9) Sakamaki M, Utsumi K, Yamazaki M, Tsukamoto K, Nagayama H, Katayama Y : The pathogenetic mechanism of severe progressive white-matter lesions of a 44-year-old man diagnosed with Fabry's disease. Sixth International Congress on Vascular Dementia (Barcelona, Spain), 2009. 11.
 - 10) Hirano T, Sasaki M, Mori E, Minematsu K, Nakagawara J, Yamaguchi T, The Jact-II Group : Residual vessel length 5mm on MR angiography identifies poor responders to 0.6 mg/kg alteplase in patients with acute MCA occlusion. International Stroke Conference 2010 (San Antonio TX, USA), 2010. 2.
 - 11) 内海甲一, 平間章郎, 上田佳恵, 金子朋広, 山崎峰雄, 飯野靖彦, 片山泰朗 : 糖尿病性腎症患者におけるRAS (renin angiotensin system) 薬剤併用によるアディポネクチン, P-セレクチンへの影響. 第106回日本内科学会総会, 2009. 4.
 - 12) 大久保誠二, 五十嵐博中¹⁾, 濱本 真, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学 脳研究所 統合脳機能研究センター) : Diffusion-Perfusion MRIを用いた深部小梗塞の進行の検討. 第106回日本内科学会総会, 2009. 4.
 - 13) 永山 寛, 濱本 真, 塚本和久, 山崎峰雄, 西山康裕, 片山泰朗 : 多系統萎縮症患者のMIBG心筋シンチグラフィの経時的变化 : 第2報. 第106回日本内科学会総会, 2009. 4.
 - 14) 仁藤智香子, 上田雅之, Pak H. C, 片山泰朗 : 無酸素無糖条件負荷後アストロサイトにおけるMAPKのAQP4発現調節に対する役割. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 15) 上田雅之, 須田 智, 神谷信雄, 西山康裕, 大久保誠二, 永田智香子, 永山 寛, 片山泰朗 : ラット局所脳虚血モデルにおけるEPA-Eの虚血性脳損傷軽減効果. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 16) 山崎峰雄, 森 修¹⁾, 山崎昌子¹⁾, 新井裕至, 村山繁雄²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 初石病院神経内科・病理, ²⁾ 東京都老人研高齢者ブレインバンク) : 認知症専門領域における16年連続剖検159例の病理学的検討. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 17) 中嶋信人, 水越元気, 野本達也, 上田雅之, 片山泰朗 : 高齢者脳梗塞症例におけるrt-PA静注療法の検討. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 18) 熊谷智昭, 雨宮志門, 濱本 真, 三品雅洋, 片山泰朗 : 人工透析による血漿アミロイド β の変動. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 19) 石渡明子, 水村 直¹⁾, 北村 伸, 片山泰朗 (¹⁾ 東邦大学医療センター 大森病院 放射線科) : 3D-SSPによるアルツハイマー病のintrasubjectの再現性の検討. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 20) 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山康裕 : 急性期脳梗塞に対する軽度脳低体温療法の検討. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 21) 永山 寛, 上田雅之, 濱本 真, 塚本和久, 片山泰朗 : 血中レボドーパ動態に与えるペプシノーゲン濃度の影響. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 22) 阿部 新, 西山康裕, 片山泰朗 : ニセルゴリンによるsubstance Pの変化 慢性期脳梗塞症例における基底核病変による比較. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 23) 須田 智, 島崎久仁子¹⁾, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷信雄, 桂研一郎, 片山泰朗 (¹⁾ 自治医科大学 脳神経生理

- 学)：脳梗塞モデルにおける骨髄間葉系幹細胞移植時のFK506併用による脳保護増強効果の検討．第50回日本神経学会総会，2009．5．
- 24) 三品雅洋，小林士郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター)：印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) のウェブサイトの検証．第50回日本神経学会総会，2009．5．
- 25) 桜澤 誠，桂研一郎，齋藤萌子，麻生定光¹⁾，大田成男¹⁾，片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所 生化学部門)：ラット脳梗塞モデルに対するPTD-FNK蛋白・低体温療法の併用効果．第50回日本神経学会総会，2009．5．
- 26) 福井めぐみ，藤野鉄平，平間章郎，肥後清一郎，原 啓子，金子朋広，三井亜希子，清水 章¹⁾，飯野靖彦，片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学 解析人体病理学)：LDLアフェレーシスが有効であった巣状糸球体硬化病変を伴う膜性腎症の1例．第562回日本内科学会関東地方会，2009．5．
- 27) 小柳清光²⁾，山崎峰雄¹⁾，橋本智代²⁾，若林孝一³⁾，高橋 均⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)，²⁾ 東京都神経科学研究所神経病理，³⁾ 弘前大学医学部神経病理，⁴⁾ 新潟大学医学部脳研究所病理)：TDP-43と神経細胞脱落：グアム島パーキンソン認知症における観察．第50回日本神経病理学会総会学術研究会，2009．5．
- 28) 橋本智代^{1,2)}，長谷川成人³⁾，山崎峰雄^{1,4)}，河上江美子¹⁾，新井哲明³⁾，秋山治彦³⁾，柿田明美⁵⁾，土谷邦秋⁶⁾，森田 俊⁷⁾，水谷俊雄⁸⁾，高橋 均⁹⁾，小柳清光¹⁾ (¹⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理学，²⁾ 東京ガス株式会社人事部安全健康・福利室，³⁾ 東京都精神医学総合研究所分子神経生物学，⁴⁾ 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)，⁵⁾ 新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター脳疾患標本資源解析学，⁶⁾ 東京都立松沢病院検査科，⁷⁾ 信楽園病院病理科，⁸⁾ 東京都立神経病院検査科，⁹⁾ 新潟大学脳研究所病理学分野)：リン酸化TDP43と神経原線維変化からみるグアム島の筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の本体について．第50回日本神経病理学会総会学術研究会，2009．5．
- 29) 長尾毅彦，井上 学¹⁾，吉澤 寿²⁾，井田正博¹⁾，横地正之¹⁾，片山泰朗，田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 脳卒中センター 神経内科，²⁾ 東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科)：パーキンソン病における3T-MR Neuromelanin Imaging．第50回日本神経学会総会，2009．5．
- 30) 井上 学¹⁾，長尾毅彦，望月由武人²⁾，河村 満³⁾，高橋 学⁴⁾，横地正之¹⁾，田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 脳卒中センター 神経内科，²⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 脳神経外科，³⁾ 昭和大学医学部 神経内科，⁴⁾ 東京都保険医療公社荏原病院 検査科)：頸動脈狭窄病変におけるMRブラークイメーシングと超音波所見の異同：病理所見との対応．第50回日本神経学会総会，2009．5．
- 31) 野上 茜，長尾毅彦，井上 学¹⁾，梅里尚行¹⁾，岡村正哉，横地正之¹⁾，片山泰朗，田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科)：脳梗塞急性期におけるD-dimer異常高値の意義．第50回日本神経学会総会，2009．5．
- 32) 福地孝明，大鳥達雄，三品雅洋，阿部 新，中嶋信人，岡村正哉，小林士郎¹⁾，野本達也，長尾毅彦，片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター)：日本医科大学神経内科関連病院におけるrt-PA投与症例の検討-3．第27回日本神経治療学会総会，2009．6．
- 33) 岡村正哉，長尾毅彦，野上 茜，三品雅洋，野本達也，萩原 浩，小林士郎¹⁾，片山泰朗，横地正之²⁾，田久保秀樹²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科)：tPA治療開始時間は治療成績と相関するのか？．第27回日本神経治療学会総会，2009．6．
- 34) 塚本和久，永山 寛，上田雅之，濱本 真，片山泰朗：Parkinson病患者の心臓弁逆流に関するドパミン作動薬内服状況と加齢の検討．第27回日本神経治療学会総会，2009．6．
- 35) 野村浩一，上田雅之，駒場祐一，瀬田健博¹⁾，桂研一郎，片山泰朗 (¹⁾ 日立横浜病院 神経内科)：まれな画像所見を認めた脳表へモジエリン沈着症の1症例．第27回日本神経治療学会総会，2009．6．
- 36) 酒巻雅典，塚本和久，永山 寛，角南英子，山崎峰雄，片山泰朗：不随意運動，低換気を認めなかった卵巣奇

- 形腫合併脳炎の22歳女性例. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 37) 西山康裕, 阿部 新, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 慢性期脳梗塞における基底核病変の有無によるサブスタンスPの比較およびnicergolineによる変化. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 38) 桜澤 誠, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: 慢性期入院患者における血中asymmetric dimethylarginine に対するsimvastatinの影響. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 39) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞後うつ状態の患者に対するfluvoxamine投与による臨床効果についての検討: 第2報. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 40) 仁藤智香子, 上田雅之, 片山泰朗: SOD1 overexpression はp38MAPK/cPLA2 pathwayを抑制することにより虚血再灌流後の血液脳関門障害を軽減する. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 41) 上田雅之, 須田 智, 神谷信雄, 西山康裕, 大久保誠二, 永田智香子, 永山 寛, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおけるEPA-E前投与の脳保護効果. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 42) 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山康裕: 急性期脳梗塞に対する軽度脳低体温療法の検討. 第27回日本神経治療学会総会, 2009. 6.
- 43) 大久保誠二, 濱本 真, 熊谷智昭, 片山泰朗: 高齢者における髄液tap testの検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 44) 山崎峰雄, 水村 直¹⁾, 石渡明子, 片山泰朗 (¹⁾ 東邦大学医療センター 大森病院 放射線科): もの忘れ外来におけるVSRADの有用性と限界: MMSE23点以下かつZ-score1未満例の検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 45) 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 石渡喜一¹⁾, 石橋賢士¹⁾, 小林士郎²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 東京都老人総合研究所 ポジトロン医学研究施設, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター): DOPA系PETにより偶然発見されたパーキンソン病: PETによる発症前診断の可能性の検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 46) 金 景成¹⁾, 三品雅洋, 小林士郎¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学 千葉北総病院 脳神経センター, ²⁾ 日本医科大学 脳神経外科): 頭部慢性硬膜下血腫に合併する腰椎疾患に関する研究. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 47) 桜澤 誠, 勝又俊弥, 桂研一郎, 片山泰朗: 慢性期患者の血中asymmetric dimethylarginine (ADMA) に対するsimvastatinの効果. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 48) 西山康裕, 上田雅之, 阿部 新, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞既往患者と健康診断受診者におけるasymmetric dimethylarginine (ADMA) と腎機能障害との関連性. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 49) 駒場祐一, 有井一正, 片山泰朗: T2'画像を用いた微小脳出血に関与する因子についての検討 第2報. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 50) 西山 穰, 勝又俊弥, 片山泰朗: 頸動脈エコー上のプラーク輝度と脳梗塞の臨床病型及び危険因子の関連の検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 51) 内海甲一, 酒巻雅典, 大鳥達雄, 山崎峰雄, 駒場祐一, 桂研一郎, 片山泰朗: Fabry病における血栓合併症の頻度についての検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 52) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 大久保誠二, 上田佳恵, 渡辺容子, 西山康裕, 駒場祐一, 片山泰朗: 当SCU入院患者における慢性腎臓病と白質病変および脳梗塞危険因子に関する検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 53) 勝又俊弥, 大鳥達雄, 大久保誠二, 上田佳恵, 渡辺容子, 西山康裕, 駒場祐一, 片山泰朗: 脳梗塞患者における慢性腎臓病と頸動脈病変に関する検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 54) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞後うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 55) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者におけるうつ状態の検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 56) 上田佳恵, 渡辺容子, 金子朋広, 内海甲一, 勝又俊弥, 飯野靖彦, 片山泰朗: CKDの分類からみた急性期脳梗

- 塞患者について. 第52回日本腎臓学会学術総会, 2009. 6.
- 57) 三井亜希子, 清水 章¹⁾, 藤田恵美子, 安藝 薫¹⁾, 益田幸成¹⁾, 石崎正通¹⁾, 藤野鉄平, 金子朋広, 田近賢二²⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学, 2) 日本医科大学内科学 血液・消化器・内分泌代謝部門): 内皮細胞傷害を呈する造血幹細胞移植後遺症についての臨床病理学的検討. 第52回日本腎臓学会学術総会, 2009. 6.
- 58) 金子朋広, 渡辺容子, 肥後清一郎, 田口志保, 原 啓子, 有馬留志, 上田佳恵, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: CKD stage3のIgA腎症に対する扁桃摘出後ステロイドパルス+ミゾリビン療法の治療効果. 第52回日本腎臓学会学術総会, 2009. 6.
- 59) 内海甲一, 肥後清一郎, 渡辺容子, 平間章郎, 上田佳恵, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病患者におけるrenin angiotensin system (RAS) 阻害薬の酸化LDL, ADMAへの影響. 第52回日本腎臓学会総会, 2009. 6.
- 60) 福井めぐみ, 金子朋広, 藤野鉄平, 原 啓子, 田口志保, 平間章郎, 肥後清一郎, 飯野靖彦, 片山泰朗: 急速な腎機能, 胸水貯留悪化の原因が人工弁感染性心内膜炎であった1例. 第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
- 61) 肥後清一郎, 金子朋広, 藤野鉄平, 平間章郎, 渡辺容子, 田口志保, 原 啓子, 安田文彦, 福田久美子, 有馬留志, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 徹底した化学療法によって全身状態改善認められた多発性骨髄腫 (MM) の1例. 第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
- 62) 田口志保, 金子朋広, 渡辺容子, 肥後清一郎, 原 啓子, 安田文彦, 福田久美子, 有馬留志, 上田佳恵, 福井めぐみ, 内海甲一, 三井亜希子, 清水 章¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) 日本医科大学付属病院 第一病理部): 消化器症状で発症した抗GBM抗体腎炎の1例. 第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
- 63) 鎌野千佐子, 橋本和政, 柏木哲也, 大沢弘和¹⁾, 齋藤サビーネ京子¹⁾, 西邨俊吾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) 博慈会腎クリニック 腎臓内科): 透析患者における脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N末端フラグメント (NT-proBNP) 値と体流量心機能の関連. 第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
- 64) 中田悠皓¹⁾, 鈴木建也¹⁾, 現影弘一¹⁾, 柏木哲也, 富田孝行²⁾, 岩野隆裕²⁾, 大塚雄司²⁾, 三戸康義³⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗 (1) 北千住東口腎クリニック, 2) 苑田第二病院, 3) 苑田第三病院): 高用量のDarbeopetin- α による腎性貧血治療効果の検討. 第54回日本透析医学会学術集会・総会, 2009. 6.
- 65) 石井知香, 根本留美, 若松直樹, 野村利明, 北村 伸, 宗像一雄, 川並汪一: 街ぐるみ認知症相談センターにおけるタッチパネル式スクリーニング機器による認知症早期発見の試み. 第24回日本老年精神医学会総会, 2009. 6.
- 66) 石原貴起¹⁾, 中川直樹²⁾, 岩渕洋一³⁾, 縄田 淳⁴⁾, 山崎 諭⁵⁾, 石村栄治⁶⁾, 木村友則⁷⁾, 内海甲一, 菊池健次郎⁸⁾, 丸山弘樹¹⁾ (1) 新潟大学腎医学医療センター, 2) 旭川医科大学 内科学, 3) 三条総合病院, 4) 中嶋病院, 5) 佐久総合病院, 6) 大阪市立大学, 7) 大阪大学, 8) 北海道循環器病院): ファブリー病患者の遺伝子解析. 第52回日本腎臓学会学術総会, 2009. 6.
- 67) 長尾毅彦, 谷佳代子¹⁾, 刈米和子¹⁾, 佐藤芳雄¹⁾, 横地正之²⁾, 片山泰朗, 田久保秀樹²⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院 検査科, 2) 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科): 抗凝固療法におけるプロトンピン時間試薬の精度について (第2報) 脳卒中基幹病院の実態調査. 第32回日本血栓止血学会学術総会, 2009. 6.
- 68) 須田 智: 脳梗塞における骨髄細胞移植治療. SCU '09 Meeting (Sendagi Conference of Update Neuroscience), 2009. 7.
- 69) 福井めぐみ, 三井亜希子, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗, 清水 章¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学): 糸球体にsegmental sclerosisを伴う慢性腎症の臨床病理学的検討. 第10回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 2009. 7.
- 70) 谷佳代子¹⁾, 長谷川勝美¹⁾, 刈米和子¹⁾, 佐藤芳雄¹⁾, 長尾毅彦 (1) 東京都保健医療公社荏原病院 検査科): 経口抗凝固療法のモニタリングに関する全国実態調査. 第58回日本医学検査学会, 2009. 7.

- 71) 阿部 新, 西山康裕, 上田雅之, 片山泰朗: tPA投与症例における, 早期再開通後の出血合併症の検討: DWIおよびPWIを用いて. The 28th Mt. Fuji Workshop on CVD, 2009. 8.
- 72) 金子朋広, 福井めぐみ, 安田文彦, 福田久美子, 平間章郎, 有馬留志, 上田佳恵, 三井亜希子, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: IgA腎症に対する扁桃摘出後ステロイドパルス+ミゾリビン療法の短期治療効果. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 73) 平間章郎, 内海甲一, 石原 力, 有馬留志, 上田佳恵, 三井亜希子, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 糖尿病腎症患者へのRAS系薬剤使用とアデイボネクチンおよびP-セクレチンの関係. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 74) 原田未那, 阿部 新, 西山康裕, 大鳥達雄, 片山泰朗: シルデナフィル内服後に生じた前大脳動脈解離の56歳男性例. 第565回日本内科学会関東地方会, 2009. 9.
- 75) 原田未那, 阿部 新, 西山康裕, 大鳥達雄, 片山泰朗: シルデナフィル内服後に生じた前大脳動脈解離の56歳男性例. 第190回日本神経学会関東地方会, 2009. 9.
- 76) 熊谷智昭, 雨宮志門, 濱本 真, 片山泰朗: 非典型的なMRI所見を呈した抗リン脂質抗体症候群合併脳静脈血栓症の35歳男性例. 第190回日本神経学会関東地方会, 2009. 9.
- 77) 原田未那, 西山康裕, 大久保誠二, 角南英子, 阿部 新, 齋藤智成, 鈴木健太郎, 高山洋平, 戸田諭補, 大鳥達雄, 片山泰朗: コントラストエコー法を用いた急性期脳塞栓症の塞栓源検索について. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 78) 戸田諭補, 大久保誠二, 齋藤智成, 角南英子, 鈴木健太郎, 高山洋平, 原田未那, 金丸拓也, 村賀香名子, 阿部 新, 西山康裕, 西山 稔, 大鳥達雄, 片山泰朗: 当院SCUにおける活動性癌を合併した脳梗塞症例の検討. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 79) 三品雅洋, 石井賢二, 石渡喜一, 石橋賢士, 織田圭一, 小林士郎, 片山泰朗: ドパミンシナプス前機能PETにより発症前に診断されたパーキンソン病例. 第49回日本核医学会学術総会, 2009. 10.
- 80) 栗林秀人¹⁾, 藁輪卓也²⁾, 米谷芳枝²⁾, 関野正樹³⁾, 大崎博之³⁾, 上田雅之, 片山泰朗 (¹⁾ バリアンテクトロジーズ ジャパンリミテッド, ²⁾ 星薬科大学医薬品化学研究所 創剤構築研究室, ³⁾ 東京大学大学院新領域創成科学研究科): スライス選択2次元SPGR法を用いたT1マップの定量性の検証. 第37回日本磁気共鳴医学会大会, 2009. 10.
- 81) 永山 寛: YJ-EXPANDS パーキンソン病のアンヘドニア有病率に関する全国調査: 予備的検討. 第3回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2009. 10.
- 82) 永山 寛: レボドーパ動態における腎機能の影響. 第3回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2009. 10.
- 83) 上田雅之, 稲葉俊東, 大久保誠二, 西山康裕, 神谷信雄, 須田 智, 永山 寛, 永田智香子, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおけるEPA-Eの神経保護効果の検討 (3): 虚血中のCBFおよびADCに及ぼす影響. 第21回日本脳循環代謝学会総会, 2009. 11.
- 84) 三品雅洋, 鈴木正彦, 石井賢二, 石渡喜一, 北村 伸, 石橋賢士, 織田圭一, 坂田宗久, 濱本 真, 小林士郎, 片山泰朗 (¹⁾ 東京都老人総合研究所 ポジトロン医学研究施設): 線条体ドパミントランスポーターとドパミンD2受容体分布のパーキンソン病の病期による違い. 第21回日本脳循環代謝学会総会, 2009. 11.
- 85) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者における, 気分障害の検討. 第21回日本脳循環代謝学会総会, 2009. 11.
- 86) 神谷信雄, 齋藤智成, 太田智大, 濱本 真, 片山泰朗: 精神症状で発症し低Na血症を伴った橋本脳症と考えられた74歳男性例. 第191回日本神経学会関東地方会, 2009. 11.
- 87) 高山洋平, 西山康裕, 大久保誠二, 大鳥達雄, 片山泰朗: スポーツで発症した椎骨動脈解離による脳梗塞の1例. 第191回日本神経学会関東地方会, 2009. 11.

- 88) 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗: 活動性IgA腎症に対する扁桃摘出後メチルプレドニゾロンパルスとミゾリビン併用療法: 臨床的寛解率と腎機能の検討. IgA腎症カクテル療法研究会シンポジウム (第5回), 2009. 11.
- 89) 西山康裕, 上田雅之, 大鳥達雄, 大久保誠二, 永山 寛, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳ドック受診者における cerebral microbleed の特徴について. 第21回日本脳循環代謝学会総会, 2009. 11.
- 90) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 頭痛患者における, 気分障害の検討. 第37回日本頭痛学会総会, 2009. 11.
- 91) 阿部 新, 赤路和則¹⁾, 西山康裕, 片山泰朗 (¹⁾ 美原記念病院 脳神経外科): 経上腕動脈法の頸動脈stent留置術. 第25回日本脳神経内治療学会, 2009. 11.
- 92) 原田未那, 西山康裕, 阿部 新, 大久保誠二, 角南英子, 鈴木健太郎, 高山洋平, 戸田諭補, 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳梗塞で発症した頭痛を伴わない前大脳動脈解離の3症例. 第37回日本頭痛学会総会, 2009. 11.
- 93) 鈴木健太郎, 大久保誠二, 西山康裕, 阿部 新, 角南英子, 原田未那, 高山洋平, 戸田諭補, 大鳥達雄, 片山泰朗: 出血性梗塞発症のリスクと予後の検討. 第20回日本脳循環代謝学会, 2009. 11.
- 94) 高山洋平, 西山康裕, 阿部 新, 大久保誠二, 角南英子, 鈴木健太郎, 原田未那, 戸田諭補, 大鳥達雄, 片山泰朗: バッティングセンターでの運動が原因と考えられた頭蓋外椎骨動脈解離の1例. 第37回日本頭痛学会総会, 2009. 11.
- 95) 福井めぐみ: LDLアフェレーシスが有効であった難治性ネフローゼ症候群の3例. 第9回腎臓内科ミート・ザ・エキスパート・ミーティング, 2009. 12.
- 96) 原田未那: Wegener肉芽腫症の治療中に脳梗塞を発症した1例. 第5回文京ニューロサイエンスフォーラム (ファイザー主催), 2010. 1.
- 97) 野村浩一: 脳卒中易発高血圧自然発症ラットに対するスタチン長期投与による脳血管保護効果. 第6回東京脳卒中診断研究会, 2010. 2.
- 98) 大久保誠二: 日本医科大学 SCUの現状. 第6回東京脳卒中診断研究会, 2010. 2.
- 99) 村賀香名子, 平林久吾¹⁾, 田久保秀樹¹⁾, 横地正之¹⁾, 関根万里²⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科, ²⁾ 日本医科大学 皮膚科): 長期間診断が困難であったfamilial amyloid polyneuropathy type IVの73歳女性例. 第192回日本神経学会関東地方会, 2010. 3.
- 100) 野上 茜, 滝沢まどか, 永山 寛, 山崎峰雄, 片山泰朗: 無症候性高CK血症で発症した筋生検にて診断を得た58歳女性. 第192回日本神経学会関東地方会, 2010. 3.
- (11) イブニングセミナー:
- 1) 石渡明子: 認知症診断における脳血流SPECTの役割について考える: 認知症診断における脳機能画像の基礎と応用. 第50回日本神経学会総会, 2009. 5.
 - 2) 山崎峰雄: 脳ドックにおける認知症の鑑別診断: 脳血流検査とVSRADの位置づけ. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- (12) ランチョンチョンセミナー:
- 1) 飯野靖彦: 最近注目される高リン血症の危険性. 第54回日本透析医学会集会・総会, 2009. 8.
- (13) 指定講演:
- 1) 駒場祐一, 片山泰朗: 高齢者皮下出血の2次予防はどうすべきか. The 28th Mt. Fuji Workshop on CVD, 2009. 8.
- (14) 同窓会医学研究助成金受賞者講演:
- 1) 上田雅之: 神経疾患における遅発性神経細胞障害に対する脳保護・再生療法. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.

[付属病院リウマチ科]

研究概要

リウマチ科では、リウマチ性疾患に関する臨床研究、基礎的研究を行っている。

臨床研究では、1) 近年、関節リウマチの治療に応用されるようになった生物学的製剤の臨床成績や合併症、2) 当科開設以来行っている人工関節手術の成績、3) 変形性関節症に対するサプリメント療法を課題とし、学会発表、論文投稿を行った。

基礎的研究では、変形性関節症の病態の解明を行うとともに、軟骨細胞の代謝についてプロテオミクスを用いて分子性生物学に研究を行った。また、臨床的検討に値する症例については、適宜症例報告としてまとめた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsuno H¹, Nakamura H, Katayama K², Hayashi S², Kano S², Yudoh K², Kiso Y³ (1) Matsuno Clinic for Rheumatic Diseases, 2) Research Group of Arthritis Pathology, Matsuno Clinic for Rheumatic Diseases, 3) Institute for Health Care Science, Suntory Ltd.) : Effects of an oral administration of glucosamine-chondroitin-quercetin glucoside on the synovial fluid properties in patients with osteoarthritis and rheumatoid arthritis. *Biosci Biotechnol Biochem.* 2009 Feb ; 73 (2) : 288-92. Epub 2009 Feb 7. 2009 ; 73 (2) : 288-292.
- 2) Masuko K¹, Murata M², Suematsu N¹, Okamoto K¹, Yudoh K², Nakamura H, Kato T¹ (1) Department of Biochemistry, St. Marianna University School of Medicine, 2) Institute of Medical Science, St. Marianna University School of Medicine) : A metabolic aspect of osteoarthritis : lipid as a possible contributor to the pathogenesis of cartilage degradation. *Clin Exp Rheumatol* 2009 ; 27 (2) : 347-353.
- 3) Takenouchi K, Morishita M, Saitoh K¹, Wauke K¹, Takahashi H¹, Nagashima M¹ (1) Department of Rheumatology, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital) : Long-term Results of Ankle Arthrodesis Using an Intramedullary Nail with Fins in Patients with Rheumatoid Arthritis Hindfoot Deformity. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (5) : 240-246.
- 4) Masuko K¹, Murata M², Yudoh K², Shimizu H³, Beppu M³, Nakamura H, Kato T¹ (1) Department of Biochemistry, St. Marianna University School of Medicine, 2) Institute of Medical Science, St. Marianna University School of Medicine, 3) Department of Orthopedics, St. Marianna University School of Medicine) : Prostaglandin E2 regulates the expression of connective tissue growth factor (CTGF/CCN2) in human osteoarthritic chondrocytes via the EP4 receptor. *BMC Res Notes* 2010 ; 3 : 5.

(2) 総説：

- 1) Masuko K¹, Murata M², Yudoh K², Kato T¹, Nakamura H (1) Department of Biochemistry, St. Marianna University School of Medicine, 2) Institute of Medical Science, St. Marianna University School of Medicine) : Anti-inflammatory effects of hyaluronan in arthritis therapy : Not just for viscosity. *Int J Gen Med* 2009 ; 2 (2) : 77-81.
- 2) 中村 洋, 橋本三四郎 : 変形性関節症におけるグルコサミンの効果. *リウマチ科* 2009 ; 141 (4) : 424-429.
- 3) 中村 洋 : 膝疾患に対する有効的な治療法とは? 「サプリメントによる治療」. *Anti-Aging medicine* 2009 ; 5 (2) : 220-223.
- 4) 中村 洋 : 軟骨代謝に関与するメディエーターと変形性関節症. *リウマチ科* 2009 ; 28 (2) : 183-188.
- 5) 中村 洋 : 変形性関節症に対するグルコサミン・コンドロイチンの有用性. *日本関節病学会誌* 2009 ; 28 (2) : 183-188.

(3) 症例報告：

- 1) 森下 実, 平井 博, 吉岡太郎, 立原章年, 竹之内研二, 中村 洋：関節リウマチに合併した非定型抗酸菌感染による手関節腱鞘滑膜炎の1例. 日医大医学会誌 2009；5 (3)：172-175.

著 書

- 1) 中村 洋：〔分担〕リウマチ性疾患. 内科確定診断完全マスター (齋藤宣彦), 2009；pp366-371, Medical View社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 中村 洋：変形性膝関節症に対する薬物療法のエビデンス：疾患修飾性薬剤. 日本リウマチ学会総会 (第53回) (東京), 2009. 4.
- 2) 中村 洋：変形性関節症の分子病態に対するグルコサミンの作用. 第43回多摩整形外科医会 (東京), 2009. 4.
- 3) 中村 洋：変形性関節症とサプリメント. 第1回 東京都臨床整形外科医会統合研修会 (東京), 2009. 5.
- 4) 中村 洋：関節リウマチの基礎と臨床. 第10回東邦大学整形外科卒後教育研修会 (東京), 2009. 8.

(2) シンポジウム：

- 1) Nakamura H：Clinical application of glucosamine for treatment of human disease：osteo srthritis. Internatiol Conterencean Chitin Chitosan (The 11th) (Taipei), 2009. 9.
- 2) 中村 洋, 吉岡太郎, 竹之内研二：関節リウマチの病診連携 病院の整形外科医の立場から. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第20回) (横浜), 2009. 12.

(3) ワークショップ：

- 1) 立原章年, 吉岡太郎, 平井 博, 森下 実, 岩川賀世, 坂根 学, 竹之内研二, 中村 洋：人工肘関節置換術の術後成績と周術期合併症. 日本リウマチ学会総会 (第53回) (東京), 2009. 4.

(4) 一般講演：

- 1) 竹之内研二, 坂根 学, 岩川賀世, 森下 実, 立原章年, 平井 博, 吉岡太郎, 中村 洋, 吉野慎一¹⁾ (1) 吉野記念クリニック)：関節リウマチに対するY/SII型人工膝関節の長期成績. 日本リウマチ学会総会 (第53回) (東京), 2009. 4.
- 2) 吉岡太郎, 平井 博, 立原章年, 森下 実, 岩川賀世, 坂根 学, 竹之内研二, 鈴木伸之, 中村 洋, 川村晴也¹⁾ (1) 東京白十字病院)：RAに対する PFC sigma RD-F の短期成績. 日本リウマチ学会総会 (第53回) (東京), 2009. 4.

[千葉北総病院腎臓内科]

研究概要

(腎臓内科) 腎臓内科は持続性蛋白尿, 血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断, 治療を行い外来での長期観察を行っている. 腎生検症例は千駄木腎カンファランス, 東葛腎カンファランスに提示し治療方針や識別診断, 予後推測に役立っている. CKD, 慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している. 慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター, ICU, SCUにて積極的に対処している. 成田, 印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に2回行い各施設間の意見交換, 患者さんのQOLの向上に努めている. 対外循環治療 (血漿交換・IDL アフェレーシス) も各科よりの依頼があれば積極的に対応している.

研究業績

著書

- 1) 藤野鉄平：〔共著〕循環器疾患（心不全）. ポケット輸血マニュアル 正しく使うための基本と疾患別療法 改訂版（北岡建樹（望星病院院長）），2010；pp174-195, 羊土社.
- 2) 石原 力, 飯野靖彦¹⁾（¹⁾内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門））：〔共著〕糖尿病患者への輸血. ポケット輸血マニュアル 正しく使うための基本と疾患別療法 改訂版（北岡建樹（望星病院院長）），2010；pp319-320, 羊土社.

[千葉北総病院神経内科]

研究概要

北総病院神経内科においては、倫理委員会、IRBの承認の基、以下の臨床研究を行っている。(1) 認知機能障害における脳画像統計解析の多施設共同研究 2006 - (2) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究 (J-STARS) 2006- (3) 高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の高感度 CRP 濃度へ及ぼす効果に関する研究 (高感度 CRP サブスタディ) 2006- (4) ピリドスチグミンによる起立性低血圧の治療 2008- また、東京都健康長寿医療センター研究所 (旧東京都老人総合研究所)、放射線医学総合研究所、東京慈恵会医科大学と共同で、PET を用いて脳内アデノシン A₁ および A_{2A} 受容体を指標とした加齢変化およびパーキンソン病の病態解明の研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mishina M^{1, 2)}, Ishiwata K²⁾, Kenji Ishii²⁾, Mika Naganawa³⁾, Yuichi Kimura³⁾, Muneyuki Sakata²⁾, Keiichi Oda²⁾, Masahiko Suzuki⁴⁾, Shiro Kobayashi¹⁾, Yasuo Katayama⁵⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (³⁾ Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, (⁴⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, (⁵⁾ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Aging effect on adenosine A_{2A} receptors in putamen — A ¹¹C-TMSX PET study —. *Movement Disorders* 2009 ; 24 (suppl 1) : S202.
- 2) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A³⁾, Morimoto D¹⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Mishina M¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁴⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, (³⁾ Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, (⁴⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Treatment of cervical OPLL by cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts. *Acta Neurochir* 2009 ; 151 (11) : 1549-1555.
- 3) 近藤国嗣¹⁾, 坂田祥子¹⁾, 小田柿誠二¹⁾, 横山明正¹⁾, 佐々みさき¹⁾, 小沢義典²⁾, 古口徳雄³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 篠遠 仁⁵⁾ (¹⁾ 東京湾岸リハビリテーション病院, (²⁾ 千葉労災病院脳神経外科, (³⁾ 千葉県救急医療センター医療局診療部神経系治療科, (⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (⁵⁾ 旭神経内科リハビリテーション病院) : 脳卒中回復期における回復期リハビリテーション病棟の役割：その強みと弱み, 地域連携を通して. *Monthly Book Medical Rehabilitation* 2009 ; 112 : 9-17.

(2) 総説：

- 1) 三品雅洋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 印旛脳卒中地域連携パス概論. 印旛市郡医師会報

2009 ; 49 : 38-57.

- 2) 三品雅洋¹⁾, 近藤国嗣²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 東京湾岸リハビリテーション病院) : 脳卒中地域連携パスの現状と今後の課題. 医学のあゆみ 2009 ; 231 (5) : 570-575.
- 3) 三品雅洋¹⁾, 松本 尚²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 脳卒中医療連携の現状と問題点 ; ドクターヘリを駆使した印旛脳卒中地域連携パス. 日本医師会雑誌 2009 ; 138 (7) : 1353-1357.
- 4) 原 行弘¹⁾, 三品雅洋²⁾, 小林士郎²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科, (2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 地域連携パスとリハビリテーションのかかわり : 都市近郊の場合. 脳卒中 2009 ; 31 (6) : 515-520.
- 5) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) : 手作りデータベースとウェブサイト. IT Medical 2009 ; 2 (3) : 45-48.

著 書

- 1) 神谷信雄, 片山泰朗¹⁾ (1) 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : [共著] 高血圧性脳出血. 治療, 2009 ; pp2677-2680, 株式会社 南山堂.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 印旛脳卒中地域連携パスと全県共用パス. 脳卒中診療ネットワークフォーラム (第4回) (浦安), 2009. 6.
- 2) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 三品雅洋 : なぜ脳卒中地域連携パスなのか. 沖縄県南部保健医療圏脳卒中地域連携システム結成大会 (南風原町), 2010. 2.
- 3) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 脳卒中地域連携パス. 銚子市医師会学術大会 (銚子市), 2010. 3.

(2) 教育講演 :

- 1) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : パーキンソン症候群におけるPET. 城東PDセミナー (東京), 2009. 4.
- 2) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 千葉県共用の脳卒中地域連携パス. 東葉臨床医学セミナー (第103回) (佐倉), 2009. 9.
- 3) 三品雅洋 : 前頭側頭葉変性症の画像診断. 第3回関東脳核医学研究会 (東京), 2010. 3.

(3) セミナー :

- 1) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 認知症の最新情報と今できること. 大和証券ヘルス財団健康セミナー (千葉), 2009. 9.
- 2) 三品雅洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 認知症の最新情報と今できること. 大和証券ヘルス財団健康セミナー (松戸), 2010. 1.

(4) 一般講演 :

- 1) Kimura Y¹⁾, Naganawa M¹⁾, Mishina M^{2, 3)}, Sakata M³⁾, Oda K³⁾, Ishii K³⁾, Ishiwata K³⁾ (1) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, (2) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (3) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Simplified quantification of adenosine A₁ receptors with [¹¹C]MPDX and graphical analysis. The XXIVth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism and the IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Chicago), 2009. 6.

- 2) Naganawa M¹⁾, Mishina M^{2, 3)}, Sakata M³⁾, Oda K³⁾, Ishii K³⁾, Ishiwata K³⁾, Kimura Y¹⁾ (1) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, (2) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (3) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Simplified quantification of adenosine A_{2A} receptor with [¹¹C]TMSX and graphical analyses. The XXIVth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism and the IXth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Chicago), 2009. 6.
- 3) 福地孝明¹⁾, 大島達雄¹⁾, 三品雅洋²⁾, 阿部 新³⁾, 中嶋信人⁴⁾, 岡村正哉⁵⁾, 小林士郎²⁾, 野本達也⁴⁾, 長尾毅彦⁵⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, (2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (3) 塩田病院神経内科, (4) 北村山公立病院神経内科, (5) 荏原病院神経内科) : 日本医科大学神経内科関連病院における rt-PA 投与例の検討—3. 日本神経治療学会総会 (第27回) (熊本), 2009. 6.
- 4) Mishina M^{1, 2)}, Kiichi Ishiwata²⁾, Kenji Ishii²⁾, Mika Naganawa³⁾, Yuichi Kimura³⁾, Muneyuki Sakata²⁾, Keiichi Oda²⁾, Masahiko Suzuki^{2, 4)}, Shiro Kobayashi¹⁾, Yasuo Katayama⁵⁾ (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, (4) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, (5) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Aging effect on adenosine A_{2A} receptors in putamen : A ¹¹C-TMSX PET study. The Movement Disorder Society' s 13th International Congress of Parkinson' s Disease and Movement Disorders (Paris), 2009. 7.
- 5) Mishina M^{1, 2)}, Ishii K²⁾, Kitamura S³⁾, Naganawa M⁴⁾, Kimura Y⁴⁾, Hashimoto M^{2, 6)}, Suzuki M^{2, 6)}, Ishibashi K^{2, 7)}, Oda K²⁾, Sakata M²⁾, Hamamoto M⁵⁾, Kim K¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y⁸⁾, Ishiwata K²⁾ (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (4) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, (5) Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (6) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, (7) Department of Neurology and Neurological Science Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, (8) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Comparison of putaminal adenosine A_{2A} receptors in de novo Parkinson' s disease with in normals. Annual Meeting of the Society For Neuroscience (39th) (Chicago), 2009. 10.
- 6) 熊谷智昭, 雨宮志門, 濱本 真, 三品雅洋¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 人工透析による血漿アミロイドβの変動. 日本神経学会総会 (第50回) (仙台), 2009. 5.
- 7) 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 原 行弘²⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科, (3) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) のウェブサイトの検証. 日本神経学会総会 (第50回) (仙台), 2009. 5.
- 8) 岡村正哉¹⁾, 長尾毅彦¹⁾, 野上茜¹⁾, 三品雅洋²⁾, 野本達也³⁾, 萩原浩⁴⁾, 小林士郎²⁾, 片山泰朗⁵⁾, 横地正之¹⁾, 田久保秀樹¹⁾ (1) 荏原病院神経内科, (2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (3) 北村山公立病院神経内科, (4) 塩田病院脳神経内科, (5) 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : tPA 治療開始時間は治療成績と相関するの? . 日本神経治療学会総会 (第27回) (熊本), 2009. 6.
- 9) 金 景成¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 日本医科大学脳神経外科) : 頭部慢性硬膜下血腫に合併する腰椎疾患に関する研究. 日本脳ドック学会総会 (第18回) (東京), 2009. 6.
- 10) 三品雅洋^{1, 2)}, 石井賢二²⁾, 石渡喜一²⁾, 石橋賢士^{2, 3)}, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院

- 脳神経センター，²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム，³⁾ 東京医科歯科大学神経内科，⁴⁾ 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：DOPA系PETにより偶然発見されたパーキンソン病：PETによる発症前診断の可能性の検討．日本脳ドック学会総会（第18回）（東京），2009．6．
- 11) 三品雅洋^{1,2)}，石井賢二²⁾，石渡喜一²⁾，石橋賢士^{2,3)}，織田圭一²⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗⁴⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム，³⁾ 東京医科歯科大学神経内科，⁴⁾ 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：ドパミンシナプス前機能PETにより発症前に診断されたパーキンソン病例．日本核医学会学術総会（第49回）（旭川），2009．10．
- 12) 三品雅洋^{1,2)}，鈴木正彦^{2,3)}，石井賢二²⁾，石渡喜一²⁾，北村 伸⁴⁾，石橋賢士^{2,5)}，織田圭一²⁾，坂田宗之²⁾，濱本 真⁶⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗⁷⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム，³⁾ 東京慈恵会医科大学神経内科，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科，⁵⁾ 東京医科歯科大学神経内科，⁶⁾ 日本医科大学千葉北総病院神経内科，⁷⁾ 日本医科大学内科学講座神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：線条体ドパミントランスポータとドパミンD₂受容体分布のパーキンソン病の病期による違い．日本脳循環代謝学会総会（第21回）（大阪），2009．11．

3. 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）

[付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科]

研究概要

<血液内科>血液病学の基礎的研究では，昨年度に引き続き急性白血病，慢性骨髄性白血病，骨髄異形成症候群など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序，病態解析などに関して分子生物学，細胞生物学，腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い，さらに，骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明を行い，報告した．また真性多血症，本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構，病態についても解析をすすめた．臨床的研究では，急性白血病的臨床病態解析，悪性リンパ腫の化学療法に関する解析などを行い，造血幹細胞移植では臍帯血移植，骨髄非破壊的移植の治療成績改善に関する治療研究を行った．

<消化器内科>消化器内科では，(1) 食道運動機能異常症の病態生理学的検討，(2) *Helicobacter pylori* 感染の意義，(3) ディスペプシア（機能的胃症）の臨床的，病態生理学的研究，(4) 炎症性腸疾患の病態生理に関する検討，(5) 大腸腺腫，癌の病態に関する検討，(6) カプセル内視鏡，小腸内視鏡を用いた小腸潰瘍性疾患，出血性疾患の臨床的解析，(7) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術に関する臨床的検討，(8) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能，など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め，(9) COX-2の消化管癌に対する役割など基礎的研究も実施されている．

<内分泌代謝内科>基礎研究 (1) 成長ホルモン分泌と食欲調節 (2) 培養脂肪細胞の代謝と成長ホルモン (3) 過酸化リン脂質，フォスファチジルコリンヒドロペルオキシドPCOOHが単球由来細胞 (THP-1) 接着能を亢進．臨床研究 (1) 血清アポB48と動脈硬化 (2) 糖尿病における α グルコシダーゼ阻害剤の治療効果 (3) スタチン治療と頸動脈硬化—3年間の前向き研究 (4) 牛乳による脂質代謝と消化管ホルモンの変化 (5) 内分泌疾患に対する治療介入研究 (7) 厚生労働省科学研究班の一員として異なった3つのテーマに参加 (6) 農水省「生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業」を展開．

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Horie A, Ueki N, Kusunoki M, Gudis K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : Extracellular HSP70 blocks CD40L-induced apoptosis and tubular formation in endothelial cells. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2008 ; 23 (Suppl2) : S222-S228.
- 2) Yamashita T¹⁾, Tamura H, Satoh C²⁾, Shinya 3E, Takahashi 3H, Chen 4L, Kondo A, Tsuji 1T, Dan K, Ogata K ¹⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, Japan, ²⁾ Department of Bioregulation, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan, ³⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, USA) : Functional B7.2 and B7-H2 molecules on myeloma cells are associated with a growth advantage. *Clin Cancer Res* 2009 ; 15 (3) : 770-777.

追加分総説：

- 1) 山口博樹，猪口孝一：骨髄増殖性疾患における遺伝子変異の検出法．*細胞* 2009；41 (3)：100-103.

(1) 原著：

- 1) Tanimura K, Nakajima Y, Nagao M, Ishizaki A, Kano T, Harada T, Okajima F, Sudo M, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Yamashita S¹⁾, Asaia A, Oikawa S¹⁾ (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan) : Association of serum apolipoprotein B48 level with the presence of carotid plaque in type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Res Clin Pract* 2008 ; 81 (3) : 338.
- 2) Seo T, Tatsuguchi A, Shinji Y, Yonezawa M, Mitsui K, Tanaka S, Fujimori S, Gudis K, Fukuda Y, Sakamoto C : Microsomal prostaglandin E synthase protein levels correlate with prognosis in colorectal cancer patients. *Virchows Archiv : an international journal of pathology* 2009 ; 454 (6) : 667-676.
- 3) Hasegawa S, Kato H, Yamaguchi H, Yohda M, Obara K, Izutsu H, Ogura M, Mitsuhashi M : Trastuzumab-induced CCL20 and interleukin-8 mRNA in human whole blood ex vivo. *Invest New Drugs* 2009 ; 2 : 10.
- 4) Ueki N, Miyake K, Kusunoki M, Shindo T, Kawagoe T, Futagami S, Tsukui T, Inagaki H, Sakamoto C : Impact of quadruple regimen of clarithromycin added to metronidazole-containing triple therapy against *Helicobacter pylori* infection following clarithromycin-containing triple-therapy failure. *Helicobacter* 2009 ; 14 (2) : 91-99.
- 5) Omiya R^{1, 2)}, Tsushima F²⁾, Narazaki H²⁾, Sakoda Y¹⁾, Kuramasu A¹⁾, Kim Y¹⁾, Xu H²⁾, Tamura H, Zhu G²⁾, Chen L²⁾, Tamada K^{1, 2)} (Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, Baltimore, MD, USA, ²⁾ Department of Dermatology, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, USA) : Leucocyte-associated immunoglobulin-like receptor-1 is an inhibitory regulator of contact hypersensitivity. *Immunology* 2009 ; 128 (4) : 543-555.
- 6) Tamai H, Yamaguchi H, Inokuchi K, Dan K : The prognosis and treatment of adult acute leukemia with 11q23/MLL according to the fusion partner. *Curr Cancer Ther Rev* 2009 ; 5 : 227-231.
- 7) Okamoto M, Yamaguchi H, Isobe Y, Yokose N, Mizuki T, Tajika K, Gomi S, Hamaguchi H, Inokuchi K, Oshimi K, Dan K : Analysis of triglyceride value in diagnosis and treatment response of secondary hemophagocytic syndrome. *Intern Med* 2009 ; 48 : 775-781.
- 8) Uchida N²⁾, Hanawa H²⁾, Dan K, Inokuchi K, Shimada T²⁾ (Department of Pathophysiological Management_Medical Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Leukemogenesis of b2a2-type p210 BCR_ABL in a Bone Marrow Transplantation Mouse Model Using a Lentiviral Vector. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (3) : 134-147.
- 9) Yamaguchi H, Uchida N, Inamai M, Sawaguchi K, Mitamura Y, Shimada T, Dan K, Inokuchi K : Multi-step pathogenesis of leukemia via the MLL-AF4 chimeric gene/Flt3 gene tyrosine kinase domain (TKD) mutation-related enhancement of S100A6 expression. *Exp Hematol* 2009 ; 37 : 701-714.
- 10) Narahara Y, Kanazawa H, Taki Y, Kimura Y, Astukawa M, Katakura T, Kidokoro H, Harimoto H, Fukuda T, Matsushita Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Effects of terlipressin on systemic, hepatic and renal hemodynamics in patients with cirrhosis. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2009 ; 24 : 1791-1797.
- 11) Ogata K, Della-Porta GM¹⁾, Malcovati L¹⁾, Picone C¹⁾, Yokose N²⁾, Matsuda A³⁾, Yamashita T⁴⁾, Tamura H, Tsukada J⁵⁾, Dan K (Department of Hematology Oncology, University of Pavia Medical School and Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, Pavia, Italy, ²⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, ³⁾ Department of Hematology, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, Saitama, Japan, ⁴⁾ Department of Industrial

- Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, Japan, ⁵⁾ First Department of Internal Medicine, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Fukuoka, Japan) : Diagnostic utility of flow cytometry in low-grade myelodysplastic syndromes : a prospective validation study. *Haematologica* 2009 ; 94 (8) : 1066-1074.
- 12) Van De Loosdrecht AA¹⁾, Alhan C¹⁾, Christine-BÉ ; NÉ ; M²⁾, Della-Porta GM³⁾, DrÄ ; Ger MA¹⁾, Feuillard J⁴⁾, Font P⁵⁾, Germing U⁶⁾, Haase D⁷⁾, Homburg HC⁸⁾, Ireland R⁹⁾, Jansen HJ¹⁰⁾, Malcovati L³⁾, Ogata K, Ossenkoppele JG¹⁾, et al. ¹⁾ Department of Hematology, VU University Medical Center, Amsterdam, The Netherlands, ²⁾ Faculty of Medicine & CHU, Nancy Université ; , France, ³⁾ Department of Hematology and Oncology, Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, Pavia, and University of Pavia, Italy, ⁴⁾ Laboratoire d' Hé ; matologie, CHU Dupuytren, Limoges, France, ⁵⁾ Department of Hematology, Hospital General Universitario Gregorio Marañ ; & oacute ; n, Madrid, Spain, ⁶⁾ Department of Hematology Oncology and Clinical Immunology, Heinrich-Heine-University, Dü ; sseldorf, Germany, ⁷⁾ Department of Hematology and Oncology, Georg-August-University, Gö ; ttingen, Germany, ⁸⁾ Sanquin Research at CLB, Amsterdam, The Netherlands, ⁹⁾ King' s College Hospital, London, United Kingdom, ¹⁰⁾ Department of Hematology, St Radboud University Medical Center, Nijmegen, The Netherlands) : Standardization of flow cytometry in myelodysplastic syndromes : report from the first European Leukemia Net working conference on flow cytometry in myelodysplastic syndromes. *Haematologica* 2009 ; 94 (8) : 1124-1134.
 - 13) Yokose N, Hirakawa T, Inokuchi K : Adenovirus-associated hemorrhagic cystitis in a patient with plasma cell myeloma treated with bortezomib. *Leuk Res* 2009 ; 33 : 106.
 - 14) Mitsui K, Tanaka S, Yamamoto H, Kobayashi T, Ehara A, Yano T, Goto H, Nakase H, Matsui T, Iida M, Sugano K, Sakamoto C : Role of double-balloon endoscopy in the diagnosis of small-bowel tumors : the first Japanese multicenter study. *Gastrointestinal Endoscopy* 2009 ; 70 (3) : 498-504.
 - 15) Suessmuth Y¹⁾, Elliott J¹⁾, Percy JM²⁾, Inami M, Attal H³⁾, Harrison NC⁴⁾, Inokuchi K, McMullin FM⁵⁾, Johnston AJ⁶⁾ ¹⁾ Centre for Infection and Immunity, Queen' s University, Northern Ireland, ²⁾ Haematology, Belfast City Hospital, Belfast, Northern Ireland, UK, ³⁾ Division of Haematology/Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Oncology Institute, Sheba Medical Centre, Ramat, Gan, Israel, ⁵⁾ Department of Haematology, St Thomas' Hospital, London, ⁶⁾ Centre for Cancer Research and Cell Biology, Queen' s University, Belfast, Northern Ireland, UK) : A new polycythaemia vera-associated SOCS3 SH2 mutant (SOCS3F136L) cannot regulate erythropoietin responses. *British Journal of Haematology* 2009 ; 147 (4) : 450-458.
 - 16) Yonezawa M, Wada K, Tatsuguchi A, Akamatsu T, Gudis K, Seo T, Mitsui K, Nagata K, Tanaka S, Fujimori S, Sakamoto C : Heregulin-Induced VEGF Expression via the ErbB3 Signaling Pathway in Colon Cancer. *Digestion* 2009 ; 80 (4) : 215-225.
 - 17) Miyake K, Kusunoki M, Shindo T, Ueki N, Kawagoe T, Gudis K, Tatsuguchi A, Futagami S, Tsukui T, Sakamoto C : Duodenogastric reflux induced by endoscopic submucosal dissection. *Endoscopy* 2009 ; 41 (11) : 934-940.
 - 18) Futagami S, Iwakiri K, Shindo T, Kawagoe T, Horie A, Shimpuku M, Tanaka S, Kawami N, Gudis K, Sakamoto C : The prokinetic effect of mosapride citrate combined with omeprazole therapy improves clinical symptoms and gastric emptying in PPI-resistant NERD patients with delayed gastric emptying. *Journal of Gastroenterology* 2009.
 - 19) Fujimori S, Seo T, Gudis K, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A,

Sakamoto C : Prevention of nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced small-intestinal injury by prostaglandin : a pilot randomized controlled trial evaluated by capsule endoscopy. *Gastrointestinal endoscopy* 2009 ; 69 (7) : 1339-1346.

- 20) Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Kotoyori M, Hoshihara Y, Sakamoto C : Mechanisms of excessive esophageal acid exposure in patients with reflux esophagitis. *Digestive disease and science* 2009 ; 54 (8) : 1686-1692.
- 21) Iwakiri K, Kawami K, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Kotoyori M, Hoshihara Y, Sakamoto C : Acid and non-acid reflux in Japanese patients with non-erosive reflux disease with persistent reflux symptoms, despite taking a double-dose of proton pump inhibitor : a study using combined pH-impedance monitoring. *Journal of Gastroenterology* 2009 ; 44 (7) : 708-712.
- 22) Shindo T, Futagami S, Hiratsuka T, Horie A, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Iwakiri K, Sakamoto C : Comparison of gastric emptying and plasma ghrelin levels in patients with functional dyspepsia and non-erosive reflux disease. *Digestion* 2009 ; 79 (2) : 65-72.
- 23) Iwakiri K : The role of excessive esophageal acid exposure in patients with gastroesophageal reflux disease. *Journal of clinical gastroenterology* 2009 ; 2 : 371-379.
- 24) Futagami S, Hamamoto T, Shimpuku M, Nagoya H, Horie A, Shindo T, Gudis K, Sakamoto C : Celecoxib inhibits CD133-positive cell migration via reduction of CCR2 in *Helicobacter pylori*-infected Mongolian gerbils. *Digestion* 2010 ; 81 (3) : 193-203.
- 25) Tamura H : Expression and function of B7 family molecules in hematologic malignancies. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 45-47.
- 26) 厚川正則, 榑原義之, 金澤秀典, 中塚雄久, 坂本長逸 : 非代償性肝硬変患者に対する Late Evening Snack として用いた肝不全用経口栄養剤の有用性について. *Frontiers in Gastroenterology* 2010 ; 15 : 70-78.
- 27) Tanaka Y, Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Umezawa M, Kotoyori M, Hoshihara Y, Nomura T, Miyashita M, Sakamoto C : Predictors of a better outcome of pneumatic dilatation in patients with primary achalasia. *Journal of Gastroenterology* 2010 ; 45 (2) : 153-158.
- 28) Mano-Otagiri A¹⁾, Iwasaki-Sekino A¹⁾, Nemoto T¹⁾, Ohata H¹⁾, Shuto Y, Nakabayashi H²⁾, Sugihara H, Oikawa S, Shibasaki T¹⁾ (¹⁾ Departments of Physiology, Nippon Medical School, (²⁾ Division of Life Science, Graduate School of Natural Science and Technology and Health Science Service Center, Kanazawa University) : Genetic suppression of ghrelin receptors activates brown adipocyte function and decreases fat storage in rats. *Regul Pept.* 2010 ; 160 (1-3) : 81-90.
- 29) 山口博樹, 齋藤和憲, 小林 愛, 海沼美千子, 檀 和夫, 長谷川節雄 : Itraconazole 内用液の調整法が薬物血中濃度および飲みやすさに与える影響. *薬理と治療* 2009 ; 37 (4) : 307-314.
- 30) 榑原義之, 金澤秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : 当科における I 型肝腎症候群の実態. *日本門脈圧亢進症学会雑誌* 2009 ; 15 : 227-233.
- 31) 田近賢二, 玉井勇人, 水木太郎, 中山一隆, 山口博樹, 檀 和夫 : Angioimmunoblastic T-cell lymphoma に対する臍帯血移植後早期に皮膚に発症した Epstein-Barr virus 関連 B 細胞リンパ腫. *臨床血液* 2010 ; 51 (2) : 138-142.

(2) 総説 :

- 1) 山口博樹 : Shwachman Diamond syndrome の発症機序. *臨床免疫アレルギー科* 2009 ; 52 (5) : 555-560.
- 2) 杉原 仁 : 特集 成人 GH 分泌不全症をめぐって 「成長ホルモンの分泌調節と経年的変化」. *ホルモンと臨床* 2009 ; 57 (4) : 299-305.
- 3) 三井啓吾, 田中 周, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤

- 志, 藤森俊二, 坂本長逸: 小さな小腸腫瘍. 胃と腸 2009; 44 (6): 994-998.
- 4) 三宅一昌, 坂本長逸: 低用量アスピリンによる消化管粘膜傷害の予防と治療. 老年消化器病 2009; 21 (1): 37-43.
 - 5) 三宅一昌, 坂本長逸: NSAID/アスピリン潰瘍. 診断と治療 2009; 97 (6): 1164-1170.
 - 6) 金沢秀典, 榑原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術. 外科 2009; 71: 637-642.
 - 7) 檀 和夫: 薬剤による貧血. 総合臨床 2009; 58 (8): 1780-1784.
 - 8) 山口博樹: 遺伝子異常による造血不全. 最新医学 2009; 64 (7): 1603-1609.
 - 9) 猪口孝一: マクログロブリン血症の治療. 血液・腫瘍科 2009; 59 (1): 101-107.
 - 10) 猪口孝一: 正常PMLネットワークによるPTENの脱ユビキチン化抑制による核局在とPML-RAR α . 血液・腫瘍科 2009; 59 (3): 311-314.
 - 11) 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: カプセル内視鏡の現状の未来. 総合臨床 2009; 58 (9): 1928-1934.
 - 12) 三宅一昌, 坂本長逸: 胃・十二指腸潰瘍. 救急医学 内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本 2009; 33 (10): 1335-1339.
 - 13) 津久井拓¹⁾, 沖濱裕司²⁾, 松田 健, 坂本長逸 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 消化器科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 炎症性疾患 孤立性直腸潰瘍症候群. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ 2009; 12: 321-324.
 - 14) 檀 和夫: 特発性血小板減少性紫斑病. 救急医学 2009; 33 (10): 1447-1450.
 - 15) 金沢秀典, 榑原義之, 福田 健, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 異所性静脈瘤と経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS). 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2009; 15: 154-160.
 - 16) 檀 和夫: Anagrelideと本態性血小板血症. 血液フロンティア 2009; 19 (10): 102-104.
 - 17) 藤森俊二, 坂本長逸: カプセル内視鏡. 消化器外科 2009; 32 (12): 1897-1903.
 - 18) 三井啓吾, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: 診断戦略からみたダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. Gastroenterological Endoscopy 2009; 51 (11): 2853-2865.
 - 19) 藤森俊二, 高橋陽子, 瀬尾継彦, 山田祐希江, 辰口篤志, 坂本長逸: 薬剤による小腸粘膜障害. 臨牀消化器内科 2009; 24 (13): 1691-1698.
 - 20) 金沢秀典: 食道静脈瘤に対する予防的な薬物療法. Modern Physician 2009; 29: 1780.
 - 21) 横瀬紀夫, 猪口孝一: 急性骨髄白血病の分類とCD抗体. 血液・腫瘍科 2009; 59 (6): 619-624.
 - 22) 藤森俊二, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 小腸潰瘍性病変 (3) NSAIDs起因性潰瘍b. カプセル内視鏡を用いたNSAIDs起因性小腸粘膜傷害の現状と対策. IN-TESTINE 2009; 13 (5): 499-505.
 - 23) 藤森俊二, 高橋陽子, 瀬尾継彦, 山田祐希江, 辰口篤志, 坂本長逸: 薬剤による小腸粘膜障害. 臨牀消化器内科 2009; 24 (13): 1691-1698.
 - 24) 藤森俊二, 高橋陽子, 琴寄 誠, 三井啓吾, 辰口篤志, 坂本長逸: 大腸腺腫を予防するために葉酸補充の必要な対象を血清葉酸濃度から推定する試み. 消化器科 2009; 49 (5): 404-410.
 - 25) 岩切勝彦, 川見典之, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道運動機能障害の診断. 日医大医学会誌 2009; 5: 202-206.
 - 26) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 胃酸逆流のメカニズム. 臨牀消化器内科 2009; 24: 549-556.
 - 27) 岩切勝彦, 田中由理子, 佐野弘仁, 川見典之, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道機能検査の

実際. 臨床消化器内科 2009 ; 24 : 1553-1561.

- 28) 山田 隆 : ヘモグロビン (Hb) ・分画. 日本臨床 2010 ; 68 (増刊1) : 817-820.
- 29) 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 消化性潰瘍の現状. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (1) : 7-12.
- 30) 三宅一昌, 坂本長逸 : わが国におけるアスピリン・抗血小板・抗凝固薬による消化管傷害のエビデンス. 診断と治療 2010 ; 98 (2) : 245-253.
- 31) 金沢秀典 : 肝硬変の難治性腹水. Modern Physician 2010 ; 30 : 301.
- 32) 三宅一昌, 坂本長逸 : ステロイド潰瘍に対するリスクマネジメント. 日本医師会雑誌 2010 ; 138 (12) : 2538-2543.
- 33) 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 消化性潰瘍の現状. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (1) : 7-12.
- 34) 田中 周, 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 辰口篤志, 坂本長逸 : 出血性小腸疾患の診断潰瘍性病変 : NSAIDs腸炎を中心に. 胃と腸 2010 ; 45 (3) : 371-378.
- 35) 岩切勝彦, 飯泉 匡, 星原芳雄, 坂本長逸 : GERDの症状と診断. 治療 2010 ; 92 : 446-450.
- 36) 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : カプセル内視鏡による正常所見, パリエーション. 消化器内視鏡 2010 ; 22 (3) : 308-314.
- 37) 山口博樹 : テロメア関連遺伝子異常による骨髄不全. 血液診療エキスパート : 2010 ; 2 : 209-211.
- 38) 檀 和夫 : 骨髄増殖性疾患の診断のための検査と新しい診断基準. 臨床検査 2010 ; 54 (3) : 241-245.
- 39) 坂本長逸 : 低用量アスピリンと消化管傷害. 最新医学 2010 ; 65 (5) : 115-119.
- 40) 金沢秀典 : 肝疾患と認知症. 老年精神医学雑誌 2010 ; 21 : 297-302.
- 41) 岩切勝彦, 田中由理子 : High Resolution Manometryによる食道運動の評価, 健常者と逆流性食道炎患者の食道運動機能 (I). 日医大医学会誌 2010 ; 6 : 4-6.

(3) 症例報告 :

- 1) Yokose N, Ohaki Y, Fujino T, Itokawa N, Dan K, Inokuchi K : Protein-losing gastroenteropathy : unusual presentation of multiple myeloma. Annals of Hematology 2009 ; 88 (7) : 705-707.
- 2) Tamai H, Inokuchi K, Dan K, Tanosaki S²⁾ ⁽¹⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Acquired hemophilia A may be associated with itraconazole . International Journal of Hematology 2009 ; 90 (5) : 651-652.
- 3) Nagoya H, Tanaka S, Tatsuguchi A, Mitsui K, Ehara A, Kobayashi T, Fujimori S, Sakamoto C : Rare cause of obscure gastrointestinal bleeding due to pyogenic granuloma in the ileum detected by capsule endoscopy and treated with double balloon endoscopy. Digestive Endoscopy 2010 ; 22 (1) : 71-73.
- 4) 中村恭子, 檀 和夫 : Pure erythroid leukemiaの1例. 血液フロンティア 2008 ; 19 (8) : 1171-1176.
- 5) 小林 剛, 藤森俊二, 江原彰仁, 田中 周, 玉木祐希江, 高橋陽子, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤志, 坂本長逸 : 長期原因不明の高度鉄欠乏性貧血を認めた1例. 消化器の臨床 2009 ; 12 (4) : 407-408.
- 6) 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : 繰り返す小腸出血に対して複数回のカプセル内視鏡をガイドにダブルバルーン内視鏡で治療した1例. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (4) : 221-224.
- 7) 高橋陽子, 田中 周, 江原彰仁, 山田祐希江, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : 腫瘍性疾患. 臨牀と研究 2009 ; 86 (11) : 41-46.
- 8) 藤井理子, 木村 祐, 近藤千紗, 松下洋子, 福田 健, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 滝 保彦, 植原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 : 下腸間膜動脈領域の動静脈瘻により難治性腹水を呈しIVR治療 (塞栓術) に

より治療した1例. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2009 ; 15 : 246-252.

- 9) 馬來康太郎, 三井啓吾, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原章仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 田中周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡でポリペクトミーを施行し, カプセル内視鏡で経過観察したPeuts-Jeghers症候群の1例. Progress of Digestive Endoscopy 2009 ; 75 (2) : 88-89.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 檀 和夫: 〔分担〕貧血, 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図, 2008 ; pp708-714, 医学書院.
- 2) 坂本長逸: 〔分担〕慢性胃炎. 今日の治療指針 (編集・山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2009 ; pp350-351, 医学書院.

- 1) Tamura H, Ogata K : 〔分担〕Natural killer cells and human longevity. Handbook on Immunosenescence : Basic Understanding and Clinical Applications (Pawelec G, Franceschi C, Hirokawa K, Tamas F), 2009 ; pp545-559, Springer.
- 2) 檀 和夫: 〔自著〕貧血診断へのアプローチ. 血液診療エキスパート 貧血 (金倉 謙), 2010 ; pp2-8, 中外医学社.
- 3) 檀 和夫: 〔分担〕本態性血小板血症に対する適切な治療は?. 臨床に直結する血液疾患診療のエビデンス, 2009 ; pp333-336, 文光堂.
- 4) 檀 和夫: 〔分担〕血液の病気. あなたの医学書 名医の言葉で病気を治す, 2009 ; pp1-190, 誠文堂新光社.
- 5) 檀 和夫: 〔分担〕本態性血小板血症 診断 新しい診断と治療のABC 血小板減少症・増加症. 最新医学別冊, 2009 ; pp53-58, 最新医学社.
- 6) 坂本長逸: 〔分担〕今なぜNSAIDs, アスピリン消化管傷害が問題となるのか. 薬剤性消化管傷害 NSAIDs・アスピリンをめぐるエビデンスとプラクティス (編集・坂本長逸), 2009 ; pp2-7, 南光堂.
- 7) 三宅一昌, 坂本長逸: 〔分担〕今日のNSAIDs潰瘍: 日本医科大学リウマチ科と消化器内科から. 薬剤性消化管傷害 NSAIDs・アスピリンをめぐるエビデンスとプラクティス (編集・坂本長逸), 2009 ; pp64-67, 南光堂.
- 8) 藤森俊二, 坂本長逸: 〔分担〕NSAIDs下部病変予防のエビデンス. 薬剤性消化管傷害 NSAIDs・アスピリンをめぐるエビデンスとプラクティス (編集・坂本長逸), 2009 ; pp100-105, 南光堂.
- 9) 杉原 仁: 〔分担〕腫瘍類似病変・神経サルコイドーシス. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明, 長村義之), 2009 ; pp321-326, 医学書院.
- 10) 檀 和夫: 〔自著〕骨髄系腫瘍 骨髄増殖性疾患 骨髄異形成症候群. 入門腫瘍内科学 (日本臨床腫瘍学会), 2009 ; pp236-239, 篠原出版新社.
- 11) 厨信一郎, 檀 和夫: 〔分担〕無顆粒球症. 内科学症例図説 (杉本恒明, 小俣政男), 2009 ; pp472-474, 朝倉書店.
- 12) 檀 和夫: 〔分担〕本態性血小板血症. 血液疾患診療ハンドブック (吉田弥太郎), 2009 ; pp356-362, 医薬ジャーナル社.
- 13) 檀 和夫: 〔分担〕ヘム合成障害による貧血. 内科学書 改訂第7版 (小川 総), 2009 ; pp67-72, 中山書店.
- 14) 岩切勝彦: 〔分担〕第3章 症候からのアプローチ (救急を含む), 2 胸焼け. 消化器研修ノート (監修: 永井良三 編集: 白鳥敬子, 菅野健太郎, 坪内博仁, 日比紀文), 2009 ; pp42-44, 診断と治療社.
- 15) 岩切勝彦: 〔分担〕第3章 症候からのアプローチ (救急を含む), 4 嚥下障害. 消化器研修ノート (監修:

- 永井良三 編集：白鳥敬子，菅野健太郎，坪内博仁，日比紀文)，2009；pp47-49，診断と治療社。
- 16) 川見典之，岩切勝彦：〔分担〕第7章 食道疾患，咽頭憩室（Zenker憩室）・食道憩室．今日の消化器疾患治療指針（編集：幕内雅敏，菅野健太郎，工藤正俊），2009；pp299-300，医学書院。
 - 17) 檀 和夫：〔分担〕多血症・血小板増加症．新老年学第3版（大内尉義，秋山弘子），2010；pp1097-1101，東京大学出版会。
 - 18) 檀 和夫：〔分担〕遺伝性溶血性貧血．今日の治療指針2010（山口 徹），2010；pp535-543，医学書院。
 - 19) 緒方清行：〔分担〕分化系統不明瞭な急性白血病．WHO血液腫瘍分類～WHO分類2008をうまく活用するために～（直江知樹，朝長万左男，中村栄男，飯田真介，大島孝一，木下朝博，吉野 正），2010；pp214-219，医薬ジャーナル社。
 - 20) 三宅一昌，坂本長逸：〔分担〕COX-2選択性の高いNSAIDsc）メロキシカム．NSAIDsの選び方・使い方ハンドブック（編集・佐野 統（兵庫医科大学内科学講座リウマチ・膠原病科）），2010；pp301-305，羊土社。
 - 21) 檀 和夫：〔自著〕マンガ白血病．マンガ白血病，2010；pp1-199，エクスタレッジ。

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) 谷村恭子，小竹英俊¹⁾，山下静也²⁾，及川眞一¹⁾ 仙台赤十字病院，²⁾ 大阪大学循環器内科）：糖尿病患者におけるアポリポ蛋白B48と動脈硬化との関係．第39回 日本動脈硬化学会総会（大阪国際会議場），2007．7．
- 2) 杉原 仁：ニューロペプチドによるGH分泌調節（視床下部一下垂体の調節機構）．日本内分泌学会学術総会（第81回）（青森），2008．5．
- 3) 田村秀樹，石井新哉，加納稔子，石崎 晃，杉原 仁，及川眞一：末梢臓器による成長ホルモン分泌調節（視床下部・下垂体調節機構の新展開）．日本神経内分泌学会（第35回）日本下垂体研究会（第23回）合同学術集会（東京），2008．8．

追加分一般講演：

- 1) Tanimura K, Nakajima Y, Nagao M, Ishizaki A, Kano T, Harada T, Okajima F, Sudo M, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Yamashita S¹⁾, Asai A, Oikawa S¹⁾ (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan) : Association of serum apolipoprotein B48 level with the presence of carotid plaque in type 2 diabetes mellitus. the European Atherosclerosis Society 77th Congress (Istanbul, Turkey), 2008. 4.
- 2) Tanimura K, Nakajima Y, Nagao M, Ishizaki A, Kano T, Harada T, Okajima F, Sudo M, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Yamashita S¹⁾, Asai A, Oikawa S¹⁾ (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan) : Association of serum apolipoprotein B48 level with the presence of carotid plaque in type 2 diabetes mellitus. the European Atherosclerosis Society 77th Congress, (Istanbul, Turkey), 2008. 4.
- 3) Tamura H, Ishii S, Kano T, Ishizaki A, Sugihara H, Oikawa S : Intravenous Infusion of Peptide YY (3-36) Stimulates Growth Hormone (GH) Secretion in Fasted Male Rats. Annual Meeting of the Endocrine Society (90th) (San Francisco), 2008. 6.
- 4) Ishii S, Tamura H, Kano T, Ishizaki A, Sugihara H, Oikawa S : The Effects of C75, a Fatty Acid Synthase Inhibitor, on Growth Hormone Secretion in Adult Male Rats. Annual Meeting of the Endocrine Society (90th) (San Francisco), 2008. 6.
- 5) Kano T, Sugihara H, Ishizaki A, Tamura H, Ishii S, Oikawa S : Comparison of Pituitary-Adrenal Responsiveness between the Insulin Tolerance Test and GH-Releasing Peptide-2 Test. Annual Meeting of the

- Endocrine Society (90th) (San Francisco), 2008. 6.
- 6) Tanimura K, Nakajima Y, Nagao M, Ishizaki A, Kano T, Harada T, Okajima F, Sudo M, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Yamashita S¹⁾, Asai A, Oikawa S (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan.) : Association of serum apolipoprotein B48 level with the presence of carotid plaque in type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Res Clin Pract*, 2008. 9.
 - 7) 谷村恭子, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原仁, 及川眞一: 糖尿病患者におけるアポリポ蛋白B48と頸動脈プラークとの関係. 第39回 日本動脈硬化学会総会 (大阪国際会議場), 2007. 7.
 - 8) 谷村恭子, 岡島史宜, 長尾元嗣, 中島 泰, 原田太郎, 首藤真理子, 浅井 明, 及川眞一: ヘパリン負荷試験におけるアポB48の変化について. 第40回 日本動脈硬化学会総会 (つくば国際会議場), 2008. 7.
 - 9) 谷村恭子, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原仁, 及川眞一: 2型糖尿病患者におけるアポB48と頸動脈プラークの有無との関係. 第51回糖尿病学会 (東京国際フォーラム), 2008. 5.
 - 10) 加納稔子, 杉原 仁, 石崎 晃, 田村秀樹, 石井新哉, 及川眞一: 成長ホルモンのアディポサイトカイン, 糖代謝に与える影響. 日本内分泌学会学術総会 (第81回) (青森), 2008. 5.
 - 11) 石崎 晃, 杉原 仁, 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 及川眞一: 成長ホルモン, 高脂肪食の成長促進, 脂質代謝, 脂肪肝, 動脈硬化に与える影響. 日本内分泌学会学術総会 (第81回) (青森), 2008. 5.
 - 12) 石井新哉, 田村秀樹, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一: 脂肪酸合成酵素阻害剤C75のGH分泌への効果の検討. 日本内分泌学会学術総会 (第81回) (青森), 2008. 5.
 - 13) 田村秀樹, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一: ウロコルチンのGH分泌抑制作用についての検討. 日本内分泌学会学術総会 (第81回) (青森), 2008. 5.
 - 14) 長尾元嗣, 中島 泰, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: 2型糖尿病患者における血清IGF-1値の分布と血糖コントロールとの関係. 日本内分泌学会学術総会 (第81回) (青森), 2008. 5.
 - 15) 岡島史宜, 谷村恭子, 中島 泰, 長尾元嗣, 原田太郎, 首藤真理子, 浅井 明, 及川眞一: 牛乳, 低脂肪乳, Ca調整乳, 豆乳摂取による糖脂質, アポB48の変動について Serum apolipoprotein B48 profiles after an oral loading of whole fat milk, low fat milk, calcium-adjusted milk, or soybean milk. 第40回 日本動脈硬化学会総会 (つくば国際会議場), 2008. 7.
 - 16) 松田 崇, 谷村恭子, 中島 泰, 首藤真理子, 長尾元嗣, 原田太郎, 岡島史宜, 浅井 明, 及川眞一: 頸動脈プラークの有無と空腹時apoB48, AUC-apoB48, iAUC-apoB48との関係 The presence of carotid plaque is associated with fasting apoB48 and AUC-apoB48, but not with iAUC-apoB48. 第40回 日本動脈硬化学会総会 (つくば国際会議場), 2008. 7.
 - 17) 石井新哉, 田村秀樹, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一: アディポネクチンのGH分泌に及ぼす効果. 日本神経内分泌学会 (第35回) 日本下垂体研究会 (第23回) 合同学術集会 (東京), 2008. 8.
 - 18) 加納稔子, 杉原 仁, 石崎 晃, 首藤真理子, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 芝崎 保¹⁾, 及川眞一 (¹⁾ 日本医科大学 生理学第二): 視床下部・下垂体・副腎系の検査においてGHRP試験はインスリン負荷試験の代用となるか?. 日本神経内分泌学会 (第35回) 日本下垂体研究会 (第23回) 合同学術集会 (東京), 2008. 8.
 - 19) 長尾元嗣, 石崎 晃, 加納稔子, 谷村恭子, 原田太郎, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾, 及川眞一 (¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科): 中枢性尿崩症の3例. 日本神経内分泌学会 (第35回) 日本下垂体研究会 (第23回) 合同学術集会 (東京), 2008. 8.
 - 20) 谷村恭子, 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾ 仙台赤十字病院 内科): メタボリックシンドロームにおける血清アポ

B48濃度について. 第29回 日本肥満学会 (iichiko 総合文化センター 大分), 2008. 10.

- 21) 谷村恭子, 石井新哉¹⁾, 加納稔子, 石崎 晃, 田村秀樹, 杉原 仁, 中村慶春²⁾, 田尻 孝²⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 金地病院, ²⁾ 日本医科大学 第一外科: インスリノーマに視床下部性副腎不全を合併した1例. 第9回日本内分泌学会 関東甲信越支部学術学会 (大手町サンケイプラザ), 2009. 2.
- 22) 近藤麻加, 岡部雅弘, 中村恭子, 檀 和夫: Dicentric (17; 20) (p11.2; q11.2) を伴った急性リンパ性白血病. 第162回日本血液学会例会 (東京都), 2009. 2.
- 23) 谷村恭子, 江本直也¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内分泌代謝: 漏斗下垂体後葉炎の経過中に Basedow 病を発症した1例. 第19回日本内分泌学会臨床内分泌代謝 Update (都市センターホテル 東京), 2009. 3.
- 24) 長尾元嗣, 杉原 仁, 石井新哉, 田村秀樹, 岡島史宜, 山口文雄¹⁾, 原田 大²⁾, 川本雅司²⁾, 寺本 明¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学 病理部: 中枢性尿崩症で発症した Langerhans 細胞組織球症の1例. 臨床内分泌代謝 Update (第19回) (東京), 2009. 3.

追加分特別講演:

- 1) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 弘前消化器病研究会 (第172回), 2009. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 岩切勝彦: 食道運動障害の診断とGERDの病態・治療. 滋賀消化器研究会学術講演会 (第63回), 2009. 7.
- 2) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 目黒区医師会内科部会学術講演会, 2009. 7.
- 3) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 加茂市医師会学術講演会, 2009. 11.
- 4) 岩切勝彦: GERDの病態. 大阪GERD研究会 (第12回), 2009. 12.
- 5) 岩切勝彦: NERDの病態. 千葉GERD研究会 (第13回), 2009.
- 6) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 花巻市医師会医療講演会, 2010. 2.
- 7) 岩切勝彦: PPI抵抗性NERDの病態. 沖縄消化管運動機能研究会 (第9回), 2010. 2.
- 8) 岩切勝彦: NERDの病態と治療. 茨城県早期胃・大腸癌研究会 (第86回), 2010. 3.
- 9) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 村上市岩船郡医師会学術集会, 2010. 3.
- 10) 岩切勝彦: GERDの病態と治療. 印旛市郡医師会学術講演会, 2010. 3.

(2) 招待講演:

- 1) Ogata K, Porta-Della GM¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Hematology and Oncology, Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, Pavia, and University of Pavia, Italy: Interlaboratory validation of flow cytometry in MDS. The Second International ELN Workshop on standardization of flow cytometry in MDS (Munich, Germany), 2009. 10.
- 2) Tamura H: Expression and function of B7 family molecules in hematologic malignancies. The First Advanced Cancer Research Symposium, Advanced Research Center for Multiple Myeloma, Inje University College of Medicine. (Busan, South Korea), 2009. 11.

(3) 教育講演:

- 1) 岩切勝彦: 非びらん性胃食道逆流症 (NERD) の病態と治療. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.

(4) シンポジウム:

- 1) 三宅一昌, 楠 正典, 坂本長逸: NSAIDと低用量アスピリンの長期併用が与える無症候性の内視鏡的消化性潰瘍発症と潜在性出血への影響 (アスピリンとNSAID併用による消化管粘膜傷害). 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 2) 小林 剛, 田中 周, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤

志, 藤森俊二, 坂本長逸: 同定困難な小腸血管病変に対する診断アプローチ. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.

- 3) 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智隆, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 低用量アスピリン長期服用-虚血性心疾患患者における消化性潰瘍出血の特徴. 日本高齢消化器病学会 (第12回), 2009. 7.
- 4) 金沢秀典, 橋原義之, 坂本長逸: 肝硬変の難治性腹水, 難治性肝性胸水に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) の治療成績. 日本IVR学会 (第38回), 2009. 8.
- 5) 新福摩弓: FD患者におけるGN- β の遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析 (臨床応用を目指した胃疾患への新しいアプローチ). 胃病態機能研究会 (第41回), 2009. 8.
- 6) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸: レバミピドの併用により非ステロイド抗炎症剤の小腸粘膜傷害は減少する・無作為プラセボ対照2重盲検試験 (わが国におけるアスピリン, NSAID消化管傷害の現状と対策. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
- 7) 二神生爾: クロスオーバー法を用いたニザチジンによるFD患者に対する臨床症状と胃排出能への影響の解析 (機能性消化管疾患: 治療をめぐって). 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸: 小腸狭窄に停留したカプセル内視鏡の回収に対するダブルバルーン内視鏡の役割 (小腸治療内視鏡 現状と今後の展望). 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
- 2) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸: 小腸狭窄に停留したカプセル内視鏡の回収に対するダブルバルーン内視鏡の役割. 日本消化器病学会週間 (第17回), 2009. 10.
- 3) 新福摩弓, 二神生爾, 坂本長逸: FD患者におけるGN β -3におよびグレリンの遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
- 4) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸: ESDにおけるDVTの発症率と予測因子の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回), 2009. 10.
- 5) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸: 経口内視鏡の苦痛度予測因子による, 経鼻内視鏡好適群の抽出. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回), 2009. 10.
- 6) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: ESD後幽門狭窄における予測因子および対策 (消化器内視鏡偶発症に対するトラブルシューティング). 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回), 2009. 12.
- 7) 田中由理子, 梅澤まり子, 川見典之, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 二神生爾, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: アカシア患者に対してバルーン拡張術を安全に行うためのコツ (消化器内視鏡偶発症に対するトラブルシューティング). 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回), 2009. 12.

(6) セミナー:

- 1) 岩切勝彦: PPI抵抗性NERDの病態. 胃病態機能研究会 (第41回), 2009. 8.
- 2) 坂本長逸: NSAID起因性消化管傷害の現状と対策. 胃病態機能研究会 (第41回), 2009. 8.
- 3) 岩切勝彦: PPI抵抗性NERDの病態. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回), 2009. 12.
- 4) 岩切勝彦: NERDの病態と治療. 日本消化器内視鏡学会関東セミナー (第21回), 2010. 1.
- 5) 岩切勝彦: PPI抵抗性NERDの病態および逆流と非定型症状の関連. 気管食道科専門医大会 (第20回), 2010. 2.

(7) ワークショップ:

- 1) 二神生爾, 河越哲郎, 坂本長逸: 選択的COX-2阻害剤 celecoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデルにおけるAPE-1および胃癌発症抑制の検討. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 2) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸: 大腸腺腫を予防するために葉酸補充の必要な対象を血清葉酸濃度から推定する試み (大腸癌の予防). 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.

- 3) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 経口内視鏡 (経口) の苦痛度予想因子からみた, 経鼻内視鏡 (経鼻) 好敵群の抽出. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.
- 4) 河越哲郎, 川見典之, 小林 剛, 梅澤まり子, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: 高齢切除不能胃がん症例における S-1 ベース化学療法の有用性の検討. 日本高齢消化器病学会 (第12回), 2009. 7.
- 5) 飯泉 匡, 星原芳雄, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 田中由理子, 新福摩弓, 坂本長逸: 下部食道柵状縦走血管の白色混濁の程度と頻度の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 7.
- 6) 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 金澤秀典, 坂本長逸: 異所性静脈瘤4例の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (シェーンバッハサポー), 2009. 7.
- 7) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝硬変患者における塩酸フェスジルの門脈圧および全身血行動態に及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会 (第16回), 2009. 11.
- 8) 遠坂由紀子: 虚血性心疾患をともなう低用量アスピリン長期服用患者における内視鏡的潰瘍と出血症状との関連 (NSAIDsと消化管病変). 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 9) 藤森俊二: NSAIDs起因性の小腸粘膜傷害の表現形と分布の検討 (NSAIDsと消化管病変). 日本消化管学会総会学術集会, 2010. 2.
- 10) 田中 周: 小腸濾胞性リンパ腫に対するダブルバルーン内視鏡検査の意義 (消化管悪性リンパ腫の診断と治療). 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.

(8) 一般講演:

- 1) Kondo A, Yamashita T¹⁾, Tamura H, Sato C²⁾, Zhaozhao W, Tsuji T, Shinya E³⁾, Takahashi H³⁾, Tamada K⁴⁾, Chen L⁵⁾, Dan K, Ogata K (¹⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, ²⁾ Department of Bioregulation, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan, ³⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ⁴⁾ Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, MD, ⁵⁾ The Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center at Johns Hopkins, Baltimore, MD, USA) : B7-H1 molecules on blasts from myelodysplastic syndromes link to cell aggressiveness and are capable of inducing T-cell apoptosis. The 10th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes. (Patras, Greece), 2009. 5.
- 2) Ogata K, Porta-Della GM¹⁾, Malcovati L¹⁾, Picone C¹⁾, Yokose N²⁾, Matsuda A³⁾, Yamashita T⁴⁾, Tamura H, Tsukada J⁵⁾, Dan K, Cazzola M¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Hematology Oncology, University of Pavia Medical School & Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, Pavia, Italy ; , ³⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, Japan, ⁴⁾ Department of Hematology, Saitama International Medical Center, Saitama Medical University, Saitama, Japan, ⁵⁾ Department of Industrial Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, Japan, ⁶⁾ First Department of Internal Medicine, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Fukuoka, Japan) : Diagnostic utility of flow cytometry in myelodysplastic syndromes lacking conventional diagnostic markers : a prospective validation study. The 10th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (Patras, Greece), 2009. 5.
- 3) Tamura H, Dan K, Yokose N¹⁾, Iwakiri R²⁾, Ohta M²⁾, Sakamaki H³⁾, Tohyama K⁴⁾, Kondo A, Nakamura K, Yamashita T⁵⁾, Tsuji T⁵⁾, Sugiyama H⁶⁾, Ogata K (¹⁾ Department of Internal Medicine, Chiba

Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, ²⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, ³⁾ Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, ⁴⁾ Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, Okayama, ⁵⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, ⁶⁾ Department of Functional Diagnostic Science, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka University, Osaka, Japan) : The clinical significance of WT1 mRNA expression and anti-WT1 antibodies in peripheral blood from myelodysplastic syndromes. The 10th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (Patras, Greece), 2009. 5.

- 4) Fujimori S, Gudis K, Takahashi Y, Seo T, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Distribution of Small Intestinal Mucosal Injuries with Short Term Administration of Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 5) Fujimori S, Seo T, Takahashi Y, Gudis K, Tatsuguchi A, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Tanaka S, Sakamoto C : Rebamipide Prevents NSAID-Induced Small Intestinal Injury : A Prospective, Double-Blind, Randomized Controlled Trial Using Capsule Endoscopy. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 6) Futagami S, Kawagoe T, Shindo T, Horie A, Hamamoto T, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Crowe S, Sakamoto C : Celecoxib Inhibits Apurinic / Apyrimidinic Endonuclease-I Expression and Prevents Gastric Cancer in Helicobacter pylori Infected Mongolian Gerbils. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 7) Miyake K, Kusunoki M, Shindo T, Kawagoe T, Futagami S, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : The Impact of Occult Haemorrhage in Asymptomatic Endoscopic Peptic Ulcers On Long-Term Concomitant Use of NSAID and Low-Dose Aspirin . Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 8) Kusunoki M, Miyake K, Shindo T, Kawagoe T, Futagami S, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : Incidence of Deep Venous Thrombosis in Endoscopic Submucosal Dissection and Predictability of D-dimer. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 9) Miyake K, Shindo T, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : Duodenogastric Reflux Induced By Endoscopic Submucosal Dissection : Contribution of the Resection Area. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 10) Takahashi Y, Fujimori S, Seo T, Gudis K, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : NSAIDs Suppress Fat Absorption in the Small Intestine As Evaluated By Capsule Endoscopy By Capsule Endoscopy. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 11) Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Hoshihara Y, Sakamoto C : Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations (TLESRs) May Be An Even More Important Mechanism Underlying Acid Reflux Episodes. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 12) Futagami S, Iwakiri K, Shindo T, Kawagoe T, Horie A, Shimpuku M, Gudis K, Miyake K, Tsukui T, Sakamoto C : 5ht4-Agonist (Mosapride) Improves the Clinical Symptoms in PPI-Resistant NERD Patients via Improvement of Gastric Emptying. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 13) Shimpuku M, Futagami S, Kawagoe T, Shindo T, Kusunoki M, Miyake K, Iwakiri K, Sakamoto C : Relationship Between Clinical Symptoms and Local Inflammatory Cell Infiltration of the Duodenum in FD Patients Using 13C Breath Test. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 6.
- 14) Tanimura K, Nagao M, Sudo M, Harada T, Nakajima Y, Okajima F, Asaia A, Kotake H¹⁾, Oikawa S
(¹⁾ Red Cross Hospital, Sendai, Miyagi) : Serum apoB48 levels are elevated in metabolic syndrome and dia-

- betes mellitus. XV International Symposium on Atherosclerosis (Boston, MA, USA), 2009. 6.
- 15) Kondo A, Tamura H, Yamashita T, Sato C, Wanhong Z, Tsuji T¹, Shinya E², Takahashi H², Tamada K³, Chen L⁴, Dan K, Ogata K (1) Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, Chiba, 2) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, Baltimore, MD, 4) Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, USA) : Interferon- and tumor necrosis factor- α induce an immunoinhibitory molecule, B7-H1, via NF κ B activation in blasts of myelodysplastic syndrome blasts. 51st American Society of Hematology, Annual Meeting and Exposition (NEW ORLEANS), 2009. 12.
 - 16) Tamura H, Dan K, Yokose N¹, Iwakiri R², Masatsugu O², Sakamaki H³, Tohyama K⁴, Kondo A, Hyodo H, Nakamura K, Yamashita T, Elisseeva AO⁵, Oka Y⁶, Oji Y⁷, Ogata K, et al. (1) Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, Chiba, 2) Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo, 3) Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, 4) Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, Okayama, 5) Functional Diagnostic Science, 6) Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, 7) Department of Biomedical Informatics, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan) : Prognostic Significance of WT1 mRNA and anti-WT1 Antibody Levels in Peripheral Blood in Patients with Myelodysplastic Syndromes. 51st American Society of Hematology, Annual Meeting and Exposition (NEW ORLEANS), 2009. 12.
 - 17) Wakita S, Yamaguchi H, Mitamura Y, Kosaka F, Inokuchi K, Dan K : Highly Sensitive Quenching Probe (Qprobe) Method Is Useful to Detect c-Kit Mutation and to Predict Relapse of t (8 ; 21) (q22 ; q22) Acute Myeloid Leukemia. 51th ASH Annual Meeting and Exposition (New Orleans), 2009. 12.
 - 18) Sugihara H, Ishizaki A, Kano T, Tamura H, Oikawa S : Chronic growth hormone administration increases insulin sensitivity in spontaneous dwarf rats. International Congress of Endocrinology (14th) (Kyoto), 2010. 3.
 - 19) Tamura H, Kano T, Ishizaki A, Sugihara H, Oikawa S : Role of peptide YY (3-36) on growth hormone (GH) secretion in fasted male rats. International Congress of Endocrinology (14th) (Kyoto), 2010. 3.
 - 20) Kano T, Sugihara H, Ishizaki A, Tamura H, Shibasaki T¹, Oikawa S (1) Department of physiology, Nippon Medical School) : Comparison of pituitary-adrenal responsiveness between insulin tolerance test and growth hormone-releasing peptide-2 test. International Congress of Endocrinology (14th) (Kyoto), 2010. 3.
 - 21) 中澤祥子, 二神生爾, 新福摩弓, 堀江 茜, 藤本真弓, 河越哲郎, 進藤智隆, 坂本長逸 : FD患者における¹³C-acetate呼気試験法の有用性およびGNbeta-3遺伝子多型の検討. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
 - 22) Tanimura K, Nagao M, Sudo M, Harada T, Nakajima Y, Okajima F, Asai A, Oikawa S : Fasting compared with postprandial serum apolipoproteinB48 level for the presence of carotid plaque. 第41回 日本動脈化学会総会・学術集会 (海峡メッセ下関), 2009. 7.
 - 23) Inokuchi K, Tamai H, Yamaguchi H, Miyake K¹, Shimada T¹, Dan K (1) Dept. Biochem. and Molecular Biology, Tokyo, Japan) : Establishment and characterization of transgenic mice expressing MLL-AF4 fusion protein. 日本血液学会学術集会 (京都市), 2009. 10.
 - 24) Wakita S, Yamaguchi H, Mitamura Y¹, Kosaka F, Dan K, Inokuchi K (1) Sekino Clinical Pharmacology

- Clinic) : Frequency of c-kit mutation was higher at relapse in t (8 ; 21) positive acute myeloid leukemia . 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 25) Okamoto M, Inokuchi K, Mitsui K¹⁾, Gomi S²⁾, Yamada T, Dan K (1) Gastroenterology, Dept. Int. Med, Nippon Medical School, 2) Dept. Hematol, Yokohama Minami Kyosai Hosp) : Imatinib-induced hepatotoxicity in CCR-CML after four-years administration. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 26) 中村恭子, 兵働英也, 近藤麻加, 水木太郎, 田村秀人, 山口博樹, 田近賢二, 檀 和夫 : Efficacy of pleurodesis for management of recurrent pleural effusion in hematological malignancy. 第71回日本血液学会学術集会 (京都市), 2009. 10.
- 27) 田村秀樹, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一 : 再摂食による成長ホルモン (GH) 分泌促進作用は, Y2受容体を介して発現される. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 28) 加納稔子, 杉原 仁, 石崎 晃, 田村秀樹, 石井新哉, 芝崎 保¹⁾, 及川眞一 (1) 日本医科大学生理学講座 (生態統御学) : GHRP-2試験とインスリン負荷試験によるGHの頂値の関係について. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 29) 杉原 仁, 石崎 晃, 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 及川眞一 : パセドウ病に合併した骨粗鬆症に対するアレンドロネートの効果. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 30) 石崎 晃, 杉原 仁, 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 及川眞一 : パセドウ病による続発性骨粗鬆症. 日本内分泌学会学術総会 (第82回) (前橋), 2009. 4.
- 31) 田村秀人, 緒方清行, 横瀬紀夫¹⁾, 岩切理歌²⁾, 大田雅嗣³⁾, 坂巻 壽³⁾, 通山 薫⁴⁾, 近藤麻加⁵⁾, 中村恭子, 檀 和夫 (1) 日本医科大学千葉北総病院血液内科, 2) 東京都老人医療センター血液科, 3) 東京都立駒込病院血液内科, 4) 川崎医科大学検査診断学・同附属病院中央検査部) : 骨髓異形成症候群における末梢血WT1 mRNA測定の有用性. 第106回日本内科学会総会 (プレナリーセッション) (京都), 2009. 4.
- 32) 谷村恭子, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 原田太郎, 石崎 晃, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一 : 糖尿病網膜症におけるアポB48濃度. 第52回日本糖尿病学会年次学術集会 (大阪国際会議場), 2009. 5.
- 33) 新福摩弓, 二神生爾, 堀江 茜, 河越哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 名見耶浩幸, 楠 正典, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 : FD患者におけるGN β 3のSNP解析と胃排出能との相関関係の解析. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 34) 梅澤まり子, 星原芳雄, 岩切勝彦, 飯泉 匡, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 新福摩弓, 坂本長逸 : 内視鏡による下部食道柵状縦走血管の形状の検討. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 35) 飯泉 匡, 星原芳雄, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 新福摩弓, 坂本長逸 : 下部食道柵状縦走血管の白色混濁の程度と頻度の検討. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 36) 川見典之, 江原彰仁, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸 : 好酸球浸潤がachalasia発症に関与したと考えられた好酸球性胃腸炎の1例. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 37) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) における術後深部静脈血栓症 (DVT) 発症率とD-dimer (DD) の変動. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 38) 二神生爾, 進藤智隆, 河越哲郎, 新福摩弓, 名見耶浩幸, 楠 正典, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 : FD患者における十二指腸炎粘膜局所の炎症細胞浸潤の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.
- 39) 馬來康太郎, 三井啓吾, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 田中周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : ダブルバルーン内視鏡で絞扼術でポリペクトミー後にカプセル内視鏡で経過観察したPeutz-Jeghers症候群の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.
- 40) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸 : 食道の拡張が明

- らかでないアカラシア患者の食道内視鏡所見. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.
- 41) 川見典之, 星原芳雄, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 坂本長逸: 食道柵状血管の観察におけるFICEの有用性. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.
 - 42) 恩田直美, 田村秀人, 中村恭子, 山田 隆, 檀 和夫, 糸川典夫, 中塚雄久: PET, Gaシンチともに集積を認めず診断に苦慮したHepatosplenic T cell lymphomaの1例. 第42回老年者造血器疾患研究会 (東京都), 2009. 6.
 - 43) 梅澤まり子, 江原彰仁, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: 好酸性胃腸炎が発症に関与したと考えられた高齢者achalasiaの1例. 日本高齢消化器病学会 (第12回), 2009. 7.
 - 44) 松田崇史, 田中 周, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: 高齢者に対するダブルバルーン小腸内視鏡の有用性と安全性. 日本高齢消化器病学会 (第12回), 2009. 7.
 - 45) 近藤千紗, 厚川正則, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 片倉玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金澤秀典, 坂本長逸: 65歳以上の高齢者慢性C型肝炎に対するFluvastatin併用PEG + RBV併用治療の有益性. 日本高齢消化器病学会 (第12回) (ベルサール九段), 2009. 7.
 - 46) 松下洋子, 榎原義之, 近藤千紗, 福田 健, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 金澤秀典, 坂本長逸: 高齢者の難治性腹水に対するTIPSの治療成績. 日本高齢消化器病学会 (第12回), 2009. 7.
 - 47) 豊田将大, 藤森俊二, 高橋陽子, 山田祐希江, 瀬尾継彦, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 坂本長逸: 原因不明消化管出血精査でDark-side pylorusに潰瘍を認めた1症例. 日本カプセル内視鏡研究会総会・学術集会 (第2回), 2009. 7.
 - 48) 浜田泰子, 近藤麻加, 山口博樹, 田村秀人, 中村恭子, 田近賢二, 檀 和夫: 臍帯血移植後にレシピエント由来の骨髓異形成症候群に移行したPh + 急性骨髓性白血病. 第163回日本血液学会例会 (東京都), 2009. 7.
 - 49) 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 当科における1型肝腎症候群の実態. 日本門脈圧亢進症学会 (第16回), 2009. 9.
 - 50) 城所秀子, 金沢秀典, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 福田 健, 片倉玲樹, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPS後の血行動態変化と一過性肝障害の関係. 日本門脈圧亢進症学会 (第16回), 2009. 9.
 - 51) 城所秀子, 金沢秀典, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 福田 健, 片倉玲樹, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: PHG, GAVEに対するTIPSの効果. 日本門脈圧亢進症学会 (第16回), 2009. 9.
 - 52) 加納稔子, 杉原 仁, 石崎 晃, 田村秀樹, 及川眞一: GHRP-2試験とインスリン負荷試験によるGH頂値の相関についての検討. 日本神経内分泌学会学術集会 (第36回) (北九州), 2009. 9.
 - 53) 山下泰史¹⁾, 田村秀人, 近藤麻加, 兵働英也, 中村恭子, 辻 孝¹⁾, 檀 和夫, 緒方清行⁽¹⁾ 東京理科大基礎工学部生物工学科): 血液病患者におけるT細胞のPD-1発現. 日本血液学会総会 (第71回) / 日本臨床血液学会総会 (第51回) (京都), 2009. 9.
 - 54) 河越哲郎, 名見耶浩幸, 川見典之, 梅澤まり子, 小林 剛, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: 当科における切除不能胃がんに対するS-1 + 低用量CCDP療法の治療成績の検討. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
 - 55) 名見耶浩幸, 二神生爾, 河越哲郎, 梅澤まり子, 川見典之, 堀江 茜, 岩切勝彦, 坂本長逸: 食道癌組織におけるAPE発現の解析. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
 - 56) 田村秀人, 緒方清行, 横瀬紀夫¹⁾, 岩切理歌²⁾, 大田雅嗣²⁾, 坂巻 壽³⁾, 通山 薫⁴⁾, 山下泰史⁵⁾, 近藤麻加, 兵働英也, 中村恭子, 尾路祐介⁶⁾, 杉山治夫⁷⁾, 檀 和夫⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院血液内科, ⁽²⁾ 東京都老人医療センター血液科, ⁽³⁾ 東京都立駒込病院血液内科, ⁽⁴⁾ 川崎医科大学検査診断学・同附属病院中央検査部, ⁽⁵⁾ 東京理科大基礎工学部生物工学科, ⁽⁶⁾ 大阪大学大学院医学系研究科生体情報科学, ⁽⁷⁾ 大阪大学大学院医学系研究科機能診断科学): 骨髓異形成症候群における末梢血WT1 mRNA発現と抗WT1抗体産生の臨床的意義.

第71回日本血液学会総会／第51回日本臨床血液学会総会（京都），2009．10．

- 57) 田村秀人, 緒方清行, 中村恭子, 檀 和夫: 悪性リンパ腫患者における顆粒球コロニー刺激因子 nartograstim による好中球ENA-78およびIL-8産生誘導効果の検討. 日本臨床腫瘍学会総会 (第7回) (名古屋), 2009. 10.
- 58) 了徳寺剛, 山口博樹, 中村恭子, 水木太郎, 田村秀人, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 当科における急性リンパ芽球性白血病の治療成績. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 59) Hirakawa T, Yamaguchi H, Mitamura Y, Kosaka F, Inokuchi K, Dan K: Analyses of FCGR3A polymorphisms and its effect on the prognoses of DLBCL treated with rituximab. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 60) 玉井勇人, 三宅弘一¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 山口博樹, 檀 和夫, 猪口孝一, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学分子遺伝医学教室: MLL/AF4 遺伝子異常を伴う急性リンパ性白血病のMDA7/IL24による遺伝子治療. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 61) 中山一隆, 三田村佳勇, 山口博樹, 小坂文子, 猪口孝一, 檀 和夫: 骨髄増殖性腫瘍におけるJAK2 exon12の変異とc-MPLW515L/K変異の新規検出法の開発. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 62) 白杉由香里¹⁾, 岡本真一郎²⁾, 田内哲三³⁾, 猪口孝一, 鈴木裕子⁴⁾, 矢ヶ崎史治⁵⁾, 得平道英⁶⁾, 淡谷典弘²⁾, 伊藤良和³⁾, 木村之彦³⁾, 堀江良一⁴⁾, 黒川峰夫⁷⁾, 木崎昌弘⁶⁾, 陳内逸朗⁸⁾, 檀 和夫 (1) 東海大学 血液腫瘍内科, 2) 慶応義塾大学 血液内科, 3) 東京医科大学 血液内科, 4) 北里大学 血液内科, 5) 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科, 6) 埼玉医科大学総合医療センター 血液内科, 7) 東京大学 血液・腫瘍内科, 8) 埼玉医科大学 血液内科): 本邦の慢性骨髄性白血病におけるイマチニブの血中濃度と有効性の相関についての多施設共同試験 (中間報告) と抗 WT1 抗体産生の臨床的意義. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 63) 竹内純子, 山口博樹, 玉井勇人, 三田村佳勇, 小坂文子, 猪口孝一, 檀 和夫: 本邦の骨髄不全症におけるTINF2遺伝子異常の検索. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 64) 横瀬紀夫, 大秋美治¹⁾, 平川経晃, 檀 和夫, 猪口孝一 (1) 千葉北総病院 病理部): Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm の腫瘍細胞の特徴: 表面形質の変化および電顕所見. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 65) 真鍋恵理子, 黒沢さらら, 山口博樹, 寺田和樹, 上田太一郎, 三田村佳勇, 小坂文子, 檀 和夫, 猪口孝一: 急性骨髄性白血病における予後因子としてのCEBPA遺伝子変異. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 66) 榎原義之, 金沢秀典, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPSによる難治性腹水50例の治療成績. Portal Hemodynamics Forum (第23回), 2009. 11.
- 67) 嶺 貴彦¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之¹⁾, 林 宏光¹⁾, 福永 毅¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 山口英宣¹⁾, 上田達夫¹⁾, 福田 健²⁾, 榎原義之²⁾, 中塚雄久²⁾, 多田教彦²⁾ (1) 日本医科大学 放射線科, 2) 日本医科大学 消化器内科): 急性腹症で発症した内臓動脈瘤破裂の1例. 血管外科症例検討会, 2009. 11.
- 68) 田村秀人, 山下泰史, 近藤麻加, 守屋慶一¹⁾, 田野崎栄¹⁾, 常 理紗, 檀 和夫, 緒方清行 (1) 同愛記念病院 血液内科): 骨髄腫におけるB7-H1分子の発現と病態への関与. 第34回日本骨髄腫研究会総会 (東京), 2009. 11.
- 69) 小高康裕, 二神生爾, 高橋賢一郎, 新福摩弓, 川見典之, 楠 正典, 河越哲郎, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: 極度の貧血で2度にわたり入院となった逆流性食道炎の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回), 2009. 12.
- 70) 豊田将大, 藤森俊二, 高橋陽子, 山田祐希江, 瀬尾継彦, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 坂本長逸: 原因不明消化管出血精査でDark-side pylorusに潰瘍を認めた1症例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回), 2009. 12.

- 71) 岡崎愛未¹⁾, 二神生爾¹⁾, 新福摩弓¹⁾, 小高康裕¹⁾, 豊田将大¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 榎原義之¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 白石振一郎²⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学 消化器内科, (2) 日本医科大学 救命救急センター): 胸部大動脈瘤による偽脛食道瘻孔の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回), 2009. 12.
- 72) 桥 卓史, 三宅一昌, 新福摩弓, 進藤智隆, 植木信江, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: ESDを施行した早期分化型胃癌の発症部位および癌周囲の腸上皮化生における空腹十二指腸胃逆流の関与. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 73) 河越哲郎, 小林 剛, 川見典之, 梅澤まり子, 名児耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸: 高齢切除不能胃癌症例におけるS-1ベース化学療法の有用性の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 74) 楠 正典, 三宅一昌, 進藤智隆, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸: 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 後幽門狭窄に対する予測因子と対策. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 75) 小杉有紀, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 川見典之, 梅澤まり子, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道pH, インピーダンス測定によりSymptom index (SI) が陽性であったPPI抵抗性NERD患者の液体逆流と症状出現の関連. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 76) 飯泉 匡, 星原芳雄¹⁾, 岩切勝彦, 川見典之, 梅澤まり子, 田久保海誉²⁾, 坂本長逸 (1) 経済産業省診療所, (2) 東京都老人総合研究所): 下部食道柵状縦走血管の白色混濁の程度と頻度の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 77) 松田崇史, 星原芳雄, 飯泉 匡, 岩切勝彦, 豊田将大, 遠坂由紀子, 川見典之, 梅澤まり子, 坂本長逸: Schatzki' s ringの背景因子の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 78) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: "Esophageal Rosette" はやはりアカラシアの特徴的な下部食道内視鏡所見であった. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 79) 馬來康太郎, 三井啓吾, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 田中周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡による絞扼術でポリペクトミーを施行し, カプセル内視鏡で経過観察したPeutz-Jeghers症候群の1例. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 80) 糸川典夫, 城所秀子, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 片倉玲樹, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 術前診断が困難であった多発肝腫瘍性病変の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第308回), 2010. 2.
- 81) 加納稔子, 根本崇宏¹⁾, 石崎 晃, 田村秀樹, 杉原 仁, 及川眞一, 芝崎 保¹⁾ (1) 日本医科大学生理学 (生態統御学)): 初代培養ラット視床下部細胞を用いたGHRP-2のHPA軸に対する作用機序の解明. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.
- 82) 佐藤友紀, 田村秀樹, 竹光秀司, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 峯 克也¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 清水一雄²⁾, その他2名 (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, (2) 日本医科大学付属病院 内分泌外科): 両側副腎摘出患者の出産例. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.
- 83) 石崎 晃, 杉原 仁, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 及川眞一: 両側褐色細胞腫の症例. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.
- 84) 竹光秀司, 田村秀樹, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 江本直也¹⁾, 及川眞一 (1) 日本医科大学千葉北総病院): クッシング症候群術後に原発性アルドステロン症を診断された妊娠希望女性. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.

(9) 主題：

- 1) 二生永爾：選択的COX-2阻害剤 celecoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデルにおける APE-1 および胃癌発生抑制の検討（胃における炎症から発癌への機序解明）. 胃病態機能研究会（第41回），2009. 8.

[千葉北総病院血液内科]

研究概要

（血液内科）白血病，悪性リンパ腫，再生不良性貧血，多発性骨髄腫など血液疾患全般の診療に当たっています。個々の患者さんにとってのベストの治療法を，御本人御家族とともに考え，治癒のみならず，患者満足度の高い医療を目指しています。本年度に1例目の自家末梢血幹細胞移植を施行しました。今後症例数の蓄積を予定しています。

慢性骨髄性白血病（CML）の分子標的薬の多施設共同研究と悪性リンパ腫 R-CHOP 治療に関する多施設共同研究，多剤耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に関する多施設共同研究に参加しています。骨髄増殖性疾患の JAK2 遺伝子変異解析を行っています。MLL/AF4 遺伝子導入マウスの作成に成功し，リンパ腫が発生することを確認し，この病態生理の解析を行っています。その他，多発性骨髄腫や，芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍の臨床研究を報告しました。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Okamoto M¹), Yamaguchi H¹), Isobe Y²), Yokose N, Mizuki T¹), Tajika K¹), Gomi S³), Hamaguchi H⁴), Inokuchi K¹), Oshimi K²), Dan K¹) (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine, 3) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital, 4) Department of Hematology, Musashino Red Cross Hospital) : Analysis of Triglyceride Value in the Diagnosis and Treatment Response of Secondary Hemophagocytic Syndrome. *Internal Medicine* 2009 ; 48 (10) : 775-781.
- 2) Uchida N^{1,2)}, Hanawa H¹), Dan K²), Inokuchi K²), Shimada T¹) (1) Department of Molecular and Medical Genetics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pathophysiological Management_Medical Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Leukemogenesis of b2a2-type p210 BCR_ABL in a Bone Marrow Transplantation Mouse Model Using a Lentiviral Vector. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (3) : 134-147.
- 3) Yamaguchi H¹), Hanawa H²), Uchida N^{1,2)}, Inamai M¹), Sawaguchi K¹), Mitamura Y¹), Shimada T²), Dan K¹), Inokuchi K¹) (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Multistep pathogenesis of leukemia via the MLL-AF4 chimeric gene/Flt3 gene tyrosine kinase domain (TKD) mutation-related enhancement of S100A6 expression. *Exp Hematol* 2009 ; 37 (6) : 701-714.
- 4) Ogata K¹), Della-Mg P²), Malcovati L²), Picone C²), Yokose N, Matsuda A³), Yamashita T¹), Tamura H¹), Tsukada J⁴), Dan K¹) (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), 2) Department of Hematology Oncology, University of Pavia & Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, 3) Department of Hematology, Comprehensive Cancer Center, International Medical Center, Saitama Medical University, 4) First Department of Internal Medicine, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health) : Diagnostic utility of flow cytometry in low-grade myelodysplastic syndromes : a prospective validation study. *Haematologica* 2009 ; 94 (8) : 1066-1074.
- 5) Suessmuth Y¹), Elliott J¹), Percy-J M²), Inami M³), Attal H⁴), Harrison-N C⁵), Inokuchi K, McMullin-F

M⁶), Johnston-A J¹⁾ (1) Centre for Infection and Immunity, Queen's University, Northern Ireland, ²⁾ Haematology, Belfast City Hospital, Belfast, Northern Ireland, UK, ³⁾ Division of Haematology/Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Oncology Institute, Sheba Medical Centre, Ramat Gan, Israel, ⁵⁾ Department of Haematology, St Thomas' Hospital, London, ⁶⁾ Centre for Cancer Research and Cell Biology, Queen's University, Belfast, Northern Ireland, UK) : A new polycythaemia vera-associated SOCS3 SH2 mutant (SOCS3F136L) cannot regulate erythropoietin responses. *British Journal of Haematology* 2009 ; 147 (4) : 450-458.

(2) 総説 :

- 1) 猪口孝一 : 無顆粒球症について - lozapine の副作用とその対処. *臨床精神薬理* 2009 ; 12 (7) : 1385-1393.
- 2) 猪口孝一 : 正常PMLネットワークによるPTENの脱ユビキチン化抑制による核局在とPML-RAR α . *血液・腫瘍科* 2009 ; 59 (3) : 311-314.
- 3) 横瀬紀夫, 猪口孝一 : 急性骨髄白血病の分類とCD抗体. *血液・腫瘍科* 2009 ; 59 (6) : 619-624.

(3) 症例報告 :

- 1) Yokose N, Ohaki Y³⁾, Fujino T²⁾, Itokawa N²⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Protein-losing gastroenteropathy : unusual presentation of multiple myeloma. *Annals of Hematology* 2009 ; 88 (7) : 705-707.
- 2) Yokose N, Hirakawa T, Inokuchi K : Adenovirus-associated hemorrhagic cystitis in a patient with plasma cell myeloma treated with bortezomib. *Leuk Res* 2009 ; 33 (8) : e106-e106.
- 3) Tamai H^{1, 2)}, Inokuchi K, Dan K²⁾, Tanosaki S^{1, 2)} (1) Department of Hematology, The Fraternity Memorial Hospital, ²⁾ Department of Hematology, Nippon Medical School) : Acquired hemophilia A may be associated with itraconazole. *International Journal of Hematology* 2009 ; 90 (5) : 651-652.

(4) 解説 :

- 1) 猪口孝一 : マクログロブリン血症の治療. *血液・腫瘍科* 2009 ; 59 (1) : 101-107.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Tamura H¹⁾, Dan K¹⁾, Yokose N²⁾, Iwakiri R³⁾, Ohta M³⁾, Sakamaki H⁴⁾, Tohyama K⁵⁾, Kondo A¹⁾, Nakamura K¹⁾, Yamashita T^{1, 6)}, Tsuji T⁶⁾, Sigiya H⁷⁾, Ogata T¹⁾ (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, ⁴⁾ Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, ⁵⁾ Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School, ⁶⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science, ⁷⁾ Department of Functional Diagnostic Science, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka University) : Clinical significance of WT1 mRNA expression and anti-WT1 antibodies in peripheral blood from myelodysplastic syndrome patients. *The 10th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (Hellenic Republic), 2009. 5.*
- 2) Ogata K¹⁾, Dalla-Porta M²⁾, Malcovati L²⁾, Picone C²⁾, Yokose N, Matsuda A³⁾, Yamashita T¹⁾, Tamura H¹⁾, Tsukada J⁴⁾, Dan K¹⁾, Cazzola M²⁾ (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), ²⁾ Department of Hematology Oncology, University of Pavia & Fondazione IRCCS Policlinico San Matteo, ³⁾ Department of Hematology, Comprehensive Cancer

Center, International Medical Center, Saitama Medical University, ⁴⁾ First Department of Internal Medicine, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health) : Diagnostic utility of flow cytometry in myelodysplastic syndromes lacking conventional diagnostic markers : a prospective validation study. The 10th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (Hellenic Republic), 2009. 5.

(2) 一般講演 :

- 1) Inokuchi K¹⁾, Tamai H^{1, 2)}, Miyake K²⁾, Yamaguchi H¹⁾, Shimada T²⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Div. of Hematology, Dept. Int. Med. Nippon Medical School, ²⁾ Dept. Biochem. and Molecular Biology, Tokyo, Japan) : Establishment and characterization of transgenic mice expressing MLL-AF4 fusion protein. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 2) Wakita S¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Mitamura Y²⁾, Kosaka F¹⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K¹⁾ (¹⁾ Hematology Dept, Nippon Medical School, ²⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic) : Frequency of c-kit mutation was higher at relapse in t (8 ; 21) positive acute myeloid leukemia. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 3) 了徳寺剛¹⁾, 山口博樹¹⁾, 水木太郎¹⁾, 中村恭子¹⁾, 田村秀人¹⁾, 田近賢二¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 檀 和夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : 当科における急性リンパ芽球性白血病の治療成績. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 4) 中山一隆¹⁾, 山口博樹¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 檀 和夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌部門) : 骨髄増殖性腫瘍における JAK2 exon12 の変異と c-MPLW515L/K 変異の新規検出法の開発. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 5) 田村秀人¹⁾, 緒方清行¹⁾, 横瀬紀夫, 岩切理歌²⁾, 大田雅嗣²⁾, 坂巻 壽³⁾, 遠山 薫⁴⁾, 山下泰史^{1, 5)}, 近藤麻加¹⁾, 兵働英也¹⁾, 中村恭子¹⁾, 尾路裕介⁶⁾, 杉山治夫⁷⁾, 檀 和夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), ²⁾ 東京都老人医療センター 血液科, ³⁾ 東京都立駒込病院 血液内科, ⁴⁾ 川崎医科大学検査診療学・同附属病院中央検査部, ⁵⁾ 東京理科大学基礎工学部生物工学科, ⁶⁾ 大阪大学大学院医学系研究科癌幹細胞制御学, ⁷⁾ 大阪大学大学院医学系研究科機能診断科学) : 骨髄異形成症候群における末梢血 WT1 mRNA 発現と抗 WT1 抗体産生の臨床的意義. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 6) 白杉由香里¹⁾, 岡本真一郎²⁾, 田内哲三³⁾, 猪口孝一⁴⁾, 鈴木裕子⁵⁾, 矢ヶ崎史治⁶⁾, 得平道英⁷⁾, 淡谷典弘²⁾, 伊藤良和³⁾, 木村之彦³⁾, 堀江良一⁵⁾, 黒川峰夫⁸⁾, 木崎昌弘⁷⁾, 陳内逸朗⁹⁾, 檀 和夫⁴⁾, その他5名 (¹⁾ 東海大学 血液腫瘍内科, ²⁾ 慶応義塾大学 血液内科, ³⁾ 東京医科大学 血液内科, ⁴⁾ 日本医科大学付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), ⁵⁾ 北里大学 血液内科, ⁶⁾ 埼玉医科大学国際医療センター 造血器腫瘍科, ⁷⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 血液内科, ⁸⁾ 東京大学 血液・腫瘍内科, ⁹⁾ 埼玉医科大学 血液内科) : 本邦の慢性骨髄性白血病におけるイマチニブの血中濃度と有効性の相関についての多施設共同試験 (中間報告). 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.

(3) poster session :

- 1) Wakita S, Yamaguchi H¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Inokuchi K, Dan K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism) : Highly Sensitive Quenching Probe (Qprobe) Method Is Useful to Detect c-Kit Mutation and to Predict Relapse of t (8 ; 21) (q22 ; q22) Acute Myeloid Leukemia. 51th ASH Annual Meeting and EXposition (New Orleans), 2009. 12.

(4) ポスター :

- 1) Hirakawa T¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Mitamura Y^{1, 2)}, Kosaka F¹⁾, Inokuchi K¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Nippon Medical School, ²⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic) : Analyses of FCGR3A polymorphisms and its effect on the prognoses of DLBCL treated with rituximab. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.

- 2) 横瀬紀夫, 大秋美治¹⁾, 平川経見, 檀 和夫²⁾, 猪口孝一¹⁾ (千葉北総病院 病理部, ²⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm の腫瘍細胞の特徴: 表面形質の変化および電顕所見. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 3) Okamoto M^{1, 3)}, Inokuchi K¹⁾, Mitsui K²⁾, Gomi S³⁾, Yamada T¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Div. Hematol. Dept. Int. Med. Nippon Medical School, ²⁾ Div. Gastroenterology, Dept. Int. Med, Nippon Medical School, ³⁾ Dept. Hematol. Yokohama Minami Kyosai Hosp.) : Imatinib-induced hepatotoxicity in CCR-CML after four-years administration . 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 4) 玉井勇人^{1, 2)}, 三宅弘一¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 山口博樹²⁾, 檀 和夫²⁾, 猪口孝一²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 分子遺伝医学教室, ²⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌部門)) : MLL/AF4 遺伝子異常を伴う急性リンパ性白血病のMDA7/IL24による遺伝子治療. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 5) 竹内純子¹⁾, 山口博樹¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 猪口孝一¹⁾, 檀 和夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : 本邦の骨髄不全症におけるTINF2遺伝子異常の検索. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.
- 6) 真鍋恵理子¹⁾, 黒沢さらら¹⁾, 山口博樹¹⁾, 寺田和樹¹⁾, 上田太一郎¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 小坂文子¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (¹⁾ 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : 急性骨髄性白血病における予後因子としてのCEBPA遺伝子変異. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都市), 2009. 10.

[千葉北総病院消化器内科]

研究概要

(消化器内科) 上部消化管領域では, 食道癌・胃癌の化学療法, 早期胃癌・胃腺腫の内視鏡的治療を行っている。下部消化管領域では, 早期大腸癌・大腸腺腫の内視鏡的治療を積極的に行っており, 原因不明の消化管出血患者に対するカプセル内視鏡検査も開始した。肝・胆・膵領域では, 肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法, C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法, 総胆管結石に対する内視鏡的治療などを積極的に行っている。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Iwakiri K¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M¹⁾, Kotoyori M, Hoshihara Y¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Division of Gastroenterology) : Acid and non-acid reflux in Japanese patients with non-erosive reflux disease with persistent reflux symptoms, despite taking a double-dose of proton pump inhibitor : a study using combined pH-impedance monitoring. J Gastroenterol 2009 ; 44 (7) : 708-712.

(2) 総説 :

- 1) 三井啓吾^{1, 2)}, 田中 周²⁾, 藤森俊二²⁾, 坂本長逸²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院 消化器内科, ²⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌)) : 診断戦略からみたダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. Gastroenterological Endoscopy 2009 ; 51 (11) : 2853-2865.

(3) 症例報告 :

- 1) 厚川正則, 榎原義之¹⁾, 金澤秀典¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)) : 非代償性肝硬変患者に対するLate Evening Snack として用いた肝不全用経口栄養剤の有用性について. Frontiers in Gastroenterology 2010 ; 15 : 70.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 三井啓吾, 田中 周¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：小腸狭窄に停留したカプセル内視鏡の回収に対するダブルバルーン内視鏡の役割. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都市), 2009. 10.

(2) ワークショップ：

- 1) 近藤千紗, 金沢秀典¹⁾, 福田 健, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：異所性静脈瘤4例の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (89回) (東京), 2009. 6.

(3) 一般講演：

- 1) 近藤千紗, 厚川正則, 松下洋子¹⁾, 福田 健¹⁾, 城所秀子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金澤秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：65歳以上の高齢者慢性C型肝炎に対するFluvastatin併用PEG+RBV併用治療の有益性. 日本高齢消化器病学会 (第12回) (東京), 2009. 7.
- 2) 松下洋子¹⁾, 榎原義之¹⁾, 近藤千紗, 福田 健, 張本滉智¹⁾, 城所秀子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：高齢者の難治性腹水に対するTIPSの治療成績. 日本高齢消化器病学会 (第12回) (東京都), 2009. 7.
- 3) 榎原義之¹⁾, 金澤秀典¹⁾, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：当科における1型肝臓症候群の実態. 日本門脈圧亢進症学会 (第16回) (福島県郡山市), 2009. 9.
- 4) 城所秀子¹⁾, 金澤秀典¹⁾, 近藤千紗, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 福田 健, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：PHG, GAVEに対するTLPSの効果. 日本門脈圧亢進症学会 (第16回) (福島県郡山市), 2009. 9.
- 5) 福田 健, 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 近藤千紗, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：肝硬変患者における塩酸ファスジルの門脈圧および全身血行動態に及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第16回 (福島県郡山市), 2009. 9.
- 6) 松下洋子¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 榎原義之¹⁾, 福田 健, 近藤千紗, 張本滉智¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌内科)：C型肝硬変の線維化改善を目的とした β -IFN少量長期投与の初期成績. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第16回) (福島県郡山市), 2009. 9.
- 7) 近藤千紗, 厚川正則, 松下洋子¹⁾, 福田 健, 城所秀子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金澤秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：当院における慢性C型肝炎に対するfluvastatin併用PHG-IFN+RBV療法の治療成績. 日本高齢者消化器病学会 (第12回) (東京), 2009. 11.
- 8) 城所秀子¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 近藤千紗, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 福田 健, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：TIPS後の血行動態変化と一過性肝障害の関係. 肝不全治療研究会 (第11回), 2009.
- 9) 糸川典夫, 城所秀子¹⁾, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則, 榎原義之¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：術前診断が困難であった多発肝腫瘍性病変の1例. 日本消化器病学会 (第308回) (東京), 2010. 2.

[千葉北総病院内分泌内科]

研究概要

(内分泌内科) 内分泌内科は糖尿病および内分泌疾患の診療を行っている糖尿病に関しては、2型糖尿病患者に経口薬との併用によるインスリングルタミンを使ったBasal supported oral therapy (BOT) の有用性について分析を行い、第52回日本糖尿病学会で報告した。また、2001年から行っている地域の医師会との糖尿病地域医療連携について、2003年11月から2007年12月までに連携により一方向性に転医した患者について2009年10月に追跡調査を行い、その連携の有用性のエビデンスが得られた。2010年の日本糖尿病学会で発表予定である。また、2009年からは千葉県による千葉県共用地域医療連携パスの作成と普及に参加している。これについても2010年の日本糖尿病学会で発表予定である。甲状腺に関しては、サイログロブリンが細胞増殖作用を持つことを示し、単なる甲状腺ホルモンの前駆体ではなく、新たに独自の生理作用を持つ可能性を示唆した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hayashi M¹, Shimonaka M¹, Matsui K¹, Hayashi T¹, Ochiai D¹, Emoto N (1) Department of Chemistry, Tokyo University of Science) : Proliferative effects of bovine and porcine thyroglobulins on thyroid epithelial cells. Endocrine Journal 2009 ; 56 (3) : 509-519.

著書

- 1) 江本直也：〔分担〕13 高齢者のバセドウ病の特徴。よくわかる 甲状腺疾患のすべて (編集 昭和大学名誉教授 伴 良雄)，2009 ; pp182-185, 永井書店。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 江本直也, 大村栄治¹, 山内俊一² (1) 埼玉医科大学医療センター内分泌糖尿病内科, 2) 帝京大学内科学講座) : 2型糖尿病患者に対する経口糖尿病治療薬とインスリングルタミンの併用による血糖コントロールについての検討。日本糖尿病学会年次学術集会 (滋賀県大津市), 2009. 5.
- 2) 原田太郎, 岡島史宜¹, 藤本奈々², 首藤真理子¹, 長尾元嗣¹, 加納稔子¹, 石崎 晃¹, 中島 泰¹, 谷村恭子¹, 田村秀樹¹, 石井新哉¹, 緒方宏泰², 杉原 仁¹, 及川真一¹ (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), 2) 明治薬科大学大学院臨床薬学) : 糖尿病教育入院におけるインスリン投与開始量設定法の検討。日本糖尿病学会年次学術集会 (滋賀県大津市), 2009. 5.

4. 内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）

〔付属病院呼吸器内科〕

研究概要

癌：肺癌の個別化治療に向けて、抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づくレジメン開発， gefitinib/erlotinib 感受性に関する遺伝子変異結果に基づいた臨床試験， 遺伝子多型解析によるCPT-11 の副作用予測， 新薬開発を含む臨床試験等を行っている。 間質性肺炎合併肺癌や薬剤性肺障害の臨床研究においては中心的施設として役割を果たしている。 基礎的研究として感受性， 副作用予測研究を展開している。 肺癌の発癌， 増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない， 発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し， 特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している。

炎症：呼吸器炎症疾患， 感染症を中心に研究活動を展開している。 特に厚労省研究班を軸にIIPs の治療；本邦で市場導入したpirfenidone の評価， NAC， CyA， PCSOD， 活動性， 予後評価の研究， びまん性肺疾患全般， 特にサルコイドーシスの臨床， 難治性気道病変の病因， 病態， 治療研究を展開。 急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較， PMX 療法に関する研究を推進している。 基礎研究では， 肺障害， 線維化病態を中心に， サーファクタント， メカニカルストレス， 組織再生に関する研究， マクロライド療法の作用機序と新規化合物；EM900 の評価を行っている。 大気環境関連健康障害に関し， ディーゼル排気粒子の健康被害に関する影響を検討している。

呼吸ケア：COPD を主なテーマとし臨床および基礎研究を進めた。 HRCT による画像所見， 栄養， 運動に関する臨床指標の関係を英国プリマス大と共同研究。 環境再生保全機構（環境省所管）の委託研究として包括的呼吸ケアのモデルを検証する多施設共同研究， 厚労科学の特別研究としてCOPD の禁煙対策を多施設共同で推進。 基礎的研究ではCOPDに関するSNP， 呼吸ガスの研究を理化学研究所と共同で実施した。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Taniuchi N, Ghazizadeh M, Enomoto T, Matsuda K, Sato M, Takizawa Y, Jin E, Egawa S, Azuma A, Gemma A, Kudoh S, Kawanami O : Evaluation of fractional analysis of bronchoalveolar lavage combined with cellular morphological features. *Int J Med Sci* 2009 ; 6 (1) : 1-8.
- 2) Gemma A : Drug-induced interstitial lung diseases associated with molecular-targeted anticancer agents. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 4-8.
- 3) Shimokawa T, Shibuya M, Kitamura K, Hosomi Y, Hibino S, Ota T, Iguchi O, Okamura T, Gemma A : Retrospective analysis of efficacy and safety of amrubicin in refractory and relapsed small-cell lung cancer. *Int J Clin Oncol* 2009 ; 14 (1) : 63-9.
- 4) Inoue A, Kobayashi K, Usui K, Okinaga S, Mikami I, Ando M, Yamazaki K, Saijo Y, Gemma A, Miyazawa H, Tanaka T, Ikebuchi K, Nukiwa T, Morita S, Hagiwara K : First-line gefitinib for patients with advanced non-small-cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations without indication for chemotherapy. *J Clin Oncol* 2009 ; 27 (9) : 1394-1400.

追加分総説：

- 1) 白杵二郎：マクロライド少量長期療法の新展開 気管支喘息，閉塞性細気管支炎への応用：好中球に対する作用を中心に。 *呼吸と循環* 2008 ; 56 (9) : 943-946.
- 2) 白杵二郎：急性肺炎のステロイドパルス療法。 *日本医事新報* 2009 ; 1 (4426) : 114-115.

(1) 原著：

- 1) Takizawa Y, Taniuchi N, Ghazizadeh M, Enomoto T, Sato M, Jin E, Azuma A, Gemma A, Kudoh S, Kawanami O : Bronchoalveolar lavage fluid analysis provides diagnostic information on pulmonary Langerhans cell histiocytosis. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (2) : 84-92.
- 2) Ono H, Taniguchi Y, Shinoda K, Sakamoto T, Kudoh S, Gemma A : Evaluation of the usefulness of spectral analysis of inspiratory lung sounds recorded with phonopneumography in patients with interstitial pneumonia. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (2) : 67-75.
- 3) Kuribayashi H, Tsuta K, Mizutani E, Maeshima A, Yoshida Y, Gemma A, Kudoh S, Asamura H, Matsuno Y : Clinicopathological analysis of primary lung carcinoma with heterotopic ossification. *Lung Cancer* 2009 ; 64 (2) : 160-165.
- 4) Minegishi Y, Takenaka K, Mizutani H, Sudoh J, Noro R, Okano T, Azuma A, Yoshimura A, Ando M, Tsuboi E, Kudoh S, Gemma A : Exacerbation of idiopathic interstitial pneumonias associated with lung cancer therapy. *Intern Med* 2009 ; 48 (9) : 665-72.
- 5) Seike M, Goto A, Okano T, Bowman E, Schetter A, Horikawa I, Mathe E, Jen J, Yang P, Sugimura H, Gemma A, Kudoh S, Croce C, Harris C : MiR-21 is an EGFR-regulated anti-apoptotic factor in lung cancer in never-smokers. *Proc Natl Acad Sci USA* 2009 ; 106 (29) : 12085-90.
- 6) Isobe K, Kobayashi K, Kosaihiira S, Kurimoto F, Sakai H, Uchida Y, Nagai Y, Yamaguchi T, Miyanaga A, Ando M, Mori G, Hino M, Gemma A : Phase II study of nimustine hydrochloride (ACNU) plus paclitaxel for refractory small cell lung cancer. *Lung Cancer* 2009 ; 66 (3) : 350-4.
- 7) Jones CR¹⁾, Donaldson CG²⁾, Chavannes HN³⁾, Kida K, Dickson-Spillmann M¹⁾, Harding S¹⁾, Wedzicha AJ²⁾, Price D⁴⁾, Hyland EM⁵⁾ (¹⁾ Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, University of Plymouth, Devon, ²⁾ Department of Medicine, Academic Unit of Respiratory Medicine, University College London, London, United Kingdom, ³⁾ Department of Public Health and Primary Care, Leiden University Medical Center, Leden, The Netherlands, ⁴⁾ Department of General Practice and Primary Care, Foresterhill Health Centre, University of Aberdeen, ⁵⁾ School of Psychology, University of Plymouth, Devon, United Kingdom) : Derivation and validation of a composite index of severity in chronic obstructive pulmonary disease - The DOSE index. *Am J Respir Crit Care Med* 2009 ; 180 (12) : 1189-1195.
- 8) Motohashi N, Kimura K, Ishii T, Wakabayashi R, Kurosaki H, Motegi T, Yamada K, Jones R, Gemma A, Kida K : Emphysema on imaging is associated with quality of life in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Geriatr Gerontol Int* 2010 ; 10 (1) : 17-24.
- 9) Enomoto T, Azuma A, Kohno A, Kaneko K, Saito H, Kametaka M, Usuki J, Gemma A, Kudoh S, Nakamura S : Differences in the clinical characteristics of *Pneumocystis jirovecii* pneumonia in immunocompromised patients with and without HIV infection. *Respirology* 2010 ; 15 (1) : 126-31.
- 10) Takiguchi Y, Tada Y, Gemma A, Kudoh S, Hino M, Yoshimori K, Yoshimura A, Nagao K, Niitani H : Phase I/II study of docetaxel and S-1, an oral fluorinated pyrimidine, for untreated advanced non-small cell lung cancer. *Lung Cancer* 2010 ; 68 (3) : 409-414.
- 11) Abe S, Seo Y, Hayashi H, Matsuda K, Usuki J, Azuma A, Kudoh S, Gemma A : Neutrophil Adsorption by Polymyxin B-Immobilized Fiber Column for Acute Exacerbation in Patients with Interstitial Pneumonia : A Pilot Study. *Blood Purif* 2010 ; 29 (4) : 321-326.
- 12) Tanaka T, Matsuoka M, Sutani A, Gemma A, Maemondo M, Inoue A, Okinaga S, Nagashima M, Oizumi S, Uematsu K, Nagai Y, Moriyama G, Miyazawa H, Ikebuchi K, Morita S : Frequency of and

variables associated with the EGFR mutation and its subtypes. *Int J Cancer* 2010 ; 126 (3) : 651-5.

- 13) Chen Y^{1,2)}, Tateda K¹⁾, Fujita K^{1,2)}, Ishii Y¹⁾, Kimura S¹⁾, Saga T¹⁾, Annaka T⁴⁾, Yamada S⁵⁾, Zhao L³⁾, Li S³⁾, Azuma A²⁾, Gemma A²⁾, Kudoh S²⁾, Yamaguchi K¹⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Infectious Diseases, Toho University School of Medicine, Tokyo, Japan, ²⁾ Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Respiratory Medicine, Shengjing Hospital, China Medical University, Shenyang, China, ⁴⁾ Biochemical Research Laboratory, Eiken Chemical Co. , Ltd. , 143 Nogi, Nogi-machi, Shimotsuga-gun, Tochigi, Japan, ⁵⁾ Shino-Test Corporation, Sagamihara-shi, Kanagawaken, Japan) : Sequential changes of Legionella antigens and bacterial load in the lungs and urines of a mouse model of pneumonia. *Diagnostic Microbiology and Infectious Disease* 2010 ; 66 (3) : 253-260.
- 14) Ono H, Fujimoto H, Kobayashi Y, Kudoh S, Gemma A : Sleep apnea syndrome : central sleep apnea and pulmonary hypertension worsened during treatment with auto-CPAP, but improved by adaptive servo-ventilation. *Intern Med* 2010 ; 49 (5) : 415-21.
- 15) Noro R, Miyanaga A, Minegishi Y, Okano T, Seike M, Soeno C, Kataoka K, Matsuda K, Yoshimura A, Gemma A : Histone deacetylase inhibitor enhances sensitivity of non-small-cell lung cancer cells to 5-FU/S-1 via down-regulation of thymidylate synthase expression and up-regulation of p21 expression. *Cancer Sci* 2010.
- 16) Tanaka K, Ishihara T, Azuma A, Kudoh S, Ebina M, Nukiwa T, Sugiyama Y, Tasaka Y, Namba T, Ishihara T, Sato K, Mizushima Y : Therapeutic effect of lecithinized superoxide dismutase (PC-SOD) on bleomycin-induced pulmonary fibrosis. *Am J Physiol-Lung Cellular and Molecular Physiology* 2010 ; 298 (3) : 348-360.

(2) 総説 :

- 1) 石井健男, 木田厚瑞 : 鬱病あるいは鬱傾向・「全身性疾患としてのCOPDとその併存疾患」. *Medicament News* 2009 ; (1976) : 9-10.
- 2) 太田英男¹⁾, 石井健男 (¹⁾ 帝人ファーマ株式会社) : 好中球—炎症性肺疾患への関与・特集 エフェクター細胞からみた呼吸器疾患の病態. *The Lung-Perspectives* 2009 ; 117 (2) : 62-67.
- 3) 下川恒生¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門) : 【腫瘍内科の現状と展開】分子標的薬の開発と臨床 固形癌における抗体医薬. *日本内科学会雑誌* 2009 ; 98 (8) : 1901-1907.
- 4) 茂木 孝, 木田厚瑞 : V. COPDの管理 6. 地域医療連携と終末期の管理. *アレルギー・免疫* 2009 ; 16 (8) : 1142-1150.
- 5) 森井恵子, 茂木 孝, 木田厚瑞 : COPDにおける倫理的事項. *呼吸器科* 2009 ; 16 (2) : 128-132.
- 6) 野呂林太郎, 吾妻安良太 : 薬剤性呼吸器障害 a) 臨床. *病理と臨床* 2009 ; 27 (8) : 717-720.
- 7) 服部久弥子, 木田厚瑞 : COPD新ガイドラインで期待される予防と治療 慢性安定期の治療 リハビリテーション・栄養治療. *治療学* 2009 ; 43 (9) : 977-981.
- 8) 木田厚瑞, 植木 純¹⁾, 堀江健夫²⁾, 茂木 孝 (¹⁾ 順天堂大学医療看護学部専門基礎内科学, ²⁾ 前橋赤十字病院総合診療部呼吸器内科) : 呼吸器疾患のリハビリテーションと患者教育の新展開. *呼吸* 2009 ; 28 (10) : 958-967.
- 9) 茂木 孝 : COPDと併存症をめぐって 心血管障害 冠動脈疾患を中心に. *呼吸* 2009 ; 28 (10) : 437-440.
- 10) 服部久弥子, 若林律子, 茂木 孝, 石井健男, 木田厚瑞 : 在宅支援療法 最近の酸素療法をめぐる臨床的, 基礎的な諸問題. *呼吸* 2009 ; 28 (10) : 1004-1013.
- 11) 石井健男, 木田厚瑞 : 発音と sleep apnea ・特集 生活習慣病は進化病である : 生活習慣に対応できない身体 : 遺伝子進化の弊害. 成人病と生活習慣病 2009 ; 39 (12) : 1324-1329.

(3) 症例報告：

- 1) 林 宏紀^{1,2)}, 森本耕三¹⁾, 松山政史¹⁾, 国保成暁¹⁾, 太田恭子¹⁾, 増子裕典¹⁾, 飯塚尚志¹⁾, 林原賢治¹⁾, 斎藤武文¹⁾, 河端美則³⁾ (1) 国立病院機構茨城東病院呼吸器疾患部内科, (2) 日本医科大学内科学講座 呼吸器・感染・腫瘍部門, (3) 埼玉県立循環器呼吸器病センター 病理部)：PVODを示唆する肺細静脈病変を合併し肺高血圧を伴った限局性強皮症の1例. 日本呼吸器学会雑誌 2009；47 (5)：376-382.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 峯岸裕司, 弦間昭彦：〔分担〕【呼吸器症候群（第2版） その他の呼吸器疾患を含めて】 腫瘍性疾患 上皮性（原発性）腫瘍 気管支カルチノイド, 肺カルチノイド. 日本臨床 別冊呼吸器症候群III, 2009；pp25-28, 日本臨床社.
- 1) Kida K, Motegi T, Ishii T, Yamada K：〔分担〕Quality of Life Measures in Elderly Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease：Japanese Perspectives. Handbook of Disease Burdens and Quality of Life Measures (Victor R. Preedy, Ronald R. Watson), 2009；pp2759-2777, Springer Co, NY.
- 2) 森本泰介, 吾妻安良太：〔自著〕【患者さんの背景・病態で考える 薬の選び方・使い方のエッセンス】 呼吸器 サルコイドーシス. 治療, 2009；pp866-870, 南山堂.
- 3) 水谷英明, 弦間昭彦：〔自著〕【間質性肺炎と合併症 肺癌からメタボリック症候群まで】 特発性間質性肺炎に合併する肺癌の疫学と発症機序. 医学のあゆみ, 2009；pp579-583, 医歯薬出版.
- 4) 峯岸裕司, 弦間昭彦：〔分担〕【ゲノムとプロテオミクス ベンチからベッドサイドへ】 癌における遺伝子と臨床 EGFR遺伝子変異とEGFR-TKIの臨床効果. 日本胸部臨床, 2009；pp636-645, 克誠堂出版.
- 5) 藤田和恵, 弦間昭彦：〔自著〕【抗菌薬適正使用 グローバルスタンダードを目指して】 疾患別抗菌薬使用の論点 急性上気道炎・気管支炎. 総合臨床, 2009；pp1401-1405, 永井書店.
- 6) 野呂林太郎：〔分担〕呼吸器疾患 (New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ), 2009；日本医事新報社.
- 7) 林 宏紀¹⁾, 阿部信二¹⁾, 蛸井浩行¹⁾, 小野 竜¹⁾, 森本泰介¹⁾, 服部久弥子¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 許田典男²⁾, 福田 悠³⁾ (1) 日本医科大学 内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門), (2) 日本医科大学大学院医学研究科統御機構腫瘍学, (3) 日本医科大学大学院医学研究科解析人体病理学)：〔自著〕CPC 日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は? 著明な低酸素血症をきたし死亡した肝肺症候群の1例. THE LUNG-perspectives, 2009；pp224-230, メディカルレビュー社.
- 8) 弦間昭彦：〔自著〕【呼吸器における薬剤の現状と開発】 悪性腫瘍の分子標的薬 エルロチニブの薬剤性肺障害と全例調査. THE LUNG-perspectives, 2009；pp274-277, メディカルレビュー社.
- 9) 神尾孝一郎：〔自著〕【呼吸器における薬剤の現状と開発】 気道疾患 気管支拡張薬. THE LUNG-perspectives, 2009；pp261-264, メディカルレビュー社.
- 10) 水谷英明, 弦間昭彦：〔自著〕【増加する肺癌 早期診断と治療】 肺癌と慢性閉塞性肺疾患・間質性肺炎. 臨床と研究, 2009；pp895-899, 大道学館.
- 11) 白杵二郎, 吾妻安良太：〔自著〕【特発性肺線維症 (IPF)】 新規薬剤ピルフェニドン ピルフェニドンの治験について (解説/特集/抄録あり). 医薬ジャーナル, 2009；pp126-131, 医薬ジャーナル社.
- 12) 峯岸裕司, 弦間昭彦：〔自著〕【ゲノムとプロテオミクス ベンチからベッドサイドへ】 癌における遺伝子と臨床 EGFR遺伝子変異とEGFR-TKIの臨床効果. 日本胸部臨床, 2009；pp636-645, 克誠堂出版.
- 13) 阿部信二, 工藤翔二：〔自著〕じん肺. コンパクト内科学 (井上修二, 上原誉志夫, 金澤真雄, 川口 実, 代

- 田常道), 2009 ; pp48-48, 金芳堂.
- 14) 神尾孝一郎, 阿部信二, 工藤翔二 : [自著] 特発性間質性肺炎, 特発性肺線維症. コンパクト内科学 (井上修二, 上原誉志夫, 金澤真雄, 川口 実, 代田常道), 2009 ; pp38-41, 金芳堂.
 - 15) 森本泰介, 阿部信二, 工藤翔二 : [自著] サルコイドーシス. コンパクト内科学 (井上修二, 上原誉志夫, 金澤真雄, 川口 実, 代田常道), 2009 ; pp42-43, 金芳堂.
 - 16) 服部久弥子, 阿部信二, 工藤翔二 : [自著] 過敏性肺炎, 肺好酸球症 (PIE症候群). コンパクト内科学 (井上修二, 上原誉志夫, 金澤真雄, 川口 実, 代田常道), 2009 ; pp44-47, 金芳堂.
 - 17) 瀬尾宜嗣, 阿部信二, 工藤翔二 : [自著] 薬剤性肺臓炎. コンパクト内科学 (井上修二, 上原誉志夫, 金澤真雄, 川口 実, 代田常道), 2009 ; pp49-50, 金芳堂.
 - 18) 蛸井浩行¹⁾, 林 宏紀¹⁾, 服部久弥子¹⁾, 阿部信二¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 森本泰介¹⁾, 松本亜紀¹⁾, 赤川玄樹¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 吉村邦彦²⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門, ²⁾ 虎の門病院 呼吸器内科) : [自著] CFTR 遺伝子変異を認めた副鼻腔気管支症候群の兄弟例. Therapeutic Research, 2009 ; pp1319-1322, ライフサイエンス出版.
 - 19) 野呂林太郎, 吾妻安良太 : [自著] 【薬剤性障害の病理】 薬剤性呼吸器障害 臨床. 病理と臨床, 2009 ; pp717-720, 文光堂.
 - 20) 白杵二郎 : [自著] 【内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本】 呼吸器系疾患 急性好酸球性肺炎. 救急医学, 2009 ; pp1290-1293, へるす出版.
 - 21) 阿部信二 : [自著] 【内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本】 呼吸器系疾患 急性間質性肺炎. 救急医学, 2009 ; pp1287-1289, へるす出版.
 - 22) 林 宏紀, 吾妻安良太 : [自著] 【内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本】 呼吸器系疾患 胸膜炎 (胸水貯留). 救急医学, 2009 ; pp1274-1277, へるす出版.
 - 23) 栗林英彦, 弦間昭彦 : [自著] 【新しい臨床検査】 腫瘍マーカー 肺癌マーカー. 診断と治療, 2009 ; pp1955-1960, 診断と治療社.
 - 24) 弦間昭彦, 下川恒生 : [自著] 第4章 興味ある分子標的治療薬, 殺細胞性抗悪性腫瘍薬 分子標的治療薬 2. ゲフィチニブ, エルロチニブ. 「癌化学療法update2010 - 2011」 (西條長宏先生, 西尾和人先生), 2009 ; pp149-155, 中外医学社.
 - 25) 神尾孝一郎 : [自著] 気道疾患 (2) 一気管支拡張薬. THE LUNG perspectives, 2009 ; メディカルレビュー社.
 - 26) 石井健男¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : [分担] 13章 患者心理, QOL向上. チーム医療のための呼吸ケアハンドブック (監修: 工藤翔二, 編集: 木田厚瑞, 久保恵嗣, 木村 弘), 2009 ; pp221-231, 医学書院.
 - 27) 弦間昭彦 : [自著] I章-4. 主な副作用とその対策. 「～現場の疑問に答える～肺がん薬物療法Q & A」 (中西洋一先生), 2009 ; 南江堂.
 - 28) 木田厚瑞 : [分担] 呼吸ケア総論: チーム医療のための呼吸ケア. チーム医療のための呼吸ケアハンドブック (監修: 工藤翔二. 編集: 木田厚瑞, 久保恵嗣, 木村 弘), 2009 ; pp8-19, 医学書院.
 - 29) 木田厚瑞 : [分担] COPDにおける医療倫理の考え方と問題点. チーム医療のための呼吸ケアハンドブック (監修: 工藤翔二. 編集: 木田厚瑞, 久保恵嗣, 木村 弘), 2009 ; pp232-240, 医学書院.
 - 30) 弦間昭彦 : [自著] 【癌治療の現状と展望 標準治療の連携と分子標的薬剤のバイオマーカー】 治療薬解説 抗腫瘍薬による間質性肺障害. カレントセラピー, 2009 ; pp1062-1067, ライフメディコム.
 - 31) 藤田和恵, 弦間昭彦 : [分担] 3. 呼吸器系の疾患 3-7 : びまん性汎細気管支炎 . 内科学症例図説 (杉本恒明, 小俣政男総編集), 2009 ; pp137-141, 朝倉書店.
 - 32) 弦間昭彦 : [自著] <治療薬解説>抗癌剤による間質性肺障害. 「カレントセラピー」, 2009 ; ライフメディコム.
 - 33) 白杵二郎 : [自著] びまん性肺疾患における好酸球の意義. 呼吸器科, 2009 ; pp494-497, 科学評論社.

- 34) 弦間昭彦：〔自著〕3部2章 分子標的薬の副作用マネジメント 12 間質性肺炎.「消化器外科ナーシング」2010臨時増刊, 2009；メディカ出版.
- 35) 林 宏紀, 吾妻安良太：〔自著〕【呼吸器病学 TOPICS 2009】臨床諸問題 呼吸器疾患治療に関する最新の臨床試験レポート 間質性肺炎. 分子呼吸器病, 2010；pp76-77, 先端医学社.
- 36) 吾妻安良太：〔自著〕治療の進歩 特発性肺線維症 ビルフェニドン. Annual Review呼吸器2010, 2010；pp186-192, 中外医学社.
- 37) 峯岸裕司, 弦間昭彦：〔分担〕呼吸器系の生物学 遺伝子変異と抗がん剤. Annual Review呼吸器2010, 2010；pp44-51, 中外医学社.
- 38) 北村和広, 細見幸生：〔自著〕がんの救急. がん診療パーフェクト (佐々木常雄), 2010；pp132-137, 羊土社.
- 39) 森本泰介：〔分担〕呼吸器疾患の性差医学 サルコイドーシスの性差. 呼吸器内科, 2010；pp157-162, 科学評論社.
- 40) 林 宏紀, 吾妻安良太：〔自著〕【マクロライドのCOPD・炎症性呼吸器疾患治療への展開】呼吸器疾患治療への展開 DPB・喘息・間質性肺炎. 化学療法の領域, 2010；pp422-426, (株) 医薬ジャーナル社.
- 41) 林 宏紀, 吾妻安良太：〔自著〕急性間質性肺炎. 呼吸器疾患 最新の治療 2010-2012, 2010；pp313-316, 南江堂.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 阿部信二⁽¹⁾ 日本医科大学 内科学講座 呼吸器・感染・腫瘍部門)：特発性肺線維症を中心とした間質性肺炎急性増悪病態に対するPMX療法の効果に関する検証. 横浜市東部急性血液浄化講演会2010 (横浜), 2010. 1.

(2) シンポジウム：

- 1) 阿部信二：特発性肺線維症を中心とした間質性肺炎急性増悪病態に対するPMX療法の効果に関する検証. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 2) 弦間昭彦：日常診療における進行期肺癌のマネージメント (EGFR-TKIの使い方). 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 3) 阿部信二：新型インフルエンザA/H1N1肺炎に対するPMX吸着療法の可能性 (新型インフルエンザ 重症化からの脱却). 日本呼吸器学会, 呼吸ケア・リハビリテーション学会 合同緊急シンポジウム (東京), 2009. 10.
- 4) 磯部 宏, 井上 彰, 小林国彦, 前門戸任, 菅原俊一, 大泉聡史, 西條康夫, 弦間昭彦, 森田智視, 萩原弘一, 貫和敏博：Star Trials from Japan 1：EGFR 遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌における第三相試験 (NEJ002) の中間解析結果. 日本肺癌学会総会 (第50回) (京王プラザホテル), 2009. 11.
- 5) 清家正博：肺癌の診断および治療戦略におけるmicroRNA研究. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム (東京), 2009. 11.

(3) ワークショップ：

- 1) 阿部信二：間質性肺炎の急性増悪に対するPMX治療の現状と問題点 (急性肺障害における血液浄化療法の意義と方法). 日本急性血液浄化学会学術集会 (第20回) (札幌), 2009. 10.
- 2) 茂木 孝：理想的なCOPD増悪アクションプランとは何か. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.

(4) 一般講演：

- 1) Seike M¹⁾, Noro R¹⁾, Soeno C¹⁾, Shimokawa T¹⁾, Miyanaga A¹⁾, Yoshimura A¹⁾, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School)：MicroRNA expression pro-

- files modulate the drug sensitivity of lung cancer cells. 100th AACR Annual Meeting (Denver, USA), 2009. 4.
- 2) 久世眞之, 林 宏紀, 阿部信二, 田中 徹, 森本泰介, 神尾孝一郎, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 皮質盲を合併した気管支喘息発作の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第185回) (東京), 2009. 7.
 - 3) Kuribayashi H, Seike M, Okano T, Soeno C, Yoshomura A, Gemma A: Serum proteomics analysis of lung squamous cell carcinoma. 13th World Conference on Lung Cancer (IASLC) (San Francisco, USA), 2009. 8.
 - 4) Usuki J, Azuma A, Gemma A, Chida K¹⁾, Bando M²⁾, Sugiyama Y²⁾, Nukiwa T³⁾, Kudoh S⁴⁾, Lancaster L⁵⁾, Collard H⁶⁾ (1) Second Division, Department of Internal Medicine, Hamamatsu University School of Medicine, 2) Department of Medicine, Jichi Medical University, 3) Department of Respiratory Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, 4) Department of Respiratory Medicine, Fukuji Hospital, 5) Division of Allergy, Pulmonary, and Critical Care Medicine, Vanderbilt University, 6) Department of Medicine, University of California San Francisco): Comparative study of current practice in the diagnosis and management of idiopathic pulmonary fibrosis between Japan and USA. European Respiratory Society Annual Congress 2009 (Vienna), 2009. 9.
 - 5) Wakabayashi R, Ishii T, Motegi T, Kurosaki H, Motohashi N, Yamada K, Gemma A, Jones CR¹⁾, Kida K (1) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, University of Plymouth, Devon, UK): Efficacy of education programme in patients with chronic obstructive pulmonary disease assessed by the lung information needs questionnaire. European Respiratory Society Annual Congress (Vienna), 2009. 9.
 - 6) Motegi T, Ishii T, Motohashi N, Kurosaki H, Yamada K, Gemma A, Kida K: Transfer factor data are a good predictor of a reduction in airflow limitation among patients with COPD "stage 0". European Respiratory Society Annual Congress (Vienna), 2009. 9.
 - 7) Minegishi Y¹⁾, Inoue A²⁾, Kobayashi K³⁾, Gemma A¹⁾, Maemondo M⁴⁾, Oizumi S⁵⁾, Saijo Y⁶⁾, Morita S⁷⁾, Hagiwara K⁸⁾, Nukiwa T²⁾ (1) Nippon Medical School, 2) Tohoku University Graduate School of Medicine, 3) Saitama Medical University International Medical Center, 4) Miyagi Cancer Center, 5) Hokkaido University Graduate School of Medicine, 6) School of Medicine Hirosaki University, 7) Yokohama City University, 8) Saitama Medical University): First line gefitinib versus first line chemotherapy by carboplatin plus paclitaxel in non-small cell lung cancer patients with EGFR mutations: NEJ 002 Study. EORTC-NCI-ASCO Annual Meeting on Molecular Markers in Cancer 2009 (3) (Brussels, Belgium), 2009. 10.
 - 8) 峯岸裕司, 須藤淳子, 栗林英彦, 下川恒生, 水谷英明, 清家正博, 吉村明修, 工藤翔二, 弦間昭彦: 間質性肺炎合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル療法の有用性を検討するパイロットスタディ. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
 - 9) 黒崎央子, 石井健男, 本橋典久, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患における胃切除術の影響. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
 - 10) 恩田直美¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 栗原英彦¹⁾, 清家正博¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器・感染・腫瘍内科): 失神発作を繰り返し神経調節性失神が疑われた縦隔悪性腫瘍の2症例の検討と文献的考察. 日本肺癌学会地方会 (第155回) (癌研有明病院), 2009. 7.
 - 11) 田中 徹¹⁾, 田中庸介¹⁾, 日野光紀¹⁾, 志村徹郎¹⁾, 上原 隆¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 小野 靖¹⁾, 猪俣 稔²⁾, 弦間昭彦³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器病センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器科, 3) 日本医科大学付属病院 内科学講座 呼吸器腫瘍感染症部門): Erlotinibによる薬剤性肺障害の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第185回) (東京), 2009. 7.
 - 12) 志村徹郎¹⁾, 田中庸介¹⁾, 日野光紀¹⁾, 田中 徹¹⁾, 上原 隆¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 小野 靖¹⁾, 猪俣 稔²⁾, 弦間昭彦

- 彦³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器病センター, (2) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器科, (3) 日本医科大学 内科学講座 呼吸器感染腫瘍部門) : 当院で経験した呼吸不全状態を伴った水痘肺炎の1症例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第185回), 2009. 7.
- 13) 服部久弥子 : なぜ, 医療ケア関連肺炎は市中感染肺炎よりも予後不良なのか?. 日本医科大学医学会総会 (東京), 2009. 10.
- 14) 峯岸裕司, 須藤淳子, 河野あゆみ, 栗林英彦, 下川恒生, 水谷英明, 清家正博, 吉村明修, 弦間昭彦 : 間質性肺炎合併進行小細胞肺癌に対するカルボプラチン+エトポシド療法の有用性の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第47回) (横浜), 2009. 10.
- 15) 古館隆子¹⁾, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 藤田亜紀¹⁾, 若林律子, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 慢性閉塞性肺疾患における内臓脂肪蓄積と呼吸困難感の相関に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 16) 若林律子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 藤田亜紀¹⁾, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : LINQを用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) における患者情報量の定量評価の有用性に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 17) 若林律子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 藤田亜紀¹⁾, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : COPDにおける増悪に関わる因子に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 18) 若林律子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 藤田亜紀¹⁾, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 慢性呼吸器疾患における夜間の低酸素血症に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 19) 岩城 基¹⁾, 久野絵里¹⁾, 岩城みさ子²⁾, 平井菜穂子²⁾, 板垣鈴子²⁾, 伊藤香奈子²⁾, 吉沢孝之³⁾, 赤星俊樹⁴⁾, 茂木 孝 (1) 要町病院リハビリテーション科, (2) 要町病院看護部, (3) 要町病院呼吸器内科, (4) 日本大学医学部内科学系呼吸器内科学分野) : COPD患者における併存症とスタチン製剤の効果に関する検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 20) 谷口博之, 福岡正博, 工藤翔二, 安藤昌彦, 大江裕一郎, 中川和彦, 荒川浩明, 井上義一, 海老名雅仁, 楠本昌彦, 桑野和善, 弦間昭彦, 酒井文和, 上甲 剛, 福田 悠, その他4名 : タルセバ錠非小細胞肺癌特定使用成績調査 (全例調査) 中間結果報告. 日本肺癌学会総会 (第50回) (京王プラザホテル), 2009. 11.
- 21) 清家正博, 岡野哲也, 吉村明修, 弦間昭彦 : 非喫煙者肺癌およびEGFR-TKI感受性に関するmiR-21の役割. 日本肺癌学会総会 (第50回) (京王プラザホテル), 2009. 11.
- 22) 武内 進, 柏田 建, 栗林英彦, 下川恒生, 水谷英明, 小齊平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 弦間昭彦 : 当科における胸膜関連腫瘍に対する化学療法の検討. 日本肺癌学会総会 (第50回) (京王プラザホテル), 2009. 11.
- 23) 伊藤岳大¹⁾, 加藤省吾¹⁾, 水流聡子¹⁾, 飯塚悦功¹⁾, 茂木 孝 (1) 東京大学大学院工学系研究科) : COPD増悪の調査型コンテンツの開発. 医療の質・安全学会学術集会 (第4回) (東京), 2009. 11.
- 24) 小林研一¹⁾, 武内 進¹⁾, 柏田 建¹⁾, 河野あゆみ¹⁾, 北村和広¹⁾, 水谷英明¹⁾, 小齊平聖治¹⁾, 峯岸裕司¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 清家正博¹⁾, 吉村明修¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 高橋美紀子²⁾, 川本雅司²⁾, 福田 悠²⁾, その他1名 (1) 日本医科大学 内科学講座 呼吸器・感染・腫瘍部門, (2) 日本医科大学 病理学講座解析人体病理学部門) : von Recklinghausen病の経過中に非小細胞肺癌を合併した1例. 日本肺癌学会関東支部会 (第156回) (東京), 2009. 12.
- (5) ガイドラインセッション :
- 1) 木田厚瑞 : 「在宅呼吸ケア白書」から読みとれる事がら. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.

(6) ポスター：

- 1) 海老名雅仁, 福岡正博, 工藤翔二, 安藤昌彦, 大江裕一郎, 中川和彦, 荒川浩明, 井上義一, 楠本昌彦, 桑野和善, 弦間昭彦, 酒井文和, 上甲 剛, 谷口博之, 福田 悠, その他4名：肺癌EGFR阻害薬（タルセバ錠非小細胞肺癌 特定使用成績調査（全例調査）中間結果報告）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）, 2009. 6.
- 2) 森本泰介, 小野 竜, 田中 徹, 林 宏紀, 神尾孝一郎, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦：サルコイドーシス（年齢によるサルコイドーシス患者の臨床像の相違）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 3) 茂木 孝, 本橋典久, 黒崎央子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞：閉塞性肺疾患 診断・治療（経年変化からみたCOPDat riskの検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 4) 田中庸介, 日野光紀, 高橋明子, 猪俣 稔, 小俣雅稔, 上原 隆, 小野 靖, 弦間昭彦：呼吸調節・肺循環（COPD病態に対する右心負荷評価を中心とした臨床的なphenotype分類の検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 5) 大岩健満, 植松和嗣, 山名一平, 森 健, 森山 岳, 山本和男, 弦間昭彦：肺損傷（当院で経験したARDSに対するPMX-DHPによる吸着療法の検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 6) 黒崎央子, 石井健男, 本橋典久, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞：閉塞性肺疾患 病因・病態（血中脳性利尿ペプチド（BNP）値測定はCOPD増悪予測因子になり得る）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 7) 野口 哲, 山名一平, 森 健, 大岩健満, 森山 岳, 山本和男, 植松和嗣, 弦間昭彦：気管支喘息 その他（アレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）における血清CEA値とCT画像所見の検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 8) 藤田和恵, 服部久弥子, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦：ニューモシスチス肺炎（AIDS合併・非合併例におけるニューモシスチス肺炎（PCP）の臨床的な違いに関する検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 9) 白杵二郎, 松田久仁子, 吾妻安良太, 弦間昭彦：肺を標的とした新たな担体によるin vivo siRNA法の基礎的検討. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 10) 河野あゆみ, 清家正博, 下川恒生, 栗林英彦, 水谷英明, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 吉村明修, 弦間昭彦：肺癌EGFR阻害薬（当院におけるErlotinib投与例の検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 11) 峯岸裕司, 須藤淳子, 下川恒生, 栗林英彦, 水谷英明, 清家正博, 吉村明修, 工藤翔二, 弦間昭彦：肺癌治療（非小細胞肺癌）（間質性肺炎合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル療法の有用性を検討するパイロットスタディ）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 12) 本橋典久, 茂木 孝, 石井健男, 若林律子, 黒崎央子, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞：閉塞性肺疾患 診断・治療（Stage0COPDにおける胸部HRCTと肺年齢の関係の検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 13) 若林律子, 茂木 孝, 山田浩一, 石井健男, 弦間昭彦, 木田厚瑞：呼吸管理その他（COPD患者における家族構成とアウトカムの検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 14) 栗林英彦, 清家正博, 岡野哲也, 野呂林太郎, 松田久仁子, 吉村明修, 工藤翔二, 弦間昭彦：肺癌 診断2・緩和医療（肺扁平上皮癌の血清プロテオミクス）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 15) 若林律子, 石井健男, 黒崎央子, 茂木 孝, 本橋典久, 弦間昭彦, 木田厚瑞：閉塞性肺疾患 疫学2（COPD患者における季節変動の及ぼす影響）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.
- 16) 林 宏紀, 阿部信二, 田中 徹, 小野 竜, 森本泰介, 神尾孝一郎, 白杵二郎, 吾妻安良太, 弦間昭彦：感染症 真菌・寄生虫・他（当院におけるノカルジア感染症の検討）. 日本呼吸器学会学術講演会（第49回）（東京）, 2009. 6.

- 17) 栗林英彦, 清家正博, 岡野哲也, 野呂林太郎, 松田久仁子, 吉村明修, 弦間昭彦: 肺扁平上皮癌の血清プロテオミクス. 日本癌学会総会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
 - 18) 清家正博, 岡野哲也, 弦間昭彦: 非喫煙者肺癌における miR-21 の EGFR シグナル依存性抗アポトーシス作用. 日本癌学会総会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
 - 19) 水谷英明, 清家正博, 河野あゆみ, 武内 進, 下川恒生, 栗林英彦, 小斉平聖治, 峯岸裕司, 吉村明修, 弦間昭彦: 当院における局所進行非小細胞肺癌に対する DP 療法を用いた同時化学放射線療法の検討. 日本肺癌学会総会 (第50回) (京王プラザホテル), 2009. 11.
 - 20) 野呂林太郎¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 吉村明修¹⁾, 宝来 威²⁾, 西尾誠人²⁾, 木村幸男³⁾, 井上 彰⁴⁾, 大崎能伸⁵⁾, 池田徳彦⁶⁾, 坪井正博⁶⁾, 上野清伸⁷⁾, 今村文生⁷⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院 内科学講座呼吸器感染腫瘍部門, ²⁾ 癌研有明病院 呼吸器内科, ³⁾ 独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター 呼吸器科, ⁴⁾ 東北大学病院 呼吸器内科, ⁵⁾ 旭川医科大学病院 呼吸器センター, ⁶⁾ 東京医科大学病院 呼吸器外科, ⁷⁾ 大阪府立成人病センター 呼吸器内科): 切除不能 III B/IV 期非小細胞肺癌に対するゲムシタピン+カルボプラチン投与方法併用療法の Randomized Phase II STUDY (LC01). 日本臨床腫瘍学会総会 (第7回) (名古屋), 2010. 3.
- (7) ポスターディスカッション:
- 1) 石井健男, 若林律子, 黒崎央子, 本橋典久, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞: 閉塞性肺疾患 (慢性閉塞性肺疾患における鬱症状規定因子検討および QOL との関係). 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- (8) 日本肺癌学会との共同企画:
- 1) 弦間昭彦: 間質性肺炎患者のがん治療: ガイドラインにむけて (間質性肺炎合併肺癌に対する化学療法: ガイドラインにむけて). 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.

[千葉北総病院呼吸器内科]

研究概要

内科学 (呼吸器, 感染, 腫瘍部門) を担当し大学付属病院として教育, 臨床研究を担う以外に地域の中核病院として, 以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ. (1) 呼吸器病学: 特発性間質性肺炎の治療法の開発, 慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血圧, 睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価, 胸腔鏡下肺生検による間質性肺疾患の診断, 気管支拡張症に対する血清診断分類の開発, 慢性閉塞性肺疾患患者の筋疲労からのリハビリの適応決定, 気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価, 呼吸困難感の評価, 呼吸器疾患に対する大うつ, 閾値下うつ病の潜在診断, 咳喘息の治療評価 (2) 感染症学: 市井肺炎の診断と経口抗生剤治療, 肺炎入院治療パスの開発, 病院感染対策, 各種院内感染サーベイランス, 院内肺炎の予防, 特殊感染症診断制御, 結核による院内感染制御, 肺非定型抗酸菌症の治療, 医療関係者および看護学生に対する麻疹, インフルエンザ, 風疹の抗体価測定と予防接種, 病院内耐性菌サーベイランス, マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御, マクロライド抗菌薬の新作用開発. (3) 床腫瘍学: 肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策, 肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立, 肺癌の気管支鏡診断, 抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 栗林英彦, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)): 肺腫瘍 放射線療法, 呼吸器疾患 ガイドライン: 最新の診療指針: (改訂版) 2009; 272-275.

(2) 総説：

- 1) 栗林英彦, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門) : 肺癌マーカー. 診断と治療 2009 ; 97 (9) : 1955-1960.

著 書

- 1) Isobe K¹⁾, Kobayashi K¹⁾, Kosaihiira S¹⁾, Kurimoto F¹⁾, Sakai H¹⁾, Uchida Y¹⁾, Nagai Y¹⁾, Yamaguchi T¹⁾, Miyanaga A¹⁾, Ando M¹⁾, Mori G¹⁾, Hino M, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine Infectious Diseases and Oncology) : [共著] Phase II study of nimustine hydrochloride (ACNU) plus paclitaxel for refractory small cell lung cancer. Lung Cancer, 2009 ; pp350-534.
- 2) Takiguchi Y¹⁾, Tada Y¹⁾, Gemma A¹⁾, Kudoh S¹⁾, Hino M, Yoshimori K¹⁾, Yoshimura A¹⁾, Nagao K¹⁾, Niitani H¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine Infectious Diseases and Oncology) : [共著] Phase I/II study of docetaxel and S-1, an oral fluorinated pyrimidine, for untreated advanced non-small cell lung cancer. Lung Cancer, 2009.
- 3) Hino M, Matsuda K¹⁾, Miyanaga A¹⁾, Kuribayashi H¹⁾, Mizutani, H¹⁾, Noro R¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Okano T¹⁾, Seike M¹⁾, Kawakami A¹⁾, Yoshimura A¹⁾, Ogawa N¹⁾, Uesaka H¹⁾, Kudoh S¹⁾, Gemma A¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine Infectious Diseases and Oncology) : [共著] Anticancer drug clustering based on proteomic profiles and a sensitivity database in a lung cancer cell line panel. experimental and therapeutic medicine , 2010 ; pp41-45.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Tanaka Y, Hino M, Ono Y, Genma A¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine Infectious Diseases and Oncology) : Clinical Phenotype Classification of Copd Based Primarily on Evaluation of Right Heart Load Presenting. Congress of the APSR & 3rd Joint Congress of APSR/ACCP (The 14th) (Seoul, Korea), 2009. 11.
- 2) Hino M, Ono Y, Tanaka Y, Uehara T, Ono R : The characteristic of IgG4-related bronchiectasis. 14th congress of the Asian pacific Society of Respirology , 2009. 11.
- 3) 田中庸介, 日野光紀, 小野 靖, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門) : COPD病態に対する右心負荷評価を中心とした臨床的な phenotype 分類の検討. 日本呼吸器学会 (第49回) (東京都), 2009. 6.
- 4) 志村徹郎, 田中庸介, 日野光紀, 田中 徹, 上原隆志, 小俣雅稔, 小野 靖, 猪俣 稔¹⁾, 弦間昭彦²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 呼吸器科, ²⁾ 付属病院 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門) : 当院で経験した呼吸不全状態を伴った水痘肺炎の1症例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第185回) (東京都), 2009. 7.
- 5) 田中 徹, 田中庸介, 日野光紀, 志村徹郎, 上原隆志, 小俣雅稔, 小野 靖, 猪俣 稔¹⁾, 弦間昭彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器科, ²⁾ 日本医科大学呼吸器腫瘍感染症科) : Erlotinibによる薬剤性肺障害の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第185回) (東京都), 2009. 7.
- 6) 田中庸介 : 佐倉北総地区感染症セミナー. 佐倉北総地区感染症セミナー (千葉県), 2009. 8.
- 7) 田中庸介 : COPDと肺年齢. 公衆衛生検査研究班研修会 (千葉), 2009. 9.
- 8) 小野 竜, 田中庸介, 坂本 徹, 上原隆志, 小野 靖, 日野光紀, 大秋美治¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院 病理部) : 呼吸器不全を初発症状とした多発するカポジ肉腫病変を伴ったAIDSの1剖検例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第187回) (東京都), 2009. 11.

(2) ポスター：

- 1) Kuribayashi H, Seike M¹⁾, Okano T¹⁾, Soeno C¹⁾, Yoshimura A¹⁾, Kudoh S¹⁾, Gemma A (¹⁾ Department of Internal Mdicine (Divisions of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology) : Serum proteomic analysis of lung squamous cell carcinoma patients. 13th World Conference on Lung Cancer (San Francisco, USA), 2009. 8.
- 2) 栗林英彦, 清家正博¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 添野千恵¹⁾, 吉村明修¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 付属病院 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門) : 肺扁平上皮癌の結成プロテオミクス. 第68回日本癌学会学術総会 (横浜), 2009. 10.

5. 精神医学講座

[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

当講座では、精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、実際の診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を行ってきた。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。

1. 分子イメージングを用いた機能的な精神疾患の病態研究：ポジトロンCT（PET）による神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害など機能的な精神疾患の神経伝達機能異常を調べた。
2. 分子イメージングを用いた精神科治療評価に関する研究：PETを用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化の関連を調べ、治療効果の客観的評価法の開発を目指した。また電気けいれん療法の抗うつ作用の神経基盤を検討した。
3. fMRIを用いた高次脳機能障害の研究：fMRIを用いて、人の高等感情や精神障害における高次脳機能障害の研究を行った。さらに、情動反応の計測法の開発、標準化を行った上で、プラセボ効果について検討した。
4. 血管性うつ病の研究：血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
5. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。
6. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する介入研究を行った。また厚生労働省による自殺関連戦略研究にもコア施設として参加した。
7. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する研究を行った。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な理解を深める研究を行った。
8. 電気けいれん療法の調査および臨床研究を行った。
9. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 伊藤敬雄：「睡眠リズム障害の臨床」 5) ジェットラグ症候群の病態。睡眠医療 2009；3（2）：196-201.

(1) 原著：

- 1) Takahashi M¹⁾, Ideno T¹⁾, Okubo S¹⁾, Matsui H¹⁾, Takemura K¹⁾, Matsuura K²⁾, Kato M³⁾, Okubo Y⁽¹⁾ 放射能医学総合研究所, ²⁾ 東京医科歯科大学, ³⁾ 慶應義塾大学)：Impact of changing the Japanese term for “schizophrenia” for reasons of stereotypical beliefs of schizophrenia in Japanese youth. Schizophr Res 2009；112（3）：149-152.
- 2) Nozaki S, Kato M, Takano H, Ito H, Takahashi H, Arakawa R, Okumura M, Fujimura Y, Matsumoto R, Ota M, Takano A, Yasuno F, Okubo Y：Regional dopamine synthesis in patients with schizophrenia using L-[beta-11C]DOPA PET. Schizophr Res 2009；108（3）：78-84.
- 3) Borg J, Henningsson S, Saijo T, Inoue M：Serotonin transporter genotype is associated with cognitive

- performance but not regional 5-HT1A receptor binding in humans. *Int J Neuropsychopharmacol* 2009 ; 12 (6) : 783-792.
- 4) Henningson S, Borg J, Lundberg J, Bah J, Lindstrom M, Ryding N, Jovanovic H, Saijo T, Inoue M : Genetic variation in brain-derived neurotrophic factor is associated with serotonin transporter but not serotonin-1A receptor availability in men. *Biol Psychiatry* 2009 ; 66 (5) : 477-485.
 - 5) Saijo T, Takano A, Suhara T, Arakawa R, Okumura M, Ichimiya T, Ito H, Okubo Y : Electroconvulsive therapy decreases dopamine D (2) receptor binding in the anterior cingulate in patients with depression : a controlled study using positron emission tomography with radioligand [(11) C]FLB 457. *J Clin Psychiatry* 2009 ; E-pub.
 - 6) Takahashi H¹⁾, Kato M²⁾, Matsuura M³⁾, Mobbs D⁴⁾, Suhara T¹⁾, Okubo Y (¹⁾ 放射能医学総合研究所, ²⁾ 慶応大学医学部精神医学講座, ³⁾ 東京医科歯科大学大学院保険衛生学研究科, ⁴⁾ Medical Research Council (MRC)—Cognition and Brain) : When your gain is my pain and your pain is my gain : neural correlates of envy and schadenfreude. *Science* 2009 ; 323 (5916) : 937-939.
 - 7) Suzuki M, Takahashi S, Matsushima E, Tsunoda M, Kurachi M, Okada T, Hayashi T, Ishii Y, Morita K, Maeda H, Katayama S, Otsuka T, Hirayasu Y, Sekine M, Okubo Y, et al. : Exploratory eye movement dysfunction as a discriminator for schizophrenia : a large sample study using a newly developed digital computerized system. *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2009 ; 259 : 149-152.
 - 8) Hirayasu Y, Kawanishi C, Yonemoto N, Ishizuka N, Okubo Y, Sakai A, Kishimoto T, Miyaoka H, Otsuka K, Kamijyo Y, Matsuoka Y, Aruga T : A randomized controlled multicenter trial of post-suicide attempt case management for the prevention of further attempts in Japan (ACTION-J). *BMC Public Health* 2009 ; 9 : 364-364.
 - 9) Arakawa R, Ito H¹⁾, Okumura M¹⁾, Takano A¹⁾, Takahashi H¹⁾, Takano H¹⁾, Okubo Y, Suhara T¹⁾ (¹⁾ 放射能医学総合研究所) : Extrastriatal dopamine D (2) receptor occupancy in olanzapine-treated patients with schizophrenia. *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 2009 ; E-pub.
 - 10) Arakawa R, Ichimiya T, Ito H¹⁾, Takano A¹⁾, Okumura M¹⁾, Takahashi H¹⁾, Takano H¹⁾, Yasuno F¹⁾, Kato M²⁾, Okubo Y, Suhara T¹⁾ (¹⁾ 放射能医学総合研究所, ²⁾ 慶應義塾大学医学部) : Increase in thalamic binding of [(11) C]PE2I in patients with schizophrenia : a positron emission tomography study of dopamine transporter. *J Psychiatr Res* 2009 ; 43 (15) : 1219-1223.
 - 11) 関根瑞穂, 荒川亮介, 伊藤 浩, 奥村正紀, 高橋英彦, 高野晴成, 大久保善朗, 須原哲也 : (S, S) - [18F]FMeNER-D2を用いた抗うつ薬のノルエピネフリントランスポーター占有率測定. *核医学* 2009 ; 46 : 310-310.
 - 12) 原広一郎, 足立直人, 松浦雅人, 原 常勝, 小穴康功, 大久保善朗, 村松玲美, 加藤昌明, 大沼悌一 : 精神病を伴うてんかん症例における利き手. *てんかん研究* 2009 ; 24 : 403-410.
 - 13) Saijo T, Takano A, Suhara T, Arakawa R, Okumura M, Ichimiya T, Ito H, Okubo Y : Effect of electroconvulsive therapy on 5-HT1A receptor binding in patients with depression : a PET study with [11C]WAY 100635. *Int J Neuropsychopharmacol* 2010 ; 23 : 1-12.
 - 14) 伊藤敬雄, 大久保善朗, Desan P¹⁾ (¹⁾ Yale University, Yale New Haven Hospital, Psychiatric Consultation Service) : Yale大学コンサルテーション・リエゾン精神医療の臨床と薬物療法. *総合病院精神医学* 2009 ; 21 (2) : 159-171.
 - 15) 伊藤敬雄^{1, 2)}, 大久保善朗¹⁾, 久志本成樹²⁾, 川井 真²⁾, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室, ²⁾ 日本医科大学救急医学教室) : Yale-New Haven Hospitalにおける精神科救急医療の実際 : 特に物質依存症への早期介入プロジェクト. *日本臨床救急医学雑誌* 2009 ; 12 (3) : 329-334.

- 16) 岡崎祐士, 中島義文, 大久保善朗, 内富庸介, 上條吉人, 丸山二郎: 精神科と他科・他職種との連携. 臨床精神医学 2009; 38 (9): 1129-1143.
 - 17) 伊藤敬雄: 総合病院と認知症 認知症にみられる睡眠障害. 総合病院精神医学 2009; 21 (3): 221-228.
 - 18) 荒川亮介, 伊藤 浩, 奥村正紀, 大久保善朗, 須原哲也: 抗精神病薬による下垂体ドーパミンD2受容体阻害作用の定量的評価. 精神薬療研究年報 2009; 28-29.
 - 19) 小須田茂美, 上田 諭, 伊藤敬雄, 下田健吾, 大久保善朗: 非けいれん性てんかん発作重積により昏迷様状態を呈した1症例. 精神科 2009; 14: 442-446.
 - 20) 大久保善朗: 【緊張病(カタトニア)・再考】カタトニア症候群の治療. 臨床精神医学 2009; 38: 827-832.
 - 21) 齊藤卓弥, 館野 周, 西條朋行, 大久保善朗: 精神科クリニカルクラークシップの現状と問題点. 医学教育 2009; 40: 80.
- (2) 総説:
- 1) 三宅康史¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 伊藤弘人²⁾, 大塚耕太郎³⁾, 河西千秋⁴⁾, 岸 泰宏, 坂本由美子⁵⁾, 守村 洋⁶⁾, 山田朋樹⁴⁾, 柳澤八恵子⁷⁾ (1) 昭和大学, (2) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所, (3) 岩手医科大学, (4) 横浜市立大学, (5) 関東労災病院, (6) 札幌市立大学, (7) 聖路加国際病院): 自殺予防と救急看護 自殺企図患者に対する救急外来(ER)・救急科・救命救急センターにおける手引き 日本臨床救急医学会「自殺未遂者のケアに関する委員会」の取り組み. 日本救急看護学会雑誌 2009; 10 (3): 59-63.
 - 2) 伊藤敬雄: 自殺企図歴のある患者におけるリスクマネジメント. 総合病院精神医学 2009; 21 (2): 131-141.
 - 3) 館野 周, 大久保善朗: 分子イメージングによる薬効評価. PETジャーナル 2009; 8: 33-34.
 - 4) 岸 泰宏: 【向精神薬-リスク&ベネフィット】高齢者への定型(従来型)抗精神病薬ならびに非定型抗精神病薬処方による死亡率上昇の原因. 精神科治療学 2009; 24 (9): 1150-1152.
 - 5) 三宅康史¹⁾, 岸 泰宏 (1) 昭和大学): 【向精神薬-リスク&ベネフィット】パーキンソン病とうつ病合併症例に対する抗うつ薬の対照試験. 月刊レジデント 2009; 2 (9): 98-106.
 - 6) 伊藤敬雄: 特集 睡眠薬 エチゾラム, トリアゾラム, ゾルピデム. 最新精神医学 2009; 14 (9): 443-447.
 - 7) 伊藤敬雄^{1,2)}, 大久保善朗¹⁾, 中西一浩²⁾ (1) 日本医科大学付属病院精神神経科, (2) 日本医科大学付属病院緩和ケア科): 精神科と他科・他職種との連携 緩和ケア科精神腫瘍医における精神医療のニーズと実践. 臨床精神医学 2009; 38 (9): 1199-1206.
 - 8) 齊藤卓弥, 西松能子, 南 和行, 大久保善朗: 【精神科と他科・他職種との連携】小児医療 アメリカにおける精神科と他の職種との連携 不登校へのチーム・アプローチの紹介. 臨床精神医学 2009; 38 (9): 1287-1295.
 - 9) 岸 泰宏: 【向精神薬-リスク&ベネフィット】パーキンソン病とうつ病合併症例に対する抗うつ薬の対照試験. 精神科治療学 2009; 24 (10): 1294-1296.
 - 10) 伊藤敬雄^{1,2)}, 大久保善朗¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院精神神経科, (2) 日本医科大学付属病院緩和ケア科): 神経障害性疼痛の基礎と臨床II B. 治療法 3) 幻肢痛および断端部痛に対するSSRI, SNRIの有効性. ペインクリニック 2009; 30 (10): 556-570.
 - 11) 木村真人: 老年期の抑うつ・アパシー 特集 老年期にみられる症候から診断への手順. 老年精神医学雑誌 2009; 20 (11): 1224-1232.
 - 12) 岸 泰宏: 【現代の自殺をめぐる話題】自殺と身体疾患. 精神医学 2009; 51 (11): 1055-1060.
 - 13) 木村真人: 脳卒中後のうつ病とアパシー. Neurosurg Emerg 2009; 14: 103-109.
 - 14) 大久保善朗: 知って得する最新情報 統合失調症の画像解析. Clinical Neuroscience 2009; 27: 1178-1180.
 - 15) 大久保善朗: 精神医学の卒前教育を考える 医療教育モデル・コア・カリキュラムについて. 精神神経学雑誌 2009; 111: 165.
 - 16) 齊藤卓弥, 館野 周, 西條朋行, 大久保善朗: 精神科Bed side learningの現状と問題点. 精神神経学雑誌

2009 ; S506-S506.

- 17) 館野 周, 大久保善朗:機能画像研究の臨床開発応用. 臨床精神薬理 2010 ; 13 (2).
- 18) 岸 泰宏:【もう困らない!もう迷わない!精神症状を有する救急患者への対応】 身体疾患と精神疾患, 精神症状を見極める!. EMERGENCY CARE 2010 ; 23 (2) : 129-134.
- 19) 川島義高:看護師だからできる!救急搬送された自殺未遂患者への声かけ・対応. Expert Nurse 2010 ; 26 (2) : 28-31.
- 20) 木村真人:見逃さない!脳卒中後のうつの早期発見とケア. Expert Nurse 2010 ; 26 (1) : 29-33.

(3) その他:

- 1) 伊藤敬雄¹⁾ (1) 日本医科大学精神神経科):緩和ケア研修会を開催して. JPOS News Letter 2009 ; 58 (Aug) : 14-15.
- 2) 木村真人:(カラー口絵)高齢者のうつ. 日本医師会雑誌 2009 ; 128 (2) : 7-7.
- 3) 下田健吾, 館野 周, 木村真人, 大久保善朗:総合病院精神科ではDLB患者を診察する機会が増えている?. 老年精神医学雑誌 2009 ; 20 : 133-133.
- 4) 坂寄 健, 宮吉孝明, 金禹チャン, 大森 中, 西條朋行, 上田 諭, 下田健吾, 大久保善朗:緊張病症状にECTとbenzodiazepineの併用が著効した双極性障害の1例 ECT麻酔時のbenzodiazepine拮抗薬の使用について. 精神神経学雑誌 2009 ; 600 (600).
- 5) 鮫島達夫, 一瀬邦弘¹⁾, 奥村正紀¹⁾, 粟田主一²⁾, 本橋伸高³⁾, 中村 満¹⁾, 大久保善朗 (1) 豊島病院, 2) 東京都健康長寿医療センター, 3) 山梨大学医学部):本邦における電気痙攣療法の状況とその問題点 日本精神神経学会の全国アンケートから. 日本臨床麻酔学会誌 2009 ; 29 : S282.
- 6) 小泉公平, 西條朋行, 館野 周, 野村俊明, 大久保善朗:精神科外来統計からみた大学生のメンタルヘルス. 精神神経学雑誌 2009 ; 29 : S291.
- 7) 上田 諭, 小山恵子, 大久保善朗:進行性認知低下なきDLBか?遅発緊張病か? 幻覚・妄想, カタトニア, 後頭葉の血流低下所見を示す2症例. 老年精神医学雑誌 2009 ; 20 : 80-80.
- 8) 上田 諭, 小須田茂美, 伊藤敬雄, 大久保善朗:せん妄に続いて生じたカタトニアがolanzapineで改善した高齢者の2症例. 精神神経学雑誌 2009 ; 29 : S296.
- 9) 大久保善朗:緊張病(カタトニア)の診断と治療. 精神神経学雑誌 2009 ; 29 : S200.
- 10) 上田 諭:薬剤誘発性の幻視はレビー小体型認知症の前駆症状か?. 精神医学 2010 ; 52 : 296-297.

(4) 症例報告:

- 1) 上田 諭, 伊藤敬雄, 大久保善朗:鎮痛薬「依存」の背景にうつ病が考えられた症例:がん術後の疼痛をめぐる内科との連携. 臨床精神医学 2009 ; 38 (9) : 1221-1226.
- 2) 宮吉孝明, 藤渡辰馬, 肥田道彦, 上田 諭, 齊藤卓弥, 大久保善朗:Flumazenilの麻酔前投与を行いbenzodiazepineとECTの併用療法が著効した緊張病症候群の1症例. 臨床精神医学 2009 ; 38 (9) : 1397-1403.
- 3) 川島義高, 伊藤敬雄, 中井有希, 齊藤卓弥, 大久保善朗:思春期の自殺企図症例に対する精神科と他科との連携:高度救命救急センターにおける臨床心理士の役割. 臨床精神医学 2009 ; 38 (9) : 1279-1286.
- 4) 中野 司¹⁾, 横田雅実, 由井靖子¹⁾, 小林雅文¹⁾, 木村真人 (1) 小林歯科医院):歯科医療領域におけるアロマセラピーの応用について:口腔ケアの導入. 催眠と科学 2010 ; 23・24 (1) : 58-62.
- 5) 古山めぐみ¹⁾, 池森紀夫, 木村真人, 中山菜央, 横田雅実 (1) 千葉北総病院看護部):がん患者の疼痛緩和における足浴とアロママッサージの試み. 催眠と科学 2010 ; 23・24 (1) : 63-66.
- 6) 秋山友美¹⁾, 木村真人, 岡崎安沙美, 中野 司²⁾, 横田雅実, 橋口英俊¹⁾ (1) ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科, 2) 小林歯科医院):入院療養中の高齢者に対するアロマトリートメントの実践報告. 催眠と科学 2010 ; 23・24 (1) : 67-70.

著 書

- 1) 下田健吾, 木村真人: [分担] 脳卒中後うつ病症例: 老年期うつ病各論. 老年期うつ病ハンドブック (三村 將, 仲秋秀太郎, 古茶大樹編集), 2009; pp224-227, 診断と治療社.
- 2) 下田健吾, 木村真人: [分担] 脳機能検査 (脳血流SPECT, PET): 老年期うつ病総論. 老年期うつ病ハンドブック (三村 將, 仲秋秀太郎, 古茶大樹編集), 2009; pp67-73, 診断と治療社.
- 3) 岸 泰宏, 金禹チャン: [分担] うつ病の運動療法. スポーツ精神医学 (日本スポーツ精神医学会), 2009; pp64-67, 診断と治療社.
- 4) 木村真人: [分担] 血管性うつ病: 難治性精神障害へのストラテジー. 専門医のための精神科臨床リュミエール15 (中込和幸), 2010; pp76-84, 中山書店.

学会発表

[追加分]

追加分セミナー:

- 1) 大久保善朗: 不安のニューロイメージング. 第8回日本トラウマティック・ストレス学会 (東京), 2009. 3.

追加分一般講演:

- 1) Matsuki M¹⁾, Matsuki H¹⁾, Kishi Y, Horikawa N¹⁾ (1) Saitama Medical Center, Saitama Medical College): A Study of Suicide Attempts Prompted by "Health Problems". Academy of Psychosomatic Medicine (Miami, FL), 2008. 11.
- 2) Matsuki H¹⁾, Matsuki M¹⁾, Kishi Y, Horikawa N¹⁾ (1) Saitama Medical Center, Saitama Medical College): Relationship Between Psychotropic Prescription Pattern and Suicide Attempts by Psychotropic Overdose. Academy of Psychosomatic Medicine (Miami, Florida), 2008. 11.

追加分特別講演:

- 1) 大久保善朗: ドパミンとセロトニンの分子イメージング 精神科治療の評価.. DSフォーラム2009 (東京), 2009. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 大久保善朗: 分子イメージングを用いた抗精神病薬の薬効評価. 第527回大阪一水会例会 (大阪), 2009. 6.
- 2) 大久保善朗: 脳機能画像からみた精神疾患の病態と治療. 栃木県精神衛生協会・栃木県精神医学会学術講演会 (栃木), 2009. 7.
- 3) 大久保善朗: ここまでわかったこころの病: 統合失調症の新しい知識. 平成21年度江戸川区精神保健福祉講演会 (東京), 2009. 11.

(2) 招待講演:

- 1) 館野 周, 大久保善朗: 脳分子イメージングによる向精神薬の薬効評価. PETサマーセミナー2009 (東京), 2009. 8.

(3) 教育講演:

- 1) 大久保善朗: 電気けいれん療法 (ECT) の動向. 日本精神神経学会専門医研修会 (東京), 2009. 7.
- 2) 大久保善朗: 緊張病 (カタトニア) の診断と治療. 第105回日本精神神経学会 (神戸), 2009. 8.
- 3) 岸 泰宏: 外見が及ぼす患者の精神病理. 第3回日本整容脳神経外科研究会 (東京), 2010. 3.

(4) シンポジウム:

- 1) 伊藤滋朗, 池森紀夫, 石井民子, 中尾泰崇, 小林 岐, 小須田茂美, 宮吉孝明, 横田雅実, 木村真人: 救命救急センターから当科に依頼された患者への対応: 精神科一般病床で診療している大学付属病院での経験から. 第14回千葉総合病院精神科研究会, 2009. 4.

- 2) 岸 泰宏, 松木秀幸¹⁾ (1) 埼玉医科大学総合医療センター): 妊娠, 周産期, 授乳における薬物療法上の留意点. 第22回日本総合病院精神医学会 (大阪), 2009. 11.
- (5) パネルディスカッション:
- 1) 伊藤敬雄^{1, 2)}, 大久保善朗¹⁾, 川井 真²⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室, 2) 日本医科大学救急医学教室): 精神科救急医療における物質依存症への早期介入の必要性. 第37回日本救急医学会総会 (盛岡), 2009. 10.
- (6) セミナー:
- 1) 大久保善朗: 分子イメージングによる抗精神病薬の薬効評価. 第19回日本臨床精神神経薬理学会第39回日本神経精神薬理学会合同年会 (京都), 2009. 11.
- 2) 大久保善朗: 分子イメージングの最近の進歩: 精神科臨床への応用. 第31回日本生物学的精神医学会 (京都), 2009. 4.
- (7) ランチョンセミナー:
- 1) 木村真人: 高齢者のうつ病の特徴と治療. 第16回日本未病システム学会学術総会 (大阪), 2009. 11.
- (8) 一般講演:
- 1) Ito T^{1, 2)}, Okubo Y¹⁾, Nakanishi K²⁾ (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Department of Palliative care, Nippon Medical School): Passive to taking up spiritual pain as the treatment target is early death risk factor in the terminal cancer patient. 11th World Congress of Psycho-Oncology (IPOS) (Vienna - Austria), 2009. 6.
- 2) 川島義高¹⁾, 伊藤敬雄¹⁾, 齊藤卓弥¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (1) 日本医科大学 精神医学教室): 救命救急センター入院中にせん妄症状を呈した思春期症例. 第17回日本精神科救急学会 (山形), 2009. 9.
- 3) 能登雅明, 山本正浩, 上田 諭, 館野 周, 大久保善朗: 日本医科大学付属病院における継続・維持ECTの現状と課題. 日本総合病院精神医学会 (第22回) (大阪), 2009. 11.
- 4) 横田雅実, 関口奈保三, 細田幸子, 池森紀夫, 中尾泰崇, 石井民子, 木村真人: うつ病患者における精神症状と遊離テストステロン値との関連性の検討. 第14回千葉総合病院精神科研究会, 2009. 4.
- 5) 上田 諭¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): 長年のセネストパチーが躁の要素へのlithium投与で改善した2症例. リチウム研究会 (第29回) (東京), 2009. 4.
- 6) 福田 一, 伊藤逸生, 野上 毅, 鈴木雅之, 館野 周, 八幡憲明¹⁾, 高橋英彦²⁾, 田井治康友³⁾, 浅井邦彦³⁾, 鈴木秀典¹⁾, 大久保善朗 (1) 日本医科大学 薬理学教室, 2) 放射線医学総合研究所, 3) 医療法人静和会 浅井病院): 統合失調症の脳形態変化に及ぼす閉経の影響について. 日本神経科学大会 (第32回) (京都), 2009. 4.
- 7) 上田 諭¹⁾, 小須田茂美¹⁾, 伊藤敬雄¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (1) 日本医科大学精神医学教室): せん妄に続いて生じたカタトニアがolanzapineで改善した2症例. 日本精神神経学会 (第105回) (神戸), 2009. 5.
- 8) 小泉公平, 西條朋行, 館野 周, 野村俊明, 大久保善朗: 精神科外来統計からみた大学生のメンタルヘルス. 日本精神神経学会総会 (第105回) (神戸), 2009. 5.
- 9) 上田 諭¹⁾, 大久保善朗¹⁾, 小山恵子^{2, 3)} (1) 日本医科大学精神医学教室, 2) 東京医科歯科大学保健管理センター, 3) 東京都健康長寿医療センター精神科): 進行性認知低下なきDLBか? 遅発緊張病か? : 幻覚・妄想, カタトニア, 後頭葉の血流低下所見を示す2症例. 日本老年精神医学会 (第24回) (横浜), 2009. 6.
- 10) 三宅康史¹⁾, 大塚耕太郎²⁾, 岸 泰宏, 坂本由美子³⁾, 守村 洋⁴⁾, 柳澤八恵子⁵⁾, 山田朋樹⁶⁾, 河西千秋⁶⁾, 伊藤弘人⁷⁾, 有賀 徹¹⁾ (1) 昭和大学, 2) 岩手医科大学, 3) 関東労災病院, 4) 札幌市立大学, 5) 聖路加国際病院, 6) 横浜市立大学, 7) 国立精神神経・神経医療研究センター 精神保健研究所): 「自殺企図者に対する救急外来 (ER)・救急科・救命救急センターにおける手引き」作成の意義. 第12回日本臨床救急医学会 (大阪), 2009. 6.
- 11) 下田健吾, 館野 周, 木村真人, 大久保善朗: 総合病院精神科ではDLB患者を診察する機会が増えている?.

- 日本老年精神医学会（第24回）（横浜），2009．6．
- 12) 小野紘子，横田雅実，池森紀夫，水成隆之¹⁾，木村真人¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科）：脳血管障害後のうつ症状とアパシーの関連について．第105回日本精神神経学会，2009．8．
 - 13) 岡崎安沙美，若梅友佳里，秋山友美，中山菜央，横田雅実，池森紀夫，木村真人：就労経験のある抑うつ患者の実態調査及び性格傾向．第105回日本精神神経学会，2009．8．
 - 14) 小泉公平，宮吉孝明，能登雅明，中尾泰崇，小林 岐，池森紀夫，木村真人：双極性感情障害患者においてリチウム中毒が遷延した1症例．第24回北総精神科医会，2009．10．
 - 15) 中山菜央，横田雅実，小泉公平，宮吉孝明，能登雅明，中尾泰崇，小林 岐，池森紀夫，木村真人：強迫性障害患者に対する認知行動療法の試み．第24回北総精神科医会，2009．10．
 - 16) 森川隆司，木村真人：復職支援における自律訓練法の役割についての一考察．第25回日本催眠学会，2009．10．
 - 17) 上田 論¹⁾（¹⁾ 日本医科大学精神医学教室）：レビー小体病の精神症状としての体感幻覚．日本精神病理・精神療法学会（第32回）（盛岡），2009．10．
 - 18) 大森 中，金禹チャン，八幡憲明¹⁾，西條朋行，藤渡辰馬，館野 周，大久保善朗¹⁾ 日本医科大学 薬理学教室）：機能的磁気共鳴画像（fMRI）が皮質質の診断に有用であった1症例．日本精神科診断学会（第29回）（東京），2009．10．
 - 19) 中山菜央，小野紘子，横田雅実，池森紀夫，木村真人：強迫性障害に対する認知行動療法：特に強迫観念への対応．第22回日本総合病院精神医学会総会，2009．11．
 - 20) 廣橋 愛，中山菜央，横田雅実，木村真人：健常女性におけるPMS・PMDDの実態調査（第3報）：総合的検討．第22回日本総合病院精神医学会総会，2009．11．
 - 21) 上田 論¹⁾，大久保善朗¹⁾，小山恵子^{2,3)}，村上喜生⁴⁾（¹⁾ 日本医科大学精神医学教室，²⁾ 東京医科歯科大学保健管理センター，³⁾ 東京都健康長寿医療センター精神科，⁴⁾ 御殿山クリニック横浜神経内科）：DLBとの鑑別を要するPDの2症例：レビー小体病診断分類の問題点．日本神経精神医学会（第14回）（仙台），2009．11．
 - 22) 上田 論¹⁾，石坂公介¹⁾，坂寄 健¹⁾，西條朋行¹⁾，下田健吾¹⁾，大久保善朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学精神医学教室）：ECTにおける有効な発作誘発のaugmentation．日本総合病院精神医学会（第22回）（大阪），2009．11．
 - 23) 川島義高¹⁾，伊藤敬雄¹⁾，大高靖史¹⁾，下田健吾¹⁾，一宮哲哉¹⁾，藤渡辰馬¹⁾，大森 中¹⁾，新貝慈利¹⁾，小川耕平¹⁾，館野 周¹⁾，齊藤卓弥¹⁾，大久保善朗¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 精神医学教室）：思春期の自殺企図および自傷行為：中学生と高校生との比較．第22回日本総合病院精神医学会総会（大阪），2009．11．
 - 24) 大高靖史，伊藤敬雄，川島義高，大久保善朗：救命救急センターに搬送された飛び降り自殺未遂例のマネジメントについて．第22回総合病院精神医学会総会，2009．11．
 - 25) 小泉公平，小野紘子，内堀麻衣子，横田雅実，木村真人：ミルタザピンが奏効した不安障害を合併した脳卒中後うつ病の1例．東京精神医学会第88回学術集会，2010．2．
 - 26) 山岡宣行，西條朋行，金禹チャン，上田 論，肥田道彦，岸 泰宏，齋藤卓弥，大久保善朗：器質性気分障害が疑われた若年女性の1例．東京精神医学会第88回学術集会（東京），2010．2．
 - 27) 伊藤滋朗，館野 周，野村俊明，大久保善朗：医学生を対象とする精神障害に関するチュートリアル教育の試み：精神障害に関する知識と偏見．日本社会精神医学会（第29回）（松江），2010．2．
 - 28) 小泉公平，西條朋行，館野 周，野村俊明，大久保善朗：大学生のメンタルヘルスの特徴：大学病院精神科外来統計から．日本社会精神医学会（第29回）（松江），2010．2．

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の協力のもとに、臨床的研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。主たる研究内容は、(1) 再生医療への造血幹細胞を用いた細胞・遺伝子治療の基礎的研究、(2) 白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明、(3) 川崎病の冠動脈瘤および血管リモデリングに対する分子生物学的研究、(4) 小児糖尿病児および肥満児の代謝動態の研究、(5) 小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討、(6) 小児呼吸器疾患の臨床的特徴および肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用、(7) 新生児・乳児早期の腸内細菌叢とアレルギー疾患発症との検討、(8) 小児慢性疲労症候群の病態の解析、(9) 小児の痙攣およびてんかんの臨床と電気生理学所見・画像所見の検討などである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawakami Y, Monobe M, Kuwabara K, Fujita T, Maeda M, Fujino O, Kojima S, Fukunaga Y : A comparative study of nitric oxide, glutathione, and glutathione peroxidase activities in cerebrospinal fluid from children with convulsive diseases/children with aseptic meningitis. *Brain Dev* 2006 ; 28 (4) : 243-246.
- 2) Yanagihara T¹⁾, Kuroda N¹⁾, Hayakawa M¹⁾, Yoshida J¹⁾, Tsuchiya K¹⁾, Yamauchi K²⁾, Murakami M¹⁾, Fukunaga Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Tokyo Health Service Association) : Epidemiology of school urinary screening over a 30 year period in Tokyo. *Pediatrics International* 2007 ; 49 : 570-576.
- 3) Sugiura T, Kawaguchi Y, Fujikawa S, Hirano Y, Igarashi T, Kawamoto M, Takagi K, Hara M, Kamatani N : Familial Mediterranean fever in three Japanese patients, and a comparison of the frequency of MEFV gene mutation in Japanese and Mediterranean populations. *Mod Rheumatol* 2008 ; 18 : 57-59.
- 4) Hayakawa J¹⁾, Ueda T²⁾, Lisowski L³⁾, Hsieh M¹⁾, Washington K¹⁾, Phang O¹⁾, Metzger M⁴⁾, Krouse A⁴⁾, Donahue R⁴⁾, Sadelain M⁵⁾, Tisdale J¹⁾ (¹⁾ NIH, MCHB, NHLBI/NIDDK, ²⁾ Nippon Medical School, ³⁾ Stanford University, ⁴⁾ NIH, HB, NHLBI, ⁵⁾ Memorial Sloan Kettering Cancer Center) : Transient in vivo beta-globin production after lentiviral gene transfer to hematopoietic stem cells in the non human primate. *Human Gene Therapy* 2009 ; 20 (6) : 563-572.
- 5) Hayakawa J¹⁾, M. hsieh. M, Uchida N, Phang O, F. tisdale J (¹⁾ Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB)) : Busulfan Produces Efficient Human Cell Engraftment In NOD/LtSzscid IL2R β null Mice. *Stem Cells* 2009 ; 27 (1) : 175-182.
- 6) Hayakawa J, Wahington K, Uchida N, Phang O, M. kang E, M. hsieh M, F. tisdale J (¹⁾ Molecular and Clinical Hematology Branch (MCHB)) : Long-term vector integration site analysis following retroviral mediated gene transfer to hematopoietic stem cells for the treatment of HIV infection. *PLoS ONE* 2009 ; 4 (1) : e4211.
- 7) Kawakami Y, Matsumoto Y¹⁾, Hashimoto K, Kuwabara K, Hirata K²⁾, Suzuki T, Fujita T, Fujino O (¹⁾ College of Pharmacy, Nihon University, Funabashi, Japan, ²⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical

- school, Tokyo, Japan) : Clinical effectiveness of intravenous flunitrazepam administration for prolonged seizures. *Journal of Pediatric Neurology* 2009 ; 7 (2) : 117-121.
- 8) Sato S¹⁾, Yanagihara T²⁾, Ghazizadeh M^{1, 4)}, Ishizaki M³⁾, Adachi A¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Igarashi T²⁾, Fukunaga Y²⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Research, ²⁾ Department of Pediatrics Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pathology Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School) : Correlation of autophagy type in podocytes with histopathological diagnosis of IgA nephropathy. *Pathobiology* 2009 ; 76 (5) : 221-226.
 - 9) Yanagihara T¹⁾, Kitamura H²⁾, Aki K³⁾, Kuroda N¹⁾, Fukunaga Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Clinical Research Center, Chiba-East National Hospital, National Hospital Organization, ³⁾ Department of First Pathology, Nippon Medical School) : Serial renal biopsies in three girls with tubulointerstitial nephritis and uveitis syndrome. *Pediatr Nephrol* 2009 ; 24 (6) : 1159-1164.
 - 10) Hayakawa J¹⁾, Migita M¹⁾, Ueda T¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Adachi K²⁾, Oue Y¹⁾, Hayakawa M¹⁾, Shimada T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Molecular and medical Genetics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Gene Therapy Research, Center for Advanced Medical Technology) : Dextran Sulfate and Stromal Cell Derived Factor-1 Promote CXCR4 Expression and Improve Bone Marrow Homing Efficiency of Infused Hematopoietic Stem Cells. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (4) : 198-208.
 - 11) Uchida N¹⁾, N. washington K¹⁾, Hayakawa J¹⁾, M. hsieh M¹⁾, C. bonifacino A²⁾, E. krouse A²⁾, E. metzger M²⁾, E. donahue R²⁾, F. tisdale J¹⁾ (¹⁾ Molecular and Clinical Hematology Branch, National Heart, Lung, and Blood Institute (NHLBI) (NIDDK) (NIH) Bethesda, Maryland, ²⁾ Hematology Branch, NHLBI NIH, 5Research Court, Rockville, Maryland) : Development of an HIV1-based lentiviral vector that allows efficient transduction of both human and rhesus blood cells. *J Virol* 2009 ; 83 (19) : 9854-9862.
 - 12) Nakajima M¹⁾, Ueda T¹⁾, Migita M¹⁾, Oue Y²⁾, Shima Y³⁾, Shimada T²⁾, Fukunaga Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital) : Hematopoietic capacity of preterm cord blood hematopoietic stem/progenitor cells. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2009 ; 389 : 290-294.
 - 13) Asano T¹⁾, Asano-Tsutsuda A¹⁾, Fukunaga Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Indometacin overcomes doxorubicin resistance by decreasing intracellular content of glutathione and its conjugates with decreasing expression of γ -glutamylcysteine synthetase via promoter activity in doxorubicin-resistant leukemia cells. *Cancer Chemother Pharmacol* 2009 ; 64 : 715-721.
 - 14) Kuwabara N, Ioh Y, Igarashi T, Fukunaga Y : Autoantibodies to lens epithelium-derived growth factor/transcription co-activator P75 (LEDCF/P75) in children with chronic nonspecific complaints and with positive antinuclear antibodies. *Autoimmunity* 2009 ; 42 : 492-496.
 - 15) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O : High prevalence of antibodies against *Bartonella henselae* with cervic lymphadenopathy in children. *Pediatr Int*. 2010 ; Epub.
 - 16) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T¹⁾, Fukunaga Y, Takahashi H (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I : implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. *Biomedical Research* 2010 ; 31 (1) : 53-61.
 - 17) Aki K^{1, 2)}, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Kuwahara N¹⁾, Arai T¹⁾, Ishikawa A¹⁾, Fujuta E¹⁾, Mii A¹⁾, Natori Y³⁾, Fukunaga Y²⁾, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Health Chemistry, School of Pharmacy,

Iwate Medical University) : ANG IIreceptor blockade enhances anti-inflammatory macrophages in anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis. *Am J Physiol Renal Physiol* 2010 ; 298.

- 18) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fukunaga Y : IL-8 in cerebrospinal fluids in acute encephalopathy was increased compared in febrile seizure in children. *Scand J Immunol.* 2010 ; 71 (6) : 447-451.
- 19) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fukunaga Y : IL-17 is increased in cerebrospinal fluids in bacterial meningitis in children. *Cytokine.* 2010 ; 51 (1) : 101-106.
- 20) 高瀬真人, 今井丈英, 白井潤二, 和田安則¹⁾, 斉藤 剛¹⁾, 山中健司¹⁾ (¹⁾ コニカミノルタ・エムジー (株)) : 電子聴診器 (Littman Model 4100) で収録した小児肺音の周波数解析について. *薬理と臨床* 2009 ; 19 (5) : 339-345.
- 21) 服部元史, 松永 明, 五十嵐徹 : 1998~2005年末までの期間に発生した15歳未満の末期腎不全症例の2007年末の状態に関する追跡調査 集計結果の報告. *日本小児腎臓病学会雑誌* 2009 ; 22 : 226-228.
- 22) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : 疾患別ステロイド薬の使い方・SIRS・重症感染症. *小児内科* 2009 ; 41 : 797-802.
- 23) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : これでわかる! 病態からみた免疫抑制薬の使い方・若年性特発性関節炎. *小児内科* 2009 ; 41 : 2009-2011.
- 24) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : jIAに対するエタネルセプトの有用性. *Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology* 2010.

(2) 総説 :

- 1) Fukazawa R, Ogawa S : Long-Term Prognosis of Patients with Kawasaki Disease : At Risk for Future Atherosclerosis?. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (3) : 124-133.
- 2) 高瀬真人 : 日常診療で苦慮する疾患の注意点 : 急性喉頭蓋炎. *小児科* 2009 ; 50 (8) : 1275-1280.
- 3) 前田美穂¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : 白血病・がん. *小児科医のための思春期医学・医療* 2009 ; 1887-1892.
- 4) 浅野 健 : 特集「分子標的治療 : 現状と課題」. *分子標的治療薬 (総論)* 2009.
- 5) 浅野 健 : 急性・慢性感染症. *プライマリ・ケア即戦手引き* 2009.
- 6) 前田美穂¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 小児科) : 長期生存白血病患児のQOL. *小児科臨床* 2010 ; 63 (1) : 47-53.
- 7) 高瀬真人 : 小児肺機能検査の最新の知見「日本人小児のスパイログラム基準値」について (抜粋). *日本小児呼吸器疾患学会雑誌* 2010 ; 20 (1) : 162-166.
- 8) 桑原健太郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科) : 小児科における頭痛治療. *ペインクリニック 特集 各診療科における頭痛治療の特徴* 2010 ; 31 (4) : 443-451.

(3) 症例報告 :

- 1) Kawakami Y, Hirayama T, Hashimoto K, Kuwabara K, Fujita T, Fujino O : A case of adverse seizures induced by hyperventilation. *J Nippon Med Sch* 2003 ; 70 (4) : 351-354.
- 2) Kawakami Y, Matsumoto Y, Hshimoto K, Kuwabara K, Hirata K, Fujino O : Treatment with flunitrazepam of continuous spikes and waves during slow wave sleep (CSWS) in children. *Seizure* 2007 ; 16 (2) : 190-192.
- 3) Nakajima M, Shima Y, Kumasaka S, Kuwabara K, Migita M, Fukunaga Y : An infant with congenital nemaline myopathy and hypertrophic cardiomyopathy. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (6) : 350-353.
- 4) Kawakami Y, Koizumi S, Kuwabara K, Fujimura J, Shirai J, Watanabe M, Murata S, Imai T, Takeda S, Fukazawa R, Takase M, Fujita T, Hida M, Fujino O : An 8-year-old boy with vertebral artery dissec-

tion with cerebellar ataxia featuring suspected vertebral artery hypoplasia. *Brain Dev* 2009 ; 31 (4) : 326-330.

- 5) Kawakami Y, Koizumi S, Kuwabara K, Fujimura J, Shirai J, Watanabe M, Murata S, Imai T, Takeda S, Fukazawa R, Takase M, Fujita T, Hida M, Fujino O : An 8-year-old boy with vertebral artery dissection with cerebellar ataxia featuring suspected vertebral artery hypoplasia. *Brain&Development* 2009 ; 31 (4) : 326-330.
- 6) Kamisago M¹⁾, Ohkubo T^{1, 2)}, Watanabe M¹⁾, Ikegami E¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Ogawa S¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Saitama Red Cross Hospital) : Two Cases of Restrictive Cardiomyopathy in Children. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (6) : 313-318.
- 7) Asano T, Hatori T, Kuwabara K, Aki K, Fujino O : Fungal thoracic spondylodiskitis in an immunocompetent 14-year-old girl. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (5) : 265-267.
- 8) Miyatake C, Asano T, Misina K, Ikegami K, Takeuchi H, Koizumi S, Hatori T, Fujino O : Cat scratch disease occurring in a family confirmed by immunological and PCR-based diagnosis using serum. *Pediatrics Int.* 2009.
- 9) Takase M, Imai T, Nozaki F¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Relapsing autoimmune pancreatitis in a 14-year-old girl. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 29-34.
- 10) Asano T, Sudou M, Watanabe M, Fujino O : Concomitant severe normocytic and normochromic anemia in post streptococcal glomerulonephritis. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 76 (5) : 272-274.
- 11) Asano T, Koizumi S, Mishina, Ikegami K, Hatori T, Miyasho T, Fujino O : Increased levels of monocyte Chemoattractant Protein-1 cerebrospinal fluid with gamma globulin induced meningitis. *Acta Paediatr* 2010 ; 99 : 164-165.
- 12) 石田麻里子, 勝部康弘, 藤松真理子, 浅井牧子, 黒田奈緒 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 皮疹を伴わない Stevens-Johnson 症候群の 1 例. *小児科* 2009 ; 50 (5) : 523-524.
- 1) Onishi Y, Kuwabara K, Rho J, Wada-Kiyama Y, Sakuma Y, Kiyama R : Ligand-dependent transcriptional enhancement by DNA curvature between two half motifs of the estrogen response element in the human estrogen receptor alpha gene. *Gene* 2002 ; 10 : 279-290.
- 2) Boonyaritichai K, Kuwabara K, Nagano J, Kobayashi K, Koga Y : Long-term administration of probiotics to asymptomatic pre-school children for either the eradication or the prevention of *Helicobacter pylori* infection. *Helicobacter* 2009 ; 14 : 202-207.
- 3) Tanuma M, Rimbara E, Noguchi N, Boonyaritichai K, Kuwabara K, Fukunaga Y, Sasatsu M : Analysis of Clarithromycin Resistance and CagA Status in *Helicobacter pylori* Using Feces from Children in Thailand. *J Clin Microbiol* 2009 ; 30.
- 4) Surasak B, Kentaro K, June N, Kiyoshi K, Yasuhiro K : Long-term Administration of Probiotics to Asymptomatic Pre-school Children for Either the Eradication or the Prevention of *Helicobacter pylori* Infection. *Helicobacter* 2009 ; 14 : 202.

著 書

- 1) 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修 : [共著] その他の疾患 4 チック. 専門医のための精神科臨床レビュー 14 精神科領域におけるけいれん・けいれん様運動, 2009 ; pp208-215, 中山書店.
- 2) 桑原健太郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科) : [自著] 頭痛の分類. 小児科臨床ピクシス 小児の頭痛 診かた治しかた, 2009 ; pp6-11, 中山書店.

- 3) 桑原健太郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院小児科) : [自著] 小児科における頭痛治療. ペインクリニック, 2010 ; pp443-451, 真興交易(株)医書出版部.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Kogawa K, Sato H, Asano T, Ohga S, Kudo K, Morimoto A, Sato T, Ohta S, Wakiguchi H, Oda M, Ishii E : Nationwide survey of children with EBV-HLH in Japan. 25th Annual meeting of Histiocytosis (Bilbao, Spain), 2009. 9.
- 2) 柳原 剛, 安藝 薫, 黒田奈緒, 五十嵐徹, 伊藤保彦, 勝部康弘, 福永慶隆 (1) 日本医科大学小児科) : 小児期IgA腎症の診断・治療に関する新たな指標 : O型糖鎖不全IgAと症候との関連. IgA腎症研究会 (第32回) (東京), 2009. 1.

(1) シンポジウム :

- 1) Takase M : Spectral analysis of breath sounds for the detection of mild airway narrowing in asthmatic children. Asian Pacific Congress of Pediatrics (13th) (Shanghai, China), 2009. 10.

(2) ワークショップ :

- 1) 高瀬真人 : 小児の肺機能検査のスタンダード : 日本人小児スパイログラム基準値とカットオフ値. 日本小児呼吸器疾患学会 (第42回), 2009. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Takase M : The unique features in the lung sounds of acute bronchiolitis . International Conference on Lung Sound (34th) (Haifa, Israel), 2009. 9.
- 2) Takase M : The history of Japanese lung sound research. International Conference on Lung Sounds (34th) (Haifa, Israel), 2009. 9.
- 3) Asano T, Hirakawa K, Koike K, Yuta K, Fujita A, Kaizu K, Inagaki S, Ohno Y, Fukunaga Y : In vitro characterization of doxorubicin-resistant leukemia cells byNMR Spectroscopy. 日本血液学会総会 (第71回), 2009. 10.
- 4) Kamisago M, Katsube Y, Fukazawa R, Abe M, Ogawa S (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo) : Interferon-Gamma Inducible CXC Chemokines (IP10 and MIG) Play an Important Role in the Part of Pathogenesis of Kawasaki Disease. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (The 74th) (Kyoto), 2010. 3.
- 5) Katsube Y¹⁾, Akao M¹⁾, Watanabe M²⁾, Abe M²⁾, Watanabe M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Fukazawa R²⁾, Ogawa S²⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosuigi Hospital, Kawasaki, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, Tokyo) : PTX3, a New Biomarker for Vasculitis, Predicts Intravenous Immunoglobulin Unresponsiveness in Patients with Kawasaki Disease. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (The 74th) (Kyoto), 2010. 3.
- 6) Fukazawa R, Abe M, Kamisago M, Katsube Y, Ogawa S : Thrombocyte Gene Expression Profiling for Exploring Key Cytokines in Onset of Kawasaki Disease. 日本循環器学会 (第74回), 2010. 3.
- 7) 藤松真理子, 柳原 剛, 浅井牧子, 黒田奈緒, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (1) 日本医科大学小児科) : 最近経験した胆道閉鎖症の5症例. 日本小児科学会学術集会 (第112回) (奈良), 2009. 4.
- 8) 柳原 剛¹⁾, 岡崎哲也¹⁾, 塩田曜子³⁾, 黒田奈緒¹⁾, 森 鉄也³⁾, 勝部康弘¹⁾, 福永慶隆²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学付属病院小児科, 3) 国立成育医療センター血液腫瘍科) : 腹部腫瘍で発見

- された急性リンパ性白血病の1例. 日本小児科学会学術集会 (第112回) (奈良), 2009. 4.
- 9) 藤松真理子, 柳原 剛, 浅井牧子, 黒田奈緒, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 最近経験した胆道閉鎖症の5例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第305回) (川崎), 2009. 4.
- 10) 柳原 剛¹⁾, 岡崎哲也¹⁾, 塩田曜子³⁾, 黒田奈緒¹⁾, 森 鉄也³⁾, 勝部康弘¹⁾, 福永慶隆²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 日本医科大学附属病院小児科, ³⁾ 国立成育医療センター血液腫瘍科): 腹部腫瘍で発見された急性リンパ性白血病の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第305回) (川崎), 2009. 4.
- 11) 藤田武久, 黒田奈緒, 柳原 剛, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 勝部康弘⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 良性小児部分てんかん (Panayiotopoulos 症候群) の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第305回) (川崎), 2009. 4.
- 12) 後藤晶子^{1,2)}, 前田美穂²⁾, 石井栄三郎²⁾, 石田他寸志²⁾, 加藤陽子²⁾, 菊池 陽²⁾, 齋藤正博²⁾, 杉田憲一²⁾, 徳山美香²⁾, 土田昌宏²⁾, 福永慶隆²⁾, 中舘尚也²⁾, 青木由貴²⁾, 小松なぎさ²⁾ ⁽¹⁾ 済生会横浜市南部病院小児科, ²⁾ 東京小児がん研究グループ (TCCSG) QOL 委員会): 小児急性リンパ性白血病 (ALL) 治療終了後の結婚・出産. 日本小児科学会学術集会 (第112回) (奈良県), 2009. 4.
- 13) 森川浩子¹⁾, 春木伸一²⁾, 前田美穂³⁾ ⁽¹⁾ 福井大学医学部看護学科, ²⁾ 福井県こども療育センター, ³⁾ 日本医科大学): 福井県中学校における貧血スクリーニングの実態調査 (2008). 日本小児科学会学術集会 (第112回) (奈良県), 2009. 4.
- 14) 伊藤保彦¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 福永慶隆¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科): 小児シェーグレン症候群患者におけるアレルギー素因について. 日本小児科学会総会・学術集会 (第112回) (奈良市), 2009. 4.
- 15) 菅野華子¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 安藝 薫¹⁾, 黒田奈緒²⁾, 柳原 剛²⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 扁桃腺摘出後に発症した紫斑病性腎炎の1例. 日本小児科学会総会・学術集会 (第112回) (奈良), 2009. 4.
- 16) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科): 経過中に血尿・蛋白尿を認めた若年性特発性関節炎 (多関節型) の1男子例. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第53回) (東京), 2009. 4.
- 17) 藤野 修: 小児てんかんの予後: 長期寛解後再発例の検討: 第2報. 日本小児科学会 (第112回), 2009. 4.
- 18) 藤野 修, 羽鳥誉之, 小泉慎也, 浅野 健, 海津聖彦, 桑原健太郎, 高石康子, 岡田一芳, 一木邦彦, 福永慶隆: 小児てんかん予後: 長期寛解後再発例の検討: 第2報. 日本小児科学会総会 (第112回), 2009. 4.
- 19) 小泉慎也, 宮武千晴, 海津聖彦, 羽鳥誉之, 浅野 健, 藤野 修: 経過中, 心因性難聴, 摂食障害, 体重減少を認めた低身長症の1例. 日本小児科学会総会 (第112回), 2009. 4.
- 20) 藤松真理子, 藤田武久 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 寛解維持のため月1回のIVIGを必要としている多発性硬化症の3歳女児例. 日本小児神経学会総会 (第51回) (米子), 2009. 5.
- 21) 安藝 薫^{1,2)}, 清水 章¹⁾, 藤田恵美子^{1,3)}, 三井亜希子^{1,3)}, 益田幸成¹⁾, 石崎正通¹⁾, 黒田奈緒²⁾, 柳原 剛²⁾, 五十嵐徹²⁾, 伊藤保彦²⁾, 福永慶隆²⁾, 福田 悠¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学, ²⁾ 日本医科大学小児科, ³⁾ 日本医科大学内科 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)): ガンマグロブリン低値が関与したと考えられる膜性増殖性糸球体腎炎の1例. 日本病理学会 (第98回) (京都), 2009. 5.
- 22) 川上康彦, 斉藤賢一¹⁾, 小泉慎也, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修, 福永慶隆 ⁽¹⁾ 日本獣医生命科学大学応用生命科学部): リン酸オセルタミビルによる, てんかんモデルマウス聴性脳幹反応の変化. 日本小児神経学会 (第51回), 2009. 5.
- 23) 黒田奈緒¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 安藝 薫³⁾, 五十嵐徹²⁾, 伊藤保彦²⁾, 清水 章³⁾, 勝部康弘¹⁾, 福永慶隆²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, ²⁾ 日本医科大学付属病院小児科, ³⁾ 日本医科大学附属病院解人体病理学): 肥満関連の糸球体肥大を認めた小児兄弟例. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第44回) (東京), 2009. 6.
- 24) 柳原 剛, 安藝 薫, 黒田奈緒, 五十嵐徹, 伊藤保彦, 勝部康弘, 福永慶隆 ⁽¹⁾ 日本医科大学小児科): 小児

期IgA腎症の診断・治療に関する新たな指標：O型糖鎖不全IgAと症候との関連．日本小児腎臓病学会学術集会（第44回）（東京），2009．6．

- 25) 黒田奈緒¹⁾，柳原 剛¹⁾，伊藤雄平²⁾，高橋昌里²⁾，服部元史²⁾，松山 健²⁾，大友義之²⁾，土屋正巳²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科，⁽²⁾ 日本小児腎臓病学会 3歳児検尿全国実態調査委員会）：3歳児検尿全国実態調査アンケート．日本小児腎臓病学会学術集会（第44回）（東京），2009．6．
- 26) 安藝 薫，三井亜希子，清水 章，益田幸成，藤田恵美子，杉崎祐一，福田 悠 ⁽¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学）：抗GBM腎炎におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の抗炎症作用．日本腎臓病学会（第52回）（横浜），2009．6．
- 27) 安藝 薫¹⁾，土屋正巳²⁾，黒田奈緒¹⁾，柳原 剛¹⁾，五十嵐徹¹⁾，伊藤保彦¹⁾，清水 章³⁾，福永慶隆¹⁾，福田悠³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学小児科，⁽²⁾ つちや小児科，⁽³⁾ 日本医科大学解析人体病理学）：5歳で発症し長期に経過観察し得たANCA陽性半月体形成性糸球体腎炎の1女児例．日本小児腎臓病学会（第44回）（東京），2009．6．
- 28) 今井丈英：小児の睡眠時無呼吸患者に対する簡易アプノモニター検査SD101について．日本小児耳鼻咽喉科学会（第4回），2009．6．
- 29) 白銀一貴，小泉慎也，一木邦彦，海津聖彦，羽鳥誉之，浅野 健，藤野 修，立山幸次郎，小林士郎：痙攣重積にて発症したshken baby syndrome と考えられる1男児例．日本小児神経外科学会，2009．6．
- 30) 上砂光裕，勝部康弘，阿部正徳，深澤隆治，小川俊一 ⁽¹⁾ 日本医科大学小児科）：川崎病における血清サイトカイン，ケモカインの変化．日本小児循環器学会総会・学術集会（第45回）（神戸），2009．7．
- 31) 勝部康弘¹⁾，孫 芳²⁾，羽山恵美子²⁾，中西敏雄^{2,3)}，小川俊一¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学小児科，⁽²⁾ 東京女子医科大学国際統合医科学インスティテュート，⁽³⁾ 東京女子医科大学循環器小児科）：家兎血管平滑筋における酸素感受性蛋白質：iTRAQ 2D-LC-MS/MS法による解析．日本小児循環器学会総会・学術集会（第45回）（神戸），2009．7．
- 32) 勝部康弘，阿部正徳，上砂光裕，深澤隆治，小川俊一 ⁽¹⁾ 日本医科大学小児科）：エンドセリン-1のラット心室筋細胞に対する効果．日本小児循環器学会総会・学術集会（第45回）（神戸），2009．7．
- 33) 勝部康弘，阿部正徳，上砂光裕，深澤隆治，小川俊一 ⁽¹⁾ 日本医科大学小児科）：血管炎バイオマーカーPTX3の川崎病への応用の有用性．日本小児循環器学会総会・学術集会（第45回）（神戸），2009．7．
- 34) 藤松真理子¹⁾，藤田武久¹⁾，勝部康弘¹⁾，前田美穂²⁾，畠中大輔³⁾，子川和宏³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科，⁽²⁾ 日本医科大学付属病院小児科，⁽³⁾ 防衛医科大学校小児科）：X連鎖性リンパ増殖性疾患の骨髄移植後に進行性多巣性白質脳症をきたしたと考えられる1例．神奈川小児神経懇話会（第44回）（横浜），2009．7．
- 35) 西澤善樹，浅井牧子 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科）：当院における13・18トリソミーへの対応．日本周産期・新生児医学会学術集会（第45回）（名古屋），2009．7．
- 36) 浅井牧子，西澤善樹，藤田武久 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科）：ブテソニド吸入療法が奏功したと考えられるWilson-Mikity症候群の1例．日本周産期・新生児医学会（第45回）（名古屋），2009．7．
- 37) 五十嵐徹¹⁾，伊藤保彦¹⁾，福永慶隆¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科）：抗dsDNA抗体陽性でIgA腎症を合併するリウマチ熱の1例．千葉小児膠原病懇話会（第7回）（千葉），2009．7．
- 38) 因泥弘之，吉田美和，小伊藤保雄，森本 進，勝部康弘 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室）：特定検診調査報告（メタボ検診元年 脂質成分を年代別に解析）．日本医学検査学会（第58回）（横浜），2009．7．
- 39) 成定昌昭，加藤理絵，臼井一城，中島由美子，菅原 通，森本 進，勝部康弘 ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室）：日直・当直業務における尿中有形成成分分析装置の活用（尿路感染症に着目した運用について）．日本医学検査学会（第58回）（横浜），2009．7．
- 40) 臼井一城¹⁾，加藤理絵¹⁾，成定昌昭¹⁾，中島由美子¹⁾，菅原 通¹⁾，森本 進¹⁾，藤松真理子²⁾，勝部康弘¹⁾：若年性特発性関節炎よりマクロファージ活性化症候群を来した1症例．日本医学検査学会（第58回）（横浜），2009．7．

- 41) 深澤隆治, 阿部正徳, 菌部友良¹⁾, 濱岡建城²⁾, 濱本邦洋³⁾, 勝部康弘, 上砂光裕, 小川俊一 (¹⁾ 日本赤十字社医療センター小児科, ²⁾ 京都府立医科大学大学院医学研究科小児循環器・腎臓学, ³⁾ 国際医療福祉大学リハビリテーション学科) : ITPKC 遺伝子多型は川崎病冠動脈障害および免疫グロブリン治療の有効性と相関する. 日本小児循環器学会 (第45回), 2009. 7.
- 42) 浅野 健 : 小児痙攣性疾患における髄液のプロテオミクス, メタボノミクス解析. 国際バイオフィォーラム・バイオアカデミックフォォーラム (第8回), 2009. 7.
- 43) 川上康彦, 堀 真弓¹⁾, 月本光俊¹⁾, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修, 小島周二¹⁾, 福永慶隆 (¹⁾ 東京理科大学薬学部) : テトラヒドロピオプテリンの γ 線誘発小核形成頻度に対する作用. 合同プテリジン研究発表会 (第5回), 2009. 8.
- 44) 上砂光裕, 勝部康弘, 深澤隆治, 阿部正徳, 小川俊一 (¹⁾ 日本医科大学小児科) : 川崎病急性期における血清サイトカイン・ケモカインの変化. 日本川崎病学会学術集会 (第29回) (名古屋), 2009. 10.
- 45) 黒田奈緒¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 安藝 薫¹⁾, 土屋正己²⁾, 勝部康弘¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科, ²⁾ つちや小児科) : 薬物中毒を契機に偶然発見された腎不全の1例. 日本小児腎不全学会総会学術集会 (第31回) (新潟), 2009. 10.
- 46) 石川浩子, 前田美穂, 牛腸義宏, 山西未穂, 稲垣真一郎, 小林史子, 藤田敦士, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 福永慶隆 (¹⁾ 日本医科大学小児科) : 小児急性リンパ性白血病および悪性リンパ腫治療中に白質脳症を合併した4例. 日本血液学会学術集会 (第71回) (京都), 2009. 10.
- 47) 桑原健太郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科) : 小児科における頭痛に対する取り組み. (社) 日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 48) 多田奈緒, 石川浩子, 渡辺美紀, 柳原 剛, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 巨大血管筋脂肪腫を合併した結節性硬化症の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第310回) (川崎), 2009. 10.
- 49) 多田奈緒, 石川浩子, 渡辺美紀, 柳原 剛, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 薬物中毒を契機に偶然発見された腎不全の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第310回) (川崎), 2009. 10.
- 50) 藤松真理子, 石川浩子, 多田奈緒, 渡辺美紀, 柳原 剛, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 当科における新型インフルエンザ患者の入院状況. 川崎市小児科医会症例検討会 (第310回) (川崎), 2009. 10.
- 51) 高瀬真人, 今井丈英, 白井潤二, 清水希和子 : 電子聴診器 (Littman Model 4100) で収録した小児肺音の周波数解析. 日本小児呼吸器疾患学会 (第42回), 2009. 10.
- 52) 深澤隆治, 阿部正徳, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一 : 川崎病発症時の血小板遺伝子プロファイリングによる川崎病発症にかかわる遺伝子の探索. 日本川崎病学会 (第29回), 2009. 10.
- 53) 浦 裕之, 太組一朗, 藤野 修, 高橋瑞穂, 福田恵子, 小林士郎, 寺本 明 (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤部, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : 本邦におけるてんかん専門薬剤師制度確立に向けたシミュレーション : 薬剤師の視点. 日本てんかん学会 (第43回) (青森県), 2009. 10.
- 54) 川上康彦, 齊藤賢一¹⁾, 小泉慎也, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修 (¹⁾ 日本獣医生命科学大学応用科学部) : リン酸オセルタミビル経口投与によるマウス脳波の変化とその治療. 日本てんかん学会 (第43回), 2009. 10.
- 55) 今井丈英, 高瀬真人, 清水希和子, 白井潤二, 竹田幸代 : 気管切開術半年後に気管粘膜潰瘍性肉芽からの出血のために死亡した Pelizaeus-Merzbacher 病の1女兒例. 日本小児呼吸器疾患学会 (第42回), 2009. 10.
- 56) 清水希和子, 白井潤二¹⁾, 今井丈英, 高瀬真人 (¹⁾ 白井医院) : 特発性縦隔気腫の2例. 日本小児呼吸器疾患学会 (第42回), 2009. 10.

- 57) 海津聖彦, 一木邦彦, 浅野 健, 小泉慎也, 羽鳥誉之, 藤野 修, 大秋美治, 藤澤知雄: 自己免疫性肝炎後再生不良性貧血と診断した1女児例. 日本血液学会総会 (第71回), 2009. 10.
- 58) 石川浩子, 前田美穂, 午腸義宏, 山西未穂, 稲垣真一郎, 小林史子, 藤田敦士, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 福永慶隆: 小児急性リンパ性白血病および悪性リンパ腫治療中に白質脳症を合併した4例. 日本血液学会総会 (第71回), 2009. 10.
- 59) 子川和宏, 佐藤弘樹, 浅野 健, 大賀正一, 工藤寿子, 森本 哲, 佐藤 貴, 太田 茂, 脇口 宏, 金兼弘一, 小田 慈, 石井榮一: 日本における小児EBV—HLHの全国調査. 日本血液学会総会 (第71回), 2009. 10.
- 60) 桑原健太郎¹⁾, 喜多村孝幸²⁾ (1) 日本医科大学小児科, (2) 日本医科大学脳神経外科): アンケート調査による小・中・高校生の頭痛患者の特徴の把握. 日本頭痛学会総会 (第37回), 2009. 11.
- 61) 西尾温文¹⁾, 長澤正之²⁾, 前田美穂³⁾, 小池和俊⁴⁾, 斎藤正博⁵⁾, 金子 隆⁶⁾, 沖本由理⁷⁾, 花田良二⁸⁾ (1) 順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センター/立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻, (2) 東京医科歯科大学医学部附属病院, (3) 日本医科大学, (4) 茨城県立こども病院, (5) 順天堂大学医学部附属順天堂医院, (6) 東京都立清瀬小児病院, (7) 千葉県こども病院, (8) 埼玉県小児医療センター): 「小児のがんがPTSDの要因となるという先行研究の再検討」(西尾2008)の追加研究. 日本小児血液学会 (第51回) 日本小児がん学会 (第25回) 日本小児がん看護学会 (第7回) 財団法人がんの子供を守る会 (第14回) 公開シンポジウム (東京), 2009. 11.
- 62) 大園秀一¹⁾, 石田也寸志²⁾, 稲田浩子¹⁾, 本田美里³⁾, 岩井艶子⁴⁾, 坂本なほ子⁵⁾, 掛江直子⁶⁾, 前田美穂⁷⁾, 上別府圭子⁸⁾, 前田尚子⁹⁾, 堀部敬三⁹⁾ (1) 久留米大学小児科, (2) 聖路加国際病院小児科, (3) 愛媛大学小児科, (4) 国立病院機構香川小児病院血液腫瘍科, (5) 順天堂大学医学部公衆衛生学教室, (6) 国立成育医療センター研究所成育保健政策科学研究室, (7) 日本医科大学小児科, (8) 東京大学大学院医学系研修科家族看護学分野, (9) 国立病院機構名古屋医療センター小児科): 小児がん経験者の身体的晩期合併症に関する多施設共同横断的調査の解析. 日本小児血液学会 (第51回) 日本小児がん学会 (第25回) 日本小児がん看護学会 (第7回) 財団法人がんの子供を守る会 (第14回) 公開シンポジウム (東京), 2009. 11.
- 63) 山西未穂¹⁾, 小川俊一¹⁾, 植田高弘¹⁾, 乾 恵輔²⁾, 浅井邦也²⁾, 鈴木敏雄³⁾, 前田美穂¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院小児科, (2) 日本医科大学付属病院循環器内科, (3) 埼玉社会保険病院小児科): 治療終了から長期経過後にアントラサイクリンが原因と考えられる心不全をきたしたパーキットリンパ腫の1例. 日本小児血液学会 (第51回) 日本小児がん学会 (第25回) 日本小児がん看護学校 (第7回) 財団法人がんの子供を守る会 (第14回) 公開シンポジウム (東京), 2009. 11.
- 64) 前田美穂¹⁾ (1) 日本医科大学小児科): 小児がん経験者の長期フォローアップガイドライン. 日本小児血液学会 (第51回) 日本小児がん学会 (第25回) 日本小児がん看護学会 (第7回) 財団法人がんの子供を守る会 (第14回) 公開シンポジウム (東京), 2009. 11.
- 65) 矢代健太郎¹⁾, 島 義雄¹⁾, 松村好克¹⁾, 石川浩子¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 中島瑞恵¹⁾, 浅井牧子²⁾ (1) 葛飾赤十字産院小児科, (2) 日本医科大学医学部小児科): 超低出生体重児のCLD急性憎悪に伴った難治性肺高血圧の1例. 日本未熟児新生児学会・学術集会 (第54回) (横浜), 2009. 11.
- 66) 松村好克¹⁾, 島 義雄¹⁾, 中島瑞恵¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 石川浩子¹⁾, 浅井牧子²⁾ (1) 葛飾赤十字産院小児科, (2) 日本医科大学小児科): 一絨毛膜二羊膜双胎の両児に認められた22q11.2欠失症候群. 日本未熟児新生児学会・学術集会 (第54回) (横浜), 2009. 11.
- 67) 山西美穂¹⁾, 小川俊一¹⁾, 植田高弘¹⁾, 乾 恵輔²⁾, 浅井邦也²⁾, 鈴木敏雄³⁾, 前田美穂¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院小児科, (2) 日本医科大学付属病院循環器内科, (3) 埼玉社会保険病院小児科): 治療終了から長期経過後にアントラサイクリンが原因と考えられる心不全をきたしたパーキットリンパ腫の1例. 日本小児血液学会 (第51回) 日本小児がん学会 (第25回) (千葉), 2009. 11.
- 68) 浅野 健, 平川慶子, 小池 薫, 湯田浩太郎, 大野曜吉, 藤田敦士, 海津聖彦, 稲垣真一郎, 福永慶隆: 核磁

気共鳴法を用いたメタボロミクスによるドキシソルピシン耐性白血病細胞の（代謝）解析. 日本小児血液・癌学会（第49回），2009. 11.

- 69) 多田奈緒¹⁾，藤田武久¹⁾，藤松真理子¹⁾，勝部康弘¹⁾，金 光泉²⁾，中澤速和²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科，²⁾ 東京女子医科大学東医療センター泌尿器科）：腎癌を合併した結節性硬化症の1例. 神奈川小児神経懇話会（第45回）（横浜），2010. 1.
- 70) 浅井牧子，赤尾見春，藤松真理子，桑原健太郎，藤田武久，勝部康弘，福永慶隆（¹⁾ 日本医科大学小児科）：黒色便で気付かれた*Helicobacter pylori*感染に伴う十二指腸潰瘍の6歳男児例. 日本小児*H. pylori*研究会（第14回）（東京），2010. 3.
- 71) 五十嵐徹，伊藤保彦，藤川 敏，松山 毅，福永慶隆：エタネルセプトを開始したTRAPSの1例. 臨海リウマチ性疾患懇話会（第14回）（東京），2010. 3.
- 1) 桑原健太郎，桑原奈津子，藤野 修，福永慶隆：東京都の小中学生における頭痛疫学調査. 第20回日本小児科医会総会フォーラム「子育てを助け，子どもたちに夢と未来を」，2009. 6.
- 2) 一木邦彦¹⁾，海津聖彦²⁾，浅野 健²⁾，小泉慎也²⁾，羽鳥誉之²⁾，藤野 修²⁾，大秋美治³⁾，秋山一義⁴⁾，桜井実⁴⁾，熊谷昌明⁵⁾，前田美穂¹⁾，福永慶隆¹⁾（¹⁾ 日本医科大学小児科学教室，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院小児科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部，⁴⁾ 日本医科大学健診医療センター，⁵⁾ 国立成育医療センター第一専門診療部固形腫瘍科）：FDG-PETを補助診断として治療効果判定を行ったHodgkin Lymphomanの1例. 日本小児血液学会（第51回）日本小児がん学会（第25回）日本小児がん看護学会（第7回）財団法人がんの子供を守る会（第14回）公開シンポジウム（東京），2009. 11.
- 3) 前田美穂¹⁾，小林真理子¹⁾，福永慶隆¹⁾（¹⁾ 日本医科大学小児科）：小児造血器腫瘍経験者のワクチン接種を考えるための臨床的検討. 日本小児血液学会（第51回）日本小児がん学会（第25回）日本小児がん看護学会（第7回）財団法人がんの子供を守る会（第14回）公開シンポジウム（東京），2009. 11.
- (4) ポスター：
- 1) 前田美穂¹⁾，岡村 純²⁾，浅見恵子³⁾，前田尚子⁴⁾，岩井艶子⁵⁾，堀部敬三⁶⁾，中館尚也⁷⁾，稲田浩子⁸⁾，本田美里⁹⁾，石田也寸志¹⁰⁾（¹⁾ 日本医科大学小児科，²⁾ 九州がんセンター臨床研究部，³⁾ 新潟がんセンター小児科，⁴⁾ 名古屋医療センター小児科，⁵⁾ 香川小児病院小児科，⁶⁾ 名古屋医療センター臨床研究センター，⁷⁾ 北里大学医学部小児科，⁸⁾ 久留米大学医学部小児科，⁹⁾ 愛媛大学医学部小児科，¹⁰⁾ 聖路加国際病院小児科）：小児がん経験者におけるHCV感染の実態調査. 日本小児科学会学術集会（第112回）（奈良県），2009. 4.
- 2) 石川浩子¹⁾，前田美穂¹⁾，牛腸義宏¹⁾，山西未穂¹⁾，稲垣真一郎¹⁾，小林史子¹⁾，藤田敦士¹⁾，海津聖彦¹⁾，早川潤¹⁾，植田高弘¹⁾，右田 真¹⁾，浅野 健¹⁾，福永慶隆¹⁾（¹⁾ 日本医科大学小児科）：小児急性リンパ性白血病および悪性リンパ腫治療中に白質脳症を合併した4例. 日本血液学会学術集会（第71回）（京都），2009. 10.

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科, 放射線治療科]

研究概要

(放射線診断) 部門では非侵襲的3次元CTの分野での国内外の指導的立場にある。冠動脈CTによる血管狭窄・血管壁性状評価, 3次元血管造影法, 脳灌流画像, 腫瘍病変の血行動態解析などの開発・研究を進めている。MRI部門では3テスラMRI装置を用いた臨床研究が行われており, 特に心疾患や血管病変に対する画像・機能解析, ナビゲーションシステムや高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影部門ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度の研究が行われている。その他, 造影剤に関する研究や遠隔システムを含めて画像ネットワークの研究も行われている。

(核医学) 3次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析やモバイル型半導体検出器の研究など循環器核医学領域において国内外で高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。PETに関しては, 医療検診センターにて最新のPET/CTを用いた腫瘍核医学と脳内リセプターの分子画像の研究, 画像Fusionなどの画像処理, 新しいPET製剤に関する研究が行われている。

(血管造影・IVR) 血管性病変や悪性腫瘍に対する治療および救急疾患に対するIVR治療では国内外での評価は高く, 肺動脈血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的, 臨床研究が行われている。その他, CTガイド下生検や肺がんや肝がんに対するラジオ波治療の研究も行われている。

(放射線治療) 頭頸部腫瘍・肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が注目されている。また頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに, 皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Onozawa S, Murata S, Shimizu A, Tajima H, Hidaka F, Kumita S, Nomura K : Comparative study of transcatheter renal arterial embolization with and without closed renal circuit : Pharmacokinetic and histologic assessment in pigs. *Radiology* 2009 ; 250 (3) : 714-720.
- 2) Amano Y, Takayama M, Kumita S : Cardiac magnetic resonance imaging findings are useful for differentiating between hypertrophic cardiomyopathy and aortic valve stenosis in elderly patients. *J Comput Assist Tomogr* 2009 ; 33 (3) : 354-358.
- 3) Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Tani ai N¹⁾, Onda M²⁾, Hayashi H, Tajiri T¹⁾ (1) Surgery for Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Integrative Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Inflammatory pseudotumor on the Liver Associated with Intrahepatic Bile Duct Stones Mimicking Malignancy. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (3) : 154-159.
- 4) Nakajima Y, Kawamoto M, Koizumu K, Tajima H, Fukuda Y, Tsuchiya S, Shimizu K : An accurate diagnosis of Noguchi classification is possible after the modification of preoperative biopsy-induced fibrosis. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2009 ; 15 (4) : 221-226.
- 5) Amano Y, Takahama K, Kumita S : Noncontrast-enhanced three-dimensional magnetic resonance aortography of the thorax at 3.0 T using respiratory-compensated T1-weighted k-space segmented gradient-echo

imaging with radial data sampling. preliminary study. Invest Radiol 2009 ; 44 (9) : 548-552.

- 6) Amano Y, Takayama M, Kumita S : Contrast-enhanced myocardial T1-weighted scout (Look-Locker) imaging for the detection of myocardial damages in hypertrophic cardiomyopathy. J Magn Reson Imaging 2009 ; 30 (4) : 778-784.
- 7) Onozawa S, Tajima H, Murata S, Nakazawa K, Fukunaga T : Clinical usefulness of hybrid intervention for the treatment of primary thrombosis of axillary-subclavian vein. Annals of Vascular Diseases 2009 ; 2 (1) : 62-65.
- 8) Murata S, Tajima H, Nakazawa K, Onozawa S, Kumita S, Nomura K : Initial experience of transcatheter arterial embolization during portal vein occlusion for unresectable hepatocellular carcinoma with marked arterioportal shunts. European Radiology 2009 ; 19 : 2016-2023.
- 9) Akira S, Iwasaki N, Ichikawa M, Mine K, Kuwabara Y, Takeshita T, Tajima H : Successful long-term management of adenomyosis associated with deep thrombosis by low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy. Clin Exp Obstet Gynecol 2009 ; 36 (2) : 123-125.
- 10) 富山 毅¹⁾, 金子貴久¹⁾, 喜友名一¹⁾, 町田 幹, 林 宏光, 汲田伸一郎 (¹⁾ 日本医科大学) : 【Multislice CT 2009 BOOK】 MDCTのデータを用いた3次元CT再構成画像による肝区域理解の試み. 映像情報Medical 2009 ; 41 (7) : 82-85.
- 11) 福嶋善光, 林 宏光, 桐山智成, 汲田伸一郎 : 心臓SPECT/CTフュージョンイメージによる虚血性心疾患の非侵襲的診断. The Lipid Vol20 2009 ; 20 (4) : 62-67.
- 12) 久志本成樹¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 増野智彦¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 白石振一郎¹⁾, 福田令雄¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 救命救急センター) : 外傷性血胸に対する経動脈塞栓術の適応を考える : 自験4例と文献報告からの検討. 日本外傷学会誌 2010 ; 24 (1) : 27-32.

(2) 総説 :

- 1) Hayashi H, Kiriya T, Hukushima Y, Kumita S : Noninvasive Diagnosis of Culprit Lesions with the Use of Single-Photon Emission Computed Tomography/Computed Tomography Fusion Images in Patients with Multivessel Coronary Artery Disease. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (1) : 2-3.
- 2) Murakami R, Kumita S, Yamaguchi K, Ueda T : Diabetic mastopathy mimicking breast cancer Clin Imaging. Clin Imaging 2009 ; 33 (3) : 234-6.
- 3) 林 宏光 : 静脈血栓塞栓症の画像診断 : マルチスライスCTを中心に. Medico 2009 ; 40 (3) : 91-94.
- 4) 桑鶴良平¹⁾, 早川克己²⁾, 鳴海義文³⁾, 林 宏光 (¹⁾ 東京女子医科大学放射線科, ²⁾ 京都市立病院放射線科, ³⁾ 大阪医科大学) : 造影剤の適正使用推進ガイド : 造影剤添付文書の「適用上の注意」. 臨床画像 2009 ; 25 (3) : 324-327.
- 5) 天野康雄 : 心臓MRIの技術進歩と臨床にもたらす影響-3Tも含めた心臓MRIの臨床経験. インナービジョン 2009 ; 24 (5) : 36-38.
- 6) 林 宏光 : ヨード造影剤投与時のピグアナイド薬中止の根拠. 日本医事新報 2009 ; 4449 : 83-84.
- 7) 汲田伸一郎, 桐山智成, 天野康雄, 林 宏光 : マルチモダリティ時代の核医学検査の有効性. 映像情報medical 2009 ; 41 (11) : 1114-1119.
- 8) 林 宏光 : 造影剤腎症. CLINICIAN 2009 ; 582 (56) : 969-973.
- 9) 林 宏光 : MDCT進化論再考 : MDCTの進化が目指すもの. 新医療 2009 ; 10 : 42-44.
- 10) 福嶋善光, 田島廣之, 汲田伸一郎 : 核医学検査による肺高血圧の診断. 総合臨床 2009 ; 58 (11) : 2254-2258.
- 11) 林 宏光, 吉岡邦浩¹⁾ (¹⁾ 岩手医科大学循環器放射線科) : 低侵襲的脈管画像診断の進歩 : さらなる診断能の向上と低侵襲化を目指して. 脈管学 2009 ; 49 : 313.
- 12) 林 宏光 : マルチスライスCTによるステント内再狭窄の評価 : editorial comment. 心臓 2009 ; 41 : 1052.

- 13) 林 宏光：MRA. Medical View Point 2009；30：7.
 - 14) 林 宏光：MDCTによる肺動脈塞栓症の確定診断. 医事新報 2009；4421：96-97.
 - 15) 吉原尚志, 村田 智, 田島廣之：主な検査法の特徴：救急との関連から. 胸部単純エックス線写真. Vascular Lab 2009；6 (増刊)：148-152.
 - 16) 嶺 貴彦, 田島廣之, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 救命救急センター)：冷や汗だらけの画像診断. 胸腹部外傷. 月刊レジデント 2009；2 (5)：116-123.
 - 17) 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢：急性肺血栓塞栓症をいかに治療するか. 肺血栓塞栓症に対するカテーテル治療の適応と効果. medicina 2009；46 (5)：774-777.
 - 18) 村田 智, 田島廣之, 福永 毅, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 中澤 賢：骨盤骨折のIVR. 日本IVR学会誌 2009；24 (2)：154-158.
 - 19) 田島廣之：高齢者の画像診断2009. 序説. 臨床画像 2009；25 (9)：1008-1013.
 - 20) 小林由子¹⁾, 田島廣之, 阿部和也¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 山本 彰¹⁾, 三田俊二²⁾, 中井章人²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾ 多摩永山病院, ²⁾ 多摩永山病院産婦人科)：高齢者の画像診断2009. 婦人科領域. 臨床画像 2009；25 (9)：1008-1013.
 - 21) 田島廣之：肺癌：診断・治療の実際2010. 序説. 臨床画像 2010；26 (2)：121-121.
 - 22) 石原聖久, 山本 鼎, 渡 潤, 栗林茂彦, 田島廣之：肺癌：診断・治療の実際2010. 検診の実際. 臨床画像 2010；26 (2)：134-143.
 - 23) 中澤 賢, 田島廣之, 弦間昭彦¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 川本雅司²⁾ (¹⁾ 呼吸器内科, ²⁾ 病理部)：肺癌：診断・治療の実際2010. CTNBの実際. 臨床画像 2010；26 (2)：170-181.
 - 24) 川本雅司¹⁾, 中澤 賢, 田島廣之, 小泉 潔 (¹⁾ 病理部)：肺の穿刺細胞診. 検査と技術 2010；38 (2)：87-91.
 - 1) 田島廣之：監修：Special Report. ECR 2009. Views Radiology International 2009；11 (2)：1-58.
 - 2) 田島廣之, 村上隆介：日本IVR学会国際交流促進制度CIRCE2008参加印象記」について. 日本IVR学会誌 2009；24 (2)：183-183.
- (3) 会議録：
- 1) 町田 幹, 徳田 梓, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎：医学部4年生に対する, 胸部単純X線撮影における縦隔肺境界線の構成要素の理解向上を目指して. 日本医学放射線学会学術集会抄録集 2009；68：134-135.
- (4) 解説/特集：
- 1) 町田 幹, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎：医用画像workstationの画像解剖教育への応用. マルチスライスCTの新時代～治療支援のための医用3D画像 2009；7 (6)：46-48.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 市川和雄：〔監修〕QUESTION BANK. 医師国家試験問題解説2010 (国試対策問題編集委員会), 2009；pp1-90, メディックメディア.
- 1) 田島廣之, 小野澤志郎：血管内治療. 末梢血管. 血栓吸引治療. 脈管専門医のための臨床脈管学 (日本脈管学会編集), 2010；pp154-155, メディカルレビューン.
- 2) 林 宏光：〔分担〕III実践撮影. 6：造影後, 発疹が出現, 軽度の呼吸困難を訴えました. どのように対処したらよいですか. Q&Aでやさしく学ぶ心臓CT (児玉和久, 栗林幸夫 監修), 2009；pp66-67, MEDICAL VIEW.

- 3) 林 宏光：〔分担〕III実践撮影. 7：造影剤量はどれくらいが必要です。Q&Aでやさしく学ぶ心臓CT（児玉和久，栗林幸夫 監修），2009；pp68-69，MEDICAL VIEW.
- 4) 林 宏光：〔分担〕II撮影一般. 7：造影剤の副作用に対するガイドラインは，今どのように考えられていますか。Q&Aでやさしく学ぶ心臓CT（児玉和久，栗林幸夫 監修），2009；pp47-48，MEDICAL VIEW.
- 5) 林 宏光：〔分担〕第3章 主な検査法の特徴：7. CT. Vascular Lab：救急診療と血管検査（松尾 汎 監修），2009；pp187-192，メディカ出版.
- 6) 林 宏光：〔分担〕4. CT. ガイドラインに基づくCCU実践マニュアル（田中啓治 編），2009；pp269-274，羊土社.
- 7) 汲田伸一郎，桐山智成，福嶋善光：〔分担〕冠動脈CTと核医学所見の乖離：形態学的検査と機能的検査の限界. 循環器検査のグノーティ・セアウトン（(山科 章 編) シナジー），2009.
- 8) 汲田伸一郎，桐山智成，林 宏光：〔分担〕画像診断 D. 核医学. 脈管専門医のための臨床脈管学，2010；メディカルトリビューン（日本脈管学会 編）.
- 9) 田島廣之，上田達夫：血管内治療. 末梢血管. カテーテル血栓溶解療法. 脈管専門医のための臨床脈管学（日本脈管学会編集），2010；pp152-153，メディカルトリビューン.

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) Hayashi H, Takagi R, Kumita S, Ochi M¹⁾, Tanaka K²⁾, Mizuno K³⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery, ²⁾ Coronary Care Unit, ³⁾ Department of 1st Internal Medicine) : Impacts of Multidetector row CT on Diagnosis of Aortic Diseases. The 73rd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Osaka), 2009. 3.

追加分教育講演：

- 1) 林 宏光：Real Worldにおける心臓CT：治療支援画像としての可能性を探る. Beyond Angiography Japan XIV, 2009. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 田島廣之：深部静脈血栓症に対するインターベンションの実際. 北関東甲信越Peripheral Intervention研究会（第5回）（東京），2009. 4.
- 2) 汲田伸一郎：最新の形態・機能融合画像. 町田相模地区癌最新診断・治療セミナー，2009. 6.
- 3) 林 宏光：1. Gd造影剤とNSF，2. ヨード造影剤とビグアナイド系糖尿病治療薬の併用. ミッドサマーセミナー：造影剤適正使用の推進について，2009. 7.
- 4) 林 宏光：心臓CTの実践的活用：症例から学ぶ. Heart Imaging Up Date：八王子公開セミナー，2009. 7.
- 5) 汲田伸一郎：心臓核医学の現状と展望：心臓SPECT/CT Fusionイメージの臨床応用を含めて. 第25回神奈川PET・SPECT研究会，2009. 10.
- 6) 林 宏光：MDCT進化論再考：心臓CTの現状と次世代CTに望まれること. 第40回日立メディコ事業化発表会，2009. 10.
- 7) 汲田伸一郎：PET検査の利用法；疾患ごとに何がわかるのか. 世田谷区医師会講演，2009. 11.
- 8) 田島廣之：肺血栓塞栓症の診断と血管内治療. クリニカルランドマーク茨城（第3回）（水戸），2009. 11.
- 9) 田島廣之：PTR+stentingの実際. CordisARAS Seminar（第2回）（東京），2009. 11.
- 10) 田島廣之：静脈血栓塞栓症の診断と血管内治療. 知血管疾患研究会（高知），2009. 12.
- 11) 汲田伸一郎：臨床に即した心臓核医学：MDCT/SPECT心臓Fusionイメージの臨床応用を含めて. 第16回

宮崎RIカンファレンス, 2010. 1.

(2) 教育講演:

- 1) 林 宏光: SCCTガイドラインの解説. 第3回SCCT研究会, 2009. 5.
- 2) 林 宏光: 心臓CTの実践的活用: 症例から学ぶ. 第44回Four Seasons Forum, 2009. 5.
- 3) 天野康雄: MRIが有用であった最近の症例とMRIの適応. 第2回豊島健康診査センターMRI/CT症例検討会, 2009. 6.

(3) シンポジウム:

- 1) 桐山智成, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 山口英宣, 水村 直, 林 宏光, 汲田伸一郎: 心臓CT・MRI: 現状と展望. 第68回日本医学放射線学会総会, 2009. 4.
- 2) 中島康雄, 松本純一, 船窪正勝, 服部貴之, 水沼仁孝, 田島廣之, 西巻 博: 肝脾外傷に対するCT所見を基本とした臓器損傷分類. 日本外傷学会 (第23回), 2009. 5.
- 3) 嶺 貴彦, 村田 智, 田島廣之, 中澤 賢, 林 宏光, 小野澤志郎, 上田達夫: 四肢骨盤部AVMに対するIVR治療戦略. 日本血管内治療学会 (第15回) (東京), 2009. 7.
- 4) 田島廣之: APTEのカテーテル的治療法 (肺血栓塞栓症フォーラム in 名古屋). 日本静脈学会総会 (第29回) (名古屋), 2009. 7.
- 5) 村田 智, 田島廣之: コンクエストPTAバルンの適応と今後の可能性. 日本IVR学会総会 (第38回) (大阪), 2009. 8.
- 6) 桐山智成: 心臓領域のSPECT/CT融合画像は有用か?: 冠動脈疾患において機能的情報と形態学的情報を同時に評価する意義. 第49回日本核医学会学術総会, 2009. 10.
- 7) 高木 亮: 救急センターにおけるCT/MRIの有用性: DPCの問題を含めて. 第37回日本磁気共鳴医学大会, 2009. 10.
- 8) 林 宏光, 高木 亮, 杉崎健一, 町田 幹, 吉原尚志, 上田達夫, 嶺 貴彦, 関根鉄朗, 汲田伸一郎: MDCTによる大動脈疾患の低侵襲的診断: 治療支援画像としての可能性を考える. 第50回日本脈管学会総会, 2009. 10.
- 9) 林 宏光: 腎機能と造影検査: Which study when?. 第37回磁気共鳴医学会大会, 2009. 10.
- 10) 田島廣之, 村田 智, 川俣博志¹⁾, 市川和雄, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 城正樹, 澁川絢子 (¹⁾千葉北総病院): 大動脈ステントグラフトの現状と将来. 救急大動脈疾患 (破裂・解離・外傷をふくめて). 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第45回) (和歌山), 2009. 10.
- 11) 田島廣之: 救急疾患のIVR (石川メモリアルレクチャー). 救急放射線研究会 (第19回). 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第45回) (和歌山), 2009. 10.

(4) セミナー:

- 1) 林 宏光: 心臓CTの実践的活用: 症例から学ぶ. 第68回日本医学放射線学会総会, 2009. 4.
- 2) 林 宏光: MDCT Angiography: 心臓CTの現状と造影剤腎症. 第15回日本血管内治療学会, 2009. 7.

(5) ワークショップ:

- 1) 上田達夫, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之: カテーテル合戦: 技で勝負. 日本IVR学会総会 (第38回) (大阪), 2009. 8.
- 2) 田島廣之: Surgery vs Catheter intervention. Catheter interventionの立場から (ダイバートセッション: 急性肺血栓塞栓症治療). 日本心臓血管外科学会学術総会 (第40回) (神戸), 2010. 2.
- 3) 嶺 貴彦, 村田 智, 田島廣之, 汲田伸一郎: 腹部領域の外傷性仮性動脈瘤に対するIVR治療戦略「腹部動脈損傷に対するIVR」. 腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.

(6) 一般講演:

- 1) Amano Y, Takahama K, Matsumura Y, Kumita S: Fat-suppressed non-contrast-enhanced MR angiogra-

- phy of thorax : comparison between navigator-gated SSFP and respiratory-gated TSE imaging. 17th annual meeting of ISMRM (Honolulu), 2009. 4.
- 2) Murata H, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ohara T, Iwasaki Y, Ueno A, Okazaki R, Yamamoto T, Matsumoto A, Katoh T, Mizuno K, Nitta T, Ohmori H, Amano Y, Takayama M : Electroanatomical mapping-guided endocardial and epicardial ablation of sustained ventricular tachycardia following percutaneous transluminal septal myocardial ablation in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. 30th annual scientific session of Heart Rhythm Society (Boston, MA), 2009. 5.
 - 3) Tajima H, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Mine T, Ueda T : Hybrid endovascular interventional treatment of acute massive pulmonary thromboembolism : Mechanical fragmentation, local fibrinolytic therapy, and clot aspiration. CIRSE (リスボン), 2009. 9.
 - 4) Mine T, Tajima H, Murata S, Nakazawa K, Onozawa S, Ueda T, Shibukawa A, Kumita S : Severe peritoneal hemorrhage from adrenal artery injury : Successful Interventional Radiology after damage control surgery. CIRSE (Lisbon), 2009. 9.
 - 5) Ueda T, Murata S, Tajima H, Nakazawa K, Onozawa S, Fukunaga T, Mine T, Kumita S : NBCA Embolization for Endoscopically Unmanageable Acute Nonvariceal Gastrointestinal Hemorrhage. CIRSE (Lisbon), 2009. 9.
 - 6) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Hidaka F, Nakazawa K, Mine T, Ueda T, Kumita S : Ethanol embolization under closed renal circuit : a preliminary experimental study and clinical trial. CIRSE2009 (リスボン), 2009. 9.
 - 7) Murata S, Onozawa S, Tajima H, Kumita S : Pilot study of transcatheter arterial chemoembolization during portal vein occlusion for unresectable hepatocellular carcinoma with marked arteriportal shunts. CIRSE2010 (リスボン), 2009. 9.
 - 8) Amano Y, Takayama M, Tachi M, Machida T, Kumita S : Combination of delayed-enhancement and myocardial T1-weighted scout MR Imaging detects dispersed and dense myocardial damages in hypertrophic cardiomyopathy. 95th annual meeting of RSNA (Chicago), 2009. 12.
 - 9) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Shimizu A, Hidaka F, Kumita S : transcatheter Arterial Embolization with Absolute Ethanol via a Closed Renal Circuit : Comparative Experimental Study for Pharmacokinetic and Histological Assessment and Clinical Trials. RSNA2009 (シカゴ), 2009. 12.
 - 10) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Nakazawa K, Ueda T, Shibukawa A, Kumita S : Clinical application of embolization with n-butyl cyanoacrylate for endoscopically unmanageable nonvariceal gastrointestinal hemorrhage. ECR2010 (ウィーン), 2010. 3.
 - 11) Onozawa S, Tajima H, Murata S, Mine T, Ueda T, Shibukawa A, Kumita S : Efficacy of interventional treatment for Iatrogenic arterial injury. AOCR2010 (Taipei), 2010. 3.
 - 12) Sugihara F, Murata S, Uchiyama F, Watara J, Tajima H, Kumita S : Pilot Study of Transcatheter Arterial Chemoembolization during Portal Vein Occlusion for Unresectable Hepatocellular Carcinoma with Marked Arteriportal Shunts. AOCR2010 (Taipei), 2010. 3.
 - 13) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Tajima H, Kumita S, Kumazaki T : Preclinical experimental study of retrograde outflow isolated hepatic perfusion with interventional Approach. AOCR2010 (Taipei), 2010. 3.
 - 14) Mine T, Tajima H, Murakami R, Ueda T, Kobayashi Y¹⁾, Kushimoto S¹⁾, Yokota H¹⁾, Kumita S⁽¹⁾ (Dept. of Emergency) : Interventional Radiology following damage control surgery for the treatment of traumatic adrenal injury with hemo-peritoneum. AOCR2010 (Taipei), 2010. 3.

- 15) Murata S, Onozawa S, Tajima H, Kumita S : Preliminary experiment of retrograde outflow isolated hepatic perfusion with interventional approach. AOCR2010 (Taipei), 2010. 3.
- 16) 杉原史恵, 村田 智, 田島廣之, 汲田伸一郎, 渡 潤¹⁾ (¹⁾海老名総合病院放射線科) : 高リン血症治療剤をボタン電池と誤認した1例. 腹部救急学会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 17) 高木 亮, 天野康雄, 日高史貴, 吉田民子, 杉崎健一, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 3T-MRIを用いた下垂体微小腺腫の診断 : 3D-dynamic studyの臨床応用. 第68回日本医学放射線学会総会, 2009. 4.
- 18) 村田 智, 小野澤志郎, 田島廣之, 嶺 貴彦, 汲田伸一郎 : Negative-in-out flow 骨盤内閉鎖循環下灌流療法と全身化学療法と比較試験 血漿内・組織内CDDP濃度. 日本医学放射線学会総会 (第68回), 2009. 4.
- 19) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 水村 直, 川口常明¹⁾, 丸山隆利²⁾, 横井一磨²⁾, 川崎善幸²⁾, 新開康弘²⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾東邦大学, ²⁾日立製作所) : 非ST上昇型急性心筋梗塞における半導体ガンマカメラの有用性. 第68回日本医学放射線学会総会, 2009. 4.
- 20) 山口英宣, 桐山智成, 鳥羽正浩, 天野康雄, 趙 圭一¹⁾, 汲田伸一郎 (¹⁾日本医科大学 健診医療センター) : 肥大型心筋症における心電図同期心筋SPECTによる左心機能指標の正確性. 第68回日本医学放射線学会総会, 2009. 4.
- 21) 小野澤志郎, 村田 智, 清水 章¹⁾, 田島廣之, 福永 毅, 嶺 貴彦, 上田達夫 (¹⁾日本医科大学 第一病棟) : 閉鎖循環下腎動脈塞栓術における基礎実験と臨床検討. 日本医学放射線学会総会 (第68回), 2009. 4.
- 22) 林 宏光, 高木 亮, 桐山智成, 吉原尚志, 箱崎謙太, 汲田伸一郎, 小野真平¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾日本医科大学 形成外科) : 軟部組織欠損の閉創・再建のためのMDCTによる動脈穿通枝の同定. 第68回日本医学放射線学会総会, 2009. 4.
- 23) 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎, 田島廣之 : 進行がん合併切迫破裂症例に対するステントグラフト治療. EG Works (第5回) (東京), 2009. 4.
- 24) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫 : 閉鎖循環下腎動脈塞栓術の基礎と臨床. 回東京アンギオ・IVR会 (第413) (東京), 2009. 5.
- 25) 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行, 田島廣之 : 骨盤骨折に伴う外腸骨動脈“pseudostenosis”の1例. 日本外傷学会 (第23回) (大阪), 2009. 5.
- 26) 久志本成樹, 宮内雅人, 増野智彦, 佐藤格夫, 白石振一郎, 福田令雄, 山本昌督, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行, 田島廣之 : 傷性血胸に対するTAEの適応を考える : 自験例からの解析. 日本外傷学会 (第23回) (大阪), 2009. 5.
- 27) 天野康雄, 高山守正, 林 宏光, 汲田伸一郎 : Look-Locker MRIを用いた肥大型心筋症の心筋障害パターンの検討. 第69回心臓血管放射線研究会, 2009. 6.
- 28) 上田達夫, 小野澤志郎, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 市川和雄, 嶺 貴彦, 山口英宣, 城 正樹, 澁川絢子, 田島廣之 : 急性四肢動脈閉塞症に対するIVR. 日本IVR学会関東地方会 (第4回) (東京), 2009. 7.
- 29) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 市川和雄, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 落 雅美¹⁾, 吉川公彦²⁾ (¹⁾第二外科, ²⁾奈良医科大学放射線科) : 大動脈stentgraft留置術後5年でgraft虚脱・血栓閉塞を来した1症例. 大動脈ステントグラフト研究会 (第13回) (東京), 2009. 7.
- 30) 村田 智, 小野澤志郎, 田島廣之, 嶺 貴彦, 上田達夫, 汲田伸一郎, 野村和弘 : 門脈内2ルート法を用いた肝閉鎖循環下灌流療法 : 手技の安全性と循環動態の安定化について. 日本IVR学会総会 (第38回) (大阪), 2009. 8.
- 31) 嶺 貴彦, 田島廣之, 久志本成樹, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎, 吉原尚志, 上田達夫, 横田裕行 : 重症多発外傷に対するハイブリッド治療 : Damage Control Surgeryに連続したIVR手技の有用性. 日本IVR学会総会 (第38回) (大阪), 2009. 8.
- 32) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 市川和雄, 中澤 賢, 福永 毅, 嶺 貴彦, 上田達夫, 横田裕行, 久志本

- 成樹：鈍的外傷性肺損傷に対し肺動脈塞栓術を行った1例．日本IVR学会総会（第38回）（大阪），2009．8．
- 33) 須田匡也，桜井 実，趙 圭一，汲田伸一郎，小野口昌久¹⁾（¹⁾ 金大）：Time of flightにおけるノイズ特性の検討．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 34) 山科昌平¹⁾，桑原洋一²⁾，藤本進一郎¹⁾，井上有知¹⁾，汲田伸一郎，山科 章³⁾，山崎純一¹⁾（¹⁾ 東洋大循内，²⁾ 千葉大循内，³⁾ 東京医大二内）：I-123-MIBG心筋シンチグラフィの多施設共同研究（K-MIC）における散乱線補正の意義．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 35) 山口英宣，鳥羽正浩，三好永哲¹⁾，新田浩一¹⁾，桐山智成，関根鉄朗，福嶋善光，水村 直，趙 圭一，汲田伸一郎（¹⁾ 日立メデイコ）：Tc-99m心筋血流SPECT画像を用いた心筋壁厚推定の基礎的検討．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 36) 椎葉真人，桑子智成，趙 圭一，汲田伸一郎：11C-MethioninePETにおける骨髄集ち積の検討．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 37) 天野康雄，城 正樹，鈴木由里子，松村善雄，汲田伸一郎：Marc van Cauteren. Phase-sensitive法を併用したナビゲーター同期3D遅延造影心臓MRIの画質評価．第37回日本磁気共鳴医学会大会，2009．10．
- 38) 天野康雄：心臓MRIを用いたSeptal ablation前後の肥大型心筋症の評価．第7回 Cardiac MDCT & MRI Seminar，2009．10．
- 39) 深川絢子，小野澤志郎，村田 智，中澤 賢，嶺 貴彦，上田達夫，村上隆介，高木 亮，田島廣之，汲田伸一郎：医原性血管損傷に対する緊急動脈塞栓術．第45回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2009．10．
- 40) 桑子智之，椎葉真人，趙 圭一，佐藤英尊，秋山一義，櫻井 実，汲田伸一郎：FDG-PET/CTによる腎腫瘍の評価．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 41) 吉原尚志，石原真木子¹⁾，丸野廣大¹⁾，岡崎 篤¹⁾，石原圭一，汲田伸一郎（¹⁾ 虎の門放）：食道癌微小リンパ節転移のPET-CT評価における後期像の有用性．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 42) 福嶋善光，鳥羽正浩，桐山智成，趙 圭一，水村 直，汲田伸一郎：重症虚血性疾患に対する脂肪酸代謝シンチグラフィを用いた心臓 SPECT/CT Fusion imageの有用性．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 43) 城 正樹，椎葉真人，趙 圭一，福嶋善光，桐山智成，秋山一義，汲田伸一郎：副腎腫瘍と鑑別が困難であったアドステロール産生性腎細胞癌の1例．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 44) 水村 直¹⁾，石渡明子²⁾，山崎峰雄²⁾，佐藤英尊，桑子智之，桐山智成，福嶋善光，汲田伸一郎，甲田英一（¹⁾ 東洋大学，²⁾ 日医大神内）：認知症性疾患における脳萎縮と血流低下の関連と乖離：vbSEEによる機能形態画像の同時評価と相互作用．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 45) 佐藤英尊，趙 圭一，汲田伸一郎：PET検診における非閉眼下でのFDG正常脳集積の検討．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 46) 杉原史恵¹⁾，趙 圭一，椎葉真人，佐藤英尊，秋山一義，石原真木子，桜井 実，鳥羽正浩，汲田伸一郎（¹⁾ 海老名総放）：微小肺転移病変におけるTime-of-Flight PETの有用性．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 47) 趙 圭一，椎葉真人，佐藤英尊，秋山一義，鳥羽正浩，石原真木子¹⁾，桜井 実，汲田伸一郎（¹⁾ 虎の門放）：Time-of-Flight PET装置を用いたFDG正常分布の検討．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 48) 桜井 実，須田匡也，趙 圭一，汲田伸一郎：Time-of-Fright (TOF) 装置における高集積周囲のアーチファクトの検討．第49回日本核医学会学術総会，2009．10．
- 49) 嶺 貴彦，村田 智，田島廣之，中澤 賢，林 宏光，小野澤志郎，上田達夫，澁川絢子，汲田伸一郎：骨盤部AVMに対するIVR治療戦略．日本脈管学会（第50回）（東京），2009．10．
- 50) 坏 宏一，村井剛児，田島廣之，疋田伸一，細川勇亮，上野 亮，宗像 亮，時田祐吉，山本 剛，佐藤直樹，水野杏一，田中啓治：緊急コイル塞栓術が仮性動脈瘤破裂の救命に有効であった1例．日本脈管学会（第50回）（東京），2009．10．

- 51) 天野康雄：MRI特有の撮像技術および病変と誤認しやすいMRIのアーチファクト．第3回豊島健康診査センターMRI/CT症例検討会，2009．11．
- 52) 中澤 賢，田島廣之，村田 智，小野澤志郎，嶺 貴彦，上田達夫，澁川絢子，山本 剛，田中啓治：深部静脈血栓症に対する血管内治療後，再発を繰り返した1例．肺塞栓研究会学術集会（第16回）（東京），2009．11．
- 53) 高木 亮，天野康雄，関根鉄朗，村井保夫¹⁾，寺本 明¹⁾，汲田伸一郎（¹⁾日本医科大学 脳神経外科）：3T装置を用いたphase contrast法による4D-flow MRIの初期臨床応用：バイパス術後の血流評価．第33回日本CI学会総会，2010．2．
- 54) 小野澤志郎，田島廣之，村田 智，中澤 賢，嶺 貴彦，上田達夫，澁川絢子，汲田伸一郎，田村秀樹，杉原仁：副腎静脈サンプリングにおけるCT併用の有用性．3次元CT/MRI研究会（第15回），医用デジタル動画像研究会（第21回）（東京），2010．2．
- 55) 小野澤志郎，田島廣之，村田 智，中澤 賢，嶺 貴彦，城 正樹，上田達夫，澁川絢子，汲田伸一郎，落雅美¹⁾，横田裕行²⁾（¹⁾第二外科，²⁾救命救急センター）：動脈塞栓中に瘤破裂を生じたが適切な治療により対処しえた脾仮性動脈瘤の1例．東京血管外科画像診断治療研究会（第19回）（東京），2010．3．
- 56) 澁川絢子，村田 智，嶺 貴彦，上田達夫，田島廣之，汲田伸一郎：下腹壁動脈損傷に対する動脈塞栓術．腹部救急医学会総会（第46回）（富山），2010．3．
- (7) ポスター：
- 1) 日高史貴，天野康雄，高濱克也，汲田伸一郎：非造影MRIによる腎機能障害の評価：レノグラムにおけるGFRとの比較．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．
 - 2) 村上隆介，高濱克也，吉原尚志，日高史貴，太田香織，汲田伸一郎，氏原英幸¹⁾（¹⁾荒川区がん予防センター）：マンモグラフィ検診におけるComputer-aided detection（CAD）systemの有用性．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．
 - 3) 上田達夫，村田 智，田島廣之，中澤 賢，小野澤志郎，福永 毅，嶺 貴彦，汲田伸一郎：内視鏡的止血が困難であった非静脈瘤性消化管出血例に対するNBCAを用いた緊急塞栓術の有用性．日本医学放射線学会総会（第68回），2009．4．
 - 4) 嶺 貴彦，村田 智，田島廣之，中澤 賢，福永 毅，小野澤志郎，上田達夫，汲田伸一郎：躊躇なAPシヤントを有する切除不可能肝細胞癌に対する治療戦略．日本医学放射線学会総会（第68回），2009．4．
 - 5) 関根鉄朗，福嶋善光，水村 直，川口常昭¹⁾，丸山隆利¹⁾，横井一磨¹⁾，川崎善幸¹⁾，新開康弘¹⁾，汲田伸一郎（¹⁾日立製作所）：半導体ガンマカメラによる副甲状腺腫描出能の検討．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．
 - 6) 椎葉真人，趙 圭一，鳥羽正浩，秋山一義，箱崎謙太，桐山智成，汲田伸一郎：FDG-PET/CTによる膀胱癌腹部骨盤内リンパ節転移の評価．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．
 - 7) 桐山智成，鳥羽正浩，山口英宣，岡崎恵美，福嶋善光，水村 直¹⁾，趙 圭一²⁾，林 宏光，汲田伸一郎：予後予測における冠動脈CTAと心筋SPECTCTの比較．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．
 - 8) 太田香織，村上隆介，日高史貴，吉原尚志，高濱克也，山口英宣，汲田伸一郎：乳腺Invasive Micropapillary Carcinomaの画像所見 病理組織との対比．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．
- (8) 教育展示：
- 1) 町田 幹，徳田 梓¹⁾，高木 亮，林 宏光，汲田伸一郎（¹⁾日本医科大学 学生）：医学部4年生に対する，胸部単純X線撮影における縦隔肺境界線の構成要素の理解向上を目指して．第68回日本医学放射線学会総会，2009．4．

[武蔵小杉病院放射線科]

研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対し、MDCTにより高精細画像を作成し、画像診断の向上に力を注いでいる。肺切除病理標本とCT画像の比較検討から、詳細な画像所見の分析を試みている。2) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検査業務に参画し、より効率の良い、より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。3) MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用、乳腺浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる。また、ステレオガイド下マンモトーム生検を行い、マンモグラフィ上、微小石灰化を伴う乳癌診断にも力を注いでいる。

Interventional Radiology：1) 悪性肝臓腫瘍の治療として経皮的肝動脈塞栓術、経皮的肝動脈注療法を集学的治療に取り組んでいる。

放射線治療学：1) 肺癌に対して、放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。2) 形成外科とともに、ケロイド治療に取り組んでいる。

核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 久志本成樹²⁾、宮内雅人²⁾、増野智彦²⁾、佐藤格夫²⁾、白石振一郎²⁾、福田令雄²⁾、辻井厚子²⁾、川井 真²⁾、横田裕行²⁾、田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科、2) 付属病院高度救急救命センター)：外傷性血胸に対する経動脈塞栓術の適応を考える：自験4例と文献報告からの検討。日本外傷学会誌 2010；24 (1)：27-32.

(2) 総説：

- 1) 松島敏春¹⁾、江口研二²⁾、桑原正喜³⁾、小倉高志⁴⁾、佐藤雅史⁵⁾、酒井文和⁶⁾、松島秀和⁷⁾、一色彩子、葛西豊高⁸⁾ (1) 倉敷第一病院呼吸器センター、2) 帝京大学医学部内科、3) 草津総合病院、4) 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科、5) 東邦大学医学部放射線科、6) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科、7) さいたま赤十字病院呼吸器内科、8) さいたま赤十字病院)：実践：確定診断から治療への道。明解画像診断の手引き 2009；34 (86)：2-16.
- 2) 一色彩子、佐藤雅史¹⁾、佐藤秀一²⁾ (1) 東邦大学医療センター大橋病院放射線科、2) 横浜旭中央総合病院放射線科)：単純写真の原理と読影の実際：見落としの少ない読影をするために。診断と治療 2009；97 (suppl.)：2-13.
- 3) 一色彩子、佐藤雅史¹⁾ (1) 東邦大学医療センター大橋病院放射線科)：肺炎の画像診断：肺炎と間違えやすい肺炎以外の疾患。Medical Practice 2009；26 (7)：1129-1135.
- 4) 市川太郎：高齢者の画像診断2009：消化管。臨床画像 2009；25 (9)：984-993.
- 5) 松島敏春¹⁾、江口研二²⁾、桑原正喜³⁾、小倉高志⁴⁾、佐藤雅史⁵⁾、酒井文和⁶⁾、石井晴之⁷⁾、一色彩子、橋和聡文、中本啓太郎⁸⁾、肥留川一郎⁹⁾ (1) 倉敷第一病院呼吸器センター、2) 帝京大学医学部内科、3) 草津総合病院、4) 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科、5) 東邦大学医学部放射線科、6) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科、7) 杏林大学医学部第一内科、8) 杏林大学医学部付属病院呼吸器内科、9) 杏林大学医学部附属病院)：実践：確定診断から治療への道。明解画像診断の手引き 2009；40 (93)：2-16.
- 6) 市川太郎：CT・MRIアトラスUpdate・正常解剖と読影のポイント、小腸・大腸・直腸。medicina 2009；46 (12)：294-303.
- 7) 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科)：肺癌：診断・治療の実際2010。序説。臨床画像 2010；26 (2)：121-121.

- 8) 石原聖久²⁾, 山本 鼎²⁾, 渡 潤³⁾, 栗林茂彦¹⁾, 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 豊島健康診査センター, 3) 海老名総合病院放射線科): 肺癌: 診断・治療の実際2010. 検診の実際. 臨床画像 2010; 26 (2): 134-143.
- 9) 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾, 弦間昭彦²⁾, 小泉 潔³⁾, 川本雅司⁴⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院呼吸器内科, 3) 付属病院呼吸器外科, 4) 付属病院病理部): 肺癌: 診断・治療の実際2010. CTNBの実際. 臨床画像 2010; 26 (02): 170-181.
- 10) 川本雅司²⁾, 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾, 小泉 潔³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院病理部, 3) 付属病院呼吸器外科): 肺の穿刺細胞診. 検査と技術 2010; 38 (2): 87-91.

著 書

- 1) 田島廣之¹⁾, 上田達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科): [分担] 血管内治療. 末梢血管. カテーテル血栓溶解療法. 脈管専門医のための臨床脈管学 (日本脈管学会編集), 2010; pp152-153, メディカルトリビューン.
- 2) 田島廣之¹⁾, 小野澤志郎¹⁾ (1) 付属病院放射線科): [分担] 血管内治療. 末梢血管. 血栓吸引治療. 脈管専門医のための臨床脈管学 (日本脈管学会編集), 2010; pp154-155, メディカルトリビューン.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 市川太郎: 普通のCTでもここまで分かる: 消化管診断. 川崎市医師会放射線科医会 (第3回), 2010. 2.
- 2) 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 静脈血栓塞栓症の診断と血管内治療. 高知血管疾患研究会, 2010. 2.

(2) パネルディスカッション:

- 1) Isshiki S: Film Interpretation. The 5th Joint Meeting of Korean-Japanese Societies of Thoracic Radiology (Okinawa Japan), 2010. 1.

(3) ワークショップ:

- 1) 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 急性肺血栓塞栓症治療: Surgery VS Catheter intervention. Catheter intervention の立場から. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第40回), 2010. 2.
- 2) 嶺 貴彦¹⁾, 田島廣之, 渋川絢子¹⁾, 城 正樹¹⁾, 上田達夫¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 久志本成樹²⁾, 横田裕行²⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学放射線医学, 2) 日本医科大学救急医学, 3) 日本医科大学第一外科): 腹部領域の外傷性仮性動脈瘤に対するIVR治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 3) 川野陽一¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 廣井 信¹⁾, 峯田 章¹⁾, 神田知洋¹⁾, 上田純志¹⁾, 小野澤志郎²⁾, 村田 智²⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎²⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学放射線科): 当科での消化器外科術後動脈性出血に対するIVR治療の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 4) 久志本成樹¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 金 史英¹⁾, 辻井厚子¹⁾, 増野智彦¹⁾, 福田令雄¹⁾, 白石振一郎¹⁾, 横田裕行¹⁾, 田島廣之 (1) 日本医科大学救急医学): 腹腔内および後腹膜出血合併外傷例に対する止血優先順位の選択: IVRの先行は厳重な監視下で適応する. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 5) 杉原史恵¹⁾, 小野澤志郎²⁾, 内山史生¹⁾, 渡 潤¹⁾, 萩 真³⁾, 今野秀次³⁾, 林 宏光²⁾, 田島廣之, 汲田伸一郎²⁾ (1) 海老名総合病院放射線科, 2) 日本医科大学放射線科, 3) 富士病院内科): 高リン血症治療剤をボタン電池と誤認した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 6) 渋川絢子¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学放射線医学, 2) 日本医科大学第一内科): 下腹壁動脈損傷に対する動脈塞栓術. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.

(4) 一般講演：

- 1) Shiro O¹⁾, Hiroyuki T¹⁾, Satoru M¹⁾, Takahiko M¹⁾, Tatsuo U¹⁾, Ayako S¹⁾, Shin-Ichiro K¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Efficacy of interventional treatment for iatrogenic arterial injury. Asian Oceanian Congress of Radiology (13th) (Taipei), 2010. 3.
- 2) Fumie S¹⁾, Satoru M¹⁾, Fumio U¹⁾, Jun W²⁾, Hiroyuki T¹⁾, Shin-Ichiro K¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School, 2) Ebina General Hospital) : Pilot Study of Transcatheter Arterial Chemoembolization during Portal Vein Occlusion for Unresectable Hepatocellular Carcinoma with Marked Arterioportal Shunts. Asian Oceanian Congress of Radiology (13th) (Taipei), 2010. 3.
- 3) Satoru M¹⁾, Shiro O¹⁾, Takahiko M¹⁾, Tatsuo U¹⁾, Hiroyuki T¹⁾, Shin-Ichiro K¹⁾, Tatsuo K¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Preclinical experimental study of retrograde outflow isolated hepatic perfusion with interventional approach. Asian Oceanian Congress of Radiology (13th) (Taipei), 2010. 3.
- 4) Takahiko M¹⁾, Hiroyuki T¹⁾, Ryusuke M¹⁾, Tatsuo U¹⁾, Yasuhiro K¹⁾, Shigeki K²⁾, Hiroyuki Y²⁾, Shin-Ichiro K¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School, 2) Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Interventional Radiology following damage control surgery for the treatment of traumatic adrenal injury with hemo-peritoneum. Asian Oceanian Congress of Radiology (13th) (Taipei), 2010. 3.
- 5) Satoru M¹⁾, Hiroyuki T¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Preliminary experiment of retrograde outflow isolated hepatic perfusion with interventional approach. European Congress of Radiology (Vienna), 2010. 3.
- 6) Shiro O¹⁾, Satoru M¹⁾, Hiroyuki T¹⁾ (1) Department of Radiology, Nippon Medical School) : Clinical application of embolization with n-butyl cyanoacrylate endoscopically unmanageable nonvariceal gastrointestinal hemorrhage. European Congress of Radiology (Vienna), 2010. 3.
- 7) 小川ゆかり¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 一色彩子, 佐藤雅史²⁾, 石井英昭³⁾ (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 東邦大学医学部放射線科, 3) 武蔵小杉病院病理科) : 急速に増悪する肺水腫様陰影を示した甲状腺機能低下症の1例. びまん性肺疾患研究会 (第123回), 2009. 4.
- 8) 小川ゆかり¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 一色彩子, 原田英博¹⁾, 石井英昭²⁾, 福田 悠³⁾, 宗像一雄¹⁾ (1) 武蔵小杉病院内科, 2) 武蔵小杉病院病理部, 3) 日本医科大学大学院解析人体病理学) : 急速に増悪する肺水腫様陰影を示したIgG4関連肺疾患の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (185回), 2009. 7.
- 9) 橘和聡文, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎 : 後腹膜原発と考えられた神経内分泌癌の1例. 神奈川県放射線医学会総会 (第50回), 2009. 9.
- 10) 一色彩子, 橘和聡文, 山口香織, 安藤 順, 清水康弘, 市川太郎, 阿部純子¹⁾, 宗像一雄¹⁾ (1) 武蔵小杉病院内科) : 心病変を心臓MRI遅延造影にて描出しえたChurg - Strauss症候群の1例. 神奈川県放射線医学会総会 (第50回), 2009. 9.
- 11) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋川絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 田村秀樹²⁾, 杉原 仁²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院内分泌代謝科) : 副腎静脈サンプリングにおけるCT併用の有用性. 3次元CT/MRI研究会 (第15回) 医用デジタル動画像研究会 (第21回), 2010. 2.
- 12) 菊池友太¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 管 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 中村慶春¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田島廣之, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科) : 経カテーテル動脈塞栓術により治療した右結腸動脈瘤破裂の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 13) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 嶺 貴彦¹⁾, 城 正樹¹⁾, 上田達夫¹⁾, 渋川絢子¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 落 雅美¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 付属病院放射線科) : 動脈塞栓中に瘤破裂を生じたが適切な治療により

対処しえた脾仮性動脈瘤の1例. 東京血管外科画像診断治療研究会 (第19回), 2010. 3.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

CTでは, ワークステーションを活用した医用画像処理の研究・マルチスライスCTを用いた心疾患の診断・造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を続けている. また, 高濃度ヨード造影剤を用いた肝細胞癌の抽出能についての検討も行っている. MRIでは, EOBによる肝細胞癌の抽出能に関する検討を行っている. また, 今後心機能解析の検討を予定している.

核医学では, これまで外部企業と共同で心電図同期SPECTの解析プログラムを開発し, 現在もこのプログラムの改良を継続している. また, これらを用いて種々の心疾患における心筋の血流・代謝と壁運動・同期性の関係や心筋虚血と壁運動の同期性の関係について検討を重ねている. また, 左室壁運動の同期性を用いた予後予測についてもデータを蓄積中である.

この他, 各種認知症における脳血流SPECTについて地域の医療機関と連携の上, 検討を重ねている.

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Takahashi N¹, Yamamoto A, Tezuka S¹, Ishikawa M¹, Abe J¹, Amitani K¹, Yamaguchi T¹, Kawaguchi N¹, Uchida T¹, Iwahara S¹, Munakata K¹ (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital) : Assessment of Left Ventricular Dyssynchrony During Development of Heart Failure by a Novel Program Using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT. Circulation Journal 2008 ; 72 (3) : 370-377.

(1) 原著:

- 1) Zhu C¹, Takahashi N², Yamamoto A, Ishikawa M², Kawaguchi N², Uchida T², Munakata K² (1) Department of Cardiology, 2nd Hospital of Xi'an Jiaotong University, Xi'an, China, (2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Maaashi-kosugi Hospital) : Prevalence of left ventricular dyssynchrony in patients with heart failure assessed by a novel programmer-cardioGRAF. Journal of Geriatric Cardiology 2009 ; 6 (3) : 151-156.
- 2) 小林由子, 田島廣之¹, 阿部和也, 玉井 仁, 山本 彰, 三田俊二², 中井章人², 汲田伸一郎¹ (1) 付属病院放射線科, (2) 多摩永山病院女性診療科・産科) : 高齢者の画像診断2009 : 婦人科領域. 臨床画像別冊 2009 ; 25 (9) : 1008-1013.

(2) 症例報告:

- 1) 松谷 毅¹, 笹島耕二¹, 小林由子, 鈴木成治¹, 丸山 弘¹, 宮本昌之¹, 横山 正¹, 杉浦 篤¹, 松下 晃¹, 柳 健¹, 松田明久¹, 新井洋紀¹, 西 佳史¹, 若林秀幸¹, 田尻 孝² (1) 多摩永山病院外科, (2) 付属病院外科) : Docetaxel/5-Fluorouracil/Nedaplatin 併用化学放射線療法にてCRが得られた同時性食道下咽頭進行重複癌の1例. 癌と化学療法 2009 ; 36 (5) : 835-838.
- 2) 松谷 毅¹, 笹島耕二¹, 小林由子, 鈴木成治¹, 丸山 弘¹, 松下 晃¹, 松田明久¹, 片山博徳², 前田昭太郎², 田尻 孝³ (1) 多摩永山病院外科, (2) 多摩永山病院病理部, (3) 付属病院外科) : Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法と Docetaxel/Cisplatin/5-FU 併用化学療法にてCRが得られた

切除不能高度進行 (T4) 食道癌の1例. 癌の臨床 2009 ; 55 (5) : 383-387.

- 3) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 小林由子, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 付属病院外科) : 進行食道癌術後の胸壁・傍腹部大動脈周囲リンパ節再発に対し docetaxel/nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法は奏効した1例. 臨床外科 2009 ; 64 (6) : 837-840.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Miyachi H¹⁾, Yamamoto A, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Impact of Left Ventricular Volume, Systolic Function, and Myocardial Perfusion and Metabolism for Intra-Left Ventricular Systolic and Diastolic Dyssynchrony. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (74th) (Kyoto), 2010. 3.
- 2) 山本 彰, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 宮地秀樹¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科) : 左室心筋血流と代謝の収縮能と壁運動同期性に与える影響. 日本医学放射線学会総会 (第68回), 2009. 4.

[多摩永山病院放射線治療科]

研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している. 研究, 業績の両者に利用できるよう受付, 看護師, 医師, 技師間のイントラネットデータベースを構築中である. 体幹部定位照射の実施に向け, 医師と技師にて準備を開始した.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Yoshida K¹⁾, Nose T, Masuda N²⁾, Yamazaki H³⁾, Kotsuma T¹⁾, Yoshida M¹⁾, Yamamura J²⁾, Masuda H²⁾, Shin E⁴⁾, Nakaba H⁵⁾, Komoike Y⁶⁾, Tokuda Y¹⁾, Takeda M⁷⁾, Kuriyama K¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²⁾ Department of Surgery, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ³⁾ Department of Radiology, Kyoto Prefectural University of Medicine, ⁴⁾ Department of Breast Oncology, Iseikai Hospital, ⁵⁾ Department of Surgery, Otemac Hospital, ⁶⁾ Department of Surgery, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, ⁷⁾ Department of Pathology, National Hospital Organization Osaka National Hospital) : Preliminary result of accelerated partial breast irradiation after breast-conserving surgery. Breast Cancer 2009 ; 16 (2) : 105-112.
- 2) Nemoto K¹⁾, Oguchi M¹⁾, Nakajima M¹⁾, Kozuka T¹⁾, Nose T, Yamashita T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiation Oncology, Cancer Institute Hospital, the Japanese Foundation for Cancer Research) : cardiac-sparing radiotherapy for the left breast cancer with deep breath-holding. Jpn J Radiol 2009 ; 27 (7) : 259-263.
- 3) Yoshida K¹⁾, Yamazaki H²⁾, Nose T, Shiomi H³⁾, Yoshida M¹⁾, Mikami M¹⁾, Takenaka T¹⁾, Kotsuma T¹⁾, Tanaka E¹⁾, Kuriyama K¹⁾, Harada Y⁴⁾, Tohda A⁴⁾, Yasunaga Y⁴⁾, Oka T⁴⁾ (¹⁾ Department of Radiology, National Hospital Organization Osaka National Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Kyoto Prefectural University of Medicine, ³⁾ Department of Radiation Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Department of Urology, National Hospital Organization Osaka National Hospital) : Needle applicator displacement during high-dose-rate interstitial brachytherapy for prostate cancer. Brachytherapy 2010 ; 9 (1) : 36-41.

(2) 総説：

- 1) 能勢隆之：臨床放射線医学（治療面）頭頸部癌．日本医事新報 2009；4427：87.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 能勢隆之：がんの治療成績向上を目指して-日常診療にも役立つ臨床試験の取り組みと課題：組織内照射に使用した加速乳房部分照射法のfeasibility study（多施設共同試験）．日本放射線腫瘍学会（第22回），2009. 9.

(2) セミナー：

- 1) 能勢隆之：乳癌に対する組織内照射を使用した加速乳房部分照射法（APBI）の初期経験．日本放射線腫瘍学会（第22回），2009. 9.

(3) 一般講演：

- 1) 能勢隆之：婦人科癌組織内照射の治療期間中におけるアプリーケター位置の変化．日本放射線腫瘍学会小線源治療部会（第11回研究会），2009. 6.

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

婦人科系の腫瘍について、女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて、画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており、子宮や卵巣の稀な腫瘍や炎症性疾患などについて、症例を重ねて検討している。

救命救急分野において、救命救急部とのカンファランスを毎週行い、臨床像と画像との対比検討を行っている。骨盤骨折による後腹膜血腫の症例について、後腹膜腔の解剖とあわせて検討している。

消化器疾患については、外科、内科および病理部と合同で、術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている。画像と癌の深達度、転移および浸潤所見などについて、手術所見および病理所見と画像所見との比較検討を行っている。

IVR領域においては、外傷症例、悪性腫瘍、ASO、深部静脈血栓症、透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い、良好な成績を得ている。大動脈ステントについても症例を積み重ねて、検討している。

MRI領域では、シークエンスについての基礎的検討などを行っている。

CT領域では64列マルチスライスCTを用い、冠動脈CTAについて症例を重ねて検討している。

情報処理およびPACS分野では、システムの改善の努力を続けている。また、今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 岡田 進：腹部・骨盤部炎症性疾患の画像診断 女性生殖器．臨床画像 2009；25（7）：775-782.
- 2) 岡田 進：婦人科領域のMRI：各疾患の診断および最近のトピックス．東京産婦人科医学会誌 2010；42（42）：57-66.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 加藤丈司¹⁾，阿部雅志¹⁾，永井淳史¹⁾，池亀 敏¹⁾，中島健志¹⁾，河原崎昇¹⁾，岡田 進，小南修史²⁾，小林士郎²⁾（¹⁾ 千葉北総病院放射線センター，²⁾ 千葉北総病院脳神経外科）：3D TOF MOTOSA MRAにおける脳血

管描出. 脳神経血管内治療学会 (第25回) (富山), 2009. 11.

- 2) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 桑子智之, 中條秀信, 木島鉄仁, 川俣博志, 岡田 進 (1) 千葉北総病院放射線センター): 椎骨脳底動脈における血管壁の3次元MRA. 日本放射線技術学会 総会学術大会 (第65回) (横浜), 2009. 4.
 - 3) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳司¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 中島健志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾ (1) 千葉北総病院放射線センター, 2) 千葉北総病院脳神経外科): 椎骨脳底動脈におけるFusion 3D MRA. 日本脳ドック学会総会 (第18回) (東京), 2009. 6.
 - 4) 樫村剛司, 木島鉄仁, 中條秀信, 岡田 進, 汲田伸一郎¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 秋山一義¹⁾, 櫻井 実¹⁾, 椎葉真人¹⁾, 佐藤英尊¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 直腸癌術後にFDG-PET/CTで悪性リンパ腫の発症を診断した2例. 日本核医学会学術総会 (第49回) (旭川市), 2009. 10.
 - 5) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井敦史¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 中島健志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進 (1) 千葉北総病院放射線センター): 椎骨脳底動脈における血流動態 Fushion MRA. 日本放射線技術学会 秋期学術大会 (第37回) (岡山), 2009. 10.
 - 6) 阿部雅志¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 理崎貴博¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進, 渡辺 玲²⁾, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾ (1) 千葉北総病院放射線センター, 2) 千葉北総病院脳神経外科): SPGRを用いたAVM・AVFに対する撮像法の検討. 日本脳神経血管内治療学会総会 (第25回) (富山市), 2009. 11.
 - 7) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井敦史¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 河井梨恵¹⁾, 宮坂純基¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 樫村剛司, 古川一博, 中條秀信, 貝津俊英, 木島鉄仁, 川俣博志, 岡田 進 (1) 千葉北総病院放射線センター): 椎骨脳底動脈におけるMR Angiography: 血流動態と血管外観のフュージョン. 千葉MR研究会 (第38回) (千葉市), 2010. 2.
 - 8) 樫村剛司, 岡田 進, 古川一博, 中條秀信, 木島鉄仁, 貝津俊英, 川俣博志, 大秋美治¹⁾ (1) 千葉北総病院病理部): 子宮の脂肪平滑筋腫の検討. 千葉MR研究会 (第38回) (千葉市), 2010. 2.
- (2) 展示発表:
- 1) 貝津俊英: 遺伝子転座を伴う胃MALTリンパ腫の1例. 日本放射線腫瘍学会学術大会 (第22回) (京都), 2009. 9.

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
 - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム.
 - ・CRHがおよぼす毛周期への影響.
 - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
 - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮膚抗原の認識機構の解析.
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
 - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
 - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapyの基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
 - ・skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患(脱毛症, 痒疹など)に対する治療戦略
 - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
 - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
 - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移transferenceや投影同一視, および医師側に生じる逆転移conufertransferenceなどを利用して行う心身医学的治療戦略.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ansai S, Kimura T¹⁾ (1) Division of Dermatology, Department of Pathologic Medicine for Cutaneo-motonic System, Institute of Health Biosciences, University of Tokushima Gradua) : Rippled-pattern sebaceoma : a clinicopathological study. Am J Dermatopathol 2009 ; 31 (4) : 364-366.
- 2) Takeichi S¹⁾, Kubo T¹⁾, Arase S¹⁾, Hashimoto T¹⁾, Ansai S (1) Department of Dermatology, Univarsity of Tokushima Graduate School) : Brunsting-Perry type localized bullous pemphigoid, possibly induced by furosemide administration and sun exposure. Eur J Dermatol 2009 ; 19 (5) : 500-503.
- 3) Mitsuishi T, Nakatabe M¹⁾, Kaneko T²⁾, Ohara K³⁾, Kato T⁴⁾, Iida K⁴⁾, Iwabu Y⁵⁾, Tokunaga K⁵⁾, Sata

- T⁵⁾, Kawana S, Yamada O¹⁾ (1) Medical Research Institute, Tokyo Women's Medical University, 2) Department of Dermatology, The Fraternity Memorial Hospital, 3) Department of Dermatology, Toranomon Hospital, 4) Research Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases, Nippon Medical School, 5) Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases) : Evaluation of telomerase activity in non-genital Bowen's disease. *J Eur Acad Dermatol venereol* 2009 ; 23 (6) : 668-672.
- 4) Omi T, Akimoto M¹⁾, Miyazaki M¹⁾, Kawana S (1) Faculty of Engineering, Kanto Gakuin university) : Iontophoresis-enhanced cutaneous absorption of 5-aminolevulinic acid shortens the incubation period in photodynamic therapy. *Laser Therapy* 2009 ; 18 (3) : 143-149.
 - 5) Kikuchi S¹⁾, Hori J¹⁾, Tsukada R¹⁾, Takahashi H¹⁾, Kato T (1) Ophthalmology) : Limbal nodules associated with Sweet's syndrome. *Jpn J Ophthalmol* 2009 ; 53 (6) : 652-653.
 - 6) Higashi N, Niimi Y, Aoki M, Kawana S : Clinical features of antinuclear antibody-positive patients with atopic dermatitis. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (6) : 300-307.
 - 7) Furukita K¹⁾, Ansai S, Hida Y¹⁾, Arase S¹⁾, Hashimoto T¹⁾ (1) Department of Dermatology, Univercity of Tokushima Graduate School) : A case of epidermolysis bullosa acquisita with unusual clinical features. *Clin Exp Dermatol* 2009 ; 34 (8) : 702-704.
 - 8) Motoki T, Mitsuishi T, Kawana S : Erlotinib-induced skin manifestations. *J Dermatol* 2009 ; 36 (12) : 658-659.
 - 9) Omi T, Sato S¹⁾, Numano K²⁾, Kawana S (1) Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School, 2) Yokohama) : Ultrastructural observations of chemical peeling for skin rejuvenation (ultrastructural changes of the skin due to chemical peeling) . *Journal of Cosmetic and Laser Therapy* 2010 ; 12 : 21-24.
 - 10) 山川岳洋¹⁾, 安齋眞一, 真鍋 求¹⁾, 梅林芳弘¹⁾ (1) 秋田大皮膚科・形成外科) : 被髪頭部に生じた Mucoepidermoid Carcinoma. *皮膚臨床* 2009 ; 51 (4) : 567-570.
 - 11) 尾見徳彌 : レーザーによる小児皮膚科治療の現状. *日本醫事新報* 2009 ; (4439) : 65-68.
 - 12) 堺 則康, 川名誠司 : アナフィラクトイド紫斑における血液凝固型第 XIII 因子値の臨床的意義. *日皮会誌* 2009 ; 119 (8) : 1563-1568.
 - 13) 横井 彩¹⁾, 安齋眞一, 真鍋 求¹⁾, 梅林芳弘¹⁾ (1) 秋田大皮膚科・形成外科) : Superficial acral fibromyoma. *日皮会誌* 2009 ; 119 (8) : 1579-1583.
 - 14) 新見やよい : 粘膜病変の見方 水疱症の粘膜病変. *日皮会誌* 2009 ; 119 (13) : 2915-2919.
 - 15) 広瀬憲志¹⁾, 松立吉弘¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾, 藤山幹子¹⁾, 村田純子¹⁾, 阿部理一郎¹⁾ (1) 徳島大皮膚科) : Toxic Epidermal necrolysis (TEN) 型皮疹を呈した Drug-induced Hypersensitivity Syndrome (DIHS) の1例. *西日本皮膚科* 2009 ; 71 (6) : 584-588.
 - 16) 川名誠司 : 皮膚血管炎における治療のトレンド. *日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌* 2010 ; 4 (1) : 15-22.
 - 17) 川名誠司 : 皮膚血管炎の診療アルゴリズム. *皮膚病診療* 2010 ; 32 (1) : 8-16.
 - 18) 二神綾子, 安齋眞一 : 多形滲出性紅斑. *Jpn J Pediatr Med* 2010 ; 42 (1) : 76-79.
 - 19) 福本大輔¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 広瀬憲志¹⁾, 松立吉弘¹⁾, 浦野芳夫¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾ (1) 徳島大皮膚科) : 薬剤性過敏症症候群 (Drug-induced hypersensitivity syndrome) の臨床病理学的検討. *日皮会誌* 2010 ; 120 (1) : 23-29.
 - 20) 原田勝博¹⁾, 久保宣明¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 内藤史子¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾, 藤本篤夫¹⁾, 大浦 一¹⁾ (1) 徳島大皮膚科) : ベグインターフェロンの皮下注射部に生じた皮膚潰瘍. *皮膚臨床* 2010 ; 52 (1) : 111-114.
 - 21) 井上奈津子¹⁾, 久保宣明¹⁾, 福本大輔¹⁾, 山本忠正¹⁾, 安齋眞一, 山崎雅英¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾ (1) 徳島大皮膚科) :

- 片側の指端壊死で発症した混合性統合組織病続発の抗リン脂質抗体症候群. 皮膚臨床 2010 ; 52 (1) : 67-70.
- 22) 山本忠正¹⁾, 久保宣明¹⁾, 松立吉弘¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾, 奥村博信¹⁾ (徳島大皮膚科) : 色素性痒疹様皮膚疹で発症した成人Still病の1例. 皮膚臨床 2010 ; 51 (6) : 793-797.
- 23) 大島三佳¹⁾, 町田未央¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾ (徳島大皮膚科) : 片側腋窩に生じた乳房外Paget病. 皮膚臨床 2010 ; 52 (2) : 264-265.
- 24) 原田勝博¹⁾, 飛田泰斗史¹⁾, 久保宣明¹⁾, 安齋眞一, 荒瀬誠治¹⁾, 郷司 彩¹⁾, 東田好広¹⁾, 森 健治¹⁾ (徳島大皮膚科) : 滑脳症を伴ったHypomelanosis of Itoの1例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (3) : 429-431.
- (2) 総説 :
- 1) 小坂祥子 : 光線力学療法って何? . JADS 2009 ; 2 (1) : 22-26.
- 2) 尾見徳彌, 川名誠司, 沼野香世子¹⁾ (横浜市) : LEDによる光線治療. JADS 2009 ; 2 (1) : 27-30.
- 3) 上野 孝, 尾見徳彌, 川名誠司 : 皮膚科領域における手術療法について. 皮膚と美容 2010 ; 1 : 17-21.
- (3) 研究報告書 :
- 1) Yiliner H, Yamaoka J, Kawana S : effect of epinastine hydrochloride on murine self-scratching behavior after skin-scratching stimulation. Arch Dermatol Res 2010 ; 302 (1) : 19-26.
- 2) 安本美奈子, 下田貴子, 坪内利江子, 川名誠司 : 表在性皮膚腫瘍に対する5-アミノレブリン酸を用いたPhotodynamic Therapyの効果. 西日本皮膚科 2009 ; 71 (2) : 201-205.
- 3) 二神綾子, 青木見佳子, 川名誠司 : 皮膚疾患の臨床診断におけるダーモスコピーの有用性. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (3) : 148-149.
- 4) 下田貴子 : フラッシュランプによる若返り治療. 日本レーザー治療学会誌 2009 ; 8 (2) : 78-83.
- (4) 症例報告 :
- 1) Mitsuishi T, Wakabayashi T, Kawana S : Topical imiquimod associated to a reduction of heel hyperkeratosis for the treatment of recalcitrant mosaic plantar warts. Eur J Dermatol 2009 ; 50 (4) : 268-269.
- 2) Motoki T, Mitsuishi T, Kawana S : Erlotinib-induced skin manifestations. JD 2009 ; 36 (12) : 658-659.
- 3) Ueno T, Futagami A, Mitsuishi T, Niimi Y, Simoda T, Kawana S : Basal cell carcinoma arising on a chronic lymphedematous leg. J Dermatol 2009 ; 36 (12) : 646-648.
- 4) 広瀬憲志¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾, 宇都宮正裕¹⁾, 宮岡由規¹⁾ (徳島大皮膚科) : 妊娠中に発症したSweet病の1例. 皮膚臨床 2009 ; 51 (4) : 509-512.
- 5) 土肥 凌¹⁾, 増井友里¹⁾, 大森香央¹⁾, 三石 剛, 金子健彦¹⁾ (同愛記念病院皮膚科) : 鼠径部bowenoid papulosisの1例. 臨床皮膚 2009 ; 63 (4) : 309-311.
- 6) 山下裕子, 青木見佳子, 片山美玲, 山形健治¹⁾, 川名誠司 (川崎市) : ビメンチン陽性を示した平滑筋母斑の1例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2009 ; 28 (1) : 1-4.
- 7) 西脇 薫, 新見やよい, 橋本 隆¹⁾, 川名誠司 (久留米大皮膚科) : 角層下膿疱症 (SPD) 型のIgA天疱瘡 : 症例報告ならびに治療法についての文献的検討. 皮膚臨床 2009 ; 51 (7) : 895-898.
- 8) 野呂佐知子, 藤本和久, 山西貴仁, 川名誠司 : くるみによるoral allergy syndromeの1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 2009 ; 3 (3) : 170-172.
- 9) 荻田あづさ, 小坂祥子, 新見やよい, 川名誠司 : 眼球メラノーシスを伴う後天性真皮メラノサイトーシスの1例. 西日本皮膚科 2009 ; 71 (4) : 408-411.
- 10) 狩野律子, 義澤雄介, 根井貴仁¹⁾, 近藤麻加²⁾, 伊藤公一³⁾, 川名誠司 (呼吸器内科, 内分泌内科, 東京都) : チアマゾールによる薬剤性ANCA関連血管炎. 皮膚臨床 2009 ; 51 (9) : 1131-1135.
- 11) 小金井宏美, 東 直行, 前田昭太郎¹⁾, 川名誠司 (多摩永山病院病理部) : Palisaded Encapsulated Neuroomaの1例. 皮膚 2009 ; 51 (9) : 1169-1172.
- 12) 三石 剛 : ウイルス性疣贅 : 日常診療に役立つ皮膚科最新情報 患者さんへの説明を求めて. 皮膚臨床

2009 ; 51 (11) : 1607-1612.

- 13) 山下裕子, 青木見佳子, 又吉武光, 本田光芳¹⁾, 新見やよい, 川名誠司 (¹⁾ 横浜市) : テトラサイクリン, ニコチン酸アミドの併用療法が有効であった落葉状天疱瘡の1例. 臨床皮膚科 2009 ; 63 (12) : 917-921.
- 14) 山田勝裕¹⁾, 津田昌明¹⁾, 梅林芳弘¹⁾, 真鍋 求¹⁾, 安齋眞一 (¹⁾ 秋田大皮膚科・形成外科) : 筋強直性ジストロフィーに合併した多発性石灰化上皮腫の1例. 皮膚臨床 2009 ; 51 (12) : 1765-1767.
- 15) 高木佐千代, 天野彰人, 中田朋子, 東 直行, 小鍛冶知子¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 東京都) : 薬剤性無顆粒球症の1例. 皮膚臨床 2010 ; 52 (1) : 105-109.
- 16) 安齋眞一 : CPC clinicopathological conference. Visual dermatology 2010 ; 9 (2) : 192-197.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 新見やよい : 〔分担〕結核疹を疑う皮膚病変. うつる皮膚病最前線 (宮地良樹), 2009 ; pp218-221, メディカルレビュー社.
- 2) 三石 剛 : 〔分担〕忘れてはいけない梅毒の皮膚症状. うつる皮膚病最前線 (宮地良樹), 2009 ; pp236-239, メディカルレビュー社.

- 1) Omi T : 〔自著〕Acne-Treatment and Care. Acne-Treatment and Care, 2009 ; Gabon Medical Book., Inc.
- 2) 川名誠司 : 〔共著〕6. 皮膚アレルギー性血管炎. 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp348-349, 文光堂.
- 3) 川名誠司 : 〔共著〕7. 過敏性血管炎. 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp349-350, 文光堂.
- 4) 川名誠司 : 〔共著〕8. 蕁麻疹様血管炎. 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp350-351, 文光堂.
- 5) 川名誠司 : 〔共著〕9. 急性痘瘡状苔癬状秕糠疹 (muchu-habermann病). 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp352-353, 文光堂.
- 6) 川名誠司 : 〔共著〕10. クリオグロブリン血症による血管炎. 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp353-354, 文光堂.
- 7) 尾見徳彌 : 〔共著〕4. シミと美白剤. 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp240-242, 文光堂.
- 8) 尾見徳彌 : 〔共著〕12. rejuvenation-ケミカルピーリング, filler, Botox[®]. 第2版皮膚疾患診療実践ガイド (宮地良樹・古川福実), 2009 ; pp254-256, 文光堂.
- 9) 三石 剛 : 〔分担〕尖圭コンジローマ. 一冊でわかる性感染症 (本田まりこ・宮地良樹・清水 宏), 2009 ; pp120-123, 文光堂.
- 10) 尾見徳彌 : 〔共著〕20. 脱毛. 美容皮膚科学改定2版 (宮地良樹・松永佳世子・古川福実・宇津木龍一), 2009 ; p225, 南山堂.
- 11) 尾見徳彌 : 〔共著〕44. 多毛症. 美容皮膚科学改定2版 (宮地良樹・松永佳世子・古川福実・宇津木龍一), 2009 ; p635, 南山堂.
- 12) 新見やよい : 〔分担〕皮膚結核. 皮膚感染症のすべて (渡辺晋一), 2009 ; pp163-169, 南江堂.
- 13) 尾見徳彌 : 〔分担〕第2章7 ハイドロキノンの美白効果について教えてください. 薬局で役立つ皮膚科治療薬FAQ (大谷道輝・宮地良樹), 2010 ; pp324-325, メジカルレビュー社.
- 14) 堺 則康, 川名誠司 : 〔分担〕第4章1アナフィラクトイド紫斑ですが日常生活で注意することはありますか？.

薬局で役立つ皮膚科治療薬FAQ (大谷道輝・宮地良樹), 2010 ; pp366-367, メジカルレビュー社.

- 15) 新見やよい: [分担] 外陰部の尖圭コンジローマ. 皮膚科診療カラーアトラス大系「第5巻 感染症 (STD・スピロヘータ/動物/結合組織)」(鈴木啓之・神崎 保), 2010 ; p19, 講談社.
- 16) 三石 剛, 上野 孝: [分担] 外来で短時間で行える手術. 皮膚外科学 (日本皮膚外科学会), 2010 ; pp390-399, 秀潤社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 川名誠司: 皮膚血管炎の新たな展開: 2008年版ガイドラインの評価を含めて. 秋田県皮膚科談話会, 2009. 6.
- 2) 尾見徳彌: 皮膚科, 美容皮膚科, 美容外科: この近さと距離. 東邦デルマ懇話会 (第7回), 2009. 7.

(2) 招待講演:

- 1) Kosaka S: IPL&pigmented lesion in Japanese skin. IMCAS ASIA (Bangkok, Thai Land), 2009. 7.
- 2) 安齋眞一: 日常診療に役立つ汗腺腫瘍と脂線腫瘍の臨床と病理. 東東京皮膚臨床勉強会 (第21回) (東京), 2009. 6.
- 3) 安齋眞一: 皮膚上皮性腫瘍に関する臨床病理学的ないくつかの問題点とトピックス. 皮膚疾患セミナー (東京), 2009. 6.
- 4) 川名誠司: 皮膚血管炎の新たな展開: 2008年版ガイドラインの評価を含めて. 秋田県皮膚科談話会 (秋田), 2009. 6.
- 5) 安齋眞一: 皮膚悪性腫瘍の臨床. 文教皮膚疾患カンファランス (東京), 2009. 7.

(3) 教育講演:

- 1) 新見やよい: 水疱症の粘膜病変. 日皮会総会学術大会 (第108回), 2009. 4.

(4) シンポジウム:

- 1) 小坂祥子, 三好憲雄¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 福井大学腫瘍病理学): ざ瘡に対するALA-PDT: 基礎から臨床まで. 日本光線力学会学術講演会 (第19回), 2009. 7.
- 2) 尾見徳彌: LEDを用いたrejuvenationにおける組織学的, 免疫学的変化とPDT治療. 日本レーザー治療学会 (第20回), 2009. 11.
- 3) 尾見徳彌¹⁾ ⁽¹⁾ 血液内科): シミに対するレーザー・IPL治療: 肝斑は適応? 禁忌?. 日皮会東京支部学術大会 (第73回), 2010. 2.
- 4) 東 直行, 狩野律子, 松下 晃¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 津久井拓²⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器内科): 皮膚症状を契機に食道癌が発見された多形慢性痒疹の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第73回), 2010. 2.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 西脇 薫, 東 直行, 狩野律子, 宮地秀樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 多摩永山病院内科): 急性腎不全をきたしたカルバマゼピンによるdrug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS) の1例. 日皮会総会学術大会 (第108回), 2009. 4.

(6) 一般講演:

- 1) Kosaka S, Miyoshi N¹⁾, Fukunaga Y¹⁾, Akilov O²⁾, Hassan T²⁾, Kawana S⁽¹⁾ University of Fukui, ²⁾ Massachusetts general Hospital, Harvard Medical School, USA): In vivo study of delta-aminolevulinic acid based photodynamic therapy targeting acne in rhino mouse. japanese Dermatological ssoiation and Australasian College of Dermatologists (4th) (Sapporo, japan), 2009. 7.
- 2) Omi T: pulsed dye laser therapy-beyond vascular lesions. IMCAS ASIA (Bangkok, Thai Land), 2009. 7.
- 3) Omi T: Pigmented lesions in Japanese patients. IMCAS ASIA (Bangkok, Thai Land), 2009. 7.

- 4) Osada S, Ohmori S¹⁾, Inamori M¹⁾, Kawana S, Taira M¹⁾ (¹⁾ Graduate School of Science, University of Tokyo) : Progranulin, a secreted tumorigenesis and dementia-related factor, is required for neural crest formation. Meeting of the European Society for Pigment Cell Research (15th) (Meunster, Germany), 2009. 9.
- 5) Omi T, Kawana S : Cambinnation therapy with IPL and a drug delivery method for rejuvenation of the skin. Congress of the European academy of dermatology and Venereology (18th) (Berlin, Germany), 2009. 10.
- 6) Kaga M, Nakamoto Y¹⁾, Yoshii M¹⁾, Nakamura K²⁾, Kawana S (¹⁾ Tokyo Institute Psychiatry, ²⁾ Hamamatsu Universty of School Medicine, psychiatry) : Stress sensitivities in atopic dermatitis patients as examined by the peripheral-type benzodiazepine receptor. Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (34th) (Fukuoka), 2009. 12.
- 7) 堺 則康¹⁾, 渡邊 淳¹⁾, 鈴木由美²⁾, 三橋善比古, 川名誠司, 島田 隆¹⁾, 大木由加志¹⁾ (¹⁾ 遺伝診療科, ²⁾ 東京医大皮膚科) : 成人症例の色素失調症に向けた遺伝カウンセリング. 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第33回), 2009. 4.
- 8) 三石 剛, 池田麻純, 二宮里紗, 秋山美知子, 田村奈渚, 川崎裕史, 若林俊輝, 川名誠司 : 足部に生じた疣贅における炭酸ガスレーザー治療の工夫. 日皮会総会学術大会 (第108回) (福岡), 2009. 4.
- 9) 堺 則康, 渡邊 淳¹⁾, 三橋善比古²⁾, 島田 隆²⁾ (¹⁾ 遺伝診療科, ²⁾ 東京医科大学皮膚科) : 色素失調症の成人例. 日皮会総会学術大会 (第108回) (福岡), 2009. 4.
- 10) 尾見徳彌 : Profusion therapyの概要とその背景. 日皮会総会学術大会 (第108回) (福岡), 2009. 4.
- 11) 菊地伊豆実, 森本健介, 藤本和久¹⁾, 猪口孝一, 野呂佐知子, 川名誠司 (¹⁾ 千葉北総病院血液内科) : 骨髄異形成症候群を合併したSweet病と当初考えたエリテマトーデスの1例. 日皮会総会学術大会 (第108回) (福岡), 2009. 4.
- 12) 青木見佳子, 川名誠司, 新井栄一¹⁾ (¹⁾ 埼玉医科大学病理) : Russel小体の出現を伴った皮膚 marginal zone B-cell lymphomaの1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第25回) (岡山), 2009. 5.
- 13) 二神綾子, 堺 則康, 川名誠司, 田村秀人¹⁾ (¹⁾ 第三内科) : 下腹部の壊死を伴う浸潤性紅斑の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第25回) (岡山), 2009. 5.
- 14) 長田真一, 上野 孝, 新見やよい, 三石 剛, 安齋眞一, 川名誠司 : 鼻部脂線癌の1例. 日皮会東京地方会 (第824回) (東京), 2009. 6.
- 15) 二宮里紗, 野呂佐知子, 池田麻純, 上野 孝, 二神綾子, 安齋眞一, 三石 剛, 川名誠司 : 右拇指爪下に生じた有棘細胞癌の1例. 日皮会東京地方会 (第824回) (東京), 2009. 6.
- 16) 山本三幸, 小坂祥子, 秋谷麻衣¹⁾, 山本 剛¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 集中治療室) : 下腿に潰瘍を伴ったサルコイドーシスの1例. 日皮会東京地方会 (第824回) (東京), 2009. 6.
- 17) 東 直行, 狩野律子, 川名誠司 : 断食療法で悪化したアトピー性皮膚炎の1例. 日皮会東京地方会 (第824回) (東京), 2009. 6.
- 18) 小坂素子, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 : 表皮囊腫構造を伴った伝染性軟属腫の1例. 日皮会東京地方会 (第824回) (東京), 2009. 6.
- 19) 森田 孝, 高田香織, 尾見徳彌, 川名誠司 : 陰茎に生じた慢性膿皮症の1例. 日皮会東京地方会 (第824回) (東京), 2009. 6.
- 20) 東 直行, 秋庭幹生¹⁾, 中山滋章¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 多摩永山病院眼科) : フルオレセインナトリウムによると考えられた薬疹の1例. 日皮会東京地方会 (合同臨床地方会) (第825回) (東京), 2009. 6.
- 21) 秋山美知子, 上野 孝, 野呂佐知子, 川名誠司 : リンパ節シンチ・CT Fusion画像による悪性黒色腫のセンチネルリンパ節同定. 日皮会東京地方会 (合同臨床地方会) (第825回) (東京), 2009. 6.
- 22) 山下裕子, 高田香織, 上野 孝, 竹崎伸一郎, 安齋眞一, 川名誠司 : 壊疽性膿瘡の1例. 日皮会東京地方会 (合同臨床地方会) (第825回) (東京), 2009. 6.

- 23) 又吉武光, 堺 則康, 川名誠司: Henoch-Schönlein purpuraの重要度と血液凝固因子との関連性. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第33回) (千葉), 2009. 7.
- 24) 高山良子, 二神綾子, 川名誠司, 宮田義久¹⁾ (1) 松戸市: 小児に発症したpseudolymphomatous folliculitisの1例. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第33回) (千葉), 2009. 7.
- 25) 秋山美知子, 上野 孝, 野呂佐知子, 川名誠司: リンパ節シンチ・CT fusion画像による悪性黒色腫のセンチネルリンパ節同定. 日皮会東京地方会 (第825回), 2009. 7.
- 26) 山下裕子, 高田香織, 上野 孝, 竹崎伸一郎, 安齋眞一, 川名誠司: 壊疽性膿瘡の1例. 日皮会東京地方会 (第825回), 2009. 7.
- 27) 東 直行, 秋庭幹生¹⁾, 中山滋章¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院眼科: フルオロセインナトリウムによると考えられた薬疹の1例. 日皮会東京地方会 (第825回), 2009. 7.
- 28) 加藤篤衛, 小坂祥子, 下田貴子, 小坂素子, 川名誠司: 癬痕に対するフラクショナルレーザーの効果の検討. 日本美容皮膚科学会学術大会 (第27回) (新潟), 2009. 8.
- 29) 秋本眞喜雄¹⁾, 宮崎道雄¹⁾, 野本真由美²⁾, 前田憲寿³⁾, 尾見徳彌, 西村朋史⁴⁾, 田村 陸⁵⁾ (1) 関東学院大学工学部, ²⁾ 横浜市, ³⁾ 東京工科大学応用生物, ⁴⁾ アトム技研, ⁵⁾ プロコム(株)): 電気穿孔法とイオントフォーレーシスの組み合わせによる美容治療の試み. 日本美容皮膚科学会総会学術大会 (第27回), 2009. 8.
- 30) 堺 則康, 二神綾子, 川名誠司: 小児に発症した肉芽腫性口唇炎の1例. 日皮会東部支部学術大会 (第73回) (甲府), 2009. 9.
- 31) 飛田泰斗史¹⁾, 武市幸子¹⁾, 安齋眞一, 久保宣明¹⁾, 荒瀬誠治¹⁾, 花岡尚賢¹⁾ (1) 徳島大学整形外科: Wemer症候群に発症したMalignant fibrous histiocytoma (MFH) の1例. 日皮会東部支部学術大会 (第73回) (甲府), 2009. 9.
- 32) 高山良子, 二神綾子, 川名誠司: 小児に発症したpseudolymphomatous folliculitisの1例. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 33) 岡崎 静, 高崎真理子, 秋山美知子, 長田真一, 高山良子, 安齋眞一, 川名誠司: 免疫グロブリン大量静注治療が有効であった水疱性類天疱瘡の1例. 日皮会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 34) 二宮里紗, 野呂佐知子, 二神綾子, 安齋眞一, 平井真実¹⁾ (1) 吉川市: 全身に多発した壊疽性膿皮症の1例. 日皮会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 35) 秋山美知子, 上野 孝, 梅澤裕己¹⁾, 川名誠司 (1) 形成外科: フルニエ壊死の1例. 日皮会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 36) 長田真一, 秋山美知子, 高崎真理子, 川名誠司: 多発性脳出血をきたしたChurg-Strauss症候群の1例. 関東皮膚脈管懇話会 (第12回), 2009. 9.
- 37) 中田朋子, 中本百合江¹⁾, 吉井光信¹⁾, 川名誠司 (1) 東京都精神研精神生物研究分野: Peripheral-type benzodiazepine receptor解析による乾癬患者のストレス感受性及びストレス状態の評価. 日本乾癬学会 (第24回), 2009. 9.
- 38) 高崎真理子, 竹崎伸一郎¹⁾, 高山良子¹⁾, 長田真一, 秋山美知子, 岡崎 静, 川名誠司 (1) 東京都精神研精神生物研究分野: 対称性多関節型関節症性乾癬の1例. 日本乾癬学会 (第24回), 2009. 9.
- 39) 本木智輝, 東 直行, 佐々木崇¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院泌尿器科: 肛囲に生じた基底細胞癌の1例. 日皮会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 40) 小金井宏美, 東 直行, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院外科: セツキシマブ (抗ヒトEGFRモノクローナル抗体) による皮膚障害. 日皮会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 41) 山下裕子, 上野 孝, 牧三樹子¹⁾, 安齋眞一, 川名誠司 (1) 川崎市: Apocrine hidradenomaの1例. 日皮会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 42) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 (1) 川崎市: 右肩に生じたspindle cell lipomaの1例. 日皮会東京

- 地方会（第826回），2009. 9.
- 43) 安齋眞一：上皮性皮膚腫瘍における腫瘍細胞の分化をどう診断するか．日皮会西部支部学術大会（第61回）（別府），2009. 10.
 - 44) 長田真一：経皮的血管形成術が奏功した皮膚型結節性多発動脈炎の1例．日皮会西部支部学術大会（第61回）（別府），2009. 10.
 - 45) 稲葉基之，堺 則康，川名誠司：血栓性静脈炎の1例．日皮会東京地方会（第827回），2009. 11.
 - 46) 田村奈渚，小坂祥子，池田麻純，二宮里紗，野呂佐知子，川名誠司：糖尿病に合併した癰の1例．日皮会東京地方会（第827回），2009. 11.
 - 47) 熊谷聖代，永野昌俊¹⁾，鈴木秀典¹⁾，川名誠司（¹⁾薬理学教室）：ストレス記憶が及ぼす皮膚神経：マスト細胞回路への影響．日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第39回），2009. 11.
 - 48) 西脇 薫，狩野律子，東 直行，川名誠司：マイコプラズマ感染による多形滲出性紅斑の1例．日皮会東京地方会（第827回），2009. 11.
 - 49) 東 直行，荻田あづさ，森山達哉¹⁾，川名誠司（¹⁾近畿大学農学部）：豆腐アレルギーの2例．日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会（第39回），2009. 11.
 - 50) 上野 孝，小坂素子，高崎真理子，森田 孝，池田麻純，李 民，安齋眞一，川名誠司：Clear cell acanthomaの1例．日皮会東京地方会（第827回），2009. 11.
 - 51) 小坂素子，上野 孝，安齋眞一，川名誠司：足底に生じた単純性肥満細胞腫の1例．日皮会東京地方会（第827回），2009. 11.
 - 52) 池田麻純，高田香織，安齋眞一，川名誠司：手背に生じたりウマチ結節の1例．日皮会東京地方会（第827回），2009. 11.
 - 53) 山本三幸，野呂佐知子，小坂祥子，安齋眞一，川名誠司：光線力学療法後の日光角化症より有棘細胞癌が生じた1例．日皮会東京地方会（第828回），2009. 12.
 - 54) 伊澤有香，二神綾子，高崎真理子，小坂素子，上野 孝，川名誠司：右耳垂部に生じた悪性黒色腫の1例．日皮会東京地方会（第828回），2009. 12.
 - 55) 上野 孝，李 民，小坂素子，高崎真理子，森田 孝，池田麻純，安齋眞一，川名誠司：小児に生じた臍鞘巨細胞腫の1例．日皮会東京地方会（第828回），2009. 12.
 - 56) 稲葉基之，三石 剛，山本三幸，川名誠司：麻疹との重複感染が疑われたヒトパルボウイルス（HPV）B19感染症の3例．日皮会東京地方会（第829回），2010. 1.
 - 57) 亦野蓉子，二神綾子，安齋眞一，川名誠司：ステロイドパルス療法が有効であった特発性後天性無汗症の1例．日皮会東京地方会（第829回），2010. 1.
 - 58) 岡崎 静，小坂祥子，安齋眞一，川名誠司：弾性線維性仮性黄色腫（Pseudoxanthoma elasticum：PXE）の1例．日皮会東京地方会（第829回），2010. 1.
 - 59) 長田真一，高崎真理子，秋山美知子，川名誠司：多発性脳出血をきたしたChurg-Strauss症候群の1例．皮膚脈管膠原病研究会（第33回），2010. 1.
 - 60) 上野 孝，高崎真理子，小坂素子，池田麻純，李 民，又吉武光，安齋眞一，川名誠司：足底に生じたextraskeletal osteochondromaの1例．日皮会東京地方会（第829回），2010. 1.
 - 61) 高崎真理子，上野 孝，三石 剛，川名誠司：HPVが検出された爪部Bowen病の1例．日皮会東京地方会（第829回），2010. 1.
 - 62) 二神綾子，安齋眞一，岡崎 静，秋山美知子，高山良子，長田真一，高崎真理子，川名誠司，田村秀人¹⁾（¹⁾血液内科）：CD8陽性mycosis fungoidesの1例．日皮会東京支部学術大会（第73回），2010. 2.
 - 63) 田村奈渚，上野 孝，川名誠司：陰部に生じた有茎性悪性黒色腫の1例．日皮会東京支部学術大会（第73回），2010. 2.

- 64) 紺野亜希子, 加藤篤衛, 高崎真理子, 上野 孝, 野呂佐知子, 安齋眞一, 川名誠司: 肺転移及びリンパ節転移を来した巨大基底細胞癌の1例. 日皮会東京支部学術大会 (第73回), 2010. 2.
- 65) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: 頭部に生じたMeningothelial Hamartomaの1例. 日皮会東京支部学術大会 (第73回), 2010. 2.
- 66) 川崎裕史, 藤本和久, 安齋眞一, 川名誠司: 頭部のInfundibulocystic Basal Cell Carcinomaの1例. 日皮会東京支部学術大会 (第73回), 2010. 2.
- (7) 展示:
- 1) Osada S: Progranulin, a secreted tumorigenesis and dementia-related factor, is required for melanocyte development. Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (Fukuoka), 2009. 12.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断, 研究
2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用
3. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作抗原の検索
4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与: gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒

研究業績

論 文

- (1) 総説:
- 1) 上野 孝, 尾見徳弥¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科, ²⁾ 付属病院皮膚科): 皮膚科領域における手術療法について. 皮膚と美容 2010; 42 (1): 17-21.
- (2) 症例報告:
- 1) Ueno T, Futagami A¹⁾, Mitsuishi T¹⁾, Niimi Y¹⁾, Shimoda T¹⁾, Kawana S¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): Basal cell carcinoma arising on a chronic lymphedematous leg. J Dermatol 2009; 36 (12): 646-648.
 - 2) 山下裕子, 青木見佳子, 片山美玲, 山形健治¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 川崎市 山形皮膚科クリニック, ²⁾ 付属病院皮膚科): ビメンチン陽性を示した平滑筋母斑の1例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2009; 28 (1): 1-4.
 - 3) 池田麻純, 小坂素子, 青木見佳子: BCG接種後に生じた非環状型汎発性環状肉芽腫の1例. 皮膚科の臨床 2009; 51 (6): 759-762.
 - 4) 山下裕子, 青木見佳子, 又吉武光, 本田光芳¹⁾, 新見やよい²⁾, 川名誠司²⁾ (1) ヒロセクリニック, ²⁾ 付属病院皮膚科): テトラサイクリン, ニコチン酸アミドの併用療法が有効であった落葉状天疱瘡の1例. 臨床皮膚科 2009; 63 (12): 917-921.

著 書

- 1) 三石 剛¹⁾, 上野 孝 (1) 付属病院皮膚科): [共著] 外来で短時間にできる手術. 皮膚外科学 (日本皮膚科学会監修), 2010; pp390-399, 学研メディカル秀潤社.

学会発表

- (1) 一般講演:
- 1) 山下裕子, 上野 孝, 牧三樹子¹⁾, 安齋眞一²⁾, 川名誠司²⁾ (1) 川崎市, ²⁾ 付属病院皮膚科): Apocrine

- hidradenoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
- 2) 高田香織, 二神綾子¹⁾, 高山良子¹⁾, 義澤雄介¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): Castleman 病の1例. 日本皮膚科学会総会 (第108回), 2009. 4.
 - 3) 三石 剛¹⁾, 池田麻純, 二宮里紗¹⁾, 秋山美知子¹⁾, 田村奈緒¹⁾, 川崎裕史¹⁾, 若林俊輝¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 足部に生じた疣贅における炭酸ガスレーザー治療の工夫. 日本皮膚科学会総会 (第108回), 2009. 4.
 - 4) 小坂素子, 上野 孝, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 表皮嚢腫構造を伴った伝染性軟属腫の1例. 日本皮膚科学会第824回東京地方会, 2009. 6.
 - 5) 二宮里紗¹⁾, 野呂佐知子¹⁾, 池田麻純, 上野 孝, 二神綾子¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 三石 剛¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 右母指爪下に生じた有棘細胞癌の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第824回), 2009. 6.
 - 6) 長田真一¹⁾, 上野 孝, 新見やよい¹⁾, 三石 剛¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 鼻部脂腺癌の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第824回), 2009. 6.
 - 7) 李 民, 高田香織, 上野 孝: 前胸部腫脹を伴ったムンプスの1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第824回), 2009. 6.
 - 8) 森田 孝, 高田香織, 上野 孝, 尾見徳弥¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 陰茎に生じた慢性膿皮症の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第824回), 2009. 6.
 - 9) 秋山美知子¹⁾, 上野 孝, 野呂佐知子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): リンパ節シンチ・CTFusion 画像による悪性黒色腫のセンチネルリンパ節同定. 日本皮膚科学会東京地方会 (第825回), 2009. 7.
 - 10) 山下裕子, 高田香織, 上野 孝, 竹崎伸一郎¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 壊疽性膿瘍の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第825回), 2009. 7.
 - 11) 又吉武光, 堺 則康¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): Henoch-Schoenlein purpura の重症度と血液凝固因子第XIII因子との関連性. 日本小児皮膚科学会 (第33回), 2009. 7.
 - 12) 加藤篤衛¹⁾, 小坂祥子¹⁾, 下田貴子¹⁾, 小坂素子, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 癍痕に対するフラクショナルレーザーの効果の検討. 日本美容皮膚科学会総会 (第27回), 2009. 8.
 - 13) 高崎真理子, 竹崎伸一郎¹⁾, 高山良子¹⁾, 長田真一¹⁾, 秋山美知子¹⁾, 岡崎 静¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 対称性多関節炎型関節症性乾癬の1例. 日本乾癬学会, 2009. 9.
 - 14) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 右肩に生じたSpindle cell Lipoma の1例. 日本皮膚科学会第826回東京地方会, 2009. 9.
 - 15) 秋山美知子, 上野 孝, 梅澤裕己¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 付属病院形成外科): フルニエ壊疽の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
 - 16) 岡崎 静¹⁾, 高崎真理子, 秋山美知子¹⁾, 長田真一¹⁾, 高山良子¹⁾, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 免疫グロブリン大量静注療法が有効であった水疱性類天疱瘡の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
 - 17) 森田 孝, 上野 孝, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 陰茎に生じたQueyrat 紅色肥厚症の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第826回), 2009. 9.
 - 18) 小坂素子, 上野 孝, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 足底に生じた単発性肥満細胞腫の1例. 日本皮膚科学会第827回東京地方会, 2009. 11.
 - 19) 田村奈緒¹⁾, 小坂祥子¹⁾, 池田麻純, 二宮里紗¹⁾, 野呂佐知子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 糖尿病に合併した癰の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第827回), 2009. 11.
 - 20) 上野 孝, 小坂素子, 高崎真理子, 森田 孝, 池田麻純, 李 民, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): Clear Cell acanthoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第827回), 2009. 11.
 - 21) 池田麻純, 高田香織, 安齋眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科): 手脊に生じたりウマチ結節の1例. 日本

- 皮膚科学会東京地方会（第827回），2009. 11.
- 22) 李 民, 上野 孝, 安斎眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院)：血漿交換療法が奏功した水泡性類天疱瘡の1例. 日本皮膚科学会第828回東京地方会, 2009. 12.
- 23) 伊澤有香¹⁾, 二神綾子¹⁾, 岡崎 静¹⁾, 秋山美知子¹⁾, 高山良子¹⁾, 高崎真理子, 小坂素子, 上野 孝, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科)：右耳朶部に生じた悪性黒色腫の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第828回），2009. 12.
- 24) 上野 孝, 李 民, 小坂素子, 高崎真理子, 森田 孝, 池田麻純, 安斎眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科)：小児に生じた髄鞘巨細胞腫の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第828回），2009. 12.
- 25) 上野 孝, 高崎真理子, 小坂素子, 池田麻純, 李 民, 又吉武光¹⁾, 安斎眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科)：足底に生じたextraskletal osteochondromaの1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第829回），2010. 1.
- 26) 高崎真理子, 上野 孝, 三石 剛¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科)：HPVが検出された爪部Bowen病の1例. 日本皮膚科学会東京地方会（第829回），2010. 1.
- 27) 李 民, 上野 孝, 安斎眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院)：頭部に生じたMeningothelial Hamartomaの1例. 第73回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2010. 2.
- 28) 二神綾子¹⁾, 安斎眞一¹⁾, 岡崎 静¹⁾, 秋山美知子¹⁾, 高山良子¹⁾, 長田眞一¹⁾, 高崎真理子, 川名誠司¹⁾, 田村秀人²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 付属病院血液内科)：CD8陽性mycosis fungoidesの1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会（第73回），2010. 2.
- 29) 紺野亜希子¹⁾, 加藤篤衛¹⁾, 高崎真理子, 上野 孝, 野呂佐知子¹⁾, 安斎眞一¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科)：肺転移及びリンパ節転移を来した巨大基底細胞癌の1例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会（第73回），2010. 2.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略
2. アトピー性皮膚炎の出生時, 出生前要因の検討
3. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗DFS抗体の発現解析
4. 乳児期湿疹の統計的観察
5. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析
6. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー：皮膚テストによる原因物質の確認, 血清中抗原の解析, DLST検査
7. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Higashi N¹⁾, Niimi Y²⁾, Aoki M²⁾, Kawana S²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科)：Clinical features of antinuclear antibody-positive patients with atopic dermatitis. J Nippon Med Sch 2009；76：300-307.
- 2) 高木佐千代¹⁾, 天野彰人¹⁾, 中田朋子¹⁾, 東 直行¹⁾, 小鍛治知子²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 久我山病院皮膚科, 3) 付属病院皮膚科)：薬剤性無顆粒球症の1例. 皮膚臨床 2010；52(1)：105-109.

(2) 症例報告：

- 1) 西脇 薫^{1,2)}, 新見やよい²⁾, 橋本 隆³⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科, 3) 久留米大学皮膚科)：角層下膿疱症 (SPD) 型のIgA天疱瘡：症例報告ならびに治療法についての文献的考察. 皮膚臨床 2009；51 (7)：895-898.
- 2) 小金井宏美¹⁾, 東 直行¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 付属病院皮膚科)：Palisaded Encapsulated Neuromaの1例. 皮膚臨床 2009；51 (9)：1169-1172.
- 3) 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：チョコレート中の微量金属による全身型金属アレルギー. Visual Dermatology 2009；18 (9)：958-959.

学会発表

[追加分]

追加分教育講演：

- 1) 東 直行¹⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科)：褥瘡と間違えやすい皮膚病変. 日本褥瘡学会 関東甲信越地方会 東京支部フォーラム (第6回), 2009. 3.

(1) パネルディスカッション：

- 1) 西脇 薫¹⁾, 東 直行¹⁾, 狩野律子¹⁾, 宮地秀樹²⁾, 新 博次²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 多摩永山病院内科, 3) 付属病院皮膚科)：急性腎不全をきたしたカルバマゼピンによる drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS) の1例. 日本皮膚科学会総会 (第108回), 2009. 4.

(2) 一般講演：

- 1) 東 直行¹⁾, 狩野律子¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科)：断食療法で悪化したアトピー性皮膚炎の1例. 日本皮膚科学会第824回東京地方会, 2009. 6.
- 2) 東 直行¹⁾, 秋庭幹生²⁾, 中山滋章²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 多摩永山病院眼科, 3) 付属病院皮膚科)：フルオレセインナトリウムによると考えられた薬疹の1例. 日本皮膚科学会第825回東京地方会, 2009. 7.
- 3) 本木智輝¹⁾, 東 直行¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科)：肛囲に発生した基底細胞癌の1例. 日本皮膚科学会第826回東京地方会, 2009. 9.
- 4) 小金井宏美¹⁾, 東 直行¹⁾, 鈴木成治²⁾, 丸山 弘²⁾, 笹島耕二²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 多摩永山病院外科, 3) 付属病院皮膚科)：セツキシマブ (抗ヒトEGFRモノクローナル抗体) による皮膚障害. 日本皮膚科学会第826回東京地方会, 2009. 9.
- 5) 中田朋子^{1,3)}, 中本百合江²⁾, 吉井光信²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 東京都精神医学総合研究所, 3) 付属病院皮膚科)：Peripheral-type benzodiazepine receptor解析による乾癬患者のストレス感受性およびストレス状態の評価. 日本乾癬学会 (第24回), 2009. 9.
- 6) 東 直行¹⁾, 秋庭幹生²⁾, 中山滋章²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 多摩永山病院眼科, 3) 付属病院皮膚科)：フルオレセインナトリウムによると考えられた薬疹の1例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 (第39回) (京都), 2009. 11.
- 7) 東 直行¹⁾, 荻田あづさ¹⁾, 森山達哉²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 近畿大学農学部, 3) 付属病院皮膚科)：豆腐アレルギーの2例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 (第39回) (京都), 2009. 11.
- 8) 西脇 薫¹⁾, 東 直行¹⁾, 狩野律子¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, 2) 付属病院皮膚科)：マイコプラズマ感染による多形滲出性紅斑の1例. 日皮会第827回東京地方会, 2009. 11.
- 9) 東 直行¹⁾, 狩野律子¹⁾, 松下 晃²⁾, 松谷 毅²⁾, 笹島耕二²⁾, 津久井拓³⁾, 川名誠司⁴⁾ (1) 多摩永山病院皮

膚科，²⁾ 多摩永山病院外科，³⁾ 多摩永山病院消化器内科，⁴⁾ 付属病院皮膚科)：皮膚症状を契機に食道癌が発見された多形慢性痒疹の1例。日皮会東京支部（第73回），2010. 2.

[千葉北総病院皮膚科]

研究概要

- 1) 蕁麻疹，接触性皮膚炎，食物アレルギー：パッチテスト，プリックテスト，チャレンジテスト，光パッチテストによる原因物質の確認と，交叉感作，抗原決定基の検索，アレルギーカードの発行.
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断，形成外科学的治療・再建術および病理学的研究：特に電顕，酵素抗体法を用いた研究.
- 3) 動物性皮膚疾患：疥癬，Creeping disease等に対する新しい内服治療法の研究.
- 4) 褥瘡，難治性潰瘍：新しい素材，薬剤を用いた保存的，外科的治療，および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究.
- 5) 皮膚真菌症：白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究，白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究.
- 6) 水疱症：尋常性天疱瘡，水疱性類天疱瘡に対する，血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究.

研究業績

論文

(1) 症例報告：

- 1) 野呂佐知子¹⁾，山西貴仁¹⁾，藤本和久，川名誠司¹⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科)：くるみによる Oral Allergy Syndrome の1例。日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎会誌 2009；3 (3)：170-173.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 菊地伊豆実，森本健介，藤本和久，猪口孝一¹⁾，野呂佐知子²⁾，川名誠司²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院血液内科，²⁾ 付属病院皮膚科)：骨髄異形成症候群を合併した Sweet 病と当初考えたエリテマトーデスの1例。日本皮膚科学会総会（第108回），2009. 4.

(2) 一般講演：

- 1) 川崎裕史，藤本和久，安齋眞一¹⁾，川名誠司¹⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科)：頭部の Infundibulocystic Basal Cell Carcinoma の1例。日本皮膚科学会東京支部学術大会（第73回），2010. 2.

9. 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）

〔付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科〕

研究概要

教室では，消化器外科・一般外科・乳腺外科・移植外科学を中心に臨床医学に直結し，しかも将来につながる研究を目的とし，先端医療を含めた臨床的，基礎的研究を行っている．具体的には，外科腫瘍学を基本に，消化器全般（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵・脾），乳腺，移植に関して，外科的治療を中心とした治療成績の向上のための臨床および基礎的研究を行っている．

1. 鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡）を用いた低侵襲手術を導入し，基礎的技術習熟のためのトレーニングシステムの構築およびその実践．

2. 生体肝移植における過小グラフト問題に対して，小腸同時切除が過小グラフトのoutflow blockを解決可能かどうかを実験動物（イヌ）を用いて証明．

3. 門脈圧亢進症による食道，胃静脈瘤の病態生理の解明および新しい治療法の開発．

4. 肝不全に対する高圧酸素療法の有用性を証明すべく，障害肝ラットへの高圧酸素療法の効果を病理組織学的に検索．

5. 腹膜炎，イレウス，急性膵炎などを中心とする急性腹症，腹部救急疾患の病態，とくに細菌性ショック発来機構の解明ならびにイレウスの新しい診断法の確立．

6. 創傷治癒，外科侵襲の基礎及び臨床研究さらには外科感染症対策に関してエビデンスをもとにした治療法・予防法の実践．

7. 乳癌，肝癌および膵癌のFNA細胞診断の向上に努めるべく，手術標本からのFNA細胞診断とともに分子生物学的手法を用いた腫瘍マーカーの同定，定量から組織診断の鑑別への応用．

8. 悪性腫瘍に関して，外科的治療を中心として治療成績の向上，基礎的研究として増殖因子の役割，胃十二指腸疾患におけるヘリコバクテリヤ・ピロリの役割，胃癌発生における遺伝子多形性の意義，肝癌発生の分子生物学的解明，膵癌転移機構の解明，大腸癌発生における細菌性因子の関与の研究など，スタッフの指導のもとに，それぞれのテーマに対し教員が配属されて積極的に研究が進められている．

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Sakurazawa N, Kato S, Miyashita M, Kiyama T, Fujita I, Kanno H, Tajiri T, Uchida E : A novel device, the Anglerfish countertractor, is easy and safe to use in patients undergoing endoscopic submucosal dissection of gastric mucosal cancer. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (3) : 122-123.

追加分症例報告：

- 1) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Okawa K, Katsuta M, Tajiri T : Argon Plasma Coagulation for a Patient with Locoregional Failure after Definitive Chemoradiotherapy for Esophageal Carcinoma. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 280-283.
- 2) Nomura T, Miyashita M, Fujita I, Suzuki H, Furukawa K, Tajiri T : Seromuscular Tear of the Sigmoid Colon in the Absence of Trauma. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 289-292.
- 3) Aimoto T, Uchida E, Fujita I, Nakamura Y, Tsuyuguchi T¹⁾, Tajiri T : Early Surgical Management for

Periampullary Retroperitoneal Perforation Caused by Endoscopic Sphincterotomy. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (5) : 298-301.

- 4) 馬越通信, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 峯田 章, 川野陽一, 柿沼大輔, 神田知洋, 田尻 孝 : B-RTO と部分脾動脈塞栓術の併施で改善した門脈奇静脈シャントによる高アンモニア血症の1例. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2008 ; 14 (2) : 148-151.
- 5) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松田明久¹⁾, 横山 正¹⁾, 片山博徳²⁾, 前田昭太郎²⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院外科, ²⁾ 同 病理) : 潰瘍性大腸炎に合併した直腸癌術後肝転移・局所再発に対し modified-FOLFOX6 と FOLFIRI の交代療法 (modified-FIREFOX 療法) が奏効した1例. 癌の臨床 2009 ; 55 (3) : 215-220.

(1) 原著 :

- 1) Roeung U, Uchida E : Clinical Training in Laparoscopic and Endoscopic Surgery. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (2) : 117-118.
- 2) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Hirakata A, Kawano Y, Kakinuma D, Mineta S, Tajiri T : Simultaneous Evaluation of Portal Hemodynamics and Liver Function by Scintiphotosplenoportography in Pediatric Recipients of Living-donor Liver Transplants. Hepato-Gastroenterol 2009 ; 56 (91-92) : 819-823.
- 3) Seo T¹⁾, Tatsuguchi A^{1, 2)}, Shinji S³⁾, Yonezawa M¹⁾, Mitsui K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Fujimori S¹⁾, Gudis K¹⁾, Fukuda Y²⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, ³⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Department of Surgery I, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Microsomal prostaglandin E synthase protein levels correlate with prognosis in colorectal cancer patients. Virchows Archiv 2009 ; 454 (6) : 667-676.
- 4) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Ishikawa Y, Kanda T, Bando K, Akimaru K, Tajiri T : Silicon drain with channels along the sides for internal biliary stenting of hepaticojunostomy in hepatic hilar malignancies. J Gastroenterol Hepatol 2009 ; 24 (5) : 752-756.
- 5) Matsuda A¹⁾, Sasajima K¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Maruyama H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Suzuki S¹⁾, Matsutani T¹⁾, Sugiura A¹⁾, Yanagi K¹⁾, Matsushita A¹⁾, Arai H¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Laparoscopic treatment for torsion of the gallbladder in a 7-year-old female. JSLS 2009 ; 13 (3) : 441-444.
- 6) Kawahigashi Y, Mishima T¹⁾, Mizuguchi Y, Arima Y, Yokomuro S, Kanda T, Ishibashi O¹⁾, Yoshida H, Tajiri T, Takizawa T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Molecular Medicine & Anatomy, Nippon Medical School) : MicroRNA Profiling of Human Intrahepatic Cholangiocarcinoma Cell Lines Reveals Biliary Epithelial Cell-specific MicroRNAs. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (4) : 188-197.
- 7) Takahashi K, Miyashita M, Makino H, Akagi I, Orita H¹⁾, Hagiwara N, Nomura T, Gabrielson E²⁾, Tajiri T (¹⁾ Department of Surgery, Juntendo University, ²⁾ Department of Pathology, Johns Hopkins Medical Institutions) : Expression of Akt and Mdm2 in human esophageal squamous cell carcinoma. Exp Mol Pathol 2009 ; 87 (1) : 42-47.
- 8) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Mizuguchi Y, Kawano Y, Sasaki J, Nakamura Y, Aimoto T, Tajiri T : Placement of percutaneous transhepatic biliary stent using a silicone drain with channels. World J Gastroenterol 2009 ; 15 (33) : 4201-4203.
- 9) Hara K, Yoshida H, Taniai N, Mineta S, Kawano Y, Uchida E : Successful Management of a Symptomatic Splenic Artery Aneurysm with Transcatheter Embolization. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (6) : 308-312.

- 10) Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Mineta S, Kawano Y, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda T, Tajiri T : Interactions Between Anti-Ulcer Drugs and Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs in Cirrhotic Patients with Bleeding Esophagogastric Varices. *Hepato-Gastroenterol* 2009 ; 56 : 1366-1370.
- 11) Mizutani S¹⁾, Miyato Y¹⁾, Shidara Y¹⁾, Asoh S¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T, Ohta S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Kawasaki) : Mutations in the mitochondrial genome confer resistance of cancer cells to anticancer drugs. *Cancer Science* 2009 ; 100 (9) : 1680-1687.
- 12) Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Tajiri T : New trends in surgical treatment for portal hypertension. *Hepatol Res* 2009 ; 39 (10) : 1044-1051.
- 13) Kanno H, Kiyama T, Fujita I, Tani A, Kato S, Tajiri T, Barbul A¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Sinai Hospital of Baltimore and the Johns Hopkins University) : Laparoscopic Surgery Improves Blood Glucose Homeostasis and Insulin Resistance Following Distal Gastrectomy for Cancer. *JPEN J Parenter Enteral Nutr* 2009 ; 33 (6) : 686-690.
- 14) Sakurazawa N¹⁾, Kato S¹⁾, Miyashita M¹⁾, Kiyama T¹⁾, Fujita I¹⁾, Yamashita N²⁾, Saitou Y²⁾, Tajiri T¹⁾, Uchida E¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Gastroenterology, Tsuboi Hospital) : An innovative technique for endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer using a new spring device. *Endoscopy* 2009 ; 41 (11) : 929-933.
- 15) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Matsumoto S, Tajiri T : Evolution and challenge in endoscopic HBP surgery : Laparoscopic pancreatic resection : some benefits of evolving surgical techniques. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2009 ; 16 (9) : 741-748.
- 16) Matsuda A¹⁾, Sasajima K¹⁾, Matsutani T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Suzuki S¹⁾, Suzuki H²⁾, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Aggressive undifferentiated colon carcinoma producing granulocyte-colony stimulating factor : report of a case. *Surgery Today* 2009 ; 39 (11) : 990-993.
- 17) Matsuda A¹⁾, Matsutani T¹⁾, Sasajima K¹⁾, Furukawa K, Tajiri T, Tamura K²⁾, Kogo H²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences) : Preoperative Plasma Adiponectin level is a Risk Factor for Postoperative Infection Following Colorectal Cancer Surgery. *J of Surg Research* 2009 ; 157 (2) : 227-234.
- 18) Matsuda A¹⁾, Takahashi K²⁾, Yamaguchi T²⁾, Matsumoto H²⁾, Miyamoto H²⁾, Kawakami M²⁾, Kawachi H³⁾, Suzuki H, Furukawa K, Tajiri T, Mori T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ³⁾ Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital) : HPV infection in an HIV-positive patient with primary squamous cell carcinoma of rectum. *Int J Clin Oncol* 2009 ; 14 (6) : 551-554.
- 19) Kawano Y, Mizuta K¹⁾, Sugawara Y²⁾, Egami S¹⁾, Hisikawa S¹⁾, Sanada Y¹⁾, Fujiwara T³⁾, Sakuma Y³⁾, Hyodo M³⁾, Yoshida Y⁴⁾, Yasuda Y³⁾, Sugimoto E⁴⁾, Kawarasaki H¹⁾ (¹⁾ Department of Transplant Surgery, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University , ²⁾ Artificial Organ and Transplantation Division, Department of Surgery, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, ³⁾ Department of Surgery, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University , ⁴⁾ Department of Radiology, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University) : Diagnosis and treatment of pediatric patients with late-onset portal vein stenosis after living donor liver transplantation . *Transplant International* 2009 ; 22 (12) : 1151-1158.

- 20) Matsushita A¹⁾, Sasajima K¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Nakamura Y, Aimoto T, Uchida E¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Neuropilin-1, as a New Therapeutic Target in Human Pancreatic Cancer. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 53-55.
- 21) Cho K, Ishiwata T¹⁾, Naito Z¹⁾, Uchida E¹⁾ Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : New Therapeutic Strategy for Intractable Pancreatic Cancer and Its Fundamental Research. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 62-63.
- 22) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二 : 標準的腹腔鏡下膵尾側切除術【マスターしておきたい標準的内視鏡外科手術】. 外科治療 2009 ; 100 (増刊) : 580-585.
- 23) 鈴木英之, 田尻 孝 : 腸 イレウス【イラストでカンタン理解! 消化器外科疾患30の病態生理とケア】. 消化器外科Nursing 2009 ; 春季増刊 (春季増刊) : 128-135.
- 24) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 平方敦史, 川野陽一, 神田知洋, 真々田裕宏, 田尻 孝 : 特集 : 急性肝不全における内科的治療と肝移植の進歩 : 劇症肝不全症例に対する肝移植を考慮した集中治療. 日本腹部救急医学雑誌 2009 ; 29 (4) : 623-627.
- 25) 松田明久¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 田村和広²⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 東京薬科大学薬学部 内分泌分子薬理学) : 脂肪細胞機能からみた術後感染症発症予測とは?. 肥満と糖尿病 2009 ; 18 (3) : 339-341.
- 26) 松野邦彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 田中宣威¹⁾, 琴寄誠²⁾, 田尻 孝, 宮下正夫, 内田英二¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 同 内科) : 食道癌術後の胃管胸腔ろうに対し内視鏡下クリッピングによる閉鎖が有用であった1例. Progress of Digestive Endoscopy 2009 ; 75 (1) : 95-95.
- 27) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科) : 消化器癌患者における癌疼痛治療に対するオキシコドン導入パスの有用性. 日消外会誌 2009 ; 42 (8) : 1448-1453.
- 28) 牧野浩司, 宮下正夫, 大川敬一, 野村 務, 赤城一郎¹⁾, 内田英二, 堀場光二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 川見典之²⁾, 岩切勝彦²⁾, 琴寄 誠³⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 付属病院 第三内科, ³⁾ 千葉北総病院 内科) : CDGPを用いた食道癌の根治的CRTの成績. 日消誌 2009 ; 106 (臨増大会) : A756-A756.
- 29) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 西川晃司²⁾, 山田光輝²⁾, 笹島耕二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 麻酔科) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (4) : 211-214.
- 30) 川野陽一, 水田耕一¹⁾, 江上 聡¹⁾, 林田 真¹⁾, 眞田幸弘¹⁾, 俵藤正信²⁾, 安田是和²⁾, 山本博徳³⁾, 小林英司⁴⁾, 河原崎秀雄¹⁾ (自治医科大学 移植外科, ²⁾ 自治医科大学 外科, ³⁾ 自治医科大学 消化器内科, ⁴⁾ 自治医科大学 分子病態治療研究センター 臓器置換研究部) : 小児生体肝移植後胆管合併症と治療. 移植 2009 ; 44 (5) : 438-445.
- 31) 松谷 毅¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科) : 難治性腸管皮膚瘻に対し経皮的腸管ドレナージが奏効した1例. 日臨外会誌 2009 ; 70 (11) : 3338-3342.
- 32) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科) : Barret 食道口側端に発生した胸部中部食道腺癌の1例. 日臨外会誌 2010 ; 71 (1) : 72-76.
- 33) 川野陽一, 鈴木英之, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 佐々木順平, 堀田正啓, 内藤善哉, 田尻 孝 : 上行結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術後に発症した腹腔内デスマイド腫瘍の1切除例. 日消外会誌 2010 ; 43 (1) : 95-100.
- 34) 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 青笹季文¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 徳永昭²⁾, 田尻 孝¹⁾ (さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) :

Kugel法による鼠径ヘルニア術後に大腸穿通を来した盲腸憩室炎の1例. 日消外会誌 2010 ; 43 (1) : 90-94.

- 35) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 大腸癌におけるIrinotecanの効果とThymidylate synthaseの関係. 日本大腸肛門病会誌 2010 ; 63 (1) : 1-5.
- 36) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 吉岡正人, 内田英二, 田尻 孝 : 生体肝移植における胆道再建の工夫 - BLAKE silicone drainを使用したショートステント法による肝管空腸吻合 -. 手術 2010 ; 64 (2) : 231-235.
- 37) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : PROLENE Hernia Systemによる大腿ヘルニア修復と再発予防. 臨床外科 2010 ; 65 (3) : 421-425.
- 38) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 重度慢性閉塞性肺疾患合併胃癌に対する術前術後の集学的管理が術後肺合併症の予防に有効であった1例. 外科 2010 ; 72 (3) : 305-308.

(2) 総説 :

- 1) Tajiri T, Yoshida H, Obara K¹⁾, Onji M¹⁾, Kage M¹⁾, Kitano S¹⁾, Kokudo N¹⁾, Kokubu S¹⁾, Sakaida I¹⁾, Sata M¹⁾, Tajiri H¹⁾, Tsukada K¹⁾, Nonami T¹⁾, Hashizume M¹⁾, Hirota S¹⁾, et al. (¹⁾ 日本門脈圧亢進症学会) : General Rules for Recording Endoscopic Findings of Esophagogastric Varices (2nd Edition). Digestive Endoscopy 2010 ; 22 (1) : 1-9.
- 2) 柏原 元, 宮下正夫 : Steroidをめぐる まだ使い続けるか?. 侵襲と免疫 2009 ; 18 (2) : 29-34.
- 3) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二 : 鏡視下の臍切除術【肝胆臍手術における皮膚切開・術野展開の工夫】. 手術 2009 ; 63 (8) : 1147-1152.
- 4) 谷合信彦, 鈴木英之, 鶴田宏之, 吉田 寛, 内田英二, 田尻 孝 : X線不透過性マーカーを用いた消化管運動検査. 臨床消化器内科 2009 ; 24 (12) : 1597-1602.
- 5) 相本隆幸, 内田英二 : 臍頭十二指腸切除術と術後臍液瘻 臍液瘻の完全克服をめざして. 日医大医会誌 2009 ; 5 (4) : 193-201.
- 6) 中村慶春, 田尻 孝, 廣井 信, 相本隆幸, 山初和也, 峯田 章, 松本智司, 内田英二 : 内視鏡手術 腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存尾側臍切除術. 外科治療 2009 ; 101 (5) : 609-613.
- 7) 宮下正夫 : Surviving Sepsis Campaign (SSC), 敗血症性ショック, ステロイド療法. 外科と代謝・栄養 2009 ; 43 (6) : 181-185.
- 8) 鈴木英之¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : イレウスの治療とケア【病態の理解から術後イレウスのケアポイントまで イレウスの知識とケア徹底ガイド】. 消化器外科Nursing 2010 ; 15 (3) : 300-305.
- 9) 鈴木英之¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : イレウスの分類と病態【病態の理解から術後イレウスのケアポイントまで イレウスの知識とケア徹底ガイド】. 消化器外科Nursing 2010 ; 15 (3) : 296-299.

(3) 症例報告 :

- 1) Yamada T¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Mamada Y¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Liver Cyst with Biliary Communication Successfully Treated with Laparoscopic Deroofing. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (2) : 103-108.
- 2) Takahashi T, Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Tajiri T : Balloon-occluded Retrograde Transvenous Obliteration for Gastric Varices in a Child with Extrahepatic Portal Venous Obstruction. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (3) : 173-178.
- 3) Ishii K, Yoshida H, Tani N, Mineta S, Kawano Y, Tajiri T : Infected Hepatic Cyst Treated with Percutaneous Transhepatic Drainage. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (3) : 160-164.

- 4) Ueda J, Yoshida H, Tani ai N, Onda M¹⁾, Hayashi H²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Integrative Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Clinical Radiology, Nippon Medical School) : Inflammatory Pseudotumor in the Liver Associated with Intrahepatic Bile Duct Stones Mimicking Malignancy. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (3) : 154-159.
- 5) Fujita I, Kiyama T, Chou K, Kanno H, Naito Z¹⁾, Uchida E (¹⁾ Dept. of Integrative Pathology, Nippon Medical School) : A Case of Metastatic Hemangiopericytoma Occurring 16 Years After Initial Presentation : With Special Reference to the Clinical Behavior and Treatment of Metastatic Hemangiopericytoma. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (4) : 221-225.
- 6) Mizutani S¹⁾, Nakamura Y, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital) : A Case of Giant Mucinous Cystic Neoplasm of the Pancreas Resected with Laparoscopic Surgery. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (4) : 212-216.
- 7) Matsutani T¹⁾, Uchida E, Yokoyama T¹⁾, Matsushita A¹⁾, Matsuda A¹⁾, Sasajima K¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : A case of Unresectable Gallbladder Cancer Responding to Gemcitabine after Metallic Biliary Stent Implantation. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (5) : 253-257.
- 8) Matsutani T¹⁾, Uchida E, Yokoyama T¹⁾, Matsutani A¹⁾, Matsuda A¹⁾, Sasajima K¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Laparoscopic Unroofing of a Large Pseudocyst of the Spleen : Report of a case . J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (6) : 319-322.
- 9) Iida S, Furukawa K, Terada Y, Sugisaki Y¹⁾, Yoshimura K²⁾, Tajiri T (¹⁾ Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Surgery, Hakuji-kai Memorial Hospital) : A case of a mesenteric cyst in the sigmoid colon of a 3-year-old girl. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (5) : 247-252.
- 10) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 小林由子²⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 西 佳史¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 放射線科) : Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学療法と Docetaxel/5-Fluorouracil/Nedaplatin 併用化学放射線療法にてCRが得られた同時性食道下咽頭進行重複癌の1例. 癌と化学療法 2009 ; 36 (5) : 835-838.
- 11) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 小林由子²⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 片山博徳³⁾, 前田昭太郎³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 放射線科, ³⁾ 同 病理) : Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法と Docetaxel/Cisplatin/5-FU 併用化学療法にてCRが得られた切除不能高度進行 (T4) 食道癌の1例. 癌の臨床 2009 ; 55 (5) : 383 (61) -387 (65).
- 12) 小泉岐博, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 鈴木英之, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院外科) : Diverting ileostomy 造設後に術前化学放射線療法を施行した骨盤内膿瘍合併直腸癌の1例. 日臨外会誌 2009 ; 70 (6) : 1782-1785.
- 13) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 小林由子²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 放射線科) : 進行食道癌術後の胸壁・傍腹部大動脈周囲リンパ節再発に対し docetaxel/nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法が奏効した1例. 臨床外科 2009 ; 64 (6) : 837-840.
- 14) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 柳 健¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : Docetaxel/5-fluorouracil/Nedaplatin 併用化学放射線療法にてCRが得られた超高齢者食道癌の1例. 日消誌 2009 ; 106 (7) : 1026-1030.
- 15) 上田純志, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 秋谷行宏, 田尻 孝 : S状結腸癌を契機に55年後に診断したガーゼによる異物肉芽腫症の1例. 日臨外会誌 2009 ; 70 (7) : 2052-2056.
- 16) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学多摩

永山病院 外科)：胃癌術後局所再発による再建挙上空腸狭窄に対し self-expandable metallic stent 留置により QOL を改善しえた 1 例. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2009 ; 51 (11) : 2886-2892.

- 17) 小泉正樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸切除術後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. Progress of Digestive Endoscopy 2009 ; 75 (2) : 52-53.
- 18) 勝田美和子¹⁾, 内田英二, 濱本達彦²⁾, 岡田憲明, 長田祐二, 滝 保彦, 鈴木健司, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 吉村和泰¹⁾, 沖野哲也, 高尾嘉宗, 吉安正行, 宮下正夫⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院 外科,²⁾ 博慈会記念総合病院 内科)：食道アカラシアに合併し, 憩室から発生したと考えられた食道癌の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2009 ; 75 (2) : 58-59.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) Sharma-Raj Y, Sakurazawa N, Miyashita M, Fukuda Y¹⁾, Arai T, Uchida E, Tajiri T⁽¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : The Efficacy of Trimetazidine and Bovine Serum Extract in Reducing the Degree of Fibrosis and Stricture Formation in the Esophagus Following ESD/EMR in a Rat Model. Nippon Medical School Foundation Academic Meeting for Foreign Researchers (19th) (東京), 2008. 11.
- 2) Sutharat P¹⁾, Kato S, Yamada S¹⁾, Maeda N, Tajiri T, Sandhu T¹⁾ (1) Division of Gastrointestinal Surgery and Endoscopy, Department of Surgery, Chiangmai University) : Interleukin-8 and Cyclo-oxygenase-2 mRNA Levels in Gastric Mucosa and their Association with Helicobacter pylori Infection in Distinct Gastric Conditions of Thai People. Nippon Medical School Foundation Academic Meeting for Foreign Researchers (19th) (東京), 2008. 11.
- 3) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 中村慶春, 阿曾亮子¹⁾, 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 内田英二, 田尻 孝⁽¹⁾ 教育推進室) : Virtual reality simulator (VR simulator) を用いた内視鏡外科トレーニングの率前教育カリキュラムとしての有用性. モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会 (第5回), 2009. 2.

追加分特別講演：

- 1) 田尻 孝：多様化する外科治療 消化器外科領域における手術手技の変遷. 日本臨床外科学会 (第70回) (東京), 2008. 11.

(1) 特別講演：

- 1) 中村慶春：膵臓の腹腔鏡下手術. 静岡胆膵疾患研究会 (第92回) (静岡), 2009. 4.
- 2) 中村慶春：膵臓の腹腔鏡下切除術. 長野県内視鏡外科研究会 (第20回) (長野), 2009. 9.
- 3) 宮下正夫：食道癌治療の最近の進歩. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
- 4) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝：膵臓の鏡視下手術：現時点における評価と未来への展望. 膵外科クラブ (第11回) (横浜), 2010. 2.

(2) 招待講演：

- 1) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝：腹腔鏡下膵切除術：尾側膵切除術から膵頭十二指腸切除術まで. 内視鏡外科フォーラム東北 (第20回) (仙台), 2009. 4.

(3) シンポジウム：

- 1) Sutharat P¹⁾, Kato S, Yamada S¹⁾, Matsuda N, Tajiri T⁽¹⁾ Division of Gastrointestinal Surgery and Endoscopy, Department of Surgery, Chiangmai University) : The Interleukin-8 and Cyclo-oxygenase-2 mRNA in gastric mucosa and their Association with *Helicobacter pylori* infection in distinct gastric conditions of Thai peo-

- ple. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2009 (100th) (Colorado, USA), 2009. 4.
- 2) Nakamura Y : Laparoscopic pancreatic resection (Hepato-biliary pancreatic surgery). ICS 2009 Beijing Conference (Beijing China), 2009. 11.
 - 3) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Matsumoto S, Tajiri T : Laparoscopic distal pancreatectomy (International Video Teleconference “Pancreatic surgery”). 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 4) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 平方敦史, 柿沼大輔, 内田英二, 田尻孝 : 肝細胞癌治療, 生体肝移植における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の有用性. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
 - 5) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 野村 務, 松本智司, 吉田 寛, 谷合信彦, 田尻孝 : 腹腔鏡下膵切除術 : 腹腔鏡下膵尾側切除術から腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術まで (最先端の鏡視下手術). 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
 - 6) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 野村 務, 松本智司, 田尻 孝 : 腹腔鏡下肝・膵切除 膵臓の鏡視下切除術. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
 - 7) 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 川野陽一, 真々田裕宏, 柿沼大輔, 内田英二, 田尻 孝 : 門脈圧亢進症治療におけるPSE・脾摘の役割 門脈圧亢進症合併肝細胞癌治療における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義 (脾摘 vs PSE). 日本門脈圧亢進症学会総会 (第16回) (福島), 2009. 9.
 - 8) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝 : 標準手術としての腹腔鏡下膵体尾部切除術 (内視鏡外科における臓器別標準手術). 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
 - 9) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科 : 乳癌に対する分子標的治療の現状と展望 進行乳癌における Trastuzumab+Paclitaxel+Capecitabine 三剤併用療法の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
 - 10) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 野村 務, 田尻 孝 : 腹腔鏡下尾側膵切除術 (内視鏡下膵体尾部切除術, わたしの工夫). 膵臓内視鏡外科研究会 (第1回) (東京), 2009. 12.
 - 11) 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 古川清憲, 内田英二 : 大腸癌術後の腸管運動麻痺に対する大建中湯 (TJ-100) の効果. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 内分泌外科 : 腹腔鏡下尾側膵切除術の導入のために : 腹腔鏡下左副腎摘除術との出会い (最先端研究と治療のきっかけ). 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
 - 2) 津川浩一郎¹⁾, 中村清吾¹⁾, 秋山 太²⁾, 岩田広治³⁾, 大野真司⁴⁾, 元村和由⁵⁾, 徳田安春⁶⁾, 芳賀駿介 (1) 聖路加国際病院乳腺外科, 2) 癌研究会癌研究所病理部, 3) 愛知県がんセンター中央病院乳腺科, 4) 九州がんセンター乳腺科, 5) 大阪府立成人病センター乳腺・内分泌外科, 6) 聖ルカ・ライフサイエンス研究所臨床疫学センター) : 高度医療評価制度のもとでの乳癌センチネルリンパ節生検に関する多施設共同臨床確認試験の現況. 日本乳癌学会学術総会 (第17回) (東京), 2009. 7.
 - 3) 山下浩二, 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, ヘイムス規子美, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介 : センチネルリンパ節生検の諸問題 3D-CTリンパ管造影による上肢由来リンパ路の描出と内視鏡的選択的腋窩郭清. 日本乳癌学会学術総会 (第17回) (東京), 2009. 7.
 - 4) 上田純志, 谷合信彦, 松本智司, 吉田 寛, 内田英二 : 当科における腹部救急手術の現状. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.

(5) セミナー：

- 1) 渡辺勲史¹⁾，豊永 純¹⁾，於保和彦¹⁾，國分茂博¹⁾，中村健治¹⁾，蓮見昭武¹⁾，村島直哉¹⁾，田尻 孝，日本門脈圧亢進症学会学術委員会¹⁾ (日本門脈圧亢進症学会)：【異所性静脈瘤】本邦における異所性静脈瘤の実態 全国アンケート調査結果より．日本門脈圧亢進症学会総会 (第16回) (福島)，2009. 9.

(6) ワークショップ：

- 1) 矢形 寛¹⁾，芳賀駿介，中村清吾¹⁾ (1) 聖路加国際病院 乳腺外科)：乳房温存治療において乳腺外科医が実行可能な乳房形成：乳腺外科医と形成外科医による検討会から．日本乳癌学会学術総会 (第17回) (東京)，2009. 7.
- 2) 谷合信彦，吉田 寛，真々田裕宏，峯田 章，内田英二，田尻 孝：肝細胞癌治療において部分脾動脈塞栓術 (PSE) の意義 (脾摘 vs PSE)．日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪)，2009. 7.
- 3) 廣井 信，中村慶春，内田英二，相本隆幸，山初和也，川本聖郎，谷 杏彌，野村 務，松本智司，田尻 孝：腹腔鏡下尾側脾切除術における脾臓・脾動静脈温存術式の適応と成績．日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪)，2009. 7.
- 4) 山田岳史¹⁾，古川清憲¹⁾，横井公良¹⁾，真々田裕宏¹⁾，金沢義一¹⁾，内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：抗体時代の大腸癌化学療法：抗体療法による緊急性．日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡)，2010. 2.
- 5) 牧野浩司，内田英二，宮下正夫，野村 務，大川敬一，萩原信敏，堀場光二¹⁾，古川清憲¹⁾，岩切勝彦²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科，2) 日本医科大学 消化器内科)：食道癌鏡視下手術の現状と未来．日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡)，2010. 2.
- 6) 前島顕太郎¹⁾，徳永 昭¹⁾，菅野仁士，山田岳史²⁾，千原直人¹⁾，坊 英樹¹⁾，渡辺昌則¹⁾，古川清憲²⁾，鈴木英之¹⁾，内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器センター，2) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験．日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟)，2010. 3.
- 7) 櫻澤信行，加藤俊二，木山輝郎，藤田逸郎，吉行俊郎，小野寺浩之，宮下正夫，内田英二：胃粘膜癌に対するループ付き細径スプリングと脱着式牽引力可変スプリングによるカウンタートラクション法．日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟)，2010. 3.
- 8) 山田岳史¹⁾，横井公良¹⁾，真々田裕宏¹⁾，金沢義一¹⁾，白川 毅¹⁾，吉岡正人¹⁾，高橋 健¹⁾，清水哲也¹⁾，古川清憲，内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：腹部緊急手術症例に対する Meropenem の投与．日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山)，2010. 3.
- 9) 川野陽一，谷合信彦，吉田 寛，相本隆幸，中村慶春，廣井 信，峯田 章，神田知洋，上田純志，小野澤志郎¹⁾，村田 智¹⁾，田島廣之¹⁾，汲田伸一郎¹⁾，内田英二 (1) 日本医科大学 放射線科)：当科での消化器外科術後動脈性出血に対する IVR 治療の検討．日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山)，2010. 3.
- 10) 谷 杏彌，有馬保生，松本智司，横室茂樹，中村慶春，重原健吾，神田知洋，内田英二：腹腔鏡下胆嚢摘出術 (LC) における胆管損傷の検討．日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山)，2010. 3.

(7) サージカルフォーラム：

- 1) 菅野仁士，木山輝郎，藤田逸郎，加藤俊二，吉行俊郎，田尻 孝：胃バンディング術と迷走神経切除術における術後体重変化と血中グレリン濃度の検討．日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡)，2009. 4.
- 2) 山田岳史¹⁾，古川清憲¹⁾，横井公良¹⁾，真々田裕宏¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，金沢義一¹⁾，白川 毅¹⁾，工藤秀徳¹⁾，田中宣威¹⁾，田尻 孝 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科)：外科医にとっての緩和医療の位置付け：surgeon の役割だけでなく generalist としても．日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡)，2009. 4.
- 3) 相本隆幸，内田英二，中村慶春，廣井 信，宮本正章¹⁾，田畑康彦²⁾，田尻 孝 (1) 日本医科大学 内科，2) 京都大学再生医科研究所 生体材料学分野)：脾空腸吻合モデルにおける bFGF-GH 投与の意義．日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋)，2009. 6.

- 4) 牧野浩司, 内田英二, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 萩原信敏, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 堀場光二¹⁾, 田尻孝¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院外科) : T4食道癌の治療戦略: 副作用の少ないNeoadjuvant chemoradiotherapy (NCRT) と右開胸開腹食道切除術. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
 - 5) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 萩原信敏, 赤城一郎, 松本智司, 中村慶春, 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 内田英二¹⁾ (日本医科大学消化器内科) : PPI抵抗性NERD症例に対する腹腔鏡下逆流防止手術 (LARS) の有用性について. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- (8) 一般講演 :
- 1) Ishikawa Y, Yoshida H, Weiner J¹⁾, Tajiri T¹⁾ (Yale School of Medicine, New Haven, CT, USA) : Prospective Randomized Controlled Study of Short-Term Perioperative Enteral Nutrition Support with Branched Chain Amino Acids in Liver Surgery. Digestive Disease Week 2009 (Chicago, USA), 2009. 5.
 - 2) Kan H, Suzuki H, Sasaki J, Akiya Y, Koizumi M, Tsuruta H, Matsumoto S, Uchida E, Tajiri T : A case of an internal hernia following laparoscopy-assisted colectomy. International College of Surgeons, The 55th Annual Congress of the Japan Section (Tokyo), 2009. 7.
 - 3) Nomura T, Miyashita M, Nakamura Y, Makino H, Matsumoto S, Uchida E, Tajiri T : Can interview prior to laparoscopic simulator training predict a trainee's skills?. World Congress of Surgery of the International Society of Surgery (43rd) (Adelaide, Australia), 2009. 9.
 - 4) Nakamura Y, Uchida E, Tajiri T, Nomura T, Hiroi M, Yamahatsu K, Sasaki J, Shimizu K : Laparoscopic pancreatic resections in our institution. World Congress of Surgery of the International Society of Surgery (43rd) (Adelaide, Australia), 2009. 9.
 - 5) Sasaki J, Suzuki H, Nomura T, Matsumoto S, Nakamura Y, Hiroi M, Yamahatsu K, Uchida E : Glove method, a useful technique in laparoscopic-assisted colectomy. World Congress of Surgery of the International Society of Surgery (43rd) (Adelaide, Australia), 2009. 9.
 - 6) Yamahatsu K, Nakamura Y, Uchida E, Hiroi M, Nomura T, Sasaki J, Tajiri T, Shimizu K : A cystic tumor of the pancreas which was resected by laparoscopic distal pancreatectomy. World Congress of Surgery of the International Society of Surgery (43rd) (Adelaide, Australia), 2009. 9.
 - 7) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Shirakawa T¹⁾, Yamada T¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Horiba K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Furukawa K¹⁾, Ohaki Y²⁾, Uchida E¹⁾ (Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital) : Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen Expression in Colorectal Cancer with Distant Metastasis. GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (London, United Kingdom), 2009. 11.
 - 8) Horiba K¹⁾, Tanaka N¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Makino H, Miyashita M, Uchida E, Ohaki Y²⁾ (Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital) : an Immunohistochemical Study of Emmprin and Matrix Metalloproteinases in Esophageal Squamous cell Carcinoma. GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (London, United Kingdom), 2009. 11.
 - 9) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Shinji S¹⁾, Shirakawa T¹⁾, Horiba K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Furukawa K¹⁾, Oaki Y²⁾, Ishiwata T³⁾, Naito Z³⁾, Uchida E¹⁾ (Dept. of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ³⁾ Dept. of Pathology, Nippon Medical School) : Lumican Expression correlates with Lymphovascular Invasion and Recurrence Rate in Gastric Cancer. GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (London, United Kingdom), 2009. 11.
 - 10) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Makino H, Matsumoto S, Hiroi M, Yamahatsu K, Tajiri T : Laparoscopic distal pancreatectomy. ELSA2009 (Xiamen China), 2009. 11.

- 11) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Makino H, Matsumoto S, Hiroi M, Yamahatsu K, Tajiri T : Laparoscopic pancreatoduodenectomy. ELSA2009 (Xiamen China), 2009. 11.
- 12) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Makino H, Matsumoto S, Hiroi M, Yamahatsu K, Tajiri T : Laparoscopic distal pancreatectomy for solid tumor. ELSA2009 (Xiamen China), 2009. 11.
- 13) Tajiri T : The application of laparoscope in pancreatic surgery. ELSA2009 (Xiamen China), 2009. 11.
- 14) Yamahatsu K : A case of Laparoscopic Resection of Retroperitoneal Schwannoma. ELSA2009 (Xiamen China), 2009. 11.
- 15) Kawano Y : Our experiences of liver resection using techniques for liver metastasis. ELSA2009 (Xiamen, China), 2009. 11.
- 16) Nomura T : Laparoscopic anti-reflux surgery (LARS) to treat PPI-resistant NERD. ELSA2009 (Xiamen 2009), 2009. 11.
- 17) Matsumoto S, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Nakamura Y, Koizumi M, Sasaki J, Uchda E, Tajiri T : Prolapsing technique and Lateral lymph node dissection in laproscopic low anterior resection for lower rectal carcinoma. ELSA2009 (Xiamen, China), 2009. 11.
- 18) Nomura T : Hand-assisted laparoscopic (HALS) construction of a gastric conduit for thoracic esophageal cancer . ELSA2009 (Xiamen, China), 2009. 11.
- 19) Matsumoto S, Nakamura Y, Uchida E, Tajiri T : Development of a new useful device, sponge spacer, for laproscopic surgery and preliminary experience in laparoscopic low anterior resection. ELSA2009 (Xiamen, China), 2009. 11.
- 20) Makino H : Video-assisted Thoracoscopic Enucleation of the Huge Esophageal Leiomyoma in a Young Adult Woman. ELSA2009 (Xiamen, China), 2009. 11.
- 21) Hiroi M, Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Aimoto T, Matsumoto S, Yamahatsu K, Sasaki J : Laparoscopic distal pancreatectomy for cystic tumor of pancreas. World Congress of Surgery of the International Society of Surgery (43rd) (Adelaide, Australia), 2009. 11.
- 22) Nakamura Y, Uchida E, Matsumoto S, Jo Y¹⁾, Inoue T¹⁾, Tajiri T, Shimizu K (¹⁾ Hogy Medical Co. , Ltd) : Laparoscopic Distal Pancreatectomy for Neuroendocrine Tumor of the Pancreas. Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons (12th) (Tokyo), 2010. 3.
- 23) Yamashita K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Miyawaki K, Jikuzono T, Hames-Y K¹⁾, Yanagihara K, Iida S, Kumita S²⁾, Haga S, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery, Higashitotsuka Memorial Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Endoscopic sentinel node biospy can be facilitated by spect-fused 3D-CT mammary lymphography . Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons (12th) (Tokyo), 2010. 3.
- 24) 近藤恭司¹⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 出血性胃十二指腸潰瘍の治療・背景. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 25) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 鈴木成治¹⁾, 小林由子²⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 放射線科) : 食道癌術後再発に対する Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法を試み. 日本癌治療学会学術集会 (第47回) (横浜), 2009. 10.
- 26) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 食道癌骨格筋転移の1例. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.

- 27) 高橋 健¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 高田英志¹⁾, 長谷川利治¹⁾, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 林茂一郎¹⁾, 内田英二, 田尻 孝 (1) 立正佼成会附属佼成病院) : 痴呆を伴う高齢者に発症した特発性巨大結腸症の1例. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 28) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 小澤俊文¹⁾, 入澤篤志²⁾, 和知栄子³⁾, 宮下正夫, 田尻 孝, 内田英二 (1) 坪井病院 外科, 2) 坪井病院 内科, 3) 坪井病院 病理) : 術後化療にて膣頭後部リンパ節に孤立性の遺残となった直腸癌の1例. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 29) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 内田英二, 田尻 孝, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 当センターで施行した腹腔鏡下膣切除術3例の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 30) 黒田誠司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 千原直人¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 逆流性食道炎に伴う食道狭窄の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 31) 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 木山輝郎, 田尻 孝 : 上部消化管穿孔性腹膜炎治療後の適切なフォローアップ : *H. pylori* 除菌と再穿孔を予防. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 32) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 川本聖郎, 山初和也, 宮本正章¹⁾, 田畑康彦²⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学 内科, 2) 京都大学再生医科研究所 生体材料科学分野) : 膣空腸吻合術モデルにおけるbFGF含浸ハイドロゲル投与の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 33) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 神田知洋, 峯田 章, 坂東功一, 松本智司, 真々田裕宏, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 生体肝移植における胆道再建の工夫 : BLAKE Silicon Drain によるショートステント法による肝管空腸吻合. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 34) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 高橋 健, 赤城一郎, 高橋吾郎, 萩原信敏¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 古川清憲²⁾, Gabrielson E³⁾, 田尻 孝 (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) ジョーンズ・ホプキンス大学 病理部) : PDGFb 蛋白発現と食道発癌との検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 35) 中村慶春, 野村 務, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝 : 膣臓外科における鏡視下膣切除術の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 36) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 進士誠一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 金沢義一¹⁾, 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 古川清憲¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 同 病理) : 胃癌におけるMMP-9 (M-9) とEMMPRIN (E) の発現. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 37) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 松久威史²⁾, 津久井拓²⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 同 消化器科) : mFOLFOX6法を導入した高度進行・再発大腸癌症例の予後因子に関する検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 38) 松下 晃¹⁾, 内田英二, 宮本昌之¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 相本隆幸, その他6名 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : ヒト膣癌におけるSTAT5の発現, 活性化についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 39) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 柳 健¹⁾, 松下 晃¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 消化器疾患患者における経皮的W-EDチューブ挿入の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第109

- 回) (福岡), 2009. 4.
- 40) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史²⁾, 杠葉 良¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験: 第4報. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 41) 坊 英樹¹⁾, 山岸征爾¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する腹壁縫合の影響について. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 42) 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 山岸征爾¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 急性虫垂炎病理組織学的所見と血清ビリルビン値の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 43) 千原直人¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学部門): 大腸癌のFOLFOX感受性; 細胞株cybridの作製によるミトコンドリアDNA体細胞変異の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 44) 山岸征爾¹⁾, 小峯 修¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 治療後にADLの改善を認めた脳萎縮性パーキンソンニズムを伴う腹壁癒痕ヘルニアの1例. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 45) 豊田哲鎬¹⁾, 山岸征爾¹⁾, 野村 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 吐血を主訴として発見された胃潰瘍併存胃癌の1例. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 46) 黒田誠司¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 中村慶春, 塩谷 猛¹⁾, 山岸征爾¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 石井英昭²⁾, その他3名 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 大宮医師会市民病院 外科): 経十二指腸の乳頭切除を施行したフアーター乳頭癌2症例を担当して. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 47) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 進士誠一¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫, 高橋 健, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院 外科): 胃癌手術症例における多重癌の臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 48) 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 田尻 孝, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 大腿ヘルニア予防を目的としたProlene Hernia System Underlay Patchの展開の工夫. 日本ヘルニア学会学術集会 (第7回) (東京), 2009. 4.
 - 49) 中村慶春, 野村 務, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 川本聖郎, 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝: 臍臓外科における鏡視下臍切除術の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 50) 吉野雅則¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 消化管癌におけるkeratinocyte growth factor receptor (KGFR) の発現と局在の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 51) 渡辺昌則¹⁾, 埜 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当科における大腸手術のSSI危険因子. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 52) 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 川野陽一, 田尻 孝: レボホリナートにより肺水腫を合併した1例. 日本消

化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.

- 53) 川野陽一, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 佐々木順平, 堀田正啓, 谷合信彦, 吉田寛, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学病理学)：上行結腸癌術後に発症した腹腔内デスマイド腫瘍の1切除例. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 54) 神田知洋, 吉田 寛, 谷合信彦, 坂東功一, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 柿沼大輔, 内田英二, 田尻孝：生体肝移植後に移植肝内に発生した肝動脈瘤破裂を来した1症例. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 55) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳健¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 小林由子²⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 放射線科)：Docetaxel/Nedaplatin/5-FU併用化学放射線療法とDocetaxel/Cisplatin/5-FU併用化学療法にてCRが得られた切除不能高度進行 (T4) 食道癌の1例. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 56) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科)：緩和医療における消化器病専門医の役割. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 57) 岩本美樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 清水哲也¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科)：潰瘍性大腸炎の加療中, 直腸穿孔を契機に胃癌の合併を発見された1例. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 58) 原総津子¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 平方敦史¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 清水哲也¹⁾, 田尻 孝, その他4名¹⁾ (日本医科大学千葉北総病院 外科)：化学療法施行中に消化管穿孔をきたしたが, 保存的治療にて10ヶ月の生存を得られた1例. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 59) 新井政男, 吉安正行¹⁾, 吉村和康¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (博慈会記念総合病院 外科)：小腸原発悪性黒色腫の1例. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 60) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 進士誠一¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝¹⁾ (坪井病院 外科)：屈曲, 偏位を有する胃切除後の通過障害に対する内視鏡拡張の経験. 日本消化器病学会総会（第95回）（札幌），2009. 5.
- 61) 横山滋彦¹⁾, 簡野晃次¹⁾, 石丸さやか¹⁾, 柳 健¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (東京血管外科クリニック)：下肢静脈瘤に対する1320mmパルスヤグレーザーを用いた血管内焼灼術の有効性を用いた膝窩動脈瘤手術の成績. 日本血管外科学会総会（第37回）（名古屋），2009. 5.
- 62) 八木亜記¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 山岸征爾¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：臍頭十二指腸切除後に薬剤性肺障害を来した2症例. 日本消化器病学会関東支部例会（第304回），2009. 5.
- 63) 櫻澤信行, 宮下正夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 岩切勝彦¹⁾, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 馬越通信, 関 奈紀, 高橋吾郎, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学消化器内科)：粘膜胃癌に対する細径スプリングによるカウンタートラクションESD. 日本消化器内視鏡学会総会（第77回）（名古屋），2009. 5.
- 64) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳健¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科)：胃癌術後局所再発による挙上空腹狭窄症状に対しself-expandable metallic stentを留置しQOLが改善した1例. 日本消化器内視鏡学会総会（第77回）（名古屋），2009. 5.
- 65) 松田明久¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 古川清憲¹⁾, 辻村行啓¹⁾, 田村和広¹⁾, 田尻 孝, 内田英二¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科)：マウス敗血症モデルにおけるPPAR- γ アゴニストの抗炎症作用 脂肪細胞機能に着目して. 日本Shock学会（第24回）（金沢），2009. 5.

- 66) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝, 内田英二, 辻村行啓¹⁾, 田村和広¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 食道癌手術における術後合併症と gender difference 脂肪細胞機能に着目して. 日本Shock学会 (第24回) (金沢), 2009. 5.
- 67) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 進士誠一¹⁾, 宮下正夫, 徳沢英哲²⁾, 田尻 孝 (1) 坪井病院 外科, 2) 白河病院 外科) : 発生, 進展の経過が推察された残胃噴門部癌の1例. 日本消化器内視鏡学会 (第77回) (名古屋), 2009. 5.
- 68) 川野陽一, 相田順子³⁾, 泉山七生貴³⁾, 仲村賢一³⁾, 石川 直³⁾, 笠原一郎³⁾, 眞田幸弘¹⁾, 水田耕一¹⁾, 安田是和²⁾, 松本光司⁴⁾, 河原崎秀雄¹⁾, 田久保海蒼³⁾ (1) 自治医科大学 移植外科, 2) 自治医科大学 消化器外科, 3) 東京都老人総合研究所 高齢者がんゲノム, 4) 中央メディカル (CML) 病理研究所) : 小児生体肝移植後長期経過したドナーとレシピエント間での組織Q-FISH法を用いた肝テロメア長比較 (第2報). 日本病理学会総会 (第98回) (京都), 2009. 5.
- 69) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 水口義昭, 神田知洋, 内田英二, 田尻 孝 : 特発性門脈圧亢進症におけるシャント手術と直達手術の比較検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 70) 廣井 信, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 山初和也, 川本聖郎, 谷 杏彌, 田尻 孝 : 転移性膵腫瘍に対して腔鏡下尾側膵切除術を施行した1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 71) 原 敬介, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 中村慶春, 相本隆幸, 河原崎由里子, 田尻 孝 : 外傷性が疑われた仮性脾動脈瘤破裂の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 72) 河原崎由里子, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 勝田悌実¹⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学内科) : 多発肝嚢胞の1つに出血を伴った1症例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 73) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 当科における膵頭十二指腸切除後のドレーン管理と工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 74) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 腹腔動脈起始部閉塞を伴う背側膵動脈瘤の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 75) 川本聖郎¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : Gemcitabine+S-1併用療法にて著効を認めた切除不能膵癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 76) 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 短期間で急速な増大を示した胆嚢腺扁平上皮癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 77) 吉岡正人¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 吉安正行²⁾, 吉村和泰²⁾, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 博慈会記念総合病院 外科) : 膵頭十二指腸切除術後の膵液瘻による腹腔内出血に対する予防法. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 78) 柿沼大輔¹⁾, 古川清憲¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 平方敦史¹⁾, 清水哲也¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 局所進行膵臓癌による消化管出血に対し, 経カテーテルの動脈塞栓術施行した1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 79) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 切除した胆管

- 膵膵腺癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 80) 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 埜 秀暁¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 塩谷 猛²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝, その他2名⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ さいたま市民医療センター 外科): 同一術者における膵管空腸粘膜吻合と膵管チューブ挿入法の成績比較. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 81) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 塩谷 猛²⁾, 水谷 聡¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 大宮医師会市民病院 外科): 十二指腸乳頭部腫瘍の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 82) 横山滋彦¹⁾, 簡野晃次¹⁾, 石丸さやか¹⁾, 柳 健¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 東京血管外科クリニック): 下肢静脈瘤に対する1320nmパルスヤグレーザーを用いた血管内焼灼術の治療成績. 日本外科系連合学会学術集会 (第34回) (東京), 2009. 6.
- 83) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史²⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学病院千葉北総病院 外科): TS-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本癌病態治療研究会 (第18回) (福島), 2009. 6.
- 84) 近藤恭司¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 認知症合併消化器癌患者に対する外科治療. 日本癌病態治療研究会 (第18回) (福島), 2009. 6.
- 85) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 竹田晋浩¹⁾, 中溝宗永²⁾, 横島一彦²⁾, 三枝英人²⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学麻酔科, ²⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 食道癌術後管理における当施設でのチーム医療について. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 86) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 赤城一郎, 田尻 孝, 堀場光二¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 半腹臥位胸腔鏡食道切除手術導入に向けての当科の鏡視下手術の変遷. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 87) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 大川敬一, 萩原信敏, 高橋 健, 内田英二: 食道扁平上皮癌における術後血清p53抗体価の推移. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 88) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 宮下正夫, 小沢俊文¹⁾, 和知栄子¹⁾, 勝田美和子, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 田尻孝⁽¹⁾ 坪井病院 外科): 多彩な異型像を示したアカラシア術後の食道上皮内癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 89) 大川敬一, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 赤城一郎, 土屋喜一, 勝田美和子, 堀場光二¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): CDGP, 5-FUを用いた進行食道癌に対する術前CRTの治療成績. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 90) 櫻澤信行, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 岩切勝彦, 内田英二, 田尻 孝: 早期食道癌に対する内視鏡的粘膜下層切開剥離術後の幼牛血液抽出物注射液の使用経験. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 91) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻孝⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 狭窄・瘻孔を伴う切除不能食道癌に対する胃瘻造設術の有用性の検討. 日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 92) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 小林由子¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 進行・再発食道癌に対するDocetaxel/5-FU/Nedaplatin併用化学放射線療法法の検討. 日本食道学会学術集会 (第63回), 2009. 6.
- 93) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 西川晃司¹⁾, 山田光輝¹⁾, 田尻

- 孝¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：当科における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の導入・術前準備とその実施。日本食道学会学術集会(第63回), 2009. 6.
- 94) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 細根勝¹⁾, 田尻 孝¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：胸部中部食道に発生した食道腺癌の1例。日本食道学会学術集会(第63回), 2009. 6.
- 95) 松野邦彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 牧野浩司, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 田中宣威¹⁾, 琴寄誠²⁾, 田尻 孝, 宮下正夫, 内田英二¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科,²⁾ 同 内科)：食道癌術後の胃管胸腔ろうに対し内視鏡下クリッピングによる閉鎖が有用であった1例。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第88回), 2009. 6.
- 96) 金谷洋平, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 萩原信敏, 赤城一郎, 岩切勝彦, 坂本長逸, 内田英二：表層拡大大型様の形態を呈した多発食道原発悪性黒色腫の1切除例。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第88回)(東京), 2009. 6.
- 97) 三浦克洋¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 千原直人¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸憩室出血に対する緊急内視鏡止血の意義。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第88回)(東京), 2009. 6.
- 98) 小泉正樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸切除術後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第88回)(東京), 2009. 6.
- 99) 峯田 章, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 神田知洋, 内田英二, 田尻 孝：難治性胃・食道静脈瘤に対する治療 工夫と対策 難治性胃・食道静脈瘤に対する外科治療施行症例の検討。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第88回)(東京), 2009. 6.
- 100) 勝田美和子¹⁾, 宮下正夫, 濱本達彦²⁾, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 吉村和泰¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 吉安正行¹⁾, 田尻 孝¹⁾ 博慈会記念総合病院 外科,²⁾ 博慈会記念総合病院 内科)：食道アカラシアに合併した食道癌の1例。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第88回)(東京), 2009. 6.
- 101) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 内田英二¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：当科における乳癌局所再発に対する治療戦略。日本乳癌学会学術総会(第17回)(東京), 2009. 7.
- 102) 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 田尻 孝¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：潜在性乳癌に対する個別化治療。日本乳癌学会学術総会(第17回)(東京), 2009. 7.
- 103) 岩本美樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 平方敦史¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝, その他4名¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：当科におけるセンチネルリンパ節生検の検討：術前診断と術後再発。日本乳癌学会学術総会(第17回)(東京), 2009. 7.
- 104) 渡會泰彦¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 原田 大¹⁾, 飯田信也, 柳原恵子, 山下浩二, 芳賀駿介¹⁾ 日本医科大学 病理部)：当院の乳癌診断における穿刺吸引細胞診と針生検の検討。日本乳癌学会学術総会(第17回)(東京), 2009. 7.
- 105) 川野陽一, 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 平方敦史, 柿沼大輔, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 田尻 孝, 内田英二¹⁾ 日本医科大学 放射線科)：生体肝移植後に上腸管膜静脈まで及ぶ門脈血栓症によりグラフト血流が消失しIVR治療により再開通が可能であった1例。日本肝移植研究会・学術集会(第27回)(静岡), 2009. 7.
- 106) 神田知洋, 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 柿沼大輔, 内田英二, 田尻 孝：生体肝移

- 植後グラフト内に肝動脈瘤破裂を来した1症例. 日本肝移植研究会・学術集会(第27回)(静岡), 2009. 7.
- 107) 岩井拓磨, 中村慶春, 内田英二, 松本智司: 胆嚢炎で発症した下部胆管癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第305回)(栃木), 2009. 7.
- 108) 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 中村慶春, 内田英二(¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下に切除し得た巨大MCNの1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第305回)(栃木), 2009. 7.
- 109) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝: 食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 法: 当施設における治療成績. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 110) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 勝野 暁, 宮本正章¹⁾, 田畑康彦²⁾, 田尻 孝(¹⁾ 日本医科大学内科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究 生体材料学): bFGF 含浸ゼラチンハイドロゲルを用いた膣空腸吻合モデルの経時的検討. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 111) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 赤城一郎, 堀場光二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田尻 孝, 内田英二(¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): StageI 食道癌の治療戦略: 縦隔鏡補助下(MATHE)と胸腔鏡補助下食道切除術(VATS-E). 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 112) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二, 田尻 孝: S-1 併用術前化学放射線療法を行った直腸癌症例の検討. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 113) 小泉岐博, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 田尻 孝: 腹腔鏡下低位前方切除術における直腸反転法の工夫. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 114) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 勝田美和子, 和知栄子²⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 小泉岐博, 宮下正夫, 田尻 孝(¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 同 病理): 術後13年後に再発を来した巨大後腹膜腫瘍(GIST)に対し, メシル酸イマチニブが奏効した1例. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 115) 神田知洋, 中村慶春, 内田英二, 野村 務, 松本智司, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 谷 杏彌, 田尻 孝: 先天性胆道拡張症の鏡視下手術. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 116) 菅野仁士, 木山輝郎, 藤田逸郎, 谷 杏彌, 加藤俊二, 内田英二: 腹腔鏡補助下幽門側胃切除における肥満の影響. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 117) 谷 杏彌, 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝: 嚢胞性変化を示す膵内分泌腫瘍に対して腹腔鏡下脾温存尾側膵切除術を施行した1例. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 118) 堀場光二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 白川 毅¹⁾, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 田尻 孝(¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道扁平上皮癌における EMMPRIN/CD147 の発現. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 119) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 内田英二, 田尻 孝(¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 5FU 代謝酵素, 5FU, Irinotecan, オキサリプラチン感受性からみた大腸中分化腺癌. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 120) 白川 毅¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝(¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 同 病理): 治癒切除不能胃癌に対する S1 + CDDP 併用化学療法後の胃切除手術の意義. 日本消化器外科学会総会(第64回), 2009. 7.
- 121) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 田尻 孝(¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): Bevacizumab を導入下高度進行・再発大腸癌症例の検討. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.
- 122) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 田尻 孝(¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): cT4 食道癌に対する Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法. 日本消化器外科学会総会(第64回)(大阪), 2009. 7.

- 123) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下晃¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科): 経皮経胃のW-EDチューブによる胃内減圧および経腸栄養の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 124) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 菅野仁士, 山田岳史²⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲²⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 125) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当科における食道癌に対する Docetaxel (TXT) + CDDP + 5-FU 併用療法 (DCF 療法) の治療経験. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 126) 近藤恭司¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 高齢者認知症合併消化器癌患者に対する外科治療. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 127) 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 野村 聡¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝¹⁾ (さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 第XIII因子, ソマトスタチン製剤とスキンケアにより閉鎖したイレウス術後小腸皮膚瘻の1例. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 128) 野村 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝¹⁾ (さいたま市民医療センター 外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): S状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻の1例. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 129) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 田尻 孝: 炎症性膵頭腫大を呈する慢性膵炎症例における外科治療成績の検討: Frey 手術を中心に. 日本膵臓学会大会 (第40回) (東京), 2009. 7.
- 130) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 相本隆幸, 中村慶春, 石渡俊行²⁾, 内藤善哉²⁾, 内田英二, その他1名¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 病理): 膵癌におけるSTAT5発現についての検討. 日本膵臓学会大会 (第40回) (東京), 2009. 7.
- 131) 石渡俊行¹⁾, 山本哲志¹⁾, 松田陽子¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 川本聖郎, 内田英二, Murray K²⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 同 病理学, ²⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School & Dartmouth Hitchcock Medical Center): 繊維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2IIIc) 発現制御による膵臓癌治療の研究. 日本膵臓学会大会 (第40回) (東京), 2009. 7.
- 132) 松田陽子¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 川本聖郎, 山本哲志¹⁾, 許田典男¹⁾, 山初和也, 彭 為霞¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 内田英二, Murray K²⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 病理学, ²⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School & Dartmouth Hitchcock Medical Center): 膵臓癌のNestin発現制御による浸潤・転移抑制の研究. 日本膵臓学会大会 (第40回) (東京), 2009. 7.
- 133) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): Salvage手術+術後化学療法で良好な経過が得られたStageIVb胆道癌の3例. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 134) 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当科における腹腔鏡下胃切除術の現状. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 135) 坊 英樹¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 増田剛太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳

- 永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): *H. pylori* と胃癌 *H. pylori* 感染鳥肌胃炎の検討. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 136) 佐々木順平, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 内田英二: StageII大腸癌の再発危険因子の検討. 大腸癌研究会 (第71回) (大宮), 2009. 7.
- 137) 金谷洋平, 櫻澤信行, 菅野仁士, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 谷合信彦, 木山輝郎, 鈴木英之, 加藤俊二, 内田英二: 総胆管十二指腸吻合術後早期に発生した残胃癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第306回) (東京), 2009. 9.
- 138) 菊池友太, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 馬越通信, 山初和也, 内藤善哉¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 同 病理): 直腸癌術後, PET/CTにて側方リンパ節転移再発と診断された良性軟部腫瘍の1例. 外科集談会 (第814回) (東京), 2009. 9.
- 139) 三島圭介¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 認知症患者に対する消化器癌治療. 外科集談会 (第814回) (東京), 2009. 9.
- 140) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 消化器科): 高度進行・再発大腸癌症例におけるmFOLFOX6法を中心とした全身化学療法の治療方針. 日本癌治療学会学術集会 (47回) (横浜), 2009. 9.
- 141) 岩井拓磨, 横室茂樹, 有馬保生, 神田知洋, 重原健吾, 内田英二: 腹腔鏡下胆嚢摘出術中に胆嚢損傷し腹膜播種した早期胆嚢癌の1例. 日本胆道学会 (第45回) (千葉), 2009. 9.
- 142) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 岩切勝彦¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科): 当施設における食道癌術後良性吻合部狭窄症例の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 143) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 野村 務: 巨大隣嚢胞性腫瘍に対し腹腔鏡下腓体尾部切除術を施行した1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 144) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 化学放射線療法後の瘢痕狭窄に対し全身麻酔下内視鏡的拡張術を行った頸部食道癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 145) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 櫻澤信行, 小澤俊文²⁾, 和知栄子³⁾, 宮下正夫, 田尻 孝, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 同 内科, ³⁾ 同 病理): 多数のリンパ節転移を認めた SM-depth 0.1mm, width 0.1mm の tub2 胃癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 146) 高橋 健¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 高田英志¹⁾, 長谷川利治²⁾, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 林茂一郎¹⁾, 内田英二, 田尻 孝⁽¹⁾ 立正佼成会附属佼成病院, ²⁾ 長谷川病院): 痴呆を伴う高齢者に発症した特発性巨大結腸症の1例. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 147) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 大腸癌化学療法における抗癌剤感受性試験の役割: 有害事象を減らすために. 日本癌治療学会学術集会 (第47回) (横浜), 2009. 10.
- 148) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 有馬保生, 野村 務: 乳頭部癌を合併した先天性胆道拡張症に対し腹腔鏡下腓頭十二指腸切除術を施行した1例. 日本消化器病学会大会 (第51回) JDDW2009 (京都), 2009. 10.
- 149) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也: 炎症性腓頭腫大を伴う慢性膵炎症例に対する手術術式の選択: Frey手術と腓頭十二指腸切除との比較検討から. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.

- 150) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝, 内田英二: 直腸癌に対しS-1併用術前化学放射線療法を行った症例の検討. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 151) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科, ²⁾ 同 消化器科): 当科の高度進行・再発大腸癌化学療法施行症例における分子標的療剤の併用状況. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 152) 牧野浩司, 宮下正夫, 大川敬一, 野村 務, 赤城一郎, 内田英二, 堀場光二, 古川清憲, 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 琴寄 誠¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科): CDGPを用いた食道癌の根治的CRTの成績. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 153) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 渡邊睦弥¹⁾, 宮下正夫, 田尻孝, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 非根治, 再発胃癌に対する集学的治療. 日本癌治療学会学術集会 (第47回) (横浜), 2009. 10.
- 154) 永嶋裕司¹⁾, 吉田 寛, 内田英二, 田尻 孝 (¹⁾ 聖ヨゼフ病院 内科): 抗核抗体陰性, 抗平滑筋抗体陽性, 抗LKM-1抗体陽性の自己免疫性肝炎の1例. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 155) 進士誠一¹⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 小澤俊文¹⁾, 渡邊睦弥¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 進行再発大腸癌に対するBevacizumabの使用経験. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 156) 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当科における腹腔鏡下胃切除術の現状. 胃外科・術後障害研究会 (第39回) (仙台), 2009. 10.
- 157) 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 少トロカーによる腹腔鏡補助下大腸手術の妥当性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 158) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝, 内田英二: S-1併用術前化学放射線療法を行った進行直腸癌症例の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 159) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 直腸がんに対する鏡視下側方郭清術. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 160) 小泉岐博, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 内田英二: Diverting ileostomyの閉鎖時期の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 161) 佐々木順平, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 内田英二, 川越哲郎¹⁾, 小林剛¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科): S状結腸癌術後再発に対するBevacizumab使用中に発症した結腸穿孔の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 162) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 尾碇卓司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之, 内田英二, 徳永 昭¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 高齢者大腸癌患者に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 163) 進士誠一¹⁾, 小泉岐博, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院外科): 大腸癌治癒切除後卵巣転移の1切除例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 164) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 金沢義一¹⁾, 堀場光二¹⁾, 横井公良¹⁾, 古川清憲¹⁾, 井内亜美²⁾, 大秋美治²⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科, ²⁾ 同 病理): 横行結腸癌に合併した傍十二指腸ヘルニアの1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 165) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科): 千葉県における地域連携クリニカルパ

- スの現況と展望. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 166) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 外科医によるシームレスな化学療法と負担軽減のための支援システム. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 167) 岩本美樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 清水哲也¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 再発直腸癌に対する分子標的薬治療施行中にフルニエ症候群を発症した1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 168) 吉岡正人¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 清水哲也¹⁾, 近藤亮太¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内田英二 (1) 千葉北総病院 外科): 幽門輪蠕存臍頭十二指腸切除後に発症した肝内結石症の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 169) 柏原 元¹⁾, 山本一仁¹⁾, 二見良平¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 木内博之¹⁾, 内田英二 (1) 北村山公立病院 外科): 経過中, 画像上の形態変化を認めた虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 170) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 木村衣里²⁾, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科, 2) 同 手術部 (看護部)): 開腹創におけるセプラフィルム (TM) 挿入法の当院の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 171) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 渡邊陸弥²⁾, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科, 2) 同 緩和ケア科): 治療の継続性, 治療成績からみた根治不能, 再発胃癌への局所療法の介入. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 172) 牧野浩司, 内田英二, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 萩原信敏, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 堀場光二¹⁾, 田尻孝 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道癌化学放射線療法感受性の臨床的早期診断. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (大阪), 2009. 11.
- 173) 進士誠一¹⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 術後に syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone を合併した胃癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 174) 鈴木英之, 内田英二, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝: 腹腔鏡下左側大腸癌手術における術者と助手の役割分担. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 175) 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 山下直行, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 木山輝郎, 内田英二: 上部消化管潰瘍穿孔症例の治療と外科医として必要な知識と適切なフォローアップ. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 176) 鈴木えりか, 柳原恵子, 飯田信也, 土屋眞一, 芳賀駿介, 内田英二: 皮膚の自潰を伴う乳管内乳頭腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 177) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 内田英二, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹腔鏡下大腸癌切除中に見つかった回腸悪性リンパ腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 178) 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松下 晃¹⁾, 櫻澤信行, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 早期胃癌をESDで切除した後に多発食道表在癌に対し腹臥位胸腔鏡下食道切除術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 179) 赤城一郎, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 萩原信敏, 清水祐一郎, 内田英二: 肝膿瘍を併発した腹部食道癌の1切除例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.

- 180) 柳原恵子, 鈴木えりか, 飯田信也, 土屋眞一, 芳賀駿介, 内田英二: 前立腺癌骨転移治療中に生じた皮膚病変を伴う男性乳癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 181) 水谷 聡¹⁾, 太田成男¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 膵臓癌ミトコンドリアDNA体細胞変異による抗癌剤耐性獲得の分子生物学的検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 182) 原絵津子¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 髄膜播腫をきたしたHCG産生胃癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 183) 松下 晃¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松田明久¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): mFOLFOX6, FOLFILI交代療法にbevacizumabを併用してCRを得た高度進行直腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 184) 勝田美和子¹⁾, 山下直行²⁾, 萩原信敏²⁾, 進士誠一²⁾, 吉村和泰¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 吉安正行¹⁾, 内田英二 (1) 博慈会記念総合病院 外科, 2) 坪井病院 外科): CTにて診断し得た鼠径ヘルニア内小腸穿孔の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 185) 八木亜記¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 緊急手術を要した後期高齢者ヘルニア嵌頓の2症例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 186) 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 骨盤内後腹膜に発生した由来不明嚢胞の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 187) 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 内田英二, 田尻 孝: 当科における肝細胞癌に対する肝切除術. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 188) 菊池友太, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 早川朋宏, 田尻孝, 内田英二: 造影MDCTが術前診断に有用であった大網裂孔ヘルニアの1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 189) 星野有哉¹⁾, 中村慶春, 水谷 聡¹⁾, 南 史朗¹⁾, 内田英二, 清水一雄, 田尻 孝, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 当科における腹腔鏡下副腎摘除術の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 190) 木下裕康¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 中島由貴¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 三上 巖¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原口秀司¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 大川敬一, 内田英二, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科): 食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下手術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 191) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 小泉岐博, 勝田美和子¹⁾, 高橋 健¹⁾, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 姑息的術後の化学療法にて肝転移消失後, 長期間転移巣の制御が可能であった直腸癌の1症例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 192) 峯田 章, 吉田 寛, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦, 川野陽一, 神田知洋, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 胃食道静脈瘤に対する手術治療の成績. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 193) 前島顕太郎¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 高齢者 (70歳以上) 胃癌手術症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 194) 山初和也, 内田英二, 中村慶春, 相本隆幸, 廣井 信, 川本聖郎, 谷 杏彌, 堀田正啓, 田尻 孝: 腹腔鏡下膵尾側切除術を施行した症候性膵漿液性嚢胞腺腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.

- 195) 杉浦 篤¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 田尻 孝, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 化学療法奏効後に特異な経過をたどった進行膵癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 196) 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腸管子宮内膜症の3症例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 197) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術術前シミュレーションでの除圧を考慮した体位の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 198) 神田知洋, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 柿沼大輔, 村田 智, 田尻 孝, 内田英二: 生体肝移植後に上腸間膜静脈まで及ぶ門脈血栓症によりグラフト血流が消失しIVR治療により再開通が可能であった1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 199) 川野陽一, 谷合信彦, 吉田 寛, 峯田 章, 神田知洋, 平方敦史, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 放射線科): 当科における生体肝移植後血管IVR治療. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 200) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝, 内田英二: 当施設での腹腔鏡補助下低位前方切除術の工夫点. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 201) 鶴田宏之, 内田英二, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝: 大腸癌術前診断におけるPET-CTの有用性と限界. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 202) 小泉岐博, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 内田英二: Diverting ileostomyの閉鎖時期の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 203) 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 小林由子²⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 同 放射線科): T4食道癌に対するDocetaxel/CDGP/5-FU併用化学放射線療法とその後のSalvage治療法. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 204) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 水口義昭, 神田知洋, 内田英二: 当科における肝切除のクリニカルパスの変遷と功罪. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 205) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): Imatinib耐性再発性GISTの治療経験. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 206) 高橋吾郎, 野村 務, 宮下正夫, 鈴木英之, 木山輝郎, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 内田英二, 田尻 孝: 食道, 胃, 直腸の同時性3重癌に対し二期的に切除を行った1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 207) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): Barrett食道口側端に発生した胸部中部食道腺癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 208) 菊池友太, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 田尻 孝, 内田英二: PET/CTで直腸癌術後側方リンパ節転移再発が疑われた両性軟部腫瘍の1例. 日本大腸検査学会総会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- 209) 萩原信敏, 内田英二, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学 消化器内科): 診断に期間を要した食道アカラシアの手術症例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 210) 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: グローブ法を応用

- した右側結腸癌に対するSILSの手技. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (東京), 2009. 12.
- 211) 松本智司, 中村慶春, 野村 務, 牧野浩司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 大腸手術における鏡視下手術用スぺーサーの有用性. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 212) 中村慶春, 内田英二, 松本智司, 野村 務, 牧野浩司, 有馬保生, 田尻 孝: 鏡視下手術用スぺーサーの開発. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (東京), 2009. 12.
- 213) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 野村 務, 牧野浩司, 松本智司, 廣井 信, 山初和也, 田尻 孝: Endoscopic linear staplerによる鏡視下腸切離法. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (東京), 2009. 12.
- 214) 菊池友太, 吉田 寛, 谷合信彦, 松本智司, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 特発性門脈圧亢進症と診断されていたBudd-Chiari症候群の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第307回) (東京), 2009. 12.
- 215) 吉田 寛, 谷合信彦, 松本智司, 中村慶春, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 内田英二: 標準化に向けた当科における鏡視下肝切除術. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 216) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 当科における直腸がんに対する鏡視下側方郭清術. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 217) 小泉岐博, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 佐々木順平, 内田英二: 腹腔鏡下低位前方切除術における直腸切離時の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 218) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝, 内田英二: 腹腔鏡補助下横行結腸切除術後に腸間膜欠損部に内ヘルニアを生じた1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 219) 廣井 信, 中村慶春, 上田純志, 山初和也, 松本智司, 野村 務, 相本隆幸, 内田英二: 十二指腸GISTに対して腹腔鏡下十二指腸第3部, 第4部切除術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 220) 牧野浩司, 内田英二, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 中村慶春, 松本智司, 田尻 孝: 気胸小開胸併用でrotationにて腹臥位食道切除と左下側臥位反回神経周囲リンパ節郭清する半腹臥位VATS-E. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 221) 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 内田英二, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の導入と体位固定の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 222) 野村 務, 内田英二, 宮下正夫, 牧野浩司, 松本智司, 中村慶春, 田尻 孝: 医学生に対する内視鏡外科トレーニングの重要性. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 223) 佐々木順平, 鈴木英之, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 野村 務, 牧野浩司, 小泉岐博, 内田英二: 教育機関としての腹腔鏡下虫垂切除術. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 224) 五十嵐健人, 中村慶春, 赤須東樹, 岡村律子, 宮脇佳代, 山下浩二, 内田英二, 清水一雄: 腹腔鏡下副腎摘除当科における腹腔鏡下副腎手術の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 225) 小野寺浩之, 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 山下直行¹⁾, 桜澤信行, 藤田逸郎, 木山輝郎, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 上部消化管潰瘍穿孔治療後の再穿孔例とH. pylori除菌治療を含む適切なフォローアップ. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 226) 越智友洋¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): Enteropathy-associated T cell lymphomaの1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 227) 埜 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 黒田誠司¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本

- 医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：たこ焼きによる食道熱傷の1例。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 228) 尾碕卓司¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：消化器内視鏡偶発症に対するトラブルシューティング 大腸内視鏡検査に関連した偶発症穿孔と対処法。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 229) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科)：高度進行胃癌に対する審査腹腔鏡によるNACの振り分け。日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (新宿), 2009. 12.
- 230) 岩井拓磨, 横室茂樹, 神田知洋, 重原健吾, 安井麻利江, 有馬保生, 内田英二：パラチフスAを起因菌とする無石壊疽性胆嚢炎の1例。外科集談会 (第815回) (東京), 2009. 12.
- 231) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科)：乳癌化学療法に伴う末梢神経障害に対するラフチジン有効性の検討。日本乳癌学会関東地方会 (第6回) (埼玉), 2009. 12.
- 232) 岩本美樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：InfliximabとG-CAPの併用が奏効したCrohn病症例。日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 233) 中村慶春, 松本智司, 鈴木英之¹⁾, 小泉岐博, 内田英二, 井上利樹²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ (株) ホギメディカル)：SILSにおける鏡視下スポンジ・スパーサーの有用性。単孔式内視鏡手術研究会TANKO (第1回) (東京), 2010. 2.
- 234) 篠塚恵理子, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 萩原信敏, 重原健吾, 赤城一郎, 内田英二：発症後早期に手術を行い救命し得た高齢者特発性食道破裂の1例。日本消化器病学会関東支部例会 (第308回) (東京), 2010. 2.
- 235) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二：宿便性直腸穿孔の1例。日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 236) 山田岳史¹⁾, 横井公良¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：抗癌剤感受性試験からみた胃癌に対するOxaliplatinの効果。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 237) 青木悠人¹⁾, 横井公良¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：胃癌に対するCDDP分割CDDP/S-1療法を施行した3例。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 238) 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 横井公良¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 外科)：stage IV胃癌におけるTS, DPD発現とs-1による術後化学療法の有用性。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 239) 藤田逸郎, 加藤俊二, 木山輝郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 菅野仁士, 山下直行¹⁾, 吉行俊郎, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科)：ESD後追加治療の実態：根治度EA以外の経過観察症例の実態ならびに手術移行症例の検討。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 240) 山下直行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 萩原信敏, 宮下正夫, 加藤俊二, 藤田逸郎, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科)：StageIV胃癌に対するFirst Lineの選別と長期PR例に対する局所治療としての切除の意義。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 241) 山下直行¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 櫻澤信行, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 木山輝郎, 宮下正夫, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科)：3回の再発切除にて5生を得たStageIV胃癌の1例。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 242) 菅野仁士¹⁾, 木山輝郎, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 吉行俊郎, 加藤俊二, 山下直行¹⁾, 内田英二⁽¹⁾ 坪井病院 外科)：高齢者胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討。日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟),

2010. 3.
- 243) 小泉里奈, 谷合信彦, 上田純志, 重原健吾, 菅 隼人, 内田英二: 消化管穿孔をきたしたMeckel憩室炎の1切除例. 外科集談会 (第816回) (新宿), 2010. 3.
- 244) 加藤俊二, 松倉則夫, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 菅野仁士, 山下直行¹⁾, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 内藤善哉²⁾, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科, ²⁾ 日本医科大学病理): 胃癌術後内視鏡観察ガイドラインのための胃粘膜内視鏡の個別評価と再発リスク. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 245) 勝田美和子¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 高尾嘉宗¹⁾, 吉安正行¹⁾, 宮下正夫, 内田英二 (¹⁾ 博慈会記念総合病院 外科): 経皮内視鏡的胃瘻造設術施行時に小腸を誤穿孔し腸閉塞をきたした1症例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 246) 谷合信彦, 吉田 寛, 川野陽一, 神田知洋, 柿沼大輔, 峯田 章, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学放射線科): 腹部救急疾患に対する門脈系IVRの限界に挑戦. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 247) 和田由大¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 外科手術を要した大腸憩室出血症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 248) 萩原信敏, 山下直行¹⁾, 櫻澤信行, 勝野 暁¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 宮下正夫, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): 集学的治療で多彩な術後合併症を克服し長期生存を得ている, 大腸癌再発合併の特発性直腸穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 249) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 特発性食道破裂に対して内視鏡的クリッピングによる保存的治療で治癒した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 250) 小泉岐博, 内田英二, 藤田逸郎, 菅 隼人, 木村 剛¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 泌尿器科): 癌化学療法中のoncologic emergency手術症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 251) 原田潤一郎, 菊池友太, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 萩原信敏, 松本智司, 鶴田宏之, 菅 隼人, 小泉岐博, 宮下正夫, 内田英二: 栄養チューブ (腸瘻) 刺入孔より腸管脱出し, 絞扼性イレウスをきたした1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 252) 萩原信敏, 山下直行¹⁾, 勝田美和子, 進士誠一, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 篠塚恵理子, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科): Y脚腸間膜隙より肛門側小腸の嵌入をきたした, 胃癌術後イレウスの1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 253) 野村俊一郎, 吉田 寛, 谷合信彦, 中村慶春, 峯田 章, 川野陽一, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 胆石症を伴う非穿孔性胆汁性腹膜炎に対する手術施行の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 254) 坊 英樹¹⁾, 和田由大¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 鶴田宏之, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 重症Fournier症候群の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 255) 菊池友太, 小泉岐博, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 鶴田宏之, 中村慶春, 佐々木順平, 田島廣之¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学 放射線科): 経カテーテル動脈塞栓術により治療した右結腸動脈瘤破裂の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 256) 篠塚恵理子, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 大川敬一, 萩原信敏, 勝田美和子, 赤城一郎, 内田英二: 外科的治療を行った食道癌穿孔の2症例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 257) 新井洋紀¹⁾, 内田英二, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科): 双口式回腸人口肛門の口側腸管が腸重積をおこし緊急手術を行った1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.

- 258) 近藤恭司¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 大腸内視鏡検査による穿孔患者に対して緊急手術 : 縫合閉鎖 : 治療後の全内視鏡検査施行の2症例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- (9) スポンサーセッション :
- 1) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 柿沼大輔, 神田知洋, 上田純志, 内田英二, 田尻 孝 : 食道胃静脈瘤治療における胃酸分泌抑制剤の位置づけ 食道胃静脈瘤破裂と anti-ulcer drugs, NSAIDs との相互関係. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第16回) (福島), 2009. 9.
- (10) ビデオシンポジウム :
- 1) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 野村 務, 松本智司, 田尻 孝 : 膵臓の鏡視下切除術. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- (11) ビデオセッション :
- 1) 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 小泉岐博, 佐々木順平, 田尻 孝 : 安全にできる腹腔鏡下大腸手術のポイント. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 2) 廣井 信, 中村慶春, 川本聖郎, 山初和也, 竹間由紀, 関 奈紀, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝 : 十二指腸GIST に対して腹腔鏡下十二指腸第3部, 第4部切除術, 腹腔鏡補助下十二指腸空腸吻合術を施行した1例. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 3) 佐々木順平, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 小泉岐博, 野村 務, 田尻 孝 : 教育機関における鏡視下虫垂切除術の位置づけ. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- (12) ポスターセッション :
- 1) Sakurazawa N, Miyashita M, Kato S, Kiyama T, Nomura T, Makino H, Fujita I, Okawa K, Umakoshi M, Seki N, Takahashi G, Iwakiri K¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Department of Pathophysiological Management/Medical Oncology Nippon Medical School) : A novel device, the orbicular spring with “question mark” -shaped clips, allows the mucosal stomach carcinoma to be rolled up, making it easier to perform endoscopic submucosal dissection. Digestive Disease Week 2009 (Illinois, USA), 2009. 5.
- 2) Aimoto T, Katsuno A, Yamahatsu K, Hiroi M, Nakamura Y, Tabata Y, Miyamoto M, Uchida E (¹⁾ Department of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University, ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Controlled release of basic fibroblast growth factor causes rapid healing of pancreaticojejunostomy with potent angiogenesis and acceleration of apoptosis induction in granulation tissue. Anniversary Meeting of the American Pancreatic Association and Japan Pancreas Society (The 40th) (Hawaii, USA), 2009. 11.
- 3) Uchida E, Matsushita A, Yanagi K, Hiroi M, Yokoyama T, Nakamura Y, Yamahatsu K, Aimoto T, Kobayashi T : Hamster Pancreatic Cancer Model for Research on Metastasis and Therapeutic Trials. Anniversary Meeting of the American Pancreatic Association and Pancreas Society (The 40th) (Hawaii, USA), 2009. 11.
- 4) 若林秀幸¹⁾, 内田英二, 松谷 毅¹⁾, 平方敦史¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 外科) : CA19-9 産生胃癌を含んだ多発胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 5) 小野寺浩之, 加藤俊二, 金谷洋平, 櫻澤信行, 菅野仁士, 山下直行¹⁾, 藤田逸郎, 木山輝郎, 鈴木英之, 吉行俊郎, 内田英二 (¹⁾ 坪井病院 外科) : 胆汁逆流と胃がん発生リスク : 総胆管十二指腸吻合術後早期に発生した胃癌の2例. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 6) 松谷 毅¹⁾, 内田英二, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 平方敦史¹⁾, 松田明

- 久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肺腺癌転移の1例. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 7) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 同 消化器科): S1/CDDP療法を施行した高度進行・再発胃癌症例における前・後治療としてのタキサン系抗癌剤使用の意義. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 8) 三島圭介¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峰 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 90歳以上の超高齢者胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- (13) ミニパネルディスカッション:
- 1) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 内分分泌外科): 腹腔鏡下尾側膵切除術の導入のために: 腹腔鏡下左副腎摘除術との出会い. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 2) 川野陽一, 田久保海蒼¹⁾, 相田順子¹⁾, 泉山七生貴¹⁾, 仲村賢一¹⁾, 水田耕一²⁾, 眞田幸弘²⁾, 俵藤正信³⁾, 安田是和³⁾, 河原崎秀雄²⁾, 田尻 孝 (1) 東京都老人総合研究所高齢者がんゲノム, 2) 自治医科大学移植外科, 3) 同 外科): 小児生体肝移植後長期経過例におけるドナーとレシピエント肝のテロメア長: tissue Q-FISH法を用いた検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- (14) ミニビデオシンポジウム:
- 1) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 廣井 信, 山初和也, 野村 務, 松本智司, 吉田 寛, 谷合信彦, 田尻孝: 腹腔鏡下膵切除術: 腹腔鏡下膵尾側切除術から腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術まで. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- (15) 企画関連ビデオ:
- 1) 木山輝郎, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 加藤俊二, 吉行俊郎, 内田英二: 腹腔鏡補助下胃切除術におけるプロセス標準化のポイント. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- (16) 企画関連口演:
- 1) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 予後, 手術成績, 化学療法の継続性からみた非根治胃癌の治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- (17) 記念講演:
- 1) 松下 晃: Neuropilin-1 を標的とした膵癌に対する新たな治療法の開発. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
- (18) 主題演題:
- 1) 菅野仁士¹⁾, 加藤俊二, 山下直行¹⁾, 松倉則夫, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 木山輝郎, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 上部消化管潰瘍穿孔に対する治療指針: 穿孔症例の外科治療と *H. pylori* 除菌治療も含む適切なフォローアップ. 潰瘍病態研究会 (第18回) (山形), 2009. 8.
- (19) 展示発表:
- 1) 渡邊 淳¹⁾, 折茂英生¹⁾, 島田 隆¹⁾, 南 史朗²⁾, 宮田広樹³⁾, 片山志郎³⁾, 宮下正夫, 松本智司, 内田英二, 峯岸裕司⁴⁾, 弦間昭彦⁴⁾, 米山剛一⁵⁾, 山口博樹⁶⁾, 猪口孝一⁶⁾ (1) 日本医科大学ゲノム先端医療部生化学・分子生物学日本医科大学ハイテクリサーチセンター, 2) 同 老人病研究所 疫学部門, 3) 同 薬剤部, 4) 同 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門) 化学療法科, 5) 同 女性診療科・産科, 6) 同 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)): 日本医科大学付属病院におけるオーダーメイド医療への取り組み: イリノテカン投与に向けた UGT1A1 遺伝子多型検査を院内で開始して. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.

(20) 要望演題：

- 1) 佐々木順平，鈴木英之，松本智司，菅 隼人，鶴田宏之，秋谷行宏，小泉岐博，内田英二：当科における大腸癌イレウスに対する治療戦略. 日本消化器外科学会総会（第64回）（大阪），2009. 7.
- 2) 渡辺昌則¹⁾，小峯 修¹⁾，近藤恭司¹⁾，前島顕太郎¹⁾，水谷 聡¹⁾，吉野雅則¹⁾，坊 英樹¹⁾，尾形昌男¹⁾，徳永昭¹⁾，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：大腸手術におけるSSI危険因子の検討（術者因子を含めて）. 日本消化器外科学会総会（第64回）（大阪），2009. 7.
- 3) 菅野仁士，木山輝郎，藤田逸郎，櫻澤信行，加藤俊二，吉行俊郎，内田英二：BMI \geq 25の肥満患者における腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討. 日本内視鏡外科学会総会（第22回）（東京），2009. 12.

[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

研究概要

「研究体制とその現状」研究目的：臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。研究体制：消化器系臓器別に上部消化管，下部消化管，肝・胆・膵の3領域における病態生理，臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は，癌に関連するものが多い。手術手技，腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。研究者は，自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。

研究材料，方法：診療業務から得た臨床データ，血液，組織，臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には，当院病理部との共同研究となる。分子生物学的方法を用いる場合は，武蔵小杉病院・老人病研究所の協力，文部科学省，厚生労働省の科学研究補助金による研究，多施設共同研究，日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会，総会，多摩地域の研究会で発表する。あるいは，原著，症例報告，著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) 松谷 毅，笹島耕二，鈴木成治，丸山 弘，宮本昌之，松田明久，横山 正，片山博徳¹⁾，前田昭太郎¹⁾，田尻 孝²⁾（¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 外科学第一）：潰瘍性大腸炎に合併した直腸癌術後肝転移・局所再発に対しmodified-FOLFOX6とFOLFIRIの交代療法（modified-FIREFOX療法）が奏効した1例. 癌の臨床 2009；55（3）：215-220.

(1) 原著：

- 1) Sasajima K, Futami R¹⁾, Matsutani T, Nomura T¹⁾, Makino H¹⁾, Maruyama H, Miyashita M¹⁾（¹⁾ First Dept. of Surgery）：Increases in soluble tumor necrosis factor receptors coincide with increases in interleukin-6 and proteinases after major surgery. Hepato-Gastroenterology 2009；56（95）：1377-1381.
- 2) Matsuda A, Matsutani T, Sasajima K, Furukawa K¹⁾, Tajiri T¹⁾, Tamura K²⁾, Kogo H²⁾（¹⁾ First Dept. of Surgery，²⁾ Department of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences）：Preoperative plasma adiponectin level is a risk factor for postoperative infection following colorectal cancer surgery. Journal of Surgical Research 2009；157（2）：227-234.
- 3) 松谷 毅，内田英二¹⁾，丸山 弘，鈴木成治，松田明久，笹島耕二（¹⁾ 外科学第一）：Barrett食道口側端に発生した胸部中部食道腺癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2010；71（1）：72-76.

- 4) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 西川晃司²⁾, 山田光輝²⁾, 笹島耕二 (¹⁾ 臓器病態制御外科学, ²⁾ 多摩永山病院麻酔科) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (4) : 211-214.
 - 5) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : PROLENE Hernia Systemによる大腿ヘルニア修復と再発予防. 臨床外科 2010 ; 65 (3) : 421-425.
- (2) 症例報告 :
- 1) Matsuda A, Sasajima K, Miyamoto M, Maruyama H, Yokoyama T, Suzuki S, Matsutani T, Sugiura A, Yanagi K, Matsushita A, Arai H, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ First Dept. of Surgery) : Laparoscopic treatment for torsion of the gallbladder in a 7-year-old female. Journal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons 2009 ; 13 (3) : 441-444.
 - 2) Matsutani T, Uchida E¹⁾, Yokoyama T, Matsushita A, Matsuda A, Sasajima K (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A Case of Unresectable Gallbladder Cancer Responding to Gemcitabine after Metallic Biliary Stent Implantation. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (5) : 253-257.
 - 3) Matsuda A, Sasajima K, Matsutani T, Maruyama H, Miyamoto M, Yokoyama T, Suzuki S, Suzuki H¹⁾, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ First Dept. of Surgery) : Aggressive undifferentiated colon carcinoma producing granulocyte-colony stimulating factor. Surgery Today 2009 ; 39 (11) : 990-993.
 - 4) Matsutani T, Uchida E¹⁾, Yokoyama T, Matsushita A, Matsuda A, Sasajima K (¹⁾ First Dept. of Surgery) : Laparoscopic unroofing of a large pseudocyst of the spleen. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (6) : 319-322.
 - 5) 松谷 毅, 笹島耕二, 小林由子¹⁾, 鈴木成治, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 柳健, 松田明久, 新井洋紀, 西 佳史, 若林秀幸, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 外科学第一) : Docetaxel/5-Fluorouracil/Nedaplatin 併用化学放射線療法にてCRが得られた同時性食道下咽頭進行重複癌の1例. 癌と化学療法 2009 ; 36 (5) : 835-838.
 - 6) 松谷 毅, 笹島耕二, 小林由子¹⁾, 鈴木成治, 丸山 弘, 松下 晃, 松田明久, 片山博徳²⁾, 前田昭太郎²⁾, 田尻 孝³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院病理部, ³⁾ 外科学第一) : Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法と Docetaxel/Cisplatin/5-FU 併用化学療法にてCRが得られた切除不能高度進行 (T4) 食道癌の1例. 癌の臨床 2009 ; 55 (5) : 383-387.
 - 7) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 小林由子¹⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 外科学第一) : 進行食道癌術後の胸壁・傍腹部大動脈周囲リンパ節再発に対し docetaxel/nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法が奏功した1例. 臨床外科 2009 ; 64 (6) : 837-840.
 - 8) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : Docetaxel/5-fluorouracil/Nedaplatin 併用化学放射線療法にてCRが得られた超高齢者食道癌の1例. 日本消化器病学会雑誌 2009 ; 106 (7) : 58-62.
 - 9) 新井洋紀, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 松下 晃, 松田明久, 細根 勝¹⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 外科学第一) : 盲腸癌術後7年目の局所再発を治癒切除し得た1例. 癌の臨床 2009 ; 55 (8) : 613-616.
 - 10) 松谷 毅, 宮本昌之, 丸山 弘, 松田明久, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 難治性腸管皮膚瘻に対し経皮的腸管ドレナージが奏効した1例. 日本臨床外科学会雑誌 2009 ; 70 (11) : 3338-3342.
 - 11) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 松田明久, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : 胃癌術後局所再発による再建挙上腸狭窄に対しself-expandable metallic stent 留置によりQOLを改善しえた1例. Gastroenterological Endoscopy 2009 ; 51 (11) : 2886-2892.
 - 12) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : 重度慢性閉塞性肺疾患合併胃癌に

に対する術前術後の集学的管理が術後肺合併症の予防に有効であった1例. 外科 2010 ; 72 (3) : 305-308.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Matsutani T, Matsuda A, Sasajima K, Miyashita M¹⁾, Tajiri T¹⁾, Tsujimura Y²⁾, Tamura K²⁾, Chaudry I³⁾ (¹⁾ First Dept. of Surgery, ²⁾ Department of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, ³⁾ Center for Surgical Research, Univ. Alabama) : Gender-related differences in circulating levels of adipocytokine associated with postoperative complication following thoracic-abdominal surgery. Annual conference on Shock (32nd) (San Antonio, USA), 2009. 6.
- 2) Matsuda A, Matsutani T, Sasajima K, Miyashita M¹⁾, Tajiri T¹⁾, Tsujimura Y²⁾, Tamura K²⁾ (¹⁾ First Dept. of Surgery, ²⁾ Department of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences) : PPAR γ attenuates inflammatory response through the activation of adipocyte in mice polymicrobial sepsis. Annual conference on Shock (32nd) (San Antonio, USA), 2009. 6.
- 3) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 松久威史¹⁾, 津久井拓¹⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : mFOLFOX6法を導入した高度進行・再発大腸癌症例の予後因子に関する検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 4) 松下 晃, 内田英二¹⁾, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 相本隆幸¹⁾, その他6名 (¹⁾ 外科学第一) : ヒト膵癌におけるSTAT5の発現, 活性化についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 5) 松田明久, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 柳 健, 松下 晃, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : 消化器疾患患者における経皮的W-EDチューブ挿入の有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 6) 松谷 毅, 柳 健, 丸山 弘, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 宮本昌之, 田尻 孝¹⁾, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 大腿ヘルニア予防を目的としたProlene Hernia System Underlay Patchの展開の工夫. 日本ヘルニア学会学術集会 (第7回), 2009. 4.
- 7) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 小林由子¹⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 外科学第一) : Docetaxel/Nedaplatin/5-FU併用化学放射線療法とDocetaxel/Cisplatin/5-FU併用化学療法にてCRが得られた切除不能高度進行 (T4) 食道癌の1例. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 8) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : 胃癌術後局所再発による挙上空腸狭窄症状に対しself-expandable metallic stentを留置しQOLが改善した1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第77回), 2009. 5.
- 9) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 鈴木成治, 松下 晃, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾, 辻村行啓²⁾, 田村和広²⁾ (¹⁾ 外科学第一, ²⁾ 東京薬科大学内分泌分子薬理学) : 食道癌手術における術後合併症とgender difference : 脂肪細胞機能に着目して. 日本Shock学会総会 (第24回), 2009. 5.
- 10) 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 古川清憲¹⁾, 辻村行啓²⁾, 田村和広²⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 外科学第一, ²⁾ 東京薬科大学内分泌分子薬理学) : マウス敗血症モデルにおけるPPAR- γ アゴニストの抗炎症作用 : 脂肪細胞機能に着目して. 日本Shock学会総会 (第24回), 2009. 5.
- 11) 川本聖郎, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : Gemcitabine+S-1併用療法にて著効を認めた切除不能膵癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回), 2009. 6.

- 12) 新井洋紀, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 若林秀幸, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 短期間で急速な増大を示した胆嚢腺扁平上皮癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回), 2009. 6.
- 13) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 松下 晃, 川本聖郎, 丸山 弘, 松谷 毅, 松田明久, 新井洋紀, 若林秀幸, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 当科における膵頭十二指腸切除後のドレーン管理と工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回), 2009. 6.
- 14) 松下 晃, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 川本聖郎, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 腹腔動脈起始部閉塞を伴う背側膵動脈瘤の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回), 2009. 6.
- 15) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 松田明久, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 新井洋紀, 細根 勝¹⁾, 田尻孝²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一) : 胸部中部食道に発生した食道腺癌の1例. 日本食道学会学術集会 (第63回), 2009. 6.
- 16) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 松下 晃, 松田明久, 若林秀幸, 西川晃司¹⁾, 山田光輝¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院麻酔科, 2) 外科学第一) : 当科における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の導入・術前準備とその実施. 日本食道学会学術集会 (第63回), 2009. 6.
- 17) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 小林由子¹⁾, 田尻孝²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一) : 進行・再発食道癌に対する Docetaxel/5-FU/Nedaplatin 併用化学放射線療法の検討. 日本食道学会学術集会 (第63回), 2009. 6.
- 18) 横山 正, 笹島耕二, 丸山 弘, 川本聖郎, 西 佳史, 新井洋紀, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 当科における乳癌局所再発に対する治療戦略. 日本乳癌学会学術集会 (第17回), 2009. 7.
- 19) 横山 正, 笹島耕二, 丸山 弘, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : Salvage手術+術後化学療法で良好な経過が得られたStageIVb胆道癌の3例. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 20) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡辺秀裕, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : Bevacizumabを導入した高度進行・再発大腸癌症例の検討. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 21) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 松下 晃, 松田明久, 横山 正, 杉浦 篤, 宮本昌之, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : cT4食道癌に対する Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 22) 松田明久, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 経皮経胃的 W-ED チューブによる胃内減圧および経腸栄養の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 23) 松下 晃, 笹島耕二, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 石渡俊行²⁾, 内藤善哉²⁾, その他1名 (1) 外科学第一, 2) 第二病理) : 膵癌におけるSTAT5発現についての検討. 日本膵臓学会大会 (第40回), 2009. 7.
- 24) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 食道癌骨格筋転移の1例. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
- 25) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡辺秀裕, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : 当科の高度進行・再発大腸癌化学療法施行症例における分子標的療剤の併用状況. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.

- 26) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 化学放射線療法後の癒痕狭窄に対し全身麻酔下内視鏡的拡張術を行った頸部食道癌の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回), 2009. 10.
- 27) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 鈴木成治, 小林由子²⁾, 丸山 弘, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 笹島耕二 (1) 外科学第一, ²⁾ 多摩永山病院放射線科) : 食道癌術後再発に対する Docetaxel/Nedaplatin/5-FU 併用化学放射線療法の試み. 日本癌治療学会学術集会 (第47回), 2009. 10.
- 28) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡辺秀裕, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : 高度進行・再発大腸癌症例における mFOLFOX6 法を中心とした全身化学療法の治療方針. 日本癌治療学会学術集会 (第47回), 2009. 10.
- 29) 横山 正, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 芳賀駿介¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学乳腺科, ²⁾ 外科学第一) : 進行乳癌における Trastuzumab+Paclitaxel+Capecitabine 三剤併用療法の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 30) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : Imatinib 耐性再発性 GIST の治療経験. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 31) 丸山 弘, 笹島耕二, 松谷 毅, 横山 正, 鈴木成治, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 骨盤内後腹膜に発生した由来不明嚢胞の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 32) 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 小林由子¹⁾, 内田英二²⁾, 笹島耕二 (1) 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 外科学第一) : T4 食道癌に対する Docetaxel/CDGP/5-FU 併用化学放射線療法とその後の Salvage 治療法. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 33) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術: 術前シミュレーションでの除圧を考慮した体位の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 34) 松谷 毅, 丸山 弘, 松下 晃, 櫻澤信行¹⁾, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 早期胃癌を ESD で切除した後に多発食道表在癌に対し腹臥位胸腔鏡下食道切除術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 35) 杉浦 篤, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀裕, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 化学療法奏効後に特異な経過をたどった進行膵癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 36) 松下 晃, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松谷 毅, 杉浦 篤, 松田明久, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : mFOLFOX6, FOLFILI 交代療法に bevacizumab を併用して CR を得た高度進行直腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 37) 新井洋紀, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 松田明久, 鈴木成治, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 川本聖郎, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 腸管子宮内膜症の3症例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 38) 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾, 笹島耕二 (1) 外科学第一) : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の導入と体位固定の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回), 2009. 12.
- 39) 丸山 弘, 笹島耕二, 松谷 毅, 松田明久, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 新井洋紀, 若林秀幸, 内田英二¹⁾ (1) 外科学第一) : 遅発性ヘルニアメッシュ MRSA 感染の1例. 日本外科感染症学会総会 (第22回), 2009. 12.

- 40) 藤原祥子¹⁾, 吉田知子¹⁾, 坂本なつ子¹⁾, 桑田敬子¹⁾, 丸山 弘, 松谷 毅, 笹島耕二⁽¹⁾ 多摩永山病院中央手術室) : 内視鏡下手術の手術室看護師の役割とガーゼカウント方法の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回), 2009. 12.
- 41) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 川本聖郎, 西 佳史, 新井洋紀, 若林秀幸, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : S1/CDDP療法を施行した高度進行・再発胃癌症例における前・後治療としてのタキサン系抗癌剤使用の意義. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 42) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 杉浦 篤, 松下 晃, 平方敦史, 松田明久, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 肺腺癌胃転移の1例. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 43) 新井洋紀, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 若林秀幸, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 胃悪性リンパ腫と胃癌が併存した1例. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 44) 若林秀幸, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 平方敦史, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 川本聖郎, 新井洋紀, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : CA19-9産生胃癌を含んだ多発胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 45) 馬越通信, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀, 若林秀幸 : 脾動脈瘤を合併した慢性膵炎に対しFreyの手術を行った1例. 城西外科研究会 (第80回), 2010. 3.
- 46) 松谷 毅, 内田英二¹⁾, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 若林秀幸, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 特発性食道破裂に対し内視鏡的クリッピングによる保存的治療で治癒した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.
- 47) 新井洋紀, 内田英二¹⁾, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 若林秀幸, 笹島耕二 (¹⁾ 外科学第一) : 双口式回腸人工肛門の口側腸管が腸重積をおこし緊急手術を行った1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科および一般外科領域における基礎的, 臨床的研究を行い, その成果を学会や学会誌等で報告しており, 食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対して, 外科的治療とともに術前, 術後の化学療法, 放射線療法などを併用した集学的治療も行っている。

1. 消化器疾患に対する内視鏡治療, 特に早期胃癌に対するEMR, ESD, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡治療, 閉塞性黄疸や癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, さらには食道静脈瘤に対する内視鏡的治療や内視鏡的胃瘻造設術も行っている。
2. 腹腔鏡手術は胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌に対しても行っており, 大腸癌では早期から進行癌まで適応拡大しつつあります。
3. 開腹手術はエビデンスに基づき食道癌や肝胆膵の悪性腫瘍含めた消化器癌全般に対し積極的に行い, 若い外科医の経験, 育成に力を注いでいる。各種学会の修練施設としての機能を十分に発揮すべく努力している。
4. EBMに基づいた医療を行うのみならず, 新たなEBMを作るべく, 癌化学療法を中心に臨床試験を積極的に行っている。臨床試験の迅速なる結果を求め, 多施設共同研究にも数多く参画している。
5. 基礎研究としては, (1) 大腸癌リンパ節微小転移の臨床的意義とメカニズム, (2) 大腸内分泌細胞癌の培養細

胞を作成し、その特性と治療法、(3) 抗瘍剤感受性試験の有用性、消化器癌化学療法を中心となる5-FUについて、臨床材料を用いた胃癌、大腸癌における5FU代謝酵素の役割、(4) 多剤併用療法が行われる胃癌、大腸癌における等において研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 千葉北総病院 病理部, ²⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科)：大腸多重癌(重複癌・多発癌)の検討. 日本大腸肛門病学会雑誌 2009；62 (4)：281-281.
- 2) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 千葉北総病院 病理部, ²⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科)：当院における大腸pMP癌症例の検討. 日本大腸肛門病学会雑誌 2009；62 (5)：370.
- 3) 吉澤一巳¹⁾, 森川陽子¹⁾, あべ松とも子¹⁾, 木本陶子¹⁾, 濱田康次¹⁾, 福田恵子¹⁾, 古山めぐみ¹⁾, 三浦剛史²⁾, 山田岳史, 益田律子³⁾, 佐藤光利¹⁾ (1) 千葉北総病院 薬剤科, ²⁾ 千葉北総病院 泌尿器科, ³⁾ 千葉北総病院 麻酔科)：使用済みフェンタニル貼付剤の残存量からみた貼付部位選択に関する比較検討. 日本病院薬剤師会雑誌 2009；45 (6)：773-776.
- 4) 松野邦彦, 古川清憲, 牧野浩司, 真々田裕宏, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 田中宣威, 琴寄 誠¹⁾, 田尻 孝²⁾, 宮下正夫²⁾, 内田英二²⁾ (1) 千葉北総病院 内科, ²⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科)：食道癌術後の胃管胸腔ろうに対し内視鏡下クリッピングによる閉鎖が有用であった1例. Progress of Digestive Endoscopy 2009；75 (1)：95-95.
- 5) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 牧野浩司¹⁾, 金沢義一, 白川 毅, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科)：消化器癌患者における癌疼痛治療に対するオキシシドロン導入パスの有用性. 日本消化器外科学会雑誌 2009；42 (8)：1448-1453.
- 6) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 大川敬一¹⁾, 野村 務¹⁾, 赤城一郎, 内田英二¹⁾, 堀場光二, 古川清憲, 川見典之²⁾, 岩切勝彦²⁾, 琴寄 誠³⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科, ²⁾ 付属病院第三内科, ³⁾ 千葉北総病院 内科)：CDGPを用いた食道癌の根治的CRTの成績. 日本消化器病学会雑誌 2009；106 (臨増大会)：A756-A756.
- 7) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 小泉岐博¹⁾, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科)：大腸癌におけるIrinotecanの効果とThymidylate synthaseの関係. 日本大腸肛門病学会雑誌 2010；63 (1)：1-5.

(2) 総説：

- 1) 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科)：門亢症とIVR 各種塞栓術の組み合わせ. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2009；15 (4)：348-351.

(3) 症例報告：

- 1) Yamada T, Furukawa K, Yokoi K, Mamada Y, Kanazawa Y, Tajiri T¹⁾ (1) Surgery, Nippon Medical School)：Liver Cyst with Biliary Communication Successfully Treated with Laparoscopic Deroofing. J Nippon Med Sch 2009；76 (2)：103-108.
- 2) Iida S¹⁾, Furukawa K, Terada Y¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Yosimura K³⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital, ³⁾ Department of Surgery, Hakuji-kai Memorial Hospital, Tokyo)：A Case of a Mesenteric Cyst in the Sigmoid Colon of a 3-year-old Girl. J Nippon Med Sch 2009；

76 (5) : 247-252.

(4) 解説 :

- 1) 山田岳史, 大秋美治¹⁾, 古川清憲⁽¹⁾ 千葉北総病院 病理部) : 【消化管症候群 (第2版) その他の消化管疾患を含めて】空腸, 回腸, 盲腸, 結腸, 直腸 腫瘍 大腸腫瘍 その他病態 大腸悪性線維性組織球腫. 日本臨床 2009 ; 別冊消化管症候群 (下) : 283-285.
- 2) 白川 毅, 古川清憲 : 【何を? いつ? どのように? がひとめでわかる消化器外科術後観察&対応マニュアル】消化器外科術後の異常・合併症の観察&対応がひとめでわかる創感染. 消化器外科Nursing 2009 ; 秋季増刊 : 12-17.
- 3) 清水哲也, 古川清憲 : 【何を? いつ? どのように? がひとめでわかる消化器外科術後観察&対応マニュアル】消化器外科術後の異常・合併症の観察&対応がひとめでわかる腹腔内腫瘍. 消化器外科Nursing 2009 ; 秋季増刊 : 18-23.
- 4) 柿沼大輔, 古川清憲 : 【何を? いつ? どのように? がひとめでわかる消化器外科術後観察&対応マニュアル】消化器外科術後の異常・合併症の観察&対応がひとめでわかる術後出血. 消化器外科Nursing 2009 ; 秋季増刊 : 24-29.

学会発表

(1) ワークショップ :

- 1) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 抗体時代の大腸癌化学療法 : 抗体療法による緊急症. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 2) 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 堀場光二, 古川清憲, 岩切勝彦²⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科, ²⁾ 付属病院 消化器内科) : 食道癌鏡視下手術の発現と未来. 日本消化管学会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 3) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎²⁾, 菅野仁士²⁾, 山田岳史, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院 消化器センター, ²⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 4) 山田岳史, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 白川 毅, 吉岡正人, 高橋 健, 清水哲也, 古川清憲¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 腹部緊急手術症例に対するMeropenemの投与. 日本腹部救急医学会総会 (第46回), 2010. 3.

(2) サージカルフォーラム :

- 1) 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健, 赤城一郎, 堀場光二, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : T4食道癌の治療戦略 : 副作用の少ない Neoadjuvant chemoradiotherapy (NDRT) と右開胸開腹食道切除術. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.

(3) 一般講演 :

- 1) Seya T, Tanaka N, Shinji S, Yoshioka M, Shirakawa T, Yamada T, Kanazawa Y, Horiba K, Yokoi K, Furukawa K, Ohaki Y¹⁾, Uchida E²⁾ (¹⁾ Pathology, Chiba Hokuso Hp., Nippon Medical School, Chiba, Japan, ²⁾ Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen Expression in Colorectal Cancer with Distant Metastasis. GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (London, United Kingdom), 2009. 11.
- 2) Horiba K, Tanaka N, Furukawa K, Yokoi K, Seya T, Makino H¹⁾, Miyashita M¹⁾, Uchida E¹⁾, Ohaki Y²⁾

- (¹) Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (²) Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital, Chiba, Japan) : An Immunohistochemical Study of Emmprin and Matrix Metalloproteinases in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (London, United Kingdom), 2009. 11.
- 3) Seya T, Tanaka N, Takahashi Y, Shinji S, Shirakawa T, Horiba K, Yokoi K, Furukawa K, Ohaki Y¹, Ishiwata T², Naito Z², Uchida E³ (¹) Pathology, Chiba Hokusai Hp., Nippon Medical School, Chiba, Japan, (²) Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (³) Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Luminican Expression Correlates with Lymphovascular Invasion and Recurrence Rate in Gastric Cancer. GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (London, United Kingdom), 2009. 11.
- 4) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 田中宣威, 田尻 孝¹) (¹) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 外科医にとっての緩和医療の位置づけ : surgeonの役割だけでなくgeneralistとしても. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 5) 瀬谷知子, 田中宣威, 進士誠一, 白川 毅, 山田岳史, 金沢義一, 堀場光二, 横井公良, 古川清憲, 大秋美治¹, 田尻 孝²) (¹) 千葉北総病院 病理部, (²) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 胃癌におけるMMP-9 (M-9) とEMMPRIN (E) の発現. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 6) 前島顕太郎¹, 徳永 昭¹, 木山輝郎², 菅野仁士², 山田岳史, 杠葉 良¹, 千原直人¹, 小峯 修¹, 坊英樹¹, 栗原雄司¹, 尾形昌男¹, 渡辺昌則¹, 田尻 孝²) (¹) 武蔵小杉病院 外科, (²) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験 : 第4報. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 7) 牧野浩司¹, 宮下正夫¹, 野村 務¹, 大川敬一¹, 高橋 健¹, 赤城一郎¹, 高橋吾郎¹, 萩原信敏², 勝田美和子², 古川清憲, Gabrielson E³, 田尻 孝¹) (¹) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科, (²) 坪井病院 外科, (³) ジョーンズ・ホプキンス大学 病理部) : PDGFb 蛋白発現と食道発癌との検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 8) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 田尻 孝¹) (¹) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 緩和医療における消化器病専門医の役割. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 9) 原絵津子, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 平方敦史, 富樫晃祥, 田中宣威, 田尻 孝¹, その他4名 (¹) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 化学療法施行中に消化管穿孔をきたしたが, 保存的治療にて10ヶ月の生存を得られた1例. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 10) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 沖野哲也, 富樫晃祥, 清水哲也, 田中宣威, 田尻 孝¹) (¹) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 潰瘍性大腸炎の加療中, 直腸穿孔を契機に胃癌の合併を発見された1例. 日本消化器病学会総会 (第95回), 2009. 5.
- 11) 柿沼大輔, 古川清憲, 真々田裕宏, 吉岡正人, 平方敦史, 清水哲也, 松野邦彦, 田尻 孝¹, 内田英二¹) (¹) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 局所進行膵臓癌による消化管出血に対し, 経カテーテルの動脈塞栓術施行した1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回), 2009. 6.
- 12) 吉岡正人, 真々田裕宏, 金沢義一, 古川清憲, 吉安正行¹, 吉村和康¹, 田尻 孝², 内田英二²) (¹) 博慈会記念総合病院 外科, (²) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科) : 膵頭十二指腸切除術後の膵液瘻による腹腔内出血に対する予防法. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回), 2009. 6.
- 13) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅 : 再発直腸癌に対し分子治療薬を用いた化学療法中にフルニエ症候群を発症した1例. 千葉重症感染症研究会 (第5回), 2009. 6.

- 14) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 堀場光二, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 半腹臥位胸腔鏡食道切除術導入に向けての当科の鏡視下手術変遷. 日本食道学会学術集会 (第63回), 2009. 6.
- 15) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎²⁾, 菅野仁士²⁾, 山田岳史, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝²⁾ (1) 武蔵小杉病院 外科, 2) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): TS-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本癌病態治療研究会 (第18回), 2009. 6.
- 16) 大川敬一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 堀場光二, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): CDGP, 5-FUを用いた進行食道癌に対する術前CRTの治療成績. 日本食道学会学術集会 (第63回), 2009. 6.
- 17) 松野邦彦, 古川清憲, 牧野浩司¹⁾, 真々田裕宏, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 田中宣威, 琴寄 誠²⁾, 田尻 孝¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科, 2) 千葉北総病院内科): 食道癌術後の胃管胸腔ろうに対し内視鏡下クリッピングによる閉鎖が有用であった1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回), 2009. 6.
- 18) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 平方敦史, 富樫晃祥, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾, その他4名 (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 当院におけるセンチネルリンパ節生検の検討: 術前診断と術後再発. 日本乳癌学会学術集会 (第17回), 2009. 7.
- 19) 堀場光二, 古川清憲, 岩本美樹, 井内亜美: タモキシフェンからレトロゾールへのスイッチにより腫瘍マーカーの減少を認めた乳癌術後肺転移症例. 日本乳癌学会学術集会 (第17回), 2009. 7.
- 20) 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 岩本美樹, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 潜在性乳癌に対する個別化治療. 日本乳癌学会学術集会 (第17回), 2009. 7.
- 21) 清水哲也, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人: 当科における定型的腹腔鏡下胆嚢摘出術. 千葉県外科医会 (第56回), 2009. 7.
- 22) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 赤城一郎, 堀場光二, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): StageI食道癌の治療戦略: 縦隔鏡補助下 (MATHE) と胸腔胸補助下食道切除術 (VATS-E). 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 23) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 金沢義一, 白川 毅, 吉岡正人, 内田英二¹⁾, 田尻孝¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 5FU代謝酵素, 5FU, Irinotecan, オキザリプラチン感受性からみた大腸中分化腺癌. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 24) 堀場光二, 古川清憲, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 白川 毅, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 田尻孝¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 食道扁平上皮癌におけるEMMPRIN/CD147の発現. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 25) 白川 毅, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 田中宣威, 大秋美治¹⁾, 田尻孝²⁾ (1) 千葉北総病院 病理部, 2) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 治癒切除不能胃癌に対するS1+CDDP併用化学療法後の胃切除手術の意義. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 26) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎²⁾, 菅野仁士²⁾, 山田岳史, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝²⁾ (1) 武蔵小杉病院 外科, 2) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本消化器外科学会総会 (第64回), 2009. 7.
- 27) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 大腸癌化学療法における抗癌剤感受性試験の役割: 有害事象を減らすために. 日本癌治療学会学術集会 (第47回), 2009. 10.

- 28) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 大川敬一¹⁾, 野村 務¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 内田英二¹⁾, 堀場光二, 古川清憲, 川見典之²⁾, 岩切勝彦²⁾, 琴寄 誠³⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科 , ²⁾ 付属病院消化器内科, ³⁾ 千葉北総病院 内科): CDGPを用いた食道癌の根治的CRTの成績. 日本消化器病学会大会 (第51回), 2009. 10.
- 29) 堀場光二, 古川清憲, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 工藤秀徳: クローン病腸管における EXTRACELLULAR MATRIX METALLOPROTEINASE (MMPs) およびその INDUCERである EMMPRIN/CD147の免疫組織化学的検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回), 2009. 11.
- 30) 瀬谷知子, 田中宣威, 進士誠一, 山田岳史, 金沢義一, 堀場光二, 横井公良, 古川清憲, 井内亜美¹⁾, 大秋美治¹⁾, 内田英二²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院 病理, ²⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 横行結腸癌に合併した傍十二指腸ヘルニアの1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回), 2009. 11.
- 31) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 吉岡正人, 田中宣威, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 千葉県における地域連携クリニカルパスの現況と展望. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 32) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 田中宣威, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 外科医によるシームレスな化学療法と負担軽減のための支援システム. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 33) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 吉岡正人, 清水哲也, 田中宣威, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 再発直腸癌に対する分子標的薬治療施行中にフルニエ症候群を発症した1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 34) 吉岡正人, 真々田裕宏, 清水哲也, 近藤亮太, 古川清憲, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 幽門輪温存瘻頭十二指腸切除後に発症した肝内結石症の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 35) 牧野浩司¹⁾, 内田英二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健, 赤城一郎, 堀場光二, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 食道癌化学放射線療法感受性の臨床的早期診断. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 36) 原絵津子, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 田中宣威, 内田英二¹⁾, その他4名 (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 髄膜播腫をきたしたHCG産生胃癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 37) 峯田 章¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 川野陽一¹⁾, 神田知洋¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 胃食道静脈瘤に対する手術治療の成績. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 11.
- 38) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 真々田裕宏, 金沢義一, 山田岳史, 田中宣威, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): InfliximabとG-CAPの併用が奏効したCrohn病症例. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回), 2010. 2.
- 39) 山田岳史, 横井公良, 金沢義一, 白川 毅, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院 第一外科): 抗癌剤感受性試験からみた胃癌に対するOxariplatinの効果. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 40) 青木悠人, 横井公良, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): 胃癌に対するCDDP分割CDDP/S-1療法を施行した3例. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.
- 41) 金沢義一, 古川清憲, 山田岳史, 白川 毅, 横井公良, 内田英二²⁾ (¹⁾ 付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科): stage IV胃癌におけるTS, DPD発現とS-1による術後化学療法の有用性. 日本胃癌学会総会 (第82回), 2010. 3.

10. 外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）

[付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科・内分泌外科]

研究概要

外科学当講座は付属病院外科，武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている。付属病院外科では，以下の項目を重点的に研究している。

(1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療，心房細動を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術式等に関する研究を主体としている。胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる。

(2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間約200例の手術を施行している。肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し，高齢化，低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な成果をあげ，国内外で評価を受けている。併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している。さらに肺縦隔良性疾患などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実施し，社会的に貢献している。

(3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎および乳腺疾患を対象に年間300例以上の手術を行っている。1998年から内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery（VANS法）を国内外で最も早く取り組み，現在まで500例を越えた。この症例数は国内で最も多い。また1999年からは高度先進医療として国から許可されている。全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている。さらには，分子生物学的研究を中心に基礎研究も積極的に行っている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Imura H¹， Suleiman-M S² (1) Department of Surgery 2, Nippon Medical School, (2) Bristol Heart Institute, Bristol University) : Cardioprotection of neonatal heart using normothermic hyperkalemia : the importance of delivery and terminal cardioplegia. *Mol Cell Biochem* 2008 ; 310 (1-2) : 1-9.
- 2) Fukushima M¹， Ito Y¹， Hirokawa M²， Miya A¹， Kobayashi K¹， Akasu H， Shimizu K， Miyauchi A¹ (1) Department of Surgery, Kuma hospital, Kobe, Hyogo, Japan, (2) Department of Pathology, Kuma hospital, Kobe, Hyogo, Japan) : Excellent prognosis of patients with nonhereditary medullary thyroid carcinoma with ultrasonographic findings of follicular tumor or benign nodule. *World J Surg* 2009 ; 33 : 963-968.
- 3) Fukushima M¹， Ito Y¹， Hirokawa M²， Akasu H， Shimizu K， Miyauchi A¹ (1) Department of Surgery, Kuma Hospital, Kobe, hyogo, Japan, (2) Department of Pathology, Kuma Hospital, Kobe, hyogo, Japan) : Clinicopathologic characteristics and prognosis of diffuse sclerosing variant of papillary thyroid carcinoma in Japan : an 18-year experience at a single institution. *World J Surg* 2009 ; 33 : 958-962.
- 4) 丸山雄二，落 雅美，神戸 将，藤井正大，宮城泰雄，石井庸介，山田研一，別所竜蔵，清水一雄：Redo

CABGに対する術式の工夫：胸骨再切開を回避するOPCAB. 日本冠疾患学会雑誌 2006；3：183-187.

- 5) 清水一雄：内分泌外科領域における小切開・鏡視下手術の最新の知見. 第3回小切開・鏡視下手術研究会論文集 2008；12-20.

追加分症例報告：

- 1) Maruyama Y, Yamauchi S, Ogasawara H, Imura H, Ochi M, Shimizu K：Surgical experience of subacute pulmonary thromboembolism with severe pulmonary hypertension. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2006；12 (1)：60-62.
- 2) Maruyama Y, Ochi M, Bessho R, Yamada K, Ishii Y, Fujii M, Tamura K¹⁾, Shimizu K (1) Department of Pathology, Nippon Medical School)：Rupture of a normal-sized, non-dissected distal arch aortic arch in a Marfan patient. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2006；12 (6)：438-440.

追加分総説：

- 1) 山下浩二, 清水一雄, 芳賀駿介：3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検と選択的腋窩郭清. *Multislice CT Book 2009, 映像情報Medical* 2007；41 (7)：97-102.

(1) 原著：

- 1) Fukushima M¹⁾, Ito Y¹⁾, Hirokawa M²⁾, Kobayashi K¹⁾, Miya A¹⁾, Takamura Y¹⁾, Akasu H, Shimizu K, Miyauchi A¹⁾ (1) Department of Surgery, Kuma Hospital, Kobe, Hyogo, Japan, (2) Department of Pathology, Kuma Hospital, Kobe, Hyogo, Japan)：Macrofollicular variant of papillary thyroid carcinoma：its clinicopathological features and long-term prognosis. *Endocr J* 2009；56 (3)：503-508.
- 2) Imura H¹⁾, Caputo M²⁾, Lim K²⁾, Ochi M¹⁾, Suleiman-M S²⁾, Shimizu K¹⁾, Angelini-D G²⁾ (1) Department of Surgery, Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, (2) Bristol Heart Institute, Bristol University)：Pulmonary injury after cardiopulmonary bypass：beneficial effects of low frequency mechanical ventilation. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2009；137 (6)：1530-1537.
- 3) Yamashita K, Shimizu K：Video-Assisted Breast Surgery can Sample the Second and Third Sentinel Nodes to Omit Axillary Node Dissection for Sentinel Node Positive Patients. *Surgical Endoscopy* 2009；23 (7)：1574-1580.
- 4) Haraguchi S, Koizumi K, Tanimura S, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Kubokura H, Shimizu K：Surgical results of lung cancer associated with postobstructive pneumonia. *Annals Thoracic Cardiovascular Surgery* 2009；15：297-303.
- 5) 五十嵐健人, 清水一雄：内視鏡下甲状腺切除術の臨床と医療経済. *イザイ* 2009；11 (11)：18-20.
- 6) 山下浩二, ヘイムス (山田) 規予美, 軸蘭智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 清水一雄：経腋窩乳腺後方アプローチTARM-VABSによる鏡視下乳腺内側部分切除法. *小切開・鏡視手術学会雑誌 1, 第3回小切開・鏡視下手術研究会論文集* 2009；1 (1)：103-107.

(2) 総説：

- 1) 新田 隆：心房細動の治療ガイドラインをめぐる：心房細動の外科治療. *ICUとCCU* 2009；33 (4)：279-286.
- 2) 清水一雄：副甲状腺腫瘍に対する外科治療. *ホルモンと臨床* 2009；57 (5)：31-37.
- 3) 石井庸介, 新田 隆：外科用アブレーションデバイスを用いた新しい心房細動手術. *最新医学* 2009；64 (8)：1716-1721.
- 4) 清水一雄：内視鏡補助下内分泌頸部手術：VANS法の現状：適応と問題点を中心として. *内分泌・糖尿病科* 2009；29 (3)：263-270.
- 5) 原口秀司, 小泉 潔：のう胞性肺疾患とその周辺疾患：診断と治療3) 肺分画症. *呼吸器科* 2009；15：296-

302.

- 6) 落 雅美：「成人期に於ける川崎病冠動脈瘤の外科治療をみる：動脈グラフトを使用したCABGの有効性について」. *Vascular Medicine* 2010 ; 6 : 42-49.

(3) proceeding :

- 1) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Jikuzono T, Hames K, Akaishi J, Takema Y : Gasless endoscopic thyroid and parathyroid surgery using lifting procedure : appropriate techniques for cosmetic improvement and prevention of complications based on 420 cases experience. *World Journal of Surgery* 2009 ; 33.

(4) 症例報告 :

- 1) Fallouh BH¹, Venugopal SP¹, Chambers JA¹, Govewalla P¹, Maruyama Y, Bhusari S² (¹ Cardiac Surgical Research, The Rayne Institute, St. Thomas' Hospital, London, United Kingdom, ² Morrision Hospital, Swansea, United Kingdom) : Large subpectoral hematoma : Possible complication of sternotomy post-cardiac surgery. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2009 ; 15 (3) : 192-193.
- 2) Yoshino N¹, Kubokura H¹, Yamauchi S², Oaki Y³, Koizumi K¹, Shimizu K¹ (¹ Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, ² Deptment of Thoracic Surgery, Shirakawa Hospital, ³ Deptment of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Type B3 Thymic Epithelial Tumor in an Adolescent Detected by Immunohistochemical Staining for CD5, CD99, and KIT (CD117) : A Case Report. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2009 ; 15 (5) : 324-327.
- 3) Imura H¹, Sakamoto S¹, Maruyama Y¹, Ochi M¹, Shimizu K¹ (¹ Department of Surgery, Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Two-patch repair for atrioventricular septal defect with mitral aneurysm. *Ann Thorac Surg* 2009 ; 88 (4) : 1341-1343.
- 4) Yoshino N¹, Yamagishi S¹, Kubokura H¹, Mikami I¹, Hirata T¹, Koizumi K¹, Okano T², Futagami A³, Kawamoto M⁴, Shimizu K¹ (¹ Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, ² Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ³ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ⁴ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Mediastinal Lymph Node Metastasis of Lung Cancer with an Unknown Primary Lesion Having Concurrent Endocrine Abnormality and Acanthosis Nigricans : Report of a Case. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2009 ; 15 (6) : 397-400.
- 5) 竹内真吾¹, 平井恭二¹, 川島徹生², 小泉 潔³, 別所竜蔵¹, 清水一雄³ (¹ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管呼吸器外科, ² 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, ³ 日本医科大学付属病院 外科 呼吸器外科) : 奇形腫術後に発症した海綿状血管腫の1例. *日本呼吸器外科学会雑誌* 2010 ; 24 (2) : 206-209.

(5) Editorial comment :

- 1) Ochi M : "Multidisciplinary approach to severe coronary artery disease". *Circulation Journal* 2010 ; 74 : 426-427.
- 2) 落 雅美 : 冠動脈疾患のリスク管理について : 外科の立場からオープニング・リマークス. *J Jpn Coron Assoc* 2009 ; 15 : 178-179.

(6) Letter to the Editor :

- 1) Imura H¹, Ascione R², Suleiman-M S², Angelini-D G² (¹ Department of Surgery, Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, ² Bristol Heart Institute, Bristol University) : Lung ventilation/perfusion may reduce pulmonary injury during cardiopulmonary bypass. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2010 ; 139 (1) : 234-236.

著書

- 1) Yamashita K : [共著] 3D-CT Lymphography for Mapping Metastatic Breast Sentinel Node and Axillary Nodes. From Local Invasion to Metastatic Cancer : Involvement of Distant Sites through the Lymphovascular System (Stanley Leong), 2009 ; pp159-168, The Humana Press, Springer.
- 2) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 心房細動の外科治療. 新・心臓病診療プラクティス (吉川純一), 2009 ; pp271-277, 文光堂.
- 3) 小泉 潔 : [単著] イラストとDVDで学ぶ術式のポイント. カラーアトラス「胸腔鏡下肺癌手術」, 2009 ; 南江堂出版.
- 4) 落 雅美 : [共著] 「小児科臨床ピクシス 川崎病の全て」. 急性期心血管後遺症 巨大冠動脈瘤 : 外科的治療 (総編集 五十嵐隆 専門編集 石井正浩), 2009 ; pp145-147, 中山書店.
- 5) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 不整脈手術用 アブレーションデバイス. 胸部外科 特集 胸部外科手術を支えるテクノロジー, 2009 ; pp682-687, 南江堂.
- 6) 清水一雄 : [分担] 結節性甲状腺腫の診断. よくわかる甲状腺疾患のすべて (伴 良雄), 2009 ; pp60-68, 永井書店.
- 7) 新田 隆 : [分担] 孤立性心房細動の外科治療 : Protagonist. 不整脈2009 (杉本恒明・井上 博), 2009 ; pp181-191, メディカルレビュー社.
- 8) 新田 隆 : [分担] その他の心疾患 (大動脈弁狭窄症, 僧帽弁逸脱症候群, 人工弁術後). 新しい診断と治療のABC - 心臓突然死 (相澤義房), 2009 ; pp54-63, 最新医学社.
- 9) 新田 隆, 石井庸介, 坂本俊一郎 : [分担] 手術の適応と実際. 最新医学 別冊「新しい診断と治療のABC : 心房細動」 (笠貫 宏), 2009 ; pp234-242, 最新医学社.
- 10) 清水一雄 : [分担] 9. クッシング症候群. 経静脈治療オーダーマニュアル (小川 龍・島崎修次・飯野靖彦・五十嵐隆・福島亮治), 2010 ; pp314-318, メディカルレビュー社.
- 11) 落 雅美 : [共著] 「心臓CTを活かす : 新しい冠動脈疾患診断戦略」. 心臓血管外科術前後の心臓CT - 術前情報として心臓CTに何を求めるか : 冠動脈CTとSPECTデータを用いた融合画像の有用性 (児玉和久・栗林幸夫・平山篤志・小室一成・上田恭敬・小松 誠), 2010 ; Medical View社.
- 12) 丸山雄二 : [分担] 虚血性心疾患の手術とケア. 心臓外科 術式別 術後ケア 早わかりガイド (落 雅美), 2010 ; pp45-78, メディカ出版.
- 13) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 肺静脈隔離術は有効な術式か?. (胸部外科 特集 心房細動に対する外科治療), 2010 ; pp279-283, 南江堂.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Akaishi J¹⁾, Kitagawa W¹⁾, Kameyama K²⁾, Suzuki A¹⁾, Nakayama H¹⁾, Yano Y¹⁾, Ohkuwa K¹⁾, Shibuya H¹⁾, Nagahama M¹⁾, Sugino K¹⁾, Shimizu K, Ito K¹⁾, Ito K¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Ito Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Keio Hospital) : Thyroid metastases of renal cell carcinoma in 13 patients undergoing surgery. The 20th Annual Meeting of Asian-pacific Endocrine Conference (Guam, USA), 2009. 1.
- 2) Hames YK, Jikuzono T, Igarashi T, Akasu H, Shimizu K : Recent Trends in Minimally Invasive Parathyroid Surgery. The 20th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Guam, USA), 2009. 1.
- 3) 赤石純子¹⁾, 北川 亘¹⁾, 渋谷 洋¹⁾, 亀山香織²⁾, 大桑恵子¹⁾, 矢野由希子¹⁾, 鈴木明彦¹⁾, 高山純一¹⁾, 中山博貴¹⁾, 杉野公則¹⁾, 長浜充二^{1, 3)}, 清水一雄, 伊藤公一^{1, 3)}, 伊藤國彦¹⁾ (¹⁾ 伊藤病院外科, ²⁾ 慶應大学病理,

- 3) 大須診療所)：転移性甲状腺平滑筋肉腫の1例。第40回日本甲状腺外科学会，2007。10。
- 4) 石川真士，赤須東樹，竹間由佳，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，山下浩二，清水一雄：異所性褐色細胞腫の検討。20回内分泌外科学会学術集会（仙台市），2008。6。
- 5) 赤須東樹，竹間由佳，Hames 規予美，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，山下浩二，清水一雄：縦隔内甲状腺腫の検討。20回内分泌外科学会（仙台市），2008。6。
- 6) 赤須東樹，Hames 規予美，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，山下浩二，清水一雄：VANS法におけるスコープ挿入用頸部側孔位置の重要性。3回小切開・鏡視下手術研究会（徳島市），2008。6。
- 7) 赤須東樹，早川朋宏，Hames 規予美，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，清水一雄：当科における縦隔内孤立性甲状腺腫の検討。第41回甲状腺外科学会（東京），2008。10。
- 8) 赤石純子¹⁾，北川 亘¹⁾，亀山香織²⁾，鈴木章史¹⁾，中山博貴¹⁾，矢野由希子¹⁾，大桑恵子¹⁾，渋谷 洋¹⁾，杉野公則¹⁾，長浜充二¹⁾，清水一雄，伊藤國彦¹⁾，伊藤公一^{1,3)}（¹⁾伊藤病院外科，²⁾慶應大学病理，³⁾大須診療所)：転移性甲状腺腫瘍23症例についての検討。第51回日本甲状腺学会，2008。11。
- 9) 赤須東樹，早川朋宏，Hames 規予美，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，清水一雄：種々の褐色細胞腫。第70回日本臨床外科学会総会（東京），2008。11。
- 10) Hames 規予美，軸菌智雄，五十嵐健人，赤須東樹，清水一雄：当科における副甲状腺腫手術症例の検討。第70回日本臨床外科学会総会（東京），2008。11。
- 11) 鈴木大悟，落 雅美，丸山雄二，田上素子，栗田二郎，白川 真，坂本俊一郎，大森裕也，井村 肇，清水一雄：開心術に使用した止血貼付剤に由来する心外腫瘍による収縮性心膜炎に対する一手術例。第23回心臓血管外科ウィンターセミナー（長野），2009。1。

(1) 特別講演：

- 1) 清水一雄：「吊り上げ法を応用した内視鏡補助下甲状腺手術：420例の経験に基づく術式の工夫と成績」。北北海道耳鼻咽喉科懇話会（第33回），2009。5。
- 2) 新田 隆：心房細動の外科治療。小杉循環器FORUM（第14回），2009。6。
- 3) 新田 隆：心房細動手術後の不整脈に対する周期期対策。兵庫医科大学特別講演会，2009。6。
- 4) 新田 隆：心房細動手術の最近の動向。湘南アブレーション・コミッティー（第9回），2009。7。
- 5) 新田 隆：不整脈の外科治療。北総循環器フォーラム（第2回），2009。7。
- 6) 小泉 潔：「びまん性肺疾患に合併した肺癌に対する外科治療」。福岡胸部外科研究会（第10回），2009。7。
- 7) 小泉 潔：「基本外科の手技と胸腔鏡下手術」。九州内視鏡外科研究会（第19回），2009。9。
- 8) 小泉 潔：「基本外科の手技と胸腔鏡下手術」。北陸呼吸器外科アーベント，2009。9。
- 9) 新田 隆：心房細動の外科治療。京滋心臓血管外科セミナー（第11回），2009。10。
- 10) 新田 隆：心房細動手術のコツと落とし穴。東北心臓血管外科手術手技研究会（第19回），2009。11。

(2) 招待講演：

- 1) Nitta T：Intraoperative Verification of Conduction Block in AF surgery. Five-Continent International Symposium on Cardiovascular Disease (Beijing, China), 2009。4。
- 2) Nitta T：AF surgery concomitant to other cardiac procedures. The 2nd Asia Pacific Heart Rhythm Association (Beijing, China), 2009。10。
- 3) 新田 隆：心房細動手術のコツと落とし穴。信州大学講演会，2009。4。

(3) 教育講演：

- 1) 石井庸介，新田 隆，仁科 大，川瀬康裕，落 雅美，別所竜蔵，清水一雄：Irrigation vs. dry ablation. 不整脈外科研究会（第23回）（富山），2009。4。
- 2) 石井庸介，新田 隆，仁科 大，川瀬康裕，神戸 将，落 雅美，別所竜蔵，清水一雄：心房細動手術におけ

- る外科用アブレーションデバイスの功罪. 関西胸部外科学会学術集会 (第52回) (岡山), 2009. 6.
- 3) 新田 隆: 心房細動手術. 関西心臓外科手術手技研究会 (第20回), 2009. 7.
 - 4) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 北海道心臓の会 (第12回), 2009. 9.
 - 5) 石井庸介: 肺静脈隔離術の実際: コツと落とし穴. Advanced Technology in Cardiovascular Surgery (第6回) (東京), 2009. 9.
 - 6) 落 雅美: 「外科治療を必要とする 血管病変」. 千代田線代謝研究会 (第7回), 2009. 11.
- (4) シンポジウム:
- 1) Kazuo S: The role of ultrasonography and elastography in thyroid nodules. MALAYSIAN THYROID SURGERY SYMPOSIUM (Malaysia), 2009. 4.
 - 2) Kazuo S: Surgical management of well differentiated thyroid carcinoma. MALAYSIAN THYROID SURGERY SYMPOSIUM (Malaysia), 2009. 4.
 - 3) Shimizu K: Endoscopic neck surgery. MALAYSIAN THYROID SURGERY SYMPOSIUM (Malaysia), 2009. 4.
 - 4) Yamashita K, Shimizu K, Haga S, Akasu H, Igarashi T, Jikuzono T, Hames-Yamada K, Iida S: 3D-CT Mammary Lymphography Can Help Selective Axillary Dissection of Breast Lymph Flow Deferred From the Arm. Breast Surgery International, International Surgical Week ISW 2009 (第43回) (Adelaide, Australia), 2009. 9.
 - 5) Yamashita K, Haga S, Shimizu K: Sentinel Node Biopsy After Preoperative Systemic Therapy for Breast Cancer is an Eligible Indicator for Axillary Preservation by 3D-CT Lymphography. 20th Asia Pacific Cancer Conference (第20回) (Tsukuba, Japan), 2009. 11.
 - 6) Masami O: "Current coronary revascularization=PCI? or CABG? For multivessel disease w/o left main trunk lesion". Sendai/New Tokyo live conference (第2回) (Chiba), 2009. 11.
 - 7) Masami O: Surgery for thyroid cancer "Vascular problem in the neck surgery". Annual meeting of the Asian Association of Endocrine surgeons (第12回) (Tokyo), 2010. 3.
 - 8) Kobayashi Y¹⁾, Shimizu A²⁾, Nitta T, Miyauchi Y¹⁾, Aonuma K³⁾ (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) Nippon Medical School, (2) Yamaguchi University, (3) Tsukuba University): APHRS/JHRS Joint Symposium: Current status of the implantable device therapy for cardiac arrhythmias in Japan. 日本不整脈学会 (第24回), 2009. 7.
 - 9) 落 雅美: DES時代の冠血行再建: PCIとCABG」冠血行再建: 外科医に与えられた役割を考える. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第14回), 2009. 7.
 - 10) 丸山雄二, 落 雅美, 田上素子, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 多枝OPCABにおけるグラフトデザインと中期成績の検討: GEAの使用法とその有効性について. 第14回日本冠動脈外科学会学術大会 (熊本), 2009. 7.
 - 11) 長嶺義哲¹⁾, 清水一雄, 北川 亘²⁾ (1) 特定医療法人仁愛会 外科, (2) 伊藤病院 外科): 一般病院における内視鏡補助下甲状腺手術 (VANS法) 46例の経験. 小切開・鏡視外科学会 (第1回), 2009. 8.
 - 12) 片山昭公¹⁾, 駒林優樹¹⁾, 岸部 幹¹⁾, 清水一雄, 原測保明¹⁾ (1) 旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): VANS法正中アプローチによる甲状腺摘出術の経験. 小切開・鏡視外科学会 (第1回), 2009. 8.
 - 13) 宮脇佳世, 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸蘭智雄, ヘイムス規予美, 竹間由佳: 吊り上げ法を応用した内視鏡補助下手術法 (VANS法) にて摘出したextra thyroidal noduleの1例. 小切開・鏡視外科学会 (第1回), 2009. 8.
 - 14) 山下浩二, 芳賀駿介, 清水一雄: 経腋窩乳腺後方アプローチTARMによる鏡視下乳腺手術の低浸襲と整容性. 小切開・鏡視外科学会 (第1回) (大阪), 2009. 8.

- 15) 清水一雄：女性医師のさらなる活躍を目指して－管理者の視点より．日本医療・病院管理学会（第47回），2009. 10.
- 16) 五十嵐健人，赤須東樹，岡村律子，宮脇佳世，清水一雄：甲状腺濾胞癌に対する手術と術後病理診断に基づく治療方針の問題点．日本外科病理学会学術集会（第14回）（福島市），2009. 10.
- 17) 原口秀司，平井恭二，三上 徹，窪倉浩俊，川島徹生，木下裕康，榎本 豊，岡本淳一，中島由貴，竹内真吾，谷村繁雄，小泉 潔，清水一雄：肺尖部胸壁浸潤肺癌に対する外科的戦略．日本臨床外科学会総会（第71回）（京都），2009. 11.
- 18) 岡村律子¹⁾，宮脇佳世¹⁾，ヘイムス規予美¹⁾，竹間由佳¹⁾，軸菌智雄¹⁾，五十嵐健人¹⁾，赤須東樹¹⁾，清水一雄¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科学内分泌外科部門）：女性外科医を増やすために（少しの意識改革を！）．日本臨床外科学会総会（第71回）（京都市），2009. 11.
- 19) Hames 規予美，清水一雄：アメリカでの出産・育児から：帰国後の大学病院勤務まで：性別を問わない育児支援体制．第71回日本臨床外科学会総会（京都），2009. 11.
- 20) 原口秀司，小泉 潔，谷村繁雄，平井恭二，三上 徹，窪倉浩俊，川島徹生，木下裕康，榎本 豊，岡本淳一，中島由貴，竹内真吾，清水一雄：肺癌に対する内視鏡手術の長期成績．日本内視鏡外科学会総会（第22回）（東京），2009. 12.
- 21) 山下浩二，赤須東樹，五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，柳原恵子，飯田信也，芳賀駿介，清水一雄：3D-CTリンパ管造影に基づいた内視鏡的センチネルリンパ節生検．御茶の水乳腺研究会（第19回）（東京），2010. 2.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 石井庸介，新田 隆，仁科 大，川瀬康裕，落 雅美，別所竜蔵，清水一雄：Intraoperative verification of conduction block in atrial fibrillation surgery．日本心臓血管外科学会（第39回）（富山），2009. 4.
- 2) 山下浩二，清水一雄，赤須東樹，五十嵐健人，ヘイムス（山田）規予美，軸菌智雄，柳原恵子，飯田信也，芳賀駿介：3D-CTリンパ管造影による上肢由来リンパ路の描出と内視鏡的選択的腋窩郭清．日本乳癌学会学術総会（第17回）（東京），2009. 7.
- 3) 清水一雄：女性外科医を増やすために．日本臨床外科学会（第71回），2009. 11.
- 4) 五十嵐健人，中村慶春¹⁾，赤須東樹，岡村律子，宮脇佳世，山下浩二，内田英二¹⁾，清水一雄（¹⁾ 日本医科大学外科・消化器外科）：当科における腹腔鏡下副腎手術の現状．日本内視鏡外科学会総会（第22回）（東京），2009. 12.
- 5) 平井恭二¹⁾，竹内真吾¹⁾，別所竜蔵¹⁾，小泉 潔²⁾，清水一雄²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科，²⁾ 日本医科大学外科学）：当科における開胸移行へのタイミングの判断基準と移行症例についての検討．第22回日本内視鏡外科学会総会（東京），2009. 12.
- (6) セミナー：
- 1) 石井庸介：不整脈コース（アブレーション）．日本胸部外科学会定期学術集会（第62回）（横浜），2009. 10.
- (7) ランチョンセミナー：
- 1) 新田 隆：左室形成術の現状と展望．日本心臓病学会（第57回），2009. 9.
- (8) ワークショップ：
- 1) 軸菌智雄¹⁾，川本雅司³⁾，村瀬幸宏³⁾，渡会泰彦³⁾，五十嵐健人¹⁾，赤須東樹¹⁾，山下浩二²⁾，原田 大³⁾，土屋眞一³⁾，清水一雄¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科学・内分泌外科，²⁾ 日本医科大学外科学・乳腺外科，³⁾ 日本医科大学病理部）：甲状腺細胞診新報告様式：鑑別困難であった濾胞性腫瘍の病理組織診断結果の検討．日本臨床細胞学会総会春季大会（第50回）（東京），2009. 6.
- 2) 石井庸介，新田 隆，仁科 大，川瀬康裕，落 雅美，別所竜蔵，清水一雄：Irrigation vs. Dry ablation．日本胸部外科学会定期学術集会（第62回）（横浜），2009. 10.
- 3) 五十嵐健人，赤須東樹，岡村律子，宮脇佳世，軸菌智雄，竹間由貴，ヘイムス規予美，村野光和，山下浩二，

清水一雄：甲状腺癌に対する内視鏡補助下手術（VANS法）の検討．日本臨床外科学会総会（第71回）（京都），2009．11．

(9) サージカルフォーラム：

- 1) 山下浩二，赤須東樹，五十嵐健人，軸菌智雄，ヘイムス（山田）規予美，柳原恵子，飯田信也，芳賀駿介，清水一雄：術前化学療法後3D-CTリンパ管造影ガイド下のセンチネルリンパ節生検3D-CT Lymphography Guides the Sentinel Node Biopsy after Preoperative Systemic Chemotherapy．日本外科学会学術総会（第109回）（福岡），2009．4．
- 2) 山下浩二，赤須東樹，五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，柳原恵子，飯田信也，芳賀駿介，清水一雄：術前化学療法後3D-CTリンパ管造影によるセンチネルリンパ節転移の予測．日本臨床外科学会総会（第71回）（京都），2009．11．

(10) 一般講演：

- 1) Akasu H, Hames K, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Yamashita K, Shimizu K : Role of the scopist of VANS method. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (横浜市),
- 2) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : Internal mammary Sentinel Node Can Be Precisely Detected by 3D-CT Lymphography. 33rd Annual Symposium of American Society of Breast Disease (第33回) (Chicago, IL, USA), 2009. 4.
- 3) Murata H¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Ohara T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Ueno A¹⁾, Okazaki R¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Matsumoto A¹⁾, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾, Nitta T, Ohmori H, Amano Y, Takayama M¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) Nippon Medical School) : Electroanatomical mapping-guided endocardial and epicardial ablation of sustained ventricular tachycardia following percutaneous transluminal septal myocardial ablation in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy. The 30th Heart Rhythm (Boston, MA, USA), 2009. 5.
- 4) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : 3D-CT Mammary Lymphography Shows Direct Link Between Tumor and Sentinel Node without Way of Periareolar Plexus According to Tumor Location. 3rd Internal Symposium on Cancer Metastasis and the Lymphovascular System : Basis for Rational Therapy (第3回) (San Francisco, CA, USA), 2009. 5.
- 5) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : Sentinel and axillary nodes of the breast distinguished from those of the arm by 3D-CT lymphography and selectively dissected by endoscopic surgery. 45th annual meeting of the American Society of Clinical Oncology (第45回) (Orlando, FL, USA), 2009. 5.
- 6) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Hames K, Jikuzono T, Murano M, Miyawaki K, Takema Y, Yamashita K : Which Patient in Thyroid Malignancy is Possible and Suitable Indication for Endoscopic Total Thyroidectomy and Lymph Node Dissection?. 17th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (Czech Republic), 2009. 6.
- 7) Yamashita K, Akasu H, Igarashi T, Jikuzono T, Hames-Yamada K, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Shimizu K : Video-Assisted Breast Surgery and Internal Mammary Sentinel Node Biopsy Guided by 3D-CT Lymphography. 17th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (第17回) (Prague, Czech Republic), 2009. 6.
- 8) Haraguchi S, Nakajima Y, Kinoshita H, Mikami I, Koiumi K, Shimizu K : Prognosis and survival after surgery for lung cancer based on the proposed new TNM classification in the forthcoming edition of the TNM Classification of Malignant Tumours : Nippon Medical School Group' s experience. World Conference on Lung Cancer (13th) (San Francisco), 2009. 8.
- 9) Haraguchi S, Nakajima Y, Kinoshita H, Mikami I, Koizumi K, Shimizu K : Prognosis and survival after

- surgery for lung cancer based on the proposed new TNM classification in the forthcoming edition of the TNM Classification of Malignant Tumours : Nippon Medical School Group' s experience. World Conference on Lung Cancer (13th) (San Fransisco), 2009. 8.
- 10) Yamashita K, Shimizu K, Haga S, Akasu H, Igarashi T, Jikuzono T, Hames-Yamada K, Iida S : 3D-CT lymphography guides the sentinel node biopsy after preoperative systemic chemotherapy. The Joint 15th Congress of the European CanCer Organisation and 34th Congress of the European Society of Medical Oncology (ECCO 15/ESMO 34) (第34回) (Berlin, Germany), 2009. 9.
 - 11) 宮脇佳世, 赤須東樹, 岡村律子, 五十嵐健人, 清水一雄 : バセドウ病術後に逆たこつぼ型心筋症による急性心不全を来した1例. 第二回大江戸内分泌手術手技懇話会 (東京), 2009. 9.
 - 12) Igarashi T, Jikuzono T, Akasu H, Yamasita K, Shimizu K : Endoscopic thyroid surgery for malignant disease : Application and Indication. ISW2009 (Adelaide, Australia), 2009. 9.
 - 13) Yamashita K, Shimizu K, Haga S, Akasu H, Igarashi T, Jikuzono T, Hames-Yamada K, Iida S : Sentinel and axillary nodes of the breast distinguished from those of the arm by 3D-CT lymphography and selectively dissected by endoscopic surgery. 2009 Breast Cancer Symposium of ASCO (San Francisco, CA, USA), 2009. 10.
 - 14) Akasu H, Miyawaki K, Jikuzono T, Okamura R, Igarashi T, Yamashita K, Shimizu K : Importance of scopists' manipulation in VANS (Video-assisted Neck Surgery) method. The 21th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Taipei, Taiwan), 2010. 1.
 - 15) Igarashi T, Jikuzono T, Miyawaki K, Akasu H, Shimizu K : Endoscopic Thyroid Surgery for Malignant Disease by Using Video-Assisted Neck Surgery (VANS) Method. Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (21st) (Taipei, Taiwan), 2010. 1.
 - 16) Yamashita K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Miyawaki K, Jikuzono T, Hames-Yamada K, Yanagihara K, Iida S, Kumita IS, Haga S, Shimizu K ⁽¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Endoscopic Sentinel Node Biopsy Can Be Facilitated by SPECT-fused 3D-CT Mammary Lymphography. 12th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (第12回) (東京), 2010. 3.
 - 17) 赤須東樹, 竹間由佳, Hames 規予美, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄 : 縦隔内甲状腺腫の検討.
 - 18) 赤石純子¹⁾, 北川 亘¹⁾, 亀山香織²⁾, 鈴木章史¹⁾, 中山博貴¹⁾, 矢野由希子¹⁾, 大桑恵子¹⁾, 渋谷 洋¹⁾, 長浜 充二¹⁾, 杉野公則¹⁾, 清水一雄, 伊藤國彦¹⁾, 伊藤公一^{1,3)} (¹⁾ 伊藤病院外科, ²⁾ 慶應大学病理, ³⁾ 大須診療所) : 腎細胞癌から甲状腺に転移をきたした14症例についての検討. 第109回日本外科学会, 2009. 4.
 - 19) 原口秀司, 小泉 潔, 谷村繁雄, 平田知己, 平井恭二, 斉藤祐二, 窪倉浩俊, 川島徹生, 岡田大輔, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内真吾, 清水一雄 : 残存肺摘除術の臨床的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (京都), 2009. 4.
 - 20) 軸菌智雄¹⁾, 赤須東樹¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 岡村律子¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 山下浩二³⁾, 川本雅司²⁾, 土屋眞一²⁾, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科学・内分泌外科, ²⁾ 日本医科学病理部, ³⁾ 日本医科大学外科学・乳腺科) : 甲状腺乳頭癌のT1b症例におけるDリンパ節郭清の妥当性についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
 - 21) 井村 肇¹⁾, 仁科 大¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 栗田次郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 外科学 (内分泌・呼吸器・心臓血管)) : 重症脳血管障害患者に対する冠動脈バイパス手術 : 脳外科医による術前gradingと術中管理の重要性. 日本外科学会 (福岡県福岡市), 2009. 4.
 - 22) 井村 肇¹⁾, 仁科 大¹⁾, 大森裕也¹⁾, 坂本俊一郎¹⁾, 丸山雄二¹⁾, 白川 真¹⁾, 栗田次郎¹⁾, 藤井正大¹⁾, 新田

- 隆¹，落 雅美¹，清水一雄¹ (1) 日本医科大学 外科学 (内分泌・呼吸器・心臓血管)：重症脳血管病変に対する off-pump CABG：術前脳血管 grading とそれに応じた術中血行動態管理の有用性. 日本心臓血管外科学会 (富山県富山市)，2009. 4.
- 23) 赤須東樹，ヘイムス規予美，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，山下浩二，清水一雄：バセドウ病に対する VANS法による内視鏡下手術の適応の検討 (最新の症例経験を中心に). 109回外科学会 (福岡)，2009. 4.
- 24) 赤須東樹，五十嵐健人，岡村律子，軸菌智雄，清水一雄：橋本病に対する手術治療. 第1回大江戸内分泌手術手技懇話会 (東京)，2009. 4.
- 25) 丸山雄二，Chambers JD¹，別所竜蔵，藤井正大²，仁科 大²，落 雅美，清水一雄 (1) Cardiac Surgical Research, St. Thomas' Hospital, King' s College London, London, United Kingdom, 2) 浦添総合病院 心臓血管外科)：Does ischemic postconditioning improve myocardial protection after St Thomas' Hospital cardioplegia?. 第109回日本外科学会定期学術集会 (福岡)，2009. 4.
- 26) 丸山雄二，落 雅美，田上素子，白川 真，栗田二郎，坂本俊一郎，大森裕也，井村 肇，新田 隆，清水一雄：DES時代のCABG：多枝OPCABの中期成績. 第39回日本心臓血管外科学会学術総会 (富山)，2009. 4.
- 27) 五十嵐健人，赤須東樹，川口常昭¹，関根鉄朗²，軸菌智雄，ヘイムス規予美，早川朋宏，新開康弘¹，丸山隆利¹，汲田伸一郎²，清水一雄 (1) (株) 日立製作所，2) 日本医科大学 放射線科)：半導体カメラを用いた副甲状腺機能亢進症局在診断の有用性についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回) (博多市)，2009. 4.
- 28) Hames YK, Saffitz JJ¹，Nitta T, Shimizu K (1) Harvard Medical School, Beth Israel Deaconess Medical Center, Department of Pathology)：心筋症の心筋細胞間結合からみた不整脈発生の機序. 第109回日本外科学会定期学術集会 (福岡)，2009. 4.
- 29) 赤石純子¹，北川 亘¹，亀山香織²，矢野由希子¹，渋谷 洋¹，長浜充二¹，杉野公則¹，清水一雄，伊藤國彦¹，伊藤公一^{1,3} (1) 伊藤病院外科，2) 慶應大学病理，3) 大須診療所)：甲状腺未分化癌と低分化癌の臨床病理学的比較検討. 第21回日本内分泌外科学会，2009. 5.
- 30) 宮内靖史¹，小林義典¹，岩崎雄樹¹，岡崎怜子¹，村田茂茂¹，山本哲平¹，松本綾乃¹，上野 亮¹，加藤貴雄¹，水野杏一¹，新田 隆，大森裕也，新 博次²，山内康照³ (1) 日本医科大学第一内科，2) 日本医科大学多摩永山病院第一内科，3) 武蔵野赤十字病院循環器科)：複雑な3次元的リエントリーが推定された肥大型心筋症に伴う持続性心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第39回)，2009. 5.
- 31) 岡田大輔，原口秀司，木下裕康，竹内真吾，中島由貴，川本雅司¹，秋山博彦²，三上 巖²，吉野直之²，飯島慶仁²，小泉 潔，清水一雄 (1) 日本医科大学付属病院病理部，2) 埼玉県立がんセンター胸部外科)：当科で経験したPleomorphic carcinomaの5症例. 第26回日本呼吸器外科学会総会 (西日本総合展示場・北九州国際会議場)，2009. 5.
- 32) 原口秀司，秋山博彦，平田知己，平井恭二，三上 巖，岡田大輔，川島徹生，吉野直之，木下裕康，榎本 豊，岡本淳一，中島由貴，竹内真吾，飯島慶仁，谷村繁雄，その他2名：新肺癌病期分類の妥当性の検証. 日本呼吸器外科学会総会 (第26回) (京都)，2009. 5.
- 33) 吉野直之¹，飯島慶仁¹，三上 巖¹，秋山博彦¹，小泉 潔²，清水一雄² (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科，2) 日本医科大学付属病院外科学講座呼吸器外科)：原発性肺癌に対する二葉切除症例の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (26回) (北九州市)，2009. 5.
- 34) 竹内真吾²，平井恭二²，原口秀司¹，岡田大輔³，川島徹生⁴，山岸茂樹⁵，木下裕康¹，中島由貴¹，小泉 潔¹，清水一雄¹ (1) 日本医科大学 付属病院 外科 呼吸器外科，2) 日本医科大学 千葉北総病院 胸部心臓血管呼吸器外科，3) 埼玉県立がんセンター 胸部外科，4) 日本医科大学 多摩永山病院，5) 会津中央病院 呼吸器科)：当教室における悪性胸膜中皮腫症例の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (北九州)，2009. 5.
- 35) 赤須東樹，ヘイムス規予美，軸菌智雄，岡村律子，五十嵐健人，山下浩二，清水一雄：当科におけるバセドウ

- 病に対する内視鏡手術の適応と術式. 21回内分泌外科学会 (岡山), 2009. 5.
- 36) 五十嵐健人, 渡邊 淳, 赤須東樹, 軸菌智雄, 岡村律子, 山下浩二, 島田 隆, 清水一雄⁽¹⁾ 日本医科大学 遺伝診療科): 多発性内分泌腺腫症 (MEN) における発症前診断と外科治療の問題点. 日本内分泌外科学会 (第21回) (岡山市), 2009. 5.
- 37) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 外科学講座): 当科における前縦隔腫瘍の治療戦略について. 第26回日本呼吸器外科学会総会 (北九州), 2009. 5.
- 38) 山崎智弘, 田守唯一, 副島洋行, 岡崎 修, 檜田光夫, 蟹江道昭¹⁾, 黒木健志, 茅田 浩, 青沼和隆²⁾, 新田隆 (¹⁾ 国立国際医療センター戸山病院循環器科, ²⁾ 筑波大学循環器内科): 左室瘤, 心内膜組織切除および開胸下クライオアブレーションが有効であった難治性心室頻拍の家族性拡張型心筋症の1例. 日本不整脈学会 (第24回), 2009. 7.
- 39) 山本哲平¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 村田広茂¹⁾, 松本綾乃¹⁾, 植竹俊介¹⁾, 坪井一平¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 八島正明¹⁾, 平山悦之¹⁾, 小林義典¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 新田 隆, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学第一内科): 心室再同期療法導入後のレスポンス予測における導入前血行動態評価の有用性. 日本不整脈学会 (第24回), 2009. 7.
- 40) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 芳賀駿介, 清水一雄: 内視鏡的乳腺部分切除術後のサージセルコットンを用いた乳房再建法の長期評価. 乳腺内視鏡手術研究会 (第23回) (東京), 2009. 7.
- 41) 赤須東樹, 宮脇佳世, 岡村律子, 五十嵐健人, 清水一雄: 前頸部内分泌手術における副甲状腺, 甲状腺腫瘍同定への光線力学的応用. 19回光線力学学会 (横浜市港北区日吉), 2009. 7.
- 42) 丸山雄二, 落 雅美, 井村 肇, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 阿部正徳¹⁾, 小川俊一¹⁾, 清水一雄 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 小児科): 川崎病冠動脈疾患に対する手術戦略. 第45回日本小児循環器学会総会・学術集会 (神戸), 2009. 7.
- 43) 鈴木美希, 原田寛子, 山脇博士, 宮脇佳世, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 山下浩二, 清水一雄: 男性化徴候を呈した副腎 black adenoma の1例. 外科集談会 (第814回), 2009. 9.
- 44) 山脇博士, 五十嵐健人, 宮脇佳代, 岡村律子, 赤須東樹, 清水一雄: バセドウ病の手術後に急性心不全を来した1例. 814回外科集談会, 2009. 9.
- 45) 山脇博士, 五十嵐健人, 宮脇佳世, 岡村律子, 赤須東樹, 清水一雄: バセドウ病の手術後に急性心不全を来した1例. 第77回日本医科大学医学会総会 (東京), 2009. 9.
- 46) 丸山雄二, 落 雅美, 清水一雄: 心拍動下バイパス手術. 臨床研修フォーラム循環器疾患Up-To-Date (東京), 2009. 9.
- 47) 二村浩史¹⁾, 山田 哲¹⁾, 二村 聡²⁾, 石井新哉³⁾, 神森 眞⁴⁾, 小野瀬裕之³⁾, 山田恵美子³⁾, 清水一雄 (¹⁾ 金地病院 外科, ²⁾ 福岡大学医学部病理学講座, ³⁾ 金地病院 内科, ⁴⁾ 東京女子医科大学 内分泌外科): 出血性副甲状腺嚢腫自然穿破による頸部皮下出血の1例. 日本甲状腺外科学会 (第42回), 2009. 10.
- 48) 村田広茂¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 林 明聡¹⁾, 植竹俊介¹⁾, 林 洋史¹⁾, 坪井一平¹⁾, 山本哲平¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 上野亮¹⁾, 堀江 格¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 平山悦之¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾, 新田 隆, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学第一内科): 検出感度以下の瘢痕内伝導が原因であった心房細動手術後のmultiple ATの1例. カテーテルアブレーション公開研究会 (第21回), 2009. 10.
- 49) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 芳賀駿介, 清水一雄: 術前化学療法後3D-CTリンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の可能性. 日本癌治療学会学術総会 (第47回) (横浜), 2009. 10.
- 50) 原口秀司, 秋山博彦, 平井恭二, 三上 徹, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 川島徹生, 吉野直之, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 谷村繁雄, 小泉 潔, 清水一雄: 肺癌術後の成績による新TNM分類の妥当性の検証. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第62回) (東京), 2009. 10.

- 51) 岡村律子¹⁾, 宮脇佳世¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座内分泌外科部門) : Pendred 症候群に合併した甲状腺乳頭癌の1例. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第42回) (名古屋), 2009. 10.
- 52) 赤須東樹, 宮脇佳世, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄 : 腎性副甲状腺機能亢進症に対するPTXにおける quick PTHの有用性. 42回甲状腺外科学会 (名古屋), 2009. 10.
- 53) 石井庸介, 新田 隆, 仁科 大, 川瀬康裕, 落 雅美, 別所竜蔵, 清水一雄 : 心房細動機序に応じたテイラーメイド心房細動手術は有効か?. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第62回) (横浜), 2009. 10.
- 54) 石井庸介, 新田 隆, 仁科 大, 川瀬康裕, 落 雅美, 別所竜蔵, 清水一雄 : 心房細動手術における高周波アブレーションデバイスの使用上の工夫. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第62回) (横浜), 2009. 10.
- 55) Hames 規予美, 清水一雄 : Academic Surgeonを目指す女性医師へ薦める内分泌外科. 第42回日本甲状腺外科学会学術集会 (名古屋), 2009. 10.
- 56) 宮脇佳世¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学付外科学講座・内分泌外科部門) : 甲状腺右葉後面に発生したextra thyroidal noduleに対し, 内視鏡補助下に摘出しえた1例. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第42回) (愛知県名古屋市), 2009. 10.
- 57) 五十嵐健人, 赤須東樹, 関根鉄朗¹⁾, 川口常昭²⁾, 岡村律子, 宮脇佳世, 竹間由佳, 軸菌智雄, ヘイムス規予美, 汲田伸一郎¹⁾, 清水一雄 (1) 日本医科大学放射線科, 2) 株式会社 日立製作所) : 半導体カメラを用いた副甲状腺機能亢進症術前局在診断の有用性について. 日本甲状腺外科学会 (第42回) (名古屋市), 2009. 10.
- 58) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科, 2) 日本医科大学 外科学講座) : 前縦隔腫瘍に対する胸腔鏡補助下腫瘍切除術. 第56回日本胸部外科学会総会 (横浜), 2009. 10.
- 59) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, ヘイムス規予美, 竹間由佳 : 甲状腺疾患に対する内視鏡補助下低侵襲手術 (VANS法) : 430例を超える経験に基づく有用性の評価. 日本甲状腺学会 (第52回), 2009. 11.
- 60) 岡田大輔¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 吉野直之¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 酒井 洋²⁾, 栗本太嗣²⁾, 須藤淳子²⁾, 宮永晃彦²⁾, 豊川優²⁾, 西村ゆう³⁾, 赤城 究⁴⁾, 小泉 潔, 清水一雄 (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 埼玉県立がんセンター呼吸器内科, 3) 埼玉県立がんセンター病理診断科, 4) 埼玉県立がんセンター腫瘍診断・予防科) : Gefitinib投与後, Salvage手術を施行した非小細胞肺癌3症例. 第50回日本肺癌学会総会 (東京, 京王プラザ), 2009. 11.
- 61) 原口秀司, 秋山博彦, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 川島徹生, 吉野直之, 木下裕康, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内真吾, 揖斐孝之, 谷村繁雄, その他2名 : 病理病期の検討による新肺癌病期分類の妥当性の検証. 日本肺癌学会総会 (第50回), 2009. 11.
- 62) 吉野直之¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 日本医科大学附属病院外科学講座呼吸器外科) : 縦隔リンパ節転移の術前評価が困難であった原発性肺癌の3症例. 日本肺癌学会総会 (第50回) (東京), 2009. 11.
- 63) 竹内真吾¹⁾, 平井恭二¹⁾, 川島徹生²⁾, 小泉 潔³⁾, 別所竜蔵¹⁾, 清水一雄³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院胸部心臓血管呼吸器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, 3) 日本医科大学附属病院 外科 呼吸器外科) : 胸腺組織内に発生した海綿状血管腫の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第151回) (東京), 2009. 11.
- 64) 赤須東樹, 宮脇佳代, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄 : 保存的治療中甲状腺乳頭癌の出現したPendred症候群の1症例. 第71回日本臨床外科学会学術集会 (京都), 2009. 11.
- 65) 赤須東樹, 西郡綾子, 宮脇佳世, 岡村律子, 五十嵐健人, 山下浩二, 清水一雄 : Video-Assisted Neck Surgery (VANS) 法手術420例の術後アンケート. 71回臨床外科学会 (京都), 2009. 11.

- 66) 鈴木大悟, 落 雅美, 丸山雄二, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 外腸骨静脈瘤による急性広範性肺血栓塞栓症の1例. 第151回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (東京), 2009. 11.
- 67) 宮脇佳世¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 岡村律子¹⁾, 軸菌智雄¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 竹間由佳¹⁾, 清水一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付外科学講座・内分泌外科部門): 甲状腺右葉後面に発生したextra thyroidal noduleに対し, 内視鏡補助下に摘出した1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都府京都市), 2009. 11.
- 68) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 外科学講座): 前縦隔悪性腫瘍に対する胸腔鏡補助下前側方開胸アプローチ手術について. 第50回日本肺癌学会総会 (東京), 2009. 11.
- 69) 西郡綾子¹⁾, 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, ヘイムス規予美, 軸菌智雄, 竹間由佳, Zeiden S (¹⁾ 日本医科大学): アンケート調査に基づく甲状腺・副甲状腺内視鏡手術の有用性の評価. 外科集談会 (第815回), 2009. 12.
- 70) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄: 内視鏡的乳腺部分切除術後の乳房再建法の長期評価. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回) (東京), 2009. 12.
- 71) 丸山雄二, 落 雅美, 鈴木大悟, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: OPCABにおけるグラフトデザイン: GEAの使用法. 第23回日本冠疾患学会学術集会 (大阪), 2009. 12.
- 72) 廣本敦之, 落 雅美, 丸山雄二, 鈴木大悟, 白川 真, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田隆, 清水一雄: 80歳以上超高齢者に対するOPCABの意義. 第23回日本冠疾患学会学術集会 (大阪), 2009. 12.
- 73) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 外科学講座): 浸潤型胸腺腫に対する胸骨吊り上げ式前側方開胸併用胸腔鏡下胸腺摘除術について. 第22回日本内視鏡外科学会総会 (東京), 2009. 12.
- 74) 井門京子¹⁾, 下島 桐¹⁾, 田辺彩夏¹⁾, 山谷清香¹⁾, 森 敬善¹⁾, 前澤秀之¹⁾, 江波戸美緒¹⁾, 東 祐圭¹⁾, 鈴木洋¹⁾, 嶽山陽一¹⁾, 新田 隆 (¹⁾ 昭和大学藤が丘病院循環器内科): 脳梗塞で発症し非持続性心室頻拍を合併した特発性左室心尖部心室瘤の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第215回), 2010. 2.
- 75) 栗田二郎¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾, 宮本正章²⁾, 高木 元²⁾, 太良修平²⁾, 水野杏一²⁾, 福嶋善光³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 田畑泰彦⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院機能制御再生外科学, ²⁾ 日本医科大学大学院器官機能病態内科学, ³⁾ 日本医科大学大学院臨床放射線医学, ⁴⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門生体材料学): 徐放化Platelet Rich Plasma (PRP) の血管新生効果の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第40回) (神戸 神戸国際展示場, 神戸国際会議場), 2010. 2.
- 76) 川瀬康裕, 仁科 大, 石井庸介, 別所竜蔵: 胸骨後横行結腸挙上再建による食道抜去後の冠動脈バイパス術. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第152回) (東京), 2010. 2.
- 77) 仁科 大, 川瀬康裕, 石井庸介, 別所竜蔵: 残存解離に対するステント内挿術後遠隔期に再解離をきたし外科学治療を要した1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第152回) (東京), 2010. 2.
- 78) 丸山雄二, 落 雅美, 鈴木大悟, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田隆, 清水一雄: 川崎病冠動脈疾患に対するCABGの遠隔成績. 第40回日本心臓血管外科学会 (神戸), 2010. 2.
- 79) 鈴木大悟, 落 雅美, 丸山雄二, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 清水一雄: 肺血栓塞栓症を契機に診断された外腸骨静脈瘤, 膝窩静脈瘤に瘤縫縮術を施行した2例. 第24回心臓血管外科ウィンターセミナー (長野), 2010. 2.
- 80) 石井庸介, 新田 隆, 坂本俊一郎, 仁科 大, 川瀬康裕, 落 雅美, 別所竜蔵, 清水一雄: マッピングに基づく心房細動手術. 不整脈外科研究会 (第24回) (神戸), 2010. 2.
- 81) 山下浩二, 宮脇佳世, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 汲田伸

一郎, 清水一雄⁽¹⁾ 日本医科大学 放射線科): SPECT合成3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の評価. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第8回) (東京), 2010. 3.

82) 平井恭二¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管・呼吸器外科, ²⁾ 日本医科大学 外科学講座): 前縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術. 第14回文京区呼吸器外科研究会 (東京), 2009. 4.

(11) Plenary session :

1) Ochi M, Maruyama Y, Imura H, Sakamoto S, Kurita J, Nitta T : “Those with left main trunk lesion and/or severe triple vessel disease should be candidates for surgical revascularization”. 日本循環器学会学術集会 (第74回), 2010. 3.

(12) デイバイトセッション :

1) 新田 隆 : Maze for selected patients. 日本心臓血管外科学会総会 (第40回), 2010. 2.

(13) 特別企画 :

1) 清水一雄 : 甲状腺悪性腫瘍に対する内視鏡補助下 (VANS法) 甲状腺全摘術および予防的リンパ節郭清術. 日本甲状腺外科学会 (第42回), 2009. 10.

[武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科]

研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科領域, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の臨床研究を中心としている。

1) 心臓血管外科領域: 開心術周術期における各種薬剤の薬理効果の評価, および心筋保護の確立に取り組んでいる。高齢者の心大血管症例の成績の向上を計るため術前・術後合併症の管理・治療法について検討し, 透析患者を含めた慢性腎臓病患者に対して周術期管理から遠隔期予後に関する研究も行っている。オフポンプ冠動脈バイパス手術では, β ブロッカーを使用した心筋保護効果および抗不整脈作用に関する臨床研究を行っている。大血管および末梢血管に対しては, 放射線科低侵襲血管内治療センター (IVRセンター) と密に連携をとり, 胸腹部大動脈瘤にたいするステントグラフト治療を含めた血管内治療と手術のハイブリットセラピーを行い, 診断・低侵襲治療について研究している。

2) 呼吸器外科領域: 原発性肺癌に関して, CD40を用いた術後補助免疫療法の有用性に対して基礎実験を行っている。また同じくCD40の特殊免疫染色法を確立し, これが肺癌における新たな転移マーカーとなりうるかをレトロスペクティブに検証している。画像上診断困難なGGOを含めた末梢小型肺腫瘍に対して, 胸腔鏡下超音波断層診断の有用性について新たに臨床研究として開始した。自然気胸においては, 胸腔鏡下ブラ切除術後の再発予防手段としてPGAシート被覆法の有用性について引き続き立証している段階である。

3) 乳腺・内分泌外科領域: 抗癌剤と染色体の関係を観察するために, 乳癌培養細胞を用いたFISH法と免疫蛍光染色を行い, 蛍光顕微鏡にて細胞個々の染色体を測定し, 細胞遺伝学的な基礎的実験を行っている。また間期細胞と凝集期細胞における染色体を観察し, 核分裂と染色体座の関係も研究する予定である。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演 :

1) Kuobokura H, Hioki M, Okamoto J, Orii K, Tenjin T, Koisuzmi K¹⁾, Shimizu K¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): Evaluacion Prevention Techniques against Postoprative Recurrence in Primary Spontaneous Pneumothorax. International Congress of the European Associateion for Endoscop-

- ic Surgery (17th) (Prague), 2009. 6.
- 2) Okamoto J, Hioki M, Kubokura H, Mikami I, Hirata T, Haraguchi S, Koizumi K¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): Prognostic factors in completely resected stage IB non-small cell lung cancer with a diameter of 4cm more. World Conference on Lung Cancer (13th) (San Francisco), 2009. 8.
 - 3) 織井恒安, 遠藤直哉, 富田剛志, 保科淑子, 家所良夫, 日置正文: 冠動脈バイパス手術遠隔期予後とeGFRからみたCKDの影響に関する検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第39回), 2009. 4.
 - 4) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 天神敏博, 家所良夫, 日置正文¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管外科・呼吸器部門): 腹部大動脈瘤術後遠隔期予後に対するCKDの影響について検討. 日本心臓血管外科学会総会 (第39回), 2009. 4.
 - 5) 大塚雅美, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 天神敏博, 日置正文, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 脱気療法中に乳糜胸を認めた右自然気胸の1症例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 (第128回), 2009. 4.
 - 6) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 木下裕康¹⁾, 織井恒安, 原口秀司¹⁾, 天神敏博, 日置正文, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 術前診断方法の違いによる肺癌の予後の差. 日本呼吸器外科学会総会 (第26回), 2009. 5.
 - 7) 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 織井恒安, 天神敏博, 日置正文: 下行大動脈瘤と左肺癌の一期的手術例. 外科集談会 (第813回), 2009. 6.
 - 8) 天神敏博, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 宅島美奈, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 織井恒安, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 乳癌培養細胞を用いた抗癌剤の小核試験. 日本サイトメトリー学会学術集会 (第19回), 2009. 6.
 - 9) 富田剛志, 天神敏博, 保科淑子, 遠藤直哉, 宅島美奈, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 織井恒安, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 巨大な膿瘍により乳癌の診断に難渋した1例. 日本乳癌学会学術総会 (第17回), 2009. 7.
 - 10) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 天神敏博, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 感染性心内膜炎との鑑別に難渋したシェーグレン症候群合併大動脈弁狭窄症の一治療例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第151回), 2009. 9.
 - 11) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 天神敏博, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 80歳以上高齢者における腹部大動脈瘤待機的手術症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回), 2009. 9.
 - 12) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 富田剛志, 保科淑子, 石井英昭¹⁾, 天神敏博, 日置正文, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門): 肺癌術後の10年後に偽中皮腫性肺癌として局所再発をきたした1症例. 日本肺癌学会総会 (第50回), 2009. 11.
 - 13) 岡本淳一, 日置正文, 窪倉浩俊, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 天神敏博¹⁾, 石井英明, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門): 迷走神経由来神経線維腫の1症例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第151回), 2009. 11.

[多摩永山病院呼吸器外科]

研究概要

多摩永山病院では2009年6月より呼吸器腫瘍内科が設立され呼吸器外科とともに呼吸器センターがスタートした。

これに伴い外来患者に対する呼吸器疾患の日常診療が可能になった。呼吸器外科の外来診療は月、水、金の週3日で、火、木を手術日とした。2009年の手術実績は原発性肺癌22例、転移性肺腫瘍8例、縦隔腫瘍8例、良性肺腫瘍9例、気胸33例、その他9例であり、合計手術件数は88例。臨床研究では2008年に引き続き、病理部門の協力を得て、術中迅速免疫染色細胞診の有用性について研究、報告した。基礎分野では肺癌制御におけるCD1脂質抗原提示系の役割について研究を行い、将来的には免疫療法の実用化をめざしている。2010年度には呼吸器外科が当院で独立した診療科としてスタートして、5年目を迎えることになり、がん治療における治療成績を公表、東京都認定がん診療病院としての責務を果たすべく、診療および研究に邁進する所存である。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 榎本 豊¹⁾、谷村繁雄¹⁾、齋藤祐二¹⁾、岩瀬裕美²⁾、片山博徳²⁾、前田昭太郎²⁾、小泉 潔³⁾、清水一雄⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, (3) 日本医科大学病院 外科・呼吸器外科, (4) 日本医科大学病院 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門))：呼吸器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性と迅速免疫染色について。日本呼吸器外科学会 (福岡), 2009. 5.
- 2) 榎本 豊¹⁾、谷村繁雄¹⁾、齋藤祐二¹⁾、岩瀬裕美²⁾、片山博徳²⁾、前田昭太郎²⁾、小泉 潔³⁾、清水一雄⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, (3) 日本医科大学病院 外科・呼吸器外科, (4) 日本医科大学病院 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門))：呼吸器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性と迅速免疫染色について。日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
- 3) 榎本 豊¹⁾、川島徹生¹⁾、谷村繁雄¹⁾、片山博徳²⁾、細根 勝²⁾、前田昭太郎²⁾、小泉 潔²⁾、五十嵐健人³⁾、清水一雄⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, (3) 日本医科大学 外科・呼吸器外科, (4) 日本医科大学 外科学 (内分泌, 心臓血管, 呼吸器部門))：頸部に存在した浸潤型胸腺腫の1例。肺癌学会関東部会, 2009. 11.
- 4) 榎本 豊¹⁾、川島徹生¹⁾、谷村繁雄¹⁾、片山博徳²⁾、細根 勝²⁾、前田昭太郎²⁾、小泉 潔²⁾、五十嵐健人³⁾、清水一雄⁴⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, (3) 日本医科大学 外科・呼吸器外科, (4) 日本医科大学 外科学 (内分泌, 心臓血管, 呼吸器部門))：頸部に存在した浸潤型胸腺腫の1例。日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2009. 11.

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成21年度当教室における論文業績は英文16編、和文14編の計34編であった。英文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍4編、他の脳腫瘍1編、脳血管障害2編、脊髄2編、整容3編、その他4編であり、基礎的研究6編、臨床的研究10編であった。これに、分担著書として24編、編集3編が加わる。学会発表は177回あり、内国際学会は17回であった。

一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を1件、厚生労働省科学研究費を2件取得している。また、昨年度から戦略的研究基盤形成支援事業の研究代表者の教室として活動している。当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。

また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術や脊髄脊椎等のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、従って業績も最も多い。経蝶形骨下垂体手術件数は2,300例を越え、さらに内視鏡単独手術も800例を越えた。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。脳血管障害は血管内治療の領域も含め、最近活動が活発になってきているが、千駄木地区の再開発のため十分な診療機器が備わっていないことが難点である。

一方、神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績が不十分であるといわざるを得ない。本学ではこの点を救急医学科が補っているといえる。さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もおり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。

また、最近脊髄グループや医学教育への取り組みに関する活躍が目立っている。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。

平成16年から実施された卒後研修制度を契機として、我国の医療制度の矛盾が顕在化したといえる。その一つが、いわゆるキツイ診療科の敬遠であり、脳神経外科もその例外ではない。事実、脳神経外科医療は地方から崩壊しつつあり、東京近郊にもその影響は現れ始めている。大学病院には教育と診療からは力を抜くことは出来ず、自ら研究面が犠牲になり始めている。まず、海外へ留学させる余力がなくなってきた。さらに、臨床医が2～3年じっくりと関連ある基礎研究をするという時間もなくなった。事実、学術論文の数は少しずつ減少してきている。それでも、当教室は本邦では屈指の研究レベルを保持しているが、マンパワーが回復されない限り、大きな飛躍は期待できない状況である。

学会主催としては、平成21年10月14日～16日に第68回日本脳神経外科学会学術総会を、また平成22年3月25日～28日に第83回日本内分泌学会学術総会を各々盛会裏に開催した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Sakai N, Kim K, Sanno N, Yoshida D, Teramoto A, Shibasaki T : Elavation of growth hormone-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid expression in growth hormone-secreting pituitary adenoma

with Gs α protein mutation. *Neurol Med Chir* 2008 ; 48 (11) : 481-488.

(1) 原著 :

- 1) Yamaguchi F, Takahashi H¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Navigation-assisted subcortical mapping : intraoperative motor tract detection by bipolar needle electrode in combination with neuronavigation system. *J Neurooncol* 2009 ; 93 (1) : 121-125.
- 2) Takayanagi K, Shimura T, Saito T : Laughter education for the healthcare professionals at postgraduate course. *Japan Hospitals* 2009 ; 28 : 185-189.
- 3) Kim K¹, Isu T², Sugawara A³, Morimoto D⁴, Matsumoto R², Isobe M², Mishina M¹, Kobayashi S¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ² Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ³ Department of Neurosurgery, Iwate Medical School, ⁴ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital) : Treatment of cervical OPLL by cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts. *Acta Neurochir* 2009 ; 151 (11) : 1549-1955.
- 4) Nomura R¹, Yoshida D¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Stromal cell-derived factor-1 expression in pituitary adenoma tissues and upregulation in hypoxia. *J Neurooncol* 2009 ; 94 (2) : 173-181.
- 5) Iwamoto N¹, Watanabe A², Yamamoto M², Miyake N², Kurai T², Teramoto A, Shimada T² (¹ Department of Neurosurgery, Tamanagayama Hospital, ² Department of Biochemistry and Molecular Biology) : Global diffuse distribution in the brain and efficient gene delivery to the dorsal root ganglia by intrathecal injection of adeno-associated viral vector serotype 1. *J Gene Med* 2009 ; 11 (6) : 498-505.
- 6) Teshima T¹, Hara Y¹, Shigihara K¹, Takekoshi S², Nezu Y¹, Harada Y¹, Yogo T¹, Teramoto A, Osamura RY², Tagawa M¹ (¹ Division of Veterinary Surgery, Department of Veterinary Science, Faculty of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Life Science University, ² Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Coexistence of corticotroph adenoma and thyrotroph hyperplasia in a dog. *J Vet Med Sci* 2009 ; 71 (1) : 93-98.
- 7) 山王直子¹, 田原重志, 石井雄道, 竹井麻生, 寺本 明 (¹ 山王クリニック) : 先端巨大疾患におけるソマトスタチンアナログとGH受容体拮抗剤の併用療法. *日本内分泌学会雑誌* 2009 ; 85 (1) : 355.
- 8) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生, 喜多村孝幸, 長村義之¹, 寺本 明 (¹ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : ACTH産生下垂体microadenomaに対する内視鏡下経鼻下垂体手術の治療成績. *日本内分泌学会雑誌* 2009 ; 85 (1) : 282.
- 9) 田原重志, 石井雄道, 竹井麻生, 喜多村孝幸, 山王直子¹, 長村義之², 寺本 明 (¹ 山王クリニック, ² 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 下垂体腫瘍の治療と成績 先端巨大症の治療 外科的立場から. *日本内分泌学会雑誌* 2009 ; 85 (1) : 180.
- 10) 志村俊郎¹, 唐沢信安², 殿崎正明², 岩崎 一², 寺本 明 (¹ 教育推進室, ² 日本医科大学医史学教育研究会) : 済生学舎講師石川清忠と女子医学生との教育. *日本医史学雑誌* 2009 ; 55 (2) : 154.
- 11) 高島伸之介¹, 村井保夫, 廣中浩平, 足立好司, 寺本 明 (¹ 川口医療センター救命救急センター) : 脳血管障害手術におけるCarl Zeiss社製OPMI Penteroによる術中蛍光血管撮影の有用性. *脳卒中の外科* 2009 ; 37 (4) : 227-232.
- 12) 竹井麻生, 石井雄道, 田原重志, 長村義之¹, 寺本 明 (¹ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 下垂体腺腫の病理と臨床 : 最近の話題をめぐって “若手研究者による新知見” 下垂体腺腫におけるソマトスタチンレセプター (SSTR) 発現と薬物療法の治療選択. *日本内分泌学会雑誌* 2009 ; 85 (2) : 769.
- 13) 村井保夫, 水成隆之¹, 小林士郎¹, 梅岡克哉¹, 立山幸次郎, 寺本 明 (¹ 千葉北総病院脳神経外科) : Radi-

al artery graft を用いて治療した内頸動脈病変の長期成績. 脳卒中の外科 2009 ; 37 (5) : 369-374.

- 14) 松野 彰¹⁾, 中島美智¹⁾, 高野幸路²⁾, 高野順子²⁾, 水谷晃子³⁾, 長村義之³⁾, 竹井麻生, 田原重志, 寺本 明, 山田正俊⁴⁾, 山崎一人⁴⁾, 石田康生⁴⁾, 宇野健志¹⁾, 井出冬章¹⁾, 田中純一¹⁾, その他4名 (¹⁾ 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科, ²⁾ 東京大学医学部腎臓内内分泌内科, ³⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理学, ⁴⁾ 帝京大学ちば総合医療センター病理学) : GH産生下垂体腺腫における octreotide による GH の低下に関する多変量解析 : Ki-67 staining index, gsp mutation, SSTR immunohistochemistry. ホルモンと臨床 2009 ; 57 (秋季増刊) : 28-32.
- 15) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 内視鏡下経鼻下垂体手術における SEAMDURA を用いたトルコ鞍底形成. 日本内分泌学会雑誌 2009 ; 85 (Suppl.) : 35-36.
- 16) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生, 喜多村孝幸, 寺本 明 : pituitary macroadenoma の手術戦略 - 内視鏡による外科的被膜の同定と摘出. 日本内分泌学会雑誌 2009 ; 85 (Suppl.) : 117-118.
- 17) 村井保夫, 足立好司, 瀧瀬健太, 寺本 明 : 新しい顕微鏡システムを用いた indocyanine green 蛍光撮影によるクリッピング術中評価. 脳神経外科ジャーナル 2009 ; 18 (11) : 839-843.
- 18) 竹井麻生, 田原重志, 石井雄道, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 間脳・下垂体 妊娠中 Octreotide 徐放性製剤を投与した Acromegaly 患者の1症例. ホルモンと臨床 2009 ; 57 (冬季増刊) : 46-51.
- 19) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗²⁾, 藤野 修³⁾, 福田恵子⁴⁾, 小林士郎⁵⁾, 吉田大蔵²⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明, 渡辺雅子⁶⁾, 定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院小児科, ⁴⁾ 千葉北総病院薬剤部, ⁵⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁶⁾ 国立精神・神経センター武蔵病院精神神経科) : 包括的てんかん診療における薬剤師業務の展開. 日医大医会誌 2010 ; 6 (1) : 34-39.

(2) 総説 :

- 1) Ura H^{1,3)}, Takumi I²⁾, Watanabe A³⁾, Fukuda K³⁾, Sakamoto Y⁵⁾, Kobayashi S⁴⁾, Teramoto A, Mashiko K⁵⁾, Sadamoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Pathophysiology, Toho University School of Pharmaceutical Sciences, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ³⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁵⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Survey of convulsive diseases in the emergency room : pitfalls of clinical epilepsy practice. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (6) : 329-331.
- 2) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 後藤 穰³⁾, 寺本 明, 百束比古⁴⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科, ³⁾ 千葉北総病院耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 付属病院形成外科) : リン酸4カルシウムペーストを用いた頭蓋形成 : 成人巨大骨欠損症例への応用. 日本整容脳神経外科研究会第一回研究会記録集 2009 ; 36-37.
- 3) 鈴木紀成¹⁾, 岩本直高²⁾, 佐藤 俊, 酒井直之, 吉田大蔵³⁾, 高橋 弘³⁾, 太組一朗³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 南町田病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 人工骨浸潤髄膜腫におけるオーダーメイド人工骨を事前に作成しての期的手術. 日本整容脳神経外科研究会第一回研究会記録集 2009 ; 21-23.

(3) 症例報告 :

- 1) Katsuno M¹⁾, Mizunari T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Takahashi H²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital) : Rupture of a vertebral artery dissecting aneurysm developing immediately after trapping of a dissecting aneurysm on the contralateral vertebral artery. Neurol Med Chir 2009 ; 49 (10) : 468-470.
- 2) 勝野 亮¹⁾, 小林士郎¹⁾, 横田裕行²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター) : 頭部外傷後に中枢性塩類喪失症候群と外傷性脳血管攣縮を合併した2症例. 脳神経外科 2009 ; 37

(8) : 793-796.

- 3) 太組一朗¹⁾, 原 恵子²⁾, 川勝正喜³⁾, 小林士郎⁴⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生命機能情報解析学分野, ³⁾ 東京電機大学先端工学研究所, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 手術で治癒可能なたんかん : 難治性内側側頭葉たんかんの1例. 川崎市医師会医学会雑誌 2009 ; 26 : 32-34.

著 書

- 1) 寺本 明 : [自著] 脳ドックと無症候性脳疾患. ドクターサロン, 2009 ; pp1-5, (株) 杏文堂.
- 2) 喜多村孝幸 : [自著] 頭痛における医療連携. CLINICIAN, 2009 ; pp24-28, (株) エーザイ.
- 3) 寺本 明 : [自著] 創痕まで責任を持たなければ脳外科治療は完結しない. CLINIC, 2009 ; p7, (株) クリニックマガジン.
- 4) 寺本 明 : [自著] 整容を取り入れた脳神経外科手術 : 術後QOL向上へ「見た目」に配慮. Medical Tribune, 2009 ; p55, (株) メディカルトリビューン.
- 5) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 : [分担] 基本手技をマスター脳神経外科のスタンダード 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術. 脳神経外科速報第19巻8号, 2009 ; pp872-879, メディカ出版.
- 6) 寺本 明, 新井 一¹⁾, 塩川芳昭²⁾, 大畑建治³⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部脳神経外科, ²⁾ 杏林大学医学部脳神経外科, ³⁾ 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科) : [編集] NS Now 7 低侵襲時代の頭蓋底手術 過度な露出を避けるために, 2009 ; Medical View.
- 7) 吉田陽一¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 荏原病院脳神経外科) : [分担] IV部下垂体腫瘍の診断 (内分泌検査と画像検査) 第5章 下海綿静脈洞サンプリング. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp185-190, 医学書院.
- 8) 寺本 明 : [分担] V部主な下垂体腫瘍の診断と治療 第1章 下垂体腫瘍臨床総論. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp192-194, 医学書院.
- 9) 寺本 明 : [分担] V部主な下垂体腫瘍の診断と治療 第5章 ACTH産生腺腫. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp225-237, 医学書院.
- 10) 山王直子¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 山王クリニック) : [分担] V部主な下垂体腫瘍の診断と治療 第7章 TSH産生下垂体腺腫. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp244-250, 医学書院.
- 11) 大山健一¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 虎の門病院間脳下垂体外科) : [分担] VI部特異な疾患概念 第1章 下垂体偶発腫. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp252-256, 医学書院.
- 12) 田原重志 : [分担] VIII部下垂体腫瘍の治療 第2章 - B内視鏡下経蝶形骨手術. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp335-344, 医学書院.
- 13) 石井雄道 : [分担] 付録 下垂体腫瘍臨床のガイドラインとデータブック. 下垂体腫瘍のすべて (寺本明・長村義之), 2009 ; pp431-442, 医学書院.
- 14) 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部基盤基盤診療学系病理診断学) : [編集] 下垂体腫瘍のすべて, 2009 ; 医学書院.
- 15) 山口文雄 : [分担] テモゾロミドを懸濁投与する際に注意することはありますか?. 現場の疑問を解決! 簡易懸濁法Q&A Part2 実践編 (倉田なおみ), 2009 ; (株) じほう.
- 16) 寺本 明 : [分担] IIA. 視床下部・下垂体 - 下垂体腺腫. 議事録 内分泌・代謝学, 2009 ; pp49-54, MEDICAL VIEW.
- 17) 柳澤信夫¹⁾, 篠原幸人²⁾, 岩田 誠³⁾, 清水輝夫⁴⁾, 寺本 明 (¹⁾ 東京工科大学, ²⁾ 国家公務員共済組合連合会立川病院, ³⁾ 東京女子医科大学, ⁴⁾ 帝京大学) : [編集] Annual Review 神経, 2009 ; 中外医学社.
- 18) 寺本 明 : [分担] 第3章臨床編 1. ACTH依存性クッシング症候群 B. クッシング病 b. 治療 (1) 外科的治療 (1). クッシング症候群診療マニュアル, 2009 ; pp88-91, 診断と治療社.

- 19) 石井雄道, 寺本 明: [自著] VI. 眼球運動の生理と病態 C. 各種疾患での眼球運動障傍トルコ鞍部腫瘍. Clinical Neuroscience Vol. 28 No. 1, 2010; 中外医学社.
- 20) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明: [自著] 下垂体偶発腫の自然史と治療戦略. NS Now 9 無症候性脳外科疾患の治療戦略, 2010; Medical View.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 寺本 明: 下垂体外科の動向と展望. 第56回鹿児島脳神経外科学会, 2009. 8.

(2) 教育講演:

- 1) Teramoto A: Endoscopic transsphenoidal pituitary surgery. The XIV WFNS World Congress of Neurological Surgery (Boston, USA), 2009. 9.

(3) シンポジウム:

- 1) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 國保倫子¹⁾, 森本大二郎³⁾, 菅原 淳⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ⁴⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 脊髄障害性神経因性疼痛に対するケタミンの使用経験. 第24回日本脊髄外科学会, 2009. 5.
- 2) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科, ³⁾ 付属病院形成外科): 開閉頭での整容の工夫: トラブルシューティングの立場から. 第2回日本整容脳神経外科研究会, 2009. 6.
- 3) 山口文雄, 石井雄道, 小島豊之¹⁾, 山崎道生²⁾, 太組一朗³⁾, 玉置智規²⁾, 足立好司, 高橋 弘³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 四谷メディカルキューブ, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 機能マッピングはグリオーマ患者の生活の質を維持する. (社) 日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 4) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 後藤 譲³⁾, 寺本 明, 百束比古⁴⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院整形形成外科, ³⁾ 千葉北総病院耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 付属病院形成外科): 前頭洞炎に対する経頭蓋手術における我々の工夫. 第27回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2009. 11.
- 5) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 内視鏡下経鼻蝶形骨手術: 腫瘍摘出と鞍底形成の手技の変遷. 第16回日本神経内視鏡学会, 2009. 12.
- 6) 喜多村孝幸: 非交通性水頭症を伴う脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術: 7年以上の長期手術成績について. 第16回日本神経内視鏡学会, 2009. 12.
- 7) 田原重志: 内視鏡単独経蝶形骨手術によるGH産生下垂体腺腫の治療成績. 第16回日本神経内視鏡学会, 2009. 12.
- 8) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 当施設における内視鏡単独経蝶形骨洞手術の手技と治療成績. 第21回日本間脳下垂体学会, 2010. 2.
- 9) 村井保夫: Donor血管を皮下トンネルに安全に通す為の簡単な工夫. 第19回脳神経外科手術と機器学会, 2010. 3.

(4) セミナー:

- 1) 喜多村孝幸: 安全確実な第三脳室底開窓術. 第29回日本脳神経外科コンgres総会, 2009. 5.
- 2) 田原重志: 内視鏡単独での経鼻の下垂体手術. 第29回日本脳神経外科コンgres総会, 2009. 5.
- 3) 寺本 明: 無症候性脳腫瘍 - Brain Incidentaloma - の現状. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 4) 喜多村孝幸: Treatable Dementiaの診断と治療. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 5) 寺本 明: 下垂体手術の動向. 第12回日本病院脳神経外科学会, 2009. 7.

(5) 一般講演:

- 1) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A ⁽¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾

- Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Combined approach with the Williams-Isu method and the transvertebral approach to treat cervical disease. 7th Biennial Japan-Korean Conference on Spinal Surgery (Tochigi, Japan), 2009. 7.
- 2) Omura T¹⁾, Mizunari T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Takumi I²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital) : A case of bilateral hypoplastic internal carotid arteries with basilar trunk aneurysm. 第24回日本脳神経外科国際学会フォーラム (JNEF) (Gifu, Japan), 2009. 7.
 - 3) Koketshu K, Yoshida D¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Suppression of Growth Hormone Production by Inhibin, antagonist for CXCR4, a Receptor for Stromal Cell-derived Factor - 1. 59th Annual Meeting of The Congress of Neurological Surgeons (New Orleans, USA), 2009. 10.
 - 4) Yoshida D¹⁾, Koketshu K, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : A novel transfection method for short interference RNA with lipid-like self-assembling nanotube, A6K. 59th Annual Meeting of The Congress of Neurological Surgeons (New Orleans, USA), 2009. 10.
 - 5) Takahashi H¹⁾, Yamaguchi F, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Usefulness of NMR based metabolomics (metabolomea) as the predictive factors of malignant type meningiomas. 59th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (New Orleans, USA), 2009. 10.
 - 6) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Ultrasonically induced cytotoxic effects of aminolevulinic acid on malignant glioma. 59th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (New Orleans, USA), 2009. 10.
 - 7) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Our experience with ketamine for neuropathic pain in patients with spinal cord injury. 48th Annual Scientific Meeting of International Spinal Cord Injury Society (Florence, Italy), 2009. 10.
 - 8) Yamaguchi F, Kojima T, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Solution of Brain shift by bipolar needle electrode in subcortical tumor resection near motor tract. 2009 Joint Meeting of the Society for Neuro-Oncology and the AANS/CNS Section on Tumors (New Orleans, USA), 2009. 10.
 - 9) Murai Y, Teramoto A : Treatment with radial artery graft bypass of complicated vascular disease. 9th international conference on cerebrovascular surgery (Nagoya, Japan), 2009. 11.
 - 10) Murai Y, Adachi K, Teramoto A : Evaluation of aneurysmal clipping by advanced microscope-integrated intraoperative indocyanine green videoangiography with INFRARED 800 and FLOW800 system. Carl Zeiss Maker Workshop (Nagoya, Japan), 2009. 11.
 - 11) Ishii Y, Tahara S, Kitamura T, Teramoto A : Resection of the pseudocapsule : a novel technique for complete removal of pituitary adenomas. 21th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (APEC) (Taipei, Thailand), 2010. 1.
 - 12) 原 敬介, 山口文雄, 太組一朗¹⁾, 石井雄道, 小島豊之²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ) : 覚醒下マッピング手術にて安全に摘出し得た右頭頂葉DNTの1例. 第108回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 4.
 - 13) 立山幸次郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 國保倫子¹⁾, 廣中浩平¹⁾, 大村朋子¹⁾, 金 景成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 椎骨動脈巨大動脈瘤の1例. 第108回日本脳神経外科学会関

東支部会, 2009. 4.

- 14) 酒井直之, 太組一朗¹⁾, 竹井麻生, 梅岡克哉²⁾, 吉田大蔵¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 鉄欠乏性貧血に起因した若年性脳静脈洞血栓症の1例. 第108回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 4.
- 15) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 内視鏡下経鼻下垂体手術におけるSEAMDURA®を用いたトルコ鞍底形成. 第18回脳神経外科手術と機器学会, 2009. 4.
- 16) 廣中浩平, 金 景成¹⁾, 國保倫子¹⁾, 小林士郎¹⁾, 森本大二郎²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 脊髄障害性疼痛に対するNMDA受容体拮抗薬の有効性について. 第32回日本神経外傷学会, 2009. 4.
- 17) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 寺本 明, 梅岡克哉¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺尾 健²⁾, 立山幸次郎 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 谷津保健病院脳神経外科): Radial artery graftを用いた外傷性内頸動脈損傷に対する治療. 第32回日本神経外傷学会, 2009. 4.
- 18) 金 景成¹⁾, 國保倫子¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳³⁾, 森本大二郎⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ⁴⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 頸椎硬膜外血腫の4例. 第31回東北北海道脊髄疾患研究会, 2009. 4.
- 19) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 國保倫子¹⁾, 森本大二郎³⁾, 菅原 淳⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ⁴⁾ 岩手医科大学脳神経外科): 脊髄障害性疼痛に対するケタミンの使用経験. 第38回日本脊椎脊髄病学会, 2009. 4.
- 20) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 立山幸次郎, 梅岡克哉¹⁾, 村井保夫, 玉置智則²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 内頸動脈大型動脈瘤もしくはBlister like aneurysmに対する治療方針. 第18回脳神経外科手術と機器学会, 2009. 4.
- 21) 戸田茂樹, 高島伸之介¹⁾, 横田裕行¹⁾, 木暮一成²⁾, 金 景成³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 高度救命救急センター, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 頸椎脱臼における固定方の選択. 第18回脳神経外科手術と機器学会, 2009. 4.
- 22) 寺本 明: 景山直樹先生と我国の下垂体外科. Kageyama Memorial Forum, 2009. 4.
- 23) 田原重志: 先端巨大症の治療: 外科的立場から. 第82回日本内分泌学会学術総会, 2009. 4.
- 24) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳³⁾, 森本大二郎⁴⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ⁴⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): Williams-Isu法に経椎体法を併用したcombined approachに関する検討. 第24回日本脊髄外科学会, 2009. 5.
- 25) 國保倫子¹⁾, 金 景成¹⁾, 菅原 淳²⁾, 井須豊彦³⁾, 立山幸次郎, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ³⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 特発性脊髄硬膜外血腫の4例. 第24回日本脊髄外科学会, 2009. 5.
- 26) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎前方固定術: Williams-Isu法の中期的フォロー. 第24回日本脊髄外科学会, 2009. 5.
- 27) 戸田茂樹, 木暮一成¹⁾, 金 景成²⁾, 横田裕行³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ³⁾ 高度救命救急センター): 中心性頸髄損傷の治療について. 第24回日本脊髄外科学会, 2009. 5.
- 28) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗²⁾, 藤野 修³⁾, 高橋瑞穂¹⁾, 福田恵子⁴⁾, 小林士郎⁵⁾, 寺本 明, 定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究所, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院小児科, ⁴⁾ 千葉北総病院薬学部, ⁵⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 医師・薬剤師の連携による薬学的介入が有効であった難治てんかん患者の1例. 第3回日本てんかん学会関東甲信越地区地方会, 2009. 6.
- 29) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: PRL産生腺腫に対する内視鏡下経鼻蝶形骨手術. 13th Water-front Neurosurgical Conference, 2009. 6.

- 30) 吉田大蔵¹⁾, 緜纈健太, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科): 人工ペプチドを用いた新しい遺伝子導入法. 第50回日本神経病理学会総会学術研究会, 2009. 6.
- 31) 金 景成¹⁾, 三品正洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科): 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎疾患に関する研究. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 32) 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科): 複視で発症した内頸動脈瘤の1例. 第72回東葛脳神経外科カンファレンス, 2009. 6.
- 33) 野手洋治¹⁾, 玉置智規¹⁾, 寺本 明, 岡田正昭²⁾, 関野宏明²⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 新天本病院脳神経外科): 頸部頸動脈および頭蓋内主幹動脈の無症候性閉塞性病変: MRAによる検討. 第18回日本脳ドック学会総会, 2009. 6.
- 34) 立山幸次郎, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科): RA graft術における拘縮による運動障害の発生を考慮した前腕部の皮切の工夫について. 第2回日本整容脳神経外科研究会, 2009. 6.
- 35) 寺本 明: 成人GHDを来たす脳外科疾患. 第20回広島小児内分泌研究会, 2009. 6.
- 36) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明: 内視鏡下経鼻手術による髄液漏閉鎖. 東日本下垂体手術ビデオデモンストラーション, 2009. 7.
- 37) 村井保夫, 足立好司, 岩本直高¹⁾, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科): 側頭葉脳表に存在し腫瘍内出血を繰り返したanaplastic ependymomaの1例. 第21回日本頭蓋底外科学会, 2009. 7.
- 38) 森本大二郎¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成³⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経外科): 仙腸関節障害の1例. 釧路脊椎脊髄手術手技研究会, 2009. 7.
- 39) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成³⁾, 野村竜太郎¹⁾, 山田 明¹⁾, 太組一朗¹⁾, 丸山玲子⁴⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経外科, 4) 武蔵小杉病院整形外科): 仙腸関節障害の1例. 第5回多摩川脳神経外科カンファレンス, 2009. 7.
- 40) 寺本 明: 下垂体手術の動向. 第2回永山神経外科研究会, 2009. 7.
- 41) 石井雄道: 内視鏡による経鼻経蝶形骨手術: その低侵襲性と術後下垂体機能について. KIGS/KIMS Japan National Conference 2009, 2009. 8.
- 42) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科): 前方除圧術にて治療しえたOALLの1例. Aichi Summer Forum for Practical Spinal Surgery, 2009. 8.
- 43) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 野村竜太郎¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 百束比古³⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 付属病院形成外科): 私のこだわり: 自家組織. 第12回神奈川脳神経外科手術手技研究会, 2009. 9.
- 44) 浦 裕之^{1,3)}, 太組一朗²⁾, 渡邊暁洋³⁾, 福田恵子³⁾, 阪本雄一郎⁴⁾, 小林士郎⁵⁾, 寺本 明, 益子邦洋⁵⁾, 定本清美¹⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院薬学部, 4) 千葉北総病院救命救急センター, 5) 千葉北総病院脳神経外科): 救急外来における痙攣性疾患の実態調査. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 45) 石井雄道, 白銀一貴¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科): Fibrous adenomaの手術戦略. 第7回千葉下垂体疾患研究会, 2009. 9.
- 46) 亦野文宏, 戸田茂樹, 野村竜太郎¹⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科): 坐骨神経痛で発症したターログ嚢胞の1例. 第109回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 9.
- 47) 村井保夫, 足立好司, 岩本直高¹⁾, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科): 腫瘍内出血を繰り返した脳室外anaplastic ependymoma. 第14回日本脳腫瘍の外科学会, 2009. 9.
- 48) 森本大二郎¹⁾, 山田 明¹⁾, 野村竜太郎¹⁾, 太組一朗¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 井須豊彦²⁾, 金 景成³⁾, 丸山玲子⁴⁾, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経外科, 4) 武蔵小杉病院整形外科): 仙腸関節障害の1例. 第109回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 9.

- 49) 大村朋子¹⁾, 水成隆之¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 小脳虫部に発生した glioblastoma の1例. 第109回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 9.
- 50) 山口文雄, 小島豊之¹⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 錐体路近傍腫瘍摘出術におけるナビゲーションガイド下皮質下マッピングによるブレインシフト問題の克服. 第14回日本脳腫瘍の外科学会, 2009. 9.
- 51) 中島美智¹⁾, 水谷晃子¹⁾, 高野幸路²⁾, 高野順子²⁾, 竹井麻生, 寺本 明, 長村義之³⁾, 松野 彰¹⁾ ⁽¹⁾ 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科, ²⁾ 東京大学医学部腎臓内分泌内科, ³⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理学): GH産生下垂体腺腫における octreotide に対する反応性と Ki-67陽性率, gsp mutation, ソマトスタチン受容体発現様式との多変量解析. 第10回日本分子脳神経外科学会, 2009. 9.
- 52) 酒井直之, 太組一朗¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 鉄欠乏性貧血に起因した若年性脳静脈洞血栓症の1例. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 53) 山王直子¹⁾, 田原重志, 竹井麻生, 石井雄道, 寺本 明⁽¹⁾ 山王クリニック): オクトレオチドによるアクロメガリーの初期治療が奏効した2例: 補助治療例との比較. アクロメガリーフォーラム, 2009. 10.
- 54) 太組一朗¹⁾, 斉藤伸幸²⁾, 浦 裕之³⁾, 三品雅洋⁴⁾, 小林士郎⁴⁾, 益子邦洋²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 頻回の低血糖発作を既往にもつII型糖尿病患者の低血糖発作後に生じた非けいれん性焦点性てんかん重積. 第43回日本てんかん学会総会, 2009. 10.
- 55) 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 國保倫子¹⁾, 村井保夫, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 椎骨動脈解離性動脈瘤に対し血行再建術を行った12例の長期的検討. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 56) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): Radialarteryを用いた内頸動脈病変の治療: 内頸動脈はいつどうやって閉塞すべき?. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 57) 村井保夫, 足立好司, 寺本 明: Carl Zeiss社製OPMI Pentero FLOW800システムを用いたindocyanine green 蛍光撮影. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 58) 吉田大蔵¹⁾, 額健太, 野村竜太郎¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): CXCR4 antagonist AMD3100を用いた成長ホルモン産生腫瘍に対する分子標的療法の基礎的研究. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 59) 高橋 弘¹⁾, 野村竜太郎¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 山田 明¹⁾, 太組一朗¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 脳腫瘍の診断と治療における¹²³I-iomazenil APECTの有用性. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 60) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): インターロイキン12と18抗グリオーマ活性とサイトカインネットワークの解析. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 61) 畝本恭子¹⁾, 渡邊遼弘²⁾, 野村竜太郎³⁾, 森本大二郎³⁾, 太組一朗³⁾, 高橋 弘³⁾, 黒川 顕¹⁾, 横田裕行²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター, ²⁾ 高度救命救急センター, ³⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 脳挫傷症例に対する外減圧術決定因子と術前低温療法の効果. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 62) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳³⁾, 森本大二郎⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ⁴⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): Williams-Isu法による前方固定術後固定推角の経時的变化に関する検討. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 63) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 内頸動脈大型, 前壁 (Blister like) 動脈瘤に対する治療戦略. (社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 64) 小南修史¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 吉田陽一²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 荏原病院脳神経

- 外科)：脳動静脈奇形に対する血管内治療の治療成績。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 65) 鈴木雅規¹⁾, 石原正一郎²⁾, 吉原智之²⁾, 石原秀章²⁾, 神山信也²⁾, 山根文孝²⁾, 寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 埼玉医科大学国際医療センター脳血管内治療科)：CASのタイミングを逸してしまった症例の検討。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 66) 大村朋子¹⁾, 水成隆之¹⁾, 國保倫子¹⁾, 廣中浩平, 金 景成¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科)：Atypical meningioma の再発因子についての検討。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 67) 國保倫子¹⁾, 水成隆之¹⁾, 白銀一貴¹⁾, 廣中浩平, 大村朋子¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 金 景成¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科)：当院における椎骨動脈解離による脳梗塞症例の治療方針の検討。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 68) 白銀一貴¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 立山幸次郎, 小林士郎¹⁾, 寺本明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科)：脳血管攣縮に対する血管内治療。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 69) 野手洋治¹⁾, 玉置智規¹⁾, 寺本 明¹⁾ (多摩永山病院脳神経外科)：頸部頸動脈, 頭蓋内主幹動脈の無症候性血管狭窄, 閉塞：MRAによる検討。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 70) 寺本 明：脳神経外科医とその仕事。脳神経外科市民フォーラム2009, 2009. 10.
- 71) 戸田茂樹, 木暮一成¹⁾, 金 景成²⁾, 横田裕行³⁾, 寺本 明¹⁾ (多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ³⁾ 高度救命救急センター)：中心性頸髄損傷の治療について。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会, 2009. 10.
- 72) 小南修史¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 鈴木雅規¹⁾, 吉田陽一³⁾, 布施 明⁴⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京共済病院脳神経外科, ³⁾ 荏原病院脳神経外科, ⁴⁾ 高度救命救急センター)：NBCAを用いた脳動静脈奇形の塞栓術：単一術者による150例の治療結果。第25回日本脳神経血管内治療学会総会, 2009. 11.
- 73) 小南修史¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 布施 明³⁾, 内藤 功⁴⁾, 長畑守雄⁵⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京共済病院脳神経外科, ³⁾ 高度救命救急センター, ⁴⁾ 老年病研究所付属病院脳神経外科, ⁵⁾ 弘前大学放射線科)：前脊動脈から栄養される脊髄動静脈奇形の塞栓術。第25回日本脳神経血管内治療学会総会, 2009. 11.
- 74) 渡邊 玲¹⁾, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (東京共済病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科)：NBCAを中心とした髄膜腫の術前塞栓術。第25回日本脳神経血管内治療学会総会, 2009. 11.
- 75) 亦野文宏, 足立好司, 村井保夫, 寺本 明¹⁾ (武蔵小杉病院脳神経外科)：TI201SPECTにて後期濃染像を認めたMicrocysticmeningiomaの1例。第110回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 12.
- 76) 白銀一貴¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 大村朋子¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 足立好司, 寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京共済病院脳神経外科)：骨髄転移を認めた頭蓋原発のBurkitt Lymphomaの1例。第110回日本脳神経外科学会関東支部会, 2009. 12.
- 77) 中久木卓也, 田原重志, 寺本 明：intrasellar chondromaの1例。第21回日本間脳下垂体学会, 2010. 2.
- 78) 田原重志：内視鏡下経鼻的蝶形骨手術におけるGH産生下垂体腺腫の治療成績。第20回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2010. 2.
- 79) 亦野文宏：脳出血で発症した絨毛癌脳転移の1例。第12回文京脳腫瘍研究会, 2010. 2.
- 80) 岩本直高¹⁾, 山崎道生¹⁾, 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (多摩永山病院脳神経外科)：クモ膜嚢胞を合併した若年者慢性硬膜下血腫の2症例。第15回日本脳神経外科救急学会, 2010. 2.
- 81) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明：内視鏡下経鼻経蝶形骨手術に適した手術機器と術野確保の工夫。第19回脳神経外科手術と機器学会, 2010. 3.
- 82) 白銀一貴¹⁾, 渡邊 玲²⁾, 梅岡克哉¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 石井雄道, 寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経

- 外科，²⁾ 東京共済病院脳神経外科)：内視鏡下経鼻髄液漏閉鎖術にて治療しえた外傷性髄液鼻漏の1例。第33回日本脳神経外傷学会，2010。3。
- 83) 鈴木雅規¹⁾，白銀一貴¹⁾，國保倫子¹⁾，大村朋子¹⁾，梅岡克哉¹⁾，金 景成¹⁾，小南修史¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科)：当院におけるゴルフカートに関係する頭部外傷例の検討。第33回日本脳神経外傷学会，2010。3。
- 84) 村井保夫，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科)：Donor血管を皮下トンネルにあんぜに通すための簡単な工夫。第19回脳神経外科手術と機器学会，2010。3。
- 85) 戸田茂樹，中江竜太，亦野文宏，横田裕行¹⁾，木暮一成²⁾，金 景成³⁾，寺本 明¹⁾ (高度救命救急センター，²⁾ 多摩永山病院脳神経外科，³⁾ 千葉北総病院脳神経外科)：頸椎損傷に対する固定術を行う時期についての検討。第19回脳神経外科手術と機器学会，2010。3。
- 86) 立山幸次郎，太組一朗¹⁾，水成隆之²⁾，小林士郎²⁾，百束比古³⁾，寺本 明¹⁾ (武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 千葉北総病院脳神経外科，³⁾ 形成外科)：RA graft術における拘縮による運動障害の発生を考慮した前腕部の皮切の工夫について。第3回日本整容脳神経外科研究会，2010。3。
- (6) 公開講座：
- 1) 森本大二郎¹⁾，井須豊彦²⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明¹⁾ (武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：腰痛と下肢症状を呈する疾患と類似疾患。川崎市民公開講座，2009。6。
- (7) ビデオシンポジウム：
- 1) 太組一朗¹⁾，秋元正字²⁾，百束比古³⁾，寺本 明¹⁾ (武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 千葉北総病院形成外科，³⁾ 付属病院形成外科)：開頭手術後のトラブルシューティングに応用される自家骨移植。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会，2009。10。
- 2) 石井雄道，田原重志，喜多村孝幸，寺本 明：鞍上進展を伴う下垂体腺腫に対する内視鏡下経蝶形骨手術の手法。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会，2009。10。
- (8) ポスター：
- 1) Ishii Y, Tahara S, Kitamura T, Teramoto A：Pseudocapsule resection may lead complete and safety removal in prolactinomas. 14th International Congress of Endocrinology (Kyoto, Japan), 2010。3。
- 2) 山王直子¹⁾，田原重志，竹井麻生，石井雄道，寺本 明¹⁾ (山王クリニック)：先端巨大症患者におけるソマトスタチンアナログとGH受容体拮抗剤の併用療法。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会，2009。10。
- 3) 廣中浩平，白銀一貴¹⁾，國保倫子¹⁾，大村朋子¹⁾，梅岡克哉¹⁾，金 景成¹⁾，渡辺 玲¹⁾，小南修史¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，三品雅洋²⁾，片山泰朗²⁾，益子邦洋³⁾，寺本 明¹⁾ (千葉北総病院脳神経外科，²⁾ 第二内科，³⁾ 高度救命救急センター)：rt-PA 静注療法におけるドクターヘリの有効性。(社)日本脳神経外科学会第68回学術総会，2009。10。
- 4) 石井雄道，田原重志，喜多村孝幸，寺本 明：内視鏡下経鼻経蝶形骨手術：確実な摘出と機能温存のための工夫。第83回日本内分泌学会学術総会，2010。3。
- 5) 田原重志：3Tesla dynamic MRIが診断に有用であった，ACTH産生下垂体腺腫の1治療例。第83回日本内分泌学会学術総会，2010。3。
- (9) 講演：
- 1) 村井保夫：Usefulness of Pentero FLOW 800 with ICG. Carl Zeiss Co ICG training workshop, 2009。5。
- 2) 村井保夫：急性期脳卒中とりハビリテーション：急性期リハビリテーションと脳神経外科手術。埼玉みさと記念病院講演会，2009。5。
- 3) 寺本 明：下垂体手術の動向と展望。信州脳神経外科セミナー，2009。5。
- 4) 山口文雄：脳腫瘍の術中蛍光モニタリング：脳機能温存と腫瘍前摘を重視した脳腫瘍手術。第21回メディカルスキニング・イメージング研究会，2009。5。

- 5) 寺本 明：下垂体外科の動向．奈良間脳下垂体疾患講演会，2009． 6．
- 6) 喜多村孝幸：頭痛の診断と治療：見逃してはいけない2次性頭痛．日本医師会生涯教育講座，2009． 7．
- 7) 山口文雄：SEAMDURA 初期使用経験：髄液漏に対する対処法．Codman SEAMDURA Meeting，2009． 9．
- 8) 山口文雄：腫瘍「私の手術法：比較的頻度の少ない腫瘍を中心に」．第21回脳神経外科臨床講座，2009． 11．
- 9) 山口文雄：髄液漏への対処法の検討：Dural Overlapping．Codman Absorbable Product Meeting，2010． 3．

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患（顔面痙攣，三叉神経痛，パーキンソン病，てんかんなど）・整容的脳神経疾患とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を行っている．特に脳腫瘍に関しては，従来摘出困難と思われてきた脳幹部などの腫瘍に対しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を施行し，良好な結果を取ってきている．また，虚血性脳卒中の急性期治療（tPA療法）を施行する神奈川県内の拠点病院となっていることから，脳卒中治療室（SCU）を中心として脳卒中を主体とした救急疾患の治療にも力を注いでいる．小児疾患についても，脳腫瘍の治療を主体に行っているが，もやもや病などの血管性病変や中枢神経系奇形に対しての治療にも積極的に取り組んでいる．基礎的研究としては，分子生物学的手法を用いて脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる遺伝子のcDNAマイクロアレイによる解析，メタボローム解析による腫瘍の悪性転化に関する研究，腫瘍血管新生抑制に関する新規薬剤の開発，癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の研究などを主として施行している．また，悪性腫瘍において，多くの基礎的データを基に特異的・非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する研究を盛んに行っている．そして，毎年国内外に確実に発表を行っており，今年度は英文論文6編，和文論文5編，分担著書4編の発表がなされた．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takumi I, Goto M¹⁾, Akimoto M²⁾ (1) Department of Otolaryngology, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School) : A giant subcutaneous forehead abscess and epidural extension caused by frontal mucocele. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2009 ; 80 (9) : 996-997.
- 2) Nomura R, Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Stromal cell-derived factor-1 expression in pituitary adenoma tissues and upregulation in hypoxia. J Neurooncol 2009 ; 94 (2) : 173-181.
- 3) Takumi I, Akimoto M¹⁾ (1) Department of Plastic Surgery, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School) : One-stage reconstruction using a vascularized calvarial flap for intractable scalp ulcers in relation with cranial implants without removing the whole prosthesis. Neurosurg Rev 2009 ; 32 (3) : 363-368.
- 4) Yamaguchi F¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Navigation-assisted subcortical mapping : intraoperative motor tract detection by bipolar needle electrode in combination with neuronavigation system. J Neurooncol 2009 ; 93 (1) : 121-125.
- 5) Watanabe A¹⁾, Kominami S¹⁾, Takumi I, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Embolization of pediatric brain arterio-venous malformations using N-butyl cyanoacrylate. 小児の脳神経

2009 ; 34 (6) : 504-508.

- 6) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 下田佑介¹⁾, 濱内祝嗣¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 金 景成²⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科) : 仙腸関節障害・梨状筋症候群・足根管症候群を合併した腰椎変性疾患の治療経験. 脳神経外科 2009 ; 37 (9) : 873-879.
- 7) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗, 藤野 修²⁾, 福田恵子³⁾, 小林士郎⁴⁾, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明⁵⁾, 渡辺雅子⁶⁾, 定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ²⁾ 千葉北総病院小児科, ³⁾ 千葉北総病院薬剤部, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁵⁾ 付属病院脳神経外科, ⁶⁾ 国立精神・神経センター武蔵病院精神神経科) : 包括的てんかん診療における薬剤師業務の展開. 日医大医会誌 2010 ; 6 (1) : 34-39.

(2) 総説 :

- 1) 高橋 弘 : Central Nervous System Tumor 脳腫瘍 ; グリオーマ. 癌と化学療法. 癌と化学療法 2009 ; 36 (6) : 927-947.
- 2) Ura H^{1,2)}, Takumi I, Watanabe A²⁾, Fukuda K²⁾, Sakamoto Y⁵⁾, Kobayash S³⁾, Teramoto A⁴⁾, Mashiko K⁵⁾, Sadamoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Pathophysiology, Toho University School of Pharmaceutical Sciences, ²⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Abstracts of Outstanding Presentations of the 77th Annual Meeting of the Medical Association of Nippon Medical School. Survey of convulsive diseases in the emergency room : pitfalls of clinical epilepsy practice. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 : 329-331.

(3) 研究報告書 :

- 1) 太組一朗 : 第2回Epilepsy Colloquiumに参加して 日本でてんかん学会Sponsored Award (UCB-Otsuka賞) 報告. てんかん研究 2010 ; 27 (3) : 399-401.

(4) 症例報告 :

- 1) 太組一朗, 原 恵子¹⁾, 川勝正喜²⁾, 小林士郎³⁾, 高橋 弘, 寺本 明⁴⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科, ²⁾ 東京電機大学情報環境学部, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁴⁾ 付属病院脳神経外科) : 手術で治癒可能なてんかん : 難治性内側側頭葉てんかんの1例. 川崎市医師会医学会誌 2009 ; 26 : 32-34.
- 2) Katsuno M¹⁾, Mizunari T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Takahashi H, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Rupture of a vertebral artery dissecting aneurysm developing immediately after trapping of a dissecting aneurysm on the contralateral vertebral artery ; case report. Neurol Med chir (Tokyo) 2009 ; 49 (10) : 468-470.
- 1) 高橋 弘 : 学会印象記 : XIV World congress of neurological surgery of the world congress of the world federation of neurosurgical societies (WFNS). Brain and Nerve 2010 ; 62 (2) : 192-193.

著 書

〔追加分〕

追加分 :

- 1) 高橋 弘 : 〔分担〕 遺伝子発見と予後. NS NOW No. 5 グリオーマーその最新知見 (寺本 明), 2009 ; pp94-103, メジカルビュー社.
- 1) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 百足比古²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科, ³⁾ 付属病院脳神経外科) : 〔分担〕 リン酸4カルシウムペーストを用いた頭蓋形成 : 成人巨大骨欠損症例への応用. 日本整

容脳神経外科研究会第一回研究会記録集，2009；pp36-37.

- 2) 吉田大蔵：〔分担〕II部 下垂体研究の基礎研究，第4章 下垂体浸潤のメカニズム．下垂体腫瘍のすべて（寺本 明，長村義之），2009；pp85-86，医学書院。
- 3) 児玉南海雄¹⁾，太組一朗⁽¹⁾ 福島県立医科大学：〔分担〕プリオン病感染予防ガイドライン（2008年版），p8-10, p71-78. プリオン病感染予防ガイドライン（2008年版），2009；pp8-10.

学会発表

〔追加分〕

追加分特別講演：

- 1) 太組一朗：プリオン病感染予防ガイドライン2008：脳外科．プリオン病全国担当者会議，2009. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 太組一朗：抗てんかん薬の使い方のコツ：新規抗てんかん薬，妊娠，そして軸薬とadd-on. 沖縄赤十字病院医局懇話会，2009. 7.
- 2) 太組一朗：てんかん：最新の治療動向．東邦大学薬学部セミナー【フレックスタイム特別講演】，2009. 12.
- 3) 太組一朗：合併妊娠と薬物療法 (4) てんかん．平成21年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会，2009. 6.

(2) 教育講演：

- 1) 高橋 弘：脳核医学検査をいかにして活用するか：脳腫瘍における臨床応用．神奈川PET・SPECT研究会（第24回），2009. 5.

(3) シンポジウム：

- 1) 太組一朗，秋元正宇¹⁾，百東比古²⁾，寺本 明³⁾ (1) 千葉北総病院形成外科，2) 付属病院形成外科，3) 付属病院脳神経外科)：シンポジウム開頭術での整容の工夫：トラブルシューティングの立場から．日本整容脳神経外科研究会（第2回），2009. 6.
- 2) 坂井健二¹⁾，野崎一朗¹⁾，浜口 毅¹⁾，篠原もえ子¹⁾，中村好一^{2,6)}，北本哲之^{3,6)}，佐藤 猛^{4,6)}，水澤英洋^{5,6)}，森若文雄⁶⁾，志賀裕三⁶⁾，三條伸夫^{5,6)}，黒岩義之⁵⁾，西澤正豊⁶⁾，武田雅俊⁶⁾，太組一朗，その他7名 (1) 金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科），2) 自治医科大学公衆衛生学，3) 東北大学大学院プリオン蛋白研究部門，4) 東大和病院，5) 東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科），6) 「プリオン病及びウイルス感染症に関する調査研究班」CJDサーベイランス委員会)：わが国におけるヒトのプリオン病の発症状況：最近10年間のサーベイランスデータ．プリオンシンポジウム2009，2009. 8.
- 3) 太組一朗，秋元正宇¹⁾，百東比古²⁾，寺本 明³⁾ (1) 千葉北総病院形成外科，2) 付属病院形成外科，3) 付属病院脳神経外科)：開頭手術後のトラブルシューティングに应用される自家骨移植Autograft methods for cranioplasty；our application in troubleshooting. 日本脳神経外科学会学術総会（第68回），2009. 10.
- 4) 太組一朗，秋元正宇¹⁾，後藤 穰²⁾，寺本 明³⁾，百東比古⁴⁾ (1) 千葉北総病院形成外科，2) 千葉北総病院耳鼻咽喉科，3) 付属病院脳神経外科，4) 付属病院形成外科)：前頭洞炎に対する経頭蓋手術における我々の工夫．日本頭蓋顔面外科学会学術集会（第27回），2009. 11.

(4) セミナー：

- 1) Takahashi H：Craniopharyngioma in adults the role of local chemotherapy and bleomycin treatment. World Congress of neurological surgery of the world federation of neurosurgical societies (the 14th) (Boston (U. S. A.)), 2009. 9.
- 2) 太組一朗：抗てんかん薬の使い方．日本医科大学武蔵小杉病院 平成21年度第10回研修セミナー，2009. 12.

(5) 一般講演：

- 1) Ogawa S¹⁾，Takumi I，Tsujiuchi K¹⁾，Hara Y¹⁾ (1) Department of Rehabilitation Medicine, Nippon Medical

School Chiba Hokusō Hospital) : Effects of therapeutic electrical stimulation (TES) on movement related cortical fields (MRCF) of magnetoencephalogram (MEG). アジアオセアニア臨床神経会議 (AOCCN2009) (ソウル), 2009. 4.

- 2) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 野村竜太郎, 高橋 弘, 百足比古²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 千葉北総病院美容・再建外科, ²⁾ 付属病院美容・再建外科, ³⁾ 付属病院脳神経外科) : 私のこだわり ; 自家組織. 神奈川脳神経外科手術手技研究会 (第12回), 2009. 5.
- 3) 浦 裕之^{1, 2)}, 太組一朗, 渡邊暁洋²⁾, 福田恵子²⁾, 阪本雄一郎³⁾, 小林士郎⁴⁾, 寺本 明⁵⁾, 益子邦弘³⁾, 定本清美¹⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ²⁾ 千葉北総病院薬剤部, ³⁾ 千葉北総病院救命救急センター, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁵⁾ 付属病院脳神経外科) : 救急外来における痙攣性疾患の実態調査. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 5.
- 4) Takahashi H, Hirakawa K¹⁾, Ohno Y¹⁾, Teramoto A²⁾, Yuta K³⁾ (1) NMR laboratory/Department of legal medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of neurosurgery, Nippon Medical School, ³⁾ Bio-IT Group, Fujitsu Co. Ltd) : Significance of NMR based metabolomics (metabolome) for the prediction of malignant type meningioma using the analysis of water and lipid-soluble metabolites. Asian Society for Neuro Oncology (The 6th), 2009. 5.
- 5) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗, 藤野 修²⁾, 高橋瑞穂¹⁾, 福田恵子³⁾, 小林士郎⁴⁾, 寺本 明⁵⁾, 定本清美¹⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ²⁾ 千葉北総病院小児科, ³⁾ 千葉北総病院薬剤部, ⁴⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ⁵⁾ 付属病院脳神経外科) : 医師・薬剤師の連携による薬学的介入が有効であった難治てんかん患者の1例. 日本てんかん学会関東甲信越地区地方会 (第3回), 2009. 6.
- 6) Omura T¹⁾, Mizunani T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Takumi I, Teramoto A²⁾ (1) Department of neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital, ²⁾ Department of neurosurgery, Nippon Medical School) : A case of bilateral hypoplastic internal carotid arteries with basilar trunk aneurysm. 日本脳神経外科国際学会フォーラム (第24回), 2009. 7.
- 7) 日高可奈子¹⁾, 太組一朗, 高橋 弘 (1) 武蔵小杉病院 言語療法室) : 右前頭葉腫瘍における高次脳機能. 意識障害学会 (第18回), 2009. 7.
- 8) 森本大二郎 : 仙腸関節障害について. 釧路市民健康フォーラム2009『脳と脊髄疾患を考える』, 2009. 8.
- 9) Koketsu K¹⁾, Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (1) Department of neurosurgery, Nippon Medical School) : Suppression of growth hormone production by inhibin, antagonist for CXCR4, a receptor for stromal cell-derived factor -1. Annual Meeting of The Congress of Neurological Surgeons (New Orleans), 2009. 10.
- 10) Yoshida D, Koketsu K, Teramoto A¹⁾ (1) Department of neurosurgery, Nippon Medical School) : A novel transfection method for short interference RNA with lipid-like self-assembling nanotube, A6K. Annual Meeting of The Congress of Neurological Surgeons (New Orleans), 2009. 10.
- 11) 高橋 弘, 野村竜太郎, 森本大二郎, 山田 明, 太組一朗, 吉田大蔵, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 脳腫瘍の診断と治療における123I-iomazenil SPECTの有用性. 日本脳神経外科学会総会 (第68回), 2009. 10.
- 12) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : インターロイキン12と18抗グリオーマ活性とサイトカインネットワークの解析. 日本脳神経外科学会総会 (第68回), 2009. 10.
- 13) 山口文雄¹⁾, 石井雄道¹⁾, 小島豊之¹⁾, 山崎道生²⁾, 太組一朗, 玉置智規²⁾, 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 機能マッピングはグリオーマ患者の生活の質を維持する. 日本脳神経外科学会総会 (第68回), 2009. 10.
- 14) 酒井直之¹⁾, 太組一朗, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 鉄欠乏性貧血に起因した若年性脳静脈洞血栓症の1例. 日本脳神経外科学会総会 (第68回), 2009. 10.
- 15) Takahashi H, Yamaguchi F¹⁾, Teramoto A¹⁾ (1) Department of neurosurgery, Nippon Medical School) :

- Usefulness of NMR based metabolomics (metabolome) as the predictive factors of malignant type meningiomas. Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (The 59th) (New Orleans (USA)), 2009. 10.
- 16) Yamaguchi F¹⁾, Asakura T¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) Department of neurosurgery, Nippon Medical School) : Ultrasonically induced cytotoxic effects of aminolevulinic acid on malignant glioma. Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (The 59th) (New Orleans (USA)), 2009. 10.
 - 17) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗 (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室) : てんかん薬物療法の新時代 : 包括的てんかん診療に向けた取り組み. 武蔵小杉精神・神経懇話会 (第2回), 2009. 11.
 - 18) 日高可奈子¹⁾, 高橋 弘 (1) 武蔵小杉病院言語療法室) : 特発性水頭症 (INPH) におけるHDS-Rの特徴. 日本認知症学会 (第28回), 2009. 11.
 - 19) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗 (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室) : 包括的てんかん診療における薬剤師業務の展開. 脳神経ウィンターセミナー2009, 2009. 12.
 - 20) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗 (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室) : 包括的てんかん診療に向けた取り組み. 東邦大学薬学部セミナー フレックスタイム特別講演, 2009. 12.
 - 21) Ura H¹⁾, Takumi I, Sadamoto K¹⁾ (1) Toho University) : Toward establishment of the epilepsy pharmacist certification system in Japan : International comparison of the current status. Joint Seminar on Biomedical Sciences among Prince of Songkla University, Chiang Mai University, Kunming Medical University and Toho University (6th), 2009. 12.
 - 22) 太組一朗, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : MRI上海馬硬化が明らかでない内側側頭葉てんかんの1手術例. 神奈川てんかん懇話会 (第65回), 2010. 1.
 - 23) Yoshida D, Koketsu K, Teramoto A¹⁾ (1) Department of neurosurgery, Nippon Medical School) : The CXCR4 antagonist AMD100 suppresses growth hormone production. International Congress of Endocrinology (The 14th), 2010. 3.
 - 24) 日高可奈子¹⁾, 高橋 弘 (1) 武蔵小杉病院言語療法室) : 右前頭葉腫瘍患者の高次脳機能障害. 日本高次脳機能障害学会 (第33回), 2009. 10.
 - 25) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 腰痛と下肢症状を呈する疾患と類似疾患. 川崎市民公開講座, 2009. 6.
 - 26) 吉田大蔵, 額健太¹⁾, 野村竜太郎, 石井道雄¹⁾, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : CXCR4 antagonist AMD3100を用いた成長ホルモン産生腫瘍に対する分子標的療法の基礎的研究. 日本脳神経外科学会学術総会 (第68回) (東京), 2009. 10.
 - 27) 太組一朗, 齋藤伸幸¹⁾, 浦 裕之²⁾, 三品雅洋³⁾, 小林士郎⁴⁾, 益子邦洋¹⁾, 寺本 明⁵⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター, 2) 東邦大学薬学部臨床応用病態学教室, 3) 千葉北総病院内科, 4) 千葉北総病院脳神経外科, 5) 付属病院脳神経外科) : 頻回の低血糖発作を既往にもつII型糖尿病患者の低血糖発作後に生じた非けいれん性焦点性てんかん重積. 日本てんかん学会総会 (第43回), 2009. 10.
 - 28) 額健太, 吉田大蔵, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Gremlin (DRM/CKTSP1B1) -2の下垂体腺腫における血管新生に果たす役割. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第20回), 2010. 2.
 - 29) 酒井直之, 太組一朗, 竹井麻生, 梅岡克哉, 吉田大蔵, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 鉄欠乏性貧血に起因した若年性脳静脈洞血栓症の1例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第108回), 2009. 4.
 - 30) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 金 景成²⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科) : 腰椎椎間孔狭窄症に対する内側開窓術の検討. 脳神経外科手術と機器学会 (第18回), 2009. 4.
 - 31) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 濱内祝嗣¹⁾, 下田祐介¹⁾, 笹森 徹¹⁾, 菅原 淳³⁾, 金 景成²⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部

- 正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科): 足根管症候群に対する足根管開放術のpointと治療成績. 日本脊髄外科学会 (第24回), 2009. 5.
- 32) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 田口暢秀²⁾, 推井基陽²⁾, 濱内祝嗣¹⁾, 下田祐介¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 釧路労災病院リハビリテーション科): 仙腸関節障害に対する治療成績. 日本脊髄外科学会 (第24回), 2009. 5.
- 33) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 金 景成²⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 脳神経外科): 腰椎椎間孔狭窄症に対する内側開窓術の検討. 日本脊髄外科学会 (第24回), 2009. 5.
- 34) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 金 景成²⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 脳神経外科): 腰椎術後に合併した腓骨神経麻痺. 日本脊髄外科学会 (第24回), 2009. 5.
- 35) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科): 腰痛と下肢症状を呈する疾患と類似疾患. 武蔵小杉神経懇話会, 2009. 5.
- 36) 野崎一朗¹⁾, 浜口 毅¹⁾, 篠原もえ子¹⁾, 中村好一^{2,6)}, 北本哲之^{3,6)}, 水澤英洋^{4,6)}, 佐藤 猛^{5,6)}, 森若文雄⁶⁾, 志賀裕正⁶⁾, 三條伸夫^{5,6)}, 黒岩義之⁶⁾, 西澤正豊⁶⁾, 武田雅俊⁶⁾, 犬塚 貴⁶⁾, 太組一朗, その他6名 (1) 金沢大学, 2) 自治医科大学, 3) 東北大学, 4) 東京医科歯科大学, 5) 東大和病院, 6) CJDサーベイランス委員会): プリオン病若年発症例の検討. 日本神経学会総会 (第50回), 2009. 5.
- 37) 吉田大蔵, 瀧瀬健太¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): 人工ペプタイトを用いた新しい遺伝子導入法. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第50回) (高松市), 2009. 6.
- 38) 森本大二郎, 高橋 弘, 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 付属病院脳神経外科): 仙腸関節障害の1例. 釧路脊椎脊髄手術手技研究会, 2009. 7.
- 39) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾, 野村竜太郎, 山田 明, 太組一朗, 丸山玲子³⁾, 高橋 弘, 寺本 明⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 武蔵小杉病院理学療法室, 4) 付属病院脳神経外科): 仙腸関節障害の1例. 多摩川脳神経外科カンファランス (第5回), 2009. 7.
- 40) 森本大二郎, 山田 明, 野村竜太郎, 太組一朗, 高橋 弘, 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾, 丸山玲子³⁾, 寺本 明⁴⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 武蔵小杉病院理学療法室, 4) 付属病院脳神経外科): 仙腸関節障害の1例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第109回), 2009. 9.
- 41) 畝本 (猪鹿倉) 恭子¹⁾, 渡邊顕弘¹⁾, 野村竜太郎, 森本大二郎, 太組一朗, 高橋 弘, 黒川 顕¹⁾, 横田裕行²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 千葉北総病院救命救急センター, 3) 付属病院脳神経外科): 脳挫傷症例に対する外減圧術決定因子と術前低温療法の効果. 日本脳神経外科学会総会 (第68回), 2009. 10.
- 42) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 下田佑介¹⁾, 濱内祝嗣¹⁾, 笹森 徹¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 金 景成¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科): 仙腸関節障害, 梨状筋症候群, 足根管症候群を合併した腰部脊柱管狭窄症の治療成績の検討. 日本脳神経外科学会総会 (第69回), 2009. 10.
- 43) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾, 下田祐介¹⁾, 茂木洋晃¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科): 正中神経の局所解剖と正中神経麻痺の手術. 東北北海道脊髄疾患研究会 (第31回), 2009. 10.
- 44) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科): 腰椎椎間孔狭窄症に対する診断および治療. 日本脊髄障害医学会 (第44回), 2009. 11.
- 45) 森本大二郎, 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科): 仙腸関節障害に対する治療成績の検討. 日本腰痛学会 (第17回), 2009. 11.
- 46) 太組一朗, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科): MRI上病変が明らかでない内側側頭葉てんかんの1手術例. 神奈川てんかん懇話会 (第65回), 2010. 1.

- 47) 太組一朗, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 内側側頭葉てんかんの1例 : habitual seizureの発作記録と選択的扁桃体海馬切除術. Neurosurgery Video Conference (第6回), 2010. 2.
- 48) 吉田大蔵, 瀬瀬健太, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : ラット下垂体腺腫細胞GH3におけるGH, PRL産生に關与するmiRNAの機能解析. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第20回), 2010. 2.
- 49) 太組一朗, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかんの1例 : habitual seizureの発作記録と手術. 川崎脳神経外科懇話会 (第23回), 2010. 2.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

日本医科大学多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設および日本脳卒中学会総会専門医訓練施設として、教育・研究・診療を付属病院脳神経外科学教室と共同で行っている。また、神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて研究を行っている。

1. 脳腫瘍（特に良性腫瘍）の手術、とりわけ脳深部の腫瘍（頭蓋底手術）に対し、最小限の侵襲（minimally invasive surgery）にて、合併症を最小限に止めるべく手術法の開発、モニタリングの改良を行なっている。
2. 虚血性脳血管障害に対し、頸動脈内膜剥離術、頭蓋内外バイパス術の更なる技術向上にて、当該疾患に対する良好な成績を治めている。
3. 脊髄および脊髄疾患に対し、低侵襲手術にて患者様の予後向上に努めている。
4. 脳血栓症に対する抗血小板剤の有効な使用方法（薬剤モニタリング）について、血小板活性化に関する基礎的研究を行なっている。
5. 急性期血管障害患者・外傷性びまん性脳損傷の症例において、CT・MRI・MRA・3D-CTによる画像診断、SPECTによる脳血流の評価を行っている。持続頭蓋内圧測定（光センサー硬膜下法）、脳血流測定（超音波ドップラー法）、電気生理学的検査（聴性脳幹反応、体性感覚誘発電位）等の諸検査により脳血管攣縮・脳虚血の病態解明を行っている。
6. 悪性脳腫瘍に対して、手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等、集学的治療を行っている。SPECTによる核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている。
7. 脳下垂体腫瘍に対して手術のみならず臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。
8. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている。頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い、高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている。
9. 頭痛に対して各種薬剤投与による経時的な経頭蓋骨ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している。三叉神経痛・顔面痙攣に対しても外来にての内服治療および手術治療にて、良好な成績を収めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Iwamoto N, Watanabe A, Yamamoto M, Miyake N, Kurai T, Teramoto A, Shimada T : Global diffuse distribution in the brain and efficient gene delivery to the dorsal root ganglia by intrathecal injection of adeno-associated viral vector serotype 1. J Gene Med 2009 ; 498-505.
- 2) Tamaki T, Node Y : Occlusion of Internal Carotid Artery in Kimura's Disease. Case Report Med 2010 ; 407538 Epub.

- 3) 玉置智規：頸動脈内膜剥離術におけるヘマシールドパッチグラフトの使用経験，脳卒中の外科 2009；37 (6)：416-421.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 木暮一成，井須豊彦¹⁾，寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：頸椎前方固定術：Williams-Isu法の中期的フォロー，日本脊髄外科学会 (第24回)，2009. 5.
- 2) 野手洋治，玉置智規，寺本 明¹⁾，岡田正昭²⁾，関野宏明²⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科，²⁾ 新天本病院，³⁾ 新天本病院)：頸部頸動脈および頭蓋内主幹動脈の無症候性閉塞性病変：MRAによる検討，日本脳ドック学会総会 (第18回)，2009. 6.
- 3) 野手洋治，玉置智規，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：頸部頸動脈，頭蓋内主幹動脈の無症候性血管狭窄，閉塞：MRAによる検討。(社)日本脳神経外科学会学術集会 (第68回) (東京)，2009. 10.
- 4) 玉置智規：頸動脈内膜剥離術における嗄声と迷走神経刺激装置の使用経験。(社)日本脳神経外科学会学術総会 (第68回) (東京)，2009. 10.
- 5) 木暮一成：頸椎前方固定術：頸椎体法とWilliams-Isu法の中長期フォロー。(社)日本脳神経外科学会学術総会 (第68回) (東京)，2009. 10.
- 6) 岩本直高，山崎道生，木暮一成，玉置智規，野手洋治，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：クモ膜嚢胞を合併した若年者慢性硬膜下血腫の2症例，日本脳神経外科救急学会 (第15回)，2010. 2.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設16年が経過した千葉北総病院脳神経外科は，附属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら，脳血管障害，頭部外傷，脳腫瘍，脳代謝，脳血管内手術，脊髄脊椎外科，機能的脳神経外科，および整容脳神経外科を中心とした臨床的および基礎的研究を行った。脳卒中ケアユニット (SCU) も順調に稼動しており，新たに導入した印旛脳卒中地域連携パスも加わり，千葉県における基幹施設としての責務を果たした。完成した千葉県統一脳卒中地域連携パスにおいて中心的役割を演じた。また，(社)日本脳卒中協会千葉県支部が設置され，各地で脳卒中市民公開講座を開催した。

1) 脳血管障害：rt-PA 静注療法におけるドクターヘリの有効性をまとめた。外科的にはRAgraft連続70症例の経験により，その基本手技と応用に関しての総説を行った。また，頸動脈内膜剥離術後の神経障害について検討した。内頸動脈大型 (巨大) もしくは血栓化動脈瘤に対する治療法の選択基準を強調した。印旛脳卒中地域連携パスと千葉県全県共用パスについて報告した。

2) 頭部外傷：受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測に関する調査を行った。

3) 脳腫瘍：脳下垂体腺腫形成におけるPTTG (pituitary tumortransformin gene) の役割に関する研究を継続した。

4) 脳代謝：線状体ドパミントランスポータとドパミンD2受容体分布のパーキンソン病の病期による違いを検討した。

5) 脳血管内治療：これまで行った脳動静脈奇形に対する血管内治療の治療成績を報告した。

6) 脊髄脊椎外科：Williams-Isu法に経椎体法を併用したcombined approachに関する検討を行った。

7) 機能的脳神経外科：包括的でんかん診療における総説を行った。

8) 整容脳神経外科：RA graft術における前腕部の皮切の工夫について報告した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kim K, Isu T¹⁾, Sugawara A²⁾, Morimoto D³⁾, Matumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾, Mishina M, Kobayashi S, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Iwate Medical School, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Treatment of cervical OPLL by cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts. *Acta Neurochir (Wien)* 2009 ; 151 (11) : 1549-1555.
- 2) Katuno M, Mizunari T, Kobayashi S, Takahashi H¹⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Rupture of a Vertebral Artery Dissecting Aneurysm Developing Immediately After Trapping of a Dissecting Aneurysm on the Contralateral Vertebral Artery. *Neuro Med* 2009 ; 49 (10) : 468-470.
- 3) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎²⁾, 菅原 淳³⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 脊髄障害性疼痛に対するケタミンの使用経験. *日本脊椎脊髄病学会雑誌* 2009 ; 20 (1) : 303-303.
- 4) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎変性疾患の知識と看護 ; 前方アプローチを中心に. *Brain Nursing* 2009 ; 25 (6) : 671-674.
- 5) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : Williams-Isu法による頸椎前方除圧固定術. *Clinical Neuroscience* 2009 ; 27 (6) : 639-642.
- 6) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 腰部脊柱管狭窄症の最新治療. *Brain and Nerve* 61 (6) : 655-662, 2009 2009 ; 61 (6) : 655-662.
- 7) 勝野 亮, 小林士郎, 横田裕行¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 頭部外傷後中枢性塩類喪失症候群と外傷性脳血管攣縮を合併した2症例. *Neurological Surgery* 2009 ; 37 (8) : 793-796.
- 8) Mishina M, Ishiwata K¹⁾, Ishii K²⁾, Naganawa M²⁾, Kimura Y¹⁾, Sakata M¹⁾, Oda K¹⁾, Suzuki M¹⁾, Kobayashi S, Katayama Y³⁾ (¹⁾ Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾ The Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School) : Aging effect on adenosine A2A receptors in putamen : A 11C-TMSX PET study. *Movement Disorders* 2009 ; 24 (1) : S202.
- 9) 原 行弘¹⁾, 三品雅洋, 小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科) : 地域連携パスとリハビリテーションのかかわり : 都市近郊の場合. *脳卒中* 2009 ; 31 (6) : 515-520.
- 10) 三品雅洋, 小林士郎 : 印旛脳卒中地域連携パス (InCliPS) : 手作りデータベースとウェブサイト. *IT Medical* 2009 ; 2 (3) : 45-48.
- 11) 近藤国嗣¹⁾, 坂田祥子¹⁾, 小田柿誠二¹⁾, 横山明正¹⁾, 佐々みさき¹⁾, 小沢義典²⁾, 古口徳雄³⁾, 三品雅洋, 篠遠 仁⁴⁾ (¹⁾ 東京湾岸リハビリテーション病院, ²⁾ 千葉労災病院, ³⁾ 千葉県救急医療センター, ⁴⁾ 旭神経内科リハビリ病院) : 脳卒中回復期における回復期リハビリテーション病棟の役割 : その強みと弱み, 地域連携を通して. *Monthly Book Medical Rehabilitation* 2009 ; 112 : 9-17.

(2) 研究報告書：

- 1) 浦 裕之¹⁾, 太組一朗²⁾, 藤野 修³⁾, 福田恵子⁴⁾, 小林士郎, 吉田大蔵²⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明⁵⁾, 渡辺雅子⁶⁾, 定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院小児科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤部, ⁵⁾ 日本医科大学脳神経外科, ⁶⁾ 国立精神・神経センター武蔵病院精神神経科) : 包括的てんかん診療における薬剤師業務の展開. *日医大医学会誌* 2010 ; 6

(1) : 34-39.

(3) 症例報告 :

- 1) Nomura R¹⁾, Yoshida D¹⁾, Kim K, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Intracerebral hemorrhage caused by a neoplastic aneurysm from pleomorphic lung carcinoma. Neurol Med Chir 2009 ; 49 (1) : 33-36.
- 2) Sugawara A²⁾, Kim K, Isobe M¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Isu T¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Iwate Medical School) : Surgical treatment of spinal lipoma without spina bifida at lumbar region-three case reports. Neurol Med Chir (Tokyo) 2009 ; 49 (12) : 616-618.
- 3) 森本大二郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 下田祐介²⁾, 濱内祝嗣²⁾, 笹森 徹²⁾, 菅原 淳³⁾, 金 景成, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 岩手医科大学脳神経外科) : 仙腸関節障害, 梨状筋症候群, 足根管症候群を合併した腰椎変性疾患の治療経験. 脳神経外科 2009 ; 37 (9) : 873-879.

著 書

- 1) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : [共著] 脊髄脊椎外科の Scoring (NCSS, JOA など) について. 脳神経外科エキスパート 脊髄・脊椎基本編, 2009 ; pp28-29, 中外医学社.
- 2) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : [共著] Williams-Isu法を用いた頸椎前方除圧固定術. 脳神経外科エキスパート 脊髄・脊椎ステップアップ編, 2009 ; pp9-16, 中外医学社.
- 3) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : [共著] 経椎体アプローチを用いた頸椎前方除圧術. 脳神経外科エキスパート 脊髄・脊椎ステップアップ編, 2009 ; pp40-47, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 小林士郎 : 最新の脳卒中外科治療と病診連携. 帝京ちば総合医療センター病診連携の会 (千葉), 2009. 4.
- 2) 小南修史 : SAMSと思われる頸:胸椎のspinal cord AVMとparaspinal AVMの1例. ニッチ脳神経脈管カンファレンス (NNAC) (大阪), 2009. 6.
- 3) 小南修史 : feeder aneurysm ごとに塞栓した小脳AVM. 第10回脳神経血管内治療琉球セミナー (沖縄), 2009. 6.
- 4) 小林士郎 : 脳神経外科領域のめまい: 診断と治療. 平成21年度薬友会生涯教育講座 (東京), 2009. 6.
- 5) 小南修史 : 脊髄硬膜動静脈瘻および脊髄動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術. 第6回日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (東京), 2009. 7.
- 6) 小林士郎 : 脳卒中の最新治療と地域連携. 第46回印旛郡市薬剤師会印西地区講演会 (千葉), 2009. 7.
- 7) 小林士郎 : 脳卒中にならないために. 平成21年度前期健康保険組合連合会千葉連合会講演会 (千葉), 2009. 9.
- 8) 小林士郎 : 脳卒中にならないために. 栄町脳卒中市民公開講座 (千葉), 2009. 10.
- 9) 小林士郎 : 脳卒中にならないために. 平成21年度後期健康保険組合連合会千葉連合会講演会 (千葉), 2009. 12.
- 10) 小林士郎 : 認知症を知ろう. 千葉県介護予防市町村支援委員会いきいき・すこやか介護予防講演会 (千葉), 2010. 1.
- 11) 小南修史 : 脊髄動静脈奇形に対する血管内治療. 第39回日本神経放射線学会 (東京), 2010. 2.
- 12) 梅岡克哉 : 当施設におけるもやもや病の治療方針. 第5回文京ニューロサイエンスフォーラム (東京), 2010. 2.
- 13) 小林士郎 : 高血圧の救急について: 高血圧性脳症と脳出血を中心に. 第8回県中央卒後臨床研修セミナー (相

模原), 2010. 2.

14) 小林士郎: 脳卒中治療ガイドライン2009における改訂の要点. 平成22年度印旛市郡医師会学術講演会(佐倉), 2010. 2.

15) 水成隆之: 我々の手術におけるRAグラフトの応用. 第50回千葉神経外科研究会(千葉), 2010. 2.

16) 梅岡克哉: 当施設におけるもやもや病の治療方針. 第5回文京ニューロサイエンスフォーラム(東京), 2010. 2.

(2) 招待講演:

1) 小南修史: 血管内手術における統計, 疫学2009ガイドラインも含めて. 第3回脳血管手術研究会(名古屋), 2010. 3.

(3) シンポジウム:

1) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 國保倫子, 森本大二郎, 菅原 淳²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 脊髄障害性神経因性疼痛に対するケタミンの使用経験. 第24回日本脊髄外科学会(宮崎), 2009. 5.

(4) 一般講演:

1) Mishina M, Ishikawa K¹⁾, Ishii K¹⁾, Naganawa M¹⁾, Kimura K²⁾, Sakata M¹⁾, Oda K¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Suzuki M, Kobayashi S, Katayama Y³⁾ (1) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) The Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School): Aging effect on adenosine A2A receptors in putamen-A11C-TMSX PET study. 13th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Paris France), 2009. 6.

2) Kominami S: Spinal arterio-venous fistula at the Filum Terminale: cases reviewed. World Federation of Interventional Therapeutic Neuroradiology 2009 (Montreal (Canada)), 2009. 6.

3) Kim K, Isu T¹⁾, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Combined approach with the Williams-Isu method and the transvertebral approach to treat cervical disease. The 7th Biennial Japan-Korean Conference on Spinal Surgery. (Tochigi), 2009. 7.

4) Omura T, Mizunari T, Kobayashi S, Takumi I¹⁾, Teramoto A²⁾ (1) Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): A Case of Bilateral Hypoplastic Internal Carotid Arteries with Bailar Trunk Aneurysm. 第24回日本脳神経外科国際学会フォーラム(JNEF)(岐阜), 2009. 7.

5) Mishina M, Ishii K¹⁾, Kitamura S²⁾, Naganawa M¹⁾, Kimura Y³⁾, Hashimoto M³⁾, Suzuki M¹⁾, Ishibashi K¹⁾, Oda K¹⁾, Sakata M¹⁾, Hamamoto M²⁾, Kim K, Kobayashi S, Katayama Y²⁾, Ishiwata K¹⁾ (1) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, 2) The Department of Neurology, Nephrology, and Rheumatology, Nippon Medical School, 3) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Comparison of putaminal adenosine A2A receptors in de novo Parkinson's disease with in normals: A TMSX PET study. The 39th annual meeting of the Society for Neuroscience (Chicago), 2009. 9.

6) Kim K, Isu T, Kobayashi S, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Our Experience with Ketamine for Neuropathic Pain in Patients with Spinal Cord Injury. 48th Annual Scientific Meeting of International Spinal Cord Injury Society (Florence), 2009. 10.

7) 鈴木雅規, 渡辺 玲, 小南修史, 石原正一郎¹⁾, 吉原智之¹⁾, 石原秀章¹⁾, 神山信也¹⁾, 山根文孝¹⁾ (1) 埼玉医

- 科大学国葬医療センター脳卒中センター脳血管内治療科)：亜急性期にCASを施行した高度内頸動脈狭窄症例の検討。第25回日本脳神経血管内治療学会(富山)，2009。11。
- 8) 戸田茂樹¹⁾，中江竜太²⁾，亦野文宏¹⁾，横田裕行²⁾，木暮一成³⁾，金 景成，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科)：頸椎損傷に対する固定術を行う時期についての検討。第19回脳神経外科手術と機器学会(東京)，2010。3。
 - 9) 金 景成，國保倫子，井須豊彦¹⁾，菅原 淳²⁾，森本大二郎³⁾，小林士郎，寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：頸椎硬膜外血腫の4例。第31回東北北海道脊髄疾患研究会(釧路)，2009。4。
 - 10) 立山幸次郎，水成隆之，渡辺 玲，小南修史，國保倫子，廣中浩平，大村朋子，金 景成，小林士郎，寺本明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：椎骨動脈巨大動脈瘤の1例。第108回日本脳神経外科外科学会関東支部会(東京)，2009。4。
 - 11) 廣中浩平，金 景成，國保倫子，森本大二郎¹⁾，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：脊髄障害性疼痛に対するNMDA受容体拮抗薬の有効性について。第32回日本神経外傷学会(下関)，2009。4。
 - 12) 村井保夫¹⁾，水成隆之，寺本 明¹⁾，梅岡克哉，小林士郎，寺尾 健¹⁾，立山幸次郎 (1) 日本医科大学脳神経外科)：Radial artery graftを用いた外傷性内頸動脈損傷に対する治療。第32回日本神経外傷学会(下関)，2009。4。
 - 13) 金 景成，井須豊彦¹⁾，國保倫子，森本大二郎，菅原 淳²⁾，小林士郎，寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：脊髄障害性疼痛に対するケタミンの使用経験。第38回日本脊椎脊髄病学会(神戸)，2009。4。
 - 14) 水成隆之，小林士郎，立山幸次郎，梅岡克哉¹⁾，村井保夫¹⁾，玉置智則¹⁾，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：内頸動脈大型動脈瘤もしくはBlister like aneurysmに対する治療方針。第18回脳神経外科手術と機器学会(秋田)，2009。4。
 - 15) 森本大二郎¹⁾，井須豊彦¹⁾，菅原 淳²⁾，金 景成，松本亮司¹⁾，磯部正則¹⁾，笹森 徹³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科，³⁾ 北海道大学脳神経外科)：腰椎椎間孔狭窄症に対する内側開窓術における超音波骨メスの有効性。第18回脳神経外科手術と機器学会(秋田)，2009。4。
 - 16) 戸田茂樹¹⁾，高島伸之介²⁾，横田裕行²⁾，木暮一成¹⁾，金 景成，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科，²⁾ 日本医科大学高度救命救急センター)：頸椎脱臼における固定方の選択。第18回脳神経外科手術と機器学会(秋田)，2009。4。
 - 17) 山本優美子¹⁾，酒井涼子¹⁾，金子幸恵¹⁾，荒木真由美¹⁾，荒木千草¹⁾，吹野 慎¹⁾，渡辺郷美¹⁾，水成隆之 (1) 日本医科大学千葉北総病院看護部中央手術室)：パークベンチ体位における除圧用具の検討。第18回脳神経外科手術と機器学会(秋田)，2009。4。
 - 18) 三品雅洋¹⁾，小林士郎，原 行弘²⁾，片山泰朗³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科，³⁾ 日本医科大学内科(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門))：印旛脳卒中地域連携パス(In CliPS)のウェブサイトの検証。第50回日本神経学会総会(仙台)，2009。5。
 - 19) 金 景成，井須豊彦¹⁾，菅原 淳²⁾，森本大二郎，松本亮司¹⁾，磯部正則¹⁾，小林士郎，寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：Williams-Isu法に経椎体法を併用したcombined approachに関する検討。第24回日本脊髄外科学会(宮崎)，2009。5。
 - 20) 國保倫子，金 景成，菅原 淳¹⁾，井須豊彦²⁾，立山幸次郎，小林士郎，寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：特発性脊髄硬膜外血腫の4例。第24回日本脊髄外科学会(宮崎)，2009。5。
 - 21) 三品雅洋¹⁾，石井賢二²⁾，石渡喜一³⁾，石橋賢士²⁾，小林士郎，片山泰朗⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設，³⁾ 東京医科歯科大学神経内科，⁴⁾ 日本医科大

- 学内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：DOPA系PETにより偶然発見されたパーキンソン病：PETによる発症前診断の可能性の検討。第18回日本脳ドック学会総会(東京)，2009。6。
- 22) 福地孝明¹⁾，大鳥達雄¹⁾，三品雅洋²⁾，阿部 新¹⁾，中嶋信人¹⁾，岡村正哉¹⁾，小林士郎，野本達哉³⁾，片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，³⁾ 荏原病院神経内科)：日本医科大学神経内科関連病院におけるrt-PA投与例の検討—3。第27回日本神経治療学会総会(熊本)，2009。6。
- 23) 岡村正哉¹⁾，長尾毅彦²⁾，野上 茜¹⁾，三品雅洋³⁾，野本達也²⁾，荻原 浩²⁾，小林士郎，片山泰朗¹⁾，横地正之¹⁾，田久保秀樹¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門，²⁾ 荏原病院神経内科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター)：tPA治療開始時間は治療成績と相関するのか？。第27回日本神経治療学会総会(熊本)，2009。6。
- 24) 金 景成，三品雅洋，小林士郎，寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎疾患に関する研究。第18回日本脳ドック学会総会(東京)，2009。6。
- 25) 加藤文司¹⁾，阿部雅志¹⁾，渡辺英樹¹⁾，河原崎昇¹⁾，中條秀信²⁾，木島鉄仁²⁾，岡田 進²⁾，小南修史，小林士郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線センター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科)：椎骨脳底動脈におけるFusion 3D MRA。第18回日本脳ドック学会総会(東京)，2009。6。
- 26) 立山幸次郎，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：RA graft術における拘縮による運動障害の発生を考慮した前腕部の皮切の工夫について。第2回日本整容脳神経外科研究会(東京)，2009。6。
- 27) 渡辺 玲，小南修史，小林士郎，寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：複視で発症した内頸動脈瘤の1例。第72回東葛脳神経外科カンファレンス(千葉)，2009。6。
- 28) 浦 裕之¹⁾，太組一朗²⁾，藤野 修³⁾，高橋瑞穂³⁾，福田恵子⁴⁾，小林士郎，寺本 明⁵⁾，定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院小児科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤科，⁵⁾ 日本医科大学脳神経外科)：医師・薬剤師の連携による薬学的介入が有効であった難治てんかん患者の1例。第3回日本てんかん学会関東甲信越地区地方会(東京)，2009。6。
- 29) 長谷川麻衣子¹⁾，手代木美由希¹⁾，西村花菜子¹⁾，国府田淳子¹⁾，広瀬七恵¹⁾，水成隆之 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院看護部)：適切な経鼻胃管の選択による自然抜去防止。第18回日本意識障害学会(川越)，2009。7。
- 30) 金 景成，井須豊彦¹⁾，小林士郎，寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：前方除圧術にて治療しえたOALLの1例。Aichi Summer Forum for Practical Spinal Surgery(名古屋)，2009。8。
- 31) 石井雄道¹⁾，白銀一貴，小林士郎，寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：Fibrous adenomaの手術戦略。第7回千葉下垂体疾患研究会(千葉)，2009。9。
- 32) 大村朋子，水成隆之，渡辺 玲，小南修史，小林士郎，寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：小脳虫部に発生したglioblastomaの1例。第109回日本脳神経外科学会関東支部学術集会(東京)，2009。9。
- 33) 鈴木雅規，小南修史，小林士郎，石原正一郎¹⁾ (¹⁾ 埼玉医科大学国際医療センター)：外傷性眼動脈瘤。第23回千葉県重症患者管理研究会(千葉)，2009。9。
- 34) 金 景成，白銀一貴，國保倫子，大村朋子，鈴木雅規，梅岡克哉，渡辺 玲，三品雅洋，小南修史，水成隆之，小林士郎)：脊髄症が疑われた1例。第64回千葉北総神経放射線研究会(千葉)，2009。9。
- 35) 浦 裕之¹⁾，太組一朗²⁾，渡邊暁洋³⁾，福田恵子³⁾，阪本雄一郎⁴⁾，小林士郎，寺本 明⁵⁾，益子邦洋⁴⁾，定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急科，⁵⁾ 日本医科大学脳神経外科)：救急外来における痙攣性疾患の実態調査。第77回日本医科大学医学会総会(東京)，2009。9。
- 36) 三品雅洋¹⁾，石井賢二²⁾，石渡喜一²⁾，石橋賢士²⁾，織田圭一²⁾，小林士郎，片山泰朗³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設，³⁾ 日本医科大学内科(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門))：ドパミンシブス前機能PETにより発症前に診断されたパーキンソン病。第49

回日本核医学会学術総会（旭川），2009，10.

- 37) 水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：内頸動脈大型，前壁 (Blister like) 動脈瘤に対する治療戦略. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 38) 小南修史，渡辺 玲，吉田陽一¹⁾，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：脳動静脈奇形に対する血管内治療の治療成績. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 39) 渡辺 玲，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：髄膜腫に対する術前塞栓術. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 40) 金 景成，井須豊彦¹⁾，菅原 淳²⁾，森本大二郎³⁾，小林士郎，寺本 明³⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科，²⁾ 岩手医科大学脳神経外科，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：Williams-Isu法による前方固定術後固定推角の経時的変化に関する検討. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 41) 梅岡克哉，水成隆之，國保倫子，村井保夫¹⁾，小南修史，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：椎骨動脈解離性動脈瘤に対し血行再建術を行った12例の長期的検討. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 42) 鈴木雅規，石原正一郎¹⁾，吉原智之¹⁾，石原秀章¹⁾，神山信也¹⁾，山根文孝¹⁾，寺本 明²⁾ (1) 埼玉医科大学国際医療センター脳血管内治療科，²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：CASのタイミングを逸してしまった症例の検討. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 43) 大村朋子，水成隆之，國保倫子，廣中浩平，金 景成，渡辺 玲，小南修史，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：Atypical meningiomaの再発因子についての検討. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 44) 廣中浩平，三品雅洋，白銀一貴，國保倫子，大村朋子，梅岡克哉，金 景成，渡辺 玲，小南修史，水成隆之，片山泰朗¹⁾，益子邦洋²⁾，小林士郎，寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：rt-PA静注療法におけるドクターへの有効性. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 45) 國保倫子，水成隆之，白銀一貴，廣中浩平，大村朋子，梅岡克哉，金 景成，渡辺 玲，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：当院における椎骨動脈解離による脳梗塞症例の治療方針の検討. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 46) 白銀一貴，渡辺 玲，小南修史，水成隆之，梅岡克哉，立山幸二郎，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：脳血管攣縮に対する血管内治療. 第68回日本脳神経外科学会総会（東京），2009，10.
- 47) 浦 裕之¹⁾，太組一朗²⁾，藤野 修³⁾，高橋瑞穂³⁾，福田恵子⁴⁾，小林士郎，寺本 明⁵⁾，定本清美¹⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，³⁾ 日本医科大学千葉北総病院小児科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤科，⁵⁾ 日本医科大学脳神経外科)：本邦におけるてんかん専門薬剤師制度確立に向けたシュミレーション：薬剤師の視点. 第43回日本てんかん学会総会（弘前），2009，10.
- 48) 太組一朗¹⁾，齊藤伸幸²⁾，浦 裕之³⁾，三品雅洋，小林士郎，益子邦洋²⁾，寺本 明⁴⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター，³⁾ 東邦大学薬学部臨床病態学研究室，⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科)：頻回の低血糖発作を既往にもつⅡ型糖尿病患者の低血糖発作後に生じた非けいれん性焦点性てんかん重積. 第43回日本てんかん学会総会（弘前），2009，10.
- 49) 三品雅洋，鈴木正彦¹⁾，石井賢二¹⁾，石渡喜一¹⁾，北村 伸²⁾，石橋賢志¹⁾，織田圭一¹⁾，坂田宗之¹⁾，小林士郎，濱本 真，片山泰朗²⁾ (1) 東京都老人病総合研究所ポジトロン医学研究施設，²⁾ 日本医科大学内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：線条体ドパミントランスポータとドパミンD2受容体分布のパーキンソン病の病期による違い. 第21回日本脳循環代謝学会総会（大阪），2009，11.
- 50) 三品雅洋，鈴木正彦¹⁾，石井賢二¹⁾，石渡喜一¹⁾，北村 伸²⁾，石橋賢志¹⁾，織田圭一¹⁾，坂田宗之¹⁾，小林士郎，濱本 真，片山泰朗²⁾ (1) 東京都老人病総合研究所ポジトロン医学研究施設，²⁾ 日本医科大学内科神経・

腎臓・膠原病リウマチ部門)：線条体ドパミントランスポータとドパミンD2受容体分布のパーキンソン病の病期による違い。第21回日本脳循環代謝学会総会(大阪), 2009. 11.

- 51) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳²⁾, 森本大二郎, 小林士郎⁽¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 岩手医科大学脳神経外科)：Williams-Isu法による頸椎前方固定術へのSandwich法併用に関する検討。第44回日本脊髄障害医学会(東京), 2009. 11.
- 52) 小南修史, 渡辺 玲, 鈴木雅規, 吉田陽一¹⁾, 布施 明²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学高度救命救急センター)：NBCAを用いた脳動静脈奇形の塞栓術：単一術者による150例の治療結果。第25回日本脳神経血管内治療学会総会(富山), 2009. 11.
- 53) 小南修史, 渡辺 玲, 布施 明¹⁾, 内藤 功²⁾, 長畑守雄³⁾, 小林士郎, 寺本 明⁴⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター, ²⁾ 老年病研究所附属病院脳神経外科, ³⁾ 弘前大学放射線科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科)：前脊髄動脈から栄養される脊髄動静脈奇形の塞栓術。第25回日本脳神経血管内治療学会総会(富山), 2009. 11.
- 54) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：NBCAを中心とした髄膜腫の術前塞栓術。第25回日本脳神経血管内治療学会総会(富山), 2009. 11.
- 55) 大村朋子, 白銀一貴, 國保倫子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎)：短期間にconvexity SAHと両側頸部内頸動脈狭窄を来たした1例。第65回千葉北総神経放射線研究会(千葉), 2009. 11.
- 56) 鈴木雅規, 白銀一貴, 國保倫子, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎)：出血にて発症した両側性多発嚢胞病変の1例。第65回千葉北総神経放射線研究会(千葉), 2009. 11.
- 57) 白銀一貴, 渡辺 玲, 大村朋子, 梅岡克哉, 水成隆之, 小林士郎, 足立好司¹⁾, 寺本 明¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：骨髄転移を認めた頭蓋原発のBurkitt Lymphomaの1例。第110回日本脳神経外科学会関東支部総会(東京), 2009. 12.
- 58) 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎)：mass effectにて発症した脳幹部腫瘍の1例。第66回千葉北総神経放射線研究会(千葉), 2010. 2.
- 59) 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎)：外傷の機転を有する小児基底核部出血の1例。第66回千葉北総神経放射線研究会(千葉), 2010. 2.
- 60) 大村朋子, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎)：興味ある経過をたどった両側性頸部内頸動脈狭窄の1例。第74回東葛脳神経外科カンファレンス(千葉), 2010. 3.
- 61) 白銀一貴, 渡辺 玲¹⁾, 梅岡克哉, 水成隆之, 小林士郎, 石井雄道²⁾, 寺本 明²⁾ ⁽¹⁾ 東京共済病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：内視鏡下経鼻髄液漏閉鎖術にて治療しえた外傷性髄液鼻漏の1例。第33回日本脳神経外傷学会(東京), 2010. 3.
- 62) 鈴木雅規, 白銀一貴, 國保倫子, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：当院におけるゴルフカートに関係する頭部外傷例の検討。第33回日本脳神経外傷学会(東京), 2010. 3.
- 63) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科)：Donor血管を皮下トンネルにあんぜに通すための簡単な工夫。第19回脳神経外科手術と機器学会(東京), 2010. 3.
- 64) 立山幸次郎¹⁾, 太組一朗²⁾, 水成隆之, 小林士郎, 百東比古³⁾, 寺本 明⁴⁾ ⁽¹⁾ 博慈会記念病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学形成外科, ⁴⁾ 日本医科大学脳神経外科)：RA graft術における拘縮による運動障害の発生を考慮した前腕部の皮切の工夫について。第3回日本整容脳神経外科研究会(東京), 2010. 3.
- 65) 梅岡克哉)：CEA中の頸動脈損傷によりRAグラフトを必要とした1例。第1回東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」(千葉), 2010. 3.

12. 整形外科科学講座

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科科学教室の平成21年度の研究は、臨床的研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨、軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸、腰椎部疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療法および手術法、の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、治療法における新知見を報告している。基礎的研究では、留学先との共同研究である手の指関節を支持する靭帯の3次元的な構造と機能の解明に対する研究成果を学会、誌上で報告した。またヒト骨髄ES細胞を2次培養後の細胞増殖に関する研究成果を報告した。

学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表頻度が増加して発表の場の広がりをみせ、シンポジウム、招待、研修、一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kitagawa Y, Thai D¹⁾, Choong P¹⁾ (1) Dept of Orthopaedics, St. Vincent Hospital Melbourne) : Reconstructions of the shoulder following tumour resection. J Orthop Surg 2007 ; 15 (2) : 201-206.
- 2) Tamai K¹⁾, Ishige N²⁾, Kuroda S²⁾, Ohno W¹⁾, Itoh H, Hashiguchi H, Iizawa N, Mikasa M²⁾ (1) Department of Orthopaedic Surgery, Dokkyo Medical University School of Medicine, 2) Matsudo Orthopaedic Hospital) : Four-segment classification of proximal humeral fractures revisited : A multicentere study on 509 cases. J shoulder Elbow Surg 2009 ; 18 (6) : 845-850.
- 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 齋藤 善, 伊藤博元 : 陳旧性骨性植指に対する pull out wire 法による治療経験. 骨折 2009 ; 31 (1) : 173-177.
- 4) 澤泉卓哉, 南野光彦, 林 央介, 堀口 元, 大場良輔, 伊藤博元 : 手指の変形治療・偽関節に対する創外固定を用いた最小侵襲矯正骨切り術. 骨折 2009 ; 31 (1) : 185-189.

追加分症例報告：

- 1) Kitagawa Y, Fujii N, Katayama H¹⁾, Isobe H¹⁾, Yanagida Y¹⁾, Iwase H¹⁾, Maeda S¹⁾, Ito H (1) Dept of Pathology, Tama Nagayama) : Pleomorphic rhabdomyosarcoma diagnosed by fine needle aspiration cytology using the cell-transfer technique. J Jpn Soc Clin Cytol 2008 ; 3 : 216-219.
- 2) 田中陽子, 北川泰之, 藤井信人, 前田昭太郎¹⁾, 伊藤博元 (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部) : 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 2009 ; 48 (2) : 75-76.

追加分総説：

- 1) 飯澤典茂, 伊藤博元, 三笠元彦¹⁾, 黒田重史¹⁾, 玉井和哉²⁾, 橋口 宏, 石毛徳之¹⁾, 大野 弥²⁾ (1) 松戸整形外科病院, 2) 獨協大学医学部医学科整形外科学) : 多施設集計に基づく上腕骨近位端骨折データベースの分析. 関節外科 2008 ; 27 (10) : 1302-1309.

(1) 原著：

- 1) Liu X, Konno S, Miyamoto M, Gembun Y, Horiguchi G, Ito H : clinical usefulness of assessing lumbar evoked potentials in lumbar spinal stenosis. J of Neurosurgery Spine 2009 ; 11 (1) : 71-78.
- 2) Liu X, Konno S, Miyamoto M, Gembun Y, Horiguchi G, Ito H : clinical value of motor evoked potential with transcranial magnetic stimulation in the assessment of lumbar spinal stenosis . international orthopaedics 2009 ; 33 (4) : 1069-1074.
- 3) Kawakami M¹⁾, Chiba K²⁾, Fukui M³⁾, Hirota Y⁴⁾, Kanamori M⁵⁾, Kikuchi S⁶⁾, Konno S⁶⁾, Miyamoto M, Nakai S⁷⁾, Seichi A⁸⁾, Shimamura T⁹⁾, Shirado O¹⁰⁾, Taguchi T, Takahashi K, Takeshita K⁸⁾, et al. (1) Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, (2) Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, (3) Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, (4) Department of Public Health, Osaka City University Faculty of Medicine, (5) Department of Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, (6) Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, (7) Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, (8) Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, (9) Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, (10) Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School) : Relationship between Patients' Self-assessment using the JOACMEQ and the JOA Score in Patients with Myelopathy caused by Cervical Spondylosis and Disc Herniation. Japanese Society for Spinal Surgery and Related Research 2009 ; 20 (3) : 677-681.
- 4) Chiba K¹⁾, Fukui M²⁾, Kanamori M³⁾, Kawakami M⁴⁾, Kikuchi S⁵⁾, Nakai S⁶⁾, Shimamura T⁷⁾, Shirado O⁸⁾, Seichi A⁹⁾, Takahashi K¹⁰⁾, Taguchi T¹⁰⁾, Takeshita K⁹⁾, Tanaka Y¹⁰⁾, Tani T¹⁰⁾, Miyamoto M, et al. (1) Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, (2) Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, (3) Department of Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, (4) Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, (5) Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, (6) Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, (7) Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, (8) Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, (9) Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, (10) et al.) : Efficacy of Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) for Cervical Evaluation of Patients with Ossification of Posterior Longitudinal Ligament. J Japanese Society for Spinal Surgery and Related Research 2009 ; 20 (3) : 682-688.
- 5) Taniguchi S¹⁾, Fukui M²⁾, Chiba K³⁾, Kanamori M⁴⁾, Kawakami M⁵⁾, Miyamoto M, Nakai S⁶⁾, Shimamura T⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takeshita K⁹⁾, Tanaka Y¹⁰⁾, Tani T¹⁾, Wada E¹⁰⁾, Yonenobu K¹⁰⁾ (1) Department of Orthopaedic Surgery, Kochi Medical School, (2) Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, (3) Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, (4) Department of Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, (5) Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, (6) Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, (7) Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, (8) Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, (9) Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, (10) et al.) : Validating the JOABPEQ for measuring Mental Health Problems in Patients with Lumbar Disc Herniation and Lumbar Spinal Canal Stenosis. J Japanese Society for Spinal Surgery and Related Research 2009 ; 20 (3) : 706-708.
- 6) Kanamori M¹⁾, Fukui M²⁾, Chiba K³⁾, Kawakami M⁴⁾, Miyamoto M, Nakai S⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Taguchi T⁷⁾, Takeshita K⁸⁾, Tanaka Y⁹⁾, Tani T¹⁰⁾, Taniguchi S¹⁰⁾, Wada E¹⁰⁾, Yonenobu K¹⁰⁾ (1) Department of

Orthopaedic Surgery and Human Science, University of Toyama, ²⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Fujita Health University, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, ⁹⁾ Tohoku Central Hospital of the Manual Aid Association of Public School Teachers, ¹⁰⁾ et al.) : Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire ; A Validity Study in Lumbar Disc Herniation Patients. J Japanese Society for Spinal Surgery and Related Research 2009 ; 20 (3) : 709-712.

- 7) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, Yonenobu K¹⁰⁾, et al. (¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, ⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, ¹⁰⁾ et al.) : JOA Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) / JOA Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : The report on the development of revised versions, April 16, 2007. J Orthop Sci 2009 ; 14 (3) : 348-365.
- 8) Miyamoto M, Tsunoda R, Gembun Y, Konno S, Hagiwara Y, Liu X, Ito H : Recurrence of fibrous hemartoma of infancy excised 14 years after the primary surgery Case report. J of Neurosurgery Pediatrics 2010 ; 5 (1) : 136-139.
- 9) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H : Simplified dorsal approach to fracture of the hamate hook with percutaneous fixation with a screw. Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery 2010 ; 44 (2) : 1-5.
- 10) 青木孝文, 宮本雅史, 伊藤博元 : 腰痛の保存的治療 : 慢性腰痛に対する簡便な運動療法の試行とMRI所見による筋動態の変化について. 運動療法と物理療法 2009 ; 20 (1) : 2-7.
- 11) 橋口 宏, 伊藤博元 : 関節拘縮を伴った腱板不全断裂に対する鏡視下腱板修復・関節包解離術. 肩関節 2009 ; 33 (2) : 455-458.
- 12) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 保存療法の適応と限界 : 特集 橈骨遠位端骨折の治療戦略. 関節外科 2009 ; 28 (9) : 33-38.
- 13) 河路秀巳, 玉井健介, 小林俊之, 林 幹彦, 伊藤博元 : 全身状態不良の大腿骨近位部骨折症例における合併症の検討. Hip Joint 2009 ; 35 : 449-453.
- 14) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 尺側手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討. 日本手の外科学会誌 2010 ; 26 (2) : 53-56.
- 15) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 手指伸筋腱脱臼の治療経験. 整形外科 2010 ; 61 (2) : 113-117.

(2) 総説 :

- 1) 元文芳和 : 骨粗鬆症性脊椎椎体骨折. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (2) : 125-129.
- 2) 飯澤典茂, 伊藤博元 : 上腕骨近位端骨折. Monthly Book Orthopaedics 2009 ; 22 (5) : 37-46.
- 3) 宮本雅史, 福井 充¹⁾, 紺野慎一²⁾, 白土 修³⁾, 高橋和久⁴⁾, 廣田良夫⁵⁾, 菊地臣一²⁾ (¹⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室, ²⁾ 福島県立医科大学整形外科, ³⁾ 埼玉医科大学整形外科, ⁴⁾ 千葉大学整形外科, ⁵⁾ 大阪市立

大学公衆衛生学)：日本整形外科学会腰痛疾患問診票 (JOABPEQ) の科学性と有用性について。日本腰痛学会誌 2009；15 (1)：23-31.

- 4) 宮本雅史, 福井 充¹⁾, 紺野慎一²⁾, 白土 修³⁾, 高橋和久⁴⁾, 竹下克志⁵⁾, 菊地臣一²⁾ (1) 大阪市立大学医学部推計学研究室, 2) 福島県立医科大学整形外科, 3) 埼玉医科大学整形外科, 4) 千葉大学整形外科, 5) 東京大学整形外科)：日本整形外科学会腰痛疾患問診票 (JOABPEQ) の特徴と使用法について。日本脊椎脊髄病学会雑誌 2009；20 (4)：823-833.
 - 5) 岩谷 力¹⁾, 星野雄一²⁾, 伊藤博元, 藤野圭司³⁾, 角南義文⁴⁾ (1) 国立障害者リハビリセンター, 2) 自治医科大学整形外科学教室, 3) 藤野整形外科医院, 4) 竜操整形外科病院)：健康寿命延伸に果たす運動器リハビリテーションの役割。日本整形外科学会誌 2009；83：351-356.
 - 6) 南野光彦, 伊藤博元：高齢者橈骨遠位端骨折の治療。高齢者橈骨遠位端骨折に対する保存的治療。Monthly Book Orthopaedics 2010；23 (1)：1-6.
 - 7) 橋口 宏, 岩下 哲, 伊藤博元：関節拘縮を伴う腱板不全断裂に対する鏡視下腱板修復・関節包解離術。臨床整形外科 2010；45 (2)：145-149.
 - 8) 伊藤博元：診療ガイドラインからみたアキレス腱断裂の診断・治療。日本整形外科学会誌 2010；84：38-46.
- (3) 症例報告：
- 1) Hayashi O, Sawaizumi T, Ito H：Closing radial wedge osteotomy for Preiser's combined with Kienbock's disease：two case reports。Hand Surgery 2009；14 (1)：57-62.
 - 2) 石原陽子, 林 幹彦, 金 竜, 北川泰之, 藤井信人, 高山景範, 伊藤博元：外傷性肩関節脱臼後に発生した上腕骨頭壊死の1例。関東整形災害外科学会雑誌 2010；41 (1)：7-10.
 - 3) 苗代和彦, 森 淳, 飯澤典茂, 尾崎大也, 伊藤博元：健康人における両側同時膝蓋腱断裂の1例。JOSKAS 2010；35 (1)：172-173.
 - 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元：橈骨頸部骨折と肘内側側副靭帯損傷を伴った上腕三頭筋皮下断裂の1例。整形外科 2010；61 (3)：231-234.

著 書

- 1) 伊藤博元：〔分担〕運動器不安定症 概念と治療体。運動器の痛みプライマリケア：腰背部の痛み, 2009；pp33-36, 南江堂.
- 2) 伊藤博元：〔分担〕運動器不安定症。運動器慢性疾患に対する運動療法, 2009；pp260-262, 金原出版.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) Egawa Y, Minami K, Nakajima T, Maruyama H, Murashige R, Ito H：The study of MRI for the donor site changes in knee treated with osteochondral autograft transfer。SICOT/SIROT Annual International Conference (The 5th) (Marrakech, Morocco), 2007. 8.
- 2) 江川慶長, 南 和文, 橋口 宏, 丸山晴久, 伊藤博元：大相撲力士および大学相撲選手における膝関節痛発症に影響する因子の検討。日本整形外科学会スポーツ医学学会学術集会 (第33回) (札幌), 2007. 6.
- 3) 江川慶長, 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 村重良一, 伊藤博元：人工膝関節置換術において術中トラネキサム酸投与が術後出血量とDVTに及ぼす影響。日本人工関節学会 (第38回) (沖縄), 2008. 2.
- 4) 青木孝文, 南野光彦, 堀口 元, 澤泉卓哉, 伊藤博元：手根管症候群軽症例に対する母指対立開排運動療法の試み。東日本手の外科学研究会 (第23回) (水戸), 2009. 2.
- 5) 南 和文, 苗代和彦, 北原聡太¹⁾ (1) 鹿島労災病院整形外科)：アマチュア相撲におけるドーピング検査。相撲

医学協議会（第7回）（東京），2009. 3.

- 6) 青木孝文, 南野光彦, 萬歳祐子, 堀口 元, 伊藤博元：手根管症候群，軽症例に対する母指対立開排運動の試み. 関東整形災害外科学会（第49回）（東京），2009. 3.

(1) 教育講演：

- 1) 宮本雅史：上肢脊椎リハビリテーション. 平成21年夏季セラピスト研修会（千葉），2009. 6.
- 2) 宮本雅史：物理療法・運動療法. 平成21年夏季セラピスト研修会（千葉），2009. 6.
- 3) 宮本雅史：ガイドラインからみた腰椎椎間板ヘルニアにおける診療. 安比夏期セミナー（第20回）（岩手），2009. 8.
- 4) 澤泉卓哉：手関節痛（特に尺側部痛について）. 日本医大城東地区整形外科医会（第3回）（東京），2009. 10.
- 5) 宮本雅史：診療ガイドラインからみた腰椎椎間板ヘルニアの診療のポイント. 荒川整形外科フォーラム21（第18回）（東京），2009. 11.
- 6) 宮本雅史：上肢脊椎リハビリテーション. 平成21年秋季セラピスト研修会（千葉），2009. 11.
- 7) 宮本雅史：物理療法・運動療法. 平成21年秋季セラピスト研修会（千葉），2009. 11.
- 8) 澤泉卓哉：手関節の痛み（診断のコツ）. 日本医科大学同窓会茨城支部会（茨城），2009. 11.
- 9) 南 和文：相撲の医学. 宮崎県スポーツ医学研究会（第42回）（宮崎），2010. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H：Vascularized Bone Graft for the Scaphoid Non-union using Second Metacarpal Artery. Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (The 18st) (Fukuoka), 2009. 4.
- 2) Aoki T：Medial Retinaculum Injection Therapy for Osteoarthritis of the Knee. Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (The 18th) (Fukuoka), 2009. 4.
- 3) 澤泉卓哉, 伊藤博元：橈骨遠位端関節内骨折に対する olive wire を用いた non-bridging 型創外固定. 中部日本整形外科災害外科・学術集会（第112回）（京都），2009. 4.
- 4) 伊藤博元：運動器不安定症とロコモティブシンドローム. 日本整形外科学会学術総会（第82回）（福岡），2009. 5.
- 5) 橋口 宏, 伊藤博元, 岩下 哲：スポーツにより発症した上腕骨近位骨端線離開. 日本肩関節学会（36回）（山形），2009. 10.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 金 勝乾¹⁾, 三木英之²⁾, 内山英司³⁾, 桜庭景植¹⁾, 成田哲也⁴⁾, 森石丈二⁵⁾, 森 淳, 武田秀樹⁶⁾（¹⁾ 順天堂大学, ²⁾ 平塚共済病院, ³⁾ 関東労災病院, ⁴⁾ 明大前整形外科クリニック, ⁵⁾ 船橋整形外科病院, ⁶⁾ 東京大学）：成長期のバスケットボールにおけるスポーツ障害. 日本整形外科学会学術集会（第35回）（前橋），2009. 9.

(4) 一般講演：

- 1) Egawa Y, Ito H, Minami K, Hashiguchi H, Iizawa N：A 15-year follow-up of Porous Coated Anatomic Prosthesis in Primary total knee arthroplasty. AWC SICOT (The 27th) (Pattaya, Thailand), 2009. 10.
- 2) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Nawashiro K：Outcomes of arthroscopic double-row repair for large or massive rotator cuff tear. SICOT/SIROT Annual International Conference (The 6th) (Thailand), 2009. 10.
- 3) Nakajima T, Miyamoto M, Minami K, Ito H：Surgical treatment of infectious spondylitis in lumbosacral region by Ilizarov external fixator. International ArgoSpine Symposium (The 14th) (Paris), 2010. 1.
- 4) Mori A, Narita T, Iizawa N, Ozaki D, Ito H：Clinical results of revision anterior cruciate ligament surgery with the augmented single-bundle reconstruction. International Society of Arthroscopy, Knee

- Surgery and Orthopaedic Sports Medicine (The 7th) (Osaka), 2009. 4.
- 5) Mori A, Narita T, Iizawa N, Ozaki D, Ito H : Recovery of muscle strength after anterior cruciate ligament reconstruction in female athletes over 35 years old. International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine (The 7th) (Osaka), 2009. 4.
 - 6) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 齋藤 善, 伊藤博元 : 80歳以上の超高齢者脊椎手術例の検討. 日本脊椎脊髄病学会 (第38回) (神戸), 2009. 4.
 - 7) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 齋藤 善, 伊藤博元, 福井 充¹⁾ (1) 大阪市立大学医学部推計学研究室) : JOACMEQを用いた頸椎症性脊髄症の手術成績の評価 : 術後頸部痛軽減のための工夫. 日本脊椎脊髄病学会 (第38回) (神戸), 2009. 4.
 - 8) 林 央介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : Preiser病に対するClosing radial wedge osteotomyの治療経験. 日本手の外科学会学術集会 (第52回) (東京), 2009. 4.
 - 9) 齋藤 善, 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 伊藤博元 : 超音波検査による成人ばね指の腱・腱鞘の形態学的変化. 日本手の外科学会学術集会 (第52回) (東京), 2009. 4.
 - 10) 北川泰之 : 一般診療における骨軟部腫瘍の留意点. 日野市医師会地域連携学術講演会 (東京), 2009. 4.
 - 11) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 尺側手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討. 日本手の外科学会学術集会 (第52回) (東京), 2009. 4.
 - 12) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 林 央介, 伊藤博元 : 尺側手根伸筋腱々鞘炎に対するステロイド腱鞘内注入 (治療成績と診断上の問題点). 日本手の外科学会学術集会 (第52回) (東京), 2009. 4.
 - 13) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 伊藤博元, 福井 充¹⁾ (1) 大阪市立大学医学部推計学研究室) : 日本整形外科学会頸髄症評価質問票 (JOACMEQ) を用いた頸椎症性脊髄症の手術成績評価の試み. 日本整形外科学会学術総会 (第82回) (福岡), 2009. 5.
 - 14) 橋口 宏, 伊藤博元, 南 和文, 中嶋隆夫, 江川慶長, 村重良一 : 腱板大断裂・広範囲断裂に対する直視下および鏡視下腱板修復術の治療成績. 日本整形外科学会学術総会 (第82回) (福岡), 2009. 5.
 - 15) 北川泰之 : 症例検討45歳女性仙骨腫瘍. Bone Tumor Club, 2009. 5.
 - 16) 中川博文¹⁾, 清水和彦¹⁾, 後藤寛司¹⁾, 櫻村修生²⁾, 南 和文 (1) 豊橋創造大学, 2) 東京農業大学) : 学生相撲選手の立位姿勢における足底部接触圧分布特徴の解析. 平成21年度日本非破壊検査協会春季講演大会 (東京), 2009. 5.
 - 17) 石川智久¹⁾, 石黒晴久¹⁾, 南 和文 (1) 東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科) : 屋外高温作業環境における経口補水液による熱中症予防の可能性. 日本産業衛生学会 (第82回) (福岡), 2009. 5.
 - 18) 橋口 宏, 伊藤博元, 江川慶長, 苗代和彦 : 腱板関節包面不全断裂に対する鏡視下経腱板修復術の治療成績. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第1回) (札幌), 2009. 6.
 - 19) 北村繁行, 須藤悦宏, 林 央介, 伊藤博元 : 肩関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎の1例. 東北整形災害外科学会 (第107回) (新潟), 2009. 6.
 - 20) 望月祐輔, 澤泉卓哉, 角田 隆, 堀口 元, 福田慶一, 松井秀平, 伊藤博元 : 筋走行異常が原因と考えられた前腕回旋障害の1例. 関東整形災害外科学会月例会 (第649回) (東京), 2009. 6.
 - 21) 青木孝文, 須藤賢太郎, 堀口 元, 松井秀平, 伊藤博元 : 踵骨骨折後の遺残疼痛に対する対策. 日本足の外科学会学術集会 (第34回) (東京), 2009. 6.
 - 22) 北川泰之, 田中陽子, 林 幹彦, 金 竜, 藤井信人, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 角田 隆, 伊藤博元 (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部) : 軟部腫瘍の術前診断におけるMRIと穿刺吸引細胞診の相補的關係. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第42回) (横浜), 2009. 7.
 - 23) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 基節骨・中手骨骨折術後のMP関節屈曲位による早期運動療法. 日本運動器リハビリテーション学会 (第21回) (東京), 2009. 7.

- 24) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 中手骨頸部骨折に対する low-profile plate system の治療経験. 日本骨折治療学会 (第35回) (横浜), 2009. 7.
- 25) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 福田慶一, 伊藤博元: 橈骨遠位端関節内骨折に対する non-bridging 型創外固定 (olive wire による適応拡大). 日本骨折治療学会 (第35回) (横浜), 2009. 7.
- 26) 林 幹彦, 北川泰之, 田中陽子, 金 竜, 藤井信人, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 伊藤博元 (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部: 大腿骨に発症した high grade surface osteosarcoma の1例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第42回) (横浜), 2009. 7.
- 27) 青木孝文, 花岡央泰, 山田祐子, 南野光彦, 須藤賢太郎, 伊藤博元: リスフラン関節損傷の病態と治療. 日本骨折治療学会 (第35回) (横浜), 2009. 7.
- 28) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 須藤賢太郎, 伊藤博元: 環軸椎回旋位固定の治療経験: 軸椎の骨変形が remodeling された症例を含めて. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (小樽), 2009. 9.
- 29) 岩下 哲: ペットボトルを用いた腱板機能訓練の有用性の検討. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (小樽), 2009. 9.
- 30) 河路秀巳, 玉井健介, 堀口 元, 植松卓哉, 佐竹美彦, 伊藤博元: Asian IMHS (Intramedullary Hip Screw) の使用経験. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (小樽), 2009. 9.
- 31) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 須藤賢太郎, 伊藤博元: 患者立脚型質問票による脊髄症評価と運動誘発電位との関連. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (小樽), 2009. 9.
- 32) 橋口 宏, 岩下 哲, 苗代和彦, 中嶋隆夫, 南 和文, 伊藤博元: 変形性肩鎖関節症に対する鏡視下鎖骨遠位端切除術の治療成績. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (小樽), 2009. 9.
- 33) 中嶋隆夫, 苗代和彦, 岩下 哲, 橋口 宏, 南 和文, 宮本雅史, 伊藤博元: 当院における脊椎手術周術期静脈血栓塞栓症 (VTE) 対策. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (小樽), 2009. 9.
- 34) 南 和文, 苗代和彦, 北原聡太¹⁾, 斉藤一雄²⁾ (1) 鹿島労災病院整形外科, 2) 日本体育大学武道学研究室: 相撲廻しの制動効果. 日本体力医学会大 (第64回) (新潟), 2009. 9.
- 35) 石黒晴哉¹⁾, 石川智久¹⁾, 南 和文, 苗代和彦 (1) 東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科: 暑熱環境下の学生相撲稽古における経口補水液による熱中症予防の可能性. 日本体力医学会大会 (第64回) (新潟), 2009. 9.
- 36) 橋口 宏, 伊藤博元, 岩下 哲: 腱板大断裂・広範囲断裂修復術後における再断裂予測因子の検討. 日本肩関節学会 (第36回) (山形), 2009. 10.
- 37) 北川泰之: 足・足関節の骨・軟部腫瘍の診療のために. 足るを知る会 (東京), 2009. 10.
- 38) 中嶋隆夫, 南 和文: 脊椎手術周術期静脈血栓塞栓症 (VTE) 対策の問題点: 当院における VTE 対策の紹介も含めて. 順天堂大学お茶の水脊椎セミナー (第5回) (東京), 2009. 10.
- 39) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 伊藤博元: 脛骨神経刺激体性感覚誘発電位による腰部脊柱管狭窄症の評価. 日本臨床神経生理学会学術大会 (第39回) (北九州), 2009. 11.
- 40) 萩原祐介, 服部耕治¹⁾, 田所美香¹⁾, 青木哲宏¹⁾, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (1) 産総研セル部門: 蛍光イメージアナライザーを用いた再生軟骨自家蛍光評価. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第24回) (横浜), 2009. 11.
- 41) 萩原祐介, 田所美香¹⁾, 林 央介, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (1) 産総研セル部門: ラット骨髄, 脂肪組織由来幹細胞における骨分化能および細胞増殖因子産生能の比較. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第24回) (横浜), 2009. 11.
- 42) 今野俊介, 青木孝文, 宮本雅史, 元文芳和, 江川慶長, 堀口 元, 吉澤隆明, 伊藤博元: 汎用表計算ソフトウェアを用いた F 波解析プログラムの開発. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第24回) (横浜), 2009. 11.
- 43) 宮本雅史: JOABPEQ の治療効果に対する感受性の検証. 日本腰痛学会 (第17回) (東京), 2009. 11.
- 44) 中嶋隆夫, 苗代和彦, 岩下 哲, 橋口 宏, 南 和文, 家田俊也, 宮本雅史, 伊藤博元: 超高気孔率ハイドロキシアパタイト (HA) 顆粒を用いた後側方固定術 (PLF) の骨癒合に関する組織学的検討. 日本整形外科学

会基礎学術集会（第24回）（横浜），2009. 11.

- 45) 佐竹美彦，宮本雅史，元文芳和，須藤賢太郎，伊藤博元：特発性脊髄ヘルニアの1例．関東整形災害外科集談会東京地方会（第652回）（東京），2009. 12.
- 46) 中嶋隆夫，家田俊也，南 和文，澤泉卓哉，宮本雅史，伊藤博元：感染性脊椎炎に対するイリザロフ創外固定器を用いた治療経験．日本創外固定・骨延長学会（第23回）（東京），2010. 1.
- 47) 南 和文，橋口 宏，中嶋隆夫，苗代和彦，岩下 哲：全人工股関節置換術後に発生したセラミック骨頭の破損．千葉股関節研究会（第10回）（千葉），2010. 1.
- 48) 澤泉卓哉，南野光彦，堀口 元，佐竹美彦，望月祐輔，青木伸峰，伊藤博元：腱鞘炎に対する腱鞘内注入（トリアムシノロンとタメサゾンの同一患者内での比較）．東日本手の外科研究会（第24回）（埼玉），2010. 2.
- 49) 南野光彦，澤泉卓哉，伊藤博元：高齢者肘関節周辺骨折に対する骨接合術の工夫と問題点．関東整形災害外科学会（第50回）（東京），2010. 3.
- 50) 南 和文，苗代和彦，岩下 哲，北原聡¹⁾，石黒晴哉²⁾，石川智久²⁾（¹⁾ 鹿島労災病院整形外科，²⁾ 東京慈恵会医科大学消化器肝臓内科）：暑熱環境下の学生相撲稽古における熱中症予防への経口補水液の有効性．相撲医学協議会（第8回）（東京），2010. 3.
- 51) 南 和文：スポーツ医学からみた相撲の不思議．千葉市整形外科医学学術講演会（千葉），2010. 3.

(5) ポスター：

- 1) 尾崎大也，森 淳，飯澤典茂，伊藤博元：特発性大腿骨頸部骨折壊死に対する保存療法の適応と限界．日本整形外科学会学術総会（第82回）（福岡），2009. 5.
- 2) 玉井健介，河路秀巳，牧野 晃，伊藤博元：末期変形性股関節症における疼痛は白蓋摩耗量によって左右される．日本整形外科学会学術総会（第82回）（福岡），2009. 5.
- 3) 齋藤 善，澤泉卓哉，南野光彦，家田俊也，伊藤博元：成人ばね指に対する腱鞘内トリアムシノロン注射の効果．日本整形外科学会学術総会（第82回）（福岡），2009. 5.
- 4) 苗代和彦，森 淳，飯澤典茂，尾崎大也，伊藤博元：健康人における両側同時膝蓋腱板断裂の1例．日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（第1回）（札幌），2009. 6.
- 5) 江川慶長，伊藤博元，南 和文，橋口 宏，中嶋隆夫，苗代和彦：人工膝関節置換術においてトラネキサム酸投与が術後出血量とDVTに及ぼす影響（投与法の違いが出血量およびDVTに影響するか）．日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（第1回）（札幌），2009. 6.
- 6) 北川泰之，田中陽子，林 幹彦，金 竜，藤井信人，細根 勝¹⁾，前田昭太郎¹⁾，角田 隆，伊藤博元（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院病理部）：McCune-Albright症候群に合併したMazabraud症候群の1例．日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会（第42回）（横浜），2009. 7.
- 7) 苗代和彦，中嶋隆夫，橋口 宏，岩下 哲，南 和文，伊藤博元：同側に生じた大腿骨頸部・転子部骨折の1例．東日本整形災害外科学会（第58回）（小樽），2009. 9.
- 8) 林 央介，勝部好裕¹⁾，廣瀬志弘¹⁾，伊藤博元，大串 始¹⁾（¹⁾ 産業技術総合研究所）：遠心分離によって得られるヒト骨髄内脂肪由来間葉系幹細胞の骨分化能に関する研究．日本整形外科学会基礎学術集会（第24回）（横浜），2009. 11.
- 9) 花岡央泰，太田成男¹⁾，大澤郁朗²⁾，上村尚美¹⁾，伊藤博元（¹⁾ 日本医科大学老人病研究所生化学部門，²⁾ 日本医科大学老人病研究所水素分子医学部門）：水素分子による軟骨組織の酸化ストレス傷害の軽減．日本整形外科学会基礎学術集会（第24回）（横浜），2009. 11.
- 10) 萩原祐介，田所美香¹⁾，服部耕治¹⁾，大串 始¹⁾（¹⁾ 産総研セル部門）：皮弁虚血部への細胞移植におけるブタ由来アテロコラーゲンスポンジの有用性．日本バイオマテリアル学会（第31回）（京都），2009. 11.

(6) 研修講演：

- 1) 伊藤博元：診療ガイドラインからみたアキレス腱断裂の診断・治療．日本整形外科学会学術総会（第82回）

- (福岡), 2009. 5.
- 2) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション2（下肢：運動器不安定症）. 運動器リハビリテーションセラピスト研修会（幕張）, 2009. 6.
 - 3) 伊藤博元：肩関節の外傷とリハビリテーションの診療ポイント. 目黒区整形外科連携の会（第6回）（東京）, 2009. 8.
 - 4) 伊藤博元：外傷後・術後のリハビリテーション. 日整会認定運動器リハビリ医研修会（第4回）（東京）, 2009. 9.
 - 5) 伊藤博元：肩関節外傷の診療とリハビリテーションのポイント. 県央整形外科研究会（第20回）（厚木）, 2009. 11.

13. 産婦人科学講座

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に研究が行われた。

周産期医学領域では, 正常および妊娠高血圧症候群の胎盤において発現するマイクロRNAの大規模プロファイリング解析が分子解剖学講座との共同研究により行われた。また, 過去25年間に経験した妊産婦死亡例の詳細な臨床病理学的研究がすすめられた。

婦人科腫瘍学では, 卵巣癌, 子宮頸癌, 子宮体癌患者における血清中自己抗体に注目し, プロテオミクスの技術を用いて新規腫瘍マーカーの開発を目指し研究中である。生殖医学部門では, 不育症治療における種々の抗リン脂質抗体の意義, 治療法の検討が行われた。また, 子宮内膜症関連新規遺伝子の機能解析に関連する大規模習な研究が展開中である。手術学部門では, 従来からの内視鏡下手術の臨床的検討に加え, 骨盤臓器脱に対してメッシュを用いたTVM手術ならびに膣脱に対する腹腔鏡下の仙骨陰固定術など新しい手術方法を取り入れ, 積極的に臨床研究を行っている。以上各分野において積極的, 独創的な研究がなされている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Akira S, Mine K, Kuwabara Y, Takeshita T: Efficacy of long-term, low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy (draw-back therapy) for adenomyosis. *Med Sci Monit* 2009; 15 (1): 1-4.
- 2) 渡邊建一郎, 三浦 敦, 米山剛一, 米澤美令, 市川雅男, 石川温子, 黒瀬圭輔, 明樂重夫, 竹下俊行, 川本雅司, 土屋眞一: 扁平上皮癌への悪性転化を認めた卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例. *日本産科婦人科学会東京地方部会会誌* 2009; 58 (1): 49-52.

(1) 原著:

- 1) Asakura H, Fukami T, Kurashina R, Tateyama N, Doi D, Takeshita T: Significance of cervical gland area in predicting preterm birth for patients with threatened preterm delivery: comparison with cervical length and fetal fibronectin. *Gynecol Obstet Invest* 2009; 68 (1): 1-8.
- 2) Kuwabara Y, Mine K, Katayama A, Inagawa T, Akira S, Takeshita T: Proteomic analyses of recombinant human follicle-stimulating hormone and urinary-derived gonadotropin preparations. *J Reprod Med* 2009; 54 (8): 459-466.
- 3) Abe T, Akira S, Negishi Y, Ichikawa M, Nakai A, Takeshita T: Relevance of declines in serum human chorionic gonadotropin levels to the management of persistent ectopic pregnancy. *Obstetrics and Gynecology Research* 2009; 35 (5): 961-965.
- 4) Abe T, Akira S, Negishi Y, Ichikawa M, Nakai A, Takeshita T: The relevance of declines in serum human chorionic gonadotropin levels to the management of persistent ectopic pregnancy. *J Obstet Gynaecol Res* 2009; 35 (5): 961-966.
- 5) Igarashi K, Akira S, Imaki J, Takeshita T: Systemic endotoxin induces gene expression of inducible nitric oxide synthase in fetal rat brain. *J Nippon Med Sch* 2009; 76 (5): 232-239.

- 6) Luo-S S, Ishibashi O, Ishikawa G, Ishikawa T, Katayama A, Mishima T, Takizawa T, Shigihara T, Goto T, Izumi A, Ohkuchi A, Matsubara S, Takeshita T, Takizawa T : Human villous trophoblasts express and secrete placenta-specific microRNAs into maternal circulation via exosomes. *Biol Reprod* 2009 ; 81 (4) : 717-729.
- 7) Doi D, Boh Y, Konishi H, Asakura H, Takeshita T : Combined chemotherapy with paclitaxel and carboplatin for mucinous cystadenocarcinoma of the ovary during pregnancy. *Arch Gynecol Obstet* 2009 ; 280 (4) : 633-636.
- 8) Sawa R : Accident or Crime? : Thoughts on criminalization of medical accidents. *JMAJ* 2009 ; 52 (1) : 11-16.
- 9) Akira S, Iwasaki N, Ichikawa M, Mine K, Takeshita T, Tajima H : Successful long-term management of adenomyosis associated with deep thrombosis by low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy. *Clin Exp Obstet Gynecol* 2009 ; 36 (2) : 123-125.
- 10) Takeuchi H, Takahashi M, Norose Y, Takeshita T, Fukunaga Y, Takahashi H : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-I : implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. *Biomed Res* 2010 ; 31 (1) : 53-61.
- 11) Kawase R, Ishiwata T, Matsuda Y, Onda M, Kudo M, Takeshita T, Naito Z : Expression of fibroblast growth factor receptor 2 IIIc in human uterine cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. *Int J Oncol* 2010 ; 36 (2) : 331-340.
- 12) Murakami M, Akira S, Tsuboi N, Matsuzawa I, Ohki Y, Koike S, Takeshita T, Hyakusoku H : Microscope-assisted reduction clitoroplasty used to treat two patients with clitoromegaly. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 35-39.
- 13) 明樂重夫, 阿部 崇, 渡邊建一郎, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 市川雅男, 竹下俊行 : 卵管妊娠の手術. *産科と婦人科* 2009 ; 76 (増刊) : 272-278.
- 14) 竹下俊行 : 不育症. *周産期医学* 2009 ; 39 (6) : 719-722.
- 15) 明樂重夫, 市川雅男, 竹下俊行 : 骨盤底からのアプローチ 骨盤臓器脱に対する Tension-free Vaginal Mesh (TVM) 手術 導入からの Learning Curve を中心として. *産婦人科手術* 2009 ; 20 : 63-70.
- 16) 稲川智子, 渡邊建一郎, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 石川 源, 澤倫太郎, 竹下俊行 : 免疫抑制剤を投与し分娩に至った再生不良性貧血合併妊娠の1例. *日本産科婦人科学会東京地方部会誌* 2009 ; 58 (2) : 145-149.
- 17) 菊池芙美, 明樂重夫, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 竹下俊行 : 子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術. *日本エンドメトリオーシス学会誌* 2009 ; 30 : 125-129.
- 18) 里見操緒, 竹下俊行 : 【生殖と免疫をめぐって】夫リンパ球免疫療法後の続発性不妊症 (解説/特集). *臨床免疫・アレルギー科* 2009 ; 52 (2) : 176-179.
- 19) 里見操緒, 竹下俊行 : 【最新版 新生児の感染症】母子感染の最近の動向 (解説/特集). *小児科診療* 2009 ; 72 (9) : 1583-1588.
- 20) 天野出月, 阿部 崇, 稲川智子, 峯 克也, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行, 山下恵理子, 大屋敦子, 中井章人, 坪井一平¹⁾ (1) 日本医大第一内科 : 周産期心筋症の1例. *日本産科婦人科学会東京地方部会誌* 2009 ; 58 (3) : 332-336.
- 21) 阿部 崇, 富山僚子, 市川智子, 峯 克也, 明樂重夫, 竹下俊行 : 生殖補助医療 高度生殖補助医療の動向 (I). *日医大医会誌* 2009 ; 5 (4) : 184-186.
- 22) 印出佑介, 米山剛一, 間瀬有里, 中川道子, 西 弥生, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 竹下俊行 : 術前に脂肪平滑筋腫が強く疑われた子宮体部腫瘍の1例. *日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌* 2009 ; 46 (4) :

347-352.

- 23) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 倉品隆平, 軸菌智雄¹⁾, 石川 源, 大口昭英¹⁾, 泉 章夫²⁾, 松原茂樹²⁾, 間瀬-吉田有里, 朝倉啓文, 米山剛一, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学 分子解剖: 妊娠高血圧症候群で発現が変動する胎盤由来マイクロRNAの大規模プロファイリングによる同定の試み. *Reproductive Immunology and Biology* 2009; 24 (2): 138-138.
- 24) 峯 克也, 明樂重夫, 竹下俊行: GnRHアゴニストの長期投与. *産科と婦人科* 2009; 76 (12): 1507-1513.
- 25) 峯 克也, 市川智子, 竹下俊行: 常位胎盤早期剥離と抗リン脂質抗体症候群 (解説/特集). *産婦人科の実際* 2009; 58 (13): 2107-2112.
- 26) 齋藤 滋¹⁾, 杉浦真弓²⁾, 田中忠夫³⁾, 藤井知行⁴⁾, 杉 俊隆⁵⁾, 丸山哲夫⁶⁾, 竹下俊行, 山田秀人⁷⁾, 小澤伸晃⁶⁾, 木村 正⁸⁾, 山本樹生⁹⁾, 藤井俊策¹⁰⁾, 中塚幹也, 下屋浩一郎 (1) 富山大学産婦人科, 2) 名古屋市立大学, 3) 東京慈恵会医科大学産婦人科, 4) 東京大学大学院医学系研究科産婦人科, 5) 東海大学医学部産婦人科, 6) 慶應義塾大学医学部産婦人科, 7) 神戸大学医学部女性医学, 8) 大阪大学大学院医学系研究科産婦人科, 9) 日本大学医学部産婦人科: 不育症の新たな原因探索と治療 本邦における不育症のリスク因子とその予後に関する研究. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 2009; 45 (4): 1144-1148.
- 27) 白銀 恵, 峯 克也, 市川智子, 加藤雅彦, 中西一歩, 大内 望, 山本晃人, 阿部 崇, 三浦 敦, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: メトトレキサートを投与し子宮温存しえた子宮峡部妊娠の1例. *日産婦東京地方部会誌* 2009; 58 (4): 395-397.
- 28) 峯 克也, 富山僚子, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部 崇, 西 弥生, 明樂重夫, 成相孝一, 佐藤嘉兵, 竹下俊行: 排卵誘発時の卵胞液中hexanoyl-lysine濃度とART臨床. *日本受精着床学会誌* 2009; 26 (1): 114-117.
- 29) 明樂重夫, 阿部 崇, 渡辺建一郎, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 市川雅男, 竹下俊行: III. 内視鏡下手術5. 卵管妊娠の手術. *産科と婦人科* 2009; 76 (増刊号): 272-278.
- 30) 峯 克也, 明樂重夫, 菊池秀美, 阿部 崇, 稲川智子, 竹下俊行: 子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法: 1年以上施行し得た症例から. *エンドメトリオーシス研究会誌* 2009; 30: 38-41.
- 31) 峯 克也, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部 崇, 富山僚子, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法中に絨毛膜下血腫を呈し, アスピリン中止後IUFDに至った胎児腹壁破裂症例. *日本受精着床学会雑誌* 2009; 27 (1): 252-255.
- 32) 澤倫太郎: 産科医療の崩壊を止める 産科医不足の対応 助産師と産科医の協働. *産婦人科の実際* 2009; 58 (6): 839-846.
- 33) 澤倫太郎: 術中にわかる異常: 前置胎盤と診断されており, 予定帝王切開で癒着胎盤がわかった. *ペリネイタルケア* 2009; 359: 170-172.
- 34) 黒瀬圭輔, 米澤美令, 渡辺建一郎, 三浦 敦, 市川雅男, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. *日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌* 2009; 46 (1): 75-81.
- 35) 明樂重夫, 市川雅男, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対するTension-free Vaginal Mesh (TVM) 手術: 導入からのLearning Curveを中心として. *産婦人科手術* 2009; 20: 63-67.
- 36) 明樂重夫, 市川雅男, 竹下俊行: 子宮筋腫を合併した骨盤臓器脱に対するLAVH併施TVM手術: 腔壁の非連続十字切開の試み. *日本女性骨盤底医学会誌* 2009; 6: 56-69.
- 37) 市川-稲川智子, 神戸沙織, 阿部 崇, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法不成功不育症例の臨床遺伝学的検討 An analysis of cases of the patients who have aspirin and heparin therapy but have miscarriage. *日本受精着床学会雑誌* 2010; 27 (1): 260-263.
- 38) 石橋 宰¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医大分子解剖学: マイクロRNAの細胞外放出の鍵を握る小胞: エクソゾーム. *日本医科大学医学会雑誌* 2010; 6 (1): 2-3.
- 39) 三嶋拓也, 羅 善順, 竹下俊行, 瀧澤俊広: 基礎研究から学ぶ 組織細胞化学シリーズ (若手研究者へのヒン

ト) 非放射性同位元素標識プローブを用いたin situ hybridization法 (4). 日医大医学会誌 2010 ; 6 (1) : 23-29.

- 40) 石橋 幸¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖学) : マイクロRNAの細胞外放出の鍵を握る小胞 : エクソゾーム. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (1) : 2-3.
- 41) 明樂重夫, 市川雅男, 三浦 敦, 竹下俊行 : 【より安全で女性にやさしい手術を目指して とくに妊孕能温存手術と腹腔鏡手術について】 腹腔鏡手術を安全・確実に. 産婦人科治療 2010 ; 100 (3) : 308-316.
- 42) 佐藤友紀, 田村秀樹, 竹光秀司, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 峯 克也, 竹下俊行, 清水一雄, その他2名 : 両側副腎摘出患者の出産例. 日本内分泌学会雑誌 2010 ; 86 (1) : 149.

(2) 総説 :

- 1) 明樂重夫, 井上正人 : 腹腔鏡. 産婦の実際 2009 ; 55 : 1780-1786.
- 2) 明樂重夫 : 漿膜下子宮筋腫. 日本臨床 2009 ; 67 (5) : 270-274.
- 3) 明樂重夫 : 子宮筋腫と不妊の関係について教えてください. また, 治療が必要なときはどのようなときでしょうか. 臨婦産 2009 ; 63 : 513-517.
- 4) 明樂重夫 : 多嚢胞性卵巣症候群に対する腹腔鏡下卵巣多孔術 (LOD) の特徴と手技の実際について教えてください. 臨婦産 2009 ; 53 : 518-523.
- 5) 阿部 崇, 富山僚子, 市川智子, 峯 克也, 明樂重夫, 竹下俊行 : 高度生殖補助医療の動向 (1). 日医大医学会誌 2009 ; 5 : 184-186.
- 6) 明樂重夫, 市川雅男, 三浦 敦, 竹下俊行 : 腹腔鏡手術を安全・確実に. 産婦人科治療 2010 ; 100 : 308-316.

(3) 症例報告 :

- 1) Akira S, Iwasaki N, Ichikawa M, Mine K, Kuwabara Y, Takeshita T, Tajima H : Successful long-term management of adenomyosis associated with deep thrombosis by low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy. Clin Exp Obst Gyn 2009 ; 36 : 123-125.
- 2) 黒瀬圭輔, 米澤美令, 渡辺建一郎, 三浦 敦, 市川雅男, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行 : 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 日産婦関東連会誌 2009 ; 46 : 75-81.

著 書

- 1) 竹下俊行 : [分担] ここが聞きたいー不妊・不育症診療ベストプラクティスIII 不育症の検査・診断 D内分泌・代謝因子【内分泌・代謝異常】. 臨床婦人科産科, 2009 ; pp639-641, 医学書院.
- 2) 明樂重夫 : [分担] V 腫瘍性疾患 子宮筋腫漿膜下子宮筋腫. 子宮疾患・子宮内膜症の臨床ー基礎・臨床研究のアップデートー, 2009 ; pp270-274, 日本臨床.
- 3) 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : [分担] VI 感染症・炎症性疾患子宮頸管炎 (解説). 子宮疾患・子宮内膜症の臨床ー基礎・臨床研究のアップデートー, 2009 ; pp310-313, 日本臨床.
- 4) 明樂重夫 : [分担] 流産. 講義録 産科婦人科 (石原 理, 柴原浩章, 三上幹, 板倉敦夫), 2010 ; pp320-323, メジカルビュー社.
- 5) 明樂重夫 : [分担] 子宮外妊娠. 講義録 産科婦人科 (石原 理, 柴原浩章, 三上幹, 板倉敦夫), 2010 ; pp324-327, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Takeshita T : A new mechanism of heparin treatment for recurrent pregnancy loss with antiphospholipid antibodies. Lake Shirakaba Conference (18th) (Copenhagen), 2009. 6.

- 2) 竹下俊行：内視鏡技術認定医について．日本産科婦人科学会（第61回），2009．4．
 - 3) 竹下俊行：不育症：最近の話題．埼玉県産婦人科医学会 ホルモンと生殖医学研究会（第51回），2009．6．
- (2) シンポジウム：
- 1) 竹下俊行：不育症の診断と治療：子宮奇形の検査と治療．日産婦関東連合地方部会（第117回），2009．6．
 - 2) 明樂重夫：子宮鏡手術における術中合併症への対応：他科との連携を要するケースを中心に．本内視鏡外科学会（第22回），2009．
 - 3) 加藤雅彦，明樂重夫，峯 克也，市川雅男，黒瀬圭輔，渡辺美千明，竹下俊行：子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術（LAAM）：高周波ループ電極を用いて．小切開・鏡視外科学会（第1回），2009．
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 市川雅男，明樂重夫，竹下俊行：骨盤臓器脱に対する double meshes を用いた全腹腔鏡下仙骨陰固定術の実際．日本内視鏡外科学会（第22回），2009．12．
- (4) ワークショップ：
- 1) 里見操緒：アスピリン・ヘパリン療法による抗リン脂質抗体陽性妊婦の血中可溶性接着分子分泌動態．日本生殖免疫学会（第24回），2009．11．
 - 2) 市川雅男：妊婦とB7-H1分子（B7-H1 knockout mouse の phenotype の解析を中心に）．日本生殖免疫学会（第24回），2009．11．
 - 3) 峯 克也，明樂重夫，大内 望，黒瀬圭輔，近藤幸尋，竹下俊行：膀胱子宮内膜症を中心とした下部尿路子宮内膜症に対する診断と治療のポイント．日本エンドメトリオーシス学会（第31回），2010．1．
- (5) 一般講演：
- 1) Kawase R, Ishiwata T, Suzuki T, Kawamoto Y, Matsuda Y, Onda M, Kudo M, Nakazawa N, Takeshita T, Naito Z : Fibroblast growth factor receptor 2 IIIc is expressed in human uterine cervical intraepithelial neoplasia (CIN) and invasive cervical cancer. American Association for Cancer Research (コロラド州デンバー), 2009. 4.
 - 2) Akira S : Application of LAVH to the TVM technique treat pelvic organ prolapse complicated with myoma uteri. Annual congress of Asia-Pacitic Association of Gynecologic Endoscopy (10th) (台湾), 2009. 10.
 - 3) Akira S, Nakanishi K, Kanbe S, Ichikawa M, Takeshita T : Application of LAVH to the technique to treat pelvic organ prolapse complicated with myoma uteri. Annual Congress of Asia-pacific Association for Gynecologic Endoscopy and Minimally Invasive (10th) (Therapy (Taichung)), 2009. 10.
 - 4) Akira S, Abe T, Ichikawa M, Takeshita T : Prophylactic Intratubal Injection of Methorrexate after Linear Salpingostomy for Prevention of Persistent Ectopic Pregnancy. Annual Meeting of the AAGL (38th) (Orland, Florida), 2009. 11.
 - 5) Ichikawa M, Akira S, Takeshita T : The Experience of Laparoscopic Sacrocolpopexy with Two Separate Meshes along the Anterior and Posterior Vaginal Walls for Multicompartment Pelvic Organ Prolapse in Japan. Annual Meeting of the AAGL (38th) (Orland, Florida), 2009. 11.
 - 6) Matsubashi T, Shimizu M¹⁾, Oowaki A¹⁾, Takahashi M¹⁾, Shinya A¹⁾, Higuchi T¹⁾, Nishimura T, Takahashi H¹⁾ (1) 日本医大微生物・免疫学) : Possible mechanisms of the inhibition of bladder tumor by intravesical BCG therapy. World immune regulation meeting IV (スイス, ダボス), 2010. 3.
 - 7) 渡辺建一郎，市川雅男，桑原知仁，三浦 敦，石川温子，黒瀬圭輔，米山剛一，明樂重夫，竹下俊行：子宮筋層全体に浸潤した子宮頸部扁平上皮癌の1例．日産婦関東連合地方部会（第117回），2009．6．
 - 8) 立山尚子，西田直子，倉品隆平，高橋恵理佳，島田博美，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，深見武彦，朝倉啓文，竹下俊行：超音波による妊娠子宮頸管腺領域像消失所見と子宮頸管分泌液中ヒアルロン酸との関連性．日本産科婦人科学会（第61回），2009．4．

- 9) 米山剛一, 川瀬里衣子, 大屋敦子, 松島 隆, 五十嵐建治, 西田直子, 倉品隆平, 澤倫太郎, 鴨井青龍, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行: 過去25年間に関与した羊水塞栓症10症例の臨床病理学的検討. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 10) 瀧澤俊広¹⁾, 石川 源, 間瀬有里, 大口昭英²⁾, 泉 章夫²⁾, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学分子解剖, ²⁾ 自治医科大学産婦人科): 胎盤絨毛栄養膜はエクソゾームを介してmicroRNA (miRNA) を母体血液中中に放出している: 新しい診断ツールとしてのmiRAN. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 11) 加藤久盛¹⁾, 堀 祐子¹⁾, 近内勝幸¹⁾, 池田仁恵¹⁾, 山本晃人, 沼崎令子¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 中山裕樹 (¹⁾ 神奈川県立がんセンター): 子宮頸部細胞診においてASC-US, ASC-Hと判断した症例の臨床細胞学的検討. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 12) 山本晃人, 中山裕樹¹⁾, 山田 隆²⁾, 三田俊二³⁾, 土居大祐⁴⁾, 米山剛一, 太田雄治郎⁵⁾, 河合尚基⁶⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 神奈川県立がんセンター, ²⁾ 日本医大千葉北総病院, ³⁾ 日本医大多摩永山病院, ⁴⁾ 日本医大武蔵小杉病院, ⁵⁾ 多摩南部地域病院, ⁶⁾ 東京臨海病院): 子宮体癌における予後因子の検討: 術後補助化学療法の影響. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 13) 印出佑介¹⁾, 山口 暁²⁾, 鴨井青龍¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院, ²⁾ 山口病院): 産褥婦のサイトメガロウイルス抗体保有率の変遷. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 14) 深見武彦, 島田博美, 西田直子, 立山尚子, 倉品隆平, 間瀬有里, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 頸腔超音波法による子宮頸管腺領域像の定量的評価に関する研究. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 15) 峯 克也, 富山僚子, 阿倍 崇, 稲川智子, 桑原慶充, 西 弥生, 明樂重夫, 佐藤嘉兵¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本大生物資源): 卵胞内酸化一抗酸化バランスの妊娠率に与える影響. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 16) 間瀬有里, 石川 源, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大解剖学第一): Argonate2 (Ago2) —免疫沈降法によるヒト卵巣顆粒膜細胞株 (KGN) に発現するmicroRNAのプロファイリング. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 17) 川瀬里衣子, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大病理学 (統御機構・腫瘍学)): 子宮頸癌発生過程におけるFGFR2IIIcの発現と役割の検討. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 18) 平泉良枝, 印出佑介, 小野修一, 山下恵理子, 菊池美美, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行: 腫瘍融解症候群 (TLS) を認めた子宮横紋筋肉腫の1例. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 19) 澤倫太郎, 峯 克也, 大内 望, 稲川智子, 三浦 敦, 石川 源, 竹下俊行: 胎児アデノシン活性を応用した虚血性心疾患のデバイス開発に関する基礎的研究. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 20) 大屋敦子, 川端伊久乃, 桑原知仁, 山下恵理子, 中井晶子, 林 昌子, 奥田直貴, 高橋 肇, 谷内良成, 三田俊二, 中井章人, 竹下俊行: 当院におけるHELLP症候群の検討: 妊娠中発症例と産褥発症例の比較. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 21) 川端伊久乃, 大屋敦子, 中井晶子, 林 昌子, 三田俊二, 高橋 肇, 里見操緒, 山下恵理子, 桑原知仁, 中井章人, 竹下俊行: 切迫早産病型分類に関する研究. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 22) 里見操緒, 稲川智子, 大内 望, 高橋恵理佳, 米澤美令, 峯 克也, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体陽性妊婦に対するアスピリン・ヘパリン療法の可溶性接着分子分泌動態に及ぼす影響. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 23) 稲川智子, 洪井庸子, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 石川 源, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 不育症患者に対し, アスピリン・ヘパリン療法施行するも, 流産をきたした症例の検討. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 24) 根岸靖幸, 熊谷善博¹⁾, 高橋秀実¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大微生物免疫): 妊娠経過に伴うマウス脱落膜, 脾臓

- における樹状細胞亜分画の変化. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
- 25) 岩崎奈央, 阿部裕子, 朝倉禎史, 平泉良枝, 山田 隆, 五十嵐健治, 荏原弘光, 窪谷 潔, 渡辺美千明, 山口 暁, 鴨井青龍, 竹下俊行: 開腹下頸管部分切除術を行うことにより子宮を温存しえた頸管妊娠の1例. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
 - 26) 明樂重夫, 市川雅男, 米澤美令, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 性器脱に対するTVM (Tension-free Vaginal Mesh) 手術. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
 - 27) 川瀬里衣子, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行¹⁾ 日本医大統御機構・腫瘍学): 子宮癌発生過程におけるFGFR2 IIIcの発現と役割の検討. 日本産科婦人科学会 (第61回), 2009. 4.
 - 28) 岩崎奈央, 小野修一, 印出佑介, 五十嵐美和, 三浦直美, 平泉良枝, 村田知昭, 三宅秀彦, 鈴木俊治¹⁾ (葛飾赤十字産院): Twin anemia-polycythemia sequenceを認めた一絨毛膜二羊膜双胎の1例. 日産婦東京地方部会 (第350回), 2009. 5.
 - 29) 天野出月¹⁾, 阿部 崇, 稲川智子, 峯 克也, 石川 源, 明樂重夫, 竹下俊行, 山下恵理子, 大屋敦子, 中井章人¹⁾ (多摩北部医療センター): 周産期心筋症の1例. 日産婦東京地方部会 (第350回), 2009. 5.
 - 30) 川瀬里衣子, 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 河本陽子¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 竹下俊行, 内藤善哉¹⁾ (日本医大統御機構・腫瘍学): 子宮頸部異形成と子宮頸癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2IIIc) の発現と役割の検討. 日本病理学会 (第98回), 2009. 5.
 - 31) 高屋 茜, 阿部裕子, 朝倉禎史, 平泉良枝, 山田 隆, 荏原弘光, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行: ITP (血小板減少性紫斑病) 合併妊娠9症例の検討. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 32) 島田博美, 立山尚子, 米澤美令, 柿栖睦実, 品川寿弥, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 分娩後の弛緩出血のために子宮全摘施行後, Sheehan症候群に至った1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 33) 阿部裕子, 平泉良枝, 高屋 茜, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行: OHVIRA症候群とWunderlich症候群. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 34) 桑原知仁, 三浦 敦, 岩井拓磨, 渡辺建一郎, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 石川温子, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: AFP, hCGが陰性であった卵巣未熟奇形種の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 35) 柿栖睦実, 倉品隆平, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 産褥心筋症を来した2症例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 36) 小野修一, 岩崎奈央, 印出佑介, 三浦直美, 五十嵐美和, 村田知昭¹⁾, 三宅秀彦, 鈴木俊治¹⁾ (葛飾赤十字産院): Placental mesenchymal dysplasiaの1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 37) 大内 望, 明樂重夫, 米澤美令, 里見操緒, 竹下俊行: 酸化再生セルロース膜を使用した造腔術が有用であった先天性膈欠損症の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009. 6.
 - 38) 明樂重夫, 市川雅男, 竹下俊行: TVM手術における合併症回避の試み: 腹腔鏡下骨盤筋膜腱弓剥出と膀胱・直腸側腔へのアプローチ法の工夫. 日本女性骨盤底医学会 (第11回), 2009. 7.
 - 39) 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対するDouble meshesを用いた全腹腔鏡下仙骨陰固定術. 日本女性骨盤底医学会 (第11回), 2009. 7.
 - 40) 米山剛一, 米澤美令, 川瀬里衣子, 渡邊建一郎, 市川雅男, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 川本雅司¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (日本医大病理部): 卵巣明細胞腺線維腫悪性化例が疑われた1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第46回), 2009. 7.
 - 41) 川瀬里衣子, 石渡俊行¹⁾, 松田陽子¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (日本医大病理学 (統御機構・腫瘍学)): 子宮頸癌治療における新たな分子標的としてのFGFR2IIIcの可能性. 日本婦人科腫瘍学会 (第46回), 2009. 7.
 - 42) 三浦 敦, 米山剛一, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 石川温子, 土居大祐, 竹下俊行: 右室転移を呈した再発子宮頸癌

- の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第46回), 2009. 7.
- 43) 米山剛一, 関口敦子, 松島 隆, 倉品隆平, 米澤美令, 西田直子, 澤倫太郎, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行: 羊水塞栓症10症例の臨床病理学的解析. 日本周産期・新生児医学会 (第45回), 2009. 7.
- 44) 阿部 崇, 稲川智子, 富山僚子, 峯 克也, 桑原慶充, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: 良好胚獲得における排卵誘発法の比較. 日本受精着床学会 (第27回), 2009. 8.
- 45) 富山僚子, 峯 克也, 西 弥生, 阿部 崇, 桑原慶充, 稲川智子, 明樂重夫, 竹下俊行: 当院における受精障害症例の検討とICSI適応. 日本受精着床学会 (第27回), 2009. 8.
- 46) 峯 克也, 桑原慶充, 稲川智子, 阿部 崇, 富山僚子, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: アスピリン・ヘパリン療法中に絨毛膜下血腫を呈し, アスピリン中止後IUFDに至った胎児腹壁破裂症例. 日本受精着床学会 (第27回), 2009. 8.
- 47) 稲川智子: アスピリン・ヘパリン療法不成功不育症例の臨床遺伝学的検討. 日本受精着床学会 (第27回), 2009. 8.
- 48) 川端伊久乃, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行: 超音波ドブラを用いた母体肝血流量評価によるHELLP症候群発症予知に関する検討. 日本妊娠高血圧学会 (第30回), 2009. 8.
- 49) 佐藤杏月, 柿栖陸実, 野口 唯, 米澤美令, 倉品隆平, 深見武彦, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 産褥心筋症3例の経験. 日本高血圧学会 (第30回), 2009. 8.
- 50) 岩崎奈央, 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行: 子宮頸部に至る巨大粘膜下筋腫に対する腹腔鏡下筋腫核出術の1例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 51) 中西一步, 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行: TVM法における骨盤筋膜腱弓剥出の意義: 腹腔鏡を用いた解剖学的検証. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 52) 市川雅男, 岩崎奈央, 中西一步, 明樂重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対するDouble meshesを用いた全腹腔鏡下仙骨腔固定術. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 53) 阿部裕子, 山田 隆, 石川温子, 石川 源, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵管通色素試験によるアナフィラシキー様反応が疑われた症例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 54) 石川温子, 渡辺美千明, 阿部裕子, 山田 隆, 石川 源, 鴨井青龍, 明樂重夫, 竹下俊行: 嵌頓鼠径ヘルニアを腹腔鏡下に還納した卵巣嚢腫の1例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 55) 松島 隆, 可世木久幸, 深見武彦, 倉品隆平, 米澤美令, 朝倉啓文, 竹下俊行: 軟性デジタルビデオ子宮鏡試作機の評価: Narrow Banding Image (NBI) の有用性. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 56) 渡辺美千明, 山田 隆, 阿部裕子, 石川温子, 石川 源, 鴨井青龍, 明樂重夫, 竹下俊行: 術前に診断し腹腔鏡下に摘出し得た腹腔内異物 (ガーゼオーマ) の1例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 57) 米澤美令, 可世木久幸, 倉品隆平, 深見武彦, 松島 隆, 朝倉啓文, 竹下俊行: 我々が行っている子宮鏡下避妊具 (IUD) 除去法: 子宮鏡IUD除去が困難であった2症例. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第49回), 2009. 9.
- 58) 白銀 恵, 峯 克也, 市川智子, 加藤雅彦, 中西一步, 大内 望, 山本晃人, 阿部 崇, 三浦 敦, 澤倫太郎, 竹下俊行: メトトレキサートを投与し子宮温存しえた子宮峡部妊娠の1例. 日産婦東京地方部会 (第351回), 2009. 9.
- 59) 石橋 幸¹⁾, 羅 善順¹⁾, 石川 源, 大口昭英²⁾, 泉 章夫²⁾, 松原茂樹²⁾, 間瀬-吉田有里, 朝倉啓文, 米山剛一, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 自治医科大学産婦人科): 正常および妊娠高血圧症候群の胎盤において発現するマイクロRNAの大規模プロファイリング解析. 日本胎盤学会 (第17回), 2009. 10.
- 60) 中西一步, 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行, 鈴木英之¹⁾ (¹⁾ 日本医大外科): 腹腔鏡下に一次的に治療し得た直腸脱合併直腸癌手術の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 61) 中尾仁彦, 阿部 崇, 神戸沙織, 山本晃人, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 福田 悠¹⁾, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大病理): 妊娠初期にHyperreaction Luteinalis と診断し帝王切開にて分娩に至った1例. 日産

- 婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 62) 小西真理世, 三浦 敦, 中西一步, 白銀 恵, 中尾仁彦, 加藤雅彦, 神戸沙織, 黒瀬圭輔, 澤倫太郎, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 子宮頸癌縦隔リンパ節転移により気管支炎浸潤を来した症例に対する気管支ステントの有用性. 日産婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 63) 加藤雅彦, 峯 克也, 桑原知仁, 根岸靖幸, 稲川智子, 阿部 崇, 山本晃人, 澤倫太郎, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 妊娠部位の同定に苦慮した子宮奇形の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 64) 白銀 恵, 米山剛一, 五十嵐美和, 船倉 翠¹⁾, 川瀬里衣子, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 原田 大²⁾, 川本雅司²⁾, 土屋真一²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 都立墨東病院, ²⁾ 日本医大病理): 筋腫分娩様発育を示した子宮内膜間質肉腫の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 65) 印出佑介, 里見操緒, 岩崎奈央, 小野修一, 平泉良枝, 村田知昭¹⁾, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 非妊娠側子宮が産道通過障害の原因となった双角単頸子宮合併妊娠の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 66) 神戸沙織, 阿部 崇, 加藤雅彦, 中尾仁彦, 桑原知仁, 山本晃人, 稲川智子, 峯 克也, 澤倫太郎, 竹下俊行: クッシング病術後副腎不全を来したステロイド補充療法にて分娩に至った1例. 日産婦関東連合地方部会 (第118回), 2009. 11.
- 67) 市川智子, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 明樂重夫, 竹下俊行: 不育患者に対する子宮中隔手術の摘出標本の病理学的検討. 日本生殖医学会 (第54回), 2009. 11.
- 68) 桑原慶充, 片山 映¹⁾, 金子麗華, 富山僚子, 市川智子, 阿部 崇, 峯 克也, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: 周排卵期のマウス卵巣における, ケモカインCCL11 (Eotaxin I) の発現および局在解析. 日本生殖免疫学会 (第24回), 2009. 11.
- 69) 間瀬-吉田有里, 石橋 宰¹⁾, 石川 源, 木口一成²⁾, 片渕秀隆³⁾, 大場 隆³⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖学, ²⁾ 聖マリアンナ医科大学産婦人科, ³⁾ 熊本大学医学部産科婦人科): ヒト卵巣顆粒膜細胞株に発現するmicroRNAの大規模プロファイリング解析. 日本生殖免疫学会 (第24回), 2009. 11.
- 70) 根岸靖幸, 熊谷善博¹⁾, 高橋秀実¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大微生物・免疫学): 妊娠マウスにおける樹状細胞亜分画の解析. 日本生殖免疫学会 (第24回), 2009. 11.
- 71) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 倉品隆平, 軸菌智雄¹⁾, 石川 源, 大口昭英²⁾, 泉 章夫²⁾, 松原茂樹²⁾, 間瀬-吉田有里, 朝倉啓文, 米山剛一, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 自治医科大学産婦人科): 妊娠高血圧症候群で発現が変動する胎盤由来マイクロRNAの大規模プロファイリングによる同定の試み. 日本生殖免疫学会 (第24回), 2009. 11.
- 72) 倉品隆平, 軸菌智雄¹⁾, 石川朋子¹⁾, 間瀬-吉田有里, 菊池邦生¹⁾, 石橋 宰¹⁾, 石川 源, 後藤 忠¹⁾, 竹下俊行, 瀧澤俊広¹⁾ (¹⁾ 日本医大分子解剖学): レーザーマイクロダイセクションを用いた胎盤特異的miRNAの局在解析. 日本生殖免疫学会 (第24回), 2009. 11.
- 73) 市川智子, 里見操緒, 阿部 崇, 峯 克也, 明樂重夫, 竹下俊行: 化学流産を反復するのは不育症か. 日本生殖免疫学会 (第24回), 2009. 11.
- 74) 峯 克也, 竹下俊行: 夫リンパ球免疫療法の現状と問題点: 厚生労働科学研究アンケート調査結果の分析から. 日本生殖免疫学会, 2009. 11.
- 75) 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対する Double meshes を用いた全腹腔鏡下仙骨腔固定術の実際. 日本内視鏡外科学会 (第22回), 2009. 12.
- 76) 明樂重夫: 腹腔鏡・子宮鏡手術における術中合併症への対応: 他科との連携を要するケースを中心に. 日本内視鏡外科学会 (第22回), 2009. 12.
- 77) 中西一步, 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行, 鈴木英之¹⁾ (¹⁾ 日本医大外科): 直腸脱合併直腸癌に対し一期的な腹腔鏡下手術が有用であった1例. 日本内視鏡外科学会 (第22回), 2009. 12.

- 78) 小野修一, 山下恵理子¹⁾, 印出佑介, 平泉良枝¹⁾, 里見操緒¹⁾, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 両児とも裂手症を認めた二絨毛膜双胎の1例. 日産婦東京地方部会 (第352回), 2009. 12.
- 79) 山本晃人, 米山剛一, 小野修一, 加藤雅彦, 中尾仁彦, 小西真理世, 明樂重夫, 竹下俊行: 病理組織検査にて2次性と診断した乳房外Paget病の1例. 日産婦東京地方部会 (第352回), 2009. 12.
- 80) 渡邊 淳¹⁾, 折茂英生, 島田 隆, 南 史朗, 宮田広樹, 片山志郎, 宮下正夫, 松本智司, 内田英二, 峯岸裕司, 弦間昭彦, 米山剛一, 山口博樹, 猪口孝一 (¹⁾ 日本医大付属病院ゲノム先端医療部): 日本医科大学付属病院におけるオーダーメイド医療への取り組み イリノテカン投与に向けたUGT1A1遺伝子多型検査を院内で開始して. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009.
- 81) 渡辺建一郎, 市川雅男, 桑原知仁, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 子宮筋層全体に浸潤した子宮頸部扁平上皮癌の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009.
- 82) 桑原知仁, 三浦 敦, 岩井拓磨, 渡邊建一郎, 市川雅男, 石川温子, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: AFP, hCGが陰性であった卵巣未熟奇形種の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009.
- 83) 大内 望, 明樂重夫, 米澤美令, 里見操緒, 竹下俊行: 酸化再生セルロース膜を使用し造陰術が有用であった先天性陰欠損症の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第117回), 2009.
- 84) 大内 望, 明樂重夫, 阿部 崇, 五十嵐美和, 市川智子, 峯 克也, 市川雅男, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 当院における子宮内膜症の術後再発率についての検討. 日本エンドメトリオーシス学会 (第31回), 2010. 1.
- 85) 峯 克也, 明樂重夫, 大内 望, 黒瀬圭輔, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大泌尿器科): 膀胱子宮内膜症を中心とした下部尿路子宮内膜症に対する診断と治療のポイント. 日本エンドメトリオーシス学会 (第31回), 2010. 1.

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

1. 超音波画像診断 妊娠初期胎児および周産期における胎児超音波診断に加え, 1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究, 2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測, 3) 子宮頸管無力症における超音波画像変化
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連研究などが行われている
3. 婦人科腫瘍 1) 子宮頸癌検診における日母分類の改定やHPVとの関連についての研究, 2) 卵巣癌における抗がん剤の効果および副作用の研究

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kaseki H: Evaluation of a prototype flexible digital video hysteroscope (Y0001). Minim Invasive Ther Allied Technol 2009; 18 (6): 325-331.
- 2) 佐藤杏月, 柿栖睦実, 野口 唯, 米澤美令, 倉品隆平, 深見武彦, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 産褥心筋症3例の経験. 日本妊娠高血圧学会雑誌 2009; 17: 190-191.

(2) 総説:

- 1) 朝倉啓文: 帝王切開の増加. 産婦実際 2009; 59 (12): 1925-1932.
- 2) 朝倉啓文: ARTが周産期医療に及ぼす影響. 産婦実際 2009; 58 (11): 1599-1604.
- 3) 朝倉啓文: 帝王切開の増加を考える. 神奈川母性衛生学会雑誌 2009; 13 (1): 1-7.

- 4) 朝倉啓文：高齢妊娠と内科合併症（脳卒中，心筋梗塞，腎不全など）．産婦実際 2010；59（2）：195-202.
- 5) 朝倉啓文，池田智明¹⁾（¹⁾ 国立循環器病センター）：ワークショップ妊娠高血圧：座長のまとめ．日本周産期・新生児学会雑誌 2010；45（4）：1124-1124.

(3) 研究報告書：

- 1) 可世木久幸：神奈川県産婦人科内視鏡研究会：この1年の歩み．日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2009；46巻1号：54-54.

(4) 症例報告：

- 1) 小野瀬亮¹⁾，土居大祐¹⁾，その他19名：平成20年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告．日産婦神奈川会誌 2009；46（2）：36-39.

著 書

- 1) 可世木久幸：〔分担〕産婦人科の内視鏡診断〕(1) 腹腔鏡検査・子宮鏡検査．今日の診断指針（金澤一郎，永井良三），2010；pp435-444，医学書院.
- 2) 朝倉啓文：〔自著〕癒着胎盤．今日の治療指針（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2010；pp1044-1044，医学書院.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 朝倉啓文：増加する帝王切開；少子高齢社会の分娩の特徴．神奈川県医師会，2009. 4.
- 2) 朝倉啓文：母子保健の理念，妊娠中の症状等に対応する措置．母子健康管理研修会，神奈川産業保健推進センター，2009. 5.
- 3) 土居大祐：ASC-USの細胞像と臨床的取扱い．平成21年度第1回細胞検査士講習会，2010. 3.
- 4) 可世木久幸：月経周辺の痛み対策：わたしの処方．宇都宮産婦人科医会研究会（第286回）（宇都宮市），2010. 3.

(2) 招待講演：

- 1) Kaseki H：Evaluation of a prototype flexible digital video hysteroscope（Y0001）．Asia-Pacific Association of Gynecologic Endoscopy（APAGE）AnnualCongress（第10回）（Taichung, Taiwan），2009. 10.
- 2) Kaseki H：Evaluation of a prototype flexible digital video hysteroscope（Y0001）．The Society of Laparoscopic Surgeons Asian American MultiSpecialty Summit IVLaparoscopy & Minimally Invasive Surgery（第4回）（Honolulu, Hawaii, USA），2010. 2.

(3) 教育講演：

- 1) 可世木久幸：技術認定審査コンセンサスマーケティング：子宮鏡審査基準．日本産科婦人科内視鏡学会（第49回）（高知），2009. 9.

(4) 一般講演：

- 1) Nishida N, Yonezawa M, Asakura H, Tateyama N, Fukami T：Prediction of preterm birth in comparison of TVS findings to those with positive fetal fibronectin（FFN）．FIGO（南アフリカ），2009. 5.
- 2) 米山剛一，関口敦子，松島 隆，倉品隆平，米澤美令，西田直子，澤倫太郎，中井章人，朝倉啓文，竹下俊行：羊水塞栓症10症例の臨床病理学的検討．第45回日本周産期・新生児医学会，2009. 6.
- 3) Asakura H, Tateyama N, Nishida N, Fukami T, Doi D：Correlation between absent cervical gland area（CGA）by ultrasonographic observation and hyaluronic acid in cervical mucus in pregnant woman with suffered from threatened premature delivery．FIGO（南アフリカ），2009. 10.
- 4) 立山尚子，西田尚子，倉品隆平，柿栖陸実，高橋恵理佳，島田博美，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，深見

武彦，朝倉啓文，竹下俊行：超音波による子宮頸管腺領域像消失所見と子宮頸管分泌液中ヒアルロン酸との関連性．第61回日本産科婦人科学会学術講演会，2009．4．

- 5) 深見武彦，島田博美，西田直子，立山尚子，倉品隆平，間瀬有里，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：経腔超音波法による子宮頸管腺領域像の定量的評価に関する研究．第61回日本産科婦人科学会学術講演会，2009．4．
- 6) 米山剛一¹⁾，川瀬里衣子¹⁾，大屋敦子¹⁾，松島 隆¹⁾，五十嵐健治¹⁾，西田直子¹⁾，倉品隆平¹⁾，澤倫太郎¹⁾，鴨居青龍¹⁾，中井章人¹⁾，朝倉啓文¹⁾，竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学女性診療科・産科)：過去25年間に関与した羊水塞栓症10症例の病理学的検討．第61回日本産科婦人科学会学術講演会，2009．4．
- 7) 朝倉啓文：妊婦高齢化の中，帝王切開の増加を考える．日本医科大学同窓会愛知県支部総会，2009．4．
- 8) 山本晃人¹⁾，中山裕樹¹⁾，山田 隆²⁾，三田俊二³⁾，土居大祐⁴⁾，米山剛一⁵⁾，太田雄治郎⁶⁾，河合尚基⁷⁾，竹下俊行⁵⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科，⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，⁵⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，⁶⁾ 多摩南部地域病院，⁷⁾ 東京臨海病院)：子宮体癌における予後因子の検討：術後補助科学療法の子後改善効果．第61回日本産科婦人科学会学術講演会，2009．4．
- 9) 倉品隆平，土居大祐，佐藤杏月，深見武彦，松島 隆，朝倉啓文：大量腹水を伴った卵巣粘液性嚢胞腺癌の1例．第11回神奈川県婦人科腫瘍研究会学術講演会，2009．5．
- 10) 立山尚子，西田直子，深見武彦，朝倉啓文：切迫早産症例における頸管腺領域像消失所見と子宮頸管粘液中ヒアルロン酸濃度との関係．日本早産予防研究会第3回学術集会，2009．6．
- 11) 深見武彦，島田博美，立山尚子，松島 隆，朝倉啓文，竹下俊行：経腔超音波法による子宮頸管腺領域像の定量的評価：妊娠経過と頸管熟化度との関連性．第45回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会，2009．6．
- 12) 松村好克，中島瑞恵¹⁾，矢代健太郎¹⁾，熊坂 栄¹⁾，島 義雄¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院小児科)：早期診断により眼病変の進行を制御できた色素失調症の1例．第45回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会，2009．6．
- 13) 島田博美，立山尚子，米澤美令，柿栖睦実，品川寿弥，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，深見武彦，朝倉啓文：分娩後の弛緩出血のために子宮全摘施行後，sheehan症候群に至った1症例．第117回関東連合地方部会，2009．6．
- 14) 柿栖睦実，倉品隆平，西田直子，深見武彦，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：産褥心筋症を来した2症例．第117回関東連合地方部会，2009．6．
- 15) 米澤美令，立山尚子，松島 隆，中川道子，佐藤杏月，島田博美，野口 唯，西田直子，深見武彦，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：経腔分娩後持続する出血により子宮全摘を必要とした癒着胎盤の1例．第388回日産婦神奈川地方部会，2009．6．
- 16) 野口 唯，松島 隆，深見武彦，島田博美，米澤美令，佐藤杏月，倉品隆平，奥田直貴，西田直子，立山尚子，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：帝王切開癒着部皮下に発生した子宮内膜症の1例．第386回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2009．7．
- 17) 小野瀬亮¹⁾，雨宮 清¹⁾，小林陽一¹⁾，小山秀樹¹⁾，角田新平¹⁾，土居大祐¹⁾，仲沢経夫¹⁾，秦 和子¹⁾，林 康子¹⁾，林 玲子¹⁾，宮城悦子¹⁾，村松俊成¹⁾，横山和彦¹⁾，三上幹男¹⁾，中山裕樹¹⁾，その他1名 (¹⁾ 神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍対策部)：平成20年度神奈川県産科婦人科医会 婦人科悪性腫瘍登録集計報告．第386回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2009．7．
- 18) 三浦 敦¹⁾，米山剛一¹⁾，峯 克也¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，石川温子¹⁾，土居大祐，竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：右室転移を呈した再発子宮頸癌の1例．第46回日本婦人科腫瘍学会，2009．7．
- 19) 米山剛一¹⁾，米澤美令¹⁾，川瀬里衣子¹⁾，渡邊健一郎¹⁾，市川雅男¹⁾，三浦 敦¹⁾，石川温子¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，土居大祐¹⁾，川本雅司²⁾，土屋眞一²⁾，竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学病理

- 部)：卵巣明細胞腺線維腫悪性化例が疑われた1例．第46回日本婦人科腫瘍学会，2009．7．
- 20) 米澤美令，深見武彦，野口 唯，島田博美，佐藤杏月，坊 裕美，奥田直貴，立山尚子，西田直子，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：経膈超音波及びMRI画像より子宮角部妊娠を疑いMTX療法が奏功した1例．第387回日本産科婦人科学会神奈川地方部会平成21年度神奈川県母体保護法指定医師研修会，2009．9．
- 21) 深見武彦，野口 唯，島田博美，米澤美令，佐藤杏月，中川道子，倉品隆平，坊 裕美，奥田直貴，立山尚子，西田直子，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：MTX療法が奏功した子宮角部妊娠の1例．第77回日本医科大学医学会総会，2009．9．
- 22) 松島 隆，可世木久幸，深見武彦，倉科隆平，米澤美令，朝倉啓文，竹下俊行：軟性デジタルビデオ子宮鏡試作機の評価：Narrow Banding Image (NBI) の有用性．日本産科婦人科内視鏡学会（第49回）（高知市），2009．9．
- 23) 米澤美令，可世木久幸，倉科隆平，深見武彦，松島 隆，朝倉啓文，竹下俊行：我々が行っている子宮鏡下避妊具（IUD）抜去法：子宮鏡IUD抜去が困難であった2症例．日本産科婦人科内視鏡学会（第49回）（高知市），2009．9．
- 24) 佐藤杏月，柿栖睦実，野口 唯，米澤美令，倉品隆平，深見武彦，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：産褥心筋症3例の経験．第30回日本妊娠高血圧学会，2009．10．
- 25) 佐藤杏月，可世木久幸，朝倉啓文：子宮鏡によるIUD抜去が困難であった閉経期以後の2症例．日本更年期医学会（第24回），2009．10．
- 26) 米澤美令，深見武彦，野口 唯，島田博美，佐藤杏月，坊 裕美，奥田直貴，立山尚子，西田直子，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：経膈超音波及びMRI画像より子宮角部妊娠を疑いMTX療法が奏功した1例．第118回関東連合地方部会，2009．11．
- 27) 土居大祐¹⁾，斉藤良明²⁾，大塚俊司²⁾，佐藤杏月¹⁾，間瀬有里¹⁾，松島 隆¹⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院病理部）：子宮頸部，内膜細胞診が契機となり診断されたサルコイドーシスの1例．第48回秋期大会，2009．
- 28) 大塚雅美¹⁾，西田直子，坊 裕美，野口 唯，島田博美，佐藤杏月，中川道子，立山尚子，深見武彦，松島隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文（¹⁾研修医）：脳出血を発症後母児とも救命しえた1例．第389回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2010．2．
- 29) 朝倉啓文：緊急帝王切開の現況調査．第389回日産婦神奈川地方部会，2010．2．
- 30) 松島 隆：子宮腺筋症術後妊娠中に子宮破裂を発症した1例．第26回神奈川産婦人科内視鏡研究会，2010．3．

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。

(1) 妊婦とスポーツ 妊婦スポーツの安全性や効果について，身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では，活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化，心機能変化の評価をはじめ，スポーツが妊娠，分娩に与える影響，予後を広範囲に調査している。また，産褥期の子宮復古，母乳栄養の確立に関しても，興味深い成績をあげつつある。

(2) 周産期領域 臨床面では，切迫早産，妊娠高血圧症候群，胎児機能不全に対し，超音波断層装置，生化学検査，胎児モニタリングなどを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層装置による母胎腎，肝臓の観察では新たな視点から妊娠高血圧症候群に関する有益なデータが集積しつつある。

また，胎児，新生児低酸素脳症に関して，脳内エネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 林 昌子, 三田俊二, 桑原知仁, 中井晶子, 川端伊久乃, 高橋 肇, 大屋敦子, 中井章人：化学療法2日後に腫瘍破裂をきたし, 同日死亡に至った子宮体部低分化腺癌の1例. 日産婦東京会誌 2009 ; 58 (2) : 245-250.
- 2) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 川野記代子¹⁾, 東 敬子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 三田俊二, 内藤善哉²⁾, 白田忠男³⁾, 長尾 緑³⁾, 藤田千歳³⁾, その他1名 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院病理部, ²⁾ 日本医科大学病理部学講座統御機構・腫瘍学, ³⁾ 荒川区がん予防・健康づくりセンター)：婦人科領域の細胞病理診断. 日産婦千葉会誌 2009 ; 3 (1) : 5-7.
- 3) 天野出月¹⁾, 阿部 崇²⁾, 稲川智子²⁾, 峯 克也²⁾, 澤倫太郎²⁾, 明樂重夫²⁾, 竹下俊行²⁾, 山下恵理子, 大屋敦子, 中井章人, 坪井一平³⁾ (¹⁾ 多摩北部医療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学付属病院第一内科)：周産期心筋症の1例. 日産婦東京会誌 2009 ; 58 (3) : 332-336.
- 4) 山岸絵美, 中井晶子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 渡邊建一郎, 林 昌子, 三田俊二, 大屋敦子, 中井章人：保存的治療が奏功した帝王切開癒痕部妊娠の1例. 日産婦東京会誌 2009 ; 58 (4) : 390-394.
- 5) 松田義雄¹⁾, 中井章人 (¹⁾ 東京女子医科大学母子総合医療センター産科)：新たな妊婦健診体制の構築に向けて；母子健康手帳を考える；必要な母胎・胎児情報は何か？；座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2009 ; 45 (4) : 1014-1014.
- 6) 三宅秀彦^{1,2)}, 五十嵐美和^{1,2)}, 里見操緒^{1,2)}, 鈴木俊治²⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科女性生殖発達病態学, ²⁾ 葛飾赤十字産院産婦人科)：医師の立ち会わない院内助産における胎児心拍数モニタリング. 日医大医学会誌 2010 ; 6 (1) : 13-16.
- 7) 桑原知仁, 林 昌子, 山岸絵美, 渡邊建一郎, 中井晶子, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人：妊娠高血圧症候群の産褥期管理中に痙攣発作を起こし, 子癇との鑑別を要した脳内出血の1例. 日産婦東京会誌 2010 ; 59 (1) : 130-134.

(2) 総説：

- 1) 中井章人：特集；早産とその予防；早産とは；早産の定義と概念. 産婦人科治療 2009 ; 98 (4) : 329-336.
- 2) 川端伊久乃：特集；産婦人科手術療法マニュアル；I. 産科処置；13. 会陰・膣血腫に対する処置. 産科と婦人科 2009 ; 76 (増刊) : 83-88.
- 3) 川端伊久乃, 中井章人：今月の主題；妊娠と臨床検査；切迫早産・破水の診断. 臨床検査 2009 ; 53 (4) : 441-444.
- 4) 中井章人：特集；産科医療の崩壊を止める；分娩費の適正化；分娩費の実態とその適正化. 産婦人科の実際 2009 ; 58 (6) : 921-926.
- 5) 林 昌子, 中井章人：特集；超音波検査ベーシック問題集17；場面2；妊娠11週で胎児心拍が確認できない. ペリネイタルケア 2009 ; 28 (7) : 13-15.
- 6) 林 昌子, 中井章人：特集；超音波検査ベーシック問題集；問題3；最終月経から算出した妊娠週数は正しいのか？. ペリネイタルケア 2009 ; 28 (7) : 16-18.
- 7) 林 昌子, 中井章人：特集；超音波検査ベーシック問題集；問題9；妊娠21週で子宮頸管長が短縮している. ペリネイタルケア 2009 ; 28 (7) : 39-41.
- 8) 中井章人：特集；睡眠時無呼吸症候群の臨床up-to-date 2009；診療の秘訣；切迫早産；頸管不全. Modern Physician 2009 ; 29 (8) : 1224-1224.
- 9) 中井章人, 山下恵理子：子宮疾患・子宮内膜症の臨床；基礎・臨床研究のアップデート；VII 妊娠・産褥期の異常；切迫子宮破裂. 日本臨床 2009 ; 67 (増刊) : 394-397.
- 10) 三宅秀彦, 中井章人：特集；周産期医療インシデントレポート；Rh (-) の見落とし. 周産期医学 2009 ; 39

- (8) : 986-988.
- 11) 中宅秀彦, 中井章人: 特集; 周産期医療インシデントレポート; 切迫早産の診断遅れ. 周産期医学 2009; 39 (8) : 998-1000.
 - 12) 中宅秀彦, 中井章人: 特集; 周産期医療インシデントレポート; IUGRの見落とし. 周産期医学 2009; 39 (8) : 1001-1003.
 - 13) 中井章人: 特集; 明日の周産期医療への提言; 若手スタッフの未来のために; 周産期医療の現状と問題点; 全国の周産期医療体制; 日本産婦人科医会2008年全国調査. 周産期医学 2009; 39 (9) : 1259-1266.
 - 14) 中井章人: 特集; アウトカムからみた周産期管理; 切迫早産の早期発見と治療. 周産期医学 2009; 39 (10) : 1323-1329.
 - 15) 谷内良成, 中井章人: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 103. 帝王切開の決定にX線を撮るといわれて心配です. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 276-278.
 - 16) 中井章人, 林 昌子: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 104. 分娩入院時の浣腸は必要なのでしょうか?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 279-280.
 - 17) 川端伊久乃, 中井章人: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 105. 会陰切開は必要ですか?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 281-282.
 - 18) 中井章人, 林 昌子: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 106. 分娩監視装置をつけることは必要ですか?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 283-284.
 - 19) 大屋敦子, 中井章人: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 108. 呼吸法を練習してなかったのですが?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 287-289.
 - 20) 中井章人, 高橋恵理佳: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 109. 吸引・鉗子分娩になってしまったが心配. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 290-292.
 - 21) 谷内良成, 中井章人: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 110. 外陰部の静脈瘤がひどいのですがお産は大丈夫ですか?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 293-295.
 - 22) 中井章人, 山下恵理子: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 111. 分娩誘発をされるといわれて心配です. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 296-298.
 - 23) 中井章人, 山下恵理子: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 114. 予定日になってもお産が始まらないのですが?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 304-305.
 - 24) 中井章人, 山岸絵美: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 117. 分娩の所要時間はどれくらいですか?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 312-313.
 - 25) 中井章人, 中井晶子: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; V. 分娩; 118. 子宮筋腫がありますが, 帝王切開時に処置するのですか?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 314-315.
 - 26) 川端伊久乃, 中井章人: 周産期相談318. お母さんへの回答マニュアル第2版; 産科編; III. 妊娠中期; 77. 妊婦水泳をしたいのですが?. 周産期医学 2009; 39 (増刊) : 205-207.
 - 27) 中井章人: 実践する・わが人材確保戦略; 新たな周産期医療連携「オープン・セミオープンシステム」の可能性. 新医療 2010; 37 (1) : 138-141.
 - 28) 中井晶子, 川端伊久乃, 中井章人: 助産師外来にも役立つエビデンス&テクニック; 妊婦健康診査パーフェクトマニュアル; 第3章; 妊婦健康診査ポイント; 妊娠後期から分娩まで (妊娠28週以降); 遭遇する頻度の高い産科疾患・産科異常; 外来での対応; 帝王切開術の既往. 産科 2010年 2010; (新春増刊) : 204-208.
 - 29) 中井章人: フロンティア's; セミオープンシステムの運用で産科の負担軽減とリスクの集約化を実現. 月刊保険診療 2010; 65 (1) : 70-73.
 - 30) 中井章人: 特集; 妊婦健診・分娩体制を再考する; 地域における新たな周産期医療供給への取り組み; オープ

ン・セミオープンシステム, 周産期医学 2010 ; 40 (1) : 33-36.

- 31) 中井章人: 東京都母体救命搬送システム, 東京産婦人科医会誌 2010 ; (42) : 53-54.
- 32) 川端伊久乃: 助産外来にも役立つエビデンス&テクニック; 妊婦健康診査パーフェクトマニュアル; 第6章; 妊娠全期間(産後も含む)を通して; 妊娠中に遭遇する頻度の高い合併症の対処法; マイナートラブル, ペリネイタルケア2010年 2010 ; (新春増刊) : 332-337.

著書

- 1) 三宅秀彦: [分担] III. 分娩時の異常; 6. 肩甲難産. 必携ハイリスク妊娠の診療を極める(江口勝人編集), 2009 ; pp351-360, 永井書店.
- 2) 大屋敦子, 中井章人: [分担] III. 分娩時の異常; 8. 子宮内反症. 必携ハイリスク妊娠の診療を極める(江口勝人編集), 2009 ; pp370-375, 永井書店.
- 3) 中井章人: [分担] 産婦人科; 妊娠悪阻. 今日の治療指針; 私はこう治療している: TODAY'S THERAPY 2010 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2010 ; pp1033-1034, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 中井章人: 頸管長計測; 正しい計測法と早産予防への応用. 産婦人科超音波セミナー, 2009. 6.
- 2) 中井章人: 新しい妊婦健診体制は周産期救急搬送を減少させる!?; セミオープンシステム「母と子のネットワーク」. 第275回青森県臨床産婦人科医会, 2009. 7.
- 3) 三宅秀彦: 流産の原因と管理; 臨床遺伝専門医の立場から. 第35回多摩産婦人科病診連携懇話会, 2009. 9.
- 4) 中井章人: 産婦人科で超音波ドプラ法は何に役立つか. 第34回埼玉県産婦人科医会超音波研究会, 2009. 10.
- 5) 中井章人: 周産期医療ステージ6; 妊産婦死亡統計から見た周産期救急医療. 第20回産科中小施設研究会, 2009. 10.
- 6) 中井章人: 判例から見た脳性麻痺の原因分析. 第274回東京産婦人科医会臨床研修会, 2009. 11.
- 7) 中井章人: 急性期病院における転倒予防システムの再構築. 日本医科大学武蔵小杉病院医療安全講習会, 2009. 11.
- 8) 中井章人: 産婦人科医療改革グランドデザイン2010にむけて; 産婦人科医師の就労状況と未来予想図. 平成21年度第1回「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革公開フォーラム」, 2010. 1.
- 9) 中井章人: 安全で安心な妊産婦ケアのためのアセスメントと対応. 安全な分娩と院内助産の取り組み, 2010. 1.
- 10) 中井章人: Office Gynecologyにおける超音波徹底活用(超音波内診法!?). 第12回産婦人科MEセミナー, 2010. 2.
- 11) 中井章人: 母と子のネットワーク妊婦健康審査の手順. 第1回多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会および第36回多摩産婦人科病診連携懇話会, 2010. 2.
- 12) 中井章人: 出産費用の支援のあり方; 日本産婦人科医会の提言; 保険給付以外の財源から現金支給へ!. 日本産婦人科医会第31回記者懇談会, 2010. 3.
- 13) 中井章人: 周産期医療ステージ7; 判例からみた脳性麻痺の原因分析. 第21回産科中小施設研究会, 2010. 3.

(2) シンポジウム:

- 1) 川端伊久乃, 三宅秀彦, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行: 超音波ドプラを用いた母体肝血流量評価によるHELLP症候群発症予知に関する検討. 第30回日本妊娠高血圧学会, 2009. 8.
- 2) 中井章人: 新たな妊婦健診体制構築に向けて; 母子健康手帳の改訂と妊婦健診体制の充実を図るために; 妊婦健診の問題; 未受診妊婦の現状をふまえて. 第50回日本母性衛生学会学術集会, 2009. 9.
- 3) 三宅秀彦, 川端伊久乃, 中井章人: 妊娠中のスポーツ活動; 妊婦スポーツの安全管理基準. 第20回日本臨床ス

ポーツ医学会学術集会, 2009. 11.

- 4) 中井章人：テーマ；中高年女性の健康スポーツ；高脂血症とスポーツ．日本臨床スポーツ医学平成21年度学術委員会公開シンポジウム, 2010. 1.

(3) ワークショップ：

- 1) 中井章人：産科診療におけるリスクと対策；新生児後障害；脳性麻痺の原因分析とその留意点．第36回日本産婦人科医学会学術集会, 2009. 10.

(4) 一般講演：

- 1) 大屋敦子, 川端伊久乃, 桑原知仁, 山下恵理子, 中井晶子, 林 昌子, 奥田直貴, 高橋 肇, 谷内良成, 三田俊二, 中井章人, 竹下俊行：当院におけるHELLP症候群の検討；妊娠中発症例と産褥発症例の比較．第61回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009. 4.
- 2) 川端伊久乃, 大屋敦子, 中井晶子, 林 昌子, 三田俊二, 高橋 肇, 里見操緒, 山下恵理子, 桑原知仁, 中井章人, 竹下俊行：切迫早産病型分類に関する研究．第61回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009. 4.
- 3) 米山剛一, 川瀬里衣子, 大屋敦子, 松島 隆, 五十嵐健治, 西田直子, 倉品隆平, 澤倫太郎, 鴨井青龍, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行：過去25年間に関与した羊水栓塞症10症例の臨床病理学的検討．第61回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009. 4.
- 4) 山本晃人¹⁾, 中山裕樹¹⁾, 山田 隆²⁾, 三田俊二³⁾, 土居大祐⁴⁾, 米山剛一⁵⁾, 太田雄治郎⁶⁾, 河合尚基⁷⁾, 竹下俊行⁵⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院, ⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, ⁵⁾ 日本医科大学, ⁶⁾ 多摩南部地域病院, ⁷⁾ 東京臨海病院)：子宮体癌における予後因子の検討；術後補助化学療法の予後改善効果．第61回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009. 4.
- 5) 松田義雄, 竹田善治, 若槻明彦, 真田広行, 朝本明弘, 福島明宗, 多田克彦, 山中美智子, 上塘正人, 石松順嗣, 高木 剛, 堀 大蔵, 北川道弘, 吉田幸洋, 中井章人, その他17名 (¹⁾ MFICU連絡協議会)：母体マグネシウム投与の新生児死亡, 脳出血に及ぼす影響；多施設共同研究．第61回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009. 4.
- 6) 里見操緒, 稲川智子, 大内 望, 高橋恵理佳, 米澤美令, 峯 克也, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行：抗リン脂質抗体陽性妊婦に対するアスピリン・ヘパリン療法の可溶性接着分子分泌動態に及ぼす影響．第61回日本産科婦人科学会学術講演会, 2009. 4.
- 7) 天野出月¹⁾, 阿部 崇²⁾, 稲川智子²⁾, 峯 克也²⁾, 石川 源²⁾, 明樂重夫²⁾, 竹下俊行²⁾, 山下恵理子³⁾, 大屋敦子³⁾, 中井章人³⁾ (¹⁾ 多摩北部医療センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科)：周産期心筋症の1例．日本産科婦人科学会東京地方部会60周年並びに第350回記念例会, 2009. 5.
- 8) 桑原知仁, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学)：母体搬送に関する諸問題；母体搬送に難渋した周産期心筋症．第361回四水会, 2009. 6.
- 9) 山岸絵美, 中井晶子, 林 昌子, 桑原知仁, 高橋恵理佳, 山下恵理子, 川端伊久乃, 里見操緒, 高橋 肇, 三田俊二, 大屋敦子, 中井章人：陣痛発来時に著明な高血圧と頰脈を来し褐色細胞腫と診断された1例．第117回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2009. 6.
- 10) 渡邊建一郎, 市川雅男, 桑原知仁, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行：子宮筋層全体に浸潤した子宮頸部扁平上皮癌の1例．第117回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2009. 6.
- 11) 桑原知仁, 三浦 敦, 岩井拓磨, 渡邊建一郎, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 石川温子, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行：AFP, hCGが陰性であった卵巣未熟奇形種の1例．第117回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2009. 6.
- 12) 名古ゆり恵¹⁾, 永野玲子¹⁾, 星野裕子¹⁾, 林 瑞成¹⁾, 渡辺とよ子²⁾, 中井章人³⁾, 竹下俊行³⁾ (¹⁾ 都立墨東病

院周産期センター産科，²⁾ 都立墨東病院周産期センター新生児科，³⁾ 日本医科大学女性診療科・産科)：経母体的出生前ステロイド投与の再検討(第2報・妊娠30週以降)．第45回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会，2009．7．

- 13) 阿部 崇¹⁾，山下恵理子，稲川智子¹⁾，峯 克也¹⁾，大屋敦子，中井章人，竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：当科で経験した周産期心筋症の1例．第45回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会，2009．7．
- 14) 米山剛一¹⁾，関口敦子¹⁾，松島 隆¹⁾，倉品隆平¹⁾，米澤美令¹⁾，西田直子¹⁾，澤倫太郎¹⁾，中井章人¹⁾，朝倉啓文¹⁾，竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学女性診療科・産科)：羊水栓塞症10症例の臨床病理学的解析．第45回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会，2009．7．
- 15) 岩崎奈央¹⁾，三宅秀彦^{1,2)}，里見操緒¹⁾，川端伊久乃²⁾，関口敦子²⁾，鈴木俊治¹⁾，中井章人²⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院産婦人科，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科)：生殖補助医療(ART)は妊娠高血圧症候群子後に影響するか？．第30回日本妊娠高血圧学会，2009．8．
- 16) 山岸絵美：癒痕部妊娠．第35回多摩産婦人科病診連携懇話会，2009．9．
- 17) 山岸絵美，中井晶子，三宅秀彦，川端伊久乃，渡邊建一郎，林 昌子，三田俊二，大屋敦子，中井章人：保存的治療が奏効した帝王切開癒痕部妊娠の1例．第351回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2009．9．
- 18) 渡邊建一郎，川端伊久乃，三宅秀彦，山下恵理子¹⁾，中井晶子，林 昌子，大屋敦子，中井章人 (¹⁾ 葛飾赤十字産院産婦人科)：後期流産後に難治性の発熱が長期持続した子宮筋腫合併妊娠の1例．第118回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2009．11．
- 19) 桑原知仁，林 昌子，山岸絵美，渡邊建一郎，中井晶子，川端伊久乃，三宅秀彦，大屋敦子，中井章人：妊娠高血圧症候群の産褥期管理中に痙攣発作を起こし子癇との鑑別を要した脳出血の1例．第352回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2009．12．
- 20) 渡邊建一郎，中井章人：帝王切開術中にきたしたアナフィラキシーショック．平成21年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会，2009．12．
- 21) 山岸絵美，中井章人：術中マレイン酸メチルエルゴメトリン投与によりアナフィラキシーショックをきたした1例．平成21年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会，2009．12．
- 22) 岩崎奈央，三宅秀彦，山岸絵美，桑原知仁，中井晶子，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，大屋敦子，中井章人：科学妊娠に合併した子宮仮性動脈瘤の1例．第23回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第353回日産婦東京地方部会例会，2010．2．
- 23) 関口敦子：病診連携に関係する統計．第1回多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会および第36回多摩産婦人科病診連携懇話会，2010．2．

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

1) 婦人科腫瘍：婦人科腫瘍分野は千葉北総病院女性診療科・産科における診療の中心的な位置を占めている．腫瘍学は症例1例1例の集積が大切であり，症例報告を積極的に行っている．また，抗癌剤の効果予知因子の研究の一環として，今回は子宮内膜癌にたいする高用量黄体ホルモン療法における効果予知因子の解明について研究をおこなった．さらに，子宮体癌におけるマイクロRNAの発現様式の研究を行っている．また，腹膜癌に対する臨床病理学的検討をすすめている．

2) 婦人科内視鏡手術：腹腔鏡手術の教育システムの確立の必要性が謳われている．特に腹腔鏡下子宮筋腫核出術は子宮壁の修復に正確な縫合結紮を要し，医育機関においては術式と導入方法の工夫が必要とされてきた．これまで腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術を標準術式として導入してきたが，今回，導入における問題点と術式の妥当性について

検討を加えた。さらに子宮内膜症や卵巣嚢腫に対する手術，子宮全摘術，および卵管卵管間質部妊娠を含む子宮外妊娠手術および子宮奇形に対する腹腔鏡手術あるいは子宮鏡手術についても症例を重ねている。

3) 周産期：ハイリスク妊娠の管理および分娩における問題点について検討し，緊急帝王切開術に対する諸問題を関係各部門と検討，分析した。妊産婦の栄養管理について，具体的に各症例について検討し日本人妊産婦に必要な栄養所要量について研究を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kamoi S, Iwasaki N, Igarashi K, Asakura T, Watanabe M, Ohaki Y¹⁾, Takeshita T²⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Partial trachelectomy : A New and Final Option for Fertility-Preserving Management of Cervical Ectopic Pregnancy. *Journal of Gynecologic Surgery* 2009 ; 25 : 139-146.
- 2) 阿部裕子, 山下恵理子, 平泉良枝, 高屋 茜, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 大秋美治¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 日本医科大学産婦人科学) : 当院で経験したOHVIRA症候群4症例とWunderlich 症候群1症例. *日本産科婦人科学会千葉地方部会誌* 2009 ; 3 (1) : 29-33.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Takizawa T¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Ishikawa G, Katayama A¹⁾, Takeshita T¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : MicroRNA has-miR-517a is possibly involved in tumor necrosis factor (tnf) -mediated signaling in human placenta. *International Federation of Placenta Associations Meeting 2009 (Adelaide)*, 2009. 10.
- 2) Ishikawa G, Lue S¹⁾, Ishibashi O¹⁾, Mishima T¹⁾, Izumi A²⁾, Ohkuchi A²⁾, Matsubara S²⁾, Takizawa T¹⁾, Takeshita T³⁾ (1) Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Novel microRNAs cloned from normal and preeclampsia placentas. *SIG International Summit (3rd) (miyagi)*, 2009. 11.
- 3) 米山剛一¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 大屋敦子¹⁾, 松島 隆²⁾, 五十嵐健治, 西田直子¹⁾, 倉品隆平¹⁾, 澤倫太郎¹⁾, 鴨井青龍, 中井章人³⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院 女性診療科・産科, 2) 武蔵小杉 女性診療科・産科, 3) 多摩永山病院 女性診療科・産科) : 過去25年間に関与した羊水塞栓症10症例の臨床病理学的実験. *日本産科婦人科学会 (第61回) (京都)*, 2009. 4.
- 4) 山本晃人¹⁾, 中山裕樹¹⁾, 山田 隆, 三田俊二²⁾, 土居大祐³⁾, 米山剛一⁴⁾, 太田雄治郎⁵⁾, 河合尚基⁶⁾, 竹下俊行⁴⁾ (1) 神奈川県立がんセンター, 2) 多摩永山病院 女性診療科・産科, 3) 武蔵小杉病院 女性診療科・産科, 4) 付属病院女性診療科・産科, 5) 多摩南部地域病院, 6) 東京臨海病院) : 子宮体癌における予後因子の検討：術後補助化学療法の予後改善効果. *日本産科婦人科学会 (第61回) (京都)*, 2009. 4.
- 5) 印出佑介¹⁾, 山口 暁²⁾, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科, 2) 山口病院) : 産褥婦のサイトメガロウイルス抗体保有率の変遷. *日本産科婦人科学会 (第61回) (京都)*, 2009. 4.
- 6) 岩崎奈央¹⁾, 阿部裕子¹⁾, 朝倉禎史, 平泉良枝¹⁾, 山田 隆, 五十嵐健治, 萩原弘光, 窪谷 潔²⁾, 渡辺美千明, 山口 暁³⁾, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科, 2) 窪谷産婦人科, 3) 山口病院) : 開腹下頸管部分切除術を行うことにより子宮を温存しえた頸管妊娠の1例. *日本産科婦人科学会 (第61回) (京都)*, 2009. 4.

- 7) 平泉良枝¹⁾, 印出佑介¹⁾, 小野修一¹⁾, 山下恵理子¹⁾, 菊池美美¹⁾, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 黒瀬圭輔¹⁾, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科): 腫瘍融解症候群 (TLS) を認めた子宮横紋筋肉腫の1例. 第61回日本産科婦人科学会 (京都), 2009. 4.
- 8) 山田 隆, 阿部裕子, 高屋 茜, 朝倉禎史, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 大秋美治¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 付属病院女性診療科・産科): 臍部腫瘍で発見された付属器癌. 特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会 (第46回) (新潟県), 2009. 7.
- 9) 石川温子, 渡辺美千明, 阿部裕子, 山田 隆, 石川 源, 鴨井青龍, 明樂重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科): 嵌頓鼠径ヘルニアを腹腔鏡下に還納した卵巣囊腫の1症例. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第49回) (高知県), 2009. 9.
- 10) 渡辺美千明, 山田 隆, 阿部裕子, 石川温子, 石川 源, 鴨井青龍, 明樂重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科): 術前に診断し腹腔鏡下に摘出し得た腹腔内異物 (ガーゼオーマ) の1例. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第49回) (高知県), 2009. 9.
- 11) 山田 隆, 渡辺美千明, 阿部裕子, 石川温子, 石川 源, 鴨井青龍, 明樂重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院): 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術直前に受精し手術を経て無事生児を得た1例. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第49回) (高知県), 2009. 9.
- 12) 岩崎奈央¹⁾, 鴨井青龍, 高橋恵理佳, 高屋 茜, 阿部裕子¹⁾, 朝倉禎史, 平泉良枝¹⁾, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川温子, 石川 源, 渡辺美千明, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科): 頸管妊娠に対する妊孕能温存手術: 部分頸部摘出術の応用. 日本婦人科手術学会 (第32回) (東京都), 2009. 11.
- 13) 間瀬-吉田友里¹⁾, 石橋 宰²⁾, 石川 源, 木口一成³⁾, 片渕秀隆⁴⁾, 大場 隆⁴⁾, 竹下俊行⁵⁾, 瀧澤俊広²⁾ (1) 日本医科大学産婦人科学, 2) 日本医科大学分子解剖学, 3) 聖マリアンナ医科大学・産婦人科学, 4) 熊本大学医学部・産科婦人科学, 5) 付属病院女性診療科・産科): ヒト卵巣顆粒膜細胞株に表現する microRNA の大規模プロファイリング解析. 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (第24回) (東京都), 2009. 11.
- 14) 石橋 宰¹⁾, 羅 善順¹⁾, 倉品隆平²⁾, 軸菌智雄¹⁾, 石川 源, 大口昭英³⁾, 泉 章夫³⁾, 松原茂樹³⁾, 間瀬-吉田有里¹⁾, 朝倉啓文⁴⁾, 米山剛一⁵⁾, 竹下俊行⁵⁾, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 日本医科大学分子解剖学, 2) 付属病院女性診療科・産科, 3) 自治医科大学産婦人科, 4) 武蔵小杉病院女性診療科・産科, 5) 付属病院女性診療科・産科): 妊娠高血圧症候群で発現が変動する胎盤由来マイクロRNAの大規模プロファイリングによる同定の試み. 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (第24回) (東京都), 2009. 11.
- 15) 高屋 茜, 高橋恵理佳, 朝倉禎史, 山田 隆, 石川温子, 五十嵐健治, 石川 源, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 坪井成美¹⁾ (1) 千葉北総病院泌尿器科): 子宮摘出後に一過性の両側尿管閉塞をきたした1例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成21年度冬期学術講演会 (千葉県), 2010. 2.
- 16) 高橋恵理佳, 石川温子, 高屋 茜, 朝倉禎史, 山田 隆, 五十嵐健治, 石川 源, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 岡田 進¹⁾, 大秋美治²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 千葉北総病院病理部): 最近経験した小児未熟児奇形腫の2例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成21年度冬期学術講演会 (千葉県), 2010. 2.

14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

教室の主たる研究領域は鼻科学，免疫アレルギー学，耳科学，めまい平衡医学，頭頸部外科学，音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。その研究手法としては，生理学的，形態学的，免疫学的，分子生物的方法が駆使されている。

以下に示された英文，和文論文，学会発表で示されている通り，基礎的あるいは臨床的研究，症例検討等に関する業績の結果の提示が積極的に国内外に示されている。62編の原著のうち30件が英文の論文であり，8編が鼻科学，15編が免疫アレルギー学，6編が耳科学，1編が頭頸部外科学とバラエティーに富み，それぞれが国際的な評価も高い。これらの研究活動を援助するための，外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ，文部科学省研究費補助金や厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を多く獲得している。特に平成22年度から講座主任となった大久保は平成14年度から現在まで，連続3期目の厚生労働省化学研究費補助金事業の主任研究員を行い，花粉症治療の新しい方向性を目指している。

これらの研究によりTLOセンターを通じて2件の特許申請が行われた。他の分野においても積極的に講座の全員で国際学会や国内学会への参加・発表も行い，その成果を上げている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) 吉村明修^{1,2)}，志村俊郎^{1,2)}，阿曾亮子^{1,2)}，加藤貴雄³⁾，中溝宗永²⁾，小野真史²⁾，石川 源²⁾，森本泰介²⁾，大野忠明⁴⁾，高岡雅子²⁾，竹原典子²⁾，田尻 孝³⁾ (1) 日本医科大学 教育推進室，2) 同 クリニカル・シュミレーション・ラボ運営委員会，3) 同 教育委員会，4) 同 内科学)：臨床実習前準備教育におけるシュミレーターを使用した効率的な臨床技能実習。医学教育 2009；40 (3)：185-189。

(1) 原著：

- 1) Hashiguchi K¹⁾，Tang H²⁾，Fujita T²⁾，Suemastu K³⁾，Tsubaki S³⁾，Nagakura H³⁾，Kitajima S³⁾，Gotoh M，Okubo K (1) Dept of Otolaryngology, Kitasato Research Hosp, 2) Sinryo Reinstu, 3) Samontyo Clin)：Validation study of the OHIO chamber in patients with Japanese Cedar pollinosis. Int Arch Allergy Immunol 2009；149 (2)：141-149。
- 2) Ikezono T¹⁾，Shindo S¹⁾，Satomi S²⁾，Hanprasertpong C⁹⁾，Li L，Pawankar R¹⁾，Morizane T⁴⁾，Baba S¹⁾，Koizumi Y¹⁾，Sekine K¹⁾，Watanabe A³⁾，Komatsuzaki A⁵⁾，Murakami S⁶⁾，Kobayashi T⁷⁾，Miura M⁸⁾，et al. (1) Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, 2) R&D and Business Development Segment, Mitsubishi Chemical Medience Corporation, 3) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 4) Department of Medicine, Kanagawa Dental College, 5) Neurotology Clinic, 6) Department of Otorhinolaryngology, Nagoya City University, 7) Department of Otolaryngology - Head and Neck Surgery, Tohoku University Graduate School of Medicine, 8) Department of Clinical Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Hokuriku University, 9) Department of Otorhinolaryngology, Chiangmai Uni-

- versity, Chiangmai) : Cochlin-tomoprotein : a novel perilymph-specific protein and a potential marker for the diagnosis of perilymphatic fistula. *Audiol Neurootol* 2009 ; 14 (5) : 338-344.
- 3) Bunnag C¹⁾, Jareoncharsri P¹⁾, Tantilipikorn P¹⁾, Vichyanond P¹⁾, Pawankar R (1) Mahidol University, Bangkok) : Epidemiology and current status of allergic rhinitis and asthma in Thailand. *Asian Pac J Allergy Immunol* 2009 ; 27 (1) : 79-86.
 - 4) Shah A¹⁾, Pawankar R (1) University of Delhi) : Allergic rhinitis and co-morbid asthma : perspective from India. *Asian Pac J Allergy Immunol* 2009 ; 27 (1) : 71-77.
 - 5) Zernotti EM¹⁾, Pawankar R (1) Catholic University, Cordoba) : Rhinosinusitis in children and asthma severity. *Current Opinion Allergy Clin Immunol* 2009 ; 9 (2) : 151-153.
 - 6) Fujikura T, Tanaka N¹⁾, Sugiura E¹⁾, Ide N¹⁾, Miyajima K¹⁾ (1) Department of Otolaryngology, Tokyo Woman' s Medical University, Medical center east) : Clinical application of virtual endoscopy as a support system for endoscopic sinus surgery. *Acta Oto-Laryngologica* 2009 ; 129 (6) : 674-680.
 - 7) Hashiguchi K¹⁾, Tang H²⁾, Fujita T³⁾, Suemastu K³⁾, Gotoh M, Okubo K (1) Dept of Otolaryngology, Kitasato Research Hosp, 2) Sinryo Reinetsu, 3) Samoncho Clin) : Bepotastine besilate OD tablets suppress nasal symptoms caused by Japanese cedar pollen exposure in an artificial exposure chamber (OHIO Chamber). *Expert Opin. Pharmacother* 2009 ; 10 : 523-529.
 - 8) Nonaka M, Ogihara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Pawankar R, Yagi T : Poly (I : C) synergizes with Th2 cytokines to induce TARC/CCL17 in middle ear fibroblasts established from mocos of otitis media with effusion. *Acta Otolaryngol (Suppl)* 2009 ; 652 : 57-62.
 - 9) Yamanaka IK¹⁾, Yuta A²⁾, Kaneda M¹⁾, Sasaki R¹⁾, Kitagawa H¹⁾, Gabazza CE¹⁾, Okubo K, Kurokawa I¹⁾, Mizutani H¹⁾ (1) Dept of Dermatology, Mie Univ, 2) Dept of Otolaryngology, Mie Univ) : Induction of IL-10-producing regulatory T cells with TCR diversity by epitope-specific immunotherapy in pollinosis. *J Allergy Clin Immunol* 2009 ; 124 : 842-845.
 - 10) Yukawa K¹⁾, Hagiwara A¹⁾, Ogawa Y¹⁾, Nishiyama N¹⁾, Shimizu S¹⁾, Kawaguchi S¹⁾, Nakamura M¹⁾, Tomiyama S, Suzuki M¹⁾ (1) 東京医科大学耳鼻咽喉科) : Bilateral progressive hearing loss and vestibular dysfunction with inner ear antibodies. *Auris Nasus Larynx* 2009 ; 37 (2) : 223-228.
 - 11) Potter CP¹⁾, Warner OJ²⁾, Pawankar R (1) University of Cape Town, Cape Town, 2) Imperial College, London) : Recommendations for Competency in Allergy Training for Undergraduates Qualifying as Medical Practitioners. A Position Paper of the World Allergy Organization. *WAO Journal* 2009 ; 2 : 150-154.
 - 12) Okubo K, Nakashima M¹⁾, Miyake N²⁾, Komatsubara M²⁾, Okuda M (1) Hamamastu Institute of Clinical Pharmacology and Therapeutics, 2) GSK KK) : Comparison of fluticasone furoate and fluticasone propionate for the treatment of Japanese cedar pollinosis. *Allergy Asthma Proc* 2009 ; 30 : 84-94.
 - 13) Ogino S¹⁾, Nagakura T²⁾, Okubo K, Sato N³⁾, Takahashi M³⁾, Ishikawa T⁴⁾ (1) Dept of Human Health, Osaka Univ, 2) Yoga Allergy Clin, 3) Novartis Pharma, 4) Kumamoto Univ) : Re-treatment with omalizumab at one year interval for Japanese cedar pollen-induced seasonal allergic rhinitis is effective and well tolerated. *Int. Arch. Allergy Immunol* 2009 ; 149 : 239-245.
 - 14) Sasaki K¹⁾, Okamoto Y¹⁾, Yonekura S¹⁾, Okawa T¹⁾, Horiguchi S¹⁾, Chazono H¹⁾, Hisamitsu K¹⁾, Sakurai D¹⁾, Hanazawa T¹⁾, Okubo K (1) Dept of Otolaryngology, Chiba Univ) : Cedar and cypress pollinosis and allergic rhinitis : Quality of life effects of early intervention with leukotriene receptor antagonists. *Int. Arch. Allergy Immunol* 2009 ; 149 : 350-358.
 - 15) Gotoh M, Sashihara T¹⁾, Ikegami S¹⁾, Yamaji T¹⁾, Kino K¹⁾, Orii N¹⁾, Takemoto N¹⁾, Okubo K (1) Division of Research and Development, Meiji Dairies Corporation) : Efficacy of oral administration of a heat-killed

Lactobacillus gasseri OLL2809 on patients of Japanese cedar pollinosis with high Japanese-cedar pollen-specific IgE. *Biosci Biotechnol Biochem* 2009 ; 73 (9) : 1971-1977.

- 16) Takumi I, Gotoh M, Akimoto M : Neurological picture. A giant subcutaneous forehead abscess and epidural extension caused by frontal mucocele. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2009 ; 80 (9) : 996-997.
- 17) Bousquet J¹, Bachert C², Canonica WG³, Casale BT⁴, Cruz AA⁵, Lockey FR⁶, Zuberbier T⁷, Pawankar R (¹ INSERM, Montpellier, ² Ghent University, Ghent, ³ University of Genoa, ⁶ Univ of South Florida, Tampa, ⁷ CHARITE, Berlin) : Unmet needs in severe chronic upper airway disease (SCUAD). *J Allergy Clin Immunology* 2009 ; 124 (3) : 428-433.
- 18) Canonica GW¹, Bousquet J², Casale T³, Lockey FR⁴, Baena-Cagnani C⁵, Pawankar R (¹ University of Genoa, Italy, ² INSERM, Montpellier, ³ Creighton University, ⁴ University of South Florida, Tampa, ⁵ Catholic University, Cordoba) : Sub-Lingual Immunotherapy-WAO Position Paper 2009. *WAO Journal* 2009 ; 2 (11) : 233-281.
- 19) Pawankar R, Bunnag C¹, Chen Y², Fukuda T³, Kim Y⁴, Le TL⁵, O' hehir Re ER⁶, Ohta K⁷, Vichyanond P¹, Wang D⁸, Zhong N⁹, Khaltayev N^{1.0}, Bousquet J^{1.1} (¹ Mahidol University, Bangkok, ² Chen Yuzhi, Capital University, Beijing, ³ 独協医科大学 アレルギー内科, ⁴ Seoul University, Seoul, ⁵ Ho Chi Minh Hospital, Vietnam, ⁶ Monash University, Australia, ⁷ 帝京医科大学 呼吸器内科, ⁸ National Singapore University, Singapore, ⁹ WHO, ¹⁰ INSERM, Montpellier) : Allergic rhinitis and its impact on asthma update (ARIA 2008) the western and Asian-Pacific perspective. *Asian Pacific J Allergy Immunology* 2009 ; 27 (4) : 237-243.
- 20) Nonaka M, Ogihara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Kusama K, Pawankar R, Yagi T : Synergistic Induction of MIP-3 α /CCL20 Production by IL-17A and TNF- α in Nasal Polyp Fibroblasts. *WAO Journal* 2009 ; 2 : 218-223.
- 21) Canonica WG¹, Bousquet J², Casale T³, Lockey FR⁴, Baena-Cagnani EC⁵, Pawankar R, Potter P⁶ (¹ University of Genoa, ² INSERM Montpellier, ³ Creighton University, ⁴ University of South Florida, ⁵ Catholic Univ Cordoba, ⁶ University of Cape Town) : Sub-lingual immunotherapy : World Allergy Organization Position Paper 2009. *Allergy* 2009 ; 91 : 1-59.
- 22) Li L, Saigusa H¹, Nagayama H, Nakamura T, Aino I, Komachi T, Yamaguchi S (¹ 日本医科大学第二内科学) : A Case of Creutzfeldt-Jacob Disease with Bilateral Vocal Fold Abductor Paralysis. *Journal of Voice* 2009 ; 23 (5) : 635-638.
- 23) Sekine K¹, Ikezono T¹, Matsumura T², Shindo S¹, Watanabe A³, Li L¹, Pawankar R¹, Nishino T², Yagi T¹ (¹ Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ² Department of Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³ Department of Clinic Genetics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Expression of cochlin mRNA splice variants in the inner ear. *Audiology & neurotology* 2010 ; 15 (2) : 88-96.
- 24) Nonaka M, Sakanushi A, Kusama K, Ogihara N, Yagi T : One-Year Evaluation of Combined Treatment with a Intranasal Corticosteroid and Montelukast for Chronic Rhinosinusitis Associated with Asthma. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 21-28.
- 25) Okubo K, Uchida E¹, Nogami S² (¹ Second division of Pharmacology, Showa Univ, ² Janssen Pharma) : Levocabastine nasal spray significantly improves perennial allergic rhinitis : A single blind placebo-controlled study. *Auris Nasus Larynx* 2010 ; 37 : 436-442.
- 26) Ikezono T¹, Shindo S¹, Sekiguchi S², Morizane T³, Pawankar R¹, Watanabe A⁴, Miura M⁵, Yagi T¹ (¹ Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, ² R&D and Business Development Seg-

- ment, Mitsubishi Chemical Medience Corporation, ³⁾ Department of Medicine, Kanagawa Dental College, ⁴⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Clinical Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Hokuriku University, Kanazawa) : The Performance of Cochlin-Tomoprotein Detection Test in the Diagnosis of Perilymphatic Fistula. *Audiol Neurootol* 2010 ; 15 (3) : 168-174.
- 27) Hosokawa S¹⁾, Mizuta K¹⁾, Nakanishi H¹⁾, Hashimoto Y¹⁾, Arai M¹⁾, Mineta H¹⁾, Shindo S²⁾, Ikezono T²⁾ (¹⁾ Department of Otolaryngology, Hamamatsu University School of Medicine, ²⁾ Department of Otolaryngology, Nippon Medical School) : Ultrastructural Localization of Cochlin in the Rat Cochlear Duct. *Audiol Neurootol* 2010 ; 15 (4) : 247-253.
- 28) Ikezono T¹⁾, Sugizaki K¹⁾, Shindo S¹⁾, Sekiguchi S²⁾, Pawankar R¹⁾, Baba S¹⁾, Yagi T¹⁾ (¹⁾ Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, ²⁾ R&D and Business Development Segment, Mitsubishi Chemical Medience Corporation) : CTP (Cochlin-tomoprotein) detection in the profuse fluid leakage (gusher) from cochleostomy. *Acta Otolaryngol* 2010.
- 29) Nonaka M, Fukumoto A, Ogihara N, Sakanushi A, Pawankar R, Yagi T : Synergistic Induction of Thymic Stromal Lymphopoietin by TNF- α and Th2 Cytokine in Nasal Polyp Fibroblasts. *Am J Rhinol and Allergy* 2010 ; 24 (1) : 14-18.
- 30) Nonaka M, Ogihara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Kusama K, Pawankar R, Yagi T : Combined Stimulation with Poly (I : C) , TNF- α and Th2 Cytokines Induces TARC Production by Human Fibroblasts from the Nose, Bronchiole and Lung. *Int Arch Allergy Immunol* 2010 ; 152 : 327-341.
- 31) Nonaka M, Ogihara N, Fukumoto A, Sakanushi A, Kusama K, Pawankar R, Yagi T : Nasal Polyp Fibroblasts Produce MIP-3 α in Response to Toll-like Receptor Ligands and Cytokine Stimulation. *Rhinology* 2010 ; 48 : 41-46.
- 32) 湯田厚司¹⁾, 宮本由起子¹⁾, 萩原仁美¹⁾, 服部玲子¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 三重大学耳鼻科) : 小児スギ花粉症に対する抗原特異的舌下免疫療法. *アレルギー* 2009 ; 58 : 124-132.
- 33) 菅原一真¹⁾, 御厨剛史¹⁾, 橋本 誠¹⁾, 大久保公裕, 山下裕司¹⁾ (¹⁾ 山口大学耳鼻科) : プランルカスト水和物追加投与の花粉症に対する短期QOL改善効果. *アレルギー・免疫* 2009 ; 16 : 92-98.
- 34) 三枝英人 : 胃食道逆流による咽喉頭所見と症状. *日本重症心身障害学会雑誌* 2009 ; 34 (1) : 37-46.
- 35) 酒主敦子¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 島田健一¹⁾, 小津千佳¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 富山俊一¹⁾, 八木聰明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室) : 耳下腺良性腫瘍手術症例の検討. *耳喉頭頸* 2009 ; 81 (7) : 489-495.
- 36) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 粉川隆行, 愛野威一郎 : 茵陳五苓散が有効であった真性唾液分泌過多症. *耳喉頭頸* 2009 ; 81 (8) : 549-552.
- 37) 藤倉輝道, 宮崎 隆¹⁾, 小山 悟²⁾, 岡坂健司²⁾ (¹⁾ 東興薬品工業, ²⁾ こやま耳鼻咽喉科) : 鼻噴霧用ステロイド薬の鼻粘膜付着状態からみた問題点と粘膜付着型鼻過敏症治療剤スカイロンの有用性の検討. *耳鼻咽喉科展望* 2009 ; 52 (6) : 474-481.
- 38) 富山俊一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院耳鼻咽喉科) : 内耳自己免疫病42症例の短期予後. *Otol Jpn* 2009 ; 19 (5) : 666-671.
- 39) 富山俊一¹⁾ : 内耳自己免疫病 : 初期病状の多様性. *日耳鼻免疫アレルギー* 2009 ; 27 (4) : 305-311.
- 40) 村山貢司¹⁾, 馬場廣太郎²⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 気象業務支援センター, ²⁾ 独協医大) : スギ花粉症有病率の地域差について. *アレルギー* 2010 ; 59 (1) : 47-54.
- 41) 岡野光博¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 岡山大学耳鼻科) : 2009年におけるスギ花粉症に対する第2世代抗ヒスタミン薬による初期療法の有用性 : JRQLQ No1を用いたQOLの評価. *アレルギー・免疫* 2010 ; 17 (1) : 102-108.

- 42) 太田伸男¹⁾, 鈴木祐輔¹⁾, 後藤崇成¹⁾, 高橋裕一²⁾, 青柳 優¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾山形大学耳鼻科, ²⁾山形県衛生部): スギ花粉症患者のQOLと睡眠障害. アレルギー・免疫 2010; 17 (2): 250-257.
- 43) 新藤 晋, 池園哲郎: 外リンパ瘻: 特集 耳鼻咽喉・頭頸部画像アトラス 耳・側頭骨. JOHNS 2010; 26 (3): 330-331.
- 44) 奥田 稔, 今野昭義¹⁾, 馬場廣太郎²⁾, 大久保公裕, 竹中 洋³⁾, 浜田知久馬⁴⁾ (¹⁾南東北病院耳鼻科, ²⁾独協医大, ³⁾大阪医大, ⁴⁾東京理科大学): 鼻噴霧用ステロイド薬デキサメタゾンシベシル酸エステル (NS-126P) の通年性アレルギー性鼻炎における用法用量試験. 耳鼻臨床 2010; 補125 (4): 1-17.

(2) 総説:

- 1) Okubo K, Gotoh M: Sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis. Allergology International 2009; 58: 149-154.
- 2) 富山俊一¹⁾: 内耳自己免疫病: 診断と治療. 医学のあゆみ 2009; 231 (7): 223-228.
- 3) Verma A¹⁾, Krishna A¹⁾, Pawankar R (¹⁾Max Healthcare, India): Pencillin allergy and routine skin testing for antibiotics- An evidence based guideline. Max Healthcare J 2010; 1: 1-11.
- 4) 中溝宗永, 横島一彦: 前腕皮弁の採取法. 耳喉頭頸 2009; 81 (5): 21-25.
- 5) 後藤 稔: アレルギー性鼻炎の新ガイドラインから: 特異的免疫療法: ガイドライン記載上の問題点. アレルギーの臨床 2009; 29 (4): 27-30.
- 6) 後藤 稔: 痒みをめぐる最近の話題: アレルギー性鼻炎の鼻の痒みにおける神経ペプチドの関与について教えてください. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2009; 5 (1): 70-71.
- 7) 三枝英人: 披裂軟骨脱臼症. JOHNS 2009; 25 (4): 593-597.
- 8) 三枝英人: 頭頸部腫瘍術後嚥下障害. 耳喉頭頸 2009; 81 (4): 271-277.
- 9) 小泉康雄, 池園哲郎: 乗り物酔いの機序とその予防対策. 小児科 2009; 50 (5): 629-635.
- 10) 池園哲郎: 【訴えからみためまいの見分け方】外傷後のめまい. ENTONI 2009; 102: 53-59.
- 11) 池園哲郎: 【メニエール病を理解する】メニエール病と周辺疾患 急性低音障害型感音難聴. JOHNS 2009; 25 (6): 895-898.
- 12) 渡辺行雄¹⁾, 池園哲郎, 伊藤壽一, 柿木章伸, 肥塚 泉, 鈴木 衛, 高橋克昌, 工田昌也, 武田憲昭, 土井勝美, 山下裕司, 青木光広, 宇佐美真一, 高橋正紘, 長沼英明 (¹⁾富山大学 耳鼻咽喉科学): メニエール病診断基準. Equilibrium Research 2009; 68 (2): 103-106.
- 13) 野中 学: 好酸球性副鼻腔炎の保存的薬物治療. ENTONI (鈴木正志) 2009; 12-18.
- 14) 藤倉輝道: わが国におけるアレルギー性鼻炎有病率調査の現状. アレルギーの臨床 2009; 29 (7): 30-35.
- 15) 野中 学, 酒主教子, 草間 薫: 好酸球性副鼻腔炎の保存的薬物治療. ENTONI (鈴木正志) 2009; 12-18.
- 16) 三枝英人: 嚥下障害の検査: 嚥下機能検査. ENTONI 2009; 107: 93-101.
- 17) 横島一彦: 頭頸部癌の早期診断と機能温存治療. 都耳鼻会報 2009; (130): 47-51.
- 18) 後藤 稔: 花粉症の理想的治療法: 望まれる花粉症の初期療法. 臨床免疫・アレルギー 2009; 52 (6): 636-642.
- 19) 野中 学: 好酸球性副鼻腔炎・中耳炎. Johns 2009; 986-990.
- 20) 大久保公裕, 後藤 稔: 専門医のためのアレルギー学講座 アレルギー性鼻炎. アレルギー 2010; 59 (2): 75-81.
- 21) Pawankar R: 難治性鼻炎と重度慢性上気道疾患. Allergy From the Nose to the Lung 2010; 8 (1): 11-15.
- 22) 藤倉輝道: 抗ヒスタミン薬のエビデンス. アレルギーの臨床 2010; 30 (3): 23-27.

(3) 症例報告:

- 1) Sano K¹⁾, Yokoshima K, Nakamizo M, Ozeki S¹⁾, Kimura K¹⁾ (¹⁾獨協医科大学越谷病院整形外科): Massive Desmoid with Keloid of the Anterior Neck. 獨協医学会 2009; 36 (3): 149-152.

- 2) 横山有希子¹⁾, 横島一彦¹⁾, 中澤裕子¹⁾, 草間 薫¹⁾, 森 幸子¹⁾, 馬場俊吉¹⁾, 八木聰明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : トリクロール酢酸による化学焼灼を施行した梨状陥凹瘻の4例. 耳鼻咽喉科臨床 2009 ; 102 (5) : 365-371.
- 3) 小町太郎¹⁾, 三枝英人¹⁾, 中村 毅¹⁾, 山口 智¹⁾, 愛野威一郎¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 桃井貴裕¹⁾, 大久保公裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学) : 診断・治療に難渋した慢性咳嗽の1例. 呼吸と循環 2009 ; 57 (5) : 531-535.
- 4) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 三枝英人, 島田健一, 八木聰明 : Glosso-valleculo-epiglottectomyを施行した舌根進行癌の1症例. 耳喉頭頸 2009 ; 81 (9) : 594-596.
- 5) 富山俊一¹⁾ : 多様な聴力変化を呈した内耳自己免疫病症例. アレルギーの臨床 2009 ; 29 (14) : 59-65.

著 書

- 1) Watelet J, McGill IJ, Pawankar R, Church SD, Church KM : [分担] Allergic Rhinitis and Conjunctivitis : Update on Pathophysiology . Allergy Frontiers : Clinical Manifestations (Pawankar R, Holgate S and L. Rossenwasser), 2009 ; pp1-24, Springer.
- 2) Marshall J¹⁾, Brown GM¹⁾, Pawankar R (¹⁾ University of Alberta) : [分担] Mast Cell and Basophils : Interaction with IgE and Responses to Toll like Receptor Activators. Allergy Frontiers : Classification and Pathomechanisms (Pawankar R, Holgate S and L. Rossenwasser), 2009 ; pp113-134, Springer.
- 3) Sagara H, Pawankar R (¹⁾ 独協医科大学 アレルギー内科) : [分担] Investigative Bronchoprovocation and Bronchoscopy in Patients with Bronchial Asthma . Allergy Frontiers : Diagnosis and Health Economics (Pawankar R, Holgate S and L. Rossenwasser), 2009 ; pp127-139, Springer.
- 4) Pawankar R, Nonaka M, Masuno S, Kimura S : [分担] Current Concepts on the Pathomechanisms of Chronic Rhinosinusitis and Nasal Polyps. Nasal Polyposis (M. Onerci and B. J. Ferguson), 2010 ; pp1-24, Springer-Verlag.
- 5) Pawankar R : [分担] Classification and management of chronic rhinosinusitis : An update. Allergy Update (Pawankar R and Shah S), 2010 ; pp13-24, Med. Int.
- 6) Pawankar R : [分担] Probiotics in prevntion and treatment of allergic respiratory disease. Allergy Update (Bhagat S), 2010 ; pp11-18, Med. Int.
- 7) 馬場俊吉 : [分担] 耳鳴, 治療 患者さんの背景・病態で考える薬の選び方・使い方のエッセンス (監修 雨森正洋 大生定義), 2009 ; pp1348-1351, 南山堂.
- 8) 馬場俊吉 : [分担] 第103回 医師国家試験 問題解説書 (医師国家試験問題解説書編集委員会), 2009 ; 医学評論社.
- 9) 池園哲郎 : [分担] 外傷による恒常性の破綻と内耳障害. 日常臨床に役立つめまいと平衡障害 (内野善生 / 古屋信彦), 2009 ; pp123-130, 金原出版.
- 10) 三枝英人 : [分担] 咽喉頭逆流症. 小児耳鼻咽喉科診療指針 (日本小児耳鼻咽喉科学会), 2009 ; pp301-305, 金原出版.
- 11) 馬場俊吉 : [編著] 医師国家試験アプローチ' 10 19耳鼻咽喉科, 2009 ; 医学評論社.
- 12) 後藤 稔 : [分担] 耳鼻咽喉科領域Q. マスク, メガネ, 空気清浄機の効果のエビデンスはあるのか? Q. 減感作療法 (抗原特異的免疫療法) はどんな患者さんに勧めればよいのか? . EBMアレルギー疾患の治療 (秋山一雄, 池澤善郎, 岩田 力, 岡本美孝), 2009 ; pp263-270, 中外医学社.
- 13) 須崎春海, Pawankar R (¹⁾ 昭和大学医学部耳鼻咽喉科) : [自著] 慢性副鼻腔炎. 慢性副鼻腔炎の方のために, 2009 ; pp1-25, メヂカルジャーナル社.
- 14) 大久保公裕, 後藤 稔 : [共著] プライマリケアのための花粉症診療. プライマリケアのための花粉症診療 (大久保公裕), 2010 ; pp1-73, 医薬ジャーナル社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Pawankar R, Ozu C, Mori S, Nonaka M : Role of Mast cells in Allergic Airway Disease and Remodelling. 2009 Annual Meeting of the Korean Academy of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Seoul, Korea), 2009. 5.
- 2) Pawankar R : ARIA classification and recommendations in the management of Allergic rhinitis . Update on Allergy (Amman, Jordan), 2009. 6.
- 3) Pawankar R : Evidence-based management of Allergic Rhinitis. Allergy and Immunology Update (Kuwait), 2009. 6.
- 4) Pawankar R : Pathomechanisms of Allergic rhinitis and evidence based use of antihistamines the ARIA update. UAE Allergy Symposium (Sharjah, UAE), 2009. 6.
- 5) Pawankar R : WAO GLORIA Lecture on Allergic Rhinitis . Annual Congress of the Bangladesh Society of Allergy and Immunology (Dhaka, Bangladesh), 2009. 10.
- 6) Pawankar R : Mast cells in Adaptive and innate immunity. NCD Research Update (Pune, India), 2009. 10.
- 7) Pawankar R : What targets and biomarkers are important in the management of allergic rhinitis!?. Allergic Rhinitis MENA Symposium (Dubai, UAE), 2010. 2.
- 8) Pawankar R : Allergic rhinitis and Co-morbid asthma and the ARIA update 2008. 14th Asian Research Symposium i Rhinology (Ho Chi Minh, Vietnam), 2010. 3.
- 9) Pawankar R : Update on Co-morbidities of allergic rhinitis- asthma, conjunctivitis, rhinosinusitis, OME. 2010 Annual Congress Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2010. 3.
- 10) 後藤 稔：アレルギー性鼻炎治療の展望：抗ヒスタミン薬から舌下免疫療法まで。札幌アレルギー春季セミナー（札幌），2009. 4.
- 11) 野中 学：好酸球性副鼻腔炎：薬物療法の実際。岐阜県耳鼻咽喉科医会 岐阜地区耳鼻咽喉科研修会（岐阜県），2009. 5.
- 12) 三枝英人：嚥下障害の成り立ちとその対応を考える。北多摩北部地域リハビリテーション支援事業平成21年度第1回技能講習会（東京），2009. 7.
- 13) 横島一彦：頭頸部癌の早期診断と機能温存手術。東京都耳鼻咽喉科医会（東京），2009. 9.
- 14) 後藤 稔：スギ花粉症に対する抗ロイコトリエン薬のエビデンス。東葛ロイコトリエンフォーラム2009（柏），2009. 10.
- 15) 後藤 稔：アレルギー性鼻炎の治療と効果的な薬物選択。佐賀県耳鼻咽喉科集談会（第6回）（佐賀），2009. 10.
- 16) 後藤 稔：2010年花粉症治療戦略。三区合同内科医会（福岡），2009. 11.
- 17) 野中 学：気管支喘息を伴う慢性副鼻腔炎の薬物療法について。第29回青森県アレルギー懇話会（青森県），2009. 11.
- 18) 野中 学：喘息を伴う慢性副鼻腔炎の病態と治療。千葉県耳鼻咽喉科医会学術講演会（千葉県），2009. 11.
- 19) 野中 学：気管支喘息を伴う慢性副鼻腔炎の薬物療法について。第29回青森県アレルギー懇話会（青森県），2009. 11.
- 20) 三枝英人：ヒト舌の成り立ちを考える：嚥下障害，構音障害に対する新しい視点。第10回八王子言語聴覚士協会ネットワーク（東京），2009. 11.
- 21) 後藤 稔：スギ花粉症に対する特異的減感作療法。平成21年栃木耳鼻咽喉科アレルギー研究会（宇都宮），2009. 12.
- 22) 後藤 稔：スギ花粉症に対する抗ロイコトリエン薬のエビデンス。アレルギー性鼻炎フォーラム2010（東京），2010. 1.

- 23) 三枝英人：嚥下障害の成り立ち．北多摩耳鼻咽喉科医会学術講演会（東京），2010．1．
 - 24) 大久保公裕：花粉症診療のトピックス．埼玉喘息・アレルギー研究会（第35回）（埼玉），2010．2．
 - 25) 後藤 稔：花粉症治療の最前線．埼玉医科大学アレルギーフォーラム（第22回）（入間郡毛呂山町），2010．2．
 - 26) 後藤 稔：花粉症に対する抗ロイコトリエン薬のエビデンス．東海アレルギーフォーラム（第9回）（名古屋），2010．2．
 - 27) 後藤 稔：花粉症：診断の意義と適切な治療．アレルギー週間中央講演会（第16回）（東京），2010．2．
 - 28) 野中 学：喘息を伴う慢性副鼻腔炎について．栃木県アレルギー性鼻炎研究会（栃木県），2010．2．
 - 29) 野中 学：気管支喘息と慢性副鼻腔炎．東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会（東京都），2010．2．
 - 30) 三枝英人：ヒト舌の由来を考える．台東区耳鼻咽喉科医会学術講演会（東京），2010．2．
 - 31) 大久保公裕：フルチカゾンフランカルボン酸エステルの効果と検証．西関東アレルギーカンファレンス（第7回）（東京），2010．3．
 - 32) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のトピックス．日耳鼻山口県地方部会総会・学術講演会（第260回）（山口），2010．3．
 - 33) 後藤 稔：患者満足度に基づいた花粉症治療．北九州耳鼻咽喉科臨床懇話会（第252回）（北九州），2010．3．
 - 34) 三枝英人：ヒト舌の成り立ちを考える：嚥下障害，構音障害に対する新しい視点．第7回ババズ概念に基づく言語聴覚士のためのインフォメーションコース修了者研修会（東京），2010．3．
- (2) 招待講演：
- 1) 大久保公裕：花粉症治療のトピックス．関西耳鼻咽喉科アレルギー研究会（第60回）（大阪），2009．4．
 - 2) 後藤 稔：鼻アレルギー治療における最近の話題．長野県耳鼻咽喉科医会北信ブロック会（第173回）（長野），2009．7．
 - 3) 大久保公裕：舌下免疫療法について．豊島区医師会シンポジウム（第2回）（東京），2010．3．
 - 4) 大久保公裕：花粉症診療のトピックス．杉並区耳鼻咽喉科専門医会例会（東京），2010．3．
- (3) 教育講演：
- 1) Pawankar R：Basic Immunology of Allergic Disease & Chemical Mediators of Inflammation. WAO Emerging Societies Program and WAO Allergy Training School Hanoi (Hanoi, Vietnam), 2010. 3.
 - 2) Pawankar R：Pathomechanisms, Diagnosis and Management of Allergic Rhinitis. WAO Emerging Societies Program and WAO Allergy Training School Hanoi (Hanoi, Vietnam), 2010. 3.
 - 3) Pawankar R：Diagnosis of Allergic diseases：In vitro vs In vivo testing. WAO Emerging Societies Program and WAO Allergy Training School Hanoi (Hanoi, Vietnam), 2010. 3.
 - 4) 馬場俊吉：最近のめまい診断と治療．平成21年度薬友会生涯教育講座 第2回「めまい」（東京都港区），2009．6．
 - 5) 後藤 稔，大久保公裕：アレルギー疾患における労働生産性への影響-花粉症-（教育セミナー1アレルギー疾患における労働生産性への影響）．日本アレルギー学会秋季大会（第59回）（秋田），2009．10．
 - 6) 池園哲郎：情報技術（IT）の進歩と医療：インターネットの活用とその功罪．日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会（第23回）（仙台），2009．11．
 - 7) 三枝英人：鼻咽腔内視鏡の注意点と観察される各組織や見逃してはならない器質的疾患．東京都摂食・嚥下評価専門研修（東京），2009．11．
 - 8) 三枝英人：最新のリハビリテーション医療 嚥下障害．日本耳鼻咽喉科学会第23回専門医講習会（仙台），2009．11．
 - 9) 藤倉輝道：花粉症治療のコントローラーとリリーバー．朝霞地区医師会主催平成21年度日本医師会生涯教育講座（埼玉県），2010．2．
- (4) シンポジウム：
- 1) Pawankar R：Allergic rhinitis comorbidities：Otitis Media with effusion. 28th Congress of the European

- Academy of Allergy and Clinical Immunology (EAACI) (Warsaw, Poland), 2009. 6.
- 2) Pawankar R, Yokoyama Y, Nonaka M : Rhinitis Co-morbidities : Otitis Media with Effusion. 2009 Annual Congress of European Academy of Allergy and Clinical Immunology (Warsaw, Poland), 2009. 6.
 - 3) Pawankar R, Yamagishi S, Takizawa R, Mori S : Epithelial cell-immune cell interactions in allergic airway disease. 17th National Allergy and Immunology Congress of the Turkish Society of Allergology (Antalya, Turkey), 2009. 11.
 - 4) Pawankar R, Ozu C, Mori S, Nonaka M : Versatile Role of Mast cells in allergic airway disease. 17th National Allergy and Immunology Congress of the Turkish Society of Allergology (Antalya, Turkey), 2009. 11.
 - 5) Pawankar R : Co-morbidities of Allergic Rhinitis. 2009 Annual Congress of the American College of Allergy Asthma and Clinical Immunology (Miami, Florida), 2009. 11.
 - 6) Pawankar R : Novel immunomodulatory targets in allergic rhinitis. 17th National Allergy and Immunology Congress of the Turkish Society of Allergology (Antalya, Turkey), 2009. 11.
 - 7) Pawankar R, Takizawa R, Ozu C, Mori S : Mast cells : IgE-IgE receptor cascade in allergic airway inflammation. World Allergy Congress 2009 (Buenos Aires, Argentina), 2009. 12.
 - 8) Pawankar R, Mori S, Kimura S, Nonaka M : Bacteriology of Acute Rhinosinusitis. World Allergy Congress WAC 2009 (Buenos Aires, Argentina), 2009. 12.
 - 9) Pawankar R, Yamagishi S¹⁾, Ozu C, Kimura S : IgE and IgE-receptor in allergic airway inflammation. World Allergy Congress WAC 2009 (Buenos Aires, Argentina), 2009. 12.
 - 10) Pawankar R : Update on Co-morbidities of allergic rhinitis. 8th Annual Congress of Egyptian Society of Pediatric Allergy and Immunology (Cairo, Egypt), 2010. 2.
 - 11) Pawankar R : Mast cells-epithelial cells interaction in allergic inflammation. 8th Annual Congress of Egyptian Society of Pediatric Allergy and Immunology (Cairo, Egypt), 2010. 2.
 - 12) Pawankar R : Allergic Rhinitis from Pathomechanisms to evidence-based treatment : what do the ARIA guidelines say?. DHA Allergy Symposium (Dubai, UAE), 2010. 2.
 - 13) Pawankar R : Pathophysiology of Non- Allergic Rhinitis. 2010 Annual Meeting of the American Academy of Allergy asthma and Immunology (New Orleans, USA), 2010. 3.
 - 14) Pawankar R, Ozu C, Mori S, Kimura S, Nonaka M : Mast Cells-Epithelial cell interactions in Allergic Airway Disease. 14th Asian Research Symposium in Rhinology (Ho Chio Minh, Vietnam), 2010. 3.
 - 15) Pawankar R : Co-morbidities of Allergic Rhinitis- Conjunctivitis, Asthma and Sinusitis. WAO Symposium Hanoi (Hanoi, Vietnam), 2010. 3.
 - 16) Pawankar R : Revisiting the role of epithelial cell-effector cell interactions in allergic airway inflammation and remodelling. 2010 Annual Congress Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2010. 3.
 - 17) 後藤 穰, 大久保公裕 : 花粉症に対する舌下免疫療法について (アレルギーの免疫療法と抗体療法). 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第21回) (岐阜), 2009. 6.
 - 18) 藤倉輝道 : アレルギー性鼻炎におけるネブライザー治療の意義. 日本医用エアロゾル研究会 (33回) (東京), 2009. 9.
 - 19) 大久保公裕, 後藤 穰 : 舌下免疫療法-スギ花粉症に対して : (シンポジウム1アレルギー疾患の治療最前線と将来展望). 日本アレルギー学会秋季大会 (第59回) (秋田), 2009. 10.
 - 20) 池園哲郎 : 頭頸部外傷への対応 : 聴器外傷. 日本頭頸部外科学会 (第20回) (東京), 2010. 1.
 - 21) 横島一彦 : 下咽頭・喉頭全摘出術後の遊離空腸による下咽頭再建術. 頭頸部癌治療カンファレンス (第48回) (東京), 2010. 2.

(5) セミナー：

- 1) Pawankar R : Cells and Mediators in Pathophysiology of Non-Allergic Rhinitis. NARWOG Task Force. 2010 Annual Meeting of the American Academy of Allergy Asthma and Immunology (New Orleans, USA), 2010. 3.
- 2) 野中 学：喘息と副鼻腔炎. 第110回日本耳鼻咽喉科学会総会（東京都），2009. 5.
- 3) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎のトピックス（ランチョンセミナーII）. 日本小児耳鼻咽喉科学会（第4回）（名古屋），2009. 6.
- 4) 後藤 穰：鼻アレルギーの診断と治療. 日本アレルギー学会春季臨床大会（第21回）（岐阜），2009. 6.
- 5) 中溝宗永：頸部郭清術. 耳鼻咽喉科臨床学会（第71回）（旭川），2009. 7.
- 6) 大久保公裕：これから始める免疫療法と実際（臨床・研究にため技術・技能プラクティカルセミナー2）. 日本アレルギー学会秋季大会（第59回）（秋田），2009. 10.
- 7) 三枝英人：知っておこう！喉頭・気管の基礎知識. 第54回日本音声言語医学会総会・学術講演会（福島），2009. 10.
- 8) 門園 修：気道管理の前線に立ち並んで感じたこと，学んだこと，これから. 第54回日本音声言語医学会総会・学術講演会（福島），2009. 10.
- 9) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎の治療法評価と新たな治療戦略：新規鼻噴霧用ステロイド薬の可能性. 日本気管食道科学会総会学術講演会（第61回）（横浜），2009. 11.
- 10) 大久保公裕：花粉症のトピックス（ランチョンセミナー4：花粉症診療ガイドライン）. 角膜カンファレンス（第34回）日本角膜移植学会（第26回）（仙台），2010. 2.

(6) ワークショップ：

- 1) Pawankar R : Impact of Chronic Respiratory Disease on the community. WAO Emerging Societies Program and WAO Allergy Training School Hanoi (Hanoi, Vietnam), 2010. 3.
- 2) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎・花粉症の重症化の要因と対策（ワークショップ9アレルギー疾患重症化の要因と対策）. 日本アレルギー学会秋季大会（第59回）（秋田），2009. 10.
- 3) 三枝英人，酒主敦子，山口 智，中村 毅，小町太郎，粉川隆行，門園 修，中溝宗永，大久保公裕：極めて特異な反復性喉頭狭窄の1例. 第61回日本気管食道科学会総会・学術講演会（横浜），2009. 11.

(7) 一般講演：

- 1) Watanabe K, Yagi T : Severe inflammation of middle ear cavity caused by bacterial endotoxin induces apoptosis in the inner ear of guinea pigs. The 6th extraordinary symposium on recent advances in otitis media (6th) (Seoul, Korea), 2009. 5.
- 2) Watanabe K, Tomiyama S, Yagi T : Expression of nuclear-factor kappa B (NF-kB) in the hydropic cochlea of guinea pigs after the direct injection of antigen into the endolymphatic sac. Workshop of inner ear biology (46) (Utrecht, Netherlands), 2009. 9.
- 3) Soneja P¹⁾, Singh M¹⁾, Pawankar R (1) PGI, Chandigarh, India) : A Prospective cohort study on hygiene hypothesis in a selected Indian population reveals positive family history as the dominant predictive factor. 2009 Congress of the Indian College of Allergy Applied Immunology (Chandigarh, India), 2009. 10.
- 4) Okubo K, Gotoh M : Protective efficacy of pranlukast hydrate for Japanese cedar pollinosis. Congress of Asian Pacific Society of Respiratory (14) (Seoul), 2009. 11.
- 5) 馬場俊吉：緊急入院したためまい患者. 第8回千葉めまい・平衡障害研究会（千葉），2009. 4.
- 6) 中村 毅，三枝英人，小町太郎，山口 智：特異な経過を有する原因不明の癆痕状声帯の1例. 東日本音声外科研究会（第30回）（東京），2009. 4.
- 7) 三枝英人，山口 智，中村 毅，愛野威一郎，松岡智治：全身の異常運動にまで進展した舌突出症の1例. 第

- 18回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会（東京），2009. 4.
- 8) 横島一彦，中溝宗永，粉川隆行，稲井俊太，酒主敦子，八木聰明：能動喫煙歴のない喉頭癌症例の特徴．日本耳鼻咽喉科学会（第110回）（東京），2009. 5.
- 9) 新藤 晋，池園哲郎，関口沙登美¹⁾，菅原一真²⁾，桜井 努³⁾，二宮 洋³⁾，相馬啓子⁴⁾，八木聰明（¹⁾ 三菱化学メディエンス，²⁾ 山口大学 医学部 耳鼻咽喉科，³⁾ 群馬大学 医学部 耳鼻咽喉科，⁴⁾ 日本鋼管病院 耳鼻咽喉科）：生化学的外リンパ瘦診断法（CTP検出法）を用いた経外耳道的中耳外傷のマルチセンタースタディー．日本耳鼻咽喉科学会総会（第110回）（東京），2009. 5.
- 10) 池園哲郎，新藤 晋，八木聰明：癒着性中耳炎治療用のH型換気ドレインチューブの開発．日本耳鼻咽喉科学会（第110回）（東京），2009. 5.
- 11) 杉崎一樹，池園哲郎，関口沙登美¹⁾，新藤 晋，柿木章伸²⁾，椎葉恭子，関根久遠，松田 帆，八木聰明（¹⁾ 三菱化学メディエンス，²⁾ 東京大学 耳鼻咽喉科学）：外リンパ瘦脳脊髄液ガッシャー噴出液の生化学的解析．日本耳鼻咽喉科学会（第110回）（東京），2009. 5.
- 12) 新藤 晋，池園哲郎，関口沙登美¹⁾，菅原一真²⁾，櫻井 努³⁾，二宮 洋³⁾，相馬啓子⁴⁾，八木聰明（¹⁾ 三菱化学メディエンス，²⁾ 山口大学 医学部 耳鼻咽喉科，³⁾ 群馬大学 医学部 耳鼻咽喉科，⁴⁾ 日本鋼管病院 耳鼻咽喉科）：経外耳道的中耳外傷のマルチセンタースタディー．第110回日本耳鼻咽喉科学会（第110回）（東京），2009. 5.
- 13) 草間 薫，野中 学，酒主敦子，荻原 望，福元 晃，Pawankar R，八木聰明：血中好酸球の推移からみた好酸球性副鼻腔炎の予後について．第110回日本耳鼻咽喉科学会総会（東京都），2009. 5.
- 14) 藤倉輝道，小山 悟¹⁾，宮崎 隆²⁾（¹⁾ こやま耳鼻咽喉科アレルギー科，²⁾ 東興薬品工業株式会社）：鼻噴霧用ステロイド薬スカイロンの通年性アレルギー性鼻炎治療における使用経験．日本アレルギー学会春季臨床大会（第21回）（岐阜），2009. 6.
- 15) 藤倉輝道，小山 悟¹⁾，岡坂健司¹⁾，宮崎 隆²⁾（¹⁾ こやま耳鼻咽喉科アレルギー科，²⁾ 東興薬品工業株式会社）：鼻噴霧用ステロイド薬スカイロンの通年性アレルギー性鼻炎治療における使用経験．鼻アレルギー治療研究会（第14回）（東京），2009. 6.
- 16) 横島一彦，中溝宗永，粉川隆行，稲井俊太，酒主敦子，八木聰明：頭頸部癌手術後の合併症死の可能性．日本頭頸部癌学会（第33回）（札幌），2009. 6.
- 17) 稲井俊太¹⁾，中溝宗永¹⁾，横島一彦¹⁾，粉川隆行¹⁾，酒主敦子¹⁾，細矢 慶¹⁾，八木聰明¹⁾，川本雅司²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科，²⁾ 日本医科大学付属病院 病理部）：Post-radiation sarcomaと考えられた下咽頭多形性肉腫の1例．日本頭頸部癌学会（第33回）（札幌），2009. 6.
- 18) 大久保公裕，後藤 稔：花粉症に対する免疫得療法の現状2009．臨床アレルギー研究会（第63回）（東京），2009. 6.
- 19) 細矢 慶，中溝宗永，横島一彦，稲井俊太（¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科）：頸部転移巣を契機に発見された舌根粘表皮癌の1手術例．日本頭頸部癌学会（第33回）（北海道），2009. 6.
- 20) 門園 修，三枝英人，山口 智，中村 毅，小町太郎，粉川隆行：輪状咽頭筋に局限した限局性筋炎による嚥下障害の1例．第185回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会学術講演会（東京），2009. 7.
- 21) 小町太郎¹⁾，三枝英人¹⁾，中村 毅¹⁾，山口 智¹⁾，門園 修¹⁾（¹⁾ 日本医科大学耳鼻咽喉科学教室）：本態性音声振戦症に対する芍薬甘草湯の治療効果．日本耳鼻咽喉科漢方研究会（第25回）（東京），2009. 9.
- 22) 藤倉輝道，大久保公裕¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科）：携帯型ネブライザー機器Voyageを用いたスギ花粉症自宅治療の経験．日本アレルギー学会秋季学術大会（第59回）（秋田），2009. 10.
- 23) 中溝宗永，横島一彦，稲井俊太，酒主敦子，粉川隆行，三枝英人，八木聰明，栗林茂彦¹⁾，宮下次廣¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 放射線医学）：声門癌T1T2no治療成績．日本癌治療学会（第47回）（横浜），2009. 10.
- 24) 富山俊一：内耳自己免疫病の治療成績．日本耳科学会（東京），2009. 10.

- 25) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明: 喉頭癌の重部位と病期に与える喫煙量の影響. 日本癌治療学会 (第47回) (横浜), 2009. 10.
- 26) 奥田 稔, 大久保公裕, 後藤 穰: スギ花粉情報の花粉数分類の医学的検討. 日本アレルギー学会秋季大会 (第59回) (秋田), 2009. 10.
- 27) 大久保公裕, 廣井隆親¹⁾ (¹⁾ 東京都臨床医学総合研究所): 東京都における花粉症の舌下減感作療法の臨床研究. 日本アレルギー学会秋季大会 (第59回) (秋田), 2009. 10.
- 28) 太田伸男¹⁾, 鈴木祐輔¹⁾, 青柳 優¹⁾, 稲村和俊¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 山形大学耳鼻科): リアルタイムモニターの花粉尘数とスギ花粉症患者の眼鼻以外の症状. 日本アレルギー学会秋季大会 (第59回) (秋田), 2009. 10.
- 29) 鈴木祐輔¹⁾, 太田伸男¹⁾, 青柳 優¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 山形大学耳鼻科): リアルタイムモニターの花粉尘数とスギ花粉症患者の睡眠障害. 日本アレルギー学会秋季大会 (第59回) (秋田), 2009. 10.
- 30) 山中恵一¹⁾, 湯田厚司²⁾, 欠田成人¹⁾, 北川敬之¹⁾, 大久保公裕, 黒川一郎¹⁾, 水谷 仁¹⁾ (¹⁾ 三重大学皮膚科, ²⁾ 三重大学耳鼻科): 花粉症に対する免疫療法とIL-10産生抑制性T細胞の誘導. 日本アレルギー学会秋季大会 (第59回) (秋田), 2009. 10.
- 31) 橋口一弘¹⁾, 湯 懐鵬²⁾, 後藤 穰, 藤田俊雄¹⁾, 末松潔親¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 北里研究所耳鼻科, ²⁾ 新菱冷熱, ³⁾ 左門町クリニック): 花粉曝露室 (OHIO Chamber) での花粉曝露前後の肺機能の変化について. 日本鼻科学会 (第48回) (鳥根), 2009. 10.
- 32) 菅原一真¹⁾, 橋本 誠¹⁾, 御厨剛史¹⁾, 大久保公裕, 山下裕司¹⁾ (¹⁾ 山口大学耳鼻科): プランルカスト追加投与による短期QOL改善効果. 日本鼻科学会 (第48回) (鳥根), 2009. 10.
- 33) 後藤崇成¹⁾, 太田伸男¹⁾, 鈴木祐輔¹⁾, 高橋裕一²⁾, 青柳 優¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 山形大学耳鼻科, ²⁾ 山形県衛生部): リアルタイムモニターの花粉尘数とスギ花粉症患者の睡眠障害. 日本鼻科学会 (第48回) (鳥根), 2009. 10.
- 34) 久保伸夫¹⁾, 大久保公裕, 朝子幹也²⁾ (¹⁾ 大阪歯大耳鼻科, ²⁾ 関西医大耳鼻科): Rhinolightによるアレルギー性鼻炎に対する光線療法. 日本鼻科学会 (第48回) (鳥根), 2009. 10.
- 35) 松田 帆, 池園哲郎, 新藤 晋, 小泉康雄, 杉崎一樹, 八木聰明: 当科における真珠腫初回手術例の進展度. 日本耳科学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 36) 椎葉恭子, 新藤 晋, 池園哲郎, 関根久遠, 八木聰明: 生後ラット内耳におけるCOCH: 蛋白と遺伝子発現の比較. 日本耳科学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 37) 池園哲郎, 新藤 晋, 八木聰明: 癒着鼓膜の再癒着防止効果と換気機能も併せ持ったH型換気ドレーンチューブ-その使用方法と治療効果. 日本耳科学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 38) 中川尚志⁴⁾, 飯野ゆき子¹⁾, 松谷幸子²⁾, 松原 篤³⁾ (¹⁾ 福岡大学耳鼻咽喉科, ²⁾ 自治医科大学 さいたま医療センター耳鼻咽喉科, ³⁾ 仙台赤十字病院耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 弘前大学耳鼻咽喉科): 好酸球性中耳炎における聴力障害. 第54回日本聴覚医学会総会 (神奈川県), 2009. 10.
- 39) 荻原 望, 野中 学, 福元 晃, 酒主敦子, Pawankar R, 八木聰明: 種々の病原由来物質による気道線維芽細胞からのRANTES産生. 第48回日本鼻科学会総会 (鳥根県), 2009. 10.
- 40) 草間 薫, 野中 学, 酒主敦子, 荻原 望, Pawankar R: 喘息を合併する慢性副鼻腔炎に対するステロイド点鼻とモンテルカスト併用治療1年間の効果 (第2報). 第48回日本鼻科学会総会 (鳥根県), 2009. 10.
- 41) 渡邊健一, 稲井俊太, 八木聰明: 強大音負荷による血管条障害とNF- κ B-iNOS系の活性化. 日本耳科学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 42) 山口 智, 三枝英人, 粉川隆行, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 中溝宗永, 八木聰明: 上咽頭癌放射線治療後晩期障害による両側皮質製難聴の1例. 第54回日本音声言語医学会総会・学術講演会 (福島), 2009. 10.
- 43) 藤倉輝道, 大久保公裕¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 携帯型ジェット式ネブライザーを用いたスギ花粉症の自宅治療. 臨床アレルギー研究会 (第64回) (東京), 2009. 11.
- 44) 新藤 晋, 池園哲郎, 杉崎一樹, 松田 帆, 八木聰明: 迷路気腫4症例についての臨床的検討. 日本めまい平

- 衡医学会総会（第68回）（徳島市），2009. 11.
- 45) 大久保公裕：飛散花粉量とQOLとの関連性. 臨床アレルギー研究会（第64回）（東京），2009. 11.
- 46) 山口 智，三枝英人，粉川隆行，中村 毅，小町太郎，門園 修，中溝宗永：反回神経麻痺に輪状披裂関節固着を合併していた症例. 第61回日本気管食道科学会総会・学術講演会（横浜），2009. 11.
- 47) 小町太郎，三枝英人，山口 智，門園 修，粉川隆行，愛野威一郎：鼻咽腔の開放ならびに開閉調節機構について（第1報）：口蓋舌弓・筋，口蓋咽頭弓・筋の動態. 第61回日本気管食道科学会総会・学術講演会.（横浜），2009. 11.
- 48) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子，粉川隆行，山口 智，戸根裕子，八木聰明：肝硬変を併存する頭頸部癌症例への対応. 日本頭頸部外科学会（第20回）（東京），2010. 1.
- 49) 横山有希子¹⁾，横島一彦¹⁾，中溝宗永¹⁾，稲井俊太¹⁾，酒主敦子¹⁾，八木聰明¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）：巨大脂肪腫の1手術症例. 日本頭頸部外科学会（第20回）（東京），2010. 1.
- 50) 稲井俊太¹⁾，中溝宗永¹⁾，横島一彦¹⁾，粉川隆行¹⁾，酒主敦子¹⁾，八木聰明¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）：顎関節原発軟骨肉腫の1例. 日本頭頸部外科学会（第20回）（東京），2010. 1.
- 51) 藤倉輝道，下澤達雄¹⁾（¹⁾ 東京大学医学部付属病院検査部）：ヒスタミンと抗ヒスタミン薬によるヒト単球上ヒスタミンH1受容体およびロイコトリエンCysLT1受容体発現への影響. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（28）（福井），2010. 2.
- 52) 新藤 晋，池園哲郎，椎葉恭子，関根久遠，八木聰明：生後ラット内耳におけるCOCH：蛋白と遺伝子発現の比較. 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業 前庭機能異常に関する調査研究 平成21年度研究報告会（東京），2010. 2.
- 53) 新藤 晋，池園哲郎，杉崎一樹，松田 帆，八木聰明：迷路気腫4症例についての臨床的検討. 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業 前庭機能異常に関する調査研究 平成21年度研究報告会（東京），2010. 2.
- 54) 飯野ゆき子¹⁾，松谷幸子²⁾，松原 篤³⁾，中川尚志⁴⁾，野中 学（¹⁾ 自治医科大学 さいたま医療センター耳鼻咽喉科，²⁾ 仙台赤十字病院耳鼻咽喉科，³⁾ 弘前大学耳鼻咽喉科，⁴⁾ 福岡大学耳鼻咽喉科）：好酸球性中耳炎診断基準2009の検証. 第28回日本免疫アレルギー学会（福井県），2010. 2.
- 55) 三枝英人，中村 毅，小町太郎，山口 智，門園 修：精神神経薬剤性の嚥下障害について. 第33回日本嚥下医学会総会・学術講演会（久留米），2010. 2.
- 56) 門園 修，三枝英人，山口 智，小町太郎，竹見敏彦¹⁾，浦上祐司²⁾（¹⁾ 聖路加国際病院神経内科，²⁾ 北海道大学医学部附属病院リハビリテーション科）：慢性GVHDにより高度の嚥下障害を呈した1例. 第33回日本嚥下医学会総会・学術講演会（久留米），2010. 2.
- 57) 門園 修，三枝英人，山口 智，小町太郎，中村 毅，愛野威一郎¹⁾，松岡智治²⁾（¹⁾ あいの耳鼻咽喉科医院，²⁾ クリニック高島平）：延髄機能障害による嚥下障害・呼吸障害と考えられていた胃食道逆流による喉頭痙攣の1例. 日本医科大学付属四病院耳鼻咽喉科集談会（第80回）（東京），2010. 2.
- 58) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する免疫療法のエビデンス. 千駄木感染免疫アレルギー研究会（第20回）（東京），2010. 3.
- 59) 三枝英人，中村 毅，小町太郎，山口 智，粉川隆行，門園 修：若年女性例の一侧反回神経麻痺に対する自家甲状軟骨片を用いた甲状軟骨形成術（Sawashima法の応用）. 第22回日本喉頭科学会総会・学術講演会（下関），2010. 3.
- 60) 山口 智，三枝英人，粉川隆行，中村 毅，小町太郎，門園 修：喉頭挙上の左右差があることに起因する嚥下障害例に対する局所麻酔下での嚥下機能改善手術. 第22回日本喉頭科学会総会・学術講演会（下関），2010. 3.

15. 泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究概要

臨床研究

1. 従来開腹で行っていた手術の多くを腹腔鏡下で行っている。特に腹腔鏡下前立腺全摘除術は本邦で技術及び症例数でも最先端である。開腹術との比較検討や術後の尿失禁を予防するために術式の改良の検討を行っている。
2. 前立腺癌診断ではPSAおよびその関連parameterによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断、超音波パワードップラー法、超音波Fusion3D法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている。
3. 前立腺全摘除術から得られた前立腺の全割全埋標本を作製し、領域別癌の好発部位、進展形式を解析し見逃しの少ない生検法の開発など臨床応用している。
4. 局所進行前立腺癌に対しては術前ホルモン化学療法を行い根治手術の可能性を模索している。
5. 限局性前立腺癌に関しては低侵襲治療である密封小線源療法を2006年4月から施行している。
6. 浸潤性膀胱癌に対しては抗癌剤の動注療法や放射線医学講座の汲田教授との共同研究として「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている。温存の困難なものに関しては、小腸を用いた新膀胱を作成しQOL温存に心がけている。
7. 腎癌に関しては、PerfusionCTを駆使して腎癌の組織型の術前鑑別診断に応用しており、特に小径腎細胞癌に関しては腹腔鏡下腎部分切除術を行い腎機能温存を試みている。
8. 男性学にも力を入れており勃起機能検査、薬物療法、男性更年期に関する研究を行っている。

基礎研究

1. 癌の「低酸素応答因子」について泌尿生殖器腫瘍領域での先駆的研究。
2. 生体内微量金属結合蛋白メタロチオネインと抗癌剤耐性および腎機能保護の研究。
3. 麻酔科学講座坂本教授との共同研究として行っている「人工赤血球」の腎機能および男性性機能に及ぼす影響に関する研究。
4. 前立腺癌症例に関する血中浮遊癌細胞に関する研究。

以上 臨床基礎を幅広く研究している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hamasaki T, Kondo Y, Ogata Y, Yoshida K, Kimura G, Shimizu H, Nishimura T : Advanced carcinoma of the prostatic urethra in a patient with marked response to chemotherapy, leading to preservation of the bladder. International Journal of Clinical Oncology 2010 ; 15 (1) : 109-111.
- 2) Suzuki Y, Kondo Y, Hara S¹⁾, Kimata R, Nishimura T ^{(1) Department of Health Chemistry, School of Pharmaceutical Sciences, Showa University} : Effect of the hsp90 inhibitor geldanamycin on androgen response of prostate cancer under hypoxic conditions. International Journal of Urology 2010 ; 17 (3) : 281-285.

(2) 総説：

- 1) 木村 剛¹⁾ ^{(1) 日本医科大学付属病院泌尿器科} : 前立腺疾患の実地診療と最近の動向 前立腺疾患の検査—直腸診, PSA, 経直腸超音波検査. 日本医師会雑誌 2009 ; 138 : 255-260.

- 2) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：進行性腎癌に対する分子標的治療. 東京都医師会雑誌 2010；63：8-14.
 - 3) 濱崎 務¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：第7回泌尿器領域におけるトラブルシューティング：大静脈出血に対する備え. 泌尿器外科 2010；23：319-320.
- (3) 症例報告：
- 1) Hamasaki T¹⁾, Kondo Y¹⁾, Yoshida K¹⁾, Kimura G¹⁾, Shimizu H²⁾, Nishimura T¹⁾ (1) Department of Urology, Nippon Medical School, 2) Hasegawa Hospital)：Advanced carcinoma of the prostatic urethra in a patient with marked response to chemotherapy, leading to preservation of the bladder. Int Clin Oncol 2010；15：109-111.
 - 2) 遠藤勇気¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：両側精巣上体に発症した局所性結節性多発動脈炎の1例. 日本泌尿器科学会雑誌 2010；101 (3)：570-573.
 - 1) 江藤正俊¹⁾, 木村 剛²⁾, 富田善彦³⁾ (1) 熊本大学医学部泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 3) 山形大学医学部泌尿器科)：進行性腎癌に対するサイトカイン療法の有用性とその可能性. 診療と新薬 2010；47：3-8.

著 書

- 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：〔分担〕2. 腎がんに対する免疫療法・分子標的治療. 2) 免疫療法ってどんな治療？. 泌尿器ケア2009年冬期増刊号 (通巻163号) 泌尿器科のがん化学療法・薬物療法レジメン・副作用・ケア 完全ガイド (篠原信雄), 2009；pp38-49, メディカ出版.
- 2) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：〔分担〕D. 精巣腫瘍 1. 病期Iセミノーマに対するサーベイランスは標準になりうるか？. EBM泌尿器疾患の治療2009-2010 (後藤百万), 2009；pp194-201, 中外医学社.

学会発表

- (1) シンポジウム：
- 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：経直腸的超音波断層法の将来を考える- 診断からインターベンション・治療への応用へ：ドブラ下前立腺針生検の有用性と限界. 第82回日本超音波医学会 (東京), 2009. 5.
- (2) パネルディスカッション：
- 1) 木村 剛¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：転移性腎癌治療：現状と変化分子標的治療の時代における外科的治療の位置づけ：腎摘を中心として. 第44回日本癌治療学会総会 (横浜), 2009. 10.
- (3) 一般講演：
- 1) 木村 剛¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 富田祐司¹⁾, 齊藤友香¹⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：前立腺癌射精管浸潤の臨床病理学的検討. 第97回日本泌尿器科学会総会 (岡山), 2009. 4.
 - 2) 木全亮二¹⁾, 根本 勺¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 坪井成美¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科)：日本医科大学千葉北総病院における腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘術の周術期に関する検討. 日本泌尿器科学会総会 (第97回) (岡山), 2009. 4.
 - 3) 堀内和孝¹⁾, 萬谷嘉明²⁾, 近藤幸尋¹⁾ (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) 栗山中央病院泌尿器科)：ED患者におけるタダラフィル (シアリス) の有用性と安全性の検討. 第97回日本泌尿器科学会総会 (岡山), 2009. 4.
 - 4) 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝²⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科, 2) 日本医科大学泌尿器科)：過活動膀胱 (OAB) に対するイミダフェナシンならびに前立腺肥大症合併OABに対するイミダフェナシン・α1ブロッカ

- 一併用の有用性について．第97回日本泌尿器科学会総会（岡山），2009．4．
- 5) 近藤幸尋¹⁾，濱崎 務¹⁾，松沢一郎¹⁾，鈴木康友¹⁾，齋藤友香¹⁾，富田祐司¹⁾，藤原博通¹⁾，木村 剛¹⁾，吉田和弘¹⁾，西村泰司¹⁾（¹⁾日本医科大学泌尿器科）：腹腔鏡下前立腺全摘除術における膀胱頸部完全温存で癌制御は可能か．第97回日本泌尿器科学会総会（岡山），2009．4．
 - 6) 三浦剛史¹⁾，坪井成美¹⁾，根本 勺¹⁾，塩路 豪^{2,3)}，藤原博通⁴⁾，木全亮二¹⁾，齋藤友香²⁾，尾形吉彦²⁾，佐々木崇¹⁾，藤野綾子²⁾，小串聡子²⁾，林 達郎³⁾，近藤幸尋²⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院泌尿器科，²⁾日本医科大学泌尿器科，³⁾北村山公立病院泌尿器科，⁴⁾日本医科大学多摩永山病院泌尿器科）：腹腔鏡下前立腺摘除術における前立腺重量，骨盤形態，体格の手術時間への影響の検討．第97回日本泌尿器科学会総会（岡山），2009．4．
 - 7) 林 達郎，濱崎 務，鈴木健太，柳 雅人¹⁾，赤塚 純，遠藤勇氣，武田隼人，小串聡子，藤野綾子，尾形吉彦²⁾，富田祐司，齋藤友香，松澤一郎，鈴木康友，木村 剛，その他1名（¹⁾大田原赤十字病院泌尿器科，²⁾北村山公立病院泌尿器科）：術前診断において腎腫瘍と鑑別が困難であった動脈硬化性腎硬化症の1例．日本泌尿器科学会東京地方会（第598回）（東京），2009．6．
 - 8) 武田隼人¹⁾，濱崎 務¹⁾，近藤幸尋¹⁾，赤塚 純¹⁾，遠藤勇氣¹⁾，小串聡子¹⁾，佐々木崇¹⁾，藤野綾子¹⁾，高橋亮¹⁾，富田祐司¹⁾，齋藤友香¹⁾，松沢一郎¹⁾，鈴木康友¹⁾，細根 勝²⁾，木村 剛¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院泌尿器科，²⁾日本医科大学多摩永山病院病理部）：精索Myxoid Liposarcomaの1例．日本泌尿器科学会東京地方会（第599回）（東京），2009．7．
 - 9) 鈴木康友，齋藤友香，松沢一郎，濱崎 務，木村 剛，近藤幸尋：過活動膀胱を伴う男性下部尿路症状に対する α_1 -blocker先行投与後のソリフェナシンの有用性について．日本排尿機能学会（第16回）（福岡），2009．9．
 - 10) 富田祐司，遠藤勇氣，武田隼人，林 達郎，小串聡子，藤野綾子，高橋 亮，齋藤友香，松澤一郎，鈴木康友，濱崎 務，木村 剛，近藤幸尋：当院における淋菌性尿道炎の臨床的検討．日本泌尿器科学会東部総会（第74回）（長野県松本文化会館・松本市総合体育館），2009．10．
 - 11) 佐々木崇¹⁾，根本 勺²⁾，木全亮二²⁾，塩路 豪³⁾，藤原博通¹⁾，三浦剛史²⁾，坪井成美²⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 泌尿器科，²⁾日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科，³⁾北村山公立病院 泌尿器科）：経直腸的前立腺生検の安全性および検出率に対する麻酔法の影響．日本泌尿器科学会東部総会（第74回）（長野県），2009．10．
 - 12) 大澤秀一¹⁾，濱崎 務²⁾，木全亮二²⁾，林 達郎²⁾，近藤幸尋²⁾（¹⁾平成立石病院 泌尿器科，²⁾日本医科大学付属病院 泌尿器科）：ハイリスクの下部尿路障害患者に対する尿道ステント（メモカス）留置の有用性．日本泌尿器科学会東部総会（第74回）（長野県），2009．10．
 - 13) 柳 雅人¹⁾，西村泰司¹⁾，近藤幸尋²⁾，山崎恵一³⁾，西山 徹⁴⁾，石井健嗣⁵⁾，加藤弘毅⁶⁾，水沼仁孝⁶⁾（¹⁾大田原赤十字病院泌尿器科，²⁾日本医科大学付属病院泌尿器科，³⁾独立行政法人国立病院機構栃木病院，⁴⁾東京医療センター泌尿器科，⁵⁾日野市立病院泌尿器科，⁶⁾大田原赤十字病院放射線科）：地方医療における深在性腎損傷に対する経カテーテル的動脈塞栓術の役割．日本泌尿器科学会西日本総会（第61回）（香川県），2009．11．
 - 14) 木全亮二¹⁾，根本 勺¹⁾，三浦剛史¹⁾，佐々木崇¹⁾，赤塚 純¹⁾，遠藤勇氣¹⁾，坪井成美¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院泌尿器科）：完全および不完全鑄型結石に対しTUL単独にて治療可能であった3例の治療経験．E&E（第23回）（東京），2009．11．
 - 15) 松澤一郎¹⁾，濱崎 務¹⁾，高橋 亮¹⁾，尾形吉彦²⁾，鈴木康友¹⁾，近藤幸尋¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院泌尿器科，²⁾北村山公立病院泌尿器科）：腹腔鏡下前立腺全摘術の病理学的検討．日本E&E学会総会（第23回）（東京），2009．11．
 - 16) 小串聡子，鈴木康友，鈴木健太，赤塚 純，遠藤勇氣，林 達郎，藤野綾子，富田祐司，齋藤友香，木全亮二，松澤一郎，濱崎 務，木村 剛，近藤幸尋：異時性異組織型両側精巣腫瘍の1例．日本泌尿器科学会東京地方会（第600回記念）（東京），2009．12．

- 17) 木全亮二¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 根本 勺¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 坪井成美¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科) : 完全鑄型結石に対してTUL単独にて治療可能であった2例の治療経験. 千葉泌尿器科集団会 (第92回) (千葉), 2009. 12.
- 18) 武田隼人¹⁾, 根本 勺¹⁾, 赤塚 純¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 塩路 豪¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 坪井成美¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 当院で経験したinverted papilloma 10例の臨床検討. 千葉泌尿器科集団会 (第92回) (千葉), 2009. 12.
- 19) 鈴木健太, 近藤幸尋, 木村 剛, 濱崎 務, 鈴木康友, 松澤一郎, 木全亮二, 尾形吉彦¹⁾ (1) 北村山公立病院泌尿器科) : 膀胱尿路上皮癌 micropapillary. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第601回) (東京), 2010. 1.
- 20) 赤塚 純, 川本雅司¹⁾, 木村 剛, 河原崎由里子, 鈴木健太, 遠藤勇氣, 林 達郎, 小串聡子, 藤野綾子, 富田祐司, 齋藤友香, 木全亮二, 松澤一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, その他1名 (1) 日本医科大学 病理部) : 精巢上体原発の平滑筋肉腫の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第601回) (東京), 2010. 1.
- 1) 木全亮二¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科) : 浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存を目指すRadical TUR-Bt. 膀胱癌カンファレンス (東京), 2009. 9.
- 2) 木全亮二¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存療法 Intra-arterial chemotherapy Negative-balance Isolated Pelvic Perfusion (NIPP). 膀胱癌カンファレンス (東京), 2010. 3.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では現在, 尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石, 尿路感染症, 前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている. 特筆すべきものを以下に示す.

- 1) 前立腺癌に対しては生検正診率を向上させるために, 経直腸的多コア生検を導入し, 従来の6ヶ所生検との比較も行っている.
- 2) 経尿道的手術には電解質溶液下TURシステムを導入し, 膀胱腫瘍や前立腺肥大症で安全な手術成績を収めている.
- 3) 重篤合併症を有する下部尿路症状患者に対する永久留置型尿道ステントの有用性や尿路結石における尿管結石除去用カテーテルであるストーンコーンの有用性の検討も行っている.
- 4) 尿路感染症に対しては, ニューキノロン系抗菌剤の投与方法を変えながら急性単純性膀胱炎への有効性を検討している.
- 5) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して, 国際前立腺症状スコアや過活動膀胱症状スコアおよび尿流測定や残尿測定を実施し内服における治療効果を判定するとともに, メタボリック症候群との関連の有無も検討している.
- 6) その他, 稀な症例についてはcase reportとして報告に努めている.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Ishii H¹⁾, Ogaki K (1) Department of Pathology, Nippon Medical School, Musashi Kosugi Hospital) : Primitive neuroectodermal tumor of the kidney. Medical Molecular Morphology 2009 ; 42 (3) : 175-179.
- 2) 堀内和孝 : 加齢に伴う排尿障害. SCATE-21研究会誌 2009 ; (75) : 1-32.
- 3) 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝, 近藤幸尋²⁾ (1) 威風会栗山中央病院泌尿器科, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 経尿道的尿管結石破砕術 (TUL) におけるストーンコーンTMの臨床使用経験. Audio-Visual Journal of JUA

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 堀内和孝 : 加齢に伴う排尿障害. SCATE21 研究会 (東京), 2009. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) 堀内和孝, 萬谷嘉明¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院, ²⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : ED 患者に対するタダラフィル (シアリス) の有用性と安全性の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第97回) (岡山), 2009. 4.
- 2) 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝, 近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院, ²⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 過活動膀胱症状 (OAB) に対するイミダフェナシンならびに前立腺肥大症合併 OAB に対するイミダフェナシン・ α 1 ブロッカー併用の有用性について. 日本泌尿器科学会総会 (第97回) (岡山), 2009. 4.
- 3) 大垣憲司, 堀内和孝, 佐藤三洋, 岡 史篤, 引間規夫¹⁾, 近藤幸尋²⁾ (1) 三菱重工大倉山病院泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学泌尿器科) : 男性の下部尿路症状とメタボリック症候群との関係. 日本泌尿器科学会東部総会 (第74回), 2009. 10.
- 4) 佐藤三洋, 大垣憲司, 堀内和孝 : 外来患者の尿より分離された大腸菌耐性化の検討. 日本泌尿器科学会東部総会 (第74回), 2009. 10.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科は開設して21年になるが研究業績の主なもの次のようなものである。

前立腺肥大症 : 前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は, 1984年に開始して以来3000例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。最近切除を行わないで生食水を灌流液として使用し, 経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ, これを吸引摘出する経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開始した。この術式を用いたPSAの研究を続けている。

前立腺癌 : 平岡式経尿道的前立腺剥離切除術 (剥離TURP) は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして, 内腺を完全切除したあと, 外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した, これにより, 前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり, 外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。前立腺癌に対して全摘術と, 断端陽性例に対しては放射線外照射を行っている。

膀胱癌 : 進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をした。最近, 治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌 : 腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し, インターフェロンを動注し, 腫瘍壊死を起こさせる方法をとっている。3~6ヶ月後に腫瘍核出術, 腎部分切除術か, 腹腔鏡下腎摘出術を行っている。今までの研究では, 9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

副腎・腎腫瘍 : 副腎・腎腫瘍に対しては腹腔鏡下摘出術を行っている。

研究業績

著書

- 1) 西澤 理¹⁾, 鈴木康之²⁾, 天野俊康³⁾, 室田明子⁴⁾, 内田豊昭⁵⁾, 郷 秀人⁶⁾, 長久保一朗⁷⁾, 桑原勝孝⁷⁾, 大槻英男⁷⁾, 堀場優樹⁸⁾, 川原和也⁹⁾, 松田良一郎⁹⁾, 合谷信行¹⁰⁾, 平岡保紀, 高橋 悟, その他16名 (1) 信州大学大学院医学系研究科泌尿器科学, ²⁾ 東京慈恵会医科大学泌尿器科, ³⁾ 長野赤十字病院第二泌尿器科, ⁴⁾ 東海

大学医学部外科学系泌尿器科（現：帝京大学医学部附属溝口病院泌尿器科（非常勤）⁵⁾ 東海大学付属八王子病院泌尿器科⁶⁾ 新潟県済生会三条病院⁷⁾ 長久保病院⁸⁾ 化学療法研究所附属病院泌尿器科⁹⁾ 川原賢・泌尿器科クリニック¹⁰⁾ 東京女子医科大学泌尿器科）：〔分担〕Part1 前立腺肥大症に伴う排尿障害治療の現状をみる－近年の治療法からみる前立腺肥大症に伴う排尿障害の治療：『わたしはこうして治療している』－Q8：経尿道的前立腺剥離摘出術（TUDP）による治療を選択した症例と治療におけるポイントを教えてください。～泌尿器科医のための～前立腺肥大症に伴う排尿障害Q&A－排尿障害の現在と展望を知る－（西澤 理・武田正之/高橋 悟/後藤百万/大森 栄/西村かおる），2009；pp42-45，先端医学社。

2) 平岡保紀：〔分担〕E-11 前立腺肥大症. year note 2010別冊 Selected Articles 抜刷（三角和雄・医療情報科学研究所/岡庭豊），2009；pp901-911，MEDIC MEDIA.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大症に対する各種内視鏡手術術式と尿道狭窄の発生率. 日本泌尿器科学会総会（第97回）（岡山県），2009. 4.
- 2) 平岡保紀，岩本和矢，清水有二，藤原博通，佐々木崇：TURisの合併症 特に凝固による問題点. 多摩泌尿器科医会（第100回）（東京都），2009. 7.
- 3) 佐々木崇，根本 勺¹⁾，木全亮二¹⁾，塩路 豪²⁾，藤原博通，三浦剛史¹⁾，坪井成美¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科，²⁾ 北村山公立病院泌尿器科）：経直腸的前立腺生検の安全性および検出率に対する麻酔法の影響. 日本泌尿器科学会東部総会（第74回）（長野県松本市），2009. 10.
- 4) 富田祐司¹⁾，遠藤勇氣¹⁾，武田隼人¹⁾，林 達郎¹⁾，小串聡子¹⁾，藤野綾子¹⁾，高橋 亮¹⁾，斉藤友香¹⁾，松澤一郎¹⁾，鈴木康友¹⁾，濱崎 務¹⁾，木村 剛¹⁾，近藤幸尋¹⁾（¹⁾ 日本医科大学泌尿器科）：当科における淋菌性尿道炎の臨床的検討. 日本泌尿器科学会東部総会（第74回）（長野県松本市），2009. 10.
- 5) 平岡保紀，藤原博通，佐々木崇：TURis ボール型電極使用による尿道狭窄症高頻度発生率の特徴と問題点. 日本Endourology&ESWL学会総会（第23回）（東京都），2009. 11.
- 6) 松澤一郎¹⁾，濱崎 務¹⁾，高橋 亮¹⁾，尾形吉彦²⁾，鈴木康友¹⁾，近藤幸尋¹⁾（¹⁾ 日本医科大学泌尿器科，²⁾ 北村山公立病院泌尿器科）：Pathological statistics of laparoscopic radical Prostatectomy 腹腔鏡下前立腺全摘除術の病理学的統計. 日本Endourology&ESWL学会総会（第23回）（東京都），2009. 11.
- 7) 木全亮二¹⁾，三浦剛史¹⁾，根本 勺¹⁾，佐々木崇¹⁾，赤塚 純¹⁾，遠藤勇氣¹⁾，坪井成美¹⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科）：Treatment experience of 3 cases that were treatable for complete and incomplete staghorn stones in TUL single therapy. 完全および不完全鑄型結合に対してTUL単独にて治療可能であった3例の治療経験. 日本Endourology&ESWL学会総会（第23回）（東京都），2009. 11.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Murakami M²⁾，Akira S³⁾，Tsuboi N^{4,5)}，Ohki Y⁶⁾，Koike S¹⁾，Takeshita T³⁾，Hyakusoku H¹⁾（¹⁾ Department of Plastic Reconstructive and Regenerative Surgery, Nippon Medical School，²⁾ Department of Plastic Reconstructive and Regenerative Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital，³⁾ Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Nippon Medical School，⁴⁾ Department of

Urologic Surgery, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁶⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Microscope-assisted Reduction Clitoroplasty Used to Treat Two Patients with Clitoromegaly. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 35-39.

(2) 総説 :

- 1) 三浦剛史 : 特集 泌尿器科医に必要な痛緩和ケア 一般病院における痛緩和ケア : チーム医療の視点から. 臨床泌尿器科 2009 ; 63 (7) : 487-492.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 木全亮二, 根本 勺, 三浦剛史, 塩路 豪, 佐々木崇, 林 達郎, 坪井成美 : 日本医科大学千葉北総病院における腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘術の周術期および臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第97回), 2009. 4.
- 2) 三浦剛史, 坪井成美, 根本 勺, 塩路 豪, 藤原博通, 木全亮二, 斉藤友香, 尾形吉彦, 佐々木崇, 藤野綾子, 小串聡子, 林 達郎, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘術における前立腺重量, 骨盤形態, 体格の手術時間への影響の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第97回), 2009. 4.
- 3) 根本 勺, 立石敏樹¹⁾, 木全亮二, 三浦剛史, 坪井成美, 阿部裕行²⁾ (¹⁾ 国立病院機構函館病院 放射線科, ²⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科) : 前立腺癌内分泌療法におけるMRI拡散強調画像の有用性の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第97回), 2009. 4.
- 4) 遠藤勇氣¹⁾, 根本 勺¹⁾, 佐々木崇¹⁾, 木全亮二¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 坪井成美¹⁾, 阿部裕行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科, ²⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科) : 血液透析患者に発症した尿管狭窄による膿腎症の1例. 千葉泌尿器科集談会 (第91回) (千葉), 2009. 6.
- 5) 三浦剛史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科) : 顔の見える地域連携の試み : 印旛緩和ネットワークフォーラム : 活動報告と緩和ケアチーム活動への影響. 日本緩和医学学会学術大会 (第14回) (大阪), 2009. 6.
- 6) 遠藤勇氣, 根本 勺, 佐々木崇, 木全亮二, 三浦剛史, 坪井成美, 阿部裕行¹⁾ (¹⁾ 神栖済生会病院 泌尿器科) : 血液透析患者に発症した尿管狭窄による膿腎症の1例. 千葉泌尿器科集談会 (第91回) (千葉), 2009. 6.
- 7) 佐々木崇¹⁾, 根本 勺, 木全亮二, 塩路 豪, 藤原博通²⁾, 三浦剛史, 坪井成美 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 泌尿器科, ²⁾ 北村山公立病院 泌尿器科) : 経直腸の前立腺生検の安全性および検出率に対する麻酔法の影響. 日本泌尿器科学会東部総会 (第74回) (松本), 2009. 10.
- 8) 遠藤勇氣¹⁾, 根本 勺, 木全亮二, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 貝津俊英²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 放射線科) : 当院における前立腺癌に対するホルモン放射線療法の短中期的成績. 日本泌尿器科学会東部総会 (第74回) (松本), 2009. 10.
- 9) 木全亮二, 三浦剛史, 根本 勺, 佐々木崇, 赤塚 純, 遠藤勇氣, 坪井成美 : 完全および不完全鑄型結石に対してTUL単独にて治療可能であった3例の治療経験. 日本Endourology・ESWL学会総会 (第23回) (東京), 2009. 11.
- 10) 三浦剛史 : 緩和ケアと泌尿器症状. 平成21年度第6回船橋市立医療センター緩和ケア研修会 (船橋), 2009. 11.
- 11) 木全亮二, 三浦剛史, 根本 勺, 佐々木崇, 赤塚 純, 遠藤勇氣, 坪井成美 : 完全鑄型結石に対してTUL単独にて治療可能であった2例の治療経験. 千葉泌尿器科集談会 (第92回) (千葉), 2009. 12.
- 12) 武田隼人, 根本 勺, 塩路 豪, 赤塚 純, 遠藤勇氣, 三浦剛史, 坪井成美, 近藤幸尋¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 泌尿器科) : 当院で経験したInverted Papilloma 10例. 千葉泌尿器科集談会 (第92回) (千葉), 2009. 12.
- 13) 加地裕子¹⁾, 石川晃代¹⁾, 横川文江¹⁾, 小林京子¹⁾, 今井裕子¹⁾, 岸田浅美¹⁾, 藤間光行¹⁾, 木全亮二, 坪井成美 (¹⁾ 藤間病院総合検診システム) : 健診で発見された腎血管筋脂肪腫の追跡. 日本総合検診医学会 第38回大会 (東京), 2010. 1.
- 1) 坪井成美 : 前立腺がんについて. 第23回日本医科大学千葉北総病院タウン講座 (千葉), 2010. 2.

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

角膜一般分野では角膜酸化ストレスに関する研究が継続された。眼炎症/免疫分野では、基礎研究として「眼内炎症の自動制御機構の解析」において、制御性T細胞とGITRL, B7-H3, Galectin-9分子の機能解析で成果報告をした。また、自己免疫性強膜炎マウスモデルの作成および網膜色素変性症モデルマウスにおける羊膜由来神経前駆細胞を用いた網膜機能再生においても成果を報告した。臨床研究として本学における眼炎症疾患の臨床統計およびベージェット病ぶどう膜炎におけるインフリキシマブ投与の長期経過と課題について成果報告をした。ドライアイ関連では、疾患眼不快の前頭葉活性パターン解析が継続された。網膜障害分野では、網膜虚血-再灌流障害における水素ガス点眼の網膜神経保護効果を調べる実験が継続された。分子遺伝学分野では国立成育医療センターと共同で行っていた未熟児網膜症の遺伝子解析が完了し、2つの遺伝子異常が見いだされた。また、京都大学霊長類研究所との共同で、ほ乳類の涙液における脂質代謝の解析を行い、サルおよびヒトでの涙液におけるホスホリパーゼA2の分布と機能について検討した。また、 α -ジストログリカンに糖鎖を修飾する酵素であるPOMGnT1欠損マウスの網膜の解析により、この遺伝子異常により網膜でグリア障害が生じることを見いだした。抗VEGF療法関連の研究として、VEGFの受容体flt-1を発現するタイプ8のアデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターを作製し、加齢黄斑変性のモデルである脈絡膜新生血管モデルに対して血管新生抑制効果を検討したところ、非常に効率よく新生血管抑制効果のあることを見いだした。手術関連の研究として、手術前、術中、終了時の血圧、心拍数、および唾液中のアミラーゼ濃度を計測し、「手術に関連した癒し」について検討した。

研究業績

論文

(追加分)

追加分原著：

- 1) Igarashi T, Miyake K, Hayakawa J, Kawabata K, Ishizaki M, Takahashi H, Shimada T : Apoptotic cell death and regeneration in the newborn retina after irradiation prior to bone marrow transplantation. *Current eye research* 2007 ; 32 (6) : 543-553.
- 2) Suzuki H, Sato S, Murano N, Matsui H, Oharazawa H, Takahashi H : Morphological observations of rat corneal endothelial cells after exposure to ozonated solution. *Japanese Journal of Ophthalmology* 2009 ; 53 (2) : 151-158.

(1) 原著：

- 1) Fujimoto C, Klinman D, Shi G, Yin H, Vistica B, Lovaas J, Wawrousek E, Igarashi T, Chan C, Gery I : A suppressive oligodeoxynucleotide inhibits ocular inflammation. *Clinical and experimental immunology* 2009 ; 156 (3) : 528-534.
- 2) Hori J : Molecular mechanisms of immune-suppressive microenvironment in the cornea. *Cornea* 2009 ; 28 : 58-64.
- 3) Kikuchi S, Hori J, Tsukada R, Takahashi H, Kato T : Limbal nodules associated with Sweet's syndrome. *Japanese Journal of Ophthalmology* 2009 ; 53 (6) : 652-653.
- 4) Suzuki H, Oki K, Shiwa T, Oharazawa H, Takahashi H : Effect of bottle height on the corneal endothelium during phacoemulsification. *J Cataract Refract Surg* 2009 ; 35 (11) : 2014-2017.

- 5) Igarashi T, Yaguchi Y, Inage M, Suzuki H, Takahashi H : Topographical alteration in the cornea after photodynamic therapy for neovascularization in lipid keratopathy. *Japanese Journal of Ophthalmology* 2009 ; 53 (6) : 655-657.
 - 6) Oharazawa H, Igarashi T, Yokota T, Fujii H, Suzuki H, Machide M, Takahashi H, Ohta S, Ohsawa I : Rapid Diffusion of Hydrogen Protects the Retina : Administration to the Eye of Hydrogen-Containing Saline in Retinal Ischemia-Reperfusion Injury. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2010 ; 51 (1) : 487-492.
 - 7) 伊藤由紀子, 堀 純子, 塚田玲子, 河上花子, 高橋 浩 : 日本医科大学付属病院眼科における内眼炎患者の統計的観察. *臨床眼科* 2009 ; 63 (5) : 701-705.
 - 8) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 中溝宗泳, 小野真史, 石川 源, 森本泰介, 大野忠明, 高岡雅子, 竹原紀子, 田尻 孝 : 臨床実習前準備教育におけるシミュレーターを使用した効率的な臨床技能実習. *医学教育* 2009 ; 40 : 185-189.
 - 9) 塚田玲子, 堀 純子, 河上花子, 平岡美紀, 高橋 浩 : サルコイドーシス診断基準の改訂による診断確定者数の変化. *眼科臨床紀要* 2010 ; 3 (3) : 223-226.
- (2) 総説 :
- 1) 高橋 浩 : 特集・アレルギー性結膜疾患の基礎と臨床小児アレルギー性結膜疾患の特徴. *アレルギー・免疫* 2009 ; 16 (7) : 52-58.
 - 2) 高橋 浩 : 眼科領域, 特に白内障超音波乳化吸引術におけるヒアルロン酸製剤の役割. *グルコサミン研究* 2009 ; 5 : 11-17.
 - 3) 堀 純子 : Clinician-Scientistとしての女性医師の立場から. *文月会誌* 2010 ; 5 (1) : 20-23.
 - 4) 堀 純子 : テーマ「生物学的製剤による眼科薬物療法の新時代」抗TNF α 抗体製剤とベージェット病. *日本の眼科* 2010 ; 81 (2) : 166-170.

著 書

- 1) 堀 純子 : [分担] 感染症・免疫疾患 拒絶反応の治療のコツ. *眼科インストラクションコース19* (白神史雄・前田直之・谷原秀信・黒坂大次郎), 2009 ; pp130-133, 廣濟堂.
- 2) 高橋 浩 : [分担] 抗菌眼軟膏. *眼科プラクティス28* 眼感染症の謎を解く (田野保雄, 根木 昭, 坪田 一男, 大鹿 哲郎, 大橋 裕一), 2009 ; pp330-331, 文光堂.
- 3) 高橋 浩 : [分担] 臨床医の知るべき眼組織関連細胞生物学. *日本眼科学会専門医制度生涯教育講座総説合本*, 2009 ; pp159-170, 日本眼科学会.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) Hori J : Molecular mechanisms of immune privilege in corneal transplantation. *Gordon Research Conference (ventura (USA))*, 2009. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) 高橋 浩 : 知っておきたい角膜の基礎知識. *東京都眼科医会卒後研修研究会* (東京), 2009. 5.
- 2) 高橋 浩 : 第9回難儀な手術シリーズ. *千駄木眼科フォーラム (第10回)* (東京), 2009. 7.
- 3) 高橋 浩 : 目の痒みとドライアイ : ドライアイとは. *関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会 (第55回)* (東京), 2009. 9.
- 4) 堀 純子 : 眼炎症疾患へのアプローチ : 診断のコツと新治療の展望. *香川大学眼科研究会 (第69回)* (高松),

2009. 11.

- 5) 高橋 浩：角膜アップデート．西東京眼科フォーラム（第11回）（東京），2009. 11.
- 6) 高橋 浩：第10回難儀な手術シリーズ．千駄木眼科フォーラム（第11回）（東京），2009. 12.
- 7) 小野眞史：前頭葉賦活化測定による眼不快定量．日本光イメージング研究会（第12回）（大阪），2009. 12.
- 8) 堀 純子：強膜炎の診断と病態．Tokyo Ocular Inflammation Forum（東京），2010. 2.
- 9) 高橋 浩：角膜アップデート．沖縄眼科集談会（第101回）（沖縄），2010. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 小野眞史：ドライアイとは．ドライマウス研究会（第15回）（東京），2009. 5.
- 2) 小原澤英彰：はじめてのアレルギー性結膜疾患．Bay Ocular Club（第8回）（神奈川県），2009. 8.
- 3) 小野眞史：ドライアイとは．ドライマウス研究会（第16回）（東京），2009. 9.
- 4) 小野眞史：コーチング理論．日本助産師会東京都支部（東京），2009. 11.
- 5) 小野眞史：愁訴から考えるドライアイと眼瞼痙攣．北海道眼瞼痙攣シンポジウム（札幌），2009. 11.
- 6) 小野眞史：中高年の健康管理：職域におけるドライアイ．日本医科大学医師会産業医研修会（東京），2010. 2.

(3) シンポジウム：

- 1) Hori J：Role of T-regulatory cells in Corneal Allograft Survival. Asia Pacific Association of Ophthalmology (APAO) (Bali), 2009. 5.
- 2) Hori J：What you can learn from an academic experience across cultures and how it can change you. Diversity issue symposium：international research experiences across the culture. Association of Research for Vision and Ophthalmology (ARVO) (Fort Lauderdale (USA)), 2009. 5.
- 3) 堀 純子：角膜炎症の自動制御の分子機構（眼免疫調節機構の不思議）．日本眼科学会総会（第113回）（東京），2009. 4.
- 4) 堀 純子：強膜炎の病態と動物モデル（強膜炎のアップデート）．日本眼炎症学会（第43回）（大阪），2009. 7.
- 5) 加藤直子：円錐角膜の新しい手術．角膜カンファランス（第34回）（仙台），2010. 2.

(4) セミナー：

- 1) 鈴木久晴：角膜内皮への低侵襲手術．日本眼科学会総会（第113回）（東京），2009. 4.
- 2) 鈴木久晴：角膜内皮を守る！正常眼圧白内障手術の実際．日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会（第24回）（東京），2009. 6.
- 3) 小原澤英彰：網膜・硝子体手術における請求の問題点．神奈川県眼科医会 - 川崎地区健保懇話会（第3回）（神奈川県），2010. 2.
- 4) 小原澤英彰：眼科領域における基礎知識及び疾病治療．日本医科大学医療事務研究会（第70回）（神奈川県），2010. 2.

(5) 一般講演：

- 1) Suzuki H, Oki K, Shiwa T, Kunishige T, Inage M, Wakayama K, Takahashi H：Corneal endothelial damages are decreased with low bottle height phacoemulsification. ASCRS (USA), 2009. 4.
- 2) Hori J, Taniguchi H, Wang M, Akiba H, Yagita H：Protective role of ICOS/B7RP-1 pathway in acceptance of corneal allografts. ARVO (Fort Lauderdale (USA)), 2009. 5.
- 3) Kitahara Y, Kameya S, Taniguchi H, Nakayama S, Takahashi H, Hori J：Time course of c-waves recorded from retinal degeneration model mice (retinal degeneration 6). ARVO (Fort Lauderdale), 2009. 5.
- 4) Taniguchi H, Wang M, Kitahara Y, Nakajima A, Hori J：Infiltrating Cells in New Models of Anterior Scleritis Associated With Type II Collagen-Induced Arthritis. ARVO (Fort Lauderdale), 2009. 5.
- 5) Tomita M, Wang M, Taniguchi H, Takahashi H, Shimazaki J, Akiba H, Yagita H, Hori J：Tim-3/Gal-9 Pathway Is Necessary For Corneal Allograft Survival. ARVO (Fort Lauderdale), 2009. 5.

- 6) Taniguchi H, Wang M, Kitahara Y, Nakajima A, Hori J : New Models of Anterior Scleritis Associated With Type II Collagen-Induced Arthritis. Asia Pacific Association of Ophthalmology (APAO) (Bali), 2009. 5.
- 7) Hiraoka M, Takahashi H, Orimo H, Hiraoka M, Ogata T, Azuma N : “The association of genetic factors in retinopathy of prematurity”. American of Human Genetics, 59th Annual Meeting (USA), 2009. 10.
- 8) Oharazawa H, Igarashi T, Yokota T, Fujii H, Suzuki H, Machide M, Takahashi H, Ohta S, Ohsawa I : Rapid diffusion of hydrogen protects the retina : Administration to the eye of hydrogen-containing saline in retinal ischemia-reperfusion injury. OCC 2010 World Congr (Santa Barbara), 2010. 3.
- 9) Taniguchi H, Kitahara Y, Oshima M, Akiba H, Yagita H, Azuma M, Hori J : Role of B7-H3/TLT-2 Pathway on Corneal Allograft Survival. Gordon Research Conference (Ventura), 2010. 3.
- 10) Igarashi T, Miyake K, Masuda I, Takahashi H, Shimada T : Adeno-associated vector (type 8) mediated expression of flt-1 efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. Japan society of gene therapy (15th) (大阪), 2009. 7.
- 11) 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 北原由紀, 大島正道, 秋葉久弥, 八木田秀雄 : 角膜アログラフトの生着に ICOS/B7RP-1 シグナルは必要である. 日本眼科学会総会 (第113回) (東京), 2009. 4.
- 12) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 高橋 浩, 中島敦夫 : 前部強膜炎のマウスモデルにおける免疫学的解析. 日本眼科学会総会 (第113回) (東京), 2009. 4.
- 13) 若山久仁子, 堀 純子, 塚田玲子, 伊藤由紀子, 高橋 浩 : 強膜炎の臨床像と全身性随伴所見に関する統計的観察. 日本眼炎症学会 (第43回) (大阪), 2009. 4.
- 14) 五十嵐勉, 三宅弘一, 増田郁也, 島田 隆, 高橋 浩 : AAVベクター (8型) による脈絡膜新生血管に対する遺伝子治療. 日本眼科学会総会 (第113回) (東京), 2009. 4.
- 15) 鈴木久晴, 大木孝太郎, 沖永昌悟, 國重智之, 若山久仁子, 志和利彦, 高橋 浩 : 糖尿病患者の白内障手術における角膜内皮障害. 日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会 (第24回) (東京), 2009. 6.
- 16) 伊藤由紀子, 堀 純子, 高橋 浩 : アレキサンドライトレーザーによる眉毛脱毛後に生じた外傷性虹彩炎の1例. 日本眼炎症学会 (第43回) (大阪), 2009. 7.
- 17) 倉井年幸, 小原澤英彰 : 漿液性網膜剥離を発症した1例. 千駄木フォーラム (第10回) (東京), 2009. 7.
- 18) 小野真史 : コーチング演習が受講者のコミュニケーションに及ぼす影響の変化 : ソーシャルスキルと他者評価に焦点を当てて. 日本看護管理学会年次大会 (第13回) (浜松), 2009. 8.
- 19) 加藤直子, 戸田郁子²⁾, 酒井誓子²⁾, 福本光樹²⁾, 井手 武²⁾, 川北哲也¹⁾, 根岸一乃¹⁾, 坪田一男¹⁾ (1) 慶應大学, ²⁾ 南青山アイクリニック) : 円錐角膜への伝導性角膜形成術とクロスリンキングの併用療法 (KCK + CXL). 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 20) 片上千加子¹⁾, 高村悦子²⁾, 篠崎和美²⁾, 神野早苗³⁾, 加藤直子, 外園千恵⁴⁾, 佐々木香る⁵⁾ (1) 神戸海星病院, ²⁾ 女子医大, ³⁾ 兵庫医大, ⁴⁾ 京都府医大, ⁵⁾ 出田眼科病院) : やさしい角結膜感染症クリニック : 正確な初期診断と適切な治療. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 21) 山崎芳夫¹⁾, 富田剛司²⁾, 南野麻美, 中野 匡³⁾, 吉川啓司⁴⁾, 藤本尚也⁵⁾ (1) 日本大学, ²⁾ 東邦大・大橋, ³⁾ 東京慈恵医大, ⁴⁾ 吉川眼科クリニック, ⁵⁾ 井上記念病院) : スタートアップ 緑内障乳頭を診るチョット自信が! . 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 22) 沖永昌悟, 鈴木久晴, 大木孝太郎¹⁾, 志和利彦, 高橋 浩 (1) 大木眼科) : 白内障手術における角膜サイドポートのハイドレーションによる角膜厚変化の検討. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 23) 國重智之, 堀 純子, 高橋 浩 : 気管支喘息重責発作後の皮膚盲の1例. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 24) 塚田玲子, 堀 純子, 平岡美紀, 高橋 浩 : Inflixmab が著効した難治性結節性強膜炎の1例. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.

- 25) 伊藤由紀子, 堀 純子, 高橋 浩: 関節リウマチに随伴した網膜血管炎にインフリキシマブが著効した1例. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 26) 平岡美紀, 塚田玲子, 伊藤由紀子, 高橋 浩, 平岡美依奈¹⁾, 緒方 勤²⁾, 東 範行²⁾ (¹⁾ 小金井眼科クリニック, ²⁾ 国立成育医療センター・小児思春期発育): 重症未熟児網膜症における Wnt シグナル伝達系の関与. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 27) 鈴木久晴, 大木孝太郎¹⁾, 志和利彦, 高橋 浩 (¹⁾ 大木眼科): 白内障手術後の角膜厚測定における Pentacam の有用性. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 28) 若山久仁子, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩: Fahr 病に合併した難治性網膜剥離を生じた1例. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 29) 小野真史, 五十嵐勉, 鈴木久晴, 高橋 浩: ソフトコンタクトレンズ装用者の上眼瞼結膜局所麻酔による眼不快感変化. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 30) Hori J, Taniguchi H, Azuma M, Akiba H, Yagita H, Abe R: 角膜移植の生着における ICOS/B7RP-1 シグナルの役割. Protective role of ICOS/B7RP-1 pathway in acceptance of corneal allografts. 日本免疫学会総会学術集会 (第39回) (大阪), 2009. 12.
- 31) 平岡美紀, 高橋 浩, 黒田呈子, 高田昌彦, 岡本 研: Lysosomal phospholipase A2 in eye. 日本分子生物学会年会 (第32回) (横浜), 2009. 12.
- 32) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩: 染色した粘弾性物質の CCC マーカーとしての試用. 日本眼科手術学会 (第33回) (東京), 2010. 1.
- 33) 加藤直子, 榛村重人¹⁾, 川北哲也¹⁾, 宮下英之¹⁾, 吉田 悟¹⁾, 坪田一男¹⁾ (¹⁾ 慶應大学): 紫外線暴露による角膜上皮細胞での上皮間葉系移行における p38 の活性化. 角膜カンファランス (第34回) (仙台), 2010. 2.
- 34) 若山久仁子, 國重智之, 鈴木久晴, 五十嵐勉, 高橋 浩: DSAEK 後に移植片が虹彩に固着した1例. 角膜カンファランス (第34回) (仙台), 2010. 2.
- 35) 小野真史, 五十嵐勉, 鈴木久晴, 高橋 浩: 近赤外線分光法による照度変化の眼不快に与える影響の測定. 角膜カンファランス (第34回) (仙台), 2010. 2.

[千葉北総病院眼科]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kikuchi S, Hori J, Tsukada R, Takahashi H, Kato T¹⁾: Limbal nodules associated with Sweet's syndrome. Japanese Journal of Ophthalmology 2009; 53 (6): 652-653.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 高橋永幸, 亀谷修平, 青木吉嗣¹⁾, 山木邦比古, 武田伸一¹⁾, 高橋 浩 (¹⁾ 国立精神・神経センター神経研究所): mdx52マウスの網膜における Dystrophin 関連蛋白質の発現解析. 日本眼科学会総会 (第113回) (東京), 2009. 4.
- 2) 高橋永幸, 亀谷修平, 山木邦比古, 高橋利幸¹⁾, 志和利彦, 高橋 浩 (¹⁾ 米沢病院神経内科): 血中クレアチンキナーゼの異常高値を伴った視神経脊髄炎の2例. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.
- 3) 後藤陽子, 山木邦比古, 亀谷修平, 高橋永幸, 菊地佐知子, 高橋 浩: 脈絡膜骨腫による漿液性網膜剥離に対し PDT 治療とベバシズマブ投与を行った症例. 日本臨床眼科学会 (第63回) (福岡), 2009. 10.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本年度も本教室のメインテーマとしての全身麻酔の機序解明, 重症患者管理と生体侵襲防御, 神経因性疼痛解明と頑痛対策につき種々の臨床および基礎的研究が行われた。また, 人工呼吸管理, 術後疼痛管理, 緩和ケア, ペインクリニック等多くのテーマについても幅広く研究が行われた。以下に主な内容を示す。

基礎研究: マイクロアレイ, realtime RT-PCR, 細胞培養装置, パッチクランプ, 心血管灌流装置等を用いて, 1) 麻酔による体内遺伝子発現への影響, 2) 麻酔とプロテオミクス, 3) 麻酔とメタボロミクス, 4) 呼吸中枢と痙攣閾値の関連, 5) 頸動脈小体活動機序, 6) ショックにおける人工酸素運搬体の効果, 7) 神経因性疼痛に及ぼすECTの効果等。臨床研究: 臨床麻酔, 外科系集中治療, ペインクリニック, 緩和医療領域において, 1) 周術期 β 遮断薬の効果, 2) 周術期心イベントの発生要因, 3) 新たな輸液製剤の臨床的效果, 4) 外科侵襲による生体反応, 5) 非侵襲的人工呼吸管理, 6) 新たな疼痛管理法等。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 竹田晋浩, 野口裕幸¹⁾ (1) ME部): 肺保護戦略の実際. *Inspiration* 2009 2009; 6: 1-4.
- 2) 中西一浩: パルスCOオキシメトリによる非侵襲的ヘモグロビン (SpHb) 測定と周術期貧血. SpHbモニターは周術期患者管理を変えるか?. *臨床麻酔* 2009; 33 (3): 504-513.

(1) 原著:

- 1) Yokoyama K¹⁾, Suzuki M¹⁾, Shimada Y¹⁾, Matsushima T²⁾, Bitoh H¹⁾, Sakamoto A (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 麻酔科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科): Effect of administration of pre-warmed intravenous fluids on the frequency of hypothermia following spinal anesthesia for Cesarean delivery. *J Clin Anesth* 2009; 21 (4): 242-248.
- 2) Yamanashi Y, Mori M, Terajima K, Tsueshita T, Horiuchi H¹⁾, Sakai H²⁾, Sakamoto A (1) 慶應義塾大学医学部外科学 (呼吸器外科), 2) 早稲田大学 理工学術院 理工学研究所): A transient inflammatory reaction in the lung after experimental hemorrhagic shock and resuscitation with a hemoglobin-vesicles solution compared with RBC transfusion. *ASAIO J* 2009; 55 (5): 478-483.
- 3) Okabe T, Takeda S, Akada S, Hongo T, Sakamoto A: Postoperative intensive care unit drug fever caused by dexmedetomidine. *Anesthesia & Analgesia* 2009; 108 (5): 1589-1591.
- 4) Yoshida Y, Nakazato K, Takemori K, Kobayashi K, Sakamoto A: The influences of propofol and dexmedetomidine on circadian gene expression in rat brain. *Brain Res Bull* 2009; 79 (6): 441-444.
- 5) Mitchell V^{1, 2)}, Kawahara H^{1, 2)}, Vaughan C^{1, 2)} (1) Pain Management Research Institut, Kolling Institute of Medical Research, Northern Clinical School, University of Sydney at Royal North Shore Hospital, 2) St Leonards, NSW, Australia): Neurotensin inhibition of GABAergic transmission via mGluR-induced endocannabinoid signalling in rat periaqueductal grey. *The Journal of Physiology* 2009; 11 (587): 2511-2520.
- 6) Ota R, Kurihara C¹⁾, Tsou T¹⁾, Young W¹⁾, Chang M^{2, 3)}, Mobashey S^{2, 3)}, Sakamoto A, Hashimoto T¹⁾

(¹) Center for Cerebrovascular Research, University of California, San Francisco, California, USA, (²) Department of Chemistry and Biochemistry, University of Notre Dame, Notre Dame, Indiana, USA, (³) Walther Cancer Research Center, University of Notre Dame, Notre Dame, Indiana, USA) : Roles of matrix metalloproteinases in flow-induced outward vascular remodeling. *J Cereb Blood Flow Metab* 2009 ; 29 (9) : 1547-1558.

- 7) Okabe T, Sato C, Matsumoto K¹, Ozawa H¹, Sakamoto A (¹ 日本医科大学解剖学 (生体構造学)) : Electroconvulsive stimulation (ECS) increases the expression of neuropeptide Y in rat brains in a model of neuropathic pain. *Pain Med* 2009 ; 10 (8) : 1460-1467.
- 8) Furuichi M, Yokozuka M, Takemori K, Yamanashi Y, Sakamoto A : The reciprocal relationship between heme oxygenase and nitric oxide synthase in the organs of lipopolysaccharide-treated rodents. *Pain Med* 2009 ; 10 (8) : 1460-1467.
- 9) Okabe T¹, Sato C¹, Matsumoto K², Ozawa H², Sakamoto A¹ (¹ Departments of Anesthesiology, Nippon Medical School, ² Departments of Anatomy, Nippon Medical School) : Electroconvulsive stimulation (ECS) increases the expression of neuropeptide Y (NPY) in rat brains in a model of neuropathic pain : a quantitative real-time polymerase chain reaction (RT-PCR) study. *Pain Medicine* 2009 ; 10 (8) : 1460-1467.

(2) 総説 :

- 1) 坪光祥晃, 竹田晋浩 : 術後呼吸不全に対するNPPV特集noninvasive positive pressure ventilation人工呼吸. *日本呼吸療法医学会誌* 2009 ; 26 (1) : 34-36.
- 2) 竹田晋浩, 原田恭子¹, 佐藤愛子¹ (¹ 看護部) : 非侵襲的陽圧換気療法 (Noninvasive Positive Pressure Ventilation). *スマートナース* 2009 ; 11 (6) : 36-37.
- 3) 竹田晋浩 : 外科手術後, 不穏状態が続く患者にセレネースおよびドルミカムを連続投与下直後に患者が心停止により死亡した事例. *医療判例解説* 2009 ; (23) : 2-24.
- 4) 瀬戸利昌¹, 竹田晋浩 (¹ 集中治療室) : NPPV. 呼吸サポートチームのための呼吸管理セーフティハンドブック呼吸器ケア冬季増刊 2009 ; 218-223.
- 5) 竹田晋浩 : Critical careにおけるNPPV. 呼吸と循環 2010 ; 58 (2) : 213-216.

(3) 研究報告書 :

- 1) 竹田晋浩 : 急性心不全 (心原性肺水腫) に対するNPPV特集noninvasive positive pressure ventilation人工呼吸. *日本呼吸療法医学会誌* 2009 ; 26 (1) : 28-33.

(4) 症例報告 :

- 1) Okabe T, Takeda S, Akada S, Hongo T, Sakamoto A (¹ Department of Anesthesiology and Intensive Care Medicine, Nippon Medical School) : Postoperative intensive care unit drug fever caused by dexmedetomidine. *Anesthesia & Analgesia* 2009 ; 108 (5) : 1589-1591.
- 2) Okabe T, Takeda S, Akada S, Hongo T, Sakamoto A (¹ Department of Anesthesiology and Intensive Care Medicine, Nippon Medical School) : Postoperative intensive care unit drug fever caused by dexmedetomidine. *Anesthesia & Analgesia* 2009 ; 108 (5) : 1589-1591.
- 3) Kato K¹, Sato N¹, Takeda S, Yamamoto T¹, Munakata R¹, Tsurumi M¹, Suzuki D¹, Yagi K¹, Tanaka K¹, Mizuno K² (¹ 集中治療室, ² 付属病院第一内科) : Marked improvement of extensive atelectasis by unilateral application of the RTX respirator in elderly patients. *Intern Med* 2009 ; 48 (16) : 1589-1591.
- 4) 篁 武郎 (¹ 北村山公立病院 麻酔科) : 昇陥湯で治療した瀉下薬による大気下陥の1症例. *日本東洋医学雑誌* 2009 ; 60 (5) : 533-537.

著 書

- 1) 金 徹：〔分担〕緊急手術の麻酔（特集「麻酔の現況と展望：研修医と指導医のための質問317」）．麻酔科学レクチャー（『麻酔科学レクチャー』編集委員会），2009；pp230-233，総合医学社．
- 2) 竹田晋浩，三井誠司：〔分担〕術後NPPV．麻酔のテクニック．最新の機材と技術．麻酔科学レクチャー（編集：佐藤哲文），2009；pp511-516，総合医学社．
- 3) 竹田晋浩：〔分担〕ARDSとDIC．DIC診療ハンドブック（丸山征郎），2009；pp72-77，メディカルレビュー社．
- 4) 竹田晋浩：〔分担〕集中治療CCU．経静脈治療オーダーマニュアル'2010版（小川 龍，島崎修次，飯野靖彦，五十嵐隆，福島亮治 編），2010；pp437-440，メディカルレビュー社．

学会発表

〔追加分〕

追加分ワークショップ：

- 1) 坪光祥晃¹⁾，竹田晋浩²⁾，本郷 卓²⁾，三井誠司²⁾，田中啓治³⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾日本医科大学 麻酔科学，²⁾日本医科大学 麻酔科学・付属病院 集中治療室，³⁾日本医科大学付属病院 集中治療室）：術後ALIに対するNPPVの治療成績．日本集中治療医学会学術集会（第36回）（大阪府），2009. 2.

追加分一般講演：

- 1) 大江裕美子，寺嶋克幸，幸田修典，岸川洋昭，坂本篤裕：穿通胎盤患者の予定帝王切開の周術期管理2症例と文献的考察．日本臨床麻酔学会学術集会（第27回）（東京），2007. 10.
- 2) 大江裕美子，金 徹，杖下隆哉，岸川洋昭，鈴木規仁，寺嶋克幸，坂本篤裕：術直後の急性肝機能障害増悪中にイソフルランで安全に麻酔管理が出来た再手術の1例．日本臨床麻酔学会学術集会（第28回）（京都），2008. 11.
- 3) 大江裕美子，飯島典生¹⁾，坂本篤裕，小澤一史¹⁾（¹⁾日本医科大学大学院医学研究科 生体制御形態科学分野）：吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子 *mPer2* の発現を抑制する．日本解剖学会総会・全国学術集会（第114回）（岡山），2009. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 坂本篤裕：周術期 β 遮断薬の有用性．3重麻酔懇話会（第16回），2009. 12.
- 2) 坂本篤裕：周術期における β 遮断薬使用の有用性．外科周術期合併症研究会，2010. 1.
- 3) 中谷英彦，渡邊 悠，田島朋幸，廣本敦之¹⁾，坪光祥晃，中里桂子²⁾，三井誠司²⁾，竹田晋浩²⁾，田中啓二²⁾（¹⁾日本医科大学第2外科学，²⁾日本医科大学付属病院集中治療室）：腹膜炎後の急性肺障害に対し早期抜管，ヘルメット型マスクを用いたNPPVに移行した1症例．日本集中治療医学会学術集会（第37回）（リーガロイヤルホテル広島），2010. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 中西一浩：SpHbモニターは周術期患者管理を変えるか？．日本臨床モニター学会総会（第20回），2009. 4.
- 2) 坪光祥晃¹⁾，竹田晋浩²⁾，中里桂子²⁾，三井誠司²⁾，田中啓治³⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾日本医科大学 麻酔科学，²⁾日本医科大学 麻酔科学・付属病院 集中治療室，³⁾日本医科大学 付属病院 集中治療室）：早期抜管のためのNPPVの適応・使い方・効果．日本集中治療医学会 関東甲信越地方会（第18回）（長野県松本市），2009. 7.
- 3) 坂本篤裕：組織としての課題．日本麻酔科学学会学術集会（第56回）（神戸ポートピアホテル神戸国際展示場），2009. 8.
- 4) 坂本篤裕：手術室運営の今後の方向性．日本麻酔科学学会学術集会（第56回）（神戸ポートピアホテル神戸国際

展示場), 2009. 8.

- 5) 坂本篤裕: 循環モニター: 非侵襲的モニターは侵襲的モニターを超えられるか?. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
- 6) 坂本篤裕: パルスオキシメーターの可能性. 日本麻酔・集中テクノロジー学会 (第27回) (順天堂大学 有山記念講堂), 2009. 11.
- 7) 中里桂子¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 三井誠司¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室: 術後低酸素性呼吸不全とNPPV. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
- 8) 杉田慎二, 田島朋幸, 渡邊 悠, 中谷英彦, 中里桂子, 三井誠司, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 小児先天性心疾患手術後の抜管後呼吸不全に対してNPPVが有効であった1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
- 9) 野口裕幸¹⁾, 鎌田隆行¹⁾, 竹田晋浩²⁾, 坂本篤裕²⁾ (1) 日本医科大学院ME部: 臨床工学技士の質的向上と今後のビジョン. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.

(3) セミナー:

- 1) 坂本篤裕: 周術期における β 遮断薬の有用性. さくらやま周術期治療セミナー (名古屋), 2009. 8.
- 2) 中西一浩: 周術期貧血に対する非侵襲モニタ (SpHb) の有用性. 日本麻酔科学会学術集会 (第56回), 2009. 8.
- 3) 竹田晋浩: デクスメトミジンの人工呼吸管理における応用. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
- 4) 中西一浩: 術中のカテコラミンを見直す. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
- 5) 金 徹: 知っておきたい補助循環知識と麻酔科医の役割. 日本臨床麻酔学会 (第29回) (浜松), 2009. 10.

(4) 一般講演:

- 1) 金 徹: Which parameter is useful for off pump CABG? CCO, SV, SVV, or ScvO₂?. Meeting of the Asian Society of Cardiothoracic Anesthesia (the 8th) (東京), 2009. 9.
- 2) 岸川洋昭¹⁾, 鈴木規仁¹⁾, 金 徹¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院麻酔科: 肺全摘術における動脈圧心拍出量測定用キットの使用経験. 日本臨床モニター学会総会 (第20回) (東京), 2009. 4.
- 3) 杖下隆哉, 横塚 基, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 腎摘出術中に腫瘍塞栓による循環不全をきたした症例. 術中経食道エコーの有用性. 日本臨床モニター学会 (第20回), 2009. 4.
- 4) 中里桂子, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕: off pump CABG におけるFloTrac を用いたCCO, SV とScvO₂ の比較. 日本臨床モニター学会 (第20回), 2009. 4.
- 5) 竹内純平, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕: 心疾患を有する患者に施行されたLaparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy (LADG) におけるScvO₂ の変化. 日本臨床モニター学会 (第20回), 2009. 4.
- 6) 鈴木規仁, 横塚 基, 岸川洋昭, 杖下隆哉, 坂本篤裕: 1 回拍出量変化量 (SVV) を用いた大量出血周術期管理の1症例. 日本臨床モニター学会 (第20回), 2009. 4.
- 7) 杉田慎二, 金 徹, 杖下隆哉, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 心臓麻酔と重症患者麻酔における心血管作動薬の選択の検討. 日本循環制御医学会総会 (第30回), 2009. 6.
- 8) 渡邊 悠, 竹森 健, 坂本篤裕: 腹腔鏡手術中にSAMをきたしたHOCM患者の麻酔経験. 日本循環制御医学会総会 (第30回), 2009. 6.
- 9) 竹内純平, 金 徹, 小泉有美馨, 佐藤千代, 小林克也, 竹田晋浩, 中西一浩, 坂本篤裕: 僧帽弁置換術における収縮期血圧に対するCCOとScvO₂の追従性の検討. 日本循環制御医学会総会 (第30回), 2009. 6.
- 10) 益田律子¹⁾, 加藤信也¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院: がん性疼痛に対する持続脊髄も膜下鎮痛法において薬液の比重調整が奏効した3症例. 日本ペインクリニック学会 (第43回), 2009. 7.
- 11) 岸川洋昭, 鈴木規仁, 金 徹, 佐藤千代, 岡部 格, 中西一浩, 坂本篤裕: マゴットセラピーに伴う疼痛に対する硬膜外鎮痛. 日本ペインクリニック学会 (第43回), 2009. 7.

- 12) 岡部 格, 佐藤千代, 坂本篤裕: ラットのCCIモデルに対するECTの疼痛改善効果と脳内NPY発現の変化. 日本ペインクリニック学会 (第43回), 2009. 7.
- 13) 幸田真理子¹⁾, 水野幸一¹⁾, 佐藤花代子¹⁾, 小林德行¹⁾, 内木亮介¹⁾, 山田光輝¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学 多摩永山病院): 下部仙骨神経根ブロックが奏功した神経障害性疼痛の2症例. 日本ペインクリニック学会 (第43回), 2009. 7.
- 14) 水野幸一¹⁾, 佐藤花代子¹⁾, 幸田真理子¹⁾, 小林德行¹⁾, 内木亮介¹⁾, 山田光輝¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学 多摩永山病院): 非がん性疼痛に対する持続くも膜下モルヒネ投与療法の1年後の転機と今後の課題. 日本ペインクリニック学会 (第43回), 2009. 7.
- 15) 鈴木規仁, 岸川洋昭, 金 徹, 佐藤千代, 中西一浩, 坂本篤裕: 幻肢痛に対するガバペンチンの効果. 日本ペインクリニック学会 (第43回), 2009. 7.
- 16) 坪光祥晃¹⁾, 竹田晋浩²⁾, 中里桂子²⁾, 三井誠司²⁾, 田中啓治³⁾, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学 麻酔科学, 2) 日本医科大学 麻酔科学・付属病院 集中治療室, 3) 日本医科大学 付属病院 集中治療室): 嵌頓性腹壁ヘルニア修復術直後にARDS発症した症例. 日本呼吸療法医学会学術集会 (第31回) (山形県天童市), 2009. 7.
- 17) 坪光祥晃¹⁾, 川口宏志¹⁾, 伊藤公亮¹⁾, 中谷英彦¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学 麻酔科学): Propofolによる脳プロテオームへの影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第56回) (兵庫県神戸市), 2009. 8.
- 18) 大江裕美子, 飯島典生¹⁾, 小澤一史¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学大学院医学研究科 生体制御形態科学分野): 吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子 *mPer2* の発現を抑制する. 日本麻酔科学会学術集会 (第56回) (神戸), 2009. 8.
- 19) 輪嶋 善一郎¹⁾, 今永和幸²⁾, 志賀俊哉³⁾, 齋藤 剛¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学千葉北総病院 麻酔科, 2) 昭和大学横浜市北部病院, 3) 東邦大学大橋医療センター 麻酔科): 調節呼吸時と自発呼吸時のSVV (一回拍出量変動) 値に連続性はあるか?. 日本麻酔科学会学術集会 (第56回), 2009. 8.
- 20) 中谷英彦, 金 徹, 坂本篤裕: デクスメドミジンは頸動脈小体の低酸素換気応答を制御しない. 日本麻酔科学会学術集会 (第56回), 2009. 8.
- 21) 伊藤裕子, 岡部 格, 小泉有美馨, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 碎石位での長時間手術中に発症した横紋筋融解症の1例. (社) 日本麻酔学会 関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第49回), 2009. 9.
- 22) 宮内健佑, 伊藤裕子, 小泉有美馨, 鈴木規仁, 坂本篤裕: 術後横紋筋融解を来した潰瘍性大腸炎の1例. (社) 日本麻酔学会 関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第49回), 2009. 9.
- 23) 鎌形千尋, 四方友美, 杉田慎二, 宮内健佑, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 嵌頓性腹壁ヘルニアにてレイウスを発症した患者にレイウス解除術を施行したところ術後ARDSを発症した1症例. (社) 日本麻酔学会 関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第49回), 2009. 9.
- 24) 坂本篤裕: 術前評価1. (社) 日本麻酔学会 関東甲信越・東京支部 合同学術集会 (第49回), 2009. 9.
- 25) 大江裕美子, 飯島典生¹⁾, 坂本篤裕, 小澤一史¹⁾ (1) 日本医科大学 大学院医学研究科 生体制御形態科学分野): 吸入麻酔薬 sevoflurane による時計遺伝子 *mPer2* の発現抑制. 神経内分泌学会 (第36回) (小倉), 2009. 9.
- 26) 大江裕美子, 飯島典生¹⁾, 坂本篤裕, 小澤一史¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 生体制御形態科学分野): 吸入麻酔薬セボフルランは時計遺伝子 *mPer2* の発現を可逆的に抑制する. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第50回) (滋賀/大津), 2009. 9.
- 27) 四方友美, 三井誠司, 杉田慎二, 宮内健佑, 伊藤公亮, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 妊娠33週に重症心不全にて発症した周産期心筋症の1例. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
- 28) 渡邊 悠, 中里桂子, 田島朋幸, 坪光祥晃, 三井誠司, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 拡大胸腺摘出術後, 抜管に難渋した重症筋無力症の1例. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
- 29) 本郷 卓, 竹田晋浩, 杉田慎二, 宮内健佑, 四方友美, 三井誠司, 坂本篤裕: カンジタ性敗血症からARDSと

- なったが救命しえた1症例. 日本臨床麻酔学会 (第29回) (アクトシティ浜松 大ホール), 2009. 10.
- 30) 宮内健佑, 古市結富子, 小林克也, 杖下隆哉, 坂本篤裕: レミフェンタニルを用いた眼咽頭筋ジストロフィー患者の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会 (第29回) (アクトシティ浜松), 2009. 10.
 - 31) 中島祐史¹⁾, 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学千葉北総病院): 修正型電気権州痙攣療法における痙攣誘発困難患者に対するレミファンタニル単独による麻酔の症例. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
 - 32) 小澤和紀¹⁾, 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院): 術中大量出血を認めたため, 2期的に手術を行った肺化膿症の1例. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
 - 33) 大角 真¹⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院): 硬膜外麻酔施行後, 心停止をきたし, 精査により術前指摘されていなかった右冠動脈狭窄が発見された症例. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
 - 34) 鳥海博司¹⁾, 加藤久美子¹⁾, 菊谷健彦²⁾, 尾藤博保¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, ²⁾ 東戸塚記念病院): 術前にたこつぼ型心筋症の加療を先行させ, 良好に管理できたS状結腸癌の1例. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
 - 35) 内木亮介¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院): ペインクリニック1. 日本臨床麻酔学会 (第29回), 2009. 10.
 - 36) 大江裕美子, 飯島典生¹⁾, 坂本篤裕, 小澤一史¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科 生体制御形態科学分野): 吸入麻酔薬セボフルランによる時計遺伝子 *mPer2* の発現抑制. 日本時間生物学学会学術大会 (第16回) (大阪), 2009. 10.
 - 37) 渡邊 悠, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 術後高血中乳酸値を認めた胸部大動脈瘤破裂の1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 38) 杖下隆哉, 岸川洋昭, 荒井雅江, 中里桂子¹⁾, 三井誠司¹⁾, 山本 剛¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 甲状腺亜全摘出後に逆たこつぼ型心筋症を呈した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 39) 古市昌之¹⁾, 清水 淳¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 赤田信二¹⁾, 古市結富子, 竹森 健, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科): LPS投与ラットの諸臓器に対する好中球エラストラーゼ阻害薬の抗炎症及び抗ショック作用. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 40) 竹森 健, 小林克也, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 腹腔鏡手術にSAMをきたしたHOCM患者の術後管理経験. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 41) 四方友美, 三井誠司, 杉田慎二, 宮内健佑, 本郷 卓, 竹田晋浩, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 食道癌術後に敗血症, 難治性腹水を併発し, それらの治療に難渋した症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 42) 坪光祥晃, 竹田晋浩¹⁾, 中里桂子¹⁾, 三井誠司¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 腹腔鏡下虫垂切除術後にARDS発症した症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 43) 宮内健佑, 三井誠司, 本郷 卓, 竹田晋浩, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): 術後出血で診断された後天性血友病患者の1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 44) 三井誠司¹⁾, 中里桂子¹⁾, 大井良之²⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 日本大学歯学部): 術中出血のより, 第V凝固因子活性低下を診断された1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (リーガロイヤルホテル広島), 2010. 3.
 - 45) 戸田 繁, 坂井 敦¹⁾, 池田裕美子¹⁾, 坂本篤裕, 鈴木秀典¹⁾ (1) 日本医科大学薬理学): 神経成長因子は神経因性疼痛における局所麻酔薬ロピバカインの鎮痛作用を伸介する. 日本薬理学会年会 (第83回), 2010. 3.

- 46) 大江裕美子, 飯島典生¹⁾, 門田佳奈, 坂本篤裕, 小澤一史¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科 生体制御形態科学分野) : 全身麻酔薬 sevoflurane による NAD⁺ 上昇を伴う時計遺伝子 *mPer2* の発現抑制. 日本解剖学会総会全国学術集会 (第 115 回) (盛岡), 2010. 3.

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

慢性的なマンパワー不足の中, 武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究をおこなっている. 医局員が日常の麻酔, ペイン業務で遭遇する種々の問題, 疑問より発生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている. 従って臨床にすぐ反映され, 有益となる研究テーマであるという特徴を有している. 食道がん, 肺がん等の開胸手術における侵襲防御, 産科領域の麻酔管理法, 気道管理方は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている. 特に産科麻酔領域は帝王切開術だけでも年間 250 症例以上と付属 4 病院の中でも有数の症例数である. この領域は非常に緊急性を伴う手術であるにもかかわらず, 国により国内でも施設により差があり, 本邦におけるスタンダードといえる麻酔管理も確立していない. 当施設では帝王切開時の加温輸液と胎児予後の関係について検討し, また緊急帝王切開術の麻酔方法についてプロスペクティブな研究を継続している.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Suzuki M : Role of N-methyl-D-aspartate receptor antagonists in postoperative pain management. *Current Opinion in Anaesthesiology* 2009 ; 22 (5) : 618-622.

(2) 症例報告 :

- 1) Yokoyama K¹⁾, Suzuki M¹⁾, Shimada Y¹⁾, Matsushima T²⁾, Bito H¹⁾, Sakamoto A³⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology, Musasikosugi Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Musasikosugi Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : Effect of administration of pre-warmed intravenous fluids on the frequency of hypothermia following spinal anesthesia for Cesarean delivery. *Journal of Clinical Anesthesia* 2009 ; 21 : 242-248.

著書

- 1) Suzuki M : [共著] Perioperative Ketamine for Better Postoperative Pain Outcome. *Acute Pain Management (Cambridge Medicine)* (Raymond S Sinatora), 2009 ; pp366-366, Cambridge University Press.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Suzuki M, Kato K, Bito H : Low Dose Ketamine Infusion Actually Increases the Incidence of Remifentanyl-Induced Shivering. *American Society of Anesthesiologists (New Orleans LA)*, 2009. 10.
2) 大角 真, 尾藤博保 : 硬膜外麻酔施行後 心停止をきたし精査により術前指摘されていなかった右冠動脈狭窄が発見された症例. 日本臨床麻酔学会 (第 29 回) (浜松), 2009. 10.
3) 鳥海博司, 加藤久美子, 菊谷健彦¹⁾, 尾藤博保 (¹⁾ 東戸塚記念病院) : 術前にたこつぼ型心筋症の加症を先行させ良好に管理できた S 字結腸癌の 1 例. 日本臨床麻酔学会 (第 29 回) (浜松), 2009. 10.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

平成21年度は、継続的な研究活動を行ってきた。

ペインクリニック領域では、筋筋膜痛症候群、顎関節症を対象とした、新しい神経ブロック法を考案し診療に応用し、症例を重ねてきている。昨年度は国際学会に一部を発表し、平成22年度は成果をまとめる予定である。

さらに、複合性局所疼痛症候群などの難治性神経源性疼痛に対しては、エピドラスコピー、透視化神経ブロック、高周波熱凝固、硬膜外脊髄刺激電極埋め込み術、脊髄くも膜下カテーテル挿入および薬液注入ポート埋め込み術などを積極的に施行し、成果を発表している。こうした手技の向上に相まって外来患者数は増加の一途である。

手術麻酔においては、気管挿管時の喉頭等の位置や形状の変化の解析による成果をさらに、症例を積み重ね、平成22年度はイギリス麻酔学会にて、気管挿管に関するシンポジウムにて招待講演が予定されている。その解析と同時に開発された喉頭鏡は本学TLOセンターを通して特許出願し、市販され、高い評価を受けている。

また、呼吸生理における基礎研究においては、その成果を平成21年度の国際生理学会にて発表し、平成22年度は日本生理学会のシンポジウムに招待をされている。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) 松谷 毅¹⁾、内田英二¹⁾、丸山 弘¹⁾、西川晃司、山田光輝、笹島耕二¹⁾ (1) 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術。日医大医会誌 2009；5 (4)：211-214.

(2) 症例報告：

1) 幸田真理子、水野幸一、内木亮介、小林徳行、山田光輝、坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学)：われわれの施設でのエピドラスコピーの実際：治療成績の向上を目指して。日本臨床麻酔学会誌 2010；30 (2)：315-319.

著書

1) 内木亮介：〔分担〕今日からできる疼痛ケア 第VI章オピオイドで除痛しにくい痛みに対する治療を知りましょう！・神経ブロック (破壊)。がん看護 (小山富美子・山下めぐみ・服部政治)，2010；pp215-218，南江堂。

学会発表

(1) 招待講演：

1) Kobayashi N, Yamamoto Y (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Institute of Applied Biochemistry, Gifu, Japan)：Hypoxic Responses of Arterial Chemoreceptors in Rabbits are Primarily Mediated by Leak K Channels. Annual Oxford Conference on Modeling and Control of Breathing (11th) (Nara, Japan), 2009. 7.

(2) 一般講演：

1) 幸田真理子、水野幸一、佐藤花代子、小林徳行、内木亮介、山田光輝、坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学)：下部仙骨神経根ブロックが奏効した神経障害性疼痛の2症例。日本ペインクリニック学会 (第43回) (愛知県名古屋市)，2009. 7.

2) 水野幸一、佐藤花代子、幸田真理子、小林徳行、内木亮介、山田光輝、坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学)：非がん性疼痛に対する持続くも膜下モルヒネ投与療法の1年後の転帰と今後の課題。日本ペインクリニック学会 (第43回) (愛知県名古屋市)，2009. 7.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

依然，診療活動が多忙をきわめ，さらに，年度始めより，スタッフ2名が欠員となり，研究活動に専念する時間が少なくならざるを得ない状況が増長された．研究テーマは，日常診療に直結した臨床研究のみに限られてしまうが，引き続いて，気道管理，疼痛管理，薬物およびモニタリング，麻酔法などに関したものが取り上げられた．

気道管理では，新しい気道確保器具類について全員でその臨床評価を行っているほか，井上，後藤らを中心に気道評価法についての検討，模索が続けられている．

疼痛管理では，ペインクリニック診療や緩和医療に携わる益田，加藤らを中心に，各種薬物の効果，術後鎮痛での手法や薬物の選択について新たな知見が見出されてきている．麻酔中の薬物の使用法，術前の身体状況による生理学的影響の相違などについては，中島，小澤，神谷，辻本らが研究に参画している．医局全員が専門医であり，自身の経験を基盤として，異常な病態を示す症例として報告を行うべきかどうか，また新たな研究テーマが必要かどうかを常に念頭においた緻密な診療活動が行われているところである．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 吉澤一巳¹⁾，益田律子，井上哲夫，木本陶子¹⁾，福田恵子¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院・薬剤科)：フェンタニル貼付剤によるがん疼痛緩和中の突出痛対策に要する経静脈・経皮下オピオイド至適用量．日本ペインクリニック学会誌 2009；16 (4)：474-477.
- 2) 神谷一郎，福田 功¹⁾，北井由美子²⁾，辻本芳孝，松田秀雄²⁾，風間富栄¹⁾ (1) 防衛医科大学校病院麻酔科，²⁾ 防衛医科大学校病院産婦人科)：硬膜外麻酔による全前置胎盤，癒着胎盤の帝王切開5症例の麻酔経験．臨床麻酔 2009；58 (10)：1261-1265.

(2) 総説：

- 1) 加藤信也，益田律子：抗てんかん薬：神経障害性疼痛の基礎と臨床I．ペインクリニック 2009；30 (別冊春号)：S212-S223.
- 2) 益田律子：オピオイドの硬膜外投与について．臨床麻酔 2009；33 (4)：734-736.
- 3) 井上哲夫：特殊な気管チューブ 主題：最新・麻酔のテクニック：機材と技術の完全マスター．麻酔科学レクチャー 2009；1 (2)：451-457.
- 4) 井上哲夫：成人での気管チューブ 主題：ここがポイント！気道確保Q & A．麻酔科学レクチャー 2009；1 (3)：653-657.
- 5) 益田律子，宇野武司¹⁾，村川和重²⁾，津田喬子³⁾，田口仁士⁴⁾ (1) 兵庫医科大学疼痛制御学・ペインクリニック部，²⁾ 名古屋市立東部医療センター東市民病院，³⁾ 関西医科大学付属滝井病院麻酔科)：ペインクリニック診療と説明同意文書．ペインクリニック 2010；31 (1)：7-12.
- 6) 益田律子：神経障害性疼痛に対する薬物治療．Anesthesia 21 Century 2010；12 (1-36)：27-35.

著書

- 1) 井上哲夫：〔分担〕麻酔呼吸回路．麻酔器 (釘宮豊城編集)，2009；pp45-58，克誠堂．

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 益田律子, 吉澤一巳¹⁾, 加藤信也, 井上哲夫, 坂本篤裕²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院 麻酔科)：フェンタニ貼付剤使用者における突出痛対策に要する経静脈・経皮下オピオイド至適用量について. 第23回日本ペインクリニック学会東京地方会 (東京), 2009. 2.

(1) 招待講演：

- 1) 益田律子：Current Situation of Pain Medicine and Palliative Care in Japan- Intrathecal Analgesia for Cancer Pain in Japan. La premiè ; re Nouvelle-Caledonie Pain Conference (第1回) (ニューカレドニア, スメア), 2009. 9.
- 2) 益田律子：オピオイドの使用：臨床から基礎へClinical suggestions on opioid therapy : from bedside-to-bench. 第30回 鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム (東京), 2009. 8.

(2) 教育講演：

- 1) 井上哲夫：Difficult airwayへの挑戦. 日本麻酔科学会第56回学術集会 (神戸), 2009. 8.
- 2) 加藤信也：痛いところに痛みがあるとはかぎらない. 日本良導絡自律神経学会 (東京), 2009. 9.

(3) 一般講演：

- 1) 益田律子, 加藤信也, 井上哲夫, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 麻酔科)：がん性疼痛に対する持続脊髄くも膜下鎮痛法において薬液の比重調整が奏功した3症例 The role of baricity of bupivacaine as an adjuvant to intrathecal morphine for cancer pain management Three case reports. 第43回日本ペインクリニック学会大会 (名古屋), 2009. 7.
- 2) 加藤信也：トリガーポイント注射よりも鍼治療が有効であった神経絞扼性疼痛2症例. 第61回日本良導絡自律神経学会学術大会 (東京), 2009. 9.
- 3) 中島祐史, 益田律子, 井上哲夫, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 麻酔科)：修正型電気痙攣療法における痙攣誘発困難患者に対するレミフェンタニル単独による麻酔の症例. 第29回臨床麻酔学会 (静岡県), 2009. 10.
- 4) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也, 山田岳史¹⁾, 坂本篤裕²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科 緩和ケアチーム, 2) 日本医科大学付属病院 麻酔科)：がん疼痛に対する皮下埋没型持続脊髄くも膜下鎮痛システム上の問題を認めた2症例. 第24回日本ペインクリニック学会東京地方 (東京), 2009. 12.

18. 救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

・外傷系 文部科学省科研費の獲得から出血性ショックモデルからの基礎的研究(増野, 白石など), 蘇生後脳症に関する基礎的, 臨床的研究(恩田ら), 外科栄養学の基礎的研究から臨床応用などで競争的資金を獲得し, 多くの業績があった(佐藤, 中田など).

以上の成果を関連学会の講演, 院内研修医師への外傷診療教育, 指導に反映させた.

また, 本邦で新たに新設されたacute care surgeryに関する学会に対して指導的な関与を行った.

・整形系 寛骨臼骨折に対する新しい手術進入法について検討を行い, 国内外の各学会で発表し, 高い評価を得た. その評価は手術での見学者が多数であることから裏付けられている,

・脳神経外科系 重症脳血管障害, 頭部外傷, 頸髄損傷, および蘇生後脳症に関しての治療, 頭蓋内循環代謝動態に関して臨床的, 基礎的研究をした. この中で, 複数の競争的資金を獲得し, 診療研究を行った.

・災害医療 本邦で唯一の医療除染車に関する報告や災害訓練への参加活動を行った. さらに内閣担当官に対して実際の訓練を行い, 説明を行った.

・基礎研究 ショックに続発する多臓器障害の発症機序を解明することを研究課題として, 腸間膜リンパ液に着目し研究を行った. さらに本学法医学教室と共同でMRIを用いたmetabolomicsで新しい分析医科学の手法を用いた出血性ショックの病態研究を行っている. 専修医, 大学院生, 研究生など研究する医師の多様な要望に答える研究体制を構築した. 本邦の救急医学をリードするような人材を引き続き養成するために, 常に新しく柔軟な発想で研究を行っている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Matsumoto H¹, Mashiko K¹, Hara Y¹, Kutsukata N¹, Sakamoto Y¹, Takei K¹, Kanemaru K¹, Tomita Y¹, Saito N¹, Yagi T¹, Tetsu S¹, Iida H¹, Masuda Y¹, Koami H¹, Yokota H (1) Shock and Trauma Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Role of resuscitative emergency field thoracotomy in the Japanese helicopter emergency medical service system. Resuscitation 2009 ; 80 : 1270-1274.
- 2) Peltz DE¹, Moore EE¹, Zurawel AA¹, Jordan RJ¹, Damle SS¹, Redzic SJ¹, Masuno T^{1, 2)}, Eun J¹, Hansen CK¹, Banerjee A¹ (1) Department of Surgery, School of Medicine, University of Colorado Denver, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Proteome and system ontology of hemorrhagic shock : Exploring early constitutive changes in postshock mesenteric lymph. Surgery 2009 ; 146 (2) : 347-357.
- 3) Kutsukata N¹, Mashiko K¹, Matsumoto H¹, Hara Y¹, Sakamoto Y¹, Yokota H (1) Shock and Trauma Center, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School) : A case of successful treatment of acute iliofemoral venous thrombosis caused by giant myoma through combination of simultaneous hysterectomy and thrombectomy. Annals of Vascular Disease 2009 ; 2 : 114-117.
- 4) Kushimoto S, Miyauchi M, Yokota H, Kawai M : Damage control surgery and open abdominal management : recent advances and our approach. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (6) : 280-290.

- 5) Gando S¹⁾, Saitoh D¹⁾, Ogura H¹⁾, Mayumi T¹⁾, Koseki K¹⁾, Ikeda T¹⁾, Ishikura H¹⁾, Iba T¹⁾, Ueyama M¹⁾, Eguchi Y¹⁾, Otomo Y¹⁾, Okamoto K¹⁾, Kushimoto S¹⁾, Endo S¹⁾, Shimazaki S¹⁾ (1) Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation (JAAM DIC) Study Group) : Disseminated intravascular coagulation (DIC) diagnosed based on the Japanese Association for Acute Medicine criteria is a dependent continuum to overt DIC in patients with sepsis. *Thromb Res* 2009 ; 123 : 715-718.
- 6) Kelher RM¹⁾, Masuno T²⁾, Moore EE¹⁾, Damle S¹⁾, Meng X¹⁾, Song Y¹⁾, Liang X¹⁾, Niedzinski J¹⁾, Geier SS¹⁾, Khan YS¹⁾, Gamboni-Robertson F¹⁾, Silliman CC¹⁾ (1) Department of Surgery, School of Medicine, University of Colorado Denver, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Plasma from stored packed red blood cells and MHC class I antibodies causes acute lung injury in a 2-event in vivo rat model. *Blood* 2009 ; 113 (9) : 2079-2087.
- 7) Wada H¹⁾, Asakura H¹⁾, Okamoto K¹⁾, Iba T¹⁾, Uchiyama T¹⁾, Kawasugi K¹⁾, Koga S¹⁾, Mayumi T¹⁾, Koikei K¹⁾, Gando S¹⁾, Kushimoto S, Seki Y¹⁾, Madoiwa S¹⁾, Maruyama I¹⁾, Yoshioka A¹⁾ (1) Japanese Society of Thrombosis Hemostasis/DIC subcommittee) : Expert consensus for the treatment of disseminated intravascular coagulation in Japan. *Thromb Res* 2010 ; 125 (1) : 6-11.
- 8) 若杉雅浩¹⁾, 奥寺 敬¹⁾, 安野みどり²⁾, 井上聖啓³⁾, 河村 満⁴⁾, 北原孝雄⁵⁾, 國本雅也⁶⁾, 横田裕行⁷⁾ (1) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 富山大学大学院医学薬学研究部危機管理医学 (救急・災害医学), 2) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 都立松沢病院神経内科, 3) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 東京慈恵会医科大学神経内科, 4) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 昭和大学救命救急センター, 5) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 北里大学救命救急センター, 6) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 国際医療センター神経内科, 7) 「脳卒中治療におけるプロトロンビン複合体の位置づけ」調査研究班) : 日本医科大学高度救命救急センター) : 抗凝固療法中に発症した脳出血の治療実態. *日本神経救急学会雑誌* 2009 ; 21 (2) : 15-17.
- 9) 荒木 尚¹⁾, 山本 守¹⁾, 中村英一郎¹⁾, 田久保啓誌¹⁾, 北園雅敏¹⁾, 横堀将司¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : 救急医と脳神経外科医の連携. *Neurosurgical Emergency* 2009 ; 14 (1) : 18-25.
- 10) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 小幡 徹²⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部) : PMX-DHPによる敗血症関連因子の変化および収縮期血圧上昇との関連性についての検討. *エンドトキシン血症救命治療研究会誌* 2009 ; 13 (1) : 95-99.
- 11) 横堀将司, 渥美生弘, 横田裕行 : 高齢者重症頭部外傷に対する治療の現状 : 日本頭部外傷データバンクプロジェクト2004の分析から. *神経外傷* 2009 ; 31 : 174-180.
- 12) 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 横田裕行 : Post-endoscopic AGMLにより止血に難渋した1例. *日本救急医学会関東地方会雑誌* 2009 ; 30 : 6-7.
- 13) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : PMX カラムの敗血症治療薬 (抗菌薬, γ グロブリン製剤) 吸着作用に関する検討. *日本救急医学会関東地方会雑誌* 2009 ; 30 : 66-67.
- 14) 小網博之¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 武井健吉¹⁾, 金丸勝弘¹⁾, 齋藤伸行¹⁾, 八木貴典¹⁾, 鉄慎一郎¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 増田幸子¹⁾, 瀬尾卓生¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 馬関連外傷の検討. *日本救急医学会関東地方会雑誌* 2009 ; 30 : 144-145.
- 15) 小網博之, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健一, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 益子邦洋, 横田裕行 : ハンドル外傷により心臓振盪が疑われた1例. *日本救急医学会関東地方*

会雑誌 2009 ; 30 : 172-173.

- 16) 久志本成樹：プロカルシトニン. 臨床検査データブック 2009-2010 2009 ; 584-585.
- 17) 久志本成樹：ダメージコントロールサージェリーの判断と術式. 手術 2009 ; 63 : 285-294.
- 18) 久志本成樹：急性期DICにおける基礎疾患：外傷と敗血症に伴うDICは同一の病態か. Coagulation & Inflammation 2009 ; 3 : 29-32.
- 19) 丸山征郎, 坂田洋一, 和田英夫, 朝倉英策, 岡嶋研二, 丸藤 哲, 射場敏明, 内場光浩, 内山俊正, 江口 豊, 岡本好司, 小倉真治, 川杉和夫, 久志本成樹, 小池 薫, その他4名：科学的根拠に基づいた感染症に伴うDIC治療のエキスパートコンセンサス. 日本血栓止血学会誌 2009 ; 20 : 77-113.
- 20) 柴田泰史, 久志本成樹：救命救急におけるプロカルシトニン測定. 検査と技術 2009 ; 37 (4) : 363-366.
- 21) 嶺 貴彦, 田島廣之, 久志本成樹, 横田裕行：胸腹部外傷. レジデント 2009 ; 2 (5) : 116-123.
- 22) 久志本成樹：発熱を来す病態と鑑別への道筋：敗血症, 重症敗血症. 臨床病理レビュー特集号 2009 ; 143 : 84-98.
- 23) 久志本成樹：どう取り組む, どう楽しもう, 救急医療. Emergency Care 2009 ; 22 (10) : 2-3.
- 24) 久志本成樹：外傷とDIC. DIC診療ガイドブック 2009 ; 104-117.
- 25) 久志本成樹：細菌性敗血症とプロカルシトニン. 日本医事新報 2009 ; 4464 : 80-82.
- 26) 森村尚登, 石原 哲, 泉 裕之, 猪口正孝, 木内巻男, 鈴木正敏, 築山 節, 石川秀樹, 太田祥一, 勝美 敦, 久志本成樹, 佐々木博一, 坂本哲也, 櫻井 淳, 庄古知久, その他7名：東京都重点事業 救急相談センター (#7119) の開設後1年間の活動状況と解析. 東京都医師会雑誌 2009 ; 62 : 2005-2019.
- 27) 増野智彦：出血性ショック後に生じる臓器不全と腸管リンパ液の関与. 侵襲と免疫 2009 ; 18 (3) : 19-28.
- 28) 増野智彦, 横田裕行：新しいモニターパラメータの意義と展望 一酸化炭素中毒とSpCO 非観血的モニターを用いた血中一酸化炭素濃度測定の意味. 臨床麻酔 2009 ; 33 (3) : 528-534.
- 29) 久志本成樹：臓器移植法改正後の移植医療の体制整備に関する提言. 臓器移植関連学会協議会 2010.
- 30) 横堀將司, 田村益己¹⁾, 田中俊尚, 増野智彦, 佐藤格夫, 布施 明, 辻井厚子, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行 (1) 東京消防庁日本医科大学委託研修生 (平成20年度)：東京都内救命救急センターにおける高齢者心肺停止患者収容の問題点. 日本臨床救急医学会雑誌 2010 ; 13 (1) : 25-30.
- 31) 久志本成樹：敗血症診断におけるプロカルシトニン. 第13回CCM輸液・栄養研究会記録集 2010 ; 1-15.
- 32) 久志本成樹：X線写真-見かたのキホン. Expert Nurse 2010 ; 26 : 28-42.
- 33) 久志本成樹：腹部外傷. 救急・集中治療医学レビュー2010：最新文献と解説 2010 ; 194-203.

(2) 総説：

- 1) 横田裕行：日本外傷学会臓器損傷分類2008の公表について (Classification 2008 of organ injury of the Japanese Association for the Surgery of Trauma). 消化器外科 2009 ; 32 (4) : 453-456.
- 2) 石川真士, 横田裕行：多発外傷. 増刊「レジデントノート」 2009 ; 11 (Suppl.) : 213-219.
- 3) 布施 明, 横田裕行：日本医科大学が行っているDA (Doctor Ambulance) 制度の運用について. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (2) : 141-141.
- 4) 横田裕行：救急医療最前線：脳蘇生の可能性. 岡崎医報 2009 ; 54 (1) : 10-11.
- 5) 平田清貴¹⁾, 片山志郎¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院薬剤部)：救急処置と医療安全：薬剤投与. 救急医学 2009 ; 33 (6) : 693-696.
- 6) 横田裕行：終末期医療における各種標準化の特徴と意義. 第40回医学系大学倫理委員会連絡会議 2009 ; 79-84.
- 7) 横田裕行：脳死判定の現状：脳死下臓器提供との関連から. Clinical Neuroscience 2009 ; 27 (8) : 866-869.
- 8) 横堀將司：頭蓋内圧のコントロールと評価. 看護技術 2009 ; 55 (9) : 15-18.
- 9) 中江竜太, 横田裕行：特集：外科基本手技アトラス：B. 救急処置の基本手技：頸椎の保護・固定. 外科系臨床

雑誌「外科治療」 2009；101（3）：322-327.

- 10) 横田裕行：意識障害の初期診療：意識障害の病態. 救急医学 2009；33（9）：995-999.
- 11) 横田裕行：臓器提供施設側の現状. 移植 2009；44（特別号）：98-100.
- 12) 横堀将司：意識障害. エマージェンシー・ケア 2009；22（11）：50-56.
- 13) 木下順弘¹⁾, 有賀 徹²⁾, 奥地一夫³⁾, 奥寺 敬⁴⁾, 北原孝雄⁵⁾, 杉本 壽⁶⁾, 行岡哲男⁷⁾, 横田裕行（¹⁾ 熊本大学大学院医学薬学研究部侵襲制御医学, ²⁾ 昭和大学医学部救急医学, ³⁾ 奈良県立医科大学救急医学, ⁴⁾ 富山大学医学部救急・災害医学, ⁵⁾ 北里大学医学部救命救急医学, ⁶⁾ 星ヶ丘厚生年金病院, ⁷⁾ 東京医科大学救急医学）：現行の脳死判定基準がかかえる課題と改善の提案. 脳死・脳蘇生 2010；22（2）：55-62.
- 14) 横田裕行, 有賀 徹¹⁾, 奥地一夫²⁾, 奥寺 敬³⁾, 北原孝雄⁴⁾, 木下順弘⁵⁾, 杉本 壽⁶⁾, 行岡哲男⁷⁾（¹⁾ 昭和大学医学部救急医学, ²⁾ 奈良県立医科大学救急医学, ³⁾ 富山大学医学部救急・災害医学, ⁴⁾ 北里大学医学部救命救急医学, ⁵⁾ 熊本大学大学院医学薬学研究部侵襲制御医学, ⁶⁾ 星ヶ丘厚生年金病院, ⁷⁾ 東京医科大学救急医学）：脳死判定における補助検査. 脳死・脳蘇生 2010；22（2）：63-68.
- 15) 横田裕行：頭部外傷. 救急・集中治療学レビュー 2010；179-184.
- 16) 横田裕行：耳鼻咽喉科のための救急蘇生とアナフィラキシーの対応. かがみ（日本耳鼻咽喉科医会） 2010；117（40）：119-122.

(3) 研究報告書：

- 1) 横田裕行：小児脳死下臓器提供施設に関する研究. 平成21年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「小児の脳死判定及び臓器提供等に関する調査研究」研究分担「小児脳死下臓器提供施設に関する研究」研究分担報告書 2010.
- 2) 横田裕行：救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究. 平成21年度厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）「臓器移植の社会的基盤に関する研究」研究分担「救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究」研究分担報告書 2010.
- 3) 横田裕行, 川渕孝一¹⁾, 杉原 茂²⁾, 坂本哲也³⁾（¹⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野, ²⁾ 内閣府経済社会総合研究所景気統計部, ³⁾ 帝京大学医学部救急医学）：救急患者の搬送・受入実態と救急医療体制の評価に関する研究. 平成21年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「救急患者の搬送・受入実態と救急医療体制の評価に関する研究」総括・分担研究報告書 2010.

(4) 症例報告：

- 1) Yokobori S, Miyachi M, Eura S, Uchikawa T, Masuno T, Kushimoto S, Yokota H, Yamamoto Y：Takotsubo cardiomyopathy after severe burn injury：a poor recognized cause of acute left ventricular dysfunction. Journal of Trauma 2010；68（3）：77-9.
- 2) 久志本成樹, 宮内雅人, 増野智彦, 佐藤格夫, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行, 田島廣之¹⁾（¹⁾ 日本医科大学放射線科）：外傷性血胸に対する経動脈的塞栓術の適応を考える：自験4例と文献報告からの検討. 日本外傷学会雑誌 2010；24（1）：27-32.

(5) エディトリアル：

- 1) 大泉 旭：「Change！」を整形外傷の治療に. 救急医学 2009；33（8）：869.

(6) 資料：

- 1) 有賀 徹¹⁾, 奥地一夫²⁾, 奥寺 敬³⁾, 北原孝雄⁴⁾, 木下順弘⁵⁾, 杉本 壽⁶⁾, 行岡哲男⁷⁾, 横田裕行（¹⁾ 昭和大学医学部救急医学, ²⁾ 奈良県立医科大学救急医学, ³⁾ 富山大学医学部救急・災害医学, ⁴⁾ 北里大学医学部救命救急医学, ⁵⁾ 熊本大学大学院医学薬学研究部侵襲制御医学, ⁶⁾ 星ヶ丘厚生年金病院, ⁷⁾ 東京医科大学救急医学）：改正臓器移植法が施行されるにあたっての諸課題. 脳死・脳蘇生 2010；22（2）：69-74.

(7) 事例報告：

- 1) 横堀将司^{1,3)}, 平尾智広^{2,3)}, 近藤久禎^{3,4)}, 島田 靖^{1,3)}, 布施 明^{1,3)}, 横田裕行^{1,3)}, 山本保博^{1,3)}（¹⁾ 日本医

科大学付属病院高度救命救急センター，²⁾ 香川大学医学部人間社会環境医学講座医療管理学，³⁾ 独立行政法人国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム，⁴⁾ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター臨床研究部)：集団災害における健康教育：国際緊急援助隊医療チーム活動の報告，日本集団災害医学会雑誌 2009；14 (1)：38-42.

(8) 調査・報告：

- 1) 伊藤敬雄¹⁾，大久保善朗¹⁾，久志本成樹，川井 真，横田裕行 (1) 日本医科大学精神医学)：Yale-New Haven Hospitalにおける精神科救急医療の実際：とくに物質依存症への早期介入プロジェクト，日本臨床救急医学会雑誌 2009；12 (3)：329-334.

(9) 臨床研究：

- 1) 阪本雄一郎¹⁾，益子邦洋¹⁾，松本 尚¹⁾，原 義明¹⁾，朽方規喜¹⁾，横田裕行 (1) 日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター)：現場で測定可能なSIRS判定3項目における外傷重症度予測，日本救命医療学会雑誌 2009；23：51-55.

著 書

- 1) 横田裕行：〔分担〕救命救急医療における脳低体温療法・注目される最新治療．脳疾患：最新治療&予防，全国名医109人，2009；pp30-30，角川SSコミュニケーションズ.
- 2) 大泉 旭，川井 真：〔分担〕Modified Stoppa approach．最新整形外科学大系 手術進入法：下肢（越智光夫 糸満盛憲），2009；pp93-101，中山書店.
- 3) 荒木 尚，横田裕行，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：〔分担〕小児の頭部外傷．脳神経外科 周術期管理のすべて〔改訂第3版〕（松谷雅生，田村 晃），2009；pp283-298，メディカルビュー社.
- 4) 横田裕行：〔分担〕頭頸部外傷．救命救急エキスパートナーシング（第2刷）（編集・大橋教良，澁谷正徳，坂本哲也），2010；pp220-229，南江堂.
- 5) 大泉 旭：〔分担〕四肢開放骨折．2010今日の治療指針（山口 徹 北原光夫 福井次矢），2010；pp66-67，医学書院.
- 6) 横田裕行：〔分担〕出血性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル，2010；pp42-46，メディカルレビュー社.
- 7) 横田裕行：最新主要文献と解説．救急・集中治療学レビュー2010（岡元和文，横田裕行），2010；pp1-361，総合医学社.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) Yokobori S, Koido Y, Kino T, Aoki K, Katsumi A, Shinichirou S, Tsuruta H, Yamamoto Y：A report of the Rescue Operation of Tokyo DMAT at the Site of Gas Explosion. The 8th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (Tokyo), 2006. 11.

(1) 特別講演：

- 1) 横堀将司，荒木 尚，近藤久禎，嘉村洋志，布施 明，増野智彦，横田裕行，山本保博：都市型多数傷病者犯罪現場における医療活動の特殊性：東京DMAT活動事案からの報告．日本集団災害医学会総会・学術集会（第14回）（神戸），2009. 2.
- 2) 横田裕行：地域における脳卒中急性期診療体制の構築．福岡脳卒中救命セミナー（第3回），2009. 4.
- 3) 久志本成樹：提供施設における問題点：3例の法的脳死判定に基づく臓器提供施設としての経験から．日本医

科大学千葉北総病院脳死判定に関する勉強会（千葉），2009．6．

- 4) 久志本成樹：敗血症と外傷に伴う凝固異常/DICとその病態をいかに捉えるか．北海道DIC学術講演会（第3回）（札幌），2009．8．
 - 5) 久志本成樹：重症外傷へのわれわれの挑戦：外傷急性期凝固異常の病態把握 multidisciplinary damage controlとopen abdominal management．日本医科大学医学会総会（第77回）（東京），2009．9．
 - 6) 久志本成樹：敗血症と外傷に伴う凝固異常/DICとその病態をいかに捉えるか．熊本DIC学術講演会（熊本），2009．9．
 - 7) 久志本成樹：アナフィラキシーとその初期治療：致死的病態を防ぐために．江戸川区医師会講演会（東京），2009．9．
 - 8) 横田裕行：救急医療の現状と課題．合同医学集談会（第28回），2009．10．
 - 9) 久志本成樹：敗血症と外傷に伴う凝固異常/DICをいかに捉えるか．群馬血栓止血研究会（第9回）（高崎），2009．10．
 - 10) 久志本成樹：中間報告：急性肺水腫の定量的評価による病態解析に関する多施設共同前向き試験．日本救急医学会学術集会（第37回）（盛岡），2009．10．
 - 11) 久志本成樹：臓器不全発現のメカニズムからみた敗血症の病態．東京医科大学Disseminated Intravascular Coagulation Forum（第1回）（東京），2009．11．
 - 12) 横田裕行：重症頭部外傷におけるモニタリングの意義．宮城頭部外傷研究会（第9回）（仙台），2010．2．
 - 13) 横田裕行：救急医療施設での改正臓器移植法の対応．福島移植フォーラム（第21回）（福島），2010．2．
 - 14) 横田裕行：「平成21年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別事業）小児の脳死判定及び臓器提供等に関する研究」小児脳死下臓器提供施設にかかわる研究からの報告．臓器の提供に関する懇話会（第8回）（東京），2010．2．
 - 15) 久志本成樹：侵襲に伴う肺損傷“急性肺水腫”をどう捉えるか．東京救急医療フォーラム（第8回）（東京），2010．2．
 - 16) 久志本成樹：敗血症/外傷に伴う凝固異常の病態をいかに捉えるか．佐賀DICセミナー（第6回）（佐賀），2010．2．
 - 17) 久志本成樹：敗血症/外傷に伴う凝固異常の病態をいかに捉えるか．奈良救急医療懇話会（第17回）（奈良），2010．2．
 - 18) 横田裕行：救急医療施設からみた改正臓器移植法の問題点と解決策．鹿児島救急医学会第67回医師部会（鹿児島），2010．3．
- (2) 招待講演：
- 1) 増野智彦：日本医大ドクターカー運用経験および今後の課題．プレホスピタル研究会（東京），2010．1．
- (3) 教育講演：
- 1) 久志本成樹：アナフィラキシーとその初期治療：致死的病態を防ぐために．日本医科大学アナフィラキシーセミナー（東京），2009．4．
 - 2) 横田裕行：生活習慣病と脳卒中／生活習慣病予防は脳卒中の予防につながります．特定非営利活動法人地域の包括的な医療に関する研究会「第10回市民公開講座」，2009．5．
 - 3) 久志本成樹：胸部X線写真を使ってみよう．エキスパートナースフォーラム（東京），2009．5．
 - 4) 久志本成樹：頭部CTとMRIで脳血管障害と頭部外傷を読んでみよう．エキスパートナースフォーラム（東京），2009．5．
 - 5) 久志本成樹：画像のここが知りたいQ&A．エキスパートナースフォーラム（東京），2009．5．
 - 6) 久志本成樹：胸部X線写真を使ってみよう．エキスパートナースフォーラム（大阪），2009．6．
 - 7) 久志本成樹：頭部CTとMRIで脳血管障害と頭部外傷を読んでみよう．エキスパートナースフォーラム（大阪），2009．6．

- 8) 久志本成樹：画像のここが知りたいQ&A. エキスパートナースフォーラム（大阪），2009. 6.
- 9) 大泉 旭：下腿開放骨折に対する治療方法. 新潟骨折治療セミナー（第4回）（新潟），2009. 7.
- 10) 横田裕行：耳鼻咽喉科のための救急蘇生とアナフィラキシーの対応. 日本耳鼻咽喉科医会臨床家フォーラム（第34回）（横浜），2009. 9.
- 11) 横田裕行：救急医療体制の現状と課題. 救命救急講演会（会津若松），2009. 9.
- 12) 横田裕行：救急医療機関から見た災害医療. 豊島区医師会救急災害講演会（東京），2009. 9.
- 13) 横田裕行：(1) 急性期の終末医療，(2) 脳死となりうる疾患の病態と特徴，(3) 一般の脳死診断，臨床的脳死診断，法的脳死判定. 日本臓器移植ネットワーク新人コーディネータ研修会（平成21年度）（東京），2009. 10.
- 14) 横田裕行：臓器の移植に関する法律（改正臓器移植法）と脳神経外科施設. (社) 日本脳神経外科学会第68回学術総会（東京），2009. 10.
- 15) 久志本成樹：Damage control surgery：どのように判断し，いかに行う. Acute Care Surgery研究会（第1回）（東京），2009. 10.
- 16) 大泉 旭：骨盤輪骨折の初期治療. 日本骨折治療学会研修会 アドバンスコース（平成21年度）（東京），2009. 10.
- 17) 大泉 旭：骨盤輪骨折のdamage controlと内固定手術. 兵庫骨折研究会（第18回）（神戸），2009. 10.
- 18) 横田裕行：重症頭蓋内疾患の診断と治療. 日本救急看護学会救急看護セミナー（東京），2009. 12.
- 19) 横田裕行：脳卒中医療のこと. 救急隊員学術研究会（第47回），日本救急医学会関東地方会（第60回）（東京），2010. 2.
- 20) 横田裕行：重症頭部外傷の管理の実際：ガイドラインを踏まえて. 日本脳神経外傷学会（第33回）（東京），2010. 3.

(4) シンポジウム：

- 1) 増野智彦，近藤久禎，佐藤格夫，宮内雅人，布施 明，久志本成樹，川井 真，横田裕行：一酸化炭素中毒とSpCO. 日本臨床モニター学会総会（第20回）（東京），2009. 4.
- 2) 高山泰広¹⁾，小関一英¹⁾，直江康孝¹⁾，小川太志¹⁾，加茂 潤¹⁾，田上正茂¹⁾，横田裕行，久志本成樹，佐藤秀貴¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター）：進化する穿頭術：有効性と多発外傷への応用. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
- 3) 荒木 尚，渡邊頭弘，恩田秀賢，横堀将司，布施 明，久志本成樹，川井 真，横田裕行：減圧開頭術を必要とした頭部外傷を伴う小児多発外傷患者の治療戦略. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
- 4) 横田裕行，畝本恭子，布施 明，直江康孝，荒木 尚，桑本健太郎，高山泰広，横堀将司，恩田秀賢，渡邊頭弘：頭部外傷を伴う多発外傷救命のために. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
- 5) 大泉 旭，川井 真，加藤 宏²⁾，原 義明³⁾，小柳正雄⁴⁾，長谷川栄寿²⁾，林 励治，飯田浩晃³⁾，伊藤博元¹⁾，横田裕行¹⁾ 日本医科大学 整形外科，²⁾ 国立病院機構災害医療センター 救命救急センター，³⁾ 日本医科大学附属千葉北総病院 救命救急センター，⁴⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院 救命救急センター）：救急医はどのように骨折治療を学んできたか？（卒後外傷教育の現状と課題）. 日本整形外科学会学術総会（第82回）（福岡），2009. 5.
- 6) 野村香司¹⁾，田村益己¹⁾，小川知也¹⁾，澤頭正司¹⁾，近藤久禎，増野智彦，久志本成樹，川井 真，横田裕行¹⁾ 東京消防庁）：胸骨圧迫心マッサージに対する担架種別及び移動による影響. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009. 6.
- 7) 増野智彦，近藤久禎，宮内雅人，布施 明，松本 尚¹⁾，久志本成樹，川井 真，益子邦洋¹⁾，横田裕行¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター）：経皮の一酸化炭素濃度モニターの有用性：非侵襲モニタリングの進歩. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009. 6.
- 8) 荒木 尚，渡邊頭弘，恩田秀賢，横堀将司，布施 明，横田裕行：長期間低体温療法を使用した重症頭部外傷

後の頭蓋内圧亢進の治療：救命例からの検討．日本脳死・脳蘇生学会（第22回），2009．6．

- 9) 久志本成樹，横田裕行：臓器不全発現のメカニズムからみた敗血症の病態．日本血栓止血学会学術集会（第32回）（北九州），2009．6．
- 10) 久志本成樹，佐藤格夫，増野智彦，宮内雅人，福田令雄，白石振一郎，川井 真，横田裕行：体幹部外傷における外傷手術手技修練のための教室における取り組み．日本外科系連合学会学術集会（第34回）（東京），2009．6．
- 11) 渥美生弘^{1,2)}，坂本哲也²⁾，浅井康文²⁾，長尾 建²⁾，森村尚登²⁾，田原良雄²⁾，横田裕行²⁾，佐藤慎一¹⁾（¹⁾ 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター，²⁾ SAVE-J2）：本邦におけるExtracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation（ECPR）の現状．日本脳低温療法学会（第12回），2009．7．
- 12) 荒木 尚，辻本真範¹⁾，師田信人¹⁾，恩田秀賢，横堀将司，横田裕行（¹⁾ 国立成育医療センター脳神経外科）：頭蓋内圧モニタリングを基にした小児重症頭部外傷への集学的治療戦略．日本脳代謝モニタリング学会（第15回），2009．7．
- 13) 横田裕行：救急医療における終末期の判断と対応．医学系大学倫理委員会連絡会議（第40回），2009．7．
- 14) 増野智彦，近藤久禎，松本 尚¹⁾，益子邦洋¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院）：非観血的モニターを用いた血中一酸化炭素濃度測定（SpCO）の意義．日本麻酔科学会学術集会（第56回）（神戸），2009．8．
- 15) 高山泰広¹⁾，小関一英¹⁾，直江康孝¹⁾，小川太志¹⁾，田上正茂¹⁾，加茂 潤¹⁾，横田裕行（¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター）：脳蘇生の立場からみたお看取り医療とその問題点．日本救命医療学会総会・学術集会（第24回），2009．9．
- 16) 直江康孝¹⁾，小関一英¹⁾，小川太志¹⁾，高山泰広¹⁾，加茂 潤¹⁾，田上正茂¹⁾，高島伸之介¹⁾，林 励治¹⁾，本田哲史¹⁾，飯島広和¹⁾，横田裕行（¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター）：自己完結型救命センターを目指して．日本救命医療学会総会・学術集会（第24回），2009．9．
- 17) 重村朋子，横田裕行：脳死患者家族の心理過程．日本移植学会（第45回）（東京），2009．9．
- 18) 阪本雄一郎¹⁾，益子邦洋¹⁾，小幡 徹²⁾，齋藤伸行¹⁾，松本 尚¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター，²⁾ 微生物化学研究会）：敗血症性ショック症例に対するPMX-DHPの効果予測に関する検討．日本急性血液浄化学会（第20回）（札幌），2009．10．
- 19) 久志本成樹¹⁾，丸藤 哲²⁾，齋藤大蔵²⁾，小倉裕司²⁾，池田寿昭²⁾，石倉宏恭²⁾，射場敏明²⁾，上山昌史²⁾，江口豊²⁾，大友康裕²⁾，岡本好司²⁾，小関一英²⁾，真弓俊彦²⁾，遠藤重厚²⁾，島崎修次²⁾（¹⁾ 日本医科大学 救急医学，²⁾ 日本救急医学会DIC特別委員会）：急性期DIC診断基準による感染症および外傷を基礎病態とするDIC症例は異なる病態である可能性がある．日本救急医学会学術集会（第37回）（盛岡），2009．10．
- 20) 久志本成樹：外傷急性期凝固異常をどう捉えるか．日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム（第4回）（東京），2009．11．
- 21) 横田裕行：改正臓器移植法の問題点と今後の課題．医学系大学倫理委員会連絡会議（第41回），2009．12．
- 22) 横田裕行：改正臓器移植法の課題：小児からの臓器提供について．緊急 小児臓器移植セミナー（日本小児循環器学会学術委員会・臓器移植委員会主催），2010．2．
- 23) 阪本雄一郎¹⁾，益子邦洋¹⁾，小幡 徹²⁾，松本 尚¹⁾，齋藤伸行¹⁾，鉄慎一郎¹⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター，²⁾ 微生物化学研究会）：PMX-DHPを施行した敗血症性ショック症例の転帰予測因子に関する検討．日本集中治療学会学術集会（第37回）（広島），2010．3．
- 24) 荒木 尚¹⁾，師田信人¹⁾，笠原群生²⁾，横田裕行（¹⁾ 成育医療センター脳神経外科，²⁾ 成育医療センター移植外科）：小児も脳死下臓器移植における展望：小児脳神経外科の立場から．日本集中治療学会学術集会（第37回）（広島），2010．3．
- 25) 渥美生弘¹⁾，坂本哲也²⁾，浅井康文³⁾，長尾 健⁴⁾，森村尚登²⁾，田原良雄⁵⁾，横田裕行，佐藤慎一¹⁾（¹⁾ 神戸市立医療センター救命救急センター，²⁾ 帝京大学医学部救命救急センター，³⁾ 札幌医科大学高度救命救急セン

- ター, ⁴⁾ 駿河台日本大学循環器科, ⁵⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター) : 本邦における extracorporeal cardiopulmonary resuscitation (ECPR) の現状. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 26) 田原良雄¹⁾, 菊島公夫²⁾, 長尾 健²⁾, 渥美生弘³⁾, 横田裕行, 長谷 守⁴⁾, 奈良 理⁴⁾, 浅井康文⁴⁾, 森村尚登⁵⁾, 坂本哲也⁵⁾ (¹⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター, ²⁾ 駿河台日本大学循環器科, ³⁾ 神戸市立医療センター中央病院救急部, ⁴⁾ 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター, ⁵⁾ 帝京大学医学部附属病院救命救急センター) : 心室細動における院外心停止に対するPCPS使用例の治療戦略の変化. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 27) 奈良 理¹⁾, 長谷 守¹⁾, 浅井康文¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 森村尚登¹⁾, 長尾 健¹⁾, 横田裕行¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 田原良雄¹⁾ (¹⁾ SAVE-J研究班) : 心肺停止患者に対する心配補助装置等を用いた高度救命処置に対する本邦報告例の集積研究. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 28) 横堀将司, 渡邊顕弘, 中江竜太, 松本 学, 恩田秀賢, 佐藤格夫, 増野智彦, 布施 明, 久志本成樹, 横田裕行 : 重症頭部外傷急性期管理における経時的脳循環代謝測定の有用性 : マイクロダイアリシスは minimum essential monitor となるか? . 日本脳神経外傷学会 (第33回) (東京), 2010. 3.
- 29) 高山泰広¹⁾, 高嶋伸之介¹⁾, 直江康孝¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 寺本 明²⁾, 喜多村孝幸²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 外傷性内頸静脈洞血栓形成のメカニズムについて : 頭部外傷にともなう血液凝固学的検査のモニタリングより. 日本脳神経外傷学会 (第33回) (東京), 2010. 3.
- 30) 高山泰広¹⁾, 高嶋伸之介¹⁾, 直江康孝¹⁾, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 寺本 明²⁾, 喜多村孝幸²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 広範囲追加減圧開頭術の手術手技. 日本脳神経外傷学会 (第33回) (東京), 2010. 3.
- 31) 大泉 旭 : 急性期の骨盤輪骨折に対する創外固定とC-clamp (急性期の骨盤外傷). 救急整形外傷シンポジウム (第16回) (石垣島), 2010. 3.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行 : 当院における高エネルギー外傷症例に対する初期治療と手術適応の判断. 日本外科学会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 2) 布施 明, 嘉村洋志, 白石振一郎, 横堀将司, 渥美生弘, 荒木 尚, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 川井真, 横田裕行 : 外傷専門医に必要とされる災害・多数傷病者対応事案における医療活動の検討. 日本外傷学会 (第23回), 2009. 5.
- 3) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 本村陽一²⁾, 西田佳史²⁾, 藤木直子³⁾, 野口昭治³⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 産業技術総合研究所デジタルヒューマン研究センター, ³⁾ 東京理科大学大学院理工学研究科) : Japan Trauma Data Bankにおける新たなRTS・TRISS係数および病院前の転帰影響因子. 日本外傷学会 (第23回), 2009. 5.
- 4) 布施 明, 嘉村洋志, 神田倫秀, 白石振一郎, 横堀将司, 増野智彦, 荒木 尚, 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行 : 本邦のDMATの特性と今後の方向性 : 米国DMATとの比較において. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第12回), 2009. 6.
- 5) 鈴木伸行¹⁾, 堤 晴彦²⁾, 横田裕行, 横田順一郎³⁾, 奥寺 敬⁴⁾, 堀 進悟⁵⁾, 奥地一夫⁶⁾, 安心院康彦⁷⁾, 秋山利浩⁸⁾ (¹⁾ 豊橋市民病院救命救急センター, ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター, ³⁾ 市立堺病院, ⁴⁾ 富山大学医学部救急・災害医学, ⁵⁾ 慶應義塾大学医学部救急部, ⁶⁾ 奈良県立医科大学高度救命救急センター, ⁷⁾ 川崎市立川崎病院救命救急センター, ⁸⁾ 川越地区消防組合) : PCEC (Prehospital Coma Evaluation & Care) の概要とコース内容の紹介. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第12回), 2009. 6.
- 6) 澤頭正司¹⁾, 小川知也¹⁾, 野村香司¹⁾, 田村益己¹⁾, 増野智彦, 白石振一郎, 佐藤格夫, 荒木 尚, 辻井厚子, 横田裕行 (¹⁾ 東京消防庁) : 内因性救急疾患に対する救急隊による病態判断の精度. 日本臨床救急医学会総

会・学術集会（第12回），2009. 6.

- 7) 太田祥一¹⁾，島崎修次²⁾，有賀 徹¹⁾，杉本 壽²⁾，山本保博²⁾，山口芳裕¹⁾，横田裕行¹⁾，田中 裕¹⁾，坂本哲也¹⁾ (1) (財) 日本救急医療財団救急医療総合研究委員会作業部会，²⁾ (財) 日本救急医療財団救急医療総合研究委員会)：救急医療の法整備と救急医の関与の重要性. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009. 6.
 - 8) 布施 明，白石振一郎，福田令雄，恩田秀賢，荒木 尚，宮内雅人，大泉 旭，久志本成樹，川井 真，横田裕行：終末期医療に係る法的諸問題. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009. 6.
 - 9) 田邊晴山，近藤久禎，増野智彦，宮内雅人，久志本成樹，川井 真，横田裕行：消防法の改正も念頭に置いた救急搬送・受入れに関する議論について. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009. 6.
 - 10) 横堀将司，渡邊顕弘，恩田秀賢，増野智彦，佐藤格夫，布施 明，久志本成樹，川井 真，横田裕行：JATEC普及前後における多発外傷合併重症頭部外傷治療成績の変遷：日本頭部外傷データベースからの検討. 日本救急医学会総会（第37回）（盛岡），2009. 10.
- (6) セミナー：
- 1) 横田裕行：移植医療の新たな展開：血液浄化療法とのかかわり. 日本急性血液浄化学会（第20回）（札幌），2009. 10.
 - 2) 高山泰広¹⁾，直江康孝¹⁾，高島伸之介¹⁾，横田裕行，佐藤秀貴，桑本健太郎，寺本 明²⁾，喜多村孝幸²⁾ (1) 川口市立医療センター救命救急センター，²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：重症頭部外傷に対するICPモニター留置の意義：頭部CTで脳圧は予測できるか. 日本脳神経外科救急学会（第15回）（東京），2010. 2.
- (7) ランチョンセミナー：
- 1) 横田裕行：頭部外傷後の下垂体機能低下症. 日本神経外傷学会（第32回），2009. 4.
 - 2) 久志本成樹：SIRSからDICへ：sepsis vs trauma. 外傷に伴う凝固異常/DICをいかにとらえるか. 日本外傷学会（第23回）（大阪），2009. 5.
 - 3) 久志本成樹：臓器不全発現のメカニズムから敗血症の病態を考える. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回）（大阪），2009. 6.
 - 4) 久志本成樹：どう捉える敗血症，いかに対処するエンドトキシン. 日本救急医学会学術集会（第37回）（盛岡），2009. 10.
 - 5) 久志本成樹：“敗血症に対する迅速な診断に基づく治療：プロカルシトニンを生かしたアプローチ”. 関東甲信地区医学検査学会（第46回）（幕張），2010. 2.
- (8) ワークショップ：
- 1) 横田裕行：「臓器損傷分類2008」の意義と今後の課題. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
 - 2) 金子直之¹⁾，横田裕行 (1) 防衛医科大学校救急部)：新しい胸部臓器損傷分類：大血管損傷分類を中心に. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
 - 3) 加地正人¹⁾，横田裕行，大泉 旭，金子直之²⁾，川嶋隆久³⁾，北野光秀⁴⁾，中島康雄⁵⁾，西巻 博⁶⁾，藤田 尚⁷⁾，益子邦洋⁸⁾ (1) 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター，²⁾ 防衛医科大学校病院救急部，³⁾ 神戸大学医学部附属病院救急部，⁴⁾ 済生会横浜市東部病院救命救急センター，⁵⁾ 聖マリアンナ医科大学放射線医学教室，⁶⁾ 北里大学病院救命救急センター，⁷⁾ 帝京大学救命救急センター，⁸⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：日本外傷学会臓器損傷2008 新しい腹部臓器損傷分類. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
 - 4) 横堀将司，田村益己¹⁾，増野智彦，荒木 尚，佐藤格夫，布施 明，辻井厚子，久志本成樹，横田裕行 (1) 東京消防庁委託研修生)：救命救急センターにおける高齢者心肺停止患者収容時の問題点. 日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009. 6.
 - 5) 畝本恭子¹⁾，黒川 顕¹⁾，牧 真彦¹⁾，上笹 宙¹⁾，近藤久禎¹⁾，望月 徹¹⁾，横田裕行 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター)：高齢者救急患者の出口問題：摂食障害と家族の疎遠. 日本臨床救急医学会総会・

学術集会 (第12回), 2009. 6.

- 6) 荒木 尚, 渡邊顕弘, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 減圧開頭術を必要とした頭部外傷を伴う小児多発外傷患者の治療戦略. 日本外科系連合学会学術集会 (第34回) (東京), 2009. 6.
- 7) 布施 明, 横堀将司, 荒木 尚, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行: 多数傷病者事案における当施設の対応と今後の検討. 病院前救急診療研究会 (第4回) (東京), 2009. 12.
- 8) 横田裕行: 脳死の診断に有力な補助検査. 改正臓器移植法に伴う臓器提供施設における諸問題のワークショップ (日本脳死・脳蘇生学会) (東京), 2010. 1.
- 9) 久志本成樹, 宮内雅人, 佐藤格夫, 金 史英, 辻井厚子, 増野智彦, 福田令雄, 白石振一郎, 横田裕行: 腹腔内・後腹膜出血合併ショック症例に対する治療: 開腹に先行するIVRには厳重な監視を. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- (9) 一般講演:
 - 1) Morishita K¹, Aiboshi J¹, Masuno T², Asakura T², Kioke K³, Kobayashi T⁴, Otomo Y¹ (¹ Tokyo Medical and Dental University, ² Nippon Medical School, ³ Kyoto University, ⁴ Ochanomizu University): Lipid Mediators in Mesenteric Lymph following Hemorrhagic Shock and their Biological Activities. Annual meeting of the American Association for the Surgery of Trauma (Pittsburg, USA), 2009. 8.
 - 2) Oizumi A: The Surgical Treatment of Acetabular Fractures Associated with Pelvic Ring Injuries. Asian Pacific Orthopaedic Association (The 3rd Trauma Session) (Taipei, Taiwan, Republic of China), 2009. 10.
 - 3) Yokobori S, Watanabe A, Nakae R, Matsumoto G, Onda H, Sato N, Masuno T, Fuse A, Kushimoto S, Yokota H: Continuous Measurements of Cerebral Perfusion and Brain Metabolism in Severe Head Injury The usefulness of microdialysis for determination of optimal cerebral perfusion pressure. 2nd International Congress of Asia Oceania Neurotrauma Society (Tokyo), 2010. 3.
 - 4) Unemoto K¹, Yokota H, Watanabe A, Nomura R², Daijiroh M², Takumi I², Kurokawa A¹, Teramoto A² (¹ Depart. of Critical Care Medicine, Musashikosigi hospital, Nippon Medical School, ² Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School): Efficacy of intracranial pressure monitoring and hypothermia therapy for progressive traumatic intradural mass lesions. 2nd international congress of Asia Oceania neurotrauma society (Tokyo), 2010. 3.
 - 5) Araki T, Nakamura N¹, Yokota H, Sakamoto T², Tasaki O³, Miyake Y⁴, Katayama Y⁵, Kawai N⁶, Tokutomi T⁷, Fujii M (¹ Jikei University, ² Teikyo University, ³ Osaka University, ⁴ Showa University, ⁵ Nihon University, ⁶ Kagawa University, ⁷ Yamaguchi University): A new classification of head injury - the work group report. 2nd international congress of Asia Oceania neurotrauma society (Tokyo), 2010. 3.
 - 6) Tagami T¹, Tosa R¹, Hirama H¹, Yonezawa K¹, Omura M¹, Akiyama G¹, Masuno T, Yamamoto Y², Kushimoto S, Yokota H (¹ Aizu Chuo Hospital, ² Tokyo Rinkai Hospital): A prospective pilot study of the effect of neutrophil elastase on the pulmonary vascular permeability in patients with pneumonia. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (30th) (Brussels, Belgium), 2010. 3.
 - 7) 朱 然, 増野智彦, 朝倉隆之, 白石振一郎, 佐藤格夫, 横田裕行: マイクロダイアリシスを用いた出血性ショック後腸管上皮代謝物の経時的測定. 学校法人日本医科大学外国人留学生研究会 (第20回), 2010. 1.
 - 8) 阪本雄一郎¹, 益子邦洋¹, 小幡 徹², 横田裕行 (¹ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ² 微生物化学研究会 微生物化学研究センター): Plymixin B-immobilized fiber colum-direct hemoperfusion (PMX-DHP) の適応基準としての endotoxin scattering photometry 法によるエンドトキシン値の有用性. 日本エンドトキシン研究会 (第15回),

- 9) 横堀将司, 渡邊頭弘, 恩田秀賢, 増野智彦, 佐藤格夫, 荒木 尚, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行: 多発外傷合併重症頭部外傷における治療成績の変遷: JNTDB Project1998及びProject2004登録症例からの検討. 日本神経外傷学会(第32回)(下関), 2009. 4.
- 10) 久志本成樹¹⁾, 丸藤 哲²⁾, 齋藤大蔵²⁾, 小倉裕司²⁾, 池田寿昭²⁾, 石倉宏恭²⁾, 射場敏明²⁾, 上山昌史²⁾, 江口豊²⁾, 大友康裕²⁾, 岡本好司²⁾, 小関一英²⁾, 真弓俊彦²⁾, 遠藤重厚²⁾, 島崎修次²⁾ (1) 日本医科大学 救急医学, 2) 日本救急医学会DIC特別委員会: 急性期DIC診断基準による感染症と外傷を基礎疾患とするDIC症例の比較. 日本外科学会学術集会(第109回)(福岡), 2009. 4.
- 11) 稲垣栄次¹⁾, 根本香代¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 石之神小織¹⁾, 久保田稔²⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室: カンナビノイドCB1受容体拮抗薬rimonabantのエンドトキシン血症モルモットに対する効果. 日本Shock学会総会(第24回), 2009. 5.
- 12) 久志本成樹, 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行, 田島廣之: 骨盤骨折に伴う外腸骨動脈“pseudostenosis”の1例. 日本外傷学会(第23回), 2009. 5.
- 13) 佐藤格夫, 福田令雄, 白石振一郎, 小川太志¹⁾, 岩瀬史明²⁾, 尾本健一郎³⁾, 田上 隆⁴⁾, 岡田一郎⁵⁾, 牧 真彦, 諸江雄太, 小井土雄一⁶⁾, 松本 尚, 加地正人⁷⁾, 久志本成樹, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター, 2) 山梨県立中央病院救命救急センター, 3) 武蔵野赤十字病院救命救急センター, 4) 会津中央病院救命救急センター, 5) いわき市立磐城共立病院救命救急センター・外科, 6) 国立病院機構災害医療センター救命救急センター, 7) 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター: 外傷における外傷手術手技修練の必要性と若手外傷外科医師育成の取り組み. 日本外傷学会(第23回), 2009. 5.
- 14) 大嶽康介, 佐藤格夫, 福田令雄, 白石振一郎, 山本昌督, 増野智彦, 宮内雅人, 辻井厚子, 久志本成樹, 横田裕行: マクロアミラーゼ血症を伴った腹部鈍的外傷の1例. 日本外傷学会(第23回), 2009. 5.
- 15) 宮内雅人, 佐藤格夫, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 受傷機転と胸部X線にて横隔膜損傷が疑われたがCTにて横隔膜弛緩症と診断した1例. 日本外傷学会(第23回), 2009. 5.
- 16) 久志本成樹, 宮内雅人, 増野智彦, 佐藤格夫, 白石振一郎, 福田令雄, 山本昌督, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行, 田島廣之: 外傷性心胸に対するTAEの適応を考える: 自験例からの解析. 日本外傷学会(第23回)(大阪), 2009. 5.
- 17) 小川知也¹⁾, 澤頭正司¹⁾, 野村香司¹⁾, 田村益己¹⁾, 嘉村洋志, 恩田秀賢, 佐藤格夫, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (1) 東京消防庁: 多数傷病者発生時における先着救急隊の円滑な活動についての検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会(第12回), 2009. 6.
- 18) 布施 明, 嘉村洋志, 白石振一郎, 横堀将司, 増野智彦, 荒木 尚, 宮内雅人, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 災害医療に係る法的諸問題. 日本臨床救急医学会総会・学術集会(第12回), 2009. 6.
- 19) 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 松本 尚¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター: Japan Trauma Data Bank (JTDB) のデータからみた外傷症例における病院前診療の有用性についての検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会(第12回), 2009. 6.
- 20) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター: 蘇生後脳症における頭部CTの検討. 日本脳死・脳蘇生学会(第22回), 2009. 6.
- 21) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター: 穿頭術による脳損傷の救命. 日本脳死・脳蘇生学会(第22回), 2009. 6.
- 22) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝¹⁾, 小川太志¹⁾, 田上正茂¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 山本雅博²⁾, 山本一美²⁾, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター, 2) 川口市立医療センター病理: 死因究明における死後CTの有用性: 25例の病理解剖と死後CTの比較検討から. 日本脳死・脳蘇生学会(第22回), 2009. 6.
- 23) 森 洵子¹⁾, 平田清貴¹⁾, 大下順子¹⁾, 片山志郎¹⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学附属病院薬剤部: 高度救命救急センターにおける薬学的管理システム: 薬剤管理指導業務の位置づけ. 医療薬学フォーラム2009クリニカル

ファーマシーシンポジウム（第17回），2009. 7.

- 24) 増野智彦：秋葉原ビル建築現場火災. Doctor Car 検討会（東京），2009. 7.
- 25) 中江竜太，恩田秀賢，横堀将司，布施 明，久志本成樹，横田裕行：心停止蘇生後に対する脳低温療法の治療成績. 日本救命医療学会総会・学術集会（第24回），2009. 9.
- 26) 高山泰広¹⁾，小関一英¹⁾，直江康孝¹⁾，小川太志¹⁾，田上正茂¹⁾，加茂 潤¹⁾，山本雅博²⁾，坂田一美²⁾，横田裕行（¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター，²⁾ 川口市立医療センター病理）：死因究明における死後CTの有用性：25例の病理解剖と死後CTの比較検討から. 日本救命医療学会総会・学術集会（第24回），2009. 9.
- 27) 横田裕行：小児脳死判定の実際と臓器提供施設の諸問題. 心サポート第28回公開講演会（東京），2009. 10.
- 28) 横堀将司，渡邊顕弘，中江竜太，恩田秀賢，増野智彦，佐藤格夫，布施 明，久志本成樹，横田裕行，寺本明¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 脳神経外科）：重症頭部外傷急性期管理における至適脳灌流圧：マイクロダイアリスを用いた脳循環代謝モニタリングからの検討. 日本脳神経外科学会総会（第68回）（東京），2009. 10.
- 29) 久志本成樹¹⁾，福冨教偉²⁾，田中秀治³⁾，西山謹吾⁴⁾，鹿野 恒⁵⁾，杉谷 篤⁶⁾，古川博之⁷⁾，中山恭伸⁸⁾，菊池雅美⁸⁾（¹⁾ 日本医科大学 救急医学，²⁾ 大阪大学，³⁾ 国士館大学，⁴⁾ 高知赤十字病院，⁵⁾ 市立札幌病院，⁶⁾ 藤田保健衛生大学，⁷⁾ 北海道大学，⁸⁾ 日本臓器移植ネットワーク）：脳死臓器提供時における提供病院への支援体制をどのようにするか. 日本救急医学会学術集会（第37回）（盛岡），2009. 10.
- 30) 福田令雄，嘉村洋志，萩原 純，横堀将司，増野智彦，布施 明，横田裕行：病院前現場活動における動画システムの意義：ヘルメット装着型小型ビデオカメラの有用性. 日本救急医学会総会（第37回）（盛岡），2009. 10.
- 31) 福田令雄，佐藤格夫，増野智彦，久志本成樹，横田裕行：感染性腭壊死に対して経後腹膜のnecrosectomyを施行したACSを伴う重症急性肺炎の1例. Acute Care Surgery 研究会（第1回）（東京），2009. 10.
- 32) 増野智彦，重村朋子，嘉村洋志，萩原 純，苛原隆之，横堀将司，近藤久禎，荒木 尚，布施 明，横田裕行：現場出場型医療活動に伴う心的外傷：心的ストレス軽減のためのシステム構築を目指して. 日本救急医学会総会（第37回）（盛岡），2009. 10.
- 33) 宮内雅人，久志本成樹，平田清貴¹⁾，林田真喜子²⁾，大野曜吉²⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部，²⁾ 日本医科大学法医学）：三環系抗うつ薬大量服用に対し血漿交換を行った1例. 日本中毒学会東日本地方会（第24回）（新潟），2010. 1.
- 34) 横堀将司，萩原 純，嘉村洋志，田邊晴山，増野智彦，近藤久禎，加藤 歩¹⁾，青山雅一¹⁾，前原 誠¹⁾，前佛享広¹⁾，小井土雄一，布施 明，横田裕行，山本保博²⁾（¹⁾ 東京消防庁 日本医大委託研修生，²⁾ 東京臨海病院）：ドクターカーによる災害現場出場の有用性と問題点：東京DMAT出場事例からの検討. 日本集団災害医学会総会・学術集会（第15回）（千葉），2010. 2.
- 35) 磯谷栄二¹⁾，横堀将司²⁾，米田 浩²⁾，堀江信貴²⁾，北澤康秀²⁾，永田 泉²⁾，鈴木倫保²⁾，松居 徹²⁾，横田裕行²⁾，大野喜久郎²⁾（¹⁾ 東京医科歯科大学医学部付属病院救命救急センター，²⁾ SAH PiCCO study Group）：くも膜下出血後の循環動態の解析に関する多施設共同研究：preliminary report. 日本脳神経外科救急学会（第15回）（東京），2010. 2.
- 36) 荒木 尚¹⁾，師田信人¹⁾，横田裕行，李 政勲¹⁾（¹⁾ 成育医療センター脳神経外科）：小児脳死判定における諸問題：脳血流測定の意義について. 日本脳神経外科救急学会（第15回）（東京），2010. 2.
- 37) 田中知恵，白石振一郎，渡邊顕弘，松本 学，島本 実，金 史英，小澤由希子¹⁾，川井 真，久志本成樹，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科）：高度救命救急センター内で発症した深部静脈血栓症例の検討. 日本救急医学会関東地方会（第60回），2010. 2.
- 38) 藪野雄太，松本 学，渡邊顕弘，恩田秀賢，横堀将司，布施 明，横田裕行：滑膜肉腫の頭蓋内転移による脳出血を来した1例. 日本救急医学会関東地方会（第60回），2010. 2.
- 39) 阪本雄一郎¹⁾，益子邦洋¹⁾，西本哲也²⁾，富永 茂³⁾，横田裕行（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センタ

- 一, ²⁾ 日本大学工学部, ³⁾ 日本大学理工学部) : 医工学連携による総合的交通事故調査体制について. 日本救急医学会関東地方会 (第60回), 2010. 2.
- 40) 本村友一¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 西本哲也²⁾, 富永 茂³⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, ³⁾ 日本大学理工学部機械工学科) : 軽微な車両損傷の交通外傷にて受傷した心損傷の1例 交通外傷傷病者と交通車両破損状況の研究. 日本救急医学会関東地方会 (第60回), 2010. 2.
- 41) 原田将太, 田中俊尚, 小原良規, 内川 健, 大泉 旭, 恩田秀賢, 小川太志¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 林 励治¹⁾, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行 (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター) : 比較的良好な機能予後を得た小児不安定型骨盤骨折の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第60回), 2010. 2.
- 42) 久志本成樹 : 脳死臓器提供時の提供病院への支援体制. 臓器提供時のドナー評価・管理, 摘出手術時の呼吸循環管理に関する報告会・意見交換会 (東京), 2010. 2.
- 43) 福田令雄, 萩原 純, 横堀将司, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 : 病院前現場活動における動画システムの意義. 日本集団災害医学会 (第15回) (千葉), 2010. 2.
- 44) 恩田秀賢, 布施 明, 渡邊顕弘, 松本 学, 横堀将司, 佐藤格夫, 辻井厚子, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行 : 二度脳低温療法を施行し救命し得た重傷頭部外傷に外傷性脳動脈瘤破裂を合併した1例. 日本救急医学会関東地方会 (第60回) (東京都), 2010. 2.
- 45) 増野智彦, 重村朋子, 萩原 純, 横堀将司, 荒木 尚, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行 : 秋葉原無差別殺傷事件に伴う災害救援者の心的外傷. 第日本集団災害医学会総会 (15回) (千葉), 2010. 2.
- 46) 森下幸治¹⁾, 相星淳一¹⁾, 増野智彦, 小池 薫²⁾, 小林哲行³⁾, 横田裕行, 大友康裕¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学救命救急センター, ²⁾ 京都大学救急医学, ³⁾ お茶の水女子大学理学部) : 出血性ショック後の腸間膜リンパ液の脂質メデエータとCA2+非依存性ホスホリパーゼA2. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 47) 細川雄亮¹⁾, 山本 剛¹⁾, 村井綱児¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 時田雄吉¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 横田裕行, 水野杏一²⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科) : 沖ノ鳥島近海の船上で心停止になるも, 迅速な搬送とPCIを含めた集中治療により独歩退院したAMIの1例. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 48) 佐藤格夫, 嘉村洋志, 苛原孝之, 竹ノ下尚子, 辻本雄太, 朱 然, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行 : n-3系脂肪酸, γ -リノレン酸, 抗酸化物質を強化した栄養剤を投与時の血漿脂肪酸分画の動態解析. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 49) 竹ノ下尚子, 佐藤格夫, 白石振一郎, 田中知恵, 朱 然, 辻井厚子, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行 : 重症急性肺炎患者に対する重症度別の早期経腸栄養可否に関する検討. 日本集中医療学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 50) 高島伸之介¹⁾, 高山泰広¹⁾, 直江康孝¹⁾, 横田裕行²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 桑本健太郎²⁾, 寺本 明³⁾, 喜多村孝幸³⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 受傷機転からみた頭部外傷の重症度. 日本脳神経外傷学会 (第33回) (東京), 2010. 3.
- 51) 宮内雅人, 久志本成樹, 横田裕行 : 消化管出血における悪性疾患についての検討. 日本腹部救急医学会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 52) 久志本成樹, 福寫教偉¹⁾, 田中秀治²⁾, 西山謹吾³⁾, 鹿野 恒⁴⁾, 杉谷 篤⁵⁾, 古川博之⁶⁾, 中山恭伸⁷⁾, 菊池雅美⁷⁾ (¹⁾ 大阪大学, ²⁾ 国士舘大学, ³⁾ 高知赤十字病院, ⁴⁾ 市立札幌病院, ⁵⁾ 藤田保健衛生大学, ⁶⁾ 北海道大学, ⁷⁾ 日本臓器移植ネットワーク) : 脳死下臓器提供における提供施設への支援体制をどのようにするか. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 53) 久志本成樹, 篠沢洋太郎, 平 泰彦, 北澤康秀, 奥地一夫, 坂本照夫, 石倉宏恭 : 急性肺水腫の定量的評価に

よる病態解析に関する多施設共同前向き試験：中間解析概要．日本集中治療医学会学術集会（第37回）（広島），2010．3．

(10) コンペディション：

- 1) 増野智彦：出血性ショック後に生じる臓器不全と腸管リンパ液の関与．Young Investigators Supporting Critical Care Conference（第1回）（千葉），2009．6．

(11) ポスター：

- 1) 辻井厚子，横堀将司，宮内雅人，福田令雄，田邊晴山，田中俊尚，辻本雄太，横田裕行：当施設における患者入室時間帯の検討：3次救急施設の人員配置に関する考察．日本臨床救急医学会総会・学術集会（第12回），2009．6．
- 2) 増野智彦，近藤久禎，宮内雅人，久志本成樹，川井 真，横田裕行：プレホスピタルにおける非観血的一酸化炭素モニターを用いた一酸化炭素中毒患者の早期発見．日本中毒学会総会・学術集会（第31回），2009．7．
- 3) 山田章善¹⁾，宮内雅人，白石振一郎，中江竜太，内川 健，岸野重紀子，田中知恵，原田将太，横田裕行（¹⁾ 付属病院研修医）：三環系抗うつ薬大量服用に対し血漿交換を行い救命しえた1例．日本医科大学医学会総会（第77回），2009．9．
- 4) 羽田朋人¹⁾，福田令雄，横堀将司，宮内雅人，田中俊尚，萩原 純，辻本雄太，竹ノ下尚子，横田裕行（¹⁾ 付属病院研修医）：院外心原性心肺停止患者に対しPCPSと脳低温療法の早期導入にて良好な経過を得た1例．日本医科大学医学会総会（第77回），2009．9．
- 5) 成田宏介¹⁾，渡邊顕弘，島本 実，恩田秀賢，佐藤格夫，宮内雅人，辻井厚子，布施 明，川井 真，久志本成樹，横田裕行，中塚雄久²⁾，小杉友紀²⁾（¹⁾ 付属病院研修医，²⁾ 付属病院内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門））：芍薬甘草湯長期服用により低カリウム血症と横紋筋融解症を来した1例．日本医科大学医学会総会（第77回），2009．9．
- 6) 山本良也¹⁾，原 敬介¹⁾，渋谷偉織¹⁾，横堀将司，白石振一郎，恩田秀賢，中江竜太，渡邊顕弘，横田裕行（¹⁾ 付属病院研修医）：救命し得た外傷性椎骨動脈解離の1例．日本医科大学医学会総会（第77回），2009．9．

(12) ポスターセッション：

- 1) 荒木 尚，北蘭雅敏，渡邊顕弘，恩田秀賢，横堀将司，布施 明，横田裕行，寺本 明¹⁾（¹⁾ 日本医科大学脳神経外科）：小児重症頭部外傷による頭蓋内圧亢進の長期予後と予後決定因子：頭蓋内圧モニタリングを基にした集学的治療戦略の総括．日本小児神経外科学会（第37回），2009．6．

(13) 共通シンポジウム：

- 1) 田原良雄¹⁾，長尾 建²⁾，浅井康文³⁾，長谷 守³⁾，奈良 理³⁾，渥美生弘，福田令雄，上田敬博⁴⁾，國分宣明⁵⁾，上妻 謙⁶⁾，森村尚登⁶⁾，坂本哲也⁶⁾（¹⁾ 横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター，²⁾ 駿河台日本大学病院循環器科・心脳蘇生・救急心血管治療，³⁾ 札幌医科大学附属病院高度救命救急センター，⁴⁾ 兵庫医科大学救命救急センター，⁵⁾ 国立循環器病センター心臓血管内科部門（CCU），⁶⁾ 帝京大学医学部附属病院救命救急センター）：院外心停止に対するE-CPRの効果．日本外科系連合学会学術集会（第34回），2009．6．

(14) 教育シンポジウム：

- 1) 久志本成樹，佐藤格夫，増野智彦，宮内雅人，福田令雄，白石振一郎，川井 真，横田裕行：体幹部外傷における外傷手術手技修練のための教室における取り組み．日本外科系連合学会学術集会（第34回），2009．6．

(15) 講義：

- 1) 横田裕行：脳血管障害．日本看護協会看護研修学校平成21年度授業「病態とケア（II）—救急領域における主要な病態生理」，2009．7．

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

当科は少数スタッフで構成される、ICU10床の新型救命救急センターで、一般病床15床前後も有効に稼働して年間700～800例の3次救急対象症例を扱っている。常に厳しい医療制度と高齢社会を中心とした社会問題に直面しており、施設の課題のひとつとして患者受け入れの後の所謂“出口問題”をかかえている。

また、限られたICU病床を最大限に利用し、重症熱傷、重症特殊感染症、重症脳損傷、多発外傷症例などを扱い、臨床研究を行う一方、これらの疾患の管理上、最重点課題である抗菌薬使用のコントロールについても研究している。

今年度は、1) 重症熱傷；Ⅱ度熱傷、あるいは植皮後の感染創のコントロール、上皮化の補助としての銀イオン含有被覆材の有効利用、2) 中枢神経疾患：重症脳損傷、頭部外傷に対する手術適応と脳低温療法併用の再検討、3) 感染制御チーム（ICT）による特定抗菌薬届け出制を確立し、ICUでの耐性菌出現を有意に抑制した実績、4) 救急医、あるいは救急医療施設の今後の在り方と教育、などについて発表した。また、今後救急施設に搬送される高齢者、重度後遺症障害者の終末期医療の一面としての出口問題に関する検討も行い、社会制度の変化を見込んだデータを発信する予定である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 望月 徹：市中肺炎. 救急医学 2009；33（10）：1283-1286.
- 2) 畝本恭子, 横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：脳症状を呈する救急疾患の初療の現状と展望. Brain and Nerve 2010；62（1）：35-42.

(2) 総説：

- 1) 黒川 顕：本学会の30回記念鼎談の座長をして. 中毒研究 2009；22：109-112.
- 2) 黒川 顕：エディトリアル 編集にあたって（内科エマージェンシー 病態生理の理解と診療の基本）. 救急医学 2009；33：1117-1117.
- 3) 畝本恭子：急性散在性脳脊髄炎. 救急医学 2009；33（10）：1159-1162.
- 4) 黒川 顕：法人化までの経緯と法人化の意義, 法人化で変わる事. 中毒研究 2010；23：83-84.

(3) 症例報告：

- 1) 畝本恭子：事例でみるJATECTM. エマージェンシー・ケア 2009；22（4）：340-346.

著書

- 1) 黒川 顕：〔分担〕硫化水素中毒. 今日の治療指針, 2010；pp145-145, 医学書院.
- 2) 畝本恭子：〔分担〕脊髄損傷. 今日の治療指針, 2010；pp46-46, 医学書院.
- 3) 畝本恭子：〔分担〕救急時カテコールアミン投与方法. 今日の治療指針2010, 2010；pp84-84, 医学書院.
- 4) 望月 徹, 宮内雅人¹⁾, 平田清貴²⁾, 平野公晟²⁾, 黒川 顕, 山本保博³⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ³⁾ 東京臨海病院病院長）：〔分担〕診療科薬品集. 救急治療・薬剤ハンドブック第5版, 2010；株式会社じほう.
- 5) 畝本恭子：〔分担〕脳保護療法・脳低温療法. 救急・集中治療医学レビュー2010, 2010；pp97-102, 総合医学社.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 畝本恭子, 黒川 顕, 牧 真彦, 上笹 宙, 近藤久禎, 望月 徹, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：高齢者救急患者の出口問題：摂食障害と家族の疎遠. 日本臨床救急医学会総会 (第12回), 2009. 6.

(2) 一般講演：

- 1) 望月 徹, 野口周作¹⁾, 鈴木憲康²⁾, 土金なおみ³⁾, 山口朋禎⁴⁾, 西澤善樹⁵⁾, 渡辺昌則⁶⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 6) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：集中治療室における特定抗菌薬届出制とICT介入の有用性. 日本感染症学会総会 (第83回), 2009. 4.
- 2) 野口周作¹⁾, 島田慰彦¹⁾, 望月 徹²⁾, 土金なおみ³⁾, 菅谷量俊⁴⁾, 片岡博邦¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センターICT, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部ICT, 4) 日本医科大学多摩永山病院薬剤部)：特定抗菌薬届制による薬剤適正使用効果. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第38回), 2009. 8.
- 3) 白壁章宏¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 川口直美¹⁾, 内田高浩¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 黒川 顕 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：運転中に心停止となり交通事故を起こすも適切なchain of survivalで社会復帰をしたAMIの1例. 日本救命医療学会総会 (第24回), 2009. 9.
- 4) 畝本 (猪鹿倉) 恭子, 渡邊顕弘¹⁾, 野村竜太郎²⁾, 森本大二郎²⁾, 太組一朗²⁾, 高橋 弘³⁾, 黒川 顕, 横田裕行¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：脳挫傷症例に対する外減圧術決定因子と術前低温療法の効果. 日本脳神経外科学会総会 (第68回), 2009. 10.
- 5) 畝本恭子, 牧 真彦, 上笹 宙, 近藤久禎, 望月 徹, 黒川 顕, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：偶発性低体温症の臨床的検証. 日本救急医学会総会 (第37回), 2009. 10.
- 6) 遠藤広史：レジオネラ肺炎の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第60回), 2010. 2.

(3) Poster：

- 1) Unemoto K, Yokota H¹⁾, Watanabe A¹⁾, Nomura R²⁾, Morimoto D²⁾, Takumi I²⁾, Kurokawa A, Teramoto A²⁾ (1) Department of Criticalcare medicine, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Hospital)：Efficacy of intracranial pressure monitoring and hypothermia therapy for progressive traumatic intradural mass lesions. International congress of asia oceania neurotrauma society (the 2nd) (Tokyo, Japan), 2010. 3.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設は多摩地区の3次救急医療施設として多発外傷、頭部外傷、整形外科外傷、熱傷、虚血性心疾患、脳血管障害、薬物中毒、災害医療と多岐に渡る患者に対して、それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療に当たるとともに、併せて各分野での臨床研究をおこなっている、重症患者における循環動態モニタリング、頭部外傷に対する低体温療法、脳梗塞急性期に対するt-PAの投与、血栓溶解法、多発性外傷に対するダメージコントロール、心肺停止後の低体温療法などに取り組んでいる。また、病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している。臨床研究のほかエンドトキシン血症モデルモルモットを用いた基礎研究も継続して行っており、結果を学会発表、誌上发表している。また、災害医療に関しても国内、海外への派遣に積極的に参加している。その他、東京消防庁等からの要請によりドクターアンビュランスによる救急現場出動や地域救急医療

センターとして東京ルールに積極的に参加している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kuno M, Nemoto K, Ninomiya N, Inagaki E, Kubota M¹⁾, Matsumoto T²⁾, Yokota H (¹⁾ Department of Clinical Laboratory Nippon Medical School, ²⁾ Pharmaceutial Research Division, Takeda PharmaceutialCo. Ltd, Osaka) : The Novel Selective Toll-Like Receptor 4 Signal Transduction Inhibitor Tak-242 Prevents Endotoxaemia in Conscious Guinea-Pigs. *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology* 2009 ; 36 (5/6) : 589-593.
- 2) Inagaki E, Nemoto K, Ninomiya N, Ishinokami S, Kubota M¹⁾, Yokota H (¹⁾ 日本医科大学中央検査室) : Rimonabant, a specific antagonist of the cannabinoid CB1-receptor, prevents lipopolysaccharide-induced endotoxemia in awake guinea pigs. *日本救急医学会総会雑誌 (JJAAM)* 2010 ; 21 (3) : 118-125.

(2) 総説：

- 1) 中野渡雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 根本香代²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 日本伝統医療科学大学院大学機能系研究室) : 敗血症モデルに対するPMX-DHPの有効性：ナファモスタットメシル塩酸の影響. *Surgery Frontier* 2009 ; 16 (2) : 128-133.

著書

〔追加分〕

追加分著者：

- 1) 二宮宣文：〔分担〕災害外科と戦場外科. グローバル災害看護マニュアル 災害現場における国際支援活動 (NPO災害人道支援会・災害看護研修委員会), 2007 ; pp136-143, 真興交易医書出版部.
- 2) 二宮宣文：〔分担〕日本における災害医療の教育コースのすべて. 別冊Ermagazine (編集顧問 有賀 徹他), 2008 ; pp262-265, シービーアール.
- 1) 諸江雄太：〔分担〕2次救命処置 除細動. *Expert Nurse Guide* (勝見 敦 佐藤憲明), 2009 ; pp134-139, 照林社.
- 2) 諸江雄太：〔分担〕疾患別急変対応 呼吸器系疾患. *Expert Nurse Guide* (勝見 敦 佐藤憲明), 2009 ; pp304-312, 照林社.
- 3) 二宮宣文：〔分担〕知っておきたい救急用語 (7) ドクターカー . 近代消防 (編集 堂端千秋), 2010 ; pp168-169, 近代消防社.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 二宮宣文：Collaboration and Coordination for Disaster Medicine at the Sence (Voluntary Aid Coordination). 9th APCDMThe 9th Asia Pacific Conferenceon Disaster Medicine (第9回) (韓国), 2008. 11.
- 2) 橋とも子¹⁾, 二宮宣文, 山口孝治²⁾, 高桑大介³⁾, 吉岡留美⁴⁾, 関根和弘⁵⁾, 佐藤 潤⁶⁾ (¹⁾ 日本保健医療科学院人材育成部, ²⁾ 医療法人社団青虎会フジ虎ノ門整形外科病院外傷・救急センター, ³⁾ 武蔵野赤十字病院事務部, ⁴⁾ 特定非営利活動法人災害人道医療支援会, ⁵⁾ 野田市消防本部, ⁶⁾ 沼津市消防本部) : 健康危機管理保健所長研修における災害シュミレーション演習の導入・評価. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第14回), 2008. 12.

(1) シンポジウム：

- 1) 横田裕行, 畝本恭子, 布施 明, 直江康孝, 荒木 尚, 榎本健太郎, 高山康広, 横堀将司, 恩田秀賢, 渡邊頭弘：頭部外傷を伴う多発性外傷救命のために（「神経外傷を伴う多発性外傷患者の治療ストラテジー」：頭部・脊髄損傷を伴う多発性外傷患者の治療戦略）. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
- 2) 佐藤格夫¹⁾, 久志本秀樹¹⁾, 加地正人²⁾, 岡田一郎, 尾本健一郎, 松本 尚, 諸江雄太, 牧 真彦, 田上 隆, 小川大志, 岩瀬史明, 増野智彦, 苛原隆之, 小井土雄一³⁾, 大友康裕⁴⁾, その他2名（¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学付属病院救命救急センター, ³⁾ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター, ⁴⁾ 東京医科歯科大学大学院救急災害医学）：胸腹部外傷手術症例数不足の現状と次世代の外傷外科医師教育という課題. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.
- 3) 佐藤格夫¹⁾, 久志本秀樹¹⁾, 加地正人²⁾, 岡田一郎, 尾本健一郎, 松本 尚, 諸江雄太, 牧 真彦, 田上 隆, 小川大志, 岩瀬史明, 増野智彦, 苛原隆之, 小井土雄一³⁾, 大友康裕⁴⁾, その他2名（¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学付属病院救命救急センター, ³⁾ 独立行政法人国立病院機構災害医療センター, ⁴⁾ 東京医科歯科大学大学院救急災害医学）：胸腹部外傷手術症例数不足の現状と次世代の外傷外科医師教育という課題. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 鈴木健介, 二宮宣文, 久野将宗, 諸江雄太, 石之神小織, 榎本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 稲垣栄次, 磐井佑輔：当院における救急救命士病院実習プログラムの開発と検討. 日本救急医学会関東地方会（第60回），2010. 2.
- 2) 佐藤格夫¹⁾, 福田令雄¹⁾, 白石振一郎¹⁾, 小川太志²⁾, 岩瀬史明³⁾, 尾本健一郎⁴⁾, 田上 隆⁵⁾, 岡田一郎⁶⁾, 牧真彦¹⁾, 諸江雄太¹⁾, 小井戸雄一⁷⁾, 松本 尚¹⁾, 加地正人⁸⁾, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学救命救急センター, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ³⁾ 山梨中央病院救命救急センター, ⁴⁾ 武蔵野赤十字救命救急センター, ⁵⁾ 会津中央病院救命救急センター, ⁶⁾ いわき市立磐城共立病院救命救急センター, ⁷⁾ 国立病院機構災害医療センター救命救急センター, ⁸⁾ 東京医科歯科大学付属病院救命救急センター）：外傷における外傷手術技修練の必要性和若手外傷外科医師育成の取り組み. 日本外傷学会（第23回），2009. 5.
- 3) 稲垣栄次, 根本香代, 二宮宣文, 中野渡雄一, 石之神小織, 久保田稔¹⁾, 横田裕行²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院中央検査室, ²⁾ 日本医科大学救急医学教室）：カンナビノイドCB1受容体拮抗薬rimonabantのエンドトキシン血症モルモットに対する効果. 日本Shock学会総会（第24回），2009. 5.
- 4) 石之神小織, 二宮宣文, 根本香代, 稲垣栄次, 鈴木健介, 中野渡雄一, 原 俊輔, 久野将宗, 横田裕行¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：覚醒モルモットにおけるlipopolysaccharide 静脈内持続投与の影響. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.
- 5) 久野将宗, 二宮宣文, 石井達男¹⁾（¹⁾ 白鬚橋病院）：国際救急搬送におけるMedical Control Systemの構築. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.
- 6) 二宮宣文, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 榎本健太郎, 小柳正雄, 原 俊輔, 久野将宗, 北橋章子, 稲垣栄次, 鈴木健介：ドクターアンビュランス（DA）の5年間の活動と今後の展望. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.
- 7) 鈴木健介, 二宮宣文, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 榎本健太郎, 小柳正雄, 原 俊輔, 久野将宗, 北橋章子, 稲垣栄次：ドクターアンビュランス搭載資材の検証. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.
- 8) 二宮宣文, 根本香代¹⁾, 石之神小織, 鈴木健介, 久保田稔, 横田裕行²⁾（¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院, 日本伝統医療大学院大学, ²⁾ 日本医科大学救急医学教室）：エンドトキシン血症の発症におけるcycooxygenase-2の関与. 日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009. 10.
- 9) 諸江雄太, 二宮宣文, 中野渡雄一, 久保田稔¹⁾, 久野将宗, 榎本健太郎, 小柳正雄, 稲垣栄次, 原 俊輔, 石

之神小織, 北橋章子¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院中央検査室): [人の目] で診断するプロカルシトニンキットの正確さと限界: 検査項目はもっと簡単でも良いかもしれない. 日本救急医学会総会・学術集会 (第37回), 2009. 10.

- 10) 久野将宗, 久保田稔¹⁾, 諸江雄太, 磐井佑輔, 北橋章子, 原 俊輔, 小柳正雄, 榎本健太郎, 中野渡雄一, 二宮宣文¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院中央検査室): プロカルシトニン簡易迅速キット測定結果と抗生剤の投与状況について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第37回), 2009. 10.
- 11) 稲垣栄次, 二宮宣文, 中野渡雄一, 石之神小織, 小柳正雄, 諸江雄太, 原 俊輔, 久野将宗, 北橋章子: 骨盤骨折に対してガーゼパッキングを施行した治療経験. 日本救急医学会総会・学術集会 (第37回), 2009. 10.
- 12) 白川 透¹⁾, 田中秀治¹⁾, 高橋宏幸¹⁾, 前住智也¹⁾, 中尾亜美²⁾, 水本花子²⁾, 米倉 隆²⁾, 細川晃央³⁾, 鈴木健介¹⁾ 国士館大学大学院救急救命システムコース, ²⁾ 国士館スポーツ医科学科, ³⁾ 国士館大学ウエルネスリサーチセンター): 市民マラソン大会等のロードレースにおける心肺停止発生ポイントの分析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第37回), 2009. 10.
- 13) 山口孝治¹⁾, 井上潤一¹⁾, 小原真理子¹⁾, 関根和弘¹⁾, 高桑大介¹⁾, 中野京子¹⁾, 二宮宣文, 吉岡留美¹⁾ ¹⁾ 集団災害医学会セミナー委員会): 災害現場任教育における日本集団災害委員会セミナーの取り組み. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第15回), 2009. 12.
- 14) 石之神小織, 二宮宣文, 根本香代, 稲垣栄次, 久野将宗, 原 俊輔, 鈴木健介, 横田裕行¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学救急医学教室): エンドトキシン血症モルモットにおけるPMX-DHPsivelestart sodium同時適用の効果. エンドトキシン血症救命治療研究会 (第14回) (大阪), 2010. 2.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設した. その後, 平成8年11月に千葉県の基幹災害医療センターに, また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された. 平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され, 各種学会・研究会において活発な活動を行っている. 平成13年10月からは, 厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として, 千葉県及び茨城県南部で発生した広範囲熱傷, 薬物中毒, 重症外傷, 脳卒中, 急性冠症候群, 急性大動脈疾患など様々な重症患者に最適の初期治療を提供している. また中越地震などの大規模災害に対してもDMATチームが出動し, めざましい治療効果を挙げている.

教育活動としては, ACLS, BLS, ICLS, PALS, JATEC, JPTEC, DMATなどの標準医療教育システムの指導者を擁し, 救急救命士, 看護師, 医学生, 専門学生などへのベーシックおよびアドバンスの質の高い救急医療教育を提供するとともに, フライトクルーを目指す医療者のドクターヘリ搭乗教育にも力を入れている.

研究テーマは, 救急医療システム特に外傷診療のあり方に関する研究, ヘリコプターを活用した救命救急医療のもたらす医学的効果についての研究, 災害医療システムの研究, 新たな小児重症救急医療システムの構築に関する研究, 多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究, ショックに対する病態生理の解明ならびに新たな診断・治療手法の開発, 外傷患者に対するDamage Controlの効果に関する研究, 敗血症・多臓器不全の病態解明と血液浄化療法の効果に関する研究, 交通事故調査を中心とした外傷予防システムの研究, シミュレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究, メディカルコントロールに関する研究等, 多岐に渡っており, これらの研究成果を国内学会, 専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し, 広く内外に情報発信している.

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 松本 尚, その他11名：ドクターヘリの適正配備に向けた ground design の提示. 日本航空医療学会雑誌 2008 ; 9 (3) : 11-20.
- 2) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行²⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学 救急医学) : 内因性カンナビノイド (AEA, 2-AG) 等の敗血症関連因子からみた敗血症性ショック症例に対する PMMA-CHDF の有用性に関する検討. ICU と CCU 2009 ; 33 (別冊) : S10-S12.

追加分症例報告：

- 1) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Takei K, Saito N : A Case of Abdominal Aortic Injury Caused by a Traffic Accident. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (6) : 337-339.

追加分研究報告書：

- 1) 益子邦洋：ドクターヘリの病院間の連携，患者と医療資源の集約化への効果についての研究. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）救急医療体制の推進に関する研究（研究代表者 小濱啓次） 分担研究 ドクターヘリの病院間の連携，患者と医療資源の集約化への効果についての研究 2009 ; 2-15.
- 2) 益子邦洋：救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス研究事業）危機的出血に対する輸血ガイドライン導入による救命率変化および輸血ネットワークシステム構築に関する研究（主任研究者：順天堂・麻酔科学教授 稲田英一） 分担研究救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握 2009 ; 1-34.
- 3) 長江啓泰¹⁾, 小口 浩¹⁾, 金子正洋¹⁾, 清谷伸吾¹⁾, 倉田 潤¹⁾, 桜井 実¹⁾, 佐々木滋¹⁾, 田久保宣晃¹⁾, 棚橋方明¹⁾, 本田克也¹⁾, 益子邦洋, 山久瀬邦昭¹⁾, 米澤英樹¹⁾, 島 雅之¹⁾, 平澤崇裕¹⁾, その他1名 (¹⁾ 車両安全に係る調査分析検討会委員) : 平成20年度交通事故の分析調査に基づく車両安全対策の検討結果報告書. 国土交通省自動車交通局受託研究報告書 平成20年度交通事故の分析調査に基づく車両安全対策の検討結果報告書 2009 ; 1-175.
- 4) 益子邦洋¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 岡元雅義¹⁾, 小林誠一¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 外村潤二¹⁾, 福島 真¹⁾, 山崎 健¹⁾, 山田修司¹⁾ (¹⁾ 車両安全に係る調査分析検討会（人体障害データベース分析部会）委員) : 平成20年度人体障害データベース分析報告書. 国土交通省自動車交通局受託研究報告書 平成20年度人体障害データベース分析報告書 2009 ; 1-131.
- 5) 山口拓洋¹⁾, 益子邦洋, 猪口貞樹²⁾, 坂本照夫³⁾, 高橋 功⁴⁾ (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科, ²⁾ 東海大学医学部, ³⁾ 久留米大学医学部, ⁴⁾ 医療法人溪仁会手稲溪仁会病院 救急部) : 交通事故負傷者の入院日数と医療費に関するドクターヘリの効果. HEM - Net 研究 交通事故負傷者の入院日数と医療費に関するドクターヘリの効果 2009 ; 1-19.
- 6) 益子邦洋：ドクターヘリの病院間の連携，患者と医療資源の集約化への効果についての研究. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 救急医療体制の推進に関する研究 平成18年度～20年度 総合研究報告書 研究代表者 小濱啓次 2009 ; 93-107.
- 7) 益子邦洋：ドクターヘリの病院間の連携，患者と医療資源の集約化への効果についての研究. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 救急医療体制の推進に関する研究 平成20年度 総括・分担研究報告書 研究代表者 小濱啓次 2009 ; 133-146.

(1) 原著：

- 1) Matsumoto H, Mashiko K, Hara Y, Kutsukata N, Sakamoto Y, Takei K, Kanemaru K, Tomita Y, Saito N, Yagi T, Tetsu S, Iida H, Masuda Y, Koami H, Yokota H¹⁾ (1) Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Japan) : Role of resuscitative emergency field thoracotomy in the Japanese helicopter emergency medical service system. Resuscitation 2009 ; 80 : 1270-1274.
- 2) Matsumoto H, Mashiko K, Sakamoto Y, Kutsukata N, Hara Y, Yokota H : A new look at criteria for damage control surgery. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 13-20.
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋 : Japan Trauma Data Bank (JTDB) のデータからみた外傷症例における交通事故の現状とドクターヘリ搬送の有用性についての検討. 交通科学研究資料 第50集 2009 ; 96-97.
- 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学 救急医学) : 腹膜炎術後症例に対するPMX-DHPの施行タイミングおよび転帰予測因子に関する検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2009 ; 29 (5) : 729-733.
- 5) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 藤木直子^{1,2)}, 本村陽一^{2,3)}, 西田佳史^{2,3)}, 野口昭治¹⁾ (1) 東京理科大学, ²⁾ 産業技術総合研究所, ³⁾ 科学技術振興機構) : 日本外傷データバンク事例を用いた日本人の生存率予測モデルの開発. 2009年度人工知能学会全国大会論文集 2009 ; 3D2-NFC1-2.
- 6) 藤木直子^{1,2)}, 阪本雄一郎, 本村陽一^{2,3)}, 西田佳史^{2,3)}, 野口昭治¹⁾ (1) 東京理科大学, ²⁾ 産業技術総合研究所, ³⁾ 科学技術振興機構) : ベイジアンネットワークを用いた生存率予測モデルの統計的学習と評価. 2009年度人工知能学会全国大会論文集 2009 ; 3D2-NFC1-3.
- 7) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : 現場で測定可能なSIRS判定3項目における外傷重症度予測. 日本救命医療学会雑誌 2009 ; 23 : 51-55.
- 8) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜 (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部) : 急性期 disseminated intravascular coagulation (DIC) 診断基準による敗血症性ショック症例に対する antithrombin III 製剤早期投与の有用性. 日本集中治療医学会雑誌 2009 ; 16 (4) : 453-458.
- 9) 萩原章嘉¹⁾, 木村昭夫²⁾, 加藤 宏³⁾, 水島靖明⁴⁾, 松岡哲也⁴⁾, 武田宗和⁵⁾, 植嶋利文⁶⁾, 萩原佑亮²⁾, 阪本雄一郎, 工藤大介⁷⁾, 佐々木淳一⁷⁾ (1) 防衛医科大学校病院 救急部, ²⁾ 国立国際医療センター 救急部, ³⁾ 国立病院機構災害医療センター 救命救急センター, ⁴⁾ 大阪府立泉州救命救急センター, ⁵⁾ 東京女子医科大学救急医学, ⁶⁾ 近畿大学医学部 救急医学, ⁷⁾ 東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野) : 外傷によって生じた出血性ショックに対する初期輸液療法の反応と治療方針に関する研究 : 多施設共同前向き観察的研究. 日本外傷学会雑誌 2009 ; 23 (4) : 329-336.
- 10) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学 救急医学) : PMX-DHPによる敗血症関連因子の変化および収縮期血圧上昇との関連性についての検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2009 ; 13 (1) : 95-99.
- 11) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学 救急医学) : 急性期DIC診断基準による敗血症性DICと各種敗血症関連因子との相関. バイオメディカル 2009 ; 19 : 53-57.
- 12) 益子邦洋, 阪本雄一郎, 松本 尚 : 事故自動通報システム (ACN) とドクターヘリ体制で交通事故死亡ゼロを目指せ. 交通事故死傷者低減に向けた工学・医学の連携 自動車事故死傷者数を半減する ! 2009 ; 16-20.
- 13) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学) : PMXカラムの敗血症治療薬 (抗菌薬, γ グロブリン製剤) 吸着作用に関する検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2009 ; 30 (47) : 66-67.

- 14) 小網博之, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 瀬尾卓生, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): 馬関連外傷の検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2009; 30 (47): 144-145.
 - 15) 宮崎祐介¹⁾, 穴田賢二¹⁾, 西 貴士¹⁾, 立矢 宏¹⁾, 放生明廣¹⁾, 阪本雄一郎 (1) 金沢大学 工学部): 回転衝撃時における実形状頭部物理モデルの脳部せん断ひずみ. 自動車技術会2009年秋季大会学術講演会前刷集 2009; 136 (9).
 - 16) 穴田賢二¹⁾, 宮崎祐介¹⁾, 立矢 宏¹⁾, 放生明廣¹⁾, 阪本雄一郎 (1) 金沢大学 工学部): 実形状頭部物理モデルの脳部変形計測. 日本機械学会第21回バイオエンジニアリング講演会講演論文集 2009; 8 (53): 477-478.
 - 17) 山中嘉仁¹⁾, 宮崎祐介¹⁾, 穴田賢二¹⁾, 立矢 宏¹⁾, 放生明廣¹⁾, 阪本雄一郎 (1) 金沢大学 工学部): 同一形状の実験モデルによる頭部有限要素モデルの精度評価と脳挫傷メカニズムの検討. 日本機械学会第21回バイオエンジニアリング講演会講演論文集 2009; 8 (53): 479-480.
- (2) 総説:
- 1) 朽方規喜, 益子邦洋: 臓器損傷分類と消化器外科 横隔膜損傷分類2008. 消化器外科 2009; 32 (4): 495-497.
 - 2) 益子邦洋: 救急医の覚悟が問われる時代. アスカ21 2009; 18 (2): 10-11.
 - 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小網博之: フライトドクターによる現場救急診療の意義. 救急医学 2009; 33 (5): 529-531.
 - 4) 朽方規喜: VI 海外における病院前救急診療ドイツ: ドイツにおける病院前救急診療. 救急医学 2009; 33 (5): 597-600.
 - 5) 松本 尚: VI 海外における病院前救急診療 イギリス. 救急医学 2009; 33 (5): 589-591.
 - 6) 松本 尚: わが国における病院前救急診療の将来展望. 救急医学 2009; 33 (5): 605-607.
 - 7) 益子邦洋: 病院前救急診療の幕開け. 救急医学 2009; 33 (5): 497-497.
 - 8) 益子邦洋, 松本 尚, 阪本雄一郎: 事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステム. 2009年春季大会フォーラム 障害予測が事故死傷者数削減の壁を突破する! 2009; 14-18.
 - 9) 金丸勝弘, 松本 尚: メディカルコントロールと医療安全. 救急医学 2009; 33 (6): 713-718.
 - 10) 益子邦洋: 消防防災ヘリの積極的救急活用への期待. はばたき 2009; (13): 7-15.
 - 11) 益子邦洋: ドクターヘリの活用. 地域政策研究 2009; (47): 50-56.
 - 12) 益子邦洋: 大規模災害におけるドクターヘリの活用. 印旛市郡医師会報 2009; (48): 20-36.
 - 13) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明: 交通事故死傷者ゼロに向けた救助・医療の取り組み. 安全工学シンポジウム2009講演予稿集 2009; 48-51.
 - 14) 益子邦洋: 本質を見誤ったドクターヘリ導入の議論. アスカ21 2009; 18 (3): 10-11.
 - 15) 原 義明: 整形外傷-治療における - controversies - 内固定材料の抜去. 救急医学 2009; 913-917.
 - 16) 朽方規喜, 益子邦洋, 平井恭二¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 胸部心臓血管外科): 自然気胸. 救急医学 2009; 33 (10): 1303-1306.
 - 17) 齋藤伸行¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 救命救急医療の現状と緊急輸血体制: 危機低出皿への対応ガイドライン. 検査と技術 2009; 37 (9): 812-813.
 - 18) 阪本雄一郎: 抗凝固薬, 置換液, 透析液と投薬の管理. 看護技術 2009; 55 (11): 35-38.
 - 19) 松本 尚: 病院前救急診療からみる救急・災害医療体制の将来像. 日医大医会誌 2009; 5 (4): 187-192.
 - 20) 益子邦洋: 市民に対する救命救急法の更なる普及啓発により, 交通事故死者数半減を目指せ. アスカ21 2009; 18 (4): 10-11.
 - 21) 朽方規喜, 小網博之, 益子邦洋: 外傷による心血管損傷. 救急医学 2009; 33 (12): 1699-1703.
 - 22) 益子邦洋: 第3次救急医療における各種搬送手段の機能と役割. 国際交通安全学会誌 2009; 34 (3): 32-38.

23) 金丸勝弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：トリアージの実際，印旛市郡医師会報 2009；別刷：18-24.

24) 益子邦洋：交通事故死亡ゼロを目指し，医学と工学の連携を加速せよ．アスカ21 2010；19 (1)：10-11.

(3) 研究報告書：

1) Anata K¹⁾, Miyazaki Y¹⁾, Tachiya H¹⁾, Hoji A¹⁾, Sakamoto Y (1) Faculty of Mechanical Engineering, Kanazawa University)：Deformation Measurement of brain part in head physical model during rotational impact. Proceedings of AP Bionmech 2009；2009 (4)：170-171.

2) 紀野修一¹⁾，半田 誠²⁾，稲田英一³⁾，稲葉頌一⁴⁾，入田和男⁵⁾，吉村 速⁶⁾，藤 謙吾³⁾，津崎晃一⁷⁾，益子邦洋，矢野 哲⁸⁾，亀井良政⁹⁾ (1) 旭川医科大学病院臨床検査・輸血部，2) 慶應義塾大学輸血・細胞療法部，3) 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座，4) 神奈川県赤十字血液センター，5) 九州大学病院新病院建設推進室，6) 九州大学病院手術部，7) 慶應義塾大学医学部麻酔学講座，8) 東京大学医学部産婦人科学教室，9) 東京大学医学部附属病院周産母子診療部)：輸血部門における危機的出血への対応に関するアンケート調査結果．日本輸血細胞治療学会誌 2009；55 (5)：624-632.

3) 鈴木春男¹⁾，榛澤芳雄¹⁾，益子邦洋，安井一彦¹⁾，大橋秀幸¹⁾，石川博敏¹⁾，その他14名 (1) 千葉県交通事故調査委員会)：平成20年交通事故死亡事例調査報告書．平成20年交通事故死亡事例調査報告書 2010；1-38.

4) 益子邦洋：分担研究 救命救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握．平成21年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品機器等レギュラトリーサイエンス研究事業) 危機的出血の対する輸血ガイドライン導入による救命率変化および輸血ネットワークシステム構築に関する研究(主任研究者：順天堂大学・麻酔科学教授 稲田英一) 分担研究 救命救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握 2010；1-26.

(4) 症例報告：

1) Kutsukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y, Yokota H¹⁾ (1) Nippon Medical School Main Hospital, Emergency and Critical Care Medicine, Tokyo, Japan)：A Case of Successful Treatment of Acute Iliofemoral Venous Thrombosis Caused by Giant Myoma Through Combination of Simultaneous Hysterectomy and Thrombectomy. Reprinted from Annals of Vascular Diseases 2009；2 (2)：114-117.

2) 小網博之，松本 尚，原 義明，朽方規喜，阪本雄一郎，武井健吉，金丸勝弘，斎藤伸行，八木貴典，鉄慎一郎，飯田浩章，益子邦洋，横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学)：ハンドル外傷により心臓震盪が疑われた1例．日本救急医学会関東地方会雑誌 2009；30 (47)：172-173.

3) 金丸勝弘¹⁾，益子邦洋¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：臨時増刊「日当直 これだけは知っておきたい緊急検査マニュアル」4. 輸血検査. Medical Technology 2009；37 (13)：1359-1360.

(5) 実態調査：

1) 入田和男¹⁾，稲田英一²⁾，津崎晃一³⁾，稲葉頌一⁴⁾，半田 誠⁵⁾，紀野修一⁶⁾，益子邦洋，久保隆彦⁷⁾，森田潔⁸⁾ (1) 九州大学病院新病院建設推進室，2) 順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座，3) 慶應義塾大学医学部麻酔学教室，4) 神奈川県赤十字血液センター，5) 慶應義塾大学病院輸血・細胞療法部，6) 旭川医科大学病院臨床検査・輸血部，7) 国立成育医療センター周産期診療部産科，8) 岡山大学大学院医歯学総合研究科麻酔・蘇生学)：手術室における異型輸血に関する実態調査．麻酔 2009；58 (8)：1045-1054.

著 書

1) 原 義明¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：〔分担〕「DMAT」DMAT活動におけるドクターヘリの活用．プレホスピタルMOOK (大友康裕)，2009；pp143-151，永井書店.

2) 安部正敏¹⁾，荒瀬康司²⁾，板垣英二³⁾，糸井隆夫⁴⁾，岩男暁子⁵⁾，岩坂壽二⁶⁾，大泉弘幸⁷⁾，大友康裕⁸⁾，岡住慎一⁹⁾，岡田忠雄¹⁰⁾，岡田 忠¹¹⁾，岡田充史¹²⁾，尾島俊之¹³⁾，春日井邦夫¹⁴⁾，益子邦洋，その他53名 (1) 群馬大学大学院医学系研究科 皮膚科学，2) 虎ノ門病院 肝臓科，3) 杏林大学医学部 第三内科，4) 東京医科大学

病院 消化器内科,⁵⁾ 埼玉社会保険病院 健康管理センター,⁶⁾ 関西医科大学 内科学第二講座,⁷⁾ 山形大学 医学部 外科学第二(循環器・呼吸器・小児外科学)講座,⁸⁾ 東京医科歯科大学大学院 救急災害医学分野,⁹⁾ 東邦大学医療センター佐倉病院 外科,¹⁰⁾ その他): [解説執筆] 第103回医師国家試験問題解説(国試対策問題編集委員会), 2009; p1, 株式会社メディックメディア.

- 3) 金丸勝弘¹⁾, 松本 尚¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] 2009夏期増刊号「検査データのとり方・読み方・使い方」第5章 症状に対する検査の進め方 (16) 外傷. EMERGENCY CARE 2009年 夏季増刊, 2009; pp263-272, メディカ出版.
- 4) 石原 晋¹⁾, 益子邦洋 (1) 国立邑智病院 院長): [監修] DMAT. プレホスピタルMOOK シリーズ9 (石原晋, 益子邦洋), 2009; pp1-341, 永井書店.
- 5) 原 義明¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] 骨盤創外固定法, ギブス関連, コンパートメントに対する減張切開法. 写真でわかる外傷基本手技 (益子邦洋), 2009; pp140, 153, 190-147, 171, 199, (株) インターメディカ.
- 6) 金丸勝弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] 6 静脈路確保. 写真でわかる外傷基本手技 (益子邦洋・松本 尚), 2009; pp46-54, (株) インターメディカ.
- 7) 金丸勝弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] 2 急速輸液・輸血法. 写真でわかる外傷基本手技 (益子邦洋・松本 尚), 2009; pp55-60, (株) インターメディカ.
- 8) 金丸勝弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] 2 動脈路確保. 写真でわかる外傷基本手技 (益子邦洋・松本 尚), 2009; pp61-71, (株) インターメディカ.
- 9) 金丸勝弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] 2 導尿法. 写真でわかる外傷基本手技 (益子邦洋・松本 尚), 2009; pp100-107, インターメディカ.
- 10) 齋藤伸行¹⁾, 武井健吉¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 金丸勝弘¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 松本 尚¹⁾, 嶺 貴彦²⁾, 原 義明¹⁾, 上西 蔵人¹⁾, 富田祥輝¹⁾, 飯田浩章¹⁾, 鉄慎一郎¹⁾, 八木貴典¹⁾, 小網博之³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院放射線科, ³⁾ 社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院): [分担] 気道確保に関する手技1- (2) 経口気管挿管法1- (3) 経鼻気管挿管法1- (4) 気管支ファイバーガイド下気管挿管法. 写真で分かる外傷基本手技 (益子邦洋・松本 尚), 2009; pp13-28, (株) インターメディカ.
- 11) 益子邦洋: [分担] 急性腹痛. 内科学書 (小川 聡), 2009; pp250-252, 中山書店.
- 12) 益子邦洋, 松本 尚: [監修] 写真でわかる外傷基本手技 (益子邦洋 松本 尚), 2009; pp1-259, (株) インターメディカ.
- 13) 益子邦洋, 鈴川正之¹⁾, 阪井裕一²⁾, 鈴木 真³⁾, 岡田真人⁴⁾, 坂田久美子⁵⁾ (1) 自治医科大学救急医学, ²⁾ 国立成育医療センター手術・集中治療部, ³⁾ 亀田総合病院総合周産期母子医療センター, ⁴⁾ 聖隷三方原病院救命救急センター, ⁵⁾ 愛知医科大学高度救命救急センター): [分担] ドクターヘリの病院間連携と集約化における有効性. 新しい救急医療体制の構築 (小濱啓次), 2009; pp125-164, へるす出版.
- 14) 金丸勝弘¹⁾, 松本 尚¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): [分担] ドクターヘリ活用とその際に必要な連携. プレホスピタル救急羅針盤, 2009; pp26-35.
- 15) 八木貴典, 益子邦洋: [分担] チアノーゼ. 呼吸・循環イラストレイテッド: 病態生理とアセスメント (稲田英一), 2010; pp188-191, 学研.
- 16) 八木貴典: [分担] 呼吸停止. 呼吸・循環イラストレイテッド-病態生理とアセスメント (稲田英一), 2010; pp200-203, 学研.
- 17) 益子邦洋: [分担] 咯血: 緊急検査と応急処置. 今日の治療指針2010年版 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2010; pp21-22, 株式会社医学書院.
- 18) 肥田誠治, 益子邦洋: [分担] 熱傷性ショック. 経静脈治療オーダーマニュアル (小川 龍, 島崎修次, 飯野靖彦, 五十嵐隆, 福島亮治), 2010; pp65-69, 株式会社メディカルレビュー社.

- 19) 金丸勝弘¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：〔分担〕救急医療ピットフォール 1. 意識障害と呼吸不全. JAMIC JOURNAL, 2010；pp22-22, リクルートドクターズキャリア.
- 20) 益子邦洋：〔分担〕シートベルト損傷. 今日の診断指針 (金澤一郎, 永井良三), 2010；pp517-518, 医学書院.

学会発表

〔追加分〕

追加分パネルディスカッション：

- 1) 鹿瀬陽一¹⁾, 阪本雄一郎, 野村真弓²⁾, 小幡 徹²⁾, 斎藤敬太¹⁾, 岡本靖久¹⁾, 岩井健一¹⁾, 内野滋彦¹⁾, 瀧浪將典¹⁾ (1) 東京慈恵医科大学麻酔科学, 2) 東京慈恵医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部)：PMXカラムの活性脂質メデイエーター吸着含量からみたPMX-DHPの使われ方. エンドトキシン血症救命治療研究会 (第13回), 2009. 2.
- 2) 金丸勝弘, 松本 尚, 中西加寿也¹⁾, 益子邦洋 (1) 成田赤十字病院 救急・集中治療科)：「救急救命処置確認訓練」という名のリスクマネージメント. 日本予防医学リスクマネージメント学会 (第8回) (東京), 2009. 3.

追加分一般講演：

- 1) Kase Y¹⁾, Sakamoto Y, Obata T¹⁾ (1) Jikei University School of Medicine)：Lipid mediator adsorption with dialyser membrane in patients with septic shock. 29th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2009. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：ドクターヘリは究極のチーム医療. 第27回救急医療学術講演会 (盛岡), 2009. 9.
- 2) 阪本雄一郎：敗血症性ショック症例に対して望ましいCHDFカラムは何か?. 第3回中国四国PMMA-CHDF技術検討会, 2009. 11.
- 3) 益子邦洋：ドクターヘリの過去・現在・未来. 第5回千葉救急集中治療“ここが知りたい”フォーラム (千葉), 2009. 11.
- 4) 益子邦洋：小児の重度外傷診療における新たな戦略. 第5回岡山県小児救急医療フォーラム (岡山), 2010. 2.

(2) 招待講演：

- 1) Mashiko K：Air Transportation System in Trauma Care：Japanese Perspective. 24th Annual Conference Korean Society for Traumatology, 2009 (Seoul), 2009. 5.
- 2) 益子邦洋：ドクターヘリ全国配備に向けて導入が加速する今こそ, 島根に. 山陰合同銀行出雲西支店「西友会」特別研修会 (島根), 2009. 8.
- 3) 阪本雄一郎：敗血症性ショック症例に対して望ましいCHDFカラムは何か?. 第4回東海CHDF技術検討会, 2009. 11.
- 4) 益子邦洋：救急最前線：ドクター・ヘリ緊急救命. 第30回地域介護公開研究会 (千葉), 2010. 1.

(3) 教育講演：

- 1) 益子邦洋：より安全なドクターヘリ活用に向けて：病院前医療の特殊性. 第12回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2009. 6.
- 2) 益子邦洋：ドクターヘリの今後の展望. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
- 3) 斎藤伸行：NPPVの周術期利用法. 第1回千葉県NPPV研究会 (千葉市), 2009. 10.
- 4) 原 義明：ドクターヘリを用いた重症整形外傷の初期治療戦略. 救急整形外傷シンポジウム (第16回) (沖縄), 2010. 3.

(4) シンポジウム：

- 1) 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 増田幸子, 益子邦洋：HEMS (Heli-

- copter Emergency Medical Service) がもたらす外傷初期診療の効果. 第23回日本外傷学会, 2009. 5.
- 2) 金丸勝弘, 松本 尚, 小網博之, 八木貴典, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 益子邦洋: プレホスピタルケアにおけるHEMS dispatch. 第12回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2009. 6.
 - 3) 松本 尚, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 原 義明, 飯田浩章, 益子邦洋: 外傷手術手技とOJT (On the job training). 第34回日本外科系連合学会術集会 (東京), 2009. 6.
 - 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 宮庄 拓²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 微生物化学研究会 微生物化学研究センター, ²⁾ 酪農学園大学 獣医学部, ³⁾ 日本医科大学 救急医学): 内因性カンナビノイド, HMGB1, Multiplex suspension array systemによる多種サイトカイン値からみたPMX-DHP施行時の背景疾患. 第30回日本アフレス学会学術大会, 2009. 9.
 - 5) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 齋藤伸行, 松本 尚, 横田裕行²⁾ (1) 微生物化学研究会, ²⁾ 日本医科大学 救急医学): 敗血症性ショック症例に対するPMX-DHPの効果予測因子に関する検討. 第20回日本急性血液浄化学会学術集会, 2009. 10.
 - 6) 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 敗血症性ショック患者における輸液管理指標についての検討. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 7) 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): DMATの出動と現場活動におけるドクターヘリ運用の課題. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 8) 松本 尚, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 増田幸子, 本村友一, 益子邦洋: 重症肝損傷の外科的治療成績と課題. 第1回Acute Care Surgery研究会学術集会 (東京), 2009. 10.
 - 9) 佐藤格夫¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 加地正人²⁾, 岡田一郎³⁾, 尾本健一郎³⁾, 松本 尚, 諸江雄太³⁾, 牧 真彦³⁾, 田上 隆³⁾, 小川太志³⁾, 岩瀬史明³⁾, 増野智彦¹⁾, 苛原隆之³⁾, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾, その他2名 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター, ³⁾ 日本医科大学救急医学): 胸腹部外傷手術症例数不足の現状と次世代の外傷外科医師育成という課題. 第37回日本救急医学会総会, 2009. 10.
 - 10) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 微生物化学研究会 微生物化学研究センター, ²⁾ 日本医科大学 救急医学): Polymyxin B-immobilized fiber column-Direct hemoperfusion (PMX-DHP)の適応基準としてのEndotoxin scattering photometry法によるエンドトキシン値の有用性. 第15回日本エンドトキシン研究会, 2009. 11.
 - 11) 本村友一: 災害時の蘇生対応: 災害教育の現状と今後展望 (災害時の蘇生対応). 日本蘇生学会 (第28回) (佐賀県佐賀市), 2009. 11.
 - 12) 金丸勝弘, 松本 尚, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 齋藤伸行, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 益子邦洋: フライトドクター育成の力点. 日本航空医療学会 (16回) (岐阜), 2009. 11.
 - 13) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 宮庄 拓²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 微生物化学研究会, ²⁾ 酪農学園大学 獣医学部, ³⁾ 日本医科大学 救急医学): 敗血症性DICにおけるAntithrombin III製剤の治療効果および病態に関する検討. 第20回バイオメディカルフォーラム (東京), 2009. 12.
 - 14) 金丸勝弘, 松本 尚, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 齋藤伸行, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 益子邦洋: 病院前救急診療における医師主導を考える. 病院前救急診療研究会 (第4回) (東京), 2009. 12.
 - 15) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 宮庄 拓²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 微生物化学研究会 微生物化学研究センター, ²⁾ 酪農学園大学 獣医学部, ³⁾ 日本医科大学 救急医学): 各種敗血症関連因子およびMultiplex suspension array systemによる多種サイトカイン値からみた術後症例におけるPMX-DHPの効果に関する検討. 第14回エ

ンドトキシン血症救命治療研究会, 2010. 2.

- 16) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 齋藤伸行, 鉄慎一郎, 横田裕行²⁾ (1) 微生物化学研究所, ²⁾ 日本医科大学救急医学): PMX-DHPを施行した敗血症性ショック症例の転帰予測因子に関する検討. 第37回日本集中治療医学会学術集会, 2010. 3.
- 17) 齋藤伸行, 鉄慎一郎, 阪本雄一郎, 益子邦洋: 重症敗血症における迅速で適切な抗菌療法の重要性. 第37回日本集中治療医学会学術集会, 2010. 3.
- 18) 飯田浩章, 原 義明, 上西蔵人, 瀬尾卓生, 益子邦洋, 大泉 旭¹⁾, 川井 真¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター): 開放性骨盤骨折の治療経験. 第16回救急整形外傷シンポジウム, 2010. 3.
- 19) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): 肝損傷に対する治療法選択についての検討. 第46回日本腹部救急医学会総会, 2010. 3.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 齋藤大蔵¹⁾, 坂元哲也²⁾, 益子邦洋, 横田順一郎³⁾, 有賀 徹³⁾ (1) 日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会, ²⁾ 日本救急医学会診療の質評価指標に関する委員会, ³⁾ 特定非営利活動法人・日本外傷診療研究機構): 外傷診療の質向上のための日本外傷データバンク. 第109回日本外科学会定期学術集会 (福岡), 2009. 4.
- 2) 益子邦洋: ドクターヘリの現状と今後の課題. HEM-Net創立10周年シンポジウム「ヘリコプター救急 新時代」(東京), 2009. 6.
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): 緊急手術症例における早期経腸栄養管理についての検討. JDDW 2009 (第17回) 第40回日本消化吸収学会総会・第51回日本消化器病学会総会合同, 2009. 10.
- 4) 加地正人¹⁾, 大友康裕¹⁾, 相星淳一¹⁾, 庄古知久¹⁾, 登坂直規¹⁾, 村田希吉¹⁾, 森下幸治¹⁾, 久志本成樹²⁾, 益子邦洋, 横田裕行²⁾ (1) 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学): 外傷外科医の到達目標とそれに向けて. 第1回Acute Care Surgery 研究会学術集会 (東京), 2009. 10.
- 5) 佐藤格夫¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 加地正人¹⁾, 岡田一郎¹⁾, 尾本健一郎¹⁾, 松本 尚, 諸江雄太¹⁾, 稲垣栄治¹⁾, 牧真彦¹⁾, 白石振一郎¹⁾, 福田令雄¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 増野智彦¹⁾, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学教室): Animalを用いた外傷手術手技修練の取り組み. 第1回Acute Care Surgery 研究会学術集会 (東京), 2009. 10.

(6) セミナー:

- 1) 阪本雄一郎: 敗血症性ショック症例に対して望ましいCHDFカラムは何か?. 日本医工学治療学会第25回学術大会, 2009. 4.
- 2) 益子邦洋: 救命救急医療の現状と緊急輸血: ERでは何がおきているのか Part2. 第57回日本輸血・細胞治療学会総会 (大宮), 2009. 5.
- 3) 齋藤伸行: 救命救急センターにおける人工呼吸器関連肺炎 (VAP) の予防. 第11回日本救急看護学会学術集会, 2009. 11.
- 4) 阪本雄一郎: PMX導入決定に際して. 第2回高感度エンドトキシン測定EPSテクニカルセミナー, 2010. 2.

(7) ワークショップ:

- 1) 金丸勝弘, 松本 尚, 益子邦洋: 新型インフルエンザ搬送事案. 日本航空医療学会 (第16回) (岐阜), 2009. 11.
- 2) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 阪本雄一郎, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学教室): 鈍的腹部大動脈損傷に対する治療の経験. 第46回日本腹部救急医学会, 2010. 3.
- 3) 本村友一, 阪本雄一郎, 松本 尚, 益子邦洋: 減張縫合及び腹腔内陰圧療法の有効性の検討. 第46回日本腹部救急医学会, 2010. 3.

(8) 一般講演：

- 1) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Kutsukata N, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Emergency Medicine, Nippon Medical School) : A simple and practical damage control surgery scoring system for severe pancreatic injury. 10th European Congress of Trauma & Emergency Surgery (Antalya Turkiye), 2009. 5.
- 2) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Kutsukata N, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Treatment strategy for hepatic injury in our classification of the responsiveness to fluid resuscitation and a simple and practical damage control surgery (DCS) scoring system. 10th European Congress of Trauma & Emergency Surgery (Antalya, Turkiye), 2009. 5.
- 3) Kustukata N, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Sakamoto Y : Severe chest trauma in Japan. 10th European Congress of Trauma & Emergency Surgery (Antalya, Turkiye), 2009. 5.
- 4) Sakamoto Y, Mashiko K, Miyazaki Y¹⁾, Yokota H²⁾ (¹⁾ Dept. of technology, Kanazawa University, ²⁾ Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Characteristics of laparotomy cases among drivers of motor vehicles injured in traffic accidents and the risk factors for seat belt injury as judged by a computer simulation system. American Association for the Surgery of Trauma 68 meeting (Pittsburgh, PA), 2009. 10.
- 5) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Saito N, Yokota H²⁾ (¹⁾ Microbial Chemistry Research Foundation, ²⁾ Nippon Medical School, Emergency Medicine) : Relationship between acute-phase DIC diagnosis of JAAM (Japanese Association for Acute Medicine) and sepsis related factors. European Society of Intensive Care Medicine (22nd) (Vienna, Austria), 2009. 10.
- 6) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School, Emergency Medicine) : Retrospective analysis of Antithrombin III supplementation therapy effectiveness in sepsis cases. European Society of Intensive Care Medicine (22nd) (Vienna, Austria), 2009. 10.
- 7) Saito N, Sakamoto Y, Mashiko K : Early hyperglycemia in the natural history of severe trauma patients is a prognostic factor. European Society of Intensive Care Medicine (22nd) (Vienna, Austria), 2009. 10.
- 8) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yokota H²⁾ (¹⁾ Microbial Chemistry Research Foundation, ²⁾ Nippon Medical School, Emergency Medicine) : Increase in systolic blood pressure and improvement in laboratory parameters following polymyxin B-immobilized fiber treatment in septic shock. 30th international symposium on intensive care and emergency medicine (Belgium), 2010. 3.
- 9) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Yokota H²⁾ (¹⁾ Microbial Chemistry Research Foundation, ²⁾ Nippon Medical School, Emergency Medicine) : Selection of acute blood purification therapy according to lipid mediator adsorption and blood purification in patients with septic shock. 30th international symposium on intensive care and emergency medicine (Brussel), 2010. 3.
- 10) Jonishi K, Sakamoto Y, Ueno Y¹⁾ (¹⁾ Tsukuba Medical Center) : The examination about the utility of serum lactate and base deficit in the hemorrhagic shock. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (30th) (Brussels, Belgium), 2010. 3.
- 11) Saito N, Sakamoto Y, Mashiko K : A simple predictive scoring system for prolonged mechanical ventilation in severe sepsis and septic shock. 30th International Symposium Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels), 2010. 3.
- 12) Egashira R, Saito N, Mashiko K, Matsumoto H : Focused Assessment with Sonography for Trauma in the Pre-Hospital Setting. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2010. 3.

- 13) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 朽方喜規, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): 緊急開腹手術を要した腹部臓器損傷を含む多発外傷症例に対する初期診療体制の検討. 第109回日本外科学会定期学術集会, 2009. 4.
- 14) 齋藤伸行: 適切な抗菌薬治療は重症敗血症の予後を改善するか?. 第83回日本感染症学会総会, 2009. 4.
- 15) 鈴木康郎¹⁾, 血脇敏之¹⁾, 増田幸子, 金丸勝弘, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 印西地区消防組合消防本部): 右室梗塞を疑った症例に対し体位管理および早期ドクターヘリ要請が有効であった1例. 第12回千葉県救急医療研究会 (千葉県), 2009. 4.
- 16) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 本村陽一¹⁾, 西田佳史¹⁾, 藤木直子²⁾, 野口昭治²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター, 2) 東京理科大学大学院 理工学研究科, 3) 日本医科大学 救急医学): Japan Trauma Data Bank における新たな RTS・TRISS係数および病院前の転帰影響因子. 第23回日本外傷学会, 2009. 5.
- 17) 阪本雄一郎, 益子邦洋: Japan Trauma Data Bank (JTDB) のデータからみた外傷症例における交通事故の現状とドクターヘリ搬送の有用性についての検討. 第45回日本交通科学協議会総会・学術講演会, 2009. 5.
- 18) 増田幸子, 阪本雄一郎, 齋藤伸行, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 瀬尾卓生, 梅香 満, 江頭隆一郎, その他2名: PiCCOによりPMX-DHP長時間施行時の肺酸化能の改善を確認しえた1例. 第10回千葉急性血液浄化研究会, 2009. 5.
- 19) 益子邦洋: 事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステム. 社団法人自動車技術会2009年春季大会 (横浜), 2009. 5.
- 20) 益子邦洋: ドクターヘリにおける医療体制. 宇宙航空研究開発機構つくば宇宙センター 宇宙医学生物学研究室 有人サポート委員会 宇宙医学研究推進分科会 第1回ワークショップ (筑波), 2009. 5.
- 21) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): Japan Trauma Data Bank (JTDB) のデータからみた外傷症例における病院前診療の有用性についての検討. 第12回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2009. 6.
- 22) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 藤木直子^{1,2)}, 本村陽一^{2,3)}, 西田佳史^{2,3)}, 野口昭治¹⁾ (1) 東京理科大学, 2) 産業技術総合研究所, 3) 科学技術振興機構): 日本外傷データバンク事例を用いた日本人の生存率予測モデルの開発. 第23回人工知能学会全国大会, 2009. 6.
- 23) 藤木直子^{1,2)}, 阪本雄一郎, 本村陽一^{2,3)}, 西田佳史^{2,3)}, 野口昭治¹⁾ (1) 東京理科大学, 2) 産業技術総合研究所, 3) 科学技術振興機構): ベイジアンネットワークを用いた生存率予測モデルの統計的学習と評価. 第23回人工知能学会全国大会, 2009. 6.
- 24) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明: 交通事故死傷者ゼロに向けた救助・医療の取り組み. 安全工学シンポジウム2009 -安全を培う知のシナジー- (東京), 2009. 7.
- 25) 浦 裕之¹⁾, 定本清美¹⁾, 太組一朗²⁾, 渡辺暁洋³⁾, 福田恵子³⁾, 小林士郎⁴⁾, 寺本 明⁵⁾, 阪本雄一郎, 益子邦洋 (1) 東邦大学 薬学部 臨床病態学研究室, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科, 4) 日本医科大学付属病院 脳神経外科): 救急外来における痙攣性疾患の実態調査. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 26) 上西蔵人, 原 義明, 飯田浩章, 瀬尾卓生, 益子邦洋: 小児開放骨盤骨折の治療経験. 東日本整形災害外科学会 (第58回) (北海道小樽市), 2009. 9.
- 27) 瀬尾卓生: 重症呼吸器感染症. 第7回東葛地区救急カンファレンス (佐倉), 2009. 9.
- 28) 益子邦洋: 救急救命と緊急輸血の現状. 第36回千葉県輸血研究会 (千葉), 2009. 9.
- 29) 江頭隆一郎, 小川達彦, 梅香 満, 瀬尾卓生, 本村友一, 増田幸子, 上西蔵人, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 大秋美治¹⁾, その他4名 (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部): 診断に難渋したDICを合併した特発性好酸球增多症の1例. 第23回千葉県重症患者管理研究会 (千葉),

2009. 9.
- 30) 増田幸子, 齋藤伸行, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 八木貴典, 鉄慎一郎, 益子邦洋: 重症外傷患者に対するDVTスクーリングの有効性. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 31) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 齋藤伸行, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): 敗血症に対するPMX-DHP施行時の併存治療・重症度因子と転帰との関連性. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 32) 八木貴典, 武井健吉, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: 救命救急センターにおける小児虐待防止の取り組み. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 33) 鉄慎一郎, 飯田浩章, 八木貴典, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: 多発肋骨骨折に対し, フェンタニル・デクスメトミジンをを用いた経動脈鎮痛法は有効か?. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 34) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 西本哲也¹⁾, 富永 茂²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 日本大学 工学部 機械工学科 バイオメカニクス研究室, 2) 日本大学 理工学部 機械工学科, 3) 日本医科大学 救急医学): 医工学連携による交通事故データ解析の重要性からみた救急医療システム. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 35) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): 鈍的III型腓損傷の手術戦略についての検討. 第1回Acute Care Surgery 研究会学術集会, 2009. 10.
 - 36) 増田幸子, 阪本雄一郎, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: PiCCOによりPMX-DHP長時間施行時の効果を確認しえた1例. 日本急性血液浄化学会学術集会(第20回), 2009. 10.
 - 37) 伊藤友弥¹⁾, 阪本雄一郎, 齋藤伸行, 益子邦洋, 横田裕行²⁾, その他2名 (1) 国立成育医療センター総合診療部救急診療科, 2) 日本医科大学救急医学教室): 小児腹部外傷 腹腔内臓器損傷例の検討. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 38) 北村伸哉¹⁾, 清水直樹¹⁾, 幸部吉郎¹⁾, 大谷俊介¹⁾, 吉田明子¹⁾, 橋田知明¹⁾, 高橋 誠¹⁾, 織田成人²⁾, 貞広智仁²⁾, 益子邦洋, 松本 尚, その他2名 (1) 君津中央病院救命救急センター, 2) 千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学): 千葉県2機目のドクターヘリ運用実績とその効果. 第37回日本救急医学会総会・学術集会, 2009. 10.
 - 39) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): 消化管穿孔に対する緊急手術の術後頰脈と転帰の関連性についての検討. 第71回日本臨床外科学会総会, 2009. 11.
 - 40) 原 義明, 益子邦洋, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター): 救命救急センターに搬送された労働災害における骨盤骨折症例の検討. 日本職業・災害医学会(第57回)(大阪), 2009. 11.
 - 41) 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 増田幸子, 本村友一, 瀬尾卓生, 益子邦洋, その他2名: 病院前救急診療医育成のための試み. 第4回病院前救急診療研究会(東京), 2009. 12.
 - 42) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (1) 日本医科大学 救急医学): Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO)からみたContinuous Hemodiafiltration (CHDF)による肺血管外水分の除水効果に関する検討. 第24回千葉集中治療研究会, 2010. 1.
 - 43) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 西本哲也¹⁾, 富永 茂²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 日本大学 工学部, 2) 日本大学 理工学部, 3) 日本医科大学 救急医学): 医工学連携による総合的交通事故調査体制について. 第60回日本救急医学会関東地方会, 2010. 2.
 - 44) 本村友一, 阪本雄一郎, 益子邦洋, 西本哲也¹⁾, 富永 茂²⁾, 横田裕行³⁾ (1) 日本大学工学部機会工学科バイオ

メカニクス研究室,²⁾ 日本大学理工学部機械工学科,³⁾ 日本医科大学救急医学): 軽微な車両損傷の交通外傷にて受傷した心損傷の1例 交通外傷傷病者と交通車両破損状況の研究. 第60回日本救急医学会関東地方会, 2010. 2.

- 45) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 救急医学): Pulse Contour Cardiac Output (PiCCO) からみた肺障害と各種炎症系マーカー (CRP, プロカルシトニン, Endotoxin Activity Assay) との関連性についての検討. 第14回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2010. 2.
- 46) 梅香 満, 江頭隆一郎, 瀬尾卓生: 小麦グルテンが原因と思われた食物依存性運動誘発アナフィラキシー (FDEIA) の2例. 第60回日本救急医学会関東地方会 (東京), 2010. 2.
- 47) 齋藤伸行, 松本 尚, 益子邦洋: MRSAアウトブレイクの疫学調査. 第7回東葛救急カンファランス (千葉県柏市), 2010. 2.
- 48) 江頭隆一郎, 齋藤伸行, 益子邦洋, 増田幸子: 抗凝固療法中に深部静脈血栓症を発症した敗血症の2例. 第60回日本救急医学会関東地方会 (東京), 2010. 2.
- 49) 増田幸子, 齋藤伸行, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 八木貴典: 集中治療領域における抗凝固療法. 第37回日本集中治療医学会学術集会, 2010. 3.
- 50) 江頭隆一郎, 鉄慎一郎, 齋藤伸行, 益子邦洋, 増田幸子: 当院における院内救急コールの事後検証. 第37回日本集中治療医学会学術集会, 2010. 3.

(9) 主題口演:

- 1) 齋藤伸行, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 松本 尚, 益子邦洋: Abdominal sepsisに対する適切で迅速な抗菌療法の重要性. 第46回日本腹部救急医学会, 2010. 3.

(10) 多職連携委員会特別企画:

- 1) 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 八木貴典, 増田幸子, 益子邦洋: 多職種連携による救急対応 (中毒患者発生時の場合): 医師の立場から. 第12回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2009. 6.

19. 形成外科学講座

[付属病院形成外科・美容外科]

研究概要

付属病院形成外科・美容外科は本年も数多くの競争的研究費の取得に成功し、世界に発信できる研究を施行した。その概要は以下に列挙する。

1. 脂肪組織由来幹細胞による組織工学と再生医療に対する応用
2. ケロイドの成因と治療に関する基礎的研究
3. 創傷治癒における細胞に及ぼす物理的（機械的）負荷の影響に関する研究
4. レーザーなど光学機器による抗加齢治療に関する研究
5. 体表の穿通枝のMDCTを用いた臨床医学的研究
6. 美容目的の体内埋入材料の化学的分析
7. コンピュータを駆使した皮弁手術，ケロイド，褥瘡などのシミュレーション研究

以上の仕事は教室の大学院生を中心とした研究員のみならず，中国，トルコ，フランスなどからの留学生の力も結集して成就し，また京都大などとの共同研究の成果であることも付記する。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Sano K, Aoki S, Kitta E, Hagiwara Y, Hyakusoku H : Atypical ulnar tunnel syndrome accompanied by sensory disturbance of the dorsal sensory branch of the ulnar nerve. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg* 2009 ; 43 (2) : 117-119.
- 2) 高見佳宏¹⁾, 野中由紀子¹⁾, 小野真平, 百束比古⁽¹⁾ 西部総合病院形成外科) : 高齢者の皮膚線維芽細胞培養の検討. *Skin Surgery* 2008 ; 17 (2) : 70-73.
- 3) 小川 令, Orgill PD : 陰圧閉鎖療法 (VAC療法) の作用機序に関する考察. *日形会誌* 2009 ; 29 (3) : 127-134.

追加分症例報告：

- 1) Mizuno H, Nomoto S, Ishii N, Hyakusoku H, Fukuda R¹⁾ (¹⁾ Department of Critical Care Medicine) : Frontal musculocutaneous V-Y island flap for coverage of forehead defect with a dural exposure. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (1) : 19-22.

(1) 原著：

- 1) Mizuno H : Adipose-derived stem cells for tissue repair and regeneratuon : Ten years of research and a literature review. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (2) : 56-66.
- 2) Chin T, Kobe K, Hyakusoku H, Uekusa K¹⁾, Hirakawa K¹⁾, Ohno Y¹⁾ (¹⁾ NMR laboratory) : An experimental analysis of silicone leakage. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (2) : 109-112.
- 3) Nambu M¹⁾, Kishimoto S²⁾, Nakamura S³⁾, Mizuno H, Yanagibayashi S¹⁾, Yamamoto N¹⁾, Azuma R¹⁾, Nakamura S¹⁾, Kiyosawa T¹⁾, Ishihara M²⁾, Kanatani Y²⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National Defense Medical College, ²⁾ Research Institute, National Defense Medical College, ³⁾ De-

- partment of Surgery II, National Defense Medical College) : Accelerate wound healing in healing-impaired db/db mice by autologous adipose tissue-derived stromal cells combined with atelocollagen matrix. *Ann Plast Surg* 2009 ; 62 (4) : 317-321.
- 4) Ogawa R, Akaishi S, Izumi M : Histologic analysis of keloids and hypertrophic scars. *Ann Plast Surg* 2009 ; 62 (4) : 104-105.
 - 5) Vinh QV, Van TA, Ogawa R, Hyakusoku H : Anatomical and clinical studies of the supraclavicular flap : analysis of 103 flaps used to reconstruct neck scar contractures. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 123 (5) : 1471-1480.
 - 6) Mateev AM, Ogawa R, Trunov L, Moldobaeva N, Hyakusoku H : Shape-modified radial artery perforator flap method : analysis of 112 cases. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 123 (5) : 1533-1543.
 - 7) Uysal AC, Mizuno H, Hyakusoku H : Sciatic nerve anatomy in rat re-visited : a more proximal intervention. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2009 ; 62 (6) : 847-9.
 - 8) Uysal AC, Orbay H, Kobe K, Tobita M, Hyakusoku H, Mizuno H : Adipose derived stem cells enhance primary tendon repair. *Plast. Reconstr. Surg* 2009 ; 65 (suppliment) : 69-69.
 - 9) Orbay H, Uysal AC, Hyakusoku H, Mizuno H : In-vitro differentiation of adipose derived stem cells into schwann cells and in-vivo implications for peripheral nerve defects. *Plast. Reconstr. Surg* 2009 ; 65 (suppliment) : 79-79.
 - 10) Uysal AC, Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H : Vascular anatomy of the supraclavicular area revisited. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 123 (6) : 1880-1881.
 - 11) Oki K, Murakami M, Tanuma K, Ogawa R, Ozawa H, Hyakusoku H : Anatomical study of pectoral intercostal perforators and clinical study of the pectoral intercostal perforator flap for hand reconstruction. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 123 (6) : 1789-1800.
 - 12) Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H : Differential and exclusive diagnosis of diseases that resemble keloids and hypertrophic scars. *Ann Plast Surg* 2009 ; 62 (6) : 660-664.
 - 13) Vinh QV, Van TA, Nam L, Hyakusoku H, Ogawa R : Reconstruction of acid-injured face with occipitocervicodorsal super-thin flaps. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 124 (1) : 167e-169e.
 - 14) Chin SM, Lancerotto L, Helm LD, Dastouri P, Prsa JM, Ottensmeyer M, Akaishi S, Orgill PD, Ogawa R : Analysis of neuropeptides in stretched skin. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 124 (1) : 102-113.
 - 15) Uysal AC, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H : The effect of adipose-derived stem cells on ischemia-reperfusion injury : immunohistochemical and ultrastructural evaluation. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 124 (3) : 804-815.
 - 16) Ogawa R, Yoshitatsu S, Yoshida K, Mitashita T : Is Radiation Therapy for Keloids Acceptable? The Risk of Radiation-induced Carcinogenesis. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 124 (4) : 1196-1201.
 - 17) Kobe K, Chin T, Aoki R, Hyakusoku H : A False-positive Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography (FDG-PET) Imaging Result for a Patient After Augmentation Mammoplasty. *Aesth Plast Surg* 2009 ; 33 (4) : 611-615.
 - 18) Ogawa R, Mizuno H, Murphy FG, Orgill PD : The Effect of Hydrostatic Pressure on 3-D Chondroinduction of Human Adipose-Derived Stem Cells. *Tissue Eng Part A* 2009 ; 15 (10) : 2937-2945.
 - 19) Ogawa R, Yoshitatsu S, Yoshida K, Miyashita T : Is Radiation Therapy for Keloids Acceptable ? ; The Risk of Radiation-induced Carcinogenesis. *Plast Reconstr Surg* 2009 ; 124 (4) : 1186-1195.
 - 20) Feng L, Gao J, Ogawa R, Hu Z, Jiang P, Feng C : Bilateral expanded cervico-pectoral "super-thin flap" for entire neck reconstruction. *Ann Plast Surg* 2009 ; 63 (4) : 404-408.

- 21) Ogawa R, Chin-S M : A simple method to facilitate full-thickness skin graft harvest. *Burns* 2009 ; 35 (7) : 1055-1056.
- 22) Fujimura J, Sugihara H, Fukunaga Y, Suzuki H, Ogawa R : Adipose Tissue is A Better Source of Immature Non-Hematopoietic Cells Than Bone Marrow. *Int J Stem Cells* 2009 ; 2 (2) : 135-140.
- 23) Mateev AM, Trunov L, Hyakusoku H, Ogawa R : Analysis of 22 posterior ulnar recurrent artery perforator flaps : a type of proximal ulnar perforator flap. *Eplasty* 2009 ; 16 (10) : e2-e2.
- 24) Okuda T, Uysal-C A, Tobita M, Hyakusoku H, Mizuno H : Prefabrication of Tissue Engineered Bone Grafts : An Experimental Study. *Ann Plast Surg* 2010 ; 64 (1) : 98-104.
- 25) Akaishi S, Ogawa R, Hyakusoku H : Visual and Pathologic Analyses of Keloid Growth Patterns. *Ann Plast Surg* 2010 ; 64 (1) : 80-82.
- 26) Murakami M, Ogawa R, Hyakusoku H : Efficacy of 'rugby-ball shape' skin grafting using external wire frame fixation without tarsorrhaphy for lower eyelid reconstruction. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2010 ; 63 (2) : e220-221.
- 27) Ogawa R : The most current algorithms for the treatment and prevention of hypertrophic scars and keloids. *Plast Reconstr Surg* 2010 ; 125 (2) : 557-568.
- 28) 水野博司：徐放型bFGFハイドロゲルを用いた新しい創傷治療。癬痕ケロイド治療ジャーナル 2009 ; 3 : 24-27.
- 29) かづきれいこ，百束比古：リハビリメイク®が更年期症状に及ぼす効果：WHOQOL26, クッパーマン更年期障害指数を用いた評価。女性心身医学 2009 ; 14 (1) : 85-93.
- 30) 小野真平，百束比古，小川 令，青木 律：経腋窩バッグプロステーシス挿入法による豊胸術後遺症の検討。日美外報 2009 ; 31 (2) : 131-136.
- 31) 百束比古：乳房増大術後のトラブル：最近何が問題となっているのか。PEPARS 2009 ; 31 : 51-61.
- 32) 百束比古，大木更一郎，水野博司，村上正洋，赤石論史，小野真平，石井暢明，小川 令：プロペラ皮弁法の新たな展開。形成外科 2009 ; 52 (10) : 1237-1246.
- 33) 百束比古，秋元正宇，大木更一郎：顔面熱傷後変形の治療。形成外科（増刊） 2009 ; 52 : s151-160.
- 34) 陳 貴史，百束比古：われわれのケロイド・高度肥厚性癬痕に対する術後電子線照射療法後の再発症例の検討。日皮会誌 2009 ; 119 (11) : 2181-2186.
- 35) 赤石論史，小川 令，小池幸子，百束比古：ロングパルスNd : YAGレーザーを用いた癬痕の治療。PEPARS 2009 ; 35 : 46-52.
- 36) 百束比古，小川 令，村上正洋，小野真平：超薄皮弁による頸部癬痕拘縮の再建。形成外科 2009 ; 52 (12) : 1417-25.
- 37) 黒田周一¹⁾，小野真平，青木 律，利根川均²⁾，百束比古⁽¹⁾ 大浜第一病院形成外科，²⁾ 高輪美肌研究所：ポリアクリラミドハイドロジェル（PAG）大量注入による豊胸術後後遺症の画像所見の検討。日美外報 2009 ; 31 (4) : 179-185.
- 38) 百束比古，小野真平，小川 令，村上正洋¹⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科）：顔面頸部の穿通枝皮弁。PEPARS 2010 ; 37 : 20-30.
- 39) 小野真平，百束比古：プロペラ皮弁法。PEPARS 2010 ; 37 : 86-92.
- 40) 高 建華¹⁾，百束比古，水野博司，山本有平²⁾，胡 振富¹⁾ ⁽¹⁾ 中国南方医科大学整形美容外科，²⁾ 北海道大学形成外科）：中国における皮弁開発の真の歴史：特にGroin flap, Chinese flap, ALT flap, Super - thin flap について。日形会誌 2010 ; 30 (1) : 36-44.
- 41) 百束比古，小野真平，小川 令，村上正洋：顔面頸部の穿通枝皮弁。PEPARS 2010 ; 37 : 20-30.
- 42) 小野真平，百束比古：プロペラ皮弁法。PEPARS 2010 ; 37 : 80-92.

43) 百束比古：美容目的の体内異物の画像診断．形成外科 2010；53（2）：147-156.

(2) 総説：

- 1) 小川 令：ケロイド・肥厚性瘢痕の治療指針．PEPARS 2009；33：7-12.
- 2) 小川 令，百束比古，宮下次廣¹⁾（¹⁾放射線科）：ケロイドに対する術後電子線照射療法．PEPARS 2009；33：49-52.
- 3) 赤石諭史，小川 令，小池幸子，百束比古：ケロイドに対するロングパルスNd：YAGレーザー照射療法．PEPARS 2009；33：61-67.
- 4) 土佐真美子¹⁾，村上正洋¹⁾，百束比古（¹⁾武蔵小杉病院形成外科）：ケロイドに対するALA-PDT．PEPARS 2009；33：68-73.
- 5) 青木 律¹⁾，赤石諭史（¹⁾グリーンウッドスキンクリニック立川）：フラクショナルレーザーによる瘢痕治療．PEPARS 2009；35：32-37.
- 6) 百束比古，小川 令：ケロイドと肥厚性瘢痕：鑑別・除外診断とその治療．日本医事新報 2010；4477：65-66.
- 7) 小川 令，百束比古：顔面移植手術とは．医学の歩み 2010；232（12）：1228-1229.

(3) 症例報告：

- 1) 小野真平，百束比古：ヒアルロン酸の顔面自己注入の1例．日美外報 2009；31（3）：9-14.
- 2) 小野真平，百束比古：脂肪融解注射自己注入後遺症の1例．日美外報 2009；31（3）：15-21.
- 3) 小野真平，小川 令，百束比古：サウナによる顔面重症熱傷の1再建例．日医大医会誌 2009；5（4）：225-227.
- 4) 梅澤裕己，岩切 致¹⁾，青木雅代，百束比古，伊吾田慎一²⁾，村上正洋¹⁾（¹⁾武蔵小杉病院形成外科，²⁾東戸塚記念病院形成外科）：前額部の熱傷瘢痕上に発生した基底細胞癌の1例．熱傷 2009；35（5）：288-291.

著 書

- 1) 水野博司：〔分担〕肥厚性瘢痕．形成外科診療プラクティス，形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療（ゲスト編集：山本有平，常任編集：一瀬正治，保阪善昭），2009；pp112-112，文光堂.
- 2) 水野博司：〔分担〕ケロイド．形成外科診療プラクティス，形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療（ゲスト編集：山本有平，常任編集：一瀬正治，保阪善昭），2009；pp113-115，文光堂.
- 3) 百束比古：〔分担〕ケロイドの治療．形成外科診療プラクティス，形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療（ゲスト編集：山本有平，常任編集：一瀬正治，保阪善昭），2009；pp225-226，文光堂.
- 4) 百束比古：〔編集〕ステッドマン医学大辞典第5版，2009；メディカルビュー社.
- 5) 百束比古，青木 律，小野真平：〔分担〕人工材料の基礎知識．美容皮膚科学（改訂第2版）（監修：日本美容皮膚科学会），2009；pp455-463，南山堂.
- 6) かづきれいこ：〔分担〕メディカルメイク．美容皮膚科学（改訂第2版）（監修：日本美容皮膚科学会），2009；pp207-213，南山堂.
- 7) 水野博司，宮本正章¹⁾（¹⁾内科）：〔分担〕皮膚皮下組織．遺伝子医学MOOK13号 臨床再生誘導2009 患者までとどいている再生誘導治療：バイオマテリアル，生体シグナル因子，細胞を利用した患者のための再生医療の現状（田畑泰彦），2009；pp86-91，メディカルドウ.
- 8) 宮本正章¹⁾，高木 元¹⁾，太良修平¹⁾，水野博司，田畑泰彦²⁾，水野杏一¹⁾（¹⁾内科，²⁾京都大学再生医科学研究所）：〔分担〕皮膚真皮：皮膚真皮の再生誘導治療．遺伝子医学MOOK13号 臨床再生誘導2009 患者までとどいている再生誘導治療：バイオマテリアル，生体シグナル因子，細胞を利用した患者のための再生医療の現状－（田畑泰彦），2009；pp232-236，メディカルドウ.
- 9) 水野博司：〔分担〕糖尿病足病変4 ウジ療法は有効か？．見開きナットク！フットケア実践Q&A（聖路加国

際病院), 2010 ; pp130-131, 全日本病院出版会.

- 10) 百東比古 : [編集] 成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて (ゲスト編集 : 百東比古, 常任編集 : 一瀬正治, 保阪善昭), 2010 ; pp1-291, 文光堂.
- 11) 百東比古, 村上正洋 : [分担] 4. 皮弁の分類—移動方法から考えた分類, A. 皮弁, フラップの分類. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp18-22, 文光堂.
- 12) 百東比古, 小川 令, 小野真平 : [分担] 5. 後頭動脈下降穿通枝 (OC) 超薄皮弁と頸部前胸部 (CP) 超薄皮弁, B. 代表的皮弁とその挙上法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp38-41, 文光堂.
- 13) 天海恵子, 大木更一郎 : [分担] 9. 浅頸動脈穿通枝皮弁, B. 代表的皮弁とその挙上法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp50-51, 文光堂.
- 14) 村上正洋, 大木琴美, 百東比古 : [分担] 12. 胸部肋間動脈穿通枝皮弁, B. 代表的皮弁とその挙上法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp60-62, 文光堂.
- 15) 百東比古 : [分担] 19. 深腸骨回旋動脈 (DCIA) を茎とした遊離腸骨弁, B. 代表的皮弁とその挙上法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 文光堂, 2010 ; pp83-85, 文光堂.
- 16) 大木更一郎, 百東比古, 小池幸子 : [分担] 20. SGAP 皮弁, IGAP 皮弁, B. 代表的皮弁とその挙上法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp86-89, 文光堂.
- 17) 岩切 致¹⁾, 百東比古, 野本俊一⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : [分担] 27. 遠位茎腓腹皮弁, B. 代表的皮弁とその挙上法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp112-113, 文光堂.
- 18) 小野真平, 中尾淳一, 林 宏光¹⁾ (1) 放射線科) : [分担] 2. 術前評価 : multidetector-row CT (MDCT) による皮膚穿通枝術前評価法, D. 皮弁の評価, モニタリング, 救済法. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp149-151, 文光堂.
- 19) 小川 令, 百東比古 : [分担] 9. 頤・前頸部再建, E. 再建部位別の標準的な皮弁手術. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp196-199, 文光堂.
- 20) 水野博司, 百東比古 : [分担] 16. 人工物摘出後の乳房再建, E. 再建部位別の標準的な皮弁手術. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp218-219, 文光堂.
- 21) 大木更一郎, 小野真平, 百東比古 : [分担] 20. 褥瘡・難治性潰瘍再建 (ii) 穿通枝茎プロペラ皮弁による, E. 再建部位別の標準的な皮弁手術. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp232-234, 文光堂.
- 22) 百東比古, 石井暢明, 小野真平 : [分担] 2. プロペラ皮弁法, F. 皮弁の新たな展開と理論. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp244-246, 文光堂.
- 23) 奥田貴久¹⁾, 水野博司, 百東比古⁽¹⁾ 北村山公立病院形成外科) : [分担] 5. prefabricated flap と再生医療, F. 皮弁の新たな展開と理論. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管

- 吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp251-253, 文光堂.
- 24) 陳 貴史, 百束比古 : [分担] 7. degloving injury のarterialization, F. 皮弁の新たな展開と理論. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp258-259, 文光堂.
- 25) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : [分担] 1. 整容的皮弁としての薄層化皮弁とその穿通枝付加, G. 皮弁外科における整容的配慮. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp272-274, 文光堂.
- 26) 村上正洋, 百束比古 : [分担] 3. 皮弁採取部における整容的配慮, G. 皮弁外科における整容的配慮. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp278-279, 文光堂.
- 27) 小野真平, 百束比古, 王 春梅¹⁾ (¹⁾ 中国東莞康華病院形成外科・美容外科) : [分担] 5. 整容的再建における” expanded flap ” の応用, G. 皮弁外科における整容的配慮. 形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際 挙上～血管吻合の基本から美容的観点を含めて, 2010 ; pp282-284, 文光堂.
- 28) 大木更一郎, 百束比古 : [分担] 5. Le FortIII型骨折における蝶頬骨縫合固定の有用性, F. 上顎. 形成外科診療プラクティス 顔面骨折の治療の実際, 2010 ; pp259-262, 文光堂.
- 29) 百束比古 : [分担編集] コメディカル版 ステッドマン医学辞典【英和・和英】, 2010 ; pp1-1304, メジカルビュー社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Ogawa R, Orgill-P D, Murphy-F G, Mizuno H : Chondron induced from Human Adipose-Derived Stem Cells with Hydrostatic Pressure. The 52th Annual Meeting of The Orthopedic Research Society (LasVegas), 2009. 2.
- 2) Ogawa R, Mizuno H, Murphy-F G, Orgill-P D : The Effect of Hydrostatic Pressure on Three-Dimensional Cartilage Regeneration Using Human Adipose-Derived Stem Cells. The 52th Annual Meeting of The Orthopedic Research Society (LasVegas), 2009. 2.

追加分招待講演 :

- 1) Ogawa R : Burn Reconstruction and Total Scar Management. Grand Rounds on the department of Plastic Surgery (New Jersey Medical School (New Jersey)), 2009. 1.
- 2) Ogawa R : Mechanobiology of Cells and Tissues. Research Seminar at Brigham and Women' s Hospital (Harvard Medical School (Boston)), 2009. 1.

(1) 特別講演 :

- 1) 小川 令 : 細胞はいかに力を感じるか : 細胞力学と組織工学・創傷治癒学. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
- 2) 百束比古 : 穿通枝を利用した皮弁移植術 : プロペラ皮弁を中心に. 東北マイクロサージャリー懇話会 (第15回) (仙台), 2009. 10.

(2) 招待講演 :

- 1) Mizuno H, Hyakusoku H, Miyamoto M¹⁾, Tabata Y²⁾ (¹⁾ Depart of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University) : Novel therapeutic approaches for chronic skin ulcers by the administration of stem cells or control-release of basic fibroblast growth factors. 1st Internation-

- al Conference on Recent Advances in Surgery (Kottayam, India), 2009. 9.
- 2) Ogawa R, Ayestaray B, Hyakusoku H : Usefulness of “Super-Thin Flaps” in Burn Reconstructive Surgery. The 54th Annual Congress of French Society for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (LaDefence), 2009. 11.
 - 3) Ogawa R : Application of Adipose Stem Cells for Plastic Surgery : In Particular about Cartilage Regeneration. Keystone Symposia 2010 (Colorado, USA), 2010. 1.
 - 4) Ogawa R : Surgical Treatments for Keloids and Hypertrophic Scars : Importance of Tensile Reduction using Flaps and Subcutaneous / Fascial Sutures. The 3rd International Scar Club Meeting (Montpellier), 2010. 3.
 - 5) Ogawa R : Mechanobiology of Cutaneous Wound Healing and Scarring. The 3rd International Scar Club Meeting (Montpellier), 2010. 3.
 - 6) Ogawa R : 1st Analysis of Questionnaire on Scars. The 3rd International Scar Club Meeting (Montpellier), 2010. 3.
- (3) 教育講演 :
- 1) 小川 令 : 乳房への脂肪注入後の後遺症の検討と今後の可能性. 平成21年度美容医療協会講習会 (東京), 2009. 5.
- (4) シンポジウム :
- 1) Ogawa R, Hyakusoku H : Usefulness of perforators for superthin flaps in “burn reconstructive surgery”. 5th congress of world society for reconstructive microsurgery (Okinawa), 2009. 6.
 - 2) Hyakusoku H : Development of othe propeller flap method. The 19th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery (Yokohama), 2009. 10.
 - 3) 水野博司 : 脂肪組織由来幹細胞の臨床応用の現状と発展. 日本美容外科学会総会 (第32回) (横浜), 2009. 9.
 - 4) 水野博司, 百束比古 : 国内外における脂肪組織由来幹細胞の臨床応用の現状と課題. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回), 2009. 10.
 - 5) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 後藤 稔¹⁾, 寺本 明¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 脳神経外科, ⁽²⁾ 千葉北総病院形成外科 : 前頭洞炎に対する経頭蓋手術における我々の工夫. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
 - 6) 赤石論史 : ケロイド・肥厚性瘢痕に対するレーザー治療. 国際レーザー医学会大会 (第18回) (東京), 2009. 11.
 - 7) 青木 律 : 蒸散型フラクショナルレーザーの総論. 日本レーザー医学会総会 (第30回) (東京), 2009. 12.
- (5) パネルディスカッション :
- 1) Ono S, Hayashi H, Takami Y, Ogawa R, Hyakusoku H : Investigation of systemic superficial perforator course artery (PCA) by multi-detectorrow CT (MDCT). 5th congress of world society for reconstructive microsurgery (Okinawa), 2009. 6.
 - 2) Mizuno H, Hyakusoku H : Tissue prefabrication technique : A novel approach in tissue engineering. 5th congress of world society for reconstructive microsurgery (沖縄), 2009. 8.
 - 3) Mizuno H : The effect of adipose-derived stem cells on primary wound healing and tissue repair. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery : Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
 - 4) 水野博司, 百束比古, 宮本正章¹⁾ ⁽¹⁾ 再生医療科 : 我々の実施している難治性下腿潰瘍に対する集学的治療の実際と結果. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
 - 5) 赤石論史, 秋田定伯¹⁾, 小川 令, 土佐泰祥²⁾ ⁽¹⁾ 長崎大学形成外科, ⁽²⁾ 昭和大学形成外科 : ケロイド・肥厚性瘢痕の分類・評価. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回) (東京), 2009. 8.

- 6) 小川 令, 赤石論史, 百束比古: ケロイド・肥厚性癬痕の特徴と問題点. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第4回) (東京), 2009. 8.
 - 7) 大木更一郎, 村上正洋¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科): 低浸襲手術の観点からみた多発顔面骨折術式の選択と手術適応: QOLの面からみた優しい低浸襲手術. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- (6) セミナー:
- 1) Mizuno H: Therapeutic strategy using adipose-derived stem cells and prospective for the future. Plastic Surgery Forum, Seoul National University (Seoul, Korea), 2009. 9.
 - 2) Mizuno H: Therapeutic strategy using adult stem cells/slow-released growth factors in plastic surgery. Plastic Surgery Forum, Samsung Medical Center (Seoul, Korea), 2009. 9.
 - 3) 水野博司: 脂肪組織由来幹細胞注入と脂肪注入の違いなど. 平成21年度美容医療協会講習会 (東京), 2009. 5.
- (7) 一般講演:
- 1) 小野真平, 林 宏光¹⁾, 高見佳宏²⁾, 百束比古 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 西部総合病院形成外科): MDCTを用いた全身の穿通枝走行軸性 (perforator course axially) の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
 - 2) Ogawa R, Orgill PD, Murphy FG, Mizuno H: Hydrostatic Pressure (HP) -Driven 3-D Chondroinduction using Human Adipose-Derived Stem Cells and Collagen Gel. 54th Annual Meeting of Plastic Surgery Research Council (Pittsburgh, PA), 2009. 5.
 - 3) Uysal AC, Orbay H, Kobe K, Tobita M, Hyakusoku H, Mizuno H: Adipose derived stem cells enhance primary tendon repair. 54th Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council (Pittsburgh, PA), 2009. 5.
 - 4) Orbay H, Uysal AC, Hyakusoku H, Mizuno H: In vitro differentiation of adipose derived stem cells into Schwann cells and in vivo implications for peripheral nerve repair. 54th Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council (Pittsburgh, PA), 2009. 5.
 - 5) Orbay H, Uysal AC, Hyakusoku H, Mizuno H: in Vitro differentiation of adipose derived stem cells into schwann cells and in vivo implications for peripheral nerve defects. 5th congress of world society for reconstructive microsurgery (Okinawa), 2009. 6.
 - 6) Uysal AC, Orbay H, Hyakusoku H, Mizuno H: The effect of adipose derived stem cells on primary nerve repair. 5th congress of world society for reconstructive microsurgery (Okinawa), 2009. 6.
 - 7) Ogawa R: Perforator supercharged superthin flaps. 1st Tokyo Meeting on Perforator and Propeller Flaps (Tokyo), 2009. 6.
 - 8) Hyakusoku H: New definition and classification of the propeller flap method. 1st Tokyo Meeting on Perforator and Propeller Flaps (Tokyo), 2009. 6.
 - 9) Ono S: MDCT for propeller flaps. 1st Tokyo Meeting on Perforator and Propeller Flaps (Tokyo), 2009. 6.
 - 10) Hyakusoku H, Ogawa R: Usefulness of the Concept "Super-Thin Flaps" in Burn Reconstructive Surgery. 44th Annual Conference of Association of Plastic Surgeons of India (Chennai), 2009. 8.
 - 11) Ogawa R, Hyakusoku H: Current Algorithms for the Treatment and Prevention of Hypertrophic Scars and Keloids. 44th Annual Conference of Association of Plastic Surgeons of India (Chennai), 2009. 8.
 - 12) Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H: Stem Cell Research and Clinical Application in Plastic Surgery. 44th Annual Conference of Association of Plastic Surgeons of India (Chennai), 2009. 8.
 - 13) Mizuno H, Uysal AC, Orbay H, Kobe K, Hyakusoku H: Adipose-derived stem cells for wound healing

- and tissue repair. 2nd Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress (Seoul, Korea), 2009. 8.
- 14) Orbay H, Uysal AC, Hyakusoku H, Mizuno H : In-vitro differentiation of adipose derived stem cells into schwann cells and In vivo implications for peripheral nerve defects. 2nd Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress (Seoul, Korea), 2009. 8.
 - 15) Kobe K, Mizuno H, Suzuki K, Ono K, Uysal AC, Hyakusoku H : Accelerated proliferation of human adipose derived stem cells in human serum supplemented medium. 2nd Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress (Seoul, Korea), 2009. 8.
 - 16) Tobita M, Fraser J¹⁾, Pinkernell K¹⁾, Hedrick M¹⁾, Mizuno H (¹⁾ Cytori Therapeutics Inc.) : Periodontal tissue repair using human adipose tissue-derived stem and regenerative cells. 2nd Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress (Seoul, Korea), 2009. 8.
 - 17) Ogawa R, Orgill D, Murphy G, Mizuno H : Hydrostatic Pressure (HP) -Driven 3-D Cartilage Tissue Engineering using Human Adipose-Derived Stem Cells. The 2nd Tissue Engineering and Regenerative Medicine Society (Seoul, Korea), 2009. 9.
 - 18) Tobita M, Fraser J¹⁾, Pinkernell K¹⁾, Hedrick M¹⁾, Mizuno H (¹⁾ Cytori Therapeutics Inc.) : Human adipose tissue-derived stem and regenerative cells promote periodontal tissue regeneration. 95th Annual Meeting of American Academy of Periodontology (Boston, MA, USA), 2009. 9.
 - 19) Orbay H, Uysal-C A, Hyakusoku H, Mizuno H : In-Vitro Differentiation of adipose derived stem cells into schwann cells and in-vivo implications for peripheral nerve defects. The 19th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery (Yokohama), 2009. 10.
 - 20) Ogawa R, Akaishi S, Kuribayashi S¹⁾, Miyashita T¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Radiology) : The Site : Dependent Dose Protocol of Postoperative Radiation Therapy for Keloid -Analysis of 558 Sites followed up over 18 months. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery -Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
 - 21) Hyakusoku H, Ogawa R, Mizuno H, Ono S : Propellre flap method -new definition and development-. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery -Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
 - 22) Takami Y, Ono S, Ogawa R, Orbay H, Mizuno H, Hyakusoku H : Development of an acellular dermal matrix, which is suitable as a scaffold for clinical application of a tissue-engineered skin equivalent. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery -Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
 - 23) Ogawa R, Orgill D, Murphy G, Mizuno S : Cartilage Tissue Engineering Using Human Adipose-Derived Stem Cells and Collagen Gel with Hydrostatic Pressure. The 95th American College of Surgeons (Cicago), 2009. 10.
 - 24) Pouya D, Ogawa R, Helm D, Erba P, Orgill D : Potential of Adipose-derived Stem Cells Harvested from Diabetic Mice on Wound Healing. The 95th American College of Surgeons (Chicago), 2009. 10.
 - 25) Tobita M, Fraser J¹⁾, Pinkernell K¹⁾, Hedrick M¹⁾, Mizuno H (¹⁾ Cytori Therapeutics Inc.) : Human adipose tissue-derived stem and regenerative cells for periodontal regeneration. 7th Annual Meeting of International Federation for Adipose Therapeutics and Science (Daegu, South Korea), 2009. 10.
 - 26) Kobe K, Mizuno H, Suzuki K¹⁾, Ono K¹⁾, Uysal AC, Hyakusoku H (¹⁾ R&D Center, JMS Inc.) : Human serum is suitable alternatives to fetal bovine serum for the expansion of adipose derived stem cells. 7th Annual Meeting of International Federation for Adipose Therapeutics and Science (Daegu, South Korea), 2009. 10.

- 27) Orbay H, Uysal AC, Hyausoku H, Mizuno H : In-vitro differentiation of adipose derived stem cells into schwann cells and in-vivo implications for peripheral nerve defects. 7th Annual Meeting of International Federation for Adipose Therapeutics and Science (Daegu, South Korea), 2009. 10.
- 28) Mizuno H, Uysal AC, Orbay H, Kobe K, Hyakusoku H : Functional and structural repair of peripheral nerve injury by adipose-derived stem cells : An experimental study. 78th Annual Scientific Meeting of American Society of Plastic Surgery (Seattle, Washington), 2009. 10.
- 29) Heit Y, Younan G, Helm D, Ogawa R, Pietramaggiore G, Scherer S, Ottensmeyer M, Kane B, Orgill D : Mechanical Forces in Wound Healing and Clinical Use. CIMIT Innovation Congress 2009 (Boston, USA), 2009. 11.
- 30) 石井暢明¹⁾, 村上正洋²⁾, 百束比古¹⁾ (会津中央病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 乳児期に囲炉裏熱傷を負い足切断を免れた症例の長期経過観察. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 31) 香西達一, 小野真平, 百束比古 : 経腋窩バッグプロステシス挿入法による豊胸術後遺症の検討. 日本美容外科学会総会 (第32回) (横浜), 2009. 9.
- 32) 大木更一郎, 青木雅代, 中尾淳一, 水野博司, 百束比古 : 二島型腹直筋穿通枝皮弁による足背 : 踵部深達性潰瘍の治療. 日本マイクロサージャリー学会 (第36回) (徳島), 2009. 10.
- 33) 石井暢明¹⁾, 土肥輝之¹⁾, 小野真平, 百束比古¹⁾ (会津中央病院形成外科) : 顔面動脈穿通枝を茎とするプロペラ皮弁による頸部癬痕拘縮再建. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- 34) 大木更一郎, 小池幸子, 村上正洋¹⁾, 百束比古¹⁾ (武蔵小杉病院形成外科) : 多発顔面骨骨折の術後変形と蝶頬骨縫合固定の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 35) 小野真平, 百束比古 : 自己注入異物後遺症と医療用注射薬のネット取引の実態. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 36) 天海恵子, 大木更一郎, 小川 令, 赤石論史, 小野真平, 百束比古, 村上正洋¹⁾ (武蔵小杉病院形成外科) : 浅頸動脈穿通枝皮弁 (SCAP) flapの血管解剖と臨床応用. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 37) 奈良慎平¹⁾, 村上正洋¹⁾, 大木琴美, 岩切 致¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 百束比古¹⁾ (武蔵小杉病院形成外科) : 腹壁子宮内膜症2例の経験と確実に切除するための工夫について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 38) 江浦重義, 野本俊一¹⁾, 赤石論史, 大木更一郎, 水野博司, 百束比古¹⁾ (北村山公立病院形成外科) : フルニエ壊疽9症例の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 39) 大森康高, 赤石論史, 百束比古 : 微小な原因で発生したケロイドの発生分布について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 40) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古¹⁾ (武蔵小杉病院形成外科) : ケロイドに対するステロイド含有テープの治療効果に対する検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 41) 土肥輝之, 赤石論史, 百束比古 : 皮下膿瘍を伴うケロイド・肥厚性癬痕に対する terbinafine hydrochloride 内服による膿瘍抑制効果について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 42) かづきれいこ, 青木 律, 小池幸子, 百束比古 : リハビリメイクが母斑や外傷痕を有する患者に及ぼす影響. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第52回), 2009. 4.
- 43) 橋田絵里香¹⁾, 村上正洋²⁾, 宮里 肇³⁾, 石井和博⁴⁾, 秋元正字¹⁾, 百束比古¹⁾ (千葉北総病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ³⁾ 沖縄県立南部医療センター皮膚科, ⁴⁾ 大浜第一病院形成外科) : 100歳女性に生じた上口唇メルケル細胞癌の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第25回), 2009. 5.
- 44) 飛田護邦, Fraser-K J¹⁾, Pinkernell K¹⁾, Hedrick M¹⁾, 水野博司¹⁾ (Cytori Therapeutics Inc) : ヒト脂肪組織幹細胞を用いた歯周組織再生. 日本歯周病学会春季学術集会 (第52回) (岡山), 2009. 5.

- 45) 高見佳宏¹⁾, 小野真平, Orbay H, 佐藤格男²⁾, 高橋 聡²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 西部総合病院形成外科, ⁽²⁾ 救急医学) : 同種無細胞真皮マトリックスを用いた3層性代用真皮の基礎的検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 46) 松村由美¹⁾, 関希世香¹⁾, 山田弥生¹⁾, 熊谷由佳子¹⁾, 斉藤満津子¹⁾, 加藤雪子¹⁾, 榊 聖樹²⁾, 歌田貴仁²⁾, 小野真平, 高見佳宏³⁾ (⁽¹⁾ 西部総合病院3階南病棟, ⁽²⁾ 西部総合病院外科, ⁽³⁾ 西部総合病院形成外科) : 重症熱傷の救命治療後, 当院に転院し長期入院となった症例の検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 47) 島本 実^{1,2)}, 川井 真¹⁾, 横田裕之¹⁾, 百束比古²⁾ (⁽¹⁾ 高度救急救命センター, ⁽²⁾ 形成外科) : 後期高齢者広範囲熱傷患者の治療方針. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 48) 桑原大彰¹⁾, 村上正洋¹⁾, 大木更一郎, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 耳介新鮮熱傷に行った網状植皮術. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 49) 土肥輝之, 赤石論史, 百束比古 : 熱傷後の高度外鼻変形に対する再建. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 50) 大木更一郎, 水野博司, 百束比古 : OCP皮弁 : 血管付加要否の再検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 51) 中尾淳一, 小野真平, 王 春梅¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 東莞康華病院形成外科) : Expanded Occipito-cervico-dorsal (OCD) Flapによる熱傷再建. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 52) 木村広美, 橋本 聡, 水野博司, 小川 令, 百束比古 : 小児の腋窩熱傷瘢痕拘縮解除における正方皮弁の適用. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第35回) (東京), 2009. 6.
- 53) 小野真平, 林 宏光¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 放射線科) : MDCTを用いた全身の穿通枝走行軸性 (perforator course axality) の検討. 日本外科系連合学会 (第34回) (東京), 2009. 6.
- 54) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 松島 隆²⁾, 朝倉啓文²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ⁽²⁾ 武蔵小杉病院産婦人科) : 術後1ヶ月目の瘢痕状態に応じた早期治療による瘢痕ケロイド抑制効果の検討. 日本外科系連合学会 (第34回) (東京), 2009. 6.
- 55) 中尾淳一, 大木更一郎, 青木雅代, 小野真平, 百束比古 : ドライアイスによる自傷行為で再建を要した足関節低体温熱傷潰瘍の1例. 日本形成外科学会東京地方会 (東京), 2009. 7.
- 56) 小野真平, 百束比古, 林 宏光, 赤石論史, 青木雅代, 大森康高, 小川 令 : 上甲状腺動脈穿通枝皮弁 : MDCTによるSupra-facial Perforator Directionality (SPD) の解析. 日本形成外科学会東京地方会 (東京), 2009. 7.
- 57) 梅澤裕己, 村上正洋, 岩切 致, 大木琴美, 百束比古 : 高眼圧のため緊急処置を要した眼窩吹き抜け骨折の1例. 日本形成外科学会東京地方会 (東京), 2009. 7.
- 58) 土肥輝之, 赤石論史, 大森康高, 小川 令, 百束比古 : 耳介ケロイドに対するくり抜き法の実践. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回) (東京), 2009. 8.
- 59) 桑原大彰¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 当科における片側ピアスケロイドの検討 : ケロイド発生側と健側のピアス後経過の比較検討. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回) (東京), 2009. 8.
- 60) かづきれいこ : 熱傷後瘢痕を有する患者に及ぼすリハビリメイクの効果. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回) (東京), 2009. 8.
- 61) 赤石論史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : ケロイド手術による新しい縫合法. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回) (東京), 2009. 8.
- 62) 高見佳宏¹⁾, 小野真平, 橋本 聡, 野中由紀子¹⁾, 奥田貴久, 赤石論史, 小川 令, 百束比古⁽¹⁾ 西部総合病院形成外科) : 顔面熱傷後の鼻翼部瘢痕拘縮に対する自家真皮移植と二期的全層植皮による治療経験. 瘢痕・ケ

- ロイド治療研究会（第4回）（東京），2009．8．
- 63) 青木雅代，赤石論史，小野真平，岩切 致¹⁾，水野博司，小川 令，百東比古¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科）：ケロイドに対する皮弁術の有用性と問題点．癬痕・ケロイド治療研究会（第4回）（東京），2009．8．
 - 64) 大森康高，赤石論史，小川 令，百東比古：ケロイドが発生しやすい部位の検討．癬痕・ケロイド治療研究会（第4回）（東京），2009．8．
 - 65) 土佐真美子¹⁾，村上正洋¹⁾，松島 隆²⁾，朝倉啓文²⁾，百東比古¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科，²⁾ 武蔵小杉病院産婦人科）：産婦人科手術後1ヶ月目の癬痕評価・分類の試みとそれに基づく肥厚性癬痕およびケロイド発生率の検討．癬痕・ケロイド治療研究会（第4回）（東京），2009．8．
 - 66) 大木更一郎，青木雅代，村上正洋，百東比古：下腿～足関節部動静脈の圧迫による影響の検討．日本褥瘡学会（第11回）（大阪），2009．9．
 - 67) 飯村剛史，小野真平，百東比古：動静脈吻合により再接着し得た指尖部完全切断の1例．日本形成外科学会東京地方会（第259回）（東京），2009．9．
 - 68) 小池幸子，赤石論史，百東比古：癬痕（傷あと）に対する治療法の検討．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 69) 香西達一，百東比古：画像診断による注入物の同定が困難であった豊胸術後遺症例の検討．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 70) 梅澤裕己，天海恵子，河邊京子，香西達一，百東比古：画像診断でバッグと思われた巨大嚢腫の1例．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 71) 村上正洋，百東比古：上眼瞼皮膚弛緩賞に用いた眉下切開法の手術前後における眉毛の位置の変化について．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 72) 香西達一，小川 令，百東比古，小野真平：最近の脂肪注入による豊胸術後遺症患者の検討．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 73) かづきれいこ^{1,2)}，百東比古²⁾，光嶋 勲³⁾ ¹⁾ REIKO KAZKI，²⁾ 形成外科，³⁾ 東京大学医学部付属病院形成外科・美容外科）：メイクアップと外科手術の併用にてQOLの向上を認めた巨大耳下腺腫瘍の1例．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 74) 赤石論史，小川 令，小野真平，百東比古：「老人美容外科（Geriatric Aesthetic Surgery）」の概念の提唱について．日本美容外科学会総会（第32回）（横浜），2009．9．
 - 75) 小川 令，魯 峰¹⁾，百東比古，Orgill D¹⁾ ¹⁾ ハーバード大学プリガムウィメンズ病院形成外科）：陰圧閉鎖療法（VAC療法）のin vitro解析．日本形成外科学会基礎学術集会（第18回，2009．10．
 - 76) 小川 令，赤石論史，Chin M¹⁾，百東比古，Orgill D¹⁾ ¹⁾ ハーバード大学プリガムウィメンズ病院形成外科）：マウス皮膚伸展モデルを用いた張力が皮膚に与える影響の解析．日本形成外科学会基礎学術集会（第18回）（東京），2009．10．
 - 77) 河邊京子，Orbay H，Uysal AC，百東比古，水野博司：脂肪組織由来幹細胞による末梢神経再生<1>：in vitroにおけるシュワン細胞への分化誘導．日本形成外科学会基礎学術集会（第18回）（東京），2009．10．
 - 78) 小川 令，Orgill D¹⁾，百東比古，水野周一²⁾ ¹⁾ ハーバード大学プリガムウィメンズ病院形成外科，²⁾ ハーバード大学プリガムウィメンズ病院整形外科）：ヒト脂肪組織由来幹細胞とコラーゲンをを用いた静水圧付加による3次元軟骨組織再生．日本形成外科学会基礎学術集会（第18回）（東京），2009．10．
 - 79) 高見佳宏¹⁾，小野真平，赤石論史，百東比古，田中秀治²⁾ ¹⁾ 西部総合病院形成外科，²⁾ 国士舘大学大学院救命救急システムコース）：グリセロール処理保存同種皮膚の性状．日本形成外科学会基礎学術集会（第18回）（東京），2009．10．
 - 80) 秋元正宇¹⁾，百東比古¹⁾ 千葉北総病院形成外科）：有限要素法による皮膚縫合面のシミュレーション．日本形成外科学会基礎学術集会（第18回）（東京），2009．10．

- 81) 中尾淳一, 小野真平, 林 宏光¹⁾, 高見佳宏²⁾, 百束比古 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 西部総合病院形成外科) : MDCT による頭部動脈穿通枝解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 82) 水野博司, 百束比古 : 国内外における脂肪組織由来幹細胞の臨床応用の現状と課題. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 83) 飯村剛史, 小野真平, 小川 令, 林 宏光¹⁾, 高見佳宏²⁾, 百束比古 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 西部総合病院形成外科) : MDCTによる鎖骨上動脈 (Supraclavicular Artery) 解析 : Supra-fascial Perforator Directionality (SPD) を中心に. 日本マイクロサージャリー学会 (第36回) (徳島), 2009. 10.
- 84) 青木雅代, 江浦重義, 大木更一郎, 百束比古 : 眼窩下壁形態に関する解剖学的研究および矢状断CTによる解析. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- 85) 中尾淳一, 大木更一郎, 青木雅代, 小野真平, 百束比古 : Missing muscle syndromeを呈した眼窩底骨折の1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- 86) 江浦重義, 大木更一郎, 小池幸子, 百束比古 : 多発顔面骨折の術後変形と蝶頬骨縫合固定の検討. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- 87) 小川 令, 百束比古, Orgill D¹⁾, 水野秀一²⁾ (¹⁾ ハーバード大学ブリガムウィメンズ病院形成外科, ²⁾ 同整形外科) : バイオプロセッサにより静水圧を付加したヒト脂肪組織由来幹細胞による3次元軟骨組織再生. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 88) 小川 令, 赤石論史, 百束比古, Chin M¹⁾, Orgill D¹⁾ (¹⁾ ハーバード大学ブリガムウィメンズ病院形成外科) : マウス皮膚進展装置が皮膚の創傷治癒に与える影響の解析. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 89) 野村好美¹⁾, 村上正洋²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : ポケット褥瘡への伊夏閉鎖療法における着生ソフトシリコンポリウレタンフォーム材の使用経験. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 90) 大森康高, 小野真平, 赤石論史, 青木雅代, 百束比古 : Missing muscle syndromeに類似した所見を呈した眼窩内壁骨折の1例. 日本形成外科学会・第260回東京地方会 (東京), 2009. 12.
- 91) 香西達一, 小川 令, 百束比古 : 熱傷後瘢痕拘縮に対し遠隔皮弁と正方弁法 (Square Flap Method) による指間・指関節再建を行った1例. 日本熱傷学会関東地方会 (第18回) (東京), 2010. 1.
- 92) 高見佳宏¹⁾, 小野真平, 橋本 聡¹⁾, 野中由紀子¹⁾, 奥田貴久, 赤石論史, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 西部総合病院形成外科) : 自家真皮移植と二期的全層植皮による鼻翼部瘢痕拘縮の治療. 日本熱傷学会関東地方会 (第18回) (東京), 2010. 1.
- 93) 橋本 聡¹⁾, 田口 治²⁾, 高見佳宏¹⁾, 野中由紀子¹⁾, 香西達一, 小野真平, 百束比古 (¹⁾ 西部総合病院形成外科, ²⁾ 西部総合病院内科) : 重症熱傷の救命治療後, 当院に長期入院中に顕在化した肺結核症および非結核性抗酸菌症について. 日本熱傷学会関東地方会 (第18回) (東京), 2010. 1.
- 94) 小池幸子, 河邊京子, 百束比古 : 瘢痕に対するフラクショナルレーザー治療の効果の検討 : レプリカによる評価を含めて. 日本美容外科学会学術集会 (第107回) (東京), 2010. 1.
- 95) 赤石論史, 小川 令, 百束比古 : ケロイド手術の新しい縫合法 : 筋膜縫合法. 形成外科手術手技研究会 (第15回) (長崎), 2010. 2.
- 96) 石井暢明¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 会津中央病院形成外科) : 初期型ポケットと遅延型ポケットの被蓋を有効に再建に使う工夫. 形成外科手術手技研究会 (第15回) (長崎), 2010. 2.
- 97) Orbay H, 百束比古, 宮本正章¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 水野博司 (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門生体材料学部分野) : 細切移植軟骨の生存に対する脂肪組織由来幹細胞の影響. 日本再生医療学会総会 (第9回) (広島), 2010. 3.
- 98) 飛田護邦^{1, 3)}, Fraser J²⁾, Hedrick M²⁾, 水野博司¹⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ Cyrori Therapeutics, Inc., ³⁾ 防衛省海

上幕僚監部衛生企画室)：歯周組織再生におけるヒト脂肪組織幹細胞の影響．日本再生医療学会総会（第9回）（広島），2010．3．

- 99) 水野博司，河邊京子，中尾淳一，宮本正章¹⁾，大坪春美¹⁾，百東比古，田畑泰彦²⁾（¹⁾再生医療科，²⁾京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究部門生体材料学部分野）：徐放型塩基性線維芽細胞増殖因子ゼラチンシート
の貼付による皮膚創傷再生誘導治療．日本再生医療学会総会（第9回）（広島），2010．3．

(8) ポスター：

- 1) Amagai K, Oki K, Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : A new perforator flap ; SCAP (Superficial cervical artery perforator) flap. 5th congress of world society for reconstructive microsurgery (Okinawa), 2009. 6.
- 2) Akimnoto M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Chibahokuso Hosp.) : Finite Element Analysis of Local Skin Flaps. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstruction and Aesthetic Surgery-Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
- 3) Murakami M¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Musashikosugi Hosp.) : 50Cases of Upper Eyelid Dermatochalasis Treated by Infrabrow Excision Blepharoplasty. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery—Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
- 4) Tosa M¹⁾, Mohammad G²⁾, Murakami M¹⁾, Egawa S²⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Musashikosugi Hosp. , ²⁾ Institute of Development and Aging Sciences) : Role of IL-17/Th17 cells in keloid pathogenesis. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery-Asian Pacific Section (Tokyo), 2009. 10.
- 5) 水野博司，大木更一郎，百東比古：微小血管束付加を必要としなかったOCP superthin flapによる下顎頸部再建．日本形成外科学会総会・学術集会（第52回），2009．4．
- 6) 橋本 聡，水野博司，百東比古：踵部皮膚軟部組織欠損に対する腓骨動脈穿通枝プロペラ皮弁による再建の経験．日本形成外科学会総会・学術集会（第52回），2009．4．
- 7) 中尾淳一，青木雅代，大木更一郎，百東比古：Missing muscle syndrome を呈した眼窩底骨折の1例．日本形成外科学会総会・学術集会（第52回），2009．4．
- 8) 村上正洋¹⁾，百東比古（¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科）：高齢者の上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉下切開法の有用性．日本形成外科学会総会・学術集会（第52回），2009．4．
- 9) 赤石論史，大森康高，百東比古：ケロイドの伸展方向に関する検討．日本形成外科学会総会・学術集会（第52回），2009．4．
- 10) 木村広美，水野博司，江浦重義，赤石論史，百東比古：血管肉腫術後経過中に頭蓋骨壊死と硬膜外膿瘍を合併し遊離皮弁で再建した長期生存例の経験．日本形成外科学会総会・学術集会（第52回），2009．4．
- 11) 赤石論史，大森康高，小川 令，百東比古：ケロイド伸展ベクトルの検討．瘢痕・ケロイド治療研究会（第4回）（東京），2009．8．
- 12) 小川 令，赤石論史，Chin M¹⁾，百東比古，Orgill D¹⁾（¹⁾ ハーバード大学ブリガムウィメンズ病院形成外科）：張力に対する皮膚の力学的応答：マウス皮膚伸展モデルを用いた解析．瘢痕・ケロイド治療研究会（第4回）（東京），2009．8．
- 13) 伊吾田慎一¹⁾，林 香代²⁾，宮内千賀子²⁾，増田晴美²⁾，金子勝美³⁾，岩切 致⁴⁾，村上正洋⁴⁾，水野博司，百東比古（¹⁾ 東戸塚記念病院形成外科，²⁾ 東戸塚記念病院看護部，³⁾ 相模大野病院皮膚科，⁴⁾ 武蔵小杉病院形成外科）：褥瘡，敗血症になるその前に…早期発見と，外科的処置の重要性．日本褥瘡学会（第11回）（大阪），2009．9．
- 14) 野本俊一¹⁾，江浦重義²⁾，百東比古（¹⁾ 博慈会記念総合病院形成外科，²⁾ 北村山公立病院形成外科）：褥瘡からフルニエ壊疽を生じた症例の手術経験．日本褥瘡学会（第11回）（大阪），2009．9．
- 15) 石井暢明¹⁾，百東比古（¹⁾ 会津中央病院形成外科）：仙骨部褥瘡に対する局所麻酔下プロペラ皮弁法などの外科

- 的治療の有用性. 日本褥瘡学会 (第11回) (大阪), 2009. 9.
- 16) 野村好美¹⁾, 村上正洋²⁾, 岩城由美子³⁾, 月岡悦子¹⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院形成外科, 3) 武蔵小杉病院薬剤部): 当院における医療器具によって発生した褥瘡の現状. 日本褥瘡学会 (第11回) (大阪), 2009. 9.
 - 17) 橋本 聡, 宮本 暖¹⁾, 百束比古 (1) 会津中央病院形成外科): 踵骨骨髓炎を合併した踵部褥瘡に対する腓骨動脈穿通枝プロペラ皮弁による再建. 日本褥瘡学会 (第11回) (大阪), 2009. 9.
 - 18) 中尾淳一, 水野博司, 野本俊一, 百束比古, 橋本 聡¹⁾ (1) 西部総合病院皮膚科・形成外科): 皮膚MRSA感染既往者にTissue Expanderを挿入後感染の再燃が疑われた1例. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 19) 河邊京子, 百束比古, 水野博司): ヒト脂肪組織由来幹細胞のヒト血清添加培地における培養の検討. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 20) 梅澤裕己, 天海恵子, 百束比古): パーキンソン病を基礎疾患に持ち, 治療戦略とりハビリに苦慮しながら口角形成を行った顔面熱傷の1例. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 21) 赤石論史, 大森康高, 小川 令, 百束比古): 新しい切開線の提唱. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 22) 香西達一, 小川 令, 百束比古, 小野真平): 脂肪注入による豊胸術後後遺症を発祥した患者の検討. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 23) 奈良慎平¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 桑原大彰¹⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科): 当院における重症虚血肢の治療: 地域医療連携による就学的医療チーム「j. WALK」について. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 24) 百束比古, 大木更一郎, 水野博司, 赤石論史, 梅澤裕己, 小野真平, 村上正洋¹⁾, 石井暢明²⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 会津中央病院形成外科): プロペラ皮弁法. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 25) 村上正洋¹⁾, 桑原大彰¹⁾, 岩切 致¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 奈良慎平¹⁾, 大木更一郎, 水野博司, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科): われわれの行ってきた熱傷耳介再建. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 26) 大森康高, 久保一人, 陳 貴史, 百束比古): 大腿内側プロペラ皮弁による放射線潰瘍の被覆. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 27) 飯村剛史, 小野真平, 百束比古): 動静脈吻合により再接着し得た指尖部完全切断の1例. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 28) 小池幸子, 河邊京子, 香西達一, 百束比古): フラクショナルレーザーによる瘢痕治療効果. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 29) 久保一人, 青木 律, 天海恵子, 河邊京子, 百束比古): 血管腫に対する複合レーザー照射の経験. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 30) 小川 令, 赤石論史, 百束比古): 肥厚性瘢痕・ケロイドにおける治療アルゴリズムの提唱. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 31) 青木雅代, 赤石論史, 小野真平, 水野博司, 小川 令, 百束比古, 岩切 致¹⁾ (1) 武蔵小杉病院形成外科): 広範囲ケロイドに対する皮弁術の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 32) 江浦重義): 多発顔面骨骨折の術後変形と蝶頰骨縫合固定の検討. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.
 - 33) 中尾淳一, 水野博司, 野本俊一, 百束比古): 皮膚MRSA感染既往者にTissue Expander挿入後感染の再燃が疑われた1例. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.

- 34) 大森康高, 赤石論史, 百束比古: 注射により発生した上肢ケロイドの発生分布の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 35) 赤石論史, 小川 令, 百束比古, 秋元正宇¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科): 有限要素法によるケロイドに対する力学の分析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 36) かづきれいこ, 百束比古: レックリングハウゼン病患者へのリハビリメイクの効果. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 37) Orbay H, Uysal AC, 河邊京子, 百束比古, 水野博司: 脂肪組織由来幹細胞による末梢神経再生<2>: in vivoにおける移植細胞の挙動. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 38) Orbay H, Uysal AC, 河邊京子, 百束比古, 水野博司: 脂肪組織由来幹細胞による末梢神経再生<3>: in vivoにおける神経機能回復評価. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 39) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 千葉北総病院形成外科): 有限要素法によるドッグイヤー発生のシミュレーション: 皮膚の厚さによりドッグイヤーの高さは変化する. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 40) 梅澤裕己, 岩切 致¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科): 高眼圧を来たし救急処置を要した眼窩吹き抜け骨折の1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- 41) 飯村剛史, 江浦重義, 小池幸子, 大木更一郎, 百束比古: 逆行性浅側頭動脈皮弁を用いた上眼瞼高度瘢痕拘縮再建の1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回) (東京), 2009. 11.
- (9) 主題演題:
- 1) Orbay H, Uysal AC, 河邊京子, 百束比古: 脂肪組織由来幹細胞によるin vivoにおける末梢神経再生. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 2) 水野博司^{1,2)}, 宮本正章²⁾, 田畑泰彦³⁾, 黒柳能光⁴⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科, 2) 再生医療科, 3) 京都大学再生医学研究所, 4) 北里大学医療衛生学部人工皮膚研究センター): 重症虚血肢に発生した難治性潰瘍に対する細胞サイトカインを用いた皮膚再生誘導治療. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 3) 小川 令, 百束比古, 魯 峰¹⁾, Orgill D¹⁾ (1) ハーバード大学プリガムウィメンズ病院形成外科): 陰圧閉鎖療法 (VAC療法) が細胞に与える影響のin vitro解析. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 4) 大森康高, 赤石論史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古 (1) 千葉北総病院形成外科): 創閉鎖における新しい縫合法について. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.
- 5) Orbay H, Uysal AC, 河邊京子, 百束比古: In vitroにおける脂肪組織由来幹細胞のシュワン細胞への分化誘導. 日本創傷治癒学会 (第39回) (東京), 2009. 12.

[武蔵小杉病院形成外科]

研究概要

臨床: ケロイドや肥厚性瘢痕の治療において, 術後療法 best protocol 作成へ向けた取り組みを引き続き行った. ケロイドや肥厚性瘢痕の予防および早期発見に主眼を置いた新たなコンセプトである scar control 外来にて, 1500 例を超える女性診療科産科の患者さまを術後早期から診察した結果, 術後の肥厚性瘢痕予防およびケロイドの早期治療が可能となりつつある. 今後は瘢痕の将来像の予測を目的に, 蓄積されたデータの統計処理を進めていく予定である. また, 光線力学療法をアクネケロイドのみならず褥瘡や下腿潰瘍などの難治性潰瘍に対しても行い成果を得ている. さらに, 重症下肢虚血においては近隣病院と協力しあうことで集学的治療を可能とした医療チーム j. WALK に参加し, 創傷管理を中心に救肢に努めている. 一方で, 眼形成外科領域の手術数が年々増加しているため, 今後は眼科との協力体制を築き, より専門性の高い外来を行いたいと考えている.

基礎: ケロイドの発生機序の解明と特効薬の開発を目的とした基礎研究を継続している. われわれは, ケロイド発生

にIL-6シグナルが関与していることを明らかにしてきたが、現在はその研究を進展させ、IL-6シグナルに持続的な刺激を与えている可能性があるTh17 (helper T cell) の働きについて検討している。既に末梢血液中とケロイド局所のhelper T cellの分布を解析し、Th17優位の分布になっていることを明らかにしたが、今後はケロイドモデルの作成にも取り組む予定である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Murakami M, Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Efficacy of rugby-ball shape skin grafting using external wire frame fixation without tarsorrhaphy for lower eyelid reconstruction. J Plast Reconstr Aesthet Surg 2009 ; 63 (2) : 220-221.
- 2) Oki K, Murakami M, Tanuma K¹⁾, Ogawa R²⁾, Ozawa H¹⁾, Hyakusoku H²⁾ (1) Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School, (2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Anatomical study of pectoral intercostal perforators and clinical study of the pectoral perforator (PICP, P-ICAP) flap for hand reconstruction. Plast Reconstr Surg 2009 ; 123 (6) : 1789-1800.
- 3) Murakami M, Oki K, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : The effect of W-plasty on cheek rotation flap. Eplasty 2010 ; 10 : 64-65.
- 4) 土佐眞美子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドに対するALA-PDT. PEPARS 2009 ; 33 : 68-73.
- 5) 百東比古¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 水野博司¹⁾, 村上正洋, 赤石論史¹⁾, 小野真平¹⁾, 石井暢明¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : プロペラ皮弁法の新たな展開. 形成外科 2009 ; 52 (10) : 1237-1246.
- 6) 百東比古¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋, 小野真平¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 超薄皮弁による頸部熱傷瘢痕拘縮の再建. 形成外科 2009 ; 52 (12) : 1417-1425.
- 7) 百東比古¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 顔面頸部の穿通枝皮弁. PEPARS 2010 ; 37 : 20-30.
- 8) 野村好美¹⁾, 村上正洋, 若城由美子²⁾ : 非侵襲的陽圧換気療法 (Non-invasive positive pressure ventilation : NIPPV) 管理下のマスクで生じる顔面褥瘡に対する当院の試み : ポリエチレンジェルシートの効果について. 褥瘡 2010 ; 12 (1) : 59-63.

(2) 症例報告：

- 1) Murakami M, Akira S¹⁾, Tsuboi N²⁾, Matsuzawa I³⁾, Ohki Y⁴⁾, Koike S⁵⁾, Takeshita T¹⁾, Hyakusoku H⁵⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, (2) Department of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (3) Department of Urology, Nippon Medical School Hospital, (4) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, (5) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Microscope-assisted reduction clitoroplasty used to treat two patients with clitoromegaly. J Nippon Med Sch 2010 ; 77 (1) : 35-39.
- 2) 梅澤裕己, 岩切 致, 青木雅代¹⁾, 百東比古¹⁾, 伊吾田慎一²⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科, (2) 東戸塚記念病院形成外科) : 前額部の熱傷瘢痕上に発生した基底細胞癌の1例. 熱傷 2009 ; 35 (5) : 288-291.

著 書

- 1) 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] Central axis flap method -multilobed propeller flap, scar band rotation flap, pin-wheel flap-. 使える皮弁術-適応から挙上まで-上巻 (百東比古, 中島龍夫), 2010 ; pp74-81, 全日本病院出版会.
- 2) 百東比古¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] 皮弁の分類: 移動方法から考えた分類. 皮弁外科・マイクロサージャリーの実例 (百東比古, 一瀬正治, 保阪善昭), 2010 ; pp18-22, 文光堂.
- 3) 村上正洋, 大木琴美¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] 胸部肋間動脈穿通枝皮弁. 皮弁外科・マイクロサージャリーの実例 (百東比古, 一瀬正治, 保阪善昭), 2010 ; pp60-62, 文光堂.
- 4) 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] 皮弁採取部における整容的配慮. 皮弁外科・マイクロサージャリーの実例 (百東比古, 一瀬正治, 保阪善昭), 2010 ; pp278-279, 文光堂.
- 5) 岩切 致, 百東比古¹⁾, 野本俊一¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : [分担] 遠位茎腓腹皮弁. 皮弁外科・マイクロサージャリーの実例 (百東比古, 一瀬正治, 保阪善昭), 2010 ; pp112-113, 文光堂.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 村上正洋 : キズの治し方 : より早く, よりきれいに. 川崎フットケアセミナー (第3回), 2009. 12.

(2) 一般講演 :

- 1) Murakami M, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : 50 cases of upper eyelid dermatochalasis treated by infrabrow excision blepharoplasty. The International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery-Asian Pacific Section (The 10th) (Tokyo), 2009. 10.
- 2) Tosa M, Ghazizadeh M¹⁾, Murakami M, Egawa S¹⁾, Hyakusoku H²⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery Nippon Medical School Hospital) : Role of IL-17/Th17 cells in keloid pathogenesis. The International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery-Asian Pacific Section (The 10th) (Tokyo), 2009. 10.
- 3) 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 高齢者の上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉下切開法の有用性. 日本形成外科学会総会 (第52回), 2009. 4.
- 4) 土佐真美子, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドに対するステロイド含有テープの治療効果に対する検討. 日本形成外科学会総会 (第52回), 2009. 4.
- 5) 奈良慎平, 村上正洋, 大木琴美, 岩切 致, 土佐真美子, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 腹壁子宮内臓症2例の経験と確実に切除するための工夫について. 日本形成外科学会総会 (第52回), 2009. 4.
- 6) 大木更一郎¹⁾, 小池幸子¹⁾, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 多発顔面骨骨折の術後変形と蝶頬骨縫合固定の検討. 日本形成外科学会総会 (第52回), 2009. 4.
- 7) 橋田絵里香¹⁾, 村上正洋, 宮里 肇²⁾, 石井和博²⁾, 秋元正宇¹⁾, 百東比古³⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 大浜第一病院形成外科皮膚科, ³⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : 100歳女性に生じた上口唇メルケル細胞癌の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会 (第25回), 2009. 5.
- 8) 土佐真美子, 村上正洋, 松島 隆¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : 術後1ヶ月目の瘢痕状態に応じた早期治療による瘢痕ケロイド抑制効果の検討. 日本外科系連合学会 (第34回), 2009. 6.
- 9) 桑原大彰, 村上正洋, 大木更一郎¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 耳介新鮮熱傷に行った網状植皮術. 日本熱傷学会総会 (第35回), 2009. 6.

- 10) 石井暢明¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 乳児期に囲炉裏熱傷を負い足切断を免れた症例の長期経過観察. 日本熱傷学会総会 (第35回), 2009. 6.
- 11) 村上正洋, 百束比古¹⁾, 黒田周一²⁾, 橋本 聡²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 会津中央病院形成外科) : Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flapで再建した肘頭滑液包炎. 横浜形成外科フォーラム (第14回), 2009. 6.
- 12) 奈良慎平, 土佐眞美子, 岩切 致, 大木琴美, 村上正洋 : 診断に難渋した耳垂腫瘍の1例. 神奈川県症例検討会, 2009. 7.
- 13) 梅澤裕己¹⁾, 村上正洋, 岩切 致, 大木琴美, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 高眼圧のため緊急処置を要した眼窩吹き抜け骨折の1例. 日本形成外科学会関東地方会 (第258回), 2009. 7.
- 14) 土佐眞美子, 村上正洋, 松島 隆¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科・産科) : 産婦人科手術後1ヶ月目の瘢痕評価・分類の試みとそれに基づく肥厚性瘢痕およびケロイド発生率の検討. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回), 2009. 8.
- 15) 桑原大彰, 土佐眞美子, 岩切 致, 奈良慎平, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 当科における片側ピアスケロイドの検討 : ケロイド発生側と健側のピアス後経過の比較検討. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回), 2009. 8.
- 16) 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 上眼瞼皮膚弛緩症に用いた眉下切開法の手術前後における眉毛の位置の変化について. 日本美容外科学会総会 (第32回), 2009. 9.
- 17) 村上正洋, 桑原大彰, 岩切 致, 土佐眞美子, 奈良慎平, 大木更一郎¹⁾, 水野博司¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : われわれの行ってきた熱傷耳介再建. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 18) 奈良慎平, 村上正洋, 岩切 致, 土佐眞美子, 桑原大彰 : 当院における重症虚血肢の治療 : 地域医療連携による集学的医療チーム「j. WALK」について. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.
- 19) 野村好美¹⁾, 村上正洋, 若城由美子²⁾, 月岡悦子¹⁾ (1) 武蔵小杉病院看護部, ²⁾ 武蔵小杉病院薬剤科) : 当院における医療器具によって発生した褥瘡の現状. 日本褥瘡学会 (第11回), 2009. 9.
- 20) 大木更一郎¹⁾, 青木雅代¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 下腿から足関節部動脈の圧迫による影響の検討. 日本褥瘡学会 (第11回), 2009. 9.
- 21) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾, 百束比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科) : 有限要素法によるドッグイヤー発生のシミュレーション : 皮膚の厚さによりドッグイヤーの高さは変化する. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回), 2009. 10.
- 22) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 村上正洋 (1) 老人病研究所病理部門) : ケロイド患者におけるヘルパーT細胞サブタイプの解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回), 2009. 10.
- 23) 梅澤裕己¹⁾, 岩切 致, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 高眼圧を来たし救急処置を要した眼窩吹き抜け骨折の1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回), 2009. 11.
- 24) 大木更一郎¹⁾, 村上正洋, 秋元正宇²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科) : 低侵襲手術の観点からみた多発顔面骨折術式の選択と手術適応 : QOLの面からみた優しい低侵襲手術. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回), 2009. 11.
- 25) 野村好美¹⁾, 村上正洋 (1) 武蔵小杉病院看護部) : ポケット褥瘡への陰圧閉鎖療法における自着性ソフトシリコンポリウレタンフォーム材の使用経験. 日本創傷治癒学会 (第39回), 2009. 12.
- 26) ガジザデモハマッド¹⁾, 清水 一¹⁾, 土佐眞美子, 枝川聖子¹⁾, 村上正洋 (1) 老人病研究所病理部門) : Effect of imatimib mesylate (ST1571) on keloid fibroblast cell function. 日本研究皮膚科学会学術大会 (第34回), 2009. 12.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

研究, ケロイドの進展機序に関するコンピューターシミュレーションの研究, 頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった. 皮膚手術シミュレーションの研究は, 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行うものである. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した. 皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した. 褥瘡発生機序の研究は, 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである. これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した. 今後, 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発. 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる. ケロイドの進展機序に関する研究は, ケロイドをモデル化し, 応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである. 従来のモデルでは説明のできなかった様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した. さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた. 頭蓋顔面外科領域の再建の研究では, 自家組織による再建を中心として, 整容的にも考慮した術式を考案した. とくに肋骨によるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することに成功した. また頭蓋骨外板を分節上に切離しさらにこれを皮弁として用いることで形態再建に優れた術式を開発した.

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Takumi I¹, Goto M², Akimoto M (1) 武蔵小杉病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院 耳鼻咽喉科): A giant subcutaneous forehead abscess and epidural extension caused by frontal mucocele. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2009; 80 (9): 996-997.

(1) 原著:

- 1) Takumi I¹, Akimoto M (1) 武蔵小杉病院 脳神経外科): Advantage of Catcher' s mask cranioplasty for post-surgical infectious skin trouble. Childs Nerv Syst 2009; 25 (4): 493-495.
- 2) Takumi I¹, Akimoto M (1) 武蔵小杉病院 脳神経外科): One-stage reconstruction using a vascularized calvarial flap for intractable scalp ulcers in relation with cranial implants without removing the whole prosthesis. Neurosurg Rev 2009; 32 (3): 363-368.
- 3) 秋元正宇: 局所皮弁の有限要素法によるシミュレーション - 局所皮弁の延長効果: 汎用プログラムによる解析法とそのノウハウ. Pepars 2009; 29 (5): 71-77.
- 4) 赤石論史¹, 秋元正宇, 小川 令¹, 土肥輝之¹, 百束比古¹ (1) 付属病院 形成外科・美容外科): シリコンジェルシートの力学的効果の検討. 癩痕・ケロイド治療ジャーナル 2009; 3 (1): 40-44.

(2) 総説:

- 1) 百束比古¹, 秋元正宇, 大木更一郎¹ (1) 付属病院 形成外科・美容外科): 顔面熱傷後変形の治療. 形成外科 2009; 52 (増刊): s151-s160.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 赤石諭史¹⁾, 小川 令¹⁾, 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：ケロイド発生における仮説とその妥当性. 日本創傷外科学会 (第1回), 2009. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 秋元正宇：開頭・閉頭の工夫：形成外科医からの提言. 日本整容脳神経外科研究会 (第2回) (東京), 2009. 6.

(2) 一般講演：

- 1) 橘田絵里香, 村上正洋¹⁾, 宮里 肇²⁾, 石井和博²⁾, 秋元正宇, 百束比古³⁾ (1) 武蔵小杉病院 形成外科, 2) 大浜第一病院, 3) 付属病院 形成外科・美容外科)：100歳女性に生じた上口唇メルケル細胞癌の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第25回), 2009. 5.
- 2) 赤石諭史¹⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科)：ケロイド手術における新しい縫合法. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第4回), 2009. 8.
- 3) 秋元正宇：有限要素法による皮膚縫合面のシミュレーション. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第18回) (東京), 2009. 10.
- 4) 秋元正宇：皮膚縫合の断面のシミュレーションの試み. 日本シミュレーション外科学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 5) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇, 後藤 穰²⁾, 寺本 明³⁾, 百束比古⁴⁾ (1) 武蔵小杉病院 脳神経外科, 2) 千葉北総病院耳鼻咽喉科, 3) 付属病院 脳神経外科, 4) 付属病院 形成外科・美容外科)：洞炎に対する経頭蓋手術における我々の工夫. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回), 2009. 11.
- 6) 大木更一郎¹⁾, 村上正洋²⁾, 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科, 2) 武蔵小杉病院 形成外科)：低侵襲手術の観点からみた多発顔面骨折術式の選択と手術適応 - QOLの面からみた優しい低侵襲手術. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第27回), 2009. 11.

20. 付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究概要

遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がる新しい時代の遺伝子医学に対応するため、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として外来診療を行っている。平成16年には、私立大学として初めて臨床遺伝専門医研修施設として認定され、現在も学内外から研修医が集まっている。

遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師のチームで担当している。先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたり、年々来談者数は増加し新患者数は平成22年3月までにのべ400件となった。個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に、臨床医、研究者、臨床心理士、認定遺伝カウンセラーなどが参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討されている。外来ではこれらの議論も参考に遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、患者さん本人の状況に最大限配慮した遺伝カウンセリングを行っている。

遺伝子検査はハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型Ehlers-Danlos症候群、ライソゾーム病などについて遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。特に、高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断は倫理委員会との連携をとり施行した。遺伝診療は、新しい医学領域であるが、既に厚生労働省から臨床遺伝専門医の標榜が認められている。本学では基礎医学研究者、臨床医、看護師が密接に連携して、遺伝と遺伝病にたいする様々な問題を解決できる独自の遺伝診療体制を確立している。

さらに、臨床遺伝教育に関しては、卒前（臨床遺伝コース）、卒後（臨床遺伝専門医制度認定施設）に力を入れ、学外からも高い評価を受けている。今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 大西弘高¹⁾、渡邊 淳、石川ひろの²⁾、小田康友³⁾、杉本なおみ⁴⁾、守屋利佳⁵⁾、吉田素文⁶⁾、森本 剛⁷⁾、吉村明修⁸⁾、阿曾亮子⁸⁾、志村俊郎⁸⁾ (1) 東京大学医学教育国際協力研究センター、2) 滋賀医科大学、3) 佐賀大学、4) 慶應義塾大学、5) 北里大学、6) 九州大学、7) 京都大学、8) 教育推進室)：医学教育領域におけるランダム化比較試験の実施上の課題。医学教育 2010；41 (1)：65-71.

(2) 総説：

- 1) 渡邊 淳：Escobar 症候群 特集「小児の症候群」。小児科診療 2009；72 (増刊号)：45.
- 2) 渡邊 淳：FG 症候群 特集「小児の症候群」。小児科診療 2009；72 (増刊号)：46.
- 3) 渡邊 淳：popliteal pterygium 症候群 (膝窩翼状片症候群) 特集「小児の症候群」。小児科診療 2009；72 (増刊号)：78.
- 4) 渡邊 淳：進行性骨化性線維異型性症候群 特集「小児の症候群」。小児科診療 2009；72 (増刊号)：107.
- 5) 渡邊 淳、大木由加志、島田 隆：Ehlers-Danlos 症候群 特集「小児疾患の遺伝子診断・治療の進歩」。小児科 2009；50 (7)：1177-1181.
- 6) 渡邊 淳^{1,2)}、島田 隆^{1,2)} (1) 付属病院ゲノム先端医療部、2) 生化学・分子生物学)：「オーダーメイド遺伝子医療の現状・課題と展望」医療の現場では 問題提起 オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題。日本遺伝カウンセリング学会雑誌 2009；30 (2)：69-77.

(3) 症例報告：

- 1) Ohkuchi A¹, Matsubara S¹, Takahashi K¹, Inoue S², Saito T³, Mitsuhashi T⁴, Yamagata T⁵, Takahashi N⁵, Watanabe A⁶, Shimada T⁶, Suzuki M¹ (1) 自治医科大学産科婦人科学, (2) 自治医科大学麻酔科, (3) 自治医科大学心臓血管外科, (4) 自治医科大学循環器内科, (5) 自治医科大学小児科, (6) 生化学・分子生物学) : Ehlers-Danlos type IV in pregnancy with a history of myocardial infarction. J Obstet Gynaecol Res 2009 ; 35 (4) : 798-800.
- 2) 吉田博昭¹, 田中洋充¹, 神吉秀典¹, 岩井理恵¹, 福田あおい¹, 佐野寿哉¹, 山田耕治¹, 松本和弘¹, 田伏信¹, 井関富雄¹, 森田章介¹, 渡邊 淳 (1) 大阪歯科大学口腔外科学第1講座) : 顎関節症の疑いで紹介受診した Ehlers-Danlos 症候群の1例. Dental Diamond 2009 ; 34 (8) : 170-176.

著 書

- 1) 渡邊 淳^{1,2} (1) 生化学・分子生物学, (2) 附属病院ゲノム先端医療部) : [翻訳] 第3章 ヒトゲノム：遺伝子の構造と機能. トンプソン&トンプソン遺伝医学 (福嶋義光), 2009 ; pp27-44, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Watanabe A¹, Tang B¹, Shimada T¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : A new categorized COL3A1 mutation detected by genome scanning with vascular Ehlers-Danlos syndrome (vEDS). 8th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium (PPCTSS) , 41st Annual Meeting of the Japanese Society of Connective Tissue Research (JSCTR) , 56th Annual Meeting of the Japan Matrix Club (JMC) (Hayama, Kanagawa), 2009. 6.

(2) セミナー：

- 1) 三宅秀彦：出生前診断. 母子愛育会 周産期医療研修会・医師コース (東京), 2009. 9.
- 2) 三宅秀彦：流産：臨床的な立場からの考察. 人類遺伝学会 遺伝医学セミナー 受賞講演 (大阪), 2009. 9.

(3) 一般講演：

- 1) Onishi H¹, Ishikawa H², Oda Y³, Shimura T⁴, Sugimo N⁵, Morimoto T⁶, Moriya R⁷, Yoshida M⁸, Watanabe A (1) 東京大学医学教育国際協力研究センター, (2) 滋賀医科大学, (3) 佐賀大学, (4) 教育推進室, (5) 慶應義塾大学, (6) 京都大学, (7) 北里大学, (8) 九州大学) : How dose gain in medical knowledge affect rapport-building protocols of medical interview?. AMEE, 2009. 8.
- 2) Watanabe A¹, Naing B¹, Shimada T¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : Mutation screening for vascular type of Ehlers-Danlos Syndrome using high resolution melting curve analysis (hrMCA). 59th Annual meeting of American Society of Human Genetics (Hawaii), 2009. 10.
- 3) 鈴木由美, 三宅秀彦, 浅野ありさ, 渡辺 淳, 大木由加志, 島田 隆：着床前診断を希望するカップルの遺伝カウンセリング. 日本遺伝カウンセリング学会 (第33回) (兵庫), 2009. 7.
- 4) 渡邊 淳¹, 折茂英生², 島田 隆¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), (2) 生化学・分子生物学) : Genotype frequency and clinical significance of 1559T deletion in the TNSALP gene in Japan. 第8回 ALPS 研究会 (新潟), 2009. 7.
- 5) 三宅秀彦¹, 鈴木俊治¹, 大木由加志, 島田 隆 (1) 葛飾赤十字産院) : 流産後の絨毛染色体検査に対する臨床調査. 第33回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (兵庫), 2009. 7.
- 6) 渡辺 淳¹, 澤井英明², 近藤仁美¹, Naing B¹, 菅野華子¹, 唐杉 樹³, 池川志郎³, 折茂英生⁴, 島田隆¹ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), (2) 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻遺伝カウンセ

ラー・コーディネータユニット, ³⁾ 理化学研究所ゲノム医科学研究センター骨関節疾患研究チーム, ⁴⁾ 生化学・分子生物学)：周産期型低フォスファターゼ症の課題：変異スクリーニング法の開発とTNSALP 1559T del 保因者頻度の同定. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (東京), 2009. 9.

- 7) Naing B¹⁾, 渡辺 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学))：血管型 Ehlers-Danlos 症候群におけるゲノムDNAを用いた遺伝子変異同定システムの開発. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (東京), 2009. 9.

[付属病院集中治療室]

研究概要

第38回日本集中治療医学会を2011年2月24(木)～26(土)日に横浜国際会議場で主催することが決まり、この準備に追われている。“集学性 (Multidisciplinary) を考える”をテーマに、集中治療医学の理想である高い専門性と広い集学性をどのように構築していくかを議論する予定である。集中治療は、医学の横断的各分野 (disciplinary) の集積であり、より広く、より専門性の高い知識や経験の結集が要求される。近年のめざましい医学の発展に伴い、集中治療医および集中治療看護師は単に患者を治療・看護するだけでなく、各専門部門間 (interdisciplinary) のコンダクターであらねばならない。また、一般市民の方々が集中治療を少しでも知っていただけるよう、神奈川県医師会と神奈川県保険医協会の後援をいただき、市民公開講座「集中治療ってなに？」を企画し、この中で終末期医療に関する日本集中治療医学会からの提言にも触れる。本年度は循環器領域における末期医療へのガイドライン (提言) の作成にあたり、循環器救急におけるこの問題のアンケート調査を全国の循環器専門施設に行い回答を分析した。この結果はまもなく日本循環器学会のホームページに公表される。また静脈血栓塞栓症の予防ガイドラインの改訂に携わり、集中治療室におけるDVTの現状の把握と我が国におけるエビデンスの集積に努めた。さらに心筋梗塞2次予防の改訂が始まり、新たな知見の検索を開始した。また“ガイドラインに基づくCCU実践マニュアル”を編集し刊行、研修医・若手医師のためのCCUマニュアル“の編集も継続中である。多くの研究業績は極めて重篤な循環器救急や術後管理に関するもので、とくに高齢者や特殊生命維持装置の治療依存対策の問題点が取り上げられている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 竹田晋浩：急性心不全 (心原性肺水腫) に対するNPPV. 人工呼吸 2009 ; 26 (1) : 28-33.
- 2) 坪光祥晃, 竹田晋浩：術後呼吸不全に対するNPPV. 人工呼吸 2009 ; 26 (1) : 34-36.

(1) 原著：

- 1) Tokyo CCU Network Scientific Committee, Obayashi T, Tanabe Y, Yagi H, Yamamoto T, Nagao K, Sato N, Takayama M (¹⁾ Musashino Red Cross Hospital, ²⁾ Tokyo Metropolitan Hiroo Hospital, ³⁾ The Jikei University Hospital, ⁴⁾ Nippon Medical School Hospital, ⁵⁾ Surugadai Nihon University Hospital, ⁶⁾ Sakakibara Heart Institute) : Latest management and outcomes of major pulmonary embolism in the cardiovascular disease early transport system : Tokyo CCU Network. Circ J 2010 ; 74 (2) : 289-293.
- 2) 小谷英太郎, 上村竜太, 吉川正智, 渋井俊之, 神谷仁孝, 細川雄亮, 宗像 亮, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾ 日本医科大学付属病院多摩永山病院 内科・循環器内科) : マルチスライスCTが冠動脈瘤の形態的評価に有用であった川崎病罹患疑いの若年者狭心症例. 心臓 2009 ; 41 (5) : 558-564.

(2) 総説：

- 1) 石川真士, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司, 水野杏一, 中澤 賢, 田島廣之 (¹⁾ 内科学 (循環器・

- 肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 放射線科): 当施設における周術期肺塞栓症の治療成績. Ther Res 2009 ; 30 (5) : 726-729.
- 2) 山本 剛: 肺血栓塞栓症 (今月の主題: 病態や重症度に応じた急性肺血栓塞栓症の治療の選択). Medicina 2009 ; 46 (5) : 763-765.
 - 3) 竹田晋浩, 野口裕幸: 肺保護戦略の実際. Inspiration 2009 2009 ; 2009 (6) : 1-4.
 - 4) 山本 剛: ギプス固定する患者が肺塞栓症で死亡した事案での, 当時における開業医の肺塞栓症発症の一般的知見について (Comment of specialist). 医療判例解説 2009 ; 22 (10) : 28-30.
 - 5) 竹田晋浩, 原田恭子, 佐藤愛子: 非侵襲的陽圧換気療法 (Noninvasive Positive Pressure Ventilation). スマートナース 2009 ; 11 (6) : 36-37.
 - 6) 竹田晋浩: 外科手術後, 不穏状態が続く患者にセレネースおよびドルミカムを連続投与下直後に患者が心停止により死亡した事例. 医療判例解説2009 2009 ; 23 (12) : 2-24.
 - 7) 竹田晋浩, 小谷 透, 中川 聡, 落合亮一: 新型インフルエンザ2009 influenza A (H1N1). 人工呼吸2009 2009 ; 26 (12) : 1-4.
 - 8) 瀬戸利昌, 竹田晋浩: NPPV. 呼吸サポートチームのための呼吸管理セイフティハンドブック. 呼吸器ケア冬季増刊. 呼吸サポートチームのための呼吸管理セイフティハンドブック. 呼吸器ケア冬季増刊 2009 ; 218-223.
 - 9) 竹田晋浩: Critical careにおけるNPPV. 呼吸と循環 2010 ; 58 (2) : 213-216.
 - 10) 竹田晋浩: 新型インフルエンザ2009 influenza A (H1N1): 重症患者の治療. Medicament News 2010 ; 2010 (2005) : 1-4.
- (3) 症例報告:
- 1) Okabe T, Takeda S, Akada S, Hongo T, Sakamoto A : Postoperative intensive care unit drug fever caused by dexmedetomidine. Anesth Analg 2009 ; 2009 (108) : 1589-1591.
 - 2) Kato K, Sato N, Takeda S, Yamamoto T, Munakata R, Tsurumi M, Suzuki D, Yagi K, Tanaka K, Mizuno K : Marked improvement of extensive atelectasis by unilateral application of the RTX respirator in elderly patients. Marked improvement of extensive atelectasis by unilateral application of the RTX respirator in elderly patients. Marked improvement of extensive atelectasis by unilateral application of the Intern Med 2009 ; 48 (16) : 1419-1423.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 竹田晋浩, 三井誠司: 〔分担〕術後NPPV. 麻酔のテクニック. 最新の機材と技術. 麻酔科学レクチャー. 佐藤哲文. 総合医学社, 2009年1巻2号, 511-6. (竹田晋浩・三井誠司), 2009 ; pp511-516, 総合医学社.
- 1) 山本 剛: 〔分担〕急性肺血栓塞栓症. ガイドラインに基づくCCU実践マニュアル (田中啓治), 2009 ; pp222-231, 羊土社.
- 2) 竹田晋浩: 〔分担〕ARDSとDIC. DIC診療ハンドブック (丸山征郎), 2009 ; pp72-77, メディカルレビュー社.
- 3) 山本 剛, 水野杏一 ⁽¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 〔分担〕ショック. 内科学書 (改訂第7版 Vol. 3 循環器疾患, 腎・尿路疾患) (総編集 小川 聡, 部門編集 小川 聡, 藤田俊郎), 2009 ; pp86-88, 中山書店.
- 4) 宗像 亮: 〔分担〕救急外来での治療; 酸素化. 徹底ガイド 心不全Q&A プレホスピタルから慢性期まで,

2010 ; pp26-30, (株) 総合医学社 .

- 5) 竹田晋浩 : [自著] 集中治療CCU. 経静脈治療オーダーマニュアル' 2010版 (小川 龍, 島崎修次, 飯野靖彦, 五十嵐隆, 福島亮治), 2010 ; pp437-440, メディカルレビュー社.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 竹田晋浩 : 肺水腫の治療. 日本呼吸療法医学会学術総会2009 (第31回), 2009. 7.
- 2) 坪光祥晃, 竹田晋浩, 中里桂子, 三井誠司, 田中啓治, 坂本篤裕 : 早期抜管のためのNPPVの適応・使い方・効果. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第18回), 2009. 7.
- 3) 山本 剛, 田中啓治, 佐藤直樹, 水野杏一⁽¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : The Impact of Taking in Intensive and Cardiac Care Unit Training in Internal Medicine Residency Program. 日本循環器学会学術集会 (第74回) (京都), 2010. 3.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 鈴木健一, 高橋真弓, 鎌田隆行, 野口裕幸, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 竹田晋浩, 田中啓治, 坂本篤裕⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME部, ⁽²⁾ 日本医科大学付属病院 第一内科, ⁽³⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科 : ペースメーカーの安全管理のプロの技 : 当院の現状とこれから. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第18回), 2009. 7.

(3) セミナー :

- 1) 三井誠司 : グラフィックモニタの見方. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第31回), 2009. 7.

(4) 一般講演 :

- 1) Munakata R, Sato N, Koji M, Minami Y, Kajimoto K, Tanaka K, Mizuno K, Takano T⁽¹⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, ⁽²⁾ Department of Cardiology, Shonan Dai-ichi Hospital, Kanagawa, ⁽³⁾ Department of Cardiology, Saitamaken Saiseikai Kurihashi Hospital, Saitama, ⁽⁴⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, ⁽⁵⁾ Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Nippon Medical School, Tokyo) : Clinical characteristics of ischemic acute heart failure : A Report from ATTEND registry. 欧州心不全学会学術集会2009 (フランス・ニース), 2009. 6.
- 2) Yamamoto T : How should ICU physicians be trained in critical care ultrasound techniques?. 22nd European Society of Intensive Care Medicine Annual Congress (Wien), 2009. 10.
- 3) 鈴木 学, 村井綱見, 上野 亮, 蛸井浩行, 林 宏紀, 服部久弥子, 山本 剛, 佐藤直樹, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器・感染症・腫瘍内科部門 : ニューモシスティス肺炎でペンタミジン使用中にQT延長, Torsades de pointesを認めたネフローゼ症候群の1例. 日本アレルギー学会秋季学術大会 (第59回), 2009. 10.
- 4) Ueno A, Katoh T, Murata H, Iwasaki Y, Yamamoto T, Miyauchi Y, Ohara T, Sato N, Kobayashi Y, Tanaka K, Mizuno K, Shimokawa H, Daming W⁽¹⁾ Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine), Nippon Medical School, ⁽³⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, ⁽⁴⁾ Department of Computer Software, The University of Aizu, Japan) : Virtual Right Precordial and Posterior Leads are Useful for Diagnosis of Ischemic Heart Disease Including Right Ventricle or Posterior Wall. 13th Congress of the International Society For Holter and Noninvasive Electrocardiology, 2009. 6.
- 5) 佐藤愛子, 原田恭子, 瀬戸利昌, 伊予恭子, 背戸陽子, 竹田晋浩, 田中啓治 : 非侵襲的陽圧換気トータルフェ

イスマスク装着中の乾燥に影響を及ぼす要因：マスクリーク量と加温加湿器設定に着目して．日本呼吸療法医学会学術総会（第31回），2009．7．

- 6) 田中貴久，時田祐吉，細川雄亮，上野 亮，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，野崎文華，水野杏一⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院一般内科・循環器内科・肝臓内科・再生医療科）：高度徐脈，偶発性低体温症を来した血液透析に伴う甲状腺機能低下症の1例．日本内科学会関東地方会（第563回），2009．6．
- 7) 三井誠司：Open lung toolを用いたOpen lung approach．日本呼吸療法医学会学術総会（第31回），2009．7．
- 8) 坪光祥晃，竹田晋浩，三井誠司，本郷 卓，田中啓治，坂本篤裕：嵌頓性腹壁ヘルニア修復術直後にARDSを発症した症例．日本呼吸療法医学会学術総会（第31回），2009．7．
- 9) 四方友美，三井誠司，杉田慎二，宮内健祐，本郷 卓，竹田晋浩，田中啓治，坂本篤裕：胸部大動脈瘤術後の肺損傷に対し，術後分離肺換気を施行した1例．日本呼吸療法医学会学術総会，2009．7．
- 10) 田中貴久，宗像 亮，細川雄亮，鈴木 学，村井綱児，上野 亮，時田祐吉，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，三井誠司，本郷 卓，竹田晋浩，落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院 心臓血管外科）：感染症心内膜炎に伴う急性大動脈弁閉鎖不全症により心原性ショックを来たし，経皮的心肺補助導入後に緊急手術を行い救命しえた1例．日本集中治療医学会関東甲信越地方会（第18回），2009．7．
- 11) 田中貴久，宗像 亮，細川雄亮，鈴木 学，村井綱児，上野 亮，時田祐吉，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，三井誠司，本郷 卓，竹田晋浩，落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学心臓血管外科）：感染性心内膜炎に伴う急性大動脈弁閉鎖不全症により心原性ショックをきたし，経皮的な心肺補助導入後に緊急手術を行い救命しえた1例．日本集中治療医学会関東甲信越地方会（第18回），2009．7．
- 12) 上野 亮，橋本雅夫，村井綱児，時田祐吉，宗像 亮，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，小宮山英徳，水野杏一⁽¹⁾ 日本医科大学 内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：甲状腺クリーゼ治療中，早期再分極症候群に関連した心室細動を認めた1例．日本循環器学会関東甲信越地方会（第213回），2009．9．
- 13) 細川雄亮，山本 剛，宗像 亮，上野 亮，時田祐吉，坏 宏一，佐藤直樹，横掘将司，横田裕行，水野杏一，田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院救命救急センター，⁽²⁾ 日本医科大学付属病院内科学（循環器・肝臓・老年・総合診療部門））：急性心筋梗塞による心停止から蘇生した患者の予後について．日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009．10．
- 14) 松田淳也，鈴木 学，村井綱児，中里桂子，三井誠司，山本 剛，佐藤直樹，竹田晋浩，重原健吾，野村 務，田中啓治⁽¹⁾ 消化器外科）：胸腔ドレナージにより食物残渣が吸引され，早期診断治療が可能であった特発性食道破裂の1例．日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009．10．
- 15) 久保田洋介，亀山元信，村田祐二，安藤幸吉，宮崎 敦，庄子 賢，野上慶彦，鈴木 学⁽¹⁾ 仙台市立病院救命救急部）：ウェルシュ菌感染による門脈ガス血症を伴う壊死性腸炎（Pigbel）の1例．日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009．10．
- 16) 庄子 賢，亀山元信，村田祐二，久保田洋介，野上慶彦，鈴木 学⁽¹⁾ 仙台市立病院救命救急部）：地方中核都市における地域医療システムの中のドクターカーの意義．日本救急医学会総会・学術集会（第37回），2009．10．
- 17) 細川雄亮，山本 剛，宗像 亮，上野 亮，時田祐吉，坏 宏一，佐藤直樹，横掘将司，横田裕行，水野杏一，田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院救命救急センター，⁽²⁾ 日本医科大学付属病院内科学（循環器・肝臓・老年・総合診療部門））：急性心筋梗塞による心停止から蘇生した患者の予後について．日本救急医学会総会・学術集会（第37回）（盛岡），2009．10．
- 18) 松田淳也，鈴木 学，村井綱児，中里桂子，三井誠司，山本 剛，佐藤直樹，竹田晋浩，重原健吾，野村 務，田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器・感染症・腫瘍内科部門）：胸腔ドレナージにより食物残渣が吸引され，早期診断治療が可能であった特発性食道破の1例．日本救急医学会学術集会（第37回），2009．10．
- 19) 丹羽直哉，村井綱児，坏 宏一，鈴木 学，松田淳也，青景聡之，細川雄亮，時田祐吉，宗像 亮，上野 亮，

- 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 原田潤一郎, 大野忠明, その他2名⁽¹⁾ 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 大動脈解離と肺血栓塞栓症の発症時期推定に苦慮した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第214回), 2009. 12.
- 20) 榎戸 馨, 加藤浩司, 宗像 亮, 鶴見昌史, 鈴木大吾, 上野 亮, 時田祐吉, 村井綱見, 川中秀和, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 中野博之, 水野杏一, 細川雄亮, その他2名⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院一般内科・循環器内科・肝臓内科・再生医療科,⁽²⁾ 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科,⁽³⁾ 日本医科大学付属病院心臓血管外科・呼吸器外科・内分泌外科: 長期に及ぶ右心不全の原因がCABG術で使用したシート状止血剤による心外圧迫・収縮性心膜炎であった1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会, 2009.
- 21) 細川雄亮, 山本 剛, 村井綱見, 宗像 亮, 時田祐吉, 坪 宏一, 佐藤直樹, 横田裕行, 水野杏一, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院救命救急センター,⁽²⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科: 沖ノ鳥島近海の船上で心肺停止となるも, 迅速な搬送とPCIを含めた集中治療により独歩退院したAMIの1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 22) 上野 亮, 青景聡之, 細川雄亮, 時田祐吉, 宗像 亮, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一: 甲状腺機能亢進症治療中に心室細動を呈した3症例の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
- 23) 宗像 亮, 加藤浩司, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 三井誠司, 本郷 卓, 竹田晋治, 落 雅美⁽¹⁾ 日本医科大学心臓血管外科: 大腸癌術後に肺血栓塞栓症を発症, 同時にStanford A型の急性大動脈解離が認められた1例. 日本集中治療医学会学術総会 (第37回), 2010. 3.
- 24) 鈴木 学, 宗像 亮, 上野 亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 竹田晋治, 田中啓治⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器・感染症・腫瘍内科部門: 進展型小細胞肺癌を合併した腹部大動脈瘤破裂に対してステントグラフト挿入により良好な予後の得られた1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回), 2010. 3.
- 25) 村井綱見, 鈴木 学, 細川 亮, 宗像 亮, 山本 剛, 梶本克也, 佐藤直樹, 水野杏一, 田中啓治, 清野精彦⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 内科循環器: 胸痛で発症し, 心電図にて急性心筋梗塞と鑑別に苦慮した糖尿病ケトアシドーシスの1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回), 2010. 3.

[付属病院病理部]

研究概要

現在病理部は病理専門医である専任病理医3名に加え, 今年度は専門医を目指す若き病理医1名の医師4人体勢となり診断と研究の基盤ができてきた。

そのほか, 細胞検査士9名含む技師11名, 事務員1名のスタッフにより日常診断業務 (病理組織診断, 細胞診断, 剖検診断) を遂行している。

今年度はアクションプラン21に伴い, 病理部および病理解剖室が仮移転するなどあわただしい環境の中ではあったが, 臨床との共同開催である乳腺, 内分泌, 呼吸器, 婦人科および消化器カンファレンス等も定例で開催され, 多くの医師と技師が参加し内容も充実してきており研究面でもその中から見出される興味ある症例などが対象となってきた。

研究対象臓器は乳腺, 呼吸器をはじめ甲状腺, 消化器, 骨軟部など多岐に渡り各種学会において病理学講座および臨床医とが病理部と共同で発表を行っている。

そのほかにも病理学会, 乳癌学会, 呼吸器関連学会などでも多くの発表と研究のサポートを行った。

今後も継続して研究に取り組んでいきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 土屋眞一, 秋山 太¹⁾ (1) 癌研有明病院 病理) : A new reporting form for breast cytology. Breast Cancer 2009 ; 16 (3) : 202-206.
- 2) 川本雅司, 高山守正¹⁾ (1) 財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院) : 山岳診療所アンケートにみる診療所運営と受診傷病者の実態. 登山医学 2009 ; 29 (1) : 83-87.
- 3) 手塚晶人¹⁾, 高木郁代²⁾, 高山守正³⁾, 表 俊也³⁾, 鶴見昌史⁴⁾, 高山瑤子⁵⁾, 手塚沙帆⁶⁾, 川本雅司, 水野杏一⁷⁾ (1) 付属病院初期臨床研修医, 2) 鶴見大学歯学部附属病院内科, 3) 榊原記念病院循環器内科, 4) 博慈会記念総合病院循環器内科, 5) NGOピースポート, 6) 順天堂医院看護部, 7) 大学院器官機能病態内科学) : 伝統的風船膨らまし法による高山病防止のメカニズムの検討 : 富士山測候所利用研究. 登山医学 2009 ; 29 (1) : 238-242.
- 4) 北村隆司¹⁾, 土屋眞一 (1) 昭和大学藤が丘病院 病理) : 乳腺細胞診断自動スコアリングシステム. 検査と技術 2009 ; 37 : 1357-1364.

(2) 総説：

- 1) 川本雅司, 原田 大, 土屋眞一 : 技術講座 : シリーズ : 穿刺吸引細胞診の手法と読み方 : 1. 総論. 検査と技術 2009 ; 37 (11) : 1275-1279.
- 2) 川本雅司, 越川 卓¹⁾, 田中 昇²⁾, 麻生利勝³⁾, 石原得博⁴⁾, 上坊敏子⁵⁾, 室谷哲弥⁶⁾, 伊藤 仁⁷⁾, 畠山重春⁸⁾, 上野喜三郎⁹⁾, 松原美幸, 土屋眞一 (1) 愛知県立看護大学病理学, 2) BML病理・細胞診センター, 3) 麻生総合法律事務所, 4) 周防大島町公営企業局公営企業管理者, 5) 社会保険相模野病院婦人科腫瘍センター, 6) こころとからだの元気プラザ, 7) 東海大学医学部附属病院病理検査技術科, 8) (有) サイパソリサーチセンター, 9) 東京セントラルパソロジーラボラトリー検査部) : フォーラム : 細胞診と誤判定 : 日本臨床細胞学会における医療安全委員会の活動. 医学のあゆみ 2009 ; 231 (8) : 843-844.
- 3) 川本雅司, 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾, 小泉 潔²⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院呼吸器外科) : 技術講座 : 病理 : シリーズ : 穿刺細胞診の手法と読み方 : 5. 肺の穿刺吸引細胞診. 検査と技術 2010 ; 38 (2) : 87-91.
- 4) 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾, 弦間昭彦²⁾, 小泉 潔³⁾, 川本雅司 (1) 放射線医学, 2) 第4内科学, 3) 第2外科学) : 特集 : 肺癌 : 診断・治療の実際 2010 : CTNBの実際. 臨床画像 2010 ; 26 (2) : 170-181.

(3) 症例報告：

- 1) Yoshino N¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Kubokura H¹⁾, Mikami I¹⁾, Hirata T¹⁾, Koizumi K¹⁾, Okano T²⁾, Futagami A³⁾, Kawamoto M, Shimizu K¹⁾ (1) Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery, 2) Department of Internal Medicine, 3) 3Department of Dermatology) : Mediastinal Lymph Node Metastasis of Lung Cancer with an Unknown Primary Lesion Having Concurrent Endocrine Abnormality and Acanthosis Nigricans : Report of a Case. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2009 ; 15 (6) : 397-400.
- 2) 長谷川久美, 土屋眞一 (1) 赤心堂病院外科) : 乳頭に限局した乳癌の1例. 日臨外会誌 2009 ; 70 : 1309-1312.

著書

- 1) 土屋眞一, 前田一郎¹⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学診断病理学) : [編集] 乳腺. NEW エッセンシャル病理学 (第6版) (土屋眞一), 2009 ; pp421-429, 医歯薬出版.

学会発表

(1) 宿題講演：

- 1) 山田理恵子¹⁾, 芳賀駿介²⁾, 土屋眞一 (1) 東京女子医科大学東医療センター 検査科, 2) 日本医科大学付属病

院 乳腺科)：クエン酸トレミフェンの長期投与における脂質代謝への影響に関する検討. 第17回日本乳癌学会学術総会 (台場ホテル日航東京・ホテルグランドパシフィック LE DAIBA), 2009. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 土屋眞一：教育講演8 乳腺細胞診の最前線：報告様式に基づいた自動スコアリングシステムの構築. 日本臨床細胞学会秋期大会 (48回) (福岡), 2009. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 川本雅司, 高山守正¹⁾ (1) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院)：山岳診療所アンケートにみる診療所運営と受診傷病者の実態 (山岳診療所の運営実態と将来). 日本登山医学会学術集会 (第29回), 2009. 5.

(4) セミナー：

- 1) 葉山綾子, 土屋眞一, 原田 大, 川本雅司, 内藤善哉¹⁾, 佐竹あかね, 松原美幸, 渡會泰彦 (1) 日本医科大学病理学講座)：検体不適正率の解析とその重要性. 日本臨床細胞学会総会 (50回) (東京新宿), 2009. 6.
- 2) 土屋眞一：医療安全セミナー—3 病理外来；医療安全の観点から. 日本臨床細胞学会総会 (50回) (東京新宿), 2009. 6.
- 3) 川本雅司：ワークショップ 鑑別困難例における診断ポイントと問題点 呼吸器. 細胞検査士教育セミナー (第57回), 2009. 8.
- 4) 川本雅司：腫瘍病理学. 第3回磐梯熱海オンコロジーセミナー, 2010. 1.

(5) ワークショップ：

- 1) 軸園智雄¹⁾, 川本雅司, 村瀬幸宏, 渡會泰彦, 五十嵐健人¹⁾, 赤須秀樹¹⁾, 山下浩二¹⁾, 原田 大, 土屋眞一, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学 第二外科)：甲状腺細胞診新報告様式：鑑別困難であった濾胞性腫瘍の病理組織診断結果の検討. 日本臨床細胞学会総会 (50回) (東京新宿), 2009. 6.
- 2) 土屋眞一：ワークショップ10 医療の現場における細胞診の役割, 日本医科大学付属病院での「乳腺外来」について. 日本病理学会総会 (第98回), 2009. 5.
- 3) 福田 悠¹⁾, 岡田大輔²⁾, 榎本達治³⁾, 功刀しのぶ¹⁾, 川本雅司, 白杵二郎³⁾, 吾妻安良太³⁾, 小泉 潔²⁾, 工藤翔二³⁾ (1) 解析人体病理学, 2) 呼吸器外科学, 3) 呼吸器内科学)：VATS・肺癌術後のIP急性増悪症例の術後病理像の特徴と急性増悪の病理. 間質性肺疾患研究会 (第79回), 2009. 6.
- 4) 佐藤春明, 土屋眞一, 永井祥子, 松原美幸, 渡會泰彦, 原田 大, 川本雅司：乳腺細胞診「鑑別困難」「悪性の疑い」における過小・過剰診断の解析. 日本乳癌学会学術総会 (17回), 2009. 7.
- 5) 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 渡會泰彦, 土屋眞一, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, 2) 日本医科大学 病理学)：膵胆道領域における悪性疾患との鑑別が難しい細胞像の検討：精度改善のための試み. 日本臨床細胞学会秋期大会 (48回) (福岡), 2009. 10.

(6) 一般講演：

- 1) 木下裕康¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 中島由貴¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 三上 巖¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原口秀司¹⁾, 小泉 潔¹⁾ (1) 外科学講座 呼吸器外科)：膿胸を併発した左肺扁平上皮癌. 文京区呼吸器外科研究会 (第14回), 2009. 4.
- 2) 軸園智雄¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 早川朋宏¹⁾, ヘイムス規予美¹⁾, 岡村律子¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 山下浩二¹⁾, 川本雅司, 土屋眞一 (1) 外科学・内分泌外科)：甲状腺乳頭癌のT1b症例におけるD2リンパ節郭清の妥当性についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第109回), 2009. 4.
- 3) 渡會泰彦, 土屋眞一：乳腺穿刺吸引細胞診と針生検の臨床・病理学的特徴. 第17回御茶ノ水乳腺研究会, 2009. 5.
- 4) 松崎つや子¹⁾, 高山守正²⁾, 三原裕嗣²⁾, 齊藤清美³⁾, 高木郁代⁴⁾, 手塚晶人⁵⁾, 川本雅司, 村松和美⁶⁾, 本間博⁷⁾, 水野杏一⁷⁾ (1) 付属病院生理機能センター, 2) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院循環器内科, 3) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院検査科, 4) 鶴見大学歯学部付属病院内科, 5) 付属病院臨床研修医, 6) 付属病院看護部, 7) 付属病院循環器内科)：富士山頂における心臓超音波検査の経験. 日本登山医学会学術集

- 会 (第29回), 2009. 5.
- 5) 中田 淳¹⁾, 高山守正¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 松崎つや子³⁾, 高木郁代⁴⁾, 小林義典⁵⁾, 川本雅司, 水野杏一⁵⁾ (1) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院循環器内科, 2) 博慈会記念総合病院循環器内科, 3) 付属病院生理機能センター, 4) 鶴見大学歯学部付属病院内科, 5) 付属病院循環器内科): 急性高山病患者の心循環特性. 日本登山医学会学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 6) 鶴見昌史¹⁾, 中田 淳²⁾, 松崎つや子³⁾, 斉藤清美⁴⁾, 三原裕嗣²⁾, 高木郁代⁵⁾, 小林義典⁶⁾, 川本雅司, 高山守正²⁾, 水野杏一⁶⁾ (1) 博慈会記念病院循環器内科, 2) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院循環器内科, 3) 付属病院生理機能センター, 4) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院検査科, 5) 鶴見大学歯学部付属病院内科, 6) 付属病院循環器内科): 高度3,000mにおける高山病発症時の心循環メカニズム. 日本登山医学会学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 7) 松崎つや子¹⁾, 高山守正²⁾, 中田 淳²⁾, 鶴見昌史³⁾, 三原裕嗣²⁾, 小林義典⁴⁾, 高木郁代⁵⁾, 手塚晶人⁶⁾, 川本雅司, 本間 博⁴⁾, 水野杏一⁴⁾ (1) 付属病院生理機能センター, 2) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院循環器内科, 3) 博慈会記念病院循環器内科, 4) 付属病院循環器内科, 5) 鶴見大学歯学部付属病院内科, 6) 付属病院臨床研修医): 低圧酸素環境における運動負荷エコーの心循環に及ぼす影響; 富士山頂にて. 日本登山医学会学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 8) 手塚晶人¹⁾, 高木郁代²⁾, 高山守正³⁾, 鶴見昌史⁴⁾, 高山瑤子⁵⁾, 手塚沙帆⁶⁾, 川本雅司, 水野杏一⁷⁾ (1) 付属病院臨床研修医, 2) 鶴見大学歯学部付属病院内科, 3) 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院循環器内科, 4) 博慈会記念病院循環器内科, 5) NGOピースポート, 6) 順天堂医院看護部, 7) 付属病院循環器内科): 伝統的風船膨らまし法による高山病防止のメカニズムの検討: 富士山測候所利用研究. 日本登山医学会学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 9) 稲井俊太¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 細矢 慶¹⁾, 八木聡明¹⁾, 川本雅司 (1) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): Post-radiation sarcomaと考えられた下咽頭多形性肉腫の1例. 日本頭頸部癌学会 (第33回), 2009. 6.
 - 10) 中村祐司¹⁾, 斉藤良明¹⁾, 松原美幸, 川本雅司, 大塚俊司¹⁾, 石井英昭¹⁾, 原田 大, 内藤善哉²⁾, 土屋眞一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理部, 2) 日本医科大学 病理学): Metaplastic carcinomaの1例. 日本臨床細胞学会総会 (50回) (東京新宿), 2009. 6.
 - 11) 原田 大, 土屋眞一, 秋山 太¹⁾, 森谷卓也¹⁾, 津田 均¹⁾, 梅村しのぶ¹⁾ (1) 乳腺病理診断研究会): 乳腺針生検百例の病理専門医14名間での診断一致率の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第17回), 2009. 7.
 - 12) 松原美幸, 原田 大, 川本雅司, 土屋眞一: 画像, 細胞像, 組織像における乳腺症型線維腺腫の現状と問題点. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
 - 13) 渡會泰彦, 土屋眞一, 原田 大, 飯田信也, 柳原恵子, 栗田智子, 山下浩二, 芳賀駿介: 当院の乳癌診断における穿刺吸引細胞診と針生検の検討. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
 - 14) 草間 律¹⁾, 土屋眞一 (1) 瀬原田クリニック): Skin-sparing mastectomyの術後成績. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
 - 15) 高山文吉¹⁾, 土屋眞一 (1) 一之瀬脳神経外科病院画像センター): 当院のFNAで鑑別困難となった症例の画像の検討. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
 - 16) 前澤 毅¹⁾, 土屋眞一 (1) 公仁会前澤病院 外科): 乳癌術後鎖骨上窩リンパ節転移に対して高用量トレミフェンが奏功している1例. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
 - 17) 後藤哲宏¹⁾, 土屋眞一 (1) 昭和大学藤が丘病院): 嚢胞内腫瘍像を示した両側乳腺粘液癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
 - 18) 増田裕行¹⁾, 土屋眞一 (1) 増田病院): Carcinoma with osteoclastic giant cellsの2例. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.

- 19) 秦 怜志¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (川越三井病院): 骨軟骨化生を伴う乳癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (17回) (東京台場), 2009. 7.
- 20) 土屋眞一: 臨床医のための乳癌診断最前線: 細胞診・針生検の現況と細胞診断自動スコアリングシステムの構築. 乳癌最新情報カンファレンス (10回) (金沢), 2009. 8.
- 21) 土屋眞一: 乳癌の薬物療法: 病理サイドからみた現状と問題点. 日本臨床分子形態学会学術集会 (41回) (神戸), 2009. 9.
- 22) 中島由貴¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 川本雅司, 木下裕康¹⁾, 三上 巖¹⁾, 原口秀司¹⁾ (1) 外科学講座 呼吸器外科): 肺良性平滑筋腫 (benign metastasizing leiomyoma) の1例. 文京区呼吸器外科研究会 (第15回), 2009. 10.
- 23) 軸園智雄¹⁾ (1) 外科学講座・内分泌外科): 当科における低分化癌手術症例の検討. 甲状腺外科学会, 2009. 10.
- 24) 實原正明¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (飯田市立病院 臨床検査科): 乳腺粘液癌16例の検討: 印環細胞型と通常型との比較検討を加え. 日本臨床細胞学会秋期大会 (48回) (福岡), 2009. 10.
- 25) 中島由貴¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 原口秀司¹⁾, 川本雅司, 三上 巖¹⁾, 木下裕康¹⁾ (1) 外科学講座・呼吸器外科): 術前に膿胸を併発した左扁平上皮癌の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第151回), 2009. 11.
- 26) 中島由貴¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 川本雅司, 原口秀司¹⁾, 三上 巖¹⁾, 木下裕康¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座・呼吸器外科): 肺良性転移性平滑筋腫 (benign metastasizing leiomyoma) の1例. 第50回 日本肺癌学会総会, 2009. 11.
- 27) 白銀 恵¹⁾, 米山剛一¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 船倉 翠¹⁾, 川瀬里衣子¹⁾, 三浦 敦¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 原田 大, 川本雅司, 土屋眞一, 竹下俊行¹⁾ (1) 産婦人科): 筋腫分娩様発育を示した子宮内膜間質肉腫の1例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会第118回学術集会, 2009. 11.
- 28) 三上 巖¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 原口秀司¹⁾, 木下裕康¹⁾, 中島由貴¹⁾, 功刀しのぶ²⁾, 川本雅司, 阿部信二³⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 付属病院 外科・呼吸器外科, 2) 解析人体病理学, 3) 付属病院呼吸器内科): 胸腔鏡下肺切除を施行した肺アスペルギローマ4例の検討. 第22回 日本内視鏡外科学会総会, 2009. 12.
- 29) 星野和男¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (杏林会今井病院外科): 乳腺超音波検査で発見し, 治療できた異時同時DCISの1例. 第6回日本乳癌学会 関東連合会 (大宮), 2009. 12.
- 30) 杉本孝章¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (谷津保健病院外科): 乳管癌と小葉癌が混在した組織像を示した乳癌の1例. 日本乳癌学会関東連合会 (6回) (大宮), 2009. 12.
- 31) 中田 淳¹⁾, 高山守正¹⁾, 松崎つや子²⁾, 高木郁代³⁾, 鶴見昌史³⁾, 川本雅司, 小林義典³⁾, 三原裕嗣¹⁾, 住吉徹哉¹⁾, 水野杏一³⁾ (1) 榊原記念病院循環器内科, 2) 付属病院生理機能センター, 3) 循環器内科): 低酸素下の心機能: HypoxiaはCardiac Dysfunctionの原因になるか? (Mt. Studyより). 第40回心機能研究会, 2010. 1.
- 32) 赤塚 純¹⁾, 川本雅司, 木村 剛¹⁾, 河原崎由里子¹⁾, 鈴木健太¹⁾, 遠藤勇氣¹⁾, 林 達郎¹⁾, 小串聡子¹⁾, 藤野綾子¹⁾, 富田祐司¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 木全亮二¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 濱崎 務¹⁾, その他1名 (1) 泌尿器科学): 精巣上体原発の平滑筋肉腫の1例. 泌尿器科学会東京地方会 (第601回) (東京), 2010. 1.
- (7) 症例検討会: コメンテーター:
- 1) 川本雅司: 両側上葉優位にびまん性小粒状陰影を呈した1例. ステロイドの減量により増悪を繰り返したびまん性肺疾患の1例. 悪性関節リウマチ (MRA) 治療中に急速な経過で発熱・呼吸不全を呈し死亡した, 胸部多発結節影症例の一部検例. (症例検討会2: コメンテーター). 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回), 2009. 6.

[付属病院中央検査部]

研究概要

検体検査部門において高度自動化システムが普及し, 臨床検査技師は分析機器をオペレートする人と多くの人に思

われている。しかしながら、分析機械のスイッチを押すだけで常に正確な検査結果が出る保障はどこにもない。われわれ検査技師は、正確度の高い検査結果を患者様に迅速に提供することで診断精度や治療成績の向上に大きく寄与すべく、日進月歩で進化する医療の知識や技術に対し創造性を持って吸収し、機械に翻弄されることなく検査結果の正確性を読み取る能力を常日頃より磨いている。わが中央検査部においては、膨大な日常業務の傍ら、机上の学習のみにとどまらず臨床検査の本質を究めようと下記のごとく様々な研究活動も積極的に行っている。近年、学術活動がやや停滞気味ではあるが、大学病院の中央検査部という医療の最前線に身を置いていることを自覚し、高度の知識と技術を身につけるべく一歩一歩進んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 影山憲貴, 小嶋佳子, 三橋 太, 高木 豊, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 里村克章：全自動血液凝固分析装置 Coagrex-800におけるプロブロン現象検出法の解析：FDP測定試薬について。医学検査 2010；59（1）：5-11.

(2) 研究報告書：

- 1) Shinoyama A, Norose Y¹⁾, Sonobe K, Miura Y²⁾, Fujita M²⁾, Arashiro Y²⁾, Nakamura Y, Iino K, Tsunoda R²⁾, Maeda M²⁾, Takahashi H¹⁾, Satomura K ¹⁾ Immunology and Microbiology, ²⁾ Infection Control Team, Nippon Medical School Hospital)：Resistance-gene analysis of extended-spectrum b-lactamase-producing bacteria in our clinic. J Nippon Med Sch 2009；76（6）：326-328.

(3) 解説：

- 1) 柴田泰史, 久志本成樹¹⁾ ¹⁾ 救急医学)：救命救急におけるプロカルシトニン測定。検査と技術 2009；37（4）：363-366.

学会発表

(1) その他：

- 1) 三橋 太：「慢性腎臓病（CKD）における、尿ちんさ成分の見方」（ファブリー病に出現する成分も含めて）：これだけは知っておきたい寄生虫検査の基本。宮城県臨床検査技師会一般検査部門研修会（仙台），2010. 3.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 小川早恵子, 福田高久, 亀山澄子, 植田貴子, 飯野幸永, 田近賢二¹⁾ ¹⁾ 付属病院 輸血部)：当院における未交差緊急輸血依頼の現状。日本輸血細胞治療学会（第57回）（埼玉），2009. 5.
- 2) 田近賢二¹⁾, 小川早恵子, 植田貴子, 亀山澄子, 福田高久 ¹⁾ 付属病院 輸血部)：当院におけるfludarabine based conditioning regimenを用いた造血細胞移植の治療成績。日本輸血細胞治療学会（第57回）（埼玉），2009. 5.
- 3) 小相澤美香, 橋本政子, 堤 章江, 式田竜司, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章：尿中hCG試薬による血中hCG半定量法の試み。日本医科大学医学会総会（第77回）（東京），2009. 9.
- 4) 小川早恵子, 植田貴子, 亀山澄子, 福田高久, 飯野幸永, 里村克章, 田近賢二¹⁾ ¹⁾ 付属病院 輸血部)：当院における交差試験未実施緊急輸血の現状。日本医科大学医学会総会（第77回）（東京），2009. 9.
- 5) 亀山澄子, 小川早恵子, 植田貴子, 福田高久, 飯野幸永, 里村克章, 田近賢二¹⁾ ¹⁾ 付属病院 輸血部)：2008年当院における即時型輸血副作用の発生状況。日本医科大学医学会総会（第77回）（東京），2009. 9.
- 6) 大川咲奈, 園部一成, 中村祐三, 小坂田直美, 篠山明宏, 飯野幸永, 里村克章：Escherichia coliにおけるLVFX耐性の年次変化。日本医科大学医学会総会（第77回）（東京），2009. 9.
- 7) 篠山明宏, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 高橋秀実¹⁾, 三浦義彦²⁾, 藤田昌久²⁾, 新城靖子²⁾, 角田隆 ²⁾, 前田美穂²⁾ ¹⁾ 微生物学・免疫学, ²⁾ 付属病院 ICT)：当院におけるESBL (Ex-

tended-spectrum β -lactamase) 産生菌の耐性遺伝子型の解析. 日本医科大学医学会総会 (第77回) (東京), 2009. 9.

(3) セミナー:

- 1) 渡辺明子: *Candida* 属の検出状況と検査法: 施設別検出菌種と臨床的意義について. 日本医学検査学会 (第58回) (横浜), 2009. 7.

(4) 一般講演:

- 1) 福田高久, 亀山澄子, 植田貴子, 小川早恵子, 飯野幸永, 田近賢二¹⁾ (1) 付属病院 輸血部): 抗Jr^a保有症例への輸血部の対応と問題点. 日本輸血細胞治療学会 (第57回) (埼玉), 2009. 5.
- 2) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 救急医学): NT-proBNP迅速検査システムcobas h 232の有用性の検討. 日本医学検査学会 (第58回) (横浜), 2009. 8.
- 3) 柴田泰史, 高木 豊, 影山憲貴, 飯野幸永, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 救急医学): 腹膜炎症例における重症度判定および予後予測の早期指標としてのプロカルシトニン値の有用性. 日本臨床検査医学会学術集会 (第56回) (札幌), 2009. 8.
- 4) 高木 豊, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 柴田泰史, 若松秀俊¹⁾, 飯野幸永, 里村克章 (1) 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科): 尿試験紙の反射率を利用した測定域推測による分析パラメータの選択. 日本臨床検査医学会学術集会 (第56回) (札幌), 2009. 8.
- 5) 影山憲貴, 中島敦夫²⁾, 鳴海武長, 柴田泰史, 三橋 太, 高木 豊, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 里村克章 (1) 東京警察病院リウマチ科): 血清分離剤入り真空採血管の採血量の違いが検査値に与える影響: MMP-3について. 日本臨床検査医学会学術集会 (第56回) (札幌), 2009. 8.
- 6) 柴田泰史, 高木 豊, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 救急医学): NT-proBNPおよび炎症性パラメーターを用いた細菌性肺炎とうっ血性心不全の鑑別の有用性. 日本臨床化学会年次集会 (第49回) (長崎), 2009. 9.

[付属病院薬剤部]

研究概要

平成21年度の薬剤部研究業績は, 論文, 著書, 総説, 学会発表, 研究助成, 学術賞と, 多くの分野で本年もまた多くの実績を記すことができた. これは, 日本の大学病院薬剤部の範ならんとしてこれまで取り組んできた研究と業務が, 結実したものとする. 特に21年度は, これまで研究の主たるテーマであったがんや緩和のみならず, GE薬の性状試験, ワーファリンやイリノテカンの遺伝子発現, 医療経済, TDM, 中毒など多彩な研究に取り組み, また業務に直結した後発医薬品に関する研究や, 集中治療室や中央手術室での薬剤師業務の報告なども行うことができた.

また, 一般著書においても「今日の治療指針」「今日の治療薬」「治療薬ハンドブック」「治療薬マニュアル」「病気と薬パーフェクトブック」など, 臨床医が利用する書籍, 「がん看護」など, 看護師が利用する書籍に対しても薬剤師の視点で執筆することができた.

また, がん疼痛治療ガイドラインの作成に関与し副作用や相互作用の分野を担当するなど, 直接臨床にかかわる書籍の執筆に広く関わることができたことは, 付属病院薬剤部の業績を反映してのことと考える.

さらに, 褥瘡治療, 小児医療, 薬剤管理指導など幅広い分野での研究も継続しており, 付属病院における薬物療法の一環を担う部門としての位置を確立しつつある. 現在, 遺伝診療やPET, 循環器などさらに新たな分野に取り組んでいるが, これまで以上に深くかわかり, 病院への安全と安心の医療環境の提供と, 研究による医療そのものへの貢献を期したい.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawakami Y¹⁾, Matsumoto Y²⁾, Hashimoto K¹⁾, Kuwabara K¹⁾, Hirata K³⁾, Suzuki T²⁾, Fujita T¹⁾, Fujino O¹⁾ (1) Department of Pediatrics, College of Pharmacy, Nihon University, (2) Department of Clinical Pharmacokinetics, College of Pharmacy, Nihon University, (3) Department of Pharmacy services Nippon Medical School Hospital) : Clinical effectiveness of intravenous flunitrazepam administration for prolonged seizures. Journal of Pediatric Neurology 2009 ; (7) : 117-121.
- 2) 中田和宏¹⁾, 伊勢雄也²⁾, 菅谷量俊²⁾, 小坂好男²⁾, 片山志郎²⁾, 及川眞一³⁾, 野澤 (石井) 玲子⁴⁾, 竹内幸一⁴⁾ (1) 明治薬科大学 臨床薬学専攻, (2) 日本医科大学付属病院 薬剤部, (3) 日本医科大学付属病院 内分泌代謝内科, (4) 明治薬科大学 臨床薬学教室) : スタチン系薬剤の情報提供が服薬コンプライアンスに与える影響の検討 : 薬局薬剤師による横紋筋融解症に関する情報提供について. 医療薬学 2009 ; 35 (8) : 542-550.
- 3) 森 洵子¹⁾, 富山弘野¹⁾, 菅谷量俊¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : メサラジン錠の粉碎後安定性に関する検討. 日本病院薬剤師会雑誌 2009 ; 45 (10) : 1325-1328.
- 4) 伊勢雄也¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 三浦義彦¹⁾, 片山志郎¹⁾, 清水久範²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, (2) 昭和大学病院 薬剤部) : モルヒネ徐放錠からフェンタニル貼付剤 (マトリックスタイプ) またはオキシコドン徐放錠へローテーションした際の費用対効果分析. 癌と化学療法 2009 ; 36 (13) : 2599-2603.
- 5) 畝井浩子¹⁾, 峯村純子²⁾, 栗原 健³⁾, 西澤健司⁴⁾, 平田清貴⁵⁾, 石川雅健⁶⁾, 遠藤重厚⁶⁾ (1) 広島大学病院薬剤部, (2) 昭和大学病院薬剤部, (3) 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤科, (4) 東邦大学医療センター大森病院薬剤部, (5) 日本医科大学付属病院 薬剤部, (6) 日本臨床救急医学会多職種連携委員会) : 全国救命救急センターにおける薬剤師業務の現状調査. 日臨救急医学会誌 2009 ; (12) : 412-419.
- 6) 三浦義彦¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 注射用塩酸パンコマイシン製剤の溶解性についての比較検討. 医療薬学 2010 ; 36 (2) : 77-84.

(2) 総説：

- 1) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 「ココロとカラダの痛みを和らげる医療をめざす」. 薬事日報 2009 ; 1.
- 2) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : くすりの現場から「日本医科大学付属病院」. 薬業時報 2009 ; 26-28.
- 3) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 「緩和医療を必要とする患者の在宅化への対応」. Fresh Leaf 2009 ; 1 (3) : 3.
- 4) 高瀬久光¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 福岡大学病院 薬剤部, (2) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がんのくすりがわかる！がん医療と緩和医療のシームレスな関係【新連載】抗がん作用の仕組みって何だろう？. がん看護 2009 ; 14 (3).
- 5) 高瀬久光¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 福岡大学病院 薬剤部, (2) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がんのくすりがわかる！がん医療と緩和医療のシームレスな関係【2】抗がん剤の取り扱いはどうするの？ : 抗がん剤の安全な取り扱い方法と管理. がん看護 2009 ; 14 (4).
- 6) 高瀬久光¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 福岡大学病院 薬剤部, (2) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がんのくすりがわかる！がん医療と緩和医療のシームレスな関係【3】がん化学療法レジメンはどうみるの？. がん看護 2009 ; 14 (5).
- 7) 高瀬久光¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 福岡大学病院 薬剤部, (2) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がんのくすりがわかる！がん医療と緩和医療のシームレスな関係【4】副作用は治療意欲を下げる！ : 症状マネジメント, 重要性和ポイント. がん看護 2009 ; 14 (6).

- 8) 高瀬久光¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 福岡大学病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がんのくすりがわかる! がん医療と緩和医療のシームレスな関係 【5】 がんの痛みは心まで痛む! : がん性疼痛治療の実践ABC. がん看護 2009 ; 14 (7).
- 9) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 抗がん剤の副作用とその対策. PICC 2010 ; 3.
- 10) 高瀬久光¹⁾, 片山志郎²⁾ (1) 福岡大学病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部) : がんのくすりがわかる! がん医療と緩和医療のシームレスな関係 【6】 医療従事者の基本的マナーとは! : コミュニケーションスキルの実践. がん看護 2010 ; 15 (1).
- 11) 宮田広樹¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院) : 悪性腫瘍 膀胱癌. 薬局 2010 ; 61 (4) : 1578-1582.
- 12) 宮田広樹¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院) : 悪性腫瘍 腎癌. 薬局 2010 ; 61 (4) : 1586-1590.

著書

- 1) 加藤あゆみ¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [自著] 緩和医療スタート時の“困った”対応困難な症例にどうアプローチすればいいのか. 月刊薬事, 2009 ; pp33-37, じほう.
- 2) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 乳がん. 「エビデンスに基づいたがん薬物療法学」(北島政樹, 井上忠夫監修), 2009 ; pp10-31, じほう.
- 3) 須賀理恵¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 緩和医療の「困った」にこたえる『オピオイドの副作用がうまく防げない』. 月刊薬事, 2009 ; じほう.
- 4) 須賀理恵¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 緩和医療学ABC『服薬指導』. 緩和医療学, 2009 ; 先端医学社.
- 5) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 悪性新生物・化学療法総論, 乳がん, 悪性リンパ腫. 標準医療薬学「薬物治療学」(越前宏俊, 鈴木孝編集), 2009 ; pp317-329, 医学書院.
- 6) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 緩和薬物療法認定薬剤師のための「緩和医療実践問題集」(日本緩和医療薬学会監修), 2009 ; じほう.
- 7) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 薬局増刊号「病気と薬のパーフェクトブック2009」, 2009 ; 南山堂.
- 8) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 今日の治療指針Vol. 52, 2009 ; 医学書院.
- 9) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 今日の治療薬2009, 2009 ; 南江堂.
- 10) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 治療薬マニュアル2009, 2009 ; 医学書院.
- 11) 平田清貴¹⁾, 片山志郎¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : [共著] 特集 医療安全: 薬剤師. 救急医学, 2009 ; pp1551-1554.
- 12) 片山志郎¹⁾, 加藤あゆみ¹⁾, 高尾麻子¹⁾, 平田清貴¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [分担] 治療薬ハンドブック2010, 2010 ; じほう.
- 13) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : [共著] 薬局で役立つ皮膚科治療薬, 2010 ; メディカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 大会長講演. 日本緩和医療薬学会年会 (第3回) (神奈川), 2009. 10.

(2) 教育講演 :

- 1) 加藤あゆみ¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部) : 在宅緩和医療にむけての活動の現状と今後の課題 ; 病院薬剤師の立場から. 第53回日本薬学会関東支部会シンポジウム, 2009. 11.

- 2) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和医療とがん性疼痛。がん専門薬剤師研修事業講義研修集中教育講座 (東京), 2010. 2.
- (3) シンポジウム：
- 1) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：次世代チーム医療の新たな取り組み：緩和ケアチーム。日本緩和医療薬学会年会 (第3回) (神奈川), 2009. 10.
- (4) セミナー：
- 1) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：これからの分子標的薬治療と患者コミュニケーション。病院薬剤師セミナー (福岡), 2009. 5.
- 2) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和医療の現状と薬剤師の役割。平成21年度北里大学薬学部卒後教育セミナー (東京), 2009. 11.
- 3) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和医療における実践力の養成について。緩和薬物療法認定薬剤師セミナー (福岡), 2010. 1.
- (5) 一般講演：
- 1) 菅谷和也¹⁾, 宮田広樹²⁾, 片山志郎²⁾, 佐藤光利¹⁾ (1) 東邦大学, ²⁾ 日本医科大学付属病院 薬剤部)：乳がん患者におけるアンスラサイクリン系抗がん剤による発熱性好中球減少症のリスク因子の検討。第130年会日本薬学会 (岡山), 2010. 3.
- 2) 森 洵子¹⁾, 平田清貴¹⁾, 大下順子¹⁾, 片山志郎¹⁾, 横田裕行²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救急救命センター)：高度救命救急センターにおける薬学的管理システム：薬剤管理指導業務の位置づけ。第17回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2009. 7.
- 3) 島崎麻智子¹⁾, 瀬尾 誠¹⁾, 中嶋基広¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：DESIGN (褥瘡経過評価用スケール) スコアに与える薬剤師介入についての解析。第17回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2009. 7.
- 4) 三浦義彦¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：塩酸バンコマイシン製剤の溶解性についての比較検討。第17回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2009. 7.
- 5) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和ケアと医薬品情報。日本医薬品情報学会総会・学術大会 (第12回) (福岡), 2009. 7.
- 6) 稲毛俊介¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：切除不能非小細胞肺癌におけるCarboplatin and Weekly Paclitaxel併用療法とCisplatin and Docetaxel併用療法の費用：効果分析。第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 7) 高尾麻子¹⁾, 島崎麻智子¹⁾, 中嶋基広¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：付属病院における医薬品情報室業務の検討。第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 8) 三浦義彦¹⁾, 岩上正明¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 伊勢雄也¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：各社塩酸バンコマイシン製剤の溶解性の比較検討。第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 9) 大下順子¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：高度救命救急センターにおける新薬剤管理業務の検証。第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 10) 岩上正明¹⁾, 片山志郎¹⁾, 青砥泰二²⁾, 飯野幸永²⁾, 里村克章²⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, ²⁾ 日本医科大学付属病院 中央検査部)：付属病院における抗菌薬の使用動向。第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 11) 加藤あゆみ¹⁾, 宮田広樹¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 須賀理絵¹⁾, 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和ケアチームにおける薬剤師の役割：チームの特長を活かした薬物療法支援のためのステップアップ。第3回日本緩和医療薬学会年会, 2009. 10.
- 12) 片山志郎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部)：緩和医療による生活の質の向上を求めて。日本医療薬学会年

- 会（第19回）（長崎），2009. 10.
- 13) 富山弘野¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院）：マトリックス制御型フェンタニル貼付剤の使用実態調査．緩和医療薬学会（第3回）（神奈川），2009. 10.
- 14) 青木 優¹⁾，宮田広樹¹⁾，片山志郎¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院）：外来でのオピオイド鎮痛薬導入における副作用対策薬とレスキュードーズの処方状況．緩和医療薬学会（第3回）（神奈川），2009. 10.
- 15) 宮内雅人¹⁾，久志本成樹¹⁾，平田清貴²⁾，林田真喜子³⁾，大野曜吉³⁾，横田裕行¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター，²⁾日本医科大学付属病院 薬剤部，³⁾日本医科大学法医学）：三環系抗うつ薬大量服用に対し，血漿交換を行った1例．第24回日本中毒学会東日本地方会，2010. 1.
- 16) 片山志郎¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 薬剤部）：緩和医療の分野における薬剤師認定がもたらすもの．第130年会日本薬学会（岡山），2010. 3.
- 1) 片山志郎¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 薬剤部）：The Field of Activity of The Pharmacist in the Hospital of Nippon Medical School. ハルピン医科大学附属第一病院 開院60周年記念講演会（ハルビン），2009. 8.
- 2) 片山志郎¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 薬剤部）：がん性疼痛と薬物療法．佐賀在宅緩和ケア薬研究会（第2回）（佐賀），2009. 4.
- 3) 片山志郎¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院 薬剤部）：保険薬局における専門薬剤師の育成について：緩和薬物療法認定薬剤師．日本薬局管理学会（第4回）（東京），2009. 7.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

当センターでの研究テーマの柱は心エコーと心臓リハビリテーションである．心エコーでは，主に動脈硬化による大動脈弁石灰化と上行大動脈近位部の壁distensibilityとの関係を経胸壁心エコー（TTE）とstrain rate imaging（SRI）を用いて検討した．また，今年度は高所環境と心血管系の関係について多くの発表を行った．特に富士山頂での心循環機能評価は，高山病発症時の心循環メカニズムの解明に重要である．院内での臨床検査とは分野が異なるが，アカデミックな研究と言える．心臓リハビリテーション分野では，精神神経因子や睡眠時無呼吸，運動時周期性呼吸など，様々なテーマで活発に研究を行っており，本年度も日本循環器学会のメディカルセッションで3題発表，また学術誌に論文を投稿，掲載されている．今後も心疾患と生理検査指標関連の研究を積極的にすすめ，心臓リハビリテーションの包括管理に貢献していく．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 菅谷寿理，福間長知¹⁾，牛島明子¹⁾，加藤祐子¹⁾，愛須紀子¹⁾，土田貴也¹⁾，高橋 啓¹⁾，岸田 浩¹⁾，水野杏一¹⁾（¹⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：軽症心筋梗塞例の抑うつと予後規定因子の関係．冠疾患 2009；15：198-201.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Nakata J¹⁾，Takayama M²⁾，Matsuzaki T，Takagi I³⁾，Tsurumi M¹⁾，Kawamoto M⁴⁾，Kobayashi Y⁵⁾，Mihara H²⁾，Mizuno K¹⁾（¹⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門），²⁾榊原記念病院循環器内科，³⁾鶴見大学歯学部付属病院内科，⁴⁾付属病院病理部，⁵⁾東海大学医学部付属八王子病院）：Left ventricular diastolic dysfunction as an early initiator of pulmonary hypertension relating to hypoxemia in acute mountain sickness

- syndrome (amss). ESC Congress (Spain), 2009. 8.
- 2) Ohno T¹⁾, Honma H¹⁾, Fujimoto H¹⁾, Higashi H¹⁾, Matsuzaki T, Mizuno K¹⁾, Nitta T²⁾ (1) 1st Internal Medicine, 2) Division of Cardiovascular Surgery) : Treatment for ischemic Mitral Regurgitation. Cardiac Resynchronization Therapy Alone or in Combination with Surgical correction. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 3) Kato M, Fukuma N¹⁾, Sugaya J, Aida T, Hayashi H¹⁾, Ushijima A¹⁾, Kato Y¹⁾, Takahashi H¹⁾, Honma H, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, Internal Medicine) : Oscillatory Ventilation during Exercise Relates to Central Sleep Apnea but also to Obstructive Sleep Apnea in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 4) Aida T, Fukuma N¹⁾, Sugaya J, Kato M, Hayashi H¹⁾, Ushijima A¹⁾, Kato Y¹⁾, Takahashi H¹⁾, Honma H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, Internal Medicine) : Central and Obstructive Sleep Apnea Lead to Develop Abnormal Arterial Partial Pressure of Carbon Dioxide in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 5) Sugaya J, Fukuma N¹⁾, Aida T, Kato M, Hayashi H¹⁾, Ushijima A¹⁾, Kato Y¹⁾, Takahashi H¹⁾, Honma H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Cardiology, Internal Medicine) : Development and Time Course of Psychological Disorder after Myocardial infraction. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
 - 6) 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 東 春香¹⁾, 松崎つや子, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心臓腫瘍 fibroelastoma における3D経食道エコーの有用性の検討. 日本心エコー図学会・学術集会 (第20回), 2009. 4.
 - 7) 松崎つや子, 本間 博¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 横島友子¹⁾, 安武ひろ子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 上行大動脈近位部の stiffness と大動脈弁石灰化-strain rate を用いて. 日本心エコー図学会・学術集会 (第20回), 2009. 4.
 - 8) 松崎つや子, 高山守正¹⁾, 三原裕嗣¹⁾, 斎藤清美²⁾, 高木郁代³⁾, 手塚晶人⁴⁾, 川本雅司⁵⁾, 村松和美⁶⁾, 本間博⁷⁾, 水野杏一⁷⁾ (1) 榊原記念病院循環器内科, 2) 榊原記念病院検査科, 3) 鶴見大学歯学部附属病院内科, 4) 附属病院臨床研修医, 5) 附属病院病理部, 6) 附属病院看護部, 7) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 富士山頂における心臓超音波検査の経験. 日本登山医学会・学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 9) 中田 淳¹⁾, 高山守正¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 松崎つや子, 高木郁代³⁾, 小林義典⁴⁾, 川本雅司⁵⁾, 水野杏一⁴⁾ (1) 榊原記念病院循環器内科, 2) 博慈会記念総合病院循環器内科, 3) 鶴見大学歯学部附属病院, 4) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 5) 附属病院病理部) : 急性高山病患者の心循環特性. 日本登山医学会・学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 10) 鶴見昌史¹⁾, 中田 淳²⁾, 松崎つや子, 斎藤清美³⁾, 三原裕嗣²⁾, 高木郁代⁴⁾, 小林義典⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 高山守正²⁾, 水野杏一⁵⁾ (1) 博慈会記念総合病院循環器内科, 2) 榊原記念病院循環器内科, 3) 榊原記念病院検査科, 4) 鶴見大学歯学部附属病院内科, 5) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 6) 附属病院病理部) : 高度3,000mにおける高山病発症時の心循環メカニズム. 日本登山医学会・学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 11) 松崎つや子, 高山守正¹⁾, 中田 淳¹⁾, 鶴見昌史²⁾, 三原裕嗣¹⁾, 小林義典³⁾, 高木郁代⁴⁾, 手塚晶人⁵⁾, 川本雅司⁶⁾, 本間 博³⁾, 水野杏一³⁾ (1) 榊原記念病院循環器内科, 2) 博慈会記念総合病院循環器内科, 3) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 4) 鶴見大学歯学部附属病院内科, 5) 附属病院臨床研修医, 6) 附属病院病理部) : 低圧低酸素環境における運動負荷エコーの心循環に及ぼす影響 : 富士山頂にて. 日本登山医学会・学術集会 (第29回), 2009. 5.
 - 12) 見友優子, 高山守正¹⁾, 松崎つや子, 鶴見昌史²⁾, 中田 淳²⁾, 三原裕嗣¹⁾, 高木郁代³⁾, 川本雅司⁴⁾, 本間博²⁾, 水野杏一²⁾ (1) 榊原記念病院循環器内科, 2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 3) 鶴見大学歯学部附属病院内科, 4) 附属病院病理部) : 富士山頂における低圧低酸素の心循環に及ぼす影響 : 運動負荷エ

コーを用いて. 日本超音波医学会・学術集会 (第82回), 2009. 5.

- 13) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 竹田裕子, 平野美子, 本間英恵¹⁾, 牛島明子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 齋藤公一, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心疾患患者における運動負荷時経皮的炭酸ガス分圧と運動負荷時血圧応答. 心臓リハビリテーション学会学術集会 (第15回), 2009. 7.
- 14) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 吉田由紀子, 佐藤淳子, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞合併の睡眠時無呼吸による夜間就寝中の血圧・心拍・心拍変動の変化. 心臓リハビリテーション学会学術集会 (第15回), 2009. 7.
- 15) 松崎つや子, 高山守正¹⁾, 中田 淳²⁾, 鶴見昌史²⁾, 三原裕嗣²⁾, 齋藤清美³⁾, 小林義典⁴⁾, 高木郁代⁵⁾, 手塚晶人⁷⁾, 大野忠明²⁾, 川本雅司⁶⁾, 本間 博²⁾, 水野杏一²⁾ (1) (財)日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院循環器内科, ²⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ³⁾ (財)日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院検査部, ⁴⁾ 東海大学医学部附属八王子病院循環器内科, ⁵⁾ 鶴見大学歯学部附属病院内科, ⁶⁾ 日本医科大学付属病院病理部, ⁷⁾ 付属病院臨床研修医: 低圧低酸素環境下運動負荷による心機能への影響: 組織ドブラを用いて. 日本心臓病学会・学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 16) 大野忠明¹⁾, 本間 博¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 東 春香¹⁾, 横島友子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 松崎つや子, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): fibroelastoma 自件例8例の検討. 日本心臓病学会・学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 17) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 齋藤公一, 牛島明子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心疾患患者における中枢性無呼吸症候群と運動負荷時周期性呼吸の連動性に関する検討. 日本心臓病学会・学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 18) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 閉塞型睡眠時無呼吸における就寝中の経皮的炭酸ガス. 日本心臓病学会・学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 19) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 會田智弘, 加藤政利, 齋藤公一, 愛須紀子¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞後症例における精神神経因子の検討. 日本心臓病学会・学術集会 (第57回), 2009. 9.
- 20) 中村利枝, 横山和之, 水瀬 学, 齋藤公一, 本間 博, 古明池弘和¹⁾, 宮元亮子¹⁾, 清水秀治¹⁾, 勝田佛実¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): Acoustic Radiation Force Impulse (ARFI) を用いた肝硬度と肝線維化マーカーとの比較. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 10.
- 21) 松崎つや子, 関野玲子, 見友優子, 田尾清一, 塚田亜希, 水瀬 学, 中村利枝, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 大動脈弁石灰化と上行大動脈近位部のstiffness strain rateを用いて. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 10.
- 22) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 齋藤公一, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心疾患患者における中枢型睡眠時無呼吸と運動負荷時周期性呼吸の関連. 日本臨床生理学会総会 (第46回), 2009. 10.
- 23) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 牛島明子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 経皮的炭酸ガス分圧の変動から見た閉塞型睡眠時無呼吸の多様性. 日本臨床生理学会総会 (第46回), 2009. 10.
- 24) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 會田智弘, 加藤政利, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞患者に合併する精神神経因子異常の頻度・背景因子・経時変化の検討. 日本臨床生理学会総会 (第46回), 2009. 10.

- 25) 松崎つや子, 本間 博¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 東 春香¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 大動脈弁石灰化と上行大動脈近位部の distensibility との関係. 日本循環器学会・学術集会 (第74会), 2010. 3.
- 26) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 齋藤公一, 牛島明子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 高橋 啓¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心疾患患者における中枢性無呼吸と運動負荷時にみられる周期性呼吸の連続性に関する検討. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 27) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 閉塞型睡眠時無呼吸における経皮的炭酸ガス分圧の変動. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.
- 28) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 會田智弘, 加藤政利, 齋藤公一, 愛須紀子¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 急性心筋梗塞後患者における抑うつと不安感の検討. 日本循環器学会・学術集会 (第74回), 2010. 3.

[付属病院看護部]

研究概要

看護部では看護師をはじめ認定看護師, 専門看護師それぞれの看護専門領域において, 学会や誌上での看護研究や実践報告が行われた. 執筆は看護商業誌における解説が多く認められた. 領域としては, クリティカル看護領域, 慢性疾患看護領域, がん看護領域, 周手術期看護領域などが活発であった.

研究業績

論文

(1) 解説:

- 1) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第1回糖尿病. OPE nursing 2009 ; 24 (4) : 89-94.
- 2) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第2回甲状腺機能障害. OPE nursing 2009 ; 24 (5) : 27-33.
- 3) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第3回慢性閉塞性肺疾患 (COPD). OPE nursing 2009 ; 24 (6) : 27-31.
- 4) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第4回肥満. OPE nursing 2009 ; 24 (7) : 101-106.
- 5) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第5回虚血性心疾患. OPE nursing 2009 ; 24 (8) : 107-111.
- 6) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第6回不整脈. OPE nursing 2009 ; 24 (9) : 108-113.
- 7) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第7回大動脈瘤. OPE nursing 2009 ; 24 (10) : 31-34.
- 8) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第8回肝炎・肝硬変. OPE nursing 2009 ; 24 (11) : 107-112.
- 9) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第9回慢性腎不全. OPE nursing 2009 ; 24 (12) : 43-48.
- 10) 倉藤晶子: 口蓋扁桃摘出術とアデノイド切除術を受ける患児の手術看護. 小児看護 特集 小児における手術看護 看護の実際 2009 ; (32).
- 11) 瀬戸利昌: 非侵襲的陽圧換気 (NPPV). 呼吸ケア 冬季増刊 2009 ; (91) : 218-223.
- 12) 原田恭子: 補助循環カテーテル (PCPS). 重症集中ケア 2010 ; 18 (6) : 22-29.
- 13) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第10回高血圧. OPE nursing 2010 ; 25 (1) : 99-103.
- 14) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第11回血液凝固障害. OPE nursing 2010 ; 25 (2) : 43-47.
- 15) 倉藤晶子: 手術に役立つ基礎疾患の知識: 第12回脱水. OPE nursing 2010 ; 25 (3) : 105-109.
- 16) 倉藤晶子: 特集 決定版 麻酔手術看護 項目チェックシート. OPE nursing 2010 ; 25 (3) : 81-86.

(2) 研究論文：

- 1) 西川律子：Process and Outcome of Nurse-Provided Supportive Psychotherapy for Patients with Newly Diagnosed Breast Cancer. 東京女子医科大学看護学会誌 2009；4（1）：7-17.

著 書

- 1) 稲田浩美：〔分担〕褥瘡ケアの流れ. エキスパートナースガイド褥瘡治療・ケアトータルガイド（宮地良樹 溝上祐子），2009；pp162-165，照林社.
- 2) 原田恭子：〔解説〕心筋梗塞の心室リモデリングとは何か. 重症患者の全身管理（道又元裕），2009；pp92-94，日総研.
- 3) 稲田浩美：〔分担〕褥瘡のアセスメントと評価. ハンディマニュアル創傷・褥瘡ケア（田中秀子），2009；pp103-107，メディカ出版.
- 4) 稲田浩美：〔分担〕褥瘡ケアの基本技術. ハンディマニュアル創傷・褥瘡ケア（田中秀子），2009；pp108-119，メディカ出版.
- 5) 稲田浩美：〔分担〕褥瘡の治療. ハンディマニュアル創傷・褥瘡ケア（田中秀子），2009；pp120-137，メディカ出版.
- 6) 古山景子：〔Q&A〕家族が、壊疽で足を切断するかもしれないと言われました。ウジ治療で切断を免れると聞きましたが、本当ですか？. 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p160，日本看護学会出版会.
- 7) 古山景子：〔Q&A〕12歳の1型糖尿病の男子です。中学生に会ったらサッカー部に入りたいのに、両親から「糖尿病だからやめなさい」と反対されています。本当にだめなのでしょうか？. 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p182，日本看護学会出版会.
- 8) 古山景子：〔Q&A〕14歳の女子で、1型糖尿病です。インスリンを打つと太るから量を減らしたいのですが、よいのでしょうか？. 糖尿病患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p184，日本看護協会出版会.
- 9) 古山景子：〔Q&A〕28歳の女性です。半年前に1型糖尿病と診断されました。規則正しい生活をしているのに、血糖値が不安定です。なぜでしょうか？. 糖尿病患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p187，日本看護学会出版会.
- 10) 古山景子：〔Q&A〕高齢の父がインスリンの注射を打っています。最近、物忘れがひどく、視力の低下も進んでいます。きちんと注射ができていますか心配です。糖尿病患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p200，日本看護協会出版会.
- 11) 古山景子：〔Q&A〕80歳になる父親は、甘いものが好きで、病気が悪くなくてもいいから食べたいと言います。高齢者でも厳しくしたほうがよいのでしょうか？. 糖尿病患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p202，日本看護協会出版会.
- 12) 古山景子：〔コラム〕糖尿病看護に関する豆知識（学校側との情報共有）。糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p183，日本看護協会出版会.
- 13) 古山景子：〔コラム〕糖尿病看護に関する豆知識（否認の必要性）。糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p187，日本看護協会出版会.
- 14) 古山景子：〔コラム〕糖尿病看護に関する豆知識（リリースの活用）。糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p201，日本看護協会出版会.
- 15) 古山景子：〔コラム〕糖尿病看護に関する豆知識（エネルギーだけではなく、脂質にも注意を）。糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120（瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子），2009；p203，日本看護協会出版会.
- 16) 古山景子：〔コラム〕患者さんに届いたこのひとこと（お手伝いの方法が間違っているのかもしれない）。糖

尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子), 2009 ; p27, 日本看護協会出版会.

- 17) 古山景子: [コラム] 患者さんに届いたこのひとこと (自分が主治医になったつもりで). 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子), 2009 ; p125, 日本看護協会出版会.
- 18) 古山景子: [コラム] 患者さんに届いたこのひとこと (ご主人もきっとおつらいはずですよ). 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子), 2009 ; p175, 日本看護協会出版会.
- 19) 古山景子: [コラム] 患者さんに届いたこのひとこと (2本の足で立って歩ける幸せを大切にしたい). 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子 古山景子 山地陽子), 2009 ; p185, 日本看護協会出版会.
- 20) 中西吉人: [分担] トリアージ. レビューブック (第12版) (岡庭豊), 2010 ; p58, メディック・メディア東京.
- 21) 中西吉人: [分担] 救急救命時の看護. レビューブック (第12版) (岡庭豊), 2010 ; pp10-32, メディック・メディア東京.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 瀬戸利昌: 「インターフェイスの功罪: 看護師の立場から」. 日本呼吸療法医学会学術集会 (第31回) (山形), 2009. 7.
- 2) 古山景子: 糖尿病看護認定看護師としての人材育成への歩み「愛していますか? 糖尿病患者さん」. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (第14回) (札幌), 2009. 9.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 佐藤憲明: 急変予知プログラム開発に向けたエキスパートナースへの提言. 日本冠疾患学会学術集会 (第23回) (大阪), 2009. 12.

(3) ワークショップ:

- 1) 古山景子: 糖尿病重症予防におけるCDEJの役割: フットケア外来をどのように展開するか (日本糖尿病療養指導士チームの向上のために). 日本糖尿病学会年次学術集会 (第52回) (大津市), 2009. 5.
- 2) 山口敬子: 呼吸器ケア認定看護師 (仮称) 制度の発足に向けて (外来における自己管理に向けた実践と患者教育: 包括的呼吸リハビリテーションの実践). 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第19回), 2009. 10.
- 3) 細萱順一: 「クリティカル領域における教育システム・中堅看護師の育成」: 大学院への進学を決定した経験と学修継続の支えとなる院内サポート. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.

(4) 一般講演:

- 1) 鈴木由美, 三宅秀彦¹⁾, 浅野ありさ¹⁾, 渡辺 淳¹⁾, 大木由加志¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院遺伝診療科): 着床前診断を希望するカップルの遺伝カウンセリング. 日本遺伝カウンセリング学会 (第33回) (兵庫), 2009. 7.
- 2) 堺 則康¹⁾, 渡辺 淳¹⁾, 鈴木由美, 三橋善比古²⁾, 川名誠司²⁾, 島田 隆¹⁾, 大木由加志¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院遺伝診療科, 2) 東京医科大学病院皮膚科): 色素失調症の成人に向けた遺伝カウンセリング. 日本遺伝カウンセリング学会 (第33回) (兵庫), 2009. 7.
- 3) 佐藤愛子, 原田恭子: 非侵襲的陽圧換気トータルフェイスマスク装着中の乾燥に影響を及ぼす要因: マスクリーク量と加湿加湿器設定に着目して. 日本呼吸療法医学会学術集会 (第31回) (山形), 2009. 7.
- 4) 白川睦美, 曾我部久美, 佐藤憲明: 救命センターに搬送される外傷患者の搬送から初療室で処置を受ける間の心理状態. 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第5回) (神戸), 2009. 7.

- 5) 西畑 毅, 志村知子, 成田清香, 鈴木佳奈子, 高澤直央, 伊藤博希, 佐藤憲明: クリティカルケア領域における栄養管理実践活動の効果の検討. クリティカルケア看護学会学術集会 (第5回) (神戸), 2009. 7.
 - 6) 中西吉人: 看護師の労働価値観に関する研究 (第13回). 日本看護管理学会年次大会 (浜松), 2009. 8.
 - 7) 小松ひろみ, 佐藤トキ子, 相澤里香: 病棟看護師による入院前指導の実際. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第2回), 2009. 10.
 - 8) 今井真己, 山崎弓子, 倉藤晶子, 金子栄子: 術後訪問に対するスタッフの意識調査; 術後訪問定着へ向けて. 日本手術医学会 (第31回), 2009. 11.
 - 9) 木野毅彦, 内海清乃: 洞爺湖サミットにおける活動報告 (第1報). 日本救急看護学総会 (第11回) (福岡), 2009. 11.
 - 10) 木野毅彦, 内海清乃: 洞爺湖サミットにおける活動報告 (第2報). 日本救急看護学総会 (第11回) (福岡), 2009. 11.
 - 11) 木野毅彦: 研究デザイン別にみた日本救急看護学会過去10年間における一般演題の傾向と今後の方向性. 日本救急看護学総会 (第11回) (福岡), 2009. 11.
 - 12) 志村知子, 田川 陽, 市村健二, 吉田朋子, 増山竜太, 海老沢拓也: 効果的な胸骨圧迫に影響を及ぼす補助的要素の検討. 日本救急看護学会学術集会 (第11回) (神戸), 2009. 11.
 - 13) 磯崎奈津子, 志村知子, 橋本恵美, 小谷愛子, 西畑 毅, 藤井祐士, 蘇畑ひろみ, 加瀬知美: 皮膚被膜剤の予防的皮膚保護効果の検討. 日本救急看護学会学術集会 (第11回) (福岡), 2009. 11.
 - 14) 大貫朋子, 高田大輔, 高倉夕奈, 野中麻里子, 野口阿紀, 角田聖子, 古山景子: マゴットセラピーを受けた患者の思い: 紙面調査を実施して. 日本フットケア学会 (第8回), 2010. 2.
 - 15) 佐藤愛子, 原田恭子: NPPVヘルメット型マスク装着中のマスク内環境について: マスクリーク量と加温加湿器設定に着目して. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
 - 16) 大橋留美, 大江 健, 瀧川真朱美, 佐々木愛, 道廣 瞳, 横山瑞穂, 伊藤博希, 佐藤憲明: 心肺蘇生後患者に体表冷却装置を用いた脳低体温療法の体温管理の正確性を高めるため: 食道温導入の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
 - 17) 内海清乃, 久山玲子, 田中 茜, 佐藤憲明: 当施設における外傷初期看護教育の取り組みと評価. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- (5) 交流集会:
- 1) 榊 由里: 救急看護現場が期待する看護基礎教育. 日本救急看護学会学術集会 (第11回) (福岡), 2009. 11.
- (6) 示説:
- 1) 市川知恵, 古山景子: 青年期1型糖尿病患者のエンパワメントプロセスを振り返る. 糖尿病教育・看護学会学術集会 (第14回), 2009. 9.
 - 2) 千田英理子, 腹子あきこ, 沢田真紀, 森川昭子, 関根典子: 外来化学療法後の末梢神経障害の実態調査. 日本がん看護学会学術集会 (第24回), 2010. 2.
 - 3) 宮下陽子, 蓮見菜々子: 移植後治療に至らず不安や恐怖感を抱いたまま退院となった症例. 造血幹細胞移植学会総会 (第32回) (浜松), 2010. 2.
 - 4) 加藤 真: 化学療法中に緩和が困難な嘔気を生じた患者の看護の一考察. 造血幹細胞移植学会総会 (第32回) (浜松), 2010. 2.
 - 5) 大橋留美: 心肺蘇生後患者に体表冷却装置を用いた脳低体温療法の体温管理の正確性を高めるために: 食道温導入の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.
 - 6) 大久保利恵, 坂本真紀, 原田恭子: 当集中治療室における既卒者教育の現状と今後の課題: リアリティシヨックの軽減を目指したメンター活動. 日本集中治療医学会学術集会 (第37回) (広島), 2010. 3.

[付属病院放射線科技師室]

研究概要

放射線科技術部門（放射線科技師室）は、診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である。一般撮影部門（X線撮影部門、X線透視撮影部門）、CT部門、核医学検査部門（RI部門）、MRI部門、血管撮影部門および放射線治療部門の6分野に大別され、それぞれの部門で研究を進めている。

一般撮影部門では、フラットパネル（FPD）の撮影条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について検討を行っている。X線透視撮影部門でも、最新のFPD搭載機種が導入され、撮影条件に関する研究を進めている。

MRI部門では、3T装置を用いた研究を進めている。血管疾患への応用、位相画像の検討および高速撮像法の臨床応用に関しても検討を進めている。

CT部門では、3D-CTの信頼性向上について継続的に検討を進めている。

放射線科技術部門では、診療用画像検査全般を扱う部門であり、それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め、「正確な画像診断」を行う事が可能となる「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように研究に取り組んでいる。

研究業績

著書

- 1) 土橋俊男：〔分担〕MRIの安全管理・第6章. MRI集中講習（MRI専門技術者認定試験にチャレンジするためのテキスト）（(社)東京都放射線技師会），2009；pp51-62，三恵社。
- 2) 土橋俊男：〔分担〕第10章 MRI検査の実務と安全2. 体内に医療器具，装置を留置した被検者の取り扱い. MRI安全性の考え方（日本磁気共鳴医学会 安全性評価委員会），2010；pp208-218，秀潤社。
- 3) 土橋俊男：〔分担〕MRI専門技術者の役割と未来. Radiological Expert：ラジオロジカルエキスパートへの道（(社)東京都放射線技師会），2010；pp15-32，医療科学社。

学会発表

- (1) 特別講演：
 - 1) 土橋俊男：MRI”極める”。平成21年度関東講師熱放射線技師学術大会（東京），2009. 9.
- (2) 招待講演：
 - 1) 土橋俊男：MRIの安全管理. 昭和大学統括放射線技術部学術大会，2009. 4.
- (3) シンポジウム：
 - 1) 土橋俊男：MR専門技術者について（専門技師の役割と未来）。平成21年度関東甲信越放射線技師学術大会，2009. 9.
- (4) セミナー：
 - 1) 土橋俊男：SNR，CNRの測定方法（MRIセミナー）。日本放射線技術学会，2009. 11.
 - 2) 土橋俊男：MRI撮像技術の基礎：sampling bandwidthから見たMR画像. MRI advanced technology seminar，2009. 11.
- (5) ワークショップ：
 - 1) 土橋俊男：MR検査を安全に行うために（MR検査を安全に行うために知るべきこと）。日本放射線技術学会，2009. 4.

[付属病院ME部]

研究概要

ME部は、生命維持装置をはじめとするME機器、および、その周辺機器の操作、保守点検、管理を行なう部門であり、手術室業務、血液浄化療法業務、高圧酸素療法業務、救命救急業務、集中治療業務、心臓カテーテル業務、および中央管理業務などに関する研究をテーマとしている。

平成21年度は「臨床工学におけるジェネラリストとスペシャリスト」をテーマに、手術室、集中治療、人工呼吸療法、心臓カテーテル検査など、われわれが関わる領域における業務に関する研究を行なった。また、医療安全の観点から開発した人工呼吸器アラームシステムについて発表を行なった。

一方で、平成21年度は専門領域を獲得したスタッフがそれぞれの分野において、論文や著書を発表して、研究成果をあげることができたと考える。

さらに、教育講演、シンポジウムにおいて発表する機会を得、手術室における業務確立、集中治療領域における人工呼吸療法の関わり、急性血液浄化療法、高気圧酸素療法における教育プログラムの確立など、それぞれの専門分野においてスペシャリストとしての発表も行なうことができた。

研究業績

論文

(1) ワークショップ：

- 1) 松田範子¹⁾、鈴木尚人²⁾、小林 浩³⁾、宇都宮精治郎⁴⁾、岡崎史紘⁵⁾、坂本篤裕^{6,1)} (1) 日本医科大学付属病院ME部、2) カレスサッポロ時計台病院 臨床工学部、3) 東京慈恵会医科大学 環境保険医学講座、4) 国家公務員共済組合連合会 新別府病院 診療部 臨床工学室、5) 東京医科歯科大学付属病院 高気圧治療部、6) 日本医科大学 麻酔科)：日本高気圧環境・潜水医学会技術部会における教育プログラム確立への試み、日本臨床工学技士会誌 2009；(37)：180-182.

著書

- 1) 野口裕幸、竹田晋浩¹⁾ (1) 麻酔科学講座・集中治療室)：〔自著〕NPPV中の管理およびトラブル対応：機器編。呼吸器ケア2009夏季増刊(石原英樹)，2009；pp167-175，メディカ出版。
- 2) 前田美紀、野口裕幸：〔自著〕人工呼吸中のモニタリング。看護技術 (10月号)，2009；pp57-64，メヂカルフレンド社。
- 3) 鈴木健一¹⁾、新田隆²⁾、大森裕也²⁾、坂本俊一郎²⁾ (1) 付属病院ME部、2) 日本医科大学外科学講座心臓血管外科)：〔共著〕臨床工学技士に必要なICDの基礎知識。Clinical Engineering (臨床工学ジャーナル) Vol20 No. 10/2009 10月号(加納 隆)，2009；pp959-967，秀潤社。
- 4) 野口裕幸：〔自著〕各領域における実習指導の紹介 呼吸療法領域II. 実習指導者のための臨床実習教育の手引き(指導者講習会運営委員会)，2009；pp81-84，社団法人 日本臨床工学技士会。
- 5) 野口裕幸：〔自著〕試用する前のHOW TO・苦手克服ドリル人工呼吸器の取り扱いHOW TO. 呼吸器ケア，2010；pp232-238，メディカ出版。
- 6) 野口裕幸：〔自著〕もうこわくない！人工呼吸器アラーム対応。ナース専科，2010；pp61-77，エス・エム・エス。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 松田範子 (1) 日本医科大学付属病院 ME部)：高気圧酸素治療技師教育プログラムについて。第44回 日本

高気圧環境・潜水医学会総会（東京），2009. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 野口裕幸：人工呼吸器に関する教育に関して：CEに出来ること，求められること（院内での人工呼吸器に関する教育手法の実際と問題点）．日本呼吸療法医学会（第31回）（山形），2009. 7.
- 2) 野口裕幸，鎌田隆行，竹田晋浩¹⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 麻酔科学）：臨床工学技士の質的向上と今後のビジョン．日本集中治療医学会学術集会（第37回）（広島），2010. 3.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 鈴木健一¹⁾，坂本篤裕¹⁾，土屋直俊¹⁾，鈴木 完¹⁾，鎌田隆行¹⁾，原 正高¹⁾，杉山千紘¹⁾，上田真弓¹⁾，河野里枝¹⁾，前田美紀¹⁾，黄川田信充¹⁾，粟屋俊輔¹⁾，大石沙織¹⁾，島崎弥生¹⁾，野口裕幸¹⁾，その他4名（¹⁾ 付属病院ME部）：当院における抗癌剤還流療法：NIPP（臨床工学技士の新たな取り組み）．東京都臨床工学技士会学術大会（第20回）（東京），2009. 5.
- 2) 野口裕幸：臨床の中でのCEの役割（集中治療編）．日本臨床工学会（第19回）（徳島），2009. 5.
- 3) 鈴木健一¹⁾，坂本篤裕²⁾，田中啓治³⁾，宮内靖史⁴⁾，上田真弓¹⁾，鎌田隆行¹⁾，野口裕幸¹⁾，岩崎雄樹⁴⁾，竹田晋浩²⁾（¹⁾ 付属病院ME部，²⁾ 麻酔科，³⁾ 集中治療室，⁴⁾ 第一内科）：ペースメーカーの安全管理のプロの技：当院の現状とこれから．日本集中治療医学会関東甲信越地方会（第18回）（長野），2009. 7.

(4) ワークショップ：

- 1) 鈴木健一¹⁾（¹⁾ 付属病院ME部）：次世代の手術室領域の臨床工学とは：当院の現状．日本臨床工学会（第19回）（徳島），2009. 5.
- 2) 松田範子¹⁾，鈴木尚人²⁾，小林 浩³⁾，宇都宮精治郎⁴⁾，岡崎史紘⁵⁾，坂本篤裕^{6.1)}（¹⁾ 日本医科大学付属病院ME部，²⁾ 特定医療法人社団 カレスサポロ時計台病院 臨床工学科，³⁾ 東京慈恵会医科大学 環境保険医学講座，⁴⁾ 国家公務員共済組合連合会 新別府病院 診療部 臨床工学室，⁵⁾ 東京医科歯科大学附属病院 高気圧治療部，⁶⁾ 日本医科大学 麻酔科）：日本高気圧環境・潜水医学会技術部会における技師教育確立への試み．第19回 日本臨床工学会（徳島），2009. 5.
- 3) 松田範子¹⁾，黄川田信充¹⁾，大石沙織¹⁾，木山輝郎²⁾，宮本正章³⁾，坂本篤裕^{4.1)}，内田英二²⁾，徳永 昭⁵⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME部，²⁾ 日本医科大学 外科，³⁾ 日本医科大学 内科・再生医療科，⁴⁾ 日本医科大学 麻酔科，⁵⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩：特に骨髄血管新生療法（先進医療承認）と高気圧酸素療法の併用療法を中心に．第44回 日本高気圧環境・潜水医学会総会（東京），2009. 11.

(5) 一般講演：

- 1) 横山大佑¹⁾，鈴木健一¹⁾，高橋真弓¹⁾，土屋直俊¹⁾，原 正高¹⁾，野口裕幸¹⁾，村田 智²⁾，田島廣之²⁾，金徹³⁾，坂本篤裕³⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME部，²⁾ 日本医科大学付属病院 放射線科，³⁾ 日本医科大学付属病院 麻酔科）：当院における「NIPP」の体外循環法 第3報．第19回日本臨床工学会（徳島），2009. 5.
- 2) 島崎弥生，黄川田信充，原 正高，松田範子，宮本正章，野口裕幸，坂本篤裕（¹⁾ 再生医療科）：難治性潰瘍患者に対する高気圧酸素療法の治療効果：透析患者と非透析患者の比較．東京都臨床工学技士会（第17回）（東京），2009. 5.
- 3) 大石沙織，黄川田信充，高橋真弓，鎌田隆行，野口裕幸，坂本篤裕：無線警報システムの臨床使用とその評価．東京都臨床工学技士会（第17回）（東京），2009. 5.
- 4) 横山大佑¹⁾，鈴木健一¹⁾，粟屋俊輔¹⁾，鈴木 完¹⁾，高橋真弓¹⁾，杉山千紘¹⁾，土屋直俊¹⁾，野口裕幸¹⁾，太良修平²⁾，山本英世²⁾，高木 元²⁾，高野仁司²⁾，水野杏一²⁾，坂本篤裕²⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院 ME部，²⁾ 日本医科大学付属病院 循環器内科）：重症虚血肢に対する経皮血管形成術における，術中皮膚組織還流圧及び経皮酸素分圧モニタリング．第18回日本心血管インターベンション治療学会：CVIT2009（北海道），2009. 6.
- 5) 島崎弥生，鈴木健一，白石千草，前田美紀，粟屋俊輔，鈴木 完，杉山千紘，横山大佑，土屋直俊，野口裕幸，

- 坂本篤裕：オペレーションシステムを導入して，手術医学会（第31回）（東京），2009. 10.
- 6) 前田美紀，鈴木健一，島崎弥生，杉山千紘，坂本篤裕：医療機器位置情報システムを取り入れて，手術医学会（第31回）（東京），2009. 10.
- 7) 土屋直俊，鈴木健一，白石千草，大石沙織，島崎弥生，前田美紀，杉山千紘，横山大佑，坂本篤裕¹⁾，大森裕也²⁾，新田 隆²⁾，落 雅美²⁾（¹⁾ 麻酔科，²⁾ 心臓血管外科）：当院におけるレーザー抜去システムの使用経験．植込みデバイス関連冬季大会（第2回）（東京），2010. 2.
- 8) 杉山千紘¹⁾，鈴木健一¹⁾，横山大佑¹⁾，坂本俊一郎²⁾，大森裕也²⁾，新田 隆²⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ ME部，²⁾ 心臓血管外科）：MRI検査を行ったICD植え込み患者のフォローアップの経験．植込みデバイス関連冬季大会（第2回）（東京），2010. 2.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は，1972年（昭和47）故丸山千里名誉教授により，人型結核菌体抽出物質（SSM）を中心とした免疫療法による悪性腫瘍，感染症ならびに難治性疾患の治療および予防等の研究のために設立されたものである．以来，2009年度末（2010年3月末）までの37年間に登録されたSSM使用悪性腫瘍患者は累計385,318名に達しており，一施設としては世界も比をみないと思われる膨大な症例数に及んでいる．これらの患者のほとんどが学外診療施設からの紹介患者であることと，その大多数が進行期癌であることは，癌治療の現状とともに当研究施設の責務の重大さを窺わせるものである．

また当研究施設は，SSM有償治験の基幹治験施設となっているため，多いときには一日あたり，初診，再診および郵送による申し込みを含めると350名前後の患者を迎えており，これら患者に対する各共同治験担当医師から提供される臨床成績経過書に基づきSSMの処方と各治験担当医師との協議を行っている．現在は，治験登録者について得られた情報を基に，SSMの本来の使用目的といえるBRM（Biological Response Modifiers）としての作用および癌免疫療法としての作用について，特に進行期癌におけるQOL（Quality of Life）向上と延命効果の立場から，SSM療法の優れた点についての検討や既存の治療法との併用時における効果的な使用法の検討等を行っている．特に長期生存者については背景要因の解析，延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている．また，SSMの経口投与の可能性ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mitsuishi T¹⁾，Nakatake M²⁾，Kaneko T³⁾，Ohara K⁴⁾，Kato T¹⁾，Iida K，Iwabu Y⁵⁾，Tokunaga K⁵⁾，Sata T⁵⁾，Kawana S¹⁾，Yamada O²⁾（¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Medical Research Institute, Tokyo Women's Medical University, ³⁾ Department of Dermatology, Douai Memorial Hospital, ⁴⁾ Department of Dermatology, Toranomon Hospital, ⁵⁾ Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases）：Evaluation of telomerase activity in non-genital Bowen's disease. J Eur Acad Dermatol Venereol 2009；23（6）：668-672.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

われわれの体内に内在する生体反応の結果が，疼痛・発熱・腫脹などの様々な症候の原因であり，ステロイドホル

モン、解熱鎮痛剤、免疫抑制剤等、様々な薬剤の多くはこれらの応答を抑制するものであることが次第に明らかとなってきた。こうした中、生体反応を単に抑制するのではなく、各種の反応を制御する方策の重要性が指摘されている。反応を引き起こす生体細胞群の中心に位置するのが、自然免疫システムの中心に位置する「樹状細胞」と呼ばれる免疫系を制御する細胞群であり、この樹状細胞活性化物質群の一つが生薬由来の「サポニン群（シャボン）」との考えに基づき、実際にサポニン群をもとに作成した免疫増強物質が樹状細胞の機能応答性に影響を与える可能性をまとめた総説を国際誌に発表した（Vaccine, 2010, 28 Suppl 2 : B3-B7）。また生薬植物群抽出物質が樹状細胞群や、NKT細胞、 $\gamma\delta$ 型T細胞などの自然免疫系担当細胞群に影響を及ぼすことを検討するため、生薬と同様植物系細菌群に属し強い自然免疫活性化能を有すると推測される結核菌に着目し、BCGが自然免疫担当細胞群に影響を及ぼすことを明らかにした（Cancer Immunol. Immunother, 2009, 58 : 1245-1255）。

一方、粘膜自然免疫制御の鍵を握る樹状細胞を活性化するための必須因子であるGM-CSFの大量産生システムを開発する（BBRC, 2009, 386 : 40-44）とともに、表面に存在する様々な共刺激分子群の発現状態と抗腫瘍効果とを比較検討したところ、B7-H2分子発現樹状細胞が腫瘍増殖性の鍵を握ることを明らかにするとともに（Clin. Cancer Res, 2009, 15 : 770-777）、自然免疫担当細胞の放つInterferon群によるHCV発ガンの抑制メカニズム（Gastroenterology, 2009, 137 : 285-296）ならびにHIV-1の母乳感染阻止効果（Immunology, 2010, 130 : 597-607）について解析し、母乳中に含まれる樹状細胞の前駆物質がHTLV-1の感染媒体となることを明らかにした（Biomedical Res., 2010, 31 : 53-61）。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Yamashita T^{1,2)}, Tamura H¹⁾, Satoh C^{1,3)}, Shinya E²⁾, Takahashi H, Chen L⁴⁾, Kondo A¹⁾, Tsuji T⁵⁾, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Bioregulation, Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Dermatology, Department of Oncology and Institute of Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, ⁵⁾ Department of Biological Science and Technology, Tokyo University of Science) : Functional B7. 2 and B7-H2 molecules on myeloma cells are associated with a growth advantage. Clin. Cancer Res 2009 ; 15 (3) : 770-777.

追加分総説：

- 1) 高橋秀実：漢方薬の解表作用：細胞膜上に局在化した脂質の融解と再分配の誘発。漢方医学 2009 ; 33 (1) : 285-290.
- 2) 平馬直樹：メタボリックシンドロームと痰湿。医薬ジャーナル 2009 ; 45 (3) : 87-89.
- 3) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾, 王 慶国²⁾ (¹⁾ あきば伝統医学クリニック, ²⁾ 北京中医薬大学) : 江戸の医案を読む 特別編 尾台裕堂『方伎雑誌』『井観医言』より。伝統医学 2009 ; 12 (1) : 48-54.

(1) 原著：

- 1) Machida K¹⁾, Tsukiyama KK²⁾, Sekiguchi S²⁾, Seike E³⁾, Tone S⁴⁾, Hayashi Y⁵⁾, Tobita Y²⁾, Kasama Y¹⁾, Shimizu M⁶⁾, Takahashi H, Taya C⁷⁾, Yonekawa H⁷⁾, Tanaka N²⁾, Kohara M²⁾ (¹⁾ Department of Immunology, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, University of Tokyo, ²⁾ Department of Microbiology and Cell Biology, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ³⁾ Department of Internal Medicine, Self-Defense Forces Central Hospital, ⁴⁾ Department of Biochemistry, Kawasaki Medical School,

- 5) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 6) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 7) Laboratory of Animal Science, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science) : Hepatitis C virus and disrupted interferon signaling promote lymphoproliferation via type II CD95 and interleukins. *Gastroenterology* 2009 ; 137 (1) : 285-296.
- 2) Higuchi T¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Takahashi M¹⁾, Shinya E¹⁾, Nishimura T²⁾, Takahashi H¹⁾ (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Urology, Nippon Medical School) : A possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma : involvement of innate effector cells for the inhibition of tumor growth. *Cancer Immunol. Immunother* 2009 ; 58 (8) : 1245-1255.
- 3) Shinya E¹⁾, Owaki A¹⁾, Norose Y¹⁾, Sato S¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Quick method of multimeric protein production for biologically active substances such as human GM-CSF (hGM-CSF). *Biochem. Biophys. Res. Commun* 2009 ; 386 (1) : 40-44.
- 4) Inaba K¹⁾, Fukazawa Y¹⁾, Matsuda K¹⁾, Himeno A¹⁾, Matuyama M¹⁾, Ibuki K¹⁾, Miura Y¹⁾, Koyanagi Y¹⁾, Nakajima A¹⁾, Blumberg RS¹⁾, Takahashi H, Hayami M¹⁾, Igarashi T¹⁾, Miura T¹⁾ (1) Laboratory of Primate Model, Experimental Research Center for Infectious Diseases, Institute for Virus Research, Kyoto University) : Small intestine CD4+ cell reduction and enteropathy in SHIV-KS661-infected rhesus macaques in presence of low viral load. *J Gen Virol* 2009 ; 91 (3) : 773-781.
- 5) Miyazaki Y¹⁾, Kamiya S²⁾, Hanawa T²⁾, Fukuda M³⁾, Kawakami H³⁾, Takahashi H, Yokota H¹⁾ (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of medicine, 3) Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine) : Effect of probiotic bacterial strains of *Lactobacillus*, *Bifidobacterium* and *Enterococcus* on enteroaggregative *Escherichia coli*. . *J. Infect. Chemother* 2010 ; 16 (1) : 10-18.
- 6) Takeuchi H¹⁾, Takahashi M¹⁾, Norose Y¹⁾, Takeshita T²⁾, Fukunaga Y³⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 3) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Transformation of breast milk macrophages by HTLV-1 : implications for HTLV-1 transmission via breastfeeding. *Biomedical Res* 2010 ; 31 (1) : 53-61.
- 7) Wakabayashi A¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology) : Development of anti-tumor immunity by oral vaccination with tumor antigen and cholera toxin. *J Nippon Med Sch* 2010 ; 77 (1) : 50-52.
- 8) Moriya K¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Tamura H²⁾, Dan K²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205 (+) dendric cells. *Cancer Immunol. Immunother* 2010 ; 59 (7) : 1083-1095.
- 9) Takahashi H : Species-specific CD1-restricted innate immunity for the development of HIV vaccine. *Vaccine* 2010 ; 28 (Suppl 2) : B3-B7.
- 10) Yagi Y¹⁾, Watanabe E¹⁾, Watari E¹⁾, Shinya E¹⁾, Satomi M²⁾, Takeshita T²⁾, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Inhibition of DC-Sign-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. *Immunology* 2010 ; 130 : 597-607.

(2) 総説：

- 1) 高橋秀実：BCGによる自然免疫の活性化. 泌尿器外科 2009；22（2）：200-202.
- 2) 高橋秀実：自然免疫システムと生態防御. 炎症と免疫 2009；17（3）：247-249.
- 3) 高橋秀実：アレルギー疾患における漢方薬の作用機序に関する一考察. 日本小児科学会雑誌 2009；113（6）：897-901.
- 4) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (1) あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第8回 山田業広『井見集付録』よりその2. 伝統医学 2009；12（2）：104-110.
- 5) 高橋秀実：CD1分子群によって規定された自然免疫とMHC分子群によって拘束された獲得免疫：エイズワクチン開発のための新たな指標. 日本エイズ学会誌 2009；11（3）：199-204.
- 6) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (1) あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第9回 津田玄仙『療治茶談』続編附録よりその1. 伝統医学 2009；12（3）：158-165.
- 7) 平馬直樹：中医診療日誌21 冷え性. LIFENCE 2009；35：87-89.
- 8) 平馬直樹：中医診療日誌22 異病同治. LIFENCE 2009；36：28-31.

著書

{追加分}

追加分：

- 1) 矢田純一, 高橋秀実 (1) 東京医科歯科大学名誉教授, 2) 日本医科大学微生物学免疫学)：〔共著〕リッピンコット・イラストレイテッド免疫学 (監訳), 2009；pp1-352, 丸善.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 平馬直樹：臓腑の病証と治療その2 脾. 仙台中医学研究会 (宮城), 2009. 1.
- 2) 平馬直樹：臓腑の病証と治療3. 郡山漢方研究会 (福島), 2009. 2.
- 3) 高久 俊：西洋医学的治療継続困難な若年性高血圧症に対して東洋医学的治療を試みた1例. 第一回標準東洋医学講座 難治症例漢方カンファレンス (東京), 2009. 3.
- 4) 平馬直樹：消化器症状の弁証. 阿蘇漢方シンポジウム (熊本), 2009. 3.

追加分特別講演：

- 1) 高橋秀実：自然免疫と東洋医学. 大阪漢方研究会 (第8回) (大阪), 2009. 2.
- 2) 高橋秀実：膀胱癌に対するBCG注入療法から見える丸山ワクチンの作用機序. NPO丸山ワクチンと癌を考える会 (第6回) (東京), 2009. 5.

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：生体防御システムの二重構造と新たな腫瘍免疫の構築. 西多摩医師会学術講演会 (東京), 2009. 7.
- 2) 高橋秀実：様々な症候と自然免疫の応答. 平成21年度北区医師会夏の免疫・アレルギーセミナー (東京), 2009. 8.
- 3) 高橋秀実：漢方療法入門：日常診療に役立つ漢方処方. 平成21年度日本医師会生涯教育講座 (東京), 2009. 10.
- 4) 高橋秀実：母乳細胞とレトロウイルス感染. 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (第24回) (東京), 2009. 11.
- 5) 高橋秀実：ヘリコバクター・ピロリ感染と生体応答. 日本小児ヘリコバクター・ピロリ研究会 (東京), 2010. 3.

(2) ワークショップ：

- 1) Takahashi H：Mucosal Innate Immunity and HIV pathogenesis. US-Japan Joint AIDS-Hepatitis Meeting (Portland, Oregon, USA), 2009. 9.

(3) 一般講演：

- 1) 高久 俊, 高久千鶴乃, 廣田 薫, 吉永恵実, 近江恭子, 平馬直樹, 高橋秀実：顔面座瘡を伴う過敏性腸症候群に対して東洋医学的治療が奏功し西洋薬が不要となった1例. 日本東洋医学会学術総会 (第60回) (東京), 2009. 6.
- 2) 高久千鶴乃, 廣田 薫, 高久 俊, 吉永恵実, 近江恭子, 平馬直樹, 高橋秀実：西洋医学的に診断が困難であった消化器症状, 発熱, 関節痛を繰り返す症例に対する漢方治療の1例. 日本東洋医学会学術総会 (第60回) (東京), 2009. 6.
- 3) 廣田 薫, 近江恭子, 吉永恵実, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹, 高橋秀実：直腸癌術後の反復性腹痛ならびに難治性排便困難に漢方薬が著効した1例. 日本東洋医学会学術総会 (第60回) (東京), 2009. 6.
- 4) 近江恭子, 廣田 薫, 高久 俊, 高久千鶴乃, 吉永恵実, 平馬直樹, 高橋秀実：回転性めまいを伴う難治性耳鳴に対し抑肝散が著効した症例. 日本東洋医学会学術総会 (第60回) (東京), 2009. 6.
- 5) 小野顕人, 平馬直樹, 高橋秀実：人参養栄湯が非侵襲的陽圧換気 (NPPV) からの離脱に寄与した1例. 日本東洋医学会学術総会 (第60回) (東京), 2009. 6.
- 6) 平馬直樹：弁証論治の運用 アトピー性皮膚炎. 熊本漢方懇話会 (熊本), 2009. 7.
- 7) 平馬直樹：臓腑の弁証と治療その4 腎. 仙台中医学研究会 (宮城), 2009. 7.
- 8) 廣田 薫：著明な冷えと口渴を主訴に来院した鬱病を伴う乳癌患者の1例. 第二回標準東洋医学講座 難治症例漢方カンファレンス (東京), 2009. 9.
- 9) 菅沼 栄：腹満・寒疝・宿食病の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2009. 9.
- 10) 平馬直樹：臓腑の病証と治療その5 心. 仙台中医学研究会 (宮城), 2009. 10.
- 11) 菅沼 栄：五臓の風・寒・積・聚病の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2009. 11.

[ゲノム先端医療部]

研究概要

ヒト遺伝子の解析研究の成果は、従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹性へと拡大し、個人々人の疾患の早期診断さらに予防への応用すなわちオーダーメイド医療（個別化医療）実現が現実のものになりつつある。今後、日常診療の場でオーダーメイド医療のための遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され、そのための病院内での体制作りが急がれる。日本医科大学付属病院では法人の全面的支援を受けて全国の医科大学に先駆け、平成20年4月にオーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した。ここでは既に臨床の有用性が実証されている遺伝子情報を、倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている。まず抗がん剤であるイリノテカンによる副作用に関連するUGT1A1遺伝子多型に関する検査を担当臨床各科、薬剤部、生化学・分子生物学（分子遺伝学）教室、ハイテクリサーチセンターとも連携し実施し保険適用後も院内検査し対応している。次に、ワルファリンの用量に関与するCYP2C9、VKORC1遺伝子多型について、算出した維持量の有用性に関する臨床研究を循環器内科、理化学研究所、明治薬科大学と共同で開始した。これらのオーダーメイド医療が臨床の場で実現されていくには、倫理的・法的・社会的問題（Ethical, Legal and Social Issues）への対応を同時に検討することが求められる。文部科学省の「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」第2期でのELSI研究において、日本医科大学が医学部としては唯一参画し引き続き研究を進めている。ゲノム先端医療部は、これらの進歩に迅速に対応し、日本における先端医療の臨床応用への橋渡しを推進していく部署として発展していきたい。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学))：「オーダーメイド遺伝子医療の現状・課題と展望」医療の現場では 問題提起 オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2009；30 (2).

著書

- 1) 渡邊 淳^{1,2)} (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 付属病院遺伝診療科)：〔翻訳〕第3章 ヒトゲノム：遺伝子の構造と機能. トンプソン&トンプソン遺伝医学 (福嶋義光), 2009；pp27-43, MEDSI.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学))：1) 医療の現場では 問題提起 オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題 シンポジウム 「オーダーメイド遺伝子医療の現状・課題と展望」. 第33回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (兵庫医科大学 (兵庫県)), 2009. 7.
- 2) 島田 隆¹⁾, 渡邊 淳¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学))：ゲノム情報を医療現場で適切に利用するための課題：オーダーメイド医療 (個別化医療) をいかに実現するか?. ゲノム創薬フォーラム (東京), 2009. 7.
- 3) 渡邊 淳, 島田 隆：薬物治療において遺伝情報を適切に利用するための課題：今, 臨床の現場で起こりつつあること. 日本緩和医療薬学会第3回年会 (横浜), 2009. 10.
- 4) 渡邊 淳：大会企画 (委) シンポジウムⅤ 薬・遺伝・倫理：重なり合う未来にD5-1薬理遺伝学検査：研究から臨床へ・今, 臨床の現場で起こりつつあること. 第21回日本生命倫理学会年次大会 (横浜), 2009. 11.
- 5) 渡邊 淳：薬物治療において遺伝情報を適切に利用するための課題：今, 臨床の現場で起こりつつあること. 日本薬学会130年会 (岡山), 2010. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学))：オーダーメイド医療で遺伝情報を適切に利用するための課題：日本医科大学付属病院での経験から. 第16回日本遺伝子診療学会大会 (札幌), 2009. 7.
- 2) 渡邊 淳¹⁾, 南 史朗²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 老人病研究所)：大学病院内においてオーダーメイド医療に関する遺伝情報を適切に利用するための課題. 日本人類遺伝学会 第54回大会 (東京), 2009. 9.
- 3) 渡邊 淳¹⁾, 南 史朗²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), ²⁾ 老人病研究所)：大学病院内においてオーダーメイド医療に関する遺伝情報を適切に利用するための課題. 第9回日本臨床遺伝研究会 (東京), 2009. 9.

[付属病院総合診療センター]

研究概要

日本医科大学付属病院総合診療センターは、従来の一般的な総合診療とは異なる独自の新しい観点から、大学病院ならではの高い専門性を持って最善の総合的かつ全人的医療を行うこと、ならびにこれを担う人材を育成することを大きな目標にしております。現在、総合診療センター内に「総合診療科」と「救急診療科」の2つの診療科を併設し、常勤医師8名が相互に連携しながら診療を進める体制を構築しております。

「総合診療科」では、特定の診療科への紹介状を持たない外来受診新患者を主な対象として、それぞれ専門医資格を有する中堅ないしベテラン内科系医師が診療を担当します。

「救急診療科」では、救急医療専門医が常駐し、主として内科系・外科系の1次および2次救急患者の初期診療を担当します。それぞれ必要に応じて適切な専門診療科への院内紹介を行うほか、近隣の医療機関とも緊密な病診連携を取りスムーズな診療の継続を目指しております。また付属病院救命救急センター (CCM)、心疾患集中治療室 (CCU)、脳血管疾患集中治療室 (SCU) と連携して、重症度の高い患者にも早期に的確な治療が行えるよう対応しています。早い段階から専門診療を必要とする場合には、当該領域の専門医が適宜に総合診療センターにおける診療に参加し、的確な総合診療・初期診療が行える院内高度連携システムが構築されつつあります。また、BSLなど高学年の医学生に対する臨床教育、研修医の初期臨床研修、あるいは長期休職者の復職支援さらには開業の先生方の生涯教育などを担う総合的な臨床研修・臨床教育の場としても位置付けられています。

今後は、大学病院の総合診療センターとしての特徴を生かし、さまざまな複合病態や臓器連関など、単独の専門診療科では取り組むことの難しい病態に関する臨床研究など、研究面への積極的な展開も目指しております。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsumoto S, Hirayama Y, Saitoh H, Ino T, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yasutake M, Seino Y, Atarashi H, Katoh T, Mizuno K : Noninvasive diagnosis of cardiac sarcoidosis using microvolt T-wave alternans. *Int' l Heart J* 2009 ; 50 (6) : 731-739.
- 2) Murata H, Ohara T, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K : Detection of arrhythmogenic substrates in prior myocardial infarction patients with complete right bundle branch block QRS using wavelet-transformed ECG. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (6) : 291-299.
- 3) Morita N, Kobayashi Y, Horie T, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Atarashi H, Katoh T, Mizuno K : The undetermined geometrical factors contributing to the transverse conduction block of the crista terminalis. *Pacing Clin Electrocardiol* 2009 ; 32 (7) : 868-878.
- 4) Okazaki R, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Hirayama T, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K, Sekiguchi A, Yamashita T : Lipopolysaccharide induces atrial arrhythmogenesis via down-regulation of L-type Ca²⁺ channel genes in rats. *Int' l Heart J* 2009 ; 50 (3) : 353-363.
- 5) Hirasawa Y, Nakagomi A, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Short-term amiodarone treatment attenuates the production of monocyte cytokines and chemokines by C-reactive protein and improves cardiac function in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy and ventricular tachycardia. *Circ J* 2009 ; 73 (4) : 639-646.
- 6) Ogawa S, Yamashita T, Yamazaki T, Aizawa Y, Atarashi H, Inoue H, Ohe T, Otsu H, Okumura K, Katoh T, Kamakura S, Kumagai K, Kurachi Y, Kodama I, Koretsune Y, et al. : Optimal treatment strategy for patients with paroxysmal atrial fibrillation. J-RHYTHM study. *Circ J* 2009 ; 73 (2) : 242-248.
- 7) Hirayama Y, Atarashi H, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Ohara T, Yashima M, Katoh T, Mizuno K : Long-term effects of upstream therapy on paroxysmal atrial fibrillation in patients without overt heart diseases. *Int' l Heart J* 2009 ; 50 (2) : 141-151.
- 8) Yamashita T, Ogawa S, Sato T, Aizawa Y, Atarashi H, Fujiki A, Inoue H, Itoh M, Katoh T, Kobayashi Y, Koretsune Y, Kumagai K, Niwano S, Okazaki O, Okumura K, et al. : Dose-response effects of bepridil in patients with persistent atrial fibrillation monitored with transtelephonic electrocardiograms : a multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind study (J-BAF study). *Circ J* 2009 ;

73 (6) : 1020-1027.

- 9) Shiga T, Tanaka K, Katoh R, Amino M, Matsudo Y, Honda T, Sagara K, Takahashi A, Katoh T, Urashima M, Ogawa S, Takano T, Kasanuki H ⁽¹⁾ Tokyo Womens Medical College) : Nifekalant versus lidocaine for in-hospital shock-resistant ventricular fibrillation or tachycardia. Resuscitation 2010 ; 81 (1) : 47-52.
 - 10) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎玲子, 山本哲平, 松本綾乃, 林 洋史, 小原俊彦, 加藤貴雄, 水野杏一: 心内膜側ならびに術中心外膜側マッピング下アブレーションにより根治し得た経皮的中心隔心筋焼灼術後心室頻拍の1例. 心臓 2009 ; 41 (suppl 4) : 173-179.
 - 11) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 加藤貴雄, 中溝宗永, 小野真史, 石川 源, 森本泰介, 大野忠明, 高岡雅子, 竹原典子, 田尻 孝: 臨床実習前準備教育におけるシミュレーターを使用した効率的な臨床技能教育. 医学教育 2009 ; 40 : 185-189.
 - 12) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎玲子, 山本哲平, 松本綾乃, 加藤貴雄, 水野杏一, 平澤泰宏, 堀江 格, 新 博次: Electro-anatomical mappingにより走行を詳細に検討しえた左側Atrio-ventricular Mahaim束の1例. 臨床心臓電気生理 2009 ; 32 : 141-149.
 - 13) 大坂元久, 村田広茂, 加藤貴雄, 不破本義孝, 酒井一泰, 難波晋治: 自動車ステアリングからの無拘束心電図記録の心拍変動解析への応用. 心電図 2009 ; 29 (suppl 1) : S-1-29.
 - 14) 奥村 謙, 安部治彦, 小川 聡, 笠貫 宏, 鎌倉史郎, 住友直方, 新田 隆, 野島俊雄, 堀江正知, 松崎益徳, 山口 巖, 大江 透, 加藤貴雄, 田邊晃久: ペースメーカ, ICD, CRTを受けた患者の社会復帰・就学・就労に関するガイドライン. Circ J 2009 ; 72 (suppl 4) : 1133-1192.
- (2) 総説 :
- 1) Katoh T : Clinical background and evaluation of drug-induced prolongation of QT interval. J Arrhythmia 2009 ; 25 (2) : 56-62.
 - 2) 加藤貴雄, 小川 聡: ガイドラインを実地診療に生かす. Web版実践的抗不整脈薬選択ツールの開発. 治療学 2009 ; 43 : 73-75.
 - 3) 加藤貴雄: 薬物性QT延長症候群の患者背景. 医薬品開発および臨床試験における留意点. 日本薬理学会雑誌 2009 ; 133 : 19-21.
 - 4) 八島正明, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 水野杏一: 心室細動中に認められたSpiral Wave. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (2) : 74.
 - 5) 加藤貴雄: ドネベジルの使い方と留意すべき点. 循環器との関連を踏まえてどう治療を継続するか. クリニシアン 2009 ; 577 (2) : 107-112.
 - 6) 加藤貴雄: 心房細動の心電図所見. 診断と治療 2009 ; 97 : 950-958.
 - 7) 林 明聡, 加藤貴雄: 致死性不整脈に対する抗不整脈薬選択. 循環器科 2009 ; 65 : 490-495.
 - 8) 加藤貴雄: 日本医科大学付属病院に新設された総合診療センターの紹介. 日医大医学会誌 2009 ; 5 (3) : 1-2.
 - 9) 加藤貴雄, 小川 聡: 実践的抗不整脈薬選択ツールの開発. 不整脈News & Views 2009 ; 27 : 14-15.
 - 10) 加藤貴雄: 静注用III群抗不整脈薬の使い方を知る. 内科 2009 ; 102 : 508-512.
 - 11) 加藤貴雄: 佐々木論文に対するEditorial Comment. 心臓 2009 ; 40 : 298-299.
 - 12) 八島正明, 加藤貴雄: 心房細動を発見する手がかりと次の一手. 内科 2009 ; 101 : 430-434.
 - 13) 渡部良夫, 加藤貴雄: 房室結節をめぐって. 渡部良夫先生に聞く. 心臓 2009 ; 39 : 925-936.
 - 14) 村田広茂, 加藤貴雄: 心電図, 負荷心電図, 加算平均心電図. 臨床検査 2009 ; 51 : 697-702.
 - 15) 加藤貴雄: 薬剤性QT延長症候群. 心臓 2009 ; 38 : 1-3.
 - 16) 加藤貴雄: 日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview). 心電図 2009 ; 29 : 3-9.
 - 17) 平山悦之, 加藤貴雄: 心房細動に対するリズムコントロールとレートコントロールの選択基準は. 循環器科

2009 ; 64 : 143-147.

- 18) 加藤貴雄：日本人におけるアミオダロン静注薬の有効性・安全性：国内第II相臨床試験成績を中心に．Prog Med 2009 ; 28 (suppl 1) : 671-673.
- 19) 加藤貴雄：アミオダロン．ICUとCCU 2010 ; 34 (2) : 165-171.

著 書

- 1) 加藤貴雄：〔自著〕不整脈が気になるときに読む本，2009 ; 小学館.
- 2) 顧 菊康，小沢友紀雄，肖 実，加藤貴雄，王 紅宇：〔共著〕Far-Distance Monitoring Electrical Cardiology (心電遠隔監視学) (顧菊康，小沢友紀雄，肖実，加藤貴雄，王紅宇)，2009 ; 人民軍医出版社 (北京).
- 3) 加藤貴雄：〔分担〕診断・検査の進め方．新しい診断と治療のABC 心房細動 (笠貫宏)，2009 ; pp82-91, 最新医学社.
- 4) 加藤貴雄：〔分担〕心電図．内科学書．Vol. 3循環器疾患，腎・尿路疾患 (小川聡)，2009 ; pp18-25, 中山書店.
- 5) 加藤貴雄：〔分担〕頻脈性不整脈．内科エマージェンシー：病態生理の理解と診療の基本 (黒川顕)，2009 ; pp1208-1215, へるす出版.
- 6) 加藤貴雄：〔分担〕薬物治療 (頻脈と徐脈)．新しい診断と治療のABC 心臓突然死 (相澤義房)，2009 ; pp201-211, 最新医学社.
- 7) 堀江 稔，奥村 謙，笠貫 宏，加藤貴雄，神谷香一郎，木村正臣，児玉逸雄，犀川哲典，志賀 剛，杉 薫，高橋尚彦，中尾巧二郎，中谷晴昭，矢野捷介：〔分担〕心室頻拍．重篤副作用疾患別対応マニュアル第3集 (日本循環器学会マニュアル作成委員会)，2009 ; pp285-301, 日本医薬情報センター.
- 8) 小原俊彦，加藤貴雄：〔分担〕洞不全症候群．心臓リズムマネージメントを究める (奥村謙)，2009 ; pp34-39, メジカルビュー社.
- 9) 加藤貴雄：〔分担〕日本におけるリドカインと静注III群薬の臨床試験成績 (overview)．リドカイン，ニフェカラン，アミオダロン静注薬の使い方－重症心室不整脈への対策 (大江透，萩原誠久，小野克重，平岡昌和)，2009 ; pp29-39, ライフメディコム.
- 10) 加藤貴雄：〔分担〕Holter心電図．循環器研修ノート (永井良三)，2010 ; pp100-103, 診断と治療社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Katoh T, Ueno A : Clinical implication of synthesized 18-lead electrocardiogram. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (Yokohama), 2009. 6.
- 2) 加藤貴雄：伝送式イベントレコーダー・カルジオフォンのJ-RHYTHMII試験における認容性．第6回心電図伝送システム研究会，2009. 2.
- 3) 加藤貴雄：QT延長の臨床的意義と計測における問題点．医薬品開発におけるQT評価セミナー，2009. 2.
- 4) 加藤貴雄：大学病院における総合診療の意義と役割．第10回日本医科大学医療連携推進会，2009. 2.
- 5) 加藤貴雄：ホルター心電図，家庭用心電図，イベントレコーダーの基本と臨床．第26回日本心電学会・第24回日本不整脈学会合同学術集会，2009. 7.
- 6) 加藤貴雄：心房細動治療におけるアミオダロンの位置付け．第26回日本心電学会・第24回日本不整脈学会合同学術集会，2009. 9.
- 7) 加藤貴雄：最新ガイドラインに基づく心房細動薬物治療．アミオダロンの位置付け．比企医師会学術講演会，2009. 11.
- 8) 加藤貴雄：心電図異常と突然死：続編．足立区学校医会特別講演会，2009. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 加藤貴雄：不整脈心電図の診かた．第29回日本ホルター・ノンインバイシブ心電学研究会，2009．6．
- 2) 加藤貴雄：重症不整脈治療における静注抗不整脈薬の位置付け．第36回「不整脈の診断と治療」渡部セミナー，2009．8．
- 3) 加藤貴雄：ホルター心電図，家庭用心電図，イベントレコーダーの基本と臨床．第10回日本心電学会心電図判読セミナー，2009．10．

(3) シンポジウム：

- 1) 宮内靖史，岩崎雄樹，平澤泰宏，村田広茂，山本哲平，松本綾乃，加藤貴雄，水野杏一：electrical stormにおけるアミオダロンの寄与．第14回アミオダロン研究会，2009．9．
- 2) 大坂元久，加藤貴雄：心拍変動と突然死．第36回比較心電図研究会，2009．9．
- 3) 淀川顕司，小原俊彦，村田広茂，高山英男，加藤貴雄，水野杏一：陳旧性心筋梗塞における重症心室性不整脈のリスク評価．ウェーブレット解析を用いた検討（微小電位研究の新たな展開）．第20回体表心臓微小電位研究会，2010．2．

(4) 一般講演：

- 1) Katoh T, Ohara T, Murata H, Yamamoto T, Mizuno K, Nagata S : Evaluation of QT/QTc dynamics during sudden postural change using novel noise reduction ECG. The 17th Asian Pacific Congress of Cardiology (Kyoto), 2009. 5.
- 2) Ono T, Yana K, Itakura S, Kobayashi Y, Homma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K : Can new descriptors of ventricular repolarization as T-wave vector alternans detect highly arrhythmic risk patients with heart disease. The 17th Asian Pacific Congress of Cardiology (Kyoto), 2009. 5.
- 3) Itakura S, Ono T, Kobayashi Y, Homma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K : Caffeine could worsen the orthostatic tolerance during head-up tilt test. The 17th Asian Pacific Congress of Cardiology (Kyoto), 2009. 5.
- 4) Saito T, Katoh T, Matsuno N, Uchida N, Wake A, Taniguchi S, Mizuno K : Predictors of pericardial effusion as acute graft-versus-host disease of cord blood transplantation. The 17th Asian Pacific Congress of Cardiology (Kyoto), 2009. 5.
- 5) Itakura S, Ono T, Yana K, Shichiku H, Ono, I, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K : The characteristics of variance rate and amplitude variance as to T-wave morphology variability analysis in the highly arrhythmic patients assessed by T-wave vector alternans. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (Yokohama), 2009. 6.
- 6) Ono T, Yana K, Shichiku H, Itakura S, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K, Katoh T, Mizuno K : Usfulness of T-wave vector alternans as new description of detecting the ventricular repolarisation abnormality. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (Yokohama), 2009. 6.
- 7) Ohara T, Murata H, Maruyama M, Yashima M, Hirayama Y, Katoh T, Mizuno K : Focal role of the atrium to maintain atrial fibrillation detected by time-frequency analysis. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (Yokohama), 2009. 6.
- 8) Osaka M, Watanabe E, Murata H, Fuwamoto Y, Nanba S, Sakai K, Katoh T : V-figure change of autonomic nervous activity was observed as a possible precursor of sudden cardiac death in heart rate variability analysis of thirty-three Holter recordings. 13th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (Yokohama), 2009. 6.

21. 武蔵小杉病院付置施設等

[武蔵小杉病院消化器病センター]

研究概要

消化器病センターは消化器外科医、内科医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っている。研究概要としては、消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めている。

【悪性疾患】

1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）
2. 胃癌，大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的研究・臨床病理学的研究
3. 肝細胞癌，膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）
4. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法の確立
5. 進行膵・胆道癌に対する，血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求
6. 肝臓癌に対する集学的治療
7. 消化器癌に対する低侵襲手術（腹腔鏡補助下胃切除術，腹腔鏡補助下大腸切除術，胸腔鏡補助下食道切除術）の技術改良と標準化
8. 早期癌に対する内視鏡治療（EMR・ESD）
9. IVRを応用した消化管，胆道，血管内ステント治療
10. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD，内視鏡的ステント）

【緊急疾患】

1. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療，臨床的研究
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究
4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求

【良性疾患】

1. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究
2. 胆道結石に対する内視鏡的治療（EST+EPBD）・腹腔鏡手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管載石術）の技術改良と標準化
3. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎研究

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 小泉正樹，前島顕太郎，尾崎卓司，吉野雅則，尾形昌男，徳永 昭，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学第一外科）：下部消化管出血に対する緊急大腸内視鏡検査の検討：早期の検査は必要か？．日本腹部救急医学会雑誌 2009；29（3）：441-446.

追加分症例報告：

- 1) Mizutani S¹⁾，Shioya T¹⁾，Maejima K¹⁾，Komine O¹⁾，Yoshino M¹⁾，Hoshino A¹⁾，Ogata M¹⁾，Watanabe M¹⁾，Kunio Y²⁾，Shibuya T³⁾，Tokunaga A¹⁾，Tajiri T⁴⁾（¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical

School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ³⁾ Department of Surgery, Omiya Medical Association Hospital, ⁴⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Two successful curative operations using stomach-preserving distal pancreatectomy with celiac axis resection for the treatment of locally advanced pancreatic body cancer. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery* 2009 ; 16 (2) : 229-233.

(1) 原著 :

- 1) Mizutani S¹⁾, Miyato Y¹⁾, Shidara Y¹⁾, Asoh S¹⁾, Tokunaga A²⁾, Tajiri T³⁾, Ohta S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate of School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ³⁾ Department of Surgery Nippon Medical School) : Mutations in the mitochondrial genome confer resistance of cancer cells to anti-cancer drugs. *Cancer Science* 2009 ; 100 (9) : 1680-1687.
- 2) 小泉正樹, 尾形昌男, 吉野雅則, 山岸征嗣, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 第一外科) : 大腸切除術後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. *Progress of Digestive Endoscopy* 2009 ; 75 (2) : 52-53.

(2) 症例報告 :

- 1) Mizutani S¹⁾, Nakamura Y²⁾, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : A case of giant mucinous cystic neoplasm of the pancreas resected by complete laparoscopic surgery. *Journal of Nippon Medical School* 2009 ; 76 (4) : 212-216.
- 2) 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 青笹秀文²⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 柳本邦雄³⁾, 徳永 昭, 田尻 孝⁴⁾ (¹⁾ さいたま市民医療センター外科, ²⁾ 社会保険大宮総合病院外科, ³⁾ さいたま市民医療センター病理, ⁴⁾ 日本医科大学第一外科) : Kugel法による鼠径ヘルニア術後に大腸穿通を来した盲腸憩室炎の1例. *日本消化器外科学会* 2010 ; 43 (1) : 90-94.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安部 仁¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 佐藤弘晃¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 坂本裕彦¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 食道癌の病期分類におけるリンパ節転移区分の問題点 (食道癌診断・治療ガイドラインをめぐる諸問題). *日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜)*, 2009. 6.
- 2) 川島吉之¹⁾, 佐藤弘晃¹⁾, 山崎穂高¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 横山康行¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 松信哲朗^{1,3)}, 川原林伸昭¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 黒住昌史²⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 病理科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : Barrett 食道癌の治療 バレット粘膜を伴う食道腺癌 12例の診断と治療. *日本臨床外科学会 (第71回) (京都)*, 2009. 11.
- 3) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 山田岳史²⁾, 千原直人, 坊 英樹, 渡辺昌則, 古川清憲²⁾, 鈴木英之, 内田英二¹⁾ (¹⁾ 付属病院 消化器外科, ²⁾ 千葉北総病院 外科) : 胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. *制癌剤適応研究会 (第43回) (仙台)*, 2010. 3.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 下部直腸肛門管癌に対する括約筋間切除による肛

門括約筋温存術後の遠隔成績（下部直腸癌に対する括約筋切除術の治療成績）. 日本大腸肛門病学会（第64回）（福岡），2009. 11.

(3) ワークショップ：

- 1) 水谷 聡¹⁾，太田成男²⁾，前島顕太郎¹⁾，千原直人¹⁾，吉野雅則¹⁾，小峯 修¹⁾，星野有哉¹⁾，尾形昌男¹⁾，渡辺昌則¹⁾，徳永 昭¹⁾，内田英二³⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学老人病研究所，³⁾ 日本医科大学外科）：膵臓癌由来のミトコンドリアDNA変異は抗癌剤耐性を示す. 日本消化器癌発生学会（第20回）（広島），2009. 11.
- 2) 前島顕太郎，徳永 昭，木山輝郎¹⁾，菅野仁士¹⁾，山田岳史²⁾，千原直人，坊 英樹，渡辺昌則，古川清憲²⁾，内田英二¹⁾（¹⁾ 付属病院 消化器外科，²⁾ 千葉北総病院 外科）：胃癌補助化学療法におけるS-1感受性試験の有用性. 日本消化器癌発生学会総会（第20回）（広島），2009. 11.
- 3) 前島顕太郎，徳永 昭，木山輝郎¹⁾，菅野仁士¹⁾，山田岳史²⁾，千原直人，坊 英樹，渡辺昌則，古川清憲²⁾，鈴木英之，内田英二¹⁾（¹⁾ 付属病院 消化器外科，²⁾ 千葉北総病院 外科）：胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験. 日本胃癌学会総会（第82回）（新潟），2010. 3.

(4) 一般講演：

- 1) Ogata M¹⁾，Yoshino M¹⁾，Kondo K¹⁾：A Case of Bile Duct Cystadenocarcinoma. World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (WFUMB) (Australia)，2009. 8.
- 2) 近藤恭司，尾形昌男，吉野雅則，松信哲朗，小峯 修，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科）：Difficult Diagnosis of a Giant Myxoid Nodule that Probably Originated from Maldeveloped Renal Tissue. World Congress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (12th) (Sydney)，2009. 8.
- 3) Yoshino M，Ogata M，Kondo K，Komine O，Mizutani S，Watanabe M，Tokunaga A：Cases of Giant Cystic Lymphangioma of the Abdomen. 12th World Congress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (Sydney, Australia)，2009. 9.
- 4) 松信哲朗¹⁾，山浦忠能¹⁾，安部 仁¹⁾，川島吉之¹⁾，坂本裕彦¹⁾，有馬美和子²⁾，出雲俊之³⁾，黒住昌史³⁾，田中洋一¹⁾（¹⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科，²⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器内科，³⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器病理科）：腺癌と扁平上皮癌がBarrett粘膜に連続して発生した食道多発癌の1例. 外科集談会（第813回）（東京），2009. 6.
- 5) 前島顕太郎，徳永 昭，木山輝郎¹⁾，菅野仁士¹⁾，山田岳史²⁾，杠葉 良，千原直人，小峯 修，坊 英樹，栗原雄司，尾形昌男，渡辺昌則，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 付属病院 消化器外科，²⁾ 千葉北総病院 外科）：S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験-第4報. 日本外科学会定期学術集会（第109回）（福岡），2009. 4.
- 6) 豊田哲鎬¹⁾，坊 英樹¹⁾，前島顕太郎¹⁾，小峯 修¹⁾，渡辺昌則¹⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 日本医科大学外科）：吐血を主訴として発見された胃潰瘍併存胃癌の1例. 日本外科学会定期学術集会（第109回）（福岡），2009. 4.
- 7) 渡辺昌則，小峯 修，小泉正樹，塙 秀暁，前島顕太郎，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，徳永 昭，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科）：当科における下部消化管手術のSSI危険因子. 日本外科学会定期学術集会（第109回）（福岡），2009. 4.
- 8) 吉野雅則，石渡俊行¹⁾，松信哲朗，小峯 修，水谷 聡，尾形昌男，渡辺昌則，内藤善哉¹⁾，徳永 昭，田尻 孝²⁾（¹⁾ 日本医科大学統御機構病理学，²⁾ 日本医科大学臓器病体制御外科学）：消化管癌におけるkeratinocyte growth factor receptor (KGFR) の発現と局在の意義. 日本外科学会定期学術集会（第109回）（福岡），2009. 4.
- 9) 坊 英樹，山岸征嗣，野村 聡，豊田哲鎬，小泉正樹，小峯 修，吉野雅則，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，

- 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学 外科)：消化器癌手術における手術部位感染防止に対する腹壁縫合の影響について。日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 10) 野村 聡, 豊田哲鎬, 山岸征嗣, 小峯 修, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝：急性虫垂炎病理組織学的所見と血清ビリルビン値の検討。日本外科学会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 11) 千原直人, 徳永 昭, 杠葉 良, 水谷 聡, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 日本医科大学病院臓器病態制御外科, ²⁾ 同老人病研究所生化学部門)：大腸癌のFOLFOX感受性；細胞株cybridの作製によるミトコンドリアDNA体細胞変異の検討。日本外科学会定期学術集会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 12) 星野有哉¹⁾, 中村慶春²⁾, 塩谷 猛^{1,3)}, 水谷 聡¹⁾, 渋谷哲男³⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院外科, ³⁾ 大宮医師会市民病院外科)：十二指腸乳頭部腫瘍の検討。日本肝胆膵外科学会 (第21回) (名古屋), 2009. 5.
- 13) 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 塩谷 猛²⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, その他2名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ さいたま市民医療センター外科, ³⁾ 日本医大外科)：同一術者おける膵管空腸粘膜吻合と膵管チューブ挿入法の成績比較。日本肝胆膵外科学会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 14) 小峯 修, 渡辺昌則, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学 第一外科)：狭窄・瘻孔を伴う切除不能食道癌に対する胃瘻造設術の有用性の検討。日本食道学会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 15) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 山田岳史²⁾, 千原直人, 坊 英樹, 渡辺昌則, 古川清憲²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科, ²⁾ 千葉北総病院 外科)：TS-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験。日本癌病態治療研究会 (第18回) (福島), 2009. 6.
- 16) 三浦克洋¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 山岸征嗣¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 千原直人¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学外科)：大腸憩室出血に対する緊急内視鏡止血の意義。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京都千代田区), 2009. 6.
- 17) 坂本裕彦¹⁾, 網倉克己¹⁾, 田中洋一¹⁾, 川島宣之¹⁾, 安部 仁¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 佐藤弘晃¹⁾, 川原林伸昭¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：胃癌同時性肝転移症例の治療方針について 肝切除例からの検討。日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 18) 川原林伸昭¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 安部 仁¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 松信哲朗^{1,3)}, 佐藤弘晃¹⁾, 黒住昌史²⁾, 西田一典²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 病理科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：再発肝内胆管癌に対し、再切除後2年4ヵ月無再発生存した症例。日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 19) 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 佐藤弘晃¹⁾, 松信哲朗^{1,4)}, 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 有馬美和子²⁾, 黒住昌史³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器内科, ³⁾ 埼玉県立がんセンター 病理科, ⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：超高齢者 (80歳以上) 食道癌に対する右開胸手術。日本食道学会学術集会 (第63回) (横浜), 2009. 6.
- 20) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 日本医科大学 第一外科)：切除した胆管嚢胞腺癌の1例。日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 21) 近藤恭司, 千原直人, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科)：出血性胃十二指腸潰瘍の治療・背景。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 22) 近藤恭司, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 内田英二¹⁾

- (¹) 日本医科大学外科)：認知症合併消化器癌患者に対する外科治療。日本癌病態治療研究会 (第18回) (福島), 2009. 6.
- 23) 南部弘太郎¹，塩谷 猛¹，渡邊善正¹，野村 聡¹，山田太郎¹，渋谷哲男¹ (¹) さいたま市民医療センター外科)：絞扼性イレウスと鑑別が困難であった98歳胆嚢捻転症の1例。日本肝胆膵外科学会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 24) 塩谷 猛¹，渋谷哲男¹，野村 聡¹，南部弘太郎¹，渡邊善正¹，山田太郎¹，星野有哉，水谷 聡，徳永昭，田尻 孝 (¹) さいたま市民医療センター)：高齢者急性胆嚢炎の治療変遷。日本肝胆膵外科学会 (第21回) (名古屋), 2009. 6.
- 25) 小泉正樹，尾形昌男，吉野雅則，三浦克洋，山岸征嗣，徳永 昭，田尻 孝¹ (¹) 日本医科大学第一外科)：当科における大腸切除後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討。日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 26) 水谷 聡¹，中村慶春²，前島顕太郎¹，千原直人¹，小峯 修¹，吉野雅則¹，星野有哉¹，尾形昌男¹，渡辺昌則¹，徳永 昭¹，田尻 孝² (¹) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，²) 日本医科大学外科)：腹腔鏡下に切除し得た巨大MCNの1例。日本消化器病学会関東地方会 (第305回) (宇都宮), 2009. 7.
- 27) 小峯 修，渡辺昌則，前島顕太郎，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，星野有哉，尾形昌男，徳永 昭，田尻孝¹ (¹) 日本医科大学 第一外科)：当科における食道癌に対するDocetaxel (TXT) +CDDP+5-FU併用療法 (DCF療法) の治療経験。日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 28) 前島顕太郎，坊 英樹，小峯 修，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭)：当科における腹腔鏡下胃切除術の現状。神奈川県消化器外科研究会 (第38回) (神奈川), 2009. 7.
- 29) 前島顕太郎，山岸征嗣，小峯 修，坊 英樹，渡辺昌則，徳永 昭，内田英二¹ (¹) 付属病院 消化器外科)：高齢者 (70歳以上) 胃癌手術症例の検討。神奈川県胃癌治療研究会 (第36回) (神奈川), 2009. 7.
- 30) 前島顕太郎，徳永 昭，木山輝郎¹，菅野仁士¹，山田岳史²，千原直人，坊 英樹，渡辺昌則，古川清憲²，田尻 孝¹ (¹) 付属病院 消化器外科，²) 千葉北総病院 外科)：S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性に関する臨床試験。日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 31) 渡辺昌則，小峯 修，近藤恭司，前島顕太郎，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，徳永 昭，田尻孝¹ (¹) 日本医科大学外科)：大腸手術におけるSSI危険因子の検討：術者因子を含めて。日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 32) 近藤恭司，小峯 修，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，星野有哉，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，内田英二¹ (¹) 日本医科大学外科)：高齢者認知症合併消化器癌患者に対する外科治療。日本消化器外科学会総会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 33) 塩谷 猛¹，南部弘太郎¹，渡邊善正¹，野村 聡¹，山田太郎¹，渋谷哲男¹，徳永 昭，田尻 孝 (¹) さいたま市民医療センター)：第XIII因子，ソマトスタチン製剤とスキンケアにより閉鎖したイレウス術後小腸皮膚瘻の1例。日本消化器外科学会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 34) 野村 聡¹，塩谷 猛¹，渡邊善正¹，南部弘太郎¹，山田太郎¹，渋谷哲男¹，徳永 昭，田尻 孝 (¹) さいたま市民医療センター)：S状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻の1例。日本消化器外科学会 (第64回) (大阪), 2009. 7.
- 35) 越智友洋，吉野雅則，尾形昌男，水谷 聡，星野有哉，大須賀勝，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹ (¹) 日本医科大学第一外科)：診断に難渋した胆管嚢胞腺癌の1例。日本消化器病学会関東支部会 (第305回) (栃木), 2009. 7.
- 36) 南部弘太郎¹，渋谷哲男¹，塩谷 猛¹，渡邊善正¹，野村 聡¹ (¹) さいたま市民医療センター)：UFT/ユーゼル療法で18ヵ月間生存している非切除腹膜播種大腸印環細胞癌の1例。日本大腸肛門病学会 (第64回) (福岡), 2009. 9.

- 37) 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (さいたま市民医療センター) : Bevacizumab-FOLFOX4が奏功し切除可能となった局所進行大腸癌の1例. 日本大腸肛門病学会 (第64回) (福岡), 2009. 9.
- 38) 水谷 聡¹⁾, 太田成男²⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学老人病研究所, 3) 日本医科大学外科) : 膵臓癌ミトコンドリアDNA体細胞変異による抗癌剤耐性獲得の分子生物学的検討. 日本癌学会 (第68回) (横浜), 2009. 10.
- 39) 前島顕太郎, 坊 英樹, 小峯 修, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科) : 当科における腹腔鏡下胃切除術の現状. 胃外科・術後障害研究会 (第39回) (仙台), 2009. 10.
- 40) 南部弘太郎¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (1) さいたま市民医療センター) : 絞扼性イレウスを発症した横行結腸間膜裂孔ヘルニアの1例. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 10.
- 41) 渡邊善正¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 野村 聡¹⁾, 山田太郎¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 内間久隆¹⁾, 谷澤 徹²⁾ (1) さいたま市民医療センター, 2) 東京医科歯科大学) : 吐血により緊急手術を施行した早期胃癌を合併する膵体部腺扁平上皮癌胃浸潤の1例. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 10.
- 42) 水谷 聡¹⁾, 太田成男²⁾, 山岸征嗣¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学老人病研究所, 3) 日本医科大学外科) : 膵臓癌ミトコンドリアDNA体細胞変異による抗癌剤耐性獲得の分子生物学的検討. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 43) 前島顕太郎, 山岸征嗣, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永昭, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科) : 高齢者 (70歳以上) 胃癌手術症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 44) 松信哲朗^{1,3)}, 坂本裕彦¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川原林伸昭¹⁾, 横山康行¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 西村ゆう²⁾, 出雲俊行²⁾, 西田一典²⁾, 黒住昌史²⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター 病理科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 原発巣切除後14年目と17年目に肝転移をきたしたGISTの2手術例. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 45) 八岡利昌¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 佐藤弘晃¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 大腸癌における個別化医療と大腸外科医が行う化学療法のあり方. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 46) 坂本裕彦¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川原林伸昭¹⁾, 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 佐藤弘晃¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 山崎穂高¹⁾, 横山康行¹⁾, 岡 大嗣¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 肝門部胆管癌手術における血行再建の有効性の検討. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 47) 岡 大嗣, 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 佐藤弘晃¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 川原林伸昭¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 頭頸部癌を重複した食道癌症例. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 48) 川原林伸昭¹⁾, 網倉克己¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 山形幸徳¹⁾, 山崎穂高¹⁾, 松信哲朗^{1,3)}, 佐藤弘晃¹⁾, 横山康行¹⁾, 岡 大嗣¹⁾, 大庭華子²⁾, 田中洋一¹⁾, 坂本裕彦¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター 病理科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 門脈内 intravascular papillary endothelial hyperplasia (IPEH) を併発した肝細胞癌の1例. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 49) 戸谷裕之¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安部仁¹⁾, 松信哲朗^{1,4)}, 佐藤弘晃¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 山浦忠能¹⁾, 川原林伸昭¹⁾, 八

- 岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 有馬美和子²⁾, 黒住昌史³⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター 消化器内科, 3) 埼玉県立がんセンター 消化器病理科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 診断に難渋した食道悪性黒色腫の1症例. 日本臨床外科学会 (第71回) (京都 (・消化器内科)), 2009. 11.
- 50) 松信哲朗^{1,2)}, 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : 当院における大腸癌StageIVの治療実績. 日本大腸肛門病学会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 51) 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 松信哲朗^{1,2)}, 山浦忠能¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : stage II大腸癌における個別治療. 日本大腸肛門病学会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 52) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 尾碕卓司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二²⁾, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院センター, 2) 日本医科大学外科) : 腹腔鏡下大腸癌切除中に見つかった回腸悪性リンパ腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (71回) (京都), 2009. 11.
- 53) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 尾碕卓司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之²⁾, 内田英二²⁾, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 高齢者大腸癌患者に対する腹腔鏡下大腸切除術の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 54) 野村 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 内田英二 (1) さいたま市民医療センター) : 虫垂切除症例における術前血清ビリルビン値と SSI発症のリスク. 日本外科感染症学会 (第22回) (山口), 2009. 11.
- 55) 塩谷 猛¹⁾, 野村 聡¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 内田英二 (1) さいたま市民医療センター) : SSI減少における真皮埋没縫合の効果. 日本外科感染症学会 (第22回) (山口), 2009. 11.
- 56) 吉野雅則, 尾形昌男, 小泉正樹, 近藤恭司, 三浦克洋, 前島顕太郎, 星野有哉, 渡辺昌則, 徳永 昭 : 高齢者における分子標的治療薬による大腸癌化学療法. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第64回) (福岡), 2009. 11.
- 57) 千原直人, 徳永 昭, 水谷 聡, 前島顕太郎, 内田英二¹⁾, 太田成男²⁾ (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学老人病研究所生化学部門) : 大腸癌細胞株を用いたCybridの作製とFOLFOX感受性の検討. 日本消化器癌発生学会 (第20回) (広島), 2009. 11.
- 58) 柏原 元¹⁾, 山本一仁¹⁾, 二見良平¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 木内博之¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 北村山公立病院 外科, 2) 日本医科大学外科) : 経過中, 画像上の形態変化を認めた虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 59) 星野有哉¹⁾, 中村慶春³⁾, 水谷 聡¹⁾, 南 史朗²⁾, 内田英二³⁾, 清水一雄⁴⁾, 田尻 孝³⁾, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 老人病研究所 所長, 3) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 4) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) : 当科における腹腔鏡下副腎摘除術の検討. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 60) 八木重記, 水谷 聡, 小泉正樹, 星野有哉, 山岸征嗣, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 第一外科) : 緊急手術を要した後期高齢者ヘルニア嵌頓の2症例. 日本臨床外科学会総会 (第71回) (京都), 2009. 11.
- 61) 松本範子¹⁾, 黄川田信允¹⁾, 大石沙織¹⁾, 木山輝郎²⁾, 宮本正章³⁾, 坂本篤裕⁴⁾, 内田英二²⁾, 徳永 昭 (1) 日本医科大学附属病院 ME部, 2) 日本医科大学第一外科, 3) 日本医科大学再生医療科, 4) 日本医科大学麻酔科) : 難治性潰瘍, 骨髄炎治療の進歩 末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩 特に骨髄血管新生療

- 法（先進医療承認）と高気圧酸素療法の併用療法を中心に．日本高気圧環境・潜水医学会学術総会（第44回）（東京），2009．11．
- 62) 宮本正章¹⁾，高木 元²⁾，高木郁代¹⁾，加藤浩司³⁾，太良修平²⁾，桐木園子²⁾，高野仁司¹⁾，安武正弘²⁾，水野杏一²⁾，水野博司⁴⁾，田畑泰彦⁵⁾，松田範子⁶⁾，黄川田信允⁶⁾，内田英二⁷⁾，徳永 昭，その他1名（¹⁾ 日本医科大学再生医療科，²⁾ 日本医科大学第一内科，³⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室，⁴⁾ 日本医科大学形成外科，⁵⁾ 京都大学再生医科学研究所生体材料学，⁶⁾ 日本医科大学付属病院 ME 部，⁷⁾ 日本医科大学第一外科）：治療抵抗性末梢動脈疾患（PAD）に対する再生医療を応用した先進併用療法 Limb salvage への新しい挑戦．日本高気圧環境・潜水医学会学術総会（第44回）（東京），2009．11．
- 63) 松信哲朗^{1,2)}，八岡利昌¹⁾，西村洋治¹⁾，川原林伸昭¹⁾，坂本裕彦¹⁾，田中洋一¹⁾（¹⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：食道癌，肺癌，大腸癌異時性多発癌の4多重癌における大腸癌に対し腹腔鏡下大腸切除術を施行した1例．日本内視鏡外科学会（第22回）（東京），2009．12．
- 64) 八岡利昌¹⁾，西村洋治¹⁾，松信哲朗^{1,2)}，横山康行¹⁾，川島吉之¹⁾，坂本裕彦¹⁾，田中洋一¹⁾（¹⁾ 埼玉県立がんセンター 消化器外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：当センターにおける大腸癌腹腔鏡手術の治療成績．日本内視鏡外科学会（第22回）（東京），2009．12．
- 65) 渡辺昌則，小峯 修，前島顕太郎，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，徳永 昭，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 日本医科大学外科）：食道癌術後在院死と術後感染症危険因子との関連．日本外科感染症学会総会（第22回）（宇部），2009．12．
- 66) 越智友洋，吉野雅則，小峯 修，小泉正樹，水谷 聡，尾形昌男，渡辺昌則，鈴木英之，徳永 昭，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院外科）：Enteropathy-associated T cell lymphoma の1例．日本消化器内視鏡学会関東地方会（第89回）（東京），2009．12．
- 67) 吉野雅則，三浦克洋，松信哲朗，尾形昌男，小泉正樹，小峯 修，渡辺昌則，鈴木英之，徳永 昭，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学付属病院外科）：Bevacizumab を含む化学療法後に腸管切除，吻合，人工肛門造設術を行った進行再発大腸癌症例の検討．日本創傷治癒学会学術集会（第39回）（東京），2009．12．
- 68) 埜 秀暁¹⁾，渡辺昌則¹⁾，黒田誠司¹⁾，吉野雅則¹⁾，小峯 修¹⁾，坊 英樹¹⁾，徳永 昭¹⁾，内田英二²⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学病院 外科）：たこ焼きによる食道熱傷の1例．日本消化器内視鏡学会関東地方会（第89回）（東京），2009．12．
- 69) 豊田哲鎬¹⁾，有田 淳¹⁾，ヘイムス規予美¹⁾，酒井欣男¹⁾，徳永 昭²⁾（¹⁾ 東戸塚記念病院 外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター）：腸閉塞を契機に発見された小腸癌の1例．神奈川臨床外科学会地方会（第126回）（横浜），2009．12．
- 70) 星野有哉¹⁾，中村慶春²⁾，水谷 聡¹⁾，塩谷 猛³⁾，内田英二²⁾，田尻 孝²⁾，徳永 昭¹⁾（¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター，²⁾ 日本医科大学附属病院 外科，³⁾ さいたま市民医療センター 外科）：当センターで施行した腹腔鏡下臍切除術3例の検討．日本内視鏡外科学会総会（第22回）（東京），2009．12．
- 71) 相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾，中村慶春¹⁾，廣井 信¹⁾，勝野 暁¹⁾，宮本正章²⁾，田畑泰彦³⁾，徳永 昭（¹⁾ 日本医科大学外科，²⁾ 日本医科大学再生医療科，³⁾ 京都大学再生医科学研究所 生体組織工学部門生体材料学分野）：消化器の創傷治癒研究の進歩 臍腸吻合部の創傷治癒機転に対するbFGF 含浸ゼラチンハイドロゲル投与の意義．日本創傷治癒学会（第39回）（東京），2009．12．
- 72) 的場康德¹⁾，赤坂喜清²⁾，徳永 昭，夏越祥次¹⁾（¹⁾ 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科腫瘍制御学，²⁾ 東邦大学 医学部病理学講座）：消化器の創傷治癒研究の進歩 十二指腸潰瘍穿孔治癒メカニズムの解析．日本創傷治癒学会（第39回）（東京），2009．12．
- 73) 黒田誠司，渡辺昌則，坊 英樹，小峯 修，水谷 聡，千原直人，前島顕太郎，埜 秀暁，徳永 昭，内田英二¹⁾（¹⁾ 日本医科大学 第一外科）：逆流性食道炎に伴う食道狭窄の1例．日本消化器内視鏡学会関東地方会（第89回）（東京），2009．12．

- 74) 尾碕卓司, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 第一外科): 消化器内視鏡偶発症に対するトラブルシューティング 大腸内視鏡検査に関連した偶発症 穿孔と対処法. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 75) 前島顕太郎, 山岸征嗣, 千原直人, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 付属病院 消化器外科): 高齢者 (70歳以上) 胃癌手術症例の検討. 日本消化管学会総会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 76) 吉野雅則¹⁾, 吉野雅武¹⁾, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭 (1) 吉野医院): 経鼻内視鏡のスクリーニング検査としての有効性. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 77) 千原直人, 前島顕太郎, 吉野雅則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学病院臓器病態制御外科): ダブルバルーン小腸内視鏡 (DBE) にて診断された小腸濾胞性リンパ腫 (FL) の1例. 日本消化管学会総会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 78) 三浦克洋¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 石井英昭²⁾, 徳永昭¹⁾, 内田英二³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 3) 日本医科大学外科): 当院における進行大腸癌患者のEGFRタンパク発現率, およびKRAS遺伝子変異陽性率の検討. 制癌剤適応研究会 (第43回) (宮城県仙台市), 2010. 3.
- 79) 尾形昌男¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内田英二²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 大腸内視鏡検査による穿孔患者に対して緊急手術-縫合閉鎖-治療後の全大腸内視鏡検査施行の2症例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 80) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 当科における腹腔鏡下胃切除術の現状. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 81) 三島圭介, 坊 英樹, 近藤恭司, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 90歳以上の超高齢者胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第82回) (新潟), 2010. 3.
- 82) 三島圭介, 坊 英樹, 和田由大, 塙 秀暁, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 鶴田宏之¹⁾, 内田英二¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): 重症Fournier症候群の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.
- 83) 和田由大¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 外科手術を要した大腸憩室出血症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第46回) (富山), 2010. 3.

[武蔵小杉病院病理部]

研究概要

外科病理が研究の主体であり, 臨床各科と親密に連絡を取り合い, 臨床各科から提出された生検材料や手術材料を用い, 外科病理学的な研究を行っています. 例えば, 胃癌材料を使用し, ウイルス感染の関係を発現タンパクや細胞増殖, apoptosis や化学治療による癌細胞とapoptosis の関係等々の研究をしています. また稀有な症例については, 免疫組織化学や遺伝子検索を行い分子生物学的見地から研究をしています.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ishii H¹⁾, Ogaki K²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, ²⁾ Department of Urology) : Primitive neuroectodermal tumor of the kidney. Medical Molecular Morphology 2009 ; 42 : 175-179.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 小川ゆかり¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 一色彩子²⁾, 佐藤雅史²⁾, 石井英昭³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ²⁾ 同 放射線科, ³⁾ 同 病理部) : 急速に増悪する肺水腫様陰影を示した甲状腺機能低下症の1例. びまん性肺疾患研究会 (第123回) (大阪), 2009. 4.
- 2) 中村祐司¹⁾, 斉藤良明¹⁾, 松原美幸²⁾, 川本雅司²⁾, 大塚俊司¹⁾, 石井英昭¹⁾, 原田 大²⁾, 内藤善哉³⁾, 土屋眞一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部, ³⁾ 日本医科大学病理学) : Metaplastic carcinomaの1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第50回) (東京), 2009. 6.
- 3) 小川ゆかり¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 一色彩子²⁾, 原田英博¹⁾, 石井英昭³⁾, 福田 悠⁴⁾, 宗像一雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ⁴⁾ 日本医科大学解析人体病理学) : 急速に増悪する肺水腫様陰影を呈したIgG4関連肺疾患の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第185回) (東京), 2009. 7.
- 4) 岡本淳一¹⁾, 日置正文¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 富田剛志¹⁾, 保科淑子¹⁾, 遠藤直哉¹⁾, 織井恒安¹⁾, 天神敏博¹⁾, 石井英昭²⁾, 小泉 潔³⁾, 清水一雄³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ³⁾ 日本医科大学呼吸器外科) : 迷走神経由来神経線維腫の1症例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第151回) (東京), 2009. 11.
- 5) 岡本淳一^{1,2)}, 窪倉浩俊^{1,2)}, 富田剛志¹⁾, 保科淑子¹⁾, 石井英昭³⁾, 小泉 潔²⁾, 日置正文¹⁾, 清水一雄²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科, ²⁾ 日本医科大学呼吸器外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部) : 肺癌術後の10年後に偽上皮腫性肺癌として局所再発をきたした1症例. 日本肺癌学会総会 (第50回) (東京), 2009. 11.
- 6) 土居大祐¹⁾, 斉藤良明²⁾, 大塚俊司²⁾, 佐藤杏月¹⁾, 間瀬有里¹⁾, 松島 隆¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部) : 子宮頸部, 内膜細胞診が契機となり診断されたサルコイドーシスの1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第48回) (福岡), 2009. 11.
- 7) 中村祐司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部) : ポリープ状異型腺筋腫 (Atypical polypoid adenomyosis : APAM) の細胞像の検討. 神奈川県細胞検査士会学術集会 (第14回) (横浜), 2010. 3.

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

平成21年度は、検体検査部門の臨床検査システムと分析機18機種及びこれに付随する周辺機器の更新を行い、11月より新体制へ移行した。年度当初は更新機器の性能評価と効果の活用法の策定が活動の中心であったが、これに伴い、新規機器について幾つかの知見を得ることが出来た。この内、フローサイトメトリー法による尿中有形成分測定については日当直業務での有用性が示唆され、第58回日本医学検査学会で報告を行った。新体制移行後は、より一層の待ち時間短縮と収支改善を目標に、引き続き更新機器の効果の活用法について検証中である。

臨床研究においては、遭遇した特異症例の内、マクロファージ活性化症候群について報告することが出来た。また、昨年度より開始となった特定健診・特定保健指導についても年度毎の状況を解析した。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 因泥弘之, 吉田美和, 小伊藤保雄, 森本 進, 勝部康弘⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室)：特定検診調査報告 (メタボ検診元年 脂質成分を年代別に解析). 日本医学検査学会 (第58回) (横浜), 2009. 7.
- 2) 成定昌昭¹⁾, 加藤理絵¹⁾, 白井一城¹⁾, 中島由美子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 森本 進¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室)：日直・当直業務における尿中有形成分分析装置の活用 (尿路感染症に着目した運用について). 日本医学検査学会 (第58回) (横浜), 2009. 7.
- 3) 白井一城¹⁾, 加藤理絵¹⁾, 成定昌昭¹⁾, 中島由美子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 森本 進¹⁾, 藤松真理子²⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科)：若年性特発性関節炎よりマクロファージ活性化症候群を来した1症例. 日本医学検査学会 (第58回) (横浜), 2009. 7.

[武蔵小杉病院薬剤部]

研究概要

平成21年度は、糖尿病患者の合併症、抗菌剤の適正使用、外来化学療法の副作用発現状況、入院癌患者の疼痛緩和などの研究が論文や学会発表の主軸となった。糖尿病の合併症については、外来糖尿病患者の自律神経障害（体性神経障害、自律神経障害）についてアルドース還元酵素阻害剤を用いて、その改善作用を化学的詳細に評価、解析し薬学雑誌に投稿した。その他、当院における外来糖尿病患者の合併症の実態を調査し学会発表した。平成18年の厚労省の統計資料によると糖尿病患者は年々増加しており、予備軍を含めると約2300万にいと推定されている。糖尿病患者の合併症の実態を調査し、薬物療法を評価し考案する事は大変意義深い事であったと思われる。抗菌剤の適正使用としては、当院ICTと多摩永山病院薬剤部との共同で特定抗菌薬届出制による薬剤適正使用効果に関するまとめと考察を行った。耐性菌による感染症や院内感染が脅威をふるっている中で、特定抗菌薬の届け出制に関するまとめと考察や感染制御チームに関しての研究が実施できた事は意義の有ることであった。外来化学療法の副作用発現状況については、セツキシマブの投与及び副作用発現状況を報告した。外来での化学療法を施行する患者が増加する中で、抗癌剤の副作用発現を評価するのは薬剤師の臨床業務として大変評価できるものであった。入院癌患者の疼痛緩和については、薬剤師による緩和ケアに対する処方設計への参画を検討した。薬物治療のエキスパートとして処方設計へ参画できた事は意義深く、今後も引き続き実施し緩和ケアに貢献できるものと考えている。そして、緩和ケアチームと共同で終末期患者の症例報告を行った。また、本年度は当薬剤部にて日本化学療法学会の抗菌化学療法認定薬剤師が誕生し、今後の感染症治療に大いに貢献できるものと信じている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 伊藤淳雄¹⁾, 野澤 (石井) 玲子¹⁾, 雪吹周生²⁾, 新 博次³⁾, 竹内幸一¹⁾, 片岡博邦 (¹⁾ 明治薬科大学大学院臨床薬理学教室, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院 循環器内科)：Examination of questionnaire items regarding diabetic peripheral neuropathy in epalrestat-treated patients and their usefulness in the treatment of this disorder —Influence on treatment course. 薬学雑誌 2009；129：1239-1248.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 野口周作, 島田慰彦, 望月 徹¹⁾, 土金なおみ¹⁾, 菅谷量俊²⁾, 片岡博邦 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 感染対策チーム, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)：特定抗菌薬届制による薬剤適正使用効果. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第38回) (長野県長野市), 2009. 8.
- 2) 宮内秀典, 伊藤淳雄, 野口周作, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 島田慰彦, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 片岡博邦 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：薬剤師による緩和ケアに対する処方設計への参画における調査及び検討. 日本緩和医療薬学会年会 (第3回) (神奈川県横浜市), 2009. 10.
- 3) 若城由美子³⁾, 藤原佳美^{1,3)}, 山口朋禎^{2,3)}, 片岡博邦 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, ²⁾ 同 内科, ³⁾ 同 緩和ケアチーム)：終末期患者の心に寄り添うチームアプローチ. 日本緩和医療薬学会年会 (第3回) (神奈川県横浜市), 2009. 10.
- 4) 此松晶子, 野口周作, 宮内秀典, 島田慰彦, 藤井さとみ¹⁾, 吉野雅則²⁾, 渡辺昌則²⁾, 高橋久美子¹⁾, 徳永 昭²⁾, 片岡博邦 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, ²⁾ 同 消化器病センター)：当院におけるセツキシマブ (アービタックス) の投与及び副作用発現状況の報告. 日本医療薬学会年会 (第19回) (長崎県長崎市), 2009. 10.
- 5) 東さやか, 伊藤淳雄, 野澤 (石井) 玲子¹⁾, 野口周作, 島田慰彦, 竹内幸一¹⁾, 片岡博邦 (¹⁾ 明治薬科大学大学院 臨床薬理学)：眼科・内科併診糖尿病患者における合併症の実態調査. 日本医療薬学会年会 (第19回) (長崎県長崎市), 2009. 10.

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

1. 胎児心拍数陣痛図を中心にIUGRの管理についての症例報告
2. 高度肥満患者に発症した難治性無気肺に陽圧人工呼吸管理に併用し陽陰圧体外式人工呼吸器 (BCV) の使用と肺理学療法を実施 背部の可動域を保持することに努めるなど包括的アプローチを行い改善した結果報告
3. 当院の褥瘡発生のうち35%が医療器具によるものであり予防が重要である 使用する器具をタイプ別に分類し予防方法をわかりやすく提示し共通認識していく
4. 知的障害を有する患者に対し自己管理を継続する為、看護師の働きかけが患者の行動変容にどのように影響を与えたのか振り返り考察した
5. それぞれで行っていた術前訪問を麻酔科外来で麻酔科医と看護師と共に患者への説明を開始した その導入・経過の試みの発表
6. 精神科疾患を有した終末期患者に対し患者の意向に沿った「痛み日誌」を作成し使用することで患者の治療に対する姿勢が変化していった症例を振り返る
7. 創に対して自着性ソフトシリコンポリウレタンフォーム材を使用し効果がみられた
8. クリニカルオーデットのツールとしてSTAS-Jを一般病棟看護師に使用しがん患者・家族を多角的に捉えられ看護実践できるように変化するのかを研究した
9. 糖尿病ケア委員会の実践と活動報告
10. 生後から脳腫瘍で診察している患者・家族に救命救急センターでの入院生活を糸口に家族にインタビューし自宅・病院で長期療養生活をする患者・家族にとって必要な看護を考察した
11. 当院看護部での5S活動の取組みをまとめ他施設において5S活動を進めるポイントを述べた
12. NIPPVマスクによる褥瘡に対してポリエチレンジェルシートを使用し有効であった
13. クリニカルオーデットの為のツールとしてSTSA-Jを一般病棟看護師に使用することでがん患者・家族を多角的

に捉えられ看護実践できるように変化するのかを研究した

14. チームリーダー看護師が看護実践上どのようにフィジカルアセスメントについて理解しスタッフ指導しているか意識調査を行い現状について考察した

研究業績

論文

(1) 研究報告書：

- 1) 藤原佳美：一般病棟看護師のがん患者への看護ケアの変化：STAS-Jを使用することの有用性．第40回日本看護学会論文集成人看護II 2010；356-358.
- 2) 福永ヒトミ，福井あや：先輩看護師がフィジカルアセスメントをどのように実施しているのか現状を知る．神奈川県病院学会誌 2010；126-131.
- 1) 笹森裕子：家族の意思決定を支えるもの．EMERGENCY CARE 2009；22：92-96.
- 2) 小見山かおり：医療安全の土台づくり！5S活動を病棟で進める具体策．ナースマネージャー 2009；11(8)：4-8.

(2) ミニレポート：

- 1) 野村好美，村上正洋¹⁾，岩城由美子²⁾ (¹⁾ 形成外科，²⁾ 薬剤科)：非侵襲的陽圧換気療法 (Non-invasive positive pressure ventilation：NIPPV) 管理下のマスクで生じる顔面褥瘡に対する当院の試み：ポリエチレンジェルシートの効果について．日本褥瘡学会誌 2010；12 (1)：59-63.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 浅野美保，金子佳世：看護部糖尿病ケア委員会の取り組みと今後の課題．日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (第14回) (北海道)，2009. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 兵頭めぐみ，松島 隆¹⁾，朝倉啓文¹⁾，吉賀尚子 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 産婦人科)：CSTにてNRFSと診断した妊娠36週6日IUGRの1例．日本分娩監視研究会 (第33回) (東京都)，2009. 6.
- 2) 岡本 大，月岡悦子，辻妃富美，飯村紫陽花，白木智沙登：高度肥満症に対する排痰への包括的なアプローチ：陽圧人工呼吸管理に併用したBCVの実施を通して．日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第5回) (兵庫県)，2009. 7.
- 3) 野村好美，村上正洋¹⁾，岩城由美子²⁾，月岡悦子 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部)：当院における医療器具による褥瘡の現状．日本褥瘡学会学術集会 (第11回) (大阪府)，2009. 9.
- 4) 望月瑠美，瀧 知美，佐々木佳枝，金子佳世：知的障害を有する糖尿病患者の行動変容．日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (第14回) (北海道)，2009. 9.
- 5) 藤原佳美：一般病棟看護師のがん患者への看護ケアの変化：STAS-Jを使用することの有用性．日本看護学会-成人看護II-学術集会 (第40回) (鳥取県)，2009. 9.
- 6) 永田春子，小河原美代子，横尾香代子：麻酔科医と共に行なう術前診察導入の試み．日本手術医学会総会 (第31回) (東京都)，2009. 10.
- 7) 藤原佳美，岩城由美子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部)：終末期患者の心に寄り添うチームアプローチを考える：痛み日記が有用であった1症例．日本死の臨床研究会年次大会 (第33回) (愛知県)，2009. 11.
- 8) 野村好美：ポケット褥瘡への陰圧閉鎖療法における自着性ソフトシリコンポリウレタンフォーム材の使用経験．日本創傷治癒学会 (第39回) (東京都)，2009. 12.

- 9) 福永ヒトミ，福井あや：先輩看護師がフィジカルアセスメントをどのように実施しているのか現状を知る．神奈川県病院学会（第26回）（神奈川県），2009．12．

[武蔵小杉病院放射線科技師室]

研究概要

- 1) 技師室研究発表会
- 2) 4病院合同研究発表会
- 3) 各種認定を目指した講習会への参加
- 4) 技師室安全委員会主導での医療安全への取り組み

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，研究部門もさらに充実してきた．現在の主な研究テーマは以下の通りである．

- (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断（外来・病棟・術中・剖検時）の確立
- (2) 免疫細胞・組織化学（サイトケラチン7/20/34 β E12/35 β H11, MIB-1, Napsin A, Villin）を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立
- (3) 乳腺腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立；細胞転写法を用いてER, PgR, HER2蛋白質，MIB-1指数の他，HER2に関しては蛋白の過剰発現と遺伝子増幅（CISH）の両方を検討する
 - 2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格，接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究；HER2タンパク質と基底膜分解酵素について
- (4) 細胞転写法による中皮腫の免疫細胞学的診断法の確立（特異抗体；カルレチニン，CK5/6，メゾテリン，D2-40，WT1など）
- (5) 骨軟部腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）
- (6) 子宮癌
 - 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法
- (7) リンパ節病変
 - 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ
 - 2) リンパ節病変の分子生物学的検索
 - 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Inagaki N¹⁾, Sugimoto K¹⁾, Hosone M, Isobe Y¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kato A¹⁾, Mori T¹⁾, Oshimi K¹⁾ (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine) : Disseminated *Mucor* infection and thrombotic microangiopathy in lymphoma-associated hemophagocytic syndrome. *Int Hematol* 2008 ; 88 (3) : 355-356.
- 2) 前田昭太郎，片山博徳，岩瀬裕美：体腔液細胞診での悪性中皮腫の診断に対する信頼性．*Medical Technology* 2008 ; 36 (8) : 786-788.

(1) 原著：

- 1) 前田昭太郎，片山博徳：がん診療 update 中皮腫．*日本医師会雑誌* 2009 ; 138 (1) : S124-S125.
- 2) 前田昭太郎，片山博徳，岩瀬裕美，細根 勝，劉 愛民¹⁾，内藤善哉²⁾ (1) 形態解析共同研究施設，²⁾ 病理学講座統御機構・腫瘍学)：中皮腫の細胞学的判定と進歩：細胞診材料による中皮腫の確定診断方法．*病理と臨床*

2009 ; 27 (12) : 1171-1182.

(2) 総説 :

- 1) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学講座統御機構・腫瘍学) : 免疫組織染色による悪性リンパ腫の診断 : 血液内科医のための実戦サバイバル・キット. 血液・腫瘍科 2009 ; 59 (6) : 652-667.

(3) 症例報告 :

- 1) Liu A¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Hosone M, Namimatsu S²⁾, Maeda S, Naito Z²⁾, Ghazizadeh M¹⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, NMS, ²⁾ Department of Pathology) : CD30-positive diffuse large B-cell lymphoma with microvillous features : so-called microvillous lymphoma. J Clin Pathol 2009 ; 62 (9) : 840-844.
- 2) 鈴木香奈芽¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東 敬子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 劉 愛民²⁾, 内藤善哉³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 病理部, ²⁾ 形態解析共同研究施設, ³⁾ 統御機構・腫瘍学) : 腹膜中皮腫の1例 : 細胞転写法およびセルブロック法の有用性. 日本臨床細胞学会雑誌 2009 ; 48 (4) : 181-186.
- 3) 小金井宏美¹⁾, 東 直行¹⁾, 前田昭太郎, 川名誠司²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院皮膚科, ²⁾ 皮膚科学教室) : Palisaded Encapsulated Neuroma の1例. 皮膚科の臨床 2009 ; 51 (9) : 1169-1172.

(4) 特別講演記録 :

- 1) 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 川野記代子, 東 敬子, 鈴木美紀, 三田俊二¹⁾, 内藤善哉²⁾, 白田忠男³⁾, 長尾 緑³⁾, 藤田千歳³⁾, その他1名 (¹⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科, ²⁾ 病理学講座統御機構・腫瘍学, ³⁾ 荒川区がん予防・健康づくりセンター) : 婦人科領域の細胞病理診断. 日本産科婦人科学会千葉地方部会誌 2009 ; 3 (1) : 5-7.

著 書

- 1) 細根 勝, 前田昭太郎, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : [分担] 原発性体腔液リンパ腫. WHO 血液腫瘍分類 : WHO分類2008をうまく活用するために (直江知樹, 中村栄男 ほか), 2010 ; pp415-419, 医薬ジャーナル社.

学会発表

[追加分]

追加分ワークショップ :

- 1) Hosone M, Maeda S, Liu A, Katayama H, Naito Z : A case of plasmacytoid dendritic cell tumor : newly described agranular CD4⁺/CD56⁺ hematodermic neoplasms. 日本-タイ国際細胞診ワークショップ (第15回) (東京), 2008. 11.
- 2) Fujita C¹⁾, Hakuda T¹⁾, Nagao M¹⁾, Igari Y¹⁾, Maeda S (¹⁾ Arakawa City Health Center) : Cervical cancer screening in mass surveys of young women in their 20' s. 日本-タイ国際細胞診ワークショップ (第15回) (東京), 2008. 11.
- 3) Maeda J¹⁾, Hirano T²⁾, Kimura M¹⁾, Miura H¹⁾, Takahashi H¹⁾, Kato H²⁾, Ikeda N²⁾ (¹⁾ Department of Respiratory Tract Surgery, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, ²⁾ Department of Surgery, Tokyo Medical University) : Proteomic analysis of stage I primary lung adenocarcinoma aimed at individualization of postoperative therapy. 日本-タイ国際細胞診ワークショップ (第15回) (東京), 2008. 11.
- 4) Ishigaki S¹⁾, Uchiyama S¹⁾, Motoda N²⁾, Matsuda Y²⁾, Onda M²⁾, Tsuchiya S³⁾, Naito Z³⁾ (¹⁾ 医学部, ²⁾ 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), ³⁾ 付属病院病理部) : A case of the transformation of neurocutaneous melanosis into malignant melanoma. 日本-タイ国際細胞診ワークショップ (第15回) (東京), 2008. 11.
- 5) Kitagawa Y¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Yoshizawa T¹⁾, Hayashi M¹⁾, Kim Y¹⁾, Fujii N¹⁾, Ito H¹⁾, Hosone M, Maeda

S⁽¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Tamanagayama Hospital, NMS) : Complementary relation between MRI and FNAC in diagnosis of soft tissue tumors. 日本-タイ国際細胞診ワークショップ (第15回) (東京), 2008. 11.

(1) 招待講演 :

- 1) Maeda S : Diagnostic of FNAB of soft tissue and bone tumor. FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 2) Maeda S : Improving diagnosis of soft tissue and bone lesion with immunocytochemistry. FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 3) Maeda S, Katayama H : Slide workshop (Soft tissue). FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 4) Maeda S : How to differentiate between Reactive VS Mesothelioma VS Adenocarcinoma/the others tumor. FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 5) Maeda S : Improving diagnosis body fluids by immunocytochemistry. FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 6) Maeda S, Katayama H : Slide workshop (Body fluids). FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 7) Katayama H, Maeda S : Immunocytochemistry wet workshop. FNAB Musculoskeletal, Body Fluids and Immunocytochemistry Workshop (Indonesia), 2009. 10.
- 8) Maeda S, Katayama H, Hiraiwa Y, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion Cytology : Usefulness of cell transfer method and cell block method for immunocytochemical staining. 17th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2010. 1.
- 9) Katayama H, Naito Z¹⁾, Maeda S, Hiraiwa Y, Kawamoto Y²⁾, Onda M²⁾, Wei-Xia Peng²⁾, Motoda N²⁾, Tsuchiya S³⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, ³⁾ Division of Clinical Pathology, Nippon Medical School Hospital) : A Case of Cholangiocarcinoma with Intraductal Papillary Mucinous Tumor of the Pancreas Diagnosed Using Cytodiagnosis. 17th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Mai, Thailand), 2010. 1.

(2) 教育講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 乳腺の病理と細胞診断. 平成21年度 東京都多摩がん検診センター第3回細胞検査士養成公開講座, 2009. 7.
- 2) 片山博徳, 前田昭太郎 : 乳腺細胞診の実際. 平成21年度 東京都多摩がん検診センター第3回細胞検査士養成公開講座, 2009. 7.

(3) シンポジウム :

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Pathology, NMS) : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology. European Congress of Cytopathology (35th) (Lisbon, Portugal), 2009. 9.
- 2) Maeda S : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology. European Congress of Cytology (35th) (Lisbon), 2009. 9.
- 3) 片山博徳, 三田俊二¹⁾, 前田昭太郎 (¹⁾ 多摩永山病院 女性診療科・産科) : 子宮内膜細胞診におけるセルブロック法併用の有用性について. 日本臨床細胞学会 (第50回), 2009. 7.

(4) ワークショップ：

- 1) 片山博徳，磯部宏昭，細根 勝，前田昭太郎，渡会泰彦¹⁾，土屋眞一¹⁾，内藤善哉²⁾ (¹⁾ 付属病院 病理部，²⁾ 統御機構病理学)：膵胆道領域における悪性疾患との鑑別が難しい細胞像の検討：精度改善ための試み．日本臨床細胞学会秋期大会 (第48回)，2009. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 劉 愛民¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，東 敬子，片山博徳，内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 形態解析共同研究施設)：Combination analysis of Electron Microscopy and Cytology in Tumor Diagnosis. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第41回)，2009. 9.
- 2) 片山博徳，細根 勝，前田昭太郎，内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学))：中皮腫と反応性中皮細胞の鑑別のためマトリックスメタロプロテアーゼ-9 (MMP-9) のついでへの検討．日本病理学会総会 (第98回)，2009. 5.
- 3) 片山博徳，前田昭太郎，細根 勝，横山 正¹⁾，内藤善哉²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 外科，²⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学))：CISH法による乳癌細胞診標本でのHER2遺伝子検出の基礎的検討．日本乳癌学会学術 (第17回)，2009. 7.
- 4) 劉 愛民¹⁾，内藤善哉¹⁾，東 敬子，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳 (¹⁾ 形態解析共同研究施設，²⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学))：細胞診材料を用いた電顕検索の有用性．日本医科大学医学会総会 (第77回)，2009. 9.
- 5) 片山博徳，前田昭太郎，細根 勝，東 敬子，磯部宏昭，柳田裕美，川野記代子，岩瀬裕美，日吾美栄子，鈴木美紀，内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学))：子宮内膜細胞診時におけるセルブロック法併用の有用性．日本医科大学医学会総会 (第77回)，2009. 9.
- 6) 鈴木美紀，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，東 敬子，磯部宏昭，柳田裕美，川野記代子，岩瀬裕美，日吾美栄子，内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学))：体腔液細胞診材料における原発巣確定のための免疫細胞化学的検索．日本医科大学医学会総会 (第77回)，2009. 9.
- 7) 榎本 豊¹⁾，川島徹生¹⁾，齋藤祐二¹⁾，谷村繁雄¹⁾，細根 勝，片山博徳，前田昭太郎，小泉 潔²⁾，清水一雄²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院呼吸器外科，²⁾ 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門))：呼吸器外科領域における術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性について．日本医科大学医学会総会 (第77回)，2009. 9.
- 8) 磯部宏昭，細根 勝，前田昭太郎，片山博徳，東 敬子，柳田裕美，川野記代子，岩瀬裕美，日吾美栄子，鈴木美紀，内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学 (統御機構・腫瘍学))：膵術中迅速細胞診2ポイント採取法．日本医科大学医学会総会 (第77回)，2009. 9.
- 9) 磯部宏昭，細根 勝，前田昭太郎，片山博徳，劉 愛民，柳田裕美，岩瀬裕美，日吾美栄子，鈴木美紀，内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 統御機構病理学)：濾胞樹状細胞肉腫の1例．日本臨床細胞学会秋期大会 (第48回)，2009. 10.

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は、臨床検査学の進歩のなかで、新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し、新検査法の実現を追っている。また、日常の臨床検査全体の精度管理、検査方法および迅速測定を実施し、各種の検査における臨床との関連を見つ、質の向上と検査測定法の確立を目指している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kuno M¹⁾，Nemoto K¹⁾，Ninomiya N^{1,3)}，Inagaki E¹⁾，Kubota M，Matsumoto T²⁾，Yokota H¹⁾ (¹⁾ Depart-

ment of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ Pharmaceutical Research Division, Takeda Pharmaceutical Co. Ltd, Osaka, Japan, ³⁾ Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences, Washington DC, USA) : The novel selective toll-like receptor 4 signal transduction inhibitor tak-242 prevents endotoxemia in conscious Guinea-pigs. *Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology* 2009 ; 36 (5~6) : 589-593.

2) Inagaki E¹⁾, Nemoto K^{1,2)}, Ninomiya N¹⁾, Ishinokami S¹⁾, Kubota M, Yokota H¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ The Graduate University of Japan Traditional Medicine and Science) : Rimobant, a specific antagonist of the cannabinoid CB1-receptor, prevents lipopolysaccharide-induced endotoxemia in awake guinea pigs. *JJAAM* 2010 ; 21 (3) : 118-125.

(2) 総説 :

1) 久保田稔, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 高度救命救急センター) : 救命救急領域における意識障害患者の予後と脳波. *臨床脳波* 2009 ; 51 (5) : 302-310.

(3) 症例報告 :

1) 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 酒井貴史, 水谷行伸, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 新 博次¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 内科・循環器内科) : 末梢循環障害に対するサルボグレラート塩酸塩の有効性 : サーモグラフィによる検討. *Angiology Frontier* 2010 ; 9 (1) : 62-69.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

1) 稲垣栄次¹⁾, 根本香代²⁾, 二宮宣文¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 石之神沙織¹⁾, 久保田稔, 横田裕行³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 救命救急センター, ²⁾ 多摩永山病院・日本伝統医療科学大学院大学, ³⁾ 救急医学) : カンナビノイドCB1受容体拮抗薬rimobantのエンドトキシン血症モルモットに対する効果. 日本Shock学会 (第24回), 2009. 5.

2) 林 綾子, 手塚尚美, 水谷行伸, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹 : 甲状腺疾患における甲状腺血流速度測定の有用性について : 特にバセドウ氏病について. 日本医科大学医学会総会 (第77回), 2009. 9.

3) 二宮宣文¹⁾, 根本香代²⁾, 石之神沙織¹⁾, 鈴木健介¹⁾, 久保田稔, 横田裕行³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 多摩永山病院・日本伝統医療科学大学院大学, ³⁾ 救急医学) : エンドトキシン血症の発症におけるCycooxygenase-2の関与. 日本救急医学会総会 (第37回), 2009. 10.

4) 諸江雄太¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 久保田稔, 久野将宗¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 稲垣栄次¹⁾, 原俊輔¹⁾, 石之神沙織¹⁾, 北橋章子¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター) : 「人の目」で診断するプロカルシトニンキットの正確さと限界 : 検査項目はもっと簡便で良いかも知れない. 日本救急医学会総会 (第37回), 2009. 10.

5) 久野将宗¹⁾, 久保田稔, 諸江雄太¹⁾, 磐井佑輔¹⁾, 北橋章子¹⁾, 原 俊輔¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター) : プロカルシトニン簡易迅速キット測定結果と抗生剤の投与状況について. 日本救急医学会総会 (第37回), 2009. 10.

(2) セミナー :

1) 久保田稔 : ABR・EEGについて (2009年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク, 2009. 11.

2) 久保田稔 : 脳死下臓器提供における職種別の役割 (2009年救急医療における脳死患者の対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク, 2009. 11.

3) 久保田稔 : 脳死下臓器提供法的脳死判定における脳波・ABRに関して (第2回法的脳死判定における脳波測定研修会). 日本臓器移植ネットワーク東日本支部, 2009. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 井上 淳：精度管理の盲点．臨床検査メリトクラシー研究会（第29回），2010．2．

[多摩永山病院薬剤部]

研究概要

今回の医療法改正で薬剤師のチーム医療への参加が求められており，また薬剤管理指導業務においても患者への薬物治療の安全性の確保が大きく取り上げられている．このような状況の中，病院薬剤師の職能を發揮し薬物の適正使用に対する貢献が強く求められている．そこで，当薬剤部では抗生物質の適正使用への取り組み，抗がん剤の安全性確保などについて研究，発表した．今後，薬剤師がチーム医療へ積極的に参加し，医薬品の適正使用などを通して患者への安全性の確保さらに薬物治療の専門家として薬剤師職能を充分發揮できるよう努力したいと考えている．

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 男鹿宏和，村田和也：セツキシマブ投与による infusion reaction の発現状況と対策．医療薬学フォーラム2009 第17回クリニカルファーマシーシンポジウム（京都），2009．7．
- 2) 富岡勝世，村田和也，亀山明美：ハイリスク薬の情報提供について．日本病院薬剤師会関東ブロック第39会学術大会（長野），2009．8．
- 3) 田杭直哉，村田和也，福士博文¹⁾，岸野吏志¹⁾（¹⁾ 明治薬科大学薬剤研究科薬情報解析学）：カルバペネム系抗菌薬メロペネムのPK/PD理論に基づく投与方法の検討．第19回日本医療薬学会年会（長崎），2009．10．
- 4) 男鹿宏和，村田和也：セツキシマブ投与による infusion reaction に対する支持療法の検討．日本緩和医療薬学会第3回年会（横浜），2009．10．
- 5) 田杭直哉，村田和也，菅谷量俊：当院注射剤業務における重症感染症への処方支援．日本薬学会第130年会（岡山），2010．3．

[多摩永山病院看護部]

研究概要

2009年度は，9演題で日本救急学会，日本手術看護学会，日本摂食・嚥下リハビリテーション学会，日本看護学会の看護総合，小児看護，成人看護I，成人看護II等で発表が行われた．各専門領域において，看護実践能力の向上や看護の質の向上を目指す内容のものであった．

1. 当院救命救急センターにおける入室時MRSAスクリーニング検査の傾向と対策
2. 手術室における術中大量出血症例の看護実践能力向上を目指して～シミュレーションでの行動評価～
3. 内視鏡下手術の手術室看護師の役割とガーゼカウント方法の工夫
4. 高次脳機能障害患者の気管切開孔閉鎖に伴う看護師の不安の分析～気管切開2年後にカニューレ抜去となった事例を通して～
5. 患者の感情，生活に着目できる薬物療法支援ツールの開発に向けて～薬物療法を受けている患者の語りから見えたもの～
6. 夜勤看護師の疲労回復のころみ～効果的なストレッチングのタイミング～
7. 採血時におけるディストラクションの1歳から3歳患児への有効性

8. ビデオやパンフレットを用いた術前オリエンテーションの有効性の検討～手術後のイメージ化の向上を図る～
9. 患者・理学療法士・看護師が評価表を共有したりハビリカンファレンスの取り組みの効果～日常生活活動機能状況表, 立位, 歩行状況

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 飯田美佐子:特集:足病変を「歩行」からアセスメントする:よりよい歩行のためのフットケアの連携. 臨床看護 2009; 35 (11): 1649-1653.

著書

[追加分]

追加分:

- 1) 竹山聡美, 坂山光湖¹⁾, 藤井仁美²⁾ (1) 大阪大学医学部附属病院, 2) 多摩センタークリニックみらい): [分担] ホップ編: 2「糖尿病とは」をわかりやすく患者さんに伝えるには: A. 病態. 楽しく学べる糖尿病療養指導ホップ・ステップ・ジャンプ! (西東京臨床糖尿病研究会), 2009; pp4-5, 南江堂.
- 2) 後藤 円, 宮城調司 (1) 立川相互病院): [分担] ジャンプ編: 症例を10例まとめてみよう: 9. 在宅. 楽しく学べる糖尿病療養指導ホップ・ステップ・ジャンプ! (西東京臨床糖尿病研究会), 2009; pp138-139, 南江堂.
- 3) 後藤 円, 宮城調司 (1) 立川相互病院): [分担] ジャンプ編: 症例を10例まとめてみよう: 10. 神経障害. 楽しく学べる糖尿病療養指導ホップ・ステップ・ジャンプ! (西東京臨床糖尿病研究会), 2009; pp140-141, 南江堂.
- 1) 竹山聡美: [分担] 第I章質問と回答: 合併症に関する質問: 動脈硬化症: 質問82: 血圧管理. 血圧目標値. 高血圧と糖尿病. 虚血性心疾患. 脳卒中. 閉鎖性動脈硬化症. 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子・古山景子・山地陽子), 2009; pp144-145, 日本看護協会出版会.
- 2) 竹山聡美: [分担] 第I章質問と回答: 合併症に関する質問: 動脈硬化症: 質問83脂質異常症と糖尿病. 内臓脂肪型肥満. インスリン抵抗性. メタボリックシンドローム. 脂質管理目標値. 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子・古山景子・山地陽子), 2009; pp146-147, 日本看護協会出版会.
- 3) 竹山聡美: [分担] 第I章質問と回答: 合併症に関する質問: 質問85動脈硬化症: 脳梗塞. 血糖・血圧・脂質のコントロール. ラクナ梗塞. 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問120 (瀬戸奈津子・古山景子・山地陽子), 2009; pp151-151, 日本看護協会出版会.
- 4) 石ヶ森重之: [分担] 第3章急変時のモニタリングと検査: 酸素飽和度のモニタリング. 急変時対応とモニタリング (勝見敦・佐藤憲明), 2009; pp215-218, 照林社.

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 長瀬由美, 安部美香, 坂寄美千佳, 長谷川朋美: 夜勤看護師の疲労回復のこころみ: 効果的なストレッチングのタイミング. 日本看護学会 看護総合 (第40回), 2009. 7.
- 2) 甲斐明美: 高次脳機能障害患者の気管切開閉鎖に伴う看護師の不安の分析: 気管切開2年後にカニューレ抜去となった事例を通して. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (第15回), 2009. 8.
- 3) 小林絵里, 大園恵美, 深澤彰恵, 大川菜桜, 天野麻古: 患者・理学療法士・看護師が評価表を共有したりハビリカンファレンスの取り組みの効果: 日常生活活動機能状況表, 立位・歩行状況評価表を用いて. 日本看護学

会 成人看護Ⅱ (第40回), 2009. 9.

- 4) 西田聖子, 蝦名昌代, 塚本由美子:ビデオやパンフレットを用いた術前オリエンテーションの有効性の検討:手術後のイメージ化の向上を図る. 日本看護学会 成人看護Ⅰ (第40回), 2009. 10.

(2) 一般講演:

- 1) 小島史江, 和田紗弥佳, 小林まり子:患者の感情, 生活に着目できる薬物療法支援ツールの開発に向けて:薬物療法を受けている患者の語りから見えたもの. 日本看護学会 看護総合 (第40回), 2009. 7.
- 2) 下田由紀子, 松本良夢:採血時におけるディストラクションの1歳から3歳児への有効性. 日本看護学会 小児看護 (第40回), 2009. 9.
- 3) 木下貴子, 石ヶ森重之, 山本裕之, 関根 愛, 遠藤浩子:当院救命救急センターにおける入室時MRSAスクリーニング検査の傾向と対策. 日本救急看護学会学術集会 (第11回), 2009. 11.
- 4) 鈴木勇次, 新里小百合, 石崎めぐみ, 一瀬友里:手術室における術中大量出血症例の看護実践能力向上を目指して:シミュレーションでの行動評価. 日本手術看護学会年次大会 (第23回), 2009. 11.
- 5) 藤原祥子, 吉田知子, 坂本なつ子, 桑田敬子, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科):内視鏡下手術の手術室看護師の役割とガーゼカウント方法の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第22回), 2009. 12.

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし, 幅広い視野能力を有する臨床医の養成を目指すとともに, 消化器疾患に関する臨床および基礎研究を行っている. 研究活動としては, 1) 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を, 上部および下部消化管の内視鏡検査を用いて解析している. 具体的には, *Helicobacter pylori* 感染や非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や *Helicobacter pylori* の2次除菌, 3次除菌における有効性の比較検討, 透析患者における尿素呼気試験を含めた *Helicobacter pylori* の存在診断法の検討, 食道胃逆流症, 機能的胃症, 過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析, および, 逆流性食道炎や胃潰瘍の発生機序に関して, 基礎および臨床疫学的な研究を行っている. 2) アルコール性脂肪肝や非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の病態を検討するとともに, C型慢性肝炎に対するインターフェロン, リバビリン併用による治療効果と副作用の発現, について検討し症例を蓄積中である. 3) 炎症性腸疾患の診断と治療について, とくに潰瘍性大腸炎に対する白血球 (顆粒球) 吸着療法, および抗TNF製剤による治療の症例を蓄積している. 4) 韓国, 中国, ベトナム, タイ, ミャンマー, バングラデシュ, ネパールなど東, 東南, 南アジアの国々において *Helicobacter pylori* 感染, 胃十二指腸疾患の現状と, 背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行い, 2009年10月に「アジアにおける *Helicobacter pylori* 感染」を出版した. 特に, 大分大学, 国立国際医療センターとの共同研究「アジア諸国における *Helicobacter pylori* 感染の実態と胃発癌機序の解明」が始まっている. 5) 逆流胆汁酸が胃粘膜に及ぼす影響についても多施設共同研究を行っている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ueki N¹⁾, Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Shindo T¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T¹⁾, Inagaki H²⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine): Impact of quadruple regimen of clarithromycin added to metronidazole-containing triple therapy against *Helicobacter pylori* infection following clarithromycin-containing triple-therapy failure. *Helicobacter* 2009; 14 (2): 91-99.
- 2) Iwakiri K¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M¹⁾, Kotoyori M¹⁾, Hoshihara Y¹⁾, Sakamoto

- C¹) (1) Division of Gastroenterology) : Acid and non-acid reflux in Japanese patients with non-erosive reflux disease with persistent reflux symptoms, despite taking a double-dose of proton pump inhibitor : a study using combined pH-impedance monitoring. *J Gastroenterol* 2009 ; 44 (7) : 708-712.
- 3) Uchida T^{1,2)}, Nguyen LT^{1,3)}, Takayama A^{1,3)}, Okimoto T³⁾, Kodama M³⁾, Murakami K³⁾, Matsuhisa T, Trinh TD⁵⁾, Ta L⁶⁾, Ho DQ⁷⁾, Hoang HH⁸⁾, Kishida T²⁾, Fujioka T³⁾, Moriyama M¹⁾, Yamaoka Y^{4,9)} (1) Department of Molecular Pathology, Oita University Faculty of Medicine, Yufu, (2) Department of Forensic Medicine, Oita University Faculty of Medicine, Yufu, (3) Department of Gastroenterology, Oita University Faculty of Medicine, Yufu, (4) Department of Environmental and Preventive Medicine, Oita University Faculty of Medicine, Yufu, (5) Department of Pathology, Hospital 108, Hanoi, Vietnam, (6) Department of Hepato-Gastroenterology, Hospital 108, Hanoi, Vietnam, (7) Department of Endoscopy, Cho Ray Hospital, Ho Chi Minh, Vietnam, (8) Training and Researches Department, Cho Ray Hospital, Ho Chi Minh, Vietnam, (9) Department of Medicine-Gastroenterology, Michael E. DeBakey Veterans Affairs Medical Center and Baylor College of Medicine, Houston, Texas, USA) : Analysis of virulence factors of *Helicobacter pylori* isolated from a Vietnamese population. *BMC Microbiol* 2009 ; 23 (9) : 175-175.
- 4) Iwakiri K¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Umezawa M¹⁾, Kotoyori M¹⁾, Hoshihara Y¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology) : Mechanisms of excessive esophageal acid exposure in patients with reflux esophagitis. *Dig Dis Sci* 2009 ; 54 (8) : 1686-1692.
- 5) Nguyen LT, Uchida T, Kuroda A, Tsukamoto Y, Trinh TD, Ta L, Mai HB, Ho DQ, Hoang HH, Vilai-chone RK, Mahachai V, Matsuhisa T, Kudo Y, Okimoto T, Kodama M, et al. : Evaluation of the anti-East Asian CagA-specific antibody for CagA phenotyping. *Clin Vaccine Immunol* 2009 ; 16 (11) : 1687-1692.
- 6) Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Shindo T¹⁾, Ueki N¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Gudis K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Duodenogastric reflux induced by endoscopic submucosal dissection. *Endoscopy* 2009 ; 41 (11) : 934-940.
- 7) Nagoya H, Tanaka S, Tatsuguchi A, Mitsui K, Ehara A, Kobayashi T, Fujimori S, Sakamoto C : Rare cause of obscure gastrointestinal bleeding due to pyogenic granuloma in the ileum detected by capsule endoscopy and treated with double balloon endoscopy. *Digestive Endoscopy* 2010 ; 22 (1) : 71-73.
- 8) Nguyen LT^{1,2)}, Uchida T^{1,3)}, Tsukamoto Y¹⁾, Trinh TD⁴⁾, Ta L⁴⁾, Ho DQ⁵⁾, Matsuhisa T, Uchida M^{1,2)}, Takayama A^{1,2)}, Hijiya N¹⁾, Okimoto T²⁾, Kodama M²⁾, Murakami K²⁾, Fujioka T²⁾, Moriyama M¹⁾ (1) Department of Molecular Pathology, Faculty of Medicine, Oita University, (2) Department of Gastroenterology, Faculty of Medicine, Oita University, (3) Department of Human Environmental and Social Medicine, Faculty of Medicine, Oita University, (4) 108 Hospital, Hanoi, (5) Cho Ray Hospital, Ho Chi Minh city) : Evaluation of rapid urine test for the detection of *Helicobacter pylori* infection in the Vietnamese population. *Dig Dis Sci* 2010 ; 55 (1) : 89-93.
- 9) Tanaka Y¹⁾, Iwakiri K¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H¹⁾, Umezawa M¹⁾, Kotoyori M¹⁾, Hoshihara Y¹⁾, Nomura T²⁾, Miyashita M²⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, (2) Department of Surgery) : Predictors of a better outcome of pneumatic dilatation in patients with primary achalasia. *J Gastroenterol* 2010 ; 45 (2) : 153-158.
- 10) 松久威史 : 高齢者の *H. pylori* 感染と除菌. *日本医事新報* 2009 ; (4437) : 80-81.
- 11) 岩切勝彦, 川見典之 (1) 消化器内科) : Q & A : 長期間にわたり診断が困難であった嚥下困難の1例. *日本消化器病学会雑誌* 2009 ; 106 (8) : 1227-1230-1.
- 12) 岩切勝彦, 田中由理子, 佐野弘仁, 川見典之, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸 (1) 消化器内

科)：機能的消化器疾患へのアプローチ：病態理解からの確な診療へ：食道機能検査の実際。臨床消化器内科 2009；24 (12)：1553-1561.

13) 松久威史：日本ヘリコバクター学会認定医制度のねらい：特集：一般市民にとって“*H. pylori*感染症”とは。Helicobacter Research 2009；13 (6)：460-463.

14) 松久威史：認定医発足について。日本ヘリコバクター学会誌 2010；11 (2)：107-107.

(2) 総説：

1) 藤森俊二¹⁾，高橋陽子¹⁾，江原彰仁，小林 剛¹⁾，瀬尾継彦¹⁾，三井啓吾¹⁾，米澤真興¹⁾，田中 周¹⁾，辰口篤志¹⁾，坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科)：小腸疾患診療の進歩。日本医科大学医学会雑誌 2009；5 (2)：130-134.

2) 新福魔弓，二神生爾¹⁾，坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科)：Functional Dyspepsia (FD) の新たなる展開：胃排出能および血清グレリン値からみたFD (EPS, PDS) 群やNERD群における比較検討。消化器科 2009；48 (4)：381-387.

3) 津久井拓，沖濱裕司²⁾，松田 健²⁾，坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科，²⁾ 多摩永山病院外科)：消化管症候群 (第2版) その他の消化管疾患を含めて：空腸，回腸，盲腸，結腸，直腸 炎症性疾患 孤立性直腸潰瘍症候群。日本臨床別冊消化管症候群 2009；下：321-324.

4) 三宅一昌¹⁾，楠 正典¹⁾，進藤智隆¹⁾，植木信江¹⁾，河越哲郎¹⁾，二神生爾¹⁾，津久井拓，坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科)：消化性潰瘍の現状。日本医科大学医学会雑誌 2010；6 (1)：7-12.

著 書

1) 松久威史：〔自著〕アジア人の上部消化管疾患：日本人との比較。アジアにおける *Helicobacter pylori* 感染 (松久威史監修)，2009；pp19-35，西村書店。

2) 松久威史：〔自著〕アジア人の *Helicobacter pylori* 感染，背景胃粘膜：日本人との比較。アジアにおける *Helicobacter pylori* 感染 (松久威史監修)，2009；pp36-55，西村書店。

3) 松久威史：〔自著〕内視鏡検査，*Helicobacter pylori* 感染診断，除菌治療からみたアジアの医療情勢。アジアにおける *Helicobacter pylori* 感染 (松久威史監修)，2009；pp66-74，西村書店。

学会発表

(1) 特別講演：

1) Matsuhisa T：Comparison of gastric mucosa between Bangladeshi and Japanese (including East, Southeast and South Asian populations). (Dhaka Medical College Symposium (Dhaka))，2009. 7.

2) 松久威史：アジア人の胃を覗き続けて15年 (トイレ事情を含めて)。胃粘膜病変を考える会，2009. 7.

(2) シンポジウム：

1) 松久威史，春間 賢¹⁾，荒川哲男²⁾ (1) 川崎医科大学内科学食道・胃腸科，²⁾ 大阪市立大学消化器内科)：胃内逆流胆汁酸と萎縮，腸上皮化生の関連性 (他施設協同調査，283例の成績より)。日本消化器内視鏡学会総会 (第77回) (名古屋)，2009. 5.

2) 松久威史，内田智久¹⁾，藤岡利生²⁾，Park SH³⁾，Cheung DY³⁾，Aftab HR⁴⁾ (1) 大分大学医学部分子理，²⁾ 大分大学医学部総合診療部消化器内科，³⁾ Department of Internal Medicine, The Catholic University of Korea，⁴⁾ Department of Gastrointestinal and Liver Disease, Dhaka Medical College)：韓国人，日本人とバングラデシュ人における背景胃粘膜の観察。日本ヘリコバクター学会学術集会 (第15回) (東京)，2009. 6.

3) Nguyen T，内田智久¹⁾，沖本忠義²⁾，児玉雅明²⁾，松久威史，村上和成²⁾，藤岡利生²⁾，守山正胤 (1) 大分大学医学部分子病理，²⁾ 大分大学医学部総合診療部消化器内科)：東アジア型CagA 特異抗体を用いたタイとベトナムにおける *H. pylori cagA* 遺伝子の決定。日本ヘリコバクター学会学術集会 (第15回) (東京)，2009. 6.

4) 二神生爾¹⁾，辰口篤志¹⁾，河越哲郎¹⁾，堀江 茜¹⁾，新福魔弓，坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科)：消化器の創傷治療

研究の進歩 胃粘膜傷害修復家庭の解析 (MCP-1 刺激と COX-2 発現). 日本創傷治癒学会 (第 39 回) (東京), 2009. 12.

5) 二神生爾¹⁾, 新福摩弓, 進藤智隆, 河越哲郎¹⁾, 堀江 茜¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): クロスオーバー法を用いたニザチジンによる FD 患者に対する臨床症状と胃排出能への影響の解析. 日本消化管学会総会学術集会 (第 6 回) (福岡), 2010. 2.

6) 松久威史: 内視鏡, 生検組織からみた Asian paradox. 日本小児 *H. pylori* 研究会 (第 14 回) (東京), 2010. 3.

(3) パネルディスカッション:

1) 新福摩弓, 二神生爾¹⁾, 堀江 茜, 河越哲郎¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 名見耶浩幸¹⁾, 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): FD 患者における GN β 3 の SNP 解析と胃排出能との相関関係の解析. 日本消化器病学会総会 (第 95 回) (札幌市中央区), 2009. 5.

(4) ワークショップ:

1) 遠坂由紀子¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): 虚血性心疾患をともなう低用量アスピリン長期服用患者における内視鏡的潰瘍と出血症状との関連. 日本消化管学会総会学術集会 (第 6 回) (福岡), 2010. 2.

(5) 一般講演:

1) Futagami S¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Shindo T¹⁾, Horie A¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Crowe ES²⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, ²⁾ Division of gastroenterology and hepatology, Department of Medicine, Digestive Health Center of Excellence, University of Virginia): Celecoxib inhibits apurinic/aprimidic endonuclease-1 expression and prevents gastric cancer in *Helicobacter pylori*-infected Mongolian Gerbils. Digestive Disease Week and the 110th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (Chicago), 2009. 5.

2) Futagami S¹⁾, Iwakiri K¹⁾, Shindo T¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Horie A¹⁾, Shimpuku M, Gudis K¹⁾, Miyake K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine): 5HT4-Agonist (mosapride) improves the clinical symptoms in PPI-resistant NERD patients via improvement of gastric emptying. Digestive Disease Week and the 110th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (Chicago), 2009. 5.

3) Shimpuku M, Futagami S¹⁾, Kawagoe T¹⁾, Shindo T¹⁾, Miyake K¹⁾, Iwakiri K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine): Relationship between clinical symptoms and local inflammatory cell infiltration of the duodenum in FD patients using 13C breath test. Digestive Disease Week and the 110th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (Chicago), 2009. 5.

4) Fujimori S¹⁾, Seo T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Gudis K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Ehara A, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine): Rebamipide prevents NSAID-induced small intestinal injury: a prospective, double-blind randomized controlled trial using capsule endoscopy. Digestive Disease Week and the 110th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association Institute (Chicago), 2009. 5.

5) Takahashi Y¹⁾, Fujimori S¹⁾, Seo T¹⁾, Gudis K¹⁾, Ehara A, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine): NSAIDs suppress fat absorption in the small intestine as evaluated by capsule endoscopy. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (Chicago), 2009. 5.

6) Fujimori S¹⁾, Gudis K¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Seo T¹⁾, Ehara A, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine): Distribution

of small intestinal mucosal injuries with short-term administration of non-steroidal anti-inflammatory drugs. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (Chicago), 2009. 5.

- 7) Fujimori S¹, Seo T¹, Gudis K¹, Ehara A, Kobayashi T¹, Mitsui K¹, Yonezawa M¹, Tanaka S¹, Tatsuguchi A¹, Sakamoto C¹ (¹ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Prevention of nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced small-intestinal injury by prostaglandin : a pilot randomized controlled trial evaluated by capsule endoscopy. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (Chicago), 2009. 5.
- 8) Miyake K¹, Kusunoki M¹, Shindo T, Kawagoe T¹, Futagami S¹, Gudis K¹, Tsukui T, Sakamoto C¹ (¹ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : The impact of occult haemorrhage in asymptomatic endoscopic peptic ulcers on long-term concomitant use of NSAID and low-dose aspirin. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (Chicago), 2009. 5.
- 9) Miyake K¹, Shindo T, Kusunoki M¹, Kawagoe T¹, Futagami S¹, Gudis K¹, Tsukui T, Sakamoto C¹ (¹ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Duodenogastric reflux induced by endoscopic submucosal dissection : contribution of the resection area. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (Chicago), 2009. 5.
- 10) Kusunoki M¹, Miyake K¹, Shindo T, Kawagoe T¹, Futagami S¹, Gudis K¹, Tsukui T, Sakamoto C¹ (¹ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : Incidence of deep venous thrombosis in endoscopic submucosal dissection and predictability of D-Dimer. Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the American Association of Gastrointestinal Endoscopy (Chicago), 2009. 5.
- 11) Matsuhisa T, Watanabe T¹, Arakawa T², Tokutomi T³, Sasaki H⁴, Muguruma N⁵, Chono S⁶, Haruma K⁷, Sugiyama A⁸, Fujimura Y⁹, Matsuzawa K¹⁰, Ito M, Yasuda M, Katsuyama T, Ota H, et al. (¹ Gastroenterological Surgery, Watanabe Hospital, ² Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, ³ Tokiutomi Clinic, ⁴ Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, ⁵ Digestive and Cardiovascular Medicine, University of Tokushima School of Medicine, ⁶ Internal Medicine, Machida Gastrointestinal Hospital, ⁷ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Kawasaki Medical School, ⁸ Sugiyama Clinic, ⁹ Department of Internal Medicine, Center for Gastroenterology and Endoscopy, Kawasaki Hospital, Kawasaki Medical School, ¹⁰ Internal Medicine, Maruko Central General Hospital) : Relation between reflux bile acid into the stomach and gastric mucosal atrophy, intestinal metaplasia -a multi-center study of 2, 283 cases-. United European Gastroenterology Federation (UEGW) 2009 (The 18th) (London), 2009. 10.
- 12) Matsuhisa T : Asian paradox from the viewpoint of endoscopic and histological findings. Meeting of Asian Helicobacter Study Group-Molecular Epidemiological Studies of Helicobacter pylori in Asian countries (The 2nd), 2010. 2.
- 13) 松久威史 : 鳥肌胃炎の *Helicobacter pylori* 除菌後に再感染, 鳥肌胃炎を呈した1例. 胃の形態と機能研究会 (第7回), 2009. 4.
- 14) 鈴木成治¹, 笹島耕二¹, 丸山 弘¹, 渡辺秀裕¹, 宮本昌之¹, 横山 正¹, 松谷 毅¹, 杉浦 篤¹, 松下晃¹, 松田明久¹, 松久威史, 津久井拓, 田尻 孝² (¹ 多摩永山病院 外科) : mFOLFOX6法を導入した高度進行・再発大腸癌症例の予後因子に関する検討. 日本外科学会 (第109回) (福岡), 2009. 4.
- 15) 松久威史, 津久井拓 : *Helicobacter pylori* 除菌後に発見された胃癌の検討. 日本消化器病学会総会 (第95回) (札幌市中央区), 2009. 5.

- 16) 川見典之, 江原彰仁, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: 好酸球浸潤がachalasia発症に関与したと考えられた好酸球性胃腸炎の1例. 日本消化器病学会総会 (第95回) (札幌市中央区), 2009. 5.
- 17) 遠坂由紀子¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸 (1) 消化器内科): 低用量アスピリン長期使用患者の潜在性貧血と内視鏡的消化性潰瘍との関連. 日本消化器病学会総会 (第95回) (札幌市中央区), 2009. 5.
- 18) 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆, 河越哲郎¹⁾, 二神正爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) における術後深部静脈血栓症 (DVT) 発症率とD-dimer (DD) の変動. 日本消化器病学会総会 (第95回) (札幌市), 2009. 5.
- 19) 飯泉 匡, 星原芳雄, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 新福摩弓, 坂本長逸 (1) 消化器内科): 下部食道柵状縦走血管の白色混濁の程度と頻度の検討. 日本消化器病学会総会 (札幌市), 2009. 5.
- 20) 梅澤まり子, 星原芳雄, 岩切勝彦, 飯泉 匡, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 新福摩弓, 坂本長逸 (1) 消化器内科): 内視鏡による下部食道柵状縦走血管の形状の検討. 日本消化器病学会総会 (札幌市), 2009. 5.
- 21) 松久威史¹⁾, 鈴木秀和^{1,2)}, 永原章仁^{1,3)}, 伊藤慎芳^{1,4)}, 徳永健吾^{1,5)}, 川上浩平^{1,6)}, 河合 隆^{1,6)}, 大草敏史^{1,7)}, 加藤俊二^{1,8)}, 峯 徹哉^{1,9)}, 西澤俊宏^{1,10)}, 鈴木雅之^{1,10)}, 栗原直人¹⁾, 高橋信一^{1,5)}, 榊 信廣¹⁾ (1) 東京Hp研究会, 2) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 3) 順天堂大学消化器内科, 4) 四谷メディカルキューブ, 5) 杏林大学第三内科, 6) 東京医科大学内視鏡センター, 7) 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, 8) 日本医科大学外科, 9) 東海大学消化器内科, 10) 国立病院機構東京医療センター): 東京都内多施設協同調査による*Helicobacter pylori* 2次除菌成績の検討. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第15回) (東京), 2009. 6.
- 22) 川上浩平^{1,2)}, 河合 隆^{1,2)}, 鈴木秀和^{1,3)}, 正岡建洋^{1,3)}, 永原章仁^{1,4)}, 大草敏史^{1,5)}, 伊藤慎芳^{1,6)}, 徳永健吾^{1,7)}, 松久威史¹⁾, 鈴木雅之^{1,8)}, 加藤俊二^{1,9)}, 峯 徹哉^{1,10)}, 上村直実⁸⁾, 高橋信一^{1,7)}, 榊 信廣¹⁾ (1) 東京Hp研究会, 2) 東京医科大学内視鏡センター, 3) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 4) 順天堂大学消化器内科, 5) 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, 6) 四谷メディカルキューブ, 7) 杏林大学第三内科, 8) 国立病院機構東京医療センター, 9) 日本医科大学外科, 10) 東海大学消化器内科): 3剤療法による, *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移 (東京都多施設における協同調査結果から). 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第15回) (東京), 2009. 6.
- 23) 川見典之, 星原芳雄, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 坂本長逸: 食道柵状血管の観察におけるFICEの有用性. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 24) 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆, 河越哲郎¹⁾, 二神正爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 経鼻内視鏡の現状と問題点 経口内視鏡 (経口) の苦痛度予測因子からみた, 経鼻内視鏡 (経鼻) 好適群の抽出. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 25) 二神生爾¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 新福摩弓, 名見耶浩幸¹⁾, 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): FD患者における十二指腸炎粘膜局所の炎症細胞浸潤の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 26) 桥 卓史, 津久井拓, 進藤智隆, 江原彰仁, 松久威史, 松本 真¹⁾, 新 博次¹⁾, 三田俊二²⁾, 中井章人²⁾, 前田昭太郎³⁾, 濱本達彦⁴⁾, 進士陽子⁴⁾, 楠 正典⁴⁾, 河越哲郎⁴⁾, 二神生爾⁴⁾, その他2名 (1) 多摩永山病院内科, 2) 多摩永山病院女性診療科, 3) 多摩永山病院病理部, 4) 消化器内科): 子宮原発と考えられた転移性胃平滑筋肉腫の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 27) 楠 正典¹⁾, 新福摩弓, 梅沢まり子¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 中村 滋²⁾, 中村 隆²⁾ (1) 消化器内科, 2) 中村病院 内科): 大腸EMRにて診断された, 3mm大Ⅱ_a型_m浸潤癌の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第88回) (東京), 2009. 6.
- 28) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆, 河越哲郎¹⁾, 二神正爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 高齢者

の消化管出血 治療と対策 低用量アスピリン長期服用 虚血性心疾患患者における消化性潰瘍出血の特徴. 日本高齢消化器病学会 (第12回) (東京), 2009. 7.

- 29) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆, 河越哲郎¹⁾, 二神正爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 高齢者の消化管出血 治療と対策 低用量アスピリン長期服用 虚血性心疾患患者における消化性潰瘍出血の特徴. 日本高齢消化器病学会 (第12回) (東京), 2009. 7.
- 30) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 消化器外科): 高度進行・再発大腸癌症例における^mFOLFOX6法を中心とした全身化学療法の治療方針. 日本癌治療学会 (第47回) (横浜), 2009. 9.
- 31) 松久威史: *Helicobacter pylori*と胃癌 (日本ヘリコバクター学会の動向を含めて). 多摩市消化器疾患懇話会 (第8回), 2009. 10.
- 32) 松久威史, 藤岡利生¹⁾, 内田智久²⁾, Cheung DY³⁾, Park SH³⁾ (1) 大分大学医学部総合診療部消化器内科, 2) 大分大学医学部分子病理, 3) Department of Internal Medicine, The Catholic University of Korea): 韓国人における *Helicobacter pylori*感染, 胃十二指腸疾患, 背景胃粘膜 (日本人との比較). 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 33) 松久威史: *Helicobacter pylori*感染, 背景胃粘膜からみたアジア人の胃癌 (日本人との比較). 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 34) 名見耶浩幸, 二神生爾, 堀江 茜, 梅澤まり子, 川見典之, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸: 食道癌組織におけるAPE-1発現の解析. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 35) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 若林秀幸¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 内田英二²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 消化器外科): 当科の高度進行・再発大腸癌化学療法施行症例における分子標的療剤の併用状況. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 36) 春日裕介¹⁾, 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) によりSM2浸潤を確認し, 経過観察しているA型胃炎合併胃カルチノイドの1例 高度な高ガストリン血症の推移. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 37) 桥 卓史¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神正爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 早期分化型胃癌の発症部位からみた胃発癌における空腹時十二指腸胃逆流の関与. 日本消化器内視鏡学会総会 (第78回) (京都), 2009. 10.
- 38) 河越哲郎, 川見典之, 小林 剛, 名見耶浩幸, 梅澤まり子, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 (1) 消化器内科): 当科における切除不能胃癌に対するS-1+低用量CDDP療法の治療成績の検討. 日本癌治療学会 (第47回) (神奈川), 2009. 10.
- 39) 中澤翔子¹⁾, 二神生爾¹⁾, 新福魔弓, 堀江 茜¹⁾, 藤本真弓¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 進藤智隆, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): FD患者における¹³C-^{acetate}子機試験法の有用性およびGN β -3遺伝子竹井の検討. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 40) 新福魔弓, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): わが国におけるFunctional dyspepsia その病態と実態 FD患者におけるGN β 3およびグレリンの遺伝子多型と胃排出能との相関関係の解析. 日本消化器病学会大会 (第51回) (京都), 2009. 10.
- 41) 河越哲郎, 名見耶浩幸, 川見典之, 梅澤まり子, 小林 剛, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 (1) 消化器内科): 当科における切除不能胃癌に対するS-1+低用量CDDP療法の治療成績の検討. 日本消化器病学会大会, 2009. 10.
- 42) 松久威史, 山田宣孝: 日本人とアジア人における消化性潰瘍の比較. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89

- 回) (東京), 2009. 12.
- 43) 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 消化器内視鏡偶発症に対するトラブルシューティング ESD 後幽門狭窄における予測因子および対策. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 44) 新福摩弓, 玉木裕希江, 川見典之, 江原彰仁, 松久威史, 津久井拓, 山本 彰¹⁾, 小杉有紀²⁾, 二神生爾²⁾, 中塚雄久²⁾, 坂本長逸²⁾, 中澤 賢³⁾, 村田 智³⁾, 汲田伸一郎³⁾, 松下 晃⁴⁾, その他2名 (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 消化器内科, 3) 放射線科, 4) 多摩永山病院外科): 上部消化管出血を契機に診断された脾動脈瘤切迫破裂の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 45) 岡崎愛未¹⁾, 二神生爾¹⁾, 新福摩弓, 小高康裕¹⁾, 豊田将大¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 榑原義之¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 白石振一郎²⁾, 横田裕行²⁾ (1) 消化器内科, 2) 高度救急救命センター): 胸部大動脈瘤による偽腔食道漏孔の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第89回) (東京), 2009. 12.
- 46) 松久威史, 山田宣孝: 日本人とアジア人における消化性潰瘍の比較. 日本消化管学会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 47) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 梅沢まり子, 田中由理子, 飯泉 匡, 琴寄 誠, 星原芳雄, 坂本長逸: "Esophageal Rosette" はやはりアカラシアの特徴的な下部食道内視鏡所見であった. 日本消化管学会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 48) 河越哲郎¹⁾, 小林 剛¹⁾, 川見典之, 梅沢まり子¹⁾, 名児耶浩幸¹⁾, 新福摩弓, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 高齢切除不能胃癌症例におけるS-1ベース化学療法の有用性の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 49) 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): 内視鏡的粘膜下層剥離術後幽門狭窄に対する予測因子と対策. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- 50) 栢 卓史¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 新福摩弓, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科): ESDを施行した早期分化型胃癌の発症部位および癌周囲の腸上皮化生における空腹時十二指腸胃逆流の関与. 日本消化管学会総会学術集会 (第6回) (福岡), 2010. 2.
- (6) 公開講座:
- 1) 松久威史: ピロリ菌の除菌と胃癌発症抑制効果 (ピロリ菌とその除菌を巡って: 胃癌との関連性を含めて). 日本ヘリコバクター学会市民公開講座 (東京), 2009. 6.
- (7) Interactive Session:
- 1) 松久威史: 胃癌撲滅宣言「なんでも答えます. 東京*Helicobacter*学校」21世紀における*H. pylori*診療の新戦略 (検診, 臨床, 除菌外来). *Helicobacter*カンファレンス2010, 2010. 3.

23. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

重症循環器疾患を主体に、集中管理を要する内科疾患についての病態・診断・治療に係る研究を継続している。急性冠症候群（急性心筋梗塞と不安定狭心症）については、診断ならびに予後推定に係る検査マーカーの評価、予後改善に繋がる治療法の構築についての研究を継続している。昨年度からは、京都大学ならびに企業との共同研究として心筋梗塞の早期診断に寄与すると思われる動脈硬化粥腫の破綻に関与する因子（sLOX-1）についての研究を継続し、国内外に向けてその有用性を発信している。急性大動脈瘤解離については、偽腔の病態変化が興味深かった症例を報告した。今後も大動脈解離にともなう呼吸障害についての研究を始める予定である。重症うっ血性心不全については、急性期治療薬の開発、全国レベルでの病態把握プロジェクト（ATTEND registry）に参加し活動している。また、心不全患者の腎機能障害（とりわけ急性腎障害AKI：acute kidney injury）が予後に及ぼす影響について検討を重ね欧米誌に掲載した。心不全マーカーの推移と治療との関係については数年来の研究が継続しており、とりわけMMPsに関する研究の成果を国内外で発表している。急性肺血栓塞栓症については、旅行者血栓症（エコノミークラス症候群）を含めた診断法と治療法について研究と報告を続けて来たが、今年度は本症の発症様式と予後との関係について報告した。心停止で入院した症例に対する低体温療法については、最新の体表冷却装置を用いた治療成績についての研究を開始した。その他、急性肺炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法ならびに血液浄化療法を中心に研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yokoyama S, Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami S¹⁾, Sakai S¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Okuni S¹⁾, Seimiya K¹⁾, Murakami D¹⁾, Ohba T¹⁾, Uemura R¹⁾, Seino Y¹⁾, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Extended Follow-UP by Serial Angioscopic Observation for Bare-Metal Stents in Native Coronary Arteries : From Healing Response to Atherosclerotic Transformation of Neointima. *Circulation : Cardiovascular Interventions* 2009 ; 2 (3) : 205-212.
- 2) Yamamoto M¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Inami S¹⁾, Takano M¹⁾, Yokoyama S, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Hata N, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Relationship between neointimal coverage of sirolimus-eluting stents and lesion characteristics : A study with serial coronary angiography. *Am Heart J* 2009 ; 158 (1) : 99-104.
- 3) Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Kobayashi N, Shirakabe A, Tomita K, Kitamura M, Kurihara O, Takahashi Y : Acute kidney injury and outcomes in acute decompensated heart failure : evaluation of RIFLE criteria in an acutely ill heart failure population. *EuroJHF* 2010 ; 12 (1) : 32-37.
- 4) Yokoyama S, Takano M¹⁾, Sakai S¹⁾, Ohba T¹⁾, Seimiya K¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Inami S¹⁾, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular medicine, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Difference in Neointimal Proliferation between Ruptured and Non-Ruptured Segment After Bare Metal Stent Implantation. *Int Heart J*

2010 ; 51 (1) : 7-12.

(2) 総説 :

- 1) 白壁章宏¹⁾, 畑 典武 (¹⁾ 内科 (武蔵小杉病院)) : ノルアドレナリン . 救急・集中治療「徹底ガイド・心不全 Q & A」(編集 ; 佐藤直樹) 2010 ; 22 (1-2) : 134-142.

(3) 症例報告 :

- 1) Akutsu K, Yokoyama S, Hata N, Shinada T, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Immediate Disappearance of Thrombosed False Lumen in Ascending Aorta of Retrograde Type A Aortic Dissection. *Ann Thorac Surg* 2009 ; 89 (5) : e49-e49.
- 2) Kobayashi N, Hata N, Takahashi Y, Shinada T, Tomita K, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : A case of Myocardial Infarction Caused by Coronary Vasospasm : Efficacy of Soluble Lectin-Like Oxidized LDL Receptor-1 for Distinguishing between Vasospasm and Plaque Rupture. *J Nippon Med Sch* 2009 ; 76 (5) : 268-271.

学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 山本真功¹⁾, 木俣伸恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳, 清野精彦¹⁾, 稲見茂信²⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科, ²⁾ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : ペアメタルステント留置後の超遠隔期までの血管内視鏡による経時的観察 : 新生内膜の治癒反応から動脈硬化性変化. 第23回日本冠疾患学会 (大阪), 2009. 12.

(2) 一般講演 :

- 1) Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Takahashi Y, Akutsu K, Shirakabe A : Outcome of acute decompensated heart failure and acute kidney injury (Rifle criteria). 17th APCC (Kyoto), 2009. 5.
- 2) Kobayashi N, Hata N, Yokoyama S, Akutsu K, Shinada T, Tomita K, Shirakabe A, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Endothelin-1 produced by coronary artery endothelial cells causes no-reflow phenomenon. 17th APCC (Kyoto), 2009. 5.
- 3) Shirakabe A, Asai K¹⁾, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Suzuki Y, Kobayashi N, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Prognostic impact of matrix metalloproteinases in patients with acute heart failure. *Heart Failure* 2009 (Nice), 2009. 5.
- 4) Kobayashi N, Hata N, Seino Y¹⁾, Kume N²⁾, Shinada T, Takahashi Y, Mizuno K³⁾ (¹⁾ Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, ³⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Plasma Soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 Levels Measurement for the early Diagnosis of ST Elevation Myocardial Infarction : Comparative Study with Myocardial Necroses Markers. ACC2010 (Atlanta), 2010. 3.
- 5) Shirakabe A, Asai K¹⁾, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Kobayashi N, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Prognostic Impact of Matrix Metalloproteinases (MMPs) in Patients with Acute Heart Failure. ACC2010 (Atlanta), 2010. 3.

- 6) Inami T¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kimata N¹⁾, Murakami D¹⁾, Ohba T¹⁾, Aoki S¹⁾, Ibuki C¹⁾, Kobayashi N, Yokoyama S, Hata N, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Analysis of bi-edge late restenotic lesions in a sirolimus-eluting stent case by coronary angiography and OCT. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (札幌), 2009. 6.
- 7) Murakami D¹⁾, Takano M¹⁾, Kimata N¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Kobayashi N, Inami S¹⁾, Ohba T¹⁾, Yokoyama S, Ibuki C¹⁾, Hata N, Seino Y¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Angioscopically intensive yellow color of target plaque predict serum troponin-T levels after elective percutaneous coronary intervention in comparison with thrombus. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (札幌), 2009. 6.
- 8) Kobayashi N, Shirakabe A, Tomita K, Yokoyama S, Shinada T, Akutsu K, Hata N, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Seino Y¹⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship between Endothelin-1 at coronary culprit lesion and No-reflow phenomenon. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (札幌), 2009. 6.
- 9) Aoki S¹⁾, Seino Y¹⁾, Kimata N¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Murakami D¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Kobayashi N, Yokoyama S, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Assessment of coronary atherosclerotic plaque burden by three characteristic biomarkers. 第18回日本心血管インターベンション治療学会 (札幌), 2009. 6.
- 10) Kobayashi N, Hata N, Seino Y¹⁾, Kume N²⁾, Inami T¹⁾, Shinada T, Takahashi Y, Tomita K, Kitamura M, Kurihara O, Mizuno K³⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Soluble Lectin-Like Oxidized LDL Receptor-1 Levels Measurement for the Early Diagnosis of STEMI : Comparative Study with Myocardial Necroses Markers. The 74th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Kyoto), 2010. 3.
- 11) Kitamura M, Takayama M¹⁾, Yamamoto E²⁾, Ohno T²⁾, Takano H²⁾, Aoki S²⁾, Yasutake M²⁾, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Sakakibara Memorial hospital, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Direct Hemodynamic Assesment of Cibenzoline Administration Demonstrates Improvement of Left Ventricular Pressure Gradient together with Diastolic Property in Refractory HOCM. The 74th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Kyoto), 2010. 3.
- 12) Kitamura M, Takayama M¹⁾, Yamamoto E²⁾, Ohno T²⁾, Takano H²⁾, Aoki S²⁾, Yasutake M²⁾, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Sakakibara Memorial hospital, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : IV-Nitroglycerin Tests before and Immediately after Septal Ablation Discloses the Hemodynamic Alteration in Symptomatic HOCM with Mild Pressure Gradient. The 74th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Kyoto), 2010. 3.
- 13) Shirakabe A, Asai K¹⁾, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Takahashi Y, Kobayashi N, Tomita K, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Immediate Administration of Atorvastatin Decreased Serum Level of Matrix Metallo-

proteinase-2 and Improved the Prognosis in Patients with Acute Heart Failure. The 74th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Kyoto), 2010. 3.

- 14) Kimata N¹⁾, Seino Y¹⁾, Inami T¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Abe J¹⁾, Hayashi M¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ohno N¹⁾, Ibuki C¹⁾, Akutsu K²⁾, Hata N, Mizuno K²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Type A versus Type B, and Patent versus Thrombosed Type. The 74th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (Kyoto), 2010. 3.
- 15) 高野雅充¹⁾, 横山真也, 山本真功¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 大国真一¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 上村竜太¹⁾, 清野精彦¹⁾, 畑 典武, 水野杏一²⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Extended Follow-Up by Serial Angioscopic Observation for Bare-Metal Stents in Native Coronary Arteries : From Healing Response to Atherosclerotic Transformation of Neointima. 第57回日本心臓病学会 (札幌), 2009. 9.
- 16) 横山真也, 品田卓郎, 高橋保裕, 小林宣明, 富田和憲, 栗原 理, 畑 典武 : 急性血液浄化を要した腎機能障害をもつ循環器救急症例の転帰. 第10回千葉急性血液浄化研究会 (千葉), 2009. 5.
- 17) 栗原 理, 横山真也, 品田卓郎, 高橋保裕, 小林宣明, 富田和憲, 畑 典武 : 内シャント再建術施行12日後に心配停止で運ばれた慢性透析患者. 第10回千葉急性血液浄化研究会 (千葉), 2009. 5.
- 18) 栗原 理, 横山真也, 品田卓郎, 高橋保裕, 小林宣明, 富田和憲, 畑 典武 : 内シャント再建術施行12日後に心配停止で運ばれた慢性透析患者. 第18回日本集中治療学会関東甲信越地方会 (松本), 2009. 7.
- 19) 白壁章宏, 畑 典武, 横山真也, 品田卓郎, 高橋保裕, 小林宣明, 富田和憲, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 急性心不全における非侵襲的陽圧換気 (NPPV) 管理成功のための指標. 第57回日本心臓病学会 (札幌), 2009. 9.
- 20) 根岸経太¹⁾, 林 明聰¹⁾, 大野則彦¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 阿部純子¹⁾, 木俣仲恒¹⁾, 山本真功¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 青木 聡¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 富田和憲, 小林宣明, その他3名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科) : 心筋梗塞に伴う心室細動の electrical storm に対しカテーテルアブレーションが奏功した1例. 第213回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2009. 9.
- 21) 栗原 理, 山本真功¹⁾, 木俣仲恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 畑 典武, 清野精彦¹⁾, 稲見茂信²⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科, (2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : ペアメタルステント留置後遅発性血栓症を発症した興味深い2例 : 血管内視鏡からの洞察. 第23回日本心臓血管内視鏡学会 (奈良), 2009. 10.
- 22) 山本真功, 木俣仲恒¹⁾, 稲見 徹¹⁾, 村上大介¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 横山真也, 大場崇芳¹⁾, 清野精彦¹⁾, 稲見茂信²⁾, 水野杏一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科, (2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : ペアメタルステント留置後の超遠隔期までの血管内視鏡による経時的観察 : 新生内膜の治療反応から動脈硬化性変化. 第23回日本心臓血管内視鏡学会 (奈良), 2009. 10.
- 23) 栗原 理, 小林宣明, 北村光信, 富田和憲, 高橋保裕, 品田卓郎, 横山真也, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 畑 典武 (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科) : 急性肺血栓塞栓症初療時における予後推定因子. 第37回日本集中治療医学会学術集会 (広島), 2010. 3.
- 24) 品田卓郎, 栗原 理, 北村光信, 富田和憲, 小林宣明, 高橋保裕, 横山真也, 畑 典武, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科) : 低体温療法により社会復帰しえた pst - Cardiac Arrest Myocardial Dysfunction の2例. 第37回日本集中治療医学会学術集会 (広島), 2010. 3.

[千葉北総病院リハビリテーション科]

研究概要

1. 筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し、麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって、さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激効果を検討している。筋電比例式電気刺激はきめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり、筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される。また、24チャンネル光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討する。
2. 脳の可塑性を検討する基礎的検討として、124チャンネルの脳磁図を用いて手指、手関節運動時の脳神経活動の局在、運動準備電位との関連を検討する。
3. SPECTを用いて脳卒中患者における diaschisis の存在部位を測定し、認知機能検査との関連および24チャンネル光トポグラフィーとの関連を検討する。
4. パワーアシストタイプの機能的電気刺激装置の小型軽量化を測り、前腕部アーマーに表面電極、機能的電気刺激装置を内臓した【Cyber hand】を作製し、臨床応用を行う。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Obayashi S, Nagai Y, Suhara T, Okauchi T, Inaji M, Iriki A, Maeda J ⁽¹⁾ Department of Molecular Neuroimaging, Molecular Imaging Center (MIC), National Institute of Radiological Sciences) : Monkey brain activity modulated by reward preferences : a positron emission tomography study. *Neurosci Res* 2009 ; 64 (4) : 421-428.
- 2) 原 行弘, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 地域連携バスとリハビリテーションの関わり : 都市近郊の場合. *脳卒中* 2009 ; 31 (6) : 515-519.

(2) 総説：

- 1) 原 行弘 : 臨床神経生理学のリハビリテーションへの応用3. 脳卒中上肢に対する治療. *総合リハ* 2009 ; 37 (8) : 711-717.
- 2) 原 行弘 : 筋電図を制御に利用した新しい機能的電気刺激. *臨床脳波* 2009 ; 51 (9) : 543-550.
- 3) 原 行弘 : 診療報酬は急性期リハビリテーションにどのような影響を与えたか?. *臨床リハ* 2010 ; 19 (1) : 20-24.
- 4) 原 行弘 : 新しい機能的電気刺激によるニューロリハビリテーション. *Brain & Nerve* 2010 ; 62 (2) : 113-124.

著書

- 1) 原 行弘 : [分担] 脳卒中片麻痺は改善するのか?. *脳卒中最前線* (第4版) (福井 関彦・他), 2009 ; pp91-96, 医歯薬出版.
- 2) 原 行弘 : [分担] パワーアシスト機能的電気刺激を用いたニューロリハビリテーション. *最新リハビリテーション医学* (上月正博・他 (編)), 2010 ; pp158-162, 先端医療技術研究所.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 原 行弘 : 回復期リハビリテーションに関する諸問題 : DVTを中心に. *Post Stroke Forum in Tokyo* (東京),

2009. 8.

- 2) 原 行弘：脳卒中リハビリテーションチップス：運動生理と合併症について．第215回大阪臨床整形外科医会（大阪），2010. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 大林 茂⁽¹⁾ Molecular imaging center, National Institute of Radiological Sciences, ⁽²⁾ Dept. Rehabilitation Medicine, Nippon Medical School Chiba-hokusou Hospital)：「精神・神経疾患モデルのPET研究でマーモセットとマカクの差別化は可能か？」In vivo PET studies in non-human primate model of neuropsychiatric disorders and neurodegenerative diseases：the differences between macaques and marmosets（霊長類疾患モデル動物を用いた分子・機能イメージング研究：Molecular and functional imaging studies with diseases models of non-human primates）．日本神経科学大会（第32回）（名古屋国際会議場），2009. 9.
- 2) 篠田朋美¹⁾，小川真司²⁾，原 行弘²⁾，中村利恵²⁾，中島麻美²⁾（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院看護部，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科）：摂食機能療法のシステム構築とマニュアルの普及により得られた効果．日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（第15回）（愛知県名古屋市），2009. 8.
- 3) 原 行弘：新しい機能的電気刺激療法によるニューロリハビリテーション．第68回日本脳神経外科学会学術集会（東京），2009. 10.

(3) セミナー：

- 1) 原 行弘：ニューロリハビリテーション：新しい機能的電気刺激療法の応用．第46回日本リハビリテーション医学会学術集会（静岡），2009. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 小川真司，原 行弘，辻内和人，太組一朗，川勝真喜（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，³⁾ 東京電機大学情報環境学部）：Effects of Therapeutic Electrical Stimulation (TES) on Movement Related Cortical Fields (MRCF) of Magnetoencephalogram (MEG)．2009 Asian and Oceanian Congress of Clinical Neurophysiology（大韓民国ソウル市），2009. 4.
- 2) Hara Y, Ogawa S, Tujiuchi K：Power-Assisted Functional Electrical Stimulation as a tool for neuro-rehabilitation．5th International Society of Physical & Rehabilitation Medicine (Istanbul)，2009. 6.
- 3) 原 行弘，小川真司，辻内和人，村岡慶裕¹⁾（¹⁾ 独立行政法人村山病院）：脊髄・末梢神経の障害に対するパワーアシストFESと新型電気刺激内臓スリーブ．第39回日本臨床神経生理学会学術大会（北九州），2009. 11.
- 4) 小川真司²⁾，原 行弘，辻内和人，新井 健，川勝真喜（¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科，²⁾ 東京歯科大学市川総合病院リハビリテーション科，³⁾ 東京電機大学情報環境学部）：脳磁図（MEG）で観察した運動関連磁場の治療的電気刺激（TES）前後の変化．日本リハビリテーション医学会学術集会（46）（静岡県静岡市），2009. 6.
- 5) 中村智代子¹⁾，小川真司^{1,2)}，新井 健¹⁾（¹⁾ 東京歯科大学市川総合病院リハビリテーション科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科）：当院における摂食嚥下リハビリテーションクリニカルパスの運用と嚥下回診の現状と効果．日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（第15回）（愛知県名古屋市），2009. 8.
- 6) 原 行弘，本橋優子：ARB（アンジオテンシンII受容体ブロッカー）製剤による脳血管障害患者の認知機能改善効果．第33回日本高次脳機能学会（札幌），2009. 9.

[千葉北総病院病理部]

研究概要

前年度同様、臨床各科との連携のもと、臨床病理学的検討を継続中である。

- 1：消化管腫瘍（大腸癌，GIST，EBV 関連胃癌など）に関する臨床病理学的検討。
- 2：泌尿生殖器腫瘍 特に子宮，卵巣などの腫瘍性病変を中心にした形態学的，細胞生物学的特性の検討。
- 3：乳腺腫瘍，特に乳癌症例を中心にした組織学的，細胞診断学的，免疫組織学的，電子顕微鏡的検討。
- 4：脳腫瘍に対する迅速診断時の細胞診検査の有用性に関する検討。また，病理検査部門における有機物質，ホルマリンの取扱いに関する労働衛生上の法整備についても，積極的に活動を行った。

研究業績

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 清水秀樹：ホルムアルデヒド法改正に伴う医療現場の対応。平成21年度千葉県病理・細胞診検査研究班合同研修会 第1回（千葉），2009. 6.
- 2) 清水秀樹：ホルマリン溶液の管理と環境対策。新潟病理技術研究会 第32回新潟県形態検査部門病理検査領域研修会 平成21年（新潟），2009. 7.
- 3) 清水秀樹：ホルムアルデヒド法改正に伴う医療現場の対応。長野県臨床衛生検査技師会 病理組織研修会 第41回（長野），2009. 7.
- 4) 清水秀樹：ホルムアルデヒド規制に対する病理部門を中心とした医療業界の対応。厚生労働省 化学物質による労働者の健康障害防止に関する意見交換会 第2回（東京），2009. 12.

(2) 教育講演：

- 1) 清水秀樹：術中迅速病理診断における迅速組織標本作製技術と応用 脳腫瘍。日本臨床衛生検査技師会 平成21年度検査研究部門研修会 形態検査部門（富山），2009. 12.
- 2) 清水秀樹：医療施設における化学物質の作業環境・安全衛生について。東京歯科大学市川総合病院健康管理実施部会研修会，2010. 2.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 清水秀樹：ホルムアルデヒド規制に対する病理部門を中心とした医療業界の取り組み。厚生労働省 化学物質による労働者の健康障害防止に関する意見交換会（第2回），2009. 12.

(4) ワークショップ：

- 1) 清水秀樹：病理検査室の環境と病理技術の継承 病理部門におけるホルムアルデヒドの有害性と法規制。病理学会 第98回（京都），2009. 5.
- 2) 清水秀樹：ホルムアルデヒド対策からみた労働衛生と医療安全（医療安全セミナー）。日本臨床細胞学会 第48回秋期大会（福岡），2009. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 清水秀樹，大秋美治，小黑辰夫，赤坂久美，三枝順子，京本晃典，島津絢美，笹谷昌司：VDT作業における労働衛生管理のためのガイドラインと細胞診業務の健康管理。日本臨床細胞学会 第50回（東京），2009. 6.
- 2) 笹谷昌司，大秋美治，小黑辰夫，清水秀樹，赤坂久美，三枝順子，京本晃典，島津絢美：破骨細胞様巨細胞の出現を伴う乳癌の1例。日本臨床細胞学会 春期大会 第50回（東京），2009. 6.
- 3) 清水秀樹：医療現場におけるホルムアルデヒド法規制：特定化学物質作業主任者の業務について。医学検査学会 第58回（横浜），2009. 7.

- 4) 清水秀樹：脳腫瘍。日本臨床細胞学会形態系研修会術中迅速病理診断における迅速組織標本作製技術と応用講義と実習，2009，12.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

当検査室では平成21年7月予定の病院機能評価 Ver6. 0受審を最も重要課題として取り組んだ。また新型インフルエンザの影響により様々な対応が望まれ、例年とは異なった医業活動が行われた。

各領域における主な概要として、1) 微生物検査分野では、耐性菌の検出状況や地域医療の中核として新型インフルエンザ対応と院内感染対策活動の強化、発熱外来への協力体制、2) 輸血検査分野では当直時用の輸血検査教育、T & Sの一層の充実、3) 生理学的検査分野では耳鼻科領域で平衡機能検査の一端としたエア-カロリック法の実施、循環器睡眠時無呼吸症候群（SAS）パルス検査の実施、4) 情報関連分野では電子カルテの導入を想定した情報の収集、術中迅速細胞診標本作製の対応、5) 管理分野では、管理者のための品質マネジメント研修活動、乱用薬物に関する諸問題、6) その他では診療支援分野にて成田国際空港クリニックでの検査内容の構築、中日新聞への検査のはなしの連載、日本臨床検査同学院と（社）日本臨床検査技師会における臨床検査部門の監理運営教育への尽力、更には継続課題である（社）東京都医師会精度管理事業への運営協力をはじめ本年度も研修医に関する細菌検査、輸血検査のトレーニング体制の調整等幅広い分野で活動が行われた。

なお下記の業績は昨年同様、当検査室職員が筆頭名であるもののみを基本として掲載した。

また、室長は日本循環器学会各種ガイドライン（心肺蘇生ガイドライン、性差医療ガイドライン、睡眠時無呼吸ガイドラインなど）作成委員として任務にあたり、日本内科学会、日本循環器学会、日本臨床検査学会などで教育講演を担当した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 町田幸雄：臨床検査管理運営における環境管理について：職場の物理的環境問題を中心に。病理技術 2010；73 (1)：21-23.
- 2) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：背景・基礎知識体系。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；7-7.
- 3) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：理論的思考力。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；11-11.
- 4) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“ヒト”(1)。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；7-7.
- 5) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“ヒト”(2)。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；9-9.
- 6) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“ヒト”(3)。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；9-9.
- 7) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“モノ”(1)。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；11-11.
- 8) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“モノ”(2)。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；11-11.
- 9) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“カネ”(1)。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2009；9-9.

- 10) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：運営経営資源“カネ”（2）。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2010；9-9.
- 11) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“カネ”（3）。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2010；11-11.
- 12) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：経営資源“カネ”（4）。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2010；11-11.
- 13) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：番外編“ゲーム理論”（1）。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2010；12-12.
- 14) 町田幸雄：臨床検査部門の監理運営：番外編“ゲーム理論”（2）。（社）日本臨床衛生検査技師会会報JAMT 2010；13-13.

著 書

- 1) 町田幸雄，小松京子¹⁾（¹⁾ 杏林大学病院）：〔共著〕術中迅速細胞診標本作製法．Medical Technology，2009；pp705-711，医歯薬出版（株）．
- 2) 野本剛史：〔共著〕オペエート．広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査第7版（2）その数値をどう読むか，2010；pp515-517，（株）日本臨床社．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 町田幸雄：ISO9001規格の解説・医療機能評価（Ver6.0）．日本臨床検査同学院管理者のための品質マネジメント研修（平成21年度）（杏林大学医学部附属病院），2009. 5.
- 2) 町田幸雄：ISO15189規格の概略．日本臨床検査同学院管理者のための品質マネジメント研修（平成21年度）（杏林大学医学部附属病院），2009. 7.
- 3) 町田幸雄：臨床検査監理運営における作業環境管理について：有機溶剤・特定化学物質を中心に．病理技術研究会（平成21年度）（東京慈恵会医科大学病院），2009. 8.
- 4) 町田幸雄：SOPとは？．日本臨床検査同学院管理者のための品質マネジメント研修（平成21年度）（杏林大学医学部附属病院），2009. 9.
- 5) 町田幸雄：国際規格．日本臨床検査同学院管理者のための品質マネジメント研修（平成21年度）（杏林大学医学部附属病院），2009. 10.
- 6) 町田幸雄：検査室のマーケティングマネジメント．平成21年度検査研究部門研修会（総合管理部門）（コラッセふくしま），2009. 12.
- 7) 町田幸雄：基礎から納得！明日に生かせる統計術．埼玉県医学検査学会（第39回）（大宮ソニックシティ），2009. 12.
- 8) 町田幸雄：SWOT分析．日本臨床検査同学院管理・運営研修会（平成21年度）（杏林大学医学部附属病院），2010. 2.

[千葉北総病院薬剤部]

研究概要

近年薬剤師に求められる業務等変換期を向かえ，チーム医療を行なう上でも個々の専門性を高め，個人的資質の向上に勤めている．昨年に引き続き診療科と連携での臨床研究を行ってきた．また薬学教育における係りも多くなり，一部その結果も発表できた．各種認定薬剤師の取得に重きを置いた年となり，その成果の発揮を今後期待したいと

ころである。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 浜田康次：プリ・ガリアン賞. 日本病院薬剤師会雑誌 2009；45（4）：522-522.
- 2) 浜田康次：過敏性腸症候群治療剤. レシピ 2009；8（2）：68-69.
- 3) 浜田康次：黒人が高血圧になりやすい理由. 治療 2009；91（増刊号）：823-823.
- 4) 浜田康次：自飲3話：人に呑まれた薬の話. 治療 2009；91（増刊号）：896-896.
- 5) 浜田康次：サプリメントの怪. 治療 2009；91（増刊号）：931-931.
- 6) 浜田康次：バイエル・クロスの運命. 治療 2009；91（増刊号）：1106-1106.
- 7) 浜田康次：サリドマイドの復活. 治療 2009；91（増刊号）：1157-1157.
- 8) 浜田康次：新医薬品ビジョン2007. 日本病院薬剤師会雑誌 2009；45（6）：829-829.
- 9) 浜田康次：CKD関連薬剤：吸着剤を中心に. レシピ 2009；8（3）：70-71.
- 10) 浜田康次：はなこさん情報. 日本病院薬剤師会雑誌 2009；45（9）：1236-1236.
- 11) 浜田康次：生活習慣病の食事療法と薬物療法. 栄養-評価と治療 2009；26（5）：404-407.
- 12) 浜田康次：抗菌薬UPDATE. レシピ 2009；8（4）：68-69.
- 13) 浜田康次：新薬ファーマカード：オラベネム小児用細粒. 薬事 2010；52（1）：付録.
- 14) 浜田康次：緑内障点眼薬. レシピ 2010；9（1）：62-63.
- 15) 浜田康次：新薬ファーマカード：ミコンビ配合錠. 薬事 2010；52（2）：付録.
- 16) 浜田康次：似たような名称・外観に要注意！. 月刊ナーシング 2010；30（3）：12-15.
- 17) 浜田康次：医薬品の安全性に向けた製薬業界の取り組み. 月刊ナーシング 2010；30（3）：53-59.
- 18) 浜田康次：新薬ファーマカード：タイケルブ. 薬事 2010；52（3）：付録.

著書

- 1) 浜田康次：〔分担〕臨床ですぐに役立つ薬の知識. カルテの読み方と基礎知識, 第4版, 2009；pp247-322, じほう.
- 2) 浜田康次, 秦野 寛¹⁾, 福田正道²⁾, 佐藤憲一³⁾ (1) ルミネはたの眼科, 2) 金沢医科大学眼科, 3) 東北薬科大学 医薬情報科学)：〔分担〕抗菌薬サークル図. 抗菌薬サークル図データブック点眼薬編 (秦野 寛), 2009；pp49-81, じほう.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 渡邊暁洋：救命センター・集中治療室における薬剤師の関与. 日本薬剤師会関東ブロック学術大会（第39回）（長野），2009. 8.

(2) 一般講演：

- 1) 大野雅美, 渡邊暁洋, 岸 大輔, 中山 健, 福田恵子：日本医科大学千葉北総病院のオーダーリングシステムの変遷とリスク対策. 日本病院薬剤師会関東ブロック大会（第39回）（長野），2009. 8.
- 2) 花澤迪子, 渡邊暁洋, 福田恵子：日本医科大学千葉北総病院の糖尿病教室における薬剤師の役割. 日本薬剤師会関東ブロック学術大会（第39回）（長野），2009. 8.
- 3) 田辺典子¹⁾, 中山 健, 伊藤義樹, 花澤迪子, 下川陽子, 中田千博, 西脇龍広 (1) 門倉病院)：医薬品の客観的評価の試みVII. 日本薬剤師会関東ブロック学術大会（第39回）（長野），2009. 8.

- 4) 浜田康次, 星 憲司¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 小川雅教²⁾, 川上準子¹⁾, 岩谷香寿美¹⁾ (¹⁾ 東北薬科大学, ²⁾ メディファーム) : 処方薬の副作用情報を加算し可視化するツールの開発と評価. 日本薬学会東北支部大会 (第48回) (仙台), 2009. 10.
- 5) 吉澤一己, 福田恵子, 古山めぐみ¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 山田岳史¹⁾, 池森紀夫¹⁾, 益田律子¹⁾ (¹⁾ 緩和ケアチーム) : がん性疼痛治療に伴う制吐剤の多剤併用が原因と思われるアカシジアを呈した1症例. 日本緩和医療薬学会 (第3回) (横浜), 2009. 10.
- 6) 下川陽子, 下村直樹²⁾, 吉澤一己, 福田恵子, 古山めぐみ¹⁾, 三浦剛史¹⁾, 山田岳史¹⁾, 池森紀夫¹⁾, 益田律子¹⁾, 佐藤光利²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院緩和ケアチーム, ²⁾ 東邦大学薬) : フェンタニル貼付剤によって鎮痛耐性が疑われた1症例. 日本緩和医療薬学会 (第3回) (横浜), 2009. 10.
- 7) 浜田康次, 星 憲司¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 小川雅教²⁾, 川上準子¹⁾, 中山雄太¹⁾, 野澤雄乃介¹⁾ (¹⁾ 東北薬科大学, ²⁾ メディファーム) : 副作用情報を加算し可視化するWEBアプリケーションの開発と処方せん入力インターフェースの改良. 日本薬学会 (130年会) (岡山), 2010. 3.
- 8) 青木千紘¹⁾, 中山 健²⁾, 伊藤義樹²⁾, 花澤迪子²⁾, 下川陽子²⁾, 中田千博²⁾, 西脇龍広²⁾ : 医薬品の客観的評価の試みXIV. 千葉県病院薬剤師会会員研究発表会 (第25回) (千葉), 2010. 3.
- 9) 濃沼政美¹⁾, 浅井秀樹²⁾, 浅見 覚¹⁾, 小池勝也¹⁾, 杉浦邦夫³⁾, 鈴木 孝¹⁾, 高畠 亨¹⁾, 田畑恵市¹⁾, 福田恵子, 中村 均¹⁾ (¹⁾ 日本大学薬, ²⁾ 旭中央病院薬, ³⁾ 豊四季ファーマシー) : 品質管理手法を取り入れた医療リスクマネジメント教育の実践. 日本薬学会 (130年会) (岡山), 2010. 3.

[千葉北総病院放射線センター]

研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている。MRI検査部門ではRaysumを用いた椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging また頸動脈狭窄症に対するdiffusionとVHIVUS, OCTの検討, またSPGRを用いたAVMAVFに対する撮像法の検討を進めている。Angio検査部門ではOCT画像における残存血液が与える影響について検討。RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて、脳神経系についても行っている。放射線治療部門では放射線治療計画におけるウエッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている。CT検査部門では3次元CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 水野正之¹⁾, 高野雅充²⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 放射線センター, ²⁾ 循環器内科) : The effects of drug-eluting stent polymer on measurement of strut thickness by optical coherence tomography : In-vitro comparison with bare-metal stent. international journal of cardiology 2009 ; 3 (4) : 30-33.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 阿部雅志¹⁾ (¹⁾ 放射線センター) : 患者さんに優しい撮影技術 Total Radiology of the spine MRIからのアプローチ. 放射線技術学会 東京部会セミナー (第68回) (東京), 2009. 6.
- 2) 加藤丈司¹⁾ (¹⁾ 放射線センター) : 肝臓のMRI-EOB撮像法について. 船橋MRセミナー (船橋), 2009. 10.

- 3) 阿部雅志¹⁾ (1) 放射線センター)：患者さんに優しい撮影技術 肩関節疾患画像診断に対するMRIによるアプローチ. 日本放射線技術学会 東京部会 (第137回) (東京), 2009. 10.
- (2) セミナー：
- 1) 丸山智之¹⁾ (1) 放射線センター)：Total Radiology of the Spine “より良い撮影技術”. 日本放射線技術学会東京部会 技術セミナー (第68回) (東京), 2009. 6.
- (3) 一般講演：
- 1) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳史¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 中島健志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小南修史³⁾, 小林士郎³⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科)：3D TOF MOTOSA MRAにおける脳血管描出. 日本脳神経血管内治療学会総会 (第25回) (富山), 2009. 11.
- 2) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳史¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 河井梨恵¹⁾, 宮坂純基¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 古川一博²⁾, 中條秀信²⁾, 貝津俊英²⁾, 木島鉄仁²⁾, 川俣博志²⁾, 岡田 進²⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科)：椎骨脳底動脈における血管壁の3D Fusion MRA. 千葉MR研究会 (第37回) (千葉), 2010. 2.
- 3) 阿部雅志¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 岡田 進²⁾, 渡辺 玲³⁾, 小南修史³⁾, 小林士郎³⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科, 3) 脳神経外科)：頸動脈狭窄症に対するphased array coilを用いたMRIとVH-IVUS・OCTの検討. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第65回) (横浜), 2009. 4.
- 4) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 桑子智之²⁾, 中條秀信²⁾, 木島鉄仁²⁾, 川俣博志²⁾, 岡田 進²⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科)：椎骨脳底動脈における血管壁の3次元MRA. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第65回) (横浜), 2009. 4.
- 5) 池亀 敏¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳史¹⁾, 横山雪乃¹⁾, 河原崎昇¹⁾ (1) 放射線センター)：救急医療におけるMR Angiographyの高速撮像についての検討. 葛飾フレッシュマンズフォーラム (第2回) (東京), 2009. 5.
- 6) 永井淳史¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 河原崎昇¹⁾ (1) 放射線センター)：PROPELLER T₂強調画像撮影時における体動補正の検討. 葛飾フレッシュマンズフォーラム (東京), 2009. 5.
- 7) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳司¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 中島健志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾, 小南修史³⁾, 小林士郎³⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科, 3) 脳神経外科)：椎骨脳底動脈におけるFusion 3D MRA. 日本脳ドック学会総会 (東京), 2009. 6.
- 8) 水野正之¹⁾, 高野雅充²⁾, 清野精彦²⁾, 水野杏一²⁾ (1) 放射線センター, 2) 循環器内科)：OCT画像における残存血液が与える影響. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第18回) (東京), 2009. 8.
- 9) 阿部雅志¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 池亀 聡¹⁾, 岡田 進²⁾, 渡辺 玲³⁾, 小南修史³⁾, 小林士郎³⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科, 3) 脳神経外科)：頸動脈狭窄症に対するdiffusionとVH-IVUS, OCTの検討. 日本放射線技術学会秋季学術大会 (第37回) (岡山), 2009. 10.
- 10) 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳司¹⁾, 池亀 敏¹⁾, 中島健志¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 岡田 進²⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科)：椎骨脳底動脈における血流動態Fusion MRA. 日本放射線技術学会秋季学術大会 (第37回) (岡山), 2009. 10.
- 11) 池亀 敏¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 阿部雅志¹⁾, 永井淳史¹⁾, 横山雪乃¹⁾, 河原崎昇¹⁾ (1) 放射線科)：救急医療における高速MR Angiography. 日本放射線学会秋季学術大会 (第37回) (岡山), 2009. 10.
- 12) 丸山智之¹⁾, 渡辺典男¹⁾, 富里謙一¹⁾, 河原崎昇¹⁾ (1) 放射線センター)：トモシンセシスにおける画質の検討. 日本放射線技術学会 秋季学術大会 (第37回) (岡山), 2009. 10.
- 13) 阿部雅志¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 河原崎昇¹⁾, 池亀 聡¹⁾, 岡田 進²⁾, 渡辺 玲³⁾, 小南修史³⁾, 小林士郎³⁾ (1) 放射線センター, 2) 放射線科, 3) 脳神経外科)：SPGRを用いたAVM・AVFに対する撮像法の検討. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第26回) (富山), 2009. 11.

(4) フォーラム：

- 1) 丸山智之¹⁾ (1) 放射線センター)：放射線技師の救急対応概論について．日本放射線技術学会東京部会 技術フォーラム (第146回) (東京)，2009. 10.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当歯科では、歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的効果についての研究．全身疾患と歯科治療の関係において、II型糖尿病と歯周病との関係についての研究．交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的効果についての研究．有病者における口腔衛生管理に対する臨床的効果について研究などを行っている．

研究業績

著書

- 1) 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科)：〔翻訳〕第22章 歯槽提増成術．コーエン審美再建歯周外科 カラーアトラス (第3版) (鴨井久一)，2009；pp368-386，西村書店.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 鴨井久博¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科)：歯周治療におけるCO2レーザーの応用．第9回日本歯科用レーザー学会総会・学術大会 (新潟)，2009. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 並木真理¹⁾，小倉喜一郎¹⁾，田村友寛¹⁾，鴨井久博²⁾，鴨井久一³⁾ (1) ホワイトデンタルクリニック，2) 日本医科大学千葉北総病院歯科，3) 日本歯科大学)：再生療法後のメンテナンス治療中にプラークコントロールが悪化した1症例．第52回春季歯周病学会学術大会 (岡山)，2009. 5.
- 2) 千葉朋義¹⁾，鴨井久博²⁾，佐藤 聡¹⁾ (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部，2) 日本医科大学千葉北総病院歯科)：糖尿病患者の肥満型と歯周病との関連研究．第52回秋季歯周病学会学術大会 (宮崎)，2009. 10.

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年度の院内での研究発表は、10演題であった．発表内容は臨床における患者・家族に対する関わりや看護を探究したものであり、より良い看護を提供するための研究内容であった．また、脳神経センターでの看護研究は毎年定期的実践されており、学会発表も積極的になされている．7)～10)は、四病院看護継続教育において一年間受講し、その成果として四病院と院内で看護研究発表を行った．さらに、認定看護師の看護研究発表も継続的に行われている．

<テーマ>

- 1) 呼吸器センターにおける終末期患者の家族への関わりの実態
- 2) 看護師の腰痛発生調査と腰痛予防への意識の変容
- 3) 脳神経外科の器械出し看護師に求められる知識・技術の分析 - 脳神経外科の器械出し教育の方向性を探る -
- 4) 我々が行っている経鼻胃管自然抜去対策

- 5) 『おっばいママ』クラス受講後の授乳行動に対する有効性の検討
- 6) 被覆装着型離床センサー『うーご君』を有効に活用するための検討
- 7) 「くも膜下出血手術後の脳血管攣縮期を経過した患者家族のニードと心理状態を知る」 - CNS-FASEと面接からの分析を通して -
- 8) 「男性看護師のキャリア意識の分析」 - 大学病院に勤務する専門および指導職・管理職に従事している看護師のインタビューを通して -
- 9) 「救急外来看護師が困難と感じるメンタルヘルス科患者への対応」
- 10) 「摂食・嚥下障害をもつ患者の、摂食・嚥下訓練開始から経口摂取が可能になるまでの家族の思いの変化」
院外研究は、14演題が行われた。各学会へ積極的に参加発表した。

研究業績

著書

- 1) 岩橋美奈子：〔分担〕出会いから始まる糖尿病看護：わたしたちが大切にしていること。出会いから始まる糖尿病看護：わたしたちが大切にしていること，2009；医歯薬出版株式会社。
- 2) 渡辺光子：〔共著〕ストーマ・PEGスキントラブル対応法。smart nurse，2009；pp10-35，メディカ出版。
- 3) 成毛育恵：〔分担〕局所進行，転移・再発乳がんのケアの「困った」。乳がん看護困ったにこたえるサポートブック，2010；pp128-135，メディカ出版。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 成毛育恵：創部の受容・乳房補整のケア。千葉Breast care Nursing研究会（第11回），2009。5。

(2) 一般講演：

- 1) 山本優美子：パークベンチ体位における除圧用具の検討。脳神経外科手術と機器学会（第18回），2009。4。
- 2) 成毛育恵：ある（乳がん）患者への関わりで学んだ家族ケアと緩和ケアチームの役割。橘桜緩和医療研究会（第2回），2009。6。
- 3) 長谷川麻衣子，手代木美由希，西村花菜子，国府田淳子，廣瀬七恵，水成隆之¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科）：適切な経鼻胃管の選択による自然抜去防止。日本意識障害学会（第18回），2009。7。
- 4) 篠田朋美，小川真司¹⁾，中村利恵¹⁾，中島麻美¹⁾，原 行弘¹⁾（¹⁾日本医科大学千葉北総病院 リハビリテーション科）：摂食機能療法のシステム構築とマニュアルの普及により得られた効果。日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会（第15回），2009。8。
- 5) 岩橋美奈子：血糖変動関連因子を視覚化するセルフモニタリングツールの有効性。日本糖尿病教育・看護学会学術集会（第14回），2009。9。
- 6) 土肥いずみ：脳神経センターにおけるニューロナース活動の現状と問題点。日本脳神経外科学会学術総会（第68回），2009。10。
- 7) 廣瀬七恵：われわれが行っている経鼻胃管自然抜去対策。日本脳神経外科学会学術総会（第68回），2009。10。
- 8) 青木華映：ブラック除去を強化した口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防。日本脳神経外科学会学術総会（第68回），2009。10。
- 9) 出穂麻智子：脳神経外科の器械出し看護師に求められる知識・技術の分析。日本脳神経外科学会学術総会（第68回），2009。10。
- 10) 石橋聖仁：フライトナースが抱える小児救急搬送時の不安：教育プログラムの構築に向けた意識調査。日本航空医療学会総会（第16回），2009。11。

- 11) 小泉はるか：女性診療科がんで化学療法を受けた患者の情緒的均衡状態．日本がん看護学会学術集会（第24回），2010．2．
- 12) 梶原真理子：チームカンファレンスを継続していくための要因分析．千葉県看護研究学会（第28回），2010．2．
- 13) 新谷絢子：エンゼルメイク導入後における看護師の意識の変化．千葉緩和医療研究会（第10回），2010．2．

〔4〕 付 置 研 究 施 設

1. 老人病研究所

[病理部門]

研究概要

部門の研究には1) ケロイド発生機序の研究 2) 血管形成メカニズムの解析 3) 社会連携研究－認知症まちぐるみ支援ネットワーク事業がある。

1) ケロイド発生機序の研究 武蔵小杉病院形成外科と無瘢痕創傷を目的に肥厚性瘢痕とケロイド発生の解析を行っている。これまでケロイド発生に関与する遺伝子解析でIL-6, c-Abl遺伝子の発現上昇を見いだしIL-6シグナルのケロイド発生への関与を明らかにした。ケロイドではTGF-betaやPDGFが過剰発現を示すことからこれらのシグナル伝達を同時に抑制する小分子標的治療薬STI571のケロイド線維芽細胞への投与によるプロコラーゲン産生とタイプIコラーゲンmRNAの発現の低下を目的にケロイド新薬としての可能性の解析を進めている。さらに、TGF-betaとPDGFシグナル伝達の抑制に関与するmicroRNA遺伝子を解析しケロイド線維化調節に関わるCOLIA2プロモーターの転写発現調節に関する研究にも着手している。

2) 血管形成メカニズムの解析 血管には大動脈から毛細血管まで様々な大きさのものが存在する。我々はこの構造の違いがどのように生じるのか、血管の大きさを規定する機構についての研究を行っている。これまでに、ダウン症原因遺伝子RCAN1が血管の分岐を抑制し、血管の大きさを太くすることをアフリカツメガエルの過剰発現実験で明らかにしている。現在は他の候補遺伝子の血管形態への作用機序を検討しており、将来は様々な大きさの血管を薬剤によって誘導できる新規治療法の開発を目指している。血管の大きさは対象となる疾患によって大きく異なることから、汎用性の高い治療法として期待される。

3) 社会連携研究 認知症相談センターを起点に認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る社会連携事業を行い、都市型コホート研究を行っている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分：

- 1) 長谷部孝¹⁾, 藤原正和, 川並汪一, 岡 敦子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学生物医学部) : アフリカツメガエル初期胚を用いた遺伝子の機能解析. 日医大医会誌 2009 ; 5 (1) : 4-5.

(1) 原著：

- 1) Takizawa Y, Taniuchi N, Ghazizadeh M, Enomoto T¹⁾, Sato M¹⁾, Jin E, Azuma A¹⁾ (¹⁾ 4th Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Bronchoalveolar lavage fluid analysis provides diagnostic information on pulmonary cell histiocytosis. J Nippon Med Sch 2009 ; 76 (2) : 84-92.
- 2) Eda H¹⁾, Sato S²⁾, Sasaki Y²⁾, Adachi A²⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Kobuchisawa Research Laboratories, Fuji Biomedix Inc, Kobuchisawa-cho, Yamanashi, Japan, ²⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Ischemic damage and subsequent proliferation of oligodendrocytes in hippocampal CA1 region following repeated brief cerebral ischemia. Pathobiology 2009 ; 76 (4) : 204-211.
- 3) Yokota T, Nagashima M, Ghazizadeh M, Kawanami O : Increased effect of fucoidan on lipoprotein lipase secretion in adipocytes. Life Sci 2009 ; 84 (15-16) : 523-529.

- 4) Liu A¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Hosone M³⁾, Namimatsu H²⁾, Maeda S³⁾, Naito Z⁴⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Pathology Division, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, ³⁾ Pathology Division, Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, ⁴⁾ 2nd Department of Pathology, Nippon medical School, Tokyo, Japan) : CD30-positive DLBCL with microvillous features : So-called microvillous lymphoma. *J Clin Pathol* 2009 ; 62 (9) : 840-844.
 - 5) Sato S¹⁾, Yanagihara T³⁾, Ghazizadeh M, Ishizaki M²⁾, Adachi A¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Igarashi T³⁾, Fukunaga Y³⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Correlation of autophagy type in podocytes with histopathological diagnosis of IgA nephropathy. *Pathobiology* 2009 ; 76 (5) : 221-226.
 - 6) Sato S¹⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon medical School, Tokyo, Japan) : Lamellar body formation and dark multi-vesicular body' s pocket in fetal and after-born normal rat alveolar type II cells : Ultrastructural study. *Exp Lung Res* 2009 ; 35 (9) : 748-755.
- (2) 総説 :
- 1) 北村 伸¹⁾, 川並汪一 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : アルツハイマー病臨床の最前線. *Medical Science Digest* 2009 ; 20 (11) : 1265-1269.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Shimizu H, Nomura K^{1, 2)}, Yamagishi S³⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan, ³⁾ Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Methionine aminopeptidase 2 (MetAP2) as a potential therapeutic target for human non-small cell lung cancers. The 1st International Forum of Regional Targeting Therapies for Cancer (Shanghai, China), 2009. 11.
- 2) Ghazizadeh M : MicroRNA profile of cisplatin resistant ovarian carcinoma. The 1st International Forum of Regional and Targeting Therapies for Cancer (Shanghai, China), 2009. 11.

(2) 一般講演 :

- 1) Nomura K, Katsumata T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Ghazizadeh M, Jin E, Fujiwara M, Egawa S, Shimizu H, Nishiyama Y¹⁾, Otori T¹⁾, Kawanami O, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : Effect of long-term administration of HMG-CoA reductase inhibitor, Atorvastatin, on microvessels in the brain of stroke-prone spontaneously hypertensive rats. *International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (the 24th)* (Chicago, USA), 2009. 6.
- 2) Ghazizadeh M, Shimizu H, Tosa M¹⁾, Egawa S, Murakami M¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musashi Kosugi Hospital, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan) : Effect of imatinib mesylate (STI571) on keloid fibroblast cell functions. *The 34th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (Fukuoka)*, 2009. 12.
- 3) 清水 一, ガジザデモハマッド : 抗癌剤耐性白血病細胞株の増幅, 欠失染色体領域の解析. 癌の転移と浸潤性増殖に関する研究会 (第20回), 2009. 6.
- 4) 石井知香¹⁾, 根本留美¹⁾, 若松直樹¹⁾, 野村俊明²⁾, 北村 伸³⁾, 宗像一雄³⁾, 川並汪一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター, ²⁾ 日本医科大学心理学, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 街ぐるみ認知症相談センターにおけるタッチパネル式スクリーニング機器による認知症早期発見の試み.

第24回日本老年精神医学会総会（横浜），2009. 6.

- 5) 野村浩一，上田雅之，駒場祐一，瀬田健博，桂研一郎，片山泰朗：まれな画像所見を認めた脳表ヘモジデリン沈着症の1症例. 第27回日本神経治療学会総会（熊本市），2009. 6.
- 6) 石井知香¹⁾，根本留美¹⁾，若松直樹^{1,2)}，宗像一雄³⁾，川並汪一¹⁾，野村俊明⁴⁾，北村 伸³⁾（¹⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門 街ぐるみ認知症相談センター，²⁾ 桜美林大学加齢・発達研究所，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科，⁴⁾ 日本医科大学 基礎科学・心理学）：専門職における認知症ケア実践の意識調査. 第10回日本認知症ケア学会（東京），2009. 10.
- 7) 藤原正和，長谷部孝¹⁾，岡 敦子¹⁾，ガジザデモハマッド（¹⁾ 日本医科大学生物学）：VEGFによって誘導される遺伝子の血管形態における役割. 第17回日本血管生物医学学会学術集会（東京），2009. 10.

[生化学部門]

研究概要

老人病研究所生化学部門では老化や病気の原因を細胞の中から探っている。細胞内小器官のミトコンドリアはエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっており、その機能を重視しながら様々な疾患への関与を探り、その予防・治療に寄与しようとする点が特色である。「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている。共同研究を含め2009年発表した原著論文は14報である。ミトコンドリアから発せられる電子と酸素が結びつくことで生まれる活性酸素がほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている。その中で遺伝子を破壊する「ヒドロキシルラジカル」などの活性酸素だけを選択的に排除する抗酸化物質が「水素」であることを当研究室で発見し、今年度もその水素の医療応用への可能性を追及した。発表論文は、5報である。その他、抗酸化物質に関する論文を2報発表した。2000年にミトコンドリアのアルデヒド脱水素酵素2の酵素活性欠損型が酸化ストレスを亢進させアルツハイマー病の危険因子である事を報告したが、さらに研究を発展させ、酸化ストレス亢進によって誘発される酸化ストレスに対する防御機構を分子レベルで解明した。この研究は米国循環器内科研究誌Circulation ResearchのEditoriaで紹介され、高い評価を得た。

学会活動では、教授は、日本ミトコンドリア学会の理事長を勤め、さらに2009年に発足した日本Cell Death学会の初代理事長に選出された。また、ミトコンドリア病患者家族の会の顧問として、ミトコンドリア病の特定疾患認定に貢献した。積極的に他大学との共同研究をすすめ、本年度の発表論文の共同研究相手先は、慶應大学医学部、慶應大学薬学部、名古屋大学医学部、北里大学薬学部、帝京大学医学部、鹿屋体育大学等である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Fu Y¹⁾，Ito M¹⁾，Fujita Y²⁾，Ito M²⁾，Ichihara M³⁾，Masuda A¹⁾，Suzuki Y¹⁾，Maesawa S⁴⁾，Kajita Y⁵⁾，Hirayama M⁶⁾，Ohsawa I⁷⁾，Ohta S，Ohno K¹⁾（¹⁾ Div. Neurogenetics, Ctr Neurological Dis. Cancer, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med.，²⁾ Dept. Longevity and Aging Res., Gifu Internat. Inst. Biotechnol.，³⁾ Dept. Biomed. Sci. Coll. Life and Health Sci. Chubu Univ.，⁴⁾ Dept. Neurosurgery, Nagoya Centl. Hosp.，⁵⁾ Dept. Neurosurgery, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med.，⁶⁾ Dept. Neurol. Nagoya Univ. Grad. Sch. Med.，⁷⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.）：Molecular hydrogen is protective against 6-hydroxydopamine-induced nigrostriatal degeneration in a rat model of Parkinson's disease. *Neurosci Lett* 2009；453 (2)：81-85.
- 2) Nakajima S，Ohsawa I¹⁾，Nagata K，Ohta S，Ohno M²⁾，Ijichi T³⁾，Mikami T⁴⁾（¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.，²⁾ Dept. Grad. Sch. Nippon Sport Sci. Univ.，³⁾ Combi Corporation，⁴⁾ Dept. Health and Sports Sci.）：

- Oral supplementation with melon superoxide dismutase extract promotes antioxidant defences in the brain and prevents stress-induced impairment of spatial memory Behavioural. Brain Res 2009 ; 200 (1) : 15-21.
- 3) Suzuki Y, Sano M¹⁾, Hayashida K¹⁾, Ohsawa I²⁾, Ohta S, Fukuda K¹⁾ (¹⁾ Dept. Regenerative Med. Advanced Cardiac Therapeutics, Keio Univ. Sch. Med. , ²⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : Are the effects of a-glucosidase inhibitors on cardiovascular events related to elevated levels of hydrogen gas in the gastrointestinal tract?. EBS Letters 2009 ; 583 (13) : 2157-2159.
 - 4) Mizutani S, Miyato Y, Shidara Y¹⁾, Asoh S, Tokunaga A²⁾, Tajiri T³⁾, Ohta S (¹⁾ Dept. Pathol. , Tokyo Women' s Med. Univ. , Sch. Med. , ²⁾ Inst. Gastroenterol. , Musashikosugi Hosp. , ³⁾ Dept. Surgery) : Mutations in the mitochondrial genome confer resistance of cancer cells to anti-cancer drugs. Cancer Science 2009 ; 100 (9) : 1680-1687.
 - 5) Nakashima-Kamimura N, Mori T¹⁾, Ohsawa I²⁾, Asoh S, Ohta S (¹⁾ Inst. Med. Sci. , Saitama Med. Ctr/Univ. , ²⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : Molecular hydrogen alleviates nephrotoxicity induced by an anti-cancer drug cisplatin without compromising anti-tumor activity in mice. Cancer Chemother Pharmacol 2009 ; 64 (4) : 753-761.
 - 6) Nakashima Y¹⁾, Ohsawa I²⁾, Konishi F¹⁾, Hasegawa T¹⁾, Kumamoto S¹⁾, Suzuki Y, Ohta S (¹⁾ Res. Laboratories, Chlorella Industry Co. Ltd, ²⁾ The Ctr Mol. Hydrogen Med.) : Preventive effects of Chlorella on cognitive decline in age-dependent dementia model mice. Neurosci Lett 2009 ; 464 (3) : 193-198.
 - 7) Endo J^{1,2)}, Sano M^{1,3)}, Katayama T²⁾, Hishiki T⁴⁾, Shinmura K⁵⁾, Morizane S¹⁾, Marsuhashi T^{1,2)}, Katsumata Y^{1,2)}, Zhang Y¹⁾, Ito H¹⁾, Nagahata Y⁴⁾, Marchitti S⁷⁾, Nishimaki K, Wolf A, Nakanishi H⁸⁾, et al. (¹⁾ Dept. Regenerative Med. Advanced Cardiac Therapeutics Keio Univ. Sch. Med. , ²⁾ Cardiol. Div. Dept. Internal Med. Keio Univ. Sch. Med. , ³⁾ Precursory Res. Embryonic Sci. Technol. (PRESTO) Japan Sci. Technol. Agency, ⁴⁾ Dept. Biochem. Integrative Med. Biol. Keio Univ. Sch. Med. , ⁵⁾ Div. Geriatric Med. Keio Univ. Sch. Med. , ⁶⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med. , ⁷⁾ Dept. Pharmaceutical Sci. , Univ. Colorado Health Sci. Ctr. , ⁸⁾ Dept. Metabolome Univ. , ⁹⁾ Neuronal Circuit Mechanisms Res. Group Brain Sci. Inst. , (RIKEN)) : Metabolic Remodeling Induced by Mitochondrial Aldehyde Stress Stimulates Tolerance to Oxidative Stress in the Heart. Circ Res 2009 ; 115 (11) : 1118-1127.
 - 8) Oharazawa H¹⁾, Igarashi T²⁾, Yokota T³⁾, Fujii H¹⁾, Suzuki H²⁾, Machide M⁴⁾, Takahashi H²⁾, Ohta S, Ohsawa I⁴⁾ (¹⁾ Dept. Ophthalmol. , Musashikosugi Hosp. , ²⁾ Dept. Ophthalmol. , ³⁾ Dept. Mol. Biol. , ⁴⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : Protection of the retina by rapid diffusion of hydrogen : administration of hydrogen-loaded eye drops in retinal ischemia-reperfusion injury. Invest. Ophthalmol. Vis. Sci 2010 ; 51 (1) : 487-492.
 - 9) Matuda S¹⁾, Arimura T²⁾, Kimura A²⁾, Takekura H¹⁾, Ohta S, Nakano K³⁾ (¹⁾ Dept. Biol. Health Sci. , Kanoya National Inst. Fitness and Sports. , ²⁾ Dept. Mol. Pathogenesis, Med. Res. Inst. , Tokyo Med. Dental Univ. , ³⁾ Dept. Biochem. , Kagoshima Women' s Junior Coll.) : A novel protein found in the I bands of myofibrils is produced by alternative splicing of the DLST gene. Biochim Biophys Acta 2010 ; 800 (1) : 31-39.
 - 10) Nakajima S, Ohsawa I¹⁾, Ohta S, Ohno M²⁾, Mikami T³⁾ (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med. , ²⁾ Dept. Grad. Sch. Nippon Sport Sci. Univ. , ³⁾ Dept. Health and Sports Sci.) : Regular voluntary exercise cures stress-induced impairment of cognitive function and cell proliferation accompanied by increases in cerebral IGF-1 and GST activity in mice. 2010 ; 211 (2) : 178-184.

著 書

- 1) Ohta S : [自著] 水素ガスと水素水による新しい概念の抗酸化治療法と予防医学. 老年医学 update2009-10 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2009 ; pp89-99, メジカルレビュー.

- 2) Ohta S : [自著] 水素水は老化を防げるか?. BIO Clinica , 2010 ; pp47-51, 北隆館.
- 3) Ohta S, Hayashi J¹⁾, Kita K²⁾, Tanaka M³⁾ (¹⁾ Tsubaki Univ. , ²⁾ Tokyo Univ. , ³⁾ Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol.) : [自著] ここまでわかったミトコンドリア研究の新展開. 医学のあゆみ, 2010 ; pp636-656, 医歯薬出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Ohta S : 水素分子による抗酸化治療・抗酸化予防法の開発. 日本基礎老化学会 (第51回), 2009. 6.
- 2) Ohta S : 水素分子による抗酸化治療・予防医学への可能性. 分子病理学研究会 (第28回), 2009. 7.

(2) 招待講演 :

- 1) Ohta S : ミトコンドリアから発せられる酸化ストレスと水素分子による抗酸化治療・予防. 日本抗加齢医学会総会 (第9回) (東京), 2009. 7.

(3) シンポジウム :

- 1) Ohta S : がん細胞のミトコンドリアDNAの体細胞変異によるアポトーシス耐性. 日本アポトーシス研究会学術集会 (日本Cell Death学会設立記念学術集会) (第18回) (長崎), 2009. 8.
- 2) Ohta S : 水素水の経口投与によるシスプラチンの副作用軽減. 日本臨床分子形態学会総会 (第41回) (神戸), 2009. 9.

(4) 一般講演 :

- 1) Aoki K, Ohsawa I¹⁾, Suzuki Y, Ohta S, Taniyama M²⁾ (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med. , ²⁾ Dept. Internal Med. Endocrinol. Metabolism Showa Univ. Fujigaoka Hosp.) : 4-hydroxynonenalの代謝に対するアルドース還元阻害薬が及ぼす影響について. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第52回) (Osaka), 2009. 5.
- 2) Hanaoka T, Ohta S, Ohsawa I¹⁾, Kamimura N, Itoh H²⁾ (¹⁾ 水素医学, ²⁾ 整形外科) : 水素分子による軟骨組織の酸化ストレス傷害の軽減. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第24回), 2009. 11.
- 3) Wolf MA, Ohsawa I¹⁾, Ohta S (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : ミトコンドリアアルデヒド脱水素酵素による呼吸鎖活性の維持とミトコンドリア機能の保護. 日本ミトコンドリア学会年会 (第9回) (東京), 2009. 12.
- 4) Kamimura N, Ohsawa I¹⁾, Ohta S (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : 糖尿病モデルマウスの症状改善に対する水素分子の効果. 日本分子生物学会年会 (第32回) (横浜), 2009. 12.
- 5) Nishimaki K, Ohsawa I¹⁾, Nagata K, Murakoshi N¹⁾, Ohta S (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : 水素水投与によるアルツハイマー病モデル動物の加齢に伴う認知機能低下抑制効果. 日本分子生物学会年会 (第32回) (横浜), 2009. 12.
- 6) Wolf MA, Ohta S : ミトコンドリアアルデヒド脱水素酵素は, 呼吸鎖活性を維持し, ミトコンドリア機能を護る. 日本分子生物学会年会 (第32回) (Yokohama), 2009. 12.
- 7) Nishimaki K, Ohsawa I¹⁾, Nagata K, Murakoshi N¹⁾, Ohta S (¹⁾ Ctr. Mol. Hydrogen Med.) : 水素水投与によるアルツハイマー病モデル動物の加齢に伴う認知症機能低下抑制効果. 水素研究会学術集会 (第2回) (東京), 2010. 2.

[免疫部門]

研究概要

我々は, 癌抑制因子p53がグルコース代謝を制御していること, p53が機能欠損するとこの制御が破綻してグルコース代謝が亢進し, そのことが癌遺伝子によって細胞がトランスフォームし腫瘍を形成する能力を獲得するのに重要

な役割を担っていることを明らかにしてきた。更に、p53欠損細胞でのグルコース代謝の上昇がNF- κ Bの活性化を介してグルコース代謝を更に亢進させるというポジティブフィードバック機構が存在することを見いだしている。このポジティブフィードバック機構がNF- κ B活性化因子IKK β のセリン733のO-GlcNAc修飾によって制御されていることを見いだした。実際、この部位に変異を導入したIKK β は持続的なグルコース代謝の亢進を続けることができなくなることから、IKK β のO-GlcNAc修飾が癌細胞での持続的なエネルギー産生機構に重要であることが示唆された。我々の研究から、p53がNF- κ Bの制御を介してグルコース代謝を調節していること、p53の機能が無くなるとグルコース代謝が上昇してエネルギーの産生が増えること、このことが癌化に重要であることが示された。一方、個体の発癌過程でのグルコース代謝の影響を調べるために炎症誘発癌の系を解析する過程で、炎症性サイトカインであるIL-6がStat3を介して解糖系酵素の発現を誘導してグルコース代謝を亢進させることを見いだしており、これを基に実際の発癌でのグルコース代謝の影響についての解析を行っている。本年度は、更に炎症反応を糖代謝を標的として制御する新たな治療法を発見するなど、新しい分野にも研究を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Aikawa T¹⁾, Shinozawa K¹⁾, Tanaka N, Tsujimoto Y¹⁾ (1) Laboratory of Molecular Genetics, Department of Medical Genetics, Osaka University Medical School, Japan) : Noxa is necessary for hydrogen peroxide-induced caspase-dependent cell death. FEBS lett 2010 ; 584 (4) : 681-688.

(2) 総説：

- 1) 田中信之：p53による糖代謝の調節と癌化の抑制機構。実験医学増刊「肥満・糖尿病の病態を解明するエネルギー代謝の最前線」 2009 ; 27 (7) : 1018-1024.
- 2) 田中信之：p53による代謝の調節とがん抑制機構。生化学 2009 ; 81 (6) : 486-493.
- 3) 阿部芳憲, 田中信之：Hedgehogシグナル伝達経路活性化によるユビキチン化を介したp53の分解亢進の意義。生体の科学 2009 ; 60 (6) : 541-545.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 田中信之：癌化におけるIKK β のO-GlcNAc修飾の役割。第82回日本生化学会大会 シンポジウム「翻訳後修飾ADP-リボシル化とO-GlcNAc化の意義」(神戸国際会議場(兵庫県)), 2009. 10.

(2) 一般講演：

- 1) Nakajima W, Asano Y, Tanaka N : Mechanism of Bax activation by Noxa and other BH3-only proteins. Cold Spring Harbor Laboratory Cell Death meeting 2009 (Cold Spring Harbor Laboratory, The Meetings & Courses Office, NY, USA), 2009. 10.
- 2) 川内敬子, 田中信之：Loss of p53 enhances NF- κ B activation via catalytic activity of IKK. 第32会 日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜(神奈川県)), 2009. 12.
- 3) 阿部芳憲, 鈴木陽輔, 田中信之：癌化に関わる新規hedgehogシグナル伝達分子の解析。第32会 日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜(神奈川県)), 2009. 12.
- 4) 中嶋 亘, 浅野由ミ, 田中信之：Apoptosis誘導因子Baxの活性化機構の解析。第32会 日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜(神奈川県)), 2009. 12.
- 5) 上原郁野, 安藤 大, 小暮佳代, 浅野由ミ, 川内敬子, 田中信之：大腸炎誘発癌におけるグルコース代謝亢進の役割の解析。第32会 日本分子生物学会年会 (パシフィコ横浜(神奈川県)), 2009. 12.

[疫学部門]

研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明をめざし、ホルモン・生理活性物質を対象として生理学的研究を行っている。ホルモンの分泌調節機構の解明、ホルモンの作用機序の研究、ホルモンの細胞内シグナル伝達機構を解明する。

(1) 動物の栄養状態に応答するインスリン・IGF-Iシグナルの変動と意義について検討した。低タンパク質栄養状態の動物では、タンパク質代謝が低下するためにエネルギー消費量も低下するが、余剰となった糖を主に肝臓が取り込み、脂質として蓄積する仕組みが稼働していることが明らかとなった。

(2) 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用の解明をめざし研究している。GHが転写因子 X-box binding protein 1 (XBP1) の活性化を介して小胞体ストレスの解除に関係している可能性を検討した。

(3) アディポネクチンの抗炎症作用について検討し、肥満関連炎症性疾患の病態（粥状動脈硬化や急性冠動脈症候群）の進展において重要な役割を果たすマクロファージに対するアディポネクチンの抗炎症分子メカニズムを解明する。アディポネクチンは、内皮細胞の接着分子の発現抑制を介して単球の内皮細胞への接着を制限し、内膜下に入れた単球由来マクロファージの泡沫化や炎症性サイトカイン産生、リンパ球の動脈硬化巣への浸潤を抑制し、血管平滑筋の増殖を抑制した。その他、アディポネクチンの抗気道炎症作用、心臓移植免疫における抗炎症作用などを明らかにした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Medoff BD^{1, 2)}, Okamoto Y^{3, 5)}, Leyton P⁴⁾, Weng M^{1, 2)}, Sandall BP¹⁾, Raheer MJ⁴⁾, Kihara S⁵⁾, Bloch KD⁴⁾, Libby P³⁾, Luster AD¹⁾ (1) Division of Rheumatology, Allergy and Immunology, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, USA, 2) Pulmonary and Critical Care Unit, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, USA, 3) Division of Cardiovascular Medicine, Brigham & Women's Hospital, Harvard Medical School, USA, 4) Cardiovascular Research Center and Anesthesia Center for Critical Care Research, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, USA, 5) Department of Metabolic Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University) : Adiponectin deficiency increases allergic airway inflammation and pulmonary vascular remodeling. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2009 ; 41 (4) : 397-406.
- 2) Okamoto Y^{1, 2)}, Christen T¹⁾, Shimizu K¹⁾, Asano K³⁾, Kihara S⁴⁾, Mitchell RN³⁾, Libby P¹⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, USA, 2) Department of Internal Medicine, Social Insurance Kinan Hospital, 3) Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, USA, 4) Department of Metabolic Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University) : Adiponectin Inhibits Allograft Rejection in Murine Cardiac Transplantation. *Transplantation* 2009 ; 88 (7) : 879-883.

(2) 総説：

- 1) Libby P¹⁾, Okamoto Y, Rocha VZ¹⁾, Folco E¹⁾ (1) Division of Cardiovascular Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, USA) : Inflammation in atherosclerosis : transition from theory to practice. *Circ J* 2010 ; 74 (2) : 213-220.
- 2) 岡本芳久, 木原進士¹⁾ (1) 大阪大学大学院・内分泌代謝内科) : アディポネクチンによる動脈硬化防御機構. *アディポサイエンス* 2009 ; 6 (2) : 121-126.
- 3) 高橋伸一郎¹⁾, 竹中麻子²⁾, 豊島由香³⁾, 木村久美³⁾, 加藤久典⁴⁾, 福嶋俊明¹⁾, 山中大介³⁾, 伯野史彦¹⁾, 南

史朗³⁾, 岩下光利⁵⁾ (1) 東京大学大学院農学生命科学研究科, ²⁾ 明治大学農学部, ³⁾ 日本医科大学老人病研究所, ⁴⁾ 東京大学総括プロジェクト機構, ⁵⁾ 杏林大学医学部): 発達と成長を司るホルモン, インスリン様成長因子. 日本未熟児新生児学会雑誌 2010; 22 (1): 19-25.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Toyoshima Y, Tokita R, Hakuno F¹⁾, Kato H²⁾, Minami S, Takahashi S¹⁾ (1) Animal Sciences, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo, , ²⁾ Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agriculture and Life Science, The University of Tokyo): Effects of protein restriction on insulin signals in liver, muscle, and adipose tissues of rats in response to endogenous insulin. International Congress of Nutrition (19th) (Bangkok, Thailand), 2009. 10.
- 2) 山中大介¹⁾, 赤間 剛²⁾, 福嶋俊明²⁾, 南 史朗¹⁾, 千田和広²⁾, 伯野史彦²⁾, 高橋伸一郎²⁾ (1) 日本医科大学老人病研究所, ²⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻): PI 3-kinase activity associated with PITKAP/XB130 that is recruited to F-actin is required for potentiation of IGF-I-induced cell proliferation. 日本分子生物学会年会 (第32回) (横浜), 2009. 12.
- 3) 豊島由香, 時田玲子, 伯野史彦¹⁾, 加藤久典²⁾, 南 史朗, 高橋伸一郎¹⁾ (1) 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻, ²⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻): 低タンパク質食給餌にตอบสนองした肝臓のインスリンシグナルの増強と脂肪蓄積. 日本栄養・食糧学会大会 (第63回) (長崎), 2009. 5.
- 4) 八木 孝¹⁾, 島田博美²⁾, 朝倉啓文²⁾, 春原沙織¹⁾, 小川ゆかり¹⁾, 南 史朗 (1) 武蔵小杉病院内科, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科・産科): 分娩時大量出血直後に低ナトリウム血症で発症したSheehan症候群の1例. 日本内分泌学会学術総会 (第83回) (京都), 2010. 3.

[生体応答学部門]

研究概要

認知症相談センターを起点に認知症になっても安心して暮らせるように, 一般市民, 医療機関, 介護機関, 行政, 企業などとネットワークを作る社会連携事業を行い, 都市型コホート研究を行っている. 認知症早期発見のために街ぐるみ認知症相談センターでは検査を行い, 認知症疑いの人を発見し, 診断に進むことを促進させ, かかりつけ医が主体となる認知症診療システムを作ることを実践し, かかりつけ医との共同研究を行っている. 認知症早期発見に関して脳機能活性度計測法DIMENSIONの有用性について脳機能研究所と共同研究を行っている. 市民が認知症について理解を深めるような試み, 認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みなどを行う社会連携研究を行っている.

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 北村 伸¹⁾, 川並汪一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所病理部門): アルツハイマー病臨床の最前線. Medical Science Digest 2009; 35 (4): 138-141.
- 2) 野村浩一¹⁾, 北村 伸²⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科): 老年期の意識障害・けいれん発作: 神経内科医の立場から. 老年精神医学雑誌 2009; 20 (11): 1265-1269.

著書

- 1) 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：〔分担〕わかりやすい画像の話．老年医学の基礎と臨床II (浦上克哉編集 大内尉義監修)，2009；pp205-228，ワールドプランニング 東京．
- 2) 石渡明子¹⁾，北村 伸²⁾ (1) 日本医科大学付属病院内科 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：〔分担〕画像診断の進め方．老年医学の基礎と臨床II (浦上克哉編集 大内尉義監修)，2009；pp229-244，ワールドプランニング 東京．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 北村 伸¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：認知症の診断技術のスキルアップ “スクリーニングから鑑別まで”．デメンシアコンgres JAPAN 2009 (東京)，2009. 7.
- 2) 北村 伸：認知症診療に実際 問診と神経学的診察．第51回日本老年医学会学術集会 (認知症診療の実践セミナー) (高知)，2009. 6.

(2) 一般講演：

- 1) 石井知香¹⁾，根本留美¹⁾，若松直樹¹⁾，野村俊明²⁾，北村 伸³⁾，宗像一雄³⁾，川並汪一¹⁾ (1) 日本医科大学老人病研究所病理部門街ぐるみ認知症相談センター，²⁾ 日本医科大学心理学，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：街ぐるみ認知症相談センターにおけるタッチパネル式スクリーニング機器による認知症早期発見の試み．第24回日本老年精神医学会総会 (横浜)，2009. 6.

2. 呼吸ケアクリニック

研究概要

平成15年12月に日本医大旧第4内科の一部門として日本医大呼吸ケアクリニックを開設した。1) 専門性の高い呼吸ケアの実施, 2) 患者サービスの向上と維持, 3) 他の診療機関との医療連携の推進, 4) 大学付属施設としての研究の実施と新しい情報の発信源となる, を経営理念としてきた。開院以来, これまでに初診の受診者は約8000名に達しており全国, 各都道府県のほか少数ではあるが外国からの受診がある。診療項目はCOPD, 気管支喘息, 睡眠時無呼吸症候群 (SAS), 在宅酸素療法, 在宅人工呼吸療法にほぼ特化した形で, 全体の85%以上を占めているが最近の傾向としてこれら以外の難治性の慢性呼吸器疾患の受診が増えており対外的な評価はほぼ定まってきたように思われる。これらの専門診療のうち特にCOPDに関して基礎的, 臨床的な研究を進めてきた。

1. 基礎研究科研究費を得てSNPsの差異がCOPDのclinical phenotypeにどのように反映するかをテーマとして研究を進めた。共同研究では大阪大学, 谷口直之教授らとの糖鎖に関する研究, SNPsについては東京都老人医療センター (現, 東京都健康長寿医療センター) における連続剖検の解析を東京医科歯科大学との共同研究として進めた。また厚労科研費により禁煙について信州大学, 群馬大学と共同研究のプロジェクトを立ち上げ問題点を明らかにした。

2. 大気汚染公害に関する委託研究により呼吸ケアの医療連携の理論的解析をテーマとして東京大学工学部, 飯塚悦功教授, 流水聡子教授らの研究室と共同研究を進め, 修士論文を指導した。英国, プリマス大学との共同研究としてCOPDの日常診療の中で多面的評価に評価しこれが予後と密接に関係することを明らかにしたDOSE indexをイギリス, オランダの各専門研究者と共同開発し欧文誌に発表した。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Jones CR¹⁾, Donaldson CG²⁾, Chavannes HN³⁾, Kida K^{4, 5)}, Dickson-Spillmann M¹⁾, Harding S¹⁾, Wedzicha AJ²⁾, Price D⁶⁾, Hyland EM⁷⁾ (1) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, University of Plymouth, Devon, 2) Department of Medicine, Academic Unit of Respiratory Medicine, University College London, London, United Kingdom, 3) Department of Public Health and Primary Care, Leiden University Medical Center, Leiden, The Netherlands, 4) Department of Pulmonary Medicine, Infection, and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 5) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 6) Department of General Practice and Primary Care, Foresterhill Health Centre, University of Aberdeen, 7) School of Psychology, University of Plymouth, Devon, United Kingdom) : Derivation and validation of a composite index of severity in chronic obstructive pulmonary disease - The DOSE index. *Am J Respir Crit Care Med* 2009 ; 180 (12) : 1189-1195.
- 2) Motohashi N^{1, 2)}, Kimura K¹⁾, Ishii T^{1, 2)}, Wakabayashi R^{1, 2)}, Kurosaki H^{1, 2)}, Yamada K^{1, 2)}, Jones CR³⁾, Gemma A¹⁾, Kida K^{1, 2)} (1) Department of Respiratory Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, Plymouth, UK) : Emphysema on imaging is associated with quality of life in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Geriatr Gerontol Int* 2010 ; 10 (1) : 17-24.

(2) 総説:

- 1) 茂木 孝 : COPDと併存症をめぐって 心血管障害 冠動脈疾患を中心に, *呼吸* 2009 ; 28 (4) : 437-440.

- 2) 石井健男, 木田厚瑞: 鬱病あるいは鬱傾向・「全身性疾患としてのCOPDとその併存疾患」. Medicament News 2009; 197 (6): 9-10.
- 3) 太田英男, 石井健男: 好中球—炎症性肺疾患への関与・特集 エフェクター細胞からみた呼吸器疾患の病態. The Lung-Perspectives 2009; 117 (2): 62-67.
- 4) 茂木 孝, 木田厚瑞: V. COPDの管理 6. 地域医療連携と終末期の管理. アレルギー・免疫 2009; 16 (8): 1142-1150.
- 5) 森井恵子, 茂木 孝, 木田厚瑞: COPDにおける倫理的事項. 呼吸器科 2009; 16 (2): 128-132.
- 6) 木田厚瑞, 植木 純¹⁾, 堀江健夫²⁾, 茂木 孝⁽¹⁾ 順天堂大学医療看護学部専門基礎内科学, ²⁾ 前橋赤十字病院総合診療部呼吸器内科): 呼吸器疾患のリハビリテーションと患者教育の新展開. 呼吸 2009; 28 (10): 958-967.
- 7) 石井健男, 木田厚瑞: 発音と sleep apnea・特集 生活習慣病は進化病である: 生活習慣に対応できない身体: 遺伝子進化の弊害. 成人病と生活習慣病 2009; 39 (12): 1324-1329.
- 8) 服部久弥子, 若林律子, 茂木 孝, 石井健男, 木田厚瑞: 在宅支援療法 最近の酸素療法をめぐる臨床的, 基礎的な諸問題. 呼吸 2009; 28 (10): 1004-1013.
- 9) 服部久弥子, 木田厚瑞: COPD新ガイドラインで期待される予防と治療 慢性安定期の治療 リハビリテーション・栄養治療. 治療学 2009; 43 (9): 977-981.

著 書

- 1) Kida K, Motegi T, Ishii T, Yamada K: [分担] Quality of Life Measures in Elderly Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease: Japanese Perspectives. Handbook of Disease Burdens and Quality of Life Measures (Eds: Victor R. Preedy, Ronald R. Watson), 2009; pp2759-2777, Springer Co, NY.
- 2) 木田厚瑞^{1,2)} ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック, ⁽²⁾ 日本医科大学内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門): [分担] 呼吸ケア総論: チーム医療のための呼吸ケア. チーム医療のための呼吸ケアハンドブック (監修: 工藤翔二. 編集: 木田厚瑞, 久保恵嗣, 木村 弘.), 2009; pp8-19, 医学書院.
- 3) 石井健男: [分担] 13章 患者心理, QOL向上. チーム医療のための呼吸ケアハンドブック (監修: 工藤翔二. 編集: 木田厚瑞, 久保恵嗣, 木村 弘), 2009; pp221-231, 医学書院.

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 木田厚瑞: 「在宅呼吸ケア白書」から読みとれる事がら. 日本呼吸器学会学術集会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 2) 茂木 孝: 理想的なCOPD増悪アクションプランとは何か. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.

(2) 一般講演:

- 1) Wakabayashi R, Ishii T, Motegi T, Kurosaki H, Motohashi N, Yamada K, Gemma A¹⁾, Jones CR²⁾, Kida K ⁽¹⁾ Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, University of Plymouth, Devon, UK, ⁽²⁾ Dept. of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School): Efficacy of education programme in patients with chronic obstructive pulmonary disease assessed by the lung information needs questionnaire. European Respiratory Society Annual Congress (Vienna), 2009. 9.
- 2) Motegi T, Ishii T, Motohashi N, Kurosaki H, Yamada K, Gemma A¹⁾, Kida K ⁽¹⁾ Dept. of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School): Transfer factor data are a good predictor of a reduction in airflow limitation among patients with COPD "stage 0". European Respiratory Society Annual

Congress (Vienna), 2009. 9.

- 3) 岩城 基¹⁾, 久野絵里¹⁾, 岩城みさ子²⁾, 平井葉穂子²⁾, 板垣鈴子²⁾, 伊藤香奈子²⁾, 吉沢孝之³⁾, 赤星俊樹⁴⁾, 茂木 孝^{(1) 要町病院リハビリテーション科, 2) 要町病院看護部, 3) 要町病院呼吸器内科, 4) 日本大学医学部内科学系呼吸器内科学}): COPD患者における併存症とスタチン製剤の効果に関する検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 4) 石井健男, 若林律子, 黒崎央子, 本橋典久, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞^{(1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)}): 慢性閉塞性肺疾患における鬱症状規定因子の検討及びQOLとの関係. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 5) 茂木 孝, 本橋典久, 黒崎央子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞^{(1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)}): 経年変化からみたCOPD at riskの検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 6) 黒崎央子, 石井健男, 本橋典久, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞^{(1) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)}): 慢性閉塞性肺疾患における胃切除術の影響. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 7) 本橋典久, 茂木 孝, 石井健男, 若林律子, 黒崎央子, 山田浩一, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞^{(1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)}): Stage 0 COPDにおける胸部HRCTと肺年齢の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 8) 若林律子, 茂木 孝, 山田浩一, 石井健男, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞^{(1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)}): COPD患者における家族構成とアウトカムの検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 9) 若林律子, 石井健男, 黒崎央子, 茂木 孝, 本橋典久, 弦間昭彦¹⁾, 木田厚瑞^{(1) 日本医科大学内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)}): COPD患者における季節変動の及ぼす影響. 日本呼吸器学会学術講演会 (第49回) (東京), 2009. 6.
- 10) 古館隆子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 若林律子, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患における内臓脂肪蓄積と呼吸困難感の相関に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 11) 若林律子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 木田厚瑞: LINQを用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) における患者情報量の定量評価の有用性に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 12) 若林律子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 木田厚瑞: COPDにおける増悪に関わる因子に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 13) 若林律子, 石井健男, 山田浩一, 茂木 孝, 黒崎央子, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 木田厚瑞: 慢性呼吸器疾患における夜間の低酸素血症に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (第19回) (東京), 2009. 10.
- 14) 伊藤岳大¹⁾, 加藤省吾¹⁾, 水流聡子¹⁾, 飯塚悦功¹⁾, 茂木 孝^{(1) 東京大学大学院工学系研究科}): COPD増悪の調査型コンテンツの開発. 医療の質・安全学会学術集会 (第4回) (東京), 2009. 11.

3. 健診医療センター

研究業績

著書

- 1) 櫻井 実, 金谷浩司: [分担] PET検査. 診療放射線業務の医療安全テキスト (天内 廣), 2009; pp171-178, 文光堂.

学会発表

[追加分]

追加分セミナー:

- 1) 櫻井 実: 心臓核医学. 日本放射線技師会 (東京都浜松町), 2009. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 櫻井 実: 心機能解析の原理と解釈: その先にあるもの. 神奈川核医学研究会 (第324回) (神奈川県川崎市), 2010. 2.
- 2) 櫻井 実: 心臓核医学検査の現状: 基礎からマルチモダリティへ. 長野県放射線技師会核医学研究会 (長野県松本市), 2010. 3.

(2) 教育講演:

- 1) 櫻井 実, 石原圭一, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): TOF-PETと臨床画像. 北関東クリニカルPETフォーラム (第8回) (東京都千代田区), 2009. 11.

(3) セミナー:

- 1) 櫻井 実, 石原圭一, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): エンハンスリコンパッケージの画質向上効果と臨床的な有用性について. 日本核医学会 (第49回総会) (北海道旭川), 2009. 9.

(4) 一般講演:

- 1) 櫻井 実, 須田匡也, 浅野恭司¹⁾, 吉田伸二郎¹⁾, 横 利夫¹⁾, 土橋俊男¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院): ^{99m}Tc-MIBIを使用した心筋SPECTにおける収集カウントがQGSの結果に与える影響について. 日本放射線技術学会 (第65回総会) (横浜市), 2009. 4.
- 2) 櫻井 実, 須田匡也, 金谷浩司, 長谷康二: ¹¹C-racloprideを使用したドパミンD2受容体占有率測定におけるパラメトリック画像の検討. 日本放射線技術学会 (第65回総会) (横浜市), 2009. 4.
- 3) 櫻井 実, 須田匡也, 石原圭一, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): Time-of Flight (TOF) 装置における高集積周囲のアーチファクトの検討. 日本核医学会 (第49回総会) (北海道旭川市), 2009. 4.
- 4) 櫻井 実, 片渕哲郎¹⁾, 小野口昌久²⁾, 近江幸紀³⁾, 大屋信義⁴⁾, 三村浩朗⁵⁾, 本間 仁⁶⁾, 村川圭三⁷⁾ (1) 岐阜医療科学大学 保健科学部, 2) 金沢大学大学院医学系研究科, 3) 慶應義塾大学病院 中央放射線技術室, 4) 九州大学医学部附属病院 放射線部, 5) 川崎医科大学付属病院 核医学診療部, 6) 心臓血管センター北海道大野病院画像診断部, 7) 国立病院機構大阪医療センター): 心筋SPECT画像評価用ファントム (EMITファントム) の開発と評価. 日本心臓核医学会 (第19回大会) (東京都品川区), 2009. 6.
- 5) 櫻井 実, 長谷康二, 須田匡也, 金谷浩司, 武井めぐみ, 石原圭一, 汲田伸一郎¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): Time-of-Flight効果における肝臓描出能の変化について. 日本核医学技術学会 (第29回総会) (北海道旭川市), 2009. 9.

- 6) 長谷康二, 櫻井 実, 須田匡也, 金谷浩司, 武井めぐみ: Time of Flight (TOF) 装置と non TOF 装置の比較: ガイドラインに沿った検討. 日本核医学技術学会 (第29回総会) (北海道旭川市), 2009. 9.
- 7) 金谷浩司, 櫻井 実, 長谷康二, 須田匡也, 武井めぐみ: Time of Flight (TOF) 装置と Non TOF 装置の比較
分解能ファントムによる検討. 日本核医学技術学会総会 (29回) (北海道旭川市), 2009. 11.

4. 成田国際空港クリニック

研究概要

成田国際空港クリニックでは国際空港ならではの臨床的な研究を進めてゆきたいと考えています。具体的には新型インフルエンザなど新興輸入感染症の患者状況の調査や地域との比較検討や空港勤務者と旅行者など受診者背景による検討を実施しており継続する予定です。さらに航空機旅行者に特徴的な肺塞栓症患者などの発症状況の推移や患者背景の検討を実施しています。その他クリニック受診患者の外傷例の疾患別の数の推移や背景を検討実施している。今後も上記のような検討を継続し、さまざまな疾患予防の資となる研究を実施して行く予定です。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 赤沼雅彦, 村越秀光, 井上 毅, 浅野悦洋：国際空港クリニックにおける '09年度インフルエンザの検討. 日本宇宙航空環境医学会大会 (第55回) (岐阜市), 2009. 11.
- 2) 村越秀光, 浅野悦洋, 井上 毅, 岩瀬龍之, 赤沼雅彦：空港クリニックにおける外傷例の検討. 日本宇宙航空環境医学会大会 (第55回) (岐阜市), 2009. 11.
- 3) 浅野悦洋, 井上 毅, 村越秀光, 赤沼雅彦：空の旅と旅行者血栓症. 日本宇宙航空環境医学会大会 (第55回) (岐阜市), 2009. 11.
- 4) 赤沼雅彦, 村越秀光, 井上 毅, 浅野悦洋, 岩瀬龍之：日本医科大学成田国際空港クリニックにおける '09年度インフルエンザ. 日本旅行医学会 (第2回) (東京都), 2009. 11.
- 5) 苛原隆之¹⁾, 布施 明¹⁾, 近藤久禎¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 横田裕行¹⁾, 赤沼雅彦, 浅野悦洋, 大野曜吉²⁾ (¹⁾ 救急医学, ²⁾ 法医学)：空港における航空機事故災害に対する初動救護体制のあり方：成田空港貨物機炎上事故における現場医療活動経験から. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第15回) (千葉市), 2010. 2.

〔5〕 そ の 他

1. 教育推進室

研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来8年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究等、業務内容は拡大し多岐にわたっている。

平成21年度は、Faculty Development (FD) の一環として、第6回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第17回医学教育のためのFDワークショップを開催し、特に2009年は本学が主催校である財団法人医学教育教育振興財団第29回国内医科大学視察と討論の会の実務を担当した。

教育推進室では、定例教育推進室会議、授業評価委員会、クリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab.) 運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し、また医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会及び医史学教育研究会を補佐し幅広い教育活動を展開している。

学生による授業評価は、平成20年度からの携帯電話による授業評価を本格施行した。また、授業評価の目的・対象を明確にした上で、新たな実施方法の検討、授業評価報告書の発行等を行った。

開設後6年目を迎えたC. S. Lab. では、新入生へのC. S. Lab. オリエンテーションまた4年生の基本臨床実習コースに「C. S. Lab. における臨床技能実習」を導入し、臨床実習に入る学生の臨床技能の習得及び評価に努めた。そして卒業前のAdvanced OSCEにも医療面接課題に加え診察・手技課題を取り入れた。また卒後教育にも力を入れ臨床研修医オリエンテーションC. S. Lab. 講習会を行なった。次に、本年も本学独自の模擬患者を養成し、基本臨床実習コースにおける「症候から考える」、「総合病態を考える」、共用試験OSCE、卒業前Advanced OSCEに加えて、新入生の医療面接等にも導入し臨床医学教育への活用を実行した。その他医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を通じ、本学の医学英語教育の普及・整備、学生の臨床研究への参加に協力した。

なお、2009年5月には第3回臨床医学看護教育スキルラボ研究会を主催した。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 吉村明修：【外来におけるがん患者とのかかわりと看護実践】 がん化学療法に伴う副作用ケア 間質性肺炎の観察と対応。外来看護最前線：生活習慣病&外来がん看護 2009；14 (3)：80-86.
- 2) 吉村明修：【呼吸器症候群 (第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】 腫瘍性疾患 上皮性 (原発性) 腫瘍 細気管支肺胞上皮癌。日本臨床, 別冊呼吸器症候群III 2009；36-39.

(1) 原著：

- 1) Takayanagi K¹⁾, Shimura T, Saito T²⁾ (1) Tokyo Healthcare Univ, (2) Dept Psychol) : Laughter education for the healthcare professionals at postgraduate course. Japan Hospitals 2009；28：66-70.
- 2) 大西弘高¹⁾, 渡邊 淳²⁾, 石川ひろの³⁾, 小田康友⁴⁾, 杉本なおみ⁵⁾, 守屋利佳⁶⁾, 吉田素文⁷⁾, 森本 剛⁸⁾, 吉村明修, 阿曾亮子, 志村俊郎 (1) 東京大学医学教育国際協力研究センター, (2) 遺伝診療科, (3) 滋賀医科大学, (4) 佐賀大学, (5) 慶應義塾大学, (6) 北里大学, (7) 九州大学, (8) 京都大学) : 医学教育領域におけるランダム化比較試験の実施上の課題. 医学教育 2010；41 (1)：65-71.
- 3) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 加藤貴雄¹⁾, 中溝宗永²⁾, 小野真史³⁾, 石川 源⁴⁾, 森本泰介⁵⁾, 大野忠明¹⁾,

高岡雅子⁶⁾，竹原典子⁶⁾，田尻 孝⁷⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態)，²⁾ 耳鼻咽喉科学，³⁾ 眼科学，⁴⁾ 産婦人科学，⁵⁾ 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍)，⁶⁾ 看護部，⁷⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植)：臨床実習前準備教育におけるシミュレーターを使用した効率的な臨床技能実習。医学教育 2009；40 (3)：185-189.

(2) 総説：

- 1) 志村俊郎：第5回モデル&シミュレーション医学教育研究会を主催して。日本医科大学同窓会報 2009；352：9.
- 2) 志村俊郎，吉村明修：特集 国家試験合格に向けて 日本医科大学 医師国家試験合格のために：変貌した国試の傾向と対策。View 2009；127：2-4.
- 3) 志村俊郎：日本医科大学における模擬患者 (SP) 養成とSP参加型医学教育について。View 2009；129：5.
- 4) 志村俊郎，唐沢信安，殿崎正明，岩崎 一：日本医科大学医史学教育研究会について (第2回) 済生学会講師石川清忠と女子医学生の教育。日本医科大学同窓会報 2009；355：6.
- 5) 井上千鹿子：第41回日本医学教育学会 プレコングレスワークショップ報告「IV：デルファイ法を質的医学教育研究に導入」。医学教育 2010；41 (1)：40.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 吉村明修：ワークショップ：肺がんCT検診認定制度の動向 肺がんCT検診認定医の認定要件。第16回CT検診学会学術集会，2009. 2.

(1) 特別講演：

- 1) Shimura T, Teramoto A¹⁾, Takahashi H¹⁾, Yoshimura A, Aso R (1) Dept Neurosurgery)：Unique Medical Education Programs at Nippon Medical School. Brain Tumor Pathology Conference (New York), 2009. 8.
- 2) 志村俊郎：本学の入試・医師国家試験の現状そして新しい特色ある医学教育。平成21年度日本医科大学同窓会愛知支部総会・学術講演会，2009. 8.
- 3) 志村俊郎：がん患者とのコミュニケーションについての教育。平成21年度「がん治療高度専門家養成プログラム」合同報告会，2010. 1.

(2) シンポジウム：

- 1) 志村俊郎，吉村明修，高橋優三¹⁾ (1) 岐阜大学)：シンポジウム「医学教育関連学術集会の特徴と利用法」モデル&シミュレーション医学教育研究会の歩み。第41回日本医学教育学会 (大阪)，2009. 7.

(3) 一般講演：

- 1) Onishi H¹⁾，Ishikawa H²⁾，Oda Y³⁾，Shimura T，Sugimoto N⁴⁾，Morimoto T⁵⁾，Moriya R⁶⁾，Yoshida M⁷⁾，Watanabe A⁸⁾ (1) Univ Tokyo，²⁾ Shiga Univ Med Science，³⁾ Saga Univ，⁴⁾ Keio Univ，⁵⁾ Kyoto Univ，⁶⁾ Kitasato Univ，⁷⁾ Kyushu Univ，⁸⁾ Div Clin Genet)：How dose gain in medical knowledge affect rapport-building protocols of medical interview?. AMEE, 2009. 8.
- 2) 志村俊郎，唐沢信安¹⁾，殿崎正明¹⁾，岩崎 一¹⁾，寺本 明²⁾ (1) 医史学教育研究会，²⁾ 脳神経外科学)：済生学会講師石川清忠と女子医学生の教育。第110回日本医史学会 (佐賀)，2009. 6.
- 3) 殿崎正明¹⁾，唐沢信安¹⁾，岩崎 一¹⁾，志村俊郎 (1) 医史学教育研究会)：藩閥政治から見た済生学会廃校の真の原因 山県有朋，池田謙斎，入沢達吉との関係。第110回日本医史学会 (佐賀)，2009. 6.
- 4) 岩崎 一¹⁾，唐沢信安¹⁾，殿崎正明¹⁾，志村俊郎 (1) 医史学教育研究会)：藩閥政治の日本医学校に与えた影響

日本医学校創立者山根正次校長と苦難の学校経営. 第110回日本医史学会 (佐賀), 2009. 6.

- 5) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 高柳和江¹⁾, 小林義典²⁾, 飯野靖彦³⁾, 高橋秀実⁴⁾ (1) 東京医療保健大学, 2) 東海大学, 3) 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ), 4) 微生物・免疫学): 日本医科大学における Advanced OSCE の経験. 第41回日本医学教育学会 (大阪), 2009. 7.
- 6) 高柳和江¹⁾, 熊田朝子²⁾, 吉村明修, 阿曾亮子, 志村俊郎 (1) 東京医療保健大学, 2) 医療管理学): フィードバックを含む身体診察のできる模擬患者. 第41回日本医学教育学会 (大阪), 2009. 7.
- 7) 殿崎正明¹⁾, 志村俊郎, 唐沢信安¹⁾, 岩崎 一¹⁾, 大国 寿¹⁾ (1) 医史学研究会): 母校の歴史・偉大なる先輩を新入生に教育する必要性と意義. 第41回日本医学教育学会 (大阪), 2009. 7.
- 8) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 本間 博¹⁾, 小川俊一²⁾, 吾妻安良太³⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態), 2) 小児科学, 3) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍)): 日本医科大学における Advanced OSCE 2009 の経験. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 9) 阿曾亮子, 井上千鹿子, 吉村明修, 志村俊郎, 布施 明¹⁾, 本間 博²⁾, 小川俊一³⁾, 吾妻安良太⁴⁾ (1) 救急医学, 2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態), 3) 小児科学, 4) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍)): 日本医科大学 Advanced OSCE の模擬患者 (SP) 参加型課題における SP の身体診察とメイキャップの取組み. 第77回日本医科大学医学会総会, 2009. 9.
- 10) 早坂明哲¹⁾, 滋野恭子¹⁾, 奥重秀彦¹⁾, 大久保善朗²⁾, 志村俊郎, 伊藤高司¹⁾ (1) 情報科学センター, 2) 精神医学): 教育用情報環境の改善報告. 平成21年度情報教育研究集会 (仙台), 2009. 11.
- 11) 早坂明哲¹⁾, 滋野恭子¹⁾, 奥重秀彦¹⁾, 大久保善朗²⁾, 志村俊郎, 伊藤高司¹⁾ (1) 情報科学センター, 2) 精神医学): シンクライアントシステムを利用したCBT実施報告. 第29回医療情報学連合大会 (広島), 2009. 11.
- 12) 阿曾亮子, 志村俊郎, 吉村明修, 井上千鹿子, 八木正敏, 日高廣人¹⁾, 高柳和江²⁾, 吾妻安良太³⁾ (1) 日本医科大学SP, 2) 東京医療保健大学, 3) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍)): Advanced OSCE における模擬患者の自己評価と教員評価者による評価. 日本薬学会第130年会 (岡山), 2010. 3.

付 表

1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1) 平成21年度科学研究費補助金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費: 千円	研究課題名
特定領域研究	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	12,600	※核内癌抑制因子による遺伝子発現制御システムの解析
基盤研究 (B)	佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	3,500	※個体発生の途上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化
〃	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	3,400	※分子イメージングによる統合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明
〃	原 行弘	千葉北総病院リハビリテーション科・教授	4,000	※Cybernetic orthosisの開発とニューロ・リハビリテーション
〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	5,000	※新しい概念の抗酸化物である水素を摂取することによる生活習慣病予防への新展開
〃	村田 智	放射線医学・准教授	4,700	※難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法システムの開発
〃	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	2,800	※胎盤特異的マイクロRNAの機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究
〃	寺本 明	神経病態解析学・大学院教授	6,900	下垂体腺腫におけるmiRNA発現とmRNAの制御に関する研究
基盤研究 (C)	近藤 保彦	生理学講座 (システム生理学)・講師	900	※ラットの雌雄性指向性決定の神経機序
〃	阿部 信二	内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)・講師	700	※造血幹/前駆細胞の肺障害における役割並びに治療法応用への基礎的検討
〃	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・講師	500	※ヒトにおける舌の反射性運動の発現と、その新しい臨床応用についての基礎的研究
〃	鈴木 秀典	神経情報科学・大学院教授	800	※サブスタンスP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価
〃	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	1,100	※有機リン農薬による免疫毒性の新機序：有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス
〃	林田真喜子	法医学・講師	500	※質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築
〃	館野 周	精神医学・講師	1,100	※うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究
〃	吉田 寛	外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・准教授	800	※肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝再生、発癌に及ぼす影響
〃	竹田 晋浩	麻酔科学・准教授	900	※アルファ2-アゴニスト・デクスメデトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解析
〃	増野 智彦	救急医学・助教	600	※ショック後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響
〃	佐藤 格夫	救急医学・助教	900	※熱傷後に伴う遠隔臓器障害の発生機序の解明と治療戦略の構築

〳	薛 昊罡	解剖学 (生体構造学)・助教	1,200	※GnRHニューロンにおける形態変動解析のための機能科学的アプローチ
〳	大澤 郁朗	老人病研究所・教授	1,200	※ストレスによって生じる脳機能障害の水素分子による改善
〳	洲鎌 秀永	生理学 (生体統御学)・講師	1,000	※ストレスによるミクログリア活性化メカニズムの解明
〳	上村 尚美	老人病研究所 (生化学部門)・講師	1,200	※糖尿病の予防・改善における水素の効果
〳	後藤 忠	解剖学 (分子解剖学)・准教授	800	※携帯電話を用いた画像学習システムの実践的研究
〳	中村 哲子	英語・准教授	800	※アイルランド小説における女性身体と女性空間をめぐる研究
〳	岡 敦子	生物学・教授	700	※トランスジェニックカエルを用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究
〳	石橋 宰	解剖学 (分子解剖学)・講師	1,300	※マイクロRNAの選択的輸送に関する分子解剖学的動態解析とその病態診断への応用
〳	折笠千登世	生理学 (システム生理学)・助教	1,200	※エストロゲンで誘導される神経細胞移動と脳の性差形成
〳	西野 朋子	生化学・分子生物学 (構造生物学・代謝学)・講師	1,400	※スーパーオキシド超産生型XOR変異酵素ノックインマウスを用いた病態生化学的研究
〳	川田 智之	環境医学・大学院教授	500	※交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究
〳	長谷場 健	法医学・講師	800	※新たなアルコール代謝酵素クラス3ADHのアルコール生体反応感受性における役割
〳	平川 慶子	法医学・助教	900	※MRI装置を用いた死後画像診断におけるスペクトルデータの活用に関する基盤研究
〳	高野 仁司	内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・助教	1,200	※ヒトにおける虚血プレコンディショニングの心筋保護効果の機序に関する検討
〳	清野 精彦	千葉北総病院内科・教授	1,100	※冠動脈先端画像解析によるマルチバイオマーカーストラテジーの開発
〳	高木 元	内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・助教	1,100	※難治性血管炎に対する新規治療法開発
〳	片山 泰朗	神経・腎臓・膠原病リウマチ学・大学院教授	800	※脳虚血後における新規脳保護薬・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究
〳	三品 雅洋	千葉北総病院内科・講師	700	※PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係
〳	山崎 峰雄	内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・講師	900	※軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究
〳	芝崎 保	生体統御科学・大学院教授	900	※グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンのエネルギ蓄積機構の解明
〳	田村 秀人	内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・助教	900	※骨髄腫細胞の発現する補助刺激分子群 (B7系分子など) とそのシグナル：病態への関与

〳	三宅 紀子	生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)・技術主査補	1,100	※ リソゾーム病の神経病変を標的とした新規骨髄移植法の開発
〳	三宅 弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)・准教授	1,100	※ ダイヤモンド・ブラックファン貧血のモデル動物作製と新規治療法 (遺伝子治療) の開発
〳	勝部 康弘	武蔵小杉病院小児科・准教授	800	※ 酵素感受性蛋白質の発見に向けて一プロテオミクス解析からのアプローチ
〳	深澤 隆治	多摩永山病院小児科・講師	1,200	※ 川崎病発症時のサイトカイン動態究明による新しい抗サイトカイン療法の開発
〳	齊藤 卓弥	精神医学・准教授	900	※ MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態に関する前方視研究
〳	横田 裕行	侵襲生体管理学・大学院教授	1,000	※ ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究
〳	松谷 毅	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,100	※ 手術侵襲後の性差医療における脂肪細胞の役割とピオグリタゾン投与の有効性
〳	内田 英二	外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・教授	800	※ In vivoイメージングシステムを用いた膵癌実験モデルおよびその応用
〳	工藤 光洋	病理学 (統御機構・腫瘍学)・講師	900	※ 膵臓外幹細胞による膵β細胞の分化誘導の検討
〳	井村 肇	外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・准教授	1,800	※ 未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究：ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用
〳	新田 隆	外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・教授	800	※ 左心房容量負荷モデルにおける肺静脈隔離の心房細胞発生予防効果の検討
〳	吉田 大蔵	武蔵小杉病院脳神経外科・准教授	700	※ 下垂体腺腫の増殖におけるSDF-1の役割に関する分子形態学的研究
〳	高橋 弘	武蔵小杉病院脳神経外科・教授	1,200	※ NMRによるメタボロミクス (メタボローム) 解析は脳腫瘍の悪性転化を予測する
〳	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・大学院教授	1,100	※ 麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子、蛋白、代謝物変動の総括的検討
〳	清水 章	病理学 (解析人体病理学)・准教授	700	※ 免疫寛容導入による自然抗原ノックアウトミニプタからヒヒへの異種腎臓移植の免疫応答
〳	原田明希摩	解剖学 (分子解剖学)・研究技術員	1,000	※ 卵胞顆粒膜細胞に特異的なマイクロRNAの卵胞成熟における機能解析とその臨床応用
〳	市川 雅男	産婦人科学・助教	700	※ 妊娠中の肝機能異常における自己傷害性T細胞の関与の検討
〳	大口 恵子	生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)・特別研究生	600	※ 神経変性疾患の確定診断 (遺伝子検査) がもたらす倫理的・社会的問題の研究
〳	齋藤 文仁	薬理学・准教授	800	モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常
〳	三上 俊夫	スポーツ科学・准教授	1,300	身体運動は脳での血管新生を促進して学習記憶能力の低下やうつ様行動を改善するか否か
〳	勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学・助教	1,300	受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究

〳	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	1,000	アルミニウム含有食品添加物の摂取による卵白アルブミン特異的なアレルギー反応の誘導
〳	西谷 里美	生物学・講師	1,700	冬緑性草本ヒガンバナの、夏季における栄養塩吸収の意義
〳	長田 真一	皮膚科学・助教	1,500	上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路におけるSox13の役割
〳	李 英姫	衛生学・公衆衛生学・助教	2,000	ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究
〳	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・講師	1,800	ヒト血漿中グランザイム3は炎症反応のマーカーとなるか
〳	二神 生爾	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・助教	1,100	MCP-1を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析
〳	弦間 昭彦	呼吸器感染腫瘍内科学・大学院教授	1,800	シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング
〳	清家 正博	内科学（呼吸器・感染・腫瘍部門）・講師	2,400	肺癌に対するマイクロRNAを用いた薬剤感受性予測と治療法の開発
〳	及川 真一	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・教授	1,300	酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義—単球/マクロファージ接着亢進機序の解明
〳	永野 昌俊	薬理学・講師	1,100	発達障害に対する科学的根拠に基づいた薬物早期介入療法開発の基礎的研究
〳	伊藤 敬雄	精神医学・講師	1,400	自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発
〳	田島 廣之	放射線医学・教授	1,700	重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッドIVR治療システムの新たな研究展開
〳	宮下 正夫	外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門）・教授	1,500	食道扁平上皮癌におけるSnoNとmiRNAに関する分子生物学的解析
〳	石川 朋子	解剖学（分子解剖学）・助教	1,300	肝内胆管癌におけるマイクロRNAの役割解明とバイオマーカー開発のための分子基盤
〳	瀧澤 敬美	解剖学（分子解剖学）・助教	1,300	莖膜細胞特異的マイクロRNAの機能解析：卵胞の転写後調節とPCOSでの役割解明
〳	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・准教授	1,500	内耳疾患診断のバイオマーカーCTP—迅速検出法の開発と臨床応用—
〳	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・准教授	2,300	鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割—T細胞、樹状細胞との相互作用
〳	野中 学	多摩永山病院耳鼻咽喉科・准教授	1,300	鼻副鼻腔線維芽細胞に特徴的に発現するマイクロRNAの同定とその役割の解明
〳	小原澤英彰	武蔵小杉病院眼科・准教授	1,500	ラット網膜虚血—再還流モデルにおける水素点眼の網膜神経保護効果の研究
〳	M GHAZIZADEH	老人病研究所（病理部門）・准教授	1,000	cAblチロジinkinナーゼ抑制によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明
〳	土佐眞美子	武蔵小杉病院形成外科・助教	1,500	ケロイド発生に関するIL-23/IL-17免疫経路の役割解明と新治療の確立

〃	恩田 秀賢	救急医学・助教	1,500	脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺停止蘇生後の病態及び治療の研究
若手研究 (B)	石井 健男	呼吸ケアクリニック・助教	700	※慢性閉塞性肺疾患の鬱症状を規定する遺伝子の探索
〃	川野 陽一	外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・助教	900	※小児生体肝移植後長期経過症例における移植肝加齢変化の解明—テロメア長による検討—
〃	水谷 聡	武蔵小杉病院消化器病センター・助教	500	※膵癌ミトコンドリアDNA体細胞変異は抗癌剤耐性を示す (オーダーメイド医療への道)
〃	中村 毅	千葉北総病院耳鼻咽喉科・助教	600	※嚥下の口腔期から咽頭期への移行の連続性についての機能生理学的研究
〃	酒主 敦子	耳鼻咽喉科学・助教	1,100	※難治性好酸球性中耳炎における線維芽細胞の新たな役割の解明
〃	小川 真司	千葉北総病院リハビリテーション科・助教	600	※脳磁図—運動誘発磁場—を利用した、訓練による運動学習効果の研究
〃	松崎 利行	解剖学 (生体構造学)・准教授	700	※脳における水チャネル、アクアポリンの分布局在の検討
〃	藤原 正和	老人病研究所 (病理部門)・助教	600	※ダウン症原因遺伝子DSCR1の血管サイズ決定因子としての役割とその分子機構の解明
〃	西山 康裕	内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・助教	700	※ラット脳卒中モデルにおける水素ガスを用いた効果の検討
〃	山本 哲志	病理学 (統御機構・腫瘍学)・助教	700	※ルミカンによるケラチノサイト増殖因子シグナル伝達経路の制御機構の開発と治療応用
〃	吉野 雅則	武蔵小杉病院消化器病センター・助教	1,000	※食道癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (KGF) の発現と局在および分子標的治療
〃	松田 陽子	病理学 (統御機構・腫瘍学)・助教	1,800	※大腸癌で過剰発現するCytochrome P450 2A6の機能解明と治療応用
〃	峯 克也	産婦人科学・助教	1,800	※習慣流産患者における抗リン脂質抗体標的分子のプロテオミクス
〃	白石振一郎	救急医学・助教	900	※急性腸間膜虚血の腸管VIABILITY評価と救命率向上にむけた治療戦略の構築
〃	鈴木 由香	老人病研究所 (疫学部門)・助教	1,200	タンパク質栄養状態の悪化による肝臓のインスリン活性増強機構の解明とその生理的意義
〃	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学・助教	100	職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討
〃	金涌 佳雅	法医学・特別研究生	700	死体温度分布からの死後経過時間推定法に関する研究
〃	一宮 哲哉	精神医学・助教	2,300	側頭葉てんかんにおけるドーパミン受容体の変化と精神症状の関連に関するPET研究
〃	池田裕美子	薬理学・助教	1,300	予後因子としての神経栄養因子動態に基づく難治性うつ病に対する電気痙攣療法の最適化
〃	松下 晃	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,100	膵癌に対するneuropilin—1を標的とした新たな治療法の開発

〃	坂本俊一郎	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・助教	1,800	心房細動治療における除神経術：心内膜下自律神経ネットワークの解明
〃	川島 徹生	多摩永山病院呼吸器外科・助教	1,400	肺癌制御におけるCD1脂質抗原提示系の役割
〃	金 景成	千葉北総病院脳神経外科・助教	1,300	腰椎黄色靭帯における血管新生及び血管増生に関する研究
〃	新藤 晋	耳鼻咽喉科学・助教	800	新しい外リンパ腫診断マーカーCTPの時空間的発現の検討
〃	北原 由紀	多摩永山病院眼科・助教	2,000	羊膜由来幹細胞の移植による網膜再生
〃	江浦 重義	形成外科学・助教	1,400	ビスフォスフォネート誘発顎骨壊死に対する幹細胞治療の開発
挑戦的萌芽研究	石川 源	千葉北総病院女性診療科・産科・助教	1,100	※ 診断ツールの開発を目指した抗リン脂質抗体に対する栄養膜マイクロRNAの動態解析
〃	小野 眞史	眼科学・准教授	1,500	ドライマウスによる嚥下困難感の他覚的定量評価
〃	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学（構造生物学・代謝学）・講師	1,700	細菌型mitoNEET新規構造に立脚したレドックスシステム生理学的解析
〃	水野 博司	形成外科学・准教授	1,600	成体組織由来極小胚性幹細胞様細胞の探索
若手研究（スタートアップ）	太良 修平	内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）・助教	1,200	※ 低侵襲型血管新生治療法確立のための臨床研究
特別研究員奨励費（外国人）	百束 比古	形態機能再生再建医学（形成外科学）・大学院教授	1,100	脂肪組織幹細胞と高気圧酸素併用療法による褥瘡治療研究
特別研究員奨励費（国内）	水口 義昭	解剖学（分子解剖学）・特別研究員PD	1,100	※ 肝炎・肝硬変・肝癌における免疫担当細胞のmicroRNAomeによる病態生理解明
〃	天羽 拓	老人病研究所（生化学部門）・特別研究員PD	1,000	ミトコンドリアDNA体細胞変異による抗癌剤耐性獲得の機構解明と個別化医療への応用

2) 平成21年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 清水 一雄 外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）	基盤研究（B）	前田 茂人 長崎医療センター 臨床研究センター	カザフスタン被爆地域における甲状腺癌・乳癌への外科的国際支援
2 松崎 利行 解剖学（生体構造学）	〃	高田 邦昭 群馬大学	水チャネルアクアポリン2をモデルとしたエンドソーム・ポストエンドソーム系の解析
3 服部 幹彦 整形外科学	基盤研究（C）	香川 隆英 森林総合研究所 森林管理研究領域	森林セラピー基地整備が中山間自治体に与える効果の多元的モニタリング研究
4 吉本 正美 解剖学（生体構造学）	〃	山本 直之 名古屋大学 大学院生命農学研究科	魚類の味覚および内臓感覚神経路—感覚系の全貌理解を目指して—
5 大久保善朗 精神医学	〃	苅部 洋行 日本歯科大学 生命歯学部	脳機能イメージングを用いた口腔内慢性疼痛の新しい診断法と治療効果の客観的評価
6 鈴木 秀典 薬理学	〃	〃	〃
7 館野 周 精神医学	〃	〃	〃
補助金直接経費合計額			2,268,000円

3) 平成21年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成21年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）			
I 各大学等の特色を活かせるきめ細やかな支援			
1 大学院等の質保証メニュー			
(1) 大学教育の質向上への一体的な取組支援 ※教育・学習方法等改善支援（継続分）	5,800	3,372 2,471	5,800
2 学部教育の高度化・個性化支援メニュー			
(1) インターンシップの推進		3,578	
3 就学機会の多様化推進メニュー			
(1) 社会人の入学の推進		2,386	
(2) 障がい者の入学の推進		254	
4 大学院教育研究高度化支援メニュー			
(1) 大学院の基盤整備・拠点重点化支援			
1) 教育研究拠点大学院重点経費			
①大学院基盤分		476,568	
②研究支援分（大学分）		18,260	
2) 研究科特別経費			
①研究科分	34,525	25,475	60,000
②学生分	13,374	9,926	23,300
3) 夜間大学院等		177	
(2) リサーチ・アシスタント，ポストドクター等支援			
1) リサーチ・アシスタント，ポストドクター		37,574	109,800
(3) ティーチング・アシスタント支援	5,237	2,363	7,600
5 先端的学術研究推進メニュー			
(1) 研究施設・設備等運営支援			
1) 研究施設	36,601	33,825	70,426
2) 大型設備等	10,301	6,901	17,202
(2) 教員の流動化促進支援			
1) 教員の異動に伴う教育研究環境整備		558	
2) 任期付教員による研究の支援		8,520	
(3) 戦略的研究基盤形成支援事業	91,480	103,520	195,000
6 地域活性化貢献支援メニュー			
(1) 総合的な地域活性化事業支援		179	
7 大学等の国際化推進メニュー			
(1) 世界を舞台に活躍する人材養成支援		1,648	
8 高度情報化推進メニュー			
(1) ICT活用教育研究支援		35,645	
合計	197,318	773,200	489,128
私立学校等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）			
1 教育研究装置施設整備費			
(1) 研究装置			
①戦略分	78,566	78,564	157,130
②一般分	48,185	47,450	95,635
合計	126,751	126,014	252,765

4) 平成21年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
西谷 里美	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	冬緑性草本ヒガンバナの、夏季における栄養塩吸収の意義	西谷 里美	
岡 敦子 長谷部 孝	自然科学・生物学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	トランスジェニックカカエを用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究	岡 敦子	
長谷部 孝	自然科学・生物学	代表	公益信託 成茂動物 科学振興基金	両生類小腸の上皮幹細胞の新規マーカー遺伝子の同定	長谷部 孝	
中村 哲子	外国語・英語・ドイツ語	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アイランド小説における女性身体と女性空間をめぐる研究	中村 哲子	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	精神的ストレスによる海馬での神経新生の低下に対して身体運動は抑制効果を持つか否か	三上 俊夫	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	タヒチアンノニイン ク株式会社	モリンダシトリフォリアの生理活性の探究	三上 俊夫	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	伊藤超短波株式会社	電気刺激装置ES-530による骨格筋収縮の生理学的影響の検討	三上 俊夫	
武藤三千代	スポーツ科学	分担	(財) 簡易保険加入 者協会	ラジオ体操が身体機能に与える影響について	渡部 鎌二	神奈川県立保健福祉大学
石橋 宰 瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マイクログルナの選択的輸送に関する分子解剖学的動態解析とその病態診断への応用	石橋 宰	
石橋 宰 富山 侖子 菊池 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	卵細胞顆粒膜細胞に特異的なマイクログルナの卵細胞成熟における機能解析とその臨床応用	竹下 俊行	日本医科大学産婦人科
瀧澤 俊広 小管 拓治	解剖学講座 (分子解剖学)	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	診断ツールの開発を旨とした抗リオン脂質抗体に対する栄養膜マイクログルナの動態解析	石川 源	日本医科大学産婦人科
石川 朋子 菊池 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	肝内胆管癌におけるマイクログルナの役割解明とバイオオマーカー開発のための分子基盤	石川 朋子	
瀧澤 敬美 石橋 宰 瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	赤膜細胞特異的マイクログルナの機能解析：卵胞の転写後調節とPCOSでの役割解明	瀧澤 敬美	
瀧澤 俊広 松原 茂樹 石橋 宰	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	胎盤特異的マイクログルナの機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究	瀧澤 俊広	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
石橋 幸	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	平成21年度丸山記念研究助成金	母体血液中の胎盤由来エクソソームを介したT細胞の機能制御と妊娠高血圧症候群における役割の解明	石橋 幸	
宗宮 弘明, 吉本 正美	解剖学講座 (生体構造学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	魚類の味覚および内臓感覚神経路一感覚系全体の理解をめざして	山本 直之	名古屋大学・生命農学研究科
飯島 典生, 戸張 靖子	解剖学講座 (生体構造学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	GnRHニューロンにおける形態変動解析のための機能科学的アプローチ	飯島 典生	
小澤 一史	解剖学講座 (生体構造学)	代表分担	(財)内藤記念科学振興財団助成金	脳における栄養・エネルギー代謝制御神経系と性機能調節神経系の相互作用,特に思春期発動のメカニズムに関する分子細胞化学的解析	小澤 一史	
佐久間康夫, 加藤 昌克, 木山 裕子, 折笠千登世, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	個体発生の途上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化	佐久間康夫	
折笠千登世, 佐久間康夫, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	エストロゲンで誘導される神経細胞移動と脳の性差形成	折笠千登世	
近藤 保彦	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラットの雌雄指向性決定の神経機序	近藤 保彦	
芝崎 保	生理学講座 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンのエネルギー蓄積機構の解明	芝崎 保	
芝崎 保	生理学講座 (生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補助金	中枢性摂食異常症に関する調査研究	小川 佳宏	東京医科歯科大学難治疾患研究所
芝崎 保	生理学講座 (生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補助金	高齢者医療とQOL改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究	寒川 賢治	国立循環器病センター 研究所
洲鎌 秀永	生理学講座 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ミクログリア活性化メカニズムの解明	洲鎌 秀永	
折茂 英生	生化学・分子生物学講座 (構造生物学・代講学)	分担	厚生労働省科研費補助金	低フォスファターゼ症の個別最適治療に向けた基礎的・臨床的検討	大藪 恵一	大阪大学大学院・医・小児科学
岩崎 俊雄	生化学・分子生物学講座 (構造生物学・代講学)	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	細菌型mitoNEET新規構造に立脚したレドックスシステム生生理学的解析	岩崎 俊雄	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
西野 朋子 西野 武士 岡本 研 松村 智裕 草野 輝男 三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 造生物学・代講学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	スーパーオキシド超産生型XOR変異酵素ノックアウトマウスを用いた病態生化学的研究	西野 朋子	
三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ダイアモンド-ブラックフアン貧血のモデル動物作製と新規治療法(遺伝子治療)の開発	三宅 弘一	
三宅 紀子 三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	リソゾーム病の神経病変を標的とした新規骨髄移植法の開発	三宅 紀子	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	分担	厚生労働省科研費補助金	エーラスタンロンズ症候群(主に血型および新型)の実態把握および診療指針の確立	古庄 知己	信州大学
島田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	分担	厚生労働省科研費補助金	低フォスファターゼ症の個別最適治療に向けた基礎的・臨床的検討	大藪 恵一	大阪大学
島田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	分担	厚生労働省科研費補助金	ライソゾーム病(ファブリー病含む)に関する調査研究	衛藤 義勝	
渡邊 淳 島田 隆 島田 史朗	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	代表 分担	「個人の遺伝情報に 応じた医療の実現プ ロジェクト(第2期)」	「先端医学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究)	渡邊 淳	
島田 隆	生化学・分子生物学講座 子遺伝学・栄養学)	分担	医薬基盤	AAVベクターによる神経組織への遺伝子導入の有効性と安全性についての研究	水野 美邦	
鈴木 秀典 永野 昌俊 池田裕美子 坂井 敦	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	サブスタンスP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価	鈴木 秀典	
齋藤 文仁 永野 昌俊	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常	齋藤 文仁	
鈴木 秀典 坂井 敦 羽田 栄輔	薬理学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	発達障害に対する科学的根拠に基づいた薬物早期介入療法開発の基礎的研究	永野 昌俊	
池田裕美子	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	予後因子としての神経栄養因子動態に基づく難治性うつ病に対する電気遊撃療法之最適化	池田裕美子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	菌科恐怖における脳神経メカニズムと精神科的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	菊部 洋行	日本歯科大学
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	館野 周	日本医科大学精神医学
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	日本医科大学大学院医学研究科
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業CREST	行動異常の薬理学的研究	内匠 透	広島大学
小林 克典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業CREST	精神疾患モデルマウスの神経活動の生理学的解析	宮川 剛	藤田保健衛生大学
清水 章、 益田 幸成	病理学講座 (解析人体病理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	免疫寛容導入による自然抗原ノックアウトミニマムからヒトへの異種腎臓移植の免疫応答	清水 章	
福田 悠	病理学講座 (解析人体病理学)	分担	厚生労働省科研費補助金	難治性疾患に関する調査研究「特発性肺線維症急性性理悪の病理学的解析」	杉山幸比古	自治医科大学呼吸器内科
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	平成21年度腫瘍病研究財団研究奨励賞	幹細胞マーカーNestinによる腫瘍の新たな治療戦略	松田 陽子	
松田 陽子、 山本 哲志、 石渡 俊行、 内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	第36回大和証券ヘルス財団	腫瘍の浸潤・転移におけるNestinの役割の解明とNestinを標的とした腫瘍治療の基礎的研究	松田 陽子	
松田 陽子、 山本 哲志、 石渡 俊行、 内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	金原一郎記念財団 第24回医学研究助成	幹細胞マーカーNestinによる腫瘍の新たな治療戦略	松田 陽子	
工藤 光洋、 石渡 俊行、 内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	腫瘍外幹細胞による腫β細胞の分化誘導の検討	工藤 光洋	
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	大腸癌で過剰発現するCytochrome P450 2A6の機能解明と治療応用の検討	松田 陽子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
山本 哲志	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ルミカンによるケラチンサイト増殖因子シグナル伝達経路の制御機構の開発と治療応用	山本 哲志	
川田 智之, 稲垣 弘文, 若山 葉子, 李 卿, 勝又 聖夫, 大塚 俊昭, 李 英姫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究	川田 智之	
勝又 聖夫, 川田 智之, 稲垣 弘文, 平田 幸代, 平田 紀美子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコロールアミン代謝物で行う研究	勝又 聖夫	
李 卿, 川田 智之, 稲垣 弘文, 平田 幸代, 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	有機リン農薬による免疫毒性の新機序：有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス	李 卿	
稲垣 弘文, 平田 幸代, 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒト血漿中グラナザインM3は炎症反応のマーカーとなるか	稲垣 弘文	
大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチチチバイオマーカーを用いた検討	大塚 俊昭	
李 英姫, 川田 智之, 稲垣 弘文, 平田 幸代, 清水 孝子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アイゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究	李 英姫	
李 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	森林総合研究所助成 研究	森林環境要素および身近な森林浴が生体免疫機能へ及ぼす効果の解明	李 川田 智之	
川田 智之, 稲垣 弘文, 勝又 聖夫, 平田 紀美子, 大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	喫煙科学研究財団	タバコ依存度質問紙調査法の心理測定上の特性：職域におけるデータ解析	川田 智之	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大塚 俊昭 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	財団法人いきいき健康増進財団 生活習慣病予防等に関する研究助成	血管炎症は血圧上昇および高血圧発症に因与するか？ 特異的血管炎症マーカー，ペントトラキシン3を用いた職域コホート研究	大塚 俊昭	
林田真喜子 寺田 賢 栗崎美子 工藤 恵子 植草 協子	医学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築	林田真喜子	法医学
平川 慶子 大野 曜吉 崔 范来 金涌 佳雅 増野 智彦 佐藤 格夫 小池 薫	医学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	MRI装置を用いた死後画像診断におけるスベクトルデータの活用に関する基盤研究	平川 慶子	法医学
長谷場 健	医学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	新たなアールコール代謝酵素クラス3ADHのアルコール生体反応感受性における役割	長谷場 健	法医学
長谷川敏彦 秋山 昌範 加藤 尚子 中山 茂樹 平尾 智広 嶋森 好子 坂本 すが 小林 美亜 秋山 健一	医療管理学講座	主任 分担	厚生労働省科研費補助金	質効率向上と職業間連携を目的した病棟マネジメントの研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦 長谷川友紀 平尾 智広 清水佐知子	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	高齢社会の医療提供体制における必要医師数の推計に関する研究	大島 伸一	国立長寿医療センター
種田憲一郎 兄玉 知子 平尾 智広 長谷川敏彦 長谷川友紀	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	医療安全推進に必須の組織文化(安全文化)の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用	種田憲一郎	
秋山 健一 長谷川敏彦	医療管理学講座	代表 分担	厚生労働省科研費補助金	感染症危機管理シミュレーション訓練の研究	秋山 健一	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
長谷川友紀, 長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	患者の視点を重視した診療ガイドラインの評価体系の確立及び普及促進に関する研究	長谷川友紀	
大庭 建三	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院老年内科	分担	公益信託日本動脈硬化予防研究基金	高齢者高血圧コホート研究 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度, 高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS)	大内 尉義	東京大学加齢医学講座
清野 精彦, 高野 雅充, 村上 大介, 山本 真功, 雪吹 崇芳, 大場 雅洋	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	冠動脈先端画像解析によるマルチバイオオマーカーストラテジーの開発	清野 精彦	日本医科大学千葉北総病院内科学(循環器部門)
三品 雅洋	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係	三品 雅洋	日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター
三品 雅洋	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	PETブレインバンクの構築	石渡 喜一	東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム
西山 康裕	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ラット脳卒中モデルに対する水素ガスをを用いた効果の検討	西山 康裕	
山崎 峰雄	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究	山崎 峰雄	
片山 泰朗, 上田 雅之	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳虚血後における新規脳保護・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究	片山 泰朗	
上田 雅之	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科	代表	2008年度日本医科大 学同窓会医学研究費 助成	神経疾患における遅発性神経細胞障害に対する脳保護・再生療法	上田 雅之	
石井 賢二, 成相 直, 三品 雅洋	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・千葉北総病院神経内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	PETブレインバンクの構築	石渡 喜一	東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム
三品 雅洋, 三品 正彦, 鈴木 鈴木	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・千葉北総病院神経内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	PETによるアデノシン受容体のドパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係	三品 雅洋	日本医科大学千葉北総病院脳神経センター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
二神 生爾	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	MCP-1を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのフォーンミング分子機構の解析	二神 生爾	
清家 正博, 弦間 昭彦, 峯岸 祐司	腫瘍学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肺癌に対するマイクログルナを用いた薬剤感受性予測と治療法の開発	清家 正博	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)
弦間 昭彦	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング	弦間 昭彦	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)
木田 厚瑞, 茂木 孝, 石井 健夫, 服部 久弥子, 黒崎 央子, 本橋 典久, 山田 浩一, 森井 恵子	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表分担	独立行政法人 環境再生保全機構委託研究	COPD患者の在宅生活における機能回復に関する調査研究	木田 厚瑞	日本医科大学呼吸器学アクリニック
峯岸 裕司	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表	丸山記念研究助成金	特発性間質性肺炎合併進行肺癌に対する化学療法法の認容性および化学療法による急性増悪の危険因子の探索	峯岸 裕司	内科学講座呼吸器感染腫瘍部門
黒澤 尚, 岸 泰宏	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	厚生労働省科研費補助金	精神科救急医療, 特に身体疾患や認知症疾患合併症例の対応に関する研究: 看護師の自殺企図症例に対する態度(attitudes)ならびに精神疾患に対する診断・対処法の調査	黒澤 尚	
伊藤 敬雄, 大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発研究 課題番号 21591543	伊藤 敬雄	日本医科大学精神神経科
館野 周, 大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性についての脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	館野 周	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任	厚生労働省科研費補助金	分子イメージングによる精神科治療法の科学的評価法の確立に関する研究	大久保善朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	認知神経科学的アプローチによる精神神経疾患に対する偏見の実態調査と偏見軽減に関する研究	大久保善朗	
齊藤 卓弥、 大久保善朗、 舘野 周	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態の前方視研究	齊藤 卓弥	
大久保善朗、 齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	精神科薬物療法アルゴリズムの最適化と均てん化に関する研究	加藤元一郎	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	自殺対策のための戦略研究	高橋 清久	財団法人 精神・神経科学振興財団
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究	岡崎 祐士	都立松沢病院
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	飯森真喜雄	東京医科大学 精神医学講座
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	スポーツ・運動の統合失調症の認知機能・高次脳機能障害に対する効果に関する研究	高橋 英彦	独立行政法人 放射線医学総合研究所
大久保善朗、 齊藤 卓弥、 舘野 周、 一宮 哲哉、 肥田 道彦	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	分子イメージングによる統合失調症のドパミン神経伝達異常の解明	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	サブスタンスP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価	鈴木 秀典	薬理学講座
齊藤 卓弥	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルス科	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	エビデンスのある患者自己治療力向上一量的 (HSP, 免疫等) と質的評価を指標として	高柳 和江	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
一宮 哲哉	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	側頭葉てんかんにおけるドーパミン受容体の変化と精神症状の関連に関するPET研究	一宮 哲哉	
勝部 康弘, 小川 俊一, 浅野 健	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酵素感受性蛋白質の発見に向けたプロテオミクス解析からのアプローチ	勝部 康弘	日本医科大学武蔵小杉病院小児科
植田 高弘	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	公益信託日本白血病研究基金	人工骨髄の作成と白血病幹細胞のニッチの解析	植田 高弘	日本医科大学付属病院小児科
長田 真一	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路におけるSox13の役割	長田 真一	
松下 晃	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	肺癌に対するNeuroplatin-Iを標的とした新たな治療法の開発	松下 晃	
松谷 毅, 笹島 耕一, 松田 明久	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	手術侵襲後の性差医療における脂肪細胞の役割とヒオグリタゾン投与の有効性	松谷 毅	
井村 肇, 白川 真, 大森 裕也, Suleiman-M S	外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科・内分泌外科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究: ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用	井村 肇	
Imura H, Suleiman-M S, Shirakawa M, Angelini-D G	外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科・内分泌外科	代表 分担	DAIWA Foundation Small Grant	Developing optimal cardio-protective techniques for children undergoing open heart surgery and establishing a close link between the Bristol Heart Institute and Nippon Medical School	Imura H	
寺本 明	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫におけるmiRNA発現とmRNAの制御に関する研究	寺本 明	神経病態解析学
喜多村孝幸	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	嘉山 孝正	山形大学医学部学部ユニット研究支援
寺本 明	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	間脳下垂体機能障害に関する研究調査	千原 和夫	神戸大学大学院医学研究科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	プリオン病2次感染対策に対する現実的減菌法開発	北本 哲之	東北大学プリオン研究所
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	プリオン及び遅発性ウイルス感染症に関する調査	水澤 英洋	東京医科歯科大学神経内科
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	赤血球製剤を含めた血液製剤の病原不活化法の開発と不活化評価法の開発	岡田 義昭	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室
高橋 弘	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	NMRによるメタボロミクス (メタボローム) 解析は脳腫瘍の悪性転化を予測する	高橋 弘	
吉田 大蔵	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	下垂体腺腫の増殖におけるSDF-1の役割に関する分子形態学的研究	吉田 大蔵	
中井 章人	産婦人科学講座・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	わが国における新しい妊婦検診体制構築のための研究	松田 義雄	東京女子医科歯科大学産婦人科
中井 章人	産婦人科学講座・多摩永山病院女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助金	全国規模の多施設共同ランダム化比較試験と背景分析に基づく早産予防ガイドラインの作成	岡井 崇	昭和大学医学部産婦人科
新藤 晋	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	新しい外リリンパ嚢マーカーCTPの空間的発現の検討	新藤 晋	
大久保公裕、後藤 穰、岡野 光博、岡本 美孝、岡田 伸男、永田 真、藤枝 重治、増山 敬祐	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任 分担	厚生労働省科研費補助金	リアルタイムモニタール花粉数の情報のある方の研究と舌下ペプチド・アジエンバント療法の臨床研究	大久保公裕	
大久保公裕、岡野 光博、花澤 豊行、堀口 茂俊、河野 重治、藤枝 陽一、黒野 祐一、中山 俊蔵、増山 敬祐	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	代替医療の実態と有効性の科学的評価	岡本 美孝	千葉大学耳鼻咽喉科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大久保公裕、 木内 貴弘、 海老澤元宏、 大矢 幸弘、 岡田 千春、 岡本 美孝、 久保 千春、 田中 裕士、 谷口 正実	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 基金	ユビキタス・インタンク・ネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	須甲 松信	東京芸術大学保健センター
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	内耳疾患診断のバイオマーカーCTP：迅速検出法の開発と臨床応用	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	主任	厚生労働省科研費補助 基金	新規診断マーカーCTPを用いた難治性内耳疾患の多施設検討	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 基金	前庭機能異常に関する調査研究	渡辺 行雄	富山大学大学院医学薬学研究部(医学)耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	新たな蛋白質生化学的アプローチによる難聴・めまいの診断治療法開発	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	低分子RNAの人体器官系における機能解明と治療戦略への展開臓器特異的に発現している低分子RNAの基盤研究	瀧澤 俊広	分子解剖学講座
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 基金	自己免疫性内耳障害の実態把握のための多施設研究	柿木 章伸	東京大学医学部耳鼻咽喉科学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
野中 学	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	鼻副鼻腔線維芽細胞に特徴的に発現するmicroRNAの同定とその役割の解明	野中 学	
中村 毅	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	嚥下の口腔期から咽頭期への移行の連続性についての機能生理学的研究	中村 毅	
三枝 英人	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒトにおける反射性舌運動の発現とその新しい臨床応用に対する基礎的研究	三枝 英人	
小原澤英彰	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラット網膜虚血—再灌流モデルにおける水素点眼の網膜神経保護効果の研究	小原澤英彰	
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	臓器移植における制御性T細胞の役割と機能調節	堀 純子	
小野 眞史 原 行弘 西村 敏 久志本成樹	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	ドライマウスによる嚥下困難の他覚的定量評価	小野 眞史	眼科
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急センター・多摩北山病院救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	脳死並びに心停止ドナーにおけるマージナルドナーの有効利用に関する研究	福高 教章	大阪大学大学院医学系 研究科薬理学分子医薬 分野
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急センター・多摩北山病院救急センター	主任	厚生労働省科研費補助金	救急患者の搬送・受入実態と救急医療体制の評価に関する研究	横田 裕行	山梨大学医学部
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急センター・多摩北山病院救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	小児の脳死判定及び臓器提供等に関する調査研究	貫井 英明	山梨大学医学部
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急センター・多摩北山病院救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	丸川征四郎	医療法人医誠会医誠会 病院

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	臓器移植の社会的基盤に関する研究	篠崎 尚人	東京歯科大学市川総合病院角皿センター
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	脳死下・心臓停止下臓器幹旋のコーディネーションに関する研究	小中 節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研究費補助金	心肺停止患者に対する心肺補助装置等を用いた高度救命処置の効果と費用に関する多施設共同研究	坂本 哲也	帝京大学医学部
増野 智彦、佐藤 格夫、横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ショック後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響	増野 智彦	
佐藤 格夫、増野 智彦、横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	熱傷後に伴う遠隔臓器障害の発生機序の解明と治療戦略の構築	佐藤 格夫	
白石振一郎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 若手研究 (B)	急性腸間膜虚血の腸管VIABILITY評価と救命率向上にむけた治療戦略の構築	白石振一郎	
恩田 秀賢、布施 明、増野 智彦、佐藤 格夫、横田 裕行、横堀 将司	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳代謝モニタリング・脳代謝解析に基づき心臓停止蘇生後の病態及び治療の研究	恩田 秀賢	
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究	横田 裕行	
増野 智彦、近藤 久禎、横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩病院救命救急センター	代表分担	救急振興財団救急に関する調査研究助成事業	救急・火災現場における経皮的早期酸化炭素濃度測定の有効性；早期患者発見，安全な現場活動を目的として	増野 智彦	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
横田裕行、 横堀智彦、 増野格夫、 佐藤高	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩水山病院救命救急センター	代表分担	日本損害保険協会 特定課題研究助成	高齢者重症頭部外傷における脳循環代謝測定に基づいた治療戦略の確立：転帰改善をめざして	横田 裕行	
阪本雄一郎	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	健康危機・大規模災害に対する初期医療体制のあり方に関する研究	辺見 弘	災害医療センター
阪本雄一郎、 宮崎耕治、 長谷川正志、 益子邦洋	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	代表分担	独立行政法人科学技術振興機構 地域イノベーション創出総合支援事業 重点地域研究開発推進プログラム 経済産業省委託事業 産業技術総合研究所 ITとサービスの融合による新市場創出促進事業	自動車へ救命機能を搭載するための新しい救命アルゴリズムの開発 医療・介護記録データの整備作業	西本 哲也 阪本雄一郎	日本大学 工学部
阪本雄一郎	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	分担	タカタ財団助成金	人体デジタルモデルを用いた交通事故傷害予測に関する研究	宇治橋貞幸	東京工業大学 大学院情報理工学専攻 宇治橋環境工学専攻 研究室
阪本雄一郎	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	分担	タカタ財団助成金	自動車への全衝突形態対応の救命機能を搭載するための救急医療実態に基づく傷害予測アルゴリズムの構築とその実証実験	西本 哲也	日本大学 工学部 械工学科
西本 哲也	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	代表分担	社団法人日本損害保険協会・交通事故医療に関する一般研究助成	頭部外傷モデルにおける呼吸循環動態の変動および凝固障害の原因因子解明に関する研究	阪本雄一郎	
渡邊 淳	付属病院付置施設等・付属病院 院遺伝診療科	分担	厚生労働省科研費補助金	エーラスダシロス症候群（主に血管型および新型）の実態把握および診断指針の確立	古庄 知己	信州大学
渡邊 淳、 島田隆、 南史朗	付属病院付置施設等・ゲノム先端医療部	代表分担	「個人の遺伝情報に 応じた医療の実現プロ ジェクト(第2期)」	「先端医学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究」(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究)	渡邊 淳	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
吉野 雅則	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	食道癌における線維芽細胞増殖因子受容体 (KGF α R) の発現と局在および分子標的治療	吉野 雅則	
水谷 聡	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	膵臓ミトコンドリアDNA体細胞変異は抗糖剤耐性を示す (オートクソイド医療への道)	水谷 聡	
水谷 聡	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院消化器病センター	代表	丸山記念研究助成金	Mutations in the mitochondrial genome confer resistance of cancer cells to anticancer drugs	水谷 聡	
小川 真司	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	脳磁図—運動誘発磁場—を利用した、訓練による運動学習効果の研究	小川 真司	日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科
大林 真司, 小川 行広, 原 喜一, 石渡 行弘, 村岡 慶裕	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マルチモダル・イメーシングを用いた経頭蓋直流電気刺激効果の生体分子メカニズム	大林 茂	日本医科大学
原 行弘, 村岡 慶裕	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	Cybernetic orthosisの開発とニューロ・リハビリテーション	原 行弘	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	財団法人双葉電子記念財団自然科学研究助成	末梢神経障害による麻痺に対する新しい機能的電気刺激療法	原 行弘	
藤原 正和	老人病研究所・病理部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ダウン症原因遺伝子DSCR1の血管サイス決定因子としての役割とその分子機構の解明	藤原 正和	老人病研究所病理部門
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新しい概念の抗酸化物である水素を摂取することによる生活習慣病予防への新展開	太田 成男	
上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	糖尿病の予防・改善における水素の効果	Kamimura N	
天羽 拓	老人病研究所・生化学部門	代表	特別研究員奨励費	ミトコンドリアDNA体細胞変異による抗糖剤耐性獲得の機構解明と個別化医療への応用	天羽 拓	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補助金	臓器特異的ストレス応答マウスを用いた疾病予防法の開発	佐野 元昭	慶応義塾大学
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費	筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明, 診断法確立と治療薬物の開発に関する研究	砂田 芳秀	川崎医科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	上原記念生命科学財団 平成21年度研究助成金	慢性炎症誘発癌での炎症性サイトカインによるグルコース代謝経路の活性化とその役割の解析	田中 信之	
田中 信之, 芳憲, 阿部 郁野, 上原 亘, 中嶋 信之	老人病研究所・免疫部門	代表分担	科学研究費補助金 特定領域研究	核内癌抑制因子による遺伝子発現制御シグナルの解析	田中 信之	
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	遺伝子によるアポトーシス誘導の分子機構とそれによる癌化の抑制機構の解析	田中 信之	
田中 信之	老人病研究所・免疫部門	代表	平成21年度(第41回)高松宮妃癌研究基金 研究助成金	炎症誘発癌の発生におけるIL-6-Stat3シグナル経路の役割	田中 信之	
岡本 芳久	老人病研究所・疫学部門	代表	財団法人武田科学振興財団 医学系研究奨励(生活習慣病)	脂肪細胞由来因子・アディポネクチンの抗炎症作用機構の解明	岡本 芳久	
鈴木 由香	老人病研究所・疫学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	タンパク質栄養状態の悪化による肝臓のインスリン活性増強機構の解明とその生理的意義	鈴木 由香	
木田 厚瑞, 茂木 孝, 石井 健男, 服部 久弥子, 黒崎 央子, 本橋 典久, 山田 浩一, 森井 恵子, 山口 律子, 若林	呼吸ケアクリニック	代表分担	独立行政法人環境再生保全機構委託研究	COPD患者の在宅生活における機能回復に関する調査研究	木田 厚瑞	

5) 平成21年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
瀧澤俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	個人	グッド・ブレゼンテーンション受賞 (第61回日本産科婦人科学会総会・学術講演会)	胎盤絨毛栄養膜はエクソソームを介してmicroRNA (miRNA) を母体血液中に放出している：新しい診断ツールとしてのmiRNA (K1-48)	日本産科婦人科学会	2009	4
Ishikawa G	解剖学講座 (分子解剖学)	個人	Good Presentation Award (3rd SGI (Society for Gynecologic Investigation) International Summit 2009)	Novel microRNAs cloned from normal and preeclampsia placentas	Society for Gynecologic Investigation	2009	11
富樫真由子	病理学講座 (解析人体病理学)	個人	平成20年度日本医科大学医学会優秀論文賞	Comparative study of calcified changes in aortic valvular diseases	日本医科大学医学会	2009	9
田辺真樹	病理学講座 (解析人体病理学)	個人	桜賞	腎発生過程におけるリンパ管形成と生体腎での分布	日本医科大学	2010	3
張 一光	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	個人	日本医科大学同窓会医学研究助成金	難治性膀胱癌の新たな治療戦略とその基礎的研究	日本医科大学同窓会	2009	5
李 英姬	衛生学・公衆衛生学講座	個人	第15回マクロライト新作用研究会 研究奨励賞受賞	EM・EM703はアイーゼル排気粒子によるヒト気道上皮細胞の炎症性サイトカイン産生を抑制する		2009	7
宮元亮子	内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院一般内科, 循環器内科, 肝臓内科, 再生医療科	個人	YIA (Young Investigator's Award)	シェーグレン症候群に合併した薬剤過敏に伴う劇症型好酸球性心筋炎の1例	日本循環器学会	2009	6

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
新 博次	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・多摩永山病院内科, 循環器内科	個人	上田賞	Relationship between subjective symptoms and trans-telephonic ECG findings in patients with symptomatic paroxysmal atrial fibrillation and flutter (J Cardiol 2008; 52: 102-110)	日本心臓病学会	2009	9
稲見 徹, 木股伸恒, 村上大介, 林 明彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	グループ	学術奨励賞	妊娠後に大動脈炎発症候群と診断し、ステロイド投与にて無事出産し得た1症例	第212回日本循環器学会関東甲信越地方学会	2009	6
須原哲也, 安野史彦, 高橋英彦, 一宮哲哉, 加藤元一郎, 樋口真人	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院心臓病科	グループ	第46回(2009年度)ベールツ賞1等賞「精神疾患うつ病, 統合失調症など」	「精神疾患うつ病, 統合失調症など」	ベーリンガン・インゲルハイム社	2009	11
田原重志	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	個人	平成21年度第9回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集最優秀演題賞	臨床的に下垂体瘤が疑われたCrooke cell adenomaの1例	第9回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集	2009	2
太組 一朗	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	個人	平成21年度東京都医師会医学研究賞奨励賞	整容脳神経外科領域における新しい頭蓋再建法の開発	東京都医師会	2010	3
米山剛一, 大屋敦子, 五十嵐健治, 倉品隆平, 嶋井青龍, 朝倉啓文,	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	グッドブレゼンテーション賞	過去25年間に関与した羊水塞栓症10症例の臨床病理学的検討	日本産科婦人科学会学術集会	2009	4
中西 一歩, 明樂重夫, 鈴木英之	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	優秀演題賞	腹腔鏡下に一次的に治療し得た直腸脱合併直腸手術の1例	日本産科婦人科学会関東連合地方部会(第118回)	2009	11
桑原慶充, 金子麗華, 市川智子, 峯 克也, 明樂重夫,	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	学会賞	周排卵期のマウス卵巣における, ケモカインCCL11 (Eotaxin 1) の発現および局在解析	日本生殖免疫学会(第24回)	2009	11

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
Akira S, Takeshita T	産婦人科学講座・付属 病院女性診療科・産科	個人	Best Scientific Poster	Prophylactic intratubal injection of methotrex- ate after linear salpin- gostomy for preven- tion of persistent ec- topic pregnancy	38th AAGL (米国 産婦人科内視鏡学 会)	2009	
大内 望, 明楽重夫, 阿部 崇, 五十嵐美和, 市川智子, 峯 克也, 市川雅男, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 竹下俊行	産婦人科学講座・付属 病院女性診療科・産科	個人	演題発表賞	当院における子宮内膜 症の術後再発率につい ての検討	日本エンドメトリアオ ーシス学会 (第31回)	2010	1
Pawankar R	耳鼻咽喉科学講座・付 属病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉病 院耳鼻咽喉科・多摩永 山病院耳鼻咽喉科・千 葉北総病院耳鼻咽喉科	個人	Pravasi Bharatiya Samman Award (イ ンド勲章)	医学・アレルギー分野	インド政府	2010	1
増野智彦	救急医学講座・付属病 院高度救命救急センター ・武蔵小杉病院救命 救急センター・多摩永 山病院救命救急セセン ター	個人	Best Investigator's award	出血性ショック後に生 じる臓器不全と腸管リ ンパ液の関与	Young Investiga- tors Supporting Critical Care Con- ference	2009	6
篠山明宏	付属病院付置施設等・ 付属病院中央検査部	個人	第77回日本医科大学医 学会総会優秀演題賞	当院におけるESBL (Extended-spectrum β -lactamase) 産生菌 の耐性遺伝子型の解析	日本医科大学医学会	2009	9
前田昭太郎	多摩永山病院付置施設 等・多摩永山病院病理 部	個人	日本臨床細胞学会学 会賞		日本臨床細胞学会	2009	6
加藤文司, 阿部雅志, 永井淳司, 池亀 敏, 中島健志, 河原崎昇, 岡田 進	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院放射 線センター	グループ	座長推薦優秀研究発表	椎骨脳底動脈における 血流動態Fusion MIRA	日本放射線技術学会	2009	10

6) 平成21年度知的財産一覧(特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
渡邊 淳, 島田 隆, 折茂英生	生化学・分子生物学 講座(代謝・栄養学) 生物学講座(分子生 物学・代謝学)	低フォスファターゼ 症の遺伝子要素スク リーニング法	2009-200612 (2009/08/31)			学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 島田 隆	生化学・分子生物学 講座(分子遺伝学) 生物学講座(分子遺 伝学・栄養学)	家族性大動脈瘤の遺 伝子変異スクリーニ ング方法	2009-200768 (2009/08/31)			学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 島田 隆, 折茂英生	生化学・分子生物学 講座(分子遺伝学) 生物学講座(分子遺 伝学・栄養学)	低フォスファターゼ 症の遺伝子変異スク リーニング方法	2009-200612 (2009/08/31)			学校法人日本医科大学
廣井隆親, 大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・ 付属病院耳鼻咽喉 科・頭頸部外科・武 蔵小杉病院耳鼻咽喉 科・多摩永山病院耳 鼻咽喉科・千葉北 病院耳鼻咽喉科	減感作療法における 治療効果を予測する バイオマーカー	2009-241435 (2010/10/20)			財団法人東京都医学研究 機構, 学校法人日本医科 大学
廣井隆親, 大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・ 付属病院耳鼻咽喉 科・頭頸部外科・武 蔵小杉病院耳鼻咽喉 科・多摩永山病院耳 鼻咽喉科・千葉北 病院耳鼻咽喉科	減感作療法における 治療効果を予測する バイオマーカー	2009-244965 (2009/10/23)			財団法人東京都医学研究 機構, 学校法人日本医科 大学
原 行弘, 村岡慶裕, 山崎文敬, 日高芳智	千葉北総病院付置施 設等・千葉北総病院 リハビリテーション 科	装着型電気刺激装置	2009-155029 (2009/06/30)			学校法人日本医科大学

2. 動物実験実施状況

1) 平成21年度教室別動物実験実施予定者数，動物実験講習会受講者数および動物実験計画書数

教室名	予定者数	受講者数	動物実験計画書数*
[基礎部門]			
解剖学 (分子解剖学)	12	10	1
解剖学 (生体構造学)	13	13	16
生理学 (システム生理学)	20	22	8
生理学 (生体統御学)	14	13	11
生化学・分子生物学 (構造生物学・代謝学)	10	9	2
生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)	19	16	6
薬理学	27	24	8
病理学 (解析人体病理学)	15	11	9
病理学 (統御機構・腫瘍学)	15	13	12
微生物学・免疫学	23	20	13
衛生学・公衆衛生学	7	6	1
法医学	16	8	4
形態解析共同研究施設	2	0	1
実験動物管理室	14	13	6
[付属病院]			
付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科	21	5	4
付属病院神経内科，腎臓内科	12	11	11
付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科	21	8	3
付属病院呼吸器内科	9	9	3
小児科	3	1	1
皮膚科	6	6	5
麻酔科	33	25	9
放射線科	5	6	3
付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科	7	4	2
付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科	11	5	4
脳神経外科	3	2	1
眼科	9	5	4
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6	6	1
女性診療科・産科	6	5	3
整形外科学	0	1	0
形成外科・美容外科	29	22	19
高度救命救急センター	18	12	7
ワクチン療法研究施設	2	0	0
生命科学研究センター	3	3	1
[武蔵小杉病院]			
内科，循環器科，神経内科	2	1	1
眼科	1	2	2
耳鼻咽喉科	0	1	0
小児科	0	1	0
[多摩永山病院]			
耳鼻咽喉科	1	1	1
救命救急センター	7	10	4
眼科	2	3	0
小児科	0	1	0

[千葉北総病院]			
眼科	4	4	3
集中治療室	0	1	0
[老人病研究所]			
病理学部門	8	5	3
生化学部門	12	11	8
免疫部門	10	8	3
疫学部門	11	8	2
[新丸子校舎]			
生物学	4	5	3
スポーツ科学	5	5	1
合計	478	381	210

*動物実験計画書数：研究課題提出者の所属が複数ある場合は重複計算

2) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率(ケージ数を基に算出(%))

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF動物飼育室	31.7	39.3	24.9	26.8	23.1	35.6	36.1	41.5	22.2	22.8	27.1	28.3	29.9
	P3A感染動物飼育室	16.7	20.8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	61.1	62.1	43.7	38.9	26.8	26.8	30.5	37.4	35.3	28.4	27.9	31.1	37.5
	P1Aクリーン動物飼育室	10.6	17.8	21.6	24.9	24.4	18.3	15.6	13.9	16.1	12.1	21.2	16.3	17.7
ラット	SPF動物飼育室	12.0	9.1	3.2	2.4	4.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	6.0	3.7
	P1Aクリーン動物飼育室	34.3	45.9	47.4	33.3	54.5	54.0	54.0	48.0	46.0	38.4	43.9	50.5	45.9
モルモット ウサギ イヌ・ブタ 魚	クリーン動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20.0	26.7	26.7	20.0	16.7	16.7	30.0	30.0	30.0	16.7	10	10	21.1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF動物飼育室	59.3	58.0	54.5	58.9	52.3	49.2	53.8	65.9	71.6	71.6	69.2	73.6	61.5
	P3A感染動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.1
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	35.1	38.7	32.1	33.8	38.0	40.0	47.7	47.3	57.0	57.0	53.0	54.3	44.5
	P1Aクリーン動物飼育室	2.1	6.0	10.0	11.9	11.2	7.6	7.6	8.6	16.2	16.2	19.3	19.8	11.4
ラット	SPF動物飼育室	30.0	33.0	35.3	37.0	34.0	33.0	34.3	33.0	34.3	34.3	34.0	31.3	33.6
	P1Aクリーン動物飼育室	4.2	5.6	4.7	11.9	8.1	11.3	13.8	16.4	17.2	17.2	17.8	17.5	12.1
ウサギ・モルモット	P1Aクリーン動物飼育室	0.0	3.0	13.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8

3) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF動物飼育室	95	106	160	108	42	6	142	163	117	143	31	105	1,218
	P3A感染動物飼育室	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	14	16	30	19	21	41	60	28	3	31	11	43	317
	P1Aクリーン動物飼育室	76	159	176	314	291	57	77	282	133	383	85	168	2,201
スナネズミ	P1Aクリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハムスター	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	10	10	0	0	14	0	0	0	0	0	6	0	40
ラット	SPF動物飼育室	6	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	P1Aクリーン動物飼育室	247	194	205	358	274	215	134	198	198	175	305	389	2,892
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6
ウサギ		5	3	0	3	3	4	3	0	6	3	4	0	34
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
ブタ		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF動物飼育室	141	187	180	175	187	179	381	240	176	296	222	232	2,596
	P3A感染動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	64	42	52	26	20	115	85	64	66	117	101	99	851
	P1Aクリーン動物飼育室	47	37	138	73	68	30	68	140	140	125	58	81	81
ラット	SPF動物飼育室	55	4	94	65	41	68	51	126	59	64	73	96	796
	P1Aクリーン動物飼育室	63	66	77	59	59	29	174	73	42	114	98	140	994
ウサギ		1	11	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
モルモット		0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

4) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF動物飼育室	66	189	133	57	50	57	25	156	194	78	39	59	1,103
	P3A感染動物飼育室	2	4	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	59	141	26	75	57	13	23	34	35	53	14	31	561
	P1Aクリーン動物飼育室	87	118	144	323	264	124	130	180	217	197	127	163	2,074
スナネズミ	P1Aクリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハムスター	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	0	3	6	7	5	4	1	0	2	2	0	0	30
ラット	SPF動物飼育室	16	38	3	6	0	5	0	0	0	0	0	8	76
	P1Aクリーン動物飼育室	185	204	214	237	311	190	194	214	148	14	265	375	2,551
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6
ウサギ		3	6	0	4	5	0	7	0	6	5	4	0	40
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
ブタ		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF動物飼育室	186	221	249	204	212	130	176	246	135	293	204	275	2,531
	P3A感染動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	29	96	39	109	20	51	129	39	50	102	56	154	874
	P1Aクリーン動物飼育室	0	47	64	111	99	16	42	85	88	28	112	32	724
ラット	SPF動物飼育室	3	13	37	143	83	32	87	48	114	45	72	23	700
	P1Aクリーン動物飼育室	70	64	27	71	40	35	86	39	77	97	90	125	821
ウサギ		1	5	16	2	0	0	0	0	0	0	0	0	24
モルモット	P1Aクリーン動物飼育室	0	3	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8

5) 平成21年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF動物飼育室	14,817	5,128	6,769	4,495	8,402	7,293	7,684	9,009	7,094	8,158	7,472	11,166	97,487
	P3A感染動物飼育室	259	331	136	127	0	0	0	0	0	0	0	0	853
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	11,256	10,059	7,654	7,279	4,951	5,221	5,959	6,471	4,989	6,157	4,654	5,483	80,133
	P1Aクリーン動物飼育室	6,120	4,258	5,453	9,117	11,375	8,206	8,044	7,518	7,378	10,945	11,222	11,549	101,185
スナネズミ	P1Aクリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハムスター	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	140	451	421	223	287	295	261	240	162	159	200	310	3,149
ラット	SPF動物飼育室	1,142	882	930	227	155	112	0	0	0	0	208	104	3,760
	P1Aクリーン動物飼育室	5,197	5,582	4,844	5,589	7,334	7,570	6,504	6,032	4,920	5,732	5,812	6,236	71,352
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		222	213	180	220	178	158	202	150	121	146	98	93	1,981
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6
ブタ		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	6
魚		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
マウス	SPF動物飼育室	22,694	20,135	17,613	17,570	17,135	16,718	21,072	23,037	19,566	28,853	23,577	24,311	252,281	
	P3A感染動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90	131	221	
	P2A遺伝子組み換え動物飼育室	9,652	9,764	8,419	7,979	6,310	8,142	8,446	8,923	8,923	8,020	13,773	10,754	11,190	111,372
	P1Aクリーン動物飼育室	854	2,114	2,784	2,433	2,386	1,971	2,707	4,242	4,216	8,041	5,879	6,469	44,096	
ラット	SPF動物飼育室	6,898	8,242	8,951	9,779	6,644	7,068	7,913	8,632	7,031	10,241	7,715	9,422	98,536	
	P1Aクリーン動物飼育室	1,112	1,243	1,559	2,375	2,326	2,308	4,146	3,778	3,104	4,819	4,201	3,808	34,779	
ウサギ		5	41	100	16	0	0	0	0	0	0	0	0	162	
モルモット		0	21	39	31	0	0	0	0	0	0	0	0	91	

あ と が き

現在の日本は「内向き志向である」としばしば言われる。2010年7月に内閣府が行った「労働者の国際移動に関する世論調査」によると、海外就労に関心があるのは20歳代で40%、30歳代で33.7%であった。この数字を多いとみるか、少ないとみるか、意見の分かれるところであろう。一方、ほぼ同時期に産業能率大学が実施した「第4回新入社員のグローバル意識調査」のデータをみると、新入社員の49%が「海外で働きたいと思わない」と回答している。2007年度は36.2%であったことを考えると、大幅な増加であり、「内向き志向」を示しているようにみえる。しかし、「どんな国・地域でも働きたい」と考えている新入社員も18%から27%へ著しく増加し、これも過去最高となっている。すなわち、若者の意識が二極化してきていると読みとれる。医学研究領域はどうか。国内学会では、英文抄録はもとより、英語による発表の義務化も増えている。国際競争の渦中に身を置くことは避け得ない状況であろう。

本業績年報（2009年度）において、論文数は1,766件で2008年度の1,757件から多少増えているものの、2007年度の1,909件には回復しなかった。英文論文も2008年度の781件から674件に減少した。勿論、論文数だけがすべてではないが、国際的な発信状況の指標の一つとなる英文論文の割合が大きく減少しているのは懸念すべき点であろう。幸いにも、科学研究費補助金の採択件数は2009年度の116件から、2010年度には144件に増加した。ぜひこうした研究資金の後押しを得て、大学の存在の根幹に関わる研究活動を発展させていきたいものである。研究委員会としても若手研究者を中心に様々な研究支援活動をしなくてはならないと考えている。

最後に、本年度もウェブ上のデータベース作成にあたりご協力いただいた情報科学センター各位、そして実際の編纂にご尽力いただいた大学院課担当各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成22年12月

研究委員会委員長 鈴木 秀典

平成22年 12 月 17 日 印 刷

平成22年 12 月 27 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL 03 (3822) 2131

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10

TEL 03 (3910) 4311-5